西暦年	月 日	旧暦年	月 日	日付の直後の天気欄記入事項と(関連するその他の事項)
1781年	1月1日	安永9年	12月7日	曇 昨夜中雪五寸程降
1781年	1月2日	安永9年	12月8日	快晴 昨夜中霙降 (昨朝増館組下十川村で火災1軒(1間半×2間半:高無)・火元村預け)
1781年	1月3日	安永9年	12月9日	晴 昨夜中雪
1781年	1月4日	安永9年	12月10日	快晴 昨夜中雪二寸程ふる (誓願寺前で出火(日時不明)・火元を戸〆にしていたが日数にも相成り免許)
1781年	1月5日	安永9年	12月11日	曇 昨夜酉の刻風強 今日巳の五刻過ぎ寒にいる (当月7日駒越組中畑村の仁助が熊(胆長3寸5歩廻り4寸生目形25文目)取る、浪岡組十川村の火元の村預け免許)
1781年	1月6日	安永9年	12月12日	晴 昨夜時々雪 子の刻地震 (去る8日夜木作新田牛潟村で稲乳壱つ焼失(2000束余)・火元百姓村預け)
1781年	1月7日	安永9年	12月13日	快晴
1781年	1月8日	安永9年	12月14日	晴 (当月9日駒越組桜庭村の治郎三郎が(胆長4寸5歩廻り6寸生目40目)・当月6日尾崎組小国村の勘兵衛が(胆長3寸廻り4寸生目10文目)それぞれ熊取る)
1781年	1月9日	安永9年	12月15日	陰晴 (去る13日飯詰組飯詰村で火災1軒・火元百姓村預け、先ごろ出火の牛潟村の火元の村預け免許)
1781年	1月10日	安永9年	12月16日	曇 昨夜雨 今朝大雪 終日雪吹 寒気強
1781年	1月11日	安永9年	12月17日	晴 昨夜雪吹 今日寒気強
1781年	1月12日	安永9年	12月18日	曇 昨夜雪少々降 (去る13日出火の飯詰村の火元の村預け免許)
1781年	1月13日	安永9年	12月19日	晴 昨夜雪少々
1781年	1月14日	安永9年	12月20日	快晴 (今晩御目付宅並びに作事奉行宅で永の御暇を下し置かれる者あり)
1781年	1月15日	安永9年	12月21日	曇 昨夜雪
1781年	1月16日	安永9年	12月22日	曇 昨夜雪 今日時々雪
1781年	1月17日	安永9年	12月23日	快晴 (高杉組高杉村で出火・火元高無村預け、一昨20日飯詰組原子村で出火・火元高無村預け)
1781年	1月18日	安永9年	12月24日	晴
1781年	1月19日	安永9年	12月25日	曇 今朝より雪降
1781年	1月20日	安永9年	12月26日	晴 昨夜雪二寸程ふる
1781年	1月21日	安永9年	12月27日	曇 昨夜雪 (原子村・高杉村の火元の村預け免許)
1781年	1月22日	安永9年	12月28日	晴 (今年中に熊を3疋取った猟師・高無5人に褒美1500文宛)
1781年	1月23日	安永9年	12月29日	晴
1781年	1月24日	安永10年	正月1日	晴 昨夜雪二寸程 今日寒気強
1781年	1月25日	安永10年	正月2日	曇 今朝寒気強 未の刻過ぎ雪 (足軽宅井の内に女水死)
1781年	1月26日	安永10年	正月3日	曇 昨夜中雪吹 今日終日 寒気強 時々阿られ(霰)降 (今晩御謡初)
1781年	1月27日	安永10年	正月4日	晴 昨夜中雪吹 (大鰐村嘉兵衛賀助より七草差上げる)
1781年	1月28日	安永10年	正月5日	晴
1781年	1月29日	安永10年	正月6日	陰晴 昨夜雪少々 丑の刻風立つ
1781年	1月30日	安永10年	正月7日	晴
1781年	1月31日	安永10年	正月8日	曇 今日時々雪
1781年	2月1日	安永10年	正月9日	曇 昨夜中雪 今日時々雪吹
1781年	2月2日	安永10年	正月10日	曇 昨夜中雪五寸程降 今日時々雪
1781年	2月3日	安永10年	正月11日	曇 昨夜中雪 今朝に及ぶ (人事異動、銀3両宛の褒美を36人が貰っている、他に銀2両・5両も)
1781年	2月4日	安永10年	正月12日	曇 昨夜中雪三寸程降 今日風立 (昨朝大光寺組金屋村で放し馬屋(2間半×3間)出火・火元百姓村預け)
1781年	2月5日	安永10年	正月13日	晴 (御能初)
1781年	2月6日	安永10年	正月14日	快晴 (去る8日奥内村の海鼠漁船が平内御領分土屋村に走りあがり5人中4人死亡)
1781年	2月7日	安永10年	正月15日	晴 (人事異動)
1781年	2月8日	安永10年	正月16日	曇 昨夜中雪吹 時々雪吹
1781年	2月9日	安永10年	正月17日	曇 昨夜中雪二寸程降 今日時々雪
1781年	2月10日	安永10年	正月18日	曇 昨夜中雪二寸程降 今朝に及ぶ (津軽屋三右衛門に御繰合せ御用向出精として御時服下し置かれる・金繰りのめどが一応付いたのかな:福眞)
1781年	2月11日	安永10年	正月19日	曇 (12月中所々御関所出人都合110人:碇関104人(御印紙出90・切手紙出14)・野内6人(切手紙出))
1781年	2月12日	安永10年	正月20日	曇 昨夜小雨 今朝に及ぶ (当月13日赤石組沢部村に流れ鯨引き寄せる、赤石組中村領で男1人狼に喰散らされている)
1781年	2月13日	安永10年	正月21日	曇 昨夜中雪 今日時々雪降
1781年	2月14日	安永10年	正月22日	曇 今日終日雪吹
1781年	2月15日	安永10年	正月23日	晴 昨夜雪 寅の下刻地震
1781年	2月16日	安永10年	正月24日	快晴
1781年	2月17日	安永10年	正月25日	曇 今朝より雨終日 未の下刻風立
1781年	2月18日	安永10年	正月26日	曇 昨夜大風 今日時々風雨 (岩木川七歩後9歩の洪水・防ぎ方に者頭を仰せ付ける)
1781年	2月19日	安永10年	正月27日	快晴 (古懸不動尊御出汗)
1781年	2月20日	安永10年	正月28日	曇 今朝雪少々降
1781年	2月21日	安永10年	正月29日	曇 昨夜中雪 今日時々雪吹 余寒強し (去る26日碇関で洪水・橋等に被害)
1781年	2月22日	安永10年	正月30日	曇 昨夜中雪 今日時々雪
1781年	2月23日	安永10年	2月1日	曇 昨夜より雪吹 今日時々雪 (正月中碇関出人都合232人(御印紙出202・切手紙出30)、人事異動)
1781年	2月24日	安永10年	2月2日	曇 (去月29日夜九つ時青森町米町で借家出火・火元寺落)
1781年	2月25日	安永10年	2月3日	晴 昨夜雪少々 (去る朔日昼七つ時過ぎ赤田組石野村に50歳余の袖乞体の男倒・2日死亡、26日の洪水で活躍した7人を賞め置いている)
1781年	2月26日	安永10年	2月4日	快晴 朝の内くもる (去月26日の赤田・広田組被害:家流失2軒・破損6軒・馬船・長船破損4艘、常盤組で水湛80軒・45軒は水湛しない)
1781年	2月27日	安永10年	2月5日	曇 昨夜雪五寸程降 今日時々雪 (昨年末29日勘定人が22両1歩を持って出奔・見付からない)
1781年	2月28日	安永10年	2月6日	曇 今朝雪降

1781年　3月1日 安永10年　2月7日 晴 （赤石組小森村の家1軒洪水(いつかは不明)で潰れる）
1781年　3月2日 安永10年　2月8日 晴
1781年　3月3日 安永10年　2月9日 曇 今暁丑の下刻雨 今日時々降 （人事異動(山田彦兵衛を御用人兼役になど)、去月25・26日の洪水で広須組村々で流死の馬158疋2歳駒13疋）
1781年　3月4日 安永10年　2月10日 晴 昨夜中雨 （青森町の(去月29日)火元の慎み免許）
1781年　3月5日 安永10年　2月11日 曇 昨夜中雪 今日終日雪
1781年　3月6日 安永10年　2月12日 曇 昨夜中風強 今日終日雪 （今日五つ半時揃いで射芸高覧、昨11日昼四つ時頃大鰐組長峰村で出火1軒(3間×5間:御蔵高無)・火元村預け）
1781年　3月7日 安永10年　2月13日 晴 昨夜中雪 今日巳の下刻地震 （地震余程津強く御部屋様に御機嫌伺い申上げる）
1781年　3月8日 安永10年　2月14日 曇
1781年　3月9日 安永10年　2月15日 快晴 今朝小雨 （御発駕御日限来月16日・御部屋様は18日と仰せ出される）
1781年　3月10日 安永10年　2月16日 晴 昨夜雪二寸程降
1781年　3月11日 安永10年　2月17日 晴 （今日五半時揃いで御家中剣術高覧）
1781年　3月12日 安永10年　2月18日 曇 昨夜中雨 今日終日雨 （今日御家中剣術高覧五半時揃仰せ出される）
1781年　3月13日 安永10年　2月19日 晴
1781年　3月14日 安永10年　2月20日 曇 今暁寅の下刻より雨 卯の中刻晴 （御能、昨夜茂森町の借家男縊死、紺屋町後通り川原に葛籠に入った死人あり）
1781年　3月15日 安永10年　2月21日 晴 （今日前々鳶を勤めた男の女房が高杉組で井に入り死亡、今朝男牢死）
1781年　3月16日 安永10年　2月22日 曇 今日午の刻より雨
1781年　3月17日 安永10年　2月23日 晴
1781年　3月18日 安永10年　2月24日 晴
1781年　3月19日 安永10年　2月25日 曇 昨夜中雪 今日時々雪 （御家中の二男牢死）
1781年　3月20日 安永10年　2月26日 快晴 昨夜雪 朝の内曇 （去る24日藤崎組大俵村で出火(2間×4間:給地百姓)・火元村預け）
1781年　3月21日 安永10年　2月27日 晴
1781年　3月22日 安永10年　2月28日 陰晴
1781年　3月23日 安永10年　2月29日 曇 （昨28日大鰐組三ツ目内村で出火萱家10軒と外馬屋7軒・火元他村預け、先だって大俵村の火元の村預け免許）
1781年　3月24日 安永10年　2月30日 晴
1781年　3月25日 安永10年　3月1日 快晴 （人事異動、去月25日夜猿賀組猿賀村に乞食体の者倒死）
1781年　3月26日 安永10年　3月2日 陰晴 （2月中所々御関所出人都合46人:碇関22人(御印紙出)・大間越20人(切手紙出)・野内3人(切手紙出)）
1781年　3月27日 安永10年　3月3日 曇 午の下刻雨 （去月29日夜油川組津軽坂村で火災(4間×9間と外馬屋2間×3間:百姓)・火元村預け）
1781年　3月28日 安永10年　3月4日 曇 昨夜中時々雨 今日午の刻より雨
1781年　3月29日 安永10年　3月5日 曇 昨夜雪 今日時々雪
1781年　3月30日 安永10年　3月6日 晴 今日時々風立 夜に入り風立強し
1781年　3月31日 安永10年　3月7日 曇 今日時々風
1781年　4月1日 安永10年　3月8日 晴 昨夜雪少々
1781年　4月2日 安永10年　3月9日 晴 （今日発駕御祝儀の御料理と御能）
1781年　4月3日 安永10年　3月10日 晴
1781年　4月4日 安永10年　3月11日 快晴 （2月29日江戸で22人に永の暇）
1781年　4月5日 安永10年　3月12日 快晴 （紺10日夜浦町組大野村で火災(萱家1軒と外馬屋1軒御牧母駄1疋飼馬１疋焼失:火元高無・萱家1軒:類焼給地百姓)・火元他村預け）
1781年　4月6日 安永10年　3月13日 晴
1781年　4月7日 安永10年　3月14日 晴 今日時々風立つ 未の刻過ぎ地震強 （去る11日油川組新城村で出火2軒・火元百姓他村預け）
1781年　4月8日 安永10年　3月15日 快晴
1781年　4月9日 安永10年　3月16日 快晴 （四時半壱寸過ぎ御機嫌能く御発駕）
1781年　4月10日 安永10年　3月17日 陰晴
1781年　4月11日 安永10年　3月18日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ 今日時々小雨 （御部屋様御供登りの面々残らず出立、新城村の火元の他村預け免許）
1781年　4月12日 安永10年　3月19日 快晴 今日酉の刻過ぎ小雨
1781年　4月13日 安永10年　3月20日 晴 昨夜中小雨
1781年　4月14日 安永10年　3月21日 曇 今日未の刻過ぎより風立つ
1781年　4月15日 安永10年　3月22日 曇 昨夜中雨
1781年　4月16日 安永10年　3月23日 晴 （毎年大鰐村より初茄子・大角豆・真瓜を差上げてきたが当年より御留守年納方御止）
1781年　4月17日 安永10年　3月24日 曇 卯の刻過ぎより雨 東風強 （御切米の渡し方:12月・2月・7月渡しを毎月にしたはずが……年2回?）
1781年　4月18日 安永10年　3月25日 曇 東風立
1781年　4月19日 安永10年　3月26日 快晴
1781年　4月20日 安永10年　3月27日 快晴 （去る冬御暇を下し置かれた御扶持大工斉藤某を召捕り入牢させたところ岸市三郎と相改め諸手足軽を相勤める由(確かに3月21日に採用記事がある)・扶持・切米の渡し方差し止める）
1781年　4月21日 安永10年　3月28日 曇 辰の刻より小雨時々
1781年　4月22日 安永10年　3月29日 曇 昨夜中雨 24日より今日まで東風
1781年　4月23日 安永10年　3月30日 晴 昨夜戌ノ刻小雨 今日冷気 （岸市三郎は死亡した岸某の養子なのだそうな・さらに詮議する）
1781年　4月24日 安永10年　4月1日 晴 東風立 冷気 （3月中所々御関所出人都合119人:碇関105人(御印紙出45・切手紙出60)・大間越4人(御印紙出1・切手紙出3)・野内10人(切手紙出)）
1781年　4月25日 安永10年　4月2日 曇 今日時々小雨
1781年　4月26日 安永10年　4月3日 快晴
1781年　4月27日 安永10年　4月4日 晴 （昨3日浪岡組高屋敷村で木小屋焼失・火元村預け）
1781年　4月28日 安永10年　4月5日 曇 未の刻過ぎより小雨
1781年　4月29日 安永10年　4月6日 晴
1781年　4月30日 安永10年　4月7日 快晴 今日風立 戌ノ刻頃小雨

1781年　5月1日 安永10年　4月8日 なし(日記が保存されているが天候の記述なし)
1781年　5月2日 安永10年　4月9日 晴　今日風立　(一昨7日夜九つ時頃より俵元新田浅井村で火災6軒・火元他村預け)
1781年　5月3日 安永10年　4月10日 快晴　今日時々風立　(昨日八半時頃桶屋町で小火・火元戸〆)
1781年　5月4日 安永10年　4月11日 快晴　今日時々風立　(岸市三郎は岸九兵衛が死亡後その妻も同意して養子に迎えた者)
1781年　5月5日 安永10年　4月12日 快晴　今日時々風立　(去る9日夜四つ時頃油川組津軽坂村で出火・火元高無村預け)
1781年　5月6日 安永10年　4月13日 曇　昨夜小雨
1781年　5月7日 安永10年　4月14日 晴　昨夜小雨　(桶屋町の火元の戸〆免許、嘉瀬村高無・津軽坂村高無の他村預け並びに村預け免許)
1781年　5月8日 安永10年　4月15日 陰晴　今日時々風立
1781年　5月9日 安永10年　4月16日 曇　今日午の刻過ぎ小雨
1781年　5月10日 安永10年　4月17日 曇　今暁寅の下刻小雨　今日風立
1781年　5月11日 安永10年　4月18日 快晴
1781年　5月12日 安永10年　4月19日 快晴　(昨16日夜九つ半時頃油川組岡町村で出火(家1軒と外馬屋1軒:火元百姓・家1軒と外馬屋1軒:類焼百姓・家1軒:類焼高無)・火元他村預け)
1781年　5月13日 安永10年　4月20日 曇　(御家中屋敷に投げ火・取鎮める)
1781年　5月14日 安永10年　4月21日 曇　昨夜丑の刻より雨　今日終日降　(外東・三の北・内東・四の北・御本城北・西の郭西・西坂御門を締め切り番人引上げとする、御白砂前・内南・外南御門はこれまでどおり)
1781年　5月15日 安永10年　4月22日 曇　(油川組岡町村百姓の他村預け免許(19日記述の16日夜の火災の火元の他村預けの免許・昔の記事を意識しなければ何のことかわからない:福眞))
1781年　5月16日 安永10年　4月23日 曇　今日時々雨　(郡奉行の報告:広田村で百姓共徒党がましき儀が御座候に付村役並びに百姓の内組払いあるいは戸〆申し付け置き候)
1781年　5月17日 安永10年　4月24日 快晴
1781年　5月18日 安永10年　4月25日 快晴
1781年　5月19日 安永10年　4月26日 曇　昨夜戌ノ下刻より雨　今日時々降
1781年　5月20日 安永10年　4月27日 曇　昨夜中雨　今日終日降　(横内組田屋敷村高無の他村預け免許)
1781年　5月21日 安永10年　4月28日 曇　(一昨夜和徳町で出火類焼3軒・火元入寺・火の見櫓の鐘が遅く足軽2人を呵置く)
1781年　5月22日 安永10年　4月29日 快晴
1781年　5月23日 安永10年　5月1日 快晴　(4月中所々御関所出人都合141人:碇関139人(御印紙出94・切手紙出45)・野内2人(御印紙出)、一昨夜青森大工町で出火都合30軒焼失等・昨29日六時過ぎ鎮まる)
1781年　5月24日 安永10年　5月2日 快晴
1781年　5月25日 安永10年　5月3日 快晴
1781年　5月26日 安永10年　5月4日 快晴　今日昼頃より風立つ
1781年　5月27日 安永10年　5月5日 快晴　(年号を「天明」と改元(去月25日))
1781年　5月28日 安永10年　5月6日 晴　今朝卯の中刻小雨　則刻晴
1781年　5月29日 安永10年　5月7日 快晴
1781年　5月30日 安永10年　5月8日 曇　今朝より雨　今日終日降　(和徳町の男(先月28日記述の火元:福眞)の入寺慎み免許)
1781年　5月31日 安永10年　5月9日 曇
1781年　6月1日 安永10年　5月10日 快晴　(去る7日十三潟で材木作業中の男落水・死亡)
1781年　6月2日 安永10年　5月11日 曇　今日時々小雨
1781年　6月3日 安永10年　5月12日 曇　昨夜中時々雨　今朝に及ぶ
1781年　6月4日 安永10年　5月13日 陰晴
1781年　6月5日 安永10年　5月14日 陰晴
1781年　6月6日 安永10年　5月15日 曇　昨夜雨　今日時々雨　西方に虹見ゆる
1781年　6月7日 安永10年　5月16日 晴　今日時々風立
1781年　6月8日 安永10年　5月17日 快晴
1781年　6月9日 安永10年　5月18日 快晴　(昨16日昼八時頃飯詰組原子村で出火1軒)
1781年　6月10日 安永10年　5月19日 曇　昨夜丑の刻雨　今日巳の刻雨
1781年　6月11日 安永10年　5月20日 陰晴
1781年　6月12日 安永10年　5月21日 陰晴
1781年　6月13日 安永10年　5月22日 快晴　朝の内曇　(先だって出火の原子村高無の村預け免許)
1781年　6月14日 安永10年　5月23日 快晴　(深浦入津中の大坂船の船員病死)
1781年　6月15日 安永10年　5月24日 快晴　(当月8日漁に出た野田村の男が橋船拾う)
1781年　6月16日 安永10年　5月25日 晴　(昨24日夜藤崎組で出火(3間×5間:高無)・火元村預け)
1781年　6月17日 安永10年　5月26日 晴
1781年　6月18日 安永10年　5月27日 曇　昨夜中雨　今日終日降
1781年　6月19日 安永10年　5月28日 曇　昨夜中雨　今日終日降　(先だって出火の藤崎村の高無の村預け免許)
1781年　6月20日 安永10年　5月29日 晴
1781年　6月21日 安永10年　5月30日 陰晴　昨夜中より今朝まで小雨
1781年　6月22日 安永10年閏5月1日　晴　(5月中所々御関所出人都合94人:碇関90人(御印紙出62・切手紙出28)・大間越1人(御印紙出)・野内3人(切手紙出))
1781年　6月23日 安永10年閏5月2日　陰晴
1781年　6月24日 安永10年閏5月3日　陰晴　昼頃より快晴　(今朝七時石渡御蔵前の木小屋出火・早速取鎮める・火元慎み)
1781年　6月25日 安永10年閏5月4日　晴　(御側女中等11人に永の御暇)
1781年　6月26日 安永10年閏5月5日　晴　(一昨年亥の年六月入牢の御家中の弟が牢死)
1781年　6月27日 安永10年閏5月6日　快晴　朝の内曇　(昨5日大光寺組大光寺村で男自害)
1781年　6月28日 安永10年閏5月7日　曇　今日時々雨
1781年　6月29日 安永10年閏5月8日　曇　昨夜時々雨　今朝に及ぶ　巳の刻より晴
1781年　6月30日 安永10年閏5月9日　曇　今日辰の刻過ぎより終日雨

1781年　7月1日 安永10年閏5月10日 曇　昨夜大雨　今朝晴　未の刻過ぎより小雨 （去月28日大間越前浜より森山前浜に木柄111本・岩崎村前浜にも大小30本流れ寄せる）
1781年　7月2日 安永10年閏5月11日 曇 （閏月渡御役料並びに俵子・金給・御切米渡高：米710石7斗9升5合（1776俵3斗9升5合）・金10両2歩（残らず歩判）・銭4貫695文目3分4厘（この金45両2歩と22文目5分）　欄外(*)に続く
1781年　7月3日 安永10年閏5月12日 快晴
1781年　7月4日 安永10年閏5月13日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日午の刻過ぎ風 （頃日天気不正に付き岩木嵩並びに湯段とも停止）
1781年　7月5日 安永10年閏5月14日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1781年　7月6日 安永10年閏5月15日 陰晴　今日未の刻小雨 （後潟組奥内村沖で昆布漁師が落水死）
1781年　7月7日 安永10年閏5月16日 曇　昨夜中雨
1781年　7月8日 安永10年閏5月17日 晴
1781年　7月9日 安永10年閏5月18日 快晴　朝の内曇 （去月深浦・岩崎に流れ寄せた木柄の持ち主現れる・公儀お定めの通り返す、奥内村前浜で水死の男が16日に上がる）
1781年　7月10日 安永10年閏5月19日 快晴
1781年　7月11日 安永10年閏5月20日 曇　今日終日雨
1781年　7月12日 安永10年閏5月21日 曇　昨夜雨　今日午の刻小雨 （田舎館組村々田方に筒虫付……、一昨19日明け七時過ぎ鰺ヶ沢町新地町で出火・火元戸〆）
1781年　7月13日 安永10年閏5月22日 快晴　今日未の刻より曇 （打続天気不勝に付四社に御祈祷を仰せ付ける、神宮寺が田畑の虫除き五穀成就の御祈祷を申し出る・了とする）
1781年　7月14日 安永10年閏5月23日 快晴　朝の内曇
1781年　7月15日 安永10年閏5月24日 陰晴
1781年　7月16日 安永10年閏5月25日 陰晴
1781年　7月17日 安永10年閏5月26日 陰晴
1781年　7月18日 安永10年閏5月27日 曇　辰の刻より雨降終日　頃日冷しき方 （御小納戸より御常用え金39両と2匁5分（銭では4貫目）御繰り出し仰せ付ける・両替102匁7分）
1781年　7月19日 安永10年閏5月28日 曇　昨夜中雨　今朝卯の刻土用に入る　今日終日雨降
1781年　7月20日 安永10年閏5月29日 晴　頃日冷気方
1781年　7月21日 天明元年　6月1日 晴　今日暑ニ成　申の刻小雨 （閏5月中所々御関所出人都合153人：碇関142人（御印紙出108・切手紙出34）・大間越2人（御印紙出）・野内9人（御印紙出5・切手紙出4））
1781年　7月22日 天明元年　6月2日 晴　昨夜中大雨　今朝に及ぶ
1781年　7月23日 天明元年　6月3日 晴　今日暑強し　申の刻小雨
1781年　7月24日 天明元年　6月4日 晴　昨夜中大雨　暑強し　午の刻過ぎ小雨 （(19日)鰺ヶ沢新地町の火元の戸〆差許）
1781年　7月25日 天明元年　6月5日 陰晴
1781年　7月26日 天明元年　6月6日 晴　朝の内曇
1781年　7月27日 天明元年　6月7日 快晴　昨夜中風立つ　今日暑気強
1781年　7月28日 天明元年　6月8日 快晴　大暑
1781年　7月29日 天明元年　6月9日 快晴
1781年　7月30日 天明元年　6月10日 快晴　今日大暑
1781年　7月31日 天明元年　6月11日 快晴　大暑 （銭10貫目が金100両2歩と2匁5分）
1781年　8月1日 天明元年　6月12日 快晴　大暑
1781年　8月2日 天明元年　6月13日 陰晴　申の刻過ぎより曇　風立つ （昨日より駒越組壱町田村より加賀葉広早稲に出穂差出す・5月18日植付）
1781年　8月3日 天明元年　6月14日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1781年　8月4日 天明元年　6月15日 曇　昨夜中雨
1781年　8月5日 天明元年　6月16日 晴
1781年　8月6日 天明元年　6月17日 曇　昨夜中雨　今日時々雨 （一昨15日浪岡組浪岡村に道心倒・その内死）
1781年　8月7日 天明元年　6月18日 陰晴
1781年　8月8日 天明元年　6月19日 陰晴　昨夜中風立
1781年　8月9日 天明元年　6月20日 快晴　今朝余程涼キ方
1781年　8月10日 天明元年　6月21日 曇　今日時々大雨　夜に及ぶ （岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止としていたが湯段の小屋主が湯治人隠し置く・呵置き戸〆）
1781年　8月11日 天明元年　6月22日 曇　卯の中刻雷発す　巳の刻より雨晴(曇卯中刻雷発巳ノ刻よ里雨晴)
1781年　8月12日 天明元年　6月23日 快晴　昨夜中雨　今日大暑
1781年　8月13日 天明元年　6月24日 快晴　今日暑強　未の中刻小雨
1781年　8月14日 天明元年　6月25日 快晴
1781年　8月15日 天明元年　6月26日 曇　今日時々小雨
1781年　8月16日 天明元年　6月27日 晴　昨夜雨　今暁雷発す
1781年　8月17日 天明元年　6月28日 晴　卯の刻より雷発し辰の刻より雨　巳の刻より晴
1781年　8月18日 天明元年　6月29日 快晴 （昨晩六つ時土手町借家より出火・火元呵置く、花火停止の当番目付通用あり）
1781年　8月19日 天明元年　6月30日 陰晴
1781年　8月20日 天明元年　7月1日 陰晴　昨夜中雨 （6月中所々御関所出人都合85人：碇関83人（御印紙出62・切手紙出21）・野内2人（御印紙出1・切手紙出1））
1781年　8月21日 天明元年　7月2日 陰晴 （7月御役料御切米御四季施二季三季月割渡高共：俵子渡米1193石5斗1升9合2夕・金子渡金61両・銭渡銭7貫30目7分5厘（金76両7分5厘）・浦々渡米53石2斗2升、方々で無手形米）
1781年　8月22日 天明元年　7月3日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1781年　8月23日 天明元年　7月4日 曇　昨夜中大雨時々　雷発す　今日終日雨 （天気相不勝に付き日和揚五穀成就の御祈祷を最勝院に仰せ付ける、去月28日土手町の火元の呵置免許）
1781年　8月24日 天明元年　7月5日 曇　昨夜中大雨　今朝風立
1781年　8月25日 天明元年　7月6日 曇 （岩木嵩小屋主の戸〆免許）
1781年　8月26日 天明元年　7月7日 快晴　今日大雨
1781年　8月27日 天明元年　7月8日 曇　今日時々雨
1781年　8月28日 天明元年　7月9日 快晴　朝の内曇
1781年　8月29日 天明元年　7月10日 快晴
1781年　8月30日 天明元年　7月11日 晴 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる）
1781年　8月31日 天明元年　7月12日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
(*) （金銭二口合わせて56両と22文目5分(但し両に付き102匁7分替)）、他に浦々渡しの米23石6斗8升（59俵8升））

1781年　9月1日 天明元年　7月13日 曇　今日時々雨
1781年　9月2日 天明元年　7月14日 晴
1781年　9月3日 天明元年　7月15日 曇　辰の刻小雨　申の下刻東方に虹見ゆる　(13日夜碇関大落前派で高無出火・火元慎み)
1781年　9月4日 天明元年　7月16日 曇
1781年　9月5日 天明元年　7月17日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(所々で無手形米、慎みと書いてある碇関村の高無の村預け免許)
1781年　9月6日 天明元年　7月18日 晴
1781年　9月7日 天明元年　7月19日 晴　昨夜中雨
1781年　9月8日 天明元年　7月20日 曇　今日辰の下刻より雨　(抜け米らしいもの沢山)
1781年　9月9日 天明元年　7月21日 陰晴　辰の刻雨少々
1781年　9月10日 天明元年　7月22日 陰晴　申の下刻大雨　雷発　(碇関向派で出火・慎み・差許)
1781年　9月11日 天明元年　7月23日 曇　昨夜中時々雷発　今日時々雨
1781年　9月12日 天明元年　7月24日 晴　朝の内曇
1781年　9月13日 天明元年　7月25日 曇　未の中刻より雨　(天気相不勝に付百沢寺・橋雲寺・国上寺・久渡寺の四ヶ寺に日和揚げ五穀成就の御祈祷仰せ付ける)
1781年　9月14日 天明元年　7月26日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1781年　9月15日 天明元年　7月27日 曇　昨夜中風立
1781年　9月16日 天明元年　7月28日 曇　昨夜中雨　今日終日雨　(今16日夜油川組飛鳥村で火災・1軒と他人の外馬屋焼失・火元村預け)
1781年　9月17日 天明元年　7月29日 晴　今日時々雨
1781年　9月18日 天明元年　8月1日 晴　昨夜雨　(7月中碇関出人都合106人(御印紙出87・切手紙出19))
1781年　9月19日 天明元年　8月2日 快晴
1781年　9月20日 天明元年　8月3日 曇　辰の下刻雨
1781年　9月21日 天明元年　8月4日 快晴
1781年　9月22日 天明元年　8月5日 晴
1781年　9月23日 天明元年　8月6日 曇　今日時々雨　東の方に虹見　残暑強し
1781年　9月24日 天明元年　8月7日 なし(日記が保存されているが天気の記述なし)
1781年　9月25日 天明元年　8月8日 快晴　未の下刻雨　申の下刻晴
1781年　9月26日 天明元年　8月9日 快晴　(当月2日深浦入津中の越後船の水主病死)
1781年　9月27日 天明元年　8月10日 晴
1781年　9月28日 天明元年　8月11日 晴　昨夜小雨　今朝に及ぶ
1781年　9月29日 天明元年　8月12日 晴
1781年　9月30日 天明元年　8月13日 晴　昨夜中雨　雷発　今日時々雨
1781年　10月1日 天明元年　8月14日 快晴
1781年　10月2日 天明元年　8月15日 曇　今日終日雨　　下から続く　　召上慎み・元大工は十里四方追放大所御構い・関係者多数追放等、御用人樋口弥三郎を不届きとして御役儀召し放ち御加増御役知家屋敷召上げ閉門)
1781年　10月3日 天明元年　8月16日 曇　巳の上刻より晴　今日午の刻より風立　(病死の足軽の養子が永の暇を下し置かれた大工と見抜けなかった御用人山野某を役儀召上慎み・その足軽組頭を御役御役知共　　上に続く
1781年　10月4日 天明元年　8月17日 晴　昨夜雨　今暁雷発
1781年　10月5日 天明元年　8月18日 快晴　今朝霜降　(大坂御蔵元諸町人え下される一粒金丹30粒を勘定奉行に渡す)
1781年　10月6日 天明元年　8月19日 晴　卯の小雨　即刻晴
1781年　10月7日 天明元年　8月20日 曇　昨夜風雨　今朝岩木山え雪見ゆる　今日時々風雨
1781年　10月8日 天明元年　8月21日 晴　辰の刻小雨　即刻晴
1781年　10月9日 天明元年　8月22日 快晴
1781年 10月10日 天明元年　8月23日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1781年 10月11日 天明元年　8月24日 曇　昨夜中雨　今朝晴　(去る16日より19日までの大風で藤代組出来嶋村で作毛吹き古本連(こぼれ)、今日四つ半頃鍛治町で小火・火元戸〆)
1781年 10月12日 天明元年　8月25日 曇　(去る19日より20日までの大風で赤石組風合瀬村で過分の風損)
1781年 10月13日 天明元年　8月26日 晴　(当月20日の大風で高杉組立石村十腰内村で作毛風損吹きこぼれる)
1781年 10月14日 天明元年　8月27日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1781年 10月15日 天明元年　8月28日 晴　今朝小雨
1781年 10月16日 天明元年　8月29日 快晴　(今27日昼四時頃油川組沖館村で少々出火・火元村預け)
1781年 10月17日 天明元年　9月1日 陰晴　今朝霜　(8月中所々御関所出人都合117人:碇関110人(御印紙出86・切手紙出24)・大間越3人(切手紙出)・野内4人(切手紙出))
1781年 10月18日 天明元年　9月2日 快晴　(油川組沖館村の火元高無の村預け免許)
1781年 10月19日 天明元年　9月3日 快晴
1781年 10月20日 天明元年　9月4日 曇
1781年 10月21日 天明元年　9月5日 快晴　昨夜亥の刻より風雨　雷発
1781年 10月22日 天明元年　9月6日 晴　昨夜中雨　(去る5日昼八時頃赤田組大巻村で出火・火元高無村預け)
1781年 10月23日 天明元年　9月7日 陰晴
1781年 10月24日 天明元年　9月8日 快晴
1781年 10月25日 天明元年　9月9日 快晴
1781年 10月26日 天明元年　9月10日 曇　昨夜中　今日時々雨
1781年 10月27日 天明元年　9月11日 曇　今朝初雪　今日時々雪　夜に入り晴　(当月5日出火の大巻村の火元の村預け免許)
1781年 10月28日 天明元年　9月12日 曇　今日終日雪一寸程降
1781年 10月29日 天明元年　9月13日 曇　今日時々雪　(生鮭2尺高岡江)
1781年 10月30日 天明元年　9月14日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(梅田村で離縁した元嫁を元婿が叩き九死一生の体にする・元婿はかみそりで自害)
1781年 10月31日 天明元年　9月15日 快晴　(今7日夜油川組沖館村に青森安方町の男倒死)

1781年　11月1日 天明元年　 9月16日 快晴　昨夜中雨 （御用人だった山野某の慎み御免・長柄奉行格を仰せ付けられる）
1781年　11月2日 天明元年　 9月17日 快晴　昨夜中時々雨
1781年　11月3日 天明元年　 9月18日 晴　今朝辰の下刻より小雨　巳の刻より晴
1781年　11月4日 天明元年　 9月19日 快晴　（一昨11日夜九つ時木造新田（これまでは木作新田だったな:福眞）冨菟村で火災1軒と物置焼失・火元百姓村預け）
1781年　11月5日 天明元年　 9月20日 快晴　昨夜雷発　風雨
1781年　11月6日 天明元年　 9月21日 晴　（冨菟村の火元の村預け免許）
1781年　11月7日 天明元年　 9月22日 今朝辰の刻雷発　風雨
1781年　11月8日 天明元年　 9月23日 曇　朝の内晴　午の下刻より時々雨
1781年　11月9日 天明元年　 9月24日 曇　午の中刻より雨　（人事異動）　　下から続く　　・萱家1軒大豆1俵（5斗入り）粟2すこ蕎麦2俵（5斗入り）・萱家1軒粟2すこ蕎麦2俵（5斗入り）夫々焼失・火元他村預け）
1781年 11月10日 天明元年　 9月25日 晴　（去る22日木作新田山田村で火災3軒潰れ家2軒（萱家1軒稲1500束程大豆10俵（4斗入り）蕎麦8俵（5斗入り）麦2俵（5斗入り）小豆2斗粟6すこ（簀子か）塩2俵粒油3斗　　上に続く
1781年 11月11日 天明元年　 9月26日 晴　昨夜中雨時々　今朝少々雨　午の下刻少し雨　未の刻雷発す　（今23日昼四つ時頃堀越組堀越村で火災2軒（2間半×4間:高無火元・2間半×4間:高無）・火元他村預け）
1781年 11月12日 天明元年　 9月27日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1781年 11月13日 天明元年　 9月28日 曇　昨夜風雨強　今日時々雪降　今朝巳の刻過ぎまで風
1781年 11月14日 天明元年　 9月29日 晴　（昨28日駒越組百沢村で火災・大風により吹き倒れた家に火が移ったもの・火元村預け）
1781年 11月15日 天明元年　 9月30日 陰晴
1781年 11月16日 天明元年　 10月1日 晴　昨夜中時々雨降　（9月中所々御関所出人都合120人:碇関115人（御印紙出88・切手紙出27）・大間越3人（御印紙出）・野内2人（御印紙出1・切手紙出1））
1781年 11月17日 天明元年　 10月2日 快晴　昨夜子の刻地震　（百沢村の火元高無の村預け免許）
1781年 11月18日 天明元年　 10月3日 晴　昨夜中雨
1781年 11月19日 天明元年　 10月4日 曇　時々雪
1781年 11月20日 天明元年　 10月5日 曇
1781年 11月21日 天明元年　 10月6日 曇　昨夜中雨　雷発す　今日雨時々降
1781年 11月22日 天明元年　 10月7日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1781年 11月23日 天明元年　 10月8日 晴
1781年 11月24日 天明元年　 10月9日 快晴　未の下刻より雨少々降
1781年 11月25日 天明元年　10月10日 曇　昨夜中時々雨　今暁に及ぶ　卯の刻より雪降
1781年 11月26日 天明元年　10月11日 晴　午の刻雨少々
1781年 11月27日 天明元年　10月12日 晴
1781年 11月28日 天明元年　10月13日 曇　今日午の刻より小雨
1781年 11月29日 天明元年　10月14日 曇　昨夜戌の刻より風立　今日時々雪降
1781年 11月30日 天明元年　10月15日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　余程積ル
1781年　12月1日 天明元年　10月16日 快晴　今日酉の刻小雨
1781年　12月2日 天明元年　10月17日 快晴　昨夜中雨少々降
1781年　12月3日 天明元年　10月18日 曇　昨夜中風雨　雷発す　今日時々雨
1781年　12月4日 天明元年　10月19日 陰晴　咲く夜中少々雨　風強し　午の下刻より晴
1781年　12月5日 天明元年　10月20日 晴　今朝霜
1781年　12月6日 天明元年　10月21日 曇　昨夜中風雨　今日終日雪
1781年　12月7日 天明元年　10月22日 曇　昨夜中風雪　今日時々雪
1781年　12月8日 天明元年　10月23日 曇　昨夜丑の下刻地震　今朝雪
1781年　12月9日 天明元年　10月24日 快晴
1781年 12月10日 天明元年　10月25日 曇　今日辰の中刻小雨
1781年 12月11日 天明元年　10月26日 曇　昨夜中戌の刻より雨　今日時々小雨　（昨暮六半時頃高杉組高屋村で火災・火元高無村預け）
1781年 12月12日 天明元年　10月27日 曇　昨夜中風吹　雪二寸程　今日終日雪
1781年 12月13日 天明元年　10月28日 曇　昨夜雪四寸程降　（最勝院寺庵の大善院（の坊主）と八幡宮下社家の娘がなぜか同時に怪我・子細具（子細をつぶさにか:福眞）詮議申付ける）
1781年 12月14日 天明元年　10月29日 快晴　昨夜少し雨　（高杉組高屋村の火元の村預け免許）
1781年 12月15日 天明元年　 11月1日 快晴　（10月中碇関出人都合90人（御印紙出56・切手紙出34））
1781年 12月16日 天明元年　 11月2日 曇　昨夜小雨　今日午の刻より雨
1781年 12月17日 天明元年　 11月3日 曇　昨夜中雪吹　今朝に及ぶ
1781年 12月18日 天明元年　 11月4日 曇　昨夜中雪三寸降　今日雪時々降　（江戸で人事異動）
1781年 12月19日 天明元年　 11月5日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1781年 12月20日 天明元年　 11月6日 曇　今日時々雪
1781年 12月21日 天明元年　 11月7日 曇　昨夜中雪　今日終日降
1781年 12月22日 天明元年　 11月8日 晴　昨夜中雪降
1781年 12月23日 天明元年　 11月9日 陰晴　昨夜中雨
1781年 12月24日 天明元年　11月10日 晴　昨夜中雪
1781年 12月25日 天明元年　11月11日 曇　昨夜中雪五六寸降
1781年 12月26日 天明元年　11月12日 晴　今朝辰の刻雨
1781年 12月27日 天明元年　11月13日 快晴
1781年 12月28日 天明元年　11月14日 曇　昨夜雨　今日時々雪
1781年 12月29日 天明元年　11月15日 快晴
1781年 12月30日 天明元年　11月16日 曇
1781年 12月31日 天明元年　11月17日 曇　昨夜中雪　今日終日降

1782年　1月1日 天明元年　11月18日 快晴　昨夜中雪
1782年　1月2日 天明元年　11月19日 陰晴　昨夜中雪少々
1782年　1月3日 天明元年　11月20日 晴
1782年　1月4日 天明元年　11月21日 曇　昨夜中雪四寸程降　今日雪吹　(娘2人をかどわかし他領の人買いに手引きした山伏を捕らえる)
1782年　1月5日 天明元年　11月22日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今日申の四刻より寒に入る
1782年　1月6日 天明元年　11月23日 曇　昨夜中雪五寸程降　(女子供人買いの夫婦が捕まる)
1782年　1月7日 天明元年　11月24日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1782年　1月8日 天明元年　11月25日 曇　昨夜中時々雪
1782年　1月9日 天明元年　11月26日 曇　時々雪
1782年　1月10日 天明元年　11月27日 曇　時々雪
1782年　1月11日 天明元年　11月28日 曇　昨夜中雪　今朝に及び六七寸程
1782年　1月12日 天明元年　11月29日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1782年　1月13日 天明元年　11月30日 晴　昨夜中雪　当月22日より昼夜雪降　深サ四尺程積
1782年　1月14日 天明元年　12月1日 曇　(11月中所々御関所出人都合65人:碇関61人(御印紙出49・切手紙出12)・野内4人(切手紙出)、公務・損耗があるとして近衛家への合力金を値切っているのかな)
1782年　1月15日 天明元年　12月2日 陰晴　時々雪　(去る29日油川組広瀬村で雪なて(雪崩)・蟹田町と子橋村の男2人が死亡)
1782年　1月16日 天明元年　12月3日 晴　今日時々雪
1782年　1月17日 天明元年　12月4日 晴　今日少々雪　(閉じていた御門の一部を正月ばかり門番を配置し明ける)
1782年　1月18日 天明元年　12月5日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1782年　1月19日 天明元年　12月6日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1782年　1月20日 天明元年　12月7日 快晴
1782年　1月21日 天明元年　12月8日 陰晴　昨夜中雪二寸程降
1782年　1月22日 天明元年　12月9日 快晴
1782年　1月23日 天明元年　12月10日 曇　今日時々雪
1782年　1月24日 天明元年　12月11日 曇　今日時々雪
1782年　1月25日 天明元年　12月12日 曇　今日時々雪
1782年　1月26日 天明元年　12月13日 陰晴
1782年　1月27日 天明元年　12月14日 晴　昨夜雪　風強し
1782年　1月28日 天明元年　12月15日 晴　昨夜中より今朝まで寒気〇(和？)　(人事異動)
1782年　1月29日 天明元年　12月16日 晴　(一昨14日広田組食川村で外馬屋1軒焼失・火元高無村預け、御家中の兄弟が喧嘩・その妻も含め入牢・身上召上げ)
1782年　1月30日 天明元年　12月17日 曇　昨夜雪五六寸程降
1782年　1月31日 天明元年　12月18日 曇　昨夜中雪三寸程　今日時々雪降　(広田組喰川村の火元の村預け免許)
1782年　2月1日 天明元年　12月19日 曇　昨夜中雪六寸程降　今日時々降
1782年　2月2日 天明元年　12月20日 晴　昨夜雪　今朝に及ぶ
1782年　2月3日 天明元年　12月21日 晴　昨夜中雪少々
1782年　2月4日 天明元年　12月22日 晴　(熊取った猟師と百姓に褒美:浪岡組徳才子村の猟師弥七郎(3疋1貫500文)・金木組金木村の百姓唯六(1疋500文)・近年熊払底)
1782年　2月5日 天明元年　12月23日 曇　今日時々雪　(深浦町抜け米を企んだなどの同心警固・町年寄・問屋など8人を追放等)
1782年　2月6日 天明元年　12月24日 曇　昨夜雪五寸程降　今日雪　(去る23日夜赤田組掛落林村で出火・火元村預け)
1782年　2月7日 天明元年　12月25日 曇　今日時々雪
1782年　2月8日 天明元年　12月26日 曇　昨夜中雪　今日時々雪　(深浦の隠し津出を知らなかったという深浦町奉行2人・深浦湊目付2人を格下げ・実務担当の足軽目付など10人に永の暇)
1782年　2月9日 天明元年　12月27日 曇　昨夜中雪
1782年　2月10日 天明元年　12月28日 晴　(無手形米が沢山捕まっている)
1782年　2月11日 天明元年　12月29日 晴　今日時々雪
1782年　2月12日 天明2年　正月1日　晴　昨夜中雪吹　朝の内雪降
1782年　2月13日 天明2年　正月2日　晴
1782年　2月14日 天明2年　正月3日　曇　今朝辰の刻まで雪　巳の中刻より晴　(御吉例金200両を明日御便にて差登)
1782年　2月15日 天明2年　正月4日　曇　今朝より雪少々降　午の上刻より晴
1782年　2月16日 天明2年　正月5日　曇　昨夜雪少々　今日辰の中刻より雪　未の下刻晴
1782年　2月17日 天明2年　正月6日　曇　朝の内霙　巳の下刻より小雨　雷発
1782年　2月18日 天明2年　正月7日　曇　今暁寅の上刻より雪吹　今日雪吹強
1782年　2月19日 天明2年　正月8日　晴　昨夜雪吹
1782年　2月20日 天明2年　正月9日　快晴
1782年　2月21日 天明2年　正月10日　陰晴
1782年　2月22日 天明2年　正月11日　晴　(人事異動)
1782年　2月23日 天明2年　正月12日　陰晴　今日申の刻より小雨
1782年　2月24日 天明2年　正月13日　曇　今日巳の刻小雨　則刻晴　申の刻より雨
1782年　2月25日 天明2年　正月14日　陰晴　今日未の刻過ぎより雪
1782年　2月26日 天明2年　正月15日　晴　昨夜中雪
1782年　2月27日 天明2年　正月16日　陰晴　昨夜中雪
1782年　2月28日 天明2年　正月17日　陰晴　(去る12月中所々御関所出人都合67人:碇関66人(御印紙出53・切手紙出13)・野内1人(御印紙出))

1782年　3月1日 天明2年 正月18日　曇　今日時々雪吹
1782年　3月2日 天明2年 正月19日　陰晴　今日辰の下刻より雪少々　申の下刻地震少し
1782年　3月3日 天明2年 正月20日　晴
1782年　3月4日 天明2年 正月21日　晴　今日午の刻頃より雨
1782年　3月5日 天明2年 正月22日　曇　今日時々雪吹
1782年　3月6日 天明2年 正月23日　曇
1782年　3月7日 天明2年 正月24日　晴　朝の内雪少々降
1782年　3月8日 天明2年 正月25日　晴　未の刻過ぎより雪
1782年　3月9日 天明2年 正月26日　曇　昨夜中雪
1782年　3月10日 天明2年 正月27日　快晴
1782年　3月11日 天明2年 正月28日　晴　今朝巳の中刻頃雪　即刻止む
1782年　3月12日 天明2年 正月29日　晴　(今暁御家中の伯父自害)
1782年　3月13日 天明2年 正月30日　快晴
1782年　3月14日 天明2年　2月1日 晴
1782年　3月15日 天明2年　2月2日 曇　昨夜中より雨　今朝雪
1782年　3月16日 天明2年　2月3日 曇　昨夜中より雪　今日終日降
1782年　3月17日 天明2年　2月4日 曇
1782年　3月18日 天明2年　2月5日 晴　今日申の刻より雪
1782年　3月19日 天明2年　2月6日 晴
1782年　3月20日 天明2年　2月7日 曇　朝の内雪　昼頃より晴　申の上刻より雪　(和徳町等に狼出る・狼威しの鉄砲打ち両人を申し付ける)
1782年　3月21日 天明2年　2月8日 晴
1782年　3月22日 天明2年　2月9日 晴　(一昨8日藤代組三世寺村で出火1軒(2間×5間:高無)・馬1疋・粟5斗・蕎麦6斗・稲摺屑5俵焼失・火元村預け)
1782年　3月23日 天明2年　2月10日 晴　昨夜中雨　今朝晴　(当年御本城御書院御舞台前に自然に稲生える・岡植(陸稲?)にしたら穂が3本190粒になった)
1782年　3月24日 天明2年　2月11日 快晴
1782年　3月25日 天明2年　2月12日 晴
1782年　3月26日 天明2年　2月13日 曇　午の下刻雪少々　(去る10月(記述としては28日)大善院と下社家娘の同時負傷を隠したとして最勝院隠居・大善院脱衣追放・娘追放・下社家社職取放追放・大善院家来追放)
1782年　3月27日 天明2年　2月14日 曇　昨夜中大風雨　今朝に及ぶ　(去る12日夜横内組宮崎村で出火(外馬屋1軒と土蔵鞘1軒:百姓)・火元村預け)
1782年　3月28日 天明2年　2月15日 陰晴　未の刻より雪　夜に入　(人事異動)
1782年　3月29日 天明2年　2月16日 晴　朝の内雪
1782年　3月30日 天明2年　2月17日 晴　昨夜酉の刻月蝕五歩　欠けながら出る(欠なから出)　(横内組宮崎村の火元の村預け免許)
1782年　3月31日 天明2年　2月18日 曇　昨夜中雨　今日風雨強
1782年　4月1日 天明2年　2月19日 晴
1782年　4月2日 天明2年　2月20日 晴　今日未の刻より雨　(一昨日の大風で碇ヶ関街道の並木杉数十本風折れ)
1782年　4月3日 天明2年　2月21日 曇　今日辰の刻より雨　則刻止む　尤も朝夕もや(尤朝夕雲谷)
1782年　4月4日 天明2年　2月22日 快晴　(人事異動、出頭を命じられた御馬廻清野某が行方不明)
1782年　4月5日 天明2年　2月23日 快晴
1782年　4月6日 天明2年　2月24日 快晴　(去る18日鯵ヶ沢漁師町の漁師親子3人海死)
1782年　4月7日 天明2年　2月25日 曇　(当月21日大鰐組居土村の猟師孫十郎が熊(胆生目50目)取る
1782年　4月8日 天明2年　2月26日 晴
1782年　4月9日 天明2年　2月27日 晴　昨夜中雨
1782年　4月10日 天明2年　2月28日 晴
1782年　4月11日 天明2年　2月29日 陰晴
1782年　4月12日 天明2年　2月30日 曇　今日時々小雨　(当月18日大風で寺社境内の諸木風折)
1782年　4月13日 天明2年　3月1日 曇　((2月中)所々御関所出人都合40人:碇ヶ関26人(御印紙出24・切手紙出2)・大間越2人(切手紙出):数は合わない:古文書だからなぁ:福眞、加代官13人発令・2人制に戻す)
1782年　4月14日 天明2年　3月2日 晴　朝の内小雨　巳の刻より止む
1782年　4月15日 天明2年　3月3日 晴　(駒越組代官報告:岩木川洪水通用不能、藤崎組代官報告:大川落水通用可能)
1782年　4月16日 天明2年　3月4日 晴　昨夜中小雨　(大坂から金が届かないなど:福眞には意味不明、(銀?)10貫目この金166両2歩2朱銀41文目6分6厘6毛この銭1089貫235文但し金1両に付き両替相場6貫534文替え)
1782年　4月17日 天明2年　3月5日 快晴　昨夜酉の中刻小雨　風立つ　(昨4日八時頃常盤組矢沢村で出火・火元高無村預け)
1782年　4月18日 天明2年　3月6日 快晴　(狼威しの鉄砲打ち(大組足軽)引き取る)
1782年　4月19日 天明2年　3月7日 快晴
1782年　4月20日 天明2年　3月8日 晴　(矢沢村の火元の村預け免許)
1782年　4月21日 天明2年　3月9日 晴
1782年　4月22日 天明2年　3月10日 曇　昨夜中雨　今朝より終日降
1782年　4月23日 天明2年　3月11日 晴　昨申の刻より風雨　霰
1782年　4月24日 天明2年　3月12日 晴　今日午の刻過ぎより風立つ
1782年　4月25日 天明2年　3月13日 曇　昨夜中風　今朝卯の刻より雨　今日時々風立　巳の刻より雨降
1782年　4月26日 天明2年　3月14日 曇　今朝霜
1782年　4月27日 天明2年　3月15日 晴　昨夜中雨　今朝風立　(御家老棟方作兵衛に一粒金丹20粒)
1782年　4月28日 天明2年　3月16日 快晴
1782年　4月29日 天明2年　3月17日 晴
1782年　4月30日 天明2年　3月18日 曇　辰の刻より小雨

1782年　5月1日 天明2年　3月19日 晴　昨夜酉の下刻より雨
1782年　5月2日 天明2年　3月20日 晴
1782年　5月3日 天明2年　3月21日 晴　昨夜中雨　今暁霰　今日巳の刻頃まで
1782年　5月4日 天明2年　3月22日 曇　時々小雨
1782年　5月5日 天明2年　3月23日 快晴
1782年　5月6日 天明2年　3月24日 晴　今日時々風　((2月22日記述の)清野某を搦捕る)
1782年　5月7日 天明2年　3月25日 晴　今日時々風立　(一粒金丹15剤のための原料が示されている)
1782年　5月8日 天明2年　3月26日 曇　昨夜中小雨　今日終日降
1782年　5月9日 天明2年　3月27日 曇
1782年　5月10日 天明2年　3月28日 快晴　(昨昼九半頃高杉組熊島村で出火・火元高無村預け、去る25日夜九時浦町組で出火・火元村預け)
1782年　5月11日 天明2年　3月29日 快晴
1782年　5月12日 天明2年　4月1日 快晴　(3月中所々御関所出人都合114人:碇関104人(御印紙出59・切手紙出45)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4)・大間越5人(切手紙出)、浦町組堤村の(火元の)村預け免許)
1782年　5月13日 天明2年　4月2日 曇　(熊島村の(火元の)村預け免許)
1782年　5月14日 天明2年　4月3日 晴　時々風立　未の刻雷発　申の刻雨　(3月24日浦町組砂川山で薪取りの男雪なてつき(雪崩に巻き込まれ)死亡)
1782年　5月15日 天明2年　4月4日 曇　(昨3日九時過ぎ藤代組青女子村で出火(2間×3間:高無)・火元村預け)
1782年　5月16日 天明2年　4月5日 快晴　朝の内霧
1782年　5月17日 天明2年　4月6日 快晴　(昨夜平岡町で庇に火移る・他出差留め)
1782年　5月18日 天明2年　4月7日 快晴　酉の刻過ぎ震動　(青女子村に火元の村預け免許)
1782年　5月19日 天明2年　4月8日 晴　今日風吹く
1782年　5月20日 天明2年　4月9日 晴
1782年　5月21日 天明2年　4月10日 晴　今日未の中刻より小雨
1782年　5月22日 天明2年　4月11日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(平岡町の男の他出差留め免許)
1782年　5月23日 天明2年　4月12日 快晴　今朝水霜　今日時々風
1782年　5月24日 天明2年　4月13日 快晴
1782年　5月25日 天明2年　4月14日 曇　今日時々小雨
1782年　5月26日 天明2年　4月15日 曇　今日時々雨
1782年　5月27日 天明2年　4月16日 曇　今日時々小雨
1782年　5月28日 天明2年　4月17日 晴　今日午の刻過ぎ雷発　小雨
1782年　5月29日 天明2年　4月18日 曇　今日終日雨
1782年　5月30日 天明2年　4月19日 曇
1782年　5月31日 天明2年　4月20日 快晴
1782年　6月1日 天明2年　4月21日 快晴
1782年　6月2日 天明2年　4月22日 晴
1782年　6月3日 天明2年　4月23日 陰晴　今朝辰の下刻地震
1782年　6月4日 天明2年　4月24日 曇　朝の内雨　午の刻過ぎ小雨　未の刻より雨
1782年　6月5日 天明2年　4月25日 曇　今朝午の刻雷発　辰の下刻より雨　即時止　午の刻過ぎより雷発　未の刻より大雨　夜に入
1782年　6月6日 天明2年　4月26日 曇　今日入梅
1782年　6月7日 天明2年　4月27日 快晴
1782年　6月8日 天明2年　4月28日 晴　時々風立
1782年　6月9日 天明2年　4月29日 快晴　時々風立　(年貢納入以前に米を濱に下げた？浪岡増館組代官身上召上げ・十里四方追放、関連して手代(足軽相当の代官の下僚)等9人の財産没収等)
1782年　6月10日 天明2年　4月30日 快晴
1782年　6月11日 天明2年　5月1日 陰晴　(4月中所々御関所出人都合106人:碇ヶ関103人(御印紙出67・切手紙出36)・野内3人(切手紙出))
1782年　6月12日 天明2年　5月2日 晴　朝の内曇　辰の刻小雨
1782年　6月13日 天明2年　5月3日 快晴　今日時々風立
1782年　6月14日 天明2年　5月4日 快晴
1782年　6月15日 天明2年　5月5日 晴　今暁寅の刻風余程強　終日ふく
1782年　6月16日 天明2年　5月6日 曇　今朝小雨
1782年　6月17日 天明2年　5月7日 曇　今朝卯の刻過ぎ地震　時々雨今朝に及ぶ　(鍛治町の土場の柾小屋で男縊死)
1782年　6月18日 天明2年　5月8日 曇
1782年　6月19日 天明2年　5月9日 快晴
1782年　6月20日 天明2年　5月10日 曇　午の刻より快晴
1782年　6月21日 天明2年　5月11日 晴　(人事異動)
1782年　6月22日 天明2年　5月12日 晴　(後潟組中沢村で女縊死)
1782年　6月23日 天明2年　5月13日 曇　昨夜より雨　今日終日雨　冷風　(跡式譲渡(自分の子供が居るのに金で他人の二男を養子跡継ぎにした)事件あり)
1782年　6月24日 天明2年　5月14日 快晴　冷風
1782年　6月25日 天明2年　5月15日 曇　冷風
1782年　6月26日 天明2年　5月16日 昨夜中雨　今日終日雨
1782年　6月27日 天明2年　5月17日 曇　冷風
1782年　6月28日 天明2年　5月18日 曇
1782年　6月29日 天明2年　5月19日 快晴　冷風　(去る13日牢押し破り逃げ去った男の人相書きあり)
1782年　6月30日 天明2年　5月20日 曇　冷風

1782年　7月1日 天明2年　5月21日 曇　冷風　(福眞伴右衛門の倅に才吉)
1782年　7月2日 天明2年　5月22日 曇　今暁小雨　巳の刻より晴　冷風　(今20日昼油川組夏井田村で火災・火元百姓村預け)
1782年　7月3日 天明2年　5月23日 晴　冷風　(大工町で女縊死、打続天気不正に付き岩木嵩湯段共湯治人停止・四社で日和揚げ御祈祷)
1782年　7月4日 天明2年　5月24日 晴　今日冷風止む　未の刻雷発　(油川組夏井田村の火元の村預け免許)
1782年　7月5日 天明2年　5月25日 晴
1782年　7月6日 天明2年　5月26日 晴
1782年　7月7日 天明2年　5月27日 快晴
1782年　7月8日 天明2年　5月28日 曇
1782年　7月9日 天明2年　5月29日 快晴　(今暁七つ時頃茂森新町に投げ火)
1782年　7月10日 天明2年　6月1日 快晴　(4月中(と書いてある)所々御関所出人都合80人:碇ヶ関44人(御印紙出38・切手紙(30枚で)出6)・大間越2人(御印紙出)・野内6人(切手紙出)、去月27日青森新町で小火・火元慎み)
1782年　7月11日 天明2年　6月2日 曇　昨夜酉の刻小雨　今朝に及ぶ　酉の刻止
1782年　7月12日 天明2年　6月3日 曇　今日時々小雨　(去月28日木作新田長濱村で火災・火元百姓村預け)
1782年　7月13日 天明2年　6月4日 曇　昨夜大雨　今日時々雨　朝の内大雨　午の刻より晴　時々風立
1782年　7月14日 天明2年　6月5日 曇　昨夜酉の刻過ぎ大雨　雷強発　戌の刻晴　今日時々雨
1782年　7月15日 天明2年　6月6日 晴　今日冷風余程冷方
1782年　7月16日 天明2年　6月7日 快晴　今日冷方
1782年　7月17日 天明2年　6月8日 陰晴
1782年　7月18日 天明2年　6月9日 晴　今日冷方　(四ヶ寺(最勝院・百沢寺・橋雲寺・久渡寺)で五穀成就の御祈祷)
1782年　7月19日 天明2年　6月10日 曇　昨夜中雨　今日終日雨　冷方　午の中刻土用に入る
1782年　7月20日 天明2年　6月11日 晴
1782年　7月21日 天明2年　6月12日 陰晴　朝の内曇
1782年　7月22日 天明2年　6月13日 晴　(4月29日夜芝居役者方で酒狂い町中を騒がした大組足軽2人を永の暇)
1782年　7月23日 天明2年　6月14日 快晴
1782年　7月24日 天明2年　6月15日 曇　今朝辰の刻より終日雨　時々強　(去る13日浦町組境村で出火(4間×15間:給地百姓)・火元村預け)
1782年　7月25日 天明2年　6月16日 陰晴　今日巳の下刻雨　則剋止　申の刻雨少し降　　下から続く　　・火元他村預け、岩木川七歩の出水)
1782年　7月26日 天明2年　6月17日 曇　今日辰の刻西の方虹見　則刻雨強　雷発　時々大雨　申の刻過ぎ東の方に虹見る　(浦町組境村の火元の村預け免許、去る14日油川組細越村で火災2軒(共に高無)　　上に続く
1782年　7月27日 天明2年　6月18日 晴　昨夜中大雨　今日大暑
1782年　7月28日 天明2年　6月19日 晴　今日大暑
1782年　7月29日 天明2年　6月20日 曇　昨夜小雨　今日午の刻小雨　(赤石組赤石沢・中村沢に狼が出る・代官が打ち払いの鉄砲の玉と筒薬を求める・玉50と筒薬目形200目渡す)
1782年　7月30日 天明2年　6月21日 晴　今日大暑　(当月17・18日の洪水で広田組の被害:田方176町4反余・畑方82町9反・堰破損1ヶ所その他)
1782年　7月31日 天明2年　6月22日 晴　今日大暑　(先ごろの洪水で藤代組中畑村の被害:畑方6町7反程、浪岡組被害:田方215町・畑方16町3反)
1782年　8月1日 天明2年　6月23日 快晴　朝の内晴れ　巳の刻より晴　大暑　(金木・飯詰組の被害:田方137町ほど・畑方21町ほど)
1782年　8月2日 天明2年　6月24日 陰晴　今日少々冷方　(当月17・18日洪水藤崎組被害:田方6町7歩・畑方2町4反、柏木組被害:田方44町6反・畑方3町)
1782年　8月3日 天明2年　6月25日 曇　朝の内小雨　今日冷風　冷敷方
1782年　8月4日 天明2年　6月26日 曇　今日冷方　(諸組村々の田方に虫付く)
1782年　8月5日 天明2年　6月27日 快晴　今朝水霜　冷気　午の刻過ぎより暑気　(5月4・5・6日に御廻船5艘破船18人死亡・荷打ちもある)
1782年　8月6日 天明2年　6月28日 快晴　朝の内冷方　午の刻過ぎより暑
1782年　8月7日 天明2年　6月29日 晴　朝の内冷　今日申の下刻小雨
1782年　8月8日 天明2年　6月30日 曇　今日巳の下刻より小雨
1782年　8月9日 天明2年　7月1日 陰晴　朝の内雨　午の刻過ぎ晴　(6月中所々御関所出人都合113人:碇関111人(御印紙出85・切手紙出26)・野内2人(切手紙出)、人事異動)
1782年　8月10日 天明2年　7月2日 陰晴
1782年　8月11日 天明2年　7月3日 快晴　今朝卯の上刻霧甚し
1782年　8月12日 天明2年　7月4日 快晴　今日少々風立　午の刻過ぎ雨　則刻止　(祢婦た・祢ふたの記述、大鰐村加賀助・兵左衛門より米の出穂差上げる・4月23日植付の物・去年より植付日に引合11日遅く節に引合9日遅い)
1782年　8月13日 天明2年　7月5日 晴　今日残暑強
1782年　8月14日 天明2年　7月6日 快晴　今日残暑強
1782年　8月15日 天明2年　7月7日 快晴　今日残暑強
1782年　8月16日 天明2年　7月8日 快晴　今日残暑強
1782年　8月17日 天明2年　7月9日 快晴　今日残暑強
1782年　8月18日 天明2年　7月10日 曇　未の刻より雨
1782年　8月19日 天明2年　7月11日 晴
1782年　8月20日 天明2年　7月12日 快晴　今日残暑強　(去月晦日の赤石組黒滝村の洪水で人家3軒流失)
1782年　8月21日 天明2年　7月13日 快晴
1782年　8月22日 天明2年　7月14日 曇　今日巳の下刻大雨　雷発　午の上刻晴
1782年　8月23日 天明2年　7月15日 曇　昨丑の下刻雨　則刻止　今日未の下刻地震　(一昨13日昼八時頃高杉組糠坪村で出火・火元高無村預け)
1782年　8月24日 天明2年　7月16日 晴　今暁丑の下刻地震
1782年　8月25日 天明2年　7月17日 陰晴　(糠坪村の火元の村預け免許、高杉組・藤代組・藤崎組・金木組で稲虫付く)
1782年　8月26日 天明2年　7月18日 曇　(牢内に乱心者があり当分四尺牢に入れる、和徳組・堀越組の田方に水白虫付く・水口え油など流し虫払いするよう申付ける)
1782年　8月27日 天明2年　7月19日 曇　昨夜戌の上刻より雨今朝に至る　今日終日雨　風立　(気候不順に付神明・八幡・和徳稲荷に日和揚・五穀成就の御祈祷を仰付ける、長勝寺が大施餓鬼興行?御守札を差上げるようにする)
1782年　8月28日 天明2年　7月20日 晴　時々風立　(駒越・赤石・大鰐・尾崎組の田方に水白虫付く・差障りはない、和徳組小沢村の山に狼多く出る)
1782年　8月29日 天明2年　7月21日 快晴　(一昨19日青森の大風で兵庫の水主が水死)
1782年　8月30日 天明2年　7月22日 快晴　(去る21日高杉組蒔苗村で出火(3間×4間:高無)・火元村預け、赤石組・広田組で水白虫が増える)
1782年　8月31日 天明2年　7月23日 曇　時々小雨　(去る19日の風で後潟・油川組の田方水湛・吹剥げ)

1782年　9月1日 天明2年　7月24日 快晴 (去る22日九時頃増館組杉村で外馬屋焼失・火元高無村預け)
1782年　9月2日 天明2年　7月25日 快晴 朝の内冷風　二百十日 (蒔苗村の火元の村預け免許)
1782年　9月3日 天明2年　7月26日 快晴 朝の内冷気　今日未の下刻二度雷動余程強 (最勝院・薬王院・本行寺・大円寺に虫除・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、19日の大風で駒越組枯れ木平・湯段とも残らず吹き倒れる)
1782年　9月4日 天明2年　7月27日 快晴 (杉村の火元の村預け免許、去る23日夜後潟組平館村で出火・火元村預け)
1782年　9月5日 天明2年　7月28日 快晴 朝の内霞　残暑強 (和徳組小沢村の山に出していた狼打ちを引き取る、平館村の火元の村預け免許)
1782年　9月6日 天明2年　7月29日 快晴 今日より八月節に入 (去る19日の洪水で和徳組一ノ渡・大和沢両村の田畑に被害)
1782年　9月7日 天明2年　8月1日 快晴 (7月中所々御関所出人都合81人:碇ヶ関71人(御印紙出53・切手紙出18)・大間越7人(御印紙出6・切手紙出1)・野内3人(切手紙出)、広田組の村々で虫多くなり1株に2・3本枯れ穂)
1782年　9月8日 天明2年　8月2日 快晴 (増館組松枝村の女房が捕まる・夫は4年前に追放されている)　下から続く　博打・出奔の支援など7人追放・5月13日に牢を2人に破られた牢奉行に永の暇・牢守4人を追放)
1782年　9月9日 天明2年　8月3日 快晴 朝の内霞　残暑強し (博打打の御家中2人の知行召上げ永の暇・御家中の倅など2人を追放、謀書謀印・出奔の御家中1人を斬罪・その倅も斬罪だが15歳未満で当分預け、　上に続く
1782年 9月10日 天明2年　8月4日 快晴 朝の内曇 (大鰐村より初米差上げる)
1782年 9月11日 天明2年　8月5日 快晴
1782年 9月12日 天明2年　8月6日 快晴 残暑強　酉の刻地震
1782年 9月13日 天明2年　8月7日 曇 午の刻過ぎ小雨
1782年 9月14日 天明2年　8月8日 曇
1782年 9月15日 天明2年　8月9日 晴 (大坂御廻船上乗りで水死した足軽警固葛西某の跡を継いだ無関係者を永の暇)
1782年 9月16日 天明2年　8月10日 晴
1782年 9月17日 天明2年　8月11日 曇 今日時々小雨　冷気
1782年 9月18日 天明2年　8月12日 晴 昨夜中風雨強　今日冷
1782年 9月19日 天明2年　8月13日 快晴 朝の内冷気
1782年 9月20日 天明2年　8月14日 快晴
1782年 9月21日 天明2年　8月15日 曇 今朝卯の下刻地震強　今日終日雨　今夜亥の刻月蝕　終夜雨 (御祭礼)
1782年 9月22日 天明2年　8月16日 曇
1782年 9月23日 天明2年　8月17日 快晴 今日午の下刻雨 (木作新田木作村の中館海道に非人体の男1人倒死)
1782年 9月24日 天明2年　8月18日 晴 昨夜中雨
1782年 9月25日 天明2年　8月19日 陰晴
1782年 9月26日 天明2年　8月20日 晴
1782年 9月27日 天明2年　8月21日 曇 昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日終日雨
1782年 9月28日 天明2年　8月22日 曇 昨夜中雨　今朝風雨　冷方 (不行跡で諸手足軽に永の暇、隠し津出の手伝いかな?青森から5人が追放・3人戸〆)
1782年 9月29日 天明2年　8月23日 曇 今朝岩木山に雪ミゆる　時々小雨
1782年 9月30日 天明2年　8月24日 快晴
1782年 10月1日 天明2年　8月25日 快晴 昨夜雨　雷発
1782年 10月2日 天明2年　8月26日 快晴 今朝霜 (去る23日夜広田組喰川村で出火1軒(2間半×3間:高無)・火元村預け)
1782年 10月3日 天明2年　8月27日 曇 昨夜中時々稲光　雷発　今朝辰の刻雷　時々雨ふる (喰川村の火元の村預け免許)
1782年 10月4日 天明2年　8月28日 晴
1782年 10月5日 天明2年　8月29日 快晴
1782年 10月6日 天明2年　8月30日 快晴
1782年 10月7日 天明2年　9月1日 晴 (8月中所々御関所出人都合80人:碇関77人(御印紙出66・切手紙出11)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2))
1782年 10月8日 天明2年　9月2日 快晴 昨夜雨　亥の刻雷発
1782年 10月9日 天明2年　9月3日 曇 昨夜中雨　今日時々雨
1782年 10月10日 天明2年　9月4日 快晴 (江戸で去月14日丑の刻過ぎ強き地震・同15日酉の刻過ぎ余程強地震)
1782年 10月11日 天明2年　9月5日 晴 今朝霜
1782年 10月12日 天明2年　9月6日 快晴 午の刻より陰晴
1782年 10月13日 天明2年　9月7日 曇
1782年 10月14日 天明2年　9月8日 曇 辰の中刻小雨　即刻止
1782年 10月15日 天明2年　9月9日 晴 昨夜中小雨
1782年 10月16日 天明2年　9月10日 快晴 今朝岩木山雪見ゆる
1782年 10月17日 天明2年　9月11日 晴 今朝霜 (去る9日昼金木組今泉村で出火・外馬屋1ケ所を含み12軒・火元高無(4間×7間)村預け)
1782年 10月18日 天明2年　9月12日 曇 今日辰の下刻小雨
1782年 10月19日 天明2年　9月13日 曇 今日午の上刻地震
1782年 10月20日 天明2年　9月14日 快晴 今朝霜
1782年 10月21日 天明2年　9月15日 晴
1782年 10月22日 天明2年　9月16日 快晴 (今泉村の火元の他村預け免許:(11日の記述では村預け・類焼があるので普通は他村預けのものです:福眞)、御家中の召使女が変死・役人の見分ないまま宿下げ・叱られる)
1782年 10月23日 天明2年　9月17日 快晴
1782年 10月24日 天明2年　9月18日 曇 今日時々雨
1782年 10月25日 天明2年　9月19日 快晴
1782年 10月26日 天明2年　9月20日 曇
1782年 10月27日 天明2年　9月21日 晴
1782年 10月28日 天明2年　9月22日 快晴 今朝霜
1782年 10月29日 天明2年　9月23日 快晴
1782年 10月30日 天明2年　9月24日 曇 昨夜中雨 今日に及ぶ
1782年 10月31日 天明2年　9月25日 曇 昨夜中より雨 今日始めて霰降

1782年　11月1日 天明2年　　9月26日 陰晴　今朝岩木山裾野まで雪　近山まで雪見ゆる
1782年　11月2日 天明2年　　9月27日 晴　昨夜中時々雨
1782年　11月3日 天明2年　　9月28日 快晴　今朝霜　(昨日男牢死)
1782年　11月4日 天明2年　　9月29日 晴　昨夜中雨　戌の上刻雷発
1782年　11月5日 天明2年　　10月1日 晴　今朝霜　未の刻より曇　申の下刻雷発雨降　(9月中碇関出人都合90人(御印紙出61・切手紙出30))
1782年　11月6日 天明2年　　10月2日 曇　朝の内晴　夜に入り風立
1782年　11月7日 天明2年　　10月3日 曇　今日風雨
1782年　11月8日 天明2年　　10月4日 曇　今日未の下刻より雪降　夜中時々雪
1782年　11月9日 天明2年　　10月5日 曇　今日巳の下刻より霰降
1782年 11月10日 天明2年　　10月6日 曇　今朝辰の上刻雷発
1782年 11月11日 天明2年　　10月7日 曇　今朝辰の下刻初雪　(去る朔日田舎館組馬場尻村で出火3?軒(家・馬屋・外馬屋・物置・木小屋・稲乳4(稲16500束余:百姓)と高無の家2軒焼失・火元百姓他村預け)
1782年 11月12日 天明2年　　10月8日 曇　昨夜中雪一寸程　今日時々雪降　(御家中の弟が乱心で義姉を切り殺す)
1782年 11月13日 天明2年　　10月9日 曇　朝の内霜　巳の中刻より時々雨
1782年 11月14日 天明2年　10月10日 曇　昨夜中時々雨　(馬場尻村の火元の村預け免許)
1782年 11月15日 天明2年　10月11日 快晴
1782年 11月16日 天明2年　10月12日 曇　昨夜中雨
1782年 11月17日 天明2年　10月13日 曇
1782年 11月18日 天明2年　10月14日 陰晴
1782年 11月19日 天明2年　10月15日 快晴
1782年 11月20日 天明2年　10月16日 曇　今朝辰の上刻より雨時々　夜に入り止
1782年 11月21日 天明2年　10月17日 快晴　(去る14日浪岡組本郷村で出火・火元高無村預け)
1782年 11月22日 天明2年　10月18日 快晴　(本郷村の火元の村預け免許)
1782年 11月23日 天明2年　10月19日 晴　申の上刻より曇　酉の刻過ぎ雷発　夜中雨　(今朝五時頃和徳町で男縊死)
1782年 11月24日 天明2年　10月20日 曇　今暁より雪　今日時々雪
1782年 11月25日 天明2年　10月21日 陰晴　昨夜中雪一寸程　今日時々雪降
1782年 11月26日 天明2年　10月22日 曇　時々雨　午の上刻より晴
1782年 11月27日 天明2年　10月23日 曇　時々小雨
1782年 11月28日 天明2年　10月24日 晴
1782年 11月29日 天明2年　10月25日 晴
1782年 11月30日 天明2年　10月26日 曇
1782年　12月1日 天明2年　10月27日 曇　時々雨
1782年　12月2日 天明2年　10月28日 曇
1782年　12月3日 天明2年　10月29日 曇　昨夜中風雨　今日時々雨
1782年　12月4日 天明2年　10月30日 曇　昨夜中雨　今朝に至る　　下から続く　　録之拘らず大小一統付割渡仰付られ候)
1782年　12月5日 天明2年　　11月1日 曇　昨夜中雪少々　(10月中碇関出人都合89人(御印紙出45・切手紙出44)、大目付触:御家中知行米去年300石以上申立の上皆渡仰付られ候えども当年御郡内田畑不熟に付　　上に続く
1782年　12月6日 天明2年　　11月2日 陰晴　朝の内雪少々
1782年　12月7日 天明2年　　11月3日 陰晴
1782年　12月8日 天明2年　　11月4日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日未の刻より雨
1782年　12月9日 天明2年　　11月5日 晴
1782年 12月10日 天明2年　　11月6日 曇　今日雪降
1782年 12月11日 天明2年　　11月7日 曇　(一昨15日晩高杉組折笠村で火災・火元高無村預け、去月晦日青森御仮屋裏御門前に者(男)倒死)
1782年 12月12日 天明2年　　11月8日 曇　昨夜中雪少々　今朝に及ぶ　今日時々雪
1782年 12月13日 天明2年　　11月9日 快晴
1782年 12月14日 天明2年　11月10日 晴
1782年 12月15日 天明2年　11月11日 晴　今朝雪少々降
1782年 12月16日 天明2年　11月12日 曇
1782年 12月17日 天明2年　11月13日 晴　昨夜中雪二寸位降
1782年 12月18日 天明2年　11月14日 快晴　昨夜中雪少々　今日朝の内曇
1782年 12月19日 天明2年　11月15日 晴
1782年 12月20日 天明2年　11月16日 快晴
1782年 12月21日 天明2年　11月17日 曇　今日冬至　(浦町組大野村の男の他村預け(火元か:福眞)免許)
1782年 12月22日 天明2年　11月18日 曇　今日時々雪
1782年 12月23日 天明2年　11月19日 晴
1782年 12月24日 天明2年　11月20日 晴
1782年 12月25日 天明2年　11月21日 曇　昨夜雪二寸程降
1782年 12月26日 天明2年　11月22日 快晴　朝の内曇
1782年 12月27日 天明2年　11月23日 晴
1782年 12月28日 天明2年　11月24日 曇　昨夜中雪降　今日雪少し降　(十三潟が当月20日暮六時より28日朝六時迄早川口より残らず氷張る・去年に引合16日遅く節に引合6日遅い)
1782年 12月29日 天明2年　11月25日 曇
1782年 12月30日 天明2年　11月26日 快晴　(他人の娘を人買いに渡した山伏に鞭刑5鞭・五里四方追放、その仲間にも罰)
1782年 12月31日 天明2年　11月27日 快晴

1783年　1月1日 天明2年　11月28日 曇　時々雪
1783年　1月2日 天明2年　11月29日 曇　今日時々雪　　下から続く　　不熟に付町在は申すに及ばず御家中並びに寺社共に雑飯粥等相用得万端質素いたし銘々取続方覚悟致し候様仰出され候この旨惣觸申觸れらるべく候）
1783年　1月3日 天明2年　12月1日 曇　昨夜中雪三寸程　今朝に及ぶ　(11月中所々御関所出人都合84人:碇ヶ関80人(御印紙出68・切手紙出12)・野内4人(御印紙出2・切手紙出2)、大目付觸:当年御領分作毛　　上に続く
1783年　1月4日 天明2年　12月2日 曇　昨夜雪三寸程降
1783年　1月5日 天明2年　12月3日 曇　巳の下刻より雪少し　今暁亥の三刻小寒に入
1783年　1月6日 天明2年　12月4日 曇　昨夜中雪五寸程　今朝に及ぶ　今日時々雪
1783年　1月7日 天明2年　12月5日 曇　昨夜中雪少し　今日時々雪
1783年　1月8日 天明2年　12月6日 曇　今朝卯の上刻より雪時々降
1783年　1月9日 天明2年　12月7日 曇　今日時々雪
1783年　1月10日 天明2年　12月8日 曇
1783年　1月11日 天明2年　12月9日 曇
1783年　1月12日 天明2年　12月10日 晴
1783年　1月13日 天明2年　12月11日 快晴
1783年　1月14日 天明2年　12月12日 晴
1783年　1月15日 天明2年　12月13日 曇
1783年　1月16日 天明2年　12月14日 曇　昨夜酉の刻雷発す　雨降　今暁より雪
1783年　1月17日 天明2年　12月15日 快晴　朝の内霞立
1783年　1月18日 天明2年　12月16日 快晴
1783年　1月19日 天明2年　12月17日 晴　(去る14日晩袋町で御中小姓が針医に切りかかる)
1783年　1月20日 天明2年　12月18日 曇　昨日霙　昨夜中雨
1783年　1月21日 天明2年　12月19日 曇　昨夜中雪三寸程　今日時々雪
1783年　1月22日 天明2年　12月20日 曇　今日時々雪
1783年　1月23日 天明2年　12月21日 曇　今日時々雪
1783年　1月24日 天明2年　12月22日 晴
1783年　1月25日 天明2年　12月23日 晴
1783年　1月26日 天明2年　12月24日 曇
1783年　1月27日 天明2年　12月25日 晴
1783年　1月28日 天明2年　12月26日 晴
1783年　1月29日 天明2年　12月27日 晴　昨夜中雪少
1783年　1月30日 天明2年　12月28日 快晴
1783年　1月31日 天明2年　12月29日 曇　今日時々雪
1783年　2月1日 天明2年　12月30日 曇　今日雪少々
1783年　2月2日 天明3年　正月1日　晴
1783年　2月3日 天明3年　正月2日　曇　朝の内水雪降
1783年　2月4日 天明3年　正月3日　曇　今日終日雪吹　寒気強　今日節分　(御金奉行が御吉例金200両を御用所に持参・明日御使いにて差登)
1783年　2月5日 天明3年　正月4日　曇　時々雪
1783年　2月6日 天明3年　正月5日　晴　未の刻より雪
1783年　2月7日 天明3年　正月6日　晴　申の刻より雪
1783年　2月8日 天明3年　正月7日　晴　昨夜中雪
1783年　2月9日 天明3年　正月8日　曇　時々雪
1783年　2月10日 天明3年　正月9日　快晴
1783年　2月11日 天明3年　正月10日　快晴
1783年　2月12日 天明3年　正月11日　晴　昨夜雪少
1783年　2月13日 天明3年　正月12日　晴　昨夜雪少
1783年　2月14日 天明3年　正月13日　快晴
1783年　2月15日 天明3年　正月14日　曇　昨夜中雨　今日小雨
1783年　2月16日 天明3年　正月15日　快晴
1783年　2月17日 天明3年　正月16日　曇　今日終日雪
1783年　2月18日 天明3年　正月17日　曇　今日巳の下刻より雪吹　(12月中所々御関所出人都合108人:碇ヶ関105人(御印紙出86・切手紙出19)・野内3人(切手紙出)、常盤組柳村・増館組水木村境に浪岡村の女房倒死)
1783年　2月19日 天明3年　正月18日　曇　昨夜雪　今暁丑の刻頃地震　今日雪二尺程降
1783年　2月20日 天明3年　正月19日　曇　今日時々雪　十六日より之雪三尺余積
1783年　2月21日 天明3年　正月20日　曇　今日時々雪
1783年　2月22日 天明3年　正月21日　晴　昨夜中風立
1783年　2月23日 天明3年　正月22日　曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　(14日赤石組追良瀬村で塩釜小屋焼失)
1783年　2月24日 天明3年　正月23日　曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1783年　2月25日 天明3年　正月24日　晴
1783年　2月26日 天明3年　正月25日　快晴　今日申の刻より雪少々降
1783年　2月27日 天明3年　正月26日　曇　今日午の刻より雪時々降
1783年　2月28日 天明3年　正月27日　曇　昨夜中大雪　今朝風立

1783年　3月1日 天明3年 正月28日　晴　昨夜雪　今朝寒気強シ
1783年　3月2日 天明3年 正月29日　晴　(一昨27日碇関相乗沢で治兵衛と申す者熊(生胆目形117文目)取る)
1783年　3月3日 天明3年　2月1日 晴　(正月中碇関出人都合212人(御印紙出198・切手紙出14))
1783年　3月4日 天明3年　2月2日 曇　朝の内晴　辰の刻より雨　午の刻地震強シ　午の刻過ぎ雷強　終日雨　未の刻過ぎより雪
1783年　3月5日 天明3年　2月3日 曇　昨夜中風雨　今日時々風
1783年　3月6日 天明3年　2月4日 快晴　今日寒気強し
1783年　3月7日 天明3年　2月5日 曇　昼之内雨　申ノ刻より雨　　下から続く　　蕎麦・大豆2俵・稗5俵・味噌3尺5寸桶1本焼失・火元村預け)
1783年　3月8日 天明3年　2月6日 曇　昨夜中風雨強　今日時々雪吹　(去る4日浦町組浦町村で火災(4間×11間:高無)・外馬屋1軒・白米15俵(他も4斗入り)・米20俵・籾10俵(これだけ6斗入り)・粟2俵・　　上に続く
1783年　3月9日 天明3年　2月7日 曇　昨夜中風強　今朝に及ぶ
1783年　3月10日 天明3年　2月8日 曇　昨夜中風立　今暁に及ぶ　今日暮頃より岩木山絶頂南ノ方ニ煙見る　今日より翌年迄甚敷ミゆる
1783年　3月11日 天明3年　2月9日 晴　今朝虹見ゆる　辰の刻雨降
1783年　3月12日 天明3年　2月10日 快晴
1783年　3月13日 天明3年　2月11日 晴
1783年　3月14日 天明3年　2月12日 快晴　(岩木山に怪しき煙相見え候に付今朝登山仕り見分つかまらせ候処:以下見分の結果は省略)
1783年　3月15日 天明3年　2月13日 曇　今暁寅の刻より雨終日降
1783年　3月16日 天明3年　2月14日 晴　昨夜中風烈シ　今日時々風立
1783年　3月17日 天明3年　2月15日 晴
1783年　3月18日 天明3年　2月16日 陰晴　(申10月7日義姉を殺害した御家中の弟を取上で斬罪)
1783年　3月19日 天明3年　2月17日 快晴
1783年　3月20日 天明3年　2月18日 曇　昨夜中風雨　今朝ニ及ぶ　(去る15日夜金木新田宮川村に火災3軒・火元他村預け)
1783年　3月21日 天明3年　2月19日 曇　今日時々小雨
1783年　3月22日 天明3年　2月20日 曇　今日終日雪　(昨18日夜七時頃駒越組国吉村で出火・火元村預け、当月18日六つ時より五つ時まで十三潟早川口より残らず氷明ける・去年より7日早く節に引合いても18日早い)
1783年　3月23日 天明3年　2月21日 晴　今朝雪少々降　(去る17日飯詰組前田野目村の漁師巳之助が熊(胆生目40目)取る)
1783年　3月24日 天明3年　2月22日 晴
1783年　3月25日 天明3年　2月23日 快晴　(金木村百姓の男子牢死)
1783年　3月26日 天明3年　2月24日 快晴　(去る20日油川組油川村の男酒狂い剃刀で切腹・死亡、去る20日木作新田長濱村に切欠け鯨流れ寄せる)
1783年　3月27日 天明3年　2月25日 陰晴
1783年　3月28日 天明3年　2月26日 快晴　(岩木山見分の報告あり、御徒目付3人に御給分召し上げ永の暇)
1783年　3月29日 天明3年　2月27日 陰晴
1783年　3月30日 天明3年　2月28日 曇　昨夜中風雨　今日時々雨　巳の刻過ぎ霰降　(御蔵奉行・小細工人などに御褒美:銀3枚・金200疋・銀3両・青銅200文・鳥目400文など)
1783年　3月31日 天明3年　2月29日 曇　巳の中刻雨
1783年　4月1日 天明3年　2月30日 快晴
1783年　4月2日 天明3年　3月1日 陰晴　(2月中所々御関所出人都合52人:碇関47人(御印紙出21・切手紙出26)・野内5人(御印紙出2・切手紙出3)、人事異動)
1783年　4月3日 天明3年　3月2日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(昨夜九つ時頃大光寺組杉館村で1軒と外馬屋焼失・火元百姓村預け、江戸屋敷に木を送っているのかな、岩木川七歩余の出水・足軽頭たちに水防仰せ付ける)
1783年　4月4日 天明3年　3月3日 曇　昨夜中風雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1783年　4月5日 天明3年　3月4日 快晴
1783年　4月6日 天明3年　3月5日 快晴　(杉館村の百姓(3月1日大光寺村の火災の火元)の村預け免許)
1783年　4月7日 天明3年　3月6日 快晴
1783年　4月8日 天明3年　3月7日 曇　昨夜中より雨　今日時々雨
1783年　4月9日 天明3年　3月8日 曇　昨夜中雨　今日終日降　申の刻霰　(昨朝高杉組楢木村で出火・火元高無村預け)
1783年　4月10日 天明3年　3月9日 晴　今朝霜強　(去る6日青森濱先で筑前博多の男倒死、十三潟が去月18日より方明け・船通路は23日より相成る)
1783年　4月11日 天明3年　3月10日 快晴
1783年　4月12日 天明3年　3月11日 陰晴
1783年　4月13日 天明3年　3月12日 曇　昨夜中雨　今日昼頃まで雨　(旧冬よりこの節まで青森極難の者共より御救い願あり・重立ちの町人どもに補助申付ける・127人救い相候旨申し出る)
1783年　4月14日 天明3年　3月13日 曇　今日終日雨
1783年　4月15日 天明3年　3月14日 曇　今日風雨霰　時々雪
1783年　4月16日 天明3年　3月15日 晴　今日時々風立
1783年　4月17日 天明3年　3月16日 快晴
1783年　4月18日 天明3年　3月17日 晴　(去る13日酸ヶ湯付近で南部の男が山合の大風で死亡)
1783年　4月19日 天明3年　3月18日 晴　今日終日風立　(去る10日深浦沖合いで丸木舟を拾う)
1783年　4月20日 天明3年　3月19日 曇　今日時々雨
1783年　4月21日 天明3年　3月20日 曇　(去る9月鯵ヶ沢漁師が沖合いで丸木舟拾う)
1783年　4月22日 天明3年　3月21日 快晴　(大鰐・尾崎組で3・8日両度の出水)
1783年　4月23日 天明3年　3月22日 晴　申の刻過ぎ雷発　夜に入り風雨　雷時々発
1783年　4月24日 天明3年　3月23日 晴　昨夜中時々雨　夜に入り小雨
1783年　4月25日 天明3年　3月24日 快晴　(昨夜五つ時頃高杉組で出火・家3間半×7間半・馬屋3間×4間半・雑駄4疋・種籾4石4斗余・米穀3石余等焼失)
1783年　4月26日 天明3年　3月25日 晴　今日申の刻雨　(去る23日夜八時頃浦町組荒川村で出火・火元不明、昨夜五時頃土手町の屋根に投げ火)
1783年　4月27日 天明3年　3月26日 晴　昨夜中雨　今日申の刻雨　(去る8月下十川村で人買いの女を五里四方追放、去る23日夜荒川村で出火家数6軒外馬屋3軒等焼失・火元高無他村預け)
1783年　4月28日 天明3年　3月27日 晴　昨夜中小雨　今朝に及ぶ　(去る25日夜九つ時分金木組嘉瀬村で出火・火元高無村預け)
1783年　4月29日 天明3年　3月28日 曇　午の刻過ぎより晴　(明かりを持った土渕川やつめ取停止、去る24日夜後潟組大川平村で火災・家5軒外馬屋2軒・火元高無他村預け)
1783年　4月30日 天明3年　3月29日 晴　今日時々風立　(加瀬村の火元の村預け免許、取上村に袖乞体の者倒死)

1783年　5月1日 天明3年　　4月1日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(3月中所々御関所出人都合423人:碇関415人(御印紙出95・切手紙出320)・野内8人(切手紙出)、人事異動、大川平村の火元の村預け免許、　　欄外(*)に続く
1783年　5月2日 天明3年　　4月2日 曇
1783年　5月3日 天明3年　　4月3日 曇　今日午の刻過ぎより雨降
1783年　5月4日 天明3年　　4月4日 曇　昨夜中雨　(牢舎の内で拷問の上詮議することを御家老に申し出でている:拷問は一般的ではない)
1783年　5月5日 天明3年　　4月5日 曇　今日終日雨
1783年　5月6日 天明3年　　4月6日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1783年　5月7日 天明3年　　4月7日 曇　昨夜中小雨　今日午の刻雨晴
1783年　5月8日 天明3年　　4月8日 快晴
1783年　5月9日 天明3年　　4月9日 曇　今日終日雨　(去る12月14日町医の酒宴に刀を抜きかけ町医の弟子に傷を負わせた御中小姓の御給分召し上げ永の暇・町医は弘前追放・弟子はお構いなし)
1783年　5月10日 天明3年　4月10日 陰晴　今朝風雨　(四社に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1783年　5月11日 天明3年　4月11日 快晴
1783年　5月12日 天明3年　4月12日 陰晴
1783年　5月13日 天明3年　4月13日 晴　朝の内風立
1783年　5月14日 天明3年　4月14日 快晴　朝の内霞　申の刻雨　雷発す　(田舎館組境松村で去月3日出水・欠け落ち・当秋の御検地願・了)
1783年　5月15日 天明3年　4月15日 晴
1783年　5月16日 天明3年　4月16日 晴　(去る13日夜根岸村で出火・類焼13軒)
1783年　5月17日 天明3年　4月17日 曇　昨夜戌ノ刻より雨
1783年　5月18日 天明3年　4月18日 晴　午の下刻雷発　(去る11日昼九つ過ぎ金木組脇元村前浜に鯵ヶ沢船が破船・4人中3人水死、去る13日夜後潟組根岸村で火災・家13軒・土蔵のさや一ヶ所・外馬屋4軒・火元高無他村預け)
1783年　5月19日 天明3年　4月19日 陰晴　(去る17日夜五本松村で火災・家1軒・17歳女1人焼死・馬2疋・同1疋行方不明)
1783年　5月20日 天明3年　4月20日 曇
1783年　5月21日 天明3年　4月21日 曇　(17日夜出火の浪岡組五本松村の百姓を村預け)
1783年　5月22日 天明3年　4月22日 快晴
1783年　5月23日 天明3年　4月23日 晴　(13日夜根岸村の火元の他村預け免許、16日夜五本松村の火元の他村預け免許、当3月29日に猟に出た横内組諏訪の沢村の猟師が雪なて(雪崩)で死亡)
1783年　5月24日 天明3年　4月24日 曇
1783年　5月25日 天明3年　4月25日 晴
1783年　5月26日 天明3年　4月26日 曇　昨夜中雨　今日終日降
1783年　5月27日 天明3年　4月27日 陰晴　昨夜風雨　今朝に及ぶ
1783年　5月28日 天明3年　4月28日 快晴
1783年　5月29日 天明3年　4月29日 曇　朝の内小雨
1783年　5月30日 天明3年　4月30日 晴　昨夜中雨　(五山並びに長勝寺に日和揚・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)　　下から続く　　馬屋1軒・家1軒・米10俵・粟3俵・蕎麦4俵・稗10俵・大豆2俵焼失・火元高無他村預け)
1783年　5月31日 天明3年　　5月1日 快晴　(4月中所々御関所出人都合122人:碇関111人(御印紙出70・切手紙出41)・野内8人(御印紙出3・切手紙出5)・大間越3人(切手紙出)、一昨29日夜横内組戸山村で火災・　　上に続く
1783年　6月1日 天明3年　　5月2日 快晴　今暁雨
1783年　6月2日 天明3年　　5月3日 曇　昨夜時々雨　今朝卯の上刻雷発
1783年　6月3日 天明3年　　5月4日 晴　昨夜中雨少々　朝の内曇　(去月29日出火の戸山村の火元の他村預け免許)
1783年　6月4日 天明3年　　5月5日 陰晴
1783年　6月5日 天明3年　　5月6日 陰晴
1783年　6月6日 天明3年　　5月7日 快晴　(去る4日夜油川組古川村で出火・火元百姓村預け)
1783年　6月7日 天明3年　　5月8日 快晴
1783年　6月8日 天明3年　　5月9日 陰晴　(油川組古川村の火元の村預け免許)
1783年　6月9日 天明3年　　5月10日 快晴　(浪岡組柳久保村の猟師長四郎が熊胆(生目方30目9分・干し目形8文目5分)を納める)
1783年　6月10日 天明3年　5月11日 晴　申の刻過ぎより雨降
1783年　6月11日 天明3年　5月12日 曇　今日時々雨
1783年　6月12日 天明3年　5月13日 曇　今日時々雨　(男牢死)
1783年　6月13日 天明3年　5月14日 曇　今日時々小雨
1783年　6月14日 天明3年　5月15日 曇　今日終日雨
1783年　6月15日 天明3年　5月16日 曇　昨夜中大雨　雷発
1783年　6月16日 天明3年　5月17日 晴
1783年　6月17日 天明3年　5月18日 陰晴
1783年　6月18日 天明3年　5月19日 曇　今日終日雨
1783年　6月19日 天明3年　5月20日 曇
1783年　6月20日 天明3年　5月21日 陰晴
1783年　6月21日 天明3年　5月22日 曇　昨夜中雨　今日終日雨　(薬王院内で66歳の道心が縊死)
1783年　6月22日 天明3年　5月23日 曇
1783年　6月23日 天明3年　5月24日 晴　朝の内曇　(去る22日昼藤崎組に乞食体の男倒死)
1783年　6月24日 天明3年　5月25日 陰晴
1783年　6月25日 天明3年　5月26日 曇　昨夜中雨　今日終日雨　(嵩・湯段とも御差止め、人相書きの男60歳のせい5尺3寸くらい)
1783年　6月26日 天明3年　5月27日 曇　(当冬・来春までに一粒金丹15・6剤を調合……)
1783年　6月27日 天明3年　5月28日 曇　(一昨26日駒越組新法師村に火災(3間半×9間:御蔵百姓)・火元村預け)
1783年　6月28日 天明3年　5月29日 曇　辰の下刻小雨
1783年　6月29日 天明3年　5月30日 陰晴　(新法師村の火元の村預け免許)
1783年　6月30日 天明3年　　6月1日 陰晴　(5月中所々御関所出人都合129人:碇関123人(御印紙出67・切手紙出56)・大間越3人(御印紙出)・野内3人(切手紙出))
(*)　御国許銭払底に付御常用下し金3000両並びに江戸御常用月割り下し金の内正月・2月・3月の三か月分都合5000両分銭にて差下すよう……)

1783年　7月1日 天明3年　6月2日 陰晴 （薬王院に虫除け御祈祷を仰せ付ける）
1783年　7月2日 天明3年　6月3日 陰晴 （藤代組苑中村に50歳余の男倒死）
1783年　7月3日 天明3年　6月4日 曇 昨夜中小雨 今日午の刻小雨
1783年　7月4日 天明3年　6月5日 晴
1783年　7月5日 天明3年　6月6日 快晴
1783年　7月6日 天明3年　6月7日 晴 今日辰の刻小雨
1783年　7月7日 天明3年　6月8日 曇 （去る4日後潟組濱松村で火災・外馬屋1軒焼失・火元村預け）
1783年　7月8日 天明3年　6月9日 曇 昨夜戌の刻雷強 時々雨 今朝に及ぶ （濱松村の火元高無の村預け免許）
1783年　7月9日 天明3年　6月10日 曇 午の刻より雨
1783年　7月10日 天明3年　6月11日 曇 （一昨夜鍛治町に2歳くらいの女子捨て置かれる）
1783年　7月11日 天明3年　6月12日 曇
1783年　7月12日 天明3年　6月13日 曇 昨夜中時々小雨
1783年　7月13日 天明3年　6月14日 陰晴 未の下刻より小雨 （本行寺に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1783年　7月14日 天明3年　6月15日 陰晴
1783年　7月15日 天明3年　6月16日 陰晴
1783年　7月16日 天明3年　6月17日 曇 酉の刻より風立 終夜風つよし （今朝六時過ぎ和徳町の借家男が縊死）
1783年　7月17日 天明3年　6月18日 曇 今暁寅の刻雨終日降 酉の刻過ぎ東方より西の方へ虹ノ如ク白雲見ゆる
1783年　7月18日 天明3年　6月19日 曇 今朝卯の刻小雨 時々小雨
1783年　7月19日 天明3年　6月20日 快晴 今日申の八刻土用に入る 今日初伏(しょふく:夏至後の第三の庚の日・なぜこの用語が出るのか不明:福眞） （郡奉行が当月5日に見廻った田方は二番草に入る・相替る儀なし）
1783年　7月20日 天明3年　6月21日 快晴
1783年　7月21日 天明3年　6月22日 快晴
1783年　7月22日 天明3年　6月23日 陰晴
1783年　7月23日 天明3年　6月24日 晴 今日霞のごとく毛や立(今日霞の如くもや立つ） 夕日赤し
1783年　7月24日 天明3年　6月25日 曇
1783年　7月25日 天明3年　6月26日 快晴
1783年　7月26日 天明3年　6月27日 陰晴 今朝卯の下刻小雨
1783年　7月27日 天明3年　6月28日 陰晴
1783年　7月28日 天明3年　6月29日 曇 今日終日雨 酉の下刻風立 夜中に及ぶ
1783年　7月29日 天明3年　7月1日 曇 今日終日雨 （7月中所々御関所出人都合137人:碇関133人(御印紙出74・切手紙出59)・野内2人(御印紙出1・切手紙出1)・大間越2人(切手紙出)）
1783年　7月30日 天明3年　7月2日 曇
1783年　7月31日 天明3年　7月3日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ （祢ふたの儀前々仰せ付けられ候通り町内限り……）
1783年　8月1日 天明3年　7月4日 曇 巳の下刻より小雨 （去月25日夜深浦町で木小屋出火九つ頃火鎮・火元戸〆）
1783年　8月2日 天明3年　7月5日 陰晴 （水油1升を4匁5分で商売したいとの申し出で・4文目に申付ける）
1783年　8月3日 天明3年　7月6日 陰晴 昨夜酉の下刻雨 亥の上刻晴
1783年　8月4日 天明3年　7月7日 曇 昨夜中雨
1783年　8月5日 天明3年　7月8日 快晴
1783年　8月6日 天明3年　7月9日 陰晴
1783年　8月7日 天明3年　7月10日 晴
1783年　8月8日 天明3年　7月11日 晴 終日風立 （昨夜九つ時過ぎ青森濱町より出火・町奉行所1ヶ所・同所土蔵1ヶ所・善知鳥御本社・家数206軒・借家61軒・潰れ家16軒・都合283軒焼失・火元寺落）
1783年　8月9日 天明3年　7月12日 陰晴
1783年　8月10日 天明3年　7月13日 曇 未の刻より雨 酉の刻晴 （青森の火災は付け火・追い立てられた借家男を搦捕る）
1783年　8月11日 天明3年　7月14日 曇 今日時々風立
1783年　8月12日 天明3年　7月15日 陰晴 朝の内風立 （10日夜大火に驚き船から海に飛び込んだ男が水死）
1783年　8月13日 天明3年　7月16日 陰晴 今日午の刻大雨 則刻晴
1783年　8月14日 天明3年　7月17日 快晴
1783年　8月15日 天明3年　7月18日 曇
1783年　8月16日 天明3年　7月19日 曇 卯の上刻雷発 辰の刻晴
1783年　8月17日 天明3年　7月20日 曇
1783年　8月18日 天明3年　7月21日 曇 卯の刻より雨終日降 夜に入 （青森町家の者共騒ぎ立てる・取鎮めに両人(誰か不明)まかり下す・町同心とその加勢の長柄の者10人の派遣を申付ける）
1783年　8月19日 天明3年　7月22日 曇 今日雨終日 （昨日派遣の人数:大組足軽頭1人鉄砲30挺・諸手足軽頭2人鉄砲40挺・その他勘定奉行等、町の者共が大勢で家々に押し入り9軒を取壊した・潰家ではない）
1783年　8月20日 天明3年　7月23日 陰晴 残暑 （大鰐村加賀助・兵左衛門が5月3日植付の初穂差上げる・去年は4月23日植付7月4日差上・今年は日数で9日節に引合8日遅い、青森騒動に関する両奉行報告 欄外(*)に続く）
1783年　8月21日 天明3年　7月24日 晴 残暑 （青森騒動の内容あり） 下から続く 昨夜五所川原の両家を青森者と南部者3000人余がつぶしたと触れ回るものあり・搦捕る、鯵ヶ沢の御払い米500俵）
1783年　8月22日 天明3年　7月25日 曇 昨夜中大雨 今朝に及ぶ （岩木川渡差留、昨22日夜鯵ヶ沢で騒動・米の積み出し方を控える・騒動衆の願:御廻船御米差留願・売米は1文目に付き1升5合売りとすることなど、 上に続く
1783年　8月23日 天明3年　7月26日 曇 今日時々雨 （岩木川落水）
1783年　8月24日 天明3年　7月27日 晴 残暑 （願いの筋ありとして木作新田の者共数百人が石渡川原に集まる・解散?）
1783年　8月25日 天明3年　7月28日 曇 （来月朔日より27日まで品川町の弁天宮で五穀成就等の御祈祷執行、青森狼藉の落合文右衛門など40人(10人が苗字あり)を搦捕る）
1783年　8月26日 天明3年　7月29日 陰晴 （搦捕った40人を入牢・入りきれず30人は町預け・落合千左衛門72歳などの記述）
1783年　8月27日 天明3年　7月30日 曇 昨夜中より雨 時々雨
1783年　8月28日 天明3年　8月1日 曇 朝の内雨 （7月中所々御関所出人都合68人:碇関54人(御印紙出33・切手紙出21)・野内14人(御印紙出)） 下から続く 青森町の有米?3265俵）
1783年　8月29日 天明3年　8月2日 曇 （米穀並びに雑穀その外一切食用に相成るべき品御郡内一統津留仰せ付けられ候……、青森町で御払いの米千俵中残り420俵、津留の大豆2896俵を地払勝手次第とする、 上に続く
1783年　8月30日 天明3年　8月3日 陰晴 昨夜小雨 （去月27日晩石渡川原の騒動は貯米等の願い・代表7人の名あり、青森の騒動の残党6人を搦捕る・1人は苗字あり） 下から続く 銭皆済後とする）
1783年　8月31日 天明3年　8月4日 陰晴 （深浦町奉行が当月朔日より2日まで1人に米1俵宛相渡し候ところ相鎮まり候・能代船から米279俵1斗5升3合を13貫903文目6分4厘で調えた、碇関町から80俵御払願・代 上に続く
(*) :小売米日々高値になり御小納戸米千俵御払い仰付けられ只今の平米1俵40目で申し渡す・28文目程度でとの要望が前からあり騒動となる、1俵30目に駄賃を差し加えた値段を申付けた）

1783年　9月1日 天明3年　8月5日 曇　下から続く　込む・勾引者を捕らえる)
1783年　9月2日 天明3年　8月6日 晴　昨夜中雨　今日二百十日　朝の内雨　夫より晴　(石渡川原の騒ぎの重立ち5人を搦捕る(2人は他出中で帰り次第)、去月27日江戸の上屋敷に温湯より勾引された娘が逃げ　上に続く
1783年　9月3日 天明3年　8月7日 曇　(神明・和徳稲荷宮に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1783年　9月4日 天明3年　8月8日 快晴　残暑　(周りを救った7人を郷士・帯刀御免などとする、添田儀左衛門藤(秣:まぐさ)場屋敷?にて男倒死)
1783年　9月5日 天明3年　8月9日 快晴　昨夜子の刻大雨(昨夜とはいつからいつまでを示すか:福眞)　今日残暑
1783年　9月6日 天明3年　8月10日 曇　昨夜中小雨　今日時々雨　(女牢が出来る・青森騒動の町預け40人の内8人を入れる)
1783年　9月7日 天明3年　8月11日 曇　昨夜中大雨　今日終日雨　(去る9日夜浪岡組吉内村に火災3軒・火元百姓他村預け、深浦の騒動の取り結びの者6人を捕え弘前に入牢させる)
1783年　9月8日 天明3年　8月12日 晴　昨夜中雨　今日残暑　申の刻風強し
1783年　9月9日 天明3年　8月13日 曇　昨夜中大風　今朝に及ぶ
1783年　9月10日 天明3年　8月14日 曇　今日時々雨　下から続く　棟方作兵衛御家老職依願免、江戸屋敷の工事か大量の木を送っている、石渡川原騒動の重立7人の内行方不明1人の人相書きあり)
1783年　9月11日 天明3年　8月15日 晴　昨夜中小雨　(碇関名主が御蔵米の内80俵御払い願・30俵御払い仰せ付ける・先達ての代金を早速上納するように申し遣わす、囚人が多いので中牢を2坪余増築する、　上に続く
1783年　9月12日 天明3年　8月16日 快晴　昨夜中殊の外晴　冷敷白露降
1783年　9月13日 天明3年　8月17日 曇
1783年　9月14日 天明3年　8月18日 曇　(青森町で4人が1920俵の米を押隠している・小売米に申付ける)
1783年　9月15日 天明3年　8月19日 快晴　(今16日夜後潟組奥内村で出火1軒・火元村預け)
1783年　9月16日 天明3年　8月20日 快晴
1783年　9月17日 天明3年　8月21日 曇　昨夜中雨
1783年　9月18日 天明3年　8月22日 晴　昨夜中雨　朝の内曇　(黒石弥右衛門(勘定奉行)・館美文内(郡奉行)が江戸表に立帰り登り仰せ付けられる)
1783年　9月19日 天明3年　8月23日 快晴　今朝白露降
1783年　9月20日 天明3年　8月24日 快晴　(藤代組南浮田村に乞食体の者倒死、在方通り役人の賄い米は米穀不足に付有り合わせの品でよいとのお触れあり、和徳末江施行小屋取建を仰せ付ける)
1783年　9月21日 天明3年　8月25日 曇
1783年　9月22日 天明3年　8月26日 陰晴　朝の内小雨　巳の刻より晴　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる)
1783年　9月23日 天明3年　8月27日 晴　朝の内霞　(館美文内等が江戸へ出発)　下から続く　2000人程が寄集まり1日に2石4斗・1ヶ月に72石となる)
1783年　9月24日 天明3年　8月28日 晴　朝の内寒冷　(稲穂に「くい」という虫が付いている・竿のような物で払えば止らない、五山に重き御祈祷・長勝寺に施餓鬼を仰付ける、施行米は1日1人に付片飯3夕・朝夕6夕・　上に続く
1783年　9月25日 天明3年　8月29日 陰晴　昨夜暖気　戌の刻雷発雨　夜に入り大雨時々　今日霞白立　夕日赤し　(先達ての青森出火についての公儀お届け:当7月10日夜九時過ぎ出火・267軒焼失・16軒潰家　欄外(*)に続く
1783年　9月26日 天明3年　9月1日 快晴　朝の内冷気　午の刻より残暑　(8月中所々御関所出人都合91人:碇関87人(御印紙出35・切手紙出52)・野内4人(切手紙出)、人事異動)
1783年　9月27日 天明3年　9月2日 快晴　今朝霜　今日冷気　晩柔暖(じゅうだん:柔らかな暖かさ)　(大間越御関所付近を船手・山越えで秋田方面に行く在々の者多数・案内しないよう厳重に申付ける・関所の町同心を増員する)
1783年　9月28日 天明3年　9月3日 曇　未の刻より雨　暮前晴　(中牢出来・町預けの26人を入れる)
1783年　9月29日 天明3年　9月4日 快晴　朝の内曇　午の刻より残暑　(和徳町で極窮の者共2735人に施行・米1升銭1文目宛、立ち戻らない者は非人小屋を作って入れ乞食手にて1人に1度3夕1日両度の粥の炊き出しとする)
1783年　9月30日 天明3年　9月5日 快晴　今日昼の内残暑　(中牢が出来・町預けの36人中26人を入れる、残りの10人は紺屋町と新町に、平内領当作皆無、深浦・大間越に十三・小泊・新田辺りの数百人が出国に押し寄せる)
1783年　10月1日 天明3年　9月6日 快晴
1783年　10月2日 天明3年　9月7日 曇　午の刻過ぎより小雨　今日冷風　(小屋掛け建坪3間×7間と炊き出し所2間×3間・約230人くらいが帰らず残る)
1783年　10月3日 天明3年　9月8日 晴　今日昼頃より晴　(男牢死、一昨6日夜五時過ぎ大町より出火、陸尺3人(5尺5寸5歩から9歩)採用)
1783年　10月4日 天明3年　9月9日 曇　昨夜中雨　辰の刻過ぎ雷発　今日時々雨　雷発
1783年　10月5日 天明3年　9月10日 曇　昨夜中　今日時々雨　午の刻より風立　(唐牛圭太夫が加州表へ出立、和徳町に非人体の者倒死)
1783年　10月6日 天明3年　9月11日 曇　昨夜中より之雨　今日時々雷発　下から続く　本庄より小船で米3斗6升入り20俵・3斗3升入り18俵・小麦4斗入り4俵積下げる・この代銭3貫目、藩が買越米に取り組み始めている)
1783年　10月7日 天明3年　9月12日 曇　今日時々雨　雷発　(大間越町奉行の報告:秋田に行きたい者20人30人と来たが相返し間道船手までも屹度申付けたところ御〆り合宜しく御座候、赤石組嶋村の男が中国　上に続く
1783年　10月8日 天明3年　9月13日 曇　今暁子の刻地震
1783年　10月9日 天明3年　9月14日 快晴　今朝霜　未の中刻地震強
1783年 10月10日 天明3年　9月15日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1783年 10月11日 天明3年　9月16日 快晴
1783年 10月12日 天明3年　9月17日 曇　今朝辰の刻より小雨
1783年 10月13日 天明3年　9月18日 曇
1783年 10月14日 天明3年　9月19日 快晴　昨夜雨　今朝に及ぶ　未の刻より雨　申の刻雷発
1783年 10月15日 天明3年　9月20日 曇　昨夜中大風　雨強し　今日昼頃より晴
1783年 10月16日 天明3年　9月21日 快晴　今朝霜
1783年 10月17日 天明3年　9月22日 快晴　今朝霜　(津軽多膳(御用人)が江戸表江罷り登る旨申し立てる)
1783年 10月18日 天明3年　9月23日 快晴　(昨晩袋町に2歳位の女子捨子)
1783年 10月19日 天明3年　9月24日 快晴　今朝霜強　(多膳儀明後26日江戸表江)　下から続く　広戸村?の類焼10軒が寒死?、11月16日に火付けとして捕まった3人中2人は放免される)
1783年 10月20日 天明3年　9月25日 曇　今日午の刻より小雨　12月2日から続く　油川組村で火災1軒、去月29日大光寺組田中村で火災外馬屋1軒稲草13000余焼失、去月23日野内町で火災2軒、赤石組　上に続く
1783年 10月21日 天明3年　9月26日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　午の刻より雨　(津軽多膳儀今日江戸表江出立致し候)
1783年 10月22日 天明3年　9月27日 曇　昨夜中風雨強　時々雷発　(和徳町の小見世の内に8・9歳の袖乞の者死亡)　下から続く　差越す様にする、浦町組浦町村に40歳位男・15歳位男倒死)
1783年 10月23日 天明3年　9月28日 曇　昨夜中雨　今朝岩木山に雪見ゆる　下から続く　相果て・60歳位の袖乞体の男半生で罷り有る・死亡の者は丁介(非人頭)手に引き取り片付け半生の者は施行小屋に　上に続く
1783年 10月24日 天明3年　9月29日 陰晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ　辰の刻雷発　時々あられ　未の刻雨　(当年大凶作に付弘前三ヶ所御蔵並びに両濱の外在々御蔵奉行立会共不残引取る、東長町橋下に15・6歳男　上に続く
1783年 10月25日 天明3年　9月30日 快晴　(東長町御切手蔵後通りに40歳位の男半生・施行小屋引取り、傍島源八郎が道中で住所離散の者200人余を召し連れ碇関に着、江戸藩邸から公儀に作毛甚だ不塾の報告あり)
1783年 10月26日 天明3年　10月1日 曇　今日時々雨　(9月中所々御関所出人都合208人:碇関194人(御印紙出115・切手紙出79)・大間越14人(切手紙出)、椿町施行小屋で先月8日より29日までの死亡者　欄外(**)に続く
1783年 10月27日 天明3年　10月2日 曇　昨夜中雨　今日申の刻雷発
1783年 10月28日 天明3年　10月3日 曇　今日時々大風雨　昨夜中風雨　(大円寺通・慈雲院作場道・堅田村に3人の袖乞体の者倒死、傍島が召連れの460人中男1人碇関で相果てる、後潟組・飯詰組に施行小屋取建てる)
1783年 10月29日 天明3年　10月4日 曇　(青森騒動の41人・深浦騒動の5人出牢)
1783年 10月30日 天明3年　10月5日 晴　(碇関から450人ほどを椿町の施行小屋に届ける、牢舎の賄い飯に差を付けた?、3日夜猿賀組八幡崎村に55・6歳男倒死)　下から続く　椿町に引き戻す途中の大沢村で男1人病死)
1783年 10月31日 天明3年　10月6日 晴　今朝霜強　寒　水氷　(死亡届を1ヶ月・10日ごとにしている、去る3日夜木作新田長濱村で火災(2間×4間)・火元村預け、門外村・大清水村で袖乞の男4人倒死、碇関から　上に続く
(*)　内半潰家10軒・土蔵3ヶ所・役所1ヶ所・制札場1ヶ所・善知鳥宮1ヶ所・人馬怪我なし)　(**)　14人、傍島が召し連れた者のため碇関に小屋懸、去月24日?大間越前浜で破船1艘・1人死亡)
12月1日から(***)　去月(11月)28日夜広須組沖苞村で火災・火元他村預け、出来嶋・浅瀬石・板屋野木・相内村の火元の村(他村)預け免許、金木・嘉瀬村の火付け4人入牢、火付け男牢死)

1783年　11月1日 天明3年　　10月7日 曇　今朝大霜　(4日横内組原別村で出火1軒・火元漁師村預け、長濱村の火元の村預け免許)
1783年　11月2日 天明3年　　10月8日 曇　昨夜中雨　今朝霰降　(御切手紙蔵脇に袖乞体の40歳位の男倒死・2・3歳位の女子を抱いており女子は引き取られる、原別村の火元の漁師の村預け免許)
1783年　11月3日 天明3年　　10月9日 曇　昨夜中霰　今日初雪三寸程積　(平賀庄六ヶ組で(も)種籾・去年持合せの籾を食潰したとの郡奉行の報告、鯵ヶ沢の蔵の雨さやに袖乞体の12・3歳女・50歳位女倒死、　欄外(*)に続く
1783年　11月4日 天明3年　10月10日 晴　昨夜時々雪降　(去月中弘前町で倒死6人、施行小屋から居村立帰りを望む942人に銭5分と米5合宛出している)
1783年　11月5日 天明3年　10月11日 快晴　(最勝院境内に30歳位の道心縦死)　下から続く　青森表大火に付御救い:御米200俵・大豆200俵・御銭500目・3山(入会か))
1783年　11月6日 天明3年　10月12日 曇　昨夜中風雨　今日時々風雪　11月20日から続く　夜柏木組大俵村で火災1軒、四戸橋・蓮田・高屋敷村の火元の村預け免許、18日夜木作新田館岡村で火災2軒、　上に続く
1783年　11月7日 天明3年　10月13日 快晴　(高岡に鮭2尺献)　下から続く　11月16日夜浪岡組高屋敷村で火災1軒・火元村預け)
1783年　11月8日 天明3年　10月14日 曇　昨夜戌の刻地震　11月19日から続く　3軒と馬屋3軒馬1焼失、12日夜後潟組石崎村で出火4軒・火元他村預け、不明日横内組作道村で火災13軒・火元他村預け、　上に続く
1783年　11月9日 天明3年　10月15日 晴　今朝辰の刻雷発　(……当御収納不残御免被仰付……(この年は納税免除か:福眞)、大浦町御堀の内に菰包みの4・5歳女子死体)
1783年 11月10日 天明3年　10月16日 晴　昨夜中風雨　今朝に及ぶ　(家内有人数を御家中に提出させている)　下から続く　火付け(ほとんど子供か)搦捕る、当月12日青森大火:1446軒(本家1083・借家363))
1783年 11月11日 天明3年　10月17日 晴　今日時々雪降　(去る13日油川組十三森村で火災3軒)　下から続く　で2軒と外馬屋・同夜後潟村で5軒・同夜同組蓮田村で4軒と雑駄1焼失の火災、内真平村・左関村の　上に続く
1783年 11月12日 天明3年　10月18日 快晴　(7月27日広須組木作新田の石渡川原の騒動で入牢中の重立4人が解放される)　11月18日から続く　3疋・清水村で1軒・瀬部地村で2軒と外馬屋、12日夜内間平村　上に続く
1783年 11月13日 天明3年　10月19日 快晴　今朝霜強　(昨夜南溜池の土居の東側に菰包みの40歳位の男死体・犬が喰っている、油川組十三森村の火元の他村預け免許、11日夜鯵ヶ沢漁師町の漁師が沖で水死4人)
1783年 11月14日 天明3年　10月20日 快晴　(施行小屋では乞食手にお預けの節より粥も薄くなり死んでいない者を穴に入れているとのことで詮議・そんな理不尽はしていない・そんな者が居たら申し出でよ・とはなっているが:福眞)
1783年 11月15日 天明3年　10月21日 曇　昨夜中風雨　戌の刻雷発　午の刻より風雨　申の刻雪　(一昨19日夜九時青森浦町で外馬屋1軒焼失、去る19日駒越組百沢村で火災1軒・火元村預け)
1783年 11月16日 天明3年　10月22日 晴　昨夜中吹雪強　(女子勾引に加担した門外村の男に十鞭・五里追放・その他盗人への鞭・追放多数、7月に鯵ヶ沢町で騒動を触れ回った男出牢御免)
1783年 11月17日 天明3年　10月23日 晴　今日未の刻より雨　11月13日から続く　1軒、7日の夜油川村で火災1軒、不明日に広須組豊田村で火災2軒、青森町で昨夜出火・大火・御用人以下が走る)
1783年 11月18日 天明3年　10月24日 曇　昨夜中雨　雷発　今暁雷発　(去る22日夜八時過ぎ木作新田木作村から大火)　29日から続く　の御救、8月24日より在々極難の者共に施行:米90石1斗5升7合余・銭9貫660目余)
1783年 11月19日 天明3年　10月25日 曇　昨夜中風立　吹雪強　今日時々雪　(去る22日夜油川で火災1軒・火元村預け、今22日夜四時頃油川村で火災70軒借家15軒焼失・潰れ家2軒駒1疋焼死・火元百姓)
1783年 11月20日 天明3年　10月26日 曇　昨夜中雪三寸程降　朝之内晴ル　(去る25日夜駒越組築舘村で出火・火元高無、去る23日夜金木組藤枝村で萱家1軒と外馬屋1軒の火災・火元両人を他村預け)
1783年 11月21日 天明3年　10月27日 曇　今日時々雪降　(当月8日江戸発の館美文内が昨夜到着)　下から続く　(家数217軒中)焼失家109軒土蔵8ケ所潰れ家3軒・蓮沼村(家数39軒中)焼失36軒　欄外(**)に続く
1783年 11月22日 天明3年　10月28日 曇　朝の内晴　酉の刻過ぎ雷発　(今22日夜九時横内組矢田村で火災(萱家2軒外馬屋1軒粟4斗蕎麦4斗稗8斗大豆5駄:高無)・火元他村預け、22日木作村大火の状況:木作村　上に続く
1783年 11月23日 天明3年　10月29日 晴　昨夜中雨　今暁より雪吹　(築館・藤枝・広瀬村の火元の村(他村)預け免許、今23日夜後潟組広瀬村で出火・1軒と外馬屋焼失・火元百姓、金木組小泊村の類族9人に1日6夕　24日に続く
1783年 11月24日 天明3年　11月1日 快晴　(10月中所々御関所出人都合144人:碇関140人(御印紙73・切手紙67)・野内4人(切手紙)、去月27日夜金木組嘉瀬村で火災4軒・火元高無他村預け、矢田村火元の他村　下に続く
1783年 11月25日 天明3年　11月2日 快晴　今暁雨　(去月22日の木作・油川村の火元の他村預け免許)　上から続く　預け免許、去月28日夜広須組野木村で火災1軒・火元村預け、一昨27日昼八時小泊村類族長松母病死)
1783年 11月26日 天明3年　11月3日 快晴　今暁雨　(御家中に有人4合扶持を申し渡す、青森新町で去る24・27日に投げ火・火付け女捕まる)　6日から続く　去る3日夜柏木組常海橋村で外馬屋焼失・馬1疋焼死)
1783年 11月27日 天明3年　11月4日 快晴　今朝霜強　(去る朔日九時十三町で出火・類焼7軒他潰家1軒・火元慎み、小泊村でも出火・57軒と寺庵3軒・類焼の者共に手当金3両御米7俵下し置かれる)
1783年 11月28日 天明3年　11月5日 晴　今日〇(到か)而暖　(野木村嘉瀬村の火元の村預け他村預け免許、去る2日金木新田田茂木村で火災1軒・火元百姓村預け、銭38貫912文は金に〆6両1歩と7文目9分)
1783年 11月29日 天明3年　11月6日 曇　(去月28日夜油川組飛鳥村で高無出火・村預け・免許、田茂木村の火元百姓の村預け免許、去る4日夜田舎館組袋井村で火災7軒・火元村預け、同日木作村の寺で出火、　3日に続く
1783年 11月30日 天明3年　11月7日 晴　昨夜雪少々　(昨3日夜金木新田八幡村で火災1軒(11間×5間:百姓・木部屋5間×3間・外馬屋4間×3間・火元村預け、小泊村・常海橋村の火元の村預け免許、東照宮御神楽殿に盗人)
1783年　12月1日 天明3年　11月8日 快晴　今朝霜強し　(5日夜赤石組舞戸村岩谷で出火3軒、4日夜同組岩坂村で出火4軒と土蔵1軒、去る5日夜増館組郷山前村で外馬屋等焼失・火元百姓村預け、八幡村火元の村預け免許)
1783年　12月2日 天明3年　11月9日 晴　昨夜中雨　(郷山前村の火元の村預け免許)　下から続く　火災5軒、5日後潟村で火災3軒雑駄1疋焼死、4日夜油川組田沢村で火災1軒、深浦荘厳寺の9月中より出国の詮議)
1783年　12月3日 天明3年　11月10日 晴　昨夜少々雨　今日時々風立　(岩楯村の他村預け免許、田沢村の村預け免許)　下から続く　の鉄砲師等に御手当て1貫文宛下し置かれる、去る7日夜広須組蓮川村で　上に続く
1783年　12月4日 天明3年　11月11日 晴　(瀬辺地御山運上屋に夜盗・米味噌たばこ金物柾木舞とも盗まれる、8日夜大鰐組宿川原村で火災4軒と外馬屋1軒・稲6350束程焼失、7日夜増館組吉野田村で火災1軒、極究　上に続く
1783年　12月5日 天明3年　11月12日 なし(天気の記載なし)　長勝寺・報恩寺・革秀寺に50・20・15俵の御供物料渡す、7日夜横内組宮崎村で火災1軒・火元村預け、後潟・舞戸・吉野田村共・免許、蓮川村の火元の他村預け免許)
1783年　12月6日 天明3年　11月13日 晴　昨夜中風立霰降　(去る6日夜油川村に投げ火、6日夜後潟組清水村で火災1軒外馬屋1軒、9日夜飯詰組相内村で火災14軒、10日夜広須組蓮花田村で火災5軒木小屋　10月23日に続く
1783年　12月7日 天明3年　11月14日 快晴　今朝大雪　(12日夜より13日朝まで青森大火・安方町から出火、宿川原村の火元の他村預け免許)　下から続く　田沢村・飛鳥村の火元の村預け・蓮花田・豊田村の他村預け免許)
1783年　12月8日 天明3年　11月15日 曇　昨夜雪三寸程降　(去る12日広須組野木村で火災2軒、8日夜油川組飛鳥村・田沢村で火災各1軒、12日夜増館組目鹿沢村で火災12軒)　下から続く　他村預けの火災、　上に続く
1783年　12月9日 天明3年　11月16日 晴　昨夜中小雨　(昨15日夜藤崎村の小見せに火付け・3人捕まる・青森にも火を付けたとのこと、昨晩鍛治町で小火、去る12日夜金木組尾別村で2軒火元戸〆・嘉瀬村で7軒火元　上に続く
1783年 12月10日 天明3年　11月17日 晴　昨夜中小雨　今日巳の中刻地震　(11日後潟組前田村で火災(3間×7間:高無)・火元村預け、昨夜亀甲門前に投げ火、前田村・三宅村の火元の村預け・野木村の他村預け免許)
1783年 12月11日 天明3年　11月18日 快晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(青森町の類焼の者共等に御手当、13日夜柏木組三宅村で出火、12日夜大間越町で出火23軒と土蔵、13日夜後潟組左関村で火災6軒雑駄　10月18日に続く
1783年 12月12日 天明3年　11月19日 晴　(清水村の火元の村預け・嘉瀬・沖菟・大崎・左関・瀬辺地村の火元の他村預け免許、手に余る狼藉者は打捨て可とする、木作村の火付け捕まる、17日常盤組十川村で　10月14日に続く
1783年 12月13日 天明3年　11月20日 曇　今日終日雪　(16日夜金木組金木村で火災20軒外馬屋3軒、14日夜後方組蓬田村で火災2軒、15日油川組飛鳥村で火災4軒、同日夜後潟組四戸橋村で火災1軒、17日　10月12日に続く
1783年 12月14日 天明3年　11月21日 曇　昨夜中雪少々　今朝に及ぶ　(19日赤田組胡桃館村で出火1軒、飛鳥・作道村の火元の他村預け・大鰐村の村預け免許)
1783年 12月15日 天明3年　11月22日 陰晴　(高岡村の村預け免許、金木村の他村預け免許)　25日から続く　稲5000束駒1疋、29日昼(赤田組)福野田村で火災1軒、21日横内組小柳村で火災3軒)
1783年 12月16日 天明3年　11月23日 曇　今暁霰　(人事異動、去る12日大風で宇田前浜で南部船破船、18日夜金木新田今岡村で火災(4間×7間:百姓)・火元村預け、不明日横内組宮田村で火災3軒外馬屋1・火元他村預け)
1783年 12月17日 天明3年　11月24日 晴　(19日夜横内組諏訪沢村で火災1軒、浪岡・十川・胡桃館村の(多分火元の)他村預け免許、21日蟹田町で火災2軒、20日青森蜆貝町の黒石御蔵に付け火・子供捕まる)
1783年 12月18日 天明3年　11月25日 曇　(21日夜から22日までに広須組繁田村・木作新田広富村同田林村で火災・火元3人村預け)　29日から続く　・村預け免許、28日夜広田組新宮田村で火災1軒外馬屋　22日に続く
1783年 12月19日 天明3年　11月26日 曇　昨夜中雪二寸程降　今日時々降　(繁田村・広富村・林村の火元の村預け免許)　28日から続く　不明日赤田組板屋野木村で火災1軒・火元村預け、以下当分村預けと免許は省略)
1783年 12月20日 天明3年　11月27日 晴　今朝霜強　(22日夜浪岡組同村で火災1軒村預け免許・23日夜同組中野村で火災2軒、22日後潟組清水村で火災1軒と外馬屋、26日駒越組新岡村で火災1軒、安永4年正月入牢の男牢死)
1783年 12月21日 天明3年　11月28日 陰晴　昨夜亥の五刻冬至に入る　(24日藤代組北浮田村で小屋焼失・火元村預け免許、25日夜神宮寺に強盗が18人押入る、24日赤石組舞戸村に火災10軒・火元他村預け、　26日に続く
1783年 12月22日 天明3年　11月29日 快晴　(27日夜猿賀組浅瀬石村で火災1軒・火元村預け、中野村の火元の他村預け免許、23日慈雲院に盗人入る)　下から続く　・孫内・新岡・穂積・広岡・弓袋村の他村　25日に続く
1783年 12月23日 天明3年　11月30日 快晴　今日申の刻頃小雨　(26日広須組穂積村で火災4軒雑駄3疋・火元村預け、同日金木組相内村で火災8軒、25日藤代組出木嶋村で火災・火元村預け、小柳・原別・蓬田・広戸　上に続く
1783年 12月24日 天明3年　12月1日 曇　昨夜戌の刻より雨　子の刻より風　夫より雪吹　今日終日雪吹　(11月中所々御関所出人都合136人:碇関135人(御印紙76・切手紙出59)・野内1人(切手紙出)、　前葉欄外(***)に続く
1783年 12月25日 天明3年　12月2日 曇　昨夜中雪少々　(12日火災の大間越町から代銭上納の上御米23石御払い願・断る、去月29日夜浪岡村で火災6軒、不明日後潟組蓮田村で火災1軒馬屋2軒、去月26日　9月25日に続く
1783年 12月26日 天明3年　12月3日 晴　昨夜中風雪少々降る　(去る晦日の夜猿賀組館山村で家内4人中3人と女1人が打殺される)
1783年 12月27日 天明3年　12月4日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今日時々雪　(2日夜藤代組廻関村で火災1軒稲草250、27日横内組戸山村26日浦町組で火災各1軒、左関・内真部・嘉瀬村の火付けが夫々牢死)
1783年 12月28日 天明3年　12月5日 晴　(3日木作村の男牢死、不明日木作新田中福原村で(4間×10間:百姓)・去月晦日同上相野村で火災各1軒、去月27日夜油川村で火災7軒)
1783年 12月29日 天明3年　12月6日 曇　昨夜中雷発　今日時々雪　(3日夜木作新田富岡村で火災1軒、去月晦日油川組長科村で火災1軒と外馬屋・朔日夜(後潟組)奥内村で火災1軒)　下から続く　小柳村で火災1軒)
1783年 12月30日 天明3年　12月7日 曇　昨夜中小雪　今日時々雪　(燈油商売の油屋が不実であると叱られている)　下から続く　晦日横内組戸山村で火災2軒、去月晦日浦町組荒川村で火災7軒、2日横内組　上に続く
1783年 12月31日 天明3年　12月8日 曇　時々雪　寒　(11人の火元の村預け免許、4日赤石組関村から出火・関村39軒鴨村16軒、4日木作新田沼崎・芦部村・5日床舞村で火災各1軒、朔日浦町組大野村で火災2軒、　上に続く
(*)　楮町施行小屋から居村に立帰りを推奨する、立帰りの者には飯料を1人に付米5合宛下し置かれる、居村へ立帰りを望まない者203人には今晩より炊出粥3夕仰付けられる)
(**)　浄土庵1軒・上木作村(家数101軒中)焼失10軒・木作御蔵4ケ所御蔵長屋1軒代官役所1ヶ所・郷蔵1ヶ所(米5石8斗賄い米渡残り)・升取長屋1軒・御扶持御切米渡し残り御米16石焼失)

1784年　1月1日 天明3年　12月9日 曇　昨夜中雪三寸程降　今朝に及ぶ　今日時々雪　(嘉瀬村で火をつけた3人中残りの2人も牢死、去月21日入牢の男牢死、十三潟が当月4日暮六時より5日朝六時までに残らず氷張る)
1784年　1月2日 天明3年　12月10日 晴　昨夜中雪　寒気強　(御家中4合扶持である・出生の御扶持願があり病死・召使の暇は?、弓師等9人に御手当て900文宛)　下から続く　石野村で火災各1軒、4日夜奥内村で火災4軒)
1784年　1月3日 天明3年　12月11日 晴　今朝霜　寒強　(五所川原村の鶴屋庄右衛門が五所川原村1700人に来8月まで1人に1日米1合宛見継(みつぐ:続ける)由尊聴に達す　下から続く　油川組9日津軽坂・4日　上に続く
1784年　1月4日 天明3年　12月12日 晴　(昨晩青森騒動の落合千右衛門牢死、10日夜青森新町で2軒、9日夜赤石組柳田村で5軒、8日夜浪岡組竹鼻村で1軒の火災、10日夜藤代組種市・広田組川山村で火災各1軒、　上に続く
1784年　1月5日 天明3年　12月13日 曇　今日時々雪　(青森の娘を勾引した黒石の男久四郎ははがい付で国下がり)　下から続く　火災1軒、13日高杉組八幡村で火災、青森の男牢死)
1784年　1月6日 天明3年　12月14日 曇　今暁寅の刻寒に入る　今日時々雪　(極難の馬喰町の14軒に93文目3分下し置かれる、一昨12日駒越組新岡村で火災2軒、8日飯詰組平町村で火災、同日横内組浅虫村で　上に続く
1784年　1月7日 天明3年　12月15日 快晴　今朝霜　寒気甚　(10日夜青森新町の雨覆い焼失、12日夜浪岡組杉沢村で火災1軒)　下から続く　金を断った3人の町人を弘前払い家財等没収)
1784年　1月8日 天明3年　12月16日 曇　昨夜雪　子の刻頃北の方にて雷ノ如く鳴　今日時々小雪　(足軽目付に横岡清太左衛門、極難の国上寺・橋雲寺に御手当て米3俵宛・両神主に1俵宛、座当・修験にも、御用立　上に続く
1784年　1月9日 天明3年　12月17日 快晴　昨夜中雪　今朝五寸余積　午の刻過ぎより曇　未の刻より雪　下から続く　17日藤代組三世寺村で1軒、14日夜藤代組種市村で1軒の火災、横内組駒込村に夜盗・4人打殺す)
1784年　1月10日 天明3年　12月18日 晴　(去る16日高杉組宮館村で1軒馬屋1軒雑駄1疋焼失、昨夜大鰐組乳井村で火災3軒、15日夜木作新田筒木坂村・下相野村で各1軒、16日同組林村・広須組沼崎村で各1軒、　上に続く
1784年　1月11日 天明3年　12月19日 曇　今日時々雪　(御徒町の橋下に死人が捨てられ犬が喰散らしている、報恩寺で大赦:38人に居村徘徊御免)　21日から続く　1軒、御目見以下御留守居支配佐藤儀助に暇・吉五郎に)
1784年　1月12日 天明3年　12月20日 曇　今暁より雪　申の下刻地震強　(去る暮より当夏まで青森の極難の者共に重立17人が補助、青森より入牢予定の囚人が牢前で病死、19日駒越組五代村で火災1軒)
1784年　1月13日 天明3年　12月21日 晴　今日午の中刻より雪降　暮に及ぶ　(17日夜田舎館組堂野前村で火災1軒、広須組豊田村の百姓が秋田馬喰に馬2疋売る・似せ金請取る、昨夜九時革秀寺門前で火災　19日に続く
1784年　1月14日 天明3年　12月22日 晴　今日午の中刻より雪　(20日高杉組植田村で火災1軒稲1400束種籾2俵粟1俵種蕎麦2斗焼失・尾崎組町居村で外馬屋と1軒、19日後潟組中沢村で火災2軒)
1784年　1月15日 天明3年　12月23日 曇　朝之内快晴　酉之刻より雪吹　(御家中宅に盗賊・搦捕る、入牢中の徒者5人が寒死、去る20日赤石村で出火・2軒焼失・火元他村預け)
1784年　1月16日 天明3年　12月24日 曇　昨夜雪五寸程降　今暁寅の刻四・五度雷如く鳴る　今日終日雪吹　(馬喰町の14軒が潟死の体になり牢屋番人できない・1軒に400文宛御手当てに加え御救い米1斗宛、　下に続く
1784年　1月17日 天明3年　12月25日 曇　昨夜中より雪吹　今日終日雪　上から続く　23日夜駒越組百姓町で高無萱家1軒焼失)
1784年　1月18日 天明3年　12月26日 曇　昨夜中雪吹　今朝に及ぶ　今日時々雪
1784年　1月19日 天明3年　12月27日 晴　今朝寒気甚し　(23日夜浪岡組吉内村で火災、21日夜浦町組大野村で火災、24日本行寺で半鐘を盗まれる、23日紺屋町に投げ火、24日夜駒越組村市村で火災2軒、今朝男牢死)
1784年　1月20日 天明3年　12月28日 晴　下から続く　1疋、後潟組に乱取(らんどり:他領に進入して品物を掠め取る)の者あり・捕えるように動く)
1784年　1月21日 天明3年　12月29日 曇　終日雪吹　(御用職人4人に900文宛下し置かれる、26日赤石組舞戸村で火災5軒、25日木作新田吹原村と丸山村で火災2軒雑駄2疋、26日藤代組八幡村で火災1軒雑駄　上に続く
1784年　1月22日 天明4年　正月1日　晴　昨夜雪二寸程積ル　今朝巳の刻より晴　西風立
1784年　1月23日 天明4年　正月2日　曇　昨夜雪少々　今日終日雪吹　申の刻過ぎ地震強し　西風立　(12月中所々御関所出人都合97人:碇ヶ関95人(御印紙出51・切手紙出44)・野内2人(御印紙出))
1784年　1月24日 天明4年　正月3日　曇　昨夜中雪五寸程ふる　今日時々雪　西風立　(御吉例金200両を明日江戸に差登)　下から続く　今朝男3人牢死、)
1784年　1月25日 天明4年　正月4日　晴　昨夜四寸程雪降　今朝辰の刻より晴　(後潟組の強盗捕縛に4合扶持を6合にとの申入れ・認める、旧冬26日夜浦町組入内村に強盗・家内4人が絞殺される・犯人3人捕まる、　上に続く
1784年　1月26日 天明4年　正月5日　晴　今朝曇　辰の刻より晴ル　今日暖之　申の刻より雨少々
1784年　1月27日 天明4年　正月6日　曇　昨夜中雨　今暁雪　巳の刻より西風立　終日雪吹　夜中風強
1784年　1月28日 天明4年　正月7日　曇　今日時々雪吹　終日風立　寒気強し　(一昨朔日高杉組熊島村で火災1軒(3間×5間:高無)馬1疋・火元村預け)
1784年　1月29日 天明4年　正月8日　曇　昨夜中雪三寸程降ル　今日時々雪降　(文字金が通用差支え?、この度御手当て増下し置かれ……、去る暮公儀後拝借金一万両当暮より千両宛御上納……)
1784年　1月30日 天明4年　正月9日　晴　昨夜雪二寸程ふる
1784年　1月31日 天明4年　正月10日　曇　昨夜中雪吹
1784年　2月1日 天明4年　正月11日　曇　今日申の刻より雪　(人事異動、一昨夜大光寺組浅瀬石村で火災1軒)
1784年　2月2日 天明4年　正月12日　晴　昨夜雪三寸程降
1784年　2月3日 天明4年　正月13日　曇　今暁より風立　今日時々雪吹　寒気強シ
1784年　2月4日 天明4年　正月14日　曇　今日節分　昨夜雪二寸程積る　今日時々雪降　(堀越組清水森村で火災・6人焼死・10日に当主が飢死し残る者も動けず倒死同様とのこと)　下から続く　蔵館村で火災1軒と外馬屋)
1784年　2月5日 天明4年　正月15日　晴　昨夜中雪二寸程降　(今朝金木町・青森町の男牢死、10日夜駒越組五所村で火災2軒、11日昼赤他組板屋野木村で火災1軒、12日駒越組菖蒲川村で火災1軒、3日夜大鰐組　上に続く
1784年　2月6日 天明4年　正月16日　快晴　今朝風立　下から続く　所々に倒死多有之処猥ニ捨て置き往来差障ニ相成候旨相聞こえ候依って御家中並びに町々銘々屋敷前寺社境内に右体倒死の者有之候ハ〃早速……)
1784年　2月7日 天明4年　正月17日　快晴　(7日夜木作新田丸山村で火災1軒男女5人雑駄1疋、同日同新田近野村で火災1軒女1人、9日広須組豊田村・生田村で火災各1軒、頃日弘前町端々小者共飢寒凌兼町々　上に続く
1784年　2月8日 天明4年　正月18日　曇　今日時々雨　酉の刻より晴　西風立　(昨27日(先月)幕府からの御拝借金1万両を御証文引き換えに江戸で受取る)
1784年　2月9日 天明4年　正月19日　(日記が保存されていない)
1784年　2月10日 天明4年　正月20日　曇　今日時々小雨　(この冬の大火の焼失戸数を幕府に知らせた数字あり)
1784年　2月11日 天明4年　正月21日　曇　今日時々雪ふる　(昨夜木作村の男牢死)
1784年　2月12日 天明4年　正月22日　曇　今日雪吹
1784年　2月13日 天明4年　正月23日　快晴　昨夜雪三寸程降　(今朝金木村の男牢死)
1784年　2月14日 天明4年　正月24日　曇　今日時々雪降
1784年　2月15日 天明4年　正月25日　曇　今日時々雪降
1784年　2月16日 天明4年　正月26日　晴
1784年　2月17日 天明4年　正月27日　晴　(20日明石組中村で火災2軒、25日油川・後潟組の夜盗・強賊(ごうぞく:強大な勢力をもった賊徒)の頭10人を入牢させる)
1784年　2月18日 天明4年　正月28日　晴　(去月29日青森より弘前への遠使宮川善之丞が雪中に行方不明・津軽坂より青森までを詮議したら倒死の者数百人御座候らえども残らず赤裸で区別付かない・吹倒れとして弟を召抱える)
1784年　2月19日 天明4年　正月29日　曇　昨夜中風強し　今日時々雪降　(昨日蟹田町漁師の娘が牢死、朔日?浦町組合子沢村で雲谷御牧火災・母駄1疋飼馬7疋焼死、豆腐を大型にし一挺二分とする)
1784年　2月20日 天明4年　正月30日　曇　昨夜中雪　今日時々雪降　下から続く　此の節時疫流行・大行院で時疫退散の御祈祷を仰せ付ける、横内組原別村・海老根村で餓死多く宿継ぎできない・米拝借願を出し断られる)
1784年　2月21日 天明4年　閏正月1日　快晴　昨夜中雪吹　(正月中所々御関所出人都合45人:碇ヶ関40人(御印紙出8・切手紙出32)・大間越2人(切手紙出)・野内3人(切手紙出)、去月22日浦町組上野村で火災1軒、　上に続く
1784年　2月22日 天明4年　閏正月2日　快晴　(極難の武器師5人から御手当て願・その他の16人を加えて1ヶ月1貫文宛3月まで渡すようにする)
1784年　2月23日 天明4年　閏正月3日　曇　未の刻より小雨　(放火・強盗・夜盗などが多く代官限りの処理など手続きの簡略化、昨夜最勝院門前で火災、去る2日大鰐組長峰村で火災22軒馬5疋、朔日小泊村長松従弟の類族病死)
1784年　2月24日 天明4年　閏正月4日　晴　昨夜中風立　(当秋浅間山焼けに付中山道の板橋より鴻巣までの宿賃2割・熊谷より軽井沢まで3割増しとする、時疫流行・大行院で時疫退散の御祈祷、江戸との間の　欄外(*) に続く
1784年　2月25日 天明4年　閏正月5日　晴　昨夜中雪吹
1784年　2月26日 天明4年　閏正月6日　晴　昨夜中雪吹　(藤代組出来嶋村が村潰れになりそう米10俵拝借願・難船破船の要所でもあり銭500目下し置かれる)
1784年　2月27日 天明4年　閏正月7日　晴　未の刻雪少々　(4日猿賀組浅瀬石村で火災1軒、5日夜高杉組吉田村で火災1軒)　下から続く　馬屋焼失、旧冬搦捕った内真部村の徒者4人中先だって2人残り2人も寒死)
1784年　2月28日 天明4年　閏正月8日　曇　昨夜中雪吹　(去る3日夜大秋村で火災1軒、5日駒越組悪戸村で火災1軒、昨日津軽坂村の男・内真部村・清水村の男牢死、横鍛治町に2・3才位の男子捨子、昨夜紙漉町で　上に続く
1784年　2月29日 天明4年　閏正月9日　曇　昨夜中雪　今日時々雪ふる　(2日夜十三町で出火28軒・御手当て申し出・御手当として銭300目下し置かれる、5日夜藤代組出木嶋村で火災1軒馬3疋)
(*) 旅籠代も高くなり手当て、3日赤田組板屋の木村で火災1軒)

1784年　3月1日 天明4年 閏正月10日快晴
1784年　3月2日 天明4年 閏正月11日曇　今日時々雪　午の刻より小雨降　(質に入っている農具は村役とも受合いの上(連帯保証人?)返すようにする、8日浪岡組中野村・9日上十川村で火災1軒・1軒雑駄2疋)
1784年　3月3日 天明4年 閏正月12日曇　今朝時々小雪　未の刻より小雨　(6日昼増館組福館村百姓勘太郎が切り殺される・犯人行方不明・見分なしに片付ける:普通は足軽目付が死骸を見分し人相書き等で追跡する:福眞)
1784年　3月4日 天明4年 閏正月13日曇　今日酉の刻小雨　(御家中14人に帯刀の上耕作を認める・同手伝い14人、神明・八幡・和徳稲荷宮・長勝寺・高岡に五穀成就の御祈祷を仰付ける・御祈祷料は御内分　　欄外(*)に続く
1784年　3月5日 天明4年 閏正月14日晴　(朔日江戸発の飛脚:朔日申の刻過ぎより屋形様御積気にて御塞ぎ遊ばされ候・16社寺に御全快の御祈祷を仰せ付ける、御家老森岡主膳も同じ病気)
1784年　3月6日 天明4年 閏正月15日晴　申の刻小雪　(2日夜浦町組高田村で火災1軒、横内組駒込村で3軒、和徳組境関村の仮橋流失)
1784年　3月7日 天明4年 閏正月16日曇　昨夜中雪降
1784年　3月8日 天明4年 閏正月17日曇　昨夜中風立　(昨夜藤代組中崎村で火災1軒)
1784年　3月9日 天明4年 閏正月18日曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　余寒強し　(新町の男の男の子供が縊死)　　下から続く　　下し置かれる、8日寅の刻過ぎ屋形様御逝去)
1784年　3月10日 天明4年 閏正月19日曇　昨夜中雪降　　下から続く　　勤め難いとの申し出で・手当を断っている、17日金木組小泊村の類族長松の姪がたんせきで病死、金木組小泊村の5人に1日1合の御手当米　　上に続く
1784年　3月11日 天明4年 閏正月20日晴　昨夜中雪三寸程積　(御目付当番触:当月21・27日渡の御扶持米は御有米不足御買越米も未着で半渡し・買越米到着次第残りを渡す、高杉・十腰内村の御傳馬宿継から
1784年　3月12日 天明4年 閏正月21日晴
1784年　3月13日 天明4年 閏正月22日晴　(当月19日藤代組船水村で火災1軒男子1人馬1疋)
1784年　3月14日 天明4年 閏正月23日晴　昨夜雪ふる　(一昨21日駒腰組門前村で火災1軒、江戸から7日振りにと命じられた足軽が届けず叱られている:雪中7日振りは無理だよな:福眞)
1784年　3月15日 天明4年 閏正月24日快晴　(藤代組北浮田村前浜に鯨寄せる・御手当として下置く、昨夜堀越組清水森村で火災1軒、去る7日夜小橋村で火災1軒・女房子供借宅娘焼死、御買下げの種物が駄数9疋で江戸を出る)
1784年　3月16日 天明4年 閏正月25日快晴　(昨夜五時過ぎ御家中家火災、昨24日夜駒腰組鳥居野村で火災3軒、裏月村の十兵衛に(住民が)強く無心・米2斗5升を借り入れ難儀の漁師14人に施し米)
1784年　3月17日 天明4年 閏正月26日曇　申の刻より雨降
1784年　3月18日 天明4年 閏正月27日曇　昨夜中雨　今日雪吹強し　(樋口弥三郎が病死・閉門中、去る25日夜常盤組常盤村で火災1軒(3間×6間:高無)馬1疋、去る19日青森安方町火付けと申す者2人病死)
1784年　3月19日 天明4年 閏正月28日曇　昨夜中大風　雪吹　(去月6日漁に出た蟹田の漁師5人が大風で行方不明)
1784年　3月20日 天明4年 閏正月29日曇　昨夜中雪降　(去る27日夜田舎館組畑中村で火災5軒(3間×5間と外馬屋1丈×2間:高無・火元怪我・馬1疋焼死)・その他4軒全部高無で省略)
1784年　3月21日 天明4年　　2月1日 晴　(閏正月中碇ヶ関出人都合177人(御印紙出85・切手紙出92)、昨29日夜藤代組八代村で火災1軒、一昨28日夜赤田組灰沼村で火災1軒馬1疋、去月29日津軽坂村の男牢死)
1784年　3月22日 天明4年　　2月2日 晴
1784年　3月23日 天明4年　　2月3日 晴　(去月19日横内組長森村の猟師が熊(胆生目25匁)取る、昨夜高杉組八幡村で火災1軒)　　下から続く　　裏月御番所に盗人・再三なので打捨てる(切殺した))
1784年　3月24日 天明4年　　2月4日 快晴　(在町・黒石に質屋の申し立て:この度農具の分20ヶ月以内の品は請戻し仰せ付けられ候・この農具は年々春に至り田畑打立に請返している・受残りの分は期限切れ、　　上に続く
1784年　3月25日 天明4年　　2月5日 晴
1784年　3月26日 天明4年　　2月6日 曇　昨夜中小雨　今朝に至る
1784年　3月27日 天明4年　　2月7日 曇　今日時々雪　辰の刻雷発す　終日雪降
1784年　3月28日 天明4年　　2月8日 曇　(去る4日夜柏木組常海橋村で火災・種籾8斗馬2疋)
1784年　3月29日 天明4年　　2月9日 快晴　(昨夜斉藤長門門前で火災1軒馬2疋)
1784年　3月30日 天明4年　　2月10日 曇　今日終日雨降　(2日浦町組高田村で火災1軒)
1784年　3月31日 天明4年　　2月11日 曇　昨夜中雪三寸程　今日雪吹　午の刻より大風　(津軽主水を当分御家老に)
1784年　4月1日 天明4年　　2月12日 曇　昨夜中雪吹　(火付けとして捕まった2人(長之・い具)が今晩町預け中に死亡)
1784年　4月2日 天明4年　　2月13日 曇　今日巳の刻地震　午の刻より雨
1784年　4月3日 天明4年　　2月14日 晴　巳の下刻地震
1784年　4月4日 天明4年　　2月15日 晴　(12日和徳組和徳村で火災1軒女子1人馬1疋)
1784年　4月5日 天明4年　　2月16日 曇　今日時々風立　　下から続く　　駒腰組水木在家村で火災種籾2俵焼失、日頃不人情で町預けになっていた6人を弘前払い)
1784年　4月6日 天明4年　　2月17日 曇　(11日青森御蔵近辺で水湛・70俵ほど濡れ俵になる、16日昼高杉組独鈷村で火災2軒、16日の洪水で大鰐組石川村の大橋が流失)　　下から続く　　火災1軒、18日夜　　上に続く
1784年　4月7日 天明4年　　2月18日 快晴　(鳴物停止の内難儀として座当頭から手当てを求められる・座当1人に200文宛下し置かれる)　　20日から続く　　1軒、今朝津軽坂村の男牢死、14日夜青森安方で　　上に続く
1784年　4月8日 天明4年　　2月19日 晴　(御目付触れ:明後21日渡並びに27日渡り御扶持米は此の節御米御都合無之候に付き一統3ヶ1渡しを仰付けられる・残りはご都合次第で渡す)
1784年　4月9日 天明4年　　2月20日 快晴　(15日夜横内組松森村で火災1軒、木作村の男牢死、昨夜亀甲町の家守が切殺される・表坊主捕まる、昨夜北横町通りの屋根に投げ火、18日夜高杉組高杉村で火災　　18日に続く
1784年　4月10日 天明4年　　2月21日 曇　今暁霜小雨　(19日夜常盤組若松村で火災1軒)
1784年　4月11日 天明4年　　2月22日 晴　今朝霜
1784年　4月12日 天明4年　　2月23日 晴　今朝霜　(今暁黒石築館?村の男牢死)
1784年　4月13日 天明4年　　2月24日 快晴　(去る11月・12月は施行小屋が時疫の最中、22日荒町川端町で盗賊・乞食手に渡す)　　下から続く　　死亡並びに倒死者は冬は積重ね置く・これを埋める1丈四方の穴二つ掘らせる)
1784年　4月14日 天明4年　　2月25日 曇　今日風雨強し　(去る12月猿賀村神宮寺に盗みに入り村預けとなった男2人が20日に病死)　　下から続く　　3軒女房焼死、大鰐組長峰・嶋田村に強盗、椿町施行小屋での　　上に続く
1784年　4月15日 天明4年　　2月26日 快晴　昨夜小雨　(境松村の郷蔵破りの竹鼻村の男が21日に村預け中に病死、昨夜高杉組八幡館村で火災2軒、24日尾崎組石郷村で火災5軒馬2疋、昨夜高杉組高杉村で火災　　上に続く
1784年　4月16日 天明4年　　2月27日 快晴　(20日昼鶴田村の善光庵の住持が切り殺される、温湯村の男牢死、来月6日より8日まで長勝寺で大施餓鬼)
1784年　4月17日 天明4年　　2月28日 曇　今日雨終日　(御家中の隠居した弟が自害、昨夜大光寺組李平村で火災3軒と外馬屋2軒、20日後潟組左関村で火災3軒)
1784年　4月18日 天明4年　　2月29日 曇　昨夜中より今日時々雨
1784年　4月19日 天明4年　　2月30日 曇　(24日浦町組小館村で火災2軒、今暁七時大光寺組元町村で火災1軒)
1784年　4月20日 天明4年　　3月1日 晴　(2月中碇ヶ関出人都合89人(御印紙出29・切手紙出60)、去月26日昼猿賀組尾上村で隣家の老母と子供を打ち殺した親子が行方不明、新城村の男牢死)
1784年　4月21日 天明4年　　3月2日 陰晴　午の刻頃より風　未の刻より雨　夜に入る　(去月26日夜深浦吉田町で火災28軒・火元出奔)
1784年　4月22日 天明4年　　3月3日 晴　昨夜中小雨
1784年　4月23日 天明4年　　3月4日 晴　(斉藤長門前の付け火をした娘牢死)
1784年　4月24日 天明4年　　3月5日 快晴　(去月27日油川組津軽坂村で火災12軒・新城村で1軒、一昨夜大光寺組中佐渡村で火災1軒)
1784年　4月25日 天明4年　　3月6日 曇　昨夜雨　今日時々雨　(去月27日飯詰組飯詰村で火災23軒)
1784年　4月26日 天明4年　　3月7日 曇　今日時々風立
1784年　4月27日 天明4年　　3月8日 曇　午の中刻より風雨　(郡所が買い入れた米600俵中107俵を荷打ち)　　下から続く　　同類の者12人中11人が餓死)
1784年　4月28日 天明4年　　3月9日 曇　今日雨終日　寒風　(去る6日夜大鰐組嶋田村に強盗団・唐牛村の男捕まる・唐牛村の7人と秋田釈迦内村の5人が逃亡、強盗4人中3人餓死残り1人は行方不明、強盗　　上に続く
1784年　4月29日 天明4年　　3月10日 快晴　昨夜中時々雨
1784年　4月30日 天明4年　　3月11日 陰晴　昨夜中風立
(*)　より差出される、8日夜広田組喰川村火災11軒、10日夜土手町に盗人・手負いで逃げる)

1784年　5月1日 天明4年　3月12日 快晴 （昨29日殿様御家督）
1784年　5月2日 天明4年　3月13日 快晴
1784年　5月3日 天明4年　3月14日 快晴
1784年　5月4日 天明4年　3月15日 曇　今朝雨　風立 （内東・外東・三の北・四の北・西坂の御門を開けるよう仰せ付けられる）
1784年　5月5日 天明4年　3月16日 晴　昨夜雨時々　雷発 （頃日大円寺から薬王院の土渕川で明松を燈して八目取の者共あり）
1784年　5月6日 天明4年　3月17日 晴
1784年　5月7日 天明4年　3月18日 曇　昨夜小雨　今未の刻雷発 （金木組小泊村の類族(長松兄)病死）
1784年　5月8日 天明4年　3月19日 快晴
1784年　5月9日 天明4年　3月20日 快晴
1784年　5月10日 天明4年　3月21日 曇 （殿様御家督の御祝儀として座当盲女105人に15文宛下し置かれる）
1784年　5月11日 天明4年　3月22日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1784年　5月12日 天明4年　3月23日 曇　昨夜中大風雨　今日時々小雨 （去る21日夜大鰐組大鰐村で火災27軒と外馬屋5軒）
1784年　5月13日 天明4年　3月24日 快晴　昨夜子の刻風立
1784年　5月14日 天明4年　3月25日 陰晴 （2月13日小泊村領下前村で漁師5人が漁に出て3人が死亡）
1784年　5月15日 天明4年　3月26日 晴
1784年　5月16日 天明4年　3月27日 曇
1784年　5月17日 天明4年　3月28日 晴
1784年　5月18日 天明4年　3月29日 陰晴
1784年　5月19日 天明4年　4月1日 陰晴 （3月中所々御関所出人都合64人:碇関63人(御印紙出28・切手紙出35)・大間越1人(切手紙出)）
1784年　5月20日 天明4年　4月2日 曇　今日午の中刻より小雨
1784年　5月21日 天明4年　4月3日 曇　昨夜中小雨
1784年　5月22日 天明4年　4月4日 晴
1784年　5月23日 天明4年　4月5日 快晴
1784年　5月24日 天明4年　4月6日 快晴
1784年　5月25日 天明4年　4月7日 快晴
1784年　5月26日 天明4年　4月8日 晴　未の刻過ぎ地震少々 （品川町弁天宮で当月21日より17日の内五穀成就並びに時疫退散の御祈祷、大目付の家来が雪隠で縊死）
1784年　5月27日 天明4年　4月9日 晴
1784年　5月28日 天明4年　4月10日 曇　今日雨時々
1784年　5月29日 天明4年　4月11日 晴　昨夜中雨少々
1784年　5月30日 天明4年　4月12日 快晴
1784年　5月31日 天明4年　4月13日 曇　今日巳の刻より雷発　午の刻より雨少々
1784年　6月1日 天明4年　4月14日 晴
1784年　6月2日 天明4年　4月15日 なし(日記はあるが天気の記述なし)
1784年　6月3日 天明4年　4月16日 曇
1784年　6月4日 天明4年　4月17日 晴
1784年　6月5日 天明4年　4月18日 晴
1784年　6月6日 天明4年　4月19日 快晴
1784年　6月7日 天明4年　4月20日 曇　昨夜中風立　今暁卯の刻過雷発　雨降　巳の刻頃止　折々風立
1784年　6月8日 天明4年　4月21日 曇　午の刻より小雨
1784年　6月9日 天明4年　4月22日 曇　朝の内小雨　午の刻より風立
1784年　6月10日 天明4年　4月23日 晴　朝の内風立
1784年　6月11日 天明4年　4月24日 曇　朝の内小雨
1784年　6月12日 天明4年　4月25日 曇　午の刻過ぎ雨
1784年　6月13日 天明4年　4月26日 晴　昨夜中小雨
1784年　6月14日 天明4年　4月27日 快晴 （去る14日夜誓願寺前に出火、この度最勝院が時疫除けの御祈祷）
1784年　6月15日 天明4年　4月28日 快晴
1784年　6月16日 天明4年　4月29日 快晴
1784年　6月17日 天明4年　4月30日 快晴
1784年　6月18日 天明4年　5月1日 快晴 （4月中碇関出人都合64人(御印紙出19・切手紙出45)）
1784年　6月19日 天明4年　5月2日 陰晴
1784年　6月20日 天明4年　5月3日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ （博打打3人を弘前払いとする）
1784年　6月21日 天明4年　5月4日 晴 （祖父が残した古金20両をご家中が差上げる、馬を盗み喰料にした高杉組楢木村の男3人を搦捕る・入牢）
1784年　6月22日 天明4年　5月5日 快晴
1784年　6月23日 天明4年　5月6日 快晴
1784年　6月24日 天明4年　5月7日 快晴
1784年　6月25日 天明4年　5月8日 晴
1784年　6月26日 天明4年　5月9日 曇　未の刻雷発　申の下刻より小雨
1784年　6月27日 天明4年　5月10日 曇　昨夜より小雨　今朝に及ぶ （津軽坂村の男・新城村の男牢死、舅方預けの境関村の娘が当月4日病死）
1784年　6月28日 天明4年　5月11日 曇　今日辰の下刻より小雨 （子の年に川原平村に御預けの乳井貢が人を集め手習いの師範のようなことをしている・止めるよう仰せ出される）
1784年　6月29日 天明4年　5月12日 曇 （斉藤長門門前の男今朝牢死）
1784年　6月30日 天明4年　5月13日 曇　今日終日雨

1784年　7月1日 天明4年　5月14日 曇　昨夜中より今日終日雨
1784年　7月2日 天明4年　5月15日 晴
1784年　7月3日 天明4年　5月16日 快晴
1784年　7月4日 天明4年　5月17日 快晴
1784年　7月5日 天明4年　5月18日 快晴
1784年　7月6日 天明4年　5月19日 晴　(江戸表より御買下げの稗種の発芽が甚だ成績悪い・種に使えないので御手当てとして220俵を渡す)
1784年　7月7日 天明4年　5月20日 陰晴　朝の内曇
1784年　7月8日 天明4年　5月21日 陰晴　(昨年の大凶作で秋田に徘徊する数百人を引き取りに足軽目付等5人遣わす)
1784年　7月9日 天明4年　5月22日 晴　朝の内霞
1784年　7月10日 天明4年　5月23日 晴　午の刻より小雨　(吉村場左衛門を御用人などの人事異動、足軽目付の妹が井の内で死亡)
1784年　7月11日 天明4年　5月24日 快晴
1784年　7月12日 天明4年　5月25日 快晴
1784年　7月13日 天明4年　5月26日 快晴　申の刻過ぎ風立　(親子の盗人2組弘前追放)
1784年　7月14日 天明4年　5月27日 晴
1784年　7月15日 天明4年　5月28日 晴　(最勝院・長勝寺・報恩寺・薬王院に五穀成就の重き御祈祷を仰せ付ける)
1784年　7月16日 天明4年　5月29日 晴　(御献上の海鼠を馬に乗せた海鼠漁師が行方不明)
1784年　7月17日 天明4年　6月1日 陰晴　(5月中所々御関所出人都合80人:碇関78人(御印紙出35・切手紙出43)・野内2人(切手紙出))
1784年　7月18日 天明4年　6月2日 晴　今夜亥の刻土用に入　(百沢下居宮で五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1784年　7月19日 天明4年　6月3日 晴
1784年　7月20日 天明4年　6月4日 曇　今日巳の刻より小雨　(盗族を取り押さえた御家中に褒美(1人に付き銀3両宛など)の例が多い、上十川村の男牢死)
1784年　7月21日 天明4年　6月5日 曇　今日時々小雨
1784年　7月22日 天明4年　6月6日 曇
1784年　7月23日 天明4年　6月7日 晴
1784年　7月24日 天明4年　6月8日 晴
1784年　7月25日 天明4年　6月9日 快晴　今日大暑　(神宮寺・本行寺で五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1784年　7月26日 天明4年　6月10日 晴
1784年　7月27日 天明4年　6月11日 曇
1784年　7月28日 天明4年　6月12日 陰晴　　下から続く　　施行小屋に入れる)
1784年　7月29日 天明4年　6月13日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　今日時々風立　(去る10日夜駒越組国吉村で出火2軒、去る10日夜浪岡組二双子村で火災1軒、秋田表より連帰り領民が93人・出奔病死の残り51人を　　上に続く
1784年　7月30日 天明4年　6月14日 晴　昨夜丑の刻過ぎ大雨　則刻止む　(戒香院(津軽信寧:今年死亡の先代御屋形)様御法事に付き大赦:12人に出牢の上居村徘徊御免・内1人は去る4日牢死、公儀が推奨の時疫の薬あり)
1784年　7月31日 天明4年　6月15日 晴　昨夜中時々雨
1784年　8月1日 天明4年　6月16日 曇　今日巳の刻過ぎより時々小雨
1784年　8月2日 天明4年　6月17日 快晴
1784年　8月3日 天明4年　6月18日 快晴
1784年　8月4日 天明4年　6月19日 曇　今日大暑　未の刻過ぎ小雨　(本行寺で時疫退散の御祈祷を仰せ付ける)
1784年　8月5日 天明4年　6月20日 陰晴　頃日昼夜大暑
1784年　8月6日 天明4年　6月21日 快晴
1784年　8月7日 天明4年　6月22日 快晴　(この度当新穀御払い米1俵35文目値段に仰せ付けられ候?)
1784年　8月8日 天明4年　6月23日 快晴
1784年　8月9日 天明4年　6月24日 快晴　今日残暑甚し　(昨日大鰐村加賀助・兵左衛門より御初米出穂差出す・4月21日植付、去年は5月3日植付7月23日差し上げる、当年は植付日に引合18日早く・節に引合12日早い)
1784年　8月10日 天明4年　6月25日 快晴
1784年　8月11日 天明4年　6月26日 快晴
1784年　8月12日 天明4年　6月27日 快晴　頃日昼夜残暑甚し
1784年　8月13日 天明4年　6月28日 快晴
1784年　8月14日 天明4年　6月29日 快晴　今日大暑　　下から続く　　死亡の者4496・九浦における死亡の者4503・施行小屋における死亡の者3026・在々における死亡の者69677)
1784年　8月15日 天明4年　6月30日 陰晴　残暑強し　入夜小雨　風立　(去秋飢饉に付き御郡内餓死の者共惣調:去9月より当6月中迄御郡内飢渇死亡の者惣人数合:81702人(男46882・女34796)・内弘前町々　　上に続く
1784年　8月16日 天明4年　7月1日 晴　辰の刻日蝕二三分計見ゆる　(6月中碇関出人都合46人(御印紙出18・切手紙出28))
1784年　8月17日 天明4年　7月2日 陰晴　(戒香院様の御遺物沢山)
1784年　8月18日 天明4年　7月3日 晴　(鯵ヶ沢より弘前までの駄賃付け(木作新田大館村の5人)が俵に水を吹き入れたので入牢)
1784年　8月19日 天明4年　7月4日 快晴　(昨夜蓮川村の男牢死)
1784年　8月20日 天明4年　7月5日 晴　(3日に鯵ヶ沢より米を運んでいた人馬が行方不明となる・町同心10人を途中まで出す)
1784年　8月21日 天明4年　7月6日 快晴　(2日夜油川組油川村で火災1軒・火元高無村預け免許)
1784年　8月22日 天明4年　7月7日 快晴
1784年　8月23日 天明4年　7月8日 快晴　(当御下向の節碇関に宿無し・碇関家数200軒余が相応の者18軒になった・これ迄590人程を90軒程に泊めていた・此の度は集めても50軒程しかない・空家等で間に合わせることとする)
1784年　8月24日 天明4年　7月9日 快晴　(今年の検地人は出さず代官に任せる、御家中?の二男牢死、屋形様の入部を御病気のため秋まで御滞府、関札はお昼1枚御寓2枚宛に戻す)
1784年　8月25日 天明4年　7月10日 快晴
1784年　8月26日 天明4年　7月11日 快晴　(御家老森岡主膳の辞職等の人事異動)
1784年　8月27日 天明4年　7月12日 快晴　(一昨10日広須組芦屋村で火災・火元百姓村預け)
1784年　8月28日 天明4年　7月13日 曇　今日未の刻小雨　雷発
1784年　8月29日 天明4年　7月14日 快晴
1784年　8月30日 天明4年　7月15日 快晴　(新城村の男牢死)
1784年　8月31日 天明4年　7月16日 曇　午の上刻雨　雷発　風立　未の刻より小雨　雷度々　(去る14日和徳組悪戸村で火災)

1784年　9月1日 天明4年　7月17日 曇　今日二百十日　残暑甚し　卯の刻小雨　雷発　子の刻大雨　(大鰐村加賀助・兵左衛門が御初米差上げる・去年は8月28日で今年は植付日より引合27日早く節に引合20日早い)
1784年　9月2日 天明4年　7月18日 晴　昨夜子の刻前小雨　残暑甚し　(和徳組悪戸村の火元の百姓村預け免許)
1784年　9月3日 天明4年　7月19日 快晴
1784年　9月4日 天明4年　7月20日 晴　昨夜子の刻より雨降　(青森の女勾引の男牢死)
1784年　9月5日 天明4年　7月21日 陰晴
1784年　9月6日 天明4年　7月22日 曇　今日午の刻小雨　雷発　酉の下刻雷時々風立
1784年　9月7日 天明4年　7月23日 晴　(柏木組大田原村庄屋宅に夜盗が入る・庄屋は負傷)
1784年　9月8日 天明4年　7月24日 晴　(鰺ヶ沢海道に出した町同心が9人を搦捕り村預けにする)
1784年　9月9日 天明4年　7月25日 曇　今日時々雨　雷発
1784年　9月10日 天明4年　7月26日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　雷強し　(5月に大工町に3歳ばかりの女捨て子あり・親方町の男の養子娘になる、時鐘撞きの御雇い銭を30目増180目とする)
1784年　9月11日 天明4年　7月27日 陰晴　(平川洪水・石川村大橋流失)
1784年　9月12日 天明4年　7月28日 快晴
1784年　9月13日 天明4年　7月29日 快晴
1784年　9月14日 天明4年　7月30日 曇　今日卯の刻より時々雨　(御発駕を来月3日・道中18日振りと仰せ出される)
1784年　9月15日 天明4年　8月1日 晴　今日残暑強し　(7月中所々御関所出人都合266人:碇関263人(御印紙出26・切手紙出237)・野内1人(御印紙出)・大間越2人(切手紙出)、人事異動)
1784年　9月16日 天明4年　8月2日 晴　昨夜風立　段々大風　今暁寅の刻前雨　今日終日風立
1784年　9月17日 天明4年　8月3日 晴　今日風　段々大風にて終日吹　(小泊湊に筑前船入津・水主1人病死、今朝大円寺門前・楢木村の男2人牢死)
1784年　9月18日 天明4年　8月4日 快晴　今日時々風立
1784年　9月19日 天明4年　8月5日 陰晴
1784年　9月20日 天明4年　8月6日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(去月御家中御手当て銭渡しの節似せ手形・謀判の足軽の御給分召上げ・永の御暇)
1784年　9月21日 天明4年　8月7日 晴　申の刻過ぎより小雨
1784年　9月22日 天明4年　8月8日 曇　昨夜よりの小雨今朝に及ぶ
1784年　9月23日 天明4年　8月9日 快晴　昨夜中水霜
1784年　9月24日 天明4年　8月10日 快晴
1784年　9月25日 天明4年　8月11日 晴　今日残暑強し
1784年　9月26日 天明4年　8月12日 晴　(この度江戸表より疫病除けの御札31180枚差下す)
1784年　9月27日 天明4年　8月13日 曇　今暁寅の刻より雨雷　午の刻より風立　(米の作柄も判らない内に酒造りを命じた者たち(勘定方?)を役下げ)
1784年　9月28日 天明4年　8月14日 快晴
1784年　9月29日 天明4年　8月15日 快晴　(人事異動、江戸詰めの御徒が御供下がりのための旅費を貰い出奔)　下から続く　御下向御入用金に勤めたので去月28日御目見え・御料理頂戴する)
1784年　9月30日 天明4年　8月16日 陰晴　(去る3日江戸御発駕)　下から続く　金は津軽屋三右衛門に申付けた、尾太銅山はこの節休山の体、津軽屋三右衛門が莫大の御扶持方引擔・御家督御用金御請・　上に続く
1784年　10月1日 天明4年　8月17日 曇　今日時々小雨　(不埒な5両2人扶持の大組与力を3両2人扶持の長柄の者に役下げ、品物を盗み取った表坊主を長牢とする)　下から続く　自筆の御書付あり、御発駕　上に続く
1784年　10月2日 天明4年　8月18日 曇　昨夜戌之刻雷発　風立　時々雨　(鰺ヶ沢御蔵より米12俵を附上げ中に米2俵と馬を盗まれた独鈷村の二人に米2俵を上納させる、中買の者の御蔵立入を禁ずる、御屋形様　上に続く
1784年　10月3日 天明4年　8月19日 陰晴　(今日碇ヶ関江七時過ぎ御着座)
1784年　10月4日 天明4年　8月20日 曇　昨夜子の刻より雨　今朝に及ぶ　(屋形様未の刻御着城)
1784年　10月5日 天明4年　8月21日 曇　今日終日雨降
1784年　10月6日 天明4年　8月22日 快晴　未の刻より風立
1784年　10月7日 天明4年　8月23日 快晴
1784年　10月8日 天明4年　8月24日 快晴　今日未刻地震少々　(6月28日夜浪岡八幡宮の御神楽太鼓盗み取られる)
1784年　10月9日 天明4年　8月25日 曇　今日終日雨降
1784年 10月10日 天明4年　8月26日 晴
1784年 10月11日 天明4年　8月27日 晴　昨夜中時々雨　(今朝黒石町の男と表坊主が牢死)
1784年 10月12日 天明4年　8月28日 快晴
1784年 10月13日 天明4年　8月29日 曇　今日時々小雨　(御家中の妻昨夜自殺)
1784年 10月14日 天明4年　9月1日 晴　昨夜中小雨　今朝に及ぶ　(8月中碇関出人都合60人(御印紙出33・切手紙出27))
1784年 10月15日 天明4年　9月2日 晴　昨夜子の刻地震
1784年 10月16日 天明4年　9月3日 快晴
1784年 10月17日 天明4年　9月4日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1784年 10月18日 天明4年　9月5日 快晴
1784年 10月19日 天明4年　9月6日 曇
1784年 10月20日 天明4年　9月7日 曇　昨夜中風雨　今朝岩木山ニ雪見ゆる
1784年 10月21日 天明4年　9月8日 曇　昨夜中風雨　今朝雷　今日時々雨　(御入部により公義(儀)関係者・殺人者を除き大赦・乳井貢も)
1784年 10月22日 天明4年　9月9日 快晴
1784年 10月23日 天明4年　9月10日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今日終日
1784年 10月24日 天明4年　9月11日 快晴　(津軽多膳を家老・津軽主水を家老職手伝いに等の大幅な人事異動)
1784年 10月25日 天明4年　9月12日 曇　今日時々風雨　巳の刻過ぎ雷　午の刻大風　(天気相不正に付御宝塔の石山取致し候儀暫く差控えるよう仰付ける、丹後者を詮索し居れば送り返させる、領内に戸沢・藤田両名を派遣する)
1784年 10月26日 天明4年　9月13日 曇　昨夜風雨　卯の刻過ぎ雪ふる
1784年 10月27日 天明4年　9月14日 曇　今日時々雨
1784年 10月28日 天明4年　9月15日 晴　(八幡宮御祭礼)
1784年 10月29日 天明4年　9月16日 曇　昨夜中時々雨　(打続天気不勝に付五山並びに四社において日和揚御祈祷を仰せ付ける)
1784年 10月30日 天明4年　9月17日 曇　昨夜中時々雨　今朝に及ぶ
1784年 10月31日 天明4年　9月18日 曇　昨夜中時々雨　今日未の刻雷発　申の刻より雨　(秋田土崎港で病死の御国出生の者の死骸引取りを求められる・詮議したがそんな名の者がないと申し遣わす)

1784年　11月1日 天明4年　　9月19日 曇　昨夜戌の刻より風雨　子の刻より大風雨雪
1784年　11月2日 天明4年　　9月20日 晴　(去月2日江戸船が長濱村付近で破船・船中物寄揚りを盗み取る者あり・菓子商売を始めるものあり)
1784年　11月3日 天明4年　　9月21日 快晴
1784年　11月4日 天明4年　　9月22日 快晴
1784年　11月5日 天明4年　　9月23日 曇
1784年　11月6日 天明4年　　9月24日 曇　昨夜中より今日時々風雨　未の刻雪　(本行寺・神宮寺で日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1784年　11月7日 天明4年　　9月25日 晴　(去る21日夜鰺ヶ沢御仮屋新御蔵が破られ米11俵紛失・住人男2人白状・入牢)
1784年　11月8日 天明4年　　9月26日 曇　昨夜中風雨　(去る春より岩木山硫黄気吹出し今も止まないので百沢下居宮で御祈祷を仰せ付ける)
1784年　11月9日 天明4年　　9月27日 曇　昨夜より今日時々雪　(今日初雪に付き……、鰺ヶ沢の蔵破り2人と長濱村の破船あらし?7人(その後1人追加)入牢)
1784年 11月10日 天明4年　　9月28日 曇　昨夜中より今日時々雪　　下から続く　　538町4反2畝歩程(4930石程)・畑方当荒れ7564町9反9畝歩程(18566石4斗程)仕付荒れ1500町歩程(1428石5斗程))
1784年 11月11日 天明4年　　9月29日 快晴　(公儀お届けの当荒れ(今年の天候被害か:福眞)並びに仕付荒れ(植付が出来なかった被害か:福眞):田高当荒れ13805町4反7畝歩程(111506石7斗程)仕付荒れ　　上に続く
1784年 11月12日 天明4年　　9月30日 快晴
1784年 11月13日 天明4年　　10月1日 曇　今日時々小雨　未の刻より雪　(9月中所々御関所出人都合98人:碇関97人(御印紙出50・切手紙出47)・大間越1人(切手紙出)、人事異動、福真伴左衛門に嫁小田桐から)
1784年 11月14日 天明4年　　10月2日 晴　昨夜中小雨
1784年 11月15日 天明4年　　10月3日 快晴　(御家老森岡主膳を数万の死亡に至り不届き至極として300石召上げ蟄居・用人山田彦兵衛の200石召上げ蟄居・その他にも異動)
1784年 11月16日 天明4年　　10月4日 晴
1784年 11月17日 天明4年　　10月5日 快晴
1784年 11月18日 天明4年　　10月6日 曇　昨夜中風雨　子の刻より風強し　今日時々雨
1784年 11月19日 天明4年　　10月7日 曇　昨夜子の刻雷発　(5日夜柏木組中泉村で火災(4間半×16間と外馬屋2間半×11間:後日の記録で庄屋)・火元村預け)
1784年 11月20日 天明4年　　10月8日 曇　今日終日小雨　(森岡金吾の下男縊死)
1784年 11月21日 天明4年　　10月9日 曇　昨夜中雪二寸程積
1784年 11月22日 天明4年　　10月10日 曇　昨夜中雨　今日終日雨降　(去る月27日松前船が小泊領七ツ石に走り揚り破船)
1784年 11月23日 天明4年　　10月11日 晴　　下から続く　　盗み出した男の母が追放から家に戻っていたので入牢させる)
1784年 11月24日 天明4年　　10月12日 曇　(木作新田長濱村の家数が7軒だった・死に絶え残りの者は先ごろ入牢(9月27日に記事)・村潰れとなる・藤代組出来嶋村の寄郷とする、江戸上屋敷御宝蔵からお金を　　上に続く
1784年 11月25日 天明4年　　10月13日 曇　昨夜中雨　今日折々小雨　(高100石の御目見以下御留守居支配清野某あり)　　下から続く　　相当する者がなく菩提寺等を問合せる)
1784年 11月26日 天明4年　　10月14日 曇　昨夜中風雨強し　(蟹田町の漁船9艘が船主とも死に絶え流失か、土手町の仁助なる男が3月から庄内領を徘徊し7月27日に南部の旅人を追剥し搦捕られる・引取れとの連絡、　　上に続く
1784年 11月27日 天明4年　　10月15日 曇　昨夜中風雨　小雪　(郡奉行等の人事異動、御目見以下御留守居支配に横岡藤之助あり)
1784年 11月28日 天明4年　　10月16日 晴　(去る13日に碇ヶ関で大風雨)
1784年 11月29日 天明4年　　10月17日 曇　昨夜雪少々　今日時々雪　申刻大雪吹　戌ノ刻大風　(雑穀の代米:麦1升が米6合6夕6才・稗1升が米3合3夕3才・大豆1升が米1升)
1784年 11月30日 天明4年　　10月18日 曇　昨夜大雪吹　今日時々雪　(去月18日の大風雨で風合瀬村の船9艘流失・破船、この度在方窮民共江御手当て御米2500俵並びに雑穀2500俵下し置かれ……)
1784年　12月1日 天明4年　　10月19日 曇　今日時々雨
1784年　12月2日 天明4年　　10月20日 快晴
1784年　12月3日 天明4年　　10月21日 曇　今日未の下刻小雨
1784年　12月4日 天明4年　　10月22日 快晴
1784年　12月5日 天明4年　　10月23日 曇　昨夜丑の刻過ぎより風雨　今日終日雨
1784年　12月6日 天明4年　　10月24日 曇　昨夜中雪降
1784年　12月7日 天明4年　　10月25日 曇　今日時々雪
1784年　12月8日 天明4年　　10月26日 晴
1784年　12月9日 天明4年　　10月27日 快晴　(不明日時に小泊湊付近で破船1艘・他の船で3人水死)
1784年 12月10日 天明4年　　10月28日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1784年 12月11日 天明4年　　10月29日 晴
1784年 12月12日 天明4年　　11月1日 晴　(10月中所々御関所出人都合75人:碇関72人(御印紙出23・切手紙出49)・大間越3人(御印紙出))
1784年 12月13日 天明4年　　11月2日 曇　今暁雨
1784年 12月14日 天明4年　　11月3日 曇　昨夜雪少々　(去月19日後潟組壱本木村で火災24軒雑駄1疋・火元百姓他村預け)
1784年 12月15日 天明4年　　11月4日 快晴
1784年 12月16日 天明4年　　11月5日 曇　今日時々雪降　(内真部村で丸木漁船1艘大風で流失)
1784年 12月17日 天明4年　　11月6日 曇　昨夜中雪　(9月21日の鰺ヶ沢の御蔵破り2人に鞭刑20鞭と弘前より十里四方追放・弘前より三里四方追放)
1784年 12月18日 天明4年　　11月7日 曇　今日終日雪　(このたび御法事(先代の一周忌)に付き乞食共1人に鳥目十文宛・座当共1人に付き十五文宛下し置かれる)
1784年 12月19日 天明4年　　11月8日 曇　今日午の刻過ぎより雨　(近郷の者に助精?した25人を郷士に仰せ付け御目見・褒美などを仰せ付ける、奇特の者共に御目見え・褒美等仰せ付ける、その他褒美多数)
1784年 12月20日 天明4年　　11月9日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　今日終日風雨
1784年 12月21日 天明4年　　11月10日 快晴
1784年 12月22日 天明4年　　11月11日 曇　今日未の刻過ぎ雪
1784年 12月23日 天明4年　　11月12日 晴
1784年 12月24日 天明4年　　11月13日 晴　(豆腐値段の儀前々の通り1丁に付き一分値段に申付ける)
1784年 12月25日 天明4年　　11月14日 曇　昨夜より雪　今日終日
1784年 12月26日 天明4年　　11月15日 曇　今日時々雪
1784年 12月27日 天明4年　　11月16日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1784年 12月28日 天明4年　　11月17日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1784年 12月29日 天明4年　　11月18日 晴
1784年 12月30日 天明4年　　11月19日 曇　今日終日大雪吹　(先日鶴を差上げた小杉村の鳥取に御酒代として鳥目500文下し置かれる)
1784年 12月31日 天明4年　　11月20日 晴

1785年　1月1日 天明4年　11月21日 曇　今日時々雨
1785年　1月2日 天明4年　11月22日 晴
1785年　1月3日 天明4年　11月23日 曇　今日時々雪
1785年　1月4日 天明4年　11月24日 曇　昨夜より今日時々雪　(一昨22日夜高杉組土堂村で火災1軒・火元高無村預け)
1785年　1月5日 天明4年　11月25日 曇　今日巳の上刻寒に入る　今日雪
1785年　1月6日 天明4年　11月26日 曇　今日時々雪
1785年　1月7日 天明4年　11月27日 晴　(去る21日夜野内町で火災・火元町名主、乳井貢に生涯5人扶持下し置かれる)
1785年　1月8日 天明4年　11月28日 曇　今日時々雨　辰の刻より雷度々
1785年　1月9日 天明4年　11月29日 曇　今日時々雪
1785年　1月10日 天明4年　11月30日 曇　今日終日雪
1785年　1月11日 天明4年　12月1日 曇　昨夜中より今日時々雪　(11月中所々御関所出人都合147人:碇関141人(御印紙出110・切手紙出31)・野内6人(御印紙出2・切手紙出4)、人事異動)
1785年　1月12日 天明4年　12月2日 曇　今日時々雪
1785年　1月13日 天明4年　12月3日 曇　昨夜吹雪
1785年　1月14日 天明4年　12月4日 晴
1785年　1月15日 天明4年　12月5日 快晴　今朝甚寒る
1785年　1月16日 天明4年　12月6日 晴　(御献上鱈を御家老中見分・高覧、悪事の大組警固7人を並足軽に・大組足軽4人を御城付き足軽にそれぞれ役下げ)
1785年　1月17日 天明4年　12月7日 快晴　(浪岡・増館組で当年は苗が不足で稗を植えた・当年は稗を上納する)
1785年　1月18日 天明4年　12月8日 曇　今暁寅の刻より雨　(藤代組出木嶋村の百姓・高無8人が当秋御検見後居村江立退く、御検見皆引(読み方不明・無税判定?:福眞)の地域が多い、深浦荘厳寺を脱衣の上退院させる)
1785年　1月19日 天明4年　12月9日 曇
1785年　1月20日 天明4年　12月10日 曇
1785年　1月21日 天明4年　12月11日 曇　今日終日雪　四寸程積ル　(去る4日夜浦町組小館村で庄屋家火災・牧牝駄1焼死鉄砲焼失)
1785年　1月22日 天明4年　12月12日 曇　昨夜中雪四寸程降　今日時々雪
1785年　1月23日 天明4年　12月13日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　六寸程積ル　　下から続く　　御家中も何人(菊池寛司等)か罰せられている)
1785年　1月24日 天明4年　12月14日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　四寸程降　今日時々雪　　下から続く　　(9月20・27日に記述の)破船荒らし3人を組払い・3人を戸〆・3人を御免とする、博打打?宿12人を弘前追放、　　上に続く
1785年　1月25日 天明4年　12月15日 曇　昨夜中雪　(和徳組に女ばかり生き残り……・当上納方御免)　　下から続く　　御徒小頭を御目見以下御留守居支配・博打をした御留守居支配を長柄の者に役下げ、　　上に続く
1785年　1月26日 天明4年　12月16日 晴　(新寺町・西大工町等の極難で地子銀上納御免願、常々小盗その上稲草盗み取った男(木作新田上中館村高無の子)を鞭刑5鞭広須木作新田両組払い、行跡の宜しくない　　上に続く
1785年　1月27日 天明4年　12月17日 晴　(一昨27日提出の当作損耗に関する公儀御届書:高46000石のうち37434石余・他に新田で161255石余損耗)　　下から続く　　御廣敷女中の御切米が四歩一・御四季施料は半分)
1785年　1月28日 天明4年　12月18日 晴　(金木新田9か村が先だって水湛・籾納を求め断られる・代官が村を廻って実情を訴え・籾納を認める、飯詰・金木新田・浦町・横内組で極難につき上納御免、去る暮より江戸表　　上に続く
1785年　1月29日 天明4年　12月19日 晴　(今別町の23軒の屋敷物成り(住民税のようなものか:福眞)を来年暮まで取延べる)
1785年　1月30日 天明4年　12月20日 曇　昨夜雪降　(当月10日鯵ヶ沢町で大風・所々破損)
1785年　1月31日 天明4年　12月21日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　時々雪
1785年　2月1日 天明4年　12月22日 曇　昨夜より雪吹　今日雪
1785年　2月2日 天明4年　12月23日 晴　昨夜時々雪
1785年　2月3日 天明4年　12月24日 曇　(鰺ヶ沢町は甚だ以って極難の者共ばかり・去秋御払い米代銭上納も銭7貫417文目残っている・皆捨を仰付けられたく願い出る・来秋まで御取延を申付ける、度々「郷蔵」の語が出ている)
1785年　2月4日 天明4年　12月25日 曇　(堀越組新岡村で盗賊に稲草等を盗み取られる・去る19日夜にも稲を切り叺に入れて境関村方面に逃げる・追付かれた2人の盗賊が鎌で手向かう・棒で打たれ即死、　　欄外(*)に続く
1785年　2月5日 天明4年　12月26日 晴　昨夜雪
1785年　2月6日 天明4年　12月27日 曇　今日時々雪
1785年　2月7日 天明4年　12月28日 曇　今日雪　昨夜雪吹　(大目付触:此節廃田多有之ニ付御家中在宅致廃田等取立て之存念之族有之段……、御台所関係者の御褒美・銀3両・銀2両・鳥目500文・鳥目300文、多数に褒美)
1785年　2月8日 天明4年　12月29日 曇
1785年　2月9日 天明5年　正月1日　曇　今朝卯ノ刻過雷発　卯下刻過雨　辰ノ下刻晴　朝ノ内東風　昼ニ至西風ニ成る　(古懸不動尊今朝辰の中刻御出汗)
1785年　2月10日 天明5年　正月2日　曇　昨夜中風　今朝に至り時々雪降　(不動尊の御出汗に付き五山で御祈祷を仰せ付けられる)
1785年　2月11日 天明5年　正月3日　晴　昨夜中雪少々　今朝に及ぶ　巳の刻より晴　(御吉例金200両を差出す、今晩御謡初)
1785年　2月12日 天明5年　正月4日　晴　今日時々雪　巳の刻過ぎまで雪吹　午の刻より晴　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる、百沢寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1785年　2月13日 天明5年　正月5日　曇　今日終日雪吹　余寒甚強し　(去月29日田舎館組堂野前村で火災・火元百姓村預け)
1785年　2月14日 天明5年　正月6日　曇　昨夜中雪吹　今朝に及ぶ　余寒甚強し　巳の刻より晴　午の刻より雪降
1785年　2月15日 天明5年　正月7日　晴　昨夜雪三寸程降
1785年　2月16日 天明5年　正月8日　快晴
1785年　2月17日 天明5年　正月9日　曇　昨夜亥の刻過ぎ地震今日時々雪　巳の刻より晴
1785年　2月18日 天明5年　正月10日　晴　昨夜中雪三寸程降　今朝に及ぶ　辰の刻より晴　(去る7日夜赤石組風合瀬村で火災・火元百姓村預け、去る8日浪岡組浪岡組(村?)で火災・火元高無村預け)
1785年　2月19日 天明5年　正月11日　曇　今日時々雪　(人事異動)
1785年　2月20日 天明5年　正月12日　曇　朝の内小雪　巳の刻過ぎ雷発　それより小雨　午の刻より晴　未の刻より雪
1785年　2月21日 天明5年　正月13日　快晴　(一昨日富田町の子供が留守中に絞め殺される)
1785年　2月22日 天明5年　正月14日　快晴
1785年　2月23日 天明5年　正月15日　曇　朝の内霞立　午の刻過ぎ小雨　今日終日薄霞
1785年　2月24日 天明5年　正月16日　曇　今日霰降　(12月中碇関出人都合57人(御印紙出33・切手紙出24))
1785年　2月25日 天明5年　正月17日　晴　朝の内曇
1785年　2月26日 天明5年　正月18日　曇　今日時々雪　(当月より御家中の面々江小学左伝講読仰せ付けられる・前々の通り講日は二・七日で2日が小学7日が左伝)
1785年　2月27日 天明5年　正月19日　曇　昨夜中雪少々　巳の刻過ぎより晴　(昨朝大鰐組石川村で火災(4間×3間:高無)・火元村預け)
1785年　2月28日 天明5年　正月20日　陰晴　夜に入り吹雪強
(*)　米1俵代34匁8分余、当月8日の大風で深浦町・蠶木・広津村で丸木舟8艘破船、弘前の醤油屋3軒から値段増願・1升に付き1文目6分値段に申付ける)

1785年　3月1日 天明5年 正月21日　曇 今日終日雪
1785年　3月2日 天明5年 正月22日　晴
1785年　3月3日 天明5年 正月23日　晴 朝の内少々曇 巳の刻よりはるる
1785年　3月4日 天明5年 正月24日　快晴
1785年　3月5日 天明5年 正月25日　快晴
1785年　3月6日 天明5年 正月26日　快晴
1785年　3月7日 天明5年 正月27日　陰晴 （去る24日夜浪岡御蔵を切破りお米6俵盗み取られる・一部がつかまり他は逃げる）
1785年　3月8日 天明5年 正月28日　曇 昨夜子の刻より雨 今朝に及ぶ 今暁より風雨 未の刻より雪
1785年　3月9日 天明5年 正月29日　快晴
1785年　3月10日 天明5年 正月30日　陰晴　下から続く　拝借の595文目の御免願・了・生き残りの者の上納分904文目余を早速上納するように申し遣わす、昨夜九つ時過ぎ鞘師町で出火・火元戸〆慎み）
1785年　3月11日 天明5年　2月1日 晴 （正月中所々御関所出人都合115人:碇関110人（御印紙出80・切手紙出30）・野内5人（切手紙出）、去々年の大凶作に伴い今別町では銭1貫500目拝借・死に絶えた38軒が　上に続く
1785年　3月12日 天明5年　2月2日 晴 （去月晦日夜出火の節炭御蔵に盗賊が入り御用炭・叺入りの炭お買上げ銭270目余が盗まれる）
1785年　3月13日 天明5年　2月3日 晴
1785年　3月14日 天明5年　2月4日 晴 朝の内雪
1785年　3月15日 天明5年　2月5日 快晴
1785年　3月16日 天明5年　2月6日 曇 午の刻より雪降ル （諸勤番の節私曲の筋があった早道2人を御目見以下御留守居支配に役下げ、不届きな諸手足軽を10俵召上げ長柄の者に役下げ）
1785年　3月17日 天明5年　2月7日 曇 昨夜雪少し 今朝に及ぶ
1785年　3月18日 天明5年　2月8日 陰晴 昨夜雪少々降
1785年　3月19日 天明5年　2月9日 晴 昨夜雪少々
1785年　3月20日 天明5年　2月10日 晴 今朝霜強し 余寒甚し
1785年　3月21日 天明5年　2月11日 陰晴 （当月6日暮六時より7日朝五時までに早川口より残らず氷明ける・去辰年2月14日暮六時より15日朝五時まで氷明けた・今年は日数に引合4日早く節に引合14日早い）
1785年　3月22日 天明5年　2月12日 曇 今朝霜 今日時々風立 （去月25日後潟組後潟村の百姓家に23・4才の袖乞女が来て留守居をさせていた娘を絞殺して稗を盗み逃亡・人相書きあり）
1785年　3月23日 天明5年　2月13日 陰晴 昨夜時々雪降
1785年　3月24日 天明5年　2月14日 晴 （昨13日堀越組堀越村で火災2軒・火元高無村預け）
1785年　3月25日 天明5年　2月15日 快晴 （代官・加代官が多く任命されている）
1785年　3月26日 天明5年　2月16日 晴 （今12日夜油川組油川村で火災・火元高無、御中小姓福眞伴左衛門を加代官として油川・後潟組担当とする）
1785年　3月27日 天明5年　2月17日 曇 午の刻過ぎより時々雨降
1785年　3月28日 天明5年　2月18日 曇 昨夜中雨降 （今日芙蓉の間で剣術高覧、油川村の火元の村預け免許）
1785年　3月29日 天明5年　2月19日 曇 昨夜雨少々 今日終日みぞれ(霙)ふる （堀越村の火元の村預け免許）
1785年　3月30日 天明5年　2月20日 曇 昨夜中雪吹 今朝に及ぶ 寒強 今日時々風立 （去年在方で時疫流行・金屋惣兵衛が施薬1万帖を上納した・奇特な者なので金5両を下し置かれた・同様の者3人にも下し置かれる）
1785年　3月31日 天明5年　2月21日 曇
1785年　4月1日 天明5年　2月22日 快晴 （御発駕御日限を来月24日と仰せ出される）
1785年　4月2日 天明5年　2月23日 曇 今日時々雨 （村田・大川某に武具職相当の御手当て米を8月まで1斗宛渡す）
1785年　4月3日 天明5年　2月24日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ
1785年　4月4日 天明5年　2月25日 曇 昨夜中雨少々降 午の刻頃霰降 未の刻頃晴ル
1785年　4月5日 天明5年　2月26日 曇 （農事に障るのでみだりに鉄砲打ち放つなとのお触れ、今22日夜赤石組久田村で火災22軒・火元高無他村預け）
1785年　4月6日 天明5年　2月27日 晴 昨夜中雪少々
1785年　4月7日 天明5年　2月28日 快晴
1785年　4月8日 天明5年　2月29日 曇 今朝霜強し （久田村の火元の村預け免許）
1785年　4月9日 天明5年　3月1日 曇 昨夜丑の刻より雨 卯の刻過ぎ晴ル （人事異動、2月中碇関出人都合39人（御印紙出16・切手紙出23）、御家中の多くの者を褒め・昇格させている）
1785年　4月10日 天明5年　3月2日 曇 昨夜中雨 今日時々降 （去月28日夜広須組冨岡村で火災1軒・火元百姓村預け）
1785年　4月11日 天明5年　3月3日 快晴 （先祖旧功もある猿賀屋某が極難に付き御手当てとして銭100目下し置かれる）
1785年　4月12日 天明5年　3月4日 曇 午の刻過ぎ雨少々降 （碇ヶ関町の者共極難・渇命に付きお米拝借願・御手当て米10俵を町奉行を通じて下し置かれる、冨岡村の火元の村預け免許）
1785年　4月13日 天明5年　3月5日 晴 朝の内小雨ふル晴 （当御発駕金1500両の内300両を先便差下し残り1200両を此の度差下す）
1785年　4月14日 天明5年　3月6日 晴 朝の内曇
1785年　4月15日 天明5年　3月7日 晴
1785年　4月16日 天明5年　3月8日 快晴 今朝霜強し （今日剣術高覧）
1785年　4月17日 天明5年　3月9日 快晴 今朝霜強し
1785年　4月18日 天明5年　3月10日 晴 今朝霜強し
1785年　4月19日 天明5年　3月11日 快晴 今朝霜強し （一昨9日駒越組吉川村で火災2軒・火元百姓他村預け）
1785年　4月20日 天明5年　3月12日 快晴 今朝霜強し （神明・八幡・和徳稲荷に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1785年　4月21日 天明5年　3月13日 曇 午の刻より雨 夜に入
1785年　4月22日 天明5年　3月14日 曇 昨夜中より今日終日雨降 午の刻雷発ス
1785年　4月23日 天明5年　3月15日 晴 今日時々風立 （今日御発駕御祝儀の御料理、人事異動）
1785年　4月24日 天明5年　3月16日 曇 巳の刻過ぎより晴ル （御献上の御馬高覧）
1785年　4月25日 天明5年　3月17日 曇 午の刻より雨降 （昨15日夜駒越組新法師村で火災1軒・火元高無村預け）
1785年　4月26日 天明5年　3月18日 曇 今日時々雨降 冷風
1785年　4月27日 天明5年　3月19日 曇 冷風立 （去る5日出火の新法師村の火元の村預け差許）
1785年　4月28日 天明5年　3月20日 曇 昨夜中より小雨 今日冷風
1785年　4月29日 天明5年　3月21日 曇 今日巳の刻過ぎ小雨 冷風 （天気が悪いので丹後者(たんご:京都府北部・入り込むと作柄が悪くなるといわれ嫌われた:福眞)を詮索している）
1785年　4月30日 天明5年　3月22日 陰晴 今日午の刻過ぎ小雨 冷風 （津軽主水・喜多村監物を御家老に等の人事異動）

1785年　5月1日 天明5年　3月23日 曇　申の刻過ぎ小雨　今日風寒し　(先だって尾崎組町居村で越後臼井村弥兵衛の申し出でで草露油(くそうず油か:福眞)を取出している・この障りで頃日天気不正か・早速埋めて平地にする)
1785年　5月2日 天明5年　3月24日 曇　巳の刻過ぎより時々丸雪ふる　時々東風　(四時過ぎ御発駕)
1785年　5月3日 天明5年　3月25日 晴　朝の内曇ル　今日折々北風
1785年　5月4日 天明5年　3月26日 曇　今日午の刻過ぎより時々雨　夜に入り風強し　寅の刻頃丸雪ふる　寒ル
1785年　5月5日 天明5年　3月27日 曇　今日終日風雨
1785年　5月6日 天明5年　3月28日 晴　時々風立　今日より暖ニなる　去々卯の年二月より岩木山煙立候ところ頃日に至り煙一切見えず　右(横書きにすると左の意)煙相止むの様に見ゆ
1785年　5月7日 天明5年　3月29日 晴　時々風立つ　昨今暖に成　(楮町施行の者147人を居村・親類等に引取らせ小屋を廃止とする・各人に米3升銭5文目を下し置かれる)
1785年　5月8日 天明5年　3月30日 曇　午の刻より雨降　今日冷たき方　(土淵川の八目取りの規制)　下から続く　青森・油川領湊口1人(切手紙出)、在府町に投げ火?)
1785年　5月9日 天明5年　4月1日 快晴　昨夜雨　今朝に及ぶ　今日風無　至極快晴　(3月中所々御関所出人都合119人:碇ヶ関106人(御印紙出22・切手紙出84)・大間越2人(御印紙出)・野内10人(切手紙出)・　上に続く
1785年　5月10日 天明5年　4月2日 快晴　朝の内風立　今日昼頃より余程暖に成
1785年　5月11日 天明5年　4月3日 快晴　今日至極の快晴　暖和
1785年　5月12日 天明5年　4月4日 快晴　昨今別て暖也
1785年　5月13日 天明5年　4月5日 陰晴　未ノ刻より北風立　申ノ刻過ぎ雷発ス　酉の刻より雨ふる　時々電り夜ニ入風雨強シ　(昨晩五時半過ぎ横鍛治町に投げ火・早速取り消す)
1785年　5月14日 天明5年　4月6日 晴　朝の内曇ル　時々北風　今日冷キ方
1785年　5月15日 天明5年　4月7日 晴　今暁霜　(隠造酒の芝田某に過料として廃田200人役(1人役は200歩との説あり)仕付け方仰せ付けられる、施行小屋残らず引き払う)
1785年　5月16日 天明5年　4月8日 快晴　今朝霜　時々風立
1785年　5月17日 天明5年　4月9日 快晴　今朝霜　下から続く　沢に野火入る、荘厳寺先住聞岌が弟足軽目付木村八十八に御預け)
1785年　5月18日 天明5年　4月10日 快晴　今朝霜　(此の度御手当を下し置かれた施行の者は166人(男60・女106)・前に147人としたが日々変る、去月29日夜油川組戸門村の山に・3日晩飯詰組前田野目村4か　上に続く
1785年　5月19日 天明5年　4月11日 快晴　夜に入り曇　子の刻過ぎより雨風強　寅の刻より晴
1785年　5月20日 天明5年　4月12日 晴　今暁より風立　今日終日南風強シ　申の刻止む
1785年　5月21日 天明5年　4月13日 快晴　朝の内霧雨　未の刻より風烈シ　申の刻より止
1785年　5月22日 天明5年　4月14日 快晴　今朝水霜
1785年　5月23日 天明5年　4月15日 曇　昨夜寅の刻より雨　今朝に至る　今日時々小雨ふる
1785年　5月24日 天明5年　4月16日 晴　朝の内曇　東風にて冷シキ方　(極窮の御手廻番頭2人など6人に格段の御沙汰により御手当て80目宛など)
1785年　5月25日 天明5年　4月17日 晴　昨夜子の刻過ぎより風立烈　今朝に至る　東風にて冷キ方　(芝居役者の市川某が丹後者の由・送り返すよう申付ける)
1785年　5月26日 天明5年　4月18日 曇　昨夜中より雨　今日時々雨　東風にて冷キ方
1785年　5月27日 天明5年　4月19日 快晴　昨夜中雨　今朝より晴　今日より東風止　暖和ニ成
1785年　5月28日 天明5年　4月20日 曇　午の刻より小雨　夜に入り晴　(先だって(正月27日に記載)浪岡御蔵切破り御米を盗み取った3人の人相書きあり)
1785年　5月29日 天明5年　4月21日 快晴　未の刻より風立　夜に入り曇ル　(去る19日浪岡組本郷村で火災2軒・外馬屋と馬3疋焼死・火元百姓他村預け)
1785年　5月30日 天明5年　4月22日 曇　時々小雨　夜に入り晴ル
1785年　5月31日 天明5年　4月23日 快晴
1785年　6月1日 天明5年　4月24日 快晴　(前家老森岡主膳今暁自害51歳)
1785年　6月2日 天明5年　4月25日 快晴　(本郷村の火元の他村預け差許)
1785年　6月3日 天明5年　4月26日 曇　夜に入り小雨　時々風立
1785年　6月4日 天明5年　4月27日 快晴　昨夜中の夜(雨の誤りか:福眞)　今暁に及ぶ
1785年　6月5日 天明5年　4月28日 快晴
1785年　6月6日 天明5年　4月29日 晴　朝の内曇る　卯の下刻地震少
1785年　6月7日 天明5年　5月1日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1785年　6月8日 天明5年　5月2日 快晴　朝の内曇　時々風立　(4月中碇関出人都合104人:御印紙出40・切手紙出64))
1785年　6月9日 天明5年　5月3日 曇　今日時々雨　東風にて冷シ
1785年　6月10日 天明5年　5月4日 曇　今日入梅　昨夜中雨　今朝辰の中刻止　午の刻過ぎより雨ふる　今日東風にて終日冷シ
1785年　6月11日 天明5年　5月5日 曇
1785年　6月12日 天明5年　5月6日 晴　(今日御徒目付夫婦が縊死)
1785年　6月13日 天明5年　5月7日 曇　今朝卯の刻過ぎより度々雷発　辰の刻より雨降　巳の刻過ぎ至って強シ　申の刻より晴ル　(極究の山田某に別段の御沙汰を持って御銭50目の御手当てを下し置かれる)
1785年　6月14日 天明5年　5月8日 晴　今日東風にて冷シ
1785年　6月15日 天明5年　5月9日 陰晴　東風立　(去る3日夜赤石組田野沢村前沖で秋田の船が破船・31人中18人水死)
1785年　6月16日 天明5年　5月10日 曇　東風立冷シ
1785年　6月17日 天明5年　5月11日 晴　時々風立　下から続く　東風吹　申の下刻より曇ル
1785年　6月18日 天明5年　5月12日 晴　今暁うす曇り　明ヶ方雲立の文(アヤと送り仮名あり)ニヨリ日輪の如く三ツ並ひ見ゆる　尤も其所ニ寄り雲懸り無之所ハ左様無之　今朝水霜ニて冷シ　今日朝より申刻迄　上に続く
1785年　6月19日 天明5年　5月13日 曇　未の刻より晴
1785年　6月20日 天明5年　5月14日 曇　今暁より雨終日降
1785年　6月21日 天明5年　5月15日 曇　今日時々雨降
1785年　6月22日 天明5年　5月16日 晴　今日暑気
1785年　6月23日 天明5年　5月17日 曇　時々雨降
1785年　6月24日 天明5年　5月18日 曇　終日雨ふる
1785年　6月25日 天明5年　5月19日 曇　昨夜中より風強し　辰の刻止　今日小雨時々降　(御目付触:打続天気不勝に付岩木嵩湯段とも湯治人停止、芝居役者が丹後人と聞こえ立帰らせる、油川組岡町村で火災・火元他村預け)
1785年　6月26日 天明5年　5月20日 快晴　暑気　(油川組岡町村の火元の他村預け免許、御留守居支配の2人を日記物書加勢に、極究の御馬廻對馬某に格段の御沙汰を以って御手当て50目下し置かれる)
1785年　6月27日 天明5年　5月21日 快晴
1785年　6月28日 天明5年　5月22日 晴　昼頃より快晴　今日暑気　夜に入り曇
1785年　6月29日 天明5年　5月23日 曇　今日時々雨　申の刻より晴ル　(去月中倒死並びに町々死亡の者なし)
1785年　6月30日 天明5年　5月24日 晴　今日暑気

1785年　7月1日 天明5年　5月25日 曇　半夏生　朝の内晴ル　卯の下刻地震少し　午の刻過ぎより雨ふる
1785年　7月2日 天明5年　5月26日 曇　昨夜中雨　今暁より時々南風強　折々小雨　辰の刻頃虹見ゆる
1785年　7月3日 天明5年　5月27日 陰晴　今日東風にて冷　(当月17日鯵ヶ沢より十三町に向う船が沖合いで破船)
1785年　7月4日 天明5年　5月28日 曇　昨夜小雨
1785年　7月5日 天明5年　5月29日 曇　昨夜中小雨　今日時々雨ふる　　下から続く　　仰せ付ける、打続天気不正に付き四社に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、昨日の洪水で石川村の仮橋流失)
1785年　7月6日 天明5年　6月1日 曇　昨夜中雨強シ　未の刻より晴る〃　(5月中所々御関所出人都合59人:碇ヶ関56人(御印紙出25・切手紙出31)・大間越3人(切手紙出)、高岡御宮で五穀成就の御祈祷を　　上に続く
1785年　7月7日 天明5年　6月2日 快晴　今日暑気強シ
1785年　7月8日 天明5年　6月3日 快晴　今日暑気強シ
1785年　7月9日 天明5年　6月4日 快晴　(入り米(1俵)は37・8文目位に相当り候)
1785年　7月10日 天明5年　6月5日 陰晴　未の刻より雨ふる　暑気強シ
1785年　7月11日 天明5年　6月6日 曇　昨夜中雨　今日茂時々雨　蒸暑シ
1785年　7月12日 天明5年　6月7日 晴　朝の内曇　今日大暑
1785年　7月13日 天明5年　6月8日 快晴　今日大暑
1785年　7月14日 天明5年　6月9日 快晴　暑気強　(後潟組大川平村で火災6軒・火元百姓他村預け・免許)
1785年　7月15日 天明5年　6月10日 陰晴　午の刻より曇　未の刻より時々小雨　夜に入り晴ル
1785年　7月16日 天明5年　6月11日 陰晴　東風立涼し　未の刻より曇　申の刻より小雨
1785年　7月17日 天明5年　6月12日 陰晴　今朝東風にて涼シ
1785年　7月18日 天明5年　6月13日 曇　今日未の刻小雨　今日も東風立涼し
1785年　7月19日 天明5年　6月14日 快晴　土用に入　暑気強
1785年　7月20日 天明5年　6月15日 晴
1785年　7月21日 天明5年　6月16日 晴　朝の内曇ル
1785年　7月22日 天明5年　6月17日 快晴　大暑
1785年　7月23日 天明5年　6月18日 快晴　大暑
1785年　7月24日 天明5年　6月19日 陰晴　今暁雨　午の刻より晴　今日大暑
1785年　7月25日 天明5年　6月20日 快晴　大暑
1785年　7月26日 天明5年　6月21日 曇　巳の刻より雨　(当秋粒油で盛りまでの内油1升7文目仰せ付けられたき旨申し出る・6文目値段に申付ける)
1785年　7月27日 天明5年　6月22日 曇　時々大雨
1785年　7月28日 天明5年　6月23日 陰晴　(当月17日夜御家中に奉公の男が奉公先から米1俵などを盗み出す)
1785年　7月29日 天明5年　6月24日 曇　終日冷シ
1785年　7月30日 天明5年　6月25日 曇　昨夜中より東風にて冷　昼の内小雨ふる　(打ち続く天気不正に付き長勝寺・本行寺・神宮寺で日和揚御祈祷を仰付ける)
1785年　7月31日 天明5年　6月26日 曇　今暁より雨　今日茂東風不止　冷しき方　昼之内雨ふる　暮頃より夜ニ入冷シ
1785年　8月1日 天明5年　6月27日 晴　昨夜中東風強シ　今朝に及ぶ
1785年　8月2日 天明5年　6月28日 曇　今暁より雨終日　午の刻より雨強し
1785年　8月3日 天明5年　6月29日 曇　晩景ニ至り冷シ
1785年　8月4日 天明5年　6月30日 曇　終日雨強し　時々風　(神明・八幡両社で日和揚御神楽・薬王院で日和揚御祈祷を仰付ける、虚無僧・六部は見当て次第送り返すよう指示する)
1785年　8月5日 天明5年　7月1日 陰晴　巳の刻日食六部　(6月中所々御関所出人都合84人:碇関81人(御印紙出38・切手紙出43)・野内3人(切手紙出)　　下から続く　　門内・町々は町内限りとする)
1785年　8月6日 天明5年　7月2日 晴　朝の内少々雨ふる　暖也　昼九ツ半頃より七つ頃まで星の如く成もの下り　大サほうつき又は夫より少サきも有之　数粒降下り中途にて消候由　(例年通り禰婦た流は御家中は　　上に続く
1785年　8月7日 天明5年　7月3日 曇　今暁より雨　未の刻過ぎより晴る〃　昨日昼の内水白と申虫多ふる　取分西之方多ふる　粟粒位之羽虫也　今日之大雨ニて不残流ル由
1785年　8月8日 天明5年　7月4日 晴　今日涼シ　(大鰐村加賀助・兵左衛門より御初米出穂差出す、古懸不動尊御出汗・神楽)
1785年　8月9日 天明5年　7月5日 快晴　残暑強し
1785年　8月10日 天明5年　7月6日 快晴　残暑強し
1785年　8月11日 天明5年　7月7日 快晴　残暑強し
1785年　8月12日 天明5年　7月8日 晴　昨夜中雨ふる　今日残暑強し
1785年　8月13日 天明5年　7月9日 晴　昨夜中時々稲光り　今日午の刻より曇ル　時々村雨雷発ス　申の刻より晴ル
1785年　8月14日 天明5年　7月10日 曇　今暁より雨　辰ノ刻大雨　巳ノ刻より晴ル
1785年　8月15日 天明5年　7月11日 陰晴　残暑
1785年　8月16日 天明5年　7月12日 曇　時々小雨
1785年　8月17日 天明5年　7月13日 曇　巳の上刻小雨　未の下刻少々地震
1785年　8月18日 天明5年　7月14日 曇　昼之内あたたか　申ノ刻より東風ニて冷シ　(御家老添田儀左衛門から山崎屋藤蔵・茨木屋和助・鴻池傳兵衛様宛の様付きの手紙あり、去年3月大勢の内に加わり大間越を通った者あり)
1785年　8月19日 天明5年　7月15日 陰晴　申の刻より東風ニて涼
1785年　8月20日 天明5年　7月16日 晴　今日残暑強　未ノ刻過ぎより曇　申の刻より小雨　夜ニ入晴る〃
1785年　8月21日 天明5年　7月17日 晴　今日残暑強シ　午ノ刻過より曇　雷発ス　午ノ下刻より大雨　申ノ下刻止
1785年　8月22日 天明5年　7月18日 晴　残暑強し　今日申の下刻小雨
1785年　8月23日 天明5年　7月19日 陰晴　今暁より終日風吹　酉の刻過ぎより雨
1785年　8月24日 天明5年　7月20日 陰晴　今暁雨ふる　巳の刻より晴ル　今日冷しき方
1785年　8月25日 天明5年　7月21日 晴　今日残暑強し　(当月15日夜茂森町に用事の作事杖突の女房が変死)
1785年　8月26日 天明5年　7月22日 曇　時々風冷し
1785年　8月27日 天明5年　7月23日 晴　朝の内曇
1785年　8月28日 天明5年　7月24日 晴
1785年　8月29日 天明5年　7月25日 快晴
1785年　8月30日 天明5年　7月26日 快晴　(深浦湊に入津中の3艘で3人が傷寒で死亡(傷寒:しょうかん:今のチフスのような高熱を伴う疾病))
1785年　8月31日 天明5年　7月27日 快晴　昼の内風立

1785年　9月1日 天明5年　7月28日 晴　今暁余程冷シ　今日二百十日　昼の内風立
1785年　9月2日 天明5年　7月29日 快晴　今暁余程冷シ　昼の内残暑強し
1785年　9月3日 天明5年　7月30日 晴　残暑強し　　下から続く　　・了、去月25日田野沢村前浜で越後船破船・中物流失)
1785年　9月4日 天明5年　8月1日 曇　(7月中所々御関所出人都合52人:碇関50人(御印紙出32・切手紙出28)・大間越1人(切手紙出)・野内1人(切手紙出)、当麦作相応出来に付饂飩10枚にて7文目宛商売願　　上に続く
1785年　9月5日 天明5年　8月2日 快晴　(去年の御初米は7月17日に差上げ当年は8月3日・植付日に引き合い当年は10日遅く節に引合6日遅い、御初米は去年まで6俵差上げていたが去年から3俵と仰せ出された物)
1785年　9月6日 天明5年　8月3日 曇　辰の刻小雨　(去月26日小泊前浜に十三町の船が破船、大間越御蔵に蛇が入り御米7俵食い破ったとのこと)
1785年　9月7日 天明5年　8月4日 晴
1785年　9月8日 天明5年　8月5日 晴
1785年　9月9日 天明5年　8月6日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日折々雨　未の刻より風強　申の刻より大風　夜中に及ぶ　風雨強し
1785年　9月10日 天明5年　8月7日 曇　昨日よりの大風巳の刻に至って和らぐ　今日時々風雨　辰の刻虹見ゆる　(昨夜の風で西の郭等に風倒木・横鍛治町の長屋潰れ)
1785年　9月11日 天明5年　8月8日 晴　冷気　(碇関御仮屋大手御門前大風で破損)
1785年　9月12日 天明5年　8月9日 晴
1785年　9月13日 天明5年　8月10日 曇　冷気　(本行・貞昌寺で強風のため風損・油川湊御番所屋根など吹剥げる、7日朝赤石村前浜・田浦村前浜に松前船が2艘破船、小泊沖で十三町船が破船、4日宇田前浜で油川船が破船)
1785年　9月14日 天明5年　8月11日 晴　冷気
1785年　9月15日 天明5年　8月12日 晴　朝の内小雨　巳の刻より晴　今日残暑　(6日の風で鰺ヶ沢湊で破船5艘)
1785年　9月16日 天明5年　8月13日 晴　残暑強し　未の下刻より雨
1785年　9月17日 天明5年　8月14日 曇　時々小雨　(去月6日夜浪岡組浪岡村に盗賊・村内の3人を入牢、先月晦日紺屋町に盗賊)
1785年　9月18日 天明5年　8月15日 朝の内小雨　未の刻頃小雨　(6日の大風で深浦で南部船・秋田船・当所の船の3艘が破船、6日の大風で大鰐組長峰村で御蔵百姓家(5間×7間)が潰れる)
1785年　9月19日 天明5年　8月16日 快晴
1785年　9月20日 天明5年　8月17日 快晴　(増館組杉・銀村の御鷹待ちのもの残らず死絶え……)
1785年　9月21日 天明5年　8月18日 快晴　申の刻より曇ル　酉の刻雨　酉の下刻雷発　夜に入り大雨
1785年　9月22日 天明5年　8月19日 曇　終日雨降
1785年　9月23日 天明5年　8月20日 晴　昨夜中風雨
1785年　9月24日 天明5年　8月21日 晴
1785年　9月25日 天明5年　8月22日 曇　未の刻より晴
1785年　9月26日 天明5年　8月23日 快晴
1785年　9月27日 天明5年　8月24日 曇　昨夜午(午以外には見えません:福眞)の刻過ぎより雨　今日終日雨
1785年　9月28日 天明5年　8月25日 曇　昨夜中風雨強　今日時々雨　(極窮の御手廻組・御留守居組に格段の御沙汰を以って御手当て銭60目・40目下し置かれる)
1785年　9月29日 天明5年　8月26日 晴
1785年　9月30日 天明5年　8月27日 快晴　(15日に深浦に入船の水主が病死)
1785年　10月1日 天明5年　8月28日 快晴　夜に入り曇ル　(24日鰺ヶ沢の強風で新御蔵に被害、24日横内・浦町組で風雨強く駒込川・荒川・河滝沢川で洪水・山畑は大風で吹倒れ、24日夜青森前浜に越後船が破船)
1785年　10月2日 天明5年　8月29日 曇　辰の上刻より時々雨
1785年　10月3日 天明5年　9月1日 晴　昨夜中小雨　(8月中所々御関所出人都合72人:碇ヶ関59人(御印紙出41・切手紙出18)・野内7人(御印紙出4・切手紙出3))
1785年　10月4日 天明5年　9月2日 晴　巳の刻過ぎ小雨　即刻晴　未の刻雨降
1785年　10月5日 天明5年　9月3日 晴　朝ノ内快晴　巳の刻より曇　午の刻過雨降　申刻より大雨　電雷発　否止　(先達ての大風で油川・後潟組で皆無同様……)
1785年　10月6日 天明5年　9月4日 曇　終日雨　冷気　申の刻より晴　夜に入り時々雨降　(去月24日の出水で広田組村々畑方水湛)
1785年　10月7日 天明5年　9月5日 晴　今朝岩木山ニ始て雪見ゆる
1785年　10月8日 天明5年　9月6日 陰晴　朝の内冷気　(極窮の御小姓組に御手当て銭60目下し置かれる、青森御蔵・蟹田御蔵に御用米不足(40俵と20俵)・補充の米が他の御蔵にもない)
1785年　10月9日 天明5年　9月7日 曇　昨夜中より終日雨
1785年 10月10日 天明5年　9月8日 曇　昨夜中風雨強し　今日申刻より晴　夜ニ入快晴ニなる　(御隣国灯油1升に付き代9文目位……)
1785年 10月11日 天明5年　9月9日 快晴　今朝霜強し
1785年 10月12日 天明5年　9月10日 晴　午の刻頃より曇　未の刻小雨　申の刻より晴ル　(去月24日横内組造道村の駒込川洪水・畑方4町4反余水湛・当作皆無)
1785年 10月13日 天明5年　9月11日 快晴　申の刻過ぎより小雨
1785年 10月14日 天明5年　9月12日 晴　(浦町横内赤石組並びに藤代組7か村・高杉組9か村いずれも皆無同様の作躰に付き……検地人見分御免・その他の地域からもいろいろ申し出ている)
1785年 10月15日 天明5年　9月13日 快晴　午の刻過ぎより曇
1785年 10月16日 天明5年　9月14日 快晴　(去る15日(江戸で)津軽屋三右衛門が御用向き出精につき俵子100俵5人扶持下し置かれる)
1785年 10月17日 天明5年　9月15日 曇　未の刻より雨　(野内町年寄並びに原別村久栗坂村浅虫村庄屋が御献上の鱈御本値段が1本に付1文目3分では引き合わず上納御免の申し入れ・当年は1本に付2文目3分に申付ける)
1785年 10月18日 天明5年　9月16日 晴　時々風立
1785年 10月19日 天明5年　9月17日 曇
1785年 10月20日 天明5年　9月18日 快晴　今朝霜強し
1785年 10月21日 天明5年　9月19日 曇　午の刻過ぎより小雨　夜に入り大雨　終夜降　(病気で極難の御徒小頭に御手当て30目を下し置かれる)
1785年 10月22日 天明5年　9月20日 曇　昨夜よりの雨今朝におよひ　今日時々風雨　(今暁岩木川出水・10歩に相成る)
1785年 10月23日 天明5年　9月21日 晴　今朝岩木山に雪見ゆる　(昨20日の洪水で和徳組清野袋村で刈り稲流失・男流死・死骸上がらず、石川大橋流失、古懸不動尊御出汗)
1785年 10月24日 天明5年　9月22日 快晴　(去る20日の洪水で藤崎川橋板・川ぞいの嶋立稲夥しく流失・宿川原辺り建家等も流失の由)
1785年 10月25日 天明5年　9月23日 曇　今日終日雨　(19日夜猿賀組尾上村で火災・火元高無村預け、先ごろの洪水で赤石組中村の高無が流れ稲差留め中に水死)
1785年 10月26日 天明5年　9月24日 晴　(拵(こしらえ:多分俵の作り方)の悪い米を御蔵に納税すると付き返される・米を持ち帰る道には米を買いたい者が待ち受けている・米止め(闇流通を取り締まる役人)につかまる者多い)
1785年 10月27日 天明5年　9月25日 晴
1785年 10月28日 天明5年　9月26日 快晴
1785年 10月29日 天明5年　9月27日 陰晴
1785年 10月30日 天明5年　9月28日 晴　卯の下刻小雨　(海老名弥門を御用人に)
1785年 10月31日 天明5年　9月29日 陰晴　朝の内晴　夜に入り雨

1785年　11月1日 天明5年　　9月30日 曇　終日雨降
1785年　11月2日 天明5年　　10月1日 曇　今朝岩木山並びに近山雪見ゆる （9月中所々御関所出人都合62人:碇関57人(御印紙出31・切手紙出26)・大間越5人(切手紙出)）
1785年　11月3日 天明5年　　10月2日 快晴
1785年　11月4日 天明5年　　10月3日 快晴
1785年　11月5日 天明5年　　10月4日 陰晴　今朝霜強し　水初めて氷候
1785年　11月6日 天明5年　　10月5日 曇 （それまでの4合扶持が三歩一引渡しに成ったらしい）
1785年　11月7日 天明5年　　10月6日 晴　昨夜中雨
1785年　11月8日 天明5年　　10月7日 晴 （去る4日夜長森村で火災・火元借地親類預け）
1785年　11月9日 天明5年　　10月8日 曇 （横内組長森村の火元の親類預け免許）
1785年 11月10日 天明5年　　10月9日 曇　昨夜中雨　今朝に至る　今日時々雨 （東長町の御蔵に袖乞らしい10歳くらい女子倒死）
1785年 11月11日 天明5年　10月10日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ （不届きな質屋を弘前払い・油屋を町内払いなど）
1785年 11月12日 天明5年　10月11日 晴　辰の刻より巳の刻まで雨 （広須組上木作村明菴寺に袖乞躰の女相果てる）
1785年 11月13日 天明5年　10月12日 快晴　昨夜中風雨　今朝金木山ニ雪一面ニ見ゆる
1785年 11月14日 天明5年　10月13日 晴　昨夜小雨
1785年 11月15日 天明5年　10月14日 快晴
1785年 11月16日 天明5年　10月15日 快晴　朝の内曇ル
1785年 11月17日 天明5年　10月16日 快晴　昨夜中雨
1785年 11月18日 天明5年　10月17日 曇
1785年 11月19日 天明5年　10月18日 曇　昨夜戌ノ中刻小雨　風立
1785年 11月20日 天明5年　10月19日 晴　昨夜中小雨
1785年 11月21日 天明5年　10月20日 晴
1785年 11月22日 天明5年　10月21日 曇　今暁より雪　今日初雷 （勘定奉行に栗山・館美の人事異動）
1785年 11月23日 天明5年　10月22日 晴　昨夜中時々小雨
1785年 11月24日 天明5年　10月23日 快晴
1785年 11月25日 天明5年　10月24日 曇　今日時々雨
1785年 11月26日 天明5年　10月25日 曇　昨夜中風雨　戌ノ刻頃雷発ス　時々稲光り　今朝雨
1785年 11月27日 天明5年　10月26日 快晴
1785年 11月28日 天明5年　10月27日 曇
1785年 11月29日 天明5年　10月28日 晴　朝の内曇ル　午の刻過ぎ雪降
1785年 11月30日 天明5年　10月29日 曇　時々雨
1785年　12月1日 天明5年　10月30日 快晴
1785年　12月2日 天明5年　　11月1日 快晴　今暁寅の刻過ぎ地震　今朝大雪
1785年　12月3日 天明5年　　11月2日 曇　昨夜亥の刻頃雷発ス　今日時々雨ふる
1785年　12月4日 天明5年　　11月3日 曇　昨夜中風雨強し　雷発ス　今日時々小雪 （10月中碇関出人都合62人(御印紙出48・切手紙出14)）
1785年　12月5日 天明5年　　11月4日 晴 （先代屋形様の宝塔の石切り出し等に褒美:銀2両・鳥目500文等）
1785年　12月6日 天明5年　　11月5日 曇　今日時々雨 （御献上の御鷹を御家老見分、去月26日夜壱番町に火・早速取鎮める）
1785年　12月7日 天明5年　　11月6日 晴　朝の内雨　巳の刻晴ル〃 （荘厳寺の先住聞岌に牢居仰せ付ける・その他誓願寺等にも処分）
1785年　12月8日 天明5年　　11月7日 快晴 （去月晦日横内組瀧沢村で火災・火元高無村預け）
1785年　12月9日 天明5年　　11月8日 曇　今日時々雨雪 （聞岌の弟で足軽目付の木村八十八に慎みを申付ける、先代屋形様の3回忌に伴う座当への御配当:265人に15文宛都合66文目2分5厘下し置かれる:判らん:福眞）
1785年 12月10日 天明5年　　11月9日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　余程積ル
1785年 12月11日 天明5年　11月10日 曇
1785年 12月12日 天明5年　11月11日 曇 （乞食どもへ配当:1人に付き10文・惣人数江1貫990文下し置かれる）
1785年 12月13日 天明5年　11月12日 曇　時々雪降
1785年 12月14日 天明5年　11月13日 晴　昨夜雪七寸程積ル　今日時々小雪
1785年 12月15日 天明5年　11月14日 曇　時々雪
1785年 12月16日 天明5年　11月15日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1785年 12月17日 天明5年　11月16日 晴　朝の内雪降 （木村八十八の慎み御免）
1785年 12月18日 天明5年　11月17日 晴
1785年 12月19日 天明5年　11月18日 曇
1785年 12月20日 天明5年　11月19日 曇　昨夜中雪　今朝迄六七寸積ル　今日時々雪　　下から続く　　今年は日数に引合16日節に引合4日遅い、御家中召使の者近年高給・若党80目・中間60目・小者はこれに準ずと指示）
1785年 12月21日 天明5年　11月20日 曇　今日冬至　時々雪ふる （当月15日暮六時より翌16日朝六時までに十三潟が残らず氷張る、去〃年は10月29日暮六時より11月朔日朝六時まで早川口より残らず氷張る・　　上に続く
1785年 12月22日 天明5年　11月21日 曇　今日時々雪
1785年 12月23日 天明5年　11月22日 晴　今日時々雪降
1785年 12月24日 天明5年　11月23日 晴　時々雪降　午の刻より晴ル （柏木組館野越村の御鷹待の者共9人に御手当て:1人に1斗宛、去年は青森で鱈漁なし）
1785年 12月25日 天明5年　11月24日 陰晴
1785年 12月26日 天明5年　11月25日 曇　時々小雪 （藤代組出木嶋村の88人の者江御米25俵下し置かれる、昨夜南溜池に菰包みの13・4才女子死骸）
1785年 12月27日 天明5年　11月26日 快晴
1785年 12月28日 天明5年　11月27日 晴　昨夜中雪二寸程積ル　今日朝の内曇　雪少々降 （東長町の切手紙御蔵の内に袖乞の者と見える50歳位の女倒死）
1785年 12月29日 天明5年　11月28日 快晴
1785年 12月30日 天明5年　11月29日 曇　時々雪降
1785年 12月31日 天明5年　　12月1日 曇　時々雪 （11月中所々御関所出人都合88人:碇ヶ関79人(御印紙出44・切手紙出35)・野内9人(切手紙出)）

1786年　1月1日 天明5年　12月2日 曇　終日雪降
1786年　1月2日 天明5年　12月3日 晴　朝の内曇ル　巳の刻より晴ル
1786年　1月3日 天明5年　12月4日 曇　時々雪吹　(掃除小人3人を新規召抱え添肩(そえかた:陸尺の前後で力を貸す者)を申付ける:5尺6寸1歩から5尺7寸)
1786年　1月4日 天明5年　12月5日 曇　昨夜中より終日雪吹
1786年　1月5日 天明5年　12月6日 曇　昨夜中より今日時々雪吹　夜ニ入り晴ル　今日寒ニ入　初雪より今日まで三尺ほど積る
1786年　1月6日 天明5年　12月7日 快晴　(来る13・4日頃津軽屋弥兵衛が江戸表江金2千両を差登・足軽の貸付と飛脚等を帯刀御免とする)
1786年　1月7日 天明5年　12月8日 晴
1786年　1月8日 天明5年　12月9日 曇　昨夜中雨　今日時々風雨　(御蔵内の米俵の管理が不適切として御蔵奉行(御馬廻組)4人を御留守居組に・御蔵立会(御手廻組)を退役とする)
1786年　1月9日 天明5年　12月10日 晴
1786年　1月10日 天明5年　12月11日 快晴
1786年　1月11日 天明5年　12月12日 曇　昨夜小雨
1786年　1月12日 天明5年　12月13日 昨夜中より終日大雪吹
1786年　1月13日 天明5年　12月14日 晴　昨夜中大雪吹　頃日寒気強し
1786年　1月14日 天明5年　12月15日 晴
1786年　1月15日 天明5年　12月16日 晴　(昨15日慈雲院にしとみ頭巾帯刀の15・6人の夜盗が入る・衣類・合羽などを盗み取る、去秋より当春まで御蔵奉行で不埒の勤務の馬廻組が御留守意組に役下げ)
1786年　1月16日 天明5年　12月17日 快晴　今日暖なり
1786年　1月17日 天明5年　12月18日 快晴　朝の内寒気　昼に至り暖　夜に入り雨降　(寺院方を今夜より油断なく廻るよう別段急廻り(小山太郎兵衛など5人)命ず)
1786年　1月18日 天明5年　12月19日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨　今日雪ふる
1786年　1月19日 天明5年　12月20日 曇　時々小雪降
1786年　1月20日 天明5年　12月21日 曇　昨夜中より雪吹　終日雪
1786年　1月21日 天明5年　12月22日 曇
1786年　1月22日 天明5年　12月23日 晴　(7月6日夜浪岡村の盗み男に5鞭と四里追放・その仲間に鞭なし三里追放、大金を差上げた郷士を代々御目見に・生涯年々50俵・御料理頂戴など)
1786年　1月23日 天明5年　12月24日 晴
1786年　1月24日 天明5年　12月25日 曇　昨夜中より終日雪降
1786年　1月25日 天明5年　12月26日 曇　昨余大雪　風立　今日時々雪
1786年　1月26日 天明5年　12月27日 曇　時々雪降　(御払い米値段1俵に付き30目5分2厘・酒1升が1文目9分4厘を1文目6分とする、東長町切手紙御蔵前に袖乞い風の13・4男倒死)
1786年　1月27日 天明5年　12月28日 曇　朝の内雪　(褒美沢山:大工頭に銀3両など)
1786年　1月28日 天明5年　12月29日 晴　(正月4日立飛脚に御吉礼金200両のほかに300両登らせる)
1786年　1月29日 天明5年　12月30日 曇　昨夜中よりの雨5寸程積ル　今日終日雪　下から続く　午ノ下刻頃朧月　夜ノ如くニ成り暫時明に成ル(原文に忠実にしたつもりである、現代風には下の欄外に)
1786年　1月30日 天明6年　正月1日　曇　朝之内西風快晴　巳之刻過ぎより曇る　終日雪　昨夜戌刻過ぎ地震　今日午ノ刻日蝕皆既と有之候得共爰元ニてハ八分位かけ相見得る　但曇候ニ付聢とふ得相見　上に続く
1786年　1月31日 天明6年　正月2日　快晴
1786年　2月1日 天明6年　正月3日　快晴　(昨夜親方町に辻斬り?)
1786年　2月2日 天明6年　正月4日　快晴　(御家中の家来が昨夜死亡(一昨夜辻斬り被害の男)、津軽和三郎殿の知行米2000石の津出を申し出る)
1786年　2月3日 天明6年　正月5日　晴　午の刻曇ル　未の上刻雪　申の刻より晴
1786年　2月4日 天明6年　正月6日　晴　巳の刻頃地震　時々　曇　小雪　今日節分
1786年　2月5日 天明6年　正月7日　晴　時々曇　小雪
1786年　2月6日 天明6年　正月8日　曇　昨夜中雪吹　東風烈　昨夜より今日まで深雪四尺程
1786年　2月7日 天明6年　正月9日　晴　申の刻より曇　雪降　夜に入り風立
1786年　2月8日 天明6年　正月10日　晴　時々雪
1786年　2月9日 天明6年　正月11日　快晴　朝の内極寒
1786年　2月10日 天明6年　正月12日　曇　今日時々雪　夜に入り雨
1786年　2月11日 天明6年　正月13日　曇　終日雪　吹夜に入る
1786年　2月12日 天明6年　正月14日　晴　未の刻少し雷　下から続く　乱暴・町同心が取り押さえる)
1786年　2月13日 天明6年　正月15日　曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今日時々雪　未の刻より雨　申の刻より西風強　夜に入風強　(昨夜暮六時過ぎ下土手町小商人中村佐助と申す者の宅江大組足軽2人が押込み　上に続く
1786年　2月14日 天明6年　正月16日　曇　今日時々雪吹
1786年　2月15日 天明6年　正月17日　曇　昨夜中風立　今日時々雪降り　(12月中碇関出人都合59人(御印紙出28・切手紙出31))
1786年　2月16日 天明6年　正月18日　曇　昨夜中雪吹　今日終日余寒強シ
1786年　2月17日 天明6年　正月19日　曇　昨夜中雪吹　今日終日風吹　余寒強し
1786年　2月18日 天明6年　正月20日　快晴　昨夜中雪　今日少し暖気　今晩より晴る
1786年　2月19日 天明6年　正月21日　曇　昨夜中より終日雪
1786年　2月20日 天明6年　正月22日　曇　昨夜中より終日雪　下から続く　酒狂い騒動の大組足軽の御給分(30俵です:福眞)のうち15俵召上げ・長柄の者に役下げ)
1786年　2月21日 天明6年　正月23日　晴　昨夜中より今朝まて雪　二尺余積ル　但旧臘より段々之積高弘前町々雪下等にて所ニ寄り街道人馬往来止ル　尤店下通路往(遂と記述)来之大雪　(去る13日下土手町で　上に続く
1786年　2月22日 天明6年　正月24日　曇　昨夜中雪　今日時々雪　余寒強し
1786年　2月23日 天明6年　正月25日　晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1786年　2月24日 天明6年　正月26日　晴　朝の内曇　小雪
1786年　2月25日 天明6年　正月27日　晴　(油川組岩瀧村の者共が渇命・青森御蔵から1人に米5升宛御手当下し置かれる)
1786年　2月26日 天明6年　正月28日　快晴　今夜丑の刻過ぎ地震　下から続く　旧臘29日御金蔵に受取りに行った御家老与力の知行が謀判で既にない)
1786年　2月27日 天明6年　正月29日　曇　昨夜少々雪降　今日巳の刻過ぎ地震少々　下から続く　にて米拵相成り難き分の俵数大部3890俵籾納を求められる・籾の入りが悪く平均三合摺の積りで引き受ける、　上に続く
1786年　2月28日 天明6年　2月1日 晴　(正月中所々御関所出人都合57人:碇関55人(御印紙出36・切手紙出19)・野内2人(切手紙出)、浦町・横内・浪岡・増館・大鰐・藤代・高杉・広田の八組の御収納米の内悪作　上に続く
正月1日の天気欄　:　曇　朝の内西風快晴　巳の刻過ぎより曇る　終日雪　昨夜戌の刻過ぎ地震　今日午の刻日蝕皆既とこれあり候らえども爰元(ここもと:当地ではの意・此処許とも)にては八分位欠け相見える　ただし曇り候に付きしかと相見えず　午ノ下刻頃朧月　夜の如くになり暫時明になる

1786年　3月1日 天明6年　2月2日 快晴 (江差辺りから鯡作業の人集めあり・差留めるよう指示している、戒香院様(先代津軽信寧)御法事に伴う大赦:8人を弘前並びに町内徘徊御免)
1786年　3月2日 天明6年　2月3日 快晴 (去月29日熊嶋村小売酒商売家に帯刀の五人組が押込み深手を負わせる)
1786年　3月3日 天明6年　2月4日 晴　昨夜雪少々 (去る4日朝赤石組関村で漁船が難船・16人中6人海死)
1786年　3月4日 天明6年　2月5日 曇　今朝少之内灰降　午の刻より雨　申の刻過ぎよりみそれ
1786年　3月5日 天明6年　2月6日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1786年　3月6日 天明6年　2月7日 晴　昨夜雪少々　朝の内曇
1786年　3月7日 天明6年　2月8日 曇　今日時々雨　尤旧冬雪降敷候以来頃日まて之雪之積五尺余　所ニ寄り六尺余降敷候処　今日の雨より段々雪消ニ至ル
1786年　3月8日 天明6年　2月9日 快晴
1786年　3月9日 天明6年　2月10日 曇　昨夜中雨降　丑の刻頃雷発　今朝風強　今日時々雪吹
1786年　3月10日 天明6年　2月11日 曇　時々雪吹
1786年　3月11日 天明6年　2月12日 曇　時々雪吹
1786年　3月12日 天明6年　2月13日 晴
1786年　3月13日 天明6年　2月14日 晴　昨夜雪降
1786年　3月14日 天明6年　2月15日 晴 (3日記述の5人組中4人召捕る・入牢)
1786年　3月15日 天明6年　2月16日 快晴
1786年　3月16日 天明6年　2月17日 陰晴
1786年　3月17日 天明6年　2月18日 快晴　暖和 (此の度格段御省略方仰付けられ候に付き諸在勤の面々一統当3月より9月まで居勤仰付けられ候えども……(転勤旅費が出せなかったのだ:福眞)、去月7日今夜町で雪潰れ)
1786年　3月18日 天明6年　2月19日 快晴　暖和
1786年　3月19日 天明6年　2月20日 曇　時々小雨　暖和 (過分の不納を申し立てた庄屋を組払い)
1786年　3月20日 天明6年　2月21日 曇　昨夜中雨
1786年　3月21日 天明6年　2月22日 曇　昨夜中風強し　雪今朝に及ぶ
1786年　3月22日 天明6年　2月23日 晴　朝の内少々雪
1786年　3月23日 天明6年　2月24日 快晴
1786年　3月24日 天明6年　2月25日 快晴　下から続く　三上鋭助を常々不行跡その上人品不似合い不宜出会い等致し候に付き弘前より五里四方追放)
1786年　3月25日 天明6年　2月26日 晴 (長濱寄物番人申し立て:長濱村が全部空き家になり御番所1軒だけになった・海辺で破船があっても人夫等も出せない・隣の出来嶋村に居て宜しいか問い合わせている、　上に続く
1786年　3月26日 天明6年　2月27日 曇　今日時々雨
1786年　3月27日 天明6年　2月28日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　朝の内大霞　終日雨降　暮頃霞少
1786年　3月28日 天明6年　2月29日 晴　朝の内小雨　昨今暖和
1786年　3月29日 天明6年　2月30日 晴
1786年　3月30日 天明6年　3月1日 曇 (2月中所々御関所出人都合52人:碇関51人(御印紙出25・切手紙出26)・野内1人(切手紙出))
1786年　3月31日 天明6年　3月2日 陰晴　未の刻過ぎ地震　下から続く　氷明け・当年は日数に引合24日遅く節に引合13日遅い)
1786年　4月1日 天明6年　3月3日 晴　昨夜雨強 (極窮の御手廻組に内々に御銭60目下し置かれる)　下から続く　十三潟が早川口まで残らず氷明ける・去る巳年は2月6日暮六時より7日朝六時までに　上に続く
1786年　4月2日 天明6年　3月4日 曇　巳の刻過ぎより小雨雪 (堀越組代官が一ノ渡村の小者共が困窮に付き去る御収納米上納方御免願・詮議の上家老が断る、2月晦日夜九時過ぎより当月朔日朝六時までに　上に続く
1786年　4月3日 天明6年　3月5日 晴　昨夜中雪降
1786年　4月4日 天明6年　3月6日 快晴　今暁霜
1786年　4月5日 天明6年　3月7日 快晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1786年　4月6日 天明6年　3月8日 快晴
1786年　4月7日 天明6年　3月9日 快晴 (去る正月に新坂で雪船を御医者に当てて怪我させた御家中の家来を弘前より五里四方追放)
1786年　4月8日 天明6年　3月10日 快晴　今朝霜
1786年　4月9日 天明6年　3月11日 快晴 (惣酒屋共より酒値段値上げ願?(判らん:福眞))
1786年　4月10日 天明6年　3月12日 曇　今暁寅の刻より終日雨降 (昨夜五つ半時過ぎ和徳町で少々燃える・火元慎み)
1786年　4月11日 天明6年　3月13日 曇
1786年　4月12日 天明6年　3月14日 晴　朝の内曇　今暁霜 (一昨11日夜北横町で出火・不寝番などが火を鎮めお酒を貰う)
1786年　4月13日 天明6年　3月15日 晴　朝の内雪少々
1786年　4月14日 天明6年　3月16日 快晴　今朝霜 (先月27日屋形様御婚礼、高屋半左衛門(大目付)から熊胆目形1文目御払い願・有合せなく5分下し置かれる)
1786年　4月15日 天明6年　3月17日 快晴　今朝雪少々 (去る15日浦町組堤村で火災・火元他村預け)
1786年　4月16日 天明6年　3月18日 曇　昨夜雨
1786年　4月17日 天明6年　3月19日 快晴　今朝霜
1786年　4月18日 天明6年　3月20日 快晴　今朝霜
1786年　4月19日 天明6年　3月21日 快晴　時々風立
1786年　4月20日 天明6年　3月22日 快晴　今朝霜 (浦町組堤村の男(17日記述の火元と同じ名前)の戸〆免許)
1786年　4月21日 天明6年　3月23日 晴　昨夜中雨
1786年　4月22日 天明6年　3月24日 快晴
1786年　4月23日 天明6年　3月25日 快晴
1786年　4月24日 天明6年　3月26日 快晴　今朝霜 (御婚礼の配当として座当138人・盲女127人に15文宛下し置かれる)
1786年　4月25日 天明6年　3月27日 快晴 (去年の阿芙蓉が時節遅れでできなかったのかな?)
1786年　4月26日 天明6年　3月28日 曇　昨夜小雨　今日時々小雨 (土手町鈴木利兵衛借家の伊勢屋庄兵衛を昨晩弘前払い・庄兵衛は御手廻斉藤八郎左衛門の弟でそこに居る・渡すよう申付け弘前払いとする)
1786年　4月27日 天明6年　3月29日 快晴　頃日暖和　今日別て暖気
1786年　4月28日 天明6年　4月1日 曇　昨夜中風雨 (3月中所々御関所出人都合76人:碇関73(御印紙出31・切手紙出42)・野内3人(切手紙出))　下から続く　外馬屋(2間×2間)・米10俵・籾10俵・火元他村預け)
1786年　4月29日 天明6年　4月2日 曇　時々小雨 (昨夜四つ時頃大鰐組乳井村で出火2軒(3間×7間:火元高無・土蔵(2間半×3間)・外馬屋(2間×4間)・米15俵・粟2俵・もやし種4斗、2間×4間:類焼高無・　上に続く
1786年　4月30日 天明6年　4月3日 快晴

1786年　5月1日 天明6年　4月4日 陰晴
1786年　5月2日 天明6年　4月5日 曇
1786年　5月3日 天明6年　4月6日 快晴　今朝霜
1786年　5月4日 天明6年　4月7日 快晴　酉の刻過ぎ小雨　(三馬屋で越後船の水主が病死)
1786年　5月5日 天明6年　4月8日 晴　申の刻過ぎより雨
1786年　5月6日 天明6年　4月9日 曇　昨夜中風雨強し　今朝に及ぶ　辰の刻より丸雪降
1786年　5月7日 天明6年　4月10日 晴　(博打打の藤代組廻関村の百姓を藤代・高杉組払い)
1786年　5月8日 天明6年　4月11日 快晴　今朝霜　暖和
1786年　5月9日 天明6年　4月12日 曇　時々雨　申の刻より風雨強し
1786年　5月10日 天明6年　4月13日 曇　昨夜中風雨強　今日時々雨　午の刻過ぎ水雪降　(野内町と浅虫村の境に死骸流れ寄せる)
1786年　5月11日 天明6年　4月14日 曇　昨夜風雨　今朝に至る
1786年　5月12日 天明6年　4月15日 晴
1786年　5月13日 天明6年　4月16日 晴　辰の刻頃曇　未の刻過ぎより小雨降
1786年　5月14日 天明6年　4月17日 曇
1786年　5月15日 天明6年　4月18日 晴
1786年　5月16日 天明6年　4月19日 曇　時々小雨
1786年　5月17日 天明6年　4月20日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　頃日東風にて不勝積(最後の3文字は正しいと思っているが意味不明:福眞)　(去る2月より油川・後潟組代官加役の福眞伴左衛門が腰痛・御免願・了)
1786年　5月18日 天明6年　4月21日 曇
1786年　5月19日 天明6年　4月22日 曇　時々小雨　(御発駕の日限を来る29日と仰せ出される)
1786年　5月20日 天明6年　4月23日 曇　午の刻より晴る〃
1786年　5月21日 天明6年　4月24日 快晴
1786年　5月22日 天明6年　4月25日 快晴
1786年　5月23日 天明6年　4月26日 晴
1786年　5月24日 天明6年　4月27日 曇　辰の刻より雨時々降
1786年　5月25日 天明6年　4月28日 曇
1786年　5月26日 天明6年　4月29日 快晴　少々風立　(昨28日和徳組で火災3軒・火元高無他村預け)
1786年　5月27日 天明6年　4月30日 快晴　(去年8月入牢の秋田の馬盗人今朝病死)
1786年　5月28日 天明6年　5月1日 晴　(4月中所々御関所出人都合232人:碇関227人(御印紙出78・切手紙出149)・大間越1人(切手紙出)・野内4人(切手紙出)、去る27日山田彦兵衛が病死)
1786年　5月29日 天明6年　5月2日 快晴　(当御発駕日限は延引)
1786年　5月30日 天明6年　5月3日 快晴
1786年　5月31日 天明6年　5月4日 快晴
1786年　6月1日 天明6年　5月5日 快晴　申の刻村雨雷発す　否(いなや:直ちにの意か:福眞)止　昨今暑気
1786年　6月2日 天明6年　5月6日 曇　時々雨　東風立冷シ
1786年　6月3日 天明6年　5月7日 晴
1786年　6月4日 天明6年　5月8日 曇　東風立　冷シ
1786年　6月5日 天明6年　5月9日 快晴　朝の内曇
1786年　6月6日 天明6年　5月10日 快晴　朝の内曇
1786年　6月7日 天明6年　5月11日 快晴　朝の内曇　午の刻雷発
1786年　6月8日 天明6年　5月12日 曇　昨夜中雷雨強し　今日時々雨
1786年　6月9日 天明6年　5月13日 晴
1786年　6月10日 天明6年　5月14日 快晴
1786年　6月11日 天明6年　5月15日 晴
1786年　6月12日 天明6年　5月16日 快晴
1786年　6月13日 天明6年　5月17日 曇　午の刻頃より時々小雨　東風立　涼シ
1786年　6月14日 天明6年　5月18日 曇　時々風立
1786年　6月15日 天明6年　5月19日 曇　入梅
1786年　6月16日 天明6年　5月20日 曇　終日雨降　(賭博の11人を詮議のために庄屋等に預ける)
1786年　6月17日 天明6年　5月21日 曇　昨夜中雨　朝に及ぶ　巳の刻過ぎ晴
1786年　6月18日 天明6年　5月22日 快晴　朝の内曇
1786年　6月19日 天明6年　5月23日 快晴　朝の内曇
1786年　6月20日 天明6年　5月24日 曇　昨戌の刻より雷発す　夜中時々雨
1786年　6月21日 天明6年　5月25日 曇
1786年　6月22日 天明6年　5月26日 曇　未の刻過ぎ小雨
1786年　6月23日 天明6年　5月27日 快晴
1786年　6月24日 天明6年　5月28日 快晴　(昨夜在府町に火災・早速欠集まった御徒等に銀2両宛下し置かれる、20日記述の賭博者の疑いはれ村預け免許)
1786年　6月25日 天明6年　5月29日 晴　(極窮の御中小姓に御内々の御手当てとして50目下し置かれる)
1786年　6月26日 天明6年　6月1日 晴　(5月中所々御関所出人都合77人:碇関66人(御印紙出30・切手紙出36)・大間越7人(御印紙出2・切手紙出5)・野内4人(切手紙出))
1786年　6月27日 天明6年　6月2日 晴
1786年　6月28日 天明6年　6月3日 晴
1786年　6月29日 天明6年　6月4日 曇　時々風吹
1786年　6月30日 天明6年　6月5日 曇　今暁より雨　終日降

1786年　7月1日 天明6年　6月6日 曇　朝の内雨
1786年　7月2日 天明6年　6月7日 曇　時々小雨　今日半夏　(去る4日朝明け前木作新田牛潟村で火災(4間×7間半:百姓)・火元村預け)
1786年　7月3日 天明6年　6月8日 陰晴　(4日出火の牛潟村の百姓の村預け免許)
1786年　7月4日 天明6年　6月9日 陰晴
1786年　7月5日 天明6年　6月10日 快晴
1786年　7月6日 天明6年　6月11日 快晴
1786年　7月7日 天明6年　6月12日 快晴　暑気
1786年　7月8日 天明6年　6月13日 快晴　朝の内曇ル
1786年　7月9日 天明6年　6月14日 曇　今暁より曇　辰の刻過ぎより雨　終日降
1786年　7月10日 天明6年　6月15日 曇　今暁より終日雨
1786年　7月11日 天明6年　6月16日 晴　朝の内曇　今朝戌の刻月蝕九歩
1786年　7月12日 天明6年　6月17日 快晴　申の刻過ぎより雨　(近年灯油払底・他領出硬く差し止める)
1786年　7月13日 天明6年　6月18日 曇　今日終日雨　雷発す　朝の内風強し
1786年　7月14日 天明6年　6月19日 晴　午の刻過ぎより曇ル　終日東風
1786年　7月15日 天明6年　6月20日 晴　昼過ぎより東風
1786年　7月16日 天明6年　6月21日 晴　東風立
1786年　7月17日 天明6年　6月22日 晴　東風立　(五山に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける)
1786年　7月18日 天明6年　6月23日 晴　東風立
1786年　7月19日 天明6年　6月24日 快晴　土用に入
1786年　7月20日 天明6年　6月25日 快晴
1786年　7月21日 天明6年　6月26日 快晴　(江戸・上方往来の御家中の餞別・土産の停止を改めて申し触れる)
1786年　7月22日 天明6年　6月27日 晴　(先頃駒越組五所村で庄屋の取り扱い不宜として徒党・徒党に加わった百姓に意見を加えたその弟の百姓に御賞の鳥目1貫文下し置かれる)
1786年　7月23日 天明6年　6月28日 快晴　未之刻過ぎ雷発ス
1786年　7月24日 天明6年　6月29日 晴　未の刻より曇　申の刻より雨
1786年　7月25日 天明6年　7月1日 曇　昨夜中より雨今朝ニ至ル　終日東風立　(6月中碇関出人都合53人(御印紙出27・切手紙出26))
1786年　7月26日 天明6年　7月2日 曇　昨夜中より小雨　今日時々降　東風立　冷　(御姫様方御縁組御祝儀として座当・盲女(人数不明)に御祝儀1人に20文宛配当)
1786年　7月27日 天明6年　7月3日 曇　東風立　冷
1786年　7月28日 天明6年　7月4日 曇　東風立　冷　未の刻地震　(長勝寺・神宮寺・本行寺・薬王院に五穀成就・日和揚の御祈祷を仰せ付ける)
1786年　7月29日 天明6年　7月5日 曇
1786年　7月30日 天明6年　7月6日 曇
1786年　7月31日 天明6年　7月7日 曇　時々晴　(今日暑気強く御礼廻り御容赦)
1786年　8月1日 天明6年　7月8日 曇　時々晴
1786年　8月2日 天明6年　7月9日 曇　今暁雨　辰の刻雷発
1786年　8月3日 天明6年　7月10日 曇　今暁寅ノ刻過より雷強シ　大雨　今朝辰ノ刻過より時々大雨　巳ノ刻過より晴ル　午ノ刻頃雷発ス　村雨所ニ寄強
1786年　8月4日 天明6年　7月11日 晴　今日暑気強　(打続天気不勝に付芝居役者共の送り返しを申付ける)
1786年　8月5日 天明6年　7月12日 快晴　暑気強
1786年　8月6日 天明6年　7月13日 晴　未の刻過ぎより雨　夜に入　(博打をしていた袋町付近の男4人を別御用の面々が縄にして五人組に預ける、昨夜九時頃最勝院門前の女房が御家中宅に入り込む・手打ちにする)
1786年　8月7日 天明6年　7月14日 晴　未の刻過ぎより雨　暑強
1786年　8月8日 天明6年　7月15日 晴　申の刻より曇　小雨　夜に入る　今日暑
1786年　8月9日 天明6年　7月16日 晴　未の刻より曇　申の刻雨　酉の刻晴　時々風立
1786年　8月10日 天明6年　7月17日 晴　大暑　未の刻より曇　雨降　雷発　酉の刻より晴　(13日に博打で捕まった4人を弘前より五里四方追放・弘前払い・家屋敷等は妻子等に下し置かれる)
1786年　8月11日 天明6年　7月18日 晴　朝の内雷発　下から続く　当年は昨年の植付日に引合2日早く節に引合4日遅い)
1786年　8月12日 天明6年　7月19日 曇　残暑強　時々小雨　未ノ刻過雷甚　暫之内大雨　申ノ刻過晴　(5月13日植付の初米の出穂大鰐村加賀助と兵左衛門が差上げる・去年は4月26日植付7月4日差上げる・　上に続く
1786年　8月13日 天明6年　7月20日 曇　午の刻過ぎ雷発　雨降
1786年　8月14日 天明6年　7月21日 曇　暑気強　未の刻過ぎ雨降　申の刻晴　夜中雨
1786年　8月15日 天明6年　7月22日 晴　暑気強　午の刻過ぎ村雨強
1786年　8月16日 天明6年　7月23日 快晴　大暑　未の刻過ぎ雷発　村雨　(金木組下岩崎村で庄屋を交代させなければ代官役所・庄屋宅を焼き捨てるとの立て札をした男に鞭刑5鞭と居村より五里四方追放・庄屋を戸〆)
1786年　8月17日 天明6年　7月24日 快晴　残暑強　午の刻過ぎ雷発　村雨
1786年　8月18日 天明6年　7月25日 快晴　(このころ米留め・別御用等が多くの無手形米を摘発している)
1786年　8月19日 天明6年　7月26日 快晴　残暑強
1786年　8月20日 天明6年　7月27日 晴　巳の刻過ぎより午の刻まで雨降　大暑
1786年　8月21日 天明6年　7月28日 曇　申の刻過ぎ雨降　(江戸登りの御用人海老名弥門に一粒金丹30粒(下し置かれた記録は久しぶり:福眞))
1786年　8月22日 天明6年　7月29日 曇　昨夜中雨　巳の刻より晴
1786年　8月23日 天明6年　7月30日 晴　昨夜中より余程冷
1786年　8月24日 天明6年　8月1日 快晴　夜に入冷　(7月中所々御関所出人都合69人:碇ヶ関68人(御印紙出46・切手紙出22)・大間越1人(切手紙出))
1786年　8月25日 天明6年　8月2日 曇　夜に入冷
1786年　8月26日 天明6年　8月3日 快晴　今晩冷
1786年　8月27日 天明6年　8月4日 晴　今晩申の刻頃虹見ゆる　(赤石組・大鰐組の沢の入り口に稲虫付く・長勝寺に虫除け五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1786年　8月28日 天明6年　8月5日 快晴
1786年　8月29日 天明6年　8月6日 陰晴　朝の内晴　午の刻より曇　蒸暑　酉の刻過ぎより雨降　夜に入り風
1786年　8月30日 天明6年　8月7日 曇　昨夜中の風雨今朝に及ぶ　今日時々雨降　(一昨夜八時刻青森浜町から出火(家12軒借家6軒焼失・潰家1軒半潰れ1軒)・火元寺落ち)
1786年　8月31日 天明6年　8月8日 晴　今日時々東風立

1786年　9月1日 天明6年　8月9日 晴　午の刻より曇　昨今冷　申の刻より雨降
1786年　9月2日 天明6年　8月10日 曇　昨夜中雨　今日暮頃小雨　暑気　下から続く　御上屋敷御長屋残らず床上水2尺位・柳島住居の御家中を舟で御上屋敷に引取る等々・この度の洪水は寛保2年8月以上の水高)
1786年　9月3日 天明6年　8月11日 快晴　残暑　下から続く　成られず長途の御旅行あそばされ難く候に付き今暫く御養生成され御快方次第御発駕……、去月18日江戸の御上屋敷床下に水・床まで2寸6・7歩・　上に続く
1786年　9月4日 天明6年　8月12日 曇　冷気　(御初米3俵差上げる・去年は8月3日・今年は植付日に引合8日早く節に引合2日早い、屋形様御下之御痛所に今聢(がつへん:残の偏となっているが誤字では:福眞)と　上に続く
1786年　9月5日 天明6年　8月13日 曇　卯の刻過ぎ雷発　朝の内小雨
1786年　9月6日 天明6年　8月14日 晴　午の刻より曇　申の刻より雨降
1786年　9月7日 天明6年　8月15日 曇　今朝虹見ゆる　東風立冷
1786年　9月8日 天明6年　8月16日 快晴　残暑強し
1786年　9月9日 天明6年　8月17日 快晴
1786年　9月10日 天明6年　8月18日 晴　午の刻過ぎより雨　雷強
1786年　9月11日 天明6年　8月19日 快晴　昨夜雨降
1786年　9月12日 天明6年　8月20日 晴　朝の内曇
1786年　9月13日 天明6年　8月21日 晴
1786年　9月14日 天明6年　8月22日 晴　昨夜丑の刻過ぎより雷雨　卯の刻頃止む　(去る5日夜青森町の火元の寺落ち免許)
1786年　9月15日 天明6年　8月23日 晴　昨夜中雨降
1786年　9月16日 天明6年　8月24日 晴
1786年　9月17日 天明6年　8月25日 曇　時々小雨
1786年　9月18日 天明6年　8月26日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1786年　9月19日 天明6年　8月27日 晴
1786年　9月20日 天明6年　8月28日 晴　未の刻過ぎ雨降
1786年　9月21日 天明6年　8月29日 曇　昨夜中より終日雨降
1786年　9月22日 天明6年　9月1日 晴　(多くの御家中が三上鋭助を義絶している、8月中所々御関所出人都合77人:碇ヶ関69人(御印紙出30・切手紙出39)・野内8人(御印紙出))
1786年　9月23日 天明6年　9月2日 晴
1786年　9月24日 天明6年　9月3日 曇　昨夜より雨　辰の刻過より晴ル
1786年　9月25日 天明6年　9月4日 曇　昨夜中雨　(病死した白取数馬の子に格段の御沙汰を以って御銭70目下し置かれる、田畑に虫付き虫除けの御祈祷の申し出・何宗でも良いから祈祷を行った寺院に御賄を下し置かれる)
1786年　9月26日 天明6年　9月5日 快晴
1786年　9月27日 天明6年　9月6日 晴
1786年　9月28日 天明6年　9月7日 曇　昨夜より終日雨　時々風立
1786年　9月29日 天明6年　9月8日 曇　昨夜中風強
1786年　9月30日 天明6年　9月9日 晴　昨夜中風雨強
1786年　10月1日 天明6年　9月10日 快晴
1786年　10月2日 天明6年　9月11日 晴　時々風立　申の刻過ぎ小雨
1786年　10月3日 天明6年　9月12日 晴
1786年　10月4日 天明6年　9月13日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻前地震
1786年　10月5日 天明6年　9月14日 晴　今朝西の方虹見ゆる　朝の内冷気　巳の刻地震
1786年　10月6日 天明6年　9月15日 快晴
1786年　10月7日 天明6年　9月16日 快晴　(御家老津軽内膳御役職召し放たれ閉門、勘定奉行に御奉公遠慮、御馬廻の御給分の内20俵1人扶持と勤料を召上げ御目見え以下御留守居支配・その子御中小姓を退役に)
1786年　10月8日 天明6年　9月17日 快晴　(当御下向日限8日と仰せ出される)
1786年　10月9日 天明6年　9月18日 曇　朝の内晴　今日未の刻頃より霞強く　夜に入り晴
1786年 10月10日 天明6年　9月19日 晴　今朝霜強シ　(当月8日公方様(10代将軍家治)薨御遊ばされる旨申し来り候、今日より7日の内鳴物・普請・作事を・家業殺生は3日停止を仰せ付ける)
1786年 10月11日 天明6年　9月20日 快晴
1786年 10月12日 天明6年　9月21日 快晴　今朝霜強シ　(当月7・8日の大風で小国・切明両村田畑作で粟・稗・蕎麦・粒油の過半が吹こほ蓮(吹きこぼれ)る、田沼主殿頭様御老中役御免)
1786年 10月13日 天明6年　9月22日 晴
1786年 10月14日 天明6年　9月23日 晴
1786年 10月15日 天明6年　9月24日 晴
1786年 10月16日 天明6年　9月25日 快晴　霜強シ　(関札御用今昼到着)
1786年 10月17日 天明6年　9月26日 快晴
1786年 10月18日 天明6年　9月27日 快晴
1786年 10月19日 天明6年　9月28日 快晴　夜に入り風雨　(八時過ぎ御着城)
1786年 10月20日 天明6年　9月29日 晴　申の刻頃より風雨　夜に入り強
1786年 10月21日 天明6年　9月30日 曇　時々雨降　今朝水雪　未の刻より雪降　今日初雪なり
1786年 10月22日 天明6年　10月1日 曇　(9月中所々御関所出人都合100人:碇ヶ関99人(御印紙出46・切手紙出53)・野内1人(切手紙出))
1786年 10月23日 天明6年　10月2日 晴　昨夜中時々小雨　今朝虹見ゆる
1786年 10月24日 天明6年　10月3日 晴　昨夜雨降　(昨2日和徳組悪戸村で火災1軒・火元村預け)
1786年 10月25日 天明6年　10月4日 晴　昨夜中雨
1786年 10月26日 天明6年　10月5日 曇　昨夜中より終日雨
1786年 10月27日 天明6年　10月6日 快晴　昨夜中雨　(悪戸村の火元の村預け御免)
1786年 10月28日 天明6年　10月7日 快晴　今晩霜強し
1786年 10月29日 天明6年　10月8日 晴
1786年 10月30日 天明6年　10月9日 曇
1786年 10月31日 天明6年　10月10日 曇

1786年　11月1日 天明6年　10月11日 快晴
1786年　11月2日 天明6年　10月12日 快晴
1786年　11月3日 天明6年　10月13日 快晴 （高岡江の鮭2尺を御家老・御用人見分）
1786年　11月4日 天明6年　10月14日 晴 （勘定奉行申し出で候:当年南部領不作米高値……）
1786年　11月5日 天明6年　10月15日 快晴 （東長町切手紙御蔵で袖乞と見える20歳位女子が倒死）
1786年　11月6日 天明6年　10月16日 晴　午の刻頃より曇　未の刻頃雷発　則刻より雨降
1786年　11月7日 天明6年　10月17日 曇　昨夜中より雨　今日にいたる
1786年　11月8日 天明6年　10月18日 晴
1786年　11月9日 天明6年　10月19日 快晴
1786年 11月10日 天明6年　10月20日 曇 （5月9日夜金木組代官所門前・同村庄屋宅門前に建札した(7月23日に記述)男の1人は見当たらない・見当て次第注進するようにする）
1786年 11月11日 天明6年　10月21日 晴　昨夜子の刻風雨　雷発ス
1786年 11月12日 天明6年　10月22日 晴
1786年 11月13日 天明6年　10月23日 晴　酉の刻雷発　雨降
1786年 11月14日 天明6年　10月24日 晴　今暁小雨
1786年 11月15日 天明6年　10月25日 曇　巳の刻過ぎ小雨　午の刻雷発　未ノ刻過ぎより風強し
1786年 11月16日 天明6年　10月26日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　今朝少し雹降　今日終日雨降
1786年 11月17日 天明6年　10月27日 快晴　昨夜雨
1786年 11月18日 天明6年　10月28日 曇　昨夜中雨　今朝雪降 （人事異動）
1786年 11月19日 天明6年　10月29日 快晴　未ノ刻頃曇
1786年 11月20日 天明6年　10月30日 曇
1786年 11月21日 天明6年 閏10月1日 曇　午の刻より小雨 （10月中所々御関所出人都合66人:碇ヶ関64人(御印紙出42・切手紙出22)・大間越2人(御印紙出)）
1786年 11月22日 天明6年 閏10月2日 曇　昨夜中雨降
1786年 11月23日 天明6年 閏10月3日 曇　今朝雪降
1786年 11月24日 天明6年 閏10月4日 晴
1786年 11月25日 天明6年 閏10月5日 晴
1786年 11月26日 天明6年 閏10月6日 曇　昨夜雪 （黒石役人より米3500石を南部・松前に津出願）
1786年 11月27日 天明6年 閏10月7日 曇
1786年 11月28日 天明6年 閏10月8日 曇
1786年 11月29日 天明6年 閏10月9日 曇
1786年 11月30日 天明6年 閏10月10日曇　昨夜中時々小雨
1786年　12月1日 天明6年 閏10月11日晴
1786年　12月2日 天明6年 閏10月12日快晴　今朝霞　申の刻過ぎより雨　夜に入る
1786年　12月3日 天明6年 閏10月13日晴
1786年　12月4日 天明6年 閏10月14日曇　今朝霜少々　午の刻頃より雨 （御下向の節千年山御茶屋前江在方の者共大勢入込騒ぎ立て高声等があったという・うやむやに当日の記録になし:福眞）
1786年　12月5日 天明6年 閏10月15日曇　時々雨降 （人事異動）
1786年　12月6日 天明6年 閏10月16日曇　未の刻より雨降
1786年　12月7日 天明6年 閏10月17日曇　未ノ刻過ぎ小雨
1786年　12月8日 天明6年 閏10月18日快晴
1786年　12月9日 天明6年 閏10月19日晴　夜に入り風雨
1786年 12月10日 天明6年 閏10月20日曇　昨夜より終日雨降
1786年 12月11日 天明6年 閏10月21日曇　昨夜中風雨
1786年 12月12日 天明6年 閏10月22日曇　今暁より時々雪
1786年 12月13日 天明6年 閏10月23日曇 （近年御献上鱈・雉子納め方甚だ遅滞……）
1786年 12月14日 天明6年 閏10月24日昨夜中雪 (?日駒越組吉川村で出火・火元村預け・免許)
1786年 12月15日 天明6年 閏10月25日快晴　　下から続く　　・富田町の家の子を絞め殺した女獄門)
1786年 12月16日 天明6年 閏10月26日晴 （取上御仕置場で:御家中奉公で主人の品物を再三盗み出した板屋野木村の男斬罪・正月24日浪岡村の御蔵を破り米6俵を盗み出した男獄門・羽州坂田で追剥の男獄門　　上に続く
1786年 12月17日 天明6年 閏10月27日曇 （一昨25日津軽坂村で家焼失・火元村預け）
1786年 12月18日 天明6年 閏10月28日快晴 （当御下向の節千年山御茶屋で騒いだのは無骨として御容赦）
1786年 12月19日 天明6年 閏10月29日晴　未の刻より曇ル （去る25日油川組津軽坂村物書きから出火・村預け・免許:27日に記述:福眞）
1786年 12月20日 天明6年 閏10月30日晴
1786年 12月21日 天明6年　11月1日 快晴 （人事異動、閏10月中所々御関所出人都合61人:碇関46人(御印紙出23・切手紙出23)・野内15人(切手紙出)）
1786年 12月22日 天明6年　11月2日 快晴 （一昨夜堀越組福村で出火稲乳壱焼失）
1786年 12月23日 天明6年　11月3日 曇　時々雪降
1786年 12月24日 天明6年　11月4日 曇　今日雪降
1786年 12月25日 天明6年　11月5日 晴　時々雪降
1786年 12月26日 天明6年　11月6日 曇　雪降 （稲を盗み取った男を町から三里四方追放）
1786年 12月27日 天明6年　11月7日 晴　雪時々降
1786年 12月28日 天明6年　11月8日 曇　時々雪
1786年 12月29日 天明6年　11月9日 晴　朝の内雨
1786年 12月30日 天明6年　11月10日 快晴
1786年 12月31日 天明6年　11月11日 曇　昨夜より雨終日降

1787年　1月1日 天明6年　11月12日 曇　朝の内雪　(三奉行申し出候:当造酒御役銭は100石に付1貫500目宛の割合を以って上納仰せ付けられ候尤も半分は12月15日限り残りの半分は2月15日、浪岡村庄屋宅で　下に続く
1787年　1月2日 天明6年　11月13日 曇　昨夜雪　(高岡に献上の鱈を御台所頭より差上げる)　上から続く　申し渡し:駄下げ中の米を売払い上納を数ヶ月遅らせた男とその親の2人に浪岡村より十里四方追放)
1787年　1月3日 天明6年　11月14日 曇　昨夜より折々雪吹
1787年　1月4日 天明6年　11月15日 快晴　昨夜中小雪　(野内町年寄り等が御献上鱈の値段増願・当年は申し立ての通り2匁8分とする、此の度100石に(付き)45俵の割合を以って俵子渡しを仰せ付けられた・のかな:福眞)
1787年　1月5日 天明6年　11月16日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今晩戌八刻寒に入る
1787年　1月6日 天明6年　11月17日 晴
1787年　1月7日 天明6年　11月18日 晴
1787年　1月8日 天明6年　11月19日 曇
1787年　1月9日 天明6年　11月20日 曇　昨夜中雪　(当月4日暮6時より同朝6時まで十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は11月15日暮6時より翌16日朝6時までに残らず氷張る・今年は日数に引合11日早く節に引合8日遅い)
1787年　1月10日 天明6年　11月21日 曇　昨夜雪
1787年　1月11日 天明6年　11月22日 快晴
1787年　1月12日 天明6年　11月23日 快晴　(博打いたし候男2人弘前より三里四方追放)
1787年　1月13日 天明6年　11月24日 快晴
1787年　1月14日 天明6年　11月25日 快晴
1787年　1月15日 天明6年　11月26日 快晴
1787年　1月16日 天明6年　11月27日 快晴　未の刻より霰降
1787年　1月17日 天明6年　11月28日 快晴
1787年　1月18日 天明6年　11月29日 快晴
1787年　1月19日 天明6年　12月1日 曇　折々雪吹　(11月中所々御関所出人都合69人:碇ヶ関66人(御印紙出32・切手紙出34)・野内3人(切手紙出))
1787年　1月20日 天明6年　12月2日 曇　昨夜中雪二寸程　今朝に及ぶ　終日雪吹
1787年　1月21日 天明6年　12月3日 晴　昨夜中雪少々降　(菟油を町居村で採っていた越後の男を牢居・その仲間の新町の男を町払い)
1787年　1月22日 天明6年　12月4日 晴
1787年　1月23日 天明6年　12月5日 晴
1787年　1月24日 天明6年　12月6日 快晴　(去る5日朝高杉組中別所村で小屋焼失・御蔵で米に関する不祥事が発覚したのか多数がお咎め(館美文内半知・米屋3人に五里四方追放など))
1787年　1月25日 天明6年　12月7日 曇
1787年　1月26日 天明6年　12月8日 曇
1787年　1月27日 天明6年　12月9日 曇　(津軽内膳閉門御免)
1787年　1月28日 天明6年　12月10日 晴　(中別所村の(火元の)村預け免許)
1787年　1月29日 天明6年　12月11日 晴　昨夜戌の刻過ぎ小雨
1787年　1月30日 天明6年　12月12日 晴
1787年　1月31日 天明6年　12月13日 晴
1787年　2月1日 天明6年　12月14日 晴　(去る13日浪岡組本郷村で出火・火元高無村預け、江戸屋敷に松平玄蕃頭様より一粒金丹無心・此処元になく国許から取り寄せることとする)
1787年　2月2日 天明6年　12月15日 快晴　昨夜寒気強　(人事異動)
1787年　2月3日 天明6年　12月16日 曇　昨夜小雨　今朝に至る
1787年　2月4日 天明6年　12月17日 快晴　(本郷村の(火元の)村預け免許)
1787年　2月5日 天明6年　12月18日 晴
1787年　2月6日 天明6年　12月19日 晴　昨夜雪四寸程
1787年　2月7日 天明6年　12月20日 晴
1787年　2月8日 天明6年　12月21日 快晴
1787年　2月9日 天明6年　12月22日 曇　今暁より之雪四寸位積
1787年　2月10日 天明6年　12月23日 曇　昨夜雪少々
1787年　2月11日 天明6年　12月24日 晴　昨夜雪八寸程降
1787年　2月12日 天明6年　12月25日 快晴
1787年　2月13日 天明6年　12月26日 晴　今日辰の中刻地震暫ク
1787年　2月14日 天明6年　12月27日 曇　昨夜雪少々　今朝雪吹
1787年　2月15日 天明6年　12月28日 曇　((屋形様)少々御不快、人事異動、多くのご家中をほめ・褒美(銀3両など)を下されている)
1787年　2月16日 天明6年　12月29日 晴　(不明日に高杉組高杉村で小屋焼失・火元村預け、酒御役百石に付き壱〆500目を両度に上納を仰せ付けられ候処・後半をさらに二期に別けて欲しいとの願あり・断っているらしい:福眞)
1787年　2月17日 天明6年　12月30日 快晴　(高杉村の村預け免許、熊胆取りの報奨金を増している、御家中の子供が殺しあっている・一方が死ぬ)
1787年　2月18日 天明7年　正月1日　快晴　(今朝辰の刻古懸不動尊御出汗・御神楽と五山での御祈祷)
1787年　2月19日 天明7年　正月2日　晴　昨夜中雪ふる　余寒強し
1787年　2月20日 天明7年　正月3日　快晴　昨夜余寒甚し　(御吉例金200両差上げる、今晩御謡初)
1787年　2月21日 天明7年　正月4日　曇　今暁雪　(大鰐村加賀助より七種差上げる)
1787年　2月22日 天明7年　正月5日　快晴
1787年　2月23日 天明7年　正月6日　曇　昨夜雪降　六寸程
1787年　2月24日 天明7年　正月7日　曇　昨夜雪降　余寒強し
1787年　2月25日 天明7年　正月8日　晴　(常源寺坂下どおりに菰包みあり・犬等が食い散らし男女の別も判らない)
1787年　2月26日 天明7年　正月9日　曇　雪降
1787年　2月27日 天明7年　正月10日　曇　今日小雪降　昨夜雪吹　(御奥様600両・与一様600両など2610両を御合力金として毎年渡していたが今年も半分強しか渡せないと通知)
1787年　2月28日 天明7年　正月11日　曇　未の刻少々雪降　(大目付高屋半左衛門を御用人等の人事異動)

1787年　3月1日 天明7年 正月12日　晴
1787年　3月2日 天明7年 正月13日　曇　風雨雪　寅の刻より風強　辰の刻止む
1787年　3月3日 天明7年 正月14日　陰晴
1787年　3月4日 天明7年 正月15日　晴　(11日に大目付を申付けられた館山源右衛門が老眼なので御用所で眼鏡使用許可される)
1787年　3月5日 天明7年 正月16日　晴
1787年　3月6日 天明7年 正月17日　曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(12月中所々御関所出人都合58人:碇関57人(御印紙出43・切手紙出14)・野内1人(切手紙出))
1787年　3月7日 天明7年 正月18日　曇
1787年　3月8日 天明7年 正月19日　曇
1787年　3月9日 天明7年 正月20日　快晴
1787年　3月10日 天明7年 正月21日　快晴
1787年　3月11日 天明7年 正月22日　晴
1787年　3月12日 天明7年 正月23日　曇
1787年　3月13日 天明7年 正月24日　晴
1787年　3月14日 天明7年 正月25日　曇
1787年　3月15日 天明7年 正月26日　快晴
1787年　3月16日 天明7年 正月27日　晴　(木作新田廣野村で5日前に出火・村預け免許、当月24日居土村の百姓が熊(胆目形30目)取る)
1787年　3月17日 天明7年 正月28日　晴
1787年　3月18日 天明7年 正月29日　曇
1787年　3月19日 天明7年 正月30日　晴　申の刻より雪
1787年　3月20日 天明7年　2月1日 曇　昨夜中より今日雪五寸程降　(正月中所々御関所出人都合81人:碇関78人(御印紙出59・切手紙出19)・野内3人(切手紙出))
1787年　3月21日 天明7年　2月2日 陰晴　昨夜中小雨
1787年　3月22日 天明7年　2月3日 陰晴
1787年　3月23日 天明7年　2月4日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　巳の刻地震
1787年　3月24日 天明7年　2月5日 曇　昨夜雪少々降
1787年　3月25日 天明7年　2月6日 陰晴
1787年　3月26日 天明7年　2月7日 曇　終日雪雨降
1787年　3月27日 天明7年　2月8日 曇　昨夜中雨　今暁晴ル　今日時々小雨
1787年　3月28日 天明7年　2月9日 晴　(馬喰町の者共(牢屋の番人と馬の売買を生業にしていたらしい:福眞)難儀に付き御手当て願・1軒に御米8升づつ下し置かれる)
1787年　3月29日 天明7年　2月10日 快晴
1787年　3月30日 天明7年　2月11日 晴　朝の内小雨
1787年　3月31日 天明7年　2月12日 快晴
1787年　4月1日 天明7年　2月13日 曇
1787年　4月2日 天明7年　2月14日 曇　昨夜中風烈　小雨　今日雨降　午の刻より雪降
1787年　4月3日 天明7年　2月15日 曇　昨夜中風吹
1787年　4月4日 天明7年　2月16日 曇　昨夜時々風　今日折々雨降　午の刻前晴
1787年　4月5日 天明7年　2月17日 曇　今朝辰の下刻より雪並びに雨少々宛時々降
1787年　4月6日 天明7年　2月18日 晴　朝の内曇
1787年　4月7日 天明7年　2月19日 曇　午の刻小雨
1787年　4月8日 天明7年　2月20日 快晴
1787年　4月9日 天明7年　2月21日 曇　昨夜亥の刻より雨　今日終日　(昨夜亀甲町で小火)
1787年　4月10日 天明7年　2月22日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日数日風雨烈　辰の刻頃より時々雪降　(屋形様頃日少々不快・今日の御参詣御延引)
1787年　4月11日 天明7年　2月23日 曇　昨夜子の刻まで大風　少々雪降　今日午の刻過ぎより小雨
1787年　4月12日 天明7年　2月24日 曇　昨夜子の刻まで大風　少々雪降　今日午の刻過ぎ小雨
1787年　4月13日 天明7年　2月25日 快晴
1787年　4月14日 天明7年　2月26日 快晴　午の中刻風烈し　(御目付菊池十蔵を寄合に役下げ)
1787年　4月15日 天明7年　2月27日 快晴
1787年　4月16日 天明7年　2月28日 快晴　(人事異動)
1787年　4月17日 天明7年　2月29日 晴　下から続く　2軒・馬2疋焼死)
1787年　4月18日 天明7年　3月1日 晴　朝の内曇　(人事異動、2月中所々御関所出人都合52人:碇関48人(御印紙出27・切手紙出21)・大間越2人(御印紙出)・野内2人(切手紙出)、去月21日夜大間越町で火災　上に続く
1787年　4月19日 天明7年　3月2日 晴
1787年　4月20日 天明7年　3月3日 快晴
1787年　4月21日 天明7年　3月4日 快晴　(一昨20日夜広船村で火災1軒・火元村預け、去る朔日松森村で火災・米穀籾焼失・類焼あり・火元他村預け)
1787年　4月22日 天明7年　3月5日 晴
1787年　4月23日 天明7年　3月6日 晴
1787年　4月24日 天明7年　3月7日 晴　(横内組松森村の火元の他村預け免許、尾崎組広船村・広田組新館村の両火元の村預け免許)
1787年　4月25日 天明7年　3月8日 陰晴
1787年　4月26日 天明7年　3月9日 曇
1787年　4月27日 天明7年　3月10日 曇　今暁より辰の刻迄小雨
1787年　4月28日 天明7年　3月11日 晴
1787年　4月29日 天明7年　3月12日 陰晴　(今日詰座敷上の間で射芸高覧)
1787年　4月30日 天明7年　3月13日 晴　昨夜戌ノ刻より寅の刻まで雨降

1787年　5月1日 天明7年　3月14日 快晴
1787年　5月2日 天明7年　3月15日 快晴
1787年　5月3日 天明7年　3月16日 晴
1787年　5月4日 天明7年　3月17日 晴
1787年　5月5日 天明7年　3月18日 曇　朝の内霧
1787年　5月6日 天明7年　3月19日 曇　昨夜小雨　今朝霞　今日終日雨
1787年　5月7日 天明7年　3月20日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　(今日御家中の面々の剣術高覧)
1787年　5月8日 天明7年　3月21日 曇　昨夜中より今日終日雨　卯の刻過ぎ雷発　巳の刻前雷発
1787年　5月9日 天明7年　3月22日 曇　昨夜中雨　今日巳の刻迄降
1787年　5月10日 天明7年　3月23日 快晴
1787年　5月11日 天明7年　3月24日 曇　申の刻頃小雨
1787年　5月12日 天明7年　3月25日 曇　(代官手代から大庄屋へ3人・百姓から代官手代に何人か)
1787年　5月13日 天明7年　3月26日 晴
1787年　5月14日 天明7年　3月27日 晴　(今日御家中面々の剣術高覧)
1787年　5月15日 天明7年　3月28日 快晴
1787年　5月16日 天明7年　3月29日 快晴
1787年　5月17日 天明7年　4月1日 快晴　(3月中所々御関所出人都合78人:碇関70人(御印紙出32・切手紙出38)・大間越6人(切手紙出)・野内2人(切手紙出))
1787年　5月18日 天明7年　4月2日 快晴
1787年　5月19日 天明7年　4月3日 快晴　(酒田表本間甚五郎が廃田開発に大金を調達したので15人扶持下し置かれる・そのお礼に罷り下る)
1787年　5月20日 天明7年　4月4日 晴　(去月25日赤石組松神村付近の沖で敦賀船など5艘破船・水主2人死亡)
1787年　5月21日 天明7年　4月5日 曇　終日雨降
1787年　5月22日 天明7年　4月6日 曇　昨夜中雨降　九時過ぎより晴　(人事異動)
1787年　5月23日 天明7年　4月7日 晴
1787年　5月24日 天明7年　4月8日 晴　今朝小雨降
1787年　5月25日 天明7年　4月9日 快晴　(屋形様今日巳の上刻御発駕、極難の御馬廻に米2俵下し置かれる)
1787年　5月26日 天明7年　4月10日 快晴　暖和
1787年　5月27日 天明7年　4月11日 快晴　暖和
1787年　5月28日 天明7年　4月12日 曇　昨夜中雨　寅の刻より雷度々発　今朝辰の刻頃止　今日終日雨　(御持鑓庄兵衛が御飛脚で遅くなり呵り置かれ免許とか:飛脚は大組足軽か諸手足軽の仕事だが:福眞)
1787年　5月29日 天明7年　4月13日 曇　今暁雨降
1787年　5月30日 天明7年　4月14日 曇　午の刻過ぎ晴
1787年　5月31日 天明7年　4月15日 快晴
1787年　6月1日 天明7年　4月16日 快晴
1787年　6月2日 天明7年　4月17日 快晴　朝の内曇　暖和
1787年　6月3日 天明7年　4月18日 快晴　暖和
1787年　6月4日 天明7年　4月19日 陰晴　未の刻雨降
1787年　6月5日 天明7年　4月20日 晴　朝の内曇　(一昨18日御家中の妻自害)
1787年　6月6日 天明7年　4月21日 晴　暖和　巳の刻より少々風立　(東長町の二男が下女を切殺し縊死、此度格段の御省略に付き御在国中三六出仕は月番御家老・御用人・大目付一人宛・御留守中は三六出仕御容赦とする)
1787年　6月7日 天明7年　4月22日 快晴　暖和
1787年　6月8日 天明7年　4月23日 快晴　暖和　暑に至る　(三六日として御家老・御用人・大目付の出仕なし、12月30日記述の御家中の子を討ち捨てた御家中の子に慎み)
1787年　6月9日 天明7年　4月24日 曇
1787年　6月10日 天明7年　4月25日 曇　昨夜より折々小雨
1787年　6月11日 天明7年　4月26日 曇　(今日も御家老以下の出仕なし)
1787年　6月12日 天明7年　4月27日 晴
1787年　6月13日 天明7年　4月28日 快晴
1787年　6月14日 天明7年　4月29日 快晴
1787年　6月15日 天明7年　4月30日 晴
1787年　6月16日 天明7年　5月1日 曇　昨夜丑の刻過ぎ雨　(4月中所々御関所出人都合153人:碇関151人(御印紙出97・切手紙出54)・野内2人(切手紙出))
1787年　6月17日 天明7年　5月2日 曇
1787年　6月18日 天明7年　5月3日 快晴　(御家老等の出仕なし:今後省略)
1787年　6月19日 天明7年　5月4日 快晴　(近々出立の山崎屋に一粒金丹30粒下し置かれる)
1787年　6月20日 天明7年　5月5日 曇　昨夜亥の刻より雨降　今朝に至る
1787年　6月21日 天明7年　5月6日 晴
1787年　6月22日 天明7年　5月7日 晴
1787年　6月23日 天明7年　5月8日 晴　朝の内曇　(屋形様が今日(多分26日)辰の中刻御着府・直ちに御老中様方御廻勤遊ばさるべく候処御旅中より御下の御痛所御勝成されず候旨今日御届け差出され……)
1787年　6月24日 天明7年　5月9日 曇　昨夜子の刻過ぎより終日小雨
1787年　6月25日 天明7年　5月10日 陰晴
1787年　6月26日 天明7年　5月11日 陰晴
1787年　6月27日 天明7年　5月12日 陰晴
1787年　6月28日 天明7年　5月13日 晴
1787年　6月29日 天明7年　5月14日 晴
1787年　6月30日 天明7年　5月15日 晴　巳の刻より陰晴　月蝕皆既

1787年　7月1日 天明7年　5月16日 晴　昨日より今日まで朝夕冷し　昼の内暑
1787年　7月2日 天明7年　5月17日 陰晴　今日暑　(去る14日夜大光寺組金屋村で火災・百姓居宅と馬屋焼失)
1787年　7月3日 天明7年　5月18日 曇　小雨　暑　(大光寺組金屋村の火元の戸〆免許)
1787年　7月4日 天明7年　5月19日 曇　昨夜中雨　今暁雷発す　巳の刻過ぎ迄雨降
1787年　7月5日 天明7年　5月20日 曇　折々小雨　暑　(御目付通用:丹後者入込罷りあり候儀難ばかり候間右躰の者見当て候はば(丹後者のように見えたら)早速送る返すよう)
1787年　7月6日 天明7年　5月21日 快晴
1787年　7月7日 天明7年　5月22日 曇　昨夜丑の刻より今日終日雨降
1787年　7月8日 天明7年　5月23日 曇　昨夜中より雨　午の刻晴れ　今日暑
1787年　7月9日 天明7年　5月24日 曇　見の刻小雨　今日暑　(4日にも記述の山崎屋が近々帰坂に付き御家老・御用人に挨拶・白銀20枚等を下し置かれる)
1787年　7月10日 天明7年　5月25日 快晴　未の刻過ぎ雨　(在々所々の稲作に虫付く・長勝寺に虫除け御祈祷を仰せ付ける・御供物料銀5枚渡す、土手町宿にめがね商人が居る・丹後者の由で送り返す)
1787年　7月11日 天明7年　5月26日 陰晴
1787年　7月12日 天明7年　5月27日 晴　午の刻前雷発　未の刻過ぎ雷　今日村雨　暑
1787年　7月13日 天明7年　5月28日 曇　昨夜中より終日雨ふる　午の刻前雷発　暑
1787年　7月14日 天明7年　5月29日 曇　昨夜雨　今暁寅の刻より卯の刻迄の内大雨　雷度々発　今日小雨　暑
1787年　7月15日 天明7年　6月1日 晴　午の刻まで小雨　(5月中所々御関所出人都合52人:碇関51人(御印紙出38・切手紙出13)・野内1人(切手紙出))
1787年　7月16日 天明7年　6月2日 晴　未の刻頃より曇　雷度々発　申の刻より晴　暑
1787年　7月17日 天明7年　6月3日 晴　午の刻過ぎより曇　雷発す　大雨　申の刻頃より晴　暑
1787年　7月18日 天明7年　6月4日 曇　辰の刻過ぎ小雨　暑　未の刻過ぎ雷強　未の下刻雨　申の刻過ぎ晴
1787年　7月19日 天明7年　6月5日 曇　今日土用に入　昨夜亥の刻より雨寅の下刻に至　未の刻雷雨強し　暑気　(昨4日の大雨で昼七時頃より平川洪水・石川仮橋の橋板等取はつす・向かい側10間程木柄流失)
1787年　7月20日 天明7年　6月6日 晴　申の刻過ぎ雷発　暑気
1787年　7月21日 天明7年　6月7日 晴　昨夜中小雨　今日暑
1787年　7月22日 天明7年　6月8日 曇　昨夜より折々小雨
1787年　7月23日 天明7年　6月9日 曇　昨夜丑の刻より雨　今朝に至る　未の刻雷発　大雨　申の中刻虹見ゆる　(塩硝(鉄砲の火薬ですな:福眞)の値段等を領内に住む男に問い合わせている)
1787年　7月24日 天明7年　6月10日 曇　昨夜中より終日雨降　(四社に五穀成就・日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1787年　7月25日 天明7年　6月11日 晴　終日東風にて涼し
1787年　7月26日 天明7年　6月12日 晴　東風にて涼し
1787年　7月27日 天明7年　6月13日 晴　申の刻過ぎより曇
1787年　7月28日 天明7年　6月14日 晴　昨夜寅の刻過ぎ小雨　卯の中刻まで降　今朝虹見ゆる
1787年　7月29日 天明7年　6月15日 曇　今朝東風にて涼し　午の中刻より雨降　亥の刻よりはるる
1787年　7月30日 天明7年　6月16日 曇　昨夜中雨　今日午の刻頃より晴
1787年　7月31日 天明7年　6月17日 曇　少々涼し　(大鰐村加賀助・兵左衛門初穂差出す・4月17日植付・去年は5月13日植付7月17日差出・当年は植付日に引合5日早く節に引合13日早い)
1787年　8月1日 天明7年　6月18日 晴　昨夜中涼し　今日暑
1787年　8月2日 天明7年　6月19日 曇　卯の上刻より雨降　同中刻雷発　未の刻大雨　下刻より晴　暑　(頃日打続天気不正に付き五山に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける、新町で小火)
1787年　8月3日 天明7年　6月20日 晴　今日暑強し　(去る10日十川洪水で草刈の女3人中2人水死)
1787年　8月4日 天明7年　6月21日 快晴　大暑
1787年　8月5日 天明7年　6月22日 曇　昨夜丑の中刻小雨　今日辰の上刻雨　巳の上刻より晴　今日大暑
1787年　8月6日 天明7年　6月23日 晴　辰の刻小雨　巳の刻より快晴　今日大暑
1787年　8月7日 天明7年　6月24日 晴　大暑　未の刻過ぎ雷発
1787年　8月8日 天明7年　6月25日 曇　卯の刻より雨雷度々発　辰の上刻より大雨　未の刻過ぎ強し　(岩木川七歩の出水・所々危うい・土渕川も洪水)
1787年　8月9日 天明7年　6月26日 曇　昨夜大雨　雷発す　今日小雨時々降　(昨25日土渕川洪水で北横町橋中程十間木柄流失)
1787年　8月10日 天明7年　6月27日 曇　昨夜寅の刻雨降　今日度々小雨　巳の上刻雷発　(一昨日より平川洪水・船通用差し止める・橋木柄流失)
1787年　8月11日 天明7年　6月28日 曇　今日雨降　昨今暑薄し　(去る25日の洪水で藤崎・柏木・赤田・広田組で水湛、平賀6組でも同様、他領米高値の由……)
1787年　8月12日 天明7年　6月29日 晴　昨夜より雨　今朝に及ぶ　(田舎館・常盤組の村々で田畑並びに家屋敷水湛)
1787年　8月13日 天明7年　7月1日 晴　朝の内曇　(6月中所々御関所出人都合73人:碇関68人(御印紙出50・切手紙出18)・野内5人(切手紙出)、去月25日の大雨で木造新田濁川村より下通の田方水湛)
1787年　8月14日 天明7年　7月2日 晴　昨夜中涼し　(去月25日の洪水で駒越・高杉組の村々稲草流失・田方20町歩余水湛)
1787年　8月15日 天明7年　7月3日 曇　未の刻過ぎより雨
1787年　8月16日 天明7年　7月4日 曇　昨夜中より終日雨降　(今日当番通用:例年祢ふた流之儀町内限りにて……)
1787年　8月17日 天明7年　7月5日 晴　昨夜中雨　今日大暑　(五穀成就日和揚げの御祈祷を百沢下居の宮に仰せ付ける)
1787年　8月18日 天明7年　7月6日 快晴　大暑　(御褒美として南鐐三片宛という表現あり)
1787年　8月19日 天明7年　7月7日 快晴　今日大暑
1787年　8月20日 天明7年　7月8日 快晴　大暑
1787年　8月21日 天明7年　7月9日 快晴　大暑　申の下刻雷発ス
1787年　8月22日 天明7年　7月10日 快晴　今朝霞　大暑　(今日御朱印九つ時到着)
1787年　8月23日 天明7年　7月11日 陰晴　辰の刻前雨少々降
1787年　8月24日 天明7年　7月12日 曇　卯の刻より午の刻まで雨降
1787年　8月25日 天明7年　7月13日 快晴
1787年　8月26日 天明7年　7月14日 快晴　大暑
1787年　8月27日 天明7年　7月15日 快晴　午の刻より曇　未の刻雨　申の刻晴
1787年　8月28日 天明7年　7月16日 快晴　暑強し
1787年　8月29日 天明7年　7月17日 快晴　暑強し　(御初米7月17日差上げる・去年は8月12日で当年は植付日に引合26日・節に引合6日早い)
1787年　8月30日 天明7年　7月18日 曇　大暑　未の中刻より雨降　雷度々発　申の刻止
1787年　8月31日 天明7年　7月19日 快晴　(先頃の洪水で飯詰・藤崎・和徳・堀越・大鰐・赤石・浪岡・駒腰・高杉・金木・同新田の11組で田方水湛)

1787年　9月1日 天明7年　7月20日 快晴　未の刻虹見ゆる　昼過ぎ少しの内曇ル　(御家老・御用人が出仕のころに諸役人が登城するようになっていることを叱っている)
1787年　9月2日 天明7年　7月21日 快晴　昼頃少々曇　未の刻過ぎ雷発　(先頃の出水で赤石組追良瀬村の高無2軒の建家流失)
1787年　9月3日 天明7年　7月22日 快晴　大暑　(不明日時に三馬屋村領竜濱(竜飛)前濱で讃岐の船が破船)
1787年　9月4日 天明7年　7月23日 晴　朝の内曇雷発ス　巳の刻より晴ル　大暑
1787年　9月5日 天明7年　7月24日 快晴　大暑　(赤石組蠶木村の土地の銀納を認める・1反歩に付き3文目)
1787年　9月6日 天明7年　7月25日
1787年　9月7日 天明7年　7月26日 快晴
1787年　9月8日 天明7年　7月27日 曇　辰の刻より雨　午の刻止ム
1787年　9月9日 天明7年　7月28日 曇　今暁寅の刻より雨降　午の刻頃より晴ル
1787年 9月10日 天明7年　7月29日 快晴　大暑　午の刻曇小雨　申の刻虹見ゆる
1787年 9月11日 天明7年　7月30日 晴
1787年 9月12日 天明7年　8月1日 快晴　(7月中所々御関所出人都合54人:碇関53人(御印紙出35・切手紙出18)・野内1人(御印紙出)、昨夜下土手町裏通り木小屋に火・早速取鎮める)
1787年 9月13日 天明7年　8月2日 晴
1787年 9月14日 天明7年　8月3日 晴　今朝小雨　大暑
1787年 9月15日 天明7年　8月4日 曇　辰の刻より雨　未の刻止
1787年 9月16日 天明7年　8月5日 晴
1787年 9月17日 天明7年　8月6日 曇
1787年 9月18日 天明7年　8月7日 快晴
1787年 9月19日 天明7年　8月8日 快晴　昨夜涼し
1787年 9月20日 天明7年　8月9日 快晴　午の刻より曇雨降
1787年 9月21日 天明7年　8月10日 曇　今日冷気　昨夜牛の刻小雨　今朝小雨　申の刻虹見ゆる　(一昨夜御家中宅に盗賊・怪我人あり)
1787年 9月22日 天明7年　8月11日 曇　卯の上刻より雨　辰の刻過ぎ晴　午の刻小雨　今日冷気
1787年 9月23日 天明7年　8月12日 晴　昨夜折々小雨　午の刻小雨
1787年 9月24日 天明7年　8月13日 曇　未の刻過ぎより雨
1787年 9月25日 天明7年　8月14日 曇　昨夜中雨　今日小雨
1787年 9月26日 天明7年　8月15日 晴　昨夜折々小雨　今朝も小雨　辰の刻より晴ル　申の刻地震
1787年 9月27日 天明7年　8月16日 快晴　暑
1787年 9月28日 天明7年　8月17日 晴
1787年 9月29日 天明7年　8月18日 曇　冷気　風立
1787年 9月30日 天明7年　8月19日 曇　冷気
1787年 10月1日 天明7年　8月20日 曇　申の刻より雨
1787年 10月2日 天明7年　8月21日 曇　昨夜折々雨　今日雨　未の刻過ぎ雷発ス
1787年 10月3日 天明7年　8月22日 曇　昨夜中雨折々　雷発　風立　今朝岩木山ニ初めて雪見ゆる　(去る18日増館組吉野田村で南部男袖乞中に死亡)
1787年 10月4日 天明7年　8月23日 晴　今朝曇小雨
1787年 10月5日 天明7年　8月24日 曇　午の刻より雨　未の刻過ぎ雷発ス
1787年 10月6日 天明7年　8月25日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨　(一昨23日暮六時頃高杉組高杉村で出火1軒・火元村預け)
1787年 10月7日 天明7年　8月26日 曇
1787年 10月8日 天明7年　8月27日 晴
1787年 10月9日 天明7年　8月28日 快晴　(高杉村の火元の村預け免許)
1787年 10月10日 天明7年　8月29日 快晴　(当月22日藤代組浮田領で南部船が破船、大光寺組新屋町村に袖乞体の者倒死)
1787年 10月11日 天明7年　9月1日 快晴　(8月中所々御関所出人都合75人:碇関70人(御印紙出49・切手紙出21)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4))
1787年 10月12日 天明7年　9月2日 快晴
1787年 10月13日 天明7年　9月3日 快晴
1787年 10月14日 天明7年　9月4日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨降　(深浦に入津中の松前船で水主病死)
1787年 10月15日 天明7年　9月5日 曇
1787年 10月16日 天明7年　9月6日 晴　未の刻より曇　申の刻虹見ゆる
1787年 10月17日 天明7年　9月7日 晴　昨夜中より今日午の刻まで雨降　今朝卯の刻前雷発　(鍛治町で屋根少し焼く)
1787年 10月18日 天明7年　9月8日 晴
1787年 10月19日 天明7年　9月9日 曇
1787年 10月20日 天明7年　9月10日 曇　昨夜吐露の刻雨　雷発　今日辰の刻雨　午の刻より晴
1787年 10月21日 天明7年　9月11日 晴　昨夜折々雨　(今日御目付触れ:頃日歩金にて200両ほどの賃金が出回る・量目は重目)
1787年 10月22日 天明7年　9月12日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ
1787年 10月23日 天明7年　9月13日 曇
1787年 10月24日 天明7年　9月14日 曇　昨夜中折々小雨　(今日高岡江献上の鮭を御家老・御用人が見分)
1787年 10月25日 天明7年　9月15日 曇　昨夜折々雨　今日辰の刻より折々雨降
1787年 10月26日 天明7年　9月16日 曇
1787年 10月27日 天明7年　9月17日 快晴
1787年 10月28日 天明7年　9月18日 晴　昨夜亥の下刻より雨　今暁止
1787年 10月29日 天明7年　9月19日 快晴　霜強し
1787年 10月30日 天明7年　9月20日 曇　辰の刻雨少々　否(いなや:直ちにの意)止　未の刻より雨　夜に入
1787年 10月31日 天明7年　9月21日 曇　昨夜中風雨　今朝に及ぶ　巳の刻よりあら連降(霰降る)

1787年　11月1日 天明7年　　9月22日 曇　昨夜中風雨　今日終日雨降　(大間越の御番所が龍巻で出火・御道具まで残らず焼失・奉行は御奉公遠慮:26日の記述で朔日の事らしい:福眞)
1787年　11月2日 天明7年　　9月23日 曇　昨夜中風立　今日終日雪降
1787年　11月3日 天明7年　　9月24日 曇　昨夜雪一寸程積ル
1787年　11月4日 天明7年　　9月25日 曇　午の刻頃雨降
1787年　11月5日 天明7年　　9月26日 曇　時々雪雨
1787年　11月6日 天明7年　　9月27日 曇　昨夜雪少し積る　今日時々小雪　(亀甲町の家が近頃の風雨で潰れ家となる)
1787年　11月7日 天明7年　　9月28日 晴　巳の刻過ぎより曇　午の刻過ぎ雨降
1787年　11月8日 天明7年　　9月29日 曇　昨夜雪少し降る　今日時々雪降
1787年　11月9日 天明7年　　9月30日 曇
1787年 11月10日 天明7年　　10月1日 快晴　(9月中所々御関所出人都合67人:碇関61人(御印紙出49・切手紙出12)・野内6人(御印紙出4・切手紙出2))
1787年 11月11日 天明7年　　10月2日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1787年 11月12日 天明7年　　10月3日 曇　申の刻頃より雪　(去月28日御手廻の父が撫牛子村で倒死)
1787年 11月13日 天明7年　　10月4日 曇
1787年 11月14日 天明7年　　10月5日 曇　昨夜折々小雨　今朝辰の刻小雨
1787年 11月15日 天明7年　　10月6日 晴　昨夜中雨　今日昼頃少々雨降　否止
1787年 11月16日 天明7年　　10月7日 晴　昨夜中雨
1787年 11月17日 天明7年　　10月8日 晴　昨夜折々小雨
1787年 11月18日 天明7年　　10月9日 晴　申の刻より曇　雨少し降
1787年 11月19日 天明7年　10月10日 晴　(当年御登らせ鉛代金263両1歩)
1787年 11月20日 天明7年　10月11日 晴
1787年 11月21日 天明7年　10月12日 晴
1787年 11月22日 天明7年　10月13日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の刻より晴　未の刻北の方に虹見ゆる
1787年 11月23日 天明7年　10月14日 曇　(昨13日碇ヶ関出火・13軒焼失・火元慎み)
1787年 11月24日 天明7年　10月15日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の刻より晴　(12日の碇ヶ関の焼失が14軒と代官からの報告)
1787年 11月25日 天明7年　10月16日 曇　昨夜中雷発　雨強し　辰の刻より晴
1787年 11月26日 天明7年　10月17日 晴　今朝霜強し　申の刻雨降
1787年 11月27日 天明7年　10月18日 晴
1787年 11月28日 天明7年　10月19日 曇　昨夜中より雨　今朝に至る　今日終日風雨　(長濱村領沖合いで秋田男鹿の嶋の船が破船・乗員3人中2人死亡)
1787年 11月29日 天明7年　10月20日 快晴　昨夜風強　時々雪
1787年 11月30日 天明7年　10月21日 快晴
1787年　12月1日 天明7年　10月22日 曇　昨夜中雨　今日巳の刻頃より雨
1787年　12月2日 天明7年　10月23日 曇　昨夜雨降　今日時々雪　(木作新田大場町村(大湯町村の誤り?:福眞)で火災1軒・火元百姓村預け)
1787年　12月3日 天明7年　10月24日 曇　(青森湊で越前船の水主が病死)
1787年　12月4日 天明7年　10月25日 曇　今日時々小雨
1787年　12月5日 天明7年　10月26日 曇
1787年　12月6日 天明7年　10月27日 快晴
1787年　12月7日 天明7年　10月28日 曇　巳の刻過ぎ小雨
1787年　12月8日 天明7年　10月29日 快晴　(去る19日鯵ヶ沢で羽州船が破船、5月に境松村の米留役が取り押さえた米の入札:20俵が690目(久し振りの米値段だな:福眞))
1787年　12月9日 天明7年　10月30日 快晴
1787年 12月10日 天明7年　　11月1日 曇　昨夜中小雨　今朝に至る　(10月中所々御関所出人都合68人:碇関66人(御印紙出36・切手紙出30)・野内1人(御印紙出)・大間越1人(切手紙出))
1787年 12月11日 天明7年　　11月2日 曇　昨夜中雪降
1787年 12月12日 天明7年　　11月3日 曇　昨夜中雪2寸程積る　(広須組木作新田の検地でもめている・代官手代を村払い大庄屋2人に戸〆代官2人に御奉公遠慮)
1787年 12月13日 天明7年　　11月4日 曇　昨夜中雪三寸程積ル　今日時々雪　(今日酒田町人伊勢屋が登城を仰せ付けられ御家老御用人に逢い御時服御料理を下し置かれる)
1787年 12月14日 天明7年　　11月5日 晴　昨夜雪少し積
1787年 12月15日 天明7年　　11月6日 曇　今日時々雪
1787年 12月16日 天明7年　　11月7日 曇　昨夜雪八寸程積ル　今日時々雪
1787年 12月17日 天明7年　　11月8日 曇　昨夜雪四寸程積
1787年 12月18日 天明7年　　11月9日 曇　昨夜中雪五寸程積
1787年 12月19日 天明7年　11月10日 晴　昨夜寒強し　　下から続く　　19日振りで江戸から到着している:福眞)
1787年 12月20日 天明7年　11月11日 曇　昨夜中雨　(今日付け今日立ち道中7日振りの飛脚を江戸に立てる:何があったのだ・積雪も深く日が一年で最も短い頃に7日振りとは大変な急飛脚・11月9日着の飛脚は　　上に続く
1787年 12月21日 天明7年　11月12日 曇　昨夜中雪吹　三寸程積ル　今日冬至
1787年 12月22日 天明7年　11月13日 曇　今日時々雪
1787年 12月23日 天明7年　11月14日 曇　昨夜中雪五寸位ふる　今日時々雪降
1787年 12月24日 天明7年　11月15日 曇　(武家諸法度・殉死禁止のことなどの法令が一役一人に示される)
1787年 12月25日 天明7年　11月16日 曇　時々雪　　下から続く　　早川口より残らず氷張る・今年は日数に引合5日遅く節に引合6日早い)
1787年 12月26日 天明7年　11月17日 曇　昨夜雪二寸位積ル　(十三潟が当月9日暮六時より翌10日明け六時までに早川口より残らず氷張る・去月(年の誤りだろうな:福眞)は11月4日暮六時より翌5日朝まで　　上に続く
1787年 12月27日 天明7年　11月18日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日時々雪
1787年 12月28日 天明7年　11月19日 曇
1787年 12月29日 天明7年　11月20日 晴　午の刻よりはるる
1787年 12月30日 天明7年　11月21日 晴
1787年 12月31日 天明7年　11月22日 晴

1788年　1月1日 天明7年　11月23日 晴
1788年　1月2日 天明7年　11月24日 曇　昨夜中雨　今朝に至る
1788年　1月3日 天明7年　11月25日 曇　昨夜雪に寸程積ル
1788年　1月4日 天明7年　11月26日 晴　昨夜寒強し
1788年　1月5日 天明7年　11月27日 晴　昨夜中雪少し降　今日終日
1788年　1月6日 天明7年　11月28日 晴　昨夜中雪吹　今暁丑の七刻寒に入る　(高岡献上の鱈を御家老御用人が見分)
1788年　1月7日 天明7年　11月29日 晴　昨夜雪一寸程積ル
1788年　1月8日 天明7年　12月1日 曇　午の刻より小雨　未の刻止　(11月中所々御関所出人都合71人:碇関63人(御印紙出41・切手紙出22)・野内8人(切手紙出))
1788年　1月9日 天明7年　12月2日 快晴　昨夜風立　戌の刻頃雨
1788年　1月10日 天明7年　12月3日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日巳の刻より雪
1788年　1月11日 天明7年　12月4日 曇
1788年　1月12日 天明7年　12月5日 曇
1788年　1月13日 天明7年　12月6日 晴
1788年　1月14日 天明7年　12月7日 晴　(去る5日赤田組鶴田村で出火1軒・馬10疋焼死・米20俵稲500束焼失・火元百姓村預け)
1788年　1月15日 天明7年　12月8日 晴　(御陸尺添肩として掃除小人2人(5尺6寸と5尺8寸)を新規召抱え)
1788年　1月16日 天明7年　12月9日 晴　昨夜雨雪　(鉛代金の250両を謀印の小笠原某を牢前で斬罪)
1788年　1月17日 天明7年　12月10日 曇　昨夜雪三寸程積　寒強し　今日終日雪　(鶴泊村の(多分火元の:福眞)村預け免許)
1788年　1月18日 天明7年　12月11日 曇　昨夜中雪四寸程積　今日午の刻頃まで雪
1788年　1月19日 天明7年　12月12日 晴　昨夜雪四寸程積
1788年　1月20日 天明7年　12月13日 快晴
1788年　1月21日 天明7年　12月14日 曇　終日雪吹
1788年　1月22日 天明7年　12月15日 曇　昨夜中雪三寸程積ル　(人事異動、古懸御出汗)
1788年　1月23日 天明7年　12月16日 晴　昨夜雪少し
1788年　1月24日 天明7年　12月17日 曇　昨夜寒気強し
1788年　1月25日 天明7年　12月18日 晴　昨夜雪少し降　昨夜より寒強し　(酒値段1升に付き1文目7分に増す)
1788年　1月26日 天明7年　12月19日 曇　昨夜中雪一尺程積　今日雪二寸程積ル　寒強し
1788年　1月27日 天明7年　12月20日 快晴　昨夜雪三寸程積　寒強し
1788年　1月28日 天明7年　12月21日 曇　昨夜中雪少々ふる　今日巳の刻まで三寸程積
1788年　1月29日 天明7年　12月22日 晴　昨夜雪五寸程ふる
1788年　1月30日 天明7年　12月23日 曇　昨夜雪一寸程積ル　寒強し
1788年　1月31日 天明7年　12月24日 晴　昨夜雪一寸程積ル　寒強し
1788年　2月1日 天明7年　12月25日 晴　昨夜三寸程雪降　今日折々雪　(大鰐組居土村の猟師孫十郎が当年熊2疋取ったのでお定めの金並びに御褒美を下し置かれる)
1788年　2月2日 天明7年　12月26日 晴
1788年　2月3日 天明7年　12月27日 晴　折々雪降　(元寺町虎屋某の隣屋敷の小店が雪潰れ)
1788年　2月4日 天明7年　12月28日 曇　折々雪降　(昨晩東長町北御蔵の屋根が雪潰れ)
1788年　2月5日 天明7年　12月29日 曇　昨夜雪少々　今日終日雪
1788年　2月6日 天明7年　12月30日 曇　折々雪降
1788年　2月7日 天明8年　正月1日　曇　折々雪
1788年　2月8日 天明8年　正月2日　曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　五寸位積　今日折々雪
1788年　2月9日 天明8年　正月3日　曇　辰の刻頃雪降　(御吉例金200両を御金奉行が御用所に持参・明日立ちの飛脚で差登)
1788年　2月10日 天明8年　正月4日　快晴
1788年　2月11日 天明8年　正月5日　曇　今暁雪少々　今日折々雪
1788年　2月12日 天明8年　正月6日　快晴
1788年　2月13日 天明8年　正月7日　曇　午の刻頃より雪降
1788年　2月14日 天明8年　正月8日　晴
1788年　2月15日 天明8年　正月9日　晴　昼の内少々雪
1788年　2月16日 天明8年　正月10日　快晴
1788年　2月17日 天明8年　正月11日　晴　巳の刻過ぎ雨少々
1788年　2月18日 天明8年　正月12日　曇
1788年　2月19日 天明8年　正月13日　曇　時々雪降
1788年　2月20日 天明8年　正月14日　晴
1788年　2月21日 天明8年　正月15日　曇　折々雪降
1788年　2月22日 天明8年　正月16日　曇　昨夜吹雪　六寸程積　余寒甚
1788年　2月23日 天明8年　正月17日　快晴
1788年　2月24日 天明8年　正月18日　曇　朝の内少々雪　午の刻より雨降
1788年　2月25日 天明8年　正月19日　曇
1788年　2月26日 天明8年　正月20日　晴　昨夜雪少　巳の刻過ぎより快晴ニ成　余寒ゆるやか
1788年　2月27日 天明8年　正月21日　快晴　余寒ゆるやか
1788年　2月28日 天明8年　正月22日　曇　今暁より終日雨降
1788年　2月29日 天明8年　正月23日　晴　余寒強し

1788年　3月1日 天明8年 正月24日　快晴　昨夜雪四寸位積
1788年　3月2日 天明8年 正月25日　快晴
1788年　3月3日 天明8年 正月26日　快晴
1788年　3月4日 天明8年 正月27日　快晴
1788年　3月5日 天明8年 正月28日　快晴
1788年　3月6日 天明8年 正月29日　快晴
1788年　3月7日 天明8年 正月30日　快晴　(去る25日青森町で越前の男が病死)
1788年　3月8日 天明8年　2月1日 曇　(朝鮮人参製法所にて相渡す代料(1両目に付き):上代銀7文目5分・並5文目・割4文目・肉折3文目・細髭2文目)
1788年　3月9日 天明8年　2月2日 晴
1788年　3月10日 天明8年　2月3日 晴
1788年　3月11日 天明8年　2月4日 曇　今朝少々雪　余寒強
1788年　3月12日 天明8年　2月5日 曇
1788年　3月13日 天明8年　2月6日 曇　昨夜雪四寸程　今日巳の刻雪降　午の刻過ぎ風強
1788年　3月14日 天明8年　2月7日 晴　寒強し
1788年　3月15日 天明8年　2月8日 晴
1788年　3月16日 天明8年　2月9日 曇　昨夜寒強　(酒に水を加えた酒造家玉田某が弘前追放)
1788年　3月17日 天明8年　2月10日 晴
1788年　3月18日 天明8年　2月11日 晴
1788年　3月19日 天明8年　2月12日 快晴
1788年　3月20日 天明8年　2月13日 晴　暖和
1788年　3月21日 天明8年　2月14日 快晴
1788年　3月22日 天明8年　2月15日 曇　暖和　午の刻頃小雨　未の刻頃より風立　段々夜に入り風強し
1788年　3月23日 天明8年　2月16日 曇　昨夜中大風　今日巳の刻過ぎ止　(新町の博打宿の3人弘前追放・家財は妻子に)
1788年　3月24日 天明8年　2月17日 曇　午の刻より雨
1788年　3月25日 天明8年　2月18日 曇　少々雪　昨夜寒強し
1788年　3月26日 天明8年　2月19日 快晴
1788年　3月27日 天明8年　2月20日 陰晴
1788年　3月28日 天明8年　2月21日 曇　昨夜小雨　今日時々小雨　未の刻過ぎ少々雪　(三馬屋にて讃州船が破船(何時のことか不明))
1788年　3月29日 天明8年　2月22日 曇　昨夜寒強　今朝雪少々　(今度禁裏(この禁裏は台頭とすべきところを平出としている・田舎者と考えられる例:福眞)炎上の旨江戸より申来候・今日より3日の内鳴物停止)
1788年　3月30日 天明8年　2月23日 晴
1788年　3月31日 天明8年　2月24日 曇　辰の刻より雨　午の刻頃止
1788年　4月1日 天明8年　2月25日 陰晴　今朝少々雪
1788年　4月2日 天明8年　2月26日 曇　昨夜雪　今日寒強し
1788年　4月3日 天明8年　2月27日 快晴
1788年　4月4日 天明8年　2月28日 晴　(人事異動、多くの者に御褒美・銀2両宛鳥目300文など)
1788年　4月5日 天明8年　2月29日 晴　朝の内曇　小雨
1788年　4月6日 天明8年　3月1日 曇　巳の刻過ぎより雨降　(2月中所々御関所出人都合36人:碇関25人(御印紙出12・切手紙出13)・野内11人(御印紙出2・切手紙出9))
1788年　4月7日 天明8年　3月2日 曇　昨夜中雨雪　今朝に及ぶ　今日風立　未の刻頃より雪
1788年　4月8日 天明8年　3月3日 晴
1788年　4月9日 天明8年　3月4日 晴
1788年　4月10日 天明8年　3月5日 快晴　下から続く　去年渡し高より金7両2歩増(天明元年からの金額ですな:福眞)とする)
1788年　4月11日 天明8年　3月6日 晴　午の刻より曇　雨　申の刻過ぎ止　下から続く　まで相渡し候処・去年より格段の御省略に付き31両2歩と銭20目余とした・10ヶ年以前に戻せと伊勢神宮からいわれる・　上に続く
1788年　4月12日 天明8年　3月7日 曇　巳の刻過ぎより雨　夜に入　(伊勢太々御神楽料が前々は金58両3歩銭312文だった・8ヶ年以前丑年(天明元年のこと:福眞)より三歩一御差引金39両と銭20目余を去々午年　上に続く
1788年　4月13日 天明8年　3月8日 曇　時々雨　風立
1788年　4月14日 天明8年　3月9日 曇
1788年　4月15日 天明8年　3月10日 快晴　未の刻頃より曇　申の刻過ぎより小雨
1788年　4月16日 天明8年　3月11日 晴　終日風吹
1788年　4月17日 天明8年　3月12日 晴　今朝雪少し　終日風吹
1788年　4月18日 天明8年　3月13日 晴　今暁霜　終日風吹　未の刻過ぎ雷発
1788年　4月19日 天明8年　3月14日 快晴　終日風吹　(大坂表鴻池又右衛門に一粒金丹20粒)
1788年　4月20日 天明8年　3月15日 曇　昨夜風強　小雨
1788年　4月21日 天明8年　3月16日 曇　(正月晦日近衛様・醍醐様が火災に遭?われたので見舞金・材木を出す、金は大坂表御常用金の内より・材木は有合わせがなく津軽屋三右衛門に下し置かれた材木を借り入れて送る)
1788年　4月22日 天明8年　3月17日 曇
1788年　4月23日 天明8年　3月18日 快晴　午の刻過ぎより曇　風吹
1788年　4月24日 天明8年　3月19日 晴　昨夜中小雨
1788年　4月25日 天明8年　3月20日 晴　折々風立
1788年　4月26日 天明8年　3月21日 晴
1788年　4月27日 天明8年　3月22日 曇　辰の下刻頃小雨
1788年　4月28日 天明8年　3月23日 晴
1788年　4月29日 天明8年　3月24日 快晴
1788年　4月30日 天明8年　3月25日 晴　巳の刻頃少々曇

1788年　5月1日 天明8年　3月26日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ
1788年　5月2日 天明8年　3月27日 快晴　昨夜中小雨
1788年　5月3日 天明8年　3月28日 晴
1788年　5月4日 天明8年　3月29日 快晴
1788年　5月5日 天明8年　3月30日 快晴　　下から続く　　かれる・御目見え以上御留守居支配を仰せ付けられる)
1788年　5月6日 天明8年　4月1日 晴　昨夜中小雨 (3月中所々御関所出人都合108人:碇ヶ関105人(御印紙出67・切手紙出38)・野内3人(切手紙出)、御中小姓福眞伴左衛門の跡式を相違なく倅才吉に下し置　　上に続く
1788年　5月7日 天明8年　4月2日 晴
1788年　5月8日 天明8年　4月3日 快晴　風少し立
1788年　5月9日 天明8年　4月4日 快晴
1788年　5月10日 天明8年　4月5日 曇 (金木組高根村で火災2軒・火元百姓他村預け)
1788年　5月11日 天明8年　4月6日 快晴
1788年　5月12日 天明8年　4月7日 晴　申の刻頃より小雨
1788年　5月13日 天明8年　4月8日 曇　昨夜中小雨　今朝に及ぶ　巳の刻頃より晴　申の刻頃より小雨
1788年　5月14日 天明8年　4月9日 曇　昨夜中雨　今朝に至る　今日時々小雨
1788年　5月15日 天明8年　4月10日 快晴 (去る7日夜赤田組狐森村に出火・火元高無村預け)
1788年　5月16日 天明8年　4月11日 快晴　巳の刻地震強
1788年　5月17日 天明8年　4月12日 快晴
1788年　5月18日 天明8年　4月13日 晴　未の刻頃より曇　夜に入り雨
1788年　5月19日 天明8年　4月14日 曇　昨夜より雨　今日終日降
1788年　5月20日 天明8年　4月15日 晴　昨夜中雨
1788年　5月21日 天明8年　4月16日 晴
1788年　5月22日 天明8年　4月17日 晴
1788年　5月23日 天明8年　4月18日 快晴
1788年　5月24日 天明8年　4月19日 晴
1788年　5月25日 天明8年　4月20日 快晴 (下鍛治町から似せヶ間敷い歩判が見付かる・小間物売りが持参した466を取上げ帰国差留める)
1788年　5月26日 天明8年　4月21日 晴
1788年　5月27日 天明8年　4月22日 快晴 (昨21日藤代組三世寺村で出火・隣家類焼・火元百姓他村預け)
1788年　5月28日 天明8年　4月23日 快晴 (来る29日御発駕の旨仰せ出される)
1788年　5月29日 天明8年　4月24日 快晴
1788年　5月30日 天明8年　4月25日 快晴
1788年　5月31日 天明8年　4月26日 快晴
1788年　6月1日 天明8年　4月27日 曇
1788年　6月2日 天明8年　4月28日 晴
1788年　6月3日 天明8年　4月29日 曇　卯の刻過ぎ雨降
1788年　6月4日 天明8年　5月1日 曇　昨夜中雨　今日巳の刻頃雨降 (4月中所々御関所出人都合252人:碇関248(御印紙出49・切手紙出199)・大間越2人(切手紙出)・野内2人(切手紙出))
1788年　6月5日 天明8年　5月2日 曇
1788年　6月6日 天明8年　5月3日 曇　昨夜中雨
1788年　6月7日 天明8年　5月4日 快晴
1788年　6月8日 天明8年　5月5日 快晴
1788年　6月9日 天明8年　5月6日 曇　昨夜中雨　今日に及ぶ　終日降
1788年　6月10日 天明8年　5月7日 快晴　午の刻より曇　申の中刻より雨降
1788年　6月11日 天明8年　5月8日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年　6月12日 天明8年　5月9日 晴　申の刻小雨
1788年　6月13日 天明8年　5月10日 晴
1788年　6月14日 天明8年　5月11日 曇　巳の刻過ぎ小雨
1788年　6月15日 天明8年　5月12日 晴
1788年　6月16日 天明8年　5月13日 快晴
1788年　6月17日 天明8年　5月14日 快晴
1788年　6月18日 天明8年　5月15日 晴
1788年　6月19日 天明8年　5月16日 快晴
1788年　6月20日 天明8年　5月17日 快晴　未の刻過ぎ雨　雷発
1788年　6月21日 天明8年　5月18日 快晴　未の刻過ぎ雷発
1788年　6月22日 天明8年　5月19日 曇　辰の刻過ぎより終日雨降
1788年　6月23日 天明8年　5月20日 曇　辰の下刻より雨
1788年　6月24日 天明8年　5月21日 曇
1788年　6月25日 天明8年　5月22日 快晴
1788年　6月26日 天明8年　5月23日 曇
1788年　6月27日 天明8年　5月24日 曇
1788年　6月28日 天明8年　5月25日 晴
1788年　6月29日 天明8年　5月26日 快晴 (今日九時半過ぎ御着城)
1788年　6月30日 天明8年　5月27日 曇　午の刻頃より雨降　未の刻過ぎ止

1788年　7月1日 天明8年　5月28日 曇　今暁地震少し　未の刻より晴ル　(頃日天気不勝に付岩木嵩ならひ湯段とも湯治差留める)
1788年　7月2日 天明8年　5月29日 快晴
1788年　7月3日 天明8年　5月30日 晴　午の刻過ぎより曇　雨降　申の刻止
1788年　7月4日 天明8年　6月1日 曇　(5月中所々御関所出人都合55人:碇関50人(御印紙出36・切手紙出14)・大間越1人(切手紙出)・野内4人(切手紙出))
1788年　7月5日 天明8年　6月2日 曇　辰の刻前より雨降
1788年　7月6日 天明8年　6月3日 曇　午の刻より時々小雨
1788年　7月7日 天明8年　6月4日 曇　昨夜子の刻より雨　今朝に及ぶ　今日時々雨　(いつものことであるが青田の内笛吹くな・丹後者のようであれば早速送り返せ等の指示)
1788年　7月8日 天明8年　6月5日 曇
1788年　7月9日 天明8年　6月6日 曇　(正金に紛らわしい雛金を回収し持参した秋田商人(4月20日記述)を送り返す)
1788年　7月10日 天明8年　6月7日 晴　朝の内曇
1788年　7月11日 天明8年　6月8日 曇　未の刻前小雨
1788年　7月12日 天明8年　6月9日 曇　昨夜中雨少々　今日午の刻前より快晴ニ成る
1788年　7月13日 天明8年　6月10日 快晴
1788年　7月14日 天明8年　6月11日 快晴　(人事異動)
1788年　7月15日 天明8年　6月12日 快晴
1788年　7月16日 天明8年　6月13日 快晴
1788年　7月17日 天明8年　6月14日 快晴
1788年　7月18日 天明8年　6月15日 快晴　今夜亥の三刻土用に入る　(人事異動)
1788年　7月19日 天明8年　6月16日 快晴
1788年　7月20日 天明8年　6月17日 快晴
1788年　7月21日 天明8年　6月18日 快晴　午の刻過ぎより雨　雷発　申の刻より晴
1788年　7月22日 天明8年　6月19日 快晴
1788年　7月23日 天明8年　6月20日 曇　時々雨
1788年　7月24日 天明8年　6月21日 曇　昨夜中雨　風強シ　今終日雨風強　(阿弥陀川前浜に松前箱館の船が難船・女1人水死)
1788年　7月25日 天明8年　6月22日 曇　昨夜中風強　今日辰の刻より雨強シ　(四社に日和揚げ・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける・神明宮に御神楽を申付ける)
1788年　7月26日 天明8年　6月23日 曇　昨夜中風雨強　今日終日雨
1788年　7月27日 天明8年　6月24日 晴　昨夜時々小雨
1788年　7月28日 天明8年　6月25日 快晴
1788年　7月29日 天明8年　6月26日 晴　(不勤・頭の申しつけを用いなかった御目見以下御留守居支配を御給分召し放ち永の暇)
1788年　7月30日 天明8年　6月27日 晴
1788年　7月31日 天明8年　6月28日 曇　(至孝の御目見以下御留守居支配を御目見以上御留守居支配とする、御家中の親が自害)
1788年　8月1日 天明8年　6月29日 曇
1788年　8月2日 天明8年　7月1日 快晴
1788年　8月3日 天明8年　7月2日 快晴
1788年　8月4日 天明8年　7月3日 快晴
1788年　8月5日 天明8年　7月4日 曇　辰の中刻雷発　小雨　午の刻雷発　則刻より雨降
1788年　8月6日 天明8年　7月5日 曇　昨夜より雨　今日午の刻より快晴
1788年　8月7日 天明8年　7月6日 快晴
1788年　8月8日 天明8年　7月7日 快晴　申の刻前より曇　雨降　夜に入る
1788年　8月9日 天明8年　7月8日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年　8月10日 天明8年　7月9日 晴　(去月26日夜金木組宮野沢村に盗人・脇差で手向かい手傷を負わせる)
1788年　8月11日 天明8年　7月10日 陰晴　(大鰐村加賀助が初穂差上げる)
1788年　8月12日 天明8年　7月11日 快晴
1788年　8月13日 天明8年　7月12日 快晴
1788年　8月14日 天明8年　7月13日 快晴
1788年　8月15日 天明8年　7月14日 快晴
1788年　8月16日 天明8年　7月15日 快晴　(昨14日七時過ぎ御巡見使が碇ヶ関に着く)
1788年　8月17日 天明8年　7月16日 快晴　(御巡見使3人が今朝辰の刻過ぎ弘前着)
1788年　8月18日 天明8年　7月17日 快晴
1788年　8月19日 天明8年　7月18日 快晴　風立　申の刻頃虹見ゆる
1788年　8月20日 天明8年　7月19日 快晴
1788年　8月21日 天明8年　7月20日 陰晴
1788年　8月22日 天明8年　7月21日 晴
1788年　8月23日 天明8年　7月22日 晴　午の刻頃より今　未の刻頃雷発
1788年　8月24日 天明8年　7月23日 快晴　未の中刻より雷発
1788年　8月25日 天明8年　7月24日 曇　昨夜中雨降　雷発　今日終日雨降
1788年　8月26日 天明8年　7月25日 曇　昨夜中雨強　今朝に及ぶ　辰の刻頃止
1788年　8月27日 天明8年　7月26日 曇　昨夜丑の刻より大雨　今日午の刻晴
1788年　8月28日 天明8年　7月27日 快晴　未の下刻小雨
1788年　8月29日 天明8年　7月28日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の中刻より晴
1788年　8月30日 天明8年　7月29日 晴
1788年　8月31日 天明8年　8月1日 曇　午の刻前より雨　(7月中碇関出人都合51人(御印紙出34・切手紙出17)、人事異動、久渡寺より真桑瓜差上げる)

1788年　9月1日 天明8年　8月2日 快晴
1788年　9月2日 天明8年　8月3日 陰晴　未の刻頃小雨 （常盤・藤代・浪岡・増館・金木・金木新田で水湛・水引き次第申し上げる）
1788年　9月3日 天明8年　8月4日 曇 （大鰐村加賀助・兵左衛門が初米3俵差上げる、一昨2日御巡見使御用で青森に出ていた元町村の男が溺死）
1788年　9月4日 天明8年　8月5日 曇　昨夜寅の刻小雨　今日午の刻雨少々降
1788年　9月5日 天明8年　8月6日 曇　昨夜雨強し　今日時々雨降
1788年　9月6日 天明8年　8月7日 曇　昨夜折々雨降　今日午の刻頃小雨
1788年　9月7日 天明8年　8月8日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年　9月8日 天明8年　8月9日 晴 （那須与一様の御奥様去月25日御卒去）
1788年　9月9日 天明8年　8月10日 曇　昨夜酉の刻過ぎ小雨
1788年 9月10日 天明8年　8月11日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨降
1788年 9月11日 天明8年　8月12日 晴
1788年 9月12日 天明8年　8月13日 曇　昨夜折々小雨　今日辰の刻過ぎより小雨 （打続天気不勝に付百沢下居宮並びに百沢寺で日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1788年 9月13日 天明8年　8月14日 曇　昨夜中雨　今日雨終日降
1788年 9月14日 天明8年　8月15日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年 9月15日 天明8年　8月16日 快晴 （今日八幡宮御祭礼）
1788年 9月16日 天明8年　8月17日 晴
1788年 9月17日 天明8年　8月18日 曇　今暁雨少々
1788年 9月18日 天明8年　8月19日 曇　時々雨少々　東北之方ニ虹見ゆる （当月5・6日の大雨により金木組小泊村漁師町で山崩れ・足軽目付勤番所並びに所々に潰れ家あり・娘1人怪我・のち死亡）
1788年 9月19日 天明8年　8月20日 曇　昨夜中雨　今日時々小雨　辰の刻過ぎ地震 （去る15日古懸山不動尊御出汗）
1788年 9月20日 天明8年　8月21日 快晴
1788年 9月21日 天明8年　8月22日 快晴
1788年 9月22日 天明8年　8月23日 晴
1788年 9月23日 天明8年　8月24日 曇　昨夜中雨　今朝虹見ゆる　辰の刻過ぎ小雨
1788年 9月24日 天明8年　8月25日 曇 （当月19日赤石組の村々で大風・田畑作毛風損）
1788年 9月25日 天明8年　8月26日 晴　午の刻より曇 （今日外馬場で駒寄せ高覧）
1788年 9月26日 天明8年　8月27日 曇 （御巡見使3人が狩場沢から帰る）
1788年 9月27日 天明8年　8月28日 曇
1788年 9月28日 天明8年　8月29日 晴　昨夜稲光り　雨　雷発
1788年 9月29日 天明8年　8月30日 快晴 （当年御登らせ鉛7箇代金共入都合63両3歩余：意味は判らないが具体的な値段を示すと考えて記入した：福眞）
1788年 9月30日 天明8年　9月1日 曇 （8月中所々御関所出人都合70人：碇関67人（御印紙出42・切手紙出25）・大間越2人（切手紙出）・野内1人（切手紙出））
1788年 10月1日 天明8年　9月2日 快晴
1788年 10月2日 天明8年　9月3日 晴
1788年 10月3日 天明8年　9月4日 曇　終日雨降
1788年 10月4日 天明8年　9月5日 晴　昨夜中雨
1788年 10月5日 天明8年　9月6日 晴
1788年 10月6日 天明8年　9月7日 晴　身の刻過ぎ小雨　否止　同刻虹見ゆる
1788年 10月7日 天明8年　9月8日 曇
1788年 10月8日 天明8年　9月9日 晴
1788年 10月9日 天明8年　9月10日 曇
1788年 10月10日 天明8年　9月11日 晴
1788年 10月11日 天明8年　9月12日 晴　巳の刻過ぎより曇　雨降 （今日五時揃えにて西の郭で御家中二男三男の射芸高覧、今朝御家中の妻が井戸に入り自害）
1788年 10月12日 天明8年　9月13日 曇　時々雨
1788年 10月13日 天明8年　9月14日 曇　今朝みそれ降　岩木山に雪見ゆる
1788年 10月14日 天明8年　9月15日 曇　昨夜中雨
1788年 10月15日 天明8年　9月16日 曇
1788年 10月16日 天明8年　9月17日 晴 （御武具蔵に収めてある鉄砲玉が17万1800余なんだって）
1788年 10月17日 天明8年　9月18日 曇　未の中刻より雨
1788年 10月18日 天明8年　9月19日 曇　昨夜中より雨終日降
1788年 10月19日 天明8年　9月20日 曇
1788年 10月20日 天明8年　9月21日 晴 （近く剣術の高覧があるので慎み中の三上鋭助の門弟にも稽古させる）
1788年 10月21日 天明8年　9月22日 快晴
1788年 10月22日 天明8年　9月23日 快晴　午の刻過ぎより曇
1788年 10月23日 天明8年　9月24日 曇
1788年 10月24日 天明8年　9月25日 快晴
1788年 10月25日 天明8年　9月26日 曇　昨夜中より終日雨降 （役筋忘却の石岡某の御給分召上げ永のお暇）
1788年 10月26日 天明8年　9月27日 曇　昨夜中雨降 （今日御家中の剣術稽古高覧）
1788年 10月27日 天明8年　9月28日 晴
1788年 10月28日 天明8年　9月29日 快晴　今暁霜強し （金木組下岩崎村端で男に鞭刑7鞭と居村より10里追放・飯詰組松木村で……無体になふり男2人を半死半生迄殴ったため、その同類にも罰、逃げた4人を指名手配）
1788年 10月29日 天明8年　10月1日 晴 （9月中所々御関所出人都合120人：碇ヶ関98人（御印紙出52・切手紙出46）・野内22人（御印紙出）、人事異動）
1788年 10月30日 天明8年　10月2日 晴　申の刻過ぎより曇　小雨　雷発
1788年 10月31日 天明8年　10月3日 曇　昨夜中小雨　今日巳の下刻雨

1788年　11月1日 天明8年　　10月4日 曇
1788年　11月2日 天明8年　　10月5日 曇　今暁雪少々　今日午の刻過ぎより雪降
1788年　11月3日 天明8年　　10月6日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年　11月4日 天明8年　　10月7日 曇　昨夜戌の刻過ぎ雷発ス　雨降　今日午ノ上刻雨　未の刻より晴ル　(類族小泊村長松の従弟(52歳女)が病死)
1788年　11月5日 天明8年　　10月8日 晴　昨夜小雨　(弘前在方両濱十三の酒屋数82軒・去年の造酒米高12020石今年は1030石減らす、酒造の御役銭は100石に付き1貫500目)
1788年　11月6日 天明8年　　10月9日 昨夜雨少々　申の刻虹見ゆる
1788年　11月7日 天明8年　10月10日 曇　今暁雨少々　否止(いなややむ:直ちに止むの意:福眞)　午の刻過ぎ雨　申の刻過ぎより雪降　(御家中鑓稽古出精の面々を高覧)
1788年　11月8日 天明8年　10月11日 曇　昨夜より今朝まで雪降　(今日初雪に付き……)
1788年　11月9日 天明8年　10月12日 晴
1788年 11月10日 天明8年　10月13日 曇　午の刻頃より晴ル
1788年 11月11日 天明8年　10月14日 曇　昨夜雨少し降　今日巳の刻小雨　同刻虹見ゆる
1788年 11月12日 天明8年　10月15日 曇　時々小雨
1788年 11月13日 天明8年　10月16日 曇　昨夜雪少し
1788年 11月14日 天明8年　10月17日 晴　(今日八時御供揃えにて御風呂屋口より御出山之観音堂江御参詣遊ばされ候旨仰せ出される:参詣したのか?出口はどこか?供揃えとは大げさだね:福眞)
1788年 11月15日 天明8年　10月18日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日折々雨降
1788年 11月16日 天明8年　10月19日 晴
1788年 11月17日 天明8年　10月20日 晴　(16日金木組金木村で出火・火元百姓村預け)
1788年 11月18日 天明8年　10月21日 昨夜雨少々　申の刻虹見ゆる
1788年 11月19日 天明8年　10月22日 晴　午の刻より曇ル
1788年 11月20日 天明8年　10月23日 曇　時々雨　(今日御役者稽古御囃子高覧、去る7月7日黒石表で金銭を無心し騒動になった御家中?2人を弘前より十里(五里)四方追放)
1788年 11月21日 天明8年　10月24日 曇　時々雨　申の刻より雨強シ　夜に入
1788年 11月22日 天明8年　10月25日 曇　昨夜中雨終夜　今朝に及ぶ　今日時々雨降　(紺屋町枡形より上の石渡川に女水死)
1788年 11月23日 天明8年　10月26日 晴
1788年 11月24日 天明8年　10月27日 曇　今朝虹見ゆる　午の刻より雨降
1788年 11月25日 天明8年　10月28日 曇　昨夜より今日折々雨降
1788年 11月26日 天明8年　10月29日 曇　昨夜中風立　雪少々　今朝に及ぶ
1788年 11月27日 天明8年　10月30日 曇　今暁風強シ　小雪降
1788年 11月28日 天明8年　　11月1日 曇　昨夜中雪　二寸程積　(人事異動、10月中所々御関所出人都合76人:碇ヶ関73人(御印紙出59・切手紙出14)・野内3人(切手紙出))
1788年 11月29日 天明8年　　11月2日 晴　昨夜より折々雪
1788年 11月30日 天明8年　　11月3日 曇　今暁より雨時々降
1788年　12月1日 天明8年　　11月4日 晴　(本町五丁目の男の下人が倒死)
1788年　12月2日 天明8年　　11月5日 曇　終日雪　五寸程降
1788年　12月3日 天明8年　　11月6日 曇　昨夜雪五寸程　今日時々雪
1788年　12月4日 天明8年　　11月7日 曇　昨夜中小雨　今日時々雪
1788年　12月5日 天明8年　　11月8日 曇　時々雪降
1788年　12月6日 天明8年　　11月9日 曇　昨晩雪少々　今日酉の刻より雪降
1788年　12月7日 天明8年　11月10日 曇　昨夜中雪降　今日雪少々降
1788年　12月8日 天明8年　11月11日 曇　(一昨夜男牢死)
1788年　12月9日 天明8年　11月12日 晴
1788年 12月10日 天明8年　11月13日 曇　昨夜小雨　今朝に及ぶ
1788年 12月11日 天明8年　11月14日 曇
1788年 12月12日 天明8年　11月15日 快晴　(五山に日和揚げ・四社に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付けられる)
1788年 12月13日 天明8年　11月16日 曇　昨夜より折々小雨
1788年 12月14日 天明8年　11月17日 曇　昨夜中折々小雨
1788年 12月15日 天明8年　11月18日 快晴
1788年 12月16日 天明8年　11月19日 曇　昨夜中雨　今日午ノ上刻より晴
1788年 12月17日 天明8年　11月20日 曇　(津軽屋三左衛門手代に御目見・御料理)
1788年 12月18日 天明8年　11月21日 曇　昨夜雪一寸程　今日午の刻より雪少々ふる
1788年 12月19日 天明8年　11月22日 曇
1788年 12月20日 天明8年　11月23日 晴　(今日江戸表江道中7日振りの飛脚差し立てる)
1788年 12月21日 天明8年　11月24日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1788年 12月22日 天明8年　11月25日 曇　昨夜中雪　今朝に至る
1788年 12月23日 天明8年　11月26日 曇　少々雪降　(山崎屋・伊勢屋に御料理・御目見)
1788年 12月24日 天明8年　11月27日 晴
1788年 12月25日 天明8年　11月28日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　二寸程降　辰の刻頃より晴ル
1788年 12月26日 天明8年　11月29日 曇　昨夜中雪一寸程　今日時々雪降
1788年 12月27日 天明8年　　12月1日 曇　昨夜中雪三寸程降　(11月中所々御関所出人都合35人:碇関31人(御印紙出18・切手紙出13)・野内4人(切手紙出))
1788年 12月28日 天明8年　　12月2日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(去月25日暮六時より翌朝までに十三潟が残らず氷張る)
1788年 12月29日 天明8年　　12月3日 曇　昨夜中雪四寸位積ル
1788年 12月30日 天明8年　　12月4日 曇　昨夜中雪三寸位積ル
1788年 12月31日 天明8年　　12月5日 曇　昨夜中三寸程雪降

1789年　1月1日 天明8年　12月6日 快晴
1789年　1月2日 天明8年　12月7日 晴
1789年　1月3日 天明8年　12月8日 晴
1789年　1月4日 天明8年　12月9日 曇　時々雪
1789年　1月5日 天明8年　12月10日 晴　今日辰の六刻寒に入る　(御献上の鱈高覧)
1789年　1月6日 天明8年　12月11日 晴　昨夜中より寒気強し　(馬喰町の14軒に御手当て願・来3月まで1軒に米8升宛下し置かれる、新寺町に雪潰れ家1軒)
1789年　1月7日 天明8年　12月12日 快晴　寒気強し
1789年　1月8日 天明8年　12月13日 晴
1789年　1月9日 天明8年　12月14日 晴
1789年　1月10日 天明8年　12月15日 晴　昨夜寒気強し
1789年　1月11日 天明8年　12月16日 曇　(雉子当年払底に付き漸く献上20羽)
1789年　1月12日 天明8年　12月17日 曇
1789年　1月13日 天明8年　12月18日 曇　(去る16日大鰐組乳井村毘沙門境内の作業小屋焼失)
1789年　1月14日 天明8年　12月19日 曇
1789年　1月15日 天明8年　12月20日 曇　昨夜雪三寸程積ル　(町中惣酒屋共が申し出:当寒造酒値段を1文目5分→1升に付き1文目2分値段に申付ける)
1789年　1月16日 天明8年　12月21日 曇　昨夜雪三寸程積ル
1789年　1月17日 天明8年　12月22日 曇
1789年　1月18日 天明8年　12月23日 曇
1789年　1月19日 天明8年　12月24日 晴　昨夜寒気強　朝の内雪吹
1789年　1月20日 天明8年　12月25日 晴　昨夜寒気強　雪少々降
1789年　1月21日 天明8年　12月26日 晴　未の刻過ぎより雪降
1789年　1月22日 天明8年　12月27日 曇　昨夜雪三寸程積
1789年　1月23日 天明8年　12月28日 曇　昨夜寒気強し　(人事異動、多くの職員に褒美(金100疋・銀3両など))
1789年　1月24日 天明8年　12月29日 曇
1789年　1月25日 天明8年　12月30日 曇
1789年　1月26日 天明9年　正月1日　曇　昨夜中大風　雪三寸程降　寒気強　今暁寅の下刻地震　辰の刻地震少シ
1789年　1月27日 天明9年　正月2日　曇　時々雪　寒気強シ
1789年　1月28日 天明9年　正月3日　曇　時々雪降　寒気強　(御吉礼金200両例の通り、今晩御謡初)
1789年　1月29日 天明9年　正月4日　晴　昨夜少し雪降　寒気強　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1789年　1月30日 天明9年　正月5日　快晴
1789年　1月31日 天明9年　正月6日　晴
1789年　2月1日 天明9年　正月7日　晴　昨夜雪少々　今朝風強
1789年　2月2日 天明9年　正月8日　晴　(今3日津軽坂で雪吹により男1人倒死)
1789年　2月3日 天明9年　正月9日　晴　昨夜中少々雪
1789年　2月4日 天明9年　正月10日　晴　昨夜雪三寸程積
1789年　2月5日 天明9年　正月11日　曇　昨夜雪少々降　(高倉主計を御手廻組頭等の人事異動)
1789年　2月6日 天明9年　正月12日　曇　昨夜少し雪　今日折々雪ふる
1789年　2月7日 天明9年　正月13日　晴
1789年　2月8日 天明9年　正月14日　晴　今暁雪少し降
1789年　2月9日 天明9年　正月15日　晴　昨夜雪少し降
1789年　2月10日 天明9年　正月16日　晴
1789年　2月11日 天明9年　正月17日　晴　未の刻頃より少々雪降　(12月中所々御関所出人都合38人:碇関28人(御印紙出14・切手紙出14)・野内10人(御印紙出2・切手紙出8))
1789年　2月12日 天明9年　正月18日　曇　昨夜中雪三寸程降　(江戸御家中並びに御国勝手に御手当て:金6両1歩と9文目9分8厘(500石)・1両2分(100石)・1両1歩と4文目1分9厘(100俵)・7文目6分(2両)など)
1789年　2月13日 天明9年　正月19日　曇
1789年　2月14日 天明9年　正月20日　晴
1789年　2月15日 天明9年　正月21日　晴
1789年　2月16日 天明9年　正月22日　曇　巳の刻頃より雪一尺程ふる
1789年　2月17日 天明9年　正月23日　晴　昨夜中雪降
1789年　2月18日 天明9年　正月24日　曇　今朝雪降　時々小雪
1789年　2月19日 天明9年　正月25日　晴　昨夜中雪五寸位積
1789年　2月20日 天明9年　正月26日　曇　昨夜中雪三寸程積　今暁寅の刻頃地震余程強し
1789年　2月21日 天明9年　正月27日　曇　昨夜雪三寸程降る　余寒強し
1789年　2月22日 天明9年　正月28日　晴　昨夜余寒強し　今日未の刻過ぎ地震
1789年　2月23日 天明9年　正月29日　晴　昨夜中雪降
1789年　2月24日 天明9年　正月30日　晴　昨夜中より暖気ニ成ル
1789年　2月25日 天明9年　2月1日 晴　昨今少々暖気　(荒地の再検出精者に褒美銀3枚宛、正月中碇関出人都合103人(御印紙出72・切手紙出31))
1789年　2月26日 天明9年　2月2日 晴　昨夜中雪降
1789年　2月27日 天明9年　2月3日 晴　今日未の刻頃より雪
1789年　2月28日 天明9年　2月4日 晴

1789年　3月1日 天明9年　　2月5日 曇　昨夜中風雨
1789年　3月2日 天明9年　　2月6日 晴　朝の内雪降
1789年　3月3日 天明9年　　2月7日 快晴　昨夜中雪
1789年　3月4日 天明9年　　2月8日 曇　今日暖和 （男牢死）
1789年　3月5日 天明9年　　2月9日 晴　朝の内曇
1789年　3月6日 天明9年　　2月10日 快晴　昨夜亥の刻頃小雨　今日暖和
1789年　3月7日 天明9年　　2月11日 曇　午の刻頃より晴
1789年　3月8日 天明9年　　2月12日 曇　昨夜中雨　今日午の刻頃止 （御書院で射芸高覧）
1789年　3月9日 天明9年　　2月13日 曇　午の下刻雨　未の刻風立
1789年　3月10日 天明9年　　2月14日 曇　昨夜中風立　今朝雪少々　寒気強し
1789年　3月11日 天明9年　　2月15日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　寒気強
1789年　3月12日 天明9年　　2月16日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今日巳の刻頃より晴
1789年　3月13日 天明9年　　2月17日 曇 （今日御家中の面々剣術出精の族高覧、昨晩御馬廻り組から御留守居組に役下げ7人:御蔵奉行勤務中不〆）
1789年　3月14日 天明9年　　2月18日 曇　昨夜中雪五寸程　今日時々雪吹 （去る10日夜横内組松森村で火災1軒・火元百姓）
1789年　3月15日 天明9年　　2月19日 快晴　昨夜中雪五寸位降
1789年　3月16日 天明9年　　2月20日 曇　昨夜中雪降 （今日御家中鎗術高覧）
1789年　3月17日 天明9年　　2月21日 晴　今暁雪少々　今日暖和 （去る3日改元:年号寛政）
1789年　3月18日 天明9年　　2月22日 晴　今日暖和 （今日御囃子高覧）
1789年　3月19日 天明9年　　2月23日 晴　今日暖和 （博打打ち6人を弘前払い・3里四方追放）
1789年　3月20日 天明9年　　2月24日 曇　今日昼頃より晴
1789年　3月21日 天明9年　　2月25日 晴　今朝少々雪　昨夜より寒る
1789年　3月22日 天明9年　　2月26日 曇　昨夜中寒ル
1789年　3月23日 天明9年　　2月27日 曇　昨夜中雪三寸程降
1789年　3月24日 天明9年　　2月28日 曇　今日寒る
1789年　3月25日 天明9年　　2月29日 晴　今朝雨少々
1789年　3月26日 天明9年　　2月30日 晴　今朝少々雪
1789年　3月27日 寛政元年　　3月1日 曇　昨夜中雪　今日終日雪 （人事異動、2月中碇ヶ関出人都合56人(御印紙出38・切手紙出18)）
1789年　3月28日 寛政元年　　3月2日 曇　今日昼頃より晴ル　寒る （金木組嘉瀬村の高無が熊(胆長3寸廻り4寸5歩生目形25文目)取る）
1789年　3月29日 寛政元年　　3月3日 曇　昨夜中雪　今日寒る
1789年　3月30日 寛政元年　　3月4日 快晴
1789年　3月31日 寛政元年　　3月5日 快晴 （今七つ時過ぎ寿昌院で秋田の男自害）
1789年　4月1日 寛政元年　　3月6日 曇　昨夜中雨　今日終日雨 （人事異動）
1789年　4月2日 寛政元年　　3月7日 晴　朝の内曇 （義倉取り扱いを仰せ付けられる:御用人2人と勘定奉行2人）
1789年　4月3日 寛政元年　　3月8日 晴
1789年　4月4日 寛政元年　　3月9日 曇　昨夜中雪　今日時々雪 （御家中召使の給銭定め:上中間80目・中70目・下60目）
1789年　4月5日 寛政元年　　3月10日 快晴
1789年　4月6日 寛政元年　　3月11日 曇 （物価引下げの御目付触れ）
1789年　4月7日 寛政元年　　3月12日 曇　今日風　未の刻頃より雨
1789年　4月8日 寛政元年　　3月13日 曇
1789年　4月9日 寛政元年　　3月14日 快晴 （3月10日暮六時より11日朝まで十三潟が早川口より残らず氷明ける・去年は2月16日暮六時より17日の朝まで早川口より残らず氷明ける・日数に引合25日遅く節に引合12日遅い）
1789年　4月10日 寛政元年　　3月15日 快晴 （四半時御発駕）
1789年　4月11日 寛政元年　　3月16日 快晴
1789年　4月12日 寛政元年　　3月17日 快晴 （御家中の難儀者に御手当て:60目を御手廻と御馬廻番頭4人に・40目を御手廻・御馬廻・御留守居組と御中小姓47人に・20目を御留守居支配・御徒・日記物書の9人になど）
1789年　4月13日 寛政元年　　3月18日 快晴 （江戸のぼりを命じられ旅費を貰った掃除小人が出奔・人相書きで手配）
1789年　4月14日 寛政元年　　3月19日 曇
1789年　4月15日 寛政元年　　3月20日 曇 （御家老津軽多膳の与力が召使の下女に手負わせ自害）
1789年　4月16日 寛政元年　　3月21日 曇
1789年　4月17日 寛政元年　　3月22日 曇　昨夜中風雨　今朝に及ぶ
1789年　4月18日 寛政元年　　3月23日 曇　今日風立　霞ふかし
1789年　4月19日 寛政元年　　3月24日 曇
1789年　4月20日 寛政元年　　3月25日 快晴
1789年　4月21日 寛政元年　　3月26日 晴
1789年　4月22日 寛政元年　　3月27日 曇　今日折々小雨 （22日相馬山で駒越組相馬村の三九郎が熊(胆生目18文目)取る）
1789年　4月23日 寛政元年　　3月28日 曇　昨夜中小雨　今日終日雨
1789年　4月24日 寛政元年　　3月29日 晴　昨夜中雨　今朝曇
1789年　4月25日 寛政元年　　4月1日 快晴 （3月中所々御関所出人都合108人:碇ヶ関104人(御印紙出28・切手紙出76)・大間越4人(御印紙出2・切手紙出2)）
1789年　4月26日 寛政元年　　4月2日 快晴　頃日格別暖和
1789年　4月27日 寛政元年　　4月3日 曇　今日申の刻過ぎより風はけし
1789年　4月28日 寛政元年　　4月4日 曇　今暁風雨強し　卯の刻前雨止　大風に成　辰の刻頃風止　午の刻過ぎより雨　申の刻過ぎより風立　夜中時々風立
1789年　4月29日 寛政元年　　4月5日 曇　今暁より時々風　辰の刻頃余程風強し
1789年　4月30日 寛政元年　　4月6日 快晴

1789年　5月1日 寛政元年　4月7日 曇
1789年　5月2日 寛政元年　4月8日 晴
1789年　5月3日 寛政元年　4月9日 晴
1789年　5月4日 寛政元年　4月10日 曇　申の刻過ぎより時々雨
1789年　5月5日 寛政元年　4月11日 快晴
1789年　5月6日 寛政元年　4月12日 快晴　(大光寺組館山村で火災(家3軒・土蔵・馬屋2軒・木小屋・白米120俵・籾20俵・粟3叭・蕎麦5俵・稗6俵))
1789年　5月7日 寛政元年　4月13日 快晴
1789年　5月8日 寛政元年　4月14日 快晴
1789年　5月9日 寛政元年　4月15日 晴　昨夜酉の刻小雨
1789年　5月10日 寛政元年　4月16日 快晴　(去る4日午の刻屋形様御着府、当御廻船運賃100石に付き金21両)
1789年　5月11日 寛政元年　4月17日 快晴　頃日格別暖和　(大光寺組館田村の火元の百姓の他村預け免許)
1789年　5月12日 寛政元年　4月18日 曇　今日時々風立　(去る15日深浦御蔵町から出火21軒焼失・潰れ家1軒・男焼死)
1789年　5月13日 寛政元年　4月19日 曇　今朝辰の刻過ぎより雨　午の中刻止ム
1789年　5月14日 寛政元年　4月20日 晴　今日終日風立
1789年　5月15日 寛政元年　4月21日 晴　今日時々風立
1789年　5月16日 寛政元年　4月22日 快晴
1789年　5月17日 寛政元年　4月23日 快晴
1789年　5月18日 寛政元年　4月24日 曇　昨夜中より雨　今日巳の刻頃止ム
1789年　5月19日 寛政元年　4月25日 晴　昨夜風雨　今日時々風
1789年　5月20日 寛政元年　4月26日 晴
1789年　5月21日 寛政元年　4月27日 曇　昨夜中小雨
1789年　5月22日 寛政元年　4月28日 晴
1789年　5月23日 寛政元年　4月29日 快晴　申の刻過ぎ小雨
1789年　5月24日 寛政元年　4月30日 快晴
1789年　5月25日 寛政元年　5月1日 快晴　今日申の刻小雨　(4月中所々御関所出人都合119人:碇ヶ関112人(御印紙出61・切手紙出51)・大間越6人(切手紙出)・野内1人(切手紙出)、公儀のお達し:贅沢・大きな飾等の禁止)
1789年　5月26日 寛政元年　5月2日 晴　(去る25日広田組喰川村で出火・類焼あり・火元高無他村預け・免許)
1789年　5月27日 寛政元年　5月3日 曇　未の刻頃小雨
1789年　5月28日 寛政元年　5月4日 快晴
1789年　5月29日 寛政元年　5月5日 曇　今日巳の刻頃小雨
1789年　5月30日 寛政元年　5月6日 曇　今日時々小雨　(昨日報恩寺門前の男が富田村の竹林で縊死)
1789年　5月31日 寛政元年　5月7日 晴
1789年　6月1日 寛政元年　5月8日 晴
1789年　6月2日 寛政元年　5月9日 曇　今日巳の刻小雨
1789年　6月3日 寛政元年　5月10日 晴　今日時々風立
1789年　6月4日 寛政元年　5月11日 晴
1789年　6月5日 寛政元年　5月12日 曇　昨夜中より雨　今日雨終日　(出羽庄内出生の盗人男を御憐憫を以って碇関追放)
1789年　6月6日 寛政元年　5月13日 曇　昨夜より雨　今日時々雨　今日巳の刻雷発
1789年　6月7日 寛政元年　5月14日 晴　朝の内小雨
1789年　6月8日 寛政元年　5月15日 晴　今日向暑
1789年　6月9日 寛政元年　5月16日 曇　朝の内小雨
1789年　6月10日 寛政元年　5月17日 晴　(当4月4日寅の刻より辰の刻過ぎまで東風強く御郭などに被害:御郭廻り塀吹き倒れ8ケ所など・潰れ家66軒・同馬屋6軒・樹木193本・男1人女2人馬1疋怪我・町在の屋根所々吹剥げる)
1789年　6月11日 寛政元年　5月18日 快晴　今日暑
1789年　6月12日 寛政元年　5月19日 快晴　今日暑
1789年　6月13日 寛政元年　5月20日 快晴　今日暑
1789年　6月14日 寛政元年　5月21日 快晴　今日大暑
1789年　6月15日 寛政元年　5月22日 晴　今日雨　昨夜中より今日大暑
1789年　6月16日 寛政元年　5月23日 快晴　今日大暑
1789年　6月17日 寛政元年　5月24日 快晴　今日大暑
1789年　6月18日 寛政元年　5月25日 快晴　今日大暑　(諸商売物高値に付き旧冬より段々御沙汰の上割り下げ仰せ付けられ候に付き……)
1789年　6月19日 寛政元年　5月26日 晴　今日大暑
1789年　6月20日 寛政元年　5月27日 晴　未の刻頃雷発　今日大暑
1789年　6月21日 寛政元年　5月28日 快晴　朝の内曇　今日大暑
1789年　6月22日 寛政元年　5月29日 快晴　昨夜子の刻小雨　今日大暑　未の刻雨　則刻止
1789年　6月23日 寛政元年　6月1日 快晴　昨夜中雨　今日朝の内小雨　午の刻過ぎ雷発　(5月中碇関出人都合57人(御印紙出32・切手紙出25))
1789年　6月24日 寛政元年　6月2日 快晴　朝の内曇
1789年　6月25日 寛政元年　6月3日 曇　今日未の刻より雨時々降
1789年　6月26日 寛政元年　6月4日 晴　朝の内曇
1789年　6月27日 寛政元年　6月5日 快晴　朝の内曇　(昨夜別段御用が六十六部2人を見当てる・碇関口送り返し)
1789年　6月28日 寛政元年　6月6日 快晴　暑気強　(神明宮下社家に御手当て願・御米1俵下し置かれる)
1789年　6月29日 寛政元年　6月7日 曇　巳の刻過ぎ小雨　(神明宮で五穀成就の御祈祷)
1789年　6月30日 寛政元年　6月8日 晴　朝の内曇　今日暑気　(唐牛某が御米拝借願・2俵2斗の拝借を申付ける)

1789年　7月1日 寛政元年　6月9日 曇　昨夜中雨　今日時々小雨　申ノ過刻より風立
1789年　7月2日 寛政元年　6月10日 晴　昨夜中風立
1789年　7月3日 寛政元年　6月11日 快晴　辰の上刻地震強し　巳の中刻地震
1789年　7月4日 寛政元年　6月12日 晴　昨夜中戌の刻過ぎ地震　今日大暑　(極難の黒滝某から御米拝借願・2俵の拝借を申付ける)
1789年　7月5日 寛政元年　6月13日 曇　今朝辰の刻過ぎより終日雨
1789年　7月6日 寛政元年　6月14日 曇　昨夜中雨　今日巳の刻地震少々　巳の刻過ぎ地震強　今日時々小雨　(石渡川が四歩半の出水・馬船小船とも往来なりかねる)
1789年　7月7日 寛政元年　6月15日 曇　昨夜中雨　今日午の刻雨時(冷・段・折・頃などにも見える:福眞)々　打続大暑　(昨夜男牢死)
1789年　7月8日 寛政元年　6月16日 曇　昨夜中小雨　今朝巳の刻より時々雨
1789年　7月9日 寛政元年　6月17日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(油値段を6文目に仰せ付ける)
1789年　7月10日 寛政元年　6月18日 曇　今日終日雨
1789年　7月11日 寛政元年　6月19日 快晴　今日暑気
1789年　7月12日 寛政元年　6月20日 晴
1789年　7月13日 寛政元年　6月21日 快晴　今日大暑　未の刻より時々雨　(田村某が御米拝借願・2俵を仰せ付けられる、尾崎組新屋村館山で狼荒れる(久しく狼を見なかった:福眞))
1789年　7月14日 寛政元年　6月22日 曇　昨夜中より雨　昨今大暑　(昨夜中より雨で岩木川洪水・駒越渡差留)
1789年　7月15日 寛政元年　6月23日 快晴　今日大暑　(今某が拝借米願・2俵の拝借を申付ける)
1789年　7月16日 寛政元年　6月24日 晴　朝の内小雨
1789年　7月17日 寛政元年　6月25日 曇　今日午の刻まで雨　(出来嶋村前浜に丸木古船流れ寄せる・半年囲い置き主が出なければ拾い主に)
1789年　7月18日 寛政元年　6月26日 晴　今日大暑
1789年　7月19日 寛政元年　6月27日 快晴　今暁寅の刻土用に入る　申の上刻地震
1789年　7月20日 寛政元年　6月28日 快晴　今日大暑
1789年　7月21日 寛政元年　6月29日 曇　昨夜中時々小雨　今日午の刻まで降　(岡本・藤田某が御米拝借願・3俵・2俵拝借仰せ付ける)
1789年　7月22日 寛政元年　6月30日 曇　昨夜より雨時々　巳の刻過ぎ止　(日記物書き山崎某が御米拝借願・2俵の拝借を申付ける)
1789年　7月23日 寛政元年閏6月1日　晴　(6月中所々御関所出人都合40人:碇関30人(御印紙出16・切手紙出14)・野内9人(御印紙出)・大間越1人(切手紙出))
1789年　7月24日 寛政元年閏6月2日　晴　朝の内曇
1789年　7月25日 寛政元年閏6月3日　曇　今日時々雨　(去月28日田舎館村に盗みに入り搦捕られて逃げた男の人相書き(長五尺三寸位など))
1789年　7月26日 寛政元年閏6月4日　曇　(百沢寺に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける、打ち続く天気不正に付き丹後者詮索・送り返すよう申付ける)
1789年　7月27日 寛政元年閏6月5日　晴　巳の刻過ぎ小雨
1789年　7月28日 寛政元年閏6月6日　晴　(塩の小売1升に付き5分5厘)
1789年　7月29日 寛政元年閏6月7日　快晴　今日大暑　申の上刻雨
1789年　7月30日 寛政元年閏6月8日　曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々降　大暑
1789年　7月31日 寛政元年閏6月9日　曇　今暁より終日雨　(打続天気不正に付き神明宮・八幡宮で日和揚げ・五穀成就の御祈祷を仰せ付けられる)
1789年　8月1日 寛政元年閏6月10日 快晴　今日大暑
1789年　8月2日 寛政元年閏6月11日 晴　今日大暑　午の刻過ぎ雨　則刻止　(大鰐村加賀助と兵左衛門より出穂(5月17日植付今日出穂)差上・去年4月28日植付7月10日差上・当年は植付日数引合17日早く節に引合10日早い)
1789年　8月3日 寛政元年閏6月12日 なし(日記は保存されているが天気の記述がない)　(卯辰両年(天明3・4年)の大凶作に伴う死亡の者共の供養を長勝寺・報恩寺・貞昌寺・本行寺に仰せ付ける)
1789年　8月4日 寛政元年閏6月13日 快晴　今日大暑
1789年　8月5日 寛政元年閏6月14日 快晴　今日大暑　未の刻雨　則刻止
1789年　8月6日 寛政元年閏6月15日 快晴　昨夜中より今朝まで涼し
1789年　8月7日 寛政元年閏6月16日 晴　昨夜より今日少々冷
1789年　8月8日 寛政元年閏6月17日 なし(日記は保存されているが天気の記述がない)
1789年　8月9日 寛政元年閏6月18日 快晴　(去る7日夜小泊村領折戸濱で加賀の船が破船・7人中3人水死、岩木川の内清野袋村の堰に水死の者)
1789年　8月10日 寛政元年閏6月19日 快晴
1789年　8月11日 寛政元年閏6月20日 快晴　今日午の刻過ぎ雨　未の刻杉晴ル　午の刻過ぎ雷発
1789年　8月12日 寛政元年閏6月21日 快晴
1789年　8月13日 寛政元年閏6月22日 なし(日記は保存されているが天気の記述がない)
1789年　8月14日 寛政元年閏6月23日 なし(日記は保存されているが天気の記述がない)
1789年　8月15日 寛政元年閏6月24日 曇　今日辰の刻より時々雨　申の刻頃晴
1789年　8月16日 寛政元年閏6月25日 曇　(四社に五穀成就・日和揚げの御祈祷を仰せ付ける)
1789年　8月17日 寛政元年閏6月26日 曇　昨夜中雨　今日及　今日終日雨降　(打続天気不正に付き五山に日和揚げ・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1789年　8月18日 寛政元年閏6月27日 快晴　今日残暑
1789年　8月19日 寛政元年閏6月28日 快晴　今日残暑
1789年　8月20日 寛政元年閏6月29日 快晴　今日残暑
1789年　8月21日 寛政元年　7月1日 曇　今日残暑強し　未の刻過ぎ雷発　(閏6月中所々御関所出人都合72人:碇関70人(御印紙出54・切手紙出16)・大間越2人(御印紙出))
1789年　8月22日 寛政元年　7月2日 快晴　今日残暑強し　(岩木山で硫黄を取らないよう重ねて申渡す、当7月分御手当て米知行取は8日より・御切米取は10日より渡す・此の節米相場1俵に付き19文目を20文目で買い上げる)
1789年　8月23日 寛政元年　7月3日 快晴　今日残暑強し
1789年　8月24日 寛政元年　7月4日 快晴　昨夜子の刻過ぎ折々小雨　今日残暑強し
1789年　8月25日 寛政元年　7月5日 晴　昨夜戌の刻頃より雨時々降　今日風立　涼気　(米値段1俵に付き24文目5分5厘)
1789年　8月26日 寛政元年　7月6日 晴　今日風立
1789年　8月27日 寛政元年　7月7日 快晴　(江戸より蝦夷人騒擾の儀に付き連絡あり・江戸より7日振りに申付けた飛脚が11日振りに着く)
1789年　8月28日 寛政元年　7月8日 快晴　午の刻小雨　即刻止　(御用人海老名弥門病死)
1789年　8月29日 寛政元年　7月9日 快晴　今日残暑強し
1789年　8月30日 寛政元年　7月10日 晴　今朝小雨　即刻止　(御初米は明11日差上げる、藤代組村々の田方に虫付く)　下から続く　去年は8月4日で今年は植付日より引合11日早く節に引合3日早い)
1789年　8月31日 寛政元年　7月11日 曇　昨夜亥の中刻地震　則刻より雨　午の刻止　(御近習小姓藤田・御中小姓佐藤が朔日江戸発・10日振りで昨夜到着、岩木川出水・馬船長船とも往来なり兼ねる、御初米　上に続く

1789年　9月1日 寛政元年　7月12日 晴　昨夜中涼し （蝦夷地に派遣予定の1～3番手の役職者を決める）
1789年　9月2日 寛政元年　7月13日 曇　今日午の刻より雨
1789年　9月3日 寛政元年　7月14日 晴　今日残暑強し
1789年　9月4日 寛政元年　7月15日 晴　昨夜中より涼気
1789年　9月5日 寛政元年　7月16日 晴　昨夜中時々雨 （一昨13日鰺ヶ沢出帆の大坂船が14日深浦出帆時に澗口で瀬に乗りかけ阿かの水(あかの水:船底にたまる水)七八尺出て米1000俵余が濡米に）
1789年　9月6日 寛政元年　7月17日 快晴　今日残暑強し （去月8･9日赤石組村々で洪水･川欠）
1789年　9月7日 寛政元年　7月18日 晴
1789年　9月8日 寛政元年　7月19日 晴 （御留守居支配福眞才吉と一戸辰之助に切支丹改め証文取り扱いを申付ける）
1789年　9月9日 寛政元年　7月20日 曇　今朝西南に虹見遊る(今朝西南に虹見ゆる)
1789年　9月10日 寛政元年　7月21日 曇　今日午の刻より雨ふる
1789年　9月11日 寛政元年　7月22日 曇　昨夜より雨　今日時々降 （御留守居与力が家族?を手打ちにしたのかな･他所の家門前にも死人）
1789年　9月12日 寛政元年　7月23日 曇　昨夜中より雨　終日降
1789年　9月13日 寛政元年　7月24日 曇　昨夜よりの雨終日降 （御留守居与力の殺人は妻が密通したため）
1789年　9月14日 寛政元年　7月25日 晴
1789年　9月15日 寛政元年　7月26日 快晴 （足軽の祖父が牢死）
1789年　9月16日 寛政元年　7月27日 曇　今日雨時々　夜に入
1789年　9月17日 寛政元年　7月28日 曇　今日時々雨
1789年　9月18日 寛政元年　7月29日 晴
1789年　9月19日 寛政元年　8月1日 曇　今日巳の刻小雨 （7月中所々御関所出人都合99人:碇ヶ関40人(御印紙出20･切手紙出20)･大間越3人(切手紙出)･野内1人(切手紙出)）
1789年　9月20日 寛政元年　8月2日 晴　昨夜子の刻頃雨強し
1789年　9月21日 寛政元年　8月3日 晴
1789年　9月22日 寛政元年　8月4日 晴
1789年　9月23日 寛政元年　8月5日 晴 （明6日百沢折居宮に五穀成就御礼御神楽差上げる）
1789年　9月24日 寛政元年　8月6日 晴　今朝卯の刻過ぎ地震少し
1789年　9月25日 寛政元年　8月7日 晴　今日午の刻過ぎ雨時々
1789年　9月26日 寛政元年　8月8日 曇　昨夜中より雨　午の刻頃止　戌の刻雷発
1789年　9月27日 寛政元年　8月9日 晴　昨夜中雨　今日未の下刻雷発
1789年　9月28日 寛政元年　8月10日 晴　今日未の刻より時々雨
1789年　9月29日 寛政元年　8月11日 晴
1789年　9月30日 寛政元年　8月12日 曇　今朝辰の刻雷発小雨　即刻ヤム
1789年　10月1日 寛政元年　8月13日 晴
1789年　10月2日 寛政元年　8月14日 曇　昨夜中より之大雨　今日午ノ刻止
1789年　10月3日 寛政元年　8月15日 曇　今朝の雨　今日時々雨
1789年　10月4日 寛政元年　8月16日 曇　今日午申(?)の刻頃小雨
1789年　10月5日 寛政元年　8月17日 晴　昨夜中時々雨 （去る15日大光寺組大光寺村で出火･外馬屋1軒午3疋焼死･火元百姓村預け、11日金井澤に入津の秋田能代船の水主が病死）
1789年　10月6日 寛政元年　8月18日 晴
1789年　10月7日 寛政元年　8月19日 快晴
1789年　10月8日 寛政元年　8月20日 快晴 （青森のお寺に見習いに行っていた御家中の二男が自害、足軽の親が昨夜中変死）
1789年　10月9日 寛政元年　8月21日 快晴 （15日出火の大光寺村の百姓の戸〆免許）
1789年 10月10日 寛政元年　8月22日 快晴
1789年 10月11日 寛政元年　8月23日　 （日記が保存されていない、22日の干支が乙亥･24日が丁丑と記述されている）
1789年 10月12日 寛政元年　8月24日 晴
1789年 10月13日 寛政元年　8月25日 快晴　昨夜酉の刻地震少々
1789年 10月14日 寛政元年　8月26日 曇　今暁丑の刻頃小雨　今日時々小雨 （松前表より飛脚が昨夜到着:去月16日までに徒党の夷共残らず捕える、御楽屋の品々を5年に亘り盗み取っていた御家中を取上御仕置き場で斬罪）
1789年 10月15日 寛政元年　8月27日 晴
1789年 10月16日 寛政元年　8月28日 晴
1789年 10月17日 寛政元年　8月29日 晴
1789年 10月18日 寛政元年　8月30日 曇　昨夜中時々小雨　今朝に及ぶ
1789年 10月19日 寛政元年　9月1日 曇　今暁寅の刻頃より小雨　卯の刻過ぎ雷発　午の刻過ぎ止　西方に虹見ゆる （8月中所々御関所出人都合72人:碇ヶ関72人(御印紙出52･切手紙出20)･大間越3人(御印紙出)）
1789年 10月20日 寛政元年　9月2日 晴 （去月23日後潟組石崎領前浜に松前の船が破船）
1789年 10月21日 寛政元年　9月3日 晴
1789年 10月22日 寛政元年　9月4日 快晴
1789年 10月23日 寛政元年　9月5日 晴
1789年 10月24日 寛政元年　9月6日 晴　昨夜中雷時々発ス （赤田組の検見人が狐森村に止宿の節同村庄屋が嶋木綿1反金200疋を差出す･厳しく叱りつけ返したとのこと）
1789年 10月25日 寛政元年　9月7日 晴　昨夜中雨 （代官27人の人事異動）
1789年 10月26日 寛政元年　9月8日 曇　今日巳の刻頃 （御献上の鮭今以て一向相納め申さず候に付き……）
1789年 10月27日 寛政元年　9月9日 晴
1789年 10月28日 寛政元年　9月10日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日終日
1789年 10月29日 寛政元年　9月11日 快晴
1789年 10月30日 寛政元年　9月12日 曇　今日時々雨
1789年 10月31日 寛政元年　9月13日 曇　今日時々小雨

1789年　11月1日 寛政元年　 9月14日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1789年　11月2日 寛政元年　 9月15日 晴
1789年　11月3日 寛政元年　 9月16日 曇　今日午の刻頃より時々小雨
1789年　11月4日 寛政元年　 9月17日 曇　昨夜中より小雨　今日終日小雨
1789年　11月5日 寛政元年　 9月18日 曇　昨夜中より時々小雨　今日時々小雨
1789年　11月6日 寛政元年　 9月19日 曇　昨夜中初雪　今朝に及ぶ
1789年　11月7日 寛政元年　 9月20日 曇　昨夜少々雪降　(酒値段1升1文目4分に申付ける)
1789年　11月8日 寛政元年　 9月21日 快晴
1789年　11月9日 寛政元年　 9月22日 曇　今暁雷発　今日雨時々　巳の下刻雷発　(クナシリ蝦夷処分の通知が松前藩から届く)
1789年 11月10日 寛政元年　 9月23日 曇　昨夜中時々小雨　今朝に及ぶ　卯の刻頃地震　巳の中刻より霙　午の刻雷発
1789年 11月11日 寛政元年　 9月24日 曇　昨夜中風雨　今朝に及ぶ
1789年 11月12日 寛政元年　 9月25日 曇　今朝卯の中刻小雨
1789年 11月13日 寛政元年　 9月26日 晴
1789年 11月14日 寛政元年　 9月27日 晴　(牢舎の者に布子壱つ宛買い渡す)
1789年 11月15日 寛政元年　 9月28日 快晴
1789年 11月16日 寛政元年　 9月29日 曇　今日雨終日　今朝西の方虹見ゆる
1789年 11月17日 寛政元年　 10月1日 曇　昨夜中小雪　今日巳の刻日食六分　(御献上の塩鮭見分、9月中所々御関所出人都合92人:碇関90人(御印紙出65・切手紙出25)・大間越2人(切手紙出))
1789年 11月18日 寛政元年　 10月2日 曇　昨夜中小雪
1789年 11月19日 寛政元年　 10月3日 曇　卿午の刻より終日小雪　(松前への助勢不用との達、去月19日以前に津軽屋三右衛門が病死している)
1789年 11月20日 寛政元年　 10月4日 晴　昨夜折々小雪　(大光組田中村の庄屋が永野某(検見人か)に検身引きを増やすよう樽代金100疋持参する・返したとの報告、同様の件が他にもある)
1789年 11月21日 寛政元年　 10月5日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1789年 11月22日 寛政元年　 10月6日 快晴
1789年 11月23日 寛政元年　 10月7日 快晴
1789年 11月24日 寛政元年　 10月8日 曇
1789年 11月25日 寛政元年　 10月9日 曇　申の刻より雨降
1789年 11月26日 寛政元年　10月10日 曇　昨夜中より雨時々　風時々強し
1789年 11月27日 寛政元年　10月11日 曇　今暁丑の刻雷　風雨　雹強　尤も雷度々強発　霰
1789年 11月28日 寛政元年　10月12日 曇　昨夜中雪少々降　今日未の刻過ぎ北方に虹見ゆる
1789年 11月29日 寛政元年　10月13日 曇　今朝卯の刻より雨　午の刻過ぎ止ム　申の刻より雨降
1789年 11月30日 寛政元年　10月14日 曇　昨夜中雨　今朝卯の刻より風雨強し　西方に辰の刻虹見ゆる
1789年　12月1日 寛政元年　10月15日 曇　昨夜吹雪強　今日時々吹雪　(蝦夷騒動で三馬屋村卯七小次郎の死亡を確認する)
1789年　12月2日 寛政元年　10月16日 曇　昨夜雪吹　今日時々雪
1789年　12月3日 寛政元年　10月17日 曇
1789年　12月4日 寛政元年　10月18日 曇
1789年　12月5日 寛政元年　10月19日 晴　昨夜戌の刻より時々雨　(去る10日碇ヶ関街道の並木松16本風折れ・根返り)
1789年　12月6日 寛政元年　10月20日 晴　昨夜中小雨
1789年　12月7日 寛政元年　10月21日 晴　今暁小雨
1789年　12月8日 寛政元年　10月22日 曇　昨夜子の刻より丑の刻過ぎまで風強　則刻より雨折々　(一昨夜の大風で城内の松等に被害)
1789年　12月9日 寛政元年　10月23日 曇　(岩木川五歩余の洪水・駒越渡の長船・馬船とも差留める)
1789年 12月10日 寛政元年　10月24日 曇　昨夜雪時々　今日終日雪
1789年 12月11日 寛政元年　10月25日 曇　昨夜中雪三寸位　今日雪少し　(粒油出盛り:6文目3分とする)
1789年 12月12日 寛政元年　10月26日 曇　昨夜中雪少々
1789年 12月13日 寛政元年　10月27日 曇
1789年 12月14日 寛政元年　10月28日 曇　(芦の値段一〆が3文目)
1789年 12月15日 寛政元年　10月29日 曇　昨夜中雪三寸程降
1789年 12月16日 寛政元年　10月30日 晴
1789年 12月17日 寛政元年　 11月1日 曇　今日巳の刻頃より終日雨
1789年 12月18日 寛政元年　 11月2日 晴
1789年 12月19日 寛政元年　 11月3日 晴　(10月中所々御関所出人都合96人:碇関88人(御印紙出56・切手紙出32)・野内8人(切手紙出))　　下から続く　　朝六つ時までに氷張る・今年は日数に引合28日節に引合8日早い)
1789年 12月20日 寛政元年　 11月4日 曇　昨夜子の刻より雨　今朝卯の刻雷発　今日雨時々降　(去月28日昼九つ時より翌29日朝五つ時までに十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は11月25日暮六つ時より翌26日　　上に続く
1789年 12月21日 寛政元年　 11月5日 曇　昨夜より雪吹強し　今日時々雪吹　巳の刻冬至　(五所川原金木八幡より十三まで壱ト上下御米100俵に付き銭10文目粮米(ろうまい:船中の食料)1艘江1俵宛にしてと申し出:叱り置く)
1789年 12月22日 寛政元年　 11月6日 曇　昨夜中雪三寸程　今日時々雪
1789年 12月23日 寛政元年　 11月7日 晴　(黒石領から御米4000石津出)
1789年 12月24日 寛政元年　 11月8日 晴
1789年 12月25日 寛政元年　 11月9日 曇　今日午の刻頃より雪
1789年 12月26日 寛政元年　11月10日 曇　今暁寅の刻頃より雪　今日時々雪
1789年 12月27日 寛政元年　11月11日 晴　昨夜中雪三寸程降
1789年 12月28日 寛政元年　11月12日 曇　今日雪時々　申の刻頃より小雨
1789年 12月29日 寛政元年　11月13日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1789年 12月30日 寛政元年　11月14日 晴　(去る10日昼後潟組奥内村で出火・火元村預け)
1789年 12月31日 寛政元年　11月15日 晴

1790年　1月1日 寛政元年　11月16日 曇　今朝卯の刻小雨　則刻止　未の刻より雨降
1790年　1月2日 寛政元年　11月17日 晴　今朝雪少々降
1790年　1月3日 寛政元年　11月18日 晴
1790年　1月4日 寛政元年　11月19日 曇　朝の内小雨　(御献上鱈の増値段(1文目相増し2匁3分に)を申し出る・断ったらしいがどうなったか不明:福眞)
1790年　1月5日 寛政元年　11月20日 曇　未の五刻寒に入る　(後潟組奥内村の(火元の)百姓の村預け免許)
1790年　1月6日 寛政元年　11月21日 曇　(御献上鱈御家老見分相済)
1790年　1月7日 寛政元年　11月22日 晴
1790年　1月8日 寛政元年　11月23日 曇　今朝卯の中刻頃より雪四寸程降　(御用人宅で蝦夷加勢の面々が金を借りて怒られている)
1790年　1月9日 寛政元年　11月24日 曇　昨夜中雪三寸程降　(一昨20日夜大鰐組乳井村で百姓が本家の弟に刺し殺される・殺人男は自害存命(翌日の記述で死亡))
1790年　1月10日 寛政元年　11月25日 曇　(当月13日袰月湊を出た船が難風で破船)
1790年　1月11日 寛政元年　11月26日 曇　今日時々雪
1790年　1月12日 寛政元年　11月27日 晴　昨夜中雪一尺程降　今日雪時々降　(酒田町人伊勢屋が今日登城・御用人御家老に会い時服・御料理を下し置かれる)
1790年　1月13日 寛政元年　11月28日 曇　昨夜中雪二尺余程降　今日雪時々降
1790年　1月14日 寛政元年　11月29日 曇　昨夜中雪五寸程　　下から続く　　佐竹藩に聞いている・断られているらしい:福眞)
1790年　1月15日 寛政元年　12月1日 晴　(11月中所々御関所出人都合56人:碇関49人(御印紙出34・切手紙出15)・野内4人(御印紙出1・切手紙出3)・大間越3人(切手紙出)、来春の下向に西浜を通るよう都合を　　上に続く
1790年　1月16日 寛政元年　12月2日 快晴
1790年　1月17日 寛政元年　12月3日 晴
1790年　1月18日 寛政元年　12月4日 曇　(後潟組石浜村領高屋村の高無の他村預け免許)
1790年　1月19日 寛政元年　12月5日 曇
1790年　1月20日 寛政元年　12月6日 曇
1790年　1月21日 寛政元年　12月7日 晴　(富田町で足軽屋敷1軒が雪潰れ)
1790年　1月22日 寛政元年　12月8日 曇　今日時々小雨　朔日より今日まで暖気　(去る丑年(天明3年の飢饉の年)以来米払底に付き100石1貫500目のお役を仰せ付けられ……:意味不明:福眞)
1790年　1月23日 寛政元年　12月9日 曇　(不埒で出奔した和徳組代官手代(代官の下僚で足軽相当)2人の人相書きあり(せい:5尺3寸位と5尺2寸位等))　　下から続く　　悪戸・高野・原子村庄屋を追放、他にも戸〆等あり)
1790年　1月24日 寛政元年　12月10日 曇　昨夜中少し雪　今日時々雪吹　寒気強し　(朔9日大光寺組苗生松村百姓が外馬屋1軒焼失・火元村預け、検見人に木綿金子を送ろうとした狐森・五幾形・沖・田中・五代・　　上に続く
1790年　1月25日 寛政元年　12月11日 曇　昨夜中雪三寸程　終日雪吹
1790年　1月26日 寛政元年　12月12日 曇　昨夜中雪四寸程降　(悪戸村庄屋は未だ親の跡式相続なし・家屋敷の取上げはない)
1790年　1月27日 寛政元年　12月13日 晴　(朔日行方不明の青森松森町の男が8日に海中で見付かる)
1790年　1月28日 寛政元年　12月14日 曇　昨夜少々雪
1790年　1月29日 寛政元年　12月15日 曇　昨夜中雪
1790年　1月30日 寛政元年　12月16日 曇　今日寒気強
1790年　1月31日 寛政元年　12月17日 晴　昨夜少々雪降　寒気強
1790年　2月1日 寛政元年　12月18日 曇　昨夜中雪少々降　(五代・田中・狐森・五幾形・沖村庄屋の追放に伴い家屋敷家財を改める)
1790年　2月2日 寛政元年　12月19日 曇　昨夜中雪降　今日時々雪降　(藤代組鳥町村で穀物焼失)
1790年　2月3日 寛政元年　12月20日 晴　昨夜中雪降
1790年　2月4日 寛政元年　12月21日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　(大光組苗生松村百姓の村預け免許)
1790年　2月5日 寛政元年　12月22日 曇　今日時々雪
1790年　2月6日 寛政元年　12月23日 曇　昨夜中雪降　今日時々雪降
1790年　2月7日 寛政元年　12月24日 曇　昨夜中雪　今日雪五寸程降
1790年　2月8日 寛政元年　12月25日 晴　昨夜中雪降
1790年　2月9日 寛政元年　12月26日 晴
1790年　2月10日 寛政元年　12月27日 曇　昨夜中雪　今日時々雪降　(追放となった原子村の庄屋は親より身代譲り受けずに庄屋をしていた・田畑家屋敷家財は親に下し置かれる・殆んどこうなったかな:福眞)
1790年　2月11日 寛政元年　12月28日 晴　(酒居値段1文目4分に申付ける)
1790年　2月12日 寛政元年　12月29日 晴
1790年　2月13日 寛政元年　12月30日 晴
1790年　2月14日 寛政2年　正月1日　晴　今日時々雪　(古懸不動尊が今朝御出汗)
1790年　2月15日 寛政2年　正月2日　晴　(五山に御祈祷を仰せ付ける)
1790年　2月16日 寛政2年　正月3日　晴　今日午の刻過ぎ雪降
1790年　2月17日 寛政2年　正月4日　晴　昨夜中雪三寸程積
1790年　2月18日 寛政2年　正月5日　曇　昨夜中雪三寸程積　今日時々雪　余寒強し
1790年　2月19日 寛政2年　正月6日　晴
1790年　2月20日 寛政2年　正月7日　晴　(去る4日種市村で出火・火元村預け)
1790年　2月21日 寛政2年　正月8日　曇
1790年　2月22日 寛政2年　正月9日　曇　昨夜中雪四寸程積　今日時々雪
1790年　2月23日 寛政2年　正月10日　晴　昨夜中雪三寸程　積ル
1790年　2月24日 寛政2年　正月11日　晴　(人事異動)
1790年　2月25日 寛政2年　正月12日　曇　昨夜中より今日迄時々雪降
1790年　2月26日 寛政2年　正月13日　曇　昨夜中雪降　今日時々雪　(種市村の火元の村預け免許)
1790年　2月27日 寛政2年　正月14日　晴　(茨城屋和助様(金を借りていたのでしょうな:福眞)など6人に御家老多膳から様付きの手紙)
1790年　2月28日 寛政2年　正月15日　曇　昨夜中雪　(人事異動)

1790年　3月1日 寛政2年 正月16日　曇 昨夜雪少々降
1790年　3月2日 寛政2年 正月17日　曇 (12月中所々御関所出人都合36人:碇ヶ関31人(御印紙出17・切手紙出14)・大間越1人(御印紙出)・野内4人(切手紙出))
1790年　3月3日 寛政2年 正月18日　曇 今日午の刻より雨　戌の刻頃より雪吹
1790年　3月4日 寛政2年 正月19日　曇 昨夜中雪吹　今朝雪吹　今夜亥の刻地震
1790年　3月5日 寛政2年 正月20日　曇 昨夜中雪吹　今日未の刻頃晴 (去る12日藤崎組前田屋敷村で家焼失・火元高無村預け)
1790年　3月6日 寛政2年 正月21日　曇 今日巳の刻前より雨　午の刻まで雨　未の刻過ぎ雷発 (前田屋敷村の火元の村預け免許)
1790年　3月7日 寛政2年 正月22日　曇 昨夜より雪吹 (去る10日駒越組相馬村の猟師が熊(胆生目15匁)取る)
1790年　3月8日 寛政2年 正月23日　晴 昨夜中雪三寸程ふる
1790年　3月9日 寛政2年 正月24日　晴 (後潟組前田村の百姓の他村預け免許)
1790年　3月10日 寛政2年 正月25日　晴
1790年　3月11日 寛政2年 正月26日　晴
1790年　3月12日 寛政2年 正月27日　曇 今日未の刻より小雨 (御手廻の娘が御目見以下御留守居支配方に縁組・格違いであり若干もめている)
1790年　3月13日 寛政2年 正月28日　曇 (御徒町橋下で男非人死亡、去る17日後潟組前田村で出火・類焼2軒馬2疋焼死)
1790年　3月14日 寛政2年 正月29日　曇 昨夜亥の刻より雨　今朝午の刻より雨
1790年　3月15日 寛政2年 正月30日　曇 昨夜中雪降
1790年　3月16日 寛政2年　2月1日 曇 (正月中所々御関所出人都合184人:碇ヶ関183人(御印紙出175・切手紙出8)・野内2人(御印紙出1・切手紙出1)、奢侈の風俗増長・取締りの方向、去月28日新町の土蔵に盗賊・40品)
1790年　3月17日 寛政2年　2月2日 晴
1790年　3月18日 寛政2年　2月3日 曇 今日巳の刻頃より雨降
1790年　3月19日 寛政2年　2月4日 曇 今日時々霙　申の刻より雪
1790年　3月20日 寛政2年　2月5日 曇 昨夜雪降　今日時々霙
1790年　3月21日 寛政2年　2月6日 快晴
1790年　3月22日 寛政2年　2月7日 晴 (去月27日記述の縁組が認められる)
1790年　3月23日 寛政2年　2月8日 快晴　昨夜より暖和 (当月4日昼九時より翌5日朝六時までに十三潟が早川口より残らず氷明ける・去年に引合36日早く節に引き合い16日早い)
1790年　3月24日 寛政2年　2月9日 快晴　今日暖和
1790年　3月25日 寛政2年　2月10日 曇 昨夜中雨降　今日時々雨降
1790年　3月26日 寛政2年　2月11日 曇 (婚姻仏参に至るまで一汁二菜を過ぎないように・衣類の制限など奢侈に関する申しつけ)
1790年　3月27日 寛政2年　2月12日 曇 今日霰少々降
1790年　3月28日 寛政2年　2月13日 曇 昨夜風吹 (7月18日夜角力を切殺した笠井園右衛門の知行召上げ隠居・その倅を5人扶持御目見以上とする)
1790年　3月29日 寛政2年　2月14日 晴 昨夜時々小雨　今日午の刻頃より風吹 (去る11日青森上新町裏通りで出火・火元戸〆、戒香院様(先代の屋形様)七回御忌に伴う大赦:45人の弘前並びに居村徘徊御免)
1790年　3月30日 寛政2年　2月15日 曇 昨夜戌ノ刻頃小雨　夜中風吹く (郡所物書に横岡伊八郎あり・沢山の御家中と共に褒美を貰っている)
1790年　3月31日 寛政2年　2月16日 快晴
1790年　4月1日 寛政2年　2月17日 快晴
1790年　4月2日 寛政2年　2月18日 晴 昨夜亥の刻過ぎ小雨 (岩木川駒越渡が五歩程の洪水・馬船長船とも通用なりかねる、青森町惣竈数1010軒・惣借家数266軒)
1790年　4月3日 寛政2年　2月19日 晴
1790年　4月4日 寛政2年　2月20日 曇
1790年　4月5日 寛政2年　2月21日 曇 昨夜中小雨
1790年　4月6日 寛政2年　2月22日 曇 今日時々小雨
1790年　4月7日 寛政2年　2月23日 曇
1790年　4月8日 寛政2年　2月24日 曇 昨夜亥の刻過ぎより雨　今日時々雨降　今朝虹見ゆる
1790年　4月9日 寛政2年　2月25日 晴
1790年　4月10日 寛政2年　2月26日 曇 昨夜戌の刻過ぎ雨　今日風立つ
1790年　4月11日 寛政2年　2月27日 晴
1790年　4月12日 寛政2年　2月28日 快晴
1790年　4月13日 寛政2年　2月29日 快晴
1790年　4月14日 寛政2年　3月1日 快晴 (2月中所々御関所出人都合31人:碇関29人(御印紙出13・切手紙出16)・大間越2人(切手紙出))
1790年　4月15日 寛政2年　3月2日 曇 今日申の下刻より小雨 (去月22日夜今別町で火災6軒)
1790年　4月16日 寛政2年　3月3日 曇 昨夜より今日終日雨
1790年　4月17日 寛政2年　3月4日 曇
1790年　4月18日 寛政2年　3月5日 曇 今暁より雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1790年　4月19日 寛政2年　3月6日 曇 昨夜中より雨　今日時々風雨
1790年　4月20日 寛政2年　3月7日 晴 (諸手足軽の父親が井に入り自害)
1790年　4月21日 寛政2年　3月8日 曇 今朝より雨　終日風雨 (昨7日広田組吹畑村で出火・火元高無村預け、去月28日堀越組一ノ渡村の猟師が熊を1疋取る)
1790年　4月22日 寛政2年　3月9日 晴 今日午の刻頃より雨　申の刻止 (御家中奉公人が少ないので嫡子をのぞく御目見以下の子を奉公人とした差出すようにする)
1790年　4月23日 寛政2年　3月10日 快晴
1790年　4月24日 寛政2年　3月11日 曇 (広田組吹畑村の火元の村預け免許)
1790年　4月25日 寛政2年　3月12日 曇
1790年　4月26日 寛政2年　3月13日 曇 昨夜中雨　今日巳の刻過ぎ止
1790年　4月27日 寛政2年　3月14日 曇 (去る11日木作新田上相野村で出火・火元村預け)
1790年　4月28日 寛政2年　3月15日 快晴 (相馬村猟師が熊胆(生目15匁干し目3文目7分)差上げる、今回の御下向の節西の濱周りを検討させたが断念する)
1790年　4月29日 寛政2年　3月16日 晴 (御城付足軽警固を掃除小人に役下げ)
1790年　4月30日 寛政2年　3月17日 快晴 (上相野村の火元百姓の村預け免許)

1790年　5月1日 寛政2年　3月18日 快晴 (駒越組村々の猟師共が熊胆(生目16文目干し目6匁)差上げる)
1790年　5月2日 寛政2年　3月19日 快晴
1790年　5月3日 寛政2年　3月20日 晴 頃日暖和
1790年　5月4日 寛政2年　3月21日 快晴
1790年　5月5日 寛政2年　3月22日 曇 昨夜中風強し 今朝の内風雨 巳の刻より雨
1790年　5月6日 寛政2年　3月23日 晴 朝の内少々風吹
1790年　5月7日 寛政2年　3月24日 快晴
1790年　5月8日 寛政2年　3月25日 快晴
1790年　5月9日 寛政2年　3月26日 晴 (当月22日の向外瀬村の出水で男女不明の菰包みの死人が流れ寄せる)
1790年　5月10日 寛政2年　3月27日 曇 昨夜亥の刻頃小雨 今日時々小雨
1790年　5月11日 寛政2年　3月28日 晴 昨夜中風 卯の刻より小雨 則刻止
1790年　5月12日 寛政2年　3月29日 晴
1790年　5月13日 寛政2年　3月30日 快晴　下から続く　猟師が熊胆(干し目1文目6分)差上げる)
1790年　5月14日 寛政2年　4月1日 快晴 (3月中所々御関所出人都合142人:碇ヶ関124人(御印紙出55・切手紙出69)・大間越9人(御印紙出3・切手紙出6)・野内9人(御印紙出4・切手紙出5)、堀越組一ノ渡村の　上に続く
1790年　5月15日 寛政2年　4月2日 曇 今朝より終日風立
1790年　5月16日 寛政2年　4月3日 快晴
1790年　5月17日 寛政2年　4月4日 快晴
1790年　5月18日 寛政2年　4月5日 晴
1790年　5月19日 寛政2年　4月6日 曇 昨夜中より風終夜 今日終日雨
1790年　5月20日 寛政2年　4月7日 曇 昨夜中雨 今日午の刻過ぎ止
1790年　5月21日 寛政2年　4月8日 晴
1790年　5月22日 寛政2年　4月9日 なし(日記が保存されているが天気の記載なし)
1790年　5月23日 寛政2年　4月10日 快晴
1790年　5月24日 寛政2年　4月11日 快晴
1790年　5月25日 寛政2年　4月12日 快晴
1790年　5月26日 寛政2年　4月13日 晴 今日巳の上刻小雨 則刻止
1790年　5月27日 寛政2年　4月14日 曇 今暁より雨 今日時々雨
1790年　5月28日 寛政2年　4月15日 曇 今日時々雨 (去る11日広須組蓮花田村で小屋焼失・火元高無戸〆)
1790年　5月29日 寛政2年　4月16日 晴
1790年　5月30日 寛政2年　4月17日 晴 (蓮花田村の火元の村預け免許)
1790年　5月31日 寛政2年　4月18日 晴
1790年　6月1日 寛政2年　4月19日 晴
1790年　6月2日 寛政2年　4月20日 曇 昨夜中子の刻雷発 則刻止む 今日時々小雨
1790年　6月3日 寛政2年　4月21日 曇
1790年　6月4日 寛政2年　4月22日 曇 今朝辰の刻より雨 午の刻頃止
1790年　6月5日 寛政2年　4月23日 晴 (両濱より遊女取り寄せ……の桶屋町の男・娘3人を賣女……の母を三里四方追放等にする・町役共戸〆)
1790年　6月6日 寛政2年　4月24日 快晴 (御家中の召使の女自害・死んではいない)
1790年　6月7日 寛政2年　4月25日 快晴 (来月3日御発駕予定)
1790年　6月8日 寛政2年　4月26日 快晴
1790年　6月9日 寛政2年　4月27日 快晴
1790年　6月10日 寛政2年　4月28日 晴 (当月17日青森町で身分不相応の衣類着用として男女8人を戸〆・過料を仰せ付けられたら戸〆は差許す)
1790年　6月11日 寛政2年　4月29日 晴 昨夜時々雨 (松森町の男縊死)
1790年　6月12日 寛政2年　4月30日 快晴
1790年　6月13日 寛政2年　5月1日 快晴 (4月中所々御関所出人都合220人:碇関217人(御印紙出53・切手紙出164)・大間越3人?(御印紙出1・切手紙出?))
1790年　6月14日 寛政2年　5月2日 快晴
1790年　6月15日 寛政2年　5月3日 快晴
1790年　6月16日 寛政2年　5月4日 快晴
1790年　6月17日 寛政2年　5月5日 曇
1790年　6月18日 寛政2年　5月6日 曇 昨夜雨 戌の刻より今朝に及ぶ 今日午の刻小雨
1790年　6月19日 寛政2年　5月7日 曇
1790年　6月20日 寛政2年　5月8日 曇 今日時々小雨 (藤代組船水村街道に死亡の者あり)
1790年　6月21日 寛政2年　5月9日 曇 昨夜より時々小雨 今日終日小雨
1790年　6月22日 寛政2年　5月10日 曇 昨夜子の刻より時々小雨 今日巳の刻過ぎ小雨 (藤代組船水村で浪岡村の百姓が落馬し死亡(おそらく既報のもの))
1790年　6月23日 寛政2年　5月11日 晴
1790年　6月24日 寛政2年　5月12日 晴
1790年　6月25日 寛政2年　5月13日 晴
1790年　6月26日 寛政2年　5月14日 曇 今日終日雨 (御発駕金子1500両で年々不足・御常用の内より繰り合わせ・当年は御常用の繰り出し方が過分で……)
1790年　6月27日 寛政2年　5月15日 曇
1790年　6月28日 寛政2年　5月16日 曇 今日時々小雨
1790年　6月29日 寛政2年　5月17日 曇
1790年　6月30日 寛政2年　5月18日 曇 昨夜子の刻頃より時々小雨 今朝に及ぶ

1790年　7月1日 寛政2年　5月19日 晴　昨夜時々雨　今朝に及ぶ　雨
1790年　7月2日 寛政2年　5月20日 晴　今朝辰の中刻頃小雨　則刻止　(八時前御機嫌能く御着城)
1790年　7月3日 寛政2年　5月21日 晴　昨夜亥の刻より雨　今日申の刻雨
1790年　7月4日 寛政2年　5月22日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　未の刻より雨　(津軽坂村猟師太郎兵衛が熊胆(干し目19匁)上納)
1790年　7月5日 寛政2年　5月23日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　未の刻より雨
1790年　7月6日 寛政2年　5月24日 曇　昨夜より雨　今日時々小雨
1790年　7月7日 寛政2年　5月25日 曇　今暁小雨
1790年　7月8日 寛政2年　5月26日 快晴
1790年　7月9日 寛政2年　5月27日 快晴
1790年　7月10日 寛政2年　5月28日 晴　今朝卯の刻地震　巳の刻過ぎより小雨　則刻止
1790年　7月11日 寛政2年　5月29日 快晴　今日暑　申の刻頃夕立　(給銭:上の奉公人90目・中は75文目・下は60目・小者は50目定めに仰せ付けられ候)
1790年　7月12日 寛政2年　6月1日 曇　未の刻より時々小雨　(5月中所々御関所出人都合88人:碇関79人(御印紙出66・切手紙出13)・野内9人(御印紙出))
1790年　7月13日 寛政2年　6月2日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1790年　7月14日 寛政2年　6月3日 快晴　今日未の刻過ぎ大雨　則刻止　(牧野左治郎を御用人になどの人事異動)
1790年　7月15日 寛政2年　6月4日 曇
1790年　7月16日 寛政2年　6月5日 晴
1790年　7月17日 寛政2年　6月6日 晴
1790年　7月18日 寛政2年　6月7日 快晴
1790年　7月19日 寛政2年　6月8日 晴　今日巳の刻土用に入る　酉の刻過ぎ小雨
1790年　7月20日 寛政2年　6月9日 曇　(去々年御米を内貸しの東長町等の御蔵の御蔵立会い・御蔵奉行を知行半減などとする、その他にも罰が下されている)
1790年　7月21日 寛政2年　6月10日 曇　今日未の刻過ぎより時々小雨
1790年　7月22日 寛政2年　6月11日 曇　今日午の刻過ぎより雨　未の刻前雷発す
1790年　7月23日 寛政2年　6月12日 曇
1790年　7月24日 寛政2年　6月13日 晴　今日申の刻前地震
1790年　7月25日 寛政2年　6月14日 曇　(惣油屋共が水油1升に付き5文目5分と申し出で4文目8分値段に申付ける)
1790年　7月26日 寛政2年　6月15日 曇　今日巳の刻過ぎより小雨　(打ち続き天気不勝に付き神明・八幡両社に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける)
1790年　7月27日 寛政2年　6月16日 曇　今日時々小雨
1790年　7月28日 寛政2年　6月17日 晴
1790年　7月29日 寛政2年　6月18日 快晴
1790年　7月30日 寛政2年　6月19日 快晴　(今日大鰐村加賀助より初穂差上げる)
1790年　7月31日 寛政2年　6月20日 曇　今朝辰の刻過ぎ小雨
1790年　8月1日 寛政2年　6月21日 曇　今日終日小雨
1790年　8月2日 寛政2年　6月22日 晴
1790年　8月3日 寛政2年　6月23日 快晴
1790年　8月4日 寛政2年　6月24日 快晴
1790年　8月5日 寛政2年　6月25日 快晴
1790年　8月6日 寛政2年　6月26日 快晴　頃日打続大暑　(去る10月より御米を内貸の御蔵立会い・御蔵奉行並びにその子合わせて5人の知行召上げ・永の暇、関係したであろう大津屋等も弘前から三里四方追放等)
1790年　8月7日 寛政2年　6月27日 快晴
1790年　8月8日 寛政2年　6月28日 快晴
1790年　8月9日 寛政2年　6月29日 快晴
1790年　8月10日 寛政2年　6月30日 曇　頃日打続残暑強シ　(一昨28日広須組鶴見里村で火災1軒焼失)
1790年　8月11日 寛政2年　7月1日 曇　今日申の刻過ぎ小雨　(人事異動、6月中所々御関所出人都合76人:碇関73人(御印紙出36. 切手紙出37)・野内3人(御印紙出))
1790年　8月12日 寛政2年　7月2日 快晴　今日残暑強し
1790年　8月13日 寛政2年　7月3日 晴
1790年　8月14日 寛政2年　7月4日 晴　今日残暑強　午の刻過ぎ雷発　未の刻雨　申の刻過ぎまで時々雷発　(今日八時過ぎ清安寺前並杉江雷火落・今もって杉の中より火出候て危うく候に付き伐取の儀申し出る)
1790年　8月15日 寛政2年　7月5日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(去る卯年(天明3年)凶作で他参の一家6人が田畑を開発したいと浪岡組中野村の百姓が申し出る・御手当て御米19俵を下し置かれる)
1790年　8月16日 寛政2年　7月6日 曇　今暁より雨　今日時々雨　(去月23日羽織着用の願いなしに布羽織を着用して愛宕山に参詣した町中の男2人を戸〆・過料の人足10人出せば差許・取り押さえた町目付に御褒美1貫文宛)
1790年　8月17日 寛政2年　7月7日 晴　朝の内曇
1790年　8月18日 寛政2年　7月8日 晴
1790年　8月19日 寛政2年　7月9日 晴
1790年　8月20日 寛政2年　7月10日 晴　申の刻過ぎより雨
1790年　8月21日 寛政2年　7月11日 晴
1790年　8月22日 寛政2年　7月12日 晴　昨夜よりの雨巳の刻過ぎ止
1790年　8月23日 寛政2年　7月13日 曇
1790年　8月24日 寛政2年　7月14日 晴　申の刻過ぎ小雨　則刻止
1790年　8月25日 寛政2年　7月15日 快晴
1790年　8月26日 寛政2年　7月16日 曇　未の刻過ぎより小雨時々　　下から続く　　7月11日・当年は植付日より引合4日遅く節に引合4日早い)
1790年　8月27日 寛政2年　7月17日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ　(郡奉行より初米差上げる、円受院様(1741年に亡くなった現在の屋形様の祖母)の御法事に付き乞食共男女229人に10人(?)宛配当、去年の初米は　　上に続く
1790年　8月28日 寛政2年　7月18日 快晴　頃日朝ニ涼し
1790年　8月29日 寛政2年　7月19日 快晴
1790年　8月30日 寛政2年　7月20日 快晴　今日残暑強し
1790年　8月31日 寛政2年　7月21日 晴　今暁寅の刻頃雷発

1790年　9月1日 寛政2年　7月22日 晴
1790年　9月2日 寛政2年　7月23日 曇　午の刻過ぎ雷強　未の刻頃雨止ム
1790年　9月3日 寛政2年　7月24日 晴　昨夜子の刻過ぎ雷強し　時々雨　今日午の刻過ぎ雷発ス
1790年　9月4日 寛政2年　7月25日 晴　(去る23日鯵ヶ沢で風雨・御仮屋前の4間に27間の新御蔵残らず押し潰す)
1790年　9月5日 寛政2年　7月26日 快晴
1790年　9月6日 寛政2年　7月27日 曇
1790年　9月7日 寛政2年　7月28日 晴
1790年　9月8日 寛政2年　7月29日 晴　今日巳の刻頃小雨
1790年　9月9日 寛政2年　8月1日 曇　今暁より雨　午の刻過ぎ止ム　(人事異動、7月中所々御関所出人都合76人:碇関71人(御印紙出55・切手紙出16)・野内2人(御印紙出)・大間越3人(切手紙出))
1790年　9月10日 寛政2年　8月2日 快晴
1790年　9月11日 寛政2年　8月3日 快晴
1790年　9月12日 寛政2年　8月4日 快晴　巳の刻過ぎ雷発　午の刻頃三度発　甚強し　(去る朔日金木組毘沙門村で火災1軒・火元高無村預け)
1790年　9月13日 寛政2年　8月5日 晴　(昨夜九時過ぎ大鰐組大沢村で火災1軒・火元高無村預け)
1790年　9月14日 寛政2年　8月6日 曇
1790年　9月15日 寛政2年　8月7日 曇　今日時々雨降　(先頃町在に仰せ付けられ候調達金1000両の内400両が早速上納……)
1790年　9月16日 寛政2年　8月8日 曇　今日時々雨
1790年　9月17日 寛政2年　8月9日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(昨日よりの雨にて藤崎川洪水・人馬往来差留める)
1790年　9月18日 寛政2年　8月10日 晴
1790年　9月19日 寛政2年　8月11日 晴　(外崎・對馬を勘定奉行に等の人事異動、当御収納高:米10万8千石ほど)
1790年　9月20日 寛政2年　8月12日 晴
1790年　9月21日 寛政2年　8月13日 晴　(目屋の沢当出流木高5万4000本余)
1790年　9月22日 寛政2年　8月14日 曇　今日辰の刻より雨終日降
1790年　9月23日 寛政2年　8月15日 晴　昨夜中雨降　(今日八幡宮御祭礼)
1790年　9月24日 寛政2年　8月16日 晴　(小山内新左衛門等5人に役儀召し放ち慎み・御奉公遠慮も5人)
1790年　9月25日 寛政2年　8月17日 曇
1790年　9月26日 寛政2年　8月18日 曇　今日時々小雨
1790年　9月27日 寛政2年　8月19日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1790年　9月28日 寛政2年　8月20日 曇　今日終日雨　(大目付に豊島・桜庭の人事異動、当月6日今別領砂ヶ森御山火元で焼失)
1790年　9月29日 寛政2年　8月21日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1790年　9月30日 寛政2年　8月22日 曇　(外馬場で立駒高覧)
1790年　10月1日 寛政2年　8月23日 曇　昨夜時々雨　今日午の刻雨
1790年　10月2日 寛政2年　8月24日 曇　昨夜時々雨　今日時々雨
1790年　10月3日 寛政2年　8月25日 晴　(頃日天気不勝に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治差留める、円受院様50回御忌に伴う大赦:弘前並びに居村徘徊御免12人)
1790年　10月4日 寛政2年　8月26日 晴　(今日六半時野稽古高覧、饂飩値段10枚に付き7文目を麦作宜しく6文目値段にする)
1790年　10月5日 寛政2年　8月27日 晴　(明年流木お買い上げの儀は五万五千本仰せ付けられ候様:前後もあるが意味不明:福眞)
1790年　10月6日 寛政2年　8月28日 晴
1790年　10月7日 寛政2年　8月29日 晴
1790年　10月8日 寛政2年　9月1日 曇　(人事異動、8月中所々御関所出人都合97人:碇関95人(御印紙出63・切手紙出32)・大間越2人(切手紙出))
1790年　10月9日 寛政2年　9月2日 晴　今暁丑の刻頃雨　則刻止　今日午の刻頃より灰降　申の刻前止　申の刻雨　則刻止　午の刻頃より曇
1790年 10月10日 寛政2年　9月3日 曇　今日未の刻過ぎより雨　申の刻頃止　(宇和野で諸手足軽の野稽古高覧、御蔵に対し不埒の増田屋某を弘前より三里追放・家財は妻子に)
1790年 10月11日 寛政2年　9月4日 晴　昨夜中雨　巳の刻雨　則刻止
1790年 10月12日 寛政2年　9月5日 曇
1790年 10月13日 寛政2年　9月6日 曇　(今日宇和野で大筒打ち方高覧)
1790年 10月14日 寛政2年　9月7日 曇　巳の刻過ぎより時々小雨　未の刻東方に虹見る
1790年 10月15日 寛政2年　9月8日 曇　今朝岩木山に雪見ゆる　終日雨
1790年 10月16日 寛政2年　9月9日 晴　昨夜中雨　今日午の刻雨　則刻止
1790年 10月17日 寛政2年　9月10日 曇　昨夜中雨
1790年 10月18日 寛政2年　9月11日 曇　今日未の刻前より時々雨
1790年 10月19日 寛政2年　9月12日 曇　昨夜中雨　今日雨時々雷
1790年 10月20日 寛政2年　9月13日 曇　昨夜時々雷　今日時々雨
1790年 10月21日 寛政2年　9月14日 曇　昨夜中時々雨雷　今日時々雨
1790年 10月22日 寛政2年　9月15日 曇　昨夜中時々雨　今日時々小雨　(御手廻り組頭等の人事異動、丹後者詮索)
1790年 10月23日 寛政2年　9月16日 晴　今日未の刻過ぎ地震
1790年 10月24日 寛政2年　9月17日 曇　(目屋野沢の男牢死)
1790年 10月25日 寛政2年　9月18日 曇　昨夜戌の刻雷発　亥の刻風雨
1790年 10月26日 寛政2年　9月19日 快晴
1790年 10月27日 寛政2年　9月20日 曇　昨夜酉の刻過ぎ雨　時々雷　(当10月より御国御家中三歩一江戸四歩一引きの通り渡し方に押して仰せ出され候)
1790年 10月28日 寛政2年　9月21日 晴
1790年 10月29日 寛政2年　9月22日 曇　昨夜戌の刻過ぎ雷雨　今日時々雨
1790年 10月30日 寛政2年　9月23日 曇　昨夜中時々雨　今日午の刻西北虹見ル
1790年 10月31日 寛政2年　9月24日 曇　今暁丑の刻頃雨降里　今朝辰の刻前雷発　(今日西の郭で御家中の射芸高覧)

1790年　11月1日 寛政2年　　9月25日 晴
1790年　11月2日 寛政2年　　9月26日 晴　午の刻過ぎより時々雨
1790年　11月3日 寛政2年　　9月27日 曇　昨夜中雨　雷発
1790年　11月4日 寛政2年　　9月28日 曇　今日巳の刻頃より雪少々降
1790年　11月5日 寛政2年　　9月29日 曇　今日申の刻過ぎより雨
1790年　11月6日 寛政2年　　9月30日 晴　昨夜時々小雨
1790年　11月7日 寛政2年　　10月1日 晴　(人事異動、9月中所々御関所出人都合96人:碇関94人(御印紙出68・切手紙出26)・野内2人(切手紙出))
1790年　11月8日 寛政2年　　10月2日 曇　昨夜中風雨強　雷発　今朝卯の刻霰降
1790年　11月9日 寛政2年　　10月3日 曇　(御家中奉公に出なかった諸手足軽の弟を鞭刑5鞭と弘前より三里四方追放・同様で役下げも)
1790年 11月10日 寛政2年　　10月4日 曇　今日辰の刻より時々雨
1790年 11月11日 寛政2年　　10月5日 曇　昨夜中より雪降　今日時々雪　(今日初雪・御機嫌伺い)
1790年 11月12日 寛政2年　　10月6日 曇　今日巳の刻より時々雨　未の刻より時々雷　(今日外馬場で御家中の馬術高覧)
1790年 11月13日 寛政2年　　10月7日 曇　今日時々雪　(藤崎川・岩木川が出水・長船馬船とも通用差留める、去月20日十三町湊口で破船1艘)
1790年 11月14日 寛政2年　　10月8日 曇　今日時々雪　(今暁七時半頃より青森御作事所より出火・男1人焼死・作事役に慎みを申付ける)
1790年 11月15日 寛政2年　　10月9日 曇　昨夜雪少々降
1790年 11月16日 寛政2年　10月10日 曇　昨夜中雨　今朝卯の刻過ぎ雷発　時々雷　(津軽屋三右衛門の支配人を御目見)
1790年 11月17日 寛政2年　10月11日 曇　昨夜中風強　雪　今日時々雪　(去る6日昼赤石組舶作村で火災・類焼16軒・稲草雑穀とも焼失・火元高無、4・5日の大荒れで鰺ヶ沢で水主1人水死)
1790年 11月18日 寛政2年　10月12日 曇　昨夜中時々雪五寸程降　今日時々雪
1790年 11月19日 寛政2年　10月13日 曇　今日時々雨
1790年 11月20日 寛政2年　10月14日 快晴　昨夜中雨雪
1790年 11月21日 寛政2年　10月15日 曇　今日巳の下刻頃より雨
1790年 11月22日 寛政2年　10月16日 曇　(酒値段1升に付き1文目とする)
1790年 11月23日 寛政2年　10月17日 晴　今日午の刻過ぎより小雨
1790年 11月24日 寛政2年　10月18日 曇　昨夜中時々雨
1790年 11月25日 寛政2年　10月19日 晴
1790年 11月26日 寛政2年　10月20日 曇
1790年 11月27日 寛政2年　10月21日 曇　昨夜雪少々降　(今日茨城屋和助御目見・御料理、舶作村の火元の他村預け免許)
1790年 11月28日 寛政2年　10月22日 晴　今日卯の刻過ぎ雪　未の刻過ぎ雪降
1790年 11月29日 寛政2年　10月23日 曇　今日時々小雨
1790年 11月30日 寛政2年　10月24日 曇　昨夜雪五寸程　今日時々小雨
1790年　12月1日 寛政2年　10月25日 曇　昨夜雪少々降　今日風吹　　下から続く　　宿をした青森町年寄りを知行召上げ町役お取放ち・博打を行った12人を青森より三里四方追放)
1790年　12月2日 寛政2年　10月26日 曇　昨夜中雪四寸程降　(人事異動、近年頭方に音物(いんぶつ:この場合賄賂)を送り良い勤務場所を望んだ御家中7人を役下げ・その他不届きな勤務で役下げ15人、博打の　　上に続く
1790年　12月3日 寛政2年　10月27日 曇　今日辰の刻より小雨
1790年　12月4日 寛政2年　10月28日 曇
1790年　12月5日 寛政2年　10月29日 曇　昨夜亥の刻頃地震
1790年　12月6日 寛政2年　　11月1日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　(10月中碇ヶ関出人都合35人(御印紙出21・切手紙出14)、人事異動、粒油出盛り・油値段4文目に申付ける)
1790年　12月7日 寛政2年　　11月2日 曇　今日雪少し降
1790年　12月8日 寛政2年　　11月3日 曇　昨夜雪降　三寸程積ル
1790年　12月9日 寛政2年　　11月4日 曇
1790年 12月10日 寛政2年　　11月5日 曇
1790年 12月11日 寛政2年　　11月6日 晴　昨夜雪六寸程積ル
1790年 12月12日 寛政2年　　11月7日 曇　今日時々雪降
1790年 12月13日 寛政2年　　11月8日 晴　(博打をした野里・原子村の7人を居村より五里四方追放・博打に負けた鐘を取り返したいと願った男も村払い・博打宿をした男共戸〆・博打で勝ち取った40両を返すよう申付ける)
1790年 12月14日 寛政2年　　11月9日 曇
1790年 12月15日 寛政2年　11月10日 曇　今日吹雪　霰降
1790年 12月16日 寛政2年　11月11日 曇　今日雪降　(赤石組代官が(去月6日の)舶作村の類焼17軒に御手当て願い・米55俵下し置かれる)
1790年 12月17日 寛政2年　11月12日 曇　昨夜雪降　今日時々雪
1790年 12月18日 寛政2年　11月13日 曇　昨夜中雪少々降
1790年 12月19日 寛政2年　11月14日 晴　昨夜戌の刻頃より雨降　今日未の刻前より小雨降
1790年 12月20日 寛政2年　11月15日 曇　昨夜之雨今暁止ム　今日辰の刻雪降　(人事異動、当月9日朝迄十三潟に氷張る)
1790年 12月21日 寛政2年　11月16日 曇　昨夜中雪少し降ル　今日未の八刻冬至に入
1790年 12月22日 寛政2年　11月17日 曇　昨夜雪少　今日時々雪降
1790年 12月23日 寛政2年　11月18日 曇　申の下刻雪　酉の刻頃止ム　(沖役入り米1俵に付き平均19匁3分・平米18匁1分)
1790年 12月24日 寛政2年　11月19日 曇　辰の刻雪降　午の刻止ム
1790年 12月25日 寛政2年　11月20日 曇
1790年 12月26日 寛政2年　11月21日 曇　辰の刻より雨
1790年 12月27日 寛政2年　11月22日 晴　午の刻頃小雨　即刻止ム　(町中惣酒屋共が酒値段1升に付き1匁3分と申し立てる・1文目1分と申付ける)
1790年 12月28日 寛政2年　11月23日 曇　昨夜中雪吹　今日雪吹
1790年 12月29日 寛政2年　11月24日 曇　昨夜中雪降
1790年 12月30日 寛政2年　11月25日 曇　昨夜中五寸程雪　今日時々雪
1790年 12月31日 寛政2年　11月26日 曇　昨夜雪四寸程降

1791年　1月1日 寛政2年　11月27日 曇　昨夜雪少し降
1791年　1月2日 寛政2年　11月28日 曇　昨夜雪少し降
1791年　1月3日 寛政2年　11月29日 晴
1791年　1月4日 寛政2年　11月30日 晴　卯の刻雪降
1791年　1月5日 寛政2年　12月1日 曇　(11月中所々御関所出人都合104人:碇関99人(御印紙出48・切手紙出51)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4)、人事異動)
1791年　1月6日 寛政2年　12月2日 曇
1791年　1月7日 寛政2年　12月3日 曇　昨夜少々雪　(品物を高値に商売した油川村の男村払い・類似の不届き者共20人に過料15文目充て並びに戸〆)
1791年　1月8日 寛政2年　12月4日 曇　今日午の刻頃より酉の刻まで雪降
1791年　1月9日 寛政2年　12月5日 晴
1791年　1月10日 寛政2年　12月6日 曇　巳の刻より雪降
1791年　1月11日 寛政2年　12月7日 曇　今日時々雪降
1791年　1月12日 寛政2年　12月8日 晴　昨夜雪少々降
1791年　1月13日 寛政2年　12月9日 晴
1791年　1月14日 寛政2年　12月10日 曇　昨夜少々雪降
1791年　1月15日 寛政2年　12月11日 晴　(後潟組三馬屋村の41人が松前表に鯡取りの申し立て・了解する)
1791年　1月16日 寛政2年　12月12日　(日記が保存されていない)
1791年　1月17日 寛政2年　12月13日 曇　昨夜中雪吹　今日雪吹
1791年　1月18日 寛政2年　12月14日 曇　昨夜中大雪吹　今日終日雪吹
1791年　1月19日 寛政2年　12月15日 晴　(人事異動)
1791年　1月20日 寛政2年　12月16日 曇
1791年　1月21日 寛政2年　12月17日 晴　今暁丑の一刻大寒ニ入　(江戸で去る27日夜四つ時頃余程強い地震で御家老・御用人が御屋形に罷り出る)
1791年　1月22日 寛政2年　12月18日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1791年　1月23日 寛政2年　12月19日 曇　昨夜中より今朝迄雨強シ
1791年　1月24日 寛政2年　12月20日 曇　昨夜時々小雨
1791年　1月25日 寛政2年　12月21日 曇　今朝卯の刻頃小雨　(公儀のお尋ね者の人相書きあり)
1791年　1月26日 寛政2年　12月22日 曇　昨夜中雪吹強し　今日寒気甚シ
1791年　1月27日 寛政2年　12月23日 曇　昨夜中雪降　(去る21日西大工町で雪潰れ家)
1791年　1月28日 寛政2年　12月24日 曇　昨夜中雪少々降
1791年　1月29日 寛政2年　12月25日 晴　昨夜少々雪
1791年　1月30日 寛政2年　12月26日 晴　朝の内雪降
1791年　1月31日 寛政2年　12月27日 晴　今暁雪少降
1791年　2月1日 寛政2年　12月28日 曇　今暁雪少降　(人事異動、褒美も出ているが銀の両は最近出てこない……あった銀5両宛と3両宛)
1791年　2月2日 寛政2年　12月29日 曇　今日時々雪降　下から続く　古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷を仰せ付ける)
1791年　2月3日 寛政3年 正月1日　曇　今暁雪少々　今日時々雪　(後潟組三馬屋村庄屋より松前騒動の風説:松前は近年鯡・秋味が取れず当秋も松前様より御救い米・御城下の商人に千4・500人が押しかける、　上に続く
1791年　2月4日 寛政3年 正月2日　曇　昨夜雪少々
1791年　2月5日 寛政3年 正月3日　曇　(今晩御謡初)
1791年　2月6日 寛政3年 正月4日　曇　今日巳の刻頃地震　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1791年　2月7日 寛政3年 正月5日　曇　昨夜雪五寸位　今日大雪吹
1791年　2月8日 寛政3年 正月6日　曇
1791年　2月9日 寛政3年 正月7日　曇　(七種の御祝儀)
1791年　2月10日 寛政3年 正月8日　曇
1791年　2月11日 寛政3年 正月9日　晴　(掃除小人2人の飛脚が江戸から着いている:大組か諸手足軽の仕事だが:福眞)
1791年　2月12日 寛政3年 正月10日　曇　昨夜子の刻過ぎ風雨強　雷発
1791年　2月13日 寛政3年 正月11日　曇　昨夜雪少々降　今日雪吹　(人事異動)
1791年　2月14日 寛政3年 正月12日　曇　昨夜雪少々　今日雪降　(病中の福眞才吉は出勤次第御手廻り与力に申し渡す)
1791年　2月15日 寛政3年 正月13日　曇　今日時々雪吹
1791年　2月16日 寛政3年 正月14日　曇　今日時々雨降
1791年　2月17日 寛政3年 正月15日　曇　(大道寺隼人に用人兼役の人事異動)
1791年　2月18日 寛政3年 正月16日　曇
1791年　2月19日 寛政3年 正月17日　曇　(12月中所々御関所出人都合32人:碇ヶ関30人(御印紙出12・切手紙出18)・野内2人(切手紙出))
1791年　2月20日 寛政3年 正月18日　晴　昨夜中雪　今日午の刻より雪少々　(去る14日夜堀越組大和沢村で出火・火元御蔵百姓村預け、松前に向う公儀お役人6人が野内に入る・中に最上徳内がいる)
1791年　2月21日 寛政3年 正月19日　晴　辰の刻過ぎ雪少し降
1791年　2月22日 寛政3年 正月20日　曇
1791年　2月23日 寛政3年 正月21日　晴　(大和沢村の火元の村預け免許)
1791年　2月24日 寛政3年 正月22日　晴　今日申の中刻小雨
1791年　2月25日 寛政3年 正月23日　晴
1791年　2月26日 寛政3年 正月24日　曇
1791年　2月27日 寛政3年 正月25日　曇　昨夜雪少々降
1791年　2月28日 寛政3年 正月26日　曇　今朝雪少々降

1791年　3月1日 寛政3年 正月27日　晴　昨夜雪少々
1791年　3月2日 寛政3年 正月28日　晴　(人事異動、御目見以上の面々に御手当てとして無代で流木を下し置かれる)
1791年　3月3日 寛政3年 正月29日　曇　今日巳の刻過ぎ雨少し降　(昨日高杉組植田村で木小屋1軒焼失・火元戸〆)
1791年　3月4日 寛政3年 正月30日　曇　昨夜雨少々降　今日午の刻頃止
1791年　3月5日 寛政3年　2月1日 曇　昨夜雪少々降　今日雪終日降　(正月中碇関出人都合85人(御印紙出80・切手紙出5))
1791年　3月6日 寛政3年　2月2日 晴　(高杉組植田村の火元の戸〆免許)
1791年　3月7日 寛政3年　2月3日 晴　(郡奉行など6人を寄合に役下げ等の人事異動)
1791年　3月8日 寛政3年　2月4日 晴　(楠見荘司を勘定奉行に等の人事異動)
1791年　3月9日 寛政3年　2月5日 曇　昨夜中雪　今日雪一尺程降　(上磯藤嶋村に去秋より肴売りいたし罷り有候太助と申す者が丹後者の風聞があり野内口より送り返す)
1791年　3月10日 寛政3年　2月6日 晴　今日雪時々降　(不人情・博打打として浅井村の男を居村より三里四方追放)
1791年　3月11日 寛政3年　2月7日 曇　昨夜中雪　今日雪少々降
1791年　3月12日 寛政3年　2月8日 快晴
1791年　3月13日 寛政3年　2月9日 晴
1791年　3月14日 寛政3年　2月10日 晴　今暁雪少々降
1791年　3月15日 寛政3年　2月11日 曇　今日終日雨
1791年　3月16日 寛政3年　2月12日 曇　昨夜雪　今日時々雪　(去る8日後潟組奥内・前田村の氏神が出火・焼失)
1791年　3月17日 寛政3年　2月13日 晴　昨夜雪少々降　(御家中の面々の射芸高覧)
1791年　3月18日 寛政3年　2月14日 曇
1791年　3月19日 寛政3年　2月15日 曇　昨夜中小雨　今日時々小雨　(人事異動)
1791年　3月20日 寛政3年　2月16日 曇
1791年　3月21日 寛政3年　2月17日 曇
1791年　3月22日 寛政3年　2月18日 曇　今朝卯の刻過ぎより時々小雨
1791年　3月23日 寛政3年　2月19日 晴
1791年　3月24日 寛政3年　2月20日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(今日御家中の面々の剣術高覧、昨夜暮六時頃賀田村で火災1軒・火元高無村預け)
1791年　3月25日 寛政3年　2月21日 曇　今暁雪少々　巳の刻過ぎ霙　(郡所小頭山上藤吉を俵子5俵の勤料で代官に)
1791年　3月26日 寛政3年　2月22日 晴
1791年　3月27日 寛政3年　2月23日 曇　昨夜中風雨　雷強発　今日風雨　(寄合に役下げが1人の人事異動、御目見以上御留守居支配が町奉行所物書の節町屋に対し色々の奸曲をし無体に金銭を私欲し掃除小人に役下げ)
1791年　3月28日 寛政3年　2月24日 晴　(今日御家中の剣術高覧、賀田村の火元の村預け免許)
1791年　3月29日 寛政3年　2月25日 曇　今日巳の刻より雨時々降　申の下刻風立
1791年　3月30日 寛政3年　2月26日 快晴　(当月22日朝五時より暮六時までに十三潟早川口より残らず氷開ける・昨年より日数で19日遅く節に引合7日遅い、不〆の勘定小頭を御目見以上・勘定人を御目見以下御留守居支配に)
1791年　3月31日 寛政3年　2月27日 曇　昨夜中雨　今朝より霙降　(今日御家中の剣術上覧)
1791年　4月1日 寛政3年　2月28日 曇　(青森町奉行等の人事異動)
1791年　4月2日 寛政3年　2月29日 晴　昨夜中雨
1791年　4月3日 寛政3年　3月1日 晴　(2月中所々御関所出人都合153人:碇ヶ関148人(御印紙出133・切手紙出15)・野内5人(御印紙出2・切手紙出3))
1791年　4月4日 寛政3年　3月2日 曇　昨夜より小雨　今日終日雨
1791年　4月5日 寛政3年　3月3日 曇　昨夜中風強　霰少々降　今日雪　(人事異動)
1791年　4月6日 寛政3年　3月4日 晴　今日午の刻過ぎ地震　酉の刻過ぎ雪少々
1791年　4月7日 寛政3年　3月5日 晴
1791年　4月8日 寛政3年　3月6日 曇　今日風吹　午の下刻雨降
1791年　4月9日 寛政3年　3月7日 曇　(不明日尾崎組唐竹村で火災1軒・火元高無居村預け)
1791年　4月10日 寛政3年　3月8日 曇　今朝辰の刻過ぎより霰　未の刻より風
1791年　4月11日 寛政3年　3月9日 晴
1791年　4月12日 寛政3年　3月10日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨　則刻止む(止の下に尻尾があり悩む:福眞)　(唐竹村の火元の村預け免許)
1791年　4月13日 寛政3年　3月11日 曇　今日時々小雨　(今日御囃子高覧)
1791年　4月14日 寛政3年　3月12日 曇　辰の刻過ぎ小雨
1791年　4月15日 寛政3年　3月13日 曇　昨夜少々雪　今日辰の刻過ぎ雪降　(当御発駕金1100両を去る13日立ちの御飛脚で差下、津軽屋三右衛門が去る12日病死(先日婿に入ったばかりのはず:福眞))
1791年　4月16日 寛政3年　3月14日 なし(日記は保存されているが天気の記載なし)
1791年　4月17日 寛政3年　3月15日 快晴　(武芸・文学等々に出精で小山太郎兵衛等多数が昇任、昨日昼八つ時和徳組和徳村で出火)
1791年　4月18日 寛政3年　3月16日 曇
1791年　4月19日 寛政3年　3月17日 晴　今日申の刻過ぎ雨少々降　則刻止　(飯詰組代官より熊胆壱つ差出す、尾崎組の猟師が熊取る・胆取らせる)
1791年　4月20日 寛政3年　3月18日 晴　(当月15日尾崎組小国村の猟師が五人組で熊(胆生目31文目)取る、今日雪水で岩木川出水・馬船差留める、当月9日油川組田沢村の漁船の4人中2人水死、　欄外(*)に続く
1791年　4月21日 寛政3年　3月19日 曇
1791年　4月22日 寛政3年　3月20日 曇　今朝辰の刻雪少々降　(献上の御馬・御家中の馬術高覧、和徳村の火元の村預け免許)
1791年　4月23日 寛政3年　3月21日 晴　(3・4・8・11月6日を御定め日として御手廻・御馬廻・御留守居組の武芸を見分することとする、昨夜小沢村領に野火入る)
1791年　4月24日 寛政3年　3月22日 晴　(1ヶ月に5の付く日3度兵書講釈仰せ付けられる、昨21日昼七つ頃藤代組尾原村で火災・類焼1軒・火元御蔵百姓他村預け)
1791年　4月25日 寛政3年　3月23日 晴　昨夜少々雨降　(岩木川出水・駒越渡し人馬往来差留める)
1791年　4月26日 寛政3年　3月24日 晴　(昨夜赤田組鶴田村で出火1軒・火元高無村預け、当月20日徳才子村・柳久保村の10人組の猟師が熊取る・胆痛める)
1791年　4月27日 寛政3年　3月25日 晴
1791年　4月28日 寛政3年　3月26日 曇　昨夜時々小雨　今日時々小雨
1791年　4月29日 寛政3年　3月27日 曇　昨夜中時々小雨　今日時々小雨　申の刻より風立　(尾原村の火元の他村預け免許、一昨夜柏木組梅田村で出火・火元高無村預け)
1791年　4月30日 寛政3年　3月28日 曇　昨夜大風　時々小雨　今日風　(鶴田村の火元の村預け免許、昨晩駒越渡し洪水・人馬通用成りかねる)
(*)　藩は18164両の支払い不能の借金がありそう・21816両2歩之御引当て石数は48870石)

1791年　5月1日 寛政3年　3月29日 晴　(大鰐組石川・森山・八幡村領の山に野火入る)
1791年　5月2日 寛政3年　3月30日 晴
1791年　5月3日 寛政3年　4月1日 曇　(3月中所々御関所出人都合82人:碇ヶ関74人(御印紙出28・切手紙出46)・大間越2人(切手紙出)・野内6人(切手紙出)、人事異動)
1791年　5月4日 寛政3年　4月2日 曇　(御家中屋敷前に者倒死)
1791年　5月5日 寛政3年　4月3日 晴
1791年　5月6日 寛政3年　4月4日 晴
1791年　5月7日 寛政3年　4月5日 晴　昨夜酉の刻過ぎ小雨
1791年　5月8日 寛政3年　4月6日 曇　今日午の刻より小雨　(去月24日藤代組小友村領松山に野火入る)
1791年　5月9日 寛政3年　4月7日 晴　(今日四時過ぎ外馬場で馬術高覧)
1791年　5月10日 寛政3年　4月8日 曇　今日終日風強し　(御目付触:御家中より在町江質入等の具足・大小・武具・馬具の類があれば申し出ろ)
1791年　5月11日 寛政3年　4月9日 晴
1791年　5月12日 寛政3年　4月10日 曇　(今10日昼藤崎組川部村で出火・類焼3軒)
1791年　5月13日 寛政3年　4月11日 快晴　(御法会に付き座当頭から御配当願・前々の通り1人に付き15人充て(?)下し置かれる)
1791年　5月14日 寛政3年　4月12日 曇　今日申の刻過ぎ雷発　小雨
1791年　5月15日 寛政3年　4月13日 快晴　昨夜中小雨
1791年　5月16日 寛政3年　4月14日 晴　卯の刻過ぎ雨　雷発　今日風立　(この節米値段下値)
1791年　5月17日 寛政3年　4月15日 快晴　卯の刻過ぎ地震強し　(人事異動、木作組新田三つ原村で出火1軒・火元村預け)
1791年　5月18日 寛政3年　4月16日 快晴　(農業に心を用いない百姓・高無を組払い・家財等は妻子に)
1791年　5月19日 寛政3年　4月17日 快晴
1791年　5月20日 寛政3年　4月18日 快晴　今日午の刻過ぎ小雨
1791年　5月21日 寛政3年　4月19日 曇　今朝辰の刻頃地震　同刻より小雨　巳の刻過ぎ地震
1791年　5月22日 寛政3年　4月20日 曇　辰の刻過ぎ雨少し降
1791年　5月23日 寛政3年　4月21日 晴　(松田常蔵を6両4人扶持に召し直し御中小姓に等の人事異動)
1791年　5月24日 寛政3年　4月22日 快晴　(去る15日深浦の男が鰺ヶ沢沖で水死)
1791年　5月25日 寛政3年　4月23日 曇　昨夜より雨　今日終日雨
1791年　5月26日 寛政3年　4月24日 快晴　昨夜中雨
1791年　5月27日 寛政3年　4月25日 曇
1791年　5月28日 寛政3年　4月26日 曇
1791年　5月29日 寛政3年　4月27日 曇　巳の刻小雨　即刻止ム
1791年　5月30日 寛政3年　4月28日 快晴　(御用金7050両を町人達に仰せ付ける)
1791年　5月31日 寛政3年　4月29日 快晴
1791年　6月1日 寛政3年　4月30日 快晴
1791年　6月2日 寛政3年　5月1日 快晴　(4月中所々御関所出人都合140人:碇ヶ関135人(御印紙出67・切手紙出68)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2)・大間越2人(切手紙出)、桜庭半兵衛を御用人になどの人事異動)
1791年　6月3日 寛政3年　5月2日 快晴　今日未の刻頃風立
1791年　6月4日 寛政3年　5月3日 快晴
1791年　6月5日 寛政3年　5月4日 曇　今日未の刻小雨
1791年　6月6日 寛政3年　5月5日 晴
1791年　6月7日 寛政3年　5月6日 曇　今日巳の刻前より時々小雨　(大組者頭格・諸手足軽頭格の2人を山奉行になどの人事異動)
1791年　6月8日 寛政3年　5月7日 曇
1791年　6月9日 寛政3年　5月8日 曇　今朝辰の刻過ぎ小雨　(御発駕これまで日延に付き御供下がりの面々永詰めで難儀・御手当てを下しおかれる、常々勤め方宜しくない郡所小頭を掃除小人・その子御徒を退役親元帰し)
1791年　6月10日 寛政3年　5月9日 快晴　(人事異動)
1791年　6月11日 寛政3年　5月10日 快晴　今日申の刻頃小雨　戌刻雷発
1791年　6月12日 寛政3年　5月11日 晴　昨夜より風立　今日終日風　(九つ時?御機嫌よく御発駕)
1791年　6月13日 寛政3年　5月12日 快晴　(山上東吾を御中小姓格郡所小頭に仰せ付ける、南横町の男縊死)
1791年　6月14日 寛政3年　5月13日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨　(昨12日夜赤他組板屋野木村の高無の弟が小屋の内で縊死)
1791年　6月15日 寛政3年　5月14日 曇　今日未の刻頃雨　即刻止　(山奉行が勘定奉行次順であるので……)
1791年　6月16日 寛政3年　5月15日 曇　昨夜時々雨　今朝に及ぶ
1791年　6月17日 寛政3年　5月16日 晴
1791年　6月18日 寛政3年　5月17日 晴　(当4月久祥院様(四代信政の生母)百回御忌御法事大赦:出牢6人・弘前並びに居村徘徊御免57人)
1791年　6月19日 寛政3年　5月18日 晴
1791年　6月20日 寛政3年　5月19日 晴
1791年　6月21日 寛政3年　5月20日 晴　(水不足でもめている、五山に雨乞いの御祈祷を仰せ付けられ候間……)
1791年　6月22日 寛政3年　5月21日 快晴　(当月14日赤石組一つ森村で出火・火元高無居村預け)
1791年　6月23日 寛政3年　5月22日 曇　今日午の刻過ぎ雨　則刻止　(当月21日木作新田畔田村で火災1軒・火元百姓村預け)
1791年　6月24日 寛政3年　5月23日 曇　昨夜雨少々降　今朝小雨　即刻止　(鰺ヶ沢御蔵米内貸の今泉某に引回の上30鞭・大場御構い弘前より十里四方追放、鰺ヶ沢御蔵立会・御蔵奉行・石渡御蔵立会・御蔵奉行に永の暇)
1791年　6月25日 寛政3年　5月24日 曇　(小栗山権現宮で雨乞い、当月22日赤石組金沢村で火災1軒)
1791年　6月26日 寛政3年　5月25日 曇
1791年　6月27日 寛政3年　5月26日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今日午の刻頃迄降　(屋形様の旅行が遅れている)
1791年　6月28日 寛政3年　5月27日 曇　(博打人寄せの常盤組小畑村の高無を田舎館・常盤両組払いにする)
1791年　6月29日 寛政3年　5月28日 曇
1791年　6月30日 寛政3年　5月29日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻少し地震　時々雨降

1791年　7月1日 寛政3年　　6月1日 なし(日記は保存されているが天気の記載なし)（人事異動）
1791年　7月2日 寛政3年　　6月2日 曇　今朝小雨
1791年　7月3日 寛政3年　　6月3日 曇　朝の内小雨
1791年　7月4日 寛政3年　　6月4日 曇　朝の内小雨
1791年　7月5日 寛政3年　　6月5日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　午の刻過ぎ地震少々
1791年　7月6日 寛政3年　　6月6日 曇　今日申の刻より雨降　暑気強
1791年　7月7日 寛政3年　　6月7日 晴　昨夜中雨　今日巳の刻小雨
1791年　7月8日 寛政3年　　6月8日 曇　今日巳の刻過ぎより小雨
1791年　7月9日 寛政3年　　6月9日 曇　(去月26日飯詰組野里村で南部花輪の商人病死)
1791年　7月10日 寛政3年　6月10日 晴　今日巳の刻頃少し地震
1791年　7月11日 寛政3年　6月11日 曇　今朝より時々小雨
1791年　7月12日 寛政3年　6月12日 曇　(屋形様5月29日午の刻過ぎ御着府)
1791年　7月13日 寛政3年　6月13日 曇　今日申の刻過ぎ小雨
1791年　7月14日 寛政3年　6月14日 曇　今日午の刻より雨　終日降
1791年　7月15日 寛政3年　6月15日 曇　今日申の刻過ぎ小雨
1791年　7月16日 寛政3年　6月16日 曇　今日終日雨
1791年　7月17日 寛政3年　6月17日 曇　朝の内小雨
1791年　7月18日 寛政3年　6月18日 曇
1791年　7月19日 寛政3年　6月19日 晴　今日申の一刻土用に入る　(一粒金丹5剤調合仰せ付けられる)
1791年　7月20日 寛政3年　6月20日 曇　今日巳の中刻過ぎより雨降　(先年出奔し立ち帰った男を弘前より五里四方追放)
1791年　7月21日 寛政3年　6月21日 晴
1791年　7月22日 寛政3年　6月22日 曇
1791年　7月23日 寛政3年　6月23日 快晴
1791年　7月24日 寛政3年　6月24日 快晴
1791年　7月25日 寛政3年　6月25日 晴　今日時々雨　頃日打続大暑
1791年　7月26日 寛政3年　6月26日 晴　今日未の刻過ぎ小雨
1791年　7月27日 寛政3年　6月27日 晴　(御褒美に南鐐3片(2朱銀3枚?)などあり)
1791年　7月28日 寛政3年　6月28日 晴
1791年　7月29日 寛政3年　6月29日 快晴　頃日打続大暑　(当月2日までの東風で後潟組左関村に大浪、6月20日に追放した男が又立ち帰る・召捕り入牢)
1791年　7月30日 寛政3年　6月30日 快晴　今暁雨少降
1791年　7月31日 寛政3年　7月1日 快晴　(屋形様御参府後浮腫……)
1791年　8月1日 寛政3年　7月2日 晴
1791年　8月2日 寛政3年　7月3日 晴　今暁寅の刻頃より雨　今朝卯の刻頃止
1791年　8月3日 寛政3年　7月4日 晴　頃日打続大暑　(屋形様御不例に付き祈祷・登城など、5月朔日植付の御初米出穂大鰐村加賀助・兵左衛門より差上げる・当年は日数に引き合い去年より4日遅く節に引合4日遅い)
1791年　8月4日 寛政3年　7月5日 快晴
1791年　8月5日 寛政3年　7月6日 快晴
1791年　8月6日 寛政3年　7月7日 快晴
1791年　8月7日 寛政3年　7月8日 曇　今日時々雨　申の刻過ぎ風　酉の刻過ぎ止
1791年　8月8日 寛政3年　7月9日 晴　頃日打続大暑　(御家老津軽多膳に一粒金丹願いの通り)
1791年　8月9日 寛政3年　7月10日 晴　今日残暑　巳の中刻小雨　則刻止　(当月6日青森蜆貝町の男が前浜で水死)
1791年　8月10日 寛政3年　7月11日 曇　昨夜子の中刻頃より雨　今朝に及ぶ
1791年　8月11日 寛政3年　7月12日 晴
1791年　8月12日 寛政3年　7月13日 曇　今暁丑の刻頃より雨終日降
1791年　8月13日 寛政3年　7月14日 晴　今日申の刻より風立　(7月6日屋方様御逝去)
1791年　8月14日 寛政3年　7月15日 曇　今暁寅の刻頃より雨終日降　(石渡川4歩半の出水・両船往来相成らず)
1791年　8月15日 寛政3年　7月16日 曇　昨夜中雨　今日未の刻頃より晴　(百沢寺境内奥に古い縊死者あり、境関川・藤崎川・平川出水)
1791年　8月16日 寛政3年　7月17日 曇
1791年　8月17日 寛政3年　7月18日 晴　(百沢寺の縊死者は鍛治町の男であった)
1791年　8月18日 寛政3年　7月19日 曇　昨夜中時々雨　今日時々雨　(屋形様御逝去を早打で知らせた御目付が熊胆目形10文目御払い願・有合せが不足で1文目を下置かれる・代銭は上納に及ばず、和三郎様を殿様としている)
1791年　8月19日 寛政3年　7月20日 晴　今暁寅の刻頃より雨　今朝に及ぶ　(14日朝赤石組日照田村で出火1軒・火元高無村預け・免許)
1791年　8月20日 寛政3年　7月21日 晴
1791年　8月21日 寛政3年　7月22日 晴　頃日打続残暑
1791年　8月22日 寛政3年　7月23日 晴　朝の内曇　(24日に江戸に帰る御目付に江戸表御入用金1000両を預ける)
1791年　8月23日 寛政3年　7月24日 なし(日記は保存されているが天気の記載なし)
1791年　8月24日 寛政3年　7月25日 晴　昨夜子の中刻頃地震
1791年　8月25日 寛政3年　7月26日 晴
1791年　8月26日 寛政3年　7月27日 晴
1791年　8月27日 寛政3年　7月28日 曇　今日卯の中刻より時々雨　辰の中刻頃少し地震　　下から続く　　するが親妻子親類なしに付き菩提寺である今別本覚寺に渡す)
1791年　8月28日 寛政3年　7月29日 晴　今日未の中刻頃より時々小雨　(去る戌の正月(今年は亥の年:1年半前のこと:福眞)三馬屋村才兵衛が唐国で病死・同国で相与候銀子を日本銀に引き換え親類に渡そうと　　上に続く
1791年　8月29日 寛政3年　8月1日 曇　昨夜中時々雨　今日終日雨　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる)
1791年　8月30日 寛政3年　8月2日 曇　昨夜中雨強　今日終日雨
1791年　8月31日 寛政3年　8月3日 晴

1791年　9月1日 寛政3年　8月4日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨　則刻止　今日時々雨
1791年　9月2日 寛政3年　8月5日 曇　今日申の刻頃より雨　(御国表米価下値)
1791年　9月3日 寛政3年　8月6日 曇　昨夜中雨　酉の刻雷強し　今日終日雨
1791年　9月4日 寛政3年　8月7日 曇
1791年　9月5日 寛政3年　8月8日 なし(日記は保存されているが天気の記載なし)
1791年　9月6日 寛政3年　8月9日 曇
1791年　9月7日 寛政3年　8月10日 晴
1791年　9月8日 寛政3年　8月11日 曇　昨夜中より時々雨　今日時々雨　今朝西の方虹見ゆる　(打続天気不勝に付岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止、当月15の八幡宮・16日の山王宮の御祭礼御中陰に付き来月に延す)
1791年　9月9日 寛政3年　8月12日 晴
1791年　9月10日 寛政3年　8月13日 曇　(昨12日嵩で硫黄盗人3人を搦捕る)
1791年　9月11日 寛政3年　8月14日 快晴　今暁丑の刻過ぎより時々雨　卯の刻前止
1791年　9月12日 寛政3年　8月15日 曇　今暁丑の刻頃より雨　卯の刻過ぎ雷　(給与の換算だろうが次のようの数値あり:金1両が銭100目・米3斗5俵入り1俵が20目)
1791年　9月13日 寛政3年　8月16日 曇　今暁より時々雨　今日終日雨
1791年　9月14日 寛政3年　8月17日 曇　(座当・盲女203人に法事配当15文宛・鳴物停止中の無家業に付き座当ども4人に200文宛御手当て・楮町の乞食どもに配当10文宛)
1791年　9月15日 寛政3年　8月18日 曇　今朝卯の刻過ぎ小雨
1791年　9月16日 寛政3年　8月19日 曇
1791年　9月17日 寛政3年　8月20日 曇
1791年　9月18日 寛政3年　8月21日 曇　昨夜子の刻前より風段々強　丑寅の刻大風　今朝卯の刻過ぎ止　所々破損　潰家有　樹木多倒　昨夜より時々雨今朝に及ぶ　今日巳の刻過ぎ雨
1791年　9月19日 寛政3年　8月22日 曇　(碇ヶ関街道の並木風折れ根返り・枝折れ:松368本杉9本・松100本)
1791年　9月20日 寛政3年　8月23日 晴　(代官小使の女房縊死)　下から続く　大風による弘前の潰れ家:住家10軒(平均7坪半くらいです:福眞)、21日朝鰺ヶ沢で湊形御役所の屋根が4坪ほど吹き剥げる)
1791年　9月21日 寛政3年　8月24日 曇　昨夜より雨　今日終日雨　(去る20日の大風により赤石組日照田村で潰れ家・女1人死亡、去る22日夜田舎館組八反田村で外馬屋1軒出火・火元御蔵百姓戸〆、20日の　上に続く
1791年　9月22日 寛政3年　8月25日 曇　昨夜中雨　子の刻頃より風立　今朝に及ぶ　今日時々雨
1791年　9月23日 寛政3年　8月26日 曇
1791年　9月24日 寛政3年　8月27日 曇　朝の内小雨　(去る20日の大風で堀越組大和沢村天王沢で松木2900本余が風折れ)
1791年　9月25日 寛政3年　8月28日 晴　昨夜中雨
1791年　9月26日 寛政3年　8月29日 曇
1791年　9月27日 寛政3年　8月30日 晴　(城内を主とした風被害の報告あり)
1791年　9月28日 寛政3年　9月1日 晴
1791年　9月29日 寛政3年　9月2日 晴
1791年　9月30日 寛政3年　9月3日 晴　(去月16日江戸で御家老添田儀左衛門病死、殿様の御名乗り「寧親」公とする・これに伴い親の字は禁字)
1791年　10月1日 寛政3年　9月4日 曇　今暁寅の刻より雨　今日午の刻過ぎより風強シ　終日雨
1791年　10月2日 寛政3年　9月5日 曇　昨夜中より風雨強　今日時々雨降
1791年　10月3日 寛政3年　9月6日 晴　(8月中日々附相場:金1両が98文目9分)
1791年　10月4日 寛政3年　9月7日 晴　(昨夜御家中の倅が乱心切腹・死亡)
1791年　10月5日 寛政3年　9月8日 曇
1791年　10月6日 寛政3年　9月9日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　下から続く　杉村の男が松前?で水死)
1791年　10月7日 寛政3年　9月10日 晴　昨夜中亥の刻過ぎ小雨　今朝卯の刻過ぎ小雨　即刻止　(昨22日(8月22日のこと)江戸で御用人西館織部が病死、去る4日青森の大風雨で橋々流失、4日の大風雨で後潟組　上に続く
1791年　10月8日 寛政3年　9月11日 晴　下から続く　潰湯さ屋2軒潰即死女1人(日照田村)怪我男1人(同村)潰斃馬1疋痛馬1疋・青森で並木松13本柵立10軒吹倒・鰺ヶ沢で御船蔵3ケ所とも押潰・　欄外(*)に続く
1791年　10月9日 寛政3年　9月12日 晴　昨夜子の刻過ぎ地震少　(殿様を屋形様・御奥様を御前様と称え奉るようにする)　下から続く　・在方で潰家180軒痛家1607軒倒木7974本潰御制札2ヵ所痛同1ヶ所　上に続く
1791年 10月10日 寛政3年　9月13日 晴　(飯詰組高野村に者倒死)　下から続く　同社家1軒半潰社家1軒半潰家2軒・寺院門前で潰家3軒半潰1軒・寺院で杉883本雑木88本・社木で杉150本雑木68本　上に続く
1791年 10月11日 寛政3年　9月14日 晴　下から続く　・弘前町屋で潰家10軒半潰12軒小見世5軒物置1軒木小屋1軒倒木226本・寺社方で押潰社堂2ヵ所同拝殿2ヵ所神楽殿3ケ所寺院押潰門11ヶ所　上に続く
1791年 10月12日 寛政3年　9月15日 晴　下から続く　怪我人潰家倒木左の通り:高岡境内で杉14本並木松129本雑木911本・碇関街道で並木松1205本杉24本・御家中で押潰塀2ヵ所同物置1ヶ所倒木5本　上に続く
1791年 10月13日 寛政3年　9月16日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今朝におよひ(とにかくこう書いてある:福眞)　(寛政3年8月20日の夜子の刻より翌朝卯の刻まで大風にて弘前並びに寺社在浦々潰死人馬並びに　上に続く
1791年 10月14日 寛政3年　9月17日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今日午の刻頃止　(この節米下値・お手当として1俵に付き15匁値段で当分の内お買い上げ・値段が15匁余になれば相場で買い上げることとする)
1791年 10月15日 寛政3年　9月18日 曇　昨夜時々小雨　今朝に及ぶ　今朝岩木山雪見ゆる　辰の刻頃霰降
1791年 10月16日 寛政3年　9月19日 曇　今日時々小雨　(当月4日の大風雨に伴い被害あり)
1791年 10月17日 寛政3年　9月20日 曇　昨夜中小雨　今日時々雨　(当月4日横内組原別村の船が流失・破船)
1791年 10月18日 寛政3年　9月21日 曇　昨夜より雨　今日時々雨
1791年 10月19日 寛政3年　9月22日 曇　昨夜中少々雨　(屋形様御家督の御祝儀を座当・盲女1人に15文宛官位次第下し置かれる、高崎村の者共が田圃で鶴を取り差上げる)
1791年 10月20日 寛政3年　9月23日 曇　昨夜中雨強　今日辰の刻霰降　時々雨
1791年 10月21日 寛政3年　9月24日 曇　今日時々小雨
1791年 10月22日 寛政3年　9月25日 曇　昨夜中雨強　戌の刻過ぎ雷発
1791年 10月23日 寛政3年　9月26日 曇　今日巳の刻頃より雨終日ふる　酉の刻過ぎ雷発
1791年 10月24日 寛政3年　9月27日 曇　昨夜中時々雨　今日時々雨　(先日鶴を取って差上げた高崎村の男に酒代鳥目500文を下し置かれる)
1791年 10月25日 寛政3年　9月28日 曇　今日小雨　(高岡献備の鮭2尺御用所に差上げる)
1791年 10月26日 寛政3年　9月29日 晴　(当月4日の大風雨で松神・大間越・黒崎・目内碕・中村・舞戸村で刈り稲が流失)
1791年 10月27日 寛政3年　10月1日 晴　(先頃筑前・長門・石見の沖に異国船1艘漂流)
1791年 10月28日 寛政3年　10月2日 曇
1791年 10月29日 寛政3年　10月3日 快晴　(尾崎組原田村の鳥取りが生き鶴差上げる、青森町で賭博・喧嘩3人町払い)
1791年 10月30日 寛政3年　10月4日 快晴
1791年 10月31日 寛政3年　10月5日 曇　今日午の刻過ぎより時々雨降
(*) 深浦で潰家4軒半潰7軒・碇関で御制札1ヶ所押潰・野内で柵立13間吹倒・黒石領で町屋潰家1軒同半潰11軒在方潰家4軒同半潰1軒倒木413本:これらの合計杉1071本・雑木11019本・潰家203軒・半潰家35軒・痛家1607軒・即死女1人・怪我男1人・等々の数値あり)

1791年　11月1日 寛政3年　　10月6日 曇　昨夜中より雨　今日時々雨 （悪戸・湯口村の先日の大風で潰れ家になった者共が仕立て山から22本切取願・了、黒滝村・赤石組松神村でも似たような動き）
1791年　11月2日 寛政3年　　10月7日 曇　昨夜より雨　今日に及び時々雨降
1791年　11月3日 寛政3年　　10月8日 晴　昨夜中風雨
1791年　11月4日 寛政3年　　10月9日 晴　今日午の刻過ぎより曇 （去月27日赤石組広戸村の刈り稲が辰巻(竜巻でしょうね)ニ相成り……）
1791年　11月5日 寛政3年　10月10日 曇　辰の刻過ぎより小雨降　巳の刻頃大雨　則刻雷強発 （昨27日御用人大道寺隼人を御家老に・加増100石、同日上田惣蔵を御用人に）
1791年　11月6日 寛政3年　10月11日 曇　昨夜中雨　今日時々風雨 （去月27日相内村より後潟に向う十三の3人乗りの船が大風で流れ上陸した1人倒死）
1791年　11月7日 寛政3年　10月12日 曇　昨夜中雨
1791年　11月8日 寛政3年　10月13日 曇 （油値段1升に付き4匁7分に申付ける）
1791年　11月9日 寛政3年　10月14日 曇　今日終日小雨
1791年 11月10日 寛政3年　10月15日 快晴　昨夜子の刻過ぎ雨 （江戸表より一粒金丹200粒の申し出・渡すよう申付ける）
1791年 11月11日 寛政3年　10月16日 快晴 （当月13日小泊村の長松(帰国せず切支丹と認定された男)の従弟病死）
1791年 11月12日 寛政3年　10月17日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今日終日雨強し　　下から続く　　・右(現代語訳では左)の寄:船29艘・流失家6軒・潰家49軒・半潰家17軒・痛家144軒・水死男3人・流失橋136ヶ所等々）
1791年 11月13日 寛政3年　10月18日 快晴　昨夜中時々雨　　下から続く　　・在方で潰家34軒痛家144軒雑駄斃1疋倒木895本流失橋128ヶ所破船6艘流失1艘流死男3人・黒石で倒木131本　　上に続く
1791年 11月14日 寛政3年　10月19日 晴 （御褒美として:南鐐3片・金100疋・金2朱あり）　　下から続く　　破損倒木47本・大間越で御関所御仮屋所々破損・野内で流失家1軒潰家5軒半潰4軒雑駄斃2疋流失船1艘　　上に続く
1791年 11月15日 寛政3年　10月20日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今朝に及ぶ　今暁寅の刻頃雷少し発　今日時々雨ふる　　下から続く　　流失2艘・深浦で潰家1軒半潰2軒・碇関で柵立吹倒20軒御仮屋廻り所々　　上に続く
1791年 11月16日 寛政3年　10月21日 曇 （寛政3年9月4日大風雨洪水にての被害:寺社方で杉55本雑木19本・青森で御制札1ヶ所流失家5軒潰家9軒半潰11軒同辻番所1ヶ所流失橋8ケ所雑木2本破船14艘難船4艘　　上に続く
1791年 11月17日 寛政3年　10月22日 曇
1791年 11月18日 寛政3年　10月23日 晴 （前屋形様の位牌が報恩寺・長勝寺に届く）
1791年 11月19日 寛政3年　10月24日 曇　昨夜子の刻前より今朝に及ぶ雨
1791年 11月20日 寛政3年　10月25日 曇　昨夜戌の刻霙　今暁卯の刻前初めて雪積 （昨23日駒越組大秋村で日雇いが〇(金偏に男)で雇い先の家族に切りつける・早速入牢の手続きをとる）
1791年 11月21日 寛政3年　10月26日 晴 （切りつけられた大秋村の雇い先の女房死亡）
1791年 11月22日 寛政3年　10月27日 曇 （一粒金丹の西方の伝来:元来池田丹波守様の御秘法を津軽信政が無心……、古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷を仰せ付ける）
1791年 11月23日 寛政3年　10月28日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨　今日終日雨ふる
1791年 11月24日 寛政3年　10月29日 曇　今日巳の刻過ぎより雪　終日ふる
1791年 11月25日 寛政3年　10月30日 晴　昨夜中雪少し降
1791年 11月26日 寛政3年　　11月1日 曇
1791年 11月27日 寛政3年　　11月2日 曇
1791年 11月28日 寛政3年　　11月3日 曇
1791年 11月29日 寛政3年　　11月4日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　今日午の刻頃より晴　未の刻より風　酉の刻頃止 （御家中が他人の屋敷前で自害）
1791年 11月30日 寛政3年　　11月5日 快晴 （深浦で松前の船員が痢病で病死）
1791年　12月1日 寛政3年　　11月6日 曇　今朝辰之刻前より雨　巳之刻前止ム
1791年　12月2日 寛政3年　　11月7日 晴 （鶴を捕え差上げた尾崎組原田村の鳥取に酒代鳥目500文下し置かれる）
1791年　12月3日 寛政3年　　11月8日 曇　今日午の刻過ぎより雨終日降 （酒値段を1匁3分の仮値段願い・1匁に申付ける）
1791年　12月4日 寛政3年　　11月9日 曇　昨夜中時々雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1791年　12月5日 寛政3年　11月10日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨　寅の刻過ぎより雪降 （福眞才吉方に館山兵十郎の娘）
1791年　12月6日 寛政3年　11月11日 晴
1791年　12月7日 寛政3年　11月12日 晴
1791年　12月8日 寛政3年　11月13日 曇　今日申の刻過ぎより風立 （先代屋形様御法事に付き大赦:弘前並びに居村徘徊御免7人）
1791年　12月9日 寛政3年　11月14日 曇　昨夜中より雪　今朝に及ぶ　一尺余降
1791年 12月10日 寛政3年　11月15日 晴
1791年 12月11日 寛政3年　11月16日 晴
1791年 12月12日 寛政3年　11月17日 曇　午の刻過ぎより雨降 （昨晩御中小姓宅で御留守居組が酒狂い・傷害、去る12日広田組高瀬村で外馬屋1軒焼失・火元戸〆）
1791年 12月13日 寛政3年　11月18日 曇　昨夜より時々小雨　今朝に及ぶ
1791年 12月14日 寛政3年　11月19日 曇　昨夜雪少降ル
1791年 12月15日 寛政3年　11月20日 曇
1791年 12月16日 寛政3年　11月21日 曇　今朝丑の七刻頃より風強　吹雪　風今朝に及ぶ　今日時々雪降
1791年 12月17日 寛政3年　11月22日 晴　昨夜中雪少し降 （御払米入札値段(沖役入り1俵に付き):弘前23文目8分8厘6毛・青森28文目6分6厘5毛・鰺ヶ沢23文目6分9厘7毛・(平米23文目4分6厘3毛)・金1両に付き87匁5分）
1791年 12月18日 寛政3年　11月23日 曇　今朝辰の刻頃より小雨時々降
1791年 12月19日 寛政3年　11月24日 曇
1791年 12月20日 寛政3年　11月25日 曇　昨夜雪少し降
1791年 12月21日 寛政3年　11月26日 晴
1791年 12月22日 寛政3年　11月27日 曇　卯の刻過ぎより雨　巳の刻過ぎ止ム
1791年 12月23日 寛政3年　11月28日 曇　今日時々雪降
1791年 12月24日 寛政3年　11月29日 曇　今日時々雪
1791年 12月25日 寛政3年　　12月1日 晴
1791年 12月26日 寛政3年　　12月2日 曇　昨夜中雪　今日より小雨時々降
1791年 12月27日 寛政3年　　12月3日 曇　昨夜中より時々雪降
1791年 12月28日 寛政3年　　12月4日 曇　昨夜雪降 （蝦夷地御用の公儀御役人最上徳内など5人が去月24日三馬屋着岸・29日南部野辺地に）
1791年 12月29日 寛政3年　　12月5日 曇　昨夜より雪　今日時々雪
1791年 12月30日 寛政3年　　12月6日 曇
1791年 12月31日 寛政3年　　12月7日 晴　昨夜中雪少し降

1792年　1月1日 寛政3年　12月8日 曇 （当月3日暮六時より翌4日朝六時まで十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は11月8日暮六時より翌9日朝六時までに氷張る・当年は日数に引合24日遅く節に引合13日遅い）
1792年　1月2日 寛政3年　12月9日 曇 昨夜子の刻過ぎより小雨　今朝に及ぶ
1792年　1月3日 寛政3年　12月10日 晴
1792年　1月4日 寛政3年　12月11日 曇 昨夜中時々小雨　今日終日雨降
1792年　1月5日 寛政3年　12月12日 曇 昨夜子の刻頃より雪少し降 （野内・浅虫方面の漁師が御献上鱈代銭3文目3分宛と申し出る・1文目2分増で2文目5分値段に申付ける）
1792年　1月6日 寛政3年　12月13日 曇 昨夜より吹雪　今暁丑の4刻寒入　今日終日吹雪
1792年　1月7日 寛政3年　12月14日 晴 昨夜雪少し降 （昨晩酒売り場で掃除小人が喧嘩・1人死亡・一方入牢、御扶持・切米等の渡し方が書いてあるが判らない）
1792年　1月8日 寛政3年　12月15日 曇 今暁寅の刻過ぎより巳の刻頃まで小雨
1792年　1月9日 寛政3年　12月16日 晴
1792年　1月10日 寛政3年　12月17日 晴 昨夜雪少し降 （検見人を欺いた百姓を村払いに）
1792年　1月11日 寛政3年　12月18日 曇 昨夜雪少々降
1792年　1月12日 寛政3年　12月19日 曇 昨夜中より今日時々雪
1792年　1月13日 寛政3年　12月20日 曇 昨夜中雪降
1792年　1月14日 寛政3年　12月21日 曇 昨夜中雪壱尺余降
1792年　1月15日 寛政3年　12月22日 曇 昨夜中より雪　今日時々雪 （当月17日一ノ渡村の猟師3人が熊(胆生目60目)取る）
1792年　1月16日 寛政3年　12月23日 曇 今日終日吹雪
1792年　1月17日 寛政3年　12月24日 曇 昨夜より雪　今日時々雪降
1792年　1月18日 寛政3年　12月25日 曇 今朝辰の刻過ぎ小雨 （去る20日赤石組大登村で出火・家1軒稲草焼失・火元村預け）
1792年　1月19日 寛政3年　12月26日 曇 今朝卯の刻過ぎより小雨　今日時々霙 （隠炭釜打立ての枯木平村庄屋を組払い）
1792年　1月20日 寛政3年　12月27日 曇 今日時々雪 （当年熊取注進一向申出でず……）
1792年　1月21日 寛政3年　12月28日 曇 昨夜中時々風　今日時々雪 （御家中一統難渋格段の御沙汰で御手当て:御手廻など31人に銭50～30目宛、郡所物書きに横岡伊八郎）
1792年　1月22日 寛政3年　12月29日 曇 今日時々雪降
1792年　1月23日 寛政3年　12月30日 曇 今日時々雪降
1792年　1月24日 寛政4年　正月1日　曇 昨夜中雪降　今日終日吹雪 （古懸不動尊今朝御出汗）
1792年　1月25日 寛政4年　正月2日　曇 昨夜雪　今日時々雪　昨日より寒気強し
1792年　1月26日 寛政4年　正月3日　曇 昨夜中時々雪　今日時々雪降
1792年　1月27日 寛政4年　正月4日　曇 昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1792年　1月28日 寛政4年　正月5日　晴 昨夜少々雪降
1792年　1月29日 寛政4年　正月6日　晴 今日申の刻雪少々降
1792年　1月30日 寛政4年　正月7日　晴 （七種の御祝儀）
1792年　1月31日 寛政4年　正月8日　曇 今日時々雪降
1792年　2月1日 寛政4年　正月9日　曇 今日巳の刻頃より時々雪
1792年　2月2日 寛政4年　正月10日　晴 昨夜雪少々降
1792年　2月3日 寛政4年　正月11日　晴 未の刻過ぎより雪降 （去年12月16日屋形様御叙爵:出羽守と称え奉る）
1792年　2月4日 寛政4年　正月12日　曇 昨夜時々雪降　今日終日吹雪強し
1792年　2月5日 寛政4年　正月13日　曇 昨夜中より今日終日吹雪強　昨今寒気強し
1792年　2月6日 寛政4年　正月14日　晴
1792年　2月7日 寛政4年　正月15日　晴 （森岡金吾を御用人兼役に等の人事異動）
1792年　2月8日 寛政4年　正月16日　晴
1792年　2月9日 寛政4年　正月17日　快晴 （近年矢羽払底に付き……当時はこうの鳥・山鳥・雉子・白鳥・ときが居たらしい:福眞）
1792年　2月10日 寛政4年　正月18日　曇 今日時々雪
1792年　2月11日 寛政4年　正月19日　曇 昨夜より今日終日小雨
1792年　2月12日 寛政4年　正月20日　晴 （当月6日横内組長森村の猟師助左衛門が熊(胆生目形75文目)取る、昨16日碇関町の治郎兵衛が熊(胆目形50目)取る）
1792年　2月13日 寛政4年　正月21日　曇 今日午の刻地震　申の刻過ぎより雪降
1792年　2月14日 寛政4年　正月22日　晴 昨夜雪少々降　今日午の刻過ぎより時々雪降候(雪降ルかも:福眞)
1792年　2月15日 寛政4年　正月23日　晴 昨夜雪少々降
1792年　2月16日 寛政4年　正月24日　晴 昨今余寒強し
1792年　2月17日 寛政4年　正月25日　曇 昨夜中より今日時々雪降
1792年　2月18日 寛政4年　正月26日　曇 昨夜中より今日迄時々雪降
1792年　2月19日 寛政4年　正月27日　晴 今日未の刻より雪少々降
1792年　2月20日 寛政4年　正月28日　曇 （御官名御祝儀に付き座当(盲女)に配当20文宛）
1792年　2月21日 寛政4年　正月29日　晴
1792年　2月22日 寛政4年　2月1日 曇 申の刻より雨　夜入
1792年　2月23日 寛政4年　2月2日 曇 昨夜より雨　今朝に及ぶ　未の刻より雪少々降
1792年　2月24日 寛政4年　2月3日 曇 酉の刻頃雪少々降
1792年　2月25日 寛政4年　2月4日 曇 今朝辰の刻頃より雪降　巳の刻頃止
1792年　2月26日 寛政4年　2月5日 曇 昨夜中時々雪ふる　今日未の刻過ぎ雪少し降
1792年　2月27日 寛政4年　2月6日 曇 昨夜時々雨降
1792年　2月28日 寛政4年　2月7日 晴 昨夜時々雨降 （野火で焼失の際の過料銭1軒より何文目:焼失1万坪以下百姓25文高無10文など）
1792年　2月29日 寛政4年　2月8日 曇 昨夜雪降　今日未の刻頃より雪降

1792年　3月1日 寛政4年　2月9日 曇　昨夜中雪降　(役筋の名前を私曲した御留守居支配に永の暇・不勤の表坊主を掃除小人に・不埒の表坊主に永の暇)
1792年　3月2日 寛政4年　2月10日 晴　昨夜中雪降　(一ノ渡村の猟師彦次郎などが熊取る)
1792年　3月3日 寛政4年　2月11日 晴　昨夜子の刻過ぎより小雨　今日辰の刻頃より時々風立
1792年　3月4日 寛政4年　2月12日 晴　　下から続く　・大場御構い五里四方追放、同類の数人にも鞭刑など)
1792年　3月5日 寛政4年　2月13日 晴　(去る秋賭博・喧嘩の柏木村庄屋を居村端で鞭刑10鞭・大場御構い七里四方追放・田畑家屋敷は妻子に下し置かれる、同様の一野坪・油川(2人)・瀬良沢村の男も鞭刑5鞭　上に続く
1792年　3月6日 寛政4年　2月14日 晴　(去る12日赤田組赤田村で出火・火元給地百姓村預け)
1792年　3月7日 寛政4年　2月15日 晴　(当月2日津軽坂村の猟師太兵衛が熊取る)
1792年　3月8日 寛政4年　2月16日 晴
1792年　3月9日 寛政4年　2月17日 晴　(人事異動)
1792年　3月10日 寛政4年　2月18日 晴
1792年　3月11日 寛政4年　2月19日 曇
1792年　3月12日 寛政4年　2月20日 曇
1792年　3月13日 寛政4年　2月21日 晴
1792年　3月14日 寛政4年　2月22日 晴
1792年　3月15日 寛政4年　2月23日 曇　巳の刻頃より小雨　午の刻頃止
1792年　3月16日 寛政4年　2月24日 晴　午の刻過ぎ雷発　雪少し降
1792年　3月17日 寛政4年　2月25日 曇　昨夜中雪降　昨今寒強し
1792年　3月18日 寛政4年　2月26日 曇　昨夜雪少し降
1792年　3月19日 寛政4年　2月27日 曇　昨夜中雪降　昨今寒強し
1792年　3月20日 寛政4年　2月28日 晴　(去る25日暮六時まで十三潟が残らず氷明ける・去年と日数引合3日遅く節に引き合い8日早い)
1792年　3月21日 寛政4年　2月29日 曇　今日時々小雨　(今日八時頃諸手足軽の女房が縊死)
1792年　3月22日 寛政4年　2月30日 曇　昨夜より雨　今日に及び　終日降
1792年　3月23日 寛政4年　閏2月1日　晴　(去月27日夜駒越組黒土村で火災2軒・火元高無他村預け)
1792年　3月24日 寛政4年　閏2月2日　晴
1792年　3月25日 寛政4年　閏2月3日　曇　昨夜中雨降　今日巳の刻頃止
1792年　3月26日 寛政4年　閏2月4日　晴　(青森浜町に松前の男倒死)
1792年　3月27日 寛政4年　閏2月5日　曇　午の刻頃小雨　終日降　(黒土村の火元の他村預け免許)
1792年　3月28日 寛政4年　閏2月6日　曇　昨夜子の刻過ぎ地震少
1792年　3月29日 寛政4年　閏2月7日　快晴
1792年　3月30日 寛政4年　閏2月8日　晴
1792年　3月31日 寛政4年　閏2月9日　快晴　(この度在方のもの人返し仰せ付けられ候に付き引越料:家持1軒に付き50目・借家の者は20目・家内1人1里に付き2文目)
1792年　4月1日 寛政4年　閏2月10日 曇　午の刻前より時々小雨
1792年　4月2日 寛政4年　閏2月11日 曇　昨夜時々雨　今朝に及び時々降　(当月3日朝深浦町で山崩れ・潰れ家2軒怪我人なし、鯵ヶ沢山手より狼出て子犬等を食らう)
1792年　4月3日 寛政4年　閏2月12日 曇　今朝辰の刻過ぎ地震少
1792年　4月4日 寛政4年　閏2月13日 晴　朝の内曇　(悪者の宿で遊女抱置きの青森の男を青森より10里四方追放・家屋敷御取上げ家財けっしょ)
1792年　4月5日 寛政4年　閏2月14日 晴　朝の内曇
1792年　4月6日 寛政4年　閏2月15日 曇　(給銭位定め:下男の部(90目・中75文目・下60目・小者50目)・女の部(上廻80目・乳母80目但し子供有の分は給銭の外1人扶持遣わし候様・飯炊60目より50目迄・子守40目より30目迄)
1792年　4月7日 寛政4年　閏2月16日 曇　昨夜より今日まで時々小雨
1792年　4月8日 寛政4年　閏2月17日 曇
1792年　4月9日 寛政4年　閏2月18日 曇
1792年　4月10日 寛政4年　閏2月19日 晴　昨夜時々小雨　今暁雪少し降　昨今寒強し　(昨18日駒越組紙漉沢村で出火・1軒と馬2疋焼斃・火元高無村預け)
1792年　4月11日 寛政4年　閏2月20日 曇
1792年　4月12日 寛政4年　閏2月21日 晴
1792年　4月13日 寛政4年　閏2月22日 曇　今日未の刻過ぎ地震少
1792年　4月14日 寛政4年　閏2月23日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　辰の刻前雪時々降
1792年　4月15日 寛政4年　閏2月24日 晴　(紙漉沢村の火元の村預けを免許)
1792年　4月16日 寛政4年　閏2月25日 曇　頃日風強し
1792年　4月17日 寛政4年　閏2月26日 曇　昨夜より時々雨　今朝に及ぶ　午の刻過ぎ地震
1792年　4月18日 寛政4年　閏2月27日 晴
1792年　4月19日 寛政4年　閏2月28日 晴　(土渕川の八ツ目取規制)
1792年　4月20日 寛政4年　閏2月29日 曇　今日時々風立
1792年　4月21日 寛政4年　3月1日 曇　(横内組代官より熊胆一つ差出す)
1792年　4月22日 寛政4年　3月2日 曇
1792年　4月23日 寛政4年　3月3日 曇
1792年　4月24日 寛政4年　3月4日 曇　昨夜戌の刻より雨時々降　今朝辰の刻頃雪　今日終日雨
1792年　4月25日 寛政4年　3月5日 曇　昨夜中雪時々　午の刻過ぎ雪少々降　(先年公儀より仰せ出された諸国人数改めの儀今年七ヵ年目に付き……)
1792年　4月26日 寛政4年　3月6日 曇　(去る4日十三町で大荒・九時頃男1人を湊口に揚げる・八時頃死亡)
1792年　4月27日 寛政4年　3月7日 晴　(昨4日朝鯵ヶ沢で大荒れ・高波・水主1人水死、炭4貫目入り1俵に付き駄賃銭入り2匁……分からん:福眞)
1792年　4月28日 寛政4年　3月8日 曇　昨夜時々雨　今日終日雨　頃日時々風強し
1792年　4月29日 寛政4年　3月9日 曇　(昨年11月16日に酒に酔って剣術仲間に傷を負わせた御留守居組斎藤某の俵子10俵召上げ御目見以下御留守居支配に)
1792年　4月30日 寛政4年　3月10日 晴　今日時々風強し　(去月20日駒越組の猟師が熊(胆生目形20目)取る)

1792年　5月1日 寛政4年　3月11日 晴　午の刻過ぎより風立　　下から続く　　弥五右衛門(干目9文目)桜庭村喜右衛門(干目6文目)の三つの熊胆を上納する)
1792年　5月2日 寛政4年　3月12日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々丸雪降　未の刻前より風強し　(昨11日昼飯詰組野里村で出火1軒・7歳男子1人と駒2疋焼死、駒越組代官が中畑村彦左衛門(干目12文目)枯木平村　　上に続く
1792年　5月3日 寛政4年　3月13日 晴　今日風強し
1792年　5月4日 寛政4年　3月14日 晴　今暁丑の刻過ぎより終日大風
1792年　5月5日 寛政4年　3月15日 晴　(津軽坂村の猟師太兵衛が熊胆一つ(干目31文目5分)上納、去る5日鯵ヶ沢の大風における破船4艘水主1人水死)
1792年　5月6日 寛政4年　3月16日 晴
1792年　5月7日 寛政4年　3月17日 曇　今日時々小雨
1792年　5月8日 寛政4年　3月18日 曇　昨夜少々雨降
1792年　5月9日 寛政4年　3月19日 曇
1792年　5月10日 寛政4年　3月20日 晴　朝の内曇
1792年　5月11日 寛政4年　3月21日 快晴
1792年　5月12日 寛政4年　3月22日 快晴
1792年　5月13日 寛政4年　3月23日 晴　今日未の刻頃風強
1792年　5月14日 寛政4年　3月24日 晴　朝の内曇
1792年　5月15日 寛政4年　3月25日 快晴　(当月4日十三町で破船2艘)
1792年　5月16日 寛政4年　3月26日 晴　今日時々風強し　(傷害の3人を居村より三里追放と村払い)
1792年　5月17日 寛政4年　3月27日 晴　　下から続く　　町方夜番5分(賄い銭なし))
1792年　5月18日 寛政4年　3月28日 快晴　(日雇いを入用の節6人の日雇頭に前日に申遣わし日雇頭に口入銭3文・賃銭は盛壮で1文目(但し賄いなしの場合賄い銭4分都合1文目4分)老人等は7分(都合1文目1分)　　上に続く
1792年　5月19日 寛政4年　3月29日 快晴
1792年　5月20日 寛政4年　3月30日 快晴　(藤崎組廻関村の男藤崎村で病死)
1792年　5月21日 寛政4年　4月1日 曇　今日時々小雨　夜に入
1792年　5月22日 寛政4年　4月2日 曇　昨夜より今日迄小雨　未の刻より風立　申の刻頃より大風　所々破損　倒木多
1792年　5月23日 寛政4年　4月3日 快晴
1792年　5月24日 寛政4年　4月4日 快晴
1792年　5月25日 寛政4年　4月5日 快晴
1792年　5月26日 寛政4年　4月6日 晴　今暁丑の刻地震少
1792年　5月27日 寛政4年　4月7日 晴　頃日日々風強　申の刻より小雨　夜に入　(昨6日昼駒越組紙漉沢村で出火・火元高無村預け)
1792年　5月28日 寛政4年　4月8日 曇　昨夜より時々小雨　巳の刻過ぎ雷発　(昨日乳井貢病死)
1792年　5月29日 寛政4年　4月9日 曇　(赤石組深谷村で火災2軒・火元高無他村預け)
1792年　5月30日 寛政4年　4月10日 曇
1792年　5月31日 寛政4年　4月11日 晴　(去る朔日畏月湊付近で青森船が難船(破船よりは被害が小さいか:福眞))
1792年　6月1日 寛政4年　4月12日 晴
1792年　6月2日 寛政4年　4月13日 快晴　(駒越組紙漉沢村の火元の村預け免許・木作新田柴田村の(火元か:福眞)村預け免許・赤石組深谷村の火元の他村預け免許)
1792年　6月3日 寛政4年　4月14日 快晴
1792年　6月4日 寛政4年　4月15日 快晴
1792年　6月5日 寛政4年　4月16日 快晴　未の刻より曇　酉の刻より小雨
1792年　6月6日 寛政4年　4月17日 曇　昨夜中雨　今日終日小雨
1792年　6月7日 寛政4年　4月18日 曇　午の刻頃小雨　未の刻頃風強し　(去る13日田舎館組八反田村で出火1軒・火元御蔵百姓村預け)
1792年　6月8日 寛政4年　4月19日 晴
1792年　6月9日 寛政4年　4月20日 晴　(八反田村の火元の村預け免許)
1792年　6月10日 寛政4年　4月21日 快晴
1792年　6月11日 寛政4年　4月22日 快晴　(当月12日より18日まで附木屋(マッチ作りか:福眞)共が岩木嵩に登山・役人付き添い硫黄60俵取り出す)
1792年　6月12日 寛政4年　4月23日 曇　昨夜子の刻頃より雨　時々小雨
1792年　6月13日 寛政4年　4月24日 曇
1792年　6月14日 寛政4年　4月25日 晴
1792年　6月15日 寛政4年　4月26日 晴
1792年　6月16日 寛政4年　4月27日 晴　(当月28日屋形様江戸発駕予定)
1792年　6月17日 寛政4年　4月28日 曇
1792年　6月18日 寛政4年　4月29日 晴　朝の内曇
1792年　6月19日 寛政4年　5月1日 快晴　(人事異動)
1792年　6月20日 寛政4年　5月2日 曇　(当御発駕籠日限29日と仰せ出される)
1792年　6月21日 寛政4年　5月3日 曇　(昨2日七時過ぎ碇関町向かいの派?で出火、金木組高根村・金木村の庄屋・元庄屋等に居村より三里四方追放家財妻子に等の申し渡し)
1792年　6月22日 寛政4年　5月4日 曇
1792年　6月23日 寛政4年　5月5日 曇　卯の中刻頃小雨
1792年　6月24日 寛政4年　5月6日 曇　朝の内小雨
1792年　6月25日 寛政4年　5月7日 曇
1792年　6月26日 寛政4年　5月8日 曇　朝の内小雨
1792年　6月27日 寛政4年　5月9日 曇　巳の刻過ぎより時々雨降　(御関札打到着)
1792年　6月28日 寛政4年　5月10日 曇　巳の刻過ぎより雨　夜に及ぶ
1792年　6月29日 寛政4年　5月11日 曇　巳の刻過ぎ小雨　即刻止　(今8日夜高杉組高杉村庄屋の屋敷内の小屋が焼失)
1792年　6月30日 寛政4年　5月12日 曇　(去る2日に家焼失の碇関向派の火元の慎み御免)

1792年　7月1日 寛政4年　5月13日 曇　未の刻過ぎ小雨　則刻止
1792年　7月2日 寛政4年　5月14日 曇
1792年　7月3日 寛政4年　5月15日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今朝に及ぶ
1792年　7月4日 寛政4年　5月16日 曇　今暁丑の刻頃小雨　今日終日雨降
1792年　7月5日 寛政4年　5月17日 曇　昨夜中雨　今日終日雨降　(屋形様今日未の刻過ぎ御着城)
1792年　7月6日 寛政4年　5月18日 晴
1792年　7月7日 寛政4年　5月19日 快晴　申の刻過ぎ小雨　夜に及ぶ
1792年　7月8日 寛政4年　5月20日 晴　朝の内曇
1792年　7月9日 寛政4年　5月21日 曇
1792年　7月10日 寛政4年　5月22日 曇　卯の刻過ぎ小雨　則刻止　午の刻前より晴
1792年　7月11日 寛政4年　5月23日 曇
1792年　7月12日 寛政4年　5月24日 曇　午の刻より雨　夜に入
1792年　7月13日 寛政4年　5月25日 曇　昨夜より雨　巳の刻過ぎ止
1792年　7月14日 寛政4年　5月26日 曇
1792年　7月15日 寛政4年　5月27日 晴
1792年　7月16日 寛政4年　5月28日 晴　今日大暑
1792年　7月17日 寛政4年　5月29日 快晴　昨夜より村雨　今日大暑
1792年　7月18日 寛政4年　5月30日 曇　卯の刻より小雨　今日時々小雨　今夜亥の初刻土用に入
1792年　7月19日 寛政4年　6月1日 快晴
1792年　7月20日 寛政4年　6月2日 晴　午の刻頃小雨　則刻止
1792年　7月21日 寛政4年　6月3日 晴　昨夜時々小雨　巳の刻過ぎより小雨時々降　(牧野左次郎を手廻り四番組頭・豊嶋勘左衛門を御用人になどの人事異動・多数の御家中に褒美)
1792年　7月22日 寛政4年　6月4日 晴　頃日大暑
1792年　7月23日 寛政4年　6月5日 晴　今日大暑
1792年　7月24日 寛政4年　6月6日 曇　巳の刻前小雨
1792年　7月25日 寛政4年　6月7日 快晴　(男牢死)
1792年　7月26日 寛政4年　6月8日 曇　巳の刻より雨時々降ル
1792年　7月27日 寛政4年　6月9日 曇　昨夜中雨降　今日大雨　午の刻過ぎより晴
1792年　7月28日 寛政4年　6月10日 晴
1792年　7月29日 寛政4年　6月11日 曇　巳の刻頃雨時々降
1792年　7月30日 寛政4年　6月12日 曇　昨夜より今日終日雨
1792年　7月31日 寛政4年　6月13日 曇　昨夜より時々雨　下から続く　去る16日大坂で大火・御用商人の居宅焼失)
1792年　8月1日 寛政4年　6月14日 曇　朝の内小雨　(大鰐村加賀助・兵右衛門より初米の出穂差出す、4月2日の大風で菖蒲川村で潰れ死男1人・斃馬1疋、米を積んだ船が22艘・3万石余が移出されているらしい、　上に続く
1792年　8月2日 寛政4年　6月15日 晴
1792年　8月3日 寛政4年　6月16日 曇　卯の刻過ぎ雨　雷発ス　(横内組久栗坂村川尻に男倒死)
1792年　8月4日 寛政4年　6月17日 曇
1792年　8月5日 寛政4年　6月18日 曇　巳の刻より小雨終日降
1792年　8月6日 寛政4年　6月19日 曇　午の刻過ぎ時々小雨　(大阪の類焼商人共に材木を下し置かれている)
1792年　8月7日 寛政4年　6月20日 曇
1792年　8月8日 寛政4年　6月21日 晴
1792年　8月9日 寛政4年　6月22日 曇
1792年　8月10日 寛政4年　6月23日 晴　頃日涼方
1792年　8月11日 寛政4年　6月24日 曇
1792年　8月12日 寛政4年　6月25日 晴　残暑強し　(此の間米高値・小売米も払底・末々の者共難儀に及ぶべく候の間……)
1792年　8月13日 寛政4年　6月26日 曇　今日時々雨　午の刻風強し　(山の木を切り荒らしたとして福館・冨柳・久井名館・館野越村に切った100倍の木を植える過料を命ずる)
1792年　8月14日 寛政4年　6月27日 晴　昨今大風　(去る19日十三湊で日の丸御用船が破船)
1792年　8月15日 寛政4年　6月28日 晴
1792年　8月16日 寛政4年　6月29日 晴
1792年　8月17日 寛政4年　6月30日 晴
1792年　8月18日 寛政4年　7月1日 晴　(人事異動・鉄砲術に練達等の人事の理由も挙げている、乳井貢の倅が金5両2人扶持の御徒として帰参)
1792年　8月19日 寛政4年　7月2日 快晴　(去月28日追良瀬村前浜に男の死骸流れ寄せる、去る23日晩酒狂いで同役に傷をつけ出奔の男の人相書き:22歳・せい5尺1寸位・鼻筋通高き方など)
1792年　8月20日 寛政4年　7月3日 快晴　頃日残暑強し
1792年　8月21日 寛政4年　7月4日 快晴
1792年　8月22日 寛政4年　7月5日 快晴　(この度出来嶋沖で大坂船が破船?・7月10日の記事では26日の大風による)
1792年　8月23日 寛政4年　7月6日 晴　朝の内小雨　頃日残暑強し
1792年　8月24日 寛政4年　7月7日 快晴
1792年　8月25日 寛政4年　7月8日 晴　頃日残暑強し　(追良瀬村前浜に流れ寄せた溺死人の身元がわかる)
1792年　8月26日 寛政4年　7月9日 曇　午の刻より雨時々降　(體孝院(先代藩主信明)の1周忌を表向きの7月6日ではなく実際の6月22日に行うこととする)
1792年　8月27日 寛政4年　7月10日 晴　朝の内曇
1792年　8月28日 寛政4年　7月11日 快晴　(今日大鰐村より初米3俵差上げる・1俵は高岡・1俵は江戸表に)
1792年　8月29日 寛政4年　7月12日 快晴　頃日残暑強し　(何かの御褒美として銀3両ツツ7人に与えられている・銀の両が出てくるのは久しぶり:福眞)
1792年　8月30日 寛政4年　7月13日 曇　未の刻前より小雨
1792年　8月31日 寛政4年　7月14日 曇　昨夜より今日時々雨

1792年　9月1日 寛政4年　7月15日 曇
1792年　9月2日 寛政4年　7月16日 曇　下から続く　村預け、去る13・14日の大風で赤石組で塩霧吹上げる・被害あり)
1792年　9月3日 寛政4年　7月17日 晴　20日から続く　付き御手当金500両、去る10日昼鰺ヶ沢中村領で御家老与力の二男が酒手を求めた7人中1人を切殺す、昨夜四時頃大鰐組小金崎村で出火・火元高無　上に続く
1792年　9月4日 寛政4年　7月18日 晴　(先頃鰺ヶ沢に乞食同様の者3・4人・家に押し入り家財を盗み出すとか・見当て次第搦捕るよう申し遣わす)　下から続く　小売米なし・御蔵米50俵の拝借を申付ける)
1792年　9月5日 寛政4年　7月19日 晴　(去る15日暮六時過ぎより大間越が風で大変・町々飢渇に及び候に付き焚出しを申付ける・町々数百人の男女を救った・御蔵米2俵2斗伺いなしに使った→了解、大間越町で　上に続く
1792年　9月6日 寛政4年　7月20日 曇　辰の刻頃より雨終日降　(郡所物書き横岡伊八郎に勤料5俵を下し置かれ山方〆役に等の人事異動、多くの百姓等に御褒美、伊勢屋次郎右衛門の支配人が帰国に　7月17日に続く
1792年　9月7日 寛政4年　7月21日 曇　昨夜より雨　今日時々降
1792年　9月8日 寛政4年　7月22日 晴
1792年　9月9日 寛政4年　7月23日 晴
1792年　9月10日 寛政4年　7月24日 曇　申の刻過ぎ雷雨
1792年　9月11日 寛政4年　7月25日 曇　昨夜中より今日終日雨
1792年　9月12日 寛政4年　7月26日 曇　昨夜中雨
1792年　9月13日 寛政4年　7月27日 曇　未の刻頃より雨　夜に入
1792年　9月14日 寛政4年　7月28日 晴　昨夜中雨　(当月17日青森湊出帆の筑前船(1050石)・去月24日同地出帆の紀伊船(950石)が大風で水船になる)
1792年　9月15日 寛政4年　7月29日 曇
1792年　9月16日 寛政4年　8月1日 曇　今日雨時々降
1792年　9月17日 寛政4年　8月2日 晴　昨夜戌の刻過ぎ雷発　(百沢寺より苔の実差上げる)
1792年　9月18日 寛政4年　8月3日 晴
1792年　9月19日 寛政4年　8月4日 曇　(田畑作物が実り鹿が出て荒らす・赤石・後潟・金木組に鉄砲打ちを出す)
1792年　9月20日 寛政4年　8月5日 曇　午の刻より時々小雨
1792年　9月21日 寛政4年　8月6日 曇　(山役人警固・山役人7人?の勤方宜しからずとして格下げ)
1792年　9月22日 寛政4年　8月7日 曇　卯の刻小雨　(西の御郭で御家中射芸高覧)
1792年　9月23日 寛政4年　8月8日 晴　昨夜時々小雨
1792年　9月24日 寛政4年　8月9日 晴
1792年　9月25日 寛政4年　8月10日 晴
1792年　9月26日 寛政4年　8月11日 曇
1792年　9月27日 寛政4年　8月12日 晴　(去る9日昼八時俵元新田米田村で火災2軒・火元高無他村預け)
1792年　9月28日 寛政4年　8月13日 快晴
1792年　9月29日 寛政4年　8月14日 曇
1792年　9月30日 寛政4年　8月15日 快晴　(今日八幡宮御祭礼)
1792年　10月1日 寛政4年　8月16日 曇　申の刻過ぎ小雨
1792年　10月2日 寛政4年　8月17日 曇　昨夜より雨　今日に及ぶ　岩木山に雪見ゆる
1792年　10月3日 寛政4年　8月18日 晴　未の刻少々地震
1792年　10月4日 寛政4年　8月19日 曇　未の刻過ぎ雷雨
1792年　10月5日 寛政4年　8月20日 曇　申の刻過ぎ小雨　(外馬場で御立駒高覧)　下から続く　手当を増して仰付ける)
1792年　10月6日 寛政4年　8月21日 晴　(人事異動、大目付触:天明4年12月(28日)・寛政2年10月にも御家中の面々勝手次第在宅の上開発するよう仰付けられ・今回は一部の例外を除き録200石以下の諸士に　上に続く
1792年　10月7日 寛政4年　8月22日 快晴　(體孝院様(先代信明)御一周忌御法事に付き出牢5人・出牢の上居村徘徊御免37人・他出御免18人(深浦荘厳寺の聞笈も)・出奔中で御国徘徊御免とするもの6人　欄外(*)に続く
1792年　10月8日 寛政4年　8月23日 快晴
1792年　10月9日 寛政4年　8月24日 快晴
1792年 10月10日 寛政4年　8月25日 快晴
1792年 10月11日 寛政4年　8月26日 曇　午の刻過ぎ雷　夜に入
1792年 10月12日 寛政4年　8月27日 曇　(八幡宮神主小野若狭等が最勝院?などと揉めている・140ページくらいにわたる)
1792年 10月13日 寛政4年　8月28日 快晴　(高岡に鮭2尺相納)
1792年 10月14日 寛政4年　8月29日 曇　今日終日雨　雷辰の刻発　(膃肭臍(おっとせい)21本を1本に付き13文目5分で松前旅人より買う)
1792年 10月15日 寛政4年　8月30日 曇　下から続く　足軽共一統が申し合わせ組警固の長屋に押し入り家財を取壊す・足軽警固と狼藉を働いた者共に残らず御暇を下し置かれる・関係者に御奉公遠慮)
1792年 10月16日 寛政4年　9月1日 曇　昨夜より今日まで時々雨　(江戸で分限不相応の借金で返済が滞った御家中(御馬廻格)を給分半減御目見以下に・関係者5人は御奉公遠慮、当5月13日夜江戸の3番・4番　上に続く
1792年 10月17日 寛政4年　9月2日 曇　昨夜より風雨時々　卯の刻雷発
1792年 10月18日 寛政4年　9月3日 晴
1792年 10月19日 寛政4年　9月4日 快晴　戌の刻頃折々地震　(当月11日小泊村の漁師が沖合いで帆柱拾う・半年囲い置いて持ち主がなければ申し出るよう申付ける)
1792年 10月20日 寛政4年　9月5日 晴
1792年 10月21日 寛政4年　9月6日 曇　昨夜申の刻過ぎより雨
1792年 10月22日 寛政4年　9月7日 晴　昨夜雨時々降
1792年 10月23日 寛政4年　9月8日 快晴　今朝霜強し　(8月中日々附相場平均値段:金1両が91文目5分5厘)
1792年 10月24日 寛政4年　9月9日 曇　今暁より雨時々降　(御目付当番通用:御家中の在宅開発の指示らしい)
1792年 10月25日 寛政4年　9月10日 曇
1792年 10月26日 寛政4年　9月11日 晴
1792年 10月27日 寛政4年　9月12日 晴　昨夜中折々雨　雷発
1792年 10月28日 寛政4年　9月13日 曇　辰の刻より雪時々降　今朝初雪
1792年 10月29日 寛政4年　9月14日 晴　午の刻より時々雨　夜に入　(小沢野で大組・御持筒の野稽古高覧、昨12日夜鰺ヶ沢で大風・御仮屋屋根所々吹き剥げる、去る10日夜乳井村で火災・火元村預け)
1792年 10月30日 寛政4年　9月15日 曇　午の刻過ぎより雨時々
1792年 10月31日 寛政4年　9月16日 曇　昨夜中風雨強　今日時々風雨
(*)・その他居村徘徊御免(追放だったのでしょうな:福眞)多数)

1792年　11月1日 寛政4年　　9月17日 晴　(小沢野で諸手足軽の野稽古高覧)
1792年　11月2日 寛政4年　　9月18日 快晴　(青森常光寺境内で出家が縊死・16日夜見分、青森安定寺の杉畑に廓屋の抱子変死)
1792年　11月3日 寛政4年　　9月19日 快晴
1792年　11月4日 寛政4年　　9月20日 快晴
1792年　11月5日 寛政4年　　9月21日 快晴　(去る19日高杉組大森村で出火・火元高無村預け)
1792年　11月6日 寛政4年　　9月22日 快晴　(今朝五つ時茂森町の日雇が居宅で縊死)
1792年　11月7日 寛政4年　　9月23日 快晴　(不埒の勤め方の御目見の御家中4人を御目見以下に)
1792年　11月8日 寛政4年　　9月24日 晴　(当3月に帆柱を拾い上げた赤石組沢部村の男にその帆柱を下し置かれる)
1792年　11月9日 寛政4年　　9月25日 曇　未の刻より小雨　(昨23日夜御郭内で狐鳴く)
1792年 11月10日 寛政4年　　9月26日 曇　昨夜中時々風雨　今日終日雨
1792年 11月11日 寛政4年　　9月27日 曇　昨夜中より今日風立
1792年 11月12日 寛政4年　　9月28日 曇　昨夜雨少し降　(今25日夜八時頃より油川・後潟・浦町組で東風強く川々洪水、盗み杣?の男の人相書き:年33歳年齢相応・せい5尺3寸位等)
1792年 11月13日 寛政4年　　9月29日 晴　(外馬場で御家中の馬術高覧)
1792年 11月14日 寛政4年　　10月1日 晴　今暁寅の刻より小雨　(去る26日横内組金濱村で家が吹き潰れ雑駄1疋が下になり斃)
1792年 11月15日 寛政4年　　10月2日 晴　(外馬場で御家中の馬術高覧)
1792年 11月16日 寛政4年　　10月3日 曇　昨夜より風雨
1792年 11月17日 寛政4年　　10月4日 晴　(外馬場で馬術高覧、去月26日横内組荒川が洪水・高田村で刈稲流失)
1792年 11月18日 寛政4年　　10月5日 晴　(地方在宅の御家中に頭方より差し出し候御用状は郡所に差出すよう……判らん:福眞)
1792年 11月19日 寛政4年　　10月6日 晴
1792年 11月20日 寛政4年　　10月7日 快晴　今暁寅の刻過ぎ地震　(御目付触:この度(地方)在宅の族は居宅取り壊しの上先々に引越すよう仰せ付け)
1792年 11月21日 寛政4年　　10月8日 快晴
1792年 11月22日 寛政4年　　10月9日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今朝に及び雪降　時々降
1792年 11月23日 寛政4年　　10月10日 晴　(人事異動)
1792年 11月24日 寛政4年　　10月11日 快晴　(去月26日宇鉄沖で澗懸中の松前船が磯に打ち上げ水主が水死)
1792年 11月25日 寛政4年　　10月12日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今日時々小雨
1792年 11月26日 寛政4年　　10月13日 曇　昨夜中大雪吹　今朝雪降　(初雪に付き御機嫌伺い、粒油不作で油値段1升に付き7文目に変更願・6文目に商売するよう申付ける)
1792年 11月27日 寛政4年　　10月14日　　(日記の保存なし)
1792年 11月28日 寛政4年　　10月15日 曇　(去月26日後潟組中沢村前浜で江戸の船が破船・水主1人水死、同日に似たところで2艘が痛(破船より被害が小さいのか:福眞))
1792年 11月29日 寛政4年　　10月16日 曇　巳の刻前より霙
1792年 11月30日 寛政4年　　10月17日 晴　昨夜雪少し降
1792年　12月1日 寛政4年　　10月18日 曇　今日時々小雨　(去る8日夜大光寺組田中村で出火・稲草雑穀とも焼失・御差引5石6斗2升高進?銀3文目9分に申付ける)
1792年　12月2日 寛政4年　　10月19日 曇　朝の内雪降
1792年　12月3日 寛政4年　　10月20日 曇　昨夜より今日時々雨
1792年　12月4日 寛政4年　　10月21日 曇　昨夜時々小雨　今日時々小雨
1792年　12月5日 寛政4年　　10月22日 晴　(一昨夜六時過ぎ革秀寺門前で出火・火元慎)
1792年　12月6日 寛政4年　　10月23日 晴　　下から続く　　共焼失)
1792年　12月7日 寛政4年　　10月24日 晴　今日午の刻過ぎより時々降　夜に入　(馬喰町の牢屋番14軒に12月より3月まで1ヶ月に御米8升の御手当てを下し置かれる、去る18日油川組津軽坂村で出火・馬稲草雑穀　　上に続く
1792年　12月8日 寛政4年　　10月25日 曇　昨夜より今日終日雨
1792年　12月9日 寛政4年　　10月26日 曇　昨夜中風立　今日終日吹雪　(今日御家中の剣術並びに和術高覧、一昨24日夜大鰐組長峰村で子が親を打殺す・殺人者入牢)　　下から続く　　くな尻に45人乗りの船で送ってきた由)
1792年 12月10日 寛政4年　　10月27日 曇　昨夜より今日降雪　(蝦夷地に異国船漂着の由・当月3日頃松前に届いた報で紀州の11人乗り船が赤人島に漂着・6人はその嶋で死亡2人は大病で嶋に残置・3人を松前蝦夷地　　上に続く
1792年 12月11日 寛政4年　　10月28日 曇
1792年 12月12日 寛政4年　　10月29日 曇　(今日剣術高覧)
1792年 12月13日 寛政4年　　10月30日 曇
1792年 12月14日 寛政4年　　11月1日 晴
1792年 12月15日 寛政4年　　11月2日 曇　寅の刻より今日雨時々降
1792年 12月16日 寛政4年　　11月3日 曇　昨夜時々雨　今日巳の刻過ぎ迄降　午の刻より雪降
1792年 12月17日 寛政4年　　11月4日 曇　昨夜より時々雪降　(去月9日四時頃木作新田新屋敷村で出火・類焼もある)
1792年 12月18日 寛政4年　　11月5日 曇　昨夜より今日まで時々雪降
1792年 12月19日 寛政4年　　11月6日 曇　今暁寅の刻過ぎ小雨　(村送り中の箱館出生の30歳位の女が浪岡組杉沢村で病死)
1792年 12月20日 寛政4年　　11月7日 曇　今暁雨　寅の刻過ぎより風　巳の刻より止ム　(酒1升の値段を1文目5分に申し立てる・1升を1文目4分に申付ける)
1792年 12月21日 寛政4年　　11月8日 曇　今日時々雪降
1792年 12月22日 寛政4年　　11月9日 晴　昨夜より雪　今朝に及ぶ　(今日御家中の剣術高覧)
1792年 12月23日 寛政4年　　11月10日 曇　申の刻より雨降　夜ニ入る　　下から続く　　江戸に連れて行きたいとのこと)
1792年 12月24日 寛政4年　　11月11日 曇　昨夜風立　今日終日雪吹　(松前蝦夷地くな尻において赤人40人余が13年前に同国に漂泊した紀州船の3人(元来20人斗の内多くが死亡し5人になり2人は同国に残留)を　　上に続く
1792年 12月25日 寛政4年　　11月12日 曇　昨夜より今日終日雪
1792年 12月26日 寛政4年　　11月13日 曇　　下から続く　　六右衛門様(上意で将監様と改名)村上大学様を派遣するとのこと・物頭二組充て用意しておけとの指示あり)
1792年 12月27日 寛政4年　　11月14日 曇　(黒石藩の御知行米4300石の津出願、米1俵値段21文目8分(当月朔日より15日までの相場平均)、この度ヲロシヤ人が伊勢国の漂流人を送りに蝦夷地に着岸・御目付石川　　上に続く
1792年 12月28日 寛政4年　　11月15日 曇　昨夜より今日時々雪　(今日波の間で御慰めの御能)
1792年 12月29日 寛政4年　　11月16日 曇　今日時々雪降
1792年 12月30日 寛政4年　　11月17日 曇　(明日高岡に初鱈2尺献上する、大鰐組虹貝村の3月に行方不明の女房が川で死亡して見つかる)
1792年 12月31日 寛政4年　　11月18日 曇　今日終日雪　(去る15日常盤組十川村で出火・火元百姓村預け)

1793年　1月1日 寛政4年　11月19日 曇 昨夜より雪　今朝に及ぶ
1793年　1月2日 寛政4年　11月20日 晴
1793年　1月3日 寛政4年　11月21日 晴 朝の内雪降
1793年　1月4日 寛政4年　11月22日 晴 (米入札1俵値段(沖役入り):弘前29文目3分・青森33文目5厘・鰺ヶ沢29文目8分3厘3毛・3ヶ所平均30目7分2厘7毛6…切上7分3厘・1文目2分御定役で平米29匁5分3厘・金1両87文目)
1793年　1月5日 寛政4年　11月23日 曇 辰の三刻寒に入　今日終日雪
1793年　1月6日 寛政4年　11月24日 晴 昨夜雪少々　今朝に及ぶ
1793年　1月7日 寛政4年　11月25日 曇 昨夜より今日終日雪　　下から続く　　以下御留守意支配に・それ以外の関係者も相応の処分)
1793年　1月8日 寛政4年　11月26日 晴 昨夜少々雪 (去年東長町御倉の御米を売り払い私曲した御蔵立会い(御手廻組)の身上召上げ永の御暇・その際の御蔵奉行(御馬廻組)の知行召上げ5人扶持で御目見　　上に続く
1793年　1月9日 寛政4年　11月27日 曇
1793年　1月10日 寛政4年　11月28日 曇 昨夜より今日時々降
1793年　1月11日 寛政4年　11月29日 曇 昨夜より今日時々雪
1793年　1月12日 寛政4年　12月1日 曇 昨夜より今日雪吹　寒気強
1793年　1月13日 寛政4年　12月2日 曇 昨夜より今日終日雪吹　寒気強
1793年　1月14日 寛政4年　12月3日 曇 昨夜中雪吹　今日時々雪 (去月25日浅虫村の4人が鱈漁で死亡・船は平内領に流れ寄せる)
1793年　1月15日 寛政4年　12月4日 曇 昨夜雪少々　今日未の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止　　下から続く　　引合7日早く節に引合12日遅い)
1793年　1月16日 寛政4年　12月5日 曇 昨夜より今日終日雪吹 (去月25日朝四時より翌26日昼九時まで十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は12月3日暮六時より翌4日朝六時までに氷張る・今年は日数に　　上に続く
1793年　1月17日 寛政4年　12月6日 曇 申の刻頃より曇 (この頃早飛脚が送れて罰を受ける例が多い)
1793年　1月18日 寛政4年　12月7日 曇 昨夜より雪少々　今日時々雪
1793年　1月19日 寛政4年　12月8日 曇 昨夜より今日終日雪
1793年　1月20日 寛政4年　12月9日 曇 昨夜より今日時々雪
1793年　1月21日 寛政4年　12月10日 曇 昨夜より今日時々雪 (山田剛太郎・都谷森甚之丞の2人に幕府御目付石川将監・村上大学の指図次第勤めるよう申付ける)
1793年　1月22日 寛政4年　12月11日 曇 昨夜より今日終日雪 (人事異動)
1793年　1月23日 寛政4年　12月12日 曇 昨夜より今日終日雪降
1793年　1月24日 寛政4年　12月13日 晴
1793年　1月25日 寛政4年　12月14日 曇 昨夜少々雪降　今日午の刻過ぎ雨
1793年　1月26日 寛政4年　12月15日 曇 今日終日雨
1793年　1月27日 寛政4年　12月16日 曇 昨夜時々雨　今日時霙降 (盗み杣の2人に出牢の上木の没収・類似の盗みにも家財を妻子になど10人くらい、役筋忘却の足軽目付の御給分召し放ち永の御暇)
1793年　1月28日 寛政4年　12月17日 曇 申の刻頃より雨　夜に入　　下から続く　　彦兵衛を書院番頭御用人兼1700石など))
1793年　1月29日 寛政4年　12月18日 曇 昨夜より今日時々雨　申の刻頃より雪 (ヲロシヤ人の件に付き松前様より御米3000俵御無心、松前の使者への弘前藩の対応者は役・録とも倍くらいに水増し(例:山田　　上に続く
1793年　1月30日 寛政4年　12月19日 曇 昨夜より今日まで終日雪
1793年　1月31日 寛政4年　12月20日 曇 昨夜中雪 (御用人工藤伝兵衛病死)
1793年　2月1日 寛政4年　12月21日 曇 昨夜少々雪降　申の刻過ぎより雨
1793年　2月2日 寛政4年　12月22日 曇 昨夜戌の刻頃雷電雨 (いろいろ褒めて銀5両などを与えている、郡奉行・勘定奉行申し出候・近年熊取の儀不足に付き胆皮払底)
1793年　2月3日 寛政4年　12月23日 曇 昨夜雪少々　子の刻頃風強
1793年　2月4日 寛政4年　12月24日 曇 昨夜より今日時々雪
1793年　2月5日 寛政4年　12月25日 曇
1793年　2月6日 寛政4年　12月26日 曇 昨夜より時々雪降
1793年　2月7日 寛政4年　12月27日 曇
1793年　2月8日 寛政4年　12月28日 曇 昨夜少々雪　今日時々雪　未の刻過ぎ地震強シ　酉の刻過ぎ迄時々地震 (喜多村監物に200石加増等の人事異動)
1793年　2月9日 寛政4年　12月29日 曇 昨夜中時々地震　今日未の刻過ぎ地震 (去る25日公儀御役人最上徳内・小林源之助が野内御関所を通る、度々地震致し候に付き五山並びに四社その他で重き御祈祷を仰せ付ける)
1793年　2月10日 寛政4年　12月30日 曇 昨夜時々地震 (28日の大地震で鰺ヶ沢に潰れ家等の被害・赤石組にも津波被害
1793年　2月11日 寛政5年 正月1日　晴 卯の中刻地震　今日時々地震 (旧臘26・7日投げ火あり、旧臘28日昼八時頃深浦に大地震で御仮屋の敷居・鴨居が抜け落ちる・潰れ家多数・怪我人7・8人・潰れ家焼失3軒)
1793年　2月12日 寛政5年 正月2日　曇 巳の刻より雪　昨夜中より今日時々地震　余寒強し
1793年　2月13日 寛政5年 正月3日　曇 昨夜より雪降　地震時々　今日終日雪降　余寒強し (今晩御謡い初、御吉例金300両差上げる)
1793年　2月14日 寛政5年 正月4日　曇 昨夜より今日時々雪降 (例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる・波の間に披露)
1793年　2月15日 寛政5年 正月5日　曇 昨夜少々雪降　今日終日雪降　未の刻過ぎ地震 (旧臘28日の地震で木作村で潰れ家2軒半潰れ家1軒その他は後で、去月30日の夕藤崎組で百姓家出火)
1793年　2月16日 寛政5年 正月6日　曇 昨夜より今日まで時々雪降
1793年　2月17日 寛政5年 正月7日　曇 昨夜より今日時々雪　未の刻地震強し　酉の刻頃まで時々地震
1793年　2月18日 寛政5年 正月8日　曇 昨夜少々雪　今暁寅の刻過ぎ地震　今日酉の刻地震
1793年　2月19日 寛政5年 正月9日　晴 昨夜時々地震　今日酉の刻頃地震
1793年　2月20日 寛政5年 正月10日　晴 昨夜亥の刻地震　今日朝辰の刻頃地震 (旧冬28日の地震で鰺ヶ沢御蔵に津波・1700余俵中大濡れ米196俵・半濡れ米208俵・少々濡れ米41俵)
1793年　2月21日 寛政5年 正月11日　曇 昨夜丑の刻頃地震余程強し　今日午の刻頃地震 (人事異動、去る16日江戸で青森の絵図を認め差出すよう指示されている)
1793年　2月22日 寛政5年 正月12日　曇 昨夜中雨　今日風立　申の刻頃地震
1793年　2月23日 寛政5年 正月13日　曇 今日時々雪少し降
1793年　2月24日 寛政5年 正月14日　曇 昨夜雪降　今日辰の刻過ぎ雪降
1793年　2月25日 寛政5年 正月15日　晴 今日朝の内曇 (旧臘28日の地震津波による濡れ米480俵(鰺ヶ沢145・深浦110・赤石組225))
1793年　2月26日 寛政5年 正月16日　曇 今暁寅の刻頃より霰降　今朝辰の刻頃雷　今日終日吹雪
1793年　2月27日 寛政5年 正月17日　曇 昨夜中吹雪　今日終日吹雪
1793年　2月28日 寛政5年 正月18日　曇 昨夜少々雪　今日風立　時々雪

1793年　3月1日 寛政5年 正月19日　晴　昨夜戌の刻頃まで雪吹　今日朝の内少々雪降
1793年　3月2日 寛政5年 正月20日　晴　今日申の刻頃より少々雪降
1793年　3月3日 寛政5年 正月21日　曇　昨夜少々雪　今日時々雪
1793年　3月4日 寛政5年 正月22日　曇
1793年　3月5日 寛政5年 正月23日　曇　昨夜戌の刻過ぎより時々雨降　今日時々霰降
1793年　3月6日 寛政5年 正月24日　曇　昨夜亥の刻頃地震少々　霰降　今日雪終日降
1793年　3月7日 寛政5年 正月25日　晴
1793年　3月8日 寛政5年 正月26日　曇　今日辰の刻頃より雨降　夜に入　(去る酉年(寛政元年)に仰せ出された囲い米4万6千石分の230石(1万石に付き50石)の籾を囲い置いているとの報告あり)
1793年　3月9日 寛政5年 正月27日　曇　昨夜中雨降　今日に至
1793年　3月10日 寛政5年 正月28日　晴　(人事異動)　下から続く　社家痛損1軒・代官所等の役所9軒痛損・御蔵13ヶ所・炭釜14枚・漁船22艘・潰死流死12人(男7女5)・馬10疋(斃5痛5)・被害は村別に示されている:福眞)
1793年　3月11日 寛政5年 正月29日　曇　今暁霜降　下から続く　痛土蔵101・大痛土蔵3・半潰土蔵1・焼失土蔵2・大痛郷蔵1・半潰郷蔵1・小見世落8軒・街道欠崩1ヶ所・山崩れ3ヶ所・橋3ヶ所・寺2軒　上に続く
1793年　3月12日 寛政5年　2月1日 晴　昨夜雪少し降　辰の刻過ぎ迄降　(人事異動、寛政4年12月28日未の刻地震による全被害:痛家154軒・半潰261軒・大痛家43軒・痛家175軒・焼失家17軒・潰土蔵8・　上に続く
1793年　3月13日 寛政5年　2月2日 曇　(旧臘28日の地震で赤石組松原村に山崩れ所々に水湛・去月12日に押し破り洪水・沢の奥にさらに水湛があり村人は野山の小屋に住み村から離れている)
1793年　3月14日 寛政5年　2月3日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(炭俵は正味4貫目3斗2升入り・代銭1俵に付き近山の場合は1文目8分、江戸より早飛脚の諸手足軽が遅滞の上病気で相役1人を帰らせ永のお暇を下し置かれる)
1793年　3月15日 寛政5年　2月4日 晴
1793年　3月16日 寛政5年　2月5日 曇　(石川将監・村上大学が22日(1月)に江戸出発)
1793年　3月17日 寛政5年　2月6日 曇　昨夜戌の刻雨降　(去月27日夜大光寺組館山村で出火)
1793年　3月18日 寛政5年　2月7日 曇　朝の内雨　申の刻頃より雪　風立
1793年　3月19日 寛政5年　2月8日 曇
1793年　3月20日 寛政5年　2月9日 晴　昨夜霰降
1793年　3月21日 寛政5年　2月10日 晴　今暁霜降
1793年　3月22日 寛政5年　2月11日 曇　今暁霜
1793年　3月23日 寛政5年　2月12日 曇　今日時々雨降
1793年　3月24日 寛政5年　2月13日 曇　(御発駕御日限来月11日と仰せ出される、これまでは参勤・交代とも18日振りで行動していたが参府の節は雪解け出水が多く19日振りに計画するのかな:福眞)
1793年　3月25日 寛政5年　2月14日 曇　今朝霜　(追良瀬川の旧臘28日の地震による水湛に警戒している)
1793年　3月26日 寛政5年　2月15日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨　(去る7日讃岐高松の男が後潟組蓬田村で病死)
1793年　3月27日 寛政5年　2月16日 曇　今暁霜
1793年　3月28日 寛政5年　2月17日 曇　昨夜より今日時々雪降
1793年　3月29日 寛政5年　2月18日 曇　昨夜雪少し降　今朝に及ぶ　(13日迄に十三潟が残らず潟明け・船通路相成る)
1793年　3月30日 寛政5年　2月19日 曇　昨夜霰　今日時々雪　(大鰐組居土村の猟師孫十郎が旧臘より登山し当月までに熊3疋狩取る・御褒美として鳥目3貫文下し置かれる)
1793年　3月31日 寛政5年　2月20日 曇
1793年　4月1日 寛政5年　2月21日 曇　朝の内雨降　(この度御徒の補充の条件として:御目見以上以下御留守居支配より骨柄見分の上……・これまで5尺3寸以上だったがこれ以後は5尺1寸5歩以上とする)
1793年　4月2日 寛政5年　2月22日 曇
1793年　4月3日 寛政5年　2月23日 曇　今朝霜　(去る18日夜金木組金木村で出火・火元村預け)
1793年　4月4日 寛政5年　2月24日 曇
1793年　4月5日 寛政5年　2月25日 曇　昨夜より今日終日雨　申の刻過ぎより風強　戌の刻過ぎ止　(去る20日夜赤石組広戸村で出火・類焼とも22軒馬2疋丸木舟等焼失・火元高無他村預け)
1793年　4月6日 寛政5年　2月26日 曇
1793年　4月7日 寛政5年　2月27日 曇　今日終日雨　夜に入　(去る20日赤石組広戸村の火災の被害で馬4疋丸木舟1艘が見分落ち)
1793年　4月8日 寛政5年　2月28日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1793年　4月9日 寛政5年　2月29日 曇　今日時々霰降　(去る26日広田組真黒屋敷村で出火・馬屋焼失・火元戸〆)
1793年　4月10日 寛政5年　2月30日 曇　昨夜中より霰　今朝に及ぶ
1793年　4月11日 寛政5年　3月1日 曇　巳の刻過ぎ雨　(人事異動、四歩一引御用捨などの用語あり)
1793年　4月12日 寛政5年　3月2日 晴　今暁霜降　今日申刻東南方ニ雷如ク音強し
1793年　4月13日 寛政5年　3月3日 曇　今朝霜降　(人事異動)
1793年　4月14日 寛政5年　3月4日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨　今朝に及ぶ　午の刻過ぎ止
1793年　4月15日 寛政5年　3月5日 曇
1793年　4月16日 寛政5年　3月6日 晴　(外馬場で御馬高覧)
1793年　4月17日 寛政5年　3月7日 晴　酉の刻頃地震　(別段御用36人(御手廻15・御馬廻21)人に御褒美金200疋宛)
1793年　4月18日 寛政5年　3月8日 曇　寅の刻頃地震　申の刻頃少し雨　(今日三之丸御物見で松前派遣の物頭御人数高覧)
1793年　4月19日 寛政5年　3月9日 曇　(人事異動(御徒を御目見以下などから仰せ付けている))
1793年　4月20日 寛政5年　3月10日 晴　(松前派遣軍の首脳者に御目見、(先月27日記載の)赤石組広戸村の火災の被災者22軒中19軒に御手当て御米1俵宛・他の3軒は飯料焼失なしに付き下し置かれず、昨夜御持鑓が縊死)
1793年　4月21日 寛政5年　3月11日 曇　午の刻頃より雨　(四時御馬上にて御発駕)
1793年　4月22日 寛政5年　3月12日 曇　酉刻頃風立　寅ノ刻迄強し
1793年　4月23日 寛政5年　3月13日 晴　辰の刻過ぎ東北之方ニ鳴物有
1793年　4月24日 寛政5年　3月14日 曇
1793年　4月25日 寛政5年　3月15日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　今日午の刻止
1793年　4月26日 寛政5年　3月16日 曇　昨夜時々雨　今日時々雨
1793年　4月27日 寛政5年　3月17日 晴　子の刻過ぎ地震少し　(土渕川の八つ目取の火の元に注意)
1793年　4月28日 寛政5年　3月18日 晴　(御家中の親が縊死、御目付触れ:囲碁は良いが賭け碁はしないように)
1793年　4月29日 寛政5年　3月19日 晴　(去る14日十腰内観音境内に野火入る)
1793年　4月30日 寛政5年　3月20日 晴

1793年　5月1日 寛政5年　3月21日 曇　卯の刻より午の刻迄雨降
1793年　5月2日 寛政5年　3月22日 晴　(去当月にて熊3疋狩取の尾崎組小国村の勘兵衛に3貫文下し置かれる)
1793年　5月3日 寛政5年　3月23日 晴　(青森御蔵米が満杯・町御蔵御借り上げ・豊作を示しているのか:福眞)
1793年　5月4日 寛政5年　3月24日 曇　未の刻より雨降　夜に及ぶ　(当月15日夜平館湊方面で東風・海上より木が流れ寄せる・無刻印の木が多く預け置く)
1793年　5月5日 寛政5年　3月25日 曇　今日終日雨
1793年　5月6日 寛政5年　3月26日 曇　昨夜戌の刻頃雨　今日時々雨
1793年　5月7日 寛政5年　3月27日 曇　昨夜戌の刻過ぎ迄雨
1793年　5月8日 寛政5年　3月28日 曇　朝の内小雨
1793年　5月9日 寛政5年　3月29日 晴　(去る7日江戸で余程強い地震)
1793年　5月10日 寛政5年　4月1日 曇　未の刻過ぎより雷　申の刻過ぎより雨電　(今朝松前への御人数発向)
1793年　5月11日 寛政5年　4月2日 曇　昨夜時々雷強し　寅の刻過ぎ風強し　(頃日報恩寺境内に花見の者が大勢入り込む・加えきせるを規制しているのかな:福眞)
1793年　5月12日 寛政5年　4月3日 曇
1793年　5月13日 寛政5年　4月4日 曇
1793年　5月14日 寛政5年　4月5日 曇　昨夜より今日未の刻まて雨降
1793年　5月15日 寛政5年　4月6日 曇　巳の刻過ぎより未の刻頃まて雨降
1793年　5月16日 寛政5年　4月7日 曇　昨夜より今日まて雷雨　丑の刻ころ地震　(新寺町の後家が縊死)
1793年　5月17日 寛政5年　4月8日 曇　午の刻過ぎ雨降
1793年　5月18日 寛政5年　4月9日 曇　戌の刻過ぎ雨降
1793年　5月19日 寛政5年　4月10日 曇　申の刻過ぎ雨少し降
1793年　5月20日 寛政5年　4月11日 曇　昨夜酉の刻過ぎより戌の刻過ぎまて雨降　(天気不正に付き丹波者入り込みを詮議)
1793年　5月21日 寛政5年　4月12日 晴　(去る朔日屋形様着府、御目付石川将監様・村上大学様が2月18日青森御着・同23日三馬屋御着・去月2日松前へ御出船)
1793年　5月22日 寛政5年　4月13日 曇　今日終日雨　(石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる)
1793年　5月23日 寛政5年　4月14日 曇　(去る11日夜和徳町で出火・火元の外に類焼2軒半焼1軒潰家2軒・火元菩提寺入寺屹度慎み)
1793年　5月24日 寛政5年　4月15日 晴　(去る12日松前への御人数出帆)
1793年　5月25日 寛政5年　4月16日 晴
1793年　5月26日 寛政5年　4月17日 曇　未の刻より時々雨
1793年　5月27日 寛政5年　4月18日 晴　昨夜時々雨　(天気不勝に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止)
1793年　5月28日 寛政5年　4月19日 曇　未の刻過ぎ少々雨降
1793年　5月29日 寛政5年　4月20日 晴　(14日赤石組黒埼村で出火・類焼とも2軒・火元高無他村預け)
1793年　5月30日 寛政5年　4月21日 曇　今日時々雨降　(去る11日出火の和徳町の火元の慎み免許)
1793年　5月31日 寛政5年　4月22日 曇
1793年　6月1日 寛政5年　4月23日 曇
1793年　6月2日 寛政5年　4月24日 曇　昨夜より今日終日雨降
1793年　6月3日 寛政5年　4月25日 曇　昨夜より今日終日雨降　(昨23日夜桶屋町で小見せ少々焼く・早速取り消す)
1793年　6月4日 寛政5年　4月26日 曇
1793年　6月5日 寛政5年　4月27日 晴　今朝霜強し
1793年　6月6日 寛政5年　4月28日 晴　(炭1俵(4貫目3斗2升入り)に付き1文目7分5厘)
1793年　6月7日 寛政5年　4月29日 曇　巳の刻より時々雨　(去る子年(去年のこと:福眞)10月蟹田出帆の5人乗り船が南部平滝領に船柄流れ寄せる・乗員行方不明)
1793年　6月8日 寛政5年　4月30日 曇　昨夜時々雨降　丑の刻地震　(古懸不動尊御出汗)
1793年　6月9日 寛政5年　5月1日 曇　今日申の刻頃より小雨　夜に入(5月朔日の1・2ページ目は2枚存在する、一方は書き損じかもしれない、一方には「夜に入」はない)
1793年　6月10日 寛政5年　5月2日 晴　昨夜戌の刻過ぎ迄小雨降　今日申の刻過ぎ少々雨降　(去月24日蟹田川出水・仮橋押し流す)
1793年　6月11日 寛政5年　5月3日 晴
1793年　6月12日 寛政5年　5月4日 曇　今朝卯の刻頃より午の刻頃まで雨降
1793年　6月13日 寛政5年　5月5日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　今朝至り　終日雨降
1793年　6月14日 寛政5年　5月6日 曇　今日未の刻過ぎより申の刻過ぎまで雨降
1793年　6月15日 寛政5年　5月7日 曇　(去る3日金木組脇元村で火災・30軒焼失・火元他村預け)
1793年　6月16日 寛政5年　5月8日 晴　今日未の刻頃より曇　申の刻頃まで雷雨降
1793年　6月17日 寛政5年　5月9日 曇
1793年　6月18日 寛政5年　5月10日 曇　今日未の刻頃雷　(津軽坂村猟師太兵衛が狩取った熊胆2つ(干し目10文目4分と3文目8分)差上げる)
1793年　6月19日 寛政5年　5月11日 晴　(公儀御目付様の海辺御見分に赤石組代官所の手代が足りない・深浦村庄屋を名字帯刀御免として仮手代とする)
1793年　6月20日 寛政5年　5月12日 曇　(去る9日浦町組浦町村に火災・火元高無村預け)
1793年　6月21日 寛政5年　5月13日 曇　今暁寅の刻より雨　巳の刻過ぎまて雨降　申の刻より雨　夜に入
1793年　6月22日 寛政5年　5月14日 曇　昨夜より今日午の刻頃迄雨降　(泉州境に鉄砲を注文している)
1793年　6月23日 寛政5年　5月15日 晴　(一粒金丹有り合わせがなく三剤早速調合方仰せ付けられる、碇ヶ関山の木は近年伐り尽す)
1793年　6月24日 寛政5年　5月16日 晴　今日申の刻頃より曇
1793年　6月25日 寛政5年　5月17日 曇　午の刻過ぎより時々雨降　(五山並びに両社に五穀成就風雨随時の御祈祷を仰せ付ける、横内組浅虫に狼出る・鉄砲の拝借は断る・威鉄砲を申付ける)
1793年　6月26日 寛政5年　5月18日 曇　昨夜酉の刻過ぎ雨　今日時々雨降　申の刻過ぎ東の方に虹見ゆる　(十三湊で馬が落ち水死、当2月13日蟹田湊支配中師村の3人乗り船が松前に出帆・行方不明)
1793年　6月27日 寛政5年　5月19日 曇
1793年　6月28日 寛政5年　5月20日 曇　今朝卯の刻頃より巳の刻過ぎ迄時々雨降
1793年　6月29日 寛政5年　5月21日 曇
1793年　6月30日 寛政5年　5月22日 晴

1793年　7月1日 寛政5年　5月23日 曇
1793年　7月2日 寛政5年　5月24日 なし(日記はあるが天気の記述なし)
1793年　7月3日 寛政5年　5月25日 曇 (当月3日の金木組脇本村の火災に関する御手当て願いを代官が申し立てる・断られる)
1793年　7月4日 寛政5年　5月26日 晴
1793年　7月5日 寛政5年　5月27日 曇 今日午の刻過ぎ少々雨降
1793年　7月6日 寛政5年　5月28日 曇 今日午の刻過ぎより時々雨降
1793年　7月7日 寛政5年　5月29日 曇 昨夜中雨　今暁寅の刻頃強雨　今日時々雨降
1793年　7月8日 寛政5年　6月1日 晴
1793年　7月9日 寛政5年　6月2日 曇 昨夜戌の刻過ぎより雨降　時々雷　今暁子の刻過ぎ雨強　今朝卯の刻頃より辰の刻過ぎ迄時々雷　巳の刻過ぎ少々雨　午の刻頃より晴
1793年　7月10日 寛政5年　6月3日 晴 朝の内曇　未の刻過ぎ雷雨 (四季の間で御鍬初め)
1793年　7月11日 寛政5年　6月4日 曇 今日時々雨降
1793年　7月12日 寛政5年　6月5日 晴 今日午の刻頃より曇　未の刻頃より雷雨降　申の刻過ぎ止 (親方町の男が他人の女房に手傷を負わせる・一間所に入れられる)
1793年　7月13日 寛政5年　6月6日 曇 昨夜中雷　今日時々雨降
1793年　7月14日 寛政5年　6月7日 晴 朝の内曇　辰の刻頃小雨 (諸組の勘定(納税:福眞)が近年遅滞の傾向がある・早くするよう手当てしている)
1793年　7月15日 寛政5年　6月8日 晴
1793年　7月16日 寛政5年　6月9日 曇 今日申の刻頃より小雨
1793年　7月17日 寛政5年　6月10日 曇 昨夜戌の刻過ぎ迄小雨降　朝卯の刻頃より午の刻過ぎ迄時々雨 (5月5日油川組十三森村で伊予の百姓病死)
1793年　7月18日 寛政5年　6月11日 晴 今日申の刻頃より曇　酉の刻頃より雨降　夜に入
1793年　7月19日 寛政5年　6月12日 曇 今暁丑八刻土用入　昨夜中雷雨　今暁寅の刻雷雨強し　今日時々雷雨
1793年　7月20日 寛政5年　6月13日 曇 今日時々雷雨 (昨12日の大鰐組の洪水で碇ヶ関街道の橋流失・早速見分懸渡しを仰せ付ける)
1793年　7月21日 寛政5年　6月14日 曇 昨夜中雨降　今朝に至る　今日終日雨降　夜に入 (大鰐組村々近年覚えなき出水)
1793年　7月22日 寛政5年　6月15日 曇 昨夜中雨降　今日午の刻過ぎより時々雨降 (去る12日の出水で目屋野沢より数万の流木・引き上げて隠すなとの指示、冨田村領川岸に赤子の捨て子・介抱)
1793年　7月23日 寛政5年　6月16日 曇 昨夜中雨降　今日巳の刻過ぎより少々雨降
1793年　7月24日 寛政5年　6月17日 曇 昨夜中雨降　今朝辰の刻過ぎ小雨降 (天気不勝に付長勝寺で五穀成就の御祈祷大般若執行を仰せ付ける)
1793年　7月25日 寛政5年　6月18日 晴 今日申の刻過ぎより曇 (去月20日江戸で御徒小頭が乱心・死亡1人負傷2人・加害者押込)
1793年　7月26日 寛政5年　6月19日 曇 昼之内晴ル
1793年　7月27日 寛政5年　6月20日 曇 昼之内晴ル
1793年　7月28日 寛政5年　6月21日 晴
1793年　7月29日 寛政5年　6月22日 晴
1793年　7月30日 寛政5年　6月23日 晴
1793年　7月31日 寛政5年　6月24日 晴
1793年　8月1日 寛政5年　6月25日 晴 (百沢寺の百姓2人が隠釜で炭焼き・有った炭70・65俵を御取上げ戸〆・過料(罰金のこと:福眞)80目宛)
1793年　8月2日 寛政5年　6月26日 晴 朝の内曇
1793年　8月3日 寛政5年　6月27日 晴 朝の内曇 ((5月3日の)金木組脇本村の30軒焼失に代官が御手当てを申し入れる・1軒に1俵で30俵下し置かれる)
1793年　8月4日 寛政5年　6月28日 晴 朝の内曇
1793年　8月5日 寛政5年　6月29日 曇 申の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止
1793年　8月6日 寛政5年　6月30日 曇 昨夜中雨降　今日午の刻過ぎ迄時々小雨降
1793年　8月7日 寛政5年　7月1日 曇 今日巳の刻頃より午の刻頃迄雨降 (大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる・去年植付より日数に引合1日遅く節に引合5日遅い)
1793年　8月8日 寛政5年　7月2日 曇 今日申の刻過ぎ小雨降
1793年　8月9日 寛政5年　7月3日 曇 昨夜中雨降
1793年　8月10日 寛政5年　7月4日 晴 (去月28日南部佐井浦沖で青森発の江戸御廻船が破船)
1793年　8月11日 寛政5年　7月5日 曇 午の刻頃より晴
1793年　8月12日 寛政5年　7月6日 晴
1793年　8月13日 寛政5年　7月7日 晴 朝の内曇
1793年　8月14日 寛政5年　7月8日 曇 今朝辰の刻頃より巳の刻過ぎ迄雨降　頃日残暑強し
1793年　8月15日 寛政5年　7月9日 曇 今暁丑の刻過ぎ雨降　今朝辰の刻過ぎ小雨降
1793年　8月16日 寛政5年　7月10日 晴
1793年　8月17日 寛政5年　7月11日 晴 (去る8日夜猿賀組深川村で出火・馬1疋焼死、柏木組大俵村に在宅中の御家中の家が昨9日夜焼失、検見人に音物を送る手伝いをした代官手代を十里四方追放・関連庄屋どもを戸〆)
1793年　8月18日 寛政5年　7月12日 晴 頃日朝夕冷 (油値段1升を6文目の申し出で・5文目値段に申付ける、頃日夜中冷気・当年も百姓が田圃に出て篝火焼く)
1793年　8月19日 寛政5年　7月13日 曇 今日申の刻過ぎ小雨降
1793年　8月20日 寛政5年　7月14日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨　今日時々雨降
1793年　8月21日 寛政5年　7月15日 曇 昨夜戌の刻頃雨降　今日申の刻頃より雨降　夜に入 (去る10日後潟組清水川村で火災・火元高無居村預け)
1793年　8月22日 寛政5年　7月16日 曇 昨夜中雨降　今日未の刻過ぎより時々雨降　今晩酉の刻過ぎ雷電　雨強し
1793年　8月23日 寛政5年　7月17日 曇 昨夜亥の刻頃迄雨降　今朝辰の刻頃雷　今日時々雨降
1793年　8月24日 寛政5年　7月18日 晴
1793年　8月25日 寛政5年　7月19日 晴
1793年　8月26日 寛政5年　7月20日 晴
1793年　8月27日 寛政5年　7月21日 晴 頃日残暑強し
1793年　8月28日 寛政5年　7月22日 曇
1793年　8月29日 寛政5年　7月23日 晴
1793年　8月30日 寛政5年　7月24日 晴 今日未の刻過ぎより曇
1793年　8月31日 寛政5年　7月25日 晴

1793年　9月1日 寛政5年　7月26日 曇　今日未の刻より申の刻過ぎ迄小雨降　頃日残暑強し
1793年　9月2日 寛政5年　7月27日 曇　今朝辰の刻前より雷　実の刻頃止　今日午の刻過ぎより晴
1793年　9月3日 寛政5年　7月28日 晴
1793年　9月4日 寛政5年　7月29日 曇　今日午の刻頃より雨降　未の刻過ぎ迄雨　今晩酉の刻過ぎ雨降
1793年　9月5日 寛政5年　8月1日 晴　頃日残暑強し（去月8日黒石の牢破り逃亡男・人相書き:勢5尺2寸位等々）
1793年　9月6日 寛政5年　8月2日 曇　今朝辰の刻前小雨　則刻止　酉の刻過ぎより雨　夜に入（例年の通り岩木山の苔の実を百沢寺が差上げる、去月28日に公儀御目付村上大学様石川将監様が三厩に御着岸）
1793年　9月7日 寛政5年　8月3日 曇　前宵よりの雨　今朝に及ぶ　終日降　酉の刻前止
1793年　9月8日 寛政5年　8月4日 晴（大鰐村加賀助より御初米差上げる・3俵中1俵は高岡に他の2俵は江戸に・去年は7月11日で当年は植付日数引合6日遅く節に引合11日遅い）
1793年　9月9日 寛政5年　8月5日 晴（(蝦夷地から帰った)山田剛太郎・都谷森甚之丞が登城）
1793年　9月10日 寛政5年　8月6日 晴　残暑強し
1793年　9月11日 寛政5年　8月7日 晴
1793年　9月12日 寛政5年　8月8日 晴　昨夜中時々雨降
1793年　9月13日 寛政5年　8月9日 晴　昨夜中時々雨降
1793年　9月14日 寛政5年　8月10日 曇　巳の刻過ぎ小雨　即刻止
1793年　9月15日 寛政5年　8月11日 曇　未の刻前より時々雷雨　戌の刻止　酉の刻過ぎ電
1793年　9月16日 寛政5年　8月12日 晴　残暑強　巳の刻過ぎ小雨　即刻晴
1793年　9月17日 寛政5年　8月13日 晴
1793年　9月18日 寛政5年　8月14日 曇
1793年　9月19日 寛政5年　8月15日 曇　昨夜子の刻前より雨　今朝に及ぶ　終日降　夜に及ぶ(曇昨夜子刻前より雨今朝及終日降夜ニ及)
1793年　9月20日 寛政5年　8月16日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の刻より晴
1793年　9月21日 寛政5年　8月17日 快晴
1793年　9月22日 寛政5年　8月18日 曇　今朝卯の刻過ぎより巳の刻過ぎ迄大雨　今夜亥の刻前地震少し（去る12日今別町庄屋の木小屋焼失）
1793年　9月23日 寛政5年　8月19日 晴
1793年　9月24日 寛政5年　8月20日 曇
1793年　9月25日 寛政5年　8月21日 曇（人事異動）
1793年　9月26日 寛政5年　8月22日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨　今朝に及ぶ　終日降　夜に入（石渡川出水・船渉り成りかねる）
1793年　9月27日 寛政5年　8月23日 曇　昨夜中より今日時々雨降　申の刻過ぎ虹立
1793年　9月28日 寛政5年　8月24日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　酉の刻過ぎ電（人事異動）
1793年　9月29日 寛政5年　8月25日 曇　昨夜中より今日時々雨降　酉の刻過ぎ雷鳴
1793年　9月30日 寛政5年　8月26日 晴
1793年　10月1日 寛政5年　8月27日 晴　卯の刻過ぎ地震少シ（公儀御目付様御領内海辺廻り御見分相済む）
1793年　10月2日 寛政5年　8月28日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降
1793年　10月3日 寛政5年　8月29日 曇（高岡への川鮭2尾御台所頭より差出す、昨27日夜四半頃鯵ヶ沢町で出火・焼失88軒潰家4軒）
1793年　10月4日 寛政5年　8月30日 快晴
1793年　10月5日 寛政5年　9月1日 快晴
1793年　10月6日 寛政5年　9月2日 晴
1793年　10月7日 寛政5年　9月3日 晴
1793年　10月8日 寛政5年　9月4日 晴
1793年　10月9日 寛政5年　9月5日 晴　今暁丑の刻過ぎより寅の刻迄雨降（金1両が97文目7分8厘）
1793年 10月10日 寛政5年　9月6日 晴
1793年 10月11日 寛政5年　9月7日 晴　今暁寅の刻前雷雨　則刻止
1793年 10月12日 寛政5年　9月8日 晴（岩木嵩湯治差留を勝手次第とする）
1793年 10月13日 寛政5年　9月9日 曇　今暁丑の刻前より寅の刻過ぎ迄雷雨強　今日冷気
1793年 10月14日 寛政5年　9月10日 晴　今日冷気
1793年 10月15日 寛政5年　9月11日 晴
1793年 10月16日 寛政5年　9月12日 晴（公儀が先達って松前若狭守に下し置かれた御手当て米1000石が代金858両1歩余）
1793年 10月17日 寛政5年　9月13日 曇　今日時々雨降
1793年 10月18日 寛政5年　9月14日 曇　下から続く　・100目玉石火矢唐金筒・200目玉石火矢鉄筒・500目玉大石火矢唐金筒・3貫目玉頑?火唐金筒各1挺・都合12挺）
1793年 10月19日 寛政5年　9月15日 曇　時々小雨　午の刻過ぎ雷発ス（福眞才吉が御中小姓格の代官に昇格の人事異動）　下から続く　鉄筒・50目玉真鍮筒・70目玉真鍮筒・100目玉真鍮筒・200目玉鉄筒　上に続く
1793年 10月20日 寛政5年　9月16日 曇　昨夜戌の刻風立　下から続く　500・筒薬目形1貫目・鉄砲雨革12・竹火縄12筋・玉箱1荷、当春青森御仮屋江相下げ候御鉄砲:10文目玉鉄筒2挺・20目玉鉄筒・30目玉　上に続く
1793年 10月21日 寛政5年　9月17日 曇　下から続く　御渡し成され候御道具:御弓8張・塗弦16筋・征矢100本・靱8穂・鞢8指・弦封8筋・弓雨革8・矢箱1通・鉄砲12挺・鉄卵(どうらん)12・分切3指・3文(目)5分玉　上に続く
1793年 10月22日 寛政5年　9月18日 曇　昨夜丑の刻前より寅の刻過ぎ迄雷雨（去る16日暮れ頃より法源寺の弟が行方不明・小沢村の溜池で水死）　下から続く　7貫220目・檜皮火縄20房、青森在番者頭江　上に続く
1793年 10月23日 寛政5年　9月19日 曇　今朝岩木山江雪見ル　今日終日風雨　午の刻過ぎ霙降　下から続く　・征矢100筋・塗弦20筋・鉄砲20挺・銃卵(どうらん:胴乱のこと)20・口薬入20・玉3000・筒薬目形　上に続く
1793年 10月24日 寛政5年　9月20日 曇（公儀御目付様御見分の節御下し置かれ候大筒:50目筒・100目筒・200目筒・500目筒・3貫目筒、青森御仮屋江前々相渡し候御武具:番鑓20本・番弓5張・番靱5穂・番鞢5指　上に続く
1793年 10月25日 寛政5年　9月21日 晴
1793年 10月26日 寛政5年　9月22日 晴　今朝霜強し
1793年 10月27日 寛政5年　9月23日 晴
1793年 10月28日 寛政5年　9月24日 快晴
1793年 10月29日 寛政5年　9月25日 晴
1793年 10月30日 寛政5年　9月26日 晴　未の刻過ぎより曇　申の刻前雨　酉の刻前雷電
1793年 10月31日 寛政5年　9月27日 曇　昨夜中時々雨降

1793年　11月1日 寛政5年　　9月28日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1793年　11月2日 寛政5年　　9月29日 曇　今朝霜強し
1793年　11月3日 寛政5年　　9月30日 曇　昨夜中雨降　今日時々小雨
1793年　11月4日 寛政5年　　10月1日 曇　昨夜中より今日時々雨降
1793年　11月5日 寛政5年　　10月2日 晴
1793年　11月6日 寛政5年　　10月3日 晴
1793年　11月7日 寛政5年　　10月4日 晴　今暁丑の刻過ぎより小雨時々降　(酒1升に付き1文目7分の仮値段とする)
1793年　11月8日 寛政5年　　10月5日 晴　(去る2日飯詰組下石川村で家と外馬屋出火・火元高無村預け)
1793年　11月9日 寛政5年　　10月6日 晴
1793年 11月10日 寛政5年　　10月7日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　今日時々降　午の刻過ぎ霙　(石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる)
1793年 11月11日 寛政5年　　10月8日 曇　昨夜中雪一寸程降　今日時々雪降
1793年 11月12日 寛政5年　　10月9日 曇　未の刻過ぎ小雨　則刻止
1793年 11月13日 寛政5年　　10月10日 曇　時々雨降
1793年 11月14日 寛政5年　　10月11日 曇　終日雨降
1793年 11月15日 寛政5年　　10月12日 曇
1793年 11月16日 寛政5年　　10月13日 曇　今日時々小雨　(当月8日御払い方御金奉行(御手廻)が出奔、博打打の御持槍仲間の御給分召上げ永の御暇・博打宿等の追放男2人)
1793年 11月17日 寛政5年　　10月14日 曇　昨夜中より今日時々雪降
1793年 11月18日 寛政5年　　10月15日 曇　今日巳の刻過ぎより終日雪降　酉の刻過ぎ雨　則刻止
1793年 11月19日 寛政5年　　10月16日 曇　今日時々雪降
1793年 11月20日 寛政5年　　10月17日 曇　午の刻過ぎより申の刻過ぎ迄雨
1793年 11月21日 寛政5年　　10月18日 曇　今朝卯の刻前雨　則刻止　申の刻過ぎより雨　夜に入　戌の刻過ぎ止
1793年 11月22日 寛政5年　　10月19日 曇　今日巳の刻過ぎより雨　終日降　(御家中小山次郎兵衛(卜伝流の継承者か:福眞)の二男が居村で熊(胆目形5文目2分)取る・猟師より納めれば代銭46匁8分)
1793年 11月23日 寛政5年　　10月20日 曇　今朝辰の刻前より雪終日降
1793年 11月24日 寛政5年　　10月21日 晴　(弘前町の日雇取の役銭をこれまでの四分を六分とする・この節米値段高値、顕休院様(津軽信著:つがるのぶあき:六代藩主)五十回忌御忌に伴い大赦(出牢・御国徘徊御免等9人))
1793年 11月25日 寛政5年　　10月22日 曇
1793年 11月26日 寛政5年　　10月23日 曇　昨夜亥の刻前より雨　今日終日降　(古懸不動尊御出汗・御神楽等を仰せ付ける、岩木川出水・駒越渡しが馬船小船とも通用なり兼ねる)
1793年 11月27日 寛政5年　　10月24日 曇　今日巳の刻過ぎより丸雪　終日降
1793年 11月28日 寛政5年　　10月25日 曇　昨夜中より雪　今日時々降
1793年 11月29日 寛政5年　　10月26日 晴
1793年 11月30日 寛政5年　　10月27日 曇
1793年　12月1日 寛政5年　　10月28日 曇　昨夜中より雪　今日終日降　(昨夜報恩寺に盗賊入る、油値段1升に付き7文目5分の要望を6文目に仰せ付ける)
1793年　12月2日 寛政5年　　10月29日 曇　昨夜中雪降　三寸程　今日時々雪降
1793年　12月3日 寛政5年　　11月1日 晴
1793年　12月4日 寛政5年　　11月2日 曇　今朝卯の刻前より小雨　午の刻過ぎより晴
1793年　12月5日 寛政5年　　11月3日 曇　今日終日雨降
1793年　12月6日 寛政5年　　11月4日 曇　今日午の刻過ぎより雨終日降
1793年　12月7日 寛政5年　　11月5日 晴　(去月27日赤石組深谷村で出火稲草焼失・役筋見分の上御物成御差引)
1793年　12月8日 寛政5年　　11月6日 曇　今日巳の刻過ぎより時々雨降
1793年　12月9日 寛政5年　　11月7日 曇
1793年 12月10日 寛政5年　　11月8日 曇　昨夜中より雪　終日降　夜に入
1793年 12月11日 寛政5年　　11月9日 晴　昨夜中より今日辰の刻過ぎ迄雪降　一尺程積
1793年 12月12日 寛政5年　　11月10日 晴　昨夜中雪三寸程積
1793年 12月13日 寛政5年　　11月11日 曇　今日午の刻前地震少し　同刻過ぎより雷雨　申の刻過ぎ止
1793年 12月14日 寛政5年　　11月12日 曇　今日時々雪降　(去る5日高杉組独狐村で穀物焼失)
1793年 12月15日 寛政5年　　11月13日 曇　今日申の刻過ぎ地震少し　(当春松前表に渡海の節不埒の行いをした男を弘前より十里四方追放)
1793年 12月16日 寛政5年　　11月14日 曇　昨夜中雪少し降
1793年 12月17日 寛政5年　　11月15日 曇　今朝卯の刻地震少し
1793年 12月18日 寛政5年　　11月16日 曇
1793年 12月19日 寛政5年　　11月17日 晴　(当月朔日より15日までの米相場:1俵32文目3分)
1793年 12月20日 寛政5年　　11月18日 曇　今日時々小雨　(後潟組三馬屋村より増川・六丁間(六条間)・宇鉄までの惣人数533人)
1793年 12月21日 寛政5年　　11月19日 曇　昨夜中風雨　今暁寅の刻過ぎ雷電　今朝卯の刻過ぎより霙　巳の刻過ぎ止
1793年 12月22日 寛政5年　　11月20日 曇　朝の内雪降　(今朝御手廻与力の妻が縊死、米入札(沖役入り1俵)平均40目7分2厘5毛・金1両98文目)
1793年 12月23日 寛政5年　　11月21日 曇
1793年 12月24日 寛政5年　　11月22日 快晴
1793年 12月25日 寛政5年　　11月23日 曇　今日午の刻過ぎより雨　夜に入
1793年 12月26日 寛政5年　　11月24日 曇　昨夜中より雨　今日終日降　夜に入　(御検見の節不埒の庄屋等多数に戸〆などを申付ける)
1793年 12月27日 寛政5年　　11月25日 曇　昨夜中雨　丑の刻過ぎより風立　今朝卯の刻過ぎより霰　辰の刻過ぎより雪時々降　(去る2日夜尾崎組四ッ屋村で出火・火元高無村預け)
1793年 12月28日 寛政5年　　11月26日 曇
1793年 12月29日 寛政5年　　11月27日 曇
1793年 12月30日 寛政5年　　11月28日 曇　昨夜中雪少し　今日時々降　(高岡御献備之鱈御台所頭より差し出す)
1793年 12月31日 寛政5年　　11月29日 曇　昨夜中雪二寸程降　今日時々降　(酒1升1文目7分を酒屋共より2文目2分に値上げの申し立て・2文目に商売するよう申し付ける)

1794年　1月1日 寛政5年　11月30日 晴
1794年　1月2日 寛政5年　12月1日 曇 今日午の刻前より雨降　夜に入る （人事異動）
1794年　1月3日 寛政5年　12月2日 曇 昨夜中雨　今日終日吹雪 （岩木川出水・駒越渡通用相成り申さず）
1794年　1月4日 寛政5年　12月3日 曇 今日時々雪降
1794年　1月5日 寛政5年　12月4日 曇 昨夜中雪三寸程積　今日時々雪降　今日未の二刻寒に入る
1794年　1月6日 寛政5年　12月5日 曇 昨夜丑の刻過ぎ雷電　寅の刻過ぎより風雨終日　卯の刻過ぎ風止　雨終日降 （来年12月までに鉄砲300挺を泉州境で作成中・内150挺は来年3月に出来、人相書:せい5尺3寸位等）
1794年　1月7日 寛政5年　12月6日 曇 昨夜亥の刻過ぎより今日時々雪降　申の刻過ぎ地震少々 （各御蔵から青森・鰺ヶ沢御蔵への駄下げ米(の計画?):青森に59900俵・鰺ヶ沢に89200俵）
1794年　1月8日 寛政5年　12月7日 曇 昨夜中より今日時々雪降
1794年　1月9日 寛政5年　12月8日 晴　下から続く　家財欠所弘前より5里四方追放・関連の男共も罰せられる）
1794年　1月10日 寛政5年　12月9日 晴 昨夜中雪少し降 （鰺ヶ沢の遊女屋が昨秋(8月27日か)類焼・娘を遊女に出した和徳町の男が娘と他の遊女を引取り遊女屋同様の猥ヶ間敷ことをさせた・この男の屋敷取上げ　上に続く
1794年　1月11日 寛政5年　12月10日 曇 昨夜亥の刻過ぎより雷雨　今朝卯の刻過ぎより雪終日降 （12月5日の人相書きの男が名乗り出る）
1794年　1月12日 寛政5年　12月11日 曇 （蟹田より御献上の鱈1本に付き1文目3分・その他も書いてあるが判らない:福眞）
1794年　1月13日 寛政5年　12月12日 晴 昨夜中雪少し降
1794年　1月14日 寛政5年　12月13日 曇 昨夜中より雪　今日時々降　下から続く　節に引合2日遅い）
1794年　1月15日 寛政5年　12月14日 曇 今日時々雪降 （当8日昼九つ時より翌9日朝五つ時まで十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は11月25日朝四つより翌26日九つ時まで氷張る・当年は日数に引合14日遅く　上に続く
1794年　1月16日 寛政5年　12月15日 曇 昨夜中より雪　今日時々降
1794年　1月17日 寛政5年　12月16日 晴
1794年　1月18日 寛政5年　12月17日 晴 （10月20日常州の男が賀田村の宿で病死）
1794年　1月19日 寛政5年　12月18日 曇 今日午の刻過ぎより小雨時々降
1794年　1月20日 寛政5年　12月19日 曇 今日時々雪降
1794年　1月21日 寛政5年　12月20日 曇 昨夜中雪降　三寸程積　今日終日吹雪　寒強
1794年　1月22日 寛政5年　12月21日 曇 昨夜中雪降　三寸程積　今日時々雪降 （江戸で松前御用の骨折りの褒美を幕府から貰っている）
1794年　1月23日 寛政5年　12月22日 曇 昨夜より雪　今日時々降　寒気強し
1794年　1月24日 寛政5年　12月23日 曇 昨夜中雪五寸程積　今日終日雪吹 （付添御徒目付(罪人護送か:福眞)心得書あり:食事の節は駕籠より出し申さず駕籠の内にて食べさせる尤も箸は三寸箸相用いさせ申すべきこと等）
1794年　1月25日 寛政5年　12月24日 晴
1794年　1月26日 寛政5年　12月25日 晴 （去る23日駒越組清水森村で出火・火元高無村預け）
1794年　1月27日 寛政5年　12月26日 晴
1794年　1月28日 寛政5年　12月27日 晴 昨夜中雪少し降 （当御検見引平均4ッ物成高百石ニ付米十五俵3斗9升2合2夕ニ相当申し候間在宅知行取御蔵渡しの分右の表を持って差引相立申し候:福眞には意味不明）
1794年　1月29日 寛政5年　12月28日 晴 昨夜中雪少し降　今朝辰の刻地震少シ （人事異動・褒美多数(中に銀5両も)あり）
1794年　1月30日 寛政5年　12月29日 晴
1794年　1月31日 寛政6年 正月1日　曇 今朝卯の刻過ぎより巳の刻過ぎ迄小雨降
1794年　2月1日 寛政6年 正月2日　晴
1794年　2月2日 寛政6年 正月3日　曇 昨夜戌の刻過ぎより雨降　今朝に至る
1794年　2月3日 寛政6年 正月4日　曇 昨夜中より今日終日吹雪　余寒強
1794年　2月4日 寛政6年 正月5日　曇 昨夜中より今日終日吹雪　余寒強
1794年　2月5日 寛政6年 正月6日　曇 今日時々雪降
1794年　2月6日 寛政6年 正月7日　曇 今日終日雪降 （今日七種の御祝儀）
1794年　2月7日 寛政6年 正月8日　晴
1794年　2月8日 寛政6年 正月9日　曇 今日巳の刻過ぎより雪終日降　一尺程積　酉の刻地震少
1794年　2月9日 寛政6年 正月10日　曇 今日午の刻過ぎより雪終日降　七寸程積る （昨今より大雪・雪下げに小人ばかりでは手不足・足軽も動員する）
1794年　2月10日 寛政6年 正月11日　曇 今日午の刻過ぎより雪終日降
1794年　2月11日 寛政6年 正月12日　晴 昨夜中雪降　三寸程積
1794年　2月12日 寛政6年 正月13日　快晴
1794年　2月13日 寛政6年 正月14日　晴
1794年　2月14日 寛政6年 正月15日　曇 今日時々雪降
1794年　2月15日 寛政6年 正月16日　曇 昨夜中雪降　四寸程積る　今日時々雪降
1794年　2月16日 寛政6年 正月17日　晴
1794年　2月17日 寛政6年 正月18日　曇 今日時々雪降
1794年　2月18日 寛政6年 正月19日　曇 昨夜中雪降　戌の刻過ぎ地震少々　今日時々雪
1794年　2月19日 寛政6年 正月20日　曇 昨夜中雪少々降
1794年　2月20日 寛政6年 正月21日　曇 今日時々雪降
1794年　2月21日 寛政6年 正月22日　晴
1794年　2月22日 寛政6年 正月23日　晴
1794年　2月23日 寛政6年 正月24日　曇 （去る12月13日赤石領小和田川沖で松前船が破船）
1794年　2月24日 寛政6年 正月25日　晴
1794年　2月25日 寛政6年 正月26日　晴
1794年　2月26日 寛政6年 正月27日　晴
1794年　2月27日 寛政6年 正月28日　晴 昨夜中時々雨降
1794年　2月28日 寛政6年 正月29日　曇 今日終日雪降　五寸程積

1794年　3月1日 寛政6年 正月30日　曇　昨夜中雪降る　五寸程津もる
1794年　3月2日 寛政6年　2月1日 快晴
1794年　3月3日 寛政6年　2月2日 曇　今日時々雪降
1794年　3月4日 寛政6年　2月3日 曇　今日雪終日降　五寸程積る
1794年　3月5日 寛政6年　2月4日 晴　昨夜中雪降　五寸程積る
1794年　3月6日 寛政6年　2月5日 晴　今暁酉の刻過ぎ少し地震
1794年　3月7日 寛政6年　2月6日 曇　今日時々雪降　(去る戌(今年は寅)の年東長町北御蔵で不埒の取り扱いをした御蔵立会い1人(御手廻り)・御蔵奉行2人(御馬廻り)その他の身上召上げ永の御暇)
1794年　3月8日 寛政6年　2月7日 曇　今日時々雪降
1794年　3月9日 寛政6年　2月8日 晴　今暁寅の刻過ぎ地震少シ　(去る4日後潟組中沢村で出火・火元鍛冶居村預け)
1794年　3月10日 寛政6年　2月9日 曇　今日終日小雨降
1794年　3月11日 寛政6年　2月10日 晴　昨夜中時々小雨降　頃日の暖和
1794年　3月12日 寛政6年　2月11日 曇
1794年　3月13日 寛政6年　2月12日 晴　昨夜中雪降　四寸程積る
1794年　3月14日 寛政6年　2月13日 晴
1794年　3月15日 寛政6年　2月14日 晴
1794年　3月16日 寛政6年　2月15日 曇
1794年　3月17日 寛政6年　2月16日 曇　昨夜雨時々降
1794年　3月18日 寛政6年　2月17日 曇　(法立寺の納所(なっしょ:事務取扱人)が秋田者で疑わしい男なので?碇関から返す)
1794年　3月19日 寛政6年　2月18日 曇　昨夜中雪降　四寸程積る
1794年　3月20日 寛政6年　2月19日 晴
1794年　3月21日 寛政6年　2月20日 曇　(当月朔日後潟組六丁の間磯で5人乗り松前船が破船・4人水死)
1794年　3月22日 寛政6年　2月21日 曇　昨夜中より今日時々小雨
1794年　3月23日 寛政6年　2月22日 晴
1794年　3月24日 寛政6年　2月23日 晴　昨夜亥の刻過ぎ地震少し　(去る春油川組安田村に在宅を申し出た高瀬某が冬まで引越ししない・御憐憫を持って御奉公遠慮)
1794年　3月25日 寛政6年　2月24日 曇　今日時々小雨
1794年　3月26日 寛政6年　2月25日 曇　昨夜中より今日時々雪降
1794年　3月27日 寛政6年　2月26日 曇　今日風立　(去る12月東長町で口論し殺人の男・乱心の上大秋村百姓女房を切り殺した男を取上の御仕置き場で斬罪)
1794年　3月28日 寛政6年　2月27日 晴
1794年　3月29日 寛政6年　2月28日 晴　(御制禁の贋金を持ち歩く者があると相聞こえ候、潰れた木造新田組長濱村はこの度7軒取建てる・6か村から遊食の者1人宛6人と筆算心得があるもの1人・手当なども支給する)
1794年　3月30日 寛政6年　2月29日 曇
1794年　3月31日 寛政6年　3月1日 曇　昨夜中より雨　今日終日降
1794年　4月1日 寛政6年　3月2日 晴　(去月26日暮六時より27日朝五時までに十三潟が早川口より残らず氷明ける)
1794年　4月2日 寛政6年　3月3日 曇　今日未の刻小雨　則刻止　(嵩硫黄山に3月1日夜中火・今朝見分・火山活動)
1794年　4月3日 寛政6年　3月4日 晴　(岩木山硫黄釜より出火に付き大組物頭等が消火に当る)
1794年　4月4日 寛政6年　3月5日 曇　今日時々霰降　未の刻過ぎ雷鳴
1794年　4月5日 寛政6年　3月6日 曇　(硫黄山の出火は駒越組の人夫ばかり300人程で相鎮め候・大組物頭等は出動していない)
1794年　4月6日 寛政6年　3月7日 曇
1794年　4月7日 寛政6年　3月8日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨時々降　今朝に及ぶ
1794年　4月8日 寛政6年　3月9日 曇
1794年　4月9日 寛政6年　3月10日 曇　今日午の刻過ぎ雨降　即刻止
1794年　4月10日 寛政6年　3月11日 晴
1794年　4月11日 寛政6年　3月12日 曇　今日辰の刻より霙　巳の刻過ぎより雨終日降
1794年　4月12日 寛政6年　3月13日 曇　昨夜中雨降　今朝卯の刻過ぎより雪終日降
1794年　4月13日 寛政6年　3月14日 曇　昨夜中雪降　二寸程積　今日も時々雪降　(一昨12日大鰐組苦木村で出火・家1軒馬屋1軒焼失・火元高無村預け)
1794年　4月14日 寛政6年　3月15日 晴
1794年　4月15日 寛政6年　3月16日 曇　今日午の刻過ぎより雨時々降　夜に入
1794年　4月16日 寛政6年　3月17日 曇　昨夜中より今日終日雨降
1794年　4月17日 寛政6年　3月18日 晴
1794年　4月18日 寛政6年　3月19日 曇　今日終日小雨降
1794年　4月19日 寛政6年　3月20日 曇
1794年　4月20日 寛政6年　3月21日 曇　今日巳の刻小雨　則刻止　(御発駕金が1500両)
1794年　4月21日 寛政6年　3月22日 快晴　(去る18日油川組飛鳥村で出火・火元居村預け)
1794年　4月22日 寛政6年　3月23日 曇　(博打打ちを弘前より三里四方追放・家財は妻子に)
1794年　4月23日 寛政6年　3月24日 晴　昨夜中雨降　(駒越組目野沢の猟師が領内で秋田猟師を捕らえ胆・皮を押収・猟師を追い返す、褒美が1人に鳥目1貫文宛、岩木川7歩程の洪水)
1794年　4月24日 寛政6年　3月25日 曇　(深浦入津中の兵庫の船の水主が17日に病死)
1794年　4月25日 寛政6年　3月26日 晴
1794年　4月26日 寛政6年　3月27日 曇
1794年　4月27日 寛政6年　3月28日 晴
1794年　4月28日 寛政6年　3月29日 晴　今日申の刻過ぎ地震少し
1794年　4月29日 寛政6年　3月30日 晴
1794年　4月30日 寛政6年　4月1日 晴

1794年　5月1日 寛政6年　4月2日 曇　雨昨夜中より今日終日降
1794年　5月2日 寛政6年　4月3日 晴
1794年　5月3日 寛政6年　4月4日 晴　(新田普請奉行平沢某が自分物入りで16000坪などを田に開発・検地の上同人御給分地方にて下し置かれたき旨申し出る(多分認められている:福眞))
1794年　5月4日 寛政6年　4月5日 曇　今日時々雨降　(新規の家作は長屋作りにとの指示)
1794年　5月5日 寛政6年　4月6日 曇　今日時々小雨降
1794年　5月6日 寛政6年　4月7日 曇　(去月晦日浦町組堤村で出火・種籾2斗入り14俵・種籾2斗5升入り15俵その他焼失・火元高無他村預け、去月29日脇元村長走り濱に秋田能代船が破船)
1794年　5月7日 寛政6年　4月8日 曇
1794年　5月8日 寛政6年　4月9日 晴　(去月29日朝十三前浜で庄内酒田の船が破船・深浦で雇った男水死)
1794年　5月9日 寛政6年　4月10日 晴
1794年　5月10日 寛政6年　4月11日 曇
1794年　5月11日 寛政6年　4月12日 曇
1794年　5月12日 寛政6年　4月13日 晴
1794年　5月13日 寛政6年　4月14日 晴
1794年　5月14日 寛政6年　4月15日 曇　昨夜中より雨　今日時々降る
1794年　5月15日 寛政6年　4月16日 なし(日記は保存されているが天気の記載なし)
1794年　5月16日 寛政6年　4月17日 曇　今日時々雨降
1794年　5月17日 寛政6年　4月18日 曇　昨夜時々雨降
1794年　5月18日 寛政6年　4月19日 曇　今日辰の刻過ぎ地震少
1794年　5月19日 寛政6年　4月20日 曇
1794年　5月20日 寛政6年　4月21日 晴
1794年　5月21日 寛政6年　4月22日 晴　朝のうち曇
1794年　5月22日 寛政6年　4月23日 曇　今日終日風雨　夜に入　(来月3日江戸御発駕予定)
1794年　5月23日 寛政6年　4月24日 曇　昨夜中風強し　(一昨夜御蔵町で出火・木小屋半分焼ける・火元戸〆)
1794年　5月24日 寛政6年　4月25日 晴　(去る23日高岡御宮並木松20本風折れ)
1794年　5月25日 寛政6年　4月26日 曇　今日午の刻より雨降　酉の刻過ぎ止
1794年　5月26日 寛政6年　4月27日 晴
1794年　5月27日 寛政6年　4月28日 曇　今日午の刻過ぎ雷　同刻より雨時々降る　夜に入
1794年　5月28日 寛政6年　4月29日 晴　昨夜時々雨降
1794年　5月29日 寛政6年　5月1日 晴
1794年　5月30日 寛政6年　5月2日 晴
1794年　5月31日 寛政6年　5月3日 曇
1794年　6月1日 寛政6年　5月4日 曇
1794年　6月2日 寛政6年　5月5日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨　即刻止　(去月15日青森で東風大雨・堤川橋の杭5本など流失、3日の発駕予定を9日に変更)
1794年　6月3日 寛政6年　5月6日 曇
1794年　6月4日 寛政6年　5月7日 曇　今日時々雷雨ス
1794年　6月5日 寛政6年　5月8日 曇　昨夜中雨降
1794年　6月6日 寛政6年　5月9日 晴
1794年　6月7日 寛政6年　5月10日 曇
1794年　6月8日 寛政6年　5月11日 晴
1794年　6月9日 寛政6年　5月12日 晴
1794年　6月10日 寛政6年　5月13日 晴
1794年　6月11日 寛政6年　5月14日 曇　今日時々小雨降　(去月15日の洪水で横内組宮田・野内・原別村川沿いの苗代が水押、御発駕9日をさらに日延べ)
1794年　6月12日 寛政6年　5月15日 曇　(去月15日の洪水で浦町・横内組の村々に被害・田方1反7畝27歩・畑方4畝24歩)
1794年　6月13日 寛政6年　5月16日 晴　昨夜雨時々降
1794年　6月14日 寛政6年　5月17日 晴
1794年　6月15日 寛政6年　5月18日 晴　(屋形様16日に発駕と変更)
1794年　6月16日 寛政6年　5月19日 晴　(去る12日浦町組八つ役村で出火・農具米穀等焼失・火元高無村預け)
1794年　6月17日 寛政6年　5月20日 曇　今日午の刻過ぎ雨降　未の刻過ぎ止
1794年　6月18日 寛政6年　5月21日 曇　今日時々雨降
1794年　6月19日 寛政6年　5月22日 曇
1794年　6月20日 寛政6年　5月23日 曇
1794年　6月21日 寛政6年　5月24日 晴　(御家中が開き屋敷の拝領を願い認められている)
1794年　6月22日 寛政6年　5月25日 曇　今日時々雨降
1794年　6月23日 寛政6年　5月26日 晴
1794年　6月24日 寛政6年　5月27日 晴
1794年　6月25日 寛政6年　5月28日 晴
1794年　6月26日 寛政6年　5月29日 曇　今日午の刻過ぎ雷雨　即刻止　(広田組平井村に在宅の御馬廻り与力工藤某が狂気の様子で五所川原村の高無を手打ち)
1794年　6月27日 寛政6年　6月1日 曇
1794年　6月28日 寛政6年　6月2日 曇
1794年　6月29日 寛政6年　6月3日 晴
1794年　6月30日 寛政6年　6月4日 晴　(屋形様八時前)御着城

1794年　7月1日 寛政6年　6月5日 晴 （去月27日木造新田冨岡村で小屋1軒焼失・火元村預け、先頃殺人の平井村の工藤某は村方百姓屋の内に一間所を「志川らひ」入れ置くようにする・取立ては作事方に申付ける）
1794年　7月2日 寛政6年　6月6日 晴 （一粒金丹の有り合わせがないので5剤の調合を申付ける、一粒金丹は年々鴻池又右衛門江20粒下し置かれている）
1794年　7月3日 寛政6年　6月7日 曇 昨夜中雷雨　今日時々雨降 （昨夜中の出水で大鰐組石川村の仮橋の木柄が10間ほど流失）
1794年　7月4日 寛政6年　6月8日 曇 昨夜中より今日時々雨降
1794年　7月5日 寛政6年　6月9日 晴
1794年　7月6日 寛政6年　6月10日 晴 （常盤組徳田村に在宅中の御家中の倅が脇差で自害）
1794年　7月7日 寛政6年　6月11日 晴
1794年　7月8日 寛政6年　6月12日 晴
1794年　7月9日 寛政6年　6月13日 晴
1794年　7月10日 寛政6年　6月14日 晴
1794年　7月11日 寛政6年　6月15日 晴 （人事異動）
1794年　7月12日 寛政6年　6月16日 晴 頃日向暑強し （深浦町の同心が町人の女房と密通・2人とも出奔）
1794年　7月13日 寛政6年　6月17日 晴 （許可なしに木を切り出した過料は木1本に付き苗100本の植付）
1794年　7月14日 寛政6年　6月18日 曇 昨夜中より今日時々雨降
1794年　7月15日 寛政6年　6月19日 曇 昨夜中より今日時々雨降
1794年　7月16日 寛政6年　6月20日 晴
1794年　7月17日 寛政6年　6月21日 晴 （津軽屋三右衛門からきつい願いが入っている）
1794年　7月18日 寛政6年　6月22日 晴 （海辺通り遠見御番所御取建を仰せ付けられ・野内・月屋・上打越(上宇鉄)・出木嶋・脇元の5ヶ所にする・御入用は2貫186匁4分2厘・黒石領は田沢村(夏泊半島)とする）
1794年　7月19日 寛政6年　6月23日 晴 今日辰の七刻土用に入 （津軽外記を御用人に等の人事異動、褒美(松前御用・御旧借御片付・御下向御供下りに出精・山管理の御手山方(山方締役に横岡伊八郎)、御城中普請関係者）
1794年　7月20日 寛政6年　6月24日 晴
1794年　7月21日 寛政6年　6月25日 晴
1794年　7月22日 寛政6年　6月26日 晴
1794年　7月23日 寛政6年　6月27日 晴
1794年　7月24日 寛政6年　6月28日 晴
1794年　7月25日 寛政6年　6月29日 晴
1794年　7月26日 寛政6年　6月30日 晴
1794年　7月27日 寛政6年　7月1日 晴 （人事異動）
1794年　7月28日 寛政6年　7月2日 晴
1794年　7月29日 寛政6年　7月3日 晴
1794年　7月30日 寛政6年　7月4日 晴
1794年　7月31日 寛政6年　7月5日 晴 （大鰐村の加賀助・兵左衛門より初穂差出す）
1794年　8月1日 寛政6年　7月6日 晴
1794年　8月2日 寛政6年　7月7日 晴 （七戸の御祝儀を行っている・七戸は七夕の誤りだろう:福眞、横岡伊八郎に5俵1人扶持勤料増で御中小姓格山方吟味役等の人事異動）
1794年　8月3日 寛政6年　7月8日 晴 （今日大暑に付き山崎図書の講釈御延引仰せ出される）
1794年　8月4日 寛政6年　7月9日 曇
1794年　8月5日 寛政6年　7月10日 曇 （去る4日深浦湊に病死船頭の越前船入津）
1794年　8月6日 寛政6年　7月11日 曇
1794年　8月7日 寛政6年　7月12日 晴
1794年　8月8日 寛政6年　7月13日 晴
1794年　8月9日 寛政6年　7月14日 曇
1794年　8月10日 寛政6年　7月15日 曇 昨夜子の刻過ぎより雨降時々　今朝に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1794年　8月11日 寛政6年　7月16日 晴
1794年　8月12日 寛政6年　7月17日 晴 （郡奉行の申し出で:小阿彌堰下六ヶ組が渇水に付き用水仕分けについて代官等が集まり相談・三ヶ二を六ヶ組に三ヶーを猿賀組とする・不届きがあれば召し取る）
1794年　8月13日 寛政6年　7月18日 晴
1794年　8月14日 寛政6年　7月19日 晴 （去る16日広須組川除村で出火・火元百姓村預け）
1794年　8月15日 寛政6年　7月20日 晴
1794年　8月16日 寛政6年　7月21日 晴 今日風立
1794年　8月17日 寛政6年　7月22日 晴 今日風立
1794年　8月18日 寛政6年　7月23日 曇 昨夜中雨降　今日午の刻小雨　即刻止 （油値段1俵に付き7文目）
1794年　8月19日 寛政6年　7月24日 晴 （油川村あたりで米を背負って通る者が沢山いて全部逃げられる・米104俵を確保し五人組等に預ける・こんな例は沢山あり逃げられている・量が多いので記録した:福眞）
1794年　8月20日 寛政6年　7月25日 曇 今日午の刻前小雨
1794年　8月21日 寛政6年　7月26日 晴
1794年　8月22日 寛政6年　7月27日 晴
1794年　8月23日 寛政6年　7月28日 晴 昨夜戌の刻過ぎ小雨　則刻止　今日未の刻過ぎより曇　申の刻前雷　同刻過ぎ止
1794年　8月24日 寛政6年　7月29日 晴 昨夜酉の刻過ぎより雨　丑の刻過ぎまで降　今日午の刻前小雨
1794年　8月25日 寛政6年　8月1日 なし(日記はあるが天気の記載なし) （今日大暑に付き御礼廻り御容赦・月並みの講釈御延引、御目見以下御留守居支配佐藤吉五郎を勘定人に等の人事異動）
1794年　8月26日 寛政6年　8月2日 なし （百沢寺より苔の実差上げる）
1794年　8月27日 寛政6年　8月3日 なし
1794年　8月28日 寛政6年　8月4日 なし （今日大鰐村加賀助より御初米差上げる、去る朔日男の子(12歳)が駒越川で水死）
1794年　8月29日 寛政6年　8月5日 なし （7月24日晩より27日までに八甲田前嵩の出火を鎮めたが翌28日昼過ぎまで又焼ける）
1794年　8月30日 寛政6年　8月6日 なし
1794年　8月31日 寛政6年　8月7日 なし

1794年　9月1日 寛政6年　8月8日 なし （先刻春日町で御家中屋敷少々焼失・慎みを申付ける）
1794年　9月2日 寛政6年　8月9日 なし
1794年　9月3日 寛政6年　8月10日 なし （大坂から借金取りが来ている）
1794年　9月4日 寛政6年　8月11日 なし （津軽中書を御用人等の人事異動）
1794年　9月5日 寛政6年　8月12日 なし （去る冬米値段が格別高値に付き諸職人賄い銭7分を9分にしたが此の節米値段が下値になり前の通り7分にする・日雇賄い銭も4分→6分→4分とする）
1794年　9月6日 寛政6年　8月13日 なし
1794年　9月7日 寛政6年　8月14日 なし
1794年　9月8日 寛政6年　8月15日 なし （八幡宮御祭礼）
1794年　9月9日 寛政6年　8月16日 なし （人事異動:山崎図書を学校御用懸旗奉行勤料130俵増・唐牛大六を寄合勤料6両学校御用懸・葛西千之助等も）
1794年　9月10日 寛政6年　8月17日 なし
1794年　9月11日 寛政6年　8月18日 なし
1794年　9月12日 寛政6年　8月19日 なし （去月17・8日の頃木造新田遠山里村に野火・土中2尺ほど底焼き廻り馬1疋踏ぬかり焼斃）
1794年　9月13日 寛政6年　8月20日 なし
1794年　9月14日 寛政6年　8月21日 なし （水油の値段が1升7匁であったが今年の菜種が高値で1升7匁6分5厘とする、昨夜駒越組新岡村で火災1軒・老母焼死・火元百姓村預け）
1794年　9月15日 寛政6年　8月22日 なし
1794年　9月16日 寛政6年　8月23日 なし
1794年　9月17日 寛政6年　8月24日 なし
1794年　9月18日 寛政6年　8月25日 なし （6月中旬平川洪水の節十三町の男が古懸境内で切り取った帆柱を流した・この帆柱が大鰐村を通る際橋を壊した・橋の修理(材料)費等の536匁7分5厘もこの男の負担とする）
1794年　9月19日 寛政6年　8月26日 なし
1794年　9月20日 寛政6年　8月27日 なし
1794年　9月21日 寛政6年　8月28日 なし
1794年　9月22日 寛政6年　8月29日 なし
1794年　9月23日 寛政6年　8月30日 なし
1794年　9月24日 寛政6年　9月1日 曇 （野呂登を寄合学校御用懸に・福眞才吉を和徳組等六ヶ組の代官になどの人事異動）
1794年　9月25日 寛政6年　9月2日 曇 （当年8月中の平均金1両相場:105匁1分5厘）
1794年　9月26日 寛政6年　9月3日 曇 （近衛家からの借金等5350両と銀38貫400目があるのかな:福眞）
1794年　9月27日 寛政6年　9月4日 晴
1794年　9月28日 寛政6年　9月5日 曇
1794年　9月29日 寛政6年　9月6日 晴 （水油高値に付き菜種・魚油の他領江の売り出し停止）
1794年　9月30日 寛政6年　9月7日 晴
1794年　10月1日 寛政6年　9月8日 曇 昨夜中より雨降 （昨夜四時過ぎ西舘文之助宅の居宅長屋の内厩より出火・乗馬焼斃西舘の御奉公遠慮）
1794年　10月2日 寛政6年　9月9日 曇 今日時々雨降　下から続く　銀10匁の意味か:福眞)、地方在宅で引越しした者2人が病気等と称して交代勤めに出てこない・御奉公遠慮を仰せ付ける）
1794年　10月3日 寛政6年　9月10日 晴 ((御用人)松浦甚五左衛門等6人の屋敷を御用として御引上げ(恐らく藩学校用地:福眞)・各人に引越料を渡す、味噌10匁に付き目形7貫目値段にて……(7貫目の味噌が　上に続く
1794年　10月4日 寛政6年　9月11日 晴 （季節か特段の指示かは知らないが岩木嵩の湯治は停止・隠れ湯治人がいて勤番目付などと鬼ごっこ・理論闘争などしている）
1794年　10月5日 寛政6年　9月12日 晴 （杉13本の皮剥取(杉皮として建材になる)の過料(罰金)銭7貫800文）
1794年　10月6日 寛政6年　9月13日 曇 今日時々雨降 （五所川原村の男を手討ちにした御馬廻り与力(5月29日記載)の言い分がほぼ認められ御目見以下御留守居支配に役下げ・慎み、捕え方が不適切として何人かが慎み等）
1794年　10月7日 寛政6年　9月14日 晴
1794年　10月8日 寛政6年　9月15日 晴 （牧野左次郎を家老加増200石・棟方角之丞を用人役知の内100石加増・三橋勘之丞を用人役知100石等の人事異動）
1794年　10月9日 寛政6年　9月16日 晴 （弘前並びに在方九浦とも殊の外痢病流行・施役を調合して下し置かれるようにする）
1794年 10月10日 寛政6年　9月17日 曇 今日時々雨 （人事異動、紙御蔵に収納の綿100目に付き4匁5分値段で御目見以上に御払い）　下から続く　は当年の大坂御廻米で、大坂での売り払い米値段1両に9斗から9斗7升）
1794年 10月11日 寛政6年　9月18日 晴 （大組・御持筒・諸手組の火消高提灯に火消方と書き入れる、黒石平内領助白井村山に隠鋳銭あり・頭取出奔、当年9月までの江戸御常用金と10月以降の御不足金9490両余　上に続く
1794年 10月12日 寛政6年　9月19日 晴
1794年 10月13日 寛政6年　9月20日 曇 辰の刻過ぎより巳の刻頃まて雨降 （野稽古高覧）
1794年 10月14日 寛政6年　9月21日 晴 （海岸・離島の地図を幕府から求められたのかな?:福眞）
1794年 10月15日 寛政6年　9月22日 曇 昨夜中より雨　今日時々降 （油川村の抜け米犯人の人相書き:せい5尺3・4寸位など、助白井村の隠鋳銭頭取の人相書き:せい5尺1寸位など）
1794年 10月16日 寛政6年　9月23日 曇 昨夜中雨　今日時々ふる　今日岩木山ニ初雪降
1794年 10月17日 寛政6年　9月24日 曇 昨夜中より今日時々雨降
1794年 10月18日 寛政6年　9月25日 晴 朝の内曇　小雨
1794年 10月19日 寛政6年　9月26日 曇 昨夜雷雨　今朝に及ぶ　今日時々雨降
1794年 10月20日 寛政6年　9月27日 曇 昨夜中雷雨　今日時々雨降る
1794年 10月21日 寛政6年　9月28日 晴 今日酉の刻前曇　小雨即刻止
1794年 10月22日 寛政6年　9月29日 晴
1794年 10月23日 寛政6年　9月30日 曇 （人事異動）
1794年 10月24日 寛政6年　10月1日 晴 今朝霜強し （人事異動、波の間で御嚊子、御用人津軽中書が永孚と改名、生き亀差上げた男に御酒代30匁、生き鶴差上げた小嶋村の男に褒美鳥目70匁下し置かれる）
1794年 10月25日 寛政6年　10月2日 晴 今朝霜強し （8月中米値段平均1俵に付き28匁8分2厘・新酒1升に付き仮値段1匁1分5厘）
1794年 10月26日 寛政6年　10月3日 晴 今朝霜強し
1794年 10月27日 寛政6年　10月4日 晴
1794年 10月28日 寛政6年　10月5日 晴 今日未の刻過ぎより時々小雨
1794年 10月29日 寛政6年　10月6日 曇 今日時々小雨 （楠見荘司を郡奉行に等の人事異動、猥らがましい女等9人追放）
1794年 10月30日 寛政6年　10月7日 曇 昨夜中小雨
1794年 10月31日 寛政6年　10月8日 曇 （今日御稽古所で御嚊子）

1794年　11月1日 寛政6年　　10月9日 晴
1794年　11月2日 寛政6年　　10月10日 曇　昨夜中雨　今朝に及び止む　今日午の刻過ぎ小雨　則刻止
1794年　11月3日 寛政6年　　10月11日 曇　昨夜中雨降
1794年　11月4日 寛政6年　　10月12日 曇
1794年　11月5日 寛政6年　　10月13日 晴
1794年　11月6日 寛政6年　　10月14日 曇　昨夜子の刻前より雨　今日終日降　(川鮭1尺下し置かれる、悪戸村杉派に在宅の御家中の居宅近辺に狼・鉄砲打ちの申し出・夜中玉込めなしに脅しのために打つよう申付ける)
1794年　11月7日 寛政6年　　10月15日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨時々降　夜に入　(山方吟味役横岡井八郎を俵子10俵勤料増下し置かれ作事吟味役に)
1794年　11月8日 寛政6年　　10月16日 晴　(今日御舞台にて衣装を付け御囃子)
1794年　11月9日 寛政6年　　10月17日 晴
1794年 11月10日 寛政6年　　10月18日 曇　昨夜中風立　時々雷　今日時々雷雨
1794年 11月11日 寛政6年　　10月19日 曇　昨夜中初めて雪降り　今朝辰の刻過ぎに及び止　(今朝初雪に付き御家老・御城代・御用人が御機嫌伺い)
1794年 11月12日 寛政6年　　10月20日 曇　昨夜中今日時々雨降
1794年 11月13日 寛政6年　　10月21日 晴　(御中小姓格代官福眞才吉を山方吟味役に)
1794年 11月14日 寛政6年　　10月22日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　夜に入
1794年 11月15日 寛政6年　　10月23日 曇　昨夜中よりの雨今日時々降　巳の刻過ぎより雷終日降り夜に入
1794年 11月16日 寛政6年　　10月24日 曇　昨夜中より雷雨　今日時々降
1794年 11月17日 寛政6年　　10月25日 晴
1794年 11月18日 寛政6年　　10月26日 曇　昨夜中雷雨　今日時々雨降　午の刻過ぎより時々雪降　(今日御舞台御囃子)
1794年 11月19日 寛政6年　　10月27日 曇　昨夜中より時々雪降
1794年 11月20日 寛政6年　　10月28日 晴　昨夜中雨降り　(御目見以上は全員・御目見以下でも50石・100俵・10両以上は馬を買い練習しろとの指示)
1794年 11月21日 寛政6年　　10月29日 曇　今朝卯の刻過ぎ雷　同刻より終日雨降
1794年 11月22日 寛政6年　　10月30日 曇　昨夜中より雪降り　今日時々降
1794年 11月23日 寛政6年　　11月1日 晴　(人事異動、町の酒屋共が酒仮値段1升当り1匁1分5厘に文句・1匁4分を望み断られる)
1794年 11月24日 寛政6年　　11月2日 曇　今日時々小雨
1794年 11月25日 寛政6年　　11月3日 曇　昨夜中より今日雪時々降り
1794年 11月26日 寛政6年　　11月4日 曇　昨暁子の刻過ぎ地震　則刻止　昨夜中雪　今日時々降り　(今日は革秀寺に御仏参の予定であったが御不快に付き延引、御献上の鮭等高覧)
1794年 11月27日 寛政6年　　11月5日 曇　今日申の刻過ぎ雷雨
1794年 11月28日 寛政6年　　11月6日 晴　昨夜中雪降り　(長勝寺配下の蘭庭院を禁足・この秋岩木嵩に湯治の節女連れか)
1794年 11月29日 寛政6年　　11月7日 曇　今日午の刻過ぎより雨降　夜に入
1794年 11月30日 寛政6年　　11月8日 曇　昨夜中より今日雨終日降り
1794年　12月1日 寛政6年　　11月9日 曇　昨夜中風雨時々雪　今朝卯の刻過ぎより霙　辰の刻より雪終日降り　(石渡川出水四歩半・馬船小船とも往来なり兼ねる)
1794年　12月2日 寛政6年　　11月10日 曇　昨夜中雪二寸程積る　今日雪時々降
1794年　12月3日 寛政6年　　11月11日 曇　昨夜中雪一寸程積る　今日時々降
1794年　12月4日 寛政6年　　11月12日 曇　　下から続く　　四方追放家屋敷御取立家財欠所仰せ付けられる、12人を碇が関口送還・追放・鞭刑などに)
1794年　12月5日 寛政6年　　11月13日 晴　昨夜中雪三寸程降　(茂森町の夫婦4人を弘前より3里四方追放家財欠所・罪名:我共儀折々人寄いたし夜分口論構敷儀共有之旨相聞こえ不届きの者共に付き弘前より三里　　上に続く
1794年　12月6日 寛政6年　　11月14日 曇　昨夜中雨降
1794年　12月7日 寛政6年　　11月15日 晴　(伴才介を勘定奉行に等の人事異動)
1794年　12月8日 寛政6年　　11月16日 曇　今朝卯の刻前より終日雨降　夜に入　(御郡内惣人別帳初めて出来・御覧遊ばされる)
1794年　12月9日 寛政6年　　11月17日 曇　昨夜中より今日時々雨降　未の刻過ぎ雷
1794年 12月10日 寛政6年　　11月18日 曇　(今日御自身御能拝見)
1794年 12月11日 寛政6年　　11月19日 晴
1794年 12月12日 寛政6年　　11月20日 曇　昨夜中より雨　今日時々降
1794年 12月13日 寛政6年　　11月21日 晴
1794年 12月14日 寛政6年　　11月22日 晴　(去る19日高杉組高杉村で火災1軒・火元高無)
1794年 12月15日 寛政6年　　11月23日 晴
1794年 12月16日 寛政6年　　11月24日 晴　(人事異動、19日高杉村の火災は家1軒米3俵稲50束雑穀少々焼失・火元村預け、当月朔日より15日までの米1俵相場:19匁1分)
1794年 12月17日 寛政6年　　11月25日 曇　昨夜より時々霙降　(新穀一番相場?沖役入り1俵に付き:弘前24匁5分5厘・青森31匁7分5厘3毛・鰺ヶ沢26匁1分5厘・平均27匁4分8厘4毛平米26匁2分8厘4毛に当る、金1両は101匁立)
1794年 12月18日 寛政6年　　11月26日 曇　今日時々雪降
1794年 12月19日 寛政6年　　11月27日 曇　(今日浪の間で狂言尽仰せ付けられる、遠見番所は野内・宇鉄・長濱・月屋が出来・脇元は来春になる)
1794年 12月20日 寛政6年　　11月28日 晴
1794年 12月21日 寛政6年　　11月29日 曇　昨夜より時々雪降り
1794年 12月22日 寛政6年　閏11月1日 曇　昨夜より時々雪降　(人事異動)
1794年 12月23日 寛政6年　閏11月2日 曇　昨夜より大雪弐尺程　今日時々雪降り
1794年 12月24日 寛政6年　閏11月3日 曇
1794年 12月25日 寛政6年　閏11月4日 曇　昨夜雪少々降　(いろいろ人足の人数等が書いてあるが火消し・防火組織の初歩かな:福眞)
1794年 12月26日 寛政6年　閏11月5日 曇　今日午の刻過ぎより雪時々降　酉の刻前地震
1794年 12月27日 寛政6年　閏11月6日 曇　昨夜戌の刻前地震少々　夜中時々雪　五寸程積
1794年 12月28日 寛政6年　閏11月7日 晴　(青森御蔵に65750俵・鰺ヶ沢御蔵に71150俵駄下げ)
1794年 12月29日 寛政6年　閏11月8日 晴　昨夜雪少し降り　今日未の刻頃より雪時々降り　(両社並びに百沢下居宮が五穀成就の御守札持参)
1794年 12月30日 寛政6年　閏11月9日 晴　昨夜雪五寸程降
1794年 12月31日 寛政6年　閏11月10日曇　昨夜雪一尺程積る　今日時々吹雪　(十三潟が当月6日暮六時より翌7日朝五時までに早川口より残らず氷明ける)

1795年　1月1日 寛政6年 閏11月11日曇 昨夜大吹雪時々　雪五寸程積る
1795年　1月2日 寛政6年 閏11月12日曇 昨夜雪少々降 （高岡に献備の雉子一番(つがいと読んでください:福眞)鱈2尾差上げる）
1795年　1月3日 寛政6年 閏11月13日晴
1795年　1月4日 寛政6年 閏11月14日曇 昨夜吹雪
1795年　1月5日 寛政6年 閏11月15日曇 昨夜吹雪　今夜戌の一刻寒入 （竹内衛士を学校御用係に中田勇蔵を御中小姓に等の人事異動）
1795年　1月6日 寛政6年 閏11月16日曇 昨夜雪五寸程積る　今日時々吹雪
1795年　1月7日 寛政6年 閏11月17日曇 昨夜雪五寸程積る （東長町で居宅雪潰れ）
1795年　1月8日 寛政6年 閏11月18日曇 昨夜雪少し降
1795年　1月9日 寛政6年 閏11月19日曇 昨夜雪少々降 （去月13日朝喪月村領奥平部村沖で南部の船破船）
1795年　1月10日 寛政6年 閏11月20日曇 昨夜雪五寸程積る　今日時々雪
1795年　1月11日 寛政6年 閏11月21日曇 昨夜雪五寸程積
1795年　1月12日 寛政6年 閏11月22日曇 昨夜雪少々降り　戌の刻過ぎ地震少し （来月朔日日食に付き月並み出仕御用舎のお触れ）
1795年　1月13日 寛政6年 閏11月23日曇 昨夜雪七寸程積る
1795年　1月14日 寛政6年 閏11月24日曇 昨夜雪少々降
1795年　1月15日 寛政6年 閏11月25日曇 今日時々雪　申の刻過ぎ地震少し （酒値段1升に付き1匁1分とする）
1795年　1月16日 寛政6年 閏11月26日晴 （8月に舞戸村で揉め事の仲裁に入った代官小遣いに抵抗した3人を鞭刑5鞭五里四方追放家屋敷等は妻子になどの判決言い渡し）
1795年　1月17日 寛政6年 閏11月27日快晴 （この度御家中御手当て割合左(本書では右になる)の通り:1500石に1貫500目・俵子100俵に58匁等知行1石に1匁宛、焚炭は役に応じて現物支給・代銭は後日上納する）
1795年　1月18日 寛政6年 閏11月28日曇 今暁卯の刻過ぎより雨　終日止まず （古懸不動尊御出汗）
1795年　1月19日 寛政6年 閏11月29日快晴 （黒石藩から米4500石津出願・3500石仰せ付ける）
1795年　1月20日 寛政6年 閏11月30日曇 今朝雪時々降 （去る28日の雨にて岩木川出水・駒越橋痛損・小船にて往来）
1795年　1月21日 寛政6年　12月1日 曇 昨夜雪三寸程降り　今日時々雪 （今日辰の二刻日食に付き表方一統登城御用捨）
1795年　1月22日 寛政6年　12月2日 曇 今日時々雪 （黒石の津出米1000石出せなければ……・500石認めている）
1795年　1月23日 寛政6年　12月3日 曇 今日時々雪 （破戒の儀があった蘭庭院(11月6日に記載)の住職取放・三物取上げ・脱衣仰せ付けられる・弘前より七里追放・同行した青森の娘も青森より五里四方追放）
1795年　1月24日 寛政6年　12月4日 曇 昨夜雪四寸程積る　夜戌の刻頃地震少し
1795年　1月25日 寛政6年　12月5日 晴 （去月19日小泊村沖合に古鯨流れ寄せる）
1795年　1月26日 寛政6年　12月6日 曇 今日未の刻過ぎより雪七寸程積る　夜に入
1795年　1月27日 寛政6年　12月7日 晴 （古懸不動尊御出汗、油値段水油1升を7匁7分5厘値段に申付ける、蟹田で大亀1疋拾う甲を干してから差出すよう申付ける）
1795年　1月28日 寛政6年　12月8日 曇 昨夜雪少し降り　今日時々雪 （今朝藤代組鳥町村で出火・馬2疋穀物とも焼失・火元高無）
1795年　1月29日 寛政6年　12月9日 曇 昨夜雪少し降
1795年　1月30日 寛政6年　12月10日 曇 昨夜雪少し　今日巳の刻地震 （弘前より三里四方追放などあり）
1795年　1月31日 寛政6年　12月11日 晴 昨夜雪少し　今日朝の内雪降り
1795年　2月1日 寛政6年　12月12日 曇 昨夜雪少々降　朝の内雪 （4日出火の藤代組鳥町村の火元は村預け）
1795年　2月2日 寛政6年　12月13日 曇 昨夜雪少し降り
1795年　2月3日 寛政6年　12月14日 曇 今日時々雪
1795年　2月4日 寛政6年　12月15日 曇
1795年　2月5日 寛政6年　12月16日 曇 昨夜雪五寸程積る　今日時々雪降 （今日御継目御祝儀の御能）
1795年　2月6日 寛政6年　12月17日 曇
1795年　2月7日 寛政6年　12月18日 晴 申之刻頃雪少降 （去る14日浦町組高田村で出火・外馬屋と隣の外馬屋焼失）
1795年　2月8日 寛政6年　12月19日 曇 昨夜雪三寸程 （去月21日に江戸を立った蜜柑お荷物が今日到着）
1795年　2月9日 寛政6年　12月20日 晴 （今日浪の間で御囃子）
1795年　2月10日 寛政6年　12月21日 晴
1795年　2月11日 寛政6年　12月22日 晴 今日雪降り　　下から続く　　青森の博徒5人を五里四方追放・1人を野内関所から送り返し・居村端で博徒2人に鞭刑3鞭但し珍しく居村徘徊御免）
1795年　2月12日 寛政6年　12月23日 曇 昨夜雪七寸程積る　今日時々雪降 （今日御慰の御能・五山両寺薬王院が見物を仰せ付けられる・御能初り四時晩六半時頃相済む(10時に始まり19時頃終った?:福眞)、　　上に続く
1795年　2月13日 寛政6年　12月24日 曇
1795年　2月14日 寛政6年　12月25日 曇 （去る22日夜油川組油川村で出火・馬屋1軒）
1795年　2月15日 寛政6年　12月26日 曇 未の刻頃より雪降
1795年　2月16日 寛政6年　12月27日 曇 今日時々雪降り （25日赤田組野木村で出火・火元高無）
1795年　2月17日 寛政6年　12月28日 曇 （大道寺隼人(家老)に御加増150石・御目見以下御留守居支配横岡藤之助を御手廻り与力に等の人事異動、やたら褒美が多い:福眞）
1795年　2月18日 寛政6年　12月29日 曇 昨夜より雨　今朝に及ぶ　　下から続く　　当年植付候田畑の内旱魃にて仕付荒れ御座候間……損耗左の通り(古新田平均4歩9厘荒地並びに損耗など)、去月15日御家中の妻自害）
1795年　2月19日 寛政7年　正月1日　快晴 未の刻頃より雪降 （御領分田畑荒地並びに当作損耗御届之覚:去る卯年凶作後田畑荒地多く御座候処是迄年々開発相増し申し候得共爾今行届兼候荒地御座候・その上　　上に続く
1795年　2月20日 寛政7年　正月2日　曇 今日時々雪降
1795年　2月21日 寛政7年　正月3日　快晴 （御吉例金200両差出す、今晩御謡初・御囃子は御止め）
1795年　2月22日 寛政7年　正月4日　快晴 （例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる）
1795年　2月23日 寛政7年　正月5日　晴
1795年　2月24日 寛政7年　正月6日　曇 今日時々雪降
1795年　2月25日 寛政7年　正月7日　曇 昨夜雪降
1795年　2月26日 寛政7年　正月8日　晴
1795年　2月27日 寛政7年　正月9日　曇 今日未の刻より雪降
1795年　2月28日 寛政7年　正月10日　曇 昨夜雪七寸程降る　今日終日雪降

1795年　3月1日 寛政7年 正月11日　快晴 （森岡金吾(用人)に加増100石、明石安右衛門を物頭格に等の人事異動）
1795年　3月2日 寛政7年 正月12日　曇 今暁寅の刻過ぎより雨 辰の刻過ぎ止 今日時々雪降 風強し
1795年　3月3日 寛政7年 正月13日　曇 昨夜雪少々降 風強し 今日時々雪降
1795年　3月4日 寛政7年 正月14日　晴 今日未の刻過ぎ雨降
1795年　3月5日 寛政7年 正月15日　晴 昨夜風強 時々雨 （人事異動、去る24日(12月)公儀御拝借金当暮御上納分1000両を御金奉行に渡した）
1795年　3月6日 寛政7年 正月16日　曇 今日時々小雨降
1795年　3月7日 寛政7年 正月17日　曇
1795年　3月8日 寛政7年 正月18日　曇 昨夜雪七寸程降 今日時々雪降 （……旧冬より段々御登らせ金少なからずこの上当5月御廻船着岸までの御用金並びに御発駕金とも大部7500両余……）
1795年　3月9日 寛政7年 正月19日　曇 昨夜雪少々降 今日時々雪降 昨今余寒甚し （野火の際の過料(15歳以上1人に付き):1万坪以下5分・1万～3万坪1匁5分・3万～5万坪3文目・それ以上は別途沙汰・村役等にも）
1795年 3月10日 寛政7年 正月20日　曇 昨夜雪少し降 今日時々雪降
1795年 3月11日 寛政7年 正月21日　快晴
1795年 3月12日 寛政7年 正月22日　曇 昨夜亥の刻過ぎより雨降 今日時々雨降 （当年米値段下値……）
1795年 3月13日 寛政7年 正月23日　快晴
1795年 3月14日 寛政7年 正月24日　晴 今暁寅の刻過ぎ雨 卯の刻過ぎ止 則刻雪降 辰の刻前止 未の刻頃より雪吹
1795年 3月15日 寛政7年 正月25日　曇 昨夜よりの雪今日時々降
1795年 3月16日 寛政7年 正月26日　曇 昨夜雪少し降 頃日余寒強し
1795年 3月17日 寛政7年 正月27日　晴 (平沢三右衛門の倅小作などに御目見仰せ付ける、去る24日御家中の居宅取立て大工小屋焼失に付き御奉公遠慮）
1795年 3月18日 寛政7年 正月28日　曇 昨夜より雪降 （人事異動）
1795年 3月19日 寛政7年 正月29日　曇 昨夜の雪今朝に及ぶ （上納方御金奉行2人(御手廻り)を御馬廻りに役下げ・御金蔵手代が公金を貸した、博徒等多数を追放・鞭刑）
1795年 3月20日 寛政7年 正月30日　晴 今日未の刻より雪降
1795年 3月21日 寛政7年　2月1日 晴 昨夜雪降 今日未の刻頃より雪時々降 （葛西彦六を御手廻りになどの人事異動）
1795年 3月22日 寛政7年　2月2日 晴
1795年 3月23日 寛政7年　2月3日 快晴
1795年 3月24日 寛政7年　2月4日 快晴
1795年 3月25日 寛政7年　2月5日 曇 今日雪降 （籾御蔵が当春納めで詰め切りになる・当年御蔵1ヶ所御取立とする）
1795年 3月26日 寛政7年　2月6日 曇 今日終日雪降 （増館組下十川村の在宅中の御手廻り与力が開発すべき場所でもめて御目見え以下御留守居支配に役下げ・関係者も鞭刑・村払い等）
1795年 3月27日 寛政7年　2月7日 曇 昨夜雪降 （御当領船を他領名目にしている・例がなぜか(徴発逃れか)多いらしい:福眞）
1795年 3月28日 寛政7年　2月8日 晴
1795年 3月29日 寛政7年　2月9日 晴
1795年 3月30日 寛政7年　2月10日 晴
1795年 3月31日 寛政7年　2月11日 曇 昨夜よりの雨今朝に及ぶ （岩木川五歩の出水）
1795年　4月1日 寛政7年　2月12日 快晴 （去る9日夜赤田組野中村で出火1軒焼失・火元百姓）
1795年　4月2日 寛政7年　2月13日 晴 昨夜戌之刻小雨
1795年　4月3日 寛政7年　2月14日 晴 (今日射芸高覧）
1795年　4月4日 寛政7年　2月15日 曇 昨夜より雪降 （人事異動・改名、駒越組居森平村の山で学校御取立入用の大材を切り出している、公義御拝借金は去る暮までに御上納皆済・公義より証文が返される）
1795年　4月5日 寛政7年　2月16日 曇 昨夜亥の刻より雨降 今朝雪降 （博徒3人鞭刑・松前御用の人夫代を私曲した加代官(御目見以上御留守居支配)の御給分召上げ永の御暇・病中の同役福眞才吉を御目見以下に役下げ）
1795年　4月6日 寛政7年　2月17日 曇 昨夜中雪降
1795年　4月7日 寛政7年　2月18日 快晴 (今日剣術高覧）
1795年　4月8日 寛政7年　2月19日 曇 今日未の刻頃より雨降 （今日剣術高覧）
1795年　4月9日 寛政7年　2月20日 曇 昨夜中雨 今朝雪降 （去る13日より十三潟が残らず潟明け、公義御尋者の人相書き:せい5尺3寸位中肉など）
1795年 4月10日 寛政7年　2月21日 晴 (今日鎗術長刀高覧、西大工町などを潰れ町にする）
1795年 4月11日 寛政7年　2月22日 快晴 （昨21日昼頃大光寺組小和森村で火災1軒・火元高無）
1795年 4月12日 寛政7年　2月23日 快晴
1795年 4月13日 寛政7年　2月24日 曇 今朝より小雨
1795年 4月14日 寛政7年　2月25日 晴
1795年 4月15日 寛政7年　2月26日 晴
1795年 4月16日 寛政7年　2月27日 曇 (大釈迦・徳才子村の狩人2人が小熊二つ連れてくる・高覧、十三潟が去る19日早川口より残らず氷明ける）
1795年 4月17日 寛政7年　2月28日 快晴 （惣酒屋中が1升に付き1文目1分の酒値段を1文目3分に引上げ願・今5厘増を申付ける(1文目1分5厘にしたのか1文目3分5厘にしたのか不明:福眞)）
1795年 4月18日 寛政7年　2月29日 快晴 （博打をした掃除小人2人の御給分召し放ち永の暇・その他鞭刑追放等沢山）
1795年 4月19日 寛政7年　3月1日 曇 今日辰の刻より雨終日降 （人事異動）
1795年 4月20日 寛政7年　3月2日 晴 (玄圭院様(六代(と言われる)藩主信著)五十回御忌に伴う大赦:弘前並びに居村徘徊御免21人・その他出牢など3人）
1795年 4月21日 寛政7年　3月3日 曇 (昨夜五つ時過ぎ豊蒔村在宅の御家中屋敷焼失・御奉公遠慮） 下から続く ・主犯孫十郎の田畑家屋敷御取上家財欠所大場御構居村より五里四方追放・その他鞭刑等）
1795年 4月22日 寛政7年　3月4日 曇 昨夜雨強 今日時々小雨 （去月25日道中二本松御城下の御本陣並びに上下6丁程焼失・脇本陣は別状なし、(9月22日記述の)油川村の隠津出(米94俵)の関係者に判決 上に続く
1795年 4月23日 寛政7年　3月5日 晴
1795年 4月24日 寛政7年　3月6日 曇 辰之刻過ぎヨリ雨終日降
1795年 4月25日 寛政7年　3月7日 曇 昨夜中雨降 （御鷹野に出ていた屋形様が岩木川の出水で帰れない・革秀寺に泊か:福眞、去月29日青森博労町で小見せ屋根少々焼く）
1795年 4月26日 寛政7年　3月8日 晴 朝の内曇 （今朝木作より御帰城）
1795年 4月27日 寛政7年　3月9日 曇 昨夜より時々雨降 未の刻頃より晴
1795年 4月28日 寛政7年　3月10日 晴
1795年 4月29日 寛政7年　3月11日 曇 (御馬上にて四半時御発駕）
1795年 4月30日 寛政7年　3月12日 晴

1795年　5月1日 寛政7年　3月13日 晴
1795年　5月2日 寛政7年　3月14日 晴　今朝卯の刻過ぎより時々雨降
1795年　5月3日 寛政7年　3月15日 曇　昨夜中よりの雨今朝に及ぶ　終日降　夜に入　(松田常蔵を寄合格4両1人扶持の勤料増等の人事異動)
1795年　5月4日 寛政7年　3月16日 曇　昨夜中より雨今朝に及ぶ　終日降
1795年　5月5日 寛政7年　3月17日 晴　今暁酉の刻頃より雨降　(博打主催?の御家中(翌日の記述で御留守居支配)の御給分召上げ永の御暇)
1795年　5月6日 寛政7年　3月18日 晴　昨夜戌の刻頃まで雨降
1795年　5月7日 寛政7年　3月19日 曇　今日未の刻頃より時々小雨降　(田舎館組堂野前村の浅瀬石川中島に川流れ溺死の者あり)
1795年　5月8日 寛政7年　3月20日 晴　今日申の刻頃雨　則刻止
1795年　5月9日 寛政7年　3月21日 晴
1795年　5月10日 寛政7年　3月22日 曇　　下から続く　　盗木数の百倍の植付等の過料)
1795年　5月11日 寛政7年　3月23日 晴　(山守共に雑言・手荒く抵抗した盗杣の高根村百姓に居村端で鞭刑20・居村より五里四方追放・田畑等は妻子に下し置かれる、同類10人余にも鞭刑等・人夫20人や　　上に続く
1795年　5月12日 寛政7年　3月24日 曇　(2月21日昼小泊村で火災・97軒焼失・内87軒に米1俵宛(渡したかどうかは判らない:福眞))
1795年　5月13日 寛政7年　3月25日 曇　今日辰の刻頃より雨降　夜に入
1795年　5月14日 寛政7年　3月26日 曇　昨夜中よりの雨今朝午の刻頃まで降
1795年　5月15日 寛政7年　3月27日 曇
1795年　5月16日 寛政7年　3月28日 曇　今日未の刻より時々雨降　(竹内衛士を御持筒足軽頭格に等の人事異動)
1795年　5月17日 寛政7年　3月29日 曇
1795年　5月18日 寛政7年　3月30日 晴　(去る22日夜姥嶋村で出火・火元百姓村預け)
1795年　5月19日 寛政7年　4月1日 曇　今日午の刻過ぎより雨　申の刻頃まで降
1795年　5月20日 寛政7年　4月2日 曇　(去る3月15日(秋田県)刈和野で風雨強く神宮寺川出水参勤中の屋形様が留・19日御発駕)
1795年　5月21日 寛政7年　4月3日 曇
1795年　5月22日 寛政7年　4月4日 晴　(去月晦日豊川村で出火・居村預け、御家中(6日の記述で御家老与力)の病中の妻が流れ川で水死)
1795年　5月23日 寛政7年　4月5日 晴　(日記には3月5日と書いてある・4日・6日の干支と矛盾しないので4月・古文書らしい誤り:福眞)
1795年　5月24日 寛政7年　4月6日 晴
1795年　5月25日 寛政7年　4月7日 晴
1795年　5月26日 寛政7年　4月8日 曇　今日辰の刻頃より時々小雨降
1795年　5月27日 寛政7年　4月9日 晴　(去る11月青森に行って行方不明になった男が吉野田村付近で見付かる・狼等が食い荒らしている、深郷田村の盗杣男に12鞭五里四方追放家財欠所など数人・他に過料)
1795年　5月28日 寛政7年　4月10日 曇
1795年　5月29日 寛政7年　4月11日 曇
1795年　5月30日 寛政7年　4月12日 曇　今日卯の刻過ぎより雨　辰の刻頃迄降　　下から続く　　屋形様朔日朝草下の駅御発駕千住御昼にて夫より直ちに御老中様方御廻勤・刈和野の駅に3日逗留・どこかで1日短縮:福眞)
1795年　5月31日 寛政7年　4月13日 晴　(十三町の願龍寺を退院三里四方追放・末庵の僧を私に一間所に入れ秋田十二所に送り返すよう仰付けられた弟を隠し置いたため、徒党同様に協力した檀家も鞭刑追放等、　　上に続く
1795年　6月1日 寛政7年　4月14日 曇　今日午の刻頃雨降　則刻止
1795年　6月2日 寛政7年　4月15日 晴
1795年　6月3日 寛政7年　4月16日 晴
1795年　6月4日 寛政7年　4月17日 晴
1795年　6月5日 寛政7年　4月18日 曇　今日未の刻過ぎ小雨雷
1795年　6月6日 寛政7年　4月19日 晴　(頃日天気不勝に付岩木嵩江湯治人停止)
1795年　6月7日 寛政7年　4月20日 なし(日記の後半は存在するが天気の部分がない)
1795年　6月8日 寛政7年　4月21日 快晴
1795年　6月9日 寛政7年　4月22日 快晴　朝の内曇
1795年　6月10日 寛政7年　4月23日 快晴　朝の内曇
1795年　6月11日 寛政7年　4月24日 曇　今日午の刻過ぎ雷
1795年　6月12日 寛政7年　4月25日 曇
1795年　6月13日 寛政7年　4月26日 曇　今日未の刻過ぎ小雨降　則刻止
1795年　6月14日 寛政7年　4月27日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　巳の刻頃迄降　(去る18日夜浦町組荒川村で出火・家1軒焼失・火元百姓村預け)
1795年　6月15日 寛政7年　4月28日 快晴
1795年　6月16日 寛政7年　4月29日 快晴　朝の内曇　(去年6月に町居村の庄屋が娘引き連れて門外村を通ったところに不法の致し方の門外村の男4人に3鞭居村徘徊御免、博打をした金木村の男9人に3鞭居村徘徊御免)
1795年　6月17日 寛政7年　5月1日 晴　(蟹田より大亀(首尾差渡し三尺)差出す、神明宮に風雨和順の御祈祷を仰せ付ける)
1795年　6月18日 寛政7年　5月2日 晴
1795年　6月19日 寛政7年　5月3日 曇　昨夜戌の刻頃より雨　今日時々降　夜に入
1795年　6月20日 寛政7年　5月4日 曇　昨夜中時々小雨　今日午の刻過ぎ小雨　則刻止む
1795年　6月21日 寛政7年　5月5日 曇
1795年　6月22日 寛政7年　5月6日 曇　今日午の刻頃より時々小雨降
1795年　6月23日 寛政7年　5月7日 曇　(和徳町に住む大組足軽が3人に手傷を負わせ行方不明・人相書き:32歳・せい5尺4寸位中肉・平顔にて大あばた(久しぶりに濁点:福眞)など)
1795年　6月24日 寛政7年　5月8日 曇　(駒越組中畑村領後山で山方吟味役が野火焼の申し出・子供2人が蟹を取って焼いた火が廻った由・子供の儀は御免申付け親は戸〆の上過料)
1795年　6月25日 寛政7年　5月9日 曇　(7日の記事で負傷の足軽の女房死亡)
1795年　6月26日 寛政7年　5月10日 快晴　(7日の記事の足軽が立帰る・7日に切腹して傷が痛んだとか)
1795年　6月27日 寛政7年　5月11日 晴　　下から続く　　庄屋共連名の申し出でで帰村御免、一昨10日駒越組番館村で火災2軒・火元百姓他村預け、)
1795年　6月28日 寛政7年　5月12日 快晴　(銅屋町?で掃除小人が他人の女房を切り倒し自害・共に存命・その内に女房死亡、代官の内検見の際に村払い・家屋敷は妻子に下し置かれた男が農事最中のため　　上に続く
1795年　6月29日 寛政7年　5月13日 晴　(昨日自害の掃除小人も死亡)
1795年　6月30日 寛政7年　5月14日 晴　朝の内曇　(2月5日に横内組駒込村の猟師万次郎が熊1疋取った・黒石領大川平村の猟師専四郎が五人組でその付近に入山熊2疋取っていた・下山して代官の胆口封印も　　下に続く
上から続く　　貰えなかったが干して上納を申し出る、駒込村代庄屋などが黒石の猟師が弘前領で取った熊2疋を取り返しに行く・もめる・皮2枚は万次郎に胆は黒石と弘前に1個宛とする)

1795年　7月1日 寛政7年　5月15日 晴
1795年　7月2日 寛政7年　5月16日 曇　今日辰の刻頃より時々雨降　夜に入
1795年　7月3日 寛政7年　5月17日 曇　昨夜中より之雨今暁寅刻過迄降
1795年　7月4日 寛政7年　5月18日 曇　昨夜亥の刻頃より雨　今朝卯の刻頃まで降　(5月7日和徳組小沢村の溜池で男水死・孝心で生涯1人扶持の者・御扶持引上げ)
1795年　7月5日 寛政7年　5月19日 快晴
1795年　7月6日 寛政7年　5月20日 曇　今朝卯の刻過ぎより時々小雨降　夜に入
1795年　7月7日 寛政7年　5月21日 曇　昨夜中よりの雨今日に及ぶ時々降る
1795年　7月8日 寛政7年　5月22日 晴　今日未の刻過ぎ雷
1795年　7月9日 寛政7年　5月23日 曇　(檜4本盗み伐り偽刻印の男を村端で鞭刑9鞭とし居村より三里四方追放家屋敷は妻子に)
1795年　7月10日 寛政7年　5月24日 曇　今日午の刻過ぎ雷
1795年　7月11日 寛政7年　5月25日 晴　朝の内曇
1795年　7月12日 寛政7年　5月26日 曇　今日巳の刻過ぎより午の刻頃まで度々雷　則刻より雨　未の刻頃迄降
1795年　7月13日 寛政7年　5月27日 曇
1795年　7月14日 寛政7年　5月28日 晴
1795年　7月15日 寛政7年　5月29日 快晴
1795年　7月16日 寛政7年　6月1日 曇　昨夜戌の刻頃より雨　今朝に及ぶ　巳の刻頃止　申の刻頃より雨　夜に入　(吉村場左衛門隠居等の人事異動)
1795年　7月17日 寛政7年　6月2日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　巳の刻過ぎ迄降　(昨日より雨天で藤崎川出水・船通用差留める)
1795年　7月18日 寛政7年　6月3日 晴　(去年10月29日並びにその前に東光寺村で揉め事・その罰に3鞭組払いなど)
1795年　7月19日 寛政7年　6月4日 晴　今日未の六刻土用に入
1795年　7月20日 寛政7年　6月5日 快晴
1795年　7月21日 寛政7年　6月6日 快晴
1795年　7月22日 寛政7年　6月7日 曇
1795年　7月23日 寛政7年　6月8日 快晴
1795年　7月24日 寛政7年　6月9日 快晴　今日申の刻過ぎ雷
1795年　7月25日 寛政7年　6月10日 快晴　朝の内曇
1795年　7月26日 寛政7年　6月11日 晴　今暁寅の刻頃小雨　則刻止　未の刻頃雨　則刻止
1795年　7月27日 寛政7年　6月12日 快晴
1795年　7月28日 寛政7年　6月13日 晴
1795年　7月29日 寛政7年　6月14日 曇　昨夜よりの雨今朝卯の刻過ぎ迄降　今日午の刻過ぎより時々小雨　申の刻頃雷
1795年　7月30日 寛政7年　6月15日 曇　今朝卯の刻過ぎ小雨　則刻止　午の刻過ぎより時々小雨降　夜に入　頃日暑気強シ　(人事異動、公儀御役人2人が松前に向けて碇関通行)
1795年　7月31日 寛政7年　6月16日 曇　昨夜時々雨　今日午の刻過ぎより雨時々降　(去月28日に江戸を出立の牧野左次郎が昨日到着)
1795年　8月1日 寛政7年　6月17日 曇　昨夜よりの雨今朝卯の刻過ぎ迄降る　申の刻過ぎ小雨　(丹後者の詮索・送り返しを申付けている、最勝院に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1795年　8月2日 寛政7年　6月18日 晴
1795年　8月3日 寛政7年　6月19日 晴　今日辰の刻過ぎ小雨　則刻止　午の刻過ぎ雷　未の刻過ぎ雷
1795年　8月4日 寛政7年　6月20日 晴　朝の内曇
1795年　8月5日 寛政7年　6月21日 快晴　(南部表で土蔵を伐り破った盗賊2人を当月4日夜金木村で乞食手にて捕える・丁助並びに支配の者18人に御手当て鳥目50目下し置かれる)
1795年　8月6日 寛政7年　6月22日 快晴
1795年　8月7日 寛政7年　6月23日 晴　今日未の刻前雷雨　則刻止　(在宅御家中の家に夜中に忍び入り乱構敷儀の石川村の男4人に3鞭と組払い・庄屋五人組も戸〆)　下から続く　昨夜半頃より岩木川出水・流木流失)
1795年　8月8日 寛政7年　6月24日 曇　今日午の刻頃より時々小雨　申の刻過ぎより電　酉の刻頃より雷　夜に入　(甲冑の修復料などの話がある)　下から続く　・今年は日数引合6日節に引合9日遅い、　上に続く
1795年　8月9日 寛政7年　6月25日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　卯の刻過ぎまで降　今日午の刻過ぎより時々小雨　(大鰐村加賀助と兵左衛門より4月25日植付の初穂差上げる・去年は5月12日植付7月5日差上　上に続く
1795年　8月10日 寛政7年　6月26日 曇　昨夜中大雨　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ迄降　今日午の刻過ぎより時々大雨　夜に入る　(昨25日雨天にて夜九時前出水・駒越渡し往来差留める・流失木もある)
1795年　8月11日 寛政7年　6月27日 曇　昨夜時々雨降　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎより巳の刻頃迄風雨強　未の刻頃より時々小雨
1795年　8月12日 寛政7年　6月28日 晴
1795年　8月13日 寛政7年　6月29日 晴　下から続く　一昨28日深浦澗懸中の神戸船が出火・焼失)
1795年　8月14日 寛政7年　6月30日 曇　(御制法に用いる鞭は鯨鰭にて長さ4尺元幅1寸2・3歩末幅1寸位の平鞭だったが力一杯打ち難い等の理由で唐竹製長さ3尺5寸元口5分末口3分6厘に改める、　上に続く
1795年　8月15日 寛政7年　7月1日 曇　今日午の刻前より雨降　夜に入　(作事吟味役横岡伊八郎等に褒美)
1795年　8月16日 寛政7年　7月2日 曇　昨夜亥の刻頃まて雨降　今日巳の刻過ぎ小雨　則刻止
1795年　8月17日 寛政7年　7月3日 晴
1795年　8月18日 寛政7年　7月4日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　午の刻頃止　酉の刻頃より雨降　夜に入　(公儀お役人2人が去月30日五つ半時今別より松前に渡海)
1795年　8月19日 寛政7年　7月5日 曇　昨夜亥の刻頃より風雨強し　今朝に及ぶ　辰の刻頃止　(昨夜よりの風雨で駒越渡往来差留める、町々の用心向きが宜しくないので忍び廻り8人を申付ける)
1795年　8月20日 寛政7年　7月6日 曇　(4月に用水で喧嘩・傷害の種市村の男に3鞭と村払い・その相手は戸〆)
1795年　8月21日 寛政7年　7月7日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入
1795年　8月22日 寛政7年　7月8日 曇　昨夜中雨強し　今日に及び時々降　午の刻過ぎ止　(頃日天気不勝に付五山に風雨時順の御祈祷を仰せ付ける、昨夜中の雨で岩木川が5歩余の出水)
1795年　8月23日 寛政7年　7月9日 晴
1795年　8月24日 寛政7年　7月10日 快晴　(代官小遣いの女房が三嶽堂堤で水死)
1795年　8月25日 寛政7年　7月11日 晴　今朝卯の刻過ぎ小雨　即刻止　(人事異動)
1795年　8月26日 寛政7年　7月12日 晴
1795年　8月27日 寛政7年　7月13日 晴　今日申の刻小雨　即刻止
1795年　8月28日 寛政7年　7月14日 曇　今朝卯の刻頃より午の刻まで時々雨降
1795年　8月29日 寛政7年　7月15日 晴
1795年　8月30日 寛政7年　7月16日 曇　今日申の刻前より小雨　夜に入　下から続く　15日夜常盤組中島村で出火・火元高無村預け、昨夜中の雨で平川洪水・石川渡船往来差留め、岩木川中川原の流木2万本余流失)
1795年　8月31日 寛政7年　7月17日 曇　昨夜中時々大雨　今朝に及ぶ　辰の刻前止　(昨夜よりの大雨で岩木川8歩余の出水・大目付間宮等が配置に着く・二階堰水門口戸平(扉?:福眞)下し方難など、去る　上に続く

1795年　9月1日 寛政7年　7月18日 曇
1795年　9月2日 寛政7年　7月19日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　未の刻過ぎ止
1795年　9月3日 寛政7年　7月20日 曇
1795年　9月4日 寛政7年　7月21日 快晴　(柏木・常盤・増館・広田組の村々で田方437町2反5畝歩程畑方37町歩ほど水湛)
1795年　9月5日 寛政7年　7月22日 曇　午の刻過ぎ小雨　即刻止　申の刻頃小雨　即刻止
1795年　9月6日 寛政7年　7月23日 曇　未の刻過ぎ小雨　即刻止　申の刻頃小雨　即刻止　(当春山役人が廻ったのに金銭を送った・収賄役人は御給分召し放たれ十里四方追放・贈賄側も過料戸〆など)
1795年　9月7日 寛政7年　7月24日 曇　(去る21日昼七つ時頃青森中米町で失火早速防留める・町内を騒がせたので戸〆)
1795年　9月8日 寛政7年　7月25日 曇　巳の刻過ぎ小雨　即刻止
1795年　9月9日 寛政7年　7月26日 晴
1795年　9月10日 寛政7年　7月27日 曇　今朝辰の刻過ぎ雨降　即刻止　未の刻雨降　即刻止　今晩酉の刻過ぎより雨降　夜に入
1795年　9月11日 寛政7年　7月28日 曇　昨夜戌の刻頃まて雨降　今朝辰の刻過ぎより未の刻過ぎ迄時々小雨　(大鰐村加賀助と兵左衛門が初米差上げる・去年は8月4日差上げ・当年は日数に引合11日節に引合13日早い)
1795年　9月12日 寛政7年　7月29日 曇　昨夜戌の刻過ぎ雨　即刻止　今暁丑の刻頃より時々雨　卯の刻過ぎより風雨強し　午の刻頃止　(常盤組にも田方15町歩ほどの水湛、目屋野沢の流木が28000本くらい流失)
1795年　9月13日 寛政7年　8月1日 晴
1795年　9月14日 寛政7年　8月2日 快晴　(百沢寺より苔の実差上げる)
1795年　9月15日 寛政7年　8月3日 晴　今日申之刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入ル
1795年　9月16日 寛政7年　8月4日 曇　昨夜より之雨今日ニおよび時々降　巳之刻過雷　午之刻頃止ム(空欄は適宜入れ・よりは合字を分解した。その他は原文どおりである。:福眞)
1795年　9月17日 寛政7年　8月5日 曇　昨夜戌の刻頃より雨　雷強し　今日雨時々降　夜に入る
1795年　9月18日 寛政7年　8月6日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　巳の刻頃止む
1795年　9月19日 寛政7年　8月7日 快晴　(去る3日赤石組正道尻村で出火・火元高無)
1795年　9月20日 寛政7年　8月8日 曇　今日未の刻前小雨降　即刻止む　酉の刻頃雷雨　即刻止む
1795年　9月21日 寛政7年　8月9日 曇　今日巳の刻過ぎより未の刻過ぎ迄小雨時々降
1795年　9月22日 寛政7年　8月10日 曇　今朝辰の刻過ぎ雨降　即刻止む　(先頃水油仮値段1升に付き4文目)
1795年　9月23日 寛政7年　8月11日 曇　今日午の刻過ぎより申の刻頃まで雨降　(人事異動)
1795年　9月24日 寛政7年　8月12日 曇　昨夜亥の刻頃より雨　今暁寅の刻頃雷　朝の内風強し　今日時々風雨　寅の刻過ぎ止む
1795年　9月25日 寛政7年　8月13日 晴　(岩木川出水・船場通用差留める)
1795年　9月26日 寛政7年　8月14日 快晴　(岩木嵩の湯治の差し止め御免)
1795年　9月27日 寛政7年　8月15日 曇　(人事異動)
1795年　9月28日 寛政7年　8月16日 曇
1795年　9月29日 寛政7年　8月17日 晴
1795年　9月30日 寛政7年　8月18日 曇　今朝辰の刻頃より小雨時々降　夜に入　(小泊村類族長松の従弟が去る16日病死)
1795年　10月1日 寛政7年　8月19日 曇　昨夜よりの雨今日に及び時々降　午の刻頃雷　今朝岩木山江雪初めて見ゆる　(日付が9月19日となっている:干支は正しく古文書らしい誤り:福眞)
1795年　10月2日 寛政7年　8月20日 曇　今朝辰の刻過ぎより時々小雨降
1795年　10月3日 寛政7年　8月21日 晴　今暁寅の刻過ぎ雨降　即刻止む
1795年　10月4日 寛政7年　8月22日 晴
1795年　10月5日 寛政7年　8月23日 晴
1795年　10月6日 寛政7年　8月24日 曇　今朝霜強し　(正月朔日金木組金木村で山伏が病死・他領の者が病死したのに代官に届けずに埋葬したのは不届きとして五人組を戸〆)
1795年　10月7日 寛政7年　8月25日 曇　今日巳の刻過ぎより時々雨降　夜に入る
1795年　10月8日 寛政7年　8月26日 曇　昨夜戌の刻過ぎ迄雨降　今朝辰の刻頃小雨　即刻止む　(古懸不動尊御出汗)
1795年　10月9日 寛政7年　8月27日 曇　今日巳の刻過ぎより雨時々降　夜に入る
1795年 10月10日 寛政7年　8月28日 曇　昨夜よりの雨今日終日降　夜に入る　(岩木川五歩の出水・駒越渡し場の長船馬船とも通用差留める)
1795年 10月11日 寛政7年　8月29日 曇　昨夜よりの雨今日およひ時々降　夜に入る　(石渡川五歩の出水、21カ所?の遠見番所の特徴を示している)　下から続く　碇関街道の福嶋橋などが流失)
1795年 10月12日 寛政7年　8月30日 曇　昨夜中大雨　今朝に及び時々降　夜に入る　(天気不勝に付き岩木嵩への湯治は停止・これまでの湯治人は早速引取らせる、昨日洪水で薬王院・北横町・御徒町橋並びに　上に続く
1795年 10月13日 寛政7年　9月1日 曇　昨夜中小雨　今日未の刻頃より小雨　申の刻頃止む　(当八月中相場平均値段金1両代103文目8分)
1795年 10月14日 寛政7年　9月2日 晴
1795年 10月15日 寛政7年　9月3日 曇　今日午の刻過ぎより小雨時々降　夜に入
1795年 10月16日 寛政7年　9月4日 曇　昨夜中の雨今暁大雨　今朝に及ぶ時々降　夜に入　午の刻過ぎ霰降　(去月27日広田組で大雨・尻無川・大川出水、五山に日和揚げ御祈祷を仰せ付け・丹後者詮索)
1795年 10月17日 寛政7年　9月5日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止む　申の刻過ぎより雨降　夜に入る　(去月27日よりの大雨で金木組毘沙門村で飯詰川が破堤30丁余が水湛)
1795年 10月18日 寛政7年　9月6日 曇　昨夜よりの雨今暁寅の刻頃迄降　今日未の刻過ぎより時々小雨降　夜に入る
1795年 10月19日 寛政7年　9月7日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　巳の刻頃止む　(去る29日大光寺組・猿賀・藤代組の村々の洪水で刈り稲流失、藤代では稲嶋72島中33嶋流失)
1795年 10月20日 寛政7年　9月8日 晴
1795年 10月21日 寛政7年　9月9日 晴　(去月23日大間越町同心が出奔)
1795年 10月22日 寛政7年　9月10日 晴　昨夜子の刻過ぎ雨降
1795年 10月23日 寛政7年　9月11日 晴　今朝霜強し　(赤石安右衛門を御持筒足軽頭格に等の人事異動)
1795年 10月24日 寛政7年　9月12日 快晴
1795年 10月25日 寛政7年　9月13日 快晴　今朝霜強し
1795年 10月26日 寛政7年　9月14日 快晴　今朝霜強し　未の刻頃地震
1795年 10月27日 寛政7年　9月15日 晴　今朝霜強し
1795年 10月28日 寛政7年　9月16日 晴　(公儀御役人(18日の記述で6月15日に碇関に入った2人)12日三厩村江帰帆)
1795年 10月29日 寛政7年　9月17日 晴
1795年 10月30日 寛政7年　9月18日 曇　今暁寅の刻前より雨時々降　夜に入る
1795年 10月31日 寛政7年　9月19日 晴　昨夜亥の刻過ぎまで雨降　(米値段高値に付き酒値段の仮値段1匁7分を酒屋共が望む・1文目4分5厘に申付ける)

1795年　11月1日 寛政7年　　9月20日 快晴　今朝霜強し
1795年　11月2日 寛政7年　　9月21日 曇　今日巳の刻過ぎよりの雨申の刻頃迄降
1795年　11月3日 寛政7年　　9月22日 快晴
1795年　11月4日 寛政7年　　9月23日 曇　今日巳の刻頃より時々雨降
1795年　11月5日 寛政7年　　9月24日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　申の刻頃雷　（当正月より12月まで江戸表の御常用並びに不時御入用:1万2千984両2歩御不足）
1795年　11月6日 寛政7年　　9月25日 曇　昨夜よりの雨今日におよひ未の刻頃止む
1795年　11月7日 寛政7年　　9月26日 曇
1795年　11月8日 寛政7年　　9月27日 曇　今日午の刻頃より未の刻過ぎ迄小雨時々降　（御馬廻り与力15人が不届きに付き昨晩遠慮を申付けられる、日雇いの賄4分を米高値に付き6分とする、川鮭1尺下し置かれる）
1795年　11月9日 寛政7年　　9月28日 曇　今朝霜強し　辰の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ止む
1795年 11月10日 寛政7年　　9月29日 晴
1795年 11月11日 寛政7年　　9月30日 曇　今朝霜強し　（金を借りている津軽屋・山崎屋・茨城屋・伊勢屋に(1ヵ年取延べを)頼んでいる）
1795年 11月12日 寛政7年　　10月1日 快晴　今朝霜強し　申の刻頃より小雨降　夜に入る
1795年 11月13日 寛政7年　　10月2日 曇　昨夜戌の刻過ぎより風雨強し　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止む　（岩木川6歩の出水）
1795年 11月14日 寛政7年　　10月3日 曇　昨夜中初めて雪降　（4月に無手形米輸送等の油川の男に6鞭）
1795年 11月15日 寛政7年　　10月4日 晴
1795年 11月16日 寛政7年　　10月5日 曇　今暁寅の刻過ぎ霰降　即刻止む　今朝辰の刻前より時々雪降　夜に入る
1795年 11月17日 寛政7年　　10月6日 曇　昨夜亥の刻過ぎまて雪降
1795年 11月18日 寛政7年　　10月7日 曇　昨夜子の刻前地震　今日雨時々降る　午の刻頃霰降
1795年 11月19日 寛政7年　　10月8日 曇　昨夜中雨時々降
1795年 11月20日 寛政7年　　10月9日 曇　今日午の刻頃小雨降　即刻止む
1795年 11月21日 寛政7年　10月10日 快晴　（去る6日昼四時蟹田町で出火・馬屋1軒焼失・火元慎み）
1795年 11月22日 寛政7年　10月11日 曇　今日時々雨降
1795年 11月23日 寛政7年　10月12日 晴
1795年 11月24日 寛政7年　10月13日 晴　今朝霜強し　辰の刻前地震　（5月14日記述の駒込村の猟師が熊胆を封印受けないまま隠し売りした・この猟師に猟師取放ち3鞭居村徘徊御免を申し渡す）
1795年 11月25日 寛政7年　10月14日 曇　今朝卯の刻頃より時々小雨降
1795年 11月26日 寛政7年　10月15日 曇　昨夜時々小雨降　（人事異動、上総・下総の百姓共が日蓮宗不受不施の伝法を習い受けその身は勿論人にもすすめ重き御仕置きに相成り候物も有之……）
1795年 11月27日 寛政7年　10月16日 晴　今暁酉の刻頃より雨降(矛盾しますがこのように書いてあります:福眞)
1795年 11月28日 寛政7年　10月17日 曇　昨夜中雨降　今暁丑の刻頃より風雨強し　度々小雨　卯の刻前地震　今日時々風雨
1795年 11月29日 寛政7年　10月18日 曇　今日巳の刻頃より時々雨降　申の刻過ぎより雪降　夜に入る
1795年 11月30日 寛政7年　10月19日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　時々降
1795年　12月1日 寛政7年　10月20日 曇　昨夜中雪二寸程積る　今日時々雪降　（冨田村の郷蔵に入れた米88俵を行方不明(一部は百姓どもに貸付)にした加代官の知行召上げ永の御暇・代官なども役下げ戸〆など）
1795年　12月2日 寛政7年　10月21日 曇　今日時々雪降　（豆相場1文目に付き2升5合）
1795年　12月3日 寛政7年　10月22日 曇
1795年　12月4日 寛政7年　10月23日 曇　昨夜中雨降　今日時々小雨降
1795年　12月5日 寛政7年　10月24日 曇　昨夜中雪降　二寸程積る　今日時々雪降　夜に入る　（米高値に付き酒値段を1文目4分5厘から1文目5分5厘に）
1795年　12月6日 寛政7年　10月25日 曇　昨夜霙　亥の刻頃より度々雷雨強　今日申の刻頃より雪降　夜に入る
1795年　12月7日 寛政7年　10月26日 曇　昨夜よりの雪今日時々降　三寸程積る
1795年　12月8日 寛政7年　10月27日 曇　昨夜中雪二寸程積る　今日時々雪降　（水油1升代6文目2分にと油屋共が申し出る・1升に付き4文目8分に申付ける）
1795年　12月9日 寛政7年　10月28日 曇　今日時々雪降　申の刻頃より戌の刻頃まで雨降
1795年 12月10日 寛政7年　10月29日 曇　昨夜中風強し
1795年 12月11日 寛政7年　　11月1日 曇　今日時々雪降
1795年 12月12日 寛政7年　　11月2日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る　今日時々雪降
1795年 12月13日 寛政7年　　11月3日 曇　昨夜雪四寸程積る　今日時々雪降
1795年 12月14日 寛政7年　　11月4日 曇　昨夜中雪降　二寸程積る　今日時々雪降　（8月29日の洪水で大光寺・猿賀・藤崎・大鰐・田舎館・金木・藤代各組の川添で刈り稲流失・御免引き高並びに高懸銀の表あり:意味不明:福眞）
1795年 12月15日 寛政7年　　11月5日 快晴　（御献上の鱈が未納）
1795年 12月16日 寛政7年　　11月6日 曇　今日時々雪降
1795年 12月17日 寛政7年　　11月7日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る　今日時々雪降
1795年 12月18日 寛政7年　　11月8日 曇　昨夜中雪降　二寸程積る　今日時々雪降　（御雇い鐘撞き1ヶ月に18文目宛・米高値の内22文目下し置かれる）
1795年 12月19日 寛政7年　　11月9日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る　今日時々雪降　（十三潟が当月4日暮六つ時より翌5日朝まで早川口より残らず氷張る）
1795年 12月20日 寛政7年　11月10日 晴
1795年 12月21日 寛政7年　11月11日 曇　今朝辰の刻頃より雪降　巳の刻頃より小雨降　午の刻頃止む
1795年 12月22日 寛政7年　11月12日 曇　昨夜雪少し降　今日巳の刻頃雨降　（高岡江御台所頭より初鱈2尾差出す）
1795年 12月23日 寛政7年　11月13日 曇　今日時々雪降　四寸程積る
1795年 12月24日 寛政7年　11月14日 曇
1795年 12月25日 寛政7年　11月15日 晴　　下から続く　　6厘8毛・青森41文目1分3厘・鰺ヶ沢39匁7厘2毛・沖役入れて平均38文目5分5厘6毛(内1文目2分が御定め役)・金1両が104匁3分）
1795年 12月26日 寛政7年　11月16日 晴　今暁酉の刻過ぎ雨降　即刻止む　　下から続く　　御廻船2500石、米1俵代28文目5分(御家中に貸した炭代などをこの割で差し引く)、沖役入り米1俵値段:弘前35文目4分　　上に続く
1795年 12月27日 寛政7年　11月17日 曇　(来春の御廻米38300石:江戸15000石(御扶持方米7000・御廻米4500・同御家中買米で3500)・大坂28500石(御用米800・御廻米14000・同御家中買米で6000)・小山屋　　上に続く
1795年 12月28日 寛政7年　11月18日 曇
1795年 12月29日 寛政7年　11月19日 晴
1795年 12月30日 寛政7年　11月20日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨降　今朝に及ぶ　巳の刻過ぎ止む
1795年 12月31日 寛政7年　11月21日 快晴　今朝雪降　（黒石から津出4000石申し出で3000石申付ける）

1796年　1月1日 寛政7年　11月22日 曇　今朝雪降　巳の刻頃より時々雨降　夜に入る （一粒金丹20粒などを鴻池又右衛門に送る）
1796年　1月2日 寛政7年　11月23日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　終日降　申の刻過ぎより風強し
1796年　1月3日 寛政7年　11月24日 曇　昨夜亥の刻過ぎ迄風強し　子の刻より雪降　今朝に及び4寸程積る
1796年　1月4日 寛政7年　11月25日 曇　昨夜中雪少々降
1796年　1月5日 寛政7年　11月26日 曇　昨夜中雨降　今朝卯の刻頃止む
1796年　1月6日 寛政7年　11月27日 曇　今暁丑の初刻寒入 （御家老・御用人・大目付が学校見分）
1796年　1月7日 寛政7年　11月28日 晴 （御献上の雉子ようやく上がる、黒石の津出米に1000石追加）
1796年　1月8日 寛政7年　11月29日 曇　今暁丑の刻頃より雪降　五寸程積る
1796年　1月9日 寛政7年　11月30日 曇　昨夜中雪降　四寸程積る　今日時々雪降　　下から続く　　・俵子100俵に58文目・金10両に35文目）
1796年　1月10日 寛政7年　12月1日 曇　柵夜中時々吹雪 （街中惣油屋共が水油1升代銭4匁8分を6文目2分にするよう申し立てる・5文目に申付ける、当年作毛不熟に付き……、去年の通り御手当て:100石に100目　　上に続く
1796年　1月11日 寛政7年　12月2日 晴 （御買い下げ打綿の値段:目形1貫目に付き48文目8分2厘）
1796年　1月12日 寛政7年　12月3日 曇　今朝卯の刻頃より雨終日降　夜に入る　亥の刻過ぎ止む （秋田領の者に雇われ当領の鉛を掘った2人に15鞭居村払いと12鞭居村徘徊御免、検見の邪魔をした男2人に3鞭居村徘徊御免）
1796年　1月13日 寛政7年　12月4日 曇　今日時々雪降
1796年　1月14日 寛政7年　12月5日 曇
1796年　1月15日 寛政7年　12月6日 晴
1796年　1月16日 寛政7年　12月7日 晴 （昨夜猿賀組尾上村で出火）
1796年　1月17日 寛政7年　12月8日 曇　今朝雪降
1796年　1月18日 寛政7年　12月9日 曇　午の刻頃より小雨降　夜に入る　戌の刻頃止む （三厩より松前の運賃:2人乗り金1両1歩・3人乗り1両3歩・4人乗り2両1歩・5人乗り3両・6人乗り3両2歩・7人乗り4両2歩）
1796年　1月19日 寛政7年　12月10日 曇　今暁寅の刻頃より吹雪　巳の刻頃止む　今日時々雪降 （青森御蔵に駄下げ44632俵・鰺ヶ沢御蔵に89000俵送る計画）
1796年　1月20日 寛政7年　12月11日 曇　昨夜中雪降　四寸程積る　今日時々雪降
1796年　1月21日 寛政7年　12月12日 曇　今日時々雪降 （青森町奉行から南部御城下表江百姓共大勢あいつめるとの風説の報告）
1796年　1月22日 寛政7年　12月13日 曇　昨夜中雪降　今日時々雪降
1796年　1月23日 寛政7年　12月14日 曇　昨夜雪少々降 （町中惣酒屋共が酒値段1文目8分に申し出でる・1匁6分に申付ける、青森御蔵に4000俵・鰺ヶ沢御蔵に10000俵を送る(10日の物と送り出す蔵が異なる)）
1796年　1月24日 寛政7年　12月15日 曇 （人事異動）
1796年　1月25日 寛政7年　12月16日 快晴 （藤代組鳥町村(ちょうじょう村と読むらしい:福眞)で出火・火元高無、去る丑年(今年は卯年)4月在宅で数月不勤の御家中(御手廻り番頭)の知行から50石召上げ御馬廻りに役下げ）
1796年　1月26日 寛政7年　12月17日 曇　今日終日雪降 （米6771石余の代銭378貫950目余・銀204貫480目余が3400両余）
1796年　1月27日 寛政7年　12月18日 曇　今暁寅の刻より終日吹雪曇
1796年　1月28日 寛政7年　12月19日 快晴
1796年　1月29日 寛政7年　12月20日 曇 （頃日町々物騒:御留守居組など9人を別段忍び廻りに仰せ付ける）
1796年　1月30日 寛政7年　12月21日 快晴
1796年　1月31日 寛政7年　12月22日 快晴 （福館村の庄屋三右衛門などに褒美）
1796年　2月1日 寛政7年　12月23日 曇　今暁寅の刻過ぎより時々雨降　申の刻頃止む
1796年　2月2日 寛政7年　12月24日 快晴
1796年　2月3日 寛政7年　12月25日 曇　今暁寅の刻過ぎより時々雨降　申の刻頃止む
1796年　2月4日 寛政7年　12月26日 快晴　　下から続く　　足軽を身上召上げ大場御構い十里四方追放家財欠所・関係者も弘前追放）
1796年　2月5日 寛政7年　12月27日 晴 （尾太銅山は穿尽くし去る亥の年より同所峠の者共引き払い同年より碇ヶ関湯野沢の穿方を仰せ付けられたが出方不足……、5月に女房を殺害その母などに傷をつけた　　上に続く
1796年　2月6日 寛政7年　12月28日 快晴　今暁寅の刻過ぎより小雨降　夜に入る
1796年　2月7日 寛政7年　12月29日 曇　昨夜より雨　今日に及び時々降
1796年　2月8日 寛政7年　12月30日 曇
1796年　2月9日 寛政8年　正月1日　快晴　今暁寅の刻頃より雪少々降　卯の刻頃止　暖和
1796年　2月10日 寛政8年　正月2日　快晴　今朝霜降　余寒強し （旧臘晦日の晩田町の居宅雪潰れ）
1796年　2月11日 寛政8年　正月3日　快晴　今朝雪降　余寒強し　今日未の刻頃雪降 （今暁刀で勘定人自害・今日死亡）
1796年　2月12日 寛政8年　正月4日　晴　今朝霜降　余寒強し　朝の内雪少し降
1796年　2月13日 寛政8年　正月5日　快晴　今朝霜降　余寒強し
1796年　2月14日 寛政8年　正月6日　快晴　今朝霜降　余寒強し
1796年　2月15日 寛政8年　正月7日　晴
1796年　2月16日 寛政8年　正月8日　晴　昨夜子の刻過ぎ小雨　即刻止
1796年　2月17日 寛政8年　正月9日　曇　今暁寅の刻頃より風強し　辰の刻雨　未の刻止　申の刻雪降　戌の刻止
1796年　2月18日 寛政8年　正月10日　曇　今日時々雪降
1796年　2月19日 寛政8年　正月11日　曇　今日時々雪降　余寒強し （角田弥六を御手廻りに御加増10俵1人扶持賃料5俵1人扶持・中田勇蔵を学校数学御用懸に等の人事異動）
1796年　2月20日 寛政8年　正月12日　曇　今日時々雪降 （当月4日駒越組藤川村で出火・老母娘馬焼死・火元外出中であるが村預け）
1796年　2月21日 寛政8年　正月13日　快晴
1796年　2月22日 寛政8年　正月14日　晴　今日申の刻過ぎより雪降　戌の刻頃止 （去る12日広須組川除村で出火七面堂と庵焼失）
1796年　2月23日 寛政8年　正月15日　晴
1796年　2月24日 寛政8年　正月16日　晴
1796年　2月25日 寛政8年　正月17日　曇　今日時々雪降 （12日木造村実相寺焼失）
1796年　2月26日 寛政8年　正月18日　曇　今日吹雪強し　夜に入
1796年　2月27日 寛政8年　正月19日　曇　昨夜より雪　今日に及び時々降
1796年　2月28日 寛政8年　正月20日　晴　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　1尺五寸程積る
1796年　2月29日 寛政8年　正月21日　曇　昨夜よりの雪今朝止　今日時々雪降 （旧臘22日藤代組南浮田村で出火・家財諸道具等焼失、江戸で多くの家臣に褒美）

1796年　3月1日 寛政8年 正月22日　快晴
1796年　3月2日 寛政8年 正月23日　快晴
1796年　3月3日 寛政8年 正月24日　曇　昨夜中霙　今朝に及ぶ　卯の刻より雨降　巳の刻頃より時々雪降　(江戸から一粒金丹200粒登せとの指示に半剤のみを送る・残りは調合が完成次第送ることにする)
1796年　3月4日 寛政8年 正月25日　曇　今日吹雪強し　五寸程積る　夜に入
1796年　3月5日 寛政8年 正月26日　曇　昨夜よりの雪今日終日降　五寸程積る
1796年　3月6日 寛政8年 正月27日　曇　今日時々雪降
1796年　3月7日 寛政8年 正月28日　曇　今日時々雪降　(去る26日尾崎組尾崎村で出火・火元居村預り)
1796年　3月8日 寛政8年 正月29日　晴　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　五寸程積る
1796年　3月9日 寛政8年　2月1日 曇　今日時々雪降
1796年　3月10日 寛政8年　2月2日 晴
1796年　3月11日 寛政8年　2月3日 快晴
1796年　3月12日 寛政8年　2月4日 曇　昨夜戌の刻頃雷鳴　雨時々降
1796年　3月13日 寛政8年　2月5日 晴　昨夜子の刻頃より雨　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止　則刻より風強し　巳の刻頃止
1796年　3月14日 寛政8年　2月6日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　辰の刻過ぎ止　則刻より風強　申の刻過ぎ止
1796年　3月15日 寛政8年　2月7日 曇　今日午の刻頃より申の刻頃迄灰降
1796年　3月16日 寛政8年　2月8日 曇　昨夜中雪　今日に及び吹雪強し
1796年　3月17日 寛政8年　2月9日 晴　昨夜雪少し降
1796年　3月18日 寛政8年　2月10日 曇
1796年　3月19日 寛政8年　2月11日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止
1796年　3月20日 寛政8年　2月12日 曇　今日霞深く酉の刻頃より小雨降　(古懸不動尊御出汗)
1796年　3月21日 寛政8年　2月13日 晴　昨夜子の刻頃まで小雨降
1796年　3月22日 寛政8年　2月14日 快晴
1796年　3月23日 寛政8年　2月15日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　今日終日に及び降　夜に入　(三上鋭助などを学校武芸教授方を仰せ付ける、岩木川七歩通り洪水)
1796年　3月24日 寛政8年　2月16日 曇　昨夜よりの雨今日に及び時々降　未の刻過ぎ止
1796年　3月25日 寛政8年　2月17日 曇
1796年　3月26日 寛政8年　2月18日 曇　今朝辰の刻過ぎより雪降　巳の刻過ぎ止
1796年　3月27日 寛政8年　2月19日 曇　今朝卯の刻頃より辰の刻頃迄雪降　則刻より申の刻過ぎ止
1796年　3月28日 寛政8年　2月20日 晴　昨夜子の刻頃小雨降
1796年　3月29日 寛政8年　2月21日 快晴　(小山太郎兵衛を御手廻組に等の人事異動、十三ノ潟が16日朝六時頃より暮六時まで早川口より残らず氷明ける・去年より4日早く節に引き合い16日早い)
1796年　3月30日 寛政8年　2月22日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨降　則刻止
1796年　3月31日 寛政8年　2月23日 晴　朝の内雪降　(賭博宿が見付かり永のお暇を仰せ付けられたのにまだ止めていない元御家中に五里四方追放家財欠所)
1796年　4月1日 寛政8年　2月24日 快晴
1796年　4月2日 寛政8年　2月25日 晴
1796年　4月3日 寛政8年　2月26日 快晴
1796年　4月4日 寛政8年　2月27日 晴　今日申の刻過ぎより小雨　夜に入　(猿賀組新山村で失火・建屋外馬屋穀物等焼失・火元百姓居村預け)
1796年　4月5日 寛政8年　2月28日 曇　昨夜よりの風雨今日に及ぶ　終日風雨強し　(去年の作不熟に付き御備え籾を1ヵ年御免願・了)
1796年　4月6日 寛政8年　2月29日 晴
1796年　4月7日 寛政8年　2月30日 曇　今暁寅の刻過ぎより小雨降　未の刻頃止
1796年　4月8日 寛政8年　3月1日 曇　(去月26日青森御蔵が所々吹き剥げる、去る26日広須組川除村で出火・火元百姓村預け)
1796年　4月9日 寛政8年　3月2日 曇　今朝卯の刻頃より雪少々降　巳の刻頃より小雨　未の刻頃止　(学校の教科書を集めるのに苦労しているらしい:福眞)
1796年　4月10日 寛政8年　3月3日 曇　今日辰の刻過ぎより時々雪降　夜に入
1796年　4月11日 寛政8年　3月4日 曇　昨夜よりの雪今日に及ぶ　終日降る　弐寸程積る　(博打打ち3人に3鞭弘前追放・小人等は永の御暇など・五人組戸〆)
1796年　4月12日 寛政8年　3月5日 晴
1796年　4月13日 寛政8年　3月6日 曇　今日午の刻頃より時々小雨降　夜に入　戌の刻頃止
1796年　4月14日 寛政8年　3月7日 晴　(去月28日の大風で内真部湊領蓬田村沖合に水船体の船あり)
1796年　4月15日 寛政8年　3月8日 曇　今日巳の刻過ぎより小雨　夜に入　戌の刻頃止
1796年　4月16日 寛政8年　3月9日 晴　今朝卯の刻過ぎより時々霰降
1796年　4月17日 寛政8年　3月10日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨　則刻止
1796年　4月18日 寛政8年　3月11日 晴
1796年　4月19日 寛政8年　3月12日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今日に及ぶ　巳の刻過ぎより雪　午の刻過ぎより雨降　夜に入　戌の刻頃止　(正月8日夏井田村で大掛かりな隠し津出?現米71俵餅米9俵雪船7丁熊皮1枚押収)
1796年　4月20日 寛政8年　3月13日 曇　今日時々小雨降　申の刻頃止
1796年　4月21日 寛政8年　3月14日 快晴　(旧冬居宅全焼の秋田院内飛脚宿に御手当金2両を下し置かれる)
1796年　4月22日 寛政8年　3月15日 曇　今日巳の刻前より小雨降　未の刻過ぎより大雨　夜に入　(御家老喜多村監物が来る27日江戸表に・西の関相越す)
1796年　4月23日 寛政8年　3月16日 曇　昨夜亥の刻過ぎまで雨降
1796年　4月24日 寛政8年　3月17日 晴　(今日昼時頃より(赤石組)関村で出火・西風強く大火)
1796年　4月25日 寛政8年　3月18日 快晴　(去る15日広須組再賀村で出火・火元帰国人村預け)
1796年　4月26日 寛政8年　3月19日 曇　今暁寅の刻頃小雨　則刻止　(16日関村の大火で馬1疋その他焼失・火元高無)
1796年　4月27日 寛政8年　3月20日 晴
1796年　4月28日 寛政8年　3月21日 晴
1796年　4月29日 寛政8年　3月22日 快晴　(関村の大火:20軒と木小屋1軒・米150俵余・種籾並びに籾40俵余・雑穀60俵余・馬1疋・船1艘、大火の被災者70人に手当て米30俵下し置かれる)
1796年　4月30日 寛政8年　3月23日 晴

1796年　5月1日 寛政8年　3月24日 晴　今暁酉の刻頃より雨降　夜に入 （佐々木専右衛門が先だって仰せ付けられた紙筒20挺の内5挺が出来・御武具蔵に納める）
1796年　5月2日 寛政8年　3月25日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎより大風　未の刻頃雨止　酉の刻頃風止
1796年　5月3日 寛政8年　3月26日 晴
1796年　5月4日 寛政8年　3月27日 曇 （館野越村の林守に山崎勘左衛門あり）
1796年　5月5日 寛政8年　3月28日 曇
1796年　5月6日 寛政8年　3月29日 曇　今日午の刻過ぎより雨降　夜に入 （土渕川慈雲院下より和徳稲荷宮下川原まで松明を持った八目取……）
1796年　5月7日 寛政8年　4月1日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　巳の刻頃止 （原子隼太を御馬廻り二番組に等の人事異動、戒香院(津軽信寧)様十三回御忌に伴う大赦:出牢9人・居村等徘徊御免82人・追放御免1人）
1796年　5月8日 寛政8年　4月2日 快晴　今朝雪降(霜ではないかと悩むところ:福眞） （実戦部隊(例えば諸手足軽組)に配置する武具(鉄砲・薬研・弓等)数の表がある）
1796年　5月9日 寛政8年　4月3日 快晴
1796年　5月10日 寛政8年　4月4日 快晴　今朝雪降 （去月25日の大風により鰺ヶ沢前浜で5艘破船）
1796年　5月11日 寛政8年　4月5日 快晴
1796年　5月12日 寛政8年　4月6日 晴 （後潟組中沢村江利前沢山で山火事・昨5日暮れ頃鎮火）
1796年　5月13日 寛政8年　4月7日 曇　今日申の刻前より時々小雨降　夜に入 （去月25日の大風で小泊湊で水主2人水死、当時金相場104匁）
1796年　5月14日 寛政8年　4月8日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎまて降　午の刻前より風甚シ　申の刻頃止
1796年　5月15日 寛政8年　4月9日 晴　昨夜子の刻頃より今暁寅の刻過ぎ迄風強し
1796年　5月16日 寛政8年　4月10日 曇 （昨日の風雨で岩木川出水・流木流失）
1796年　5月17日 寛政8年　4月11日 晴 （柿崎某を学校物書きに）
1796年　5月18日 寛政8年　4月12日 曇
1796年　5月19日 寛政8年　4月13日 曇　今日申の刻頃雹降　則刻よりの雨夜に入　酉の刻過ぎ止 （去る6日鰺ヶ沢出帆の当御廻船が8日に秋田新屋沖で破船・御米残らず皆捨7人水死）
1796年　5月20日 寛政8年　4月14日 曇
1796年　5月21日 寛政8年　4月15日 曇　今日未の刻過ぎより雨降り　夜に入　戌の刻頃止
1796年　5月22日 寛政8年　4月16日 晴
1796年　5月23日 寛政8年　4月17日 晴 （一昨15日高杉組蒔苗村で出火・火元給地百姓村預け）
1796年　5月24日 寛政8年　4月18日 快晴
1796年　5月25日 寛政8年　4月19日 快晴
1796年　5月26日 寛政8年　4月20日 晴
1796年　5月27日 寛政8年　4月21日 曇　今日午の刻頃小雨降り　則刻止
1796年　5月28日 寛政8年　4月22日 曇
1796年　5月29日 寛政8年　4月23日 晴　朝の内曇り （今日学校棟上）
1796年　5月30日 寛政8年　4月24日 快晴
1796年　5月31日 寛政8年　4月25日 快晴
1796年　6月1日 寛政8年　4月26日 晴　今暁丑の刻頃小雨　則刻止　今朝卯の刻過ぎ少し地震
1796年　6月2日 寛政8年　4月27日 曇　今日未の刻前雷　則刻より小雨時々降　夜に入 （当御下向は日光社参に付き22日振りの道中・来月3日御発駕と仰せ付けられた）
1796年　6月3日 寛政8年　4月28日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　辰の刻頃止　申の刻頃小雨　則刻止 （当月15日岩崎村沖合で加賀船が水船・船と船頭1人行方不明、(多分)揃っていなかった御持筒組の装備を統一する）
1796年　6月4日 寛政8年　4月29日 曇　今日未の刻頃より度々雷　則刻より雨降　申の刻過ぎ止
1796年　6月5日 寛政8年　4月30日 曇　今暁寅の刻頃より雨　巳の刻過ぎ止
1796年　6月6日 寛政8年　5月1日 曇　今朝卯の刻過ぎ小雨　則刻止
1796年　6月7日 寛政8年　5月2日 曇 （南横町は湿地で井戸がなく坂本町から貰水をしていた・この度(藩士在宅で)坂本町が潰れ町になった・飲み水がなければ……・井戸を共同で管理するよう申付ける）
1796年　6月8日 寛政8年　5月3日 曇　今暁寅の刻頃小雨降り　則刻止
1796年　6月9日 寛政8年　5月4日 曇　今暁寅の刻過ぎ小雨降り　則刻止
1796年　6月10日 寛政8年　5月5日 曇　昨夜亥の刻過ぎ小雨　則刻止　今暁寅の刻頃より時々小雨
1796年　6月11日 寛政8年　5月6日 曇
1796年　6月12日 寛政8年　5月7日 曇
1796年　6月13日 寛政8年　5月8日 晴 （人事異動）
1796年　6月14日 寛政8年　5月9日 曇
1796年　6月15日 寛政8年　5月10日 晴
1796年　6月16日 寛政8年　5月11日 曇　今暁寅の刻頃より時々小雨降
1796年　6月17日 寛政8年　5月12日 曇
1796年　6月18日 寛政8年　5月13日 曇　昨夜子の刻頃より時々雨降　今日に及ぶ　申の刻過ぎ止
1796年　6月19日 寛政8年　5月14日 晴　今日未の刻前雷強し　則刻より雨刻(この刻は余分と思うが:福眞）　申の刻頃止
1796年　6月20日 寛政8年　5月15日 曇
1796年　6月21日 寛政8年　5月16日 晴
1796年　6月22日 寛政8年　5月17日 晴
1796年　6月23日 寛政8年　5月18日 曇　昨夜亥の刻頃より雨時々降　今朝に及ぶ　今日時々雨降り　申の刻頃止 （去月27日江戸発の御関札打ち到着）
1796年　6月24日 寛政8年　5月19日 晴
1796年　6月25日 寛政8年　5月20日 晴 （去々年12月の金木村の事件で6鞭と居村払いなど5人）
1796年　6月26日 寛政8年　5月21日 快晴
1796年　6月27日 寛政8年　5月22日 晴　朝の内曇り
1796年　6月28日 寛政8年　5月23日 晴
1796年　6月29日 寛政8年　5月24日 快晴　朝の内曇り （屋形様八時過ぎ御着城）
1796年　6月30日 寛政8年　5月25日 晴　朝の内曇り

1796年　7月1日 寛政8年　5月26日 曇　昨夜亥の刻過ぎより時々小雨　今日に及び時々降　夜に入 （大鰐村より真瓜並びに大角豆差上げる、当月22日後潟組中澤村で出火・外馬屋など4軒類焼・火元百姓他村預け）
1796年　7月2日 寛政8年　5月27日 曇　昨夜よりの雨今日に及び時々降　未の刻頃雷
1796年　7月3日 寛政8年　5月28日 曇　今日辰の刻前より時々雨降り
1796年　7月4日 寛政8年　5月29日 曇　今日辰の刻頃小雨　巳の刻頃止 （大鰐村より初茄子差上げる）
1796年　7月5日 寛政8年　6月1日 曇　今暁寅の刻過ぎより午の刻頃迄雨降り （人事異動）
1796年　7月6日 寛政8年　6月2日 曇　今朝辰の刻頃小雨降　則刻止　午の刻前より雨降り　未の刻頃止む （去月21日鰺ヶ沢出帆の御廻船が秋田戸鹿沖で荷打ち(船体を助けるために荷物を捨てること)・29日深浦入津）
1796年　7月7日 寛政8年　6月3日 曇
1796年　7月8日 寛政8年　6月4日 晴 （赤石組種里村で当春より狼多く馬が食われる・鉄砲1挺を貸し付ける・筒薬は代銭を上納させる）
1796年　7月9日 寛政8年　6月5日 曇　今朝卯の刻過ぎより小雨　辰の刻過ぎ止
1796年　7月10日 寛政8年　6月6日 晴
1796年　7月11日 寛政8年　6月7日 曇　申の刻過ぎ小雨　則刻止
1796年　7月12日 寛政8年　6月8日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降り　午の刻頃止
1796年　7月13日 寛政8年　6月9日 晴
1796年　7月14日 寛政8年　6月10日 曇　昨夜亥の刻頃より時々小雨　今朝に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1796年　7月15日 寛政8年　6月11日 晴
1796年　7月16日 寛政8年　6月12日 快晴 （奈良岡某が武士道に相拘るとして妻を手打ち）
1796年　7月17日 寛政8年　6月13日 晴　今暁戌の刻頃より小雨　則刻止(今暁と戌ノ刻は矛盾するが)
1796年　7月18日 寛政8年　6月14日 曇　今暁寅の刻頃よりの雨今日に及び時々降り　戌の五刻土用入
1796年　7月19日 寛政8年　6月15日 曇　昨夜子の刻過ぎより時々雨降り今朝に及ぶ　辰の刻過ぎ止 （杉山源吾を用人兼役・横岡井八郎を御馬廻り格に等の人事異動、学校建築・道中の御家中等に褒美）
1796年　7月20日 寛政8年　6月16日 曇　今朝辰の刻頃より小雨　今日時々降　未の刻頃止
1796年　7月21日 寛政8年　6月17日 晴　昨夜子の刻頃地震　未の刻過ぎ小雨　則刻止 （今朝牢破り逃走4人）
1796年　7月22日 寛政8年　6月18日 快晴 （昨朝中牢に入れた7人中4人が屋根を切破り逃走・残り3人は大牢に片付けた、逃走者の人相書き:せい5尺4寸位・5尺2寸位・5尺3寸位・5尺4寸位）
1796年　7月23日 寛政8年　6月19日 快晴
1796年　7月24日 寛政8年　6月20日 快晴 （今日八つ時過ぎ御供揃えで学校に御出遊ばされる、昨夜御家中の蚊遣りから出火、髪結いが大行院山下で縊死）
1796年　7月25日 寛政8年　6月21日 快晴
1796年　7月26日 寛政8年　6月22日 快晴
1796年　7月27日 寛政8年　6月23日 快晴 （山崎図書を大目付次順学校小司駕籠御免・中田勇蔵を数学学頭に・福眞才吉を御中小姓格数学添学頭に等の人事異動）
1796年　7月28日 寛政8年　6月24日 晴　今日午の刻過ぎより雷　未の刻過ぎ小雨　則刻止
1796年　7月29日 寛政8年　6月25日 快晴　午の刻過ぎより雷度々
1796年　7月30日 寛政8年　6月26日 快晴 （博打打2人に3鞭居村徘徊御免・五軒組合の者共と村役共戸〆）
1796年　7月31日 寛政8年　6月27日 快晴 （当月18日外瀬村の百姓の子が岩木川で水死・指図なしに片付け戸〆）
1796年　8月1日 寛政8年　6月28日 快晴 （学校で何かのお祭り、大鰐村加賀助より初穂差上げる・4月27日植付の物・去年は4月25日植付を6月25日に差上げで当年は植付日数引合2日遅く節に引合7日遅い）
1796年　8月2日 寛政8年　6月29日 快晴
1796年　8月3日 寛政8年　7月1日 晴 （人事異動）
1796年　8月4日 寛政8年　7月2日 晴
1796年　8月5日 寛政8年　7月3日 曇
1796年　8月6日 寛政8年　7月4日 快晴 （頃日在々所により虫付く・長勝寺に虫除けの御祈祷を仰せ付ける、祢婦た(ねぷた)の儀前々お触れの通り町内限りとの御目付触れ）
1796年　8月7日 寛政8年　7月5日 快晴 （惣油屋共が当年菜種不熟に付き油1升に付き7文目値段を申し出る・5文目5分値段に申付ける）
1796年　8月8日 寛政8年　7月6日 快晴　昨夜子の刻頃小雨降　則刻止 （平岡町の男の母川で水死・見分なしに葬り詮議）
1796年　8月9日 寛政8年　7月7日 快晴 （今日大暑に付き御礼廻り御用捨）
1796年　8月10日 寛政8年　7月8日 快晴
1796年　8月11日 寛政8年　7月9日 快晴 （金1両に付き104匁3分替え）
1796年　8月12日 寛政8年　7月10日 曇
1796年　8月13日 寛政8年　7月11日 快晴
1796年　8月14日 寛政8年　7月12日 晴　昨夜亥の刻頃より雷雨　今朝に及ぶ　今朝卯の刻頃止 （去る7日鍛治町の5・60人が獅子等を取り揃え他町へ入り込み酒屋に入り無体・13人縄下宿預け）
1796年　8月15日 寛政8年　7月13日 晴
1796年　8月16日 寛政8年　7月14日 曇　今日巳の刻頃より時々小雨降り
1796年　8月17日 寛政8年　7月15日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨　卯の刻頃より大風雨　辰の刻過ぎ止
1796年　8月18日 寛政8年　7月16日 晴
1796年　8月19日 寛政8年　7月17日 曇　今日巳の刻頃より小雨　未の刻前止 （去る15日朝の大風で鰺ヶ沢の御仮屋並びに御蔵所々吹き剥げ等の被害）
1796年　8月20日 寛政8年　7月18日 晴 （去る15日の大風で赤石組で潰家1軒・半潰れ7軒）
1796年　8月21日 寛政8年　7月19日 曇　今暁丑の刻雨降　寅の刻頃止　今日巳の刻過ぎより時々小雨　則刻止
1796年　8月22日 寛政8年　7月20日 曇　今朝卯の刻より雷雨　風強し　巳の刻前風止む　午の刻頃雨止
1796年　8月23日 寛政8年　7月21日 晴　今暁子の刻過ぎ雨降　則刻止
1796年　8月24日 寛政8年　7月22日 曇　今日未の刻過ぎ少し地震　則刻頃より小雨降　申の刻頃止
1796年　8月25日 寛政8年　7月23日 晴　朝の内曇り　昨夜丑の刻頃より時々雨降り　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止
1796年　8月26日 寛政8年　7月24日 晴 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる・当年は日数に引会6日早く節に引合15日早い、当月15日の強風で鰺ヶ沢付近で4艘破船）
1796年　8月27日 寛政8年　7月25日 快晴　今暁寅の刻過ぎ少し地震
1796年　8月28日 寛政8年　7月26日 快晴 （御家中方より御家中が盗み取った品を売りかつ隠した御家中を御給分召上げ大場御構い弘前より十里四方阿房払い家財闕所、不適切な山の管理をした庄屋・山守に6鞭など）
1796年　8月29日 寛政8年　7月27日 快晴 （一昨25日猿賀組尾上村で火災2軒・火元高無他村預け）
1796年　8月30日 寛政8年　7月28日 快晴
1796年　8月31日 寛政8年　7月29日 曇

1796年　9月1日 寛政8年　7月30日 快晴
1796年　9月2日 寛政8年　8月1日 快晴
1796年　9月3日 寛政8年　8月2日 快晴 (百沢寺が苔の実差上げる)
1796年　9月4日 寛政8年　8月3日 快晴 (生き亀を差上げた本町五丁目の日雇い頭に鳥目1貫文下し置かれる)
1796年　9月5日 寛政8年　8月4日 晴 (去月15日後潟組左関村で潰れ家1軒・同村長科村で破船2艘)
1796年　9月6日 寛政8年　8月5日 曇 今日巳の刻頃より小雨時々降り 未の刻頃より雨大風 申の刻過ぎ止　下から続く　町外に出た獅子舞が罰せられている)
1796年　9月7日 寛政8年　8月6日 晴 (去る3日昼七時頃横内組野内村で出火・火元高無村預け、昨日の大風で碇関街道並木松数百本風返・その他の被害)　下から続く　舞戸村0・3その他吹き剥げも、　上に続く
1796年　9月8日 寛政8年　8月7日 曇 今日巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止 (一昨日の大風で高岡御宮廻りに被害・場内所々の門などに被害・駒越・赤石組で潰れ家・半潰れ家(駒越村1・1・真土村3・0・　上に続く
1796年　9月9日 寛政8年　8月8日 晴
1796年 9月10日 寛政8年　8月9日 曇
1796年 9月11日 寛政8年　8月10日 晴 (町中惣油屋共が明油の5匁5分値段を7文目に申し出る・6文目に申付ける)
1796年 9月12日 寛政8年　8月11日 曇
1796年 9月13日 寛政8年　8月12日 曇 昨夜子の刻過ぎより雨 今日申の刻頃止 (在宅の御家中取持ちの堀越村の家が5日の大風で潰れる)
1796年 9月14日 寛政8年　8月13日 曇
1796年 9月15日 寛政8年　8月14日 曇 (5日の大風で鯵ヶ沢で御仮屋等に被害・能代船が破船)
1796年 9月16日 寛政8年　8月15日 曇 今日巳の刻頃より雨 則刻止 (今日八幡祭礼・四時前始まり九時過ぎ相済む)
1796年 9月17日 寛政8年　8月16日 晴 今日辰の刻過ぎ少々地震
1796年 9月18日 寛政8年　8月17日 曇
1796年 9月19日 寛政8年　8月18日 晴
1796年 9月20日 寛政8年　8月19日 曇 今日巳の刻過ぎより雨降 夜に入
1796年 9月21日 寛政8年　8月20日 曇 昨夜より雨 今日に及ぶ 終日降り夜に入 (割付奉公を親の仮病で帰ろうとした御持ち筒足軽の子を弘前より三里四方追放・その親は長柄の者に役下げ)
1796年 9月22日 寛政8年　8月21日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 午の刻頃止
1796年 9月23日 寛政8年　8月22日 晴
1796年 9月24日 寛政8年　8月23日 晴
1796年 9月25日 寛政8年　8月24日 曇 今朝辰の刻過ぎより雨降 夜に入 戌の刻頃止　下から続く　屋形様が居られる鯵ヶ沢に今夜四時過ぎに遠使を差し立てる)
1796年 9月26日 寛政8年　8月25日 曇 今日子の刻頃より雨降 未の刻頃止む (今別町奉行より申し出:松前様より江戸に早飛脚・魯亜西(これで魯西亜と書いたつもりだろう:福眞)人が蝦夷地着岸の風聞・
1796年 9月27日 寛政8年　8月26日 晴 (今22日夜四時頃松前様の早飛脚の足軽両名が今別に上がった、3000石くらいの異国船で先年の異国船より上品?、先頃の大風による寺社境内の風折れ木:杉20本松2本)
1796年 9月28日 寛政8年　8月27日 晴　下から続く　流木56本と炭30俵(70目代の積り)・御目見以下袴役流木12本炭なし(15文目代の積り)・同無袴流木4本炭なし(5文目代の積り))
1796年 9月29日 寛政8年　8月28日 曇 今日未の刻頃より雷雨 戌の刻過ぎ止 (例年の通り高別の流木並びに焚炭御貸渡:800石以上流木240本と炭80俵(300目代の積り)・高100石俵子200俵金20両以上　上に続く
1796年 9月30日 寛政8年　8月29日 曇 今日午の刻頃より雨降り (屋形様が昨28日御帰城、当月12日龍濱沖で十三町の船が水船になる)
1796年 10月1日 寛政8年　9月1日 曇 今朝辰の刻前雷 下刻より雨時々降 夜に入 (田村源次郎を御馬廻に等の人事異動)
1796年 10月2日 寛政8年　9月2日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 午の刻頃迄時々雨降
1796年 10月3日 寛政8年　9月3日 曇 今日午の刻過ぎ雨降 辰の刻止
1796年 10月4日 寛政8年　9月4日 曇 今日午の刻過ぎより時々雨降 戌の刻頃止 (山水の間で御献上の鷹高覧、当8月中日々の相場の平均:金1両が106匁3分)
1796年 10月5日 寛政8年　9月5日 快晴 (酒田表における米値段:金10両に付き26俵(4斗8升入り)・御国米1俵に付き33匁9分余に相当、御国米は4斗入りが42文目:良く判らない:福眞)
1796年 10月6日 寛政8年　9月6日 快晴 今朝霜強し
1796年 10月7日 寛政8年　9月7日 快晴 今朝霜強し
1796年 10月8日 寛政8年　9月8日 曇 (初鮭2尺御台所頭より差出す・御家老見分)
1796年 10月9日 寛政8年　9月9日 晴 今暁寅の刻頃より雨降 卯の刻頃止
1796年 10月10日 寛政8年　9月10日 晴 昨夜亥の刻頃より雷 則刻より風雨強 今暁卯の刻頃に及び止 今日午の刻過ぎ少し地震
1796年 10月11日 寛政8年　9月11日 晴
1796年 10月12日 寛政8年　9月12日 晴
1796年 10月13日 寛政8年　9月13日 曇 今日申の刻頃より雨降 夜に入 (今日御家老津軽多膳が江戸に出発)
1796年 10月14日 寛政8年　9月14日 曇 (昨夜一番町出火)
1796年 10月15日 寛政8年　9月15日 晴
1796年 10月16日 寛政8年　9月16日 晴
1796年 10月17日 寛政8年　9月17日 曇 昨夜亥の刻頃より時々雨降り 今日に及び終日降 夜に入
1796年 10月18日 寛政8年　9月18日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻止 今朝岩木山初雪見ゆる 巳の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (13日の火元は2軒の境・2人共戸〆)
1796年 10月19日 寛政8年　9月19日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々降り夜に入
1796年 10月20日 寛政8年　9月20日 晴 昨夜の雨今朝に及ぶ 卯の刻過ぎ止 (人相書きあり:せい5尺2・3寸位)
1796年 10月21日 寛政8年　9月21日 快晴 今朝霜強し (去る8日(江戸に報告が届いた日か)アフタ(虻田か)沖に異国船相見え候に付き早速船中見分した・国元はゑんげ蓮志ゆ(イギリスでしょうな)と申すことばかり漸く判った)
1796年 10月22日 寛政8年　9月22日 晴 今朝霜強し
1796年 10月23日 寛政8年　9月23日 曇 昨夜子の刻頃よりの雨今日に及 時々降り未の刻頃霰降
1796年 10月24日 寛政8年　9月24日 晴 (駒越組真土村の男が岩木川より生亀取り差上げ・御酒代鳥目1貫文下し置かれる、江戸表の御常用金の不足分は大坂御廻米代銀を充てる心算であった・頃日大坂の米価が下がり……)
1796年 10月25日 寛政8年　9月25日 曇 昨夜子の刻過ぎより雨降 今暁寅の刻過ぎ止 (狼狩の毒薬を調合しそれを用いて諸人の難儀を救ったとして褒美1貫文等)
1796年 10月26日 寛政8年　9月26日 快晴
1796年 10月27日 寛政8年　9月27日 曇 今朝霜強し
1796年 10月28日 寛政8年　9月28日 曇 昨夜戌の刻過ぎより時々小雨 今暁寅の刻頃止
1796年 10月29日 寛政8年　9月29日 曇 昨夜子の刻過ぎより雨降 今日におよひ時々降 夜に入
1796年 10月30日 寛政8年　9月30日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々風雨強 夜に入 申の刻過ぎ霰降
1796年 10月31日 寛政8年　10月1日 曇 昨夜よりの風雨今朝に及ぶ 卯の刻頃止 (当年より学校天文学頭が暦を差上げる)

1796年　11月1日 寛政8年　　10月2日 曇
1796年　11月2日 寛政8年　　10月3日 快晴　今朝霜強し
1796年　11月3日 寛政8年　　10月4日 曇　今日巳の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止
1796年　11月4日 寛政8年　　10月5日 快晴　今朝霜強し
1796年　11月5日 寛政8年　　10月6日 快晴　今朝霜強し
1796年　11月6日 寛政8年　　10月7日 曇　今朝卯の刻過ぎより時々雨降　申の刻過ぎ雷雨　酉の刻過ぎより風雨　子の刻頃止む
1796年　11月7日 寛政8年　　10月8日 曇　今朝卯の刻過ぎ初めて雪降　今日時々雪降　亥の刻頃止　(今日大的射方高覧)
1796年　11月8日 寛政8年　　10月9日 曇　(花田幸之助を御手廻格郡奉行手伝いに等の人事異動)
1796年　11月9日 寛政8年　10月10日 曇　今暁寅の刻過ぎより時々雨降　今日申の刻頃止
1796年 11月10日 寛政8年　10月11日 曇　(去月8日より当月8日まで30日間平均米値段:1俵に付き24匁8分9厘・御定法により新酒1升代1匁3分5厘)
1796年 11月11日 寛政8年　10月12日 快晴　(昨夜土手町で出火・半潰れ等まで12軒・火元入寺の上慎み)
1796年 11月12日 寛政8年　10月13日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降り　夜に入
1796年 11月13日 寛政8年　10月14日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　午の刻頃風雨強　夜に入　(岩木川出水・駒越石渡船場が昨夜より往来差留める、外が濱上磯等に鹿多く鉄砲打ち方申付ける)
1796年 11月14日 寛政8年　10月15日 曇　昨夜よりの風雨今暁寅の刻頃止　(御囃子が八つ半時過ぎに始り暮六時頃済む、11日土手町出火に出動した者共に褒美:銀5両・鳥目1貫文など)
1796年 11月15日 寛政8年　10月16日 快晴
1796年 11月16日 寛政8年　10月17日 曇　今日午の刻より雨　夜に入
1796年 11月17日 寛政8年　10月18日 晴　昨夜の雨子の刻頃止
1796年 11月18日 寛政8年　10月19日 曇　昨夜子の刻前より時々雨　今朝卯の刻頃止　今日未の刻過ぎより雨降　夜に入　亥の刻過ぎ止　(宮川彦六が仕込んだ味噌を(銀)10匁に付き6貫500目として御家中に貸す出す)
1796年 11月19日 寛政8年　10月20日 晴
1796年 11月20日 寛政8年　10月21日 快晴　今朝霜強し　(11日土手町の火元の入寺・慎み免許)
1796年 11月21日 寛政8年　10月22日 快晴　今朝霜強し
1796年 11月22日 寛政8年　10月23日 快晴　今朝霜強し　(水論の上8月8日夜に男に傷を負わせた種市村の男に24鞭村払い、自分船を他領船として乗回した油川村の男の船を取上げ戸〆、帳外の馬を高く売った馬喰に6鞭など)
1796年 11月23日 寛政8年　10月24日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今日に及び時々降り　夜に入　(別段廻り増の9人仰せ付けられる)
1796年 11月24日 寛政8年　10月25日 曇　昨夜より雨時々降　今日卯の刻前より雪時々降　　下から続く　　勤め方不行届の勘定小頭を御目見以下に)
1796年 11月25日 寛政8年　10月26日 晴　今朝午の刻過ぎ雪少々降　(去る20日(後潟組)小橋村で出火・稲草(28日に記述で家)焼失建馬焼斃、給地を百姓から取上げた?御家中の半知召上げ御馬廻り江御役下げ、　　上に続く
1796年 11月26日 寛政8年　10月27日 晴　(昨夜桶屋町小見世屋根に投げ火・早速取り消す)　　下から続く　　物騒に付き……、豆腐屋共より新大豆が高く豆腐の寸面減少願いが出ている・方3寸に高1寸2歩にと申付ける)
1796年 11月27日 寛政8年　10月28日 曇　(人事異動、昨27日夜寺町に投げ火・少々燃えたと別段廻りの報告、松前に向かう公儀御役人7人程が平内に、年々一粒金丹を鴻池に下し置かれている、頃日弘前表　　上に続く
1796年 11月28日 寛政8年　10月29日 曇　昨夜少々雪降　未の頃より雨降　申の刻過ぎ止　　下から続く　　弘前に宿がないので学校の明き寮を流用する)
1796年 11月29日 寛政8年　　11月1日 晴　(人事異動、頃日町々物騒に付き物頭が町分け廻り(大組頭山田剛太郎は長町寺町鉄砲町鞘師町百石町大浦町蔵主町担当など7人)と別段忍び廻り6人宛5組、在宅中で　　上に続く
1796年 11月30日 寛政8年　　11月2日 曇　昨夜中雪降り　(蝦夷地阿婦た(虻田)沖合の異国船が8月27日出帆しゑとも(室蘭市)沖に・29日同所出帆)
1796年　12月1日 寛政8年　　11月3日 晴　(去月28日金木組深郷田村で出火・類焼あり・火元医者他村預け)
1796年　12月2日 寛政8年　　11月4日 曇　今暁寅の刻前より雪降　今日に及び時々降　(忍び廻り等が5人捕える)
1796年　12月3日 寛政8年　　11月5日 曇　昨夜より雪　今日に及ぶ　一尺程積る
1796年　12月4日 寛政8年　　11月6日 曇　昨夜雪少々降　今日時々雪降
1796年　12月5日 寛政8年　　11月7日 曇　昨夜よりの雪今暁に及ぶ　二寸程積る　(在宅の御家中が家作の萱を小乳にして置いていたら火打・目かね・三ツめ錐などが入った風呂敷包が出てくる)
1796年　12月6日 寛政8年　　11月8日 曇　今日時々雪降
1796年　12月7日 寛政8年　　11月9日 曇　今日時々雪降　(当年は米値段も下値にて……)
1796年　12月8日 寛政8年　10月10日 晴
1796年　12月9日 寛政8年　11月11日 晴　(金2000両が銭213貫400目(但し3月相場金1両が106匁7分立て))
1796年 12月10日 寛政8年　11月12日 曇　昨日の夜雪降　(人相書き:せい5尺4寸5歩位など)
1796年 12月11日 寛政8年　11月13日 晴　(8月の鷹狩りに無礼をした高杉村の男に3鞭居村徘徊御免)
1796年 12月12日 寛政8年　11月14日 晴　昨夜中雪少し降　(町廻り物頭・別段廻りの面々を引き取る)
1796年 12月13日 寛政8年　11月15日 曇　昨夜中雪少し降　(青森御蔵に駄下げ68150俵・鰺ヶ沢御蔵に駄下げ130000俵)
1796年 12月14日 寛政8年　11月16日 曇　昨夜中雪少し降
1796年 12月15日 寛政8年　11月17日 晴
1796年 12月16日 寛政8年　11月18日 曇　昨夜中風雨強し　卯の刻過ぎ止　(当月朔日より15日までの米相場1俵22匁平均値段)
1796年 12月17日 寛政8年　11月19日 曇　今日午の刻過ぎ雨降　夜に入　(入札一番相場(米沖役入り1俵):弘前30匁4分5厘・青森36匁6分7厘・鰺ヶ沢32匁2分8厘・内1匁2分が御定役・平均1俵31匁9分3厘・金1両103文目)
1796年 12月18日 寛政8年　11月20日 曇　昨夜よりの雨今朝に及　辰の刻過ぎ止　(今日波の間で御囃子・御家老御用人は勝手次第見物、検見の際百姓が逃げ去るという失態があった加代官・郡所小頭・代官手代・庄屋に追放等)
1796年 12月19日 寛政8年　11月21日 曇　昨夜雪少し降　(人事異動)
1796年 12月20日 寛政8年　11月22日 曇　昨夜中より雪　今日時々降　(水油1升を5匁8分値段に仰せ付ける)
1796年 12月21日 寛政8年　11月23日 快晴
1796年 12月22日 寛政8年　11月24日 快晴
1796年 12月23日 寛政8年　11月25日 晴　(人相書き:せい5尺4寸位など)
1796年 12月24日 寛政8年　11月26日 曇　昨夜雪少し降り　今日時々雪降り
1796年 12月25日 寛政8年　11月27日 曇　昨夜中雪壱尺程降　(当時の鴻池は武右衛門から倅又右衛門に・これまでどおり200俵10人扶持)
1796年 12月26日 寛政8年　11月28日 曇　今朝辰の刻頃より時々雪降り　(別段廻り引取る)
1796年 12月27日 寛政8年　11月29日 曇　今日時々雪降　(高岡御献上の鱈2尾御台所頭より差上げる)
1796年 12月28日 寛政8年　11月30日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降り
1796年 12月29日 寛政8年　　12月1日 曇　昨夜中雪少々降り　今日時々雪降　(御小姓組頭の小山孫左衛門(塚原卜伝流の継承者かな)を長柄奉行格に等の人事異動、舌の根が乾かない内に鴻池は200石10人扶持)
1796年 12月30日 寛政8年　　12月2日 曇　昨夜風強　雪6寸程積　今日時々雪降
1796年 12月31日 寛政8年　　12月3日 晴

1797年　1月1日 寛政8年　12月4日 曇
1797年　1月2日 寛政8年　12月5日 晴　昨夜少々雪降
1797年　1月3日 寛政8年　12月6日 曇　昨夜雪四寸程降　今日終日雪降
1797年　1月4日 寛政8年　12月7日 曇
1797年　1月5日 寛政8年　12月8日 曇　今朝卯の八刻寒入
1797年　1月6日 寛政8年　12月9日 晴　(油川村の抜米の男に12鞭と追放・その仲間には9鞭と居村徘徊御免、不法に木を切り出した在宅御家中(翌日の記述で御馬廻)を御留守居組に役下げ)
1797年　1月7日 寛政8年　12月10日 晴
1797年　1月8日 寛政8年　12月11日 曇
1797年　1月9日 寛政8年　12月12日 曇　今日午の刻過ぎより雨降　(手形の印行を切り抜き手形にした?本町の男を30鞭と弘前より十里四方追放家財欠所、盗み男に3鞭)
1797年　1月10日 寛政8年　12月13日 晴
1797年　1月11日 寛政8年　12月14日 晴
1797年　1月12日 寛政8年　12月15日 曇　今朝辰の刻頃雨降　(一昨13日夜大組与力が家・御収納米焼失)
1797年　1月13日 寛政8年　12月16日 曇　今日時々雪降　(今日能舞台で御慰の御能)
1797年　1月14日 寛政8年　12月17日 曇　昨夜雪少々降　(流木御家中に貸し出し・御家老衆200本(252匁)四奉行27本(30匁2分4厘)など)
1797年　1月15日 寛政8年　12月18日 快晴　昨夜雪六寸程積る
1797年　1月16日 寛政8年　12月19日 晴　下から続く　娘を奪い取った梅田村の男に30鞭と居村より十里四方追放・その仲間6人に3鞭居村徘徊御免)
1797年　1月17日 寛政8年　12月20日 曇　今日時々雪降　(盗み杣を手助けした山守に6鞭と村払い・盗み杣の村人13人と庄屋に3鞭居村徘徊御免、他村の男と逃げた女房に15鞭と十里四方追放、嫁入りが決まった　上に続く
1797年　1月18日 寛政8年　12月21日 曇　今日時々雪降　申の刻過ぎ地震　(人事異動・褒美(銀9両・金200疋・銀7両・同(金の誤りか)100疋・銀5匁と並んでいる・価値はこの順か:福眞)
1797年　1月19日 寛政8年　12月22日 晴　昨夜中雪吹強し　(在宅知行取に指示:百姓たちに御定め以外に過役等を申付けるな)
1797年　1月20日 寛政8年　12月23日 曇　昨夜より雪今朝に及ぶ　四寸程積る　今日時々雪降り　夜に入
1797年　1月21日 寛政8年　12月24日 曇　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　五寸程降
1797年　1月22日 寛政8年　12月25日 晴
1797年　1月23日 寛政8年　12月26日 曇　昨夜少々雪降
1797年　1月24日 寛政8年　12月27日 晴　昨夜雪六寸程積る　下から続く　・草切5月20日より7月10日・出穂6月28日より7月20日・村納9月14日より11月3日まで、御郡内猟師が36人・しかし熊胆不足・猟師頭などを定める)
1797年　1月25日 寛政8年　12月28日 晴　(人事異動・褒美、耕作の終始:種浸2月3日より3月11日・打発同月朔日より4月10日・種蒔込3月17日より4月6日・塊掻3月28日より5月4日・田植同月朔日より6月7日まで　上に続く
1797年　1月26日 寛政8年　12月29日 曇　今日時々雪降　(一昨27日赤田組懸落林村で出火・火元百姓村預け)
1797年　1月27日 寛政8年　12月30日 曇　今日午の刻過ぎより雪降　未の刻過ぎより雪吹
1797年　1月28日 寛政9年　正月1日　晴　昨夜雪時々降　六寸程積
1797年　1月29日 寛政9年　正月2日　晴
1797年　1月30日 寛政9年　正月3日　快晴　(今晩酉の刻御謡初)
1797年　1月31日 寛政9年　正月4日　曇　今日時々雪降　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1797年　2月1日 寛政9年　正月5日　曇　昨夜中雪四寸程降
1797年　2月2日 寛政9年　正月6日　晴
1797年　2月3日 寛政9年　正月7日　晴
1797年　2月4日 寛政9年　正月8日　曇　今日午の刻過ぎ迄雪降
1797年　2月5日 寛政9年　正月9日　晴
1797年　2月6日 寛政9年　正月10日　晴　昨夜中雪五寸程降　今日時々雪降　午の刻前々刻過ぎ地震少し
1797年　2月7日 寛政9年　正月11日　曇　昨夜中雪少し降　今日時々雪降　(津軽頼母に加増100石・津軽永孚を馬廻組頭兼役等の人事異動)
1797年　2月8日 寛政9年　正月12日　曇　昨夜中吹雪強し
1797年　2月9日 寛政9年　正月13日　曇　昨夜より今日終日雪降
1797年　2月10日 寛政9年　正月14日　晴
1797年　2月11日 寛政9年　正月15日　曇　昨夜中より今日終日雪降
1797年　2月12日 寛政9年　正月16日　晴
1797年　2月13日 寛政9年　正月17日　曇　(今日御誕生日に付き御慰の御囃子浪の間で)
1797年　2月14日 寛政9年　正月18日　晴
1797年　2月15日 寛政9年　正月19日　晴
1797年　2月16日 寛政9年　正月20日　晴
1797年　2月17日 寛政9年　正月21日　曇　昨夜中雨降　今暁に至止　今朝霞立　今日時々雨降　夜に入
1797年　2月18日 寛政9年　正月22日　曇　昨夜中時々雨降　風立　(酒仮値段1升1文目3分5厘を寒造相成米下値に付き1匁2分5りに申付ける)
1797年　2月19日 寛政9年　正月23日　曇
1797年　2月20日 寛政9年　正月24日　曇　昨夜中時々霰降　(後潟組大川平・三厩村で鹿狼荒れる・打払いのための鉄砲2挺を拝借させる)
1797年　2月21日 寛政9年　正月25日　曇　昨夜雪少々降　(御陸尺加勢2人(5尺5寸7歩・5尺6寸)を新規召抱え、在所中の御家中が多く百姓との縁組・役柄不釣合いの縁組も願いによって仰せ付けることとする)
1797年　2月22日 寛政9年　正月26日　曇
1797年　2月23日 寛政9年　正月27日　快晴
1797年　2月24日 寛政9年　正月28日　曇　昨夜中雪3寸程降　(人事異動)
1797年　2月25日 寛政9年　正月29日　晴　昨夜中雪少々降
1797年　2月26日 寛政9年　正月30日　晴　(人相書き:せい5尺4寸位等)
1797年　2月27日 寛政9年　2月1日　曇　今日未の刻過ぎ霰降　(屋形様願いの通り名改・越中守となる)
1797年　2月28日 寛政9年　2月2日　曇　昨夜中雪少々降　今日少々雪降

1797年　3月1日 寛政9年　2月3日 曇
1797年　3月2日 寛政9年　2月4日 曇
1797年　3月3日 寛政9年　2月5日 曇
1797年　3月4日 寛政9年　2月6日 快晴　昨夜戌の刻過ぎより雨降　今暁寅の刻過ぎ止　昨夜戌の刻頃雷鳴
1797年　3月5日 寛政9年　2月7日 曇
1797年　3月6日 寛政9年　2月8日 晴　(今日昼九つ時前(大道寺)隼人屋敷で出火、勘定人成田某出奔)
1797年　3月7日 寛政9年　2月9日 曇　昨夜中雪8寸程降　今日時々雪降
1797年　3月8日 寛政9年　2月10日 晴　昨夜雪少し降
1797年　3月9日 寛政9年　2月11日 晴　策や中雪少し降　(赤石安右衛門と菊池寛司に50石宛御加増等の人事異動)
1797年　3月10日 寛政9年　2月12日 晴
1797年　3月11日 寛政9年　2月13日 曇　昨夜丑の刻過ぎより風強　今朝卯の刻止　(御金を内借した上納方御金奉行の半知召上げ御目見以上御留守居組に役下げ)
1797年　3月12日 寛政9年　2月14日 曇　(今日御家中の剣術・和術高覧、龍濱崎(竜飛岬)で鹿15疋狩取る、去る12日夜青女子村で出火)
1797年　3月13日 寛政9年　2月15日 曇　昨夜雪少し降
1797年　3月14日 寛政9年　2月16日 曇
1797年　3月15日 寛政9年　2月17日 曇　今日雪降
1797年　3月16日 寛政9年　2月18日 曇　昨夜中雪降
1797年　3月17日 寛政9年　2月19日 曇　昨夜中雪少し降　今日雪時々降　　下から続く　　御留守居組頭津軽大炊之助の知行100石召上げ退役)
1797年　3月18日 寛政9年　2月20日 曇　昨夜中雪5寸程降　今日時々雪降　(御用人松浦甚五左衛門の半知召上げ隠居・森岡金吾の半知召上げ退役・御留守居組頭豊島勘左衛門の半知召上げ隠居・　　上に続く
1797年　3月19日 寛政9年　2月21日 曇　(今日御慰の御囃子)
1797年　3月20日 寛政9年　2月22日 曇
1797年　3月21日 寛政9年　2月23日 曇　昨夜雪少し降　今日時々雪降
1797年　3月22日 寛政9年　2月24日 曇　昨夜雪少し降　(来月10日御発駕、今日学校釈奠(せきてん:孝子を祭った儀式か)、酒屋どもの申し立てにより酒値段1升1文目2分5厘を1分増しの1文目3分5厘に仰せ付ける)
1797年　3月23日 寛政9年　2月25日 晴　　下から続く　　食い潰した人・5人・5人・2人にそれぞれ9鞭居村徘徊御免、博打・その宿等の悪人10人ほどに3鞭町払いなど)
1797年　3月24日 寛政9年　2月26日 快晴　(屋形様が今日狩衣の御装束で学校に御出で・御祭事四つ半に初り八ツ半時に済む・御帰城七つ半時)　　下から続く　　不明:福眞、駄下げ米数十俵を引受けて届けず　　上に続く
1797年　3月25日 寛政9年　2月27日 快晴　(御家中召使給銭割合:上中間90目1人扶持・中中間75文目1人扶持・下中間60目1人扶持・小者50目半人扶持かな:福眞、御切米四歩一渡し等の言葉が見えるが意味　　上に続く
1797年　3月26日 寛政9年　2月28日 曇　今朝辰の刻前より雨降　夜に入
1797年　3月27日 寛政9年　2月29日 曇　昨夜雨時々降　今日朝の内雨降
1797年　3月28日 寛政9年　3月1日 曇　(昨28日夜八つ頃広田村の専念寺焼失・住職慎み)
1797年　3月29日 寛政9年　3月2日 曇　今朝卯の刻前小雨　則刻止　辰の刻前より雨時々降　(岩木川八歩余・藤崎川の出水・駒越渡しの仮橋取り払う・馬船長船とも往来差留める)
1797年　3月30日 寛政9年　3月3日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨少し降　(今日学校で養老の御饗、古懸不動尊御出汗)
1797年　3月31日 寛政9年　3月4日 曇　　下から続く　　の身上召上げその子に100石御留守居組、学生6人を退学・蟄居等)
1797年　4月1日 寛政9年　3月5日 晴　(去る2日広田組藻川村で洪水・堤4箇所押破り鶴ヶ岡・高瀬両村が水湛)　　下から続く　　作事方役人を偽った横岡某に永の御暇、度々村中を騒がした在宅の奈良岡某　　上に続く
1797年　4月2日 寛政9年　3月6日 晴　今日巳の刻過ぎ地震少し　　下から続く　　勤め方不届きとして唐牛大六(藩学校の学頭)を御留守居組に・学寮から夜毎他出の森山某(学生)を永の御暇・権柄を以って　　上に続く
1797年　4月3日 寛政9年　3月7日 晴　今日申の刻過ぎより小雨降　夜に入　(去る朔日に十三潟残らず氷明ける・去年は2月16日朝四時頃より暮六時までに・当年は日数に引合14日遅く節に引合4日遅い、　　上に続く
1797年　4月4日 寛政9年　3月8日 曇　昨夜中よりの雨今日時々降　(山田剛太郎を御留守居組頭に・松田常蔵を寺社奉行に等の人事異動、岩木川出水・駒越渡場よりの渡差留める・藤崎川も馬船往来なり兼ねる)
1797年　4月5日 寛政9年　3月9日 曇　(優良学生小笠原某に2人扶持下し置かれる)
1797年　4月6日 寛政9年　3月10日 曇　未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎより霙降　夜に入　(巳の刻過ぎ御馬上にて御発駕)
1797年　4月7日 寛政9年　3月11日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日申の刻頃より雨降　夜に入　(古懸不動尊御出汗)
1797年　4月8日 寛政9年　3月12日 曇　昨夜中より今朝巳の刻頃まで時々降
1797年　4月9日 寛政9年　3月13日 晴　今日未の刻頃少々地震　(大円寺の住持と不義の女に15鞭と十里四方追放・見届けながら内済にした夫に9鞭、町預け中に出奔の掃除小人に6鞭と碇が関送り返し)
1797年　4月10日 寛政9年　3月14日 晴　(町中に90歳以上なし・最高齢が85歳)
1797年　4月11日 寛政9年　3月15日 曇　昨夜より雨今朝に及ぶ　巳の刻頃止
1797年　4月12日 寛政9年　3月16日 晴　(御収納米の過取立ての庄屋に3鞭居村徘徊御免・6俵を返す条件で)
1797年　4月13日 寛政9年　3月17日 快晴
1797年　4月14日 寛政9年　3月18日 曇　昨夜亥の刻頃少々地震　今日小雨終日降　夜に入　酉の刻過ぎ止　則刻より風強し
1797年　4月15日 寛政9年　3月19日 曇　昨夜中風強　今暁寅の刻頃止　今日辰の刻頃より時々雪降
1797年　4月16日 寛政9年　3月20日 晴
1797年　4月17日 寛政9年　3月21日 快晴
1797年　4月18日 寛政9年　3月22日 曇　今日申の刻頃より雨降　夜に入　(三上鋭助を新長屋で慎み・番人昼夜6人宛)
1797年　4月19日 寛政9年　3月23日 曇　昨夜亥の刻頃迄雨降　今朝辰の刻過ぎより雨降　午の刻頃止　(岩木川五歩の出水)
1797年　4月20日 寛政9年　3月24日 曇　今朝卯の刻過ぎより時々雪降　申の刻頃雨降　夜に入　戌の刻過ぎ止　(一昨22日金木新田大沢内村で出火・萱家1軒焼失・火元高無村預け5日で御免)
1797年　4月21日 寛政9年　3月25日 曇　今日未の刻頃より時々小雨降　　下から続く　　去る冬願いの筋ありとして徒党を呼びかけた豊田村の男に6鞭と居村徘徊御免・村内から罪人が出た庄屋等にもそれなりの罰)
1797年　4月22日 寛政9年　3月26日 曇　(平沢三右衛門にお尋ねの御用ありとして在所で逼塞とする、12月18日夜米を隠津出の小橋村の男に15鞭と追払い家財は妻子に・その仲間2人に3又は6鞭と居村徘徊御免、　　上に続く
1797年　4月23日 寛政9年　3月27日 晴　今暁丑の刻頃霰降　今日辰の刻過ぎ雨降　則刻止
1797年　4月24日 寛政9年　3月28日 晴
1797年　4月25日 寛政9年　3月29日 晴
1797年　4月26日 寛政9年　3月30日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　申の刻頃止ム　即刻より風強し　夜に入
1797年　4月27日 寛政9年　4月1日 晴　昨夜より之風今日におよひ申の刻頃止ム　(岩木川が出水・駒越川船渡し差留める、去月28日田舎館組堂野前村で出火・火元百姓)
1797年　4月28日 寛政9年　4月2日 快晴　(去月30日紙漉澤村で木小屋焼失・火元村預け、御薬園畑の内砂糖植え付け方の儀……)
1797年　4月29日 寛政9年　4月3日 晴
1797年　4月30日 寛政9年　4月4日 晴　今日未の刻頃雨降　即刻止む

1797年　5月1日 寛政9年　4月5日 晴 （土渕川の八目取に明松を燈すなとのお触れ）
1797年　5月2日 寛政9年　4月6日 曇 昨夜戌の刻頃雷発　則刻よりの雨今日に及備時々降　申の刻頃止
1797年　5月3日 寛政9年　4月7日 曇 昨夜よりの雨今日におよひ時々降 （横内組長森村の猟師助右衛門が熊3疋取った・3貫文下し置かれる）
1797年　5月4日 寛政9年　4月8日 晴
1797年　5月5日 寛政9年　4月9日 晴 今日申の刻過ぎより雨降　夜に入
1797年　5月6日 寛政9年　4月10日 曇 昨夜よりの雨今日に及び時々降 （駒越川出水・馬船往来差留める）
1797年　5月7日 寛政9年　4月11日 曇 今日時々雨降　巳の刻頃霙降　午の刻過ぎより時々風強 （博打宿の男に3鞭と弘前追放・家屋敷等は妻子に、博打をした者共5人にも3鞭町徘徊御免）
1797年　5月8日 寛政9年　4月12日 曇 昨夜中時々風雨　今朝卯の刻頃霙降
1797年　5月9日 寛政9年　4月13日 晴
1797年　5月10日 寛政9年　4月14日 曇 今日午の刻過ぎより雨時々降　夜に入
1797年　5月11日 寛政9年　4月15日 曇 昨夜時々雨降　今朝卯の刻過ぎ止む　午の刻頃霰降　即刻より時々雨降
1797年　5月12日 寛政9年　4月16日 晴
1797年　5月13日 寛政9年　4月17日 晴 （この度唐内坂に御茶屋御立て・外廻りの生垣等を申し出る）
1797年　5月14日 寛政9年　4月18日 曇 今日午の刻過ぎ小雨降　則刻止　申の刻過ぎ小雨降　則刻止
1797年　5月15日 寛政9年　4月19日 晴 （昨18日昼八時頃和徳組小沢村で出火・隣家類焼・火元百姓に慎み(21日に記述)、頃日天気不勝に丹後者を詮索するよう申し触れる）
1797年　5月16日 寛政9年　4月20日 晴
1797年　5月17日 寛政9年　4月21日 晴 （昨19日久渡寺門前で出火・火元に慎みを申付ける）
1797年　5月18日 寛政9年　4月22日 曇
1797年　5月19日 寛政9年　4月23日 曇 今日巳の刻過ぎより時々雨降　夜に入
1797年　5月20日 寛政9年　4月24日 曇 昨夜中時々雨降　今日に及び酉の刻止 （去る19日抜け馬の儀を詮索中の黒埼村の男が出奔）
1797年　5月21日 寛政9年　4月25日 晴 今朝霜降 （報恩寺境内にくはへきせる(くわえキセル)で庭に入るな等の触れ）
1797年　5月22日 寛政9年　4月26日 快晴
1797年　5月23日 寛政9年　4月27日 快晴
1797年　5月24日 寛政9年　4月28日 晴 （酒田の伊勢屋から天明6年に5000両借りたらしいのだがその後始末が書いてある・残っている）
1797年　5月25日 寛政9年　4月29日 晴 昨夜子の刻過ぎより小雨降　今朝卯の刻過ぎ止 （天気不正に付き四社に日和上げの御祈祷を仰せ付ける）
1797年　5月26日 寛政9年　5月1日 晴 （棟方角之丞を御留守居組頭に等の人事異動）
1797年　5月27日 寛政9年　5月2日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　申の刻頃止
1797年　5月28日 寛政9年　5月3日 晴
1797年　5月29日 寛政9年　5月4日 晴
1797年　5月30日 寛政9年　5月5日 曇 今日午の刻過ぎより雨降　未の刻過ぎ雷鳴　申の刻過ぎ雨止
1797年　5月31日 寛政9年　5月6日 晴
1797年　6月1日 寛政9年　5月7日 晴
1797年　6月2日 寛政9年　5月8日 曇
1797年　6月3日 寛政9年　5月9日 晴 今日申の刻過ぎより雨　夜に入 （去る11月に青森で隠津出をさせ賄賂を取った諸手足軽の御給分召上げ大場御構い弘前より十里四方追放家財欠所・関係者10数人にも罰）
1797年　6月4日 寛政9年　5月10日 曇 昨夜中の雨　今朝卯の刻過ぎ止
1797年　6月5日 寛政9年　5月11日 曇
1797年　6月6日 寛政9年　5月12日 晴
1797年　6月7日 寛政9年　5月13日 晴 （2月16日に米82俵を隠津出しようとした今別町の男に15鞭・外が濱4か組み追放・家財は妻子に、その仲間10人ほどにも罰）
1797年　6月8日 寛政9年　5月14日 曇
1797年　6月9日 寛政9年　5月15日 曇
1797年　6月10日 寛政9年　5月16日 晴
1797年　6月11日 寛政9年　5月17日 曇
1797年　6月12日 寛政9年　5月18日 晴
1797年　6月13日 寛政9年　5月19日 晴
1797年　6月14日 寛政9年　5月20日 晴 今日申の刻頃少々雨降
1797年　6月15日 寛政9年　5月21日 曇 今日辰の刻過ぎ少々雨降
1797年　6月16日 寛政9年　5月22日 晴
1797年　6月17日 寛政9年　5月23日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　未の刻頃止
1797年　6月18日 寛政9年　5月24日 曇
1797年　6月19日 寛政9年　5月25日 晴
1797年　6月20日 寛政9年　5月26日 曇 今日申の刻頃より雨降　夜に入
1797年　6月21日 寛政9年　5月27日 晴 昨夜中時々雨降　今朝卯の刻頃止 （去る23日油川組新城村で出火・隣家の外馬屋類焼・火元他村預け、公儀お尋ね男2人の人相書き：中せい中肉など）
1797年　6月22日 寛政9年　5月28日 晴
1797年　6月23日 寛政9年　5月29日 曇 今朝辰の刻前より雨降　未の刻頃止 （昨夜亀甲町で少々焼失早速打ち消す・火元戸〆）
1797年　6月24日 寛政9年　5月30日 快晴
1797年　6月25日 寛政9年　6月1日 晴
1797年　6月26日 寛政9年　6月2日 曇 今日未の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止 （もめていた百沢寺の境界を定めている）
1797年　6月27日 寛政9年　6月3日 晴 （3月に千歳山付近で女を追剥?等の無宿男に30鞭・乞食頭に渡す）
1797年　6月28日 寛政9年　6月4日 晴
1797年　6月29日 寛政9年　6月5日 晴 （内東御門下馬腰掛壁に猥に落書きがある・書くなとの触れあり）
1797年　6月30日 寛政9年　6月6日 曇 今日巳の刻頃より雨時々降　申の刻頃止

1797年　7月1日 寛政9年　6月7日 曇
1797年　7月2日 寛政9年　6月8日 晴
1797年　7月3日 寛政9年　6月9日 晴　(隠商売人体の者から銭をかたり取った男に30鞭・大場御構い・十里四方追放・家財欠所)
1797年　7月4日 寛政9年　6月10日 曇　下から続く　類病で斃れる、打続天気不勝に付き丹後物と六十六部を詮索していたが……)
1797年　7月5日 寛政9年　6月11日 曇　今日辰の刻過ぎより小雨時々降　夜に入　(高屋勇助等を長柄奉行格に等の人事異動、去る8日(駒越組)坂市村で出火・火元村預け5日、有馬七太夫の預かり馬3疋が　上に続く
1797年　7月6日 寛政9年　6月12日 曇　昨夜中雨　今日終日降　(三御厩御馬共類病に付き大行院で御祈祷を仰せ付ける、青田の内笛吹くなとの触れ、駄下げ米を引き受けて度々食い潰した男2人に6鞭・3鞭など)
1797年　7月7日 寛政9年　6月13日 晴　(青沼半助預かりの馬2疋?今日斃れる、2月17日に在宅御家中の家来を装い帯刀姿で住民を叩くなどの狼藉を働いた2人に3鞭づつ居村徘徊はこれまでの通り)
1797年　7月8日 寛政9年　6月14日 晴　今朝の内曇　(この度三御馬屋残らず病馬に相成・斃れた馬は泡吹き出し鼻血出す馬もある・死因をたずねている)
1797年　7月9日 寛政9年　6月15日 晴　(薬草木石に関係して三河の産白井秀雄(後の菅江真澄)なる男が出てくる)
1797年　7月10日 寛政9年　6月16日 曇　今日午の刻過ぎより雨時々降　申の刻過ぎ止　(隠小売酒の浪岡組中野村の男を居村払い・その親に過料3貫文、11月29日米7俵隠津出の油川組沖館村の男に12鞭・居村徘徊是迄通り)
1797年　7月11日 寛政9年　6月17日 曇　今日時々小雨降　未の刻頃止
1797年　7月12日 寛政9年　6月18日 曇　昨夜中時々雨降　(人事異動)
1797年　7月13日 寛政9年　6月19日 曇　今日午の刻頃より小雨　申の刻頃止　(三御厩類病に付き御祈祷を仰せ付ける)
1797年　7月14日 寛政9年　6月20日 晴
1797年　7月15日 寛政9年　6月21日 晴
1797年　7月16日 寛政9年　6月22日 晴
1797年　7月17日 寛政9年　6月23日 晴
1797年　7月18日 寛政9年　6月24日 晴
1797年　7月19日 寛政9年　6月25日 曇　今暁丑の四刻土用入　今日午の刻小雨　即刻止　(大泉院(屋形様の側室?)様の姉が紺屋町古川通の下で水死)
1797年　7月20日 寛政9年　6月26日 曇　今朝辰の刻頃より雨　夜に入　戌の刻頃止
1797年　7月21日 寛政9年　6月27日 曇
1797年　7月22日 寛政9年　6月28日 曇
1797年　7月23日 寛政9年　6月29日 曇　今日未の刻頃村雨降
1797年　7月24日 寛政9年　7月1日 晴　(佐々木専右衛門(学校の砲術の教官)申し立て:この度木筒で鉛球打方の儀は500目・1貫目玉位までは鉄輪・竹輪等で可能、作らせ試させることとする)
1797年　7月25日 寛政9年　7月2日 晴　(三馬屋村昆布は資源保護のため毎年は刈り取らず3カ年置き等に刈り取っていた・近年は毎年刈り取り300目位と十分の一になった・隔年(御留守年ばかり)に刈り取らせるようにする)
1797年　7月26日 寛政9年　7月3日 晴
1797年　7月27日 寛政9年　7月4日 晴　(赤石組で山から鍬の台100挺を取る願・願高より258挺多く取った・鍬台258挺を御取上の上過料1人に1貫文づつ上納するよう申し付ける)
1797年　7月28日 寛政9年　7月5日 曇　今朝辰の刻頃小雨降　即刻止　午の刻頃雨降　未の刻頃止
1797年　7月29日 寛政9年　7月6日 曇　今日時々雨降　巳の刻過ぎ雷　(隠れ商売(闇や)が横行している・過料30目・五人組戸〆等)
1797年　7月30日 寛政9年　7月7日 晴　今日午の刻過ぎ小雨降
1797年　7月31日 寛政9年　7月8日 快晴　((駒越町の)医者が昨夜縊死)
1797年　8月1日 寛政9年　7月9日 快晴
1797年　8月2日 寛政9年　7月10日 快晴　(浪岡八幡社司阿部信濃を浪岡より三里四方追放・家財は妻子に)　下から続く　来る14日出立の津軽屋三右衛門の支配人に例年の通り御手当金5両を下し置かれる)
1797年　8月3日 寛政9年　7月11日 曇　今朝辰の刻前小雨降　即刻止　午の刻前小雨降　即刻止　(多人数(200人ほど)に御褒美(金300～200疋・銀9両～3両・2貫500文～300文)、水油1升を4匁2分に申付ける、　上に続く
1797年　8月4日 寛政9年　7月12日 曇　今朝卯の刻より雨降　辰の刻過ぎ止　頃日暑気強し　(去る9日高杉組鬼沢村鬼神宮出汗・同所で御祈祷・祈祷料銀2枚)
1797年　8月5日 寛政9年　7月13日 曇　今日未の刻頃小雨降　即刻止　申の刻頃雨降　即刻止
1797年　8月6日 寛政9年　7月14日 曇　今日午の刻頃より雨降　即刻雷　申の刻頃止
1797年　8月7日 寛政9年　7月15日 曇　今朝辰の刻前より雨降　巳の刻頃止
1797年　8月8日 寛政9年　7月16日 快晴
1797年　8月9日 寛政9年　7月17日 快晴　頃日残暑強し　(昨朝常盤村在宅の御家中宅が蚊遣り火より出火・早速打ち消す・火元御奉公遠慮)
1797年　8月10日 寛政9年　7月18日 曇　今日巳の刻過ぎより小雨降　即刻止
1797年　8月11日 寛政9年　7月19日 晴　昨今東風吹　朝夕涼　(大鰐村加賀助・兵左衛門より5月13日植付の御初穂差上げる・去年は4月27日植付6月28日差上げで当年は植付日数に引合5日遅く節に引合9日遅い)
1797年　8月12日 寛政9年　7月20日 晴
1797年　8月13日 寛政9年　7月21日 晴　昨今東風吹朝夕涼　(頃日天気不勝に付き五山並びに長勝寺薬王院え風雨順時の御祈祷を仰せ付ける、昨日(大鰐組)乳井村で出火・火元高無村預け5日)
1797年　8月14日 寛政9年　7月22日 曇　今日時々小雨降　東風吹涼　(四社に風雨順時の御祈祷を仰せ付ける)
1797年　8月15日 寛政9年　7月23日 晴　(和徳稲荷宮並びに御穀神に風雨順時五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1797年　8月16日 寛政9年　7月24日 晴
1797年　8月17日 寛政9年　7月25日 快晴　頃日残暑時々強
1797年　8月18日 寛政9年　7月26日 晴
1797年　8月19日 寛政9年　7月27日 快晴
1797年　8月20日 寛政9年　7月28日 快晴
1797年　8月21日 寛政9年　7月29日 曇　(去る18日松前下夷地に異国船着岸)
1797年　8月22日 寛政9年 閏7月1日　快晴
1797年　8月23日 寛政9年 閏7月2日　曇
1797年　8月24日 寛政9年 閏7月3日　晴
1797年　8月25日 寛政9年 閏7月4日　晴　(一昨日新町の子供が水に溺れ死亡)
1797年　8月26日 寛政9年 閏7月5日　晴　(柏木組柏木村で建家出火・火元戸〆5日)
1797年　8月27日 寛政9年 閏7月6日　快晴
1797年　8月28日 寛政9年 閏7月7日　快晴
1797年　8月29日 寛政9年 閏7月8日　快晴　頃日残暑強し
1797年　8月30日 寛政9年 閏7月9日　快晴　(江戸からの帰りに赤石組で役人の体で宿継人馬並びに賄等を差出させた廻小人を取放・30鞭・大場御構い十里四方追放)
1797年　8月31日 寛政9年 閏7月10日 晴

1797年　9月1日 寛政9年 閏7月11日 曇 今朝辰の刻過ぎ小雨降　即刻止
1797年　9月2日 寛政9年 閏7月12日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降　今暁寅の刻過ぎ止
1797年　9月3日 寛政9年 閏7月13日 曇 昨夜中時々雨降
1797年　9月4日 寛政9年 閏7月14日 晴
1797年　9月5日 寛政9年 閏7月15日 晴 今暁丑の刻過ぎより雷雨強　卯の刻止
1797年　9月6日 寛政9年 閏7月16日 晴
1797年　9月7日 寛政9年 閏7月17日 晴 (大鰐村加賀助・兵左衛門が初米3俵差上げる)
1797年　9月8日 寛政9年 閏7月18日 晴 今朝卯の刻過ぎ雨降　辰の刻頃止 (牛蒡馬(馬の品種らしいが……)を秋田に送っている、活字の論語100冊が出来た・1冊2匁3分6厘で渡した?)
1797年　9月9日 寛政9年 閏7月19日 晴 昨夜戌の刻頃より雷雨　亥の刻過ぎ止 (去年は4月27日植付より86日の7月24日差上・今年は5月13日植付当月17日まで93日で差上・当年は去年に引合7日遅く節に引合12日遅い)
1797年 9月10日 寛政9年 閏7月20日 曇 今日午の刻頃より小雨降　即刻止
1797年 9月11日 寛政9年 閏7月21日 晴 (駒越組川原平・砂子瀬・居森平村の畑作に先頃より異形の虫付き作物食い荒らす・御祈祷の上虫除け守り札を渡す)
1797年 9月12日 寛政9年 閏7月22日 晴
1797年 9月13日 寛政9年 閏7月23日 晴 (去年11月博打宿を行い召取った博打打ちを逃がした広田組桜田村の男に3鞭と村払い田畑家屋敷家財は妻子に・この男の五軒組合より1軒に付き過料900文つつ上納を申付ける)
1797年 9月14日 寛政9年 閏7月24日 晴
1797年 9月15日 寛政9年 閏7月25日 曇 今日辰の刻頃より小雨降
1797年 9月16日 寛政9年 閏7月26日 曇 今日午の刻頃より小雨　未の刻過ぎ止
1797年 9月17日 寛政9年 閏7月27日 曇 昨夜中時々雨降　今暁寅の刻過ぎ止
1797年 9月18日 寛政9年 閏7月28日 曇
1797年 9月19日 寛政9年 閏7月29日 曇 今日時々雨降 ((江戸からの連絡で)去月29日御用状の通り松前東蝦夷地ヱトモと申すところに異国船漂着・当月(閏7月?)2日彼の地を帰帆)
1797年 9月20日 寛政9年　8月1日 晴　下から続く　・その後未申の方に去り夕七時頃まで帆形幽かに見えた)
1797年 9月21日 寛政9年　8月2日 晴　下から続く　佐井と松前領函館村の沖に・8日夕七時頃松前東木子(古)内村の沖に・9日朝海邊固め御人手配・9日昼四時頃津軽領龍濱(竜飛)崎と松前領白神崎の間　上に続く
1797年 9月22日 寛政9年　8月3日 快晴 (米留番所の後を夜分断りなく無手形米12俵を馬6疋に積んで通った脇本村の男3人に6鞭宛と米・馬御取上げ・居村徘徊御免・脇本村庄屋は戸〆、異国船は去る7日南部領　上に続く
1797年 9月23日 寛政9年　8月4日 曇 今日申の刻過ぎより雨降　夜に入 (眛孝院様(先代御屋形信明)七回忌御忌ご法要に付き大赦:出牢1人・弘前並びに居村徘徊御免41人・御国徘徊御免3人・その他7人)
1797年 9月24日 寛政9年　8月5日 晴 昨夜よりの雨今暁寅の刻過ぎ止 (悪戸村の男が亀を取り差上げる御酒代鳥目500文下し置かれる)
1797年 9月25日 寛政9年　8月6日 快晴
1797年 9月26日 寛政9年　8月7日 快晴
1797年 9月27日 寛政9年　8月8日 曇 昨夜中時々雨降　今暁寅の刻過ぎ止 (今暁中牢を破り男5人が逃げ出す)
1797年 9月28日 寛政9年　8月9日 快晴 (一昨6日後潟組瀬辺地村で出火・類焼とも5軒と外馬屋焼失・火元村預け7日)　下から続く　潰家2軒土蔵1ヶ所焼失、5月26日鯵ヶ沢出帆の3500俵積御廻船が6月6・7日に破船)
1797年 9月29日 寛政9年　8月10日 曇 (去年6月に続く牢破りで牢奉行2人慎み・牢屋番を馬喰町から他町の町人に変える案などが出る・他町の者が忌み嫌うなどで断念、、去る7日夜深浦町上町で出火・66軒焼失　上に続く
1797年 9月30日 寛政9年　8月11日 曇 今朝卯の刻前より雨降　巳の刻過ぎ止 (去年6月17日暁破牢時の牢守の御給分召上げ・牢守御取放・6鞭・弘前追放・家財は妻子に、牢屋番で博打等の牢屋番6人に鞭刑・御取放等)
1797年 10月1日 寛政9年　8月12日 晴 (木筒の力試しをしたが上手くいかなかったらしい)
1797年 10月2日 寛政9年　8月13日 曇 今日未の刻頃より時々雨降　夜に入
1797年 10月3日 寛政9年　8月14日 曇 昨夜よりの雨今日に及び時々降　夜に入
1797年 10月4日 寛政9年　8月15日 晴 昨夜時々雨降　亥の刻過ぎ止
1797年 10月5日 寛政9年　8月16日 晴 (去る12日夜田舎館組堂野前村で百姓とその母が在宅御家中成田某に叩かれる・足軽目付が傷を見分する)
1797年 10月6日 寛政9年　8月17日 快晴 (高岡に献備の初鮭2尺差上げる)
1797年 10月7日 寛政9年　8月18日 快晴
1797年 10月8日 寛政9年　8月19日 快晴
1797年 10月9日 寛政9年　8月20日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止 (当御廻船の上乗(大組足軽)が船頭の抜米等を申し出で賞金5両)
1797年 10月10日 寛政9年　8月21日 曇 昨夜中より風雨　今日に及び夜に入
1797年 10月11日 寛政9年　8月22日 晴 昨夜中風雨　今暁卯の刻前止　申の刻過ぎ雨降　夜に入
1797年 10月12日 寛政9年　8月23日 曇 昨夜中時々雨降　今日に及び終日降　夜に入　戌の刻頃止　今朝岩木山初雪見ゆる
1797年 10月13日 寛政9年　8月24日 曇 (尾崎組小杉村の男が鶴1羽生取差上げる・御褒美鳥目70匁下し置かれる)
1797年 10月14日 寛政9年　8月25日 曇 今日申の刻過ぎ小雨　即刻止
1797年 10月15日 寛政9年　8月26日 曇
1797年 10月16日 寛政9年　8月27日 曇 (一昨24日夜常源寺坂下に狼藉者)
1797年 10月17日 寛政9年　8月28日 晴 (廻船途中の不正が度々見える)
1797年 10月18日 寛政9年　8月29日 晴 (人事異動)
1797年 10月19日 寛政9年　8月30日 曇 ((去年6月当年8月の)2度にわたり牢を破られた牢奉行2人の御給分召上げ永の御暇)
1797年 10月20日 寛政9年　9月1日 晴 昨夜亥の刻過ぎ小雨降　即刻止 (御廻船上乗の際船頭から金子等を借りるな・船中不締りの基だとの指示)
1797年 10月21日 寛政9年　9月2日 快晴
1797年 10月22日 寛政9年　9月3日 快晴
1797年 10月23日 寛政9年　9月4日 快晴 今朝霜強し
1797年 10月24日 寛政9年　9月5日 曇 今晩申の刻過ぎより雨降　夜に入
1797年 10月25日 寛政9年　9月6日 曇 昨夜中風雨　今朝に及ぶ　酉の刻前止 (石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来成兼ねる)
1797年 10月26日 寛政9年　9月7日 晴
1797年 10月27日 寛政9年　9月8日 晴
1797年 10月28日 寛政9年　9月9日 晴 (去る6日の大雨で増館組十川・下十川・松枝・目鹿沢村の苞地が一円の水湛)
1797年 10月29日 寛政9年　9月10日 晴
1797年 10月30日 寛政9年　9月11日 晴
1797年 10月31日 寛政9年　9月12日 晴

1797年　11月1日 寛政9年　　9月13日 晴
1797年　11月2日 寛政9年　　9月14日 晴　昨夜戌の刻頃より時々雨降　子の刻頃止　（町中惣酒屋どもより酒1升に付き1匁5分との申し立て・1匁4分に申し付ける）
1797年　11月3日 寛政9年　　9月15日 曇　（去月7日深浦の焼失者66軒に御救い願・1軒に1俵御手当て米を申付ける）
1797年　11月4日 寛政9年　　9月16日 曇　今朝霜強し
1797年　11月5日 寛政9年　　9月17日 曇　今日未の刻頃より雨降　酉の刻過ぎ止
1797年　11月6日 寛政9年　　9月18日 曇
1797年　11月7日 寛政9年　　9月19日 晴
1797年　11月8日 寛政9年　　9月20日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今暁寅の刻頃止　（去月12日夜百姓とその母に乱暴した御家中に御憐憫をもって慎みを申付ける）
1797年　11月9日 寛政9年　　9月21日 曇
1797年 11月10日 寛政9年　　9月22日 曇　今日辰の刻頃より雨降　巳の刻過ぎ止　　下から続く　　牢屋番4人に27鞭つつ・七里追放・家屋敷御取上げ・家財は妻子に下し置かれる）
1797年 11月11日 寛政9年　　9月23日 曇　今日巳の刻過ぎより時々雨降　申の刻過ぎ止　（毎度牢中に酒肴等を入れ牢屋番所で博打をした牢守の御給分召上げ・6鞭・弘前追放・家屋敷御取上げ・家財は妻子に、　　上に続く
1797年 11月12日 寛政9年　　9月24日 快晴
1797年 11月13日 寛政9年　　9月25日 快晴　今朝霜強し
1797年 11月14日 寛政9年　　9月26日 快晴　（隠杣の相内村庄屋の売っていない木を御取上げ・売り払い代銭上納・庄屋取放・3鞭・居村徘徊御免）
1797年 11月15日 寛政9年　　9月27日 曇　今日申の刻前より雨時々降　夜に入
1797年 11月16日 寛政9年　　9月28日 曇　昨夜中よりの雨今日時々降　夜に入　（昨夜大目付唐牛三左衛門が病死）
1797年 11月17日 寛政9年　　9月29日 曇　昨夜よりの雨今日時々降　夜に入
1797年 11月18日 寛政9年　　10月1日 曇　昨夜中時々雨降　今暁寅の刻過ぎ止
1797年 11月19日 寛政9年　　10月2日 曇
1797年 11月20日 寛政9年　　10月3日 曇
1797年 11月21日 寛政9年　　10月4日 曇　昨夜亥の刻頃より時々雨降　今日に及ぶ　酉の刻頃止
1797年 11月22日 寛政9年　　10月5日 曇　昨夜亥の刻頃霰降　即刻止　今日辰の刻過ぎより雪時々降　夜に入
1797年 11月23日 寛政9年　　10月6日 曇　昨夜中時々雪降　今日に及び時々降　夜に入
1797年 11月24日 寛政9年　　10月7日 曇　昨夜よりの雪今日に及び時々降　夜に入
1797年 11月25日 寛政9年　　10月8日 曇　昨夜中雪降　今朝に及び三寸程積　今日時々降　夜に入　（在宅御家中が出勤忌避の傾向あり）
1797年 11月26日 寛政9年　　10月9日 曇　昨夜よりの雪今日に及び時々降
1797年 11月27日 寛政9年　　10月10日 晴
1797年 11月28日 寛政9年　　10月11日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今朝卯の刻過ぎ止　今日巳の刻過ぎより雨降　時々降　夜に入
1797年 11月29日 寛政9年　　10月12日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎより霙降　午の刻過ぎ雷鳴　終日時々降
1797年 11月30日 寛政9年　　10月13日 晴　今日申の刻過ぎより雪時々降　夜に入
1797年　12月1日 寛政9年　　10月14日 曇　昨夜中雪降　三寸降積る
1797年　12月2日 寛政9年　　10月15日 曇　昨夜中雪三寸ほと積る　（山田剛太郎を御馬廻五番組頭に・蝦夷御固め御用を申付けられる・他に6人も松前表江派遣等の人事異動）
1797年　12月3日 寛政9年　　10月16日 曇　今日申の刻過ぎより時々雪降　夜に入　（水争の裁定に不服従の増館村庄屋等に6鞭宛居村徘徊是迄通り・観音堂建直しに過分の普請料取立ての庄屋を御取放し居村徘徊是迄通り等）
1797年　12月4日 寛政9年　　10月17日 曇　昨夜中時々雪降　今日に及び二寸程積る　（松前表差越しの検使に織田藤十郎等の人事異動）
1797年　12月5日 寛政9年　　10月18日 晴　（牢守の給分は3両2人扶持）
1797年　12月6日 寛政9年　　10月19日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　午の刻頃止　（当月6日金木村に庄内者と名乗る贋金使いが2人・手配）
1797年　12月7日 寛政9年　　10月20日 曇　今日巳の刻頃より雨降　即刻止
1797年　12月8日 寛政9年　　10月21日 晴　（去る6日夜松前城下で出火・家数866軒（本家592・借家274）・蔵108・寺社17軒、去る3日（江戸の）津梁院が出火・残らず焼失）
1797年　12月9日 寛政9年　　10月22日 晴　今日酉の刻前より時々雨降　夜に入　亥の刻頃止
1797年 12月10日 寛政9年　　10月23日 晴　（人事異動）
1797年 12月11日 寛政9年　　10月24日 曇　今日午の刻頃より雪降　夜に入
1797年 12月12日 寛政9年　　10月25日 曇　昨夜中雪降　今朝に及び五寸程積る　今日時々雪降　夜に入
1797年 12月13日 寛政9年　　10月26日 曇　昨夜中雪降　今朝に及び三寸程積　今日時々雪降　夜に入　（この度松前に御人数渡海に付き船中無難の御祈祷を五山並びに両社に仰せ付ける）
1797年 12月14日 寛政9年　　10月27日 曇　昨夜中雪降　今朝に及び三寸程積
1797年 12月15日 寛政9年　　10月28日 曇　今日時々雪降　（粒油1匁に付き平均1升6合1夕3才に買い入れており油1升を5匁3分にしたいとの申出・4匁7分に申付けたのかな、松前から火災に伴い炭・薪の津出依頼あり・対応する）
1797年 12月16日 寛政9年　　10月29日 曇　（松前派遣の御馬廻までに御料理・浮き武者より与力までに御酒御吸物を下し置かれる、御目見以下には何もなかったのかな:福眞）
1797年 12月17日 寛政9年　　10月30日 曇
1797年 12月18日 寛政9年　　11月1日 曇　昨夜中雪少々降　今朝卯の刻過ぎより時々雪降　夜に入　（人事異動）
1797年 12月19日 寛政9年　　11月2日 曇　昨夜のか時々雪降　今朝に及び一尺程積　今日時々雪降　夜に入
1797年 12月20日 寛政9年　　11月3日 曇　昨夜中時々雪降　今朝に及び四寸程積　今日時々降　夜に入
1797年 12月21日 寛政9年　　11月4日 曇　昨夜中時々雪降　今朝に及び五寸程積　今日時々降　夜に入　（松前への御人数出立相済む）
1797年 12月22日 寛政9年　　11月5日 曇　今日時々雪降
1797年 12月23日 寛政9年　　11月6日 曇　今日巳の刻過ぎ迄時々雪降
1797年 12月24日 寛政9年　　11月7日 晴
1797年 12月25日 寛政9年　　11月8日 曇　今日時々雪降　（去る2日赤石組中野村で出火・火元戸〆5日）
1797年 12月26日 寛政9年　　11月9日 曇　今日時々吹雪強し　（当月3日夕七時より翌朝まで早川口より残らず氷張る・去年は11月15日夜より翌16日朝までに張った・当年は日数引合12日早く節に引合6日遅い）
1797年 12月27日 寛政9年　　11月10日 曇　今日時々雪吹
1797年 12月28日 寛政9年　　11月11日 曇　今日時々雪降
1797年 12月29日 寛政9年　　11月12日 晴　（来る15日高岡に献備の鱈2本差上げる）
1797年 12月30日 寛政9年　　11月13日 曇　昨夜中吹雪　今日時々雪降
1797年 12月31日 寛政9年　　11月14日 晴

1798年　1月1日 寛政9年　11月15日 曇 昨夜戌の刻頃より吹雪　今朝に及び八寸程積 （御払米1升(俵?)値段平均35匁2分6厘2毛(御定役引1匁2分・平米34匁6り2毛・金1両が104匁）
1798年　1月2日 寛政9年　11月16日 曇 昨夜中吹雪強し　今日時々吹雪
1798年　1月3日 寛政9年　11月17日 晴 昨夜中雪少し降　今日申の刻より雪降　夜に入 （加代官を御目見以下からも申し立てどおり仰せ付けてきたが御目見以上とする・格別の者は添え書きを差出すようにする）
1798年　1月4日 寛政9年　11月18日 晴 昨夜中雪降　今朝に及び三寸程積　頃日寒気強し
1798年　1月5日 寛政9年　11月19日 曇 昨夜子の刻前より雪降　今朝に及び八寸程積　今日時々吹雪　午の七刻寒に入
1798年　1月6日 寛政9年　11月20日 晴 昨夜少し雪降 （人事異動）
1798年　1月7日 寛政9年　11月21日 曇 昨夜中雪降　三寸程積 （焚炭の貸渡し(知行米を以って代差引)：御城代40俵・各組頭30俵・常府御目付等10俵）
1798年　1月8日 寛政9年　11月22日 晴 昨夜雪少し降　　下から続く　　藤崎村の男(馬追いかな)に3鞭居村徘徊是までの通り・馬に乗っていた長柄の者を役下げ）
1798年　1月9日 寛政9年　11月23日 晴 (5月28日西光寺で博打の御馬廻与力の御給分召上げ永の御暇、御目見以下御留守居支配・表坊主・坊主3人も博打仲間で罰せられる、小児を抱いた女を馬が突き倒した　　上に続く
1798年　1月10日 寛政9年　11月24日 曇 今日午の刻頃より時々雨降　夜に入
1798年　1月11日 寛政9年　11月25日 曇 昨夜亥の刻頃迄雨降　子の刻頃より吹雪強し　今日に及び時々吹雪強し　　下から続く　　新に五人扶持御目見以下御留守居支配に・在宅5人に類似の罰・1人は呼び出されて出奔）
1798年　1月12日 寛政9年　11月26日 曇 昨夜中より吹雪　今日に及び終日吹雪　頃日寒気強し （牢前で三上鋭助を斬罪・心を合せた平沢三右衛門の御給分召上げ弘前より十里四方追放・松田常蔵の御給分召上　　上に続く
1798年　1月13日 寛政9年　11月27日 晴　　下から続く　　居村徘徊御免、当7月高杉組館石村で道路工事中に自分の田に差障りがあるとし庄屋等に殴りかかった男に3鞭居村払い田畑家財家屋敷は妻子に）
1798年　1月14日 寛政9年　11月28日 曇 今日辰の刻過ぎより雨時々降　午の刻過ぎより風強し　戌の刻頃止　　下から続く　　21日芦沼村での博打で家を貸した男を3鞭村払い家財は妻子に・参加者5人に3鞭　　上に続く
1798年　1月15日 寛政9年　11月29日 曇 今日時々雪降 （当五月に西光寺で博打をした専求院弟子に罰：師弟の縁切・一宗構・寺内追払い、三上鋭助手下の町人など3人に30鞭十里四方追放家財欠所等、去年9月　　上に続く
1798年　1月16日 寛政9年　11月30日 曇 今日午の刻頃より時々雪降
1798年　1月17日 寛政9年　12月1日 晴
1798年　1月18日 寛政9年　12月2日 晴
1798年　1月19日 寛政9年　12月3日 曇 昨夜亥の刻頃より雪降　子の刻頃雷電　丑の刻頃より吹雪　今日に及ぶ　終日吹雪強し
1798年　1月20日 寛政9年　12月4日 曇 昨夜中よりの雪今朝に及び五寸程積　今日時々雪降 （去る朔日駒越組吉川村で出火・火元百姓居村預け）
1798年　1月21日 寛政9年　12月5日 晴 昨夜中雪降　三寸程積
1798年　1月22日 寛政9年　12月6日 曇
1798年　1月23日 寛政9年　12月7日 晴 (去月20日津軽永孚を御家老手伝いに・御役知300石御附人料金60両40人扶持・同人与力として12人を御目見以上御留守居支配より、御家老牧野左次郎に御加増200石）
1798年　1月24日 寛政9年　12月8日 晴　　下から続く　　宛居村徘徊是まで通り・首に縄をつけ山守を庄屋宅に引き連れた男を戸〆・庄屋戸〆・五軒組合に過料銭1貫文づつ、当9月25日夜無手形で米留所の　　欄外(*)に続く
1798年　1月25日 寛政9年　12月9日 晴 (徒刑(懲役か)は是までなかったが銅鉛山に送ることとする、盗人に3鞭居村徘徊御免、稲117束盗み取り男に3鞭居村徘徊御免、山より柴を盗伐し山守を打擲した男2人に3鞭　　上に続く
1798年　1月26日 寛政9年　12月10日 晴
1798年　1月27日 寛政9年　12月11日 曇 今日午の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1798年　1月28日 寛政9年　12月12日 曇 今日時々吹雪
1798年　1月29日 寛政9年　12月13日 曇 昨夜中より雪吹　今朝に及ぶ　辰の刻頃止
1798年　1月30日 寛政9年　12月14日 晴
1798年　1月31日 寛政9年　12月15日 快晴 （西舘宇膳を御留守居組頭・野呂登を大目付(役知200石)等の人事異動、褒美多数(銀何両も)）
1798年　2月1日 寛政9年　12月16日 晴
1798年　2月2日 寛政9年　12月17日 晴
1798年　2月3日 寛政9年　12月18日 曇 今日辰の刻頃より雪降　午の刻頃止
1798年　2月4日 寛政9年　12月19日 曇
1798年　2月5日 寛政9年　12月20日 曇 昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1798年　2月6日 寛政9年　12月21日 曇 昨夜中雪少々降　今朝に及ぶ　辰の刻頃止　　下から続く　　欠所、博打をした11人?に平均3鞭居村徘徊是まで通り）
1798年　2月7日 寛政9年　12月22日 晴 (中里村の郷士が当春博打で戸〆、深郷田村の者共当春度々博打した五軒組合に過料900文つつ）　　下から続く　　・深浦村の男に30鞭湯野沢鉛山地1年半の苦役家財　　上に続く
1798年　2月8日 寛政9年　12月23日 晴 (御囲い焔硝の上納が滞った御用焔硝師を御取放し15鞭弘前追放家財欠所、当春博打の和徳町の男に3鞭居村徘徊是まで通り、4月9日夜追良瀬村の盗みの手引の松神村　　上に続く
1798年　2月9日 寛政9年　12月24日 曇 (22日朝赤田組五丁野目村で出火・火元高無村預け）
1798年　2月10日 寛政9年　12月25日 曇 今日巳の刻頃より時々雪降
1798年　2月11日 寛政9年　12月26日 曇 昨夜中より吹雪　今日に及ぶ　終日吹雪強し
1798年　2月12日 寛政9年　12月27日 曇 昨夜中雪降　三寸程積　今日時々雪降
1798年　2月13日 寛政9年　12月28日 晴 昨夜中雪少々降
1798年　2月14日 寛政9年　12月29日 曇 今日未の刻過ぎより時々雪降
1798年　2月15日 寛政9年　12月30日 晴
1798年　2月16日 寛政10年正月1日　晴 昨夜中雪少々降 （古懸不動尊御出汗）
1798年　2月17日 寛政10年正月2日　晴 朝の内曇　未の刻小雨降　申の刻前止 （津軽永孚の与力12人を御手廻与力等から仰せ付ける・御目見以上御留守居支配から12人を出したがこれらは御手廻与力等に回ったらしい）
1798年　2月18日 寛政10年正月3日　晴
1798年　2月19日 寛政10年正月4日　晴
1798年　2月20日 寛政10年正月5日　曇 今日午の刻過ぎより雨降　夜に入
1798年　2月21日 寛政10年正月6日　曇 昨夜子の刻頃より雪　今日時々降　夜に入 （去る3日松前函館表御固め人数が三馬屋湊を残らず出帆）
1798年　2月22日 寛政10年正月7日　晴 昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1798年　2月23日 寛政10年正月8日　晴
1798年　2月24日 寛政10年正月9日　曇 今日辰の刻前より雨降　巳の刻頃より時々雪降
1798年　2月25日 寛政10年正月10日　晴 昨夜中風強　子の刻頃雷　丑の刻頃止
1798年　2月26日 寛政10年正月11日　曇 今日時々雪降
1798年　2月27日 寛政10年正月12日　曇 今日終日雪降
1798年　2月28日 寛政10年正月13日　曇 今日時々雪降
(*) 前を通った小泊村の男の荷物馬とも御取上げの上6鞭居村徘徊は是まで通り・庄屋は戸〆）

1798年　3月1日 寛政10年正月14日　曇　今日時々雪降 （江戸で人事異動）
1798年　3月2日 寛政10年正月15日　曇　今日時々雪降 （松前がらみで褒美沢山、改暦宣下かな?）
1798年　3月3日 寛政10年正月16日　曇　今日時々雪降
1798年　3月4日 寛政10年正月17日　曇　今日時々雪降
1798年　3月5日 寛政10年正月18日　曇　今日時々雪降
1798年　3月6日 寛政10年正月19日　曇　今日時々雪降
1798年　3月7日 寛政10年正月20日　曇　今日時々雪降
1798年　3月8日 寛政10年正月21日　曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1798年　3月9日 寛政10年正月22日　晴　朝の内雪降
1798年　3月10日 寛政10年正月23日　晴
1798年　3月11日 寛政10年正月24日　曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及び時々降る
1798年　3月12日 寛政10年正月25日　曇　今日時々吹雪
1798年　3月13日 寛政10年正月26日　晴　　下から続く　　単なる順番ではなく人を吟味して名前を差出すよう各者頭に仰せ付ける）
1798年　3月14日 寛政10年正月27日　曇　今日未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止 （勘定奉行申し立て:当御廻船おおよそ50艘位と相見え候・この上乗りは諸組足軽50人を仰付ける・（船中1人勤務であるから）　上に続く
1798年　3月15日 寛政10年正月28日　晴 （当月3日夜五半時箱館表に御人数着岸、御馬廻の倅の妻変死、当月3日夜内真部勤番が米9俵見つける・御取上げ入札払い）
1798年　3月16日 寛政10年正月29日　曇　昨夜雪少々降　今日未の刻頃雨降　申の刻前止
1798年　3月17日 寛政10年　2月1日 曇　昨夜雪四寸程積　今日時々雪降　夜に入
1798年　3月18日 寛政10年　2月2日 曇　昨夜中雪降　今日に及び二寸程積　今日時々雪降
1798年　3月19日 寛政10年　2月3日 快晴
1798年　3月20日 寛政10年　2月4日 曇
1798年　3月21日 寛政10年　2月5日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1798年　3月22日 寛政10年　2月6日 曇
1798年　3月23日 寛政10年　2月7日 晴
1798年　3月24日 寛政10年　2月8日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止
1798年　3月25日 寛政10年　2月9日 晴 （木作村辺当年厚雪・深さ2間位より4間半余・（木作新田）町井田村に潰れ家1軒、大鰐組大沢村で出火・萱家2軒焼失、7日赤石組舞戸村に収容された南部出生の男が昨日病死）
1798年　3月26日 寛政10年　2月10日 曇　今日辰の刻過ぎより雨終日降　申の刻頃止
1798年　3月27日 寛政10年　2月11日 曇　今日巳の刻前少々雨降　則刻止
1798年　3月28日 寛政10年　2月12日 晴　昨夜中雪少々降
1798年　3月29日 寛政10年　2月13日 晴　酉の刻頃より雨降　戌の刻頃より時々雷
1798年　3月30日 寛政10年　2月14日 晴　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　辰の刻過ぎ止 （深浦領小金崎と申す所江寄鯨）
1798年　3月31日 寛政10年　2月15日 晴
1798年　4月1日 寛政10年　2月16日 晴　今日申の刻頃小雨降　則刻止 （百沢寺の境界争いに判決:寺役人に取放の上3鞭所払い・葛原村庄屋など3人に庄屋取放の上6鞭居村徘徊是までの通り等）
1798年　4月2日 寛政10年　2月17日 曇 （去る14日細野村で出火・火元百姓村預け）
1798年　4月3日 寛政10年　2月18日 晴
1798年　4月4日 寛政10年　2月19日 晴
1798年　4月5日 寛政10年　2月20日 快晴
1798年　4月6日 寛政10年　2月21日 曇 （当月16日暮六つ時より17日朝まで早川口より残らず氷明ける、70ページくらいにわたり褒美）
1798年　4月7日 寛政10年　2月22日 晴 （去る8日の出水で金木組下岩崎村の飯詰川の堤押し破り田圃一円水湛）
1798年　4月8日 寛政10年　2月23日 曇　今日辰の刻過ぎより小雨降　未の刻過ぎ霰降　申の刻頃止 （今日学校で釈奠（せきてん:2月8月に行う孔子の祭:でもほとんど毎回奠の字の下の大を木に書いてある:田舎者かな:福眞）
1798年　4月9日 寛政10年　2月24日 晴　昨夜中雪少々降　今日申の刻過ぎ小雨　則刻止 （砂糖種を去年より植付たが去年は相応今年は不熟:ビートか砂糖キビか、一昨22日久井名館の高無が乱心で関村百姓を打殺し入牢）
1798年　4月10日 寛政10年　2月25日 晴
1798年　4月11日 寛政10年　2月26日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨降　則刻止
1798年　4月12日 寛政10年　2月27日 晴
1798年　4月13日 寛政10年　2月28日 晴 （牧野徳一を学校惣司御役知300石等の人事異動、去る9月25日鰺ヶ沢漁師町に道心者死亡（死亡の記録なし））
1798年　4月14日 寛政10年　2月29日 快晴
1798年　4月15日 寛政10年　2月30日 曇　今日未の刻頃雨　則刻止ム （石渡川4分半の出水・馬船小船とも往来成兼ねる、去る28日赤石組舞戸村で出火・火元居村預け）
1798年　4月16日 寛政10年　3月1日 曇　今晩酉の刻頃雨　則刻止 （去る29日油川組安田村で出火・駒1疋焼斃・火元高無村預け）
1798年　4月17日 寛政10年　3月2日 晴 （在方で出火には代官にて村預け:普通5日・類焼があれば他村預け7日）
1798年　4月18日 寛政10年　3月3日 曇　今日未の刻頃より雨降　申の刻頃止
1798年　4月19日 寛政10年　3月4日 晴
1798年　4月20日 寛政10年　3月5日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入
1798年　4月21日 寛政10年　3月6日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　卯の刻頃止
1798年　4月22日 寛政10年　3月7日 曇
1798年　4月23日 寛政10年　3月8日 曇
1798年　4月24日 寛政10年　3月9日 晴
1798年　4月25日 寛政10年　3月10日 晴 （石渡川4分半の出水・馬船小船とも往来差留める）
1798年　4月26日 寛政10年　3月11日 曇　今日午の刻頃少し雨降　則刻止 （昨晩茂森新町で出火・火元日雇い入寺の上慎）
1798年　4月27日 寛政10年　3月12日 晴 （石渡川4分半の出水・馬船小船とも往来差留める）
1798年　4月28日 寛政10年　3月13日 晴
1798年　4月29日 寛政10年　3月14日 晴 （外南御門二階に御新捨御帳?入れ置く……、昨13日夜九つ時田舎館組境松村で出火、火元百姓村預け）
1798年　4月30日 寛政10年　3月15日 晴

1798年　5月1日 寛政10年　3月16日 曇　今暁寅の刻頃より小雨　今日時々降　夜に入
1798年　5月2日 寛政10年　3月17日 曇　昨夜中雨時々降　(岩木川出水・駒越渡馬船小船とも相成りかねる)
1798年　5月3日 寛政10年　3月18日 晴　(隔年に仰せ付けていた今別町の昆布取を要望を受けて不漁の昨年に続き今年も可とする)
1798年　5月4日 寛政10年　3月19日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止
1798年　5月5日 寛政10年　3月20日 晴
1798年　5月6日 寛政10年　3月21日 曇　今日申の刻頃より雨降　夜に入
1798年　5月7日 寛政10年　3月22日 曇　昨夜よりの雨今日に及び時々降　夜に入
1798年　5月8日 寛政10年　3月23日 晴　昨夜中雨降　(去る12月21日隠し津出46俵の男に15鞭・外が濱4か組住居御構い追放・家屋敷田畑家財は妻子に等々の判決)
1798年　5月9日 寛政10年　3月24日 晴
1798年　5月10日 寛政10年　3月25日 晴
1798年　5月11日 寛政10年　3月26日 快晴
1798年　5月12日 寛政10年　3月27日 快晴
1798年　5月13日 寛政10年　3月28日 快晴　(赤石安左衛門に加増50石役知100石で御用人にの人事異動)
1798年　5月14日 寛政10年　3月29日 晴
1798年　5月15日 寛政10年　3月30日 晴
1798年　5月16日 寛政10年　4月1日 晴　朝の内霞
1798年　5月17日 寛政10年　4月2日 晴
1798年　5月18日 寛政10年　4月3日 曇　今日時々雨降　夜に入　(去月29日夜金木組毘沙門村で出火・火元村預け)　　下から続く　　松前箱館で不埒の諸手警固を長柄の者に役下げ)
1798年　5月19日 寛政10年　4月4日 晴　昨夜中時々雨降　今朝に及ぶ　辰の刻頃止　(一昨2日岩木嵩湯屋出火・小屋3軒木小屋1軒焼失、岩木川今朝より出水・駒越渡し場四つ時より馬船小船とも往来なり兼ねる、　　上に続く
1798年　5月20日 寛政10年　4月5日 晴　申の刻過ぎより曇　(御領内有馬33200疋余御座候・内駒15120疋余・駄18080疋余)
1798年　5月21日 寛政10年　4月6日 曇
1798年　5月22日 寛政10年　4月7日 曇
1798年　5月23日 寛政10年　4月8日 曇　今朝卯の刻過ぎより終日雨降　夜に入
1798年　5月24日 寛政10年　4月9日 曇　(一昨7日(浪岡組)五本松村領板橋村で出火・居宅と外馬屋焼失・火元村預け、三河の白井秀雄(別名菅江真澄)が採草のため弘前に来る・御賄1日150文宛下し置かれる)
1798年　5月25日 寛政10年　4月10日 晴
1798年　5月26日 寛政10年　4月11日 曇　今日申の刻過ぎより雨降　夜に入
1798年　5月27日 寛政10年　4月12日 曇　昨夜中時々雨降　今朝に及ぶ　辰の刻頃止　今日未の刻頃雨降　則刻止　(一昨晩和徳組向外瀬村で仏壇の内より火が庇に移る・早速取鎮める・火元戸〆)
1798年　5月28日 寛政10年　4月13日 曇　昨夜時々雨降　　下から続く　　米1000石・味噌100樽(20貫目入り)・灯油25樽(3斗7升入り)・醤油150樽(6・7升入り)・酒200樽(2斗入り)・香の物130樽(150本入り)・馬飼料などなど)
1798年　5月29日 寛政10年　4月14日 曇　今暁丑の二刻月蝕　皆既　(去る6日江戸発の飛脚が到着:公儀御目付様・御使番様・御勘定吟味役様が松前表に御越し成される・当月15日江戸出発か・青森で御買い上げ:　　上に続く
1798年　5月30日 寛政10年　4月15日 晴　朝の内曇
1798年　5月31日 寛政10年　4月16日 曇　今日時々雨降　(工藤某の倅今暁変死)
1798年　6月1日 寛政10年　4月17日 曇　今日時々雨降
1798年　6月2日 寛政10年　4月18日 曇　昨夜中の雨今日終日降
1798年　6月3日 寛政10年　4月19日 曇
1798年　6月4日 寛政10年　4月20日 晴　(支配頭の申付けを用いず不実の訴状を差出した碇関町の男共3人に3鞭と所払い・家屋敷家財は妻子に、御発駕当月21日と仰せ出される)
1798年　6月5日 寛政10年　4月21日 晴
1798年　6月6日 寛政10年　4月22日 曇　昨夜中雷雨強し　(一昨20日後潟組六枚橋村で出火・火元村預け、昨晩六つ時過ぎ松森町で失火・火元日雇い頭戸〆)
1798年　6月7日 寛政10年　4月23日 曇　(隠し津出の後潟組清水村・左堰村・新城村の男に3鞭・外濱4か組御構い追放・家屋敷家財は妻子になど)
1798年　6月8日 寛政10年　4月24日 晴　(医学頭取が言うには去年採草が残った・白井秀雄(菅江真澄)同道で松本道寿？に仰せ付ける、浪岡組五本松村の在宅榊某の仕立山に野火・200間位×28間位・御家中の御奉公遠慮)
1798年　6月9日 寛政10年　4月25日 晴　(一昨23日後潟組清水村で出火・火元村預け)
1798年　6月10日 寛政10年　4月26日 晴　(去る10月小泊村で博打の松前の男を松前表に送返・同じく金木村・豊川村の男3人に3鞭所払い家屋敷等は妻子に・3鞭と居村徘徊是まで通りが5人・五軒組合に1軒に付き過料900文)
1798年　6月11日 寛政10年　4月27日 曇　今日申の刻過ぎより雨降　夜に入
1798年　6月12日 寛政10年　4月28日 晴
1798年　6月13日 寛政10年　4月29日 晴　(屋形様去る21日江戸御発駕来月9日御着城の予定、駄下の返り銭等を私曲・村方に渡さない等の浪岡組中野村庄屋の田畑取上げの上30鞭大場御構いの上十里四方追放家財欠所)
1798年　6月14日 寛政10年　5月1日 曇　(御留守居組頭棟方角之丞を御役御免大寄合格に等の人事異動)
1798年　6月15日 寛政10年　5月2日 晴
1798年　6月16日 寛政10年　5月3日 晴　(去月15日江戸発の関札打ちが到着)
1798年　6月17日 寛政10年　5月4日 晴
1798年　6月18日 寛政10年　5月5日 曇　今日未の刻前より時々雨降
1798年　6月19日 寛政10年　5月6日 曇　未の刻頃時々雨降　雷鳴
1798年　6月20日 寛政10年　5月7日 曇　今日時々小雨降
1798年　6月21日 寛政10年　5月8日 晴　(石堂法隆院より鳴動に付き御祈祷)
1798年　6月22日 寛政10年　5月9日 晴　(八つ時山吹の間に御着座、家内多数・病人の御持鑓に米2俵下し置かれる)
1798年　6月23日 寛政10年　5月10日 晴
1798年　6月24日 寛政10年　5月11日 曇　(畑中村の男が小亀を取り差上げる・鳥目1貫文下し置かれる)
1798年　6月25日 寛政10年　5月12日 曇　今日辰の刻頃より雨時々降　(大鰐村より初真瓜差上げる)
1798年　6月26日 寛政10年　5月13日 晴
1798年　6月27日 寛政10年　5月14日 曇　今日時々小雨降
1798年　6月28日 寛政10年　5月15日 晴
1798年　6月29日 寛政10年　5月16日 曇
1798年　6月30日 寛政10年　5月17日 晴　(大鰐村より初茄子差上げる)

1798年　7月1日 寛政10年　5月18日 曇
1798年　7月2日 寛政10年　5月19日 曇 今日時々雨降
1798年　7月3日 寛政10年　5月20日 曇 今日時々雨降 (棟方作右衛門等に松前箱館御固め御用交代要員を仰せ付ける、昨夜駒越組五代村の庄屋が変死)
1798年　7月4日 寛政10年　5月21日 曇 今日午の刻過ぎより小雨時々降
1798年　7月5日 寛政10年　5月22日 晴
1798年　7月6日 寛政10年　5月23日 曇 (唐内坂御茶屋を来る27日御棟上、牧野左次郎の御家老職を召放・牧野徳一も学校惣司退役・共に慎)　下から続く　召放かその倅赤石此次郎?も御目見以下御留守居支配に)
1798年　7月7日 寛政10年　5月24日 晴 (菊地寛司・笹森小太夫・古川仁左衛門の知行御取上役義御召放蟄居・倅小才司等に新に金5両3人扶持を下し置かれ御目見以下御留守居支配に・御城当番赤石も御役義　上に続く
1798年　7月8日 寛政10年　5月25日 曇 今日時々小雨降 (昨24日赤石安右衛門が御役召放)
1798年　7月9日 寛政10年　5月26日 曇 今日時々小雨降
1798年　7月10日 寛政10年　5月27日 晴 (御家中に弘前住居仰せ付ける、在方困窮の者共に米2000俵・銭100貫目をお手当てとして下し置かれる、この度殺人などを除き大赦)
1798年　7月11日 寛政10年　5月28日 晴 頃日向暑
1798年　7月12日 寛政10年　5月29日 曇 今日時々雨降　下から続く　・尤も渡し高半分通代渡残り正米の内勝手次第今日附相場でお買い上げ)
1798年　7月13日 寛政10年　5月30日 曇　下から続く　・毛内有右衛門を大目付等々の大幅な人事異動、去る巳(昨年)の10月より当月まで9か月分渡し方:知行取明2日・御切米御付人料御四季施料とも来る7日　上に続く
1798年　7月14日 寛政10年　6月1日 曇 (津軽外記を城代格・津軽頼母を手廻組頭兼用人・足立又右衛門を馬廻番頭・竹内衛士を馬廻組頭・竹内源太夫を留守居組頭・笠原兵司を留守居組頭・添田有方に用人兼帯　上に続く
1798年　7月15日 寛政10年　6月2日 曇
1798年　7月16日 寛政10年　6月3日 晴 (御能)　下から続く　嶋田村で出火・他人の外馬屋まで類焼・火元高無他村預け、駒越組樋口村の大土手只今押し破り候)
1798年　7月17日 寛政10年　6月4日 曇 今朝卯の刻頃より小雨降　午の刻頃止 (今回の下向に関する者を中心に褒美多数・行列の人数が見えるかも)　下から続く　・紺屋町の橋落ちる、昨4日夜大鰐組　上に続く
1798年　7月18日 寛政10年　6月5日 曇 今朝卯の刻頃より雨終日降　夜に入 (今日八つ時頃岩木川洪水・翌6日朝落水、石渡川7分余の出水、岩木川10歩余の出水・三御馬屋の馬を三之御丸に、新町・馬屋町　上に続く
1798年　7月19日 寛政10年　6月6日 曇 昨夜中雨　子の刻頃止 (昨日の洪水で駒越村で建家2軒流失)　下から続く　水湛の村々:田舎館組1・常盤組6・浪岡組3・増館組12、駒越村真土村で3軒流失、　欄外(*)に続く
1798年　7月20日 寛政10年　6月7日 晴 (一昨日の洪水で水引かない紺屋町後町の65軒に1俵宛下し置かれる、二・三・四の御郭廻の破損:内東御門橋脇土居・武者屯御門外入口土居・馬屋町西御門入口等に崩れ、　上に続く
1798年　7月21日 寛政10年　6月8日 晴
1798年　7月22日 寛政10年　6月9日 晴 (金木組21か村に水損田地450町歩ほどある・金木・嘉瀬村で橋押流す、津軽屋儀兵衛が病身で退役願・弥兵衛と正蔵に仰せ付ける)
1798年　7月23日 寛政10年　6月10日 晴 (5日の洪水で収納していた米が濡れ米になる)　下から続く　2ヵ所・在方潰家5軒流失16軒大橋流失4ヵ所・喜良市山と目屋野沢の流木残らず流失)
1798年　7月24日 寛政10年　6月11日 曇 今日午の刻頃地震少し (唐牛大六を御手廻格に等の人事異動、去る5日の洪水被害:藤代組72町歩余・赤石組12町歩余、洪水被害まとめ:弘前町潰家1軒流死4人大橋流失　上に続く
1798年　7月25日 寛政10年　6月12日 曇 今日巳の刻過ぎより大雨　午の刻過ぎ止 (五山・両社・長勝寺・神宮寺・袋宮寺・報恩寺・薬王院・大円寺四社に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1798年　7月26日 寛政10年　6月13日 晴 (半知役下げなど3人)
1798年　7月27日 寛政10年　6月14日 曇 (3日十三町で類焼の18人に御手当て1俵宛下し置かれる、5日洪水被害の斉藤長門門前の2人に御米1俵宛)
1798年　7月28日 寛政10年　6月15日 曇 今日巳の刻頃雨降 (本行寺に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1798年　7月29日 寛政10年　6月16日 晴 (法外の過米を取り立てた等の理由で秋元某を大場御構い十里四方追放)
1798年　7月30日 寛政10年　6月17日 晴 (多数の町民に褒美を出す、5日の洪水で家財等流失の紺屋町新割町の諸手足軽3人に御米4俵宛下し置かれる、広須・木作組で水湛の村に先日の10日分に加え30日分の御救い米)
1798年　7月31日 寛政10年　6月18日 晴 (去る巳の年(去年)疱瘡流行)
1798年　8月1日 寛政10年　6月19日 晴
1798年　8月2日 寛政10年　6月20日 晴 (今朝箱館御固め御人数一番立ち高覧・明け六つ半時三之丸御物見江相詰める、小倉作左衛門を勘定奉行に等の人事異動)
1798年　8月3日 寛政10年　6月21日 晴 今夜戌の刻過ぎ東方より西方江光物飛　即刻雷の如く鳴 (大鰐村より初穂差上げる、5日の洪水対策の褒美多数)
1798年　8月4日 寛政10年　6月22日 曇 今日午の刻頃小雨降
1798年　8月5日 寛政10年　6月23日 曇 今日申の刻頃より雨　夜に入 (先頃御姫様御誕生に付き座等98人・盲女114人に御祝儀1人に15文宛、昨21日夜五つ半時深砂(沙)宮殊の外強く鳴る、この頃鳴った光ったの報告多し)
1798年　8月6日 寛政10年　6月24日 曇 昨夜より雨　今日に及ぶ　巳の刻頃止 (昨晩よりの雨で岩木川出水・駒越渡場往来差留める、大坂を4月5日出帆の御廻船が能代湊の洪水で破船・水主5人水死、去る21日夜岩木山鳴動)
1798年　8月7日 寛政10年　6月25日 曇 (唐内坂御茶屋江御出)
1798年　8月8日 寛政10年　6月26日 曇 今日時々雨降
1798年　8月9日 寛政10年　6月27日 曇 今日時々雨降
1798年　8月10日 寛政10年　6月28日 晴 (5日の出水で居宅大破の御馬廻与力に米2俵、金木新田豊岡村で洪水被害の社家2人に御手当て米1俵宛)
1798年　8月11日 寛政10年　6月29日 晴 今夜子の刻前より雨降
1798年　8月12日 寛政10年　7月1日　(寛政10年7月の1ヶ月は日記が保存されていない)
1798年　8月13日 寛政10年　7月2日
1798年　8月14日 寛政10年　7月3日
1798年　8月15日 寛政10年　7月4日
1798年　8月16日 寛政10年　7月5日
1798年　8月17日 寛政10年　7月6日
1798年　8月18日 寛政10年　7月7日
1798年　8月19日 寛政10年　7月8日
1798年　8月20日 寛政10年　7月9日
1798年　8月21日 寛政10年　7月10日
1798年　8月22日 寛政10年　7月11日
1798年　8月23日 寛政10年　7月12日
1798年　8月24日 寛政10年　7月13日
1798年　8月25日 寛政10年　7月14日
1798年　8月26日 寛政10年　7月15日
1798年　8月27日 寛政10年　7月16日
1798年　8月28日 寛政10年　7月17日
1798年　8月29日 寛政10年　7月18日
1798年　8月30日 寛政10年　7月19日
1798年　8月31日 寛政10年　7月20日

(*) 去る3日十三町で火災18軒、去る5日の洪水で水死の者4人?、喜良市山の出材木中19800本余流失)

1798年　9月1日 寛政10年　7月21日
1798年　9月2日 寛政10年　7月22日
1798年　9月3日 寛政10年　7月23日
1798年　9月4日 寛政10年　7月24日
1798年　9月5日 寛政10年　7月25日
1798年　9月6日 寛政10年　7月26日
1798年　9月7日 寛政10年　7月27日
1798年　9月8日 寛政10年　7月28日
1798年　9月9日 寛政10年　7月29日　(寛政10年7月の1ヶ月は日記が保存されていない)
1798年　9月10日 寛政10年　8月1日 快晴　(小山次郎太夫を青森町奉行に等の人事異動、一昨日西の郭で角力高覧)
1798年　9月11日 寛政10年　8月2日 曇　今日午の刻頃より雨降　夜に入　(百沢寺より苔の実差出す)
1798年　9月12日 寛政10年　8月3日 曇　昨夜よりの雨今日に及び雨降　午の刻頃止
1798年　9月13日 寛政10年　8月4日 晴
1798年　9月14日 寛政10年　8月5日 曇
1798年　9月15日 寛政10年　8月6日 晴　今晩酉の刻過ぎより雨降　丑の刻過ぎ止
1798年　9月16日 寛政10年　8月7日 曇　今朝卯の刻過ぎ雨降　則刻止　(岩木川出水・駒越船場往来差留める)
1798年　9月17日 寛政10年　8月8日 曇
1798年　9月18日 寛政10年　8月9日 快晴　(先頃の水害で難渋の亀甲町・紺屋町に御手当て銭2貫目下し置かれる)
1798年　9月19日 寛政10年　8月10日 曇　今朝霜少々
1798年　9月20日 寛政10年　8月11日 曇
1798年　9月21日 寛政10年　8月12日 曇　今日午の刻頃より雨降　雷強し　申の刻頃止
1798年　9月22日 寛政10年　8月13日 曇　今日午の刻頃雨降　申の刻頃止　(今日熒斗目以上の面々に御能見物を仰せ付けられる、去る10日蟹田町隣の中師村に出火・家数9軒)
1798年　9月23日 寛政10年　8月14日 晴
1798年　9月24日 寛政10年　8月15日 曇　今日辰の刻過ぎ小雨降　則刻止　((八幡宮祭礼で)物見所に・御赤飯・御菓子・御酒・御吸物を下し置かれる)
1798年　9月25日 寛政10年　8月16日 曇　(中師村の火元の他村預け免許、去月20日出立の箱館固め御人数中の三上某が21日に油川村で士大将の部屋に駆け込む・乱気・知行召上げ永の御暇)
1798年　9月26日 寛政10年　8月17日 曇　(人事異動・褒美)
1798年　9月27日 寛政10年　8月18日 曇
1798年　9月28日 寛政10年　8月19日 晴
1798年　9月29日 寛政10年　8月20日 晴
1798年　9月30日 寛政10年　8月21日 曇
1798年　10月1日 寛政10年　8月22日 晴　(去る18日赤田組野木村の女房が気分悪しく川に入る・夫等が引き上げようとするが弟とともに溺死)
1798年　10月2日 寛政10年　8月23日 曇　今日時々雨降
1798年　10月3日 寛政10年　8月24日 晴　(7月20日に鰺ヶ沢で御米1500石を積受けた御廻船が23・24日の難風で南部佐井浦沖で突沈・後処理、津軽屋三右衛門支配人が此処元の用向きが済み出立とのこと・御手当て金5両)
1798年　10月4日 寛政10年　8月25日 晴　(22日記述の男の溺死体が赤田組木筒村に上げる)
1798年　10月5日 寛政10年　8月26日 曇　今朝卯の刻頃より雨降　巳の刻頃止　(釈奠の御祭事)
1798年　10月6日 寛政10年　8月27日 曇　今日未の刻過ぎ雨降　夜に入
1798年　10月7日 寛政10年　8月28日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　終日降　夜に入　今朝岩木山に雪見ゆる　戌の刻頃阿ら蓮(あられ)降　雷鳴
1798年　10月8日 寛政10年　8月29日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻止　今朝近山に雪ゆる(雪見ゆるとは書いてありません)
1798年　10月9日 寛政10年　8月30日 曇　今日霜強し
1798年 10月10日 寛政10年　9月1日 曇　今日時々雨降
1798年 10月11日 寛政10年　9月2日 曇
1798年 10月12日 寛政10年　9月3日 晴
1798年 10月13日 寛政10年　9月4日 曇　(不明日に後潟組阿弥陀川村で出火・火元百姓村預け)
1798年 10月14日 寛政10年　9月5日 曇　(牧野左次郎の慎み御免蟄居を仰せ付けられる・倅徳一に半知の500石御手廻)
1798年 10月15日 寛政10年　9月6日 曇　今日時々雨降
1798年 10月16日 寛政10年　9月7日 曇
1798年 10月17日 寛政10年　9月8日 曇　(去月17日津軽永孚・津軽頼母を御家老職・毛内有右衛門を御用人に仰せ付ける)
1798年 10月18日 寛政10年　9月9日 曇　今日時々雨降
1798年 10月19日 寛政10年　9月10日 曇
1798年 10月20日 寛政10年　9月11日 晴
1798年 10月21日 寛政10年　9月12日 晴
1798年 10月22日 寛政10年　9月13日 曇　今日時々小雨降
1798年 10月23日 寛政10年　9月14日 晴
1798年 10月24日 寛政10年　9月15日 曇
1798年 10月25日 寛政10年　9月16日 曇
1798年 10月26日 寛政10年　9月17日 快晴
1798年 10月27日 寛政10年　9月18日 曇　今暁寅の刻風雨　卯の刻頃止　巳の刻過ぎより時々雪降
1798年 10月28日 寛政10年　9月19日 曇
1798年 10月29日 寛政10年　9月20日 曇　今日時々雨降
1798年 10月30日 寛政10年　9月21日 曇　(吉之助様(誰かな黒石関係者かなと思うが)より鮭1尺宛下し置かれる)
1798年 10月31日 寛政10年　9月22日 晴

1798年　11月1日 寛政10年　 9月23日 曇　今日時々雨降
1798年　11月2日 寛政10年　 9月24日 曇　今日申の刻頃より雨降　亥の刻頃止　(酒仮値段1升に付き1匁6分)
1798年　11月3日 寛政10年　 9月25日 曇　今日時々雨降　(一昨23日堀越組清水森村で出火・小屋1軒焼失・火元高無慎み)
1798年　11月4日 寛政10年　 9月26日 曇
1798年　11月5日 寛政10年　 9月27日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　(御目付触れ:来月朔日日食に付き五つ時以前に登城・退出すべし)
1798年　11月6日 寛政10年　 9月28日 曇　昨夜中時々雨降　今日終日雨　夜に入
1798年　11月7日 寛政10年　 9月29日 曇　昨夜中時々雨降　今日終日雨降
1798年　11月8日 寛政10年　 10月1日 曇　日蝕(虫偏に食べるとなっているが……)四分半　巳の初刻より午の初刻まで　今日時々雨降
1798年　11月9日 寛政10年　 10月2日 晴
1798年 11月10日 寛政10年　 10月3日 晴
1798年 11月11日 寛政10年　 10月4日 晴
1798年 11月12日 寛政10年　 10月5日 晴　酉の刻頃より雨少し　(当作は季候不順の上水害等にても御減石少なからず大部85000石位にも御収蔵相成るか)
1798年 11月13日 寛政10年　 10月6日 曇　昨夜より時々雨降　今日時々雨
1798年 11月14日 寛政10年　 10月7日 晴　(去る3日横内組三本木村で出火・火元百姓村預け)
1798年 11月15日 寛政10年　 10月8日 晴　(東御門注進の節御家老等が御広間江……(青森・半島方面に行っていた屋形様が東門から帰っている))　下から続く　3806・1129・2歩9厘6毛)
1798年 11月16日 寛政10年　 10月9日 曇　今日辰の刻過ぎより雨終日降　夜に入　子の刻頃止　下から続く　3歩4厘・堀越1731・352・2歩3毛・常盤3170・894・2歩8厘1毛・大鰐3204・572・1歩7厘8毛・藤崎　上に続く
1798年 11月17日 寛政10年　 10月10日 曇　(岩木川出水・駒越渡場馬船長船とも往来成兼ねる、各組の預高・引高・作躰平均:赤石9564石余・2597石余・2歩7厘1毛・赤田7909・1801・2歩2厘7毛・広田6190・2106・　上に続く
1798年 11月18日 寛政10年　 10月11日 曇　昨夜雪二寸程積る　(今日初雪に付き御機嫌伺いを御家老・御城代・御用人が申し上げる)
1798年 11月19日 寛政10年　 10月12日 曇　今日時々雪降
1798年 11月20日 寛政10年　 10月13日 曇　今日時々雪降
1798年 11月21日 寛政10年　 10月14日 曇　今日時々雪降　夜に入　(去る11日暮六つ時外浜高田村で外馬屋1軒焼失・火元百姓)
1798年 11月22日 寛政10年　 10月15日 曇　昨夜子の刻頃より風強　巳の刻頃止　今暁雪少し降　(竹内衛士・野呂登を用人に等の人事異動)
1798年 11月23日 寛政10年　 10月16日 曇　今朝雪少し降　今夜戌四刻月蝕(これも虫偏)六分卒(?)　(不勤の樋口某の知行召上げ永の御暇・松前箱館で酒狂いの小畑兵司の御給分召上げ永の御暇・その他にもいくつか申し渡し)
1798年 11月24日 寛政10年　 10月17日 晴
1798年 11月25日 寛政10年　 10月18日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨　今日終日降
1798年 11月26日 寛政10年　 10月19日 曇
1798年 11月27日 寛政10年　 10月20日 曇　昨夜より雪降　今日終日降　五寸程積
1798年 11月28日 寛政10年　 10月21日 曇　昨夜中雪少々降
1798年 11月29日 寛政10年　 10月22日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　夜に入　戌の刻頃止
1798年 11月30日 寛政10年　 10月23日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止む　(今晩御月見に付き……、当新穀初相場:1俵に付き30目)
1798年　12月1日 寛政10年　 10月24日 晴
1798年　12月2日 寛政10年　 10月25日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨　雷強　今日終日降　(岩木川出水・駒越渡場人馬往来相成り難し)
1798年　12月3日 寛政10年　 10月26日 曇　昨夜雪少々降　(種里村にある長勝様(津軽家の何代か先祖かな)の御廟跡塚の話が見える)
1798年　12月4日 寛政10年　 10月27日 曇　(福眞才吉を数学添学頭に勤料2人扶持増等の人事異動)
1798年　12月5日 寛政10年　 10月28日 晴　(今日浪の間で御囃子)
1798年　12月6日 寛政10年　 10月29日 曇　今夜九つ時頃星数々飛
1798年　12月7日 寛政10年　 11月1日 曇　(人事異動、広須・木作両組の当夏洪水の村々に御救い:11月より来年2月まで1日1人4合を以って下し置かれる438石7斗2升?(判らん)、棟方角之丞病死)
1798年　12月8日 寛政10年　 11月2日 曇
1798年　12月9日 寛政10年　 11月3日 晴
1798年 12月10日 寛政10年　 11月4日 晴　今夜戌の刻地震少々　(駒越町で出火・3軒焼失)
1798年 12月11日 寛政10年　 11月5日 晴　今日申の刻頃より雨　夜に入　亥の刻頃止　(夏の洪水の際に補助米を差出した松木某等に褒美)
1798年 12月12日 寛政10年　 11月6日 曇　昨夜より雪降　(御献上の鮭を山吹の間で高覧、去る4日夜広須組出崎村で出火・1軒男1人(家主)馬1疋稲草3500束くらい焼失・火元百姓)
1798年 12月13日 寛政10年　 11月7日 曇　今朝雪三寸程積る
1798年 12月14日 寛政10年　 11月8日 曇　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　三寸程積る
1798年 12月15日 寛政10年　 11月9日 快晴　(油値段1升に付き6文目5分)
1798年 12月16日 寛政10年　 11月10日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨終日降　戌の刻頃止　(後潟組中師村13軒中8軒が類焼・御米8俵下し置かれる)
1798年 12月17日 寛政10年　 11月11日 晴
1798年 12月18日 寛政10年　 11月12日 晴　(田中太郎五郎を学校目付に等の人事異動)
1798年 12月19日 寛政10年　 11月13日 曇　今日時々雪降
1798年 12月20日 寛政10年　 11月14日 曇
1798年 12月21日 寛政10年　 11月15日 晴
1798年 12月22日 寛政10年　 11月16日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨終日降　下から続く　・御定め役引き1匁2分・平米37匁5分5厘8毛・金1両108文目)
1798年 12月23日 寛政10年　 11月17日 曇　今日吹雪　(昨夜九時過ぎ下土手町出火・火元八百屋・類焼3軒潰家3軒、当新穀一番相場沖役入り1俵に付き:弘前36文目5分1厘7毛・青森41文目・平均38文目7分5厘8毛　上に続く
1798年 12月24日 寛政10年　 11月18日 曇　今日終日吹雪
1798年 12月25日 寛政10年　 11月19日 曇
1798年 12月26日 寛政10年　 11月20日 晴　(四時の御供揃えで喜多村監物宅に御成り)
1798年 12月27日 寛政10年　 11月21日 曇
1798年 12月28日 寛政10年　 11月22日 曇　今日時々雪降
1798年 12月29日 寛政10年　 11月23日 晴　今日時々雪降
1798年 12月30日 寛政10年　 11月24日 曇
1798年 12月31日 寛政10年　 11月25日 晴　(500石積の船が350両?)

1799年　1月1日 寛政10年　11月26日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻頃止
1799年　1月2日 寛政10年　11月27日 曇　今日申の刻頃より雨降　夜に入　　下から続く　　駒越渡場往来差留める）
1799年　1月3日 寛政10年　11月28日 曇　昨夜より雨　今暁寅の刻頃止　今日巳の刻頃より雨降　未の刻過ぎ止　申の刻過ぎより雪降　夜に入　風強し　（箱館御用の山田剛太郎等に御料理・御能見物、岩木川出水・　　上に続く
1799年　1月4日 寛政10年　11月29日 曇　昨夜中吹雪強　今日時々雪降
1799年　1月5日 寛政10年　11月30日 曇　今日時々雪降　今夜戌の二刻寒入　（凶年御備米15000石の内去年7500石……(種籾として使っちゃったのかな)）
1799年　1月6日 寛政10年　12月1日 晴
1799年　1月7日 寛政10年　12月2日 曇
1799年　1月8日 寛政10年　12月3日 曇　昨夜少々雪降　（今日御家中の母が伯父宅で自害）
1799年　1月9日 寛政10年　12月4日 曇　今日巳の刻過ぎより雪時々降
1799年　1月10日 寛政10年　12月5日 曇　昨夜雪五寸程積る　今日未の刻過ぎより雪降　夜に入
1799年　1月11日 寛政10年　12月6日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日時々雪降
1799年　1月12日 寛政10年　12月7日 曇　今日時々雪降　（黒石から米3700石の江戸廻米並びに南部松前津出願・了）
1799年　1月13日 寛政10年　12月8日 曇　　下から続く　　・その買い主に3鞭、金木村・川蔵村でも盗杣・檜皮剥で鞭など）
1799年　1月14日 寛政10年　12月9日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨降　今朝に及ぶ　巳の刻頃止　（6月24日に出水で流失の杉丸太を取り売払った小金崎村の男に6鞭大鰐組中御構い所払い・家屋敷家財等は妻子に　　上に続く
1799年　1月15日 寛政10年　12月10日 曇
1799年　1月16日 寛政10年　12月11日 快晴　（今日御献上の鱈高覧が不快に付き延引）　　下から続く　　手仕事として細縄百万尋上納させる・百尋に2分5厘つつ下し置かれる）
1799年　1月17日 寛政10年　12月12日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨降　今朝卯の刻頃より雪　今日時々雪降　（去る10日浪岡組中野村で出火・外馬屋1軒焼失・火元百姓戸〆、広須木作両組で水難の村々の雪中の　　上に続く
1799年　1月18日 寛政10年　12月13日 曇　昨夜雪五寸程積る　今日時々雪降
1799年　1月19日 寛政10年　12月14日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日時々雪降
1799年　1月20日 寛政10年　12月15日 曇　昨夜雪少々降　今日時々降
1799年　1月21日 寛政10年　12月16日 晴　（重くない罪2人に3鞭と居村徘徊御免）
1799年　1月22日 寛政10年　12月17日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　夜に入　戌の刻頃止
1799年　1月23日 寛政10年　12月18日 曇　今日辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止　（当作不熟）
1799年　1月24日 寛政10年　12月19日 曇　今日時々雪降
1799年　1月25日 寛政10年　12月20日 曇　昨夜雪三寸程積る
1799年　1月26日 寛政10年　12月21日 曇　今日時々雪降　（多数に褒美等）
1799年　1月27日 寛政10年　12月22日 曇　昨夜雪三寸程降　今日時々雪降　（飛脚関連のルール(変更)が書いてある）
1799年　1月28日 寛政10年　12月23日 曇　今日巳の刻前より雪少々降
1799年　1月29日 寛政10年　12月24日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日時々降　（学校の学生?102人(ダブっていて人数は減るかも)に学業・武芸出精として褒美、杣取り方出精などとして多数に褒美）
1799年　1月30日 寛政10年　12月25日 晴　昨夜雪少々降
1799年　1月31日 寛政10年　12月26日 曇　今日時々雪降　（今日御茶口切御能・夜五つ時過ぎ相すむ、当月15日牢舎の者共に紙包の品を隠し入れた牢屋番人を追放・家財は妻子に）
1799年　2月1日 寛政10年　12月27日 曇　昨夜雪少々降　今日時々雪降　（去る25日以前に御家中の母自害、去る24日木作新田貫水村・中福原村で出火・両火元共居村預け、去る24日夜新町に盗賊）
1799年　2月2日 寛政10年　12月28日 晴　（町大工など多数に褒美）　　下から続く　　百姓他村預け、当年御検見平均四つ物成高100石に付き24俵1斗に相成り候旨知行取御蔵渡しの分……(意味は判らない)）
1799年　2月3日 寛政10年　12月29日 曇　今日朝の内雪降　未の刻過ぎより申の刻雷　（木造新田水難の4か村から御救い山の申し出・482人に御手当お米150俵を下し置かれる、昨28日常盤組徳下村で出火・火元　　上に続く
1799年　2月4日 寛政10年　12月30日 曇
1799年　2月5日 寛政11年正月1日　　（寛政11年正月の1ヶ月は日記が保存されていない）
1799年　2月6日 寛政11年正月2日
1799年　2月7日 寛政11年正月3日
1799年　2月8日 寛政11年正月4日
1799年　2月9日 寛政11年正月5日
1799年　2月10日 寛政11年正月6日
1799年　2月11日 寛政11年正月7日
1799年　2月12日 寛政11年正月8日
1799年　2月13日 寛政11年正月9日
1799年　2月14日 寛政11年正月10日
1799年　2月15日 寛政11年正月11日
1799年　2月16日 寛政11年正月12日
1799年　2月17日 寛政11年正月13日
1799年　2月18日 寛政11年正月14日
1799年　2月19日 寛政11年正月15日
1799年　2月20日 寛政11年正月16日
1799年　2月21日 寛政11年正月17日
1799年　2月22日 寛政11年正月18日
1799年　2月23日 寛政11年正月19日
1799年　2月24日 寛政11年正月20日
1799年　2月25日 寛政11年正月21日
1799年　2月26日 寛政11年正月22日
1799年　2月27日 寛政11年正月23日
1799年　2月28日 寛政11年正月24日

1799年　3月1日 寛政11年正月25日
1799年　3月2日 寛政11年正月26日
1799年　3月3日 寛政11年正月27日
1799年　3月4日 寛政11年正月28日
1799年　3月5日 寛政11年正月29日　（寛政11年正月の1ヶ月は日記が保存されていない）
1799年　3月6日 寛政11年　2月1日 曇 （人事異動）
1799年　3月7日 寛政11年　2月2日 曇 今朝辰の刻過ぎより小雨降　即刻止ム　時々雪降
1799年　3月8日 寛政11年　2月3日 曇 今日雪時々降　下から続く　漂着に付き唐船で送来たり候とのこと、旧冬24日夜小豆澤村の傷害致死?男が牢破り逃げ去る・人相書き：せい5尺3寸位等々）
1799年　3月9日 寛政11年　2月4日 曇 昨夜よりの雪今朝に及び1寸程積　今日時々雪降 （去月21日江戸発の御飛脚到着：青森大町久保屋儀兵衛と申す者（他に川代田村の園次郎・下米村の万次郎）唐国え　上に続く
1799年　3月10日 寛政11年　2月5日 曇 今日時々雪降 （今日検見引き御用捨仰せ付けられ候に付き御家老御用人浪の間江罷出御礼申し上げる：年貢の減免を了としたのかな?）
1799年　3月11日 寛政11年　2月6日 曇
1799年　3月12日 寛政11年　2月7日 曇 （松前箱館御固め御用として足立又右衛門などを任命、駒越組松木平村の高無が猪大小2疋刈り取る・上納）
1799年　3月13日 寛政11年　2月8日 晴
1799年　3月14日 寛政11年　2月9日 晴
1799年　3月15日 寛政11年　2月10日 曇
1799年　3月16日 寛政11年　2月11日 曇 （今日浪の間で御囃子、飛脚船2艘を鯵ヶ沢から買い入れる・80両と19両2歩）
1799年　3月17日 寛政11年　2月12日 曇 今日午の刻頃より時々雨降　夜に入 （学校で考えた買い入れた2艘の船名：地久丸・盛運丸）
1799年　3月18日 寛政11年　2月13日 曇 昨夜よりの雨今朝に及ぶ　辰の刻頃止　申の刻頃より雨降　酉の刻頃雪降 （野内町で遺産相続争いがあり暴力沙汰にもなったので決を下している）
1799年　3月19日 寛政11年　2月14日 曇 昨夜雪降　3寸程積
1799年　3月20日 寛政11年　2月15日 晴
1799年　3月21日 寛政11年　2月16日 曇 今日辰の刻頃より雪終日降 （去年11月に中柏木村で柏木株伐盗み山廻り役人を打擲した毘沙門村の男3人に6鞭宛居村徘徊是までどおり・この仲間6人に3鞭宛居村徘徊是までどおり）
1799年　3月22日 寛政11年　2月17日 曇 今日雪時々降
1799年　3月23日 寛政11年　2月18日 曇 昨夜雪少し降
1799年　3月24日 寛政11年　2月19日 曇 昨夜雪五寸程積る　今日終日雪降
1799年　3月25日 寛政11年　2月20日 曇 今日時々雪降
1799年　3月26日 寛政11年　2月21日 曇
1799年　3月27日 寛政11年　2月22日 曇
1799年　3月28日 寛政11年　2月23日 曇 今日時々雪降 （内南御門外橋欄干の内所々刃物にて削痕あり、次の派兵について申し渡されているらしい・2月16日に最上徳内等が江戸を出ている）
1799年　3月29日 寛政11年　2月24日 曇
1799年　3月30日 寛政11年　2月25日 曇
1799年　3月31日 寛政11年　2月26日 曇 今日午の刻頃より雨降　申の刻より雪降　夜に入 （和徳町出生の盗人に12鞭と乞食手渡し・依怙の取り扱いが多い青森町年寄りの知行召上げ永の御暇他出差留め）
1799年　4月1日 寛政11年　2月27日 曇 昨夜よりの雪今暁に及ぶ　1寸程積る （東御蔵等から青森御蔵に17600俵駄下げ）
1799年　4月2日 寛政11年　2月28日 晴 昨夜雪少し降
1799年　4月3日 寛政11年　2月29日 曇 今日申の刻頃より雪降　夜ニ入ル （この頃7日振りなどの飛脚多い）
1799年　4月4日 寛政11年　2月30日 曇 昨夜雪1寸程積る　今日時々霙降
1799年　4月5日 寛政11年　3月1日　（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）
1799年　4月6日 寛政11年　3月2日
1799年　4月7日 寛政11年　3月3日
1799年　4月8日 寛政11年　3月4日
1799年　4月9日 寛政11年　3月5日
1799年　4月10日 寛政11年　3月6日
1799年　4月11日 寛政11年　3月7日
1799年　4月12日 寛政11年　3月8日
1799年　4月13日 寛政11年　3月9日
1799年　4月14日 寛政11年　3月10日
1799年　4月15日 寛政11年　3月11日
1799年　4月16日 寛政11年　3月12日
1799年　4月17日 寛政11年　3月13日
1799年　4月18日 寛政11年　3月14日
1799年　4月19日 寛政11年　3月15日
1799年　4月20日 寛政11年　3月16日
1799年　4月21日 寛政11年　3月17日
1799年　4月22日 寛政11年　3月18日
1799年　4月23日 寛政11年　3月19日
1799年　4月24日 寛政11年　3月20日
1799年　4月25日 寛政11年　3月21日
1799年　4月26日 寛政11年　3月22日
1799年　4月27日 寛政11年　3月23日
1799年　4月28日 寛政11年　3月24日
1799年　4月29日 寛政11年　3月25日
1799年　4月30日 寛政11年　3月26日

1799年	5月1日	寛政11年	3月27日
1799年	5月2日	寛政11年	3月28日
1799年	5月3日	寛政11年	3月29日
1799年	5月4日	寛政11年	3月30日
1799年	5月5日	寛政11年	4月1日
1799年	5月6日	寛政11年	4月2日
1799年	5月7日	寛政11年	4月3日
1799年	5月8日	寛政11年	4月4日
1799年	5月9日	寛政11年	4月5日
1799年	5月10日	寛政11年	4月6日
1799年	5月11日	寛政11年	4月7日
1799年	5月12日	寛政11年	4月8日
1799年	5月13日	寛政11年	4月9日
1799年	5月14日	寛政11年	4月10日
1799年	5月15日	寛政11年	4月11日
1799年	5月16日	寛政11年	4月12日
1799年	5月17日	寛政11年	4月13日
1799年	5月18日	寛政11年	4月14日
1799年	5月19日	寛政11年	4月15日
1799年	5月20日	寛政11年	4月16日
1799年	5月21日	寛政11年	4月17日
1799年	5月22日	寛政11年	4月18日
1799年	5月23日	寛政11年	4月19日
1799年	5月24日	寛政11年	4月20日
1799年	5月25日	寛政11年	4月21日
1799年	5月26日	寛政11年	4月22日
1799年	5月27日	寛政11年	4月23日
1799年	5月28日	寛政11年	4月24日
1799年	5月29日	寛政11年	4月25日
1799年	5月30日	寛政11年	4月26日
1799年	5月31日	寛政11年	4月27日
1799年	6月1日	寛政11年	4月28日
1799年	6月2日	寛政11年	4月29日
1799年	6月3日	寛政11年	4月30日
1799年	6月4日	寛政11年	5月1日
1799年	6月5日	寛政11年	5月2日
1799年	6月6日	寛政11年	5月3日
1799年	6月7日	寛政11年	5月4日
1799年	6月8日	寛政11年	5月5日
1799年	6月9日	寛政11年	5月6日
1799年	6月10日	寛政11年	5月7日
1799年	6月11日	寛政11年	5月8日
1799年	6月12日	寛政11年	5月9日
1799年	6月13日	寛政11年	5月10日
1799年	6月14日	寛政11年	5月11日
1799年	6月15日	寛政11年	5月12日
1799年	6月16日	寛政11年	5月13日
1799年	6月17日	寛政11年	5月14日
1799年	6月18日	寛政11年	5月15日
1799年	6月19日	寛政11年	5月16日
1799年	6月20日	寛政11年	5月17日
1799年	6月21日	寛政11年	5月18日
1799年	6月22日	寛政11年	5月19日
1799年	6月23日	寛政11年	5月20日
1799年	6月24日	寛政11年	5月21日
1799年	6月25日	寛政11年	5月22日
1799年	6月26日	寛政11年	5月23日
1799年	6月27日	寛政11年	5月24日
1799年	6月28日	寛政11年	5月25日
1799年	6月29日	寛政11年	5月26日
1799年	6月30日	寛政11年	5月27日

（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）

1799年	7月1日	寛政11年	5月28日
1799年	7月2日	寛政11年	5月29日
1799年	7月3日	寛政11年	6月1日
1799年	7月4日	寛政11年	6月2日
1799年	7月5日	寛政11年	6月3日
1799年	7月6日	寛政11年	6月4日
1799年	7月7日	寛政11年	6月5日
1799年	7月8日	寛政11年	6月6日
1799年	7月9日	寛政11年	6月7日
1799年	7月10日	寛政11年	6月8日
1799年	7月11日	寛政11年	6月9日
1799年	7月12日	寛政11年	6月10日
1799年	7月13日	寛政11年	6月11日
1799年	7月14日	寛政11年	6月12日
1799年	7月15日	寛政11年	6月13日
1799年	7月16日	寛政11年	6月14日
1799年	7月17日	寛政11年	6月15日
1799年	7月18日	寛政11年	6月16日
1799年	7月19日	寛政11年	6月17日
1799年	7月20日	寛政11年	6月18日
1799年	7月21日	寛政11年	6月19日
1799年	7月22日	寛政11年	6月20日
1799年	7月23日	寛政11年	6月21日
1799年	7月24日	寛政11年	6月22日
1799年	7月25日	寛政11年	6月23日
1799年	7月26日	寛政11年	6月24日
1799年	7月27日	寛政11年	6月25日
1799年	7月28日	寛政11年	6月26日
1799年	7月29日	寛政11年	6月27日
1799年	7月30日	寛政11年	6月28日
1799年	7月31日	寛政11年	6月29日
1799年	8月1日	寛政11年	7月1日
1799年	8月2日	寛政11年	7月2日
1799年	8月3日	寛政11年	7月3日
1799年	8月4日	寛政11年	7月4日
1799年	8月5日	寛政11年	7月5日
1799年	8月6日	寛政11年	7月6日
1799年	8月7日	寛政11年	7月7日
1799年	8月8日	寛政11年	7月8日
1799年	8月9日	寛政11年	7月9日
1799年	8月10日	寛政11年	7月10日
1799年	8月11日	寛政11年	7月11日
1799年	8月12日	寛政11年	7月12日
1799年	8月13日	寛政11年	7月13日
1799年	8月14日	寛政11年	7月14日
1799年	8月15日	寛政11年	7月15日
1799年	8月16日	寛政11年	7月16日
1799年	8月17日	寛政11年	7月17日
1799年	8月18日	寛政11年	7月18日
1799年	8月19日	寛政11年	7月19日
1799年	8月20日	寛政11年	7月20日
1799年	8月21日	寛政11年	7月21日
1799年	8月22日	寛政11年	7月22日
1799年	8月23日	寛政11年	7月23日
1799年	8月24日	寛政11年	7月24日
1799年	8月25日	寛政11年	7月25日
1799年	8月26日	寛政11年	7月26日
1799年	8月27日	寛政11年	7月27日
1799年	8月28日	寛政11年	7月28日
1799年	8月29日	寛政11年	7月29日
1799年	8月30日	寛政11年	7月30日
1799年	8月31日	寛政11年	8月1日

（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）

1799年	9月1日	寛政11年	8月2日
1799年	9月2日	寛政11年	8月3日
1799年	9月3日	寛政11年	8月4日
1799年	9月4日	寛政11年	8月5日
1799年	9月5日	寛政11年	8月6日
1799年	9月6日	寛政11年	8月7日
1799年	9月7日	寛政11年	8月8日
1799年	9月8日	寛政11年	8月9日
1799年	9月9日	寛政11年	8月10日
1799年	9月10日	寛政11年	8月11日
1799年	9月11日	寛政11年	8月12日
1799年	9月12日	寛政11年	8月13日
1799年	9月13日	寛政11年	8月14日
1799年	9月14日	寛政11年	8月15日
1799年	9月15日	寛政11年	8月16日
1799年	9月16日	寛政11年	8月17日
1799年	9月17日	寛政11年	8月18日
1799年	9月18日	寛政11年	8月19日
1799年	9月19日	寛政11年	8月20日
1799年	9月20日	寛政11年	8月21日
1799年	9月21日	寛政11年	8月22日
1799年	9月22日	寛政11年	8月23日
1799年	9月23日	寛政11年	8月24日
1799年	9月24日	寛政11年	8月25日
1799年	9月25日	寛政11年	8月26日
1799年	9月26日	寛政11年	8月27日
1799年	9月27日	寛政11年	8月28日
1799年	9月28日	寛政11年	8月29日
1799年	9月29日	寛政11年	9月1日
1799年	9月30日	寛政11年	9月2日
1799年	10月1日	寛政11年	9月3日
1799年	10月2日	寛政11年	9月4日
1799年	10月3日	寛政11年	9月5日
1799年	10月4日	寛政11年	9月6日
1799年	10月5日	寛政11年	9月7日
1799年	10月6日	寛政11年	9月8日
1799年	10月7日	寛政11年	9月9日
1799年	10月8日	寛政11年	9月10日
1799年	10月9日	寛政11年	9月11日
1799年	10月10日	寛政11年	9月12日
1799年	10月11日	寛政11年	9月13日
1799年	10月12日	寛政11年	9月14日
1799年	10月13日	寛政11年	9月15日
1799年	10月14日	寛政11年	9月16日
1799年	10月15日	寛政11年	9月17日
1799年	10月16日	寛政11年	9月18日
1799年	10月17日	寛政11年	9月19日
1799年	10月18日	寛政11年	9月20日
1799年	10月19日	寛政11年	9月21日
1799年	10月20日	寛政11年	9月22日
1799年	10月21日	寛政11年	9月23日
1799年	10月22日	寛政11年	9月24日
1799年	10月23日	寛政11年	9月25日
1799年	10月24日	寛政11年	9月26日
1799年	10月25日	寛政11年	9月27日
1799年	10月26日	寛政11年	9月28日
1799年	10月27日	寛政11年	9月29日
1799年	10月28日	寛政11年	9月30日
1799年	10月29日	寛政11年	10月1日
1799年	10月30日	寛政11年	10月2日
1799年	10月31日	寛政11年	10月3日

（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）

1799年　11月1日 寛政11年　10月4日　（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）
1799年　11月2日 寛政11年　10月5日
1799年　11月3日 寛政11年　10月6日
1799年　11月4日 寛政11年　10月7日
1799年　11月5日 寛政11年　10月8日
1799年　11月6日 寛政11年　10月9日
1799年　11月7日 寛政11年　10月10日
1799年　11月8日 寛政11年　10月11日
1799年　11月9日 寛政11年　10月12日
1799年 11月10日 寛政11年　10月13日
1799年 11月11日 寛政11年　10月14日
1799年 11月12日 寛政11年　10月15日
1799年 11月13日 寛政11年　10月16日
1799年 11月14日 寛政11年　10月17日
1799年 11月15日 寛政11年　10月18日
1799年 11月16日 寛政11年　10月19日
1799年 11月17日 寛政11年　10月20日
1799年 11月18日 寛政11年　10月21日
1799年 11月19日 寛政11年　10月22日
1799年 11月20日 寛政11年　10月23日
1799年 11月21日 寛政11年　10月24日
1799年 11月22日 寛政11年　10月25日
1799年 11月23日 寛政11年　10月26日
1799年 11月24日 寛政11年　10月27日
1799年 11月25日 寛政11年　10月28日
1799年 11月26日 寛政11年　10月29日
1799年 11月27日 寛政11年　11月1日
1799年 11月28日 寛政11年　11月2日
1799年 11月29日 寛政11年　11月3日
1799年 11月30日 寛政11年　11月4日
1799年　12月1日 寛政11年　11月5日
1799年　12月2日 寛政11年　11月6日
1799年　12月3日 寛政11年　11月7日
1799年　12月4日 寛政11年　11月8日
1799年　12月5日 寛政11年　11月9日
1799年　12月6日 寛政11年　11月10日
1799年　12月7日 寛政11年　11月11日
1799年　12月8日 寛政11年　11月12日
1799年　12月9日 寛政11年　11月13日
1799年 12月10日 寛政11年　11月14日
1799年 12月11日 寛政11年　11月15日
1799年 12月12日 寛政11年　11月16日
1799年 12月13日 寛政11年　11月17日
1799年 12月14日 寛政11年　11月18日
1799年 12月15日 寛政11年　11月19日
1799年 12月16日 寛政11年　11月20日
1799年 12月17日 寛政11年　11月21日
1799年 12月18日 寛政11年　11月22日
1799年 12月19日 寛政11年　11月23日
1799年 12月20日 寛政11年　11月24日
1799年 12月21日 寛政11年　11月25日
1799年 12月22日 寛政11年　11月26日
1799年 12月23日 寛政11年　11月27日
1799年 12月24日 寛政11年　11月28日
1799年 12月25日 寛政11年　11月29日
1799年 12月26日 寛政11年　12月1日
1799年 12月27日 寛政11年　12月2日
1799年 12月28日 寛政11年　12月3日
1799年 12月29日 寛政11年　12月4日
1799年 12月30日 寛政11年　12月5日
1799年 12月31日 寛政11年　12月6日

1800年　1月1日 寛政11年　12月7日　（寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない）
1800年　1月2日 寛政11年　12月8日
1800年　1月3日 寛政11年　12月9日
1800年　1月4日 寛政11年　12月10日
1800年　1月5日 寛政11年　12月11日
1800年　1月6日 寛政11年　12月12日
1800年　1月7日 寛政11年　12月13日
1800年　1月8日 寛政11年　12月14日
1800年　1月9日 寛政11年　12月15日
1800年　1月10日 寛政11年　12月16日
1800年　1月11日 寛政11年　12月17日
1800年　1月12日 寛政11年　12月18日
1800年　1月13日 寛政11年　12月19日
1800年　1月14日 寛政11年　12月20日
1800年　1月15日 寛政11年　12月21日
1800年　1月16日 寛政11年　12月22日
1800年　1月17日 寛政11年　12月23日
1800年　1月18日 寛政11年　12月24日
1800年　1月19日 寛政11年　12月25日
1800年　1月20日 寛政11年　12月26日
1800年　1月21日 寛政11年　12月27日
1800年　1月22日 寛政11年　12月28日
1800年　1月23日 寛政11年　12月29日
1800年　1月24日 寛政11年　12月30日
1800年　1月25日 寛政12年正月1日
1800年　1月26日 寛政12年正月2日
1800年　1月27日 寛政12年正月3日
1800年　1月28日 寛政12年正月4日
1800年　1月29日 寛政12年正月5日
1800年　1月30日 寛政12年正月6日
1800年　1月31日 寛政12年正月7日
1800年　2月1日 寛政12年正月8日
1800年　2月2日 寛政12年正月9日
1800年　2月3日 寛政12年正月10日
1800年　2月4日 寛政12年正月11日
1800年　2月5日 寛政12年正月12日
1800年　2月6日 寛政12年正月13日
1800年　2月7日 寛政12年正月14日
1800年　2月8日 寛政12年正月15日
1800年　2月9日 寛政12年正月16日
1800年　2月10日 寛政12年正月17日
1800年　2月11日 寛政12年正月18日
1800年　2月12日 寛政12年正月19日
1800年　2月13日 寛政12年正月20日
1800年　2月14日 寛政12年正月21日
1800年　2月15日 寛政12年正月22日
1800年　2月16日 寛政12年正月23日
1800年　2月17日 寛政12年正月24日
1800年　2月18日 寛政12年正月25日
1800年　2月19日 寛政12年正月26日
1800年　2月20日 寛政12年正月27日
1800年　2月21日 寛政12年正月28日
1800年　2月22日 寛政12年正月29日
1800年　2月23日 寛政12年正月30日
1800年　2月24日 寛政12年　2月1日
1800年　2月25日 寛政12年　2月2日
1800年　2月26日 寛政12年　2月3日
1800年　2月27日 寛政12年　2月4日
1800年　2月28日 寛政12年　2月5日

1800年　3月1日 寛政12年　2月6日　(寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない)
1800年　3月2日 寛政12年　2月7日
1800年　3月3日 寛政12年　2月8日
1800年　3月4日 寛政12年　2月9日
1800年　3月5日 寛政12年　2月10日
1800年　3月6日 寛政12年　2月11日
1800年　3月7日 寛政12年　2月12日
1800年　3月8日 寛政12年　2月13日
1800年　3月9日 寛政12年　2月14日
1800年　3月10日 寛政12年　2月15日
1800年　3月11日 寛政12年　2月16日
1800年　3月12日 寛政12年　2月17日
1800年　3月13日 寛政12年　2月18日
1800年　3月14日 寛政12年　2月19日
1800年　3月15日 寛政12年　2月20日
1800年　3月16日 寛政12年　2月21日
1800年　3月17日 寛政12年　2月22日
1800年　3月18日 寛政12年　2月23日
1800年　3月19日 寛政12年　2月24日
1800年　3月20日 寛政12年　2月25日
1800年　3月21日 寛政12年　2月26日
1800年　3月22日 寛政12年　2月27日
1800年　3月23日 寛政12年　2月28日
1800年　3月24日 寛政12年　2月29日　(寛政11年3月から寛政12年2月までの1年間は日記が保存されていない)
1800年　3月25日 寛政12年　3月1日 曇　今日巳の刻頃より時々雨降　酉の刻頃止　(人事異動)
1800年　3月26日 寛政12年　3月2日 曇　昨夜中よりの雪今朝に及び時々降　(石渡川四歩半の出水・両船往来成りかねる)
1800年　3月27日 寛政12年　3月3日 曇　昨夜中吹雪強し　今日小雨降
1800年　3月28日 寛政12年　3月4日 曇　昨夜中吹雪強し　今日時々雪降　(人事異動)
1800年　3月29日 寛政12年　3月5日 曇
1800年　3月30日 寛政12年　3月6日 曇　今日時々雪降　夜に入
1800年　3月31日 寛政12年　3月7日 曇　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　2寸程積ル　(当月朔日朝四時頃より暮六時頃まて十三潟が残らず氷明ける・去年は3月6日より7日の朝迄・当年は日数に引合い6日早く節に引合い17日早い)
1800年　4月1日 寛政12年　3月8日 曇　昨夜中雪降　3寸程積　今日時々雪降　(江戸に行った掃除小人が盗人などで永の御暇等々)
1800年　4月2日 寛政12年　3月9日 快晴
1800年　4月3日 寛政12年　3月10日 曇　今暁丑の刻頃より雨今朝に及ぶ　時々降
1800年　4月4日 寛政12年　3月11日 曇　今日少々雪降　(当月朔日沖館村前浜で漁船の2人水死)
1800年　4月5日 寛政12年　3月12日 曇　今日時々雨降　夜に入　(去秋米値段下値……)
1800年　4月6日 寛政12年　3月13日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　終日降　夜に入　(頃日雨天続きで石渡川6歩駒越川5歩の出水)
1800年　4月7日 寛政12年　3月14日 曇　昨夜よりの雨今朝卯の刻頃より止　午の刻より雨降　未の刻頃止
1800年　4月8日 寛政12年　3月15日 曇　昨夜雪少々降　(松前箱館勤めだった足立又右衛門等に御料理、去る10日浅虫村で出火・火元高無村預け、去る13日藤崎川出水・同所仮橋取払い往来差留める)
1800年　4月9日 寛政12年　3月16日 曇　今日少々雪降　(丹波者を詮索送り返すようにする)
1800年　4月10日 寛政12年　3月17日 曇　昨夜中雪少々降
1800年　4月11日 寛政12年　3月18日 晴
1800年　4月12日 寛政12年　3月19日 曇　昨夜子の刻より雨降　今朝に及ぶ　時々降　(当月5日横内組造道村に奈良出生の男病死、炭50俵流木100目代を御家老衆・炭30俵流木60目代を御用人中に渡す・代金は差引)
1800年　4月13日 寛政12年　3月20日 曇　(去る8月21日夜碇ヶ関脇道で馬1疋と無刻印の杉柾2000枚を押える・他に杉柾5000枚等も)
1800年　4月14日 寛政12年　3月21日 晴
1800年　4月15日 寛政12年　3月22日 快晴
1800年　4月16日 寛政12年　3月23日 晴　昨夜子の刻より雨降　今暁丑の刻より止　　下から続く　　2月5日病死、去月29日御登御用金1500両が御国元より(江戸に)到着)
1800年　4月17日 寛政12年　3月24日 曇　今日時々雨降　夜に入　(石渡川4歩半の出水にて往来なりかねる、来月朔日日蝕に付き月並出仕御用捨の触れあり)　　下から続く　　蝦夷地浦川勤番中の諸手足軽が　　上に続く
1800年　4月18日 寛政12年　3月25日 曇　昨夜中雨　今日に及ぶ　時々降　(刈取りを隔年にしていた三馬屋村の昆布が去年の生立ち宜しく刈取った・今年も生立が良く刈取りたいとの申し出で・そのように申付ける、　　上に続く
1800年　4月19日 寛政12年　3月26日 曇　今朝辰の刻小雨降　則刻止
1800年　4月20日 寛政12年　3月27日 晴
1800年　4月21日 寛政12年　3月28日 晴
1800年　4月22日 寛政12年　3月29日 晴　(賣女の宿をした男に3鞭居町住居是まで通り)
1800年　4月23日 寛政12年　3月30日 曇
1800年　4月24日 寛政12年　4月1日 曇　(今日日蝕に付き月並み出仕御用捨、一昨29日夜(駒越組)紙漉沢村で出火・類焼7軒・9か村の御備籾入れ置く郷蔵とも焼失、去月29日木筒村で出火・火元高無村預け)
1800年　4月25日 寛政12年　4月2日 曇　昨夜戌の刻頃小雨降　則刻止　(戒香院様(津軽信寧)17回御忌に伴う大赦:出牢1・御国徘徊御免2・弘前徘徊御免5人)
1800年　4月26日 寛政12年　4月3日 快晴　(今日中町御家中屋敷から出火・類焼14軒・牢舎の者どもを縄下に差出す・下火になり入牢させる)
1800年　4月27日 寛政12年　4月4日 曇　今朝卯の刻頃雨降　酉の刻頃止　(岩木川出水・駒越渡し場馬船長船とも往来差留める)
1800年　4月28日 寛政12年　4月5日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　申の刻頃止　同刻雪少々降
1800年　4月29日 寛政12年　4月6日 曇　今日時々小雨降
1800年　4月30日 寛政12年　4月7日 晴　今朝霜強し　(鰺ヶ沢湊で御米3750俵を積み日和待ちの船が一昨5日の大風雨で破船)

1800年　5月1日 寛政12年　4月8日 曇
1800年　5月2日 寛政12年　4月9日 曇　今暁卯の刻より雨降　終日降　酉の刻頃止
1800年　5月3日 寛政12年　4月10日 曇　今朝辰の刻より時々雨降　申の刻頃止　(去る8日姥菟村で出火・火元村預け、並木松を伐るなとの触れ・公儀御役人の江戸出立日限:3月21日より八王子千人頭と手付の者100人ほど等)
1800年　5月4日 寛政12年　4月11日 (去月25日江戸で妾腹の御男子御誕生)
1800年　5月5日 寛政12年　4月12日 曇　今朝辰の刻頃小雨降　午の刻より霰時々降　(去月13日赤石組で洪水)
1800年　5月6日 寛政12年　4月13日 曇　今朝辰の刻頃より小雨降　則刻止
1800年　5月7日 寛政12年　4月14日 曇　申の刻過ぎ雨降　則刻雷鳴　酉の刻頃雨止
1800年　5月8日 寛政12年　4月15日 晴　今日午の刻過ぎ雨降　未の刻頃止
1800年　5月9日 寛政12年　4月16日 晴　(買い受けた馬の斃れを届けなかった?男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1800年　5月10日 寛政12年　4月17日 晴　　下から続く　　出火今朝6時見分・長さ30間・町人夫2・300人に桶1宛持たせる手配をしていたが昨夜中に大よそ鎮まったとのこと)
1800年　5月11日 寛政12年　4月18日 曇　今朝辰の刻より雨降　巳の刻頃止　(岩木嵩硫黄出火、座当盲女230人分の御男子誕生配当15文宛下し置かれる、石渡川4歩半の出水・両船とも往来差留める、硫黄山の　　上に続く
1800年　5月12日 寛政12年　4月19日 曇　(流木払底に付き代銭上納の上御払い:両御組頭並御留守居組頭大寄合迄50目代・大目付並諸者頭40目代・四奉行並山奉行御書役迄25匁代・御目付並御近習廻り作事奉行迄20目代)
1800年　5月13日 寛政12年　4月20日 快晴
1800年　5月14日 寛政12年　4月21日 快晴
1800年　5月15日 寛政12年　4月22日 曇
1800年　5月16日 寛政12年　4月23日 曇
1800年　5月17日 寛政12年　4月24日 曇　今日未の刻頃雨降　則刻止
1800年　5月18日 寛政12年　4月25日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ雷鳴　辰の刻頃雨止　(当月21日碇ヶ関碇沢並びに津苅沢に野火・山火事になり23日夜明けに鎮まる、22日赤石組中村薬師堂の木小屋出火・取鎮め)
1800年　5月19日 寛政12年　4月26日 曇
1800年　5月20日 寛政12年　4月27日 曇　今日午の刻過ぎ小雨降　則刻雷鳴　未の刻頃雨止
1800年　5月21日 寛政12年　4月28日 晴
1800年　5月22日 寛政12年　4月29日 曇
1800年　5月23日 寛政12年　4月30日 快晴
1800年　5月24日 寛政12年閏4月1日　快晴
1800年　5月25日 寛政12年閏4月2日　曇
1800年　5月26日 寛政12年閏4月3日　晴　(昨日御家中の居宅焼失、去る冬博打宿をした受源院を退院・参加?の町同心を持鑓中間に役下げ・参加の掃除小人を御給分召上げ永の御暇・参加町民6人に3鞭宛町払いなど)
1800年　5月27日 寛政12年閏4月4日　曇　今朝辰の刻頃小雨降　則刻止
1800年　5月28日 寛政12年閏4月5日　曇　今朝辰の刻より雨降　申の刻頃止
1800年　5月29日 寛政12年閏4月6日　曇　今日未の刻過ぎ雷鳴　則刻雨降　夜に入　子の刻止
1800年　5月30日 寛政12年閏4月7日　曇　今日時々雨降　酉の刻頃止
1800年　5月31日 寛政12年閏4月8日　晴　(屋形様は当月23日江戸御発駕・来月11日御着城の予定、2月14日箱館表御固め御人数残らず引払う)
1800年　6月1日 寛政12年閏4月9日　快晴　(外東・四之北御門は兼ねて銅葺きに仰せ付けられ……、山奉行申し出:未年(去年)より申年(今年)までの出木・杉檜角丸太145000本・杉檜柾1568万舞余等々)
1800年　6月2日 寛政12年閏4月10日 快晴
1800年　6月3日 寛政12年閏4月11日 快晴
1800年　6月4日 寛政12年閏4月12日 快晴　(頃日唐内坂の御茶屋に御家中の族等が見物に・猥に入り込まないよう申し触れる)
1800年　6月5日 寛政12年閏4月13日 快晴
1800年　6月6日 寛政12年閏4月14日 快晴
1800年　6月7日 寛政12年閏4月15日 快晴
1800年　6月8日 寛政12年閏4月16日 曇　今日時々雨降
1800年　6月9日 寛政12年閏4月17日 曇
1800年　6月10日 寛政12年閏4月18日 曇　今日午の刻過ぎ小雨降　則刻雷鳴　申の刻過ぎ雨止
1800年　6月11日 寛政12年閏4月19日 曇　今日辰の刻頃より雨降　雷鳴　未の刻頃雨止
1800年　6月12日 寛政12年閏4月20日 曇
1800年　6月13日 寛政12年閏4月21日 曇　今日未の刻過ぎ少々地震　(去る18日中里村で外馬屋出火・火元戸〆)
1800年　6月14日 寛政12年閏4月22日 曇　昨夜戌の刻より雨降　今暁寅の刻頃止
1800年　6月15日 寛政12年閏4月23日 快晴　(盗杣の3人に6鞭追放家財は妻子に・その他にも罰・過料等々)
1800年　6月16日 寛政12年閏4月24日 快晴　(只今上土手町に出火・商家の裏の土蔵の屋根焼失・取鎮める)
1800年　6月17日 寛政12年閏4月25日 快晴
1800年　6月18日 寛政12年閏4月26日 晴
1800年　6月19日 寛政12年閏4月27日 快晴
1800年　6月20日 寛政12年閏4月28日 快晴
1800年　6月21日 寛政12年閏4月29日 快晴　(小笠原某が不行跡として永の御暇、江戸御発駕の日限がずれる?)
1800年　6月22日 寛政12年　5月1日　(寛政12年5月から6月の2ヶ月は日記が保存されていない)
1800年　6月23日 寛政12年　5月2日
1800年　6月24日 寛政12年　5月3日
1800年　6月25日 寛政12年　5月4日
1800年　6月26日 寛政12年　5月5日
1800年　6月27日 寛政12年　5月6日
1800年　6月28日 寛政12年　5月7日
1800年　6月29日 寛政12年　5月8日
1800年　6月30日 寛政12年　5月9日

1800年　7月1日 寛政12年　5月10日　(寛政12年5月から6月の2ヶ月は日記が保存されていない)
1800年　7月2日 寛政12年　5月11日
1800年　7月3日 寛政12年　5月12日
1800年　7月4日 寛政12年　5月13日
1800年　7月5日 寛政12年　5月14日
1800年　7月6日 寛政12年　5月15日
1800年　7月7日 寛政12年　5月16日
1800年　7月8日 寛政12年　5月17日
1800年　7月9日 寛政12年　5月18日
1800年　7月10日 寛政12年　5月19日
1800年　7月11日 寛政12年　5月20日
1800年　7月12日 寛政12年　5月21日
1800年　7月13日 寛政12年　5月22日
1800年　7月14日 寛政12年　5月23日
1800年　7月15日 寛政12年　5月24日
1800年　7月16日 寛政12年　5月25日
1800年　7月17日 寛政12年　5月26日
1800年　7月18日 寛政12年　5月27日
1800年　7月19日 寛政12年　5月28日
1800年　7月20日 寛政12年　5月29日
1800年　7月21日 寛政12年　5月30日
1800年　7月22日 寛政12年　6月1日
1800年　7月23日 寛政12年　6月2日
1800年　7月24日 寛政12年　6月3日
1800年　7月25日 寛政12年　6月4日
1800年　7月26日 寛政12年　6月5日
1800年　7月27日 寛政12年　6月6日
1800年　7月28日 寛政12年　6月7日
1800年　7月29日 寛政12年　6月8日
1800年　7月30日 寛政12年　6月9日
1800年　7月31日 寛政12年　6月10日
1800年　8月1日 寛政12年　6月11日
1800年　8月2日 寛政12年　6月12日
1800年　8月3日 寛政12年　6月13日
1800年　8月4日 寛政12年　6月14日
1800年　8月5日 寛政12年　6月15日
1800年　8月6日 寛政12年　6月16日
1800年　8月7日 寛政12年　6月17日
1800年　8月8日 寛政12年　6月18日
1800年　8月9日 寛政12年　6月19日
1800年　8月10日 寛政12年　6月20日
1800年　8月11日 寛政12年　6月21日
1800年　8月12日 寛政12年　6月22日
1800年　8月13日 寛政12年　6月23日
1800年　8月14日 寛政12年　6月24日
1800年　8月15日 寛政12年　6月25日
1800年　8月16日 寛政12年　6月26日
1800年　8月17日 寛政12年　6月27日
1800年　8月18日 寛政12年　6月28日
1800年　8月19日 寛政12年　6月29日　(寛政12年5月から6月の2ヶ月は日記が保存されていない)
1800年　8月20日 寛政12年　7月1日 曇　(吉崎勇八を御持鑓奉行役知130石等の人事異動)
1800年　8月21日 寛政12年　7月2日 曇　今暁寅の刻頃雨降　辰の刻頃止　(御目付触れ:祢婦太之儀前以て御触れの通り町内限り……)
1800年　8月22日 寛政12年　7月3日 曇
1800年　8月23日 寛政12年　7月4日 晴　今日申の刻頃通雨降　則刻止　(人事異動)
1800年　8月24日 寛政12年　7月5日 曇　今日申の刻より雨降　夜に入
1800年　8月25日 寛政12年　7月6日 曇　昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止
1800年　8月26日 寛政12年　7月7日 晴
1800年　8月27日 寛政12年　7月8日 曇
1800年　8月28日 寛政12年　7月9日 曇　今日午の刻頃より雨降　申の刻頃止　(去月20日25日の雨で増館組・油川組の村々で田方159丁4反歩余水湛、後潟組瀬戸子村で先頃居宅を焼失し又仮小屋を焼失した火元男を村預け)
1800年　8月29日 寛政12年　7月10日 曇　今日午の刻より雨降　則刻止　(4月14日に母に傷をつけ逃げ去った備中の国の男の人相書きあり)　下から続く　以下袴役30目・無袴に20目下し置かれる)
1800年　8月30日 寛政12年　7月11日 曇　昨夜子の刻頃より雨少々降　則刻雷発ス　(木立某を御手廻に等の人事異動、御家中に御手当て:高1500石に800目……50～100石に100目……20石～10石に50目・それ　上に続く
1800年　8月31日 寛政12年　7月12日 快晴　(いろいろな仕事をした御家中・役人の多くに御褒美、昨11日夜青女子村で出火・火元高無村預け)

1800年　9月1日 寛政12年　7月13日 快晴
1800年　9月2日 寛政12年　7月14日 曇　今日酉の刻頃より雨降　夜に入
1800年　9月3日 寛政12年　7月15日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ 時々降　辰の刻頃雷鳴 （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来なりかねる）
1800年　9月4日 寛政12年　7月16日 曇　今日申の刻頃雨降　則刻止　　下から続く　　15日目で節に引合2日遅い）
1800年　9月5日 寛政12年　7月17日 曇 （御初米・去未年は4月28日植付8月4日までの95日目に差上げ当年は閏4月15日植付今日まで91日目で差上げ・去年に引合い4日早い、去年は7月中13日目当年は7月中　　上に続く
1800年　9月6日 寛政12年　7月18日 曇　今日辰の刻頃より終日雨降 （流木御払い：150目代御家老衆・80目代御用人中・50目代大目付に・8月9月の知行米渡しを持って御差し引き）
1800年　9月7日 寛政12年　7月19日 曇 （去る8日赤石組舞戸村で庇出火・火元戸〆、去月25日横内・浦町・大鰐・赤石組で洪水・田方に石砂等、何か「祢ふた」のことが書いてある）
1800年　9月8日 寛政12年　7月20日 晴
1800年　9月9日 寛政12年　7月21日 晴
1800年 9月10日 寛政12年　7月22日 曇　今日未の刻頃時々雨降
1800年 9月11日 寛政12年　7月23日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　則刻止
1800年 9月12日 寛政12年　7月24日 晴
1800年 9月13日 寛政12年　7月25日 曇　昨夜中よりの雨今日時々降　申の刻より風強し
1800年 9月14日 寛政12年　7月26日 曇　昨夜中風強し　寅の刻頃止 （昨夜の大風で唐内坂御茶屋の屋根が破損）
1800年 9月15日 寛政12年　7月27日 曇
1800年 9月16日 寛政12年　7月28日 曇　今日辰の刻頃小雨降　則刻止 （今日唐内坂で火術高覧）
1800年 9月17日 寛政12年　7月29日 曇　今日申の刻頃雨降　酉の刻止 （農事入用の竜骨車(りゅうこつしゃ：田に用水から水を上げる器械)の雛形が大坂より差下し候に付き……）
1800年 9月18日 寛政12年　7月30日 曇　今日辰の刻頃雨降　則刻止
1800年 9月19日 寛政12年　8月1日 晴 （人事異動、多数に褒美、去月25日大風・深浦澗口の懸かり船2艘が破船・水主2人女3人水死・舳作村風合瀬村にも破船）
1800年 9月20日 寛政12年　8月2日 曇 （百沢寺より岩木山の苔の実差上げる、岩木川出水・駒越船渡往来差留める）
1800年 9月21日 寛政12年　8月3日 晴　昨夜戌の刻頃より雨降　今暁寅の刻止 （去月6日の晩祢ぶた頭取の上伊勢屋に狼藉の御蔵町の男戸〆・他に戸〆や碇関口送還）
1800年 9月22日 寛政12年　8月4日 晴
1800年 9月23日 寛政12年　8月5日 晴
1800年 9月24日 寛政12年　8月6日 曇
1800年 9月25日 寛政12年　8月7日 晴
1800年 9月26日 寛政12年　8月8日 晴　今朝霜初而降(初めて降る) 未の刻頃少し地震
1800年 9月27日 寛政12年　8月9日 晴
1800年 9月28日 寛政12年　8月10日 晴
1800年 9月29日 寛政12年　8月11日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降
1800年 9月30日 寛政12年　8月12日 曇 （去月25日大風・赤石組舳作村で佐渡船・酒田船破船・水主2人水死）
1800年 10月1日 寛政12年　8月13日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降　夜に入 （公儀御買上米430俵船積みの節の相場が28文目7分・去る12月青森積み出し相場1俵に付き32文目5分・値段の交渉でもめている）
1800年 10月2日 寛政12年　8月14日 晴　昨夜の雨戌の刻頃止
1800年 10月3日 寛政12年　8月15日 晴　今暁寅の刻頃雨降 （御祭礼）
1800年 10月4日 寛政12年　8月16日 曇　今朝霜少々降　申の刻頃より雨降　夜に入 （御馬廻組頭桜庭半兵衛を御用人兼役に等の人事異動）
1800年 10月5日 寛政12年　8月17日 曇　今暁丑の刻地震少し　昨夜の雨今日に及ぶ　時々降 （石渡川4歩半の出水・馬船小船往来なり兼ねる）
1800年 10月6日 寛政12年　8月18日 曇
1800年 10月7日 寛政12年　8月19日 曇
1800年 10月8日 寛政12年　8月20日 曇　今日午の刻過ぎ少々地震
1800年 10月9日 寛政12年　8月21日 曇　今朝霜少し降 （二之丸馬場で馬芸高覧）
1800年 10月10日 寛政12年　8月22日 曇
1800年 10月11日 寛政12年　8月23日 曇　昨夜戌の刻より雨降　今日に及ぶ　終日降 （今日お慰めの御能）
1800年 10月12日 寛政12年　8月24日 曇
1800年 10月13日 寛政12年　8月25日 晴
1800年 10月14日 寛政12年　8月26日 晴 （添田有方(御用人か)が病気下がり中矢吹の駅で病死）
1800年 10月15日 寛政12年　8月27日 晴 （今日学校で釈奠(せきてん)）
1800年 10月16日 寛政12年　8月28日 晴
1800年 10月17日 寛政12年　8月29日 晴　今朝卯の刻頃少々雨降　辰の刻頃止
1800年 10月18日 寛政12年　9月1日 晴　今朝霜強し
1800年 10月19日 寛政12年　9月2日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　時々降
1800年 10月20日 寛政12年　9月3日 晴
1800年 10月21日 寛政12年　9月4日 曇 （6月の岩木川洪水に伴い流木を盗み揚げた男共に過料1貫200文宛）
1800年 10月22日 寛政12年　9月5日 曇　今朝卯の刻頃より雨降　時々降
1800年 10月23日 寛政12年　9月6日 晴
1800年 10月24日 寛政12年　9月7日 晴
1800年 10月25日 寛政12年　9月8日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止ム　今朝岩木山江初めて雪見る
1800年 10月26日 寛政12年　9月9日 快晴　今朝霜強し
1800年 10月27日 寛政12年　9月10日 晴 ((公儀の)当申年5000石買い入れ予算は4斗入り1俵に付き34文目)
1800年 10月28日 寛政12年　9月11日 曇　今日午の刻過ぎ雷鳴　申の刻過ぎ小雨降　則刻止 （宮川某が仕込んだ味噌値段は10匁代に付き目形6貫500目、吉之助様より川鮭1尺下し置かれる）
1800年 10月29日 寛政12年　9月12日 曇　今朝卯の刻より雨降　辰の刻頃止
1800年 10月30日 寛政12年　9月13日 曇 （今晩御月見）
1800年 10月31日 寛政12年　9月14日 曇　今晩丑の刻頃より雨降　巳の刻頃雷発　則刻霰降　酉の刻頃雨止 （昨13日和徳組黒滝村で出火・火元高無村預け）

1800年　11月1日 寛政12年　9月15日 曇　今日巳の刻頃小雨降　午の刻頃止
1800年　11月2日 寛政12年　9月16日 曇　(御家中の妻が死亡(変死?))
1800年　11月3日 寛政12年　9月17日 曇　(昨16日藤崎組前田屋敷村で小屋1軒出火・火元村預け)
1800年　11月4日 寛政12年　9月18日 晴　(酒仮値段1升に付き1匁6分の願いに対し1匁4分と申付ける、焚き炭1俵2匁7分に売っているが2匁2分に買い受け2匁5分に売り払うよう申付ける)
1800年　11月5日 寛政12年　9月19日 晴　(今日諸手者頭の野稽古高覧、大坂に帰る茨城屋に一粒金丹20粒などを下し置かれる)
1800年　11月6日 寛政12年　9月20日 晴
1800年　11月7日 寛政12年　9月21日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今晩寅の刻頃止
1800年　11月8日 寛政12年　9月22日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　(時鐘撞1両2歩2人扶持が親から子に交代)
1800年　11月9日 寛政12年　9月23日 曇　(当3月27日御家中を名乗り宿を申し付けた板柳村の男に30鞭大場御構い十里四方追放、無宿の盗人2人に6鞭乞食手渡し・3鞭弘前町払い、駒越川原に野宿の男を弘前町払い)
1800年 11月10日 寛政12年　9月24日 曇　(今22日油川村新派で外馬屋1軒焼失・火元戸〆)
1800年 11月11日 寛政12年　9月25日 晴
1800年 11月12日 寛政12年　9月26日 曇　今日午の刻頃より雨降　則刻止
1800年 11月13日 寛政12年　9月27日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降
1800年 11月14日 寛政12年　9月28日 曇　今暁寅の刻頃初雪降　1寸程積る　時々降　夜に入　(今日初雪・御家老・御城代・御用人が御機嫌伺い、今日御慰の御能、石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成り難い)
1800年 11月15日 寛政12年　9月29日 曇　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　1寸程積　時々降
1800年 11月16日 寛政12年　9月30日 晴
1800年 11月17日 寛政12年　10月1日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　終日降　酉の刻頃止　(原子早太を御小姓組に等の人事異動)
1800年 11月18日 寛政12年　10月2日 晴　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来ならず)
1800年 11月19日 寛政12年　10月3日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　時々降　夜に入
1800年 11月20日 寛政12年　10月4日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1800年 11月21日 寛政12年　10月5日 曇　昨夜中霰降
1800年 11月22日 寛政12年　10月6日 晴
1800年 11月23日 寛政12年　10月7日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　則刻雷鳴　今朝卯の刻止　時々雪降　夜に入　(水油1升に付き6文目とする)
1800年 11月24日 寛政12年　10月8日 曇　昨夜より雪　今朝に及ぶ　2寸ほど積る　時々雪降
1800年 11月25日 寛政12年　10月9日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　1寸程積　時々雪降
1800年 11月26日 寛政12年　10月10日 晴　昨夜雪少々降
1800年 11月27日 寛政12年　10月11日 曇　今日申の刻過ぎより雨降　夜に入
1800年 11月28日 寛政12年　10月12日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　終日降　(日光山より弟子が病気に付き一粒金丹拝領の申し立て……)
1800年 11月29日 寛政12年　10月13日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　1寸程積　時々降　(例年の通り初相場御払い米1俵に付き23文目5分)
1800年 11月30日 寛政12年　10月14日 晴　(昨日青森表より初鱈差上げる)
1800年　12月1日 寛政12年　10月15日 曇　昨夜子の刻頃雨降　則刻雷鳴　今日に及ぶ　時々雨降　(今日御稽古の御能)
1800年　12月2日 寛政12年　10月16日 曇
1800年　12月3日 寛政12年　10月17日 曇　今日未の刻より雨降　申の刻頃雷鳴　酉の刻頃止
1800年　12月4日 寛政12年　10月18日 晴　(当月7日南部領三戸町で出火・類焼170軒余)
1800年　12月5日 寛政12年　10月19日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　則刻雪降　(岩木川出水・渡し舟差留める)
1800年　12月6日 寛政12年　10月20日 晴　昨夜中雪少々降　(昨夜駒越組中畑村で出火・稲草焼失・火元百姓村預け)
1800年　12月7日 寛政12年　10月21日 曇　昨夜中霰降　今日申の刻頃より雨降　酉の刻頃止　(去月24日酒狂いで他人の妻に疵を負わせた平岡町の男に20日の慎)
1800年　12月8日 寛政12年　10月22日 曇　今日時々雪降
1800年　12月9日 寛政12年　10月23日 曇　昨夜雪降　今朝3寸程積
1800年 12月10日 寛政12年　10月24日 曇　昨夜雪降　今朝に及ぶ　2寸程積ル　時々降
1800年 12月11日 寛政12年　10月25日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降　(去る16日大円寺出奔)
1800年 12月12日 寛政12年　10月26日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々少々降
1800年 12月13日 寛政12年　10月27日 曇　昨夜中雪少々降
1800年 12月14日 寛政12年　10月28日 曇　(鴻池又右衛門に奇應丸50粒・一粒金丹20粒下される)
1800年 12月15日 寛政12年　10月29日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻頃止
1800年 12月16日 寛政12年　11月1日 曇　昨夜亥の刻より雨降　今暁寅の刻頃止　則刻より雪降　(昨夜和徳組和徳村で出火・火元高無村預け)
1800年 12月17日 寛政12年　11月2日 晴　昨夜中雪少々降
1800年 12月18日 寛政12年　11月3日 曇　今日時々雪降　(今日西之郭で射術高覧・途中で逃げ帰ったのかな?)
1800年 12月19日 寛政12年　11月4日 曇　今日時々雪降　(今朝堀五郎右衛門用達中村某牢死)
1800年 12月20日 寛政12年　11月5日 曇　今日時々雪降
1800年 12月21日 寛政12年　11月6日 曇　今日時々雪降
1800年 12月22日 寛政12年　11月7日 晴
1800年 12月23日 寛政12年　11月8日 晴
1800年 12月24日 寛政12年　11月9日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降　(今日御囃子の予定だったが御風邪で延引)　下から続く　日数に引合40日早く節に引合20日早い、服装等の簡素化を認めている)
1800年 12月25日 寛政12年　11月10日 曇　昨夜よりの雪今朝に及び5寸程積　今日時々降る　下から続く　四時頃より翌4日朝までに早川口より残らず氷張る・去年は12月13日暮六時より翌14日八時まで・当年は　上に続く
1800年 12月26日 寛政12年　11月11日 曇　昨夜雪降　今日に及ぶ　3寸程積ル　時々降　(去る6日浦町組大野村で出火・馬屋と馬1疋焼斃・火元戸〆、酒1升に付き1文目4分5厘値段に申付ける、十三潟が当月3日朝　上に続く
1800年 12月27日 寛政12年　11月12日 晴　(初鱈2尺差出す)
1800年 12月28日 寛政12年　11月13日 曇　今日時々雪降　(今日梅之間で御囃子)
1800年 12月29日 寛政12年　11月14日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　下から続く　文目7分2厘5毛)・金1両に付き108文目5分)
1800年 12月30日 寛政12年　11月15日 曇　今日時々雪降　(当新穀一番相場(米1俵):弘前32文目6分7厘8毛・青森36文目2分3厘・鰺ヶ沢35文目8分6厘7毛・平均34文目9分2厘5毛(内1文目2分御定役引・平米33　上に続く
1800年 12月31日 寛政12年　11月16日 曇　今日雪少々降

1801年　1月1日 寛政12年　11月17日 曇　今日時々雪降　(当月朔日より15日までの米1俵相場平均値段は24文目4分(で御家中から余剰米を買い入れるということ))
1801年　1月2日 寛政12年　11月18日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　雪少々降
1801年　1月3日 寛政12年　11月19日 晴
1801年　1月4日 寛政12年　11月20日 晴
1801年　1月5日 寛政12年　11月21日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　時々降
1801年　1月6日 寛政12年　11月22日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　二寸程積　時々降　今朝辰の初刻寒に入
1801年　1月7日 寛政12年　11月23日 曇　今日時々雪降　(流木・炭別段御貸渡し:御家老御城代流木100目代焚炭70俵宛・御用人中70目50俵・大目付50目25俵・四奉行山奉行御目付40目15俵・作事奉行30目10俵)
1801年　1月8日 寛政12年　11月24日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　1月9日 寛政12年　11月25日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　一寸程積　時々少々降
1801年　1月10日 寛政12年　11月26日 曇　昨夜少々雪降
1801年　1月11日 寛政12年　11月27日 晴
1801年　1月12日 寛政12年　11月28日 晴
1801年　1月13日 寛政12年　11月29日 快晴
1801年　1月14日 寛政12年　11月30日 晴　(盗伐の丸山村の男に6鞭と居村徘徊是までどおり・庄屋戸〆・五人組過料)
1801年　1月15日 寛政12年　12月1日 晴　今日辰の刻頃日三ツ見ゆる　(高年の者共に1貫文(90歳以上2貫文)宛御手当の人数(弘前・青森・鰺ヶ沢・深浦・十三・大間越・蟹田・碇ヶ関・野内・今別・在方の順)　欄外(*)に続く
1801年　1月16日 寛政12年　12月2日 曇　今日少々雪降　(御献上の雉子高覧)
1801年　1月17日 寛政12年　12月3日 晴
1801年　1月18日 寛政12年　12月4日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻頃止　(大阪御廻米の運賃は是まで100石に23石で不足を申し立てている)
1801年　1月19日 寛政12年　12月5日 曇　(牢屋御取建ての処三牢の内大牢一ヶ所出来、両組頭・御留守居組頭に流木50目代と焚き炭20俵宛お貸し渡し)
1801年　1月20日 寛政12年　12月6日 晴　昨夜少々雪降
1801年　1月21日 寛政12年　12月7日 晴　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　2寸程積　時々雪降　(大円寺境内に者倒死)
1801年　1月22日 寛政12年　12月8日 曇　昨夜雪少々降　今日時々降　(御家中に御手当て100石に付き100目?)
1801年　1月23日 寛政12年　12月9日 曇　(今日梅之間で御慰の御能、金1両に付き120目8分)
1801年　1月24日 寛政12年　12月10日 快晴
1801年　1月25日 寛政12年　12月11日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　午の刻過ぎ少々地震
1801年　1月26日 寛政12年　12月12日 曇　今日時々吹雪
1801年　1月27日 寛政12年　12月13日 曇　今日時々少々雪降
1801年　1月28日 寛政12年　12月14日 曇
1801年　1月29日 寛政12年　12月15日 曇　(御徒見習いに横岡兵吾等の人事異動)
1801年　1月30日 寛政12年　12月16日 曇　(酒値段1升1匁6分に酒屋共が願ったが1匁5分と申付ける、同役不和合として久慈某・間山某が御留守居組に役下げ)
1801年　1月31日 寛政12年　12月17日 曇
1801年　2月1日 寛政12年　12月18日 曇　昨夜雪降　今朝8寸程積　時々雪降
1801年　2月2日 寛政12年　12月19日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　2寸程積　時々降
1801年　2月3日 寛政12年　12月20日 曇　昨夜中雪降り　今朝に及ぶ　3寸程積ル　時々降　(桜庭某・館山某を町奉行に等の人事異動、村中から米を買集め隠し津出しの男に15鞭所払い家屋敷は妻子に)
1801年　2月4日 寛政12年　12月21日 晴　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　8寸程積ル　(当御検見平均四つ物成高100石に付き9俵4升6合相成り申し候間……意味不明だが書いている:福眞)
1801年　2月5日 寛政12年　12月22日 晴
1801年　2月6日 寛政12年　12月23日 曇　昨夜雪少々降　(御年忘れ御料理・御能)
1801年　2月7日 寛政12年　12月24日 晴　(人事異動)
1801年　2月8日 寛政12年　12月25日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　5寸程積ル　時々降
1801年　2月9日 寛政12年　12月26日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　2寸程積ル　(4月に隠津出70俵の油川の男2人に15鞭所払い・外が濱4か組住居御構い・家屋敷田畑家財は妻子に、共犯多数にもそれなりの罰)
1801年　2月10日 寛政12年　12月27日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　2月11日 寛政12年　12月28日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　(人事異動・褒美、御手廻与力?に横岡平八)
1801年　2月12日 寛政12年　12月29日 晴
1801年　2月13日 寛政13年正月1日　曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　3寸程積
1801年　2月14日 寛政13年正月2日　曇　今日時々雪降　(屋形様が数日不例)
1801年　2月15日 寛政13年正月3日　曇　今日少々雪降　(御不例に付き今晩御謡初御延引)
1801年　2月16日 寛政13年正月4日　晴　昨夜中雪少々降　(大鰐村加賀助より七種差出す)
1801年　2月17日 寛政13年正月5日　曇　今日少々雪降
1801年　2月18日 寛政13年正月6日　曇　今日少々雪降
1801年　2月19日 寛政13年正月7日　晴
1801年　2月20日 寛政13年正月8日　曇
1801年　2月21日 寛政13年正月9日　晴
1801年　2月22日 寛政13年正月10日　曇　今日辰の刻頃より雨降　(去る11月28日左関村前浜で隠津出見当てる・都合45俵取り押さえる・押米45俵はその節の勤番3人に)
1801年　2月23日 寛政13年正月11日　曇　昨夜中雪少々降　(荒田畑の開発が進まぬ理由は人不足・先年他散の者共を呼返す・越後信濃辺りまで2人組の呼返しを派遣・路用等も用意・着後宿と1日に米1升5合を下置かれる等々)
1801年　2月24日 寛政13年正月12日　曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　2月25日 寛政13年正月13日　曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　2月26日 寛政13年正月14日　曇　(屋形様御不例御全快)
1801年　2月27日 寛政13年正月15日　曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　　下から続く　　信濃守・(石川)左近将監・(羽太)庄左衛門が蝦夷地通行する・準備を等々、多数に御褒美)
1801年　2月28日 寛政13年正月16日　曇　昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止　時々雪降　(今晩御謡初、石渡川4分半の出水・両船とも往来成兼ねる、江戸で蝦夷地御用懸から申達:来年(もう今年になっているが)(松平)　　上に続く

(*) :総数118人(弘前22人内85歳以上4人90歳以上0・青森19人85歳以上2人90歳以上0・鰺ヶ沢9人内85歳以上3人90歳以上1人・深浦8人85歳以上2人90歳以上0・十三2人85歳以上0・
大間越2人85歳以上0・蟹田1人85歳以上0・碇ヶ関3人85歳以上1人90歳以上0・野内2人85歳以上0・今別1人85歳以上0・在方49人85歳以上22人90歳以上3人最高齢96歳(岩崎村庄吉の母))

1801年　3月1日 寛政13年正月17日　曇　昨夜雪少々降　今日時々降　(西舘宇膳を馬廻組頭に等の人事異動)
1801年　3月2日 寛政13年正月18日　曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　3月3日 寛政13年正月19日　曇　昨夜中雪少々降
1801年　3月4日 寛政13年正月20日　曇　(御馬廻与力が御家老与力を仰せ付けられて勤料を貰っている)
1801年　3月5日 寛政13年正月21日　曇　今日時々雪降
1801年　3月6日 寛政13年正月22日　曇
1801年　3月7日 寛政13年正月23日　晴
1801年　3月8日 寛政13年正月24日　曇
1801年　3月9日 寛政13年正月25日　晴
1801年　3月10日 寛政13年正月26日　曇　昨夜中雪少々降　今日少々降　(お年始御祝儀御料理・御能)
1801年　3月11日 寛政13年正月27日　曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年　3月12日 寛政13年正月28日　晴
1801年　3月13日 寛政13年正月29日　曇
1801年　3月14日 寛政13年正月30日　曇　昨夜より雪少々降
1801年　3月15日 寛政13年　2月1日 快晴　(人事異動)
1801年　3月16日 寛政13年　2月2日 快晴
1801年　3月17日 寛政13年　2月3日 快晴
1801年　3月18日 寛政13年　2月4日 快晴　今日酉の刻頃少々雨降　即刻止
1801年　3月19日 寛政13年　2月5日 快晴
1801年　3月20日 寛政13年　2月6日 曇　昨夜中小雨時々降
1801年　3月21日 寛政13年　2月7日 曇　昨夜中霙降
1801年　3月22日 寛政13年　2月8日 快晴
1801年　3月23日 寛政13年　2月9日 曇　今日時々雪降　酉の刻雨少々降　(松平信濃守等は2月中に江戸出発・南部佐井より渡海予定とのこと)
1801年　3月24日 寛政13年　2月10日 曇　昨夜中雪降り
1801年　3月25日 寛政13年　2月11日 曇　(御発駕日限を来月10日と仰せ出される)
1801年　3月26日 寛政13年　2月12日 晴
1801年　3月27日 寛政13年　2月13日 晴
1801年　3月28日 寛政13年　2月14日 曇　(今日剣術・和術高覧、(浦町組)浜田村で渡し銭があるが上納銭の不納がある内は渡さないとした・村の4人が弘前に大勢を集め徒党がましき不届きとして戸〆10日)
1801年　3月29日 寛政13年　2月15日 曇　(今日御慰の御能)
1801年　3月30日 寛政13年　2月16日 曇　(去る11月に脇本村米留所前を無手形米を運んだ男2人に米8俵取押え馬2疋御取上げの上6鞭・居村徘徊是まで通り)
1801年　3月31日 寛政13年　2月17日 曇　今日時々雨降
1801年　4月1日 寛政13年　2月18日 晴　(今日剣術高覧)
1801年　4月2日 寛政13年　2月19日 曇　今日少々雨降
1801年　4月3日 寛政13年　2月20日 晴　(流木御払い:100匁代宛御家老衆・100匁代御城代・60目代御用人中・40目代大目付)
1801年　4月4日 寛政13年　2月21日 曇　(十三潟の氷が去る14日昼九時より暮六時まで早川口より残らず明ける・去年は3月朔日朝四時頃より暮六時頃まで残らず氷明ける・当年は日数に引合16日早く節に引き合い3日遅い)
1801年　4月5日 寛政13年　2月22日 曇　今日辰の刻過ぎより雪時々降　夜に入　(深浦町濱に神切鯨寄せる)
1801年　4月6日 寛政13年　2月23日 曇　今日午の刻より雪　(林村庄屋宅で男を叩いた笠井兼蔵を御目見以下御留守居支配に、この共犯・米盗人等に3鞭等の罰)
1801年　4月7日 寛政13年　2月24日 曇　昨夜中雪少々降　今日雪少し降　(一昨22日高杉組宮館村で出火・隣家類焼馬1疋焼死、御家中宅に元召使が押し込む・御家中などが怪我をしながら縄下にする)
1801年　4月8日 寛政13年　2月25日 曇　今日午の刻頃小雨　即刻止
1801年　4月9日 寛政13年　2月26日 晴　(隠津出の後潟組前田村の男に15鞭所払い外濱浦々並びに4ヶ組住居御構い・五軒組合の者共に過料1貫500文宛・庄屋に戸〆)
1801年　4月10日 寛政13年　2月27日 晴
1801年　4月11日 寛政13年　2月28日 晴
1801年　4月12日 寛政13年　2月29日 曇　(石渡川4歩の出水・馬船往来相成り申さず)
1801年　4月13日 享和元年　3月1日 晴　今朝卯の刻前地震少
1801年　4月14日 享和元年　3月2日 曇　今日申の刻より雨降　夜に入　　下から続く　　とも年中三万俵位)
1801年　4月15日 享和元年　3月3日 曇　昨夜より雨　今暁寅の刻頃止　午の刻頃霰時々降　(焚き炭御払い:御家老より御城代まで70俵宛・御用人中40俵宛・大目付20俵、是までの御家中御貸渡し並びに不時払炭　　上に続く
1801年　4月16日 享和元年　3月4日 晴　(去月29日浦町組牛館村で出火・火元村預け)
1801年　4月17日 享和元年　3月5日 曇　今日未の刻頃雨降　(去月24日目屋野沢御山の内瀧野沢鉛山鍛冶場より火が漏れる・鞴子一つ焼失)
1801年　4月18日 享和元年　3月6日 晴　(御発駕御祝儀の御料理事並びに御能、多数に褒美)
1801年　4月19日 享和元年　3月7日 晴　(去る12月に西風が十三潟の水戸口塞ぐ・広須木造新田が水湛・新水戸口を穿あけた、二之御丸時太鼓御発駕当日より釣替仰せ付ける)
1801年　4月20日 享和元年　3月8日 晴　(御褒美多数)
1801年　4月21日 享和元年　3月9日 晴　(昨日駒越組坂市村で出火・類焼穀物焼失・火元高無他村預け、昨13日(江戸から来た便りで2月)年号を享和と改元)
1801年　4月22日 享和元年　3月10日 曇　今朝辰の刻過ぎ少々雨降　則刻止　(屋形様巳の刻過ぎ御馬上にて御発駕)　　下から続く　　3月11日頃江戸出発の予定)
1801年　4月23日 享和元年　3月11日 晴　(山鹿八郎左衛門の鉄砲2挺代756匁4厘3毛・三浦良太郎鉄砲1挺代267匁8分5厘8毛・代料は昨年より10年間の御差引・代料高の内3ヶ1御容赦、蝦夷地御用の6人と家族が　　上に続く
1801年　4月24日 享和元年　3月12日 快晴　今暁霜強　(一昨10日木造新田福原村で出火・火元居村預け)
1801年　4月25日 享和元年　3月13日 快晴
1801年　4月26日 享和元年　3月14日 曇　今日申の刻より雨降　酉の刻過ぎ止　(白鳥を生鳥で上納・代銭16匁下し置かれる)
1801年　4月27日 享和元年　3月15日 曇　今暁牛の刻頃より雨降　巳の刻頃止　(駒越川出水・長船馬船とも差留める)
1801年　4月28日 享和元年　3月16日 晴
1801年　4月29日 享和元年　3月17日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雷雨　子の刻頃止　((御馬廻)与力失火・遠慮)
1801年　4月30日 享和元年　3月18日 晴

1801年　5月1日 享和元年　3月19日 曇
1801年　5月2日 享和元年　3月20日 晴　(人事異動)
1801年　5月3日 享和元年　3月21日 晴　今暁霜強
1801年　5月4日 享和元年　3月22日 晴　(昨21日碇ヶ関領遠部沢出口に山火事(60間×100間ほど))
1801年　5月5日 享和元年　3月23日 晴　(隠し津出の青森の男に15鞭所払いの上外濱浦々並びに4か組住居御構い・家財は妻子に、関連五軒組合町名主を戸〆)
1801年　5月6日 享和元年　3月24日 晴　(青森堤橋新規掛け渡し幅2間半とする)
1801年　5月7日 享和元年　3月25日 晴　　下から続く　　妻子に、関係者にも罰)
1801年　5月8日 享和元年　3月26日 曇　今日巳の刻頃より雨降　午の刻頃止　今暁丑の初刻四月節　(去る12月左関村前浜で隠し津出の小橋村の男に15鞭所払いの上外濱浦々並びに4か組住居御構い・家財は　　上に続く
1801年　5月9日 享和元年　3月27日 晴　(對馬某を碇ヶ関町奉行に等の人事異動、大円寺の五重塔の修復を申し出ている)
1801年　5月10日 享和元年　3月28日 晴
1801年　5月11日 享和元年　3月29日 晴　(昨朝より碇ヶ関碇沢の内に山火事・昨夜四時頃までに鎮まる)
1801年　5月12日 享和元年　3月30日 晴　今暁霜強　(帰国人御呼び下げについて家・農具等も下される)
1801年　5月13日 享和元年　4月1日 快晴　今暁霜降　(飯詰組高野村で猪野館溜池押し破り人家流失)
1801年　5月14日 享和元年　4月2日 曇
1801年　5月15日 享和元年　4月3日 晴
1801年　5月16日 享和元年　4月4日 曇　今日午の刻過ぎより雨降
1801年　5月17日 享和元年　4月5日 曇　今日午の刻過ぎより雨降　(去月晦日赤石組大間越村領白神沢に野火・取鎮める)
1801年　5月18日 享和元年　4月6日 曇　昨夜よりの雨今日終日降　夜に入　(去月20日下土手町で博打の掃除小人を永の暇・他の参加者に3鞭・関係者に過料等)
1801年　5月19日 享和元年　4月7日 曇　昨夜よりの雨今日終日降　夜に入　(去月20日板柳村に投げ火・詮議の結果不注意、当月2日碇ヶ関御山に山火事・岩木川出水・駒越渡の往来差留める)
1801年　5月20日 享和元年　4月8日 曇　昨夜よりの雨今日巳の刻過ぎ止　(高野村溜池押し破りで人家飯米流失(1日に記述)の者共のうち13軒が別けても難渋・御米30俵を下し置かれる)
1801年　5月21日 享和元年　4月9日 曇
1801年　5月22日 享和元年　4月10日 曇　今日未の刻頃より雷　申の刻頃止　(金1両が107匁・弘前御蔵米1俵に付き平均25匁4分)
1801年　5月23日 享和元年　4月11日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今暁卯の刻頃止　(去月28日屋形様御着府、碇ヶ関御山の内に山火事・取鎮める)
1801年　5月24日 享和元年　4月12日 晴
1801年　5月25日 享和元年　4月13日 曇
1801年　5月26日 享和元年　4月14日 晴　(外東御門葺き替え板銅に・四之北御門瓦葺も銅葺の手配)
1801年　5月27日 享和元年　4月15日 晴　今暁寅の刻より雨　(今暁田舎館組諏訪堂村の土蔵に雷落ち米少々焼失)
1801年　5月28日 享和元年　4月16日 此末時候書入無之(此の末時候書き入れこれなし)　(公儀御用金今日到着)
1801年　5月29日 享和元年　4月17日 なし(日記は存在するが天気の記述なし:29日まで)
1801年　5月30日 享和元年　4月18日 なし
1801年　5月31日 享和元年　4月19日 なし
1801年　6月1日 享和元年　4月20日 なし
1801年　6月2日 享和元年　4月21日 なし　(新張鉄砲3文目5分玉筒3尺3寸二重張は284匁3分6厘1毛・並張は200目1分4厘1毛)
1801年　6月3日 享和元年　4月22日 なし
1801年　6月4日 享和元年　4月23日 なし
1801年　6月5日 享和元年　4月24日 なし
1801年　6月6日 享和元年　4月25日 なし
1801年　6月7日 享和元年　4月26日 なし
1801年　6月8日 享和元年　4月27日 なし
1801年　6月9日 享和元年　4月28日 なし　(近藤某が御切米取にて詰め合い中難儀に付き……年に金15両御手当てをくれと申し入れているのかな、御褒美)
1801年　6月10日 享和元年　4月29日 なし
1801年　6月11日 享和元年　5月1日 曇
1801年　6月12日 享和元年　5月2日 曇
1801年　6月13日 享和元年　5月3日 晴　(久渡寺変死)
1801年　6月14日 享和元年　5月4日 晴
1801年　6月15日 享和元年　5月5日 快晴
1801年　6月16日 享和元年　5月6日 快晴
1801年　6月17日 享和元年　5月7日 曇
1801年　6月18日 享和元年　5月8日 晴　今日風立　(去月29日御鷹2居煩い昨日殞)
1801年　6月19日 享和元年　5月9日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止殞　(一昨日内東御門を御姫様御出での節開かなかった御手廻与力が御奉公遠慮)
1801年　6月20日 享和元年　5月10日 晴
1801年　6月21日 享和元年　5月11日 晴
1801年　6月22日 享和元年　5月12日 快晴　(用水引上げの竜骨車大小3挺出来)
1801年　6月23日 享和元年　5月13日 晴
1801年　6月24日 享和元年　5月14日 晴
1801年　6月25日 享和元年　5月15日 曇　(江戸で褒美・道中の働きに対し褒美、御廻米船が関東付近で3艘は破船して4人は死んでいる)
1801年　6月26日 享和元年　5月16日 晴
1801年　6月27日 享和元年　5月17日 快晴　(照り続きで用水不足・四社に御祈祷を仰せ付ける)
1801年　6月28日 享和元年　5月18日 曇」今日巳の刻より雨降　夜に入　戌の刻頃止
1801年　6月29日 享和元年　5月19日 曇　今日巳の刻頃雨降　則刻止
1801年　6月30日 享和元年　5月20日 晴

1801年　7月1日 享和元年　5月21日 曇
1801年　7月2日 享和元年　5月22日 曇　今日未の刻過ぎより雷鳴雨降　夜に入　亥の刻頃止
1801年　7月3日 享和元年　5月23日 曇　今日辰の刻頃雷雨　巳の刻頃止　(御城付足軽の親自害)
1801年　7月4日 享和元年　5月24日 晴
1801年　7月5日 享和元年　5月25日 曇　今日申の刻頃より小雨　夜に入時々降
1801年　7月6日 享和元年　5月26日 曇　今日辰の刻頃より小雨　夜に入
1801年　7月7日 享和元年　5月27日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　酉の刻頃止
1801年　7月8日 享和元年　5月28日 晴
1801年　7月9日 享和元年　5月29日 曇　今日辰の刻頃小雨降　即刻止
1801年　7月10日 享和元年　5月30日 曇　今日辰の刻頃小雨降　即刻止　頃日暑気強
1801年　7月11日 享和元年　6月1日 曇　(牢屋出来に出精の者共に褒美)
1801年　7月12日 享和元年　6月2日 曇
1801年　7月13日 享和元年　6月3日 晴
1801年　7月14日 享和元年　6月4日 晴
1801年　7月15日 享和元年　6月5日 晴　(去る3日古懸村で出火・類焼あり・火元高無外村預け)
1801年　7月16日 享和元年　6月6日 晴
1801年　7月17日 享和元年　6月7日 晴　(去る6月改めの駒・駄34981疋、御家中の倅が自害未遂・翌日死亡)
1801年　7月18日 享和元年　6月8日 曇　(瀬戸子村で蟹田町の男馬上荷の荷物盗まれる、一粒金丹5剤調合を仰せ付けられる)
1801年　7月19日 享和元年　6月9日 晴
1801年　7月20日 享和元年　6月10日 晴　今暁丑の刻土用に入　頃日暑気強　(五山に五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1801年　7月21日 享和元年　6月11日 晴　(勘定人に佐藤吉五郎、小泊村類族長松のいとこが病死)
1801年　7月22日 享和元年　6月12日 快晴　今日申の刻雷発
1801年　7月23日 享和元年　6月13日 晴　(常々不行跡の諸手足軽葛西某を御持鑓中元に役下げ)
1801年　7月24日 享和元年　6月14日 晴　今日酉の刻頃小雨　即刻止　(撫牛子村の百姓が亀を取り差上げる・酒代として1貫文下し置かれる)
1801年　7月25日 享和元年　6月15日 快晴　頃日暑気強　今日未の刻頃雷雨　即刻止　(先頃より照り続き・田方用水不足、33人を農業格別出精としてほめ鳥目1〆文宛下し置かれる)
1801年　7月26日 享和元年　6月16日 曇　今日未の刻頃小雨　即刻止
1801年　7月27日 享和元年　6月17日 曇
1801年　7月28日 享和元年　6月18日 晴
1801年　7月29日 享和元年　6月19日 曇
1801年　7月30日 享和元年　6月20日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　巳の刻頃より雷鳴　(岩木川出水・流木流失)
1801年　7月31日 享和元年　6月21日 晴
1801年　8月1日 享和元年　6月22日 曇　今暁寅の刻頃雨降　即刻止　(野尻村(横内組)で外馬屋出火・火元高無慎み、赤田組で50町6反歩余植付用水届きかねる・田方に蕎麦蒔きつける)
1801年　8月2日 享和元年　6月23日 曇　昨夜子の刻より雨降　(去る6日江戸発の松前蝦夷地行き公儀御用金が今日届く)
1801年　8月3日 享和元年　6月24日 曇　今日午の刻頃雨降　即刻止　(亀を取り差上げた高杉村の男に御酒代として鳥目1貫文を下し置かれる)
1801年　8月4日 享和元年　6月25日 晴
1801年　8月5日 享和元年　6月26日 晴
1801年　8月6日 享和元年　6月27日 快晴
1801年　8月7日 享和元年　6月28日 快晴
1801年　8月8日 享和元年　6月29日 晴　(水油1升代5匁)
1801年　8月9日 享和元年　7月1日 曇　今日未の刻頃雨降　則刻止　(御目付け触れ:祢婦たは町内限り)
1801年　8月10日 享和元年　7月2日 晴
1801年　8月11日 享和元年　7月3日 晴
1801年　8月12日 享和元年　7月4日 快晴　頃日残暑強し
1801年　8月13日 享和元年　7月5日 曇　今朝卯の刻より雨時々降
1801年　8月14日 享和元年　7月6日 晴
1801年　8月15日 享和元年　7月7日 晴　昨夜戌の刻過ぎ雨降　即刻止
1801年　8月16日 享和元年　7月8日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨降　巳の刻過ぎ止　(去る6日(堀越組)門外村で出火・火元慎み)
1801年　8月17日 享和元年　7月9日 晴
1801年　8月18日 享和元年　7月10日 晴
1801年　8月19日 享和元年　7月11日 晴
1801年　8月20日 享和元年　7月12日 晴
1801年　8月21日 享和元年　7月13日 晴
1801年　8月22日 享和元年　7月14日 晴
1801年　8月23日 享和元年　7月15日 晴
1801年　8月24日 享和元年　7月16日 晴　　下から続く　　86日で差上げる・去年に引き合い5日早い・去年は7月の中より15日目当年は7月中より4日目で節に引き合い11日早い)
1801年　8月25日 享和元年　7月17日 曇　昨夜戌の刻頃小雨降　即刻止　(今日御初米御鰐村(大鰐村の誤りでしょうな)より差上げる・去年は閏4月15日植付7月17日まで91日目で差上げ当年は4月20日植付　　上に続く
1801年　8月26日 享和元年　7月18日 晴　(一作16日浪岡組三島村で出火・火元百姓他村預け)
1801年　8月27日 享和元年　7月19日 曇
1801年　8月28日 享和元年　7月20日 晴　(御目付触れ:御家中屋敷内で花火に注意、深浦荘厳寺の元住職の聞笈が誓願寺に秋田から来て泊った)
1801年　8月29日 享和元年　7月21日 晴
1801年　8月30日 享和元年　7月22日 晴
1801年　8月31日 享和元年　7月23日 晴

1801年　9月1日 享和元年　7月24日 曇　昨夜戌の刻頃雨降　即刻止　今日未の刻雨降　則刻止　（去る21日昼深浦で出火・55軒焼失・火元町預け）
1801年　9月2日 享和元年　7月25日 曇　昨夜戌の刻より雨降　午の刻過ぎ雷鳴
1801年　9月3日 享和元年　7月26日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ
1801年　9月4日 享和元年　7月27日 曇
1801年　9月5日 享和元年　7月28日 曇　（深浦出火で焼失の町家52軒が難儀に付き御手当て米52俵下し置かれる）
1801年　9月6日 享和元年　7月29日 曇　今日巳の刻頃雨降　即刻止　（去る25日赤石組広戸村で出火・物置焼失・火元戸〆、仕事出精で御火中に御賞多数）
1801年　9月7日 享和元年　7月30日 晴　昨夜戌の刻頃より雨降　今暁丑の刻頃止
1801年　9月8日 享和元年　8月1日 曇　今日申の刻過ぎ小雨降　即刻止　（昨夜和徳町で博打打を召し取る）
1801年　9月9日 享和元年　8月2日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入
1801年　9月10日 享和元年　8月3日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　午の刻頃止　（御家中の家来変死、石渡川4分半の出水・馬船小船とも往来成りかねる）
1801年　9月11日 享和元年　8月4日 晴
1801年　9月12日 享和元年　8月5日 曇　（深浦出火の節類焼の社家1軒村方2軒に御手当米3俵下し置かれる）
1801年　9月13日 享和元年　8月6日 曇
1801年　9月14日 享和元年　8月7日 曇　今日申の刻頃より雨降　戌の刻頃止　（去る4日猿賀組大袋村で出火・早速取鎮める・火元戸〆）
1801年　9月15日 享和元年　8月8日 晴
1801年　9月16日 享和元年　8月9日 晴
1801年　9月17日 享和元年　8月10日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　則刻止　申の刻頃より雨降　夜に入　（伊能勘解由なる人が出てくる・伊能忠敬のことか）
1801年　9月18日 享和元年　8月11日 曇　昨夜の雨今暁寅の刻頃止
1801年　9月19日 享和元年　8月12日 曇　昨夜戌の刻頃雨降　今暁寅の刻過ぎ雷発す
1801年　9月20日 享和元年　8月13日 晴　昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止む
1801年　9月21日 享和元年　8月14日 晴　（江戸表より御下4文銭101貫883匁3分3厘を御金蔵に相納める）
1801年　9月22日 享和元年　8月15日 曇　今日申の刻頃より雨降　夜に入
1801年　9月23日 享和元年　8月16日 曇
1801年　9月24日 享和元年　8月17日 曇　今朝辰の刻頃雨降　即刻止
1801年　9月25日 享和元年　8月18日 曇　今朝辰の刻頃雨降　即刻止
1801年　9月26日 享和元年　8月19日 曇　今朝亥の刻頃雨降　終日降　夜に入　（鯵ヶ沢で1俵32匁地払）
1801年　9月27日 享和元年　8月20日 曇　昨夜中よりの雨今日終日降　（岩木川出水にて駒越渡場今日八半時頃より馬船長船とも往来留める）
1801年　9月28日 享和元年　8月21日 曇　今日巳の刻少々地震　申の刻過ぎ雨降　即刻止　（古懸不動尊昨日御出汗・御神楽等を申し付け・五山に御祈禱を仰せ付ける）
1801年　9月29日 享和元年　8月22日 曇
1801年　9月30日 享和元年　8月23日 晴
1801年　10月1日 享和元年　8月24日 曇
1801年　10月2日 享和元年　8月25日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日終日に及ぶ　酉の刻頃止
1801年　10月3日 享和元年　8月26日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　夜に入　（4月の博打打に3鞭町払い・家財は妻子に、関係者も3鞭などの処罰）
1801年　10月4日 享和元年　8月27日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1801年　10月5日 享和元年　8月28日 晴
1801年　10月6日 享和元年　8月29日 晴
1801年　10月7日 享和元年　8月30日 曇　今朝卯の刻過ぎ雷鳴　辰の刻頃雨降　即刻止　申の刻頃雷雨　即刻止
1801年　10月8日 享和元年　9月1日 晴
1801年　10月9日 享和元年　9月2日 曇　（広田組桜田村の馬が「牛蒡尾」に成り博労手で秋田表江片付ける:？）
1801年 10月10日 享和元年　9月3日 晴　（去る10月親元と出奔・立ち帰り・盗みの御家中の兄に3鞭弘前町払い）
1801年 10月11日 享和元年　9月4日 曇　今日辰の刻過ぎより雨降　夜に入
1801年 10月12日 享和元年　9月5日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃霙降　今朝始めて岩木山雪見ゆる
1801年 10月13日 享和元年　9月6日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜に及
1801年 10月14日 享和元年　9月7日 晴　頃日よりの雨今朝卯の刻頃止　（高岡江御献備の鮭2尺差し出す）
1801年 10月15日 享和元年　9月8日 曇　昨夜戌の刻頃小雨降　即刻止　今日申の刻頃より雨降　同刻過ぎ止　（土淵川より亀を取って差し上げた男に酒代鳥目1貫文下し置かれる）
1801年 10月16日 享和元年　9月9日 曇　今日時々雨降
1801年 10月17日 享和元年　9月10日 晴　（去月15日に亀を取って差し上げた男に酒代鳥目1貫文下し置かれる）
1801年 10月18日 享和元年　9月11日 曇
1801年 10月19日 享和元年　9月12日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨降　戌の刻頃止
1801年 10月20日 享和元年　9月13日 曇
1801年 10月21日 享和元年　9月14日 晴　（去る10日夜(浦町組)荒川村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け、吉之助様より川鮭1尺下し置かれる）
1801年 10月22日 享和元年　9月15日 曇
1801年 10月23日 享和元年　9月16日 晴
1801年 10月24日 享和元年　9月17日 晴　（昨日百沢村で出火・火元居村預け）
1801年 10月25日 享和元年　9月18日 曇　今朝霜強し　辰の刻頃少々雨降　則刻止　午の刻頃より雨降　未の刻頃止
1801年 10月26日 享和元年　9月19日 晴
1801年 10月27日 享和元年　9月20日 曇　今日巳の刻頃より雨降　申の刻頃止
1801年 10月28日 享和元年　9月21日 曇　今暁寅の刻頃雨降　即刻止
1801年 10月29日 享和元年　9月22日 快晴
1801年 10月30日 享和元年　9月23日 晴　昨夜子の刻頃少々地震　（炭1俵盗み取った男に3鞭居村徘徊是まで通り）
1801年 10月31日 享和元年　9月24日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降

1801年　11月1日 享和元年　 9月25日 曇　今日巳の刻頃雨降　即刻止　(岩木川出水・駒越渡馬船長船とも往来成りかねる)
1801年　11月2日 享和元年　 9月26日 晴
1801年　11月3日 享和元年　 9月27日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　夜に入
1801年　11月4日 享和元年　 9月28日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1801年　11月5日 享和元年　 9月29日 曇　(岩木川出水・馬船長船とも往来差し留める)
1801年　11月6日 享和元年　 10月1日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今暁寅の刻雷鳴　雨時々降
1801年　11月7日 享和元年　 10月2日 晴　((多分江戸で)去月(8月でしょうな)29日・今月2・7・13日と御家中が病死)
1801年　11月8日 享和元年　 10月3日 晴　(御家中の弟変死(自害))
1801年　11月9日 享和元年　 10月4日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　夜に入　(岩木川出水・駒越渡長船馬船とも往来留める)
1801年 11月10日 享和元年　 10月5日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ　時々雨降　夜に入
1801年 11月11日 享和元年　 10月6日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降る　午の刻頃霰降
1801年 11月12日 享和元年　 10月7日 晴
1801年 11月13日 享和元年　 10月8日 曇　今日巳の刻頃より雨降　酉の刻頃止
1801年 11月14日 享和元年　 10月9日 曇　午の刻頃より雨降　申の刻頃止
1801年 11月15日 享和元年　10月10日 晴
1801年 11月16日 享和元年　10月11日 曇　今暁丑の刻頃より時々雨降　夜に入
1801年 11月17日 享和元年　10月12日 曇　昨夜よりの雨今朝辰の刻頃止　午の刻頃霰降　申の刻頃雪少々降
1801年 11月18日 享和元年　10月13日 曇　昨夜亥の刻頃より雪降　今日に及ぶ　時々降　(2月に博打をした和徳町の男に3鞭町徘徊是まで通り)
1801年 11月19日 享和元年　10月14日 曇　今暁寅の刻少々地震　未の刻頃より雨降　申の刻頃雷鳴　酉の刻頃雨止　(新酒値段1匁4分に申し付ける)
1801年 11月20日 享和元年　10月15日 曇
1801年 11月21日 享和元年　10月16日 曇　今日午の刻頃霙降　未の刻頃止
1801年 11月22日 享和元年　10月17日 晴　(御家中小栗山某の母出奔)
1801年 11月23日 享和元年　10月18日 快晴
1801年 11月24日 享和元年　10月19日 曇　今暁寅の刻頃雨降　夜に入　(宮川某が仕込んだ味噌を御家中に貸す・(銀)10匁に付き6貫500目値段・代金は知行・御切米渡しで差し引く)
1801年 11月25日 享和元年　10月20日 曇　昨夜亥の刻まて雨降
1801年 11月26日 享和元年　10月21日 曇　昨夜中雪少し降
1801年 11月27日 享和元年　10月22日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪ふる
1801年 11月28日 享和元年　10月23日 曇　昨夜中雪降　今日時々降　夜に入
1801年 11月29日 享和元年　10月24日 曇　昨夜よりの雪今日に及ぶ　時々ふる　(羽州尾花沢の御本陣鈴木某の居宅が大破したので50両拝借願い・5両を下し置かれる)
1801年 11月30日 享和元年　10月25日 曇　昨夜中雪少々降
1801年　12月1日 享和元年　10月26日 曇　今日雪少々降
1801年　12月2日 享和元年　10月27日 曇　今日雪少々降　(焚き炭御貸し渡し:御目見以下に5俵宛・月々の渡し方を持って差し引く)
1801年　12月3日 享和元年　10月28日 曇　割く夜中雪少々降　今日雪少々ふる
1801年　12月4日 享和元年　10月29日 曇　(鴻池又右衛門に例年の通り奇應丸50・一粒金丹20下し置かれる)
1801年　12月5日 享和元年　10月30日 晴
1801年　12月6日 享和元年　 11月1日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今朝卯の刻頃止　雪降
1801年　12月7日 享和元年　 11月2日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今朝辰の刻頃止　雪時々降　(油値段4匁2分に申し付ける)
1801年　12月8日 享和元年　 11月3日 曇　今暁酉の刻頃より雨降　夜に入　(苗字を持つ町民かな3人が戸〆・藩の金を貸し付けて焦げ付かせたのだろうか)
1801年　12月9日 享和元年　 11月4日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1801年 12月10日 享和元年　 11月5日 曇　昨夜雪降　3寸程つもる　今日時々雪降　(去月30日後潟組今津村前浜で難船・女1人水死)
1801年 12月11日 享和元年　 11月6日 曇　今日時々雪降　酉の刻頃より雨降　即刻止
1801年 12月12日 享和元年　 11月7日 曇　今暁風強し　時々雪降　(御収納の節御蔵不足・町蔵御借上げ(豊作だったということ))
1801年 12月13日 享和元年　 11月8日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　(焚き炭御払い:御城代に50俵・各組頭に40俵宛・代金は御差引き(天引き？))
1801年 12月14日 享和元年　 11月9日 晴　昨夜中雪少々降　(5月に川合村杣小屋で博打・預かり手形を不法に取り返した男に9鞭町徘徊是まで通り・3人に6鞭または3鞭・その他関係者にも罰)
1801年 12月15日 享和元年　11月10日 快晴　(去月晦日野田村沖で大泊村の3人(男2・女1)が水死)
1801年 12月16日 享和元年　11月11日 曇
1801年 12月17日 享和元年　11月12日 曇
1801年 12月18日 享和元年　11月13日 晴曇留無之(晴曇り留まりなしとでも呼んで起きましょう)
1801年 12月19日 享和元年　11月14日 曇　昨夜中時々雨降　今朝霜強し　酉の刻より雨降
1801年 12月20日 享和元年　11月15日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　頃日暖和にて雪消
1801年 12月21日 享和元年　11月16日 曇　昨夜中風強し　雪少々降
1801年 12月22日 享和元年　11月17日 曇　割く夜中雪少々降
1801年 12月23日 享和元年　11月18日 曇　昨夜中風強し　雪少々降　(当月朔日より15日までの米1俵代23匁2分平均値段に付き……)
1801年 12月24日 享和元年　11月19日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1801年 12月25日 享和元年　11月20日 曇　昨夜中雪少々降
1801年 12月26日 享和元年　11月21日 曇
1801年 12月27日 享和元年　11月22日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降
1801年 12月28日 享和元年　11月23日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1801年 12月29日 享和元年　11月24日 曇　昨夜中雪降　5寸程積　今日時々雪降
1801年 12月30日 享和元年　11月25日 曇　昨夜雪降　3寸程積　今日時々雪降
1801年 12月31日 享和元年　11月26日 曇　今日時々雪降

1802年　1月1日 享和元年　11月27日 曇 昨夜雪降　3寸程積　今日時々雪降　　下から続く　　3厘8毛・3ヶ所平均32匁8分2厘8毛うち1匁2分が御定め役引・平米1俵に付き31匁6分2厘8毛・金1両に付き105匁）
1802年　1月2日 享和元年　11月28日 曇 昨夜中雪少々降　（高岡江御献備之鱈差出す、昨夜中木造新田栄田村で出火・火元村預け、当新穀一番相場（1俵）：弘前31匁5分6厘8毛・青森34匁2分8厘・鯵ヶ沢32匁6分　　上に続く
1802年　1月3日 享和元年　11月29日 曇 今日午の刻杉少し地震　申の刻過ぎ雨降　戌の刻頃止　（北の御丸穿抜き井出来・地形より水所まで深さ12丈5尺・内10丈6尺水の居1丈9尺水際より地形まで）
1802年　1月4日 享和元年　12月1日 曇 昨夜中風強　今日時々雪降
1802年　1月5日 享和元年　12月2日 晴
1802年　1月6日 享和元年　12月3日 晴 今日午の刻寒に入
1802年　1月7日 享和元年　12月4日 晴 今日午の刻より雨降　未の刻頃止　即刻より雪降
1802年　1月8日 享和元年　12月5日 曇 昨夜よりの雪2寸程積　今日時々雪降
1802年　1月9日 享和元年　12月6日 曇 昨夜中雪降　1尺程積る　今日時々雪降
1802年　1月10日 享和元年　12月7日 曇 昨夜中雪少々降　今日時々雪降　　下から続く　　御家中100石に付き100匁の御手当て、焚き炭御払い：御家老衆80俵宛・御城代衆40俵・御用人中30俵・大目付20俵）
1802年　1月11日 享和元年　12月8日 曇 昨夜中雪降　5寸程積　今日時々雪降　（今4日竹鼻村（浪岡組）で出火・火元高無村預け、小泊村長松（外国に行って帰ってこない切支丹扱いの男）の弟が異変・生死無之、　　上に続く
1802年　1月12日 享和元年　12月9日 曇 昨夜中雪降　3寸程積　今日時々雪降
1802年　1月13日 享和元年　12月10日 曇 （他領の猟師が来て熊を取っている・焼印の札を渡して見分けるように……）
1802年　1月14日 享和元年　12月11日 曇 今日午の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻止　（流木御払い：御家老御城代衆100目代・御用人中70目代・大目付50目代・四奉行山奉行40目代・御目付作事奉行30目代・代銭御差引きで）
1802年　1月15日 享和元年　12月12日 曇 （十三潟が去月29日暮頃より当月朔日明六時まで早川口より残らず氷張る・去当年日数に引合26日遅く節に引合15日遅い）
1802年　1月16日 享和元年　12月13日 晴
1802年　1月17日 享和元年　12月14日 晴
1802年　1月18日 享和元年　12月15日 曇 今日時々雪降　（日頃出精として福眞弥兵衛など多数に褒美）
1802年　1月19日 享和元年　12月16日 曇 昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1802年　1月20日 享和元年　12月17日 曇
1802年　1月21日 享和元年　12月18日 晴
1802年　1月22日 享和元年　12月19日 晴
1802年　1月23日 享和元年　12月20日 晴
1802年　1月24日 享和元年　12月21日 晴
1802年　1月25日 享和元年　12月22日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　申の刻頃止　（酒値段1匁4分に仰せ付ける）
1802年　1月26日 享和元年　12月23日 曇 （盗み杣の相内村等の男5人に9鞭居村徘徊是まで通り・他に6鞭1人・過料等多数）
1802年　1月27日 享和元年　12月24日 晴
1802年　1月28日 享和元年　12月25日 晴
1802年　1月29日 享和元年　12月26日 曇 今日時々雪降
1802年　1月30日 享和元年　12月27日 曇 昨夜中雪少々降（去る22日福浦村で出火・火元居村預け、鳶の者蝦夷地で病死・同人弟を鳶の者に召抱える）
1802年　1月31日 享和元年　12月28日 曇 （火をつけるという張札・借込みの上駆欠落ちなどの記述あり・何となく不穏な空気）
1802年　2月1日 享和元年　12月29日 曇 （去る25日荒川村で出火・外馬屋1軒焼失・火元慎み）
1802年　2月2日 享和元年　12月30日 曇 今日辰の刻頃雷鳴　午の刻頃雨降　未の刻頃雪少々降
1802年　2月3日 享和2年　正月1日　曇 咲く夜中雪降　今朝に及ぶ　3寸程積る
1802年　2月4日 享和2年　正月2日　曇 今日時々雪降
1802年　2月5日 享和2年　正月3日　曇 今日時々雪降
1802年　2月6日 享和2年　正月4日　晴 昨夜中雪少々降
1802年　2月7日 享和2年　正月5日　曇 今日時々雪降
1802年　2月8日 享和2年　正月6日　曇 今日少々雪降
1802年　2月9日 享和2年　正月7日　曇 昨夜中雪少々降　今日少々雪降
1802年　2月10日 享和2年　正月8日　晴
1802年　2月11日 享和2年　正月9日　晴
1802年　2月12日 享和2年　正月10日　曇 今日辰の刻より雨降
1802年　2月13日 享和2年　正月11日　曇 昨夜中雪少々降
1802年　2月14日 享和2年　正月12日　曇
1802年　2月15日 享和2年　正月13日　曇
1802年　2月16日 享和2年　正月14日　曇
1802年　2月17日 享和2年　正月15日　曇 今日未の刻頃より雨降り　夜に入
1802年　2月18日 享和2年　正月16日　曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止　時々雪降り
1802年　2月19日 享和2年　正月17日　曇 昨夜中雪少々降り今日時々降り
1802年　2月20日 享和2年　正月18日　曇
1802年　2月21日 享和2年　正月19日　曇 昨夜中雪少々降
1802年　2月22日 享和2年　正月20日　曇
1802年　2月23日 享和2年　正月21日　曇 今日時々雪降
1802年　2月24日 享和2年　正月22日　曇
1802年　2月25日 享和2年　正月23日　晴
1802年　2月26日 享和2年　正月24日　曇 今暁寅の四刻二月節（笠原兵司を御役御免・大寄合格に等の人事異動）
1802年　2月27日 享和2年　正月25日　晴
1802年　2月28日 享和2年　正月26日　曇

1802年　3月1日 享和2年 正月27日　曇　昨夜中雪少々降り今日時々降り（去る23日六枚橋村で出火・火元高無村預け）
1802年　3月2日 享和2年 正月28日　晴
1802年　3月3日 享和2年 正月29日　曇
1802年　3月4日 享和2年　2月1日 快晴
1802年　3月5日 享和2年　2月2日 快晴
1802年　3月6日 享和2年　2月3日 快晴
1802年　3月7日 享和2年　2月4日 曇（去る朔日木作新田下相野村で出火・火元百姓他村預け）
1802年　3月8日 享和2年　2月5日 快晴
1802年　3月9日 享和2年　2月6日 曇
1802年　3月10日 享和2年　2月7日 曇　昨夜中霙降
1802年　3月11日 享和2年　2月8日 快晴
1802年　3月12日 享和2年　2月9日 晴
1802年　3月13日 享和2年　2月10日 曇
1802年　3月14日 享和2年　2月11日 曇　昨夜中よりの雨今日に及ぶ　時々(昨夜中より之雨及今日時々)
1802年　3月15日 享和2年　2月12日 晴
1802年　3月16日 享和2年　2月13日 晴
1802年　3月17日 享和2年　2月14日 曇　昨夜中雨降　今日に及ぶ　時々降り（御家中江戸等上下路用(1人1日)は:上260文・中230文・下200文宛）　下から続く　氷明ける・当年は日数に引合4日早く節に引合16日早い）
1802年　3月18日 享和2年　2月15日 曇（五十石町橋下に捨て赤子、十三潟が10日昼八時頃より翌11日の朝六時頃まで早川口より残らず氷明ける・去年は2月14日昼九時頃より暮六時頃まで早川口より残らず　上に続く
1802年　3月19日 享和2年　2月16日 晴（無札の馬の取引をしたのかな矢沢村の男に3鞭）
1802年　3月20日 享和2年　2月17日 曇　今日時々雪降（開発に出精・骨折りの者共に御賞）
1802年　3月21日 享和2年　2月18日 晴
1802年　3月22日 享和2年　2月19日 晴
1802年　3月23日 享和2年　2月20日 晴　今日巳の刻頃より雨降
1802年　3月24日 享和2年　2月21日 晴（代銭上納の上流木御払い:御家老衆150匁代・御城代衆120匁代・御用人中100匁代充・大目付60匁代充・四奉行山奉行40匁代充）
1802年　3月25日 享和2年　2月22日 晴（去る20日後潟組瀬戸子村で出火・類焼1軒馬6疋焼死種籾焼失・火元他損預け）
1802年　3月26日 享和2年　2月23日 曇
1802年　3月27日 享和2年　2月24日 晴
1802年　3月28日 享和2年　2月25日 晴（和徳村領畑地に水車取り立てる）
1802年　3月29日 享和2年　2月26日 晴
1802年　3月30日 享和2年　2月27日 曇　今日辰の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻頃止（一粒金丹の有り合わせがなく10剤の調合を仰せ付ける、23日昼中師村の鍛冶が出火・類焼もあり他村預け）
1802年　3月31日 享和2年　2月28日 曇　今日未の刻頃雨降　申の刻過ぎ止
1802年　4月1日 享和2年　2月29日 曇　今日辰の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ止（去る11月隠し津出の左堰村の男2人に15鞭村払いの上外浜四ヶ組並びに浦々住居御構い・家屋敷家財は妻子に）
1802年　4月2日 享和2年　2月30日 晴（外東御門御修復に付き……）
1802年　4月3日 享和2年　3月1日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨降り　則刻止　申の刻過ぎより雨降る　酉の刻頃止
1802年　4月4日 享和2年　3月2日 晴
1802年　4月5日 享和2年　3月3日 晴
1802年　4月6日 享和2年　3月4日 晴
1802年　4月7日 享和2年　3月5日 晴　今夜戌六刻三月節
1802年　4月8日 享和2年　3月6日 曇　昨夜亥の刻より雨降り　今日終日降　夜に入
1802年　4月9日 享和2年　3月7日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降（岩木川出水・駒越渡馬船長船とも往来相成りがたし）
1802年　4月10日 享和2年　3月8日 晴
1802年　4月11日 享和2年　3月9日 曇（去る2日新田筒木坂村で・昨7日大原村で出火・ともに火元他村預け）
1802年　4月12日 享和2年　3月10日 晴
1802年　4月13日 享和2年　3月11日 晴（去月23日後潟組中師村での火災は類焼とも5軒・(たぶん火元を除き)御手当て米を下し置かれる）
1802年　4月14日 享和2年　3月12日 晴
1802年　4月15日 享和2年　3月13日 曇　今暁卯の刻頃より雨降　終日降り　夜に入
1802年　4月16日 享和2年　3月14日 曇　昨夜より雨　今日時々降り（岩木川出水・駒越渡馬船長船とも往来差留める）
1802年　4月17日 享和2年　3月15日 曇（昨14日広田村で出火・火元村預け）
1802年　4月18日 享和2年　3月16日 曇　今日午の刻頃雨降　夜に入
1802年　4月19日 享和2年　3月17日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降る(昨夜より之雨今日及時々降）（去る13日夜より青森で大風雨・堤川十分余になる・14日昼八時過ぎより落水）
1802年　4月20日 享和2年　3月18日 晴
1802年　4月21日 享和2年　3月19日 晴
1802年　4月22日 享和2年　3月20日 曇　今日申の刻頃少々雨降　則刻止（乞食頭丁助を取放し鶴田村某に）
1802年　4月23日 享和2年　3月21日 曇　今日申の刻頃少々雨降り　則刻止　今暁丑の二刻三月中（吉之助様より川鱒1尺下し置かれる）
1802年　4月24日 享和2年　3月22日 曇　今日巳の刻頃少々霰降　時々雨降（蝦夷地御奉行に戸川筑前守様と羽太荘左衛門様・松平信濃守様石川左近将監様は御懸り御免）
1802年　4月25日 享和2年　3月23日 曇
1802年　4月26日 享和2年　3月24日 曇　昨夜亥の刻頃雷鳴　則刻よりの雨今日に及ぶ(ここも「則刻より之雨今日及」となっている）時々降
1802年　4月27日 享和2年　3月25日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入
1802年　4月28日 享和2年　3月26日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止
1802年　4月29日 享和2年　3月27日 晴
1802年　4月30日 享和2年　3月28日 曇　今日辰の刻より雨終日降り夜に入

1802年　5月1日 享和2年　3月29日 晴　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止
1802年　5月2日 享和2年　4月1日 晴　(当月9日夜(3月9日)鯵ヶ沢町奉行所名主会所の雨戸を押明け銭116匁余を盗取った者がある・疑わしい者を召捕って叔父に預けたが逃げられる)
1802年　5月3日 享和2年　4月2日 曇　今日申の刻過ぎより雨降　夜に入 (鯵ヶ沢町に寄せ鯨(多分ぼろぼろ))
1802年　5月4日 享和2年　4月3日 曇　昨夜より之雨今暁丑の刻頃止　今日辰の刻過ぎ少々雨降　則刻止
1802年　5月5日 享和2年　4月4日 曇　今日申の刻頃より雨降　夜に入　則刻雷鳴　雨戌の刻頃止
1802年　5月6日 享和2年　4月5日 曇
1802年　5月7日 享和2年　4月6日 晴
1802年　5月8日 享和2年　4月7日 曇　今日辰の刻頃より雨降り　巳の刻頃止　今朝卯の八刻四月節
1802年　5月9日 享和2年　4月8日 晴　(去る6日金木村で出火・火元高無村預け)
1802年　5月10日 享和2年　4月9日 曇
1802年　5月11日 享和2年　4月10日 曇　今日未の刻頃より雨降り　申の刻過ぎ雷鳴　亥の刻頃雨
1802年　5月12日 享和2年　4月11日 曇
1802年　5月13日 享和2年　4月12日 晴
1802年　5月14日 享和2年　4月13日 晴　今暁霜降り
1802年　5月15日 享和2年　4月14日 曇　今日申の刻過ぎより少々雨降　戌の刻頃止
1802年　5月16日 享和2年　4月15日 晴
1802年　5月17日 享和2年　4月16日 曇　今日申の刻過ぎ雷鳴　則刻雨降　夜に入　戌の刻頃止　(北の御門番人が2人とも不在・屹度慎み申付けるよう外崎午左衛門(御持筒足軽頭)に伝える)
1802年　5月18日 享和2年　4月17日 曇　今日申の刻過ぎ少々雨降　則刻止　(頃日在方にても一統咳気時行)
1802年　5月19日 享和2年　4月18日 晴　(去る16日広須組芦部岡村で出火・火元百姓村預け、10日出帆の青森で1150石をつんだ江戸御回船が八戸領で破船)
1802年　5月20日 享和2年　4月19日 晴　今朝霜降
1802年　5月21日 享和2年　4月20日 晴　(18日金木新田八幡村で出火・火元百姓他村預け、蝦夷地に行くメンバー(近藤重蔵等)・蝦夷地御用の懸りの名簿あり)
1802年　5月22日 享和2年　4月21日 晴
1802年　5月23日 享和2年　4月22日 曇　今日辰の刻頃雨降り　則刻止　今日午四ノ刻四月中　(去る20日金木組高根村で出火・火元百姓村預け)
1802年　5月24日 享和2年　4月23日
1802年　5月25日 享和2年　4月24日 晴
1802年　5月26日 享和2年　4月25日 晴
1802年　5月27日 享和2年　4月26日 晴
1802年　5月28日 享和2年　4月27日 晴
1802年　5月29日 享和2年　4月28日 曇　今日申の刻頃雨降り　則刻止
1802年　5月30日 享和2年　4月29日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降り　(御発駕日限来月朔日と仰せ出される)
1802年　5月31日 享和2年　5月1日 曇　今日辰の刻過ぎ少々地震　(西坂下御門下橋出来、北の御矢倉御取建ての儀仰せ付けられる)
1802年　6月1日 享和2年　5月2日 曇
1802年　6月2日 享和2年　5月3日 曇　今日時々雨降
1802年　6月3日 享和2年　5月4日 曇　今日申の刻過ぎ少々雨降　則刻止　(井戸穿に1日銭2匁と米1升を下し置かれ見習いとする、昨3日藤代組小友村で出火・小屋焼失・火元村預け、今日御例格の通り御菖蒲飾り)
1802年　6月4日 享和2年　5月5日 晴
1802年　6月5日 享和2年　5月6日 晴　(博労家業でないのに馬商売した長嶺村の男に3鞭居村徘徊是まで通り・関係者にも罰)
1802年　6月6日 享和2年　5月7日 曇　今日巳の刻頃雨降る
1802年　6月7日 享和2年　5月8日 曇　今夜酉一刻5月節
1802年　6月8日 享和2年　5月9日 晴　昨夜亥の刻頃少々地震　今日巳の刻頃少々同　(抜馬4疋を秋田に売った深浦・広戸村の男に24鞭5里四方追放・関係者にも罰)
1802年　6月9日 享和2年　5月10日 晴
1802年　6月10日 享和2年　5月11日 曇　今朝卯の刻過ぎ小雨降　則刻止
1802年　6月11日 享和2年　5月12日 曇　昨夜子の刻頃より雨降る　今日に及び時々降り　(江戸で御買入の具足40領が青森に着く・輸送中に痛、水不足で塊掻(くれかき)もできない・下居の宮と四社に御祈禱を仰せ付ける)
1802年　6月12日 享和2年　5月13日 晴
1802年　6月13日 享和2年　5月14日 曇
1802年　6月14日 享和2年　5月15日 曇　今日午の刻頃雨降　則刻止
1802年　6月15日 享和2年　5月16日 晴　(度々博打の十腰内村の五人組に3鞭五人組取放居村徘徊是まで通り・その他13人にも3鞭居村徘徊是まで通り・その他関係者にも罰)
1802年　6月16日 享和2年　5月17日 曇
1802年　6月17日 享和2年　5月18日 晴　今朝霜降る　(屋形様山吹の間江八つ時御着座)
1802年　6月18日 享和2年　5月19日 晴　(他村より水奪う等の記述あり)
1802年　6月19日 享和2年　5月20日 曇　今日巳の刻頃より雨時々ふる
1802年　6月20日 享和2年　5月21日 曇
1802年　6月21日 享和2年　5月22日 曇　(駒越村の男が村の堰より亀を取り差し上げる・酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1802年　6月22日 享和2年　5月23日 曇　今晩酉の刻頃小雨降　則刻止　今夜亥の七刻夏至5月中　(去る21日横内組後苞村で外馬屋等焼失・火元百姓戸〆)
1802年　6月23日 享和2年　5月24日 曇　今日午の刻頃雷鳴　則刻雨降　則刻止
1802年　6月24日 享和2年　5月25日 晴　(西の御郭の内江柵門御取建て仰せ付けられる、去る23日浦町組で寺内の小屋出火・火元禁足)
1802年　6月25日 享和2年　5月26日 曇　今日未の刻頃より雨降　酉の刻頃過ぎ止
1802年　6月26日 享和2年　5月27日 曇　大鰐村より初茄子並びに真瓜差出す　(この節旱魃にて田方用水不足……、当月22日夜油川村に3歳くらいの男子捨て子)
1802年　6月27日 享和2年　5月28日 快晴　(薬王院・本行寺に雨乞いの御祈禱を仰せ付ける)
1802年　6月28日 享和2年　5月29日 晴
1802年　6月29日 享和2年　5月30日 晴
1802年　6月30日 享和2年　6月1日 曇　今日申の刻頃雷鳴　則刻雨少々降

1802年　7月1日 享和2年　6月2日 晴
1802年　7月2日 享和2年　6月3日 晴 (岩木山に登山の上雨乞いの御祈禱を仰せ付けられる)
1802年　7月3日 享和2年　6月4日 晴
1802年　7月4日 享和2年　6月5日 曇 昨夜中之雨 今日時々降
1802年　7月5日 享和2年　6月6日 晴 (四之北御門脇東の方辻に小松を植付けるよう……)
1802年　7月6日 享和2年　6月7日 晴
1802年　7月7日 享和2年　6月8日 曇 昨夜子の刻頃雷鳴 則刻雨降 今日に及ぶ 時々降
1802年　7月8日 享和2年　6月9日 曇 今日辰の刻頃より雨時々降 夜に入 今暁寅の上刻六月節 〔尾太鉛山の損益は933文目8分9厘の御益)
1802年　7月9日 享和2年　6月10日 曇 今朝卯の刻頃雷鳴 〔岩木川が今朝出水・駒越舟場往来差留める)
1802年　7月10日 享和2年　6月11日 曇 今日巳の刻頃雷鳴 則刻より雨降 夜に入 (山鹿八郎左衛門・斉藤子左衛門を用人になどの人事異動)
1802年　7月11日 享和2年　6月12日 曇 昨夜より雨 今日に及ぶ 時々降り
1802年　7月12日 享和2年　6月13日 晴
1802年　7月13日 享和2年　6月14日 曇
1802年　7月14日 享和2年　6月15日 晴 〔今日御着城御祝儀の御料理と御囃子、多数に御褒美)
1802年　7月15日 享和2年　6月16日 晴
1802年　7月16日 享和2年　6月17日 曇 今朝卯の刻過ぎ少々雨降り 辰の刻頃止
1802年　7月17日 享和2年　6月18日 晴
1802年　7月18日 享和2年　6月19日 曇 今朝辰の刻頃小雨降 則刻止
1802年　7月19日 享和2年　6月20日 晴
1802年　7月20日 享和2年　6月21日 晴 (この度鯵ヶ沢で合船皆出来・観音丸)
1802年　7月21日 享和2年　6月22日 晴
1802年　7月22日 享和2年　6月23日 晴 (去る12月腰縄付きの男を取逃がした番人の木造村の男2人に3鞭居村徘徊是まで通り)
1802年　7月23日 享和2年　6月24日 曇 今日巳の初刻六月中 (尾崎組4ヶ村の矢竹林1反3畝18歩:(沖館村60間×6間・新館村13間×10間・町居村70間×12間・尾崎村25間×16間)、4文銭が80貫文入りの樽で送られている)
1802年　7月24日 享和2年　6月25日 晴
1802年　7月25日 享和2年　6月26日 晴
1802年　7月26日 享和2年　6月27日 晴 頃日冷気
1802年　7月27日 享和2年　6月28日 晴
1802年　7月28日 享和2年　6月29日 曇 今暁寅の刻頃少々地震 卯の刻過ぎより雨降 午の刻頃止 (御家中に100石に100目の割合で御手当て下し置かれる・来月4日より渡し方、御買下げの白木弓52張を師匠に貸渡す)
1802年　7月29日 享和2年　7月1日 曇 今暁寅の刻頃より雨降り 夜に入 (大鰐村加賀助・兵左衛門より御初米の初穂差出す、4日年以前に御家中渡し方4歩一御用捨(名目の75%渡し?)……、衣類酒等倹約しろ等の触)
1802年　7月30日 享和2年　7月2日 曇 昨夜より之雨今日時々降 (去月28日夜木作新田牛潟村で出火・火元村預け)
1802年　7月31日 享和2年　7月3日 曇
1802年　8月1日 享和2年　7月4日 曇
1802年　8月2日 享和2年　7月5日 曇 (祢ふたは町内限りにとの触)
1802年　8月3日 享和2年　7月6日 晴
1802年　8月4日 享和2年　7月7日 晴 (七夕の御祝儀・御目見以上登城)
1802年　8月5日 享和2年　7月8日 曇 今日辰の刻過ぎ雨少々降 則刻止 未の刻頃雷鳴 則刻雨降る 申の刻過ぎ止 (昼九つ半時頃雷鳴に付き御家老中御用人ご機嫌伺いに出る)
1802年　8月6日 享和2年　7月9日 晴 (今日御下浜・御発駕六時過ぎ)
1802年　8月7日 享和2年　7月10日 曇 今日午の刻過ぎより雨降 申の刻頃止 未の五刻七月節
1802年　8月8日 享和2年　7月11日 曇 昨夜戌の刻過ぎより雨降 亥の刻頃雷鳴 雨今日時々降り
1802年　8月9日 享和2年　7月12日 快晴 (悪戸村の男が亀を取り差し上げる・酒代1貫文下し置かれる、広須組芦屋村に2歳の牛勢馬・他領に出すようにする)
1802年　8月10日 享和2年　7月13日 快晴 (御廻船の上乗りで江戸に届いた足軽を御飛脚下がりに申し付けている)
1802年　8月11日 享和2年　7月14日 快晴
1802年　8月12日 享和2年　7月15日 快晴 頃日残暑強し
1802年　8月13日 享和2年　7月16日 曇 今日巳の刻頃より雨降り 戌の刻頃止
1802年　8月14日 享和2年　7月17日 晴 (13日夜金木組中里村で出火・火元高無居村預け)
1802年　8月15日 享和2年　7月18日 晴
1802年　8月16日 享和2年　7月19日 晴
1802年　8月17日 享和2年　7月20日 快晴
1802年　8月18日 享和2年　7月21日 快晴 (当月朔日浦町組荒川・八つ役村の田畑等に洪水、水油1升を4匁3分5厘に申し付ける)
1802年　8月19日 享和2年　7月22日 快晴
1802年　8月20日 享和2年　7月23日 曇 今日午の刻頃雨 申の刻頃止 (盗杣の飯詰村の男3人に6鞭居村徘徊是まで通り・関係者にも罰)
1802年　8月21日 享和2年　7月24日 晴
1802年　8月22日 享和2年　7月25日 晴 今夜戌の二刻七月中 頃日残暑強し
1802年　8月23日 享和2年　7月26日 曇 今日午の刻過ぎ雨降り 夜に入
1802年　8月24日 享和2年　7月27日 曇 昨夜雨 今暁虎の刻過ぎ止 酉の刻より少々雨降 (昨夜藤崎組前田屋敷村で出火・火元百姓村預け)
1802年　8月25日 享和2年　7月28日 晴 昨夜雨 今暁寅の刻過ぎ止
1802年　8月26日 享和2年　7月29日 曇 今日申の刻過ぎより雨降り 夜に入
1802年　8月27日 享和2年　7月30日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降
1802年　8月28日 享和2年　8月1日 曇 今日たつの刻頃小雨降 則刻止 申の二刻日食九歩
1802年　8月29日 享和2年　8月2日 快晴 (百沢寺より苔の実差し上げる)
1802年　8月30日 享和2年　8月3日 晴
1802年　8月31日 享和2年　8月4日 晴 (大鰐村加賀助・兵左衛門より御初米5俵差し上げる)

1802年　9月1日 享和2年　8月5日 晴 （去年の御初米は4月20日植付7月14日鎌入同17日差上げ植付より鎌入迄83日目・当年は5月朔日植付7月28日鎌入朔4日差上げ植付より鎌入迄87日目で4日遅い・節に引合3日遅い）
1802年　9月2日 享和2年　8月6日 晴
1802年　9月3日 享和2年　8月7日 曇 昨夜戌の刻頃より雨　今日に及ぶ　時々降り
1802年　9月4日 享和2年　8月8日 曇 今日巳の刻頃より雨時々降り （昨夜五時頃より岩木川出水・馬船長舟とも往来差し留める）
1802年　9月5日 享和2年　8月9日 晴 （公儀測量御用伊能勘解由が鯵ヶ沢到着・御境より町中まで測量）
1802年　9月6日 享和2年　8月10日 曇 今日申の刻過ぎ雨降り　則刻止 （四之北外堀堀直しが完成？、津軽屋等の支配人に御手当金5両宛下し置かれる、伊勢参宮の松前の男が越後国で病気・後潟組深泊村で病死）
1802年　9月7日 享和2年　8月11日 曇 今日申の刻過ぎ雨降　即刻止　今暁子の七刻八月節
1802年　9月8日 享和2年　8月12日 曇 今日辰の刻頃雨降り　即刻止 （今日青森より御帰城・東御門注進(住進となっていて読めない)にて……）
1802年　9月9日 享和2年　8月13日 晴
1802年　9月10日 享和2年　8月14日 曇 今日辰の刻頃より雨降り　午の刻頃止
1802年　9月11日 享和2年　8月15日 曇 今日辰の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻頃止 （八幡宮御祭礼）
1802年　9月12日 享和2年　8月16日 曇 今日未の刻過ぎ雨ふる　則刻止
1802年　9月13日 享和2年　8月17日 曇 今日辰の刻頃雨降り　則刻止 （深浦沖で加賀船が破船・船頭流死）
1802年　9月14日 享和2年　8月18日 曇 （7日夜赤石組田野沢村沖で松前船が破船・船頭と水主の2人が水死）
1802年　9月15日 享和2年　8月19日 曇
1802年　9月16日 享和2年　8月20日 曇
1802年　9月17日 享和2年　8月21日 曇 今日巳の刻頃雨降り　則刻止
1802年　9月18日 享和2年　8月22日 晴
1802年　9月19日 享和2年　8月23日 曇
1802年　9月20日 享和2年　8月24日 晴 昨夜亥の刻過ぎ雨降　則刻雷鳴　雨今暁寅の刻頃止
1802年　9月21日 享和2年　8月25日 曇 （今日上野に於ける大組・御持筒の野稽古高覧）
1802年　9月22日 享和2年　8月26日 曇
1802年　9月23日 享和2年　8月27日 曇 昨夜時々雨降　今朝岩木山江初めて雪見ゆる
1802年　9月24日 享和2年　8月28日 曇 （当月10日後潟組大泊村の漁師が漁に出て行方不明）
1802年　9月25日 享和2年　8月29日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　未の刻頃止 （今日学校で釈奠(せきてん:孔子を祭る儀式？）
1802年　9月26日 享和2年　8月30日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降り　今日に及ぶ　時々降り
1802年　9月27日 享和2年　9月1日 晴 （人事異動）
1802年　9月28日 享和2年　9月2日 晴 （巣立ちの鷹を差し上げ御酒代2貫文下し置かれる:亀の倍ですな:福眞）
1802年　9月29日 享和2年　9月3日 曇 今日巳の刻過ぎより雨時々降り
1802年　9月30日 享和2年　9月4日 曇 今日巳の刻頃より雨時々降
1802年　10月1日 享和2年　9月5日 曇 今日辰の刻頃より雨時々降り　申の刻過ぎ霰降り （人事異動、去る20日野呂登が江戸で死亡）
1802年　10月2日 享和2年　9月6日 晴
1802年　10月3日 享和2年　9月7日 曇 今朝卯の刻頃雨少々降り　則刻止　申の刻頃より雨降り　戌の刻頃止 （今日上野で諸手組の野稽古高覧、昨夜御家中宅焼失・隣家も類焼）
1802年　10月4日 享和2年　9月8日 曇 （初鮭1尺差し上げる）
1802年　10月5日 享和2年　9月9日 曇 （多数の御家中に御賞）
1802年　10月6日 享和2年　9月10日 晴
1802年　10月7日 享和2年　9月11日 曇 今朝霜降　午の一刻九月節 （本町三国屋喜右衛門に対し大阪四軒丁の才助が訴訟を起こしたのかな・先日幕府の寺社奉行からも……・腰縄つきで江戸登りとする）
1802年　10月8日 享和2年　9月12日 晴 （和徳組大久保村の百姓が亀を取り差し上げる・御酒代1貫文下し置かれる）
1802年　10月9日 享和2年　9月13日 曇 今朝霜降　申の刻頃雨降　夜に入
1802年 10月10日 享和2年　9月14日 曇 昨夜より雨　今暁に及ぶ　卯の刻過ぎ止 （剣術高覧、去る6日(後潟組)阿弥陀川村で出火・火元高無村預け、三国屋某の付き添い登りの名主月行事に御用中の苗字・帯刀御免）
1802年 10月11日 享和2年　9月15日 晴 （多数の御家中に御賞、小売塩値段1升に付き5分5厘に申し付ける、三国屋某の送り方の詳細・箸は三寸箸魚のとげを抜いて与えろなど）
1802年 10月12日 享和2年　9月16日 曇
1802年 10月13日 享和2年　9月17日 曇 （去月27日伊能勘解由が大間越口より秋田表江罷り通る）
1802年 10月14日 享和2年　9月18日 晴 （駒越組紙漉沢村から亀差し上げる・酒代鳥目1貫文下し置かれる、藤崎村から鶴差し上げる・御酒代として鳥目70目下し置かれる）
1802年 10月15日 享和2年　9月19日 晴 昨夜酉の刻過ぎ雨降　今暁寅の刻止　申の刻頃より雨降　夜に入 （尾崎組の竹守達に御酒代を下し置かれる）
1802年 10月16日 享和2年　9月20日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々ふる　夜に入
1802年 10月17日 享和2年　9月21日 曇 昨夜より雨　今日に及ぶ　時々降
1802年 10月18日 享和2年　9月22日 晴
1802年 10月19日 享和2年　9月23日 曇 今朝卯の刻頃より雨時々降
1802年 10月20日 享和2年　9月24日 曇
1802年 10月21日 享和2年　9月25日 晴 （金給を俵子に直す際:1両は8俵・3歩は6俵とする）
1802年 10月22日 享和2年　9月26日 曇 今朝卯の刻頃より時々雨降り　夜に入　今日申六刻九月中
1802年 10月23日 享和2年　9月27日 曇 今日雨時々降　夜に入
1802年 10月24日 享和2年　9月28日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降り　　下から続く　　追放家財欠所・他に関係者10人に罰）
1802年 10月25日 享和2年　9月29日 快晴 （外東御門注進にて御家老御用人大目付が御広間に罷り出る、御用人?三橋治左衛門病死、他領名目の船を使って津出の油川村の男に30鞭大場御構い十里四方　　上に続く
1802年 10月26日 享和2年　9月30日 曇 今日辰の刻頃より雨時々降り
1802年 10月27日 享和2年　10月1日 曇 今日申の刻頃少々雨降　則刻止 （人事異動）
1802年 10月28日 享和2年　10月2日 曇
1802年 10月29日 享和2年　10月3日 晴
1802年 10月30日 享和2年　10月4日 晴
1802年 10月31日 享和2年　10月5日 晴

1802年　11月1日 享和2年　　10月6日 晴　(八木橋某・小山某の勤め方不埒として知行召し上げ新たに10人扶持・その子供たちの御手廻組・御馬廻組退役を仰せ付けられる)
1802年　11月2日 享和2年　　10月7日 晴
1802年　11月3日 享和2年　　10月8日 曇　今日未の刻頃より雨降り　夜に入
1802年　11月4日 享和2年　　10月9日 曇　昨夜より雨　今日に及ぶ　時々降　夜に入　丑の刻頃止　(油値段2分5厘増の4匁6分に申し付ける)
1802年　11月5日 享和2年　10月10日 曇　昨夜初めて雪少々降　今日時々降
1802年　11月6日 享和2年　10月11日 曇　今夜亥の三刻十月節　(去る7日富菟村半次郎の親半十郎が高年の者に付き生涯3人扶持下し置かれる)
1802年　11月7日 享和2年　10月12日 曇　今暁卯の刻頃より雨時々降り　(御用銭の内借り等で青森の商人等に罰・青森町奉行所物書2人に30鞭鉛山で2ヵ年の苦役家財欠所)
1802年　11月8日 享和2年　10月13日 快晴
1802年　11月9日 享和2年　10月14日 晴
1802年 11月10日 享和2年　10月15日 晴
1802年 11月11日 享和2年　10月16日 晴
1802年 11月12日 享和2年　10月17日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜に入　戌の刻頃止
1802年 11月13日 享和2年　10月18日 曇　昨夜雪少々降　今日に及ぶ　時々降　(当年の宮川某の仕込み味噌値段10匁代に付き目方6貫500目)
1802年 11月14日 享和2年　10月19日 曇　昨夜中雪少々降り　今日に及ぶ　時々降り
1802年 11月15日 享和2年　10月20日 曇　今日時々雪降
1802年 11月16日 享和2年　10月21日 曇　今日未の刻頃雨降　則刻止　(例年の通り一粒金丹20粒などを鴻池又右衛門に下し置かれる)
1802年 11月17日 享和2年　10月22日 晴
1802年 11月18日 享和2年　10月23日 晴　(……四つ時過ぎ御広庭口より御出相済み申し候(御広庭口とは何だ:福眞)、蝦夷地で越年していた鞘師町の男が住民?に手傷を負わせ27鞭弘前より7里四方追放)
1802年 11月19日 享和2年　10月24日 晴　(水油値段1升に付き5匁5分とする、金相場104匁8分)
1802年 11月20日 享和2年　10月25日 晴
1802年 11月21日 享和2年　10月26日 晴　(今日御屋敷拝領(最近江戸でのこと)御祝儀御能・御料理)
1802年 11月22日 享和2年　10月27日 晴　今暁丑の八刻十月中
1802年 11月23日 享和2年　10月28日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　(今日剣術高覧、江戸から買い入れた刀・小道具を御家中に御払い、石渡川4歩半の出水・両舟とも往来相成り申さず)
1802年 11月24日 享和2年　10月29日 曇　今日時々雪降
1802年 11月25日 享和2年　　11月1日 曇　昨夜中雪少々降り　今日辰の刻頃より雨時々降り
1802年 11月26日 享和2年　　11月2日 曇　今日辰の刻頃より雨時々降
1802年 11月27日 享和2年　　11月3日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1802年 11月28日 享和2年　　11月4日 曇　昨夜中雪少々降
1802年 11月29日 享和2年　　11月5日 晴
1802年 11月30日 享和2年　　11月6日 曇　今日時々雨降
1802年　12月1日 享和2年　　11月7日 曇　(今日御献上の鮭高覧、去る朔日赤田組灰沼村の百姓が兄に傷を追わせ逃げる・人相書き:29歳・せい5尺1寸位……)
1802年　12月2日 享和2年　　11月8日 曇　今日時々雪降り　(蝦夷地に非人が居らず差支えるのだそうな・江戸からは遠く御領内(弘前藩)に非人が居れば妻子のある者2・3人を交代でも良いが出せないかとの意向打診あり)
1802年　12月3日 享和2年　　11月9日 曇　(去月11日夜油川の米留め役が白米14叺を押える・人は荷を置いて逃走・米は担当者に下し置かれる)
1802年　12月4日 享和2年　11月10日 晴　(千年山御茶屋御取建出来)
1802年　12月5日 享和2年　11月11日 曇　今日少々雪降　(人事異動)
1802年　12月6日 享和2年　11月12日 晴
1802年　12月7日 享和2年　11月13日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今日時々降　辰の刻十一月節
1802年　12月8日 享和2年　11月14日 曇　昨夜雪少々降　今朝卯の刻過ぎ少々地震　(今日初鱈差し上げ・日柄に付き明日にする、木作新田に盗賊・帰国人を捕まえる・村預け中に逃げる)
1802年　12月9日 享和2年　11月15日 曇　今暁寅の刻より雨降　未の刻頃少々地震　申の刻頃雨止　(一昨13日夜木造村で出火・庄屋宅とも10軒焼失・火元他村預け)
1802年 12月10日 享和2年　11月16日 曇
1802年 12月11日 享和2年　11月17日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜に入
1802年 12月12日 享和2年　11月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降り辰の刻頃雷鳴
1802年 12月13日 享和2年　11月19日 曇　昨夜雪少々降
1802年 12月14日 享和2年　11月20日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ　(大光寺組館田村一村が時疫・医者派遣施薬)
1802年 12月15日 享和2年　11月21日 曇　今日終日雨降
1802年 12月16日 享和2年　11月22日 曇
1802年 12月17日 享和2年　11月23日 曇　(昨夜青森新丁で出火)　　下から続く　　(内1匁2分が御定め役引き)平米1俵に付き33匁2分7厘5毛・金1両代104匁3分)
1802年 12月18日 享和2年　11月24日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　1寸程積　時々降　(新穀入札1俵値段:弘前33文目6分・青森37文目5分7厘・鰺ヶ沢32匁2分5厘5毛・御払い米3ヵ所平均34匁4分7厘5毛　　上に続く
1802年 12月19日 享和2年　11月25日 曇　今日時々雪降り
1802年 12月20日 享和2年　11月26日 曇　昨夜雪少々降　今日時々降り
1802年 12月21日 享和2年　11月27日 曇　昨夜吹雪強し　今日時々雪降
1802年 12月22日 享和2年　11月28日 曇　今日未の刻至冬(冬至の誤り?)十一月中　(人事異動)
1802年 12月23日 享和2年　11月29日 曇
1802年 12月24日 享和2年　11月30日 曇
1802年 12月25日 享和2年　　12月1日 曇　昨夜中雪少々降　(人事異動、大円寺の不動尊両童子とも御出汗)
1802年 12月26日 享和2年　　12月2日 曇　(焚き炭御貸渡:御家老100俵・御城代80俵・三組頭40俵・御用人60俵・大目付40俵・四奉行山奉行30俵・御目付20俵・学校目付作事奉行御武具奉行15俵)
1802年 12月27日 享和2年　　12月3日 曇　昨夜中雪少々降　(金額未定だが御手当てを渡すとの触れ)
1802年 12月28日 享和2年　　12月4日 曇　今日未の刻頃より雨ふる　夜に入　(御家中・寺社の召使が博打とのこと・その主人もお咎めとの触れ)
1802年 12月29日 享和2年　　12月5日 曇　昨夜の雨今日時々降　(当月朔日暮六時より翌2日まで(十三潟の)早川口より残らず氷張る)
1802年 12月30日 享和2年　　12月6日 曇　昨夜少々雪降　今日に及ぶ　時々降
1802年 12月31日 享和2年　　12月7日 曇　今日時々雪降

1803年　1月1日 享和2年　12月8日 曇 昨夜中雪少々降 (人事異動)
1803年　1月2日 享和2年　12月9日 曇 (多くの御家中に御賞)
1803年　1月3日 享和2年　12月10日 晴 (多くの御家中に御賞(御料理小頭に金100疋宛・御料理人に銀5両・御家具小頭に鳥目500文宛など、今7日夜九時過ぎ三厩村で出火・御用物入れ御蔵と番所焼失)
1803年　1月4日 享和2年　12月11日 曇
1803年　1月5日 享和2年　12月12日 曇 (去る10日赤田組大性村で出火・火元高無村預け, 去る8日赤石組金井ヶ沢村で漁船遭難・7人中4人水死、先頃より在方で悪病流行・施薬下し置かれる)
1803年　1月6日 享和2年　12月13日 曇 今夜酉の七刻十二月節　昨夜戌の刻頃雷鳴　今晩酉の七刻寒入
1803年　1月7日 享和2年　12月14日 曇
1803年　1月8日 享和2年　12月15日 曇 昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　午の刻頃止 (古懸不動尊御出汗・五山に御祈禱を仰せ付ける)
1803年　1月9日 享和2年　12月16日 曇 今日時々雪降 (御馬廻花田某の倅等4人を不行跡として役下げ/お預け等)
1803年　1月10日 享和2年　12月17日 曇 今日時々雪降
1803年　1月11日 享和2年　12月18日 曇 昨夜雪少々降
1803年　1月12日 享和2年　12月19日 曇 昨夜中雪少々降
1803年　1月13日 享和2年　12月20日 曇 昨夜中少々降　今日時々降(何が?) (一昨18日青森で出火)
1803年　1月14日 享和2年　12月21日 曇 昨夜雪少々降　今日時々降り (御家中等多数に御賞)
1803年　1月15日 享和2年　12月22日 曇 昨夜中雪少々降　下から続く　隠した深泊村の男に3鞭居村徘徊是まで通り・同村庄屋に戸〆)
1803年　1月16日 享和2年　12月23日 曇 昨夜雪降　1寸ほど積る　今日時々降り (今日数姫様御帯置き等の御祝儀の御囃子、水油値段を1升6匁とする、出勤に遅刻するなの触れ、沖で拾った無刻印材木を　上に続く
1803年　1月17日 享和2年　12月24日 曇 昨夜中雪少々降り (酒値段増し願い:1匁5分とする、去る19日暁八時過ぎ青森寺町で芝居の内より出火・類焼29軒半潰れ1軒役者宮崎某焼死)
1803年　1月18日 享和2年　12月25日 晴
1803年　1月19日 享和2年　12月26日 曇 (今日御年忘れ御茶口切御祝儀御能)
1803年　1月20日 享和2年　12月27日 晴
1803年　1月21日 享和2年　12月28日 晴 昨夜子の四刻十二月中 (多数の御家中に御賞、去る27日藤崎組深味村で出火・火元高無村預け)
1803年　1月22日 享和2年　12月29日 晴 今晩酉の刻頃「虫」(より?)雪降
1803年　1月23日 享和3年　正月1日　曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止
1803年　1月24日 享和3年　正月2日　曇 昨夜雪少々降　今日時々降 (大円寺の本尊が御出汗)
1803年　1月25日 享和3年　正月3日　晴 昨夜雪少々降 (御吉例金200両を御金奉行より御用所江差し出す、今晩御謡初め)
1803年　1月26日 享和3年　正月4日　曇 昨夜雪少々降　今日時々降る
1803年　1月27日 享和3年　正月5日　曇 今日時々雪降
1803年　1月28日 享和3年　正月6日　曇 今日雪少々降 (今昼巳の上刻国上寺の不動尊が御出汗・御神楽等を仰せ付ける)
1803年　1月29日 享和3年　正月7日　曇 今日終日吹雪強し (今日七種の御祝儀)
1803年　1月30日 享和3年　正月8日　曇 今日少々雪降
1803年　1月31日 享和3年　正月9日　曇 昨夜戌の刻頃より雨降　今暁寅の刻頃止
1803年　2月1日 享和3年　正月10日　曇 昨夜雪降　今朝に及ぶ　八寸程積　今日時々雪降
1803年　2月2日 享和3年　正月11日　晴 昨夜少々雪降 (笹森勘解由を長柄奉行格勘定奉行に等の人事異動)
1803年　2月3日 享和3年　正月12日　晴
1803年　2月4日 享和3年　正月13日　晴
1803年　2月5日 享和3年　正月14日　晴 ((蝦夷地御用?)の羽太庄左衛門様が叙爵・安芸守となる)
1803年　2月6日 享和3年　正月15日　曇 卯の一刻正月節
1803年　2月7日 享和3年　正月16日　曇
1803年　2月8日 享和3年　正月17日　曇 昨夜中雪少々降　今日時々降 (今日御慰の御囃子)
1803年　2月9日 享和3年　正月18日　曇 今日少々雪降
1803年　2月10日 享和3年　正月19日　曇
1803年　2月11日 享和3年　正月20日　曇 昨夜中雪少々降　今日時々降
1803年　2月12日 享和3年　正月21日　曇 今日少々雪降
1803年　2月13日 享和3年　正月22日　曇
1803年　2月14日 享和3年　正月23日　晴
1803年　2月15日 享和3年　正月24日　晴
1803年　2月16日 享和3年　正月25日　曇 昨夜戌の刻頃より降　今朝卯の刻頃止
1803年　2月17日 享和3年　正月26日　晴 (今日御能)
1803年　2月18日 享和3年　正月27日　晴
1803年　2月19日 享和3年　正月28日　曇 昨夜中雪少々降り　今日午の刻頃雨降　申の刻過ぎ止
1803年　2月20日 享和3年　正月29日　曇 昨夜中雪少々降　今日時々降
1803年　2月21日 享和3年　正月30日　晴 巳の六刻正月中
1803年　2月22日 享和3年　閏正月1日　曇 昨夜中雪少々降　今日時々降 (人事異動)
1803年　2月23日 享和3年　閏正月2日　曇 (去月29日夜浪岡組本郷村で出火・火元戸〆)
1803年　2月24日 享和3年　閏正月3日　晴
1803年　2月25日 享和3年　閏正月4日　晴
1803年　2月26日 享和3年　閏正月5日　曇 昨夜中雪少々降
1803年　2月27日 享和3年　閏正月6日　曇 昨夜中雪降る　今朝に及ぶ　八寸程降 (昨5日八時前桶屋町で何かを焼失・火元戸〆)
1803年　2月28日 享和3年　閏正月7日　曇 今日未の刻頃雨降　則刻止　時々雪降

1803年　3月1日 享和3年 閏正月8日 曇　今日時々雪降
1803年　3月2日 享和3年 閏正月9日 晴
1803年　3月3日 享和3年 閏正月10日曇
1803年　3月4日 享和3年 閏正月11日晴
1803年　3月5日 享和3年 閏正月12日曇
1803年　3月6日 享和3年 閏正月13日晴
1803年　3月7日 享和3年 閏正月14日曇　今日少々雪降
1803年　3月8日 享和3年 閏正月15日曇　今日申の刻二月節　今日少々雪降
1803年　3月9日 享和3年 閏正月16日曇　昨夜中雪少々降
1803年　3月10日 享和3年 閏正月17日曇　今日少々雪降
1803年　3月11日 享和3年 閏正月18日曇　昨夜中雪少々降　(今日剣術高覧)
1803年　3月12日 享和3年 閏正月19日曇　今日時々雪降　未の刻頃より雨降　申の刻頃止
1803年　3月13日 享和3年 閏正月20日曇
1803年　3月14日 享和3年 閏正月21日曇
1803年　3月15日 享和3年 閏正月22日曇　昨夜戌の刻頃より雨降　亥の刻過ぎ雷鳴　今日巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1803年　3月16日 享和3年 閏正月23日曇　今日少々雪降　(馬屋丁橋下に赤子捨て置かれている)
1803年　3月17日 享和3年 閏正月24日曇　(先年御暇を下された平沢三右衛門を30俵2人扶持の御目見以下御留守居支配に)
1803年　3月18日 享和3年 閏正月25日曇　今日巳の刻過ぎより雨時々降
1803年　3月19日 享和3年 閏正月26日曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　一寸程積る　今日時々降
1803年　3月20日 享和3年 閏正月27日曇　昨夜中雪少々降
1803年　3月21日 享和3年 閏正月28日曇　(去る26日藤代組種市村観音林で木小屋出火)
1803年　3月22日 享和3年 閏正月29日晴　昨夜酉の刻頃より雨降り　戌の刻頃止
1803年　3月23日 享和3年　2月1日 曇　戌の八刻二月中　(人事移動、去月28日夜赤石組鬼袋村で出火・類焼2軒馬3疋焼失)
1803年　3月24日 享和3年　2月2日 曇　(石渡川4歩半の出水・両舟とも往来相成り申さず)
1803年　3月25日 享和3年　2月3日 晴　(昨朝尾崎組柏木町村で庵寺1軒出火)
1803年　3月26日 享和3年　2月4日 曇
1803年　3月27日 享和3年　2月5日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々小雨
1803年　3月28日 享和3年　2月6日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降
1803年　3月29日 享和3年　2月7日 晴　(飯詰・俵元組で去年田方干損種籾なし・代米2石7斗余の拝借を申し付ける)
1803年　3月30日 享和3年　2月8日 晴
1803年　3月31日 享和3年　2月9日 曇　(去る秋漂流し朝鮮に行った松前箱館の船の乗員に十三湊出身者)
1803年　4月1日 享和3年　2月10日 晴　(去る4日十三潟残らず明ける)
1803年　4月2日 享和3年　2月11日 晴
1803年　4月3日 享和3年　2月12日 曇　今暁寅の刻より雨降　巳の刻頃止　時々雪降　(去月7日夜油川村で米22俵取り押さえる・取り押さえた米留役に下し置かれる)
1803年　4月4日 享和3年　2月13日 曇
1803年　4月5日 享和3年　2月14日 曇　今日申の刻過ぎ少々雨降　則刻止
1803年　4月6日 享和3年　2月15日 晴　(須藤五郎太夫を用人に・福眞弥兵衛を御手廻格に(数学添学頭は是まで通り)等の人事異動、一昨13日夕広須組本増村で出火・類焼あり・火元百姓他村預け)
1803年　4月7日 享和3年　2月16日 晴
1803年　4月8日 享和3年　2月17日 晴　丑の四刻三月中　(主人の衣類を盗んだのかな?男に3鞭町徘徊は是まで通り)
1803年　4月9日 享和3年　2月18日 晴　(赤石組鬼袋村で火事(1日に記述)に逢った3人に米1石9斗余の拝借を申し付ける、柏木組七か村の田方の内去作旱損・種籾なし・35石1斗の拝借を申し付ける)
1803年　4月10日 享和3年　2月19日 曇　今暁子の刻頃より時々雨降　(今朝大光寺組小和森村で出火・火元高無村預け)
1803年　4月11日 享和3年　2月20日 曇　今暁寅の刻頃雨降　則刻止
1803年　4月12日 享和3年　2月21日 晴
1803年　4月13日 享和3年　2月22日 快晴
1803年　4月14日 享和3年　2月23日 晴　(今日御発駕御祝儀の御料理と御能)
1803年　4月15日 享和3年　2月24日 曇
1803年　4月16日 享和3年　2月25日 曇
1803年　4月17日 享和3年　2月26日 曇　(去る未十月より翌申九月に御払い方御金奉行を勤めていた御手廻組の男が手代に命じ偽手形を発行・御給禄召し放たれ新たに御目見以下7人扶持、関係者にも罰)
1803年　4月18日 享和3年　2月27日 曇
1803年　4月19日 享和3年　2月28日 曇　(人事異動、御賞)
1803年　4月20日 享和3年　2月29日 晴　(当月6日赤石組松原・追良瀬村で洪水・荒田方4反歩余の被害)
1803年　4月21日 享和3年　2月30日 晴
1803年　4月22日 享和3年　3月1日 曇　((砲術師範?)佐々木宣右衛門を中小姓頭に等の人事異動)
1803年　4月23日 享和3年　3月2日 晴　辰の二刻三月中
1803年　4月24日 享和3年　3月3日 晴
1803年　4月25日 享和3年　3月4日 晴
1803年　4月26日 享和3年　3月5日 晴
1803年　4月27日 享和3年　3月6日 曇　昨夜戌の刻雨降る　今日終日降　夜に入　戌の刻頃止　(四時半過ぎ御馬上にて御発駕)
1803年　4月28日 享和3年　3月7日 曇　(今6日より駒越渡場出水・往来差留める、今4日広須組川端村で出火・火元村預け、石渡川が4歩半の出水・両舟往来相成らず)
1803年　4月29日 享和3年　3月8日 曇　今晩酉の刻頃より雨降　夜に入
1803年　4月30日 享和3年　3月9日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　辰の刻止　(一野渡村の猟師彦次郎・前田野目村猟師巳之丈?が狩取った熊の皮を上納・23匁つつ下し置かれる)

1803年　5月1日 享和3年　3月10日 晴　今朝霜強し （御手廻与力が東御門番で御用人が御郭廻の節下座いたさず慎みを仰せ付けられる）
1803年　5月2日 享和3年　3月11日 晴
1803年　5月3日 享和3年　3月12日 曇　今日辰の刻より雨降り　申の刻頃止
1803年　5月4日 享和3年　3月13日 曇　昨夜亥の刻より雨降　今日に及ぶ　時々降
1803年　5月5日 享和3年　3月14日 曇　（屋形様の道中が大館で伸びている）
1803年　5月6日 享和3年　3月15日 曇　（町同心警固に勤料10俵増下し置かれ牢奉行に等の人事異動、昨夜牧野左次郎病死）
1803年　5月7日 享和3年　3月16日 快晴
1803年　5月8日 享和3年　3月17日 晴　午の七刻四月中
1803年　5月9日 享和3年　3月18日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　巳の刻頃止
1803年　5月10日 享和3年　3月19日 晴
1803年　5月11日 享和3年　3月20日 曇　今日申の刻頃小雨降　則刻止
1803年　5月12日 享和3年　3月21日 曇　（四之北御郭江御薬園?出来方仰せ付けられ……）
1803年　5月13日 享和3年　3月22日 晴　御（持筒足軽が御本城北の御門当番の節不調法で去る14日慎みを申し付け……）
1803年　5月14日 享和3年　3月23日 曇　昨夜酉の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降　夜に入
1803年　5月15日 享和3年　3月24日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止　申の刻頃小雨降　則刻止
1803年　5月16日 享和3年　3月25日 曇　今日午の刻過ぎ少々地震　酉の刻頃雨降　夜に入
1803年　5月17日 享和3年　3月26日 曇　昨夜より之雨今日辰の刻頃止
1803年　5月18日 享和3年　3月27日 晴
1803年　5月19日 享和3年　3月28日 晴
1803年　5月20日 享和3年　3月29日 曇　昨夜亥の刻過ぎ風強　今日未の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止 （屋形様は一昨18日より今日まで3日の内郡山の駅に御逗留・少々御風気）
1803年　5月21日 享和3年　4月1日 曇
1803年　5月22日 享和3年　4月2日 曇
1803年　5月23日 享和3年　4月3日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　夜に入　酉の四刻四月
1803年　5月24日 享和3年　4月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　未の刻頃止
1803年　5月25日 享和3年　4月5日 曇　今日辰の刻頃より雨降　巳の刻過ぎ止
1803年　5月26日 享和3年　4月6日 晴
1803年　5月27日 享和3年　4月7日 晴
1803年　5月28日 享和3年　4月8日 晴　（五重塔修復出来）
1803年　5月29日 享和3年　4月9日 曇　今日辰の刻過ぎ雨降　則刻止 （去月26日屋形様千住より御老中様方御廻勤・御機嫌能御着府）
1803年　5月30日 享和3年　4月10日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今暁卯の刻頃止　午の刻頃雨降　則刻止
1803年　5月31日 享和3年　4月11日 晴
1803年　6月1日 享和3年　4月12日 晴　（昨11日昼大光組荒田村で出火・火元高無村預け）
1803年　6月2日 享和3年　4月13日 晴
1803年　6月3日 享和3年　4月14日 曇　今暁寅の刻過ぎより時々雨降　夜に入 （去る12日夜駒越組湯段村で普請小屋出火・火元戸〆）
1803年　6月4日 享和3年　4月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1803年　6月5日 享和3年　4月16日 晴
1803年　6月6日 享和3年　4月17日 曇
1803年　6月7日 享和3年　4月18日 曇　今日申の刻過ぎ雷鳴　子の一刻五月中
1803年　6月8日 享和3年　4月19日 曇　昨夜戌の刻頃雷鳴　則刻より雨降今日に及ぶ　辰の刻頃止
1803年　6月9日 享和3年　4月20日 晴
1803年　6月10日 享和3年　4月21日 曇　今日午の刻過ぎ雷鳴　未の刻頃雨降　則刻止 （去る16日夜木作新田広岡村で出火・火元村預け）
1803年　6月11日 享和3年　4月22日 曇　今暁寅の刻頃雷　則刻より雨降　卯の刻過ぎ止 （土渕川・紙漉町裏・原ヶ平通・作場道辺江桜植付を仰付けられる、高倉五兵衛に御国下がり仰せ付け・先頃より浮種気にて……）
1803年　6月12日 享和3年　4月23日 曇　今日午の刻頃雷雨　則刻止 （博打宿をした御家中の御給分半減御目見以下御留守居支配に・参加者にも鞭等の罰、倅を刺殺した?表坊主の御給分召し放ち永の暇）
1803年　6月13日 享和3年　4月24日 晴
1803年　6月14日 享和3年　4月25日 曇
1803年　6月15日 享和3年　4月26日 曇
1803年　6月16日 享和3年　4月27日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜に入 （病気で一間所に居た御家中の親が縊死）
1803年　6月17日 享和3年　4月28日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　未の刻頃止
1803年　6月18日 享和3年　4月29日 曇　（去る27日横内組諏訪沢村で出火・火元村預け）
1803年　6月19日 享和3年　5月1日 曇　今日申の刻頃雨降　則刻止
1803年　6月20日 享和3年　5月2日 曇　今日午の刻過ぎ小雨降　則刻止
1803年　6月21日 享和3年　5月3日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　午の刻過ぎ止
1803年　6月22日 享和3年　5月4日 曇
1803年　6月23日 享和3年　5月5日 曇　今日申の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止　寅の六刻夏至五月中 （去る戌年（去年）両都（江戸と大阪）江御登らせ御小納戸米代金6467両余：何を意味するか不明：福眞）
1803年　6月24日 享和3年　5月6日 曇　今日辰の刻過ぎ雨降　則刻止
1803年　6月25日 享和3年　5月7日 曇
1803年　6月26日 享和3年　5月8日 晴
1803年　6月27日 享和3年　5月9日 晴
1803年　6月28日 享和3年　5月10日 晴
1803年　6月29日 享和3年　5月11日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止
1803年　6月30日 享和3年　5月12日 曇

1803年　7月1日 享和3年　5月13日 晴　(水が入らないと荒地を認めさせ……梅田村の男7人に15鞭等・居村住居是まで通り、遊女屋に娘を勾引した銅屋町の男に21鞭・弘前より3里四方追放・家屋敷は妻子に)
1803年　7月2日 享和3年　5月14日 曇　今日辰の刻頃より雨降　午の刻頃止　頃日暑気相成
1803年　7月3日 享和3年　5月15日 晴　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止
1803年　7月4日 享和3年　5月16日 曇　今日辰の刻頃より雨降　未の刻頃止
1803年　7月5日 享和3年　5月17日 曇
1803年　7月6日 享和3年　5月18日 曇
1803年　7月7日 享和3年　5月19日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　(寺社夜宮の節小筒に石を入れた花火を打ち放つ者があるらしい・止めさせろとの触れ)
1803年　7月8日 享和3年　5月20日 曇　巳の三刻六月中
1803年　7月9日 享和3年　5月21日 晴
1803年　7月10日 享和3年　5月22日 晴
1803年　7月11日 享和3年　5月23日 晴
1803年　7月12日 享和3年　5月24日 晴
1803年　7月13日 享和3年　5月25日 晴
1803年　7月14日 享和3年　5月26日 曇　今日巳の刻頃より雨時々降　(当3月白昼柳久保村に忍び入り衣類を盗み取った去々年出奔し無宿の男に30鞭・湯之沢鉛山江1年半の苦役・6月18日に記述では出奔)
1803年　7月15日 享和3年　5月27日 曇　今日申の刻頃より雨降　酉の刻頃止
1803年　7月16日 享和3年　5月28日 曇　今朝卯の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止　(石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来成り兼ねる)
1803年　7月17日 享和3年　5月29日 曇
1803年　7月18日 享和3年　5月30日 曇　頃日朝夕涼し　(この節江戸表で麻疹流行)
1803年　7月19日 享和3年　6月1日 曇
1803年　7月20日 享和3年　6月2日 曇　今朝辰の刻過ぎより雨時々降　(屋形様が去月17日より御麻疹)
1803年　7月21日 享和3年　6月3日 曇　今日午の刻頃雷鳴　(去月12日夜大間越町で盗袢の男6人を取り逃がす・見張りを戸〆)
1803年　7月22日 享和3年　6月4日 曇　(亀を取り差し上げた紺屋町の男に酒代1貫文を下し置かれる)
1803年　7月23日 享和3年　6月5日 曇
1803年　7月24日 享和3年　6月6日 曇
1803年　7月25日 享和3年　6月7日 曇　今日巳の刻頃より雨降　午の刻頃止　頃日暑気強
1803年　7月26日 享和3年　6月8日 晴
1803年　7月27日 享和3年　6月9日 晴
1803年　7月28日 享和3年　6月10日 快晴
1803年　7月29日 享和3年　6月11日 曇
1803年　7月30日 享和3年　6月12日 曇　今日辰の刻過ぎより時々雨降
1803年　7月31日 享和3年　6月13日 快晴　頃日暑気強し　酉の刻頃小雨降　則刻止
1803年　8月1日 享和3年　6月14日 曇　今日未の刻頃小雨降　則刻止　(去る4日横内組松森村の男が雷死、町中惣油屋共が油1升8文目にと申し出でる・7匁3分に申し付ける、昨夜唐牛大六が病死)
1803年　8月2日 享和3年　6月15日 晴
1803年　8月3日 享和3年　6月16日 曇　(当3月青森米平均相場1俵に付き28文目3分8厘と箱館御番所に申し上げる)　下から続く　差上げる・節に比較して今年は5日遅い)
1803年　8月4日 享和3年　6月17日 曇　今日辰の刻頃より雨時々降　(大鰐村加賀助と兵左衛門より初米の出穂差上げる・去年は5月朔日植え付け60日目の7月朔日・当年は4月17日植付け同じく60日目で　上に続く
1803年　8月5日 享和3年　6月18日 快晴
1803年　8月6日 享和3年　6月19日 快晴　昨今大暑
1803年　8月7日 享和3年　6月20日 晴　戌の五刻七月節
1803年　8月8日 享和3年　6月21日 曇　今暁寅の刻頃より雷雨　終日雷鳴度々強し　巳の刻頃雷火にて都谷森甚之丞家焼失　午の刻頃風雨強し　申の刻過ぎ止ム　(岩木川六歩通りの出水・落水)
1803年　8月9日 享和3年　6月22日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻頃止ム　(今21日昼頃より岩木川七歩通り程の洪水・流木八・九千本ほど流失)
1803年　8月10日 享和3年　6月23日 晴　唯今涼し
1803年　8月11日 享和3年　6月24日 晴　(去る21日浪岡組五本松村国見長根で男2人が雷に打たれ死亡)
1803年　8月12日 享和3年　6月25日 曇
1803年　8月13日 享和3年　6月26日 晴
1803年　8月14日 享和3年　6月27日 曇　今晩酉の刻頃より雨降　則刻雷鳴　亥の刻頃雨止ム　(流木の盗み揚げがあり・過料等)
1803年　8月15日 享和3年　6月28日 曇　今日巳の刻過ぎ雨降　則刻止
1803年　8月16日 享和3年　6月29日 晴　頃日朝夕涼し　(岩木川より亀を取り差し上げた樋口村の百姓に御酒代鳥目1貫文下し置かれる)　下から続く　金に直し1253両3歩・金1両107匁かへ)
1803年　8月17日 享和3年　7月1日 晴　(箱館関連等で難渋・御家中の難渋を見過ごし難く全員に御手当てとの達・同時に倹約等の指示、知行100石に付き100目の御手当てを下し置かれると銭134貫153匁・　上に続く
1803年　8月18日 享和3年　7月2日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　申の刻頃止　(去る21日後潟組広瀬村で流木留が切れ男が木の下になる・養生かなわず病死、22日の出水で流木作業中の清水村の男が水死)
1803年　8月19日 享和3年　7月3日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止　(薬王院が自費で五穀成就の御祈祷、岩木川六歩通りの出水・駒越渡し場舟往来差留める)
1803年　8月20日 享和3年　7月4日 晴　(長勝寺が御祈祷)
1803年　8月21日 享和3年　7月5日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止　(この度麻疹流行に付き……、天気不勝に付き御祈祷や丹後者の詮索等)
1803年　8月22日 享和3年　7月6日 曇　今暁余程涼し
1803年　8月23日 享和3年　7月7日 曇　今朝辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止　丑の一刻七月中　(平均すると5歩4厘の当作の出穂)
1803年　8月24日 享和3年　7月8日 晴　唯今残暑　(去月21日の大風雨で深浦町居宅2軒が山崩れで潰家となる)
1803年　8月25日 享和3年　7月9日 晴
1803年　8月26日 享和3年　7月10日 晴　頃日残暑
1803年　8月27日 享和3年　7月11日 曇　今日申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム
1803年　8月28日 享和3年　7月12日 曇　(御賞、きつい倹約の大目付触れ)
1803年　8月29日 享和3年　7月13日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日未の刻過ぎに及び止
1803年　8月30日 享和3年　7月14日 晴
1803年　8月31日 享和3年　7月15日 晴　今朝涼し　(南溜池土居通りに捨て子・新寺町某が養育を申し出る)

1803年　9月1日 享和3年　7月16日 晴
1803年　9月2日 享和3年　7月17日 曇
1803年　9月3日 享和3年　7月18日 曇
1803年　9月4日 享和3年　7月19日 晴
1803年　9月5日 享和3年　7月20日 晴 （大鰐村加賀助兵左衛門より初米差上・去年は5月朔日植付け7月28日鎌入れ8月4日差上・植付鎌入れ間は87日で今年は88日で差上・当年は1日遅く節に引合5日遅い）
1803年　9月6日 享和3年　7月21日 曇
1803年　9月7日 享和3年　7月22日 曇 昨夜子の刻頃より雨降　今日未の刻過ぎに及び止　卯の七刻八月節
1803年　9月8日 享和3年　7月23日 曇
1803年　9月9日 享和3年　7月24日 曇
1803年　9月10日 享和3年　7月25日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　午の刻頃止 （駒越組五代村の男が亀を取り差上げる・御酒代鳥目1貫文を下し置かれる、24日大光寺組杉館村で出火・火元高無村預け）
1803年　9月11日 享和3年　7月26日 晴
1803年　9月12日 享和3年　7月27日 晴 頃日涼し
1803年　9月13日 享和3年　7月28日 晴 （人事異動）
1803年　9月14日 享和3年　7月29日 晴
1803年　9月15日 享和3年　7月30日 晴 （森内左兵衛が御用長屋に呼び出される・越後屋善兵衛は腰縄付で町預け）
1803年　9月16日 享和3年　8月1日 曇 昨夜戌の刻頃雨降　則刻止　今日辰の刻頃より時々小雨降
1803年　9月17日 享和3年　8月2日 曇 今日未の刻頃時々雨降 （百沢寺が苔の実一包み差上げる）
1803年　9月18日 享和3年　8月3日 曇 （去る9月熊を3疋狩取り2疋を隠した男共に6鞭宛・居村徘徊是まで通り）
1803年　9月19日 享和3年　8月4日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止
1803年　9月20日 享和3年　8月5日 晴 （去る3日油川組三内村で出火・火元村預け）
1803年　9月21日 享和3年　8月6日 曇 今暁子の刻頃少々地震　辰の刻頃より雨終日降　夜に入
1803年　9月22日 享和3年　8月7日 曇 昨夜より之雨　今日実の刻頃に及び止　午の三刻八月中 （江戸下がりの4文銭の樽は20貫文入りで封印されてある、街在浦々の者共にも倹約の指示）
1803年　9月23日 享和3年　8月8日 曇
1803年　9月24日 享和3年　8月9日 曇
1803年　9月25日 享和3年　8月10日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止
1803年　9月26日 享和3年　8月11日 曇 今日巳の刻過ぎ小雨降　則刻止
1803年　9月27日 享和3年　8月12日 晴 昨夜亥の刻より雨降　則刻止　頃日冷気 （江戸で御賞・罰）
1803年　9月28日 享和3年　8月13日 曇 今日申の刻過ぎより雨降　夜に入
1803年　9月29日 享和3年　8月14日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止
1803年　9月30日 享和3年　8月15日 曇 今日巳の刻過ぎより雨終日降　夜に入 （今日学校釈尊御祭事、一昨夜八幡宮御本社に盗賊・御太刀2振盗み取られる）
1803年　10月1日 享和3年　8月16日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止 （古懸不動尊御出汗・神楽御祈祷を仰せ付ける）
1803年　10月2日 享和3年　8月17日 晴
1803年　10月3日 享和3年　8月18日 曇
1803年　10月4日 享和3年　8月19日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降る　今暁丑の刻頃雷鳴　時々降　夜に入
1803年　10月5日 享和3年　8月20日 曇 昨夜より之雨今暁寅の刻頃止　未の刻頃雨降　則刻止
1803年　10月6日 享和3年　8月21日 曇
1803年　10月7日 享和3年　8月22日 快晴 今暁子の刻頃より雨降　丑の刻頃止　酉の初刻九月節
1803年　10月8日 享和3年　8月23日 快晴
1803年　10月9日 享和3年　8月24日 快晴 今晩酉の刻過ぎより雨降　夜に入る
1803年 10月10日 享和3年　8月25日 曇 昨夜より雨　今日に及ぶ　時々降　今朝岩木山江初雪見ゆる
1803年 10月11日 享和3年　8月26日 快晴
1803年 10月12日 享和3年　8月27日 晴
1803年 10月13日 享和3年　8月28日 曇
1803年 10月14日 享和3年　8月29日 曇 （人事異動）
1803年 10月15日 享和3年　8月30日 曇
1803年 10月16日 享和3年　9月1日 曇 昨夜戌の刻頃雷鳴　則刻より雨降　今朝卯の刻過ぎ止
1803年 10月17日 享和3年　9月2日 晴 今暁丑の刻頃雨降　則刻止
1803年 10月18日 享和3年　9月3日 曇 今日時々小雨降
1803年 10月19日 享和3年　9月4日 晴 （赤石組横磯村に鯨が流れ寄せる、金1両代107匁7分）
1803年 10月20日 享和3年　9月5日 曇 今日午の刻頃より雨時々降　申の刻頃雷鳴
1803年 10月21日 享和3年　9月6日 曇
1803年 10月22日 享和3年　9月7日 晴 亥の五刻九月節
1803年 10月23日 享和3年　9月8日 曇 （一昨5日夕猿賀村その他で大風雨雷）
1803年 10月24日 享和3年　9月9日 曇 （森内左兵衛の腫れ物が再発風呂に入れたいとの申し出で・一月に一両度と仰せ付けられる）
1803年 10月25日 享和3年　9月10日 曇
1803年 10月26日 享和3年　9月11日 曇 今日辰の刻過ぎより雨時々降　夜に入　亥の刻頃止 （浅瀬石田圃で真那鶴取り御鷹部屋に差上げる・代銭60匁を下し置かれる、去月25日日の丸御印船が十三湊で破船）
1803年 10月27日 享和3年　9月12日 晴
1803年 10月28日 享和3年　9月13日 晴
1803年 10月29日 享和3年　9月14日 曇
1803年 10月30日 享和3年　9月15日 晴
1803年 10月31日 享和3年　9月16日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及び時々降

1803年　11月1日 享和3年　　9月17日 晴
1803年　11月2日 享和3年　　9月18日 快晴　今朝霜強し
1803年　11月3日 享和3年　　9月19日 快晴　今朝霜強し　水初めて氷
1803年　11月4日 享和3年　　9月20日 晴　今朝霜強し　(喧嘩で打擲傷を負わせた男に3鞭町徘徊是まで通り・喧嘩の元となった80目金を借りて出奔した男も3鞭と町払い)
1803年　11月5日 享和3年　　9月21日 曇　今暁子の刻頃より雨降　辰の刻頃止
1803年　11月6日 享和3年　　9月22日 曇
1803年　11月7日 享和3年　　9月23日 快晴　寅の二刻十月節
1803年　11月8日 享和3年　　9月24日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　(米値段が高値で酒1升1文目7分にと申し出あり・1升を1文目6分に申し付ける、去る15日三馬屋湊で手船出火)
1803年　11月9日 享和3年　　9月25日 曇　昨夜より之雨今日に及び時々降　夜に入
1803年 11月10日 享和3年　　9月26日 曇　昨夜より雨　今日に及び終日降　夜に入
1803年 11月11日 享和3年　　9月27日 曇　昨夜より之雨今朝卯の刻頃止
1803年 11月12日 享和3年　　9月28日 曇　今日申の刻頃より雨降　酉の刻頃止
1803年 11月13日 享和3年　　9月29日 曇
1803年 11月14日 享和3年　　10月1日 快晴　今朝霜強し　酉の刻頃雨降　則刻止　(昨29日夜赤石組胡桃館村で出火・火元高無村預け)
1803年 11月15日 享和3年　　10月2日 晴
1803年 11月16日 享和3年　　10月3日 曇　今日未の刻頃より雨降　夜に入　(上陸しては酒に飲まれた当御廻船の上乗りの鰺ヶ沢の男に3鞭町徘徊は是まで通り)
1803年 11月17日 享和3年　　10月4日 曇　昨夜より之雨今暁丑の刻頃止　申の刻過ぎ雨降　則刻止　(宮川某仕込の味噌値段10文目に付き6貫500匁として御目見以上に売渡す、石渡川4歩半の出水・両舟とも往還ならず)
1803年 11月18日 享和3年　　10月5日 曇　今日巳の刻頃より雨降　酉の刻頃止
1803年 11月19日 享和3年　　10月6日 曇　今日巳の刻頃より雨降　戌の刻頃止
1803年 11月20日 享和3年　　10月7日 曇　昨夜中雪初めて降　今日時々降
1803年 11月21日 享和3年　　10月8日 曇　昨夜中雪少々降り　今日巳の刻頃雨降　夜に入
1803年 11月22日 享和3年　　10月9日 晴　(江戸・松前て出精の足軽達(330人位か)に御賞)
1803年 11月23日 享和3年　10月10日 曇　今朝霜強し　申の刻頃より雨降　夜に入
1803年 11月24日 享和3年　10月11日 曇　昨夜より之雨今暁丑の刻頃止　巳の刻過ぎ少々地震　(岩木川出水・両舟とも往来差留める、鰺ヶ沢町に鞭刑のために町同心を派遣したが逃げられる)
1803年 11月25日 享和3年　10月12日 曇　昨夜風強　雪少々降　今日時々降　　下から続く　　作事奉行に賄は川原平村庄屋に命ず、関係者への申渡し:唐牛某八木橋某花田某永の暇・牧野徳一　　下の欄外(*)に続く
1803年 11月26日 享和3年　10月13日 曇　(森内左兵衛に申渡し:勘定奉行まで立身した身で心得違いで願いを出し江戸表の津梁院に訴状を出すなど不届き至極・身上召し上げ川原平村に生涯牢居・牢屋建築は　　上に続く
1803年 11月27日 享和3年　10月14日 曇
1803年 11月28日 享和3年　10月15日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　(人事異動、一昨夜笠井園右衛門が駕籠の中で自害、岩木川出水・今四時頃より駒越船場の人馬往来差留める)
1803年 11月29日 享和3年　10月16日 曇　(御手廻与力に横岡平八あり)
1803年 11月30日 享和3年　10月17日 曇　時々雨降
1803年　12月1日 享和3年　10月18日 曇　巳の刻頃より雨降　未の刻頃雷鳴　酉の刻頃雨止
1803年　12月2日 享和3年　10月19日 曇　辰の刻過ぎより時々雨降　夜に入　(当月16日夜四時頃横内組三本木村で出火)
1803年　12月3日 享和3年　10月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止
1803年　12月4日 享和3年　10月21日 曇
1803年　12月5日 享和3年　10月22日 曇　時々雪降
1803年　12月6日 享和3年　10月23日 曇　時々雪降　夜に入
1803年　12月7日 享和3年　10月24日 曇　昨夜より之雪今朝に及ぶ　五寸程積る　今日時々降
1803年　12月8日 享和3年　10月25日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　(当夏麻疹流行の節施薬の町医者に御賞、当月24日赤田組赤田村で出火)
1803年　12月9日 享和3年　10月26日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1803年 12月10日 享和3年　10月27日 曇　辰の刻頃より雨降　未の刻頃止
1803年 12月11日 享和3年　10月28日 晴
1803年 12月12日 享和3年　10月29日 晴
1803年 12月13日 享和3年　10月30日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　(古懸不動尊御出汗)
1803年 12月14日 享和3年　11月1日 曇　今朝卯の刻頃より雨時々降
1803年 12月15日 享和3年　11月2日 曇　時々雪降
1803年 12月16日 享和3年　11月3日 曇　今朝雪少々降　午の刻頃より雨降　未の刻頃止
1803年 12月17日 享和3年　11月4日 晴　　下から続く　　33匁2分7厘8毛・金1両106匁5分)
1803年 12月18日 享和3年　11月5日 晴　(当新穀一番相場(1俵):弘前33匁6分9厘9毛・青森38匁5分8厘・鰺ヶ沢31匁1分5厘5毛、3ヶ所御払い米平均34文目4分7厘8毛・御定め役引き1文目2分・平米平均　　上に続く
1803年 12月19日 享和3年　11月6日 曇　申の刻頃より雨降　酉の刻頃止ム　(当月朔日赤石組金井沢村の夫婦が奥入瀬川で流され女房水死)
1803年 12月20日 享和3年　11月7日 曇　(體孝院(藩主信明)様の十三回忌に伴う大赦:居村等徘徊御免42人・兄預け御免1人・牢死に付き大赦3人(牢死を記述しなかったのかな?記憶になし))
1803年 12月21日 享和3年　11月8日 曇　時々雪降
1803年 12月22日 享和3年　11月9日 曇　吹雪　戌の壱刻冬至　十一月中
1803年 12月23日 享和3年　11月10日 曇
1803年 12月24日 享和3年　11月11日 晴
1803年 12月25日 享和3年　11月12日 晴
1803年 12月26日 享和3年　11月13日 晴
1803年 12月27日 享和3年　11月14日 曇　時々雪降
1803年 12月28日 享和3年　11月15日 曇　吹雪
1803年 12月29日 享和3年　11月16日 晴
1803年 12月30日 享和3年　11月17日 晴
1803年 12月31日 享和3年　11月18日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降り　今日に及ぶ　時々降　(昨夜土手町で出火:早速取り消す)
(*)知行200石減御留守居組に役下げ・平沢某成田某浅利某田村某佐藤某御給分半減御目見以下御留守居支配に・相馬某一戸某御給分召上げ5人扶持御目身以下御留守居支配に・
久慈某に隠居と倅に半知・小倉作左衛門松田常蔵を一間所(私宅の牢屋か)に・中村道救知行の内150石召上げ、浪人横岡伊八郎弘前より五里四方追放・越後屋某に生涯籠居家財欠所)

1804年　1月1日 享和3年　11月19日 曇　昨夜中雪少々降　(昨昼午の中刻大円寺の本尊が御出汗・御祈祷を仰せ付ける)
1804年　1月2日 享和3年　11月20日 晴
1804年　1月3日 享和3年　11月21日 晴　昨夜亥の刻頃より雨降　卯の刻頃止　(御家老衆(炭100俵)から学校目付(10俵)まで炭貸渡し)
1804年　1月4日 享和3年　11月22日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1804年　1月5日 享和3年　11月23日 曇　辰の刻頃より雨降り　酉の刻頃止
1804年　1月6日 享和3年　11月24日 曇　昨夜中雪少々降
1804年　1月7日 享和3年　11月25日 曇　今暁子の六刻寒に入　十二月中
1804年　1月8日 享和3年　11月26日 曇　雪少々降
1804年　1月9日 享和3年　11月27日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　夜に入　(深浦湊に古来荷揚場があり50年以来荷揚御差留め・期限2年で荒物伊鯖物ばかり荷揚を仰付けられたいと深浦町年寄り共の申出・了解)
1804年　1月10日 享和3年　11月28日 曇　昨夜より之雪二寸程積る　今日時々降　昨今寒気強し　(酒代など多数に支給している)
1804年　1月11日 享和3年　11月29日 曇　少々雪降
1804年　1月12日 享和3年　11月30日 曇　昨夜中少々雪降り　今日時々降
1804年　1月13日 享和3年　12月1日 曇
1804年　1月14日 享和3年　12月2日 曇
1804年　1月15日 享和3年　12月3日 曇　吹雪強し
1804年　1月16日 享和3年　12月4日 晴　昨夜中雪八寸程積る　(御家中御目見以上日勤役一統に炭5俵御目見以下袴役同一統に3俵御貸渡し)
1804年　1月17日 享和3年　12月5日 曇　昨夜中雪降　七寸程積る　今日時々降
1804年　1月18日 享和3年　12月6日 曇　時々雪降　(去々八月岩木嵩で馬を盗んだ館村の男に永牢、抜馬・出奔の舞戸村の男に21鞭居村より3里四方追放家財は妻子に)
1804年　1月19日 享和3年　12月7日 晴　(江戸の御小納戸から一粒金丹300粒の要求・有り合わせが100粒しかなく200粒を作成次第送ることとする)
1804年　1月20日 享和3年　12月8日 曇　雪少々降　(去月27日暮六時頃より翌28日朝四時頃までに十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は12月朔日より2日朝・去年と日数に引合4日早く節に引合15日遅い)
1804年　1月21日 享和3年　12月9日 曇　今暁寅の刻頃地震少々　巳の刻頃小雨降
1804年　1月22日 享和3年　12月10日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　卯の三刻十二月中
1804年　1月23日 享和3年　12月11日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1804年　1月24日 享和3年　12月12日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1804年　1月25日 享和3年　12月13日 曇　雪少々降　(御家中が木部屋焼く・御奉公遠慮)
1804年　1月26日 享和3年　12月14日 曇　昨夜中雪降　四寸程積る
1804年　1月27日 享和3年　12月15日 晴
1804年　1月28日 享和3年　12月16日 曇　時々雪降
1804年　1月29日 享和3年　12月17日 曇　雪少々降
1804年　1月30日 享和3年　12月18日 曇　昨夜中雪少々降
1804年　1月31日 享和3年　12月19日 晴
1804年　2月1日 享和3年　12月20日 曇　巳の刻頃より雨降　未の刻頃止　則刻雪少々降
1804年　2月2日 享和3年　12月21日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　(御賞沢山:金200疋・銀9両・銀7両・金200疋・金1歩2朱・銀7両・鳥目1貫500目・1貫200目・1貫文・900文の順に並んでいる)
1804年　2月3日 享和3年　12月22日 曇　時々雪降
1804年　2月4日 享和3年　12月23日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る　今日時々降
1804年　2月5日 享和3年　12月24日 曇　昨夜中雪降　四寸程積　今日時々降
1804年　2月6日 享和3年　12月25日 曇　昨夜中雪降　三寸程積　今日時々降　午の初刻正月節
1804年　2月7日 享和3年　12月26日 曇　昨夜中雪降　三寸程積　今日時々降
1804年　2月8日 享和3年　12月27日 曇　昨夜中雪降　四寸程積る　(寒中日々附相場にて平均米値段1俵24匁6分8厘・酒1文目5分値段とする)
1804年　2月9日 享和3年　12月28日 曇　昨今寒気強し
1804年　2月10日 享和3年　12月29日 曇
1804年　2月11日 享和4年　正月1日　(正月分1ヶ月は日記が保存されていない)
1804年　2月12日 享和4年　正月2日
1804年　2月13日 享和4年　正月3日
1804年　2月14日 享和4年　正月4日
1804年　2月15日 享和4年　正月5日
1804年　2月16日 享和4年　正月6日
1804年　2月17日 享和4年　正月7日
1804年　2月18日 享和4年　正月8日
1804年　2月19日 享和4年　正月9日
1804年　2月20日 享和4年　正月10日
1804年　2月21日 享和4年　正月11日
1804年　2月22日 享和4年　正月12日
1804年　2月23日 享和4年　正月13日
1804年　2月24日 享和4年　正月14日
1804年　2月25日 享和4年　正月15日
1804年　2月26日 享和4年　正月16日
1804年　2月27日 享和4年　正月17日
1804年　2月28日 享和4年　正月18日
1804年　2月29日 享和4年　正月19日

1804年　3月1日 享和4年 正月20日
1804年　3月2日 享和4年 正月21日
1804年　3月3日 享和4年 正月22日
1804年　3月4日 享和4年 正月23日
1804年　3月5日 享和4年 正月24日
1804年　3月6日 享和4年 正月25日
1804年　3月7日 享和4年 正月26日
1804年　3月8日 享和4年 正月27日
1804年　3月9日 享和4年 正月28日
1804年　3月10日 享和4年 正月29日
1804年　3月11日 享和4年 正月30日　（正月分1ヶ月は日記が保存されていない）
1804年　3月12日 享和4年　2月1日 晴　昨夜中雪少し降　（人事異動・御賞、旧ろう御払い金高少なからず不足に付き……御繰合せ色々、今朝久渡寺の観音堂が鳴動する）
1804年　3月13日 享和4年　2月2日 晴　（当年の両都向けの御廻船は50艘と見込まれるので上乗りを諸組足軽から50人仰せ付ける必要がある・船中の締りが第一なので順番ではなく人選するよう申し付けている）
1804年　3月14日 享和4年　2月3日 曇　昨夜中雪少し降　今日雪少し降　（10月13日に自害した笠井園右衛門の倅兼蔵(御目見以下御留守居支配)に永の暇大場御構い弘前より三里四方追放、その他にも罰）
1804年　3月15日 享和4年　2月4日 晴　昨夜中雪少し降
1804年　3月16日 享和4年　2月5日 曇　昨夜中雪少し降　今日終日吹雪降　寒強し
1804年　3月17日 享和4年　2月6日 晴　昨夜中雪降　三寸程積
1804年　3月18日 享和4年　2月7日 晴
1804年　3月19日 享和4年　2月8日 曇
1804年　3月20日 享和4年　2月9日 晴
1804年　3月21日 享和4年　2月10日 快晴
1804年　3月22日 享和4年　2月11日 快晴　昨今暖和
1804年　3月23日 享和4年　2月12日 曇　昨夜中雨降　今朝に及ぶ　辰の刻頃止　未の刻過ぎ雪少し降
1804年　3月24日 享和4年　2月13日 晴
1804年　3月25日 享和4年　2月14日 晴　（昨13日夜金木組金木村に不法の者侵入家の親に深手・浪人を捕らえる）
1804年　3月26日 享和4年　2月15日 曇　昨夜戌の刻過ぎ雨降　今日に及ぶ　時々降
1804年　3月27日 享和4年　2月16日 晴
1804年　3月28日 享和4年　2月17日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨降　今朝辰の刻過ぎに及び止　巳の刻頃より雪降　（去る14日申の中刻大円寺本尊が御出汗・御祈祷を仰せ付けられ御花並びに供物料銀壱枚）
1804年　3月29日 享和4年　2月18日 曇　（岩木川出水・駒越仮橋引き取る・昨日より長船往来相成りそうらえども馬船は一両日往来成りかねる）
1804年　3月30日 享和4年　2月19日 曇　今日雪時々降　（御国許去年作体不熟……）
1804年　3月31日 享和4年　2月20日 晴
1804年　4月1日 享和4年　2月21日 晴
1804年　4月2日 享和4年　2月22日 曇　午の刻より小雨降　未の刻過ぎ止
1804年　4月3日 享和4年　2月23日 曇
1804年　4月4日 享和4年　2月24日 曇　（江戸下がりの節重役の名で寺社の注文物を運んだ足軽がいる・不届き・慎み）
1804年　4月5日 享和4年　2月25日 曇　昨夜中雪少し降
1804年　4月6日 享和4年　2月26日 曇　昨夜中雪少降　今日時々降　夜に入　　下から続く　　新長屋の内御医者長屋に御製薬のために手軽に仮天井を貼ることとする、両都廻り御廻船の上乗り50人中8人を差留める）
1804年　4月7日 享和4年　2月27日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る　今日時々降　（丹後者詮索、木作新田山通りで鹿荒れる・御代官役所の鉄砲を心得のある鷹槌村の善助に貸す・胆は破れたが熊を打取る、　　上に続く
1804年　4月8日 享和4年　2月28日 晴　（頃日弘前市中に狼・狼狩り手配）
1804年　4月9日 享和4年　2月29日 曇　巳の刻過ぎより小雨降　申の刻頃止　（奥内勤番中酒狂いの諸手足軽を長柄の者に役下げ）
1804年　4月10日 文化元年　3月1日 晴
1804年　4月11日 文化元年　3月2日 曇　今日雪少し降
1804年　4月12日 文化元年　3月3日 曇
1804年　4月13日 文化元年　3月4日 曇　午の刻頃風強し　則刻より雨降　夜に入
1804年　4月14日 文化元年　3月5日 曇　昨夜より之雨今夜丑の刻頃止　（戒香院(津軽信寧)様二十回御忌御法事に付き大赦：居村・居町徘徊御免7人など）
1804年　4月15日 文化元年　3月6日 晴
1804年　4月16日 文化元年　3月7日 晴
1804年　4月17日 文化元年　3月8日 曇　丑の刻頃時々雨降　夜に入　（去る3日暮六時より翌明け六時までに十三潟が残らず氷明ける・去年に引合17日遅い）
1804年　4月18日 文化元年　3月9日 曇　昨夜より雨　今日に及ぶ　時々降　（去る19日年号を文化と御改め(と江戸で言い渡される：誰の権限で?)）
1804年　4月19日 文化元年　3月10日 曇　寅の刻より時々雨降　夜に入
1804年　4月20日 文化元年　3月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1804年　4月21日 文化元年　3月12日 曇
1804年　4月22日 文化元年　3月13日 快晴　頃日格別暖和
1804年　4月23日 文化元年　3月14日 曇　寅の刻雨降則刻止　（盗まれた八幡宮の太刀が和徳稲荷床下で見つかる）
1804年　4月24日 文化元年　3月15日 晴　卯の刻頃雨降　則刻止　（去月19日江戸表で年号文化と改元仰せだされる）
1804年　4月25日 文化元年　3月16日 晴　（古懸不動尊御出汗・御神楽・五山で御祈祷）
1804年　4月26日 文化元年　3月17日 晴　（一昨15日夜碇ヶ関早瀬野で出水・流木流失）
1804年　4月27日 文化元年　3月18日 曇
1804年　4月28日 文化元年　3月19日 晴　（鉛を大阪に送るらしい）
1804年　4月29日 文化元年　3月20日 曇　巳の刻頃より小雨降　午の刻頃止　（当月4日出来嶋村に日の丸御用船乗り上げる、去る5日御家中の親縁死）
1804年　4月30日 文化元年　3月21日 晴

1804年　5月1日 文化元年　3月22日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止
1804年　5月2日 文化元年　3月23日 晴　(不埒の江戸廻船の上乗りに3鞭等)
1804年　5月3日 文化元年　3月24日 曇　(御賞)
1804年　5月4日 文化元年　3月25日 晴
1804年　5月5日 文化元年　3月26日 曇　午の刻過ぎより雨降　夜に入
1804年　5月6日 文化元年　3月27日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止　申の刻頃霙降　頃日不勝続きにて寒し　(石渡川4歩半の出水・両舟とも往来なりかねる)
1804年　5月7日 文化元年　3月28日 晴
1804年　5月8日 文化元年　3月29日 曇　未の刻頃より雨降　夜に入　(天気不勝に付き四社で御祈祷を仰せ付ける)
1804年　5月9日 文化元年　3月30日 曇　昨夜より之雨今晩丑の刻頃止
1804年　5月10日 文化元年　4月1日 晴　頃日暖　(昨年12月に主人(の倅)夫婦を殺した男の人相書きあり)
1804年　5月11日 文化元年　4月2日 曇
1804年　5月12日 文化元年　4月3日 曇　未の刻過ぎより雨降　戌の刻頃止
1804年　5月13日 文化元年　4月4日 晴　(郡所夫喰米所々御蔵納の分1俵に付き23文目6分)
1804年　5月14日 文化元年　4月5日 晴
1804年　5月15日 文化元年　4月6日 晴
1804年　5月16日 文化元年　4月7日 曇　巳の刻頃より時々雨降　(天気不勝に付き八幡宮で風雨順時の御神楽)
1804年　5月17日 文化元年　4月8日 晴
1804年　5月18日 文化元年　4月9日 晴　(黒活き鶴の代銭50目)
1804年　5月19日 文化元年　4月10日 曇　午の刻より雨降　夜に入
1804年　5月20日 文化元年　4月11日 曇　昨夜より之雨今日時々降　(人事異動)
1804年　5月21日 文化元年　4月12日 晴
1804年　5月22日 文化元年　4月13日 晴　(去る5月17日夜親類宅に火札張り紙の男に30鞭・十里四方追放・家財欠所、借金の年賦上納を滞り大阪の銀主の借金で江戸に呼び出された元御用達商人に欠所の上永の牢居)
1804年　5月23日 文化元年　4月14日 曇
1804年　5月24日 文化元年　4月15日 曇　巳の刻過ぎより小雨降　則刻雷鳴
1804年　5月25日 文化元年　4月16日 曇　巳の刻頃小雨降　則刻止
1804年　5月26日 文化元年　4月17日 晴　今朝霜強し
1804年　5月27日 文化元年　4月18日 晴　酉の刻頃小雨降　則刻止
1804年　5月28日 文化元年　4月19日 曇
1804年　5月29日 文化元年　4月20日 晴　(浪岡御蔵に盗みに入った中嶋村の男に30鞭・大場お構い十里四方追放・家財欠所)
1804年　5月30日 文化元年　4月21日 晴
1804年　5月31日 文化元年　4月22日 晴　(1人で熊4疋狩取った津軽坂村の猟師太兵衛に御賞:鳥目3貫目と下位の熊皮1枚)
1804年　6月1日 文化元年　4月23日 曇　未の刻頃より雨降　夜に入
1804年　6月2日 文化元年　4月24日 晴　昨夜より之雨丑の刻頃止　(矢竹の根10株が届いている、今19日深浦を出帆の御廻船の上乗りが秋田領渡鹿沖で病気・一昨22日病死)
1804年　6月3日 文化元年　4月25日 晴
1804年　6月4日 文化元年　4月26日 晴
1804年　6月5日 文化元年　4月27日 晴
1804年　6月6日 文化元年　4月28日 晴　(来月15日に江戸御発駕と仰せ出される)
1804年　6月7日 文化元年　4月29日 晴　頃日格別向暑
1804年　6月8日 文化元年　5月1日 曇
1804年　6月9日 文化元年　5月2日 晴　(赤石組舞戸村で出火・郷蔵類焼(21日の記述では去月29日))
1804年　6月10日 文化元年　5月3日 晴
1804年　6月11日 文化元年　5月4日 晴
1804年　6月12日 文化元年　5月5日 曇　未の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻頃止　　下から続く　　(89910・83561)この内黒石8306(4314・992))
1804年　6月13日 文化元年　5月6日 曇　卯の刻頃より時々雨降　　下から続く　　この内黒石在々人数5263(2767・2496)・寺社人数2849人(1637・1212)この内黒石黒石149(95・54)・惣人数173470人　　上に続く
1804年　6月14日 文化元年　5月7日 曇　(寺社奉行が御領分中の人別改め(数少ない人口の報告):弘前町14505人(男7523・女6982)この内黒石町2894(1452・1442)・在々浦々156117人(80750・75367)　　上に続く
1804年　6月15日 文化元年　5月8日 晴
1804年　6月16日 文化元年　5月9日 晴
1804年　6月17日 文化元年　5月10日 晴
1804年　6月18日 文化元年　5月11日 曇　寅の刻頃より雨降　未の刻頃止
1804年　6月19日 文化元年　5月12日 晴
1804年　6月20日 文化元年　5月13日 曇　辰の刻より雨時々降
1804年　6月21日 文化元年　5月14日 晴　(武者屯の当番に大組与力・御玄関前当番に御持筒足軽)
1804年　6月22日 文化元年　5月15日 曇
1804年　6月23日 文化元年　5月16日 曇　辰の刻頃より雨時々降
1804年　6月24日 文化元年　5月17日 晴　(度々博打をした親方町の髪結いを弘前追放家財は妻子に・関係者にも戸〆等)
1804年　6月25日 文化元年　5月18日 晴
1804年　6月26日 文化元年　5月19日 晴
1804年　6月27日 文化元年　5月20日 晴
1804年　6月28日 文化元年　5月21日 晴
1804年　6月29日 文化元年　5月22日 晴
1804年　6月30日 文化元年　5月23日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止

1804年　7月1日 文化元年　5月24日 晴　(大鰐村より初ささけ(ささげか)差上げる
1804年　7月2日 文化元年　5月25日 晴
1804年　7月3日 文化元年　5月26日 曇　(博打と老母に不幸の御中小姓の知行召上げ一間所に・その弟にも罰、屋形様16日江戸相立つ、江戸で人事異動と多数に御賞)
1804年　7月4日 文化元年　5月27日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　巳の刻頃止　(昨晩御暇の老母に生涯1人扶持・一間所を作り預かっている御家中にも1人扶持)
1804年　7月5日 文化元年　5月28日 晴
1804年　7月6日 文化元年　5月29日 曇　昨夜戌の刻より雨降　今日に及ぶ　時々降
1804年　7月7日 文化元年　6月1日 曇
1804年　7月8日 文化元年　6月2日 曇　昨夜酉の刻より雨降　丑の刻頃止
1804年　7月9日 文化元年　6月3日 曇　巳の刻頃小雨降　則刻止
1804年　7月10日 文化元年　6月4日 曇　小雨時々降　(大鰐村より初茄子・真瓜・ささけ差上げる)
1804年　7月11日 文化元年　6月5日 曇　今暁子の刻頃地震強し　時々地震　未の刻雨降　則止　(今日御着城の予定が昨4日に碇ヶ関に着いていない・湯沢を出たが神宮寺川が洪水で花館駅に止まったとのこと)
1804年　7月12日 文化元年　6月6日 晴　昨夜折々地震
1804年　7月13日 文化元年　6月7日 曇　(屋形様が着城八時過ぎ山吹の間に御着座)
1804年　7月14日 文化元年　6月8日 曇　辰の刻より小雨時々降
1804年　7月15日 文化元年　6月9日 曇　(去月28日江戸で家老高倉五兵衛が病死)
1804年　7月16日 文化元年　6月10日 曇
1804年　7月17日 文化元年　6月11日 晴
1804年　7月18日 文化元年　6月12日 曇　昨夜酉の刻頃より雨降　今朝卯の刻頃止
1804年　7月19日 文化元年　6月13日 曇　戌の三刻土用に入
1804年　7月20日 文化元年　6月14日 曇
1804年　7月21日 文化元年　6月15日 晴　去るの刻頃小雨降　則刻止
1804年　7月22日 文化元年　6月16日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今朝巳の刻頃止　午の刻頃より時々降
1804年　7月23日 文化元年　6月17日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止
1804年　7月24日 文化元年　6月18日 曇
1804年　7月25日 文化元年　6月19日 曇　(北川左膳を御用人に等の人事異動)
1804年　7月26日 文化元年　6月20日 曇　巳の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止
1804年　7月27日 文化元年　6月21日 曇
1804年　7月28日 文化元年　6月22日 晴
1804年　7月29日 文化元年　6月23日 曇　昨夜戌の刻より雨降　今暁丑に刻頃止　午の刻頃雨降　則刻止
1804年　7月30日 文化元年　6月24日 曇　時々雨降
1804年　7月31日 文化元年　6月25日 曇　卯の刻頃より雨降　未の刻頃止
1804年　8月1日 文化元年　6月26日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降
1804年　8月2日 文化元年　6月27日 曇　昨夜亥の刻過ぎ雨強し　則刻雷鳴雨　今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1804年　8月3日 文化元年　6月28日 晴　(渡辺将監を家老職手伝い城代格などの人事異動、御嚊子)
1804年　8月4日 文化元年　6月29日 晴　(「禰ふた」の儀町々ばかりの所……)
1804年　8月5日 文化元年　6月30日 晴
1804年　8月6日 文化元年　7月1日 晴　(多数に道中苦労の御褒美、大鰐村加賀助と兵左衛門が初米出穂差上げる・昨年に引合日数では同様節に引き合えば4日遅い)
1804年　8月7日 文化元年　7月2日 曇
1804年　8月8日 文化元年　7月3日 曇
1804年　8月9日 文化元年　7月4日 晴
1804年　8月10日 文化元年　7月5日 曇　辰の刻頃より雨時々降　夜に入　(浅瀬石村の男が亀を取り差上げる・御酒代鳥目1貫文下し置かれる、着衣倹約の触れ)
1804年　8月11日 文化元年　7月6日 曇　昨夜より之雨今晩子の刻頃止
1804年　8月12日 文化元年　7月7日 晴
1804年　8月13日 文化元年　7月8日 曇　卯の刻過ぎ少し地震　(一昨年の祭礼が終日雨天で丁印山屋台が破損・惣名主共より八月十五日の八幡祭礼でを出せないとの申し出・了承する)
1804年　8月14日 文化元年　7月9日 晴
1804年　8月15日 文化元年　7月10日 晴　(去る5日赤田組木筒村で打擲・殺人の男逃亡・せい5尺1寸位等の人相書き)
1804年　8月16日 文化元年　7月11日 晴
1804年　8月17日 文化元年　7月12日 晴
1804年　8月18日 文化元年　7月13日 晴
1804年　8月19日 文化元年　7月14日 晴　申の刻頃雷鳴　則刻
1804年　8月20日 文化元年　7月15日 晴
1804年　8月21日 文化元年　7月16日 晴　頃日残暑強し
1804年　8月22日 文化元年　7月17日 晴　(木綿が高値になって対処しているらしい:福眞)
1804年　8月23日 文化元年　7月18日 曇　辰の刻頃より雨終日降
1804年　8月24日 文化元年　7月19日 晴
1804年　8月25日 文化元年　7月20日 曇　丑の刻頃より雨降　夜に入　今暁寅の刻頃止
1804年　8月26日 文化元年　7月21日 晴
1804年　8月27日 文化元年　7月22日 晴
1804年　8月28日 文化元年　7月23日 晴
1804年　8月29日 文化元年　7月24日 曇　寅の刻頃雨降　卯の刻止　(高杉組蒔苗村の男が亀を取り差し上げる・御酒代鳥目1貫文を下し置かれる)
1804年　8月30日 文化元年　7月25日 晴
1804年　8月31日 文化元年　7月26日 晴

1804年　9月1日 文化元年　7月27日 曇 巳の刻頃より雨降　午の刻頃止
1804年　9月2日 文化元年　7月28日 曇 (御賞)
1804年　9月3日 文化元年　7月29日 晴
1804年　9月4日 文化元年　8月1日 曇 酉の刻より雨降　戌の刻過ぎ止
1804年　9月5日 文化元年　8月2日 晴 (岩木山苔の実を寺社奉行が差し出す)
1804年　9月6日 文化元年　8月3日 晴
1804年　9月7日 文化元年　8月4日 晴
1804年　9月8日 文化元年　8月5日 晴
1804年　9月9日 文化元年　8月6日 晴
1804年 9月10日 文化元年　8月7日 晴 酉の刻頃より雨降　夜に入
1804年 9月11日 文化元年　8月8日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入　戌の刻頃止
1804年 9月12日 文化元年　8月9日 晴 (当年は諸組田畑とも熟作……)
1804年 9月13日 文化元年　8月10日 曇 申の刻頃小雨降　即刻止
1804年 9月14日 文化元年　8月11日 曇 (新庄領金山御本陣から居宅取建に御金拝借したいとの申し出・貸せないが手当金5両を下し置かれる)
1804年 9月15日 文化元年　8月12日 曇
1804年 9月16日 文化元年　8月13日 曇 丑の刻過ぎより雨降　卯の刻頃止
1804年 9月17日 文化元年　8月14日 曇
1804年 9月18日 文化元年　8月15日 晴 (今日八幡宮神輿通行に付き三之丸於御屋形高覧遊ばされ候(三之丸に居たのは御屋形か神輿か両方なのか判らん:福眞))
1804年 9月19日 文化元年　8月16日 晴
1804年 9月20日 文化元年　8月17日 曇
1804年 9月21日 文化元年　8月18日 曇 卯の刻過ぎより雨時々降
1804年 9月22日 文化元年　8月19日 曇
1804年 9月23日 文化元年　8月20日 曇 丑の刻頃より雨降　寅の刻頃止 (去々年松野木村庄屋と周辺住民が薪を切り取る場所でもめた？・徒党を組んだ住民46人に18鞭などと居村徘徊是まで通り・庄屋にも過料)
1804年 9月24日 文化元年　8月21日 晴 (今日釈奠に付御家老等が学校に)
1804年 9月25日 文化元年　8月22日 晴
1804年 9月26日 文化元年　8月23日 曇 辰の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止
1804年 9月27日 文化元年　8月24日 晴
1804年 9月28日 文化元年　8月25日 晴 (当春碇ヶ関・早瀬野山に流木・多数を隠し揚げた者共19人に過料)
1804年 9月29日 文化元年　8月26日 晴 (不取締りの炭御蔵請払役(御留守委組と御中小姓)2人に永のお暇)
1804年 9月30日 文化元年　8月27日 曇
1804年 10月1日 文化元年　8月28日 晴 (人事異動・勘定人佐藤吉五郎に金100疋等の御賞)
1804年 10月2日 文化元年　8月29日 晴 (祢ふたの際他町で不法を働いた寺の子・御家中足軽の子・町民の子の計5人に禁足等の罰)
1804年 10月3日 文化元年　8月30日 晴
1804年 10月4日 文化元年　9月1日 曇 昨夜風強し　戌の刻頃雷鳴雨　今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止
1804年 10月5日 文化元年　9月2日 曇 辰の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止
1804年 10月6日 文化元年　9月3日 曇
1804年 10月7日 文化元年　9月4日 晴
1804年 10月8日 文化元年　9月5日 曇
1804年 10月9日 文化元年　9月6日 曇 (一昨夜横内組大野村で在宅御家中の次男が盗賊に突き殺される)
1804年 10月10日 文化元年　9月7日 晴
1804年 10月11日 文化元年　9月8日 曇 未の刻過ぎ小雨降　則刻止
1804年 10月12日 文化元年　9月9日 曇 辰の刻頃雷鳴　則刻雹降　雨時々降
1804年 10月13日 文化元年　9月10日 曇
1804年 10月14日 文化元年　9月11日 曇 未の刻頃より雨降　夜に入
1804年 10月15日 文化元年　9月12日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止
1804年 10月16日 文化元年　9月13日 晴
1804年 10月17日 文化元年　9月14日 曇 酉の刻頃より雨降　則刻雷鳴
1804年 10月18日 文化元年　9月15日 晴 昨夜より之雨今暁寅の刻頃止 (人事異動・御賞)
1804年 10月19日 文化元年　9月16日 晴
1804年 10月20日 文化元年　9月17日 曇
1804年 10月21日 文化元年　9月18日 曇 昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　夜に入
1804年 10月22日 文化元年　9月19日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　今朝岩木山江初めて雪降
1804年 10月23日 文化元年　9月20日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　午の刻頃止 (昨日和徳組冨田村庄屋が相良丁で切りかかられ帰宅後死亡、紙漉町の男も相良丁で切りかかられ右の鬢2寸位疵)
1804年 10月24日 文化元年　9月21日 晴 (一昨19日暮れ掃除小人が後ろより肩先3寸ばかり手傷を受ける)
1804年 10月25日 文化元年　9月22日 晴
1804年 10月26日 文化元年　9月23日 晴
1804年 10月27日 文化元年　9月24日 曇 午の刻頃雨降　則刻止
1804年 10月28日 文化元年　9月25日 曇
1804年 10月29日 文化元年　9月26日 曇 辰の刻頃より雨降　巳の刻頃雷鳴　申の刻過ぎ雨止 (今朝五つ半時頃より時鐘出汗)
1804年 10月30日 文化元年　9月27日 曇 未の刻頃より雨降　夜に入 (今日御慰の御囃子)
1804年 10月31日 文化元年　9月28日 曇 昨夜より之雨寅の刻頃止　巳の刻頃より雨降

1804年　11月1日 文化元年　 9月29日 晴 （蝦夷地御用の儀この度永々と仰せ出され候に付き……）
1804年　11月2日 文化元年　 10月1日 晴
1804年　11月3日 文化元年　 10月2日 晴
1804年　11月4日 文化元年　 10月3日 晴
1804年　11月5日 文化元年　 10月4日 曇 （今日諸手足軽の野稽古高覧:だいぶ省略している:福眞）
1804年　11月6日 文化元年　 10月5日 曇 寅の刻より時々雨降
1804年　11月7日 文化元年　 10月6日 曇
1804年　11月8日 文化元年　 10月7日 曇 寅の刻過ぎ雨降　初めて雪少々降
1804年　11月9日 文化元年　 10月8日 曇 昨夜中雪少々降
1804年 11月10日 文化元年　 10月9日 曇
1804年 11月11日 文化元年　10月10日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降 （過料銭は30日以内に上納する・相滞り候分は刑法帳の通り・貧困にて相成り難い分は銅山に差し遣わし1日60文の夫役とする……）
1804年 11月12日 文化元年　10月11日 快晴
1804年 11月13日 文化元年　10月12日 曇 辰の刻頃より雨降　即刻雷鳴　申の刻頃雨止
1804年 11月14日 文化元年　10月13日 曇 今日時々霙降
1804年 11月15日 文化元年　10月14日 曇
1804年 11月16日 文化元年　10月15日 曇 （今日初雪に付き御家老等が罷り出で御機嫌伺い）
1804年 11月17日 文化元年　10月16日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降
1804年 11月18日 文化元年　10月17日 曇 今日時々雪降
1804年 11月19日 文化元年　10月18日 晴
1804年 11月20日 文化元年　10月19日 曇 戌の刻頃雷鳴　則刻止　亥の刻頃より雪降
1804年 11月21日 文化元年　10月20日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降
1804年 11月22日 文化元年　10月21日 快晴
1804年 11月23日 文化元年　10月22日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降　今暁子の刻頃止
1804年 11月24日 文化元年　10月23日 晴
1804年 11月25日 文化元年　10月24日 曇 午の刻より雨降　夜に入 （酒屋から新種仮値段1升に付き1文目4分5厘の申し出で・1文目3分5厘に申し付ける）
1804年 11月26日 文化元年　10月25日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1804年 11月27日 文化元年　10月26日 曇 昨夜中雪少々降 （新穀初相場御払い米1俵21文目）
1804年 11月28日 文化元年　10月27日 曇
1804年 11月29日 文化元年　10月28日 曇 昨夜中雪少々降 （郡所物書平沢三右衛門その他に鳥目2貫文等の御賞）
1804年 11月30日 文化元年　10月29日 曇
1804年　12月1日 文化元年　10月30日 曇 未の刻頃より雨降　夜に入
1804年　12月2日 文化元年　 11月1日 曇 昨夜より之雨今暁卯の刻頃止　雪少々降 （人事異動）
1804年　12月3日 文化元年　 11月2日 曇
1804年　12月4日 文化元年　 11月3日 曇 今暁子の刻頃より雨降　卯の刻頃止
1804年　12月5日 文化元年　 11月4日 曇 昨夜中雪少々降
1804年　12月6日 文化元年　 11月5日 曇 丑の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降 （両替115文目）
1804年　12月7日 文化元年　 11月6日 晴 昨夜中風強し
1804年　12月8日 文化元年　 11月7日 曇 昨夜亥の刻より雨降　今日に及ぶ　時々降
1804年　12月9日 文化元年　 11月8日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 （誓願寺前で一間所押し破った御家中の親が抜き身でまかりある・往来差留め町同心が一間所に押し入れる）
1804年 12月10日 文化元年　 11月9日 曇
1804年 12月11日 文化元年　11月10日 曇 昨夜中雪少々降
1804年 12月12日 文化元年　11月11日 快晴
1804年 12月13日 文化元年　11月12日 曇 昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降
1804年 12月14日 文化元年　11月13日 曇 昨夜亥の刻頃より雪降　今日に及ぶ　時々降　夜に入 （昨11日夜藤代組小友村で出火・稲草200束位と隣家の稲草2000束位焼失）
1804年 12月15日 文化元年　11月14日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降 （昨13日猿賀組八幡崎村で出火・隣家も類焼稲草も焼失・火元百姓他村預け）
1804年 12月16日 文化元年　11月15日 晴　　下から続く　　用材は手近の山から4・5千本杣取の手配をする、公儀より万石以上の江戸表廻米高の内二歩通り減らすよう指示されていたのかな:意味不明:福眞）
1804年 12月17日 文化元年　11月16日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　時々降 （今暁八時半本町一丁目より出火・西風激しく既に三丁目まで類焼、類焼とも37軒・潰家2半潰1軒・火元入寺の上慎み、仮小屋取建　　上に続く
1804年 12月18日 文化元年　11月17日 曇 昨夜少々雪降 （当月朔日より15日までの平均米1俵値段:21文目、昨夜の出火の防に黒石役人堺某が足軽等を引き連れて来ている）
1804年 12月19日 文化元年　11月18日 晴 （7月16日当御廻船が石州（石見の国:島根県かな?)沖で大風雨に合い米300俵位荷打（船の安全のために荷物を捨てること)水主1人海死、当新穀入札（1俵）　　下の欄外(*)に続く
1804年 12月20日 文化元年　11月19日 曇 （16日焼失・潰れ家の者どもに御救い御米5俵宛下し置かれる・残る半潰れ1軒には御手当て御米5俵と銭100目を下し置かれる）
1804年 12月21日 文化元年　11月20日 曇 昨夜中雪降　今日時々降 （焚炭貸渡し(代金は渡し方より差し引き):御家老衆100俵・御用人60俵・三組頭大目付40俵・四奉行山奉行30俵・御目付20俵・作事奉行等15俵宛）
1804年 12月22日 文化元年　11月21日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降
1804年 12月23日 文化元年　11月22日 曇 昨夜中雪少々降
1804年 12月24日 文化元年　11月23日 快晴
1804年 12月25日 文化元年　11月24日 快晴 （大間越町で庵寺出火・百姓2人の稲草焼失・日時不明）
1804年 12月26日 文化元年　11月25日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 （来月2・3日頃より御手当100石に付き100目を下し置かれる）
1804年 12月27日 文化元年　11月26日 曇 昨夜中雪少々降
1804年 12月28日 文化元年　11月27日 晴 昨夜中雪降　今日に及ぶ　三寸程積
1804年 12月29日 文化元年　11月28日 晴 （十三潟が当月21日暮六時頃より朝五時迄早川口より残らず氷張る、流木貸渡し:御家老衆150目代・御用人70目代など20日の焚き炭と類似だが三組頭がない）
1804年 12月30日 文化元年　11月29日 晴
1804年 12月31日 文化元年　11月30日 曇 昨夜中雪降　今朝に及ぶ　五寸程積る　時々降

(*) :弘前23文目3分・青森28文目・鰺ヶ沢24文5分6厘8毛・3ヶ所御払い米平均25文目2分8厘9毛内1文目2分が御定役引・平米1俵24文目8厘9毛・金1両が118文目）

1805年　1月1日 文化元年　12月1日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 六寸程積（人事異動・御賞）
1805年　1月2日 文化元年　12月2日 曇 今暁雪吹強し 時々雪降 未の刻過ぎ少し地震
1805年　1月3日 文化元年　12月3日 曇 昨夜少々雪降
1805年　1月4日 文化元年　12月4日 晴 　12月6日からの続き 　潤懸中の破船の覚え:破船18艘水死7人）
1805年　1月5日 文化元年　12月5日 曇 昨夜子の刻頃より雨降 今日に及ぶ 時々降 夜に入（11月16日大火の火元の入寺御免、去る晦日平館沖で青森船が破船・水主2人と乗り合わせ1人が水死）
1805年　1月6日 文化元年　12月6日 曇 昨夜より之雨今暁寅の刻頃止（去る2日夜鯵ヶ沢本町一丁目より出火明け六時過ぎ鎮まる・類焼潰家共9軒・御手当御米3俵つつ下し置かれる、12月2日青森湊 　12月4日欄に続く
1805年　1月7日 文化元年　12月7日 曇 昨夜雪降 今日に及ぶ 時々降
1805年　1月8日 文化元年　12月8日 曇 今日時々雪降
1805年　1月9日 文化元年　12月9日 曇 (御慰の御囃子）
1805年　1月10日 文化元年　12月10日 曇 昨夜雪少々降 今日時々降 （油川組で時疫流行・医者を回し施薬する）
1805年　1月11日 文化元年　12月11日 晴 丑の刻頃少し地震
1805年　1月12日 文化元年　12月12日 晴 （村々の医者(館野越村の山崎立朴など)10人に時疫の施薬代を渡す）
1805年　1月13日 文化元年　12月13日 晴
1805年　1月14日 文化元年　12月14日 晴
1805年　1月15日 文化元年　12月15日 曇 （坊主・牢屋番人どもに御賞、去月29日蟹田前沖で青森船が破船・水主2人乗合1人水死）
1805年　1月16日 文化元年　12月16日 晴 （6月に窃盗の男に6鞭と弘前町払い）
1805年　1月17日 文化元年　12月17日 曇 昨夜少し雪降
1805年　1月18日 文化元年　12月18日 曇 昨夜雪少し降 （去る14日昼油川(村)で出火・農具稲草馬焼失・隣家潰れ家・火元村預け）
1805年　1月19日 文化元年　12月19日 曇 （去る10日(広須組?)吉出村で出火・火元高無村預け）
1805年　1月20日 文化元年　12月20日 晴 昨夜少々雪降
1805年　1月21日 文化元年　12月21日 曇 今暁丑の刻頃より雨時々降 （御賞多数に、去る15日昼頃より青森で大風・青森御仮屋に被害、当月4日駒越組目屋野沢村で藤川村の男が猪に噛殺され他にも負傷者）
1805年　1月22日 文化元年　12月22日 晴 （田畑仕付け高:236665石4斗7升・内13852石7斗5升8合が当毛引(けびき:田畑が不作の場合の税の減免)・平均5厘8毛、去月18日朝大間越の庵寺焼失）
1805年　1月23日 文化元年　12月23日 曇 酉の刻頃より雨降 則刻雷 （不勤の御家中を手廻組に役下げ）
1805年　1月24日 文化元年　12月24日 曇 昨夜より雨降 今日に及ぶ 時々降 （平沢三右衛門を勘定人格郡所物書きに等の人事異動・御賞、寒造酒値段1文目3分5厘から1文目2分5厘に）
1805年　1月25日 文化元年　12月25日 曇
1805年　1月26日 文化元年　12月26日 曇 今日時々雪降 （御能九時半初ル夜五時過ぎ済、人事異動）
1805年　1月27日 文化元年　12月27日 曇 （流木隠上げに関して口論相手を打ち殺した弟を逃がした男に15鞭と居村徘徊是まで通り・水争いに9鞭・詐欺に十里四方追放など）
1805年　1月28日 文化元年　12月28日 晴 （人事異動・御賞、衣服に関する定めが示されている・改めたのかな?）
1805年　1月29日 文化元年　12月29日 曇 辰の刻過ぎより雨降 （御手当て・御賞）
1805年　1月30日 文化元年　12月30日 曇
1805年　1月31日 文化2年 正月1日 曇 昨夜中雪降 今朝に及ぶ 三寸程積る 時々降
1805年　2月1日 文化2年 正月2日 晴
1805年　2月2日 文化2年 正月3日 曇 申の刻頃より雨降 夜に入 （今晩御謡初）
1805年　2月3日 文化2年 正月4日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 終日降 酉の刻止 （例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる）
1805年　2月4日 文化2年 正月5日 曇 昨夜中雪少し降 今日時々降
1805年　2月5日 文化2年 正月6日 曇 昨夜中雪少々降 今日時々降 （御家中病死の届けが3人・数日前にも2人ほどあった）
1805年　2月6日 文化2年 正月7日 曇 今日時々雪降
1805年　2月7日 文化2年 正月8日 曇 今日時々雪降
1805年　2月8日 文化2年 正月9日 曇 今日時々雪降 （病死1人）
1805年　2月9日 文化2年 正月10日 晴
1805年　2月10日 文化2年 正月11日 晴 （山田剛太郎を手廻一番組頭に等の人事異動、去る8日夜金木組金木村で出火・空家とも38軒焼失・土蔵15ヶ所(15日の記述では御米495俵中461俵焼失)）
1805年　2月11日 文化2年 正月12日 晴 （去る6日津軽野村で秋田の男が病死）
1805年　2月12日 文化2年 正月13日 晴 （また病死者）
1805年　2月13日 文化2年 正月14日 曇 巳の刻過ぎ雨降 則刻止
1805年　2月14日 文化2年 正月15日 曇 （金木村の類焼の者共37軒に御手当て米5俵宛）
1805年　2月15日 文化2年 正月16日 晴 （南部大膳太夫が蝦夷地骨折りに付き四品、江戸で御賞）
1805年　2月16日 文化2年 正月17日 曇 昨夜中雪五寸程積る 今日時々雪降 （石渡川が4歩半の出水・馬船小船とも往来成りかねる）
1805年　2月17日 文化2年 正月18日 曇 今日時々雪降
1805年　2月18日 文化2年 正月19日 曇 昨夜中雪五寸程積る 今日時々雪降
1805年　2月19日 文化2年 正月20日 曇 昨夜中雪三寸程積る 今日におよひ雪時々降
1805年　2月20日 文化2年 正月21日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降
1805年　2月21日 文化2年 正月22日 晴
1805年　2月22日 文化2年 正月23日 曇 今日時々雪降
1805年　2月23日 文化2年 正月24日 曇 今日終日雪降
1805年　2月24日 文化2年 正月25日 曇 今日終日雪降
1805年　2月25日 文化2年 正月26日 曇 時々雪降 （去る17日昼頃公儀の船の橋船が波にふせられ12人中5人死亡）
1805年　2月26日 文化2年 正月27日 晴
1805年　2月27日 文化2年 正月28日 曇 時々雪降
1805年　2月28日 文化2年 正月29日 曇 時々雪降

1805年　3月1日 文化2年　2月1日 曇　今日時々雪降　夜に入る　(人事異動)
1805年　3月2日 文化2年　2月2日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜に入
1805年　3月3日 文化2年　2月3日 曇　巳の刻頃小雨降　酉の刻止
1805年　3月4日 文化2年　2月4日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜に入
1805年　3月5日 文化2年　2月5日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降
1805年　3月6日 文化2年　2月6日 曇　(当御発駕は来月6日と仰せ出される)
1805年　3月7日 文化2年　2月7日 曇　昨夜中雪降　今日に及ぶ　三寸程積　時々降
1805年　3月8日 文化2年　2月8日 曇　昨夜中雪降　今日時々降　(座当盲女都合253人)
1805年　3月9日 文化2年　2月9日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降
1805年　3月10日 文化2年　2月10日 曇　昨夜中雪少々降　(代銭上納の上流木御払い:御家老衆100目代・御城代60目代・御用人衆50目代・大目付40目代・四奉行山奉行御目付30目代・作事奉行等20目代)
1805年　3月11日 文化2年　2月11日 曇　(近年他領の悪者が多数入っているらしい)
1805年　3月12日 文化2年　2月12日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　八寸程積　時々降
1805年　3月13日 文化2年　2月13日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　時々降　(一昨年の検見の際家来が不正を働いた御家中を役下げ・その他にも処分)
1805年　3月14日 文化2年　2月14日 曇　未の刻頃より雨降
1805年　3月15日 文化2年　2月15日 曇　(御料理・御能)
1805年　3月16日 文化2年　2月16日 曇　(一昨年の検見中に検見人の野帳を盗み出した御家中の家来に30鞭と尾太銅山における苦役2年家財欠所・不正をそそのかした村人・五人組・庄屋にも3鞭・村払い・戸〆などの罰)
1805年　3月17日 文化2年　2月17日 曇　(脇道を通った秋田の男共8人が捕まる)
1805年　3月18日 文化2年　2月18日 曇　巳の刻より雨降　夜に入　亥の刻過ぎ止　(12月23日出奔の黒石の男の人相書き(せい5尺4・5寸など))
1805年　3月19日 文化2年　2月19日 曇
1805年　3月20日 文化2年　2月20日 快晴
1805年　3月21日 文化2年　2月21日 快晴　(人事異動)　下から続く　19日芝居見物の帰りに往来の者に手傷を負わせ死亡させた男を斬罪、去る12月帯刀で役人のまねをして造酒屋で不届きの男に27鞭七里追放)
1805年　3月22日 文化2年　2月22日 曇　(桂光院(津軽信義)様御法事に伴う大赦:御国並びに居村徘徊御免8人親預け慎み御免1人)　下から続く　(未遂)させた足軽を呵置く:この足軽を斬罪、去年9月　上に続く
1805年　3月23日 文化2年　2月23日 曇　(去年箱館詰めで旧冬15日夜足軽が暴力(死亡)事件を起こす、外出中で知らなかった足軽警固に永の暇・足軽1人を御持槍中間に役下げ、事件の足軽を連行中に自害　上に続く
1805年　3月24日 文化2年　2月24日 晴　(本町の道を広げる話がなされている)
1805年　3月25日 文化2年　2月25日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　時々降　(岩木川洪水・駒越渡往来差留める、去る23日夜油川組石神村で出火・類焼5軒他焼失・火元他村預け、本年の御廻船数は江戸に54・大阪廻り1艘)
1805年　3月26日 文化2年　2月26日 曇
1805年　3月27日 文化2年　2月27日 曇　巳の刻より雨降　酉の刻頃止
1805年　3月28日 文化2年　2月28日 曇　今暁雪少々降　(人事異動、御代官を23人に減らす、石渡川4歩半の出水・両舟とも往来なり兼ねる)
1805年　3月29日 文化2年　2月29日 晴
1805年　3月30日 文化2年　2月30日 晴
1805年　3月31日 文化2年　3月1日 晴　(人事異動・御賞多数、藤代組廻関村で時疫流行)
1805年　4月1日 文化2年　3月2日 曇　今暁寅の刻頃雨降　則刻止　(去月23日金木組小泊・下前村の漁船2艘遭難11人中10人の男女が死亡)
1805年　4月2日 文化2年　3月3日 曇　(人事異動・御賞)
1805年　4月3日 文化2年　3月4日 晴
1805年　4月4日 文化2年　3月5日 晴
1805年　4月5日 文化2年　3月6日 晴
1805年　4月6日 文化2年　3月7日 曇　未の刻頃より雨降　夜に入　亥の刻過ぎ止
1805年　4月7日 文化2年　3月8日 曇
1805年　4月8日 文化2年　3月9日 曇　昨夜雪少々降　(御発駕日限を16日と仰せ出される、一昨7日夜九つ時頃碇ヶ関下町で火災・30軒と土蔵1ヶ所焼失)
1805年　4月9日 文化2年　3月10日 曇　今日雪少々降　未の刻頃雨降　(この度牢舎の外に揚屋御取立て・入牢に相成りがたき罪状の者ならびに町預け村預けになるべき者共を入れるようにする)
1805年　4月10日 文化2年　3月11日 曇　(碇ヶ関の類焼30軒の者共に御手当て2俵宛下し置かれる)
1805年　4月11日 文化2年　3月12日 曇
1805年　4月12日 文化2年　3月13日 晴
1805年　4月13日 文化2年　3月14日 曇　昨夜中戌の刻頃より雨降　今日およひ時々降　(石渡川4歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる、昨13日夜五つ時頃駒越組中畑村で出火・隣家類焼・火元百姓他村預け)
1805年　4月14日 文化2年　3月15日 曇　今日雪少し降
1805年　4月15日 文化2年　3月16日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積る　今日雹時々降　(四半時過ぎ御乗物にて御発駕)
1805年　4月16日 文化2年　3月17日 晴　(駒越組中畑村で度々出火・御締として御家中を派遣するようにする、去月油川組石神村の類焼の者共に夫食米のうちより無利息にて拝借を申し付ける)
1805年　4月17日 文化2年　3月18日 晴　巳の刻過ぎ少々地震　(去る15日にも13日に続き中畑村で出火・建家14軒等焼失・家別に詮議、昨17日暮れ六つ時過ぎ駒越組中畑村で出火・類焼3軒)
1805年　4月18日 文化2年　3月19日 晴
1805年　4月19日 文化2年　3月20日 晴　(一昨18日高杉組折笠村で小屋など焼失・火元戸〆、本町の道路の拡幅は南側屋敷を1間半削るよう仰せ付けられる・その分は御領地の内より足地下し置かれる)
1805年　4月20日 文化2年　3月21日 曇
1805年　4月21日 文化2年　3月22日 曇　辰の刻頃雨時々降　(御賞、去る9日昼横内組作道村の鍛冶から少々出火早速取鎮める・火元慎み、大坂には当年御払米なく御用米のみ・御屋敷の関係職員の処遇に悩んでいる)
1805年　4月22日 文化2年　3月23日 曇　(松前表より帰った曲馬の利(乗り)の者共を所所に止宿させた油川村の男に3鞭居村徘徊是まで通り(どこが罪状なのかわからない:福眞)・関係者にも罰)
1805年　4月23日 文化2年　3月24日 曇　(去月5日に赤石組4か村で出水・田畑欠崩れ)
1805年　4月24日 文化2年　3月25日 晴　寅の刻頃より雨降　卯の刻頃止む　(揚屋の使用法などが書かれてある)
1805年　4月25日 文化2年　3月26日 晴
1805年　4月26日 文化2年　3月27日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　終日降　酉の刻頃止
1805年　4月27日 文化2年　3月28日 晴　(当月13日より17日の三度の出火の中畑村の29軒に御手当て米1俵宛下し置かれる)
1805年　4月28日 文化2年　3月29日 晴　(御賞)
1805年　4月29日 文化2年　4月1日 曇　辰の刻より雨時々降　夜に入　頃日暖和
1805年　4月30日 文化2年　4月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　終日降　夜に入

1805年　5月1日 文化2年　4月3日 曇　昨夜より之雨今日辰の刻過ぎ止
1805年　5月2日 文化2年　4月4日 曇　巳の刻頃より雨降　巳の刻雷鳴　午の刻過ぎ止
1805年　5月3日 文化2年　4月5日 晴
1805年　5月4日 文化2年　4月6日 晴　(我儘な鯵ヶ沢からの上乗に3鞭居町徘徊是まで通り)
1805年　5月5日 文化2年　4月7日 晴　寅の刻頃小雨　則止　巳の刻頃地震少し　酉の刻小雨　則刻止む
1805年　5月6日 文化2年　4月8日 晴　(平井八右衛門からの報告:去る6日沖合いを異国船が数多く走る)
1805年　5月7日 文化2年　4月9日 晴　申の刻小雨　則刻止　(御賞、去る8日松前城下より出帆した船が半里ばかり先の唐船(帆柱7・8本)を見かける)
1805年　5月8日 文化2年　4月10日 曇　申の刻頃より雨時々降
1805年　5月9日 文化2年　4月11日 曇　(江戸に今日付即日立ちに8日振りの飛脚を立てる・順によらず達者な者に申し付ける・御手当て鳥目1貫500文宛)
1805年　5月10日 文化2年　4月12日 晴　頃日向暑
1805年　5月11日 文化2年　4月13日 晴
1805年　5月12日 文化2年　4月14日 晴
1805年　5月13日 文化2年　4月15日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降
1805年　5月14日 文化2年　4月16日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　(去る4日屋形様御着府)
1805年　5月15日 文化2年　4月17日 曇
1805年　5月16日 文化2年　4月18日 晴　(山田剛太郎病死)
1805年　5月17日 文化2年　4月19日 晴
1805年　5月18日 文化2年　4月20日 晴
1805年　5月19日 文化2年　4月21日 曇
1805年　5月20日 文化2年　4月22日 曇　辰の刻より雨時々降
1805年　5月21日 文化2年　4月23日 曇　(去年箱館詰めの郷夫に雇われ忍び帰った駒越町の婿に10鞭居町徘徊是まで通り、江戸で出奔し油川村に帰った掃除小人を尾太銅山送り永苦使)
1805年　5月22日 文化2年　4月24日 晴
1805年　5月23日 文化2年　4月25日 曇　申の刻雨降　則刻止
1805年　5月24日 文化2年　4月26日 曇
1805年　5月25日 文化2年　4月27日 曇
1805年　5月26日 文化2年　4月28日 曇　卯の刻頃雨降　則刻止　未の刻雨雷鳴
1805年　5月27日 文化2年　4月29日 快晴
1805年　5月28日 文化2年　4月30日 晴
1805年　5月29日 文化2年　5月1日 晴　(菱御門より内え出入りの儀は御大切の御場所に付き……)
1805年　5月30日 文化2年　5月2日 晴
1805年　5月31日 文化2年　5月3日 曇　巳の刻頃より雨時々降　未の刻頃止　(別な寺で博打の宿・独鈷村の感応寺では申立なしに木を切り出したり隠女が居たり分けのわからない住職を弘前御構退院、その関係者にも罰)
1805年　6月1日 文化2年　5月4日 快晴　巳の刻過ぎ地震少し　(旱魃に付き所々塊掻きできない・四社に風雨順時の御祈祷を仰せ付ける、去月19日夜真教寺に盗賊)
1805年　6月2日 文化2年　5月5日 快晴
1805年　6月3日 文化2年　5月6日 快晴　頃日暑気強し
1805年　6月4日 文化2年　5月7日 晴
1805年　6月5日 文化2年　5月8日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止
1805年　6月6日 文化2年　5月9日 曇
1805年　6月7日 文化2年　5月10日 曇　(碇ヶ関御手山で鍛冶炭焼き出しの火が漏れ150間×40間ほど焼失)
1805年　6月8日 文化2年　5月11日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止　(先頃より照り続きに付き五山で風雨順時の御祈祷を仰せ付ける)
1805年　6月9日 文化2年　5月12日 晴　(昨夜堀越組高田村で出火・家財と外馬屋焼失・火元高無他村預け)
1805年　6月10日 文化2年　5月13日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止
1805年　6月11日 文化2年　5月14日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止
1805年　6月12日 文化2年　5月15日 快晴　(昨夜駒越組弐本木村で出火・居宅外馬屋等焼失・火元居村預け)
1805年　6月13日 文化2年　5月16日 曇
1805年　6月14日 文化2年　5月17日 曇　昨夜寅の刻過ぎより小雨降　今日に及ぶ　午の刻過ぎ止
1805年　6月15日 文化2年　5月18日 晴
1805年　6月16日 文化2年　5月19日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　(去る12日暮れ六つ時雷鳴・赤石組大間越村江6寸廻り以下丸雪降る・田畑江差し障りにならないとの申し出で)
1805年　6月17日 文化2年　5月20日 晴　(昨夜黒石で牢破り・人相書き(せい5尺4寸位等)あり)
1805年　6月18日 文化2年　5月21日 曇
1805年　6月19日 文化2年　5月22日 曇
1805年　6月20日 文化2年　5月23日 曇
1805年　6月21日 文化2年　5月24日 曇　申の刻頃小雨降　則刻止　(今日(5月15日)江戸城で御老中様方御列座の上土井大炊頭様の仰せ渡し:格別の思召しをもって七万石の御高に直し下され候)
1805年　6月22日 文化2年　5月25日 曇　寅の刻過ぎより雨時々降　巳の刻頃止
1805年　6月23日 文化2年　5月26日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止
1805年　6月24日 文化2年　5月27日 曇
1805年　6月25日 文化2年　5月28日 晴
1805年　6月26日 文化2年　5月29日 曇
1805年　6月27日 文化2年　6月1日 晴
1805年　6月28日 文化2年　6月2日 快晴
1805年　6月29日 文化2年　6月3日 快晴　頃日暑気
1805年　6月30日 文化2年　6月4日 快晴

1805年　7月1日 文化2年　6月5日 曇　辰の刻過ぎより雨降　夜に入 （昨4日暮れ六つ時過ぎ駒越組川原平村の森内左兵衛の牢屋が出火・牢屋並びに番小屋焼失・原因は雷火らしい）
1805年　7月2日 文化2年　6月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止む
1805年　7月3日 文化2年　6月7日 曇
1805年　7月4日 文化2年　6月8日 曇　未の刻頃小雨降　即刻止む （人事異動・御賞）
1805年　7月5日 文化2年　6月9日 曇　辰の刻頃小雨降　即刻止む
1805年　7月6日 文化2年　6月10日 晴
1805年　7月7日 文化2年　6月11日 曇　未の刻頃小雨降　即刻止
1805年　7月8日 文化2年　6月12日 晴
1805年　7月9日 文化2年　6月13日 晴　（盗賊・博打・博打宿の2人に6鞭等の罰、その関係者にも、3月13日に青森街道小豆坂通り入内村で野火を付けた男2人に3鞭居村徘徊是まで通り）
1805年　7月10日 文化2年　6月14日 曇　午の刻頃より時々雨降 （駒越組相馬村庄屋が亀を取り差上げる・酒代鳥目1貫文下し置かれる）
1805年　7月11日 文化2年　6月15日 晴　（御寺から盗みをした元坊主に6鞭寺院徘徊御構い）
1805年　7月12日 文化2年　6月16日 晴　（一昨14日十三を出た300俵積小廻船17艘中8艘が走り戻り3艘が破船）
1805年　7月13日 文化2年　6月17日 晴　頃日暑気
1805年　7月14日 文化2年　6月18日 曇　子の刻頃より雨降　午の刻頃止
1805年　7月15日 文化2年　6月19日 曇
1805年　7月16日 文化2年　6月20日 曇　卯の刻頃雷鳴　辰の頃より雨降　夜に入 （岩木川8歩余の出水・御用人等が罷り出でる）
1805年　7月17日 文化2年　6月21日 曇　昨夜より之雨寅の刻過ぎ止む （川原平村の森内左兵衛の牢屋の建て直しが済む・引き移る、岩木川出水で流木2万本くらいの内3ヶ2流失）
1805年　7月18日 文化2年　6月22日 晴
1805年　7月19日 文化2年　6月23日 曇　未の刻頃より雨時々降
1805年　7月20日 文化2年　6月24日 曇　今暁丑の二刻土用に入 （江戸詰め中の御家中召使の小者が蚊遣火の取り扱いで居宅焼失、御本城御台所御門扉開き候むね……）
1805年　7月21日 文化2年　6月25日 曇
1805年　7月22日 文化2年　6月26日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止ム
1805年　7月23日 文化2年　6月27日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止ム
1805年　7月24日 文化2年　6月28日 晴　（鉛1箇代金4両（1箇はうろ覚えだが16貫目のはず・本資料はマシンリーダブルであり「箇」で検索すれば用例が沢山出てくる：福眞）、昨27日鉄砲師宇野某が縊死）
1805年　7月25日 文化2年　6月29日 曇
1805年　7月26日 文化2年　7月1日 晴
1805年　7月27日 文化2年　7月2日 晴
1805年　7月28日 文化2年　7月3日 晴
1805年　7月29日 文化2年　7月4日 晴　頃日暑気強し
1805年　7月30日 文化2年　7月5日 晴
1805年　7月31日 文化2年　7月6日 晴
1805年　8月1日 文化2年　7月7日 曇　卯の刻頃小雨降　辰の刻頃止　午の刻頃雷鳴 （頃日払具足参り候・相応の品であり25両で御買上）
1805年　8月2日 文化2年　7月8日 晴　（一粒金丹200粒御登らせ仰せ付けられる・有り合わせがなく100粒登す）
1805年　8月3日 文化2年　7月9日 晴　（大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる、一粒金丹の有り合わせが不足・5剤の調合を仰せ付けられる、集金を持ち逃げの手代に15鞭と居町徘徊是まで通り・その支援者にも罰）
1805年　8月4日 文化2年　7月10日 晴　午の刻過ぎ雷鳴　則刻止
1805年　8月5日 文化2年　7月11日 晴　此間暑気強し
1805年　8月6日 文化2年　7月12日 晴　未の刻頃雷鳴　則刻止
1805年　8月7日 文化2年　7月13日 晴
1805年　8月8日 文化2年　7月14日 晴
1805年　8月9日 文化2年　7月15日 晴
1805年　8月10日 文化2年　7月16日 晴
1805年　8月11日 文化2年　7月17日 晴　（(だいぶ昔だろうが)蝦夷地ヱトロフで御持筒足軽斎藤左太夫が病死・その子を同組足軽に）
1805年　8月12日 文化2年　7月18日 晴
1805年　8月13日 文化2年　7月19日 晴　頃日残暑強し
1805年　8月14日 文化2年　7月20日 曇　（(だいぶ昔だろうが)蝦夷地ヱトロフで諸手足軽成田勝弥が病死・同人弟を同組足軽に、5月18日黒石の牢を破って出奔した男が訴状を持って江戸の松平某様宅に現れる・引き取る）
1805年　8月15日 文化2年　7月21日 曇　昨夜戌の刻より雨降　辰の刻頃止
1805年　8月16日 文化2年　7月22日 曇
1805年　8月17日 文化2年　7月23日 曇　卯の刻頃より雨時々降　　下から続く　　長柄組五十嵐寅助がヱトロフで病死・同人子を長柄の者に）
1805年　8月18日 文化2年　7月24日 曇　辰の刻頃より雨時々降 （(だいぶ昔?)ヱトロフで大組足軽林定次郎が病死・その子を同組足軽に、掃除小人大川村清吉?がヱトロフで病死・同人子を掃除小人に、　　上に続く
1805年　8月19日 文化2年　7月25日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止 （(だいぶ昔)御持鑓仲間平助が函館表で病死・同人子を御持鑓仲間に）
1805年　8月20日 文化2年　7月26日 晴
1805年　8月21日 文化2年　7月27日 曇　巳の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止
1805年　8月22日 文化2年　7月28日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今朝卯の刻頃止 （(だいぶ昔?)鳶の者事内?・掃除小人津軽野村豊吉が松前ヱトロフ詰の処病死・同人弟を鳶の者・子を掃除小人に）
1805年　8月23日 文化2年　7月29日 晴　（御賞）
1805年　8月24日 文化2年　8月1日 晴　（駒越組樋口村の男が亀を取り差上げる・御酒代鳥目1貫文を下し置かれる）
1805年　8月25日 文化2年　8月2日 晴　（百沢寺より苔実差上げる）
1805年　8月26日 文化2年　8月3日 曇　未の刻頃より雨降　申の刻頃止
1805年　8月27日 文化2年　8月4日 曇
1805年　8月28日 文化2年　8月5日 晴　（(だいぶ昔?)御城付き足軽渋谷八郎次が松前ヱトロフ詰の処病死・同人子を御城付き足軽に）
1805年　8月29日 文化2年　8月6日 晴　　下から続く　　、最勝院家来の角力が賭博で他出差留め、今暁七ツ時亀甲町で出火・類焼3軒潰れ家1軒・御救い米5俵宛、一昨6日夜四ツ半時油川村で出火・火元百姓慎み）
1805年　8月30日 文化2年　8月7日 曇　辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止　酉の刻頃より雨降　夜に入　　下から続く　　・当年は5月4日植付8月2日鎌入その間87日・去当年引合い7日遅く節に引合い1日早い　　上に続く
1805年　8月31日 文化2年　8月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる・5俵中1俵は高岡に4俵は江戸へ差登す・去年は5月朔日植付7月21日鎌入その間80日　　上に続く

1805年　9月1日 文化2年　　8月9日 晴
1805年　9月2日 文化2年　　8月10日 曇　昨夜中時々雨降
1805年　9月3日 文化2年　　8月11日 曇　昨夜亥の刻頃少々雨降　即刻止
1805年　9月4日 文化2年　　8月12日 曇　午の刻頃より時々雨降　夜に入
1805年　9月5日 文化2年　　8月13日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜に入　(鉄砲町?の男切腹・死亡)
1805年　9月6日 文化2年　　8月14日 曇　昨夜より之雨今朝辰の刻頃止ム
1805年　9月7日 文化2年　　8月15日 晴
1805年　9月8日 文化2年　　8月16日 曇　巳の刻頃より時々雨降　夜に入　未の刻頃より雷鳴
1805年　9月9日 文化2年　　8月17日 曇　昨夜より之雨巳の刻頃止ム
1805年　9月10日 文化2年　　8月18日 曇　巳の刻頃より雨降　未の刻頃止ム
1805年　9月11日 文化2年　　8月19日 曇
1805年　9月12日 文化2年　　8月20日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止ム
1805年　9月13日 文化2年　　8月21日 曇　巳の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ止ム
1805年　9月14日 文化2年　　8月22日 曇　卯の刻頃より時々雨降　(頃日天気不勝に付き丹後者の送り返しを仰せ付ける、石渡川が四歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる)
1805年　9月15日 文化2年　　8月23日 晴
1805年　9月16日 文化2年　　8月24日 曇　(松前ヱトロフ嶋に去年から詰合の内浮腫煩い等で病死するものが多い、詰合の勘定人も浮腫煩いで御国下がり)
1805年　9月17日 文化2年　　8月25日 曇　(駒越組国吉村の男が亀を取り差し上げる・御酒代鳥目1貫文下し置かれる、鉄砲師宇野某が病屋にて変死)
1805年　9月18日 文化2年　　8月26日 曇　巳の刻過ぎより雨降　未の刻頃止
1805年　9月19日 文化2年　　8月27日 晴
1805年　9月20日 文化2年　　8月28日 曇
1805年　9月21日 文化2年　　8月29日 曇
1805年　9月22日 文化2年　　8月30日 曇　卯の刻頃より雨時々降
1805年　9月23日 文化2年 閏8月1日　曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降
1805年　9月24日 文化2年 閏8月2日　曇　巳の刻過ぎより雨時々降
1805年　9月25日 文化2年 閏8月3日　曇　午の刻過ぎ雷雨　即刻止　雨未の刻頃止　(野呂某の居宅焼失・火元御奉公遠慮)
1805年　9月26日 文化2年 閏8月4日　曇
1805年　9月27日 文化2年 閏8月5日　曇　(古懸不動尊御出汗・御神楽御祈祷を仰せ付ける、仙台の矢師が的矢10手代が1歩という・買う)
1805年　9月28日 文化2年 閏8月6日　曇　申の刻頃より雨降　夜に入
1805年　9月29日 文化2年 閏8月7日　曇　昨夜よりの雨今日におよひ時々降　今暁丑の刻頃地震少し　(去月鯵ヶ沢で米を積み込んだ御廻船に米差竹二本見つかる(米差とは?・なぜ御廻船の中にあるか考えよう:福眞))
1805年　9月30日 文化2年 閏8月8日　晴
1805年　10月1日 文化2年 閏8月9日　曇　(湯口村の男が亀取り差上げる・酒代青銅1貫文を下し置かれる)
1805年　10月2日 文化2年 閏8月10日 晴
1805年　10月3日 文化2年 閏8月11日 晴　(昨10日金木村で出火・類焼2軒・火元他村預け)
1805年　10月4日 文化2年 閏8月12日 曇　昨夜戌の刻頃小雨降　即刻止ム
1805年　10月5日 文化2年 閏8月13日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　頃日暑気強し
1805年　10月6日 文化2年 閏8月14日 曇　卯の刻頃雨　即刻止ム　(高岡献備の初鮭2尺御台所頭より差し出す、油川組津軽坂村で青森新町の子連れ男が縊死)
1805年　10月7日 文化2年 閏8月15日 じ
1805年　10月8日 文化2年 閏8月16日 曇　辰の刻過ぎより雨降　夜に入　今朝岩木山雪始めて見ユル　(10日出火の金木村の火元の他村預け免許)
1805年　10月9日 文化2年 閏8月17日 曇　昨夜よりの雨今日におよひ時々降　夜に入
1805年 10月10日 文化2年 閏8月18日 曇　昨夜よりの雨今日におよひ時々降　申の刻頃止　(外南御門江屋根銅葺替御入用積書申し上げ候……、岩木川出水・駒越渡場人馬往来差留める)
1805年 10月11日 文化2年 閏8月19日 晴　(在方で此の節時疫流行・御医者を派遣施薬)
1805年 10月12日 文化2年 閏8月20日 曇　(高直の御祝儀に酒田の本間某から柳樽1荷・鰹節1箱を御用所に差上げる、代官等に御賞、時疫流行の藤崎村に御医者派遣・施薬)
1805年 10月13日 文化2年 閏8月21日 曇　昨夜戌の刻より雷雨　今日におよひ辰の刻過ぎ雷止　巳の刻頃雨止ム　(藤崎組藤越村で27軒が時疫・郡所御米の内より15俵の拝借を申し付ける)
1805年 10月14日 文化2年 閏8月22日 曇　昨夜戌の刻頃雨降　即刻止ム　卯の刻過ぎ小雨降　即刻止ム　((事務処理の流れだろうか)私共より・私共江等の用語がある・この日記の筆者を暗示している)
1805年 10月15日 文化2年 閏8月23日 晴　　下から続く　　先年諸手足軽斎藤十助が松前で病死・子を新規召抱えたが病身・その弟を30俵2人扶持で諸手足軽に新規召抱え)
1805年 10月16日 文化2年 閏8月24日 晴　(8月中日々相場平均:金1両代112匁8分、先年諸手組足軽種市甚蔵が松前で病死・弟を新規召抱えたが病身・さらにその弟を20俵2人扶持で御城付足軽に召し抱える、　　上に続く
1805年 10月17日 文化2年 閏8月25日 曇　今暁子の刻頃雷鳴　即刻止　寅の刻頃より時々雨降
1805年 10月18日 文化2年 閏8月26日 晴
1805年 10月19日 文化2年 閏8月27日 快晴　(昨夜男牢死)
1805年 10月20日 文化2年 閏8月28日 晴　(松前表見分の大目付蒔苗市兵衛等に御賞)
1805年 10月21日 文化2年 閏8月29日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降
1805年 10月22日 文化2年　　9月1日 曇　昨夜戌の刻頃雨降　則刻止
1805年 10月23日 文化2年　　9月2日 曇　午の刻頃雨降　即刻止　(勘定奉行申し出で候:南鐐25両御常用……)
1805年 10月24日 文化2年　　9月3日 曇　午の刻過ぎより雨降　申の刻頃止
1805年 10月25日 文化2年　　9月4日 晴　今暁丑の刻頃より雨降　寅の刻頃止
1805年 10月26日 文化2年　　9月5日 晴　　下から続く　　しめた夫は自分の女房をそのままにしたのは未練の致し方として戸〆)
1805年 10月27日 文化2年　　9月6日 曇　(4月20日夜広須組桃井村で不義の女に30鞭の所を女だから15鞭と里元引き取り・残り鞭数は親類共が金で払う?、仲立ちをした女に9鞭、不義相手を打擲し死亡に至ら　　上に続く
1805年 10月28日 文化2年　　9月7日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止
1805年 10月29日 文化2年　　9月8日 曇　未の刻過ぎ雨降　則刻止ム
1805年 10月30日 文化2年　　9月9日 晴
1805年 10月31日 文化2年　　9月10日 晴

1805年　11月1日 文化2年　　9月11日 曇　午の刻過ぎより雨降　未の刻頃雷鳴　申の刻過ぎ少し地震　即刻雨止
1805年　11月2日 文化2年　　9月12日 曇
1805年　11月3日 文化2年　　9月13日 曇　巳の刻頃より小雨降　即刻止
1805年　11月4日 文化2年　　9月14日 晴　(昨夜五時過ぎ下土手町で出火・類焼4軒・火元入寺の上慎み、昨夜の早鐘が遅くなり矢倉番を呵置く)
1805年　11月5日 文化2年　　9月15日 晴　(諸手三番組警固佐々木勘兵衛が松前箱館で病死・子を諸手足軽に新規召抱え)
1805年　11月6日 文化2年　　9月16日 曇　巳の刻頃より雨降　午の刻雷鳴　申の刻頃雨止
1805年　11月7日 文化2年　　9月17日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜に入
1805年　11月8日 文化2年　　9月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入
1805年　11月9日 文化2年　　9月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　(和徳町・茂森町の者共から変の節一手に相成り防ぎ方仕りたい旨申し出る:火消組のことかな:福眞)
1805年 11月10日 文化2年　　9月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ雪少し降　(8月4日夜久渡寺から木を盗み切った男に9鞭と居町徘徊是まで通り)
1805年 11月11日 文化2年　　9月21日 曇　(下土手町の出火による焼失の4人に御米5俵宛下し置かれる)
1805年 11月12日 文化2年　　9月22日 曇
1805年 11月13日 文化2年　　9月23日 曇
1805年 11月14日 文化2年　　9月24日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降
1805年 11月15日 文化2年　　9月25日 晴　(昨夜五つ時過ぎ御家中の木小屋焼失・御奉公遠慮)
1805年 11月16日 文化2年　　9月26日 曇　(去る12日土手町の火元の入寺慎みを免許)
1805年 11月17日 文化2年　　9月27日 晴
1805年 11月18日 文化2年　　9月28日 曇　卯の刻より雨降　夜に入
1805年 11月19日 文化2年　　9月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃霰降　(高杉組高屋・賀田村で時疫・施薬)
1805年 11月20日 文化2年　　9月30日 曇　昨夜中雪少し降　今日に及ぶ　時々降
1805年 11月21日 文化2年　　10月1日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　一寸程積
1805年 11月22日 文化2年　　10月2日 晴　(江戸柳島御屋敷御殿此の度新規御取建が皆出来、江戸の学館暫くの内休業を去月(閏8月)23日に口達、当6月ラシヨア人の由にてヱトロフ嶋の内シヘトロ江着岸)
1805年 11月23日 文化2年　　10月3日 曇　未の刻頃より雨降　夜に入
1805年 11月24日 文化2年　　10月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　(ヱトロフ詰の町医松野某が同所で病死・倅が20歳になるまで御手当て米1ヵ年俵子30俵(9日の記事で3斗俵)宛下し置かれる)
1805年 11月25日 文化2年　　10月5日 曇　昨夜亥の刻頃雨降　即刻止
1805年 11月26日 文化2年　　10月6日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　夜に入
1805年 11月27日 文化2年　　10月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃雪少し降　(去る5日夜駒越組杉ヶ沢村で出火・木小屋と萱乳焼失・火元慎み)
1805年 11月28日 文化2年　　10月8日 曇　昨夜中雪降　今朝三寸程積　今日時々降　(新酒値段1升に付き1文目4分とする)
1805年 11月29日 文化2年　　10月9日 曇
1805年 11月30日 文化2年　　10月10日 曇　今暁丑の刻より雨降　今日時々降　(一昨7日夜常盤組俵升村で出火・火元高無村預け)
1805年　12月1日 文化2年　　10月11日 曇　今日雪少し降
1805年　12月2日 文化2年　　10月12日 曇
1805年　12月3日 文化2年　　10月13日 快晴　(和徳町の湯屋で衣類を盗んだ大間越町同心警護の四男に3鞭と大間越の兄預け他出差留め、盗人の宿をした男に3鞭居町徘徊是まで通り)
1805年　12月4日 文化2年　　10月14日 晴
1805年　12月5日 文化2年　　10月15日 晴
1805年　12月6日 文化2年　　10月16日 曇　辰の刻過ぎより時々雨降
1805年　12月7日 文化2年　　10月17日 曇　昨夜中雪降　今日に及ぶ　弐寸程積　今日時々降　(今暁七つ時過ぎ和徳町で小火・火元戸〆)
1805年　12月8日 文化2年　　10月18日 晴
1805年　12月9日 文化2年　　10月19日 曇　辰の刻過ぎより雨降　午の刻頃止
1805年 12月10日 文化2年　　10月20日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今暁寅の刻過ぎ止　午の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止
1805年 12月11日 文化2年　　10月21日 晴　昨夜中雪少し降　(外南御門御修復・御家老等見分、宮川某仕込味噌当年値段:10文目代に付き目方6貫200目)
1805年 12月12日 文化2年　　10月22日 曇　(9月23日公儀御用の青森の天当船が東風で破船、此の度御取建の揚り屋出来)
1805年 12月13日 文化2年　　10月23日 曇　辰の刻頃小雨降　即刻止
1805年 12月14日 文化2年　　10月24日 曇
1805年 12月15日 文化2年　　10月25日 曇
1805年 12月16日 文化2年　　10月26日 曇
1805年 12月17日 文化2年　　10月27日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　終日降　夜に入　(岩木川出水・駒越川渡場今朝より人馬往来差留める)　　下から続く　　御定役引・平米23文目3分5厘6毛・金1両109匁5分)
1805年 12月18日 文化2年　　10月28日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止　(当新穀1俵一番相場:弘前23文目2分2厘・青森28文目5分8厘・鰺ヶ沢21文目8分7厘・3ヶ所平均24文目5分5厘6毛内1文目2分　　上に続く
1805年 12月19日 文化2年　　10月29日 曇　雪少々降
1805年 12月20日 文化2年　　10月30日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積
1805年 12月21日 文化2年　　11月1日 曇　(猿楽配当米というものがあって高直し分を払わなければならないらしいのだ、江戸で御徒4人が盗み・3人が出奔・この他にも出奔者多い)
1805年 12月22日 文化2年　　11月2日 曇　(去月29日小泊村の類族長助の従弟が病死・死骸等に別状なし)
1805年 12月23日 文化2年　　11月3日 晴　(多分盗み杣を山役人に見つかり賄賂を渡した金木組高根村の4人に過料1貫文宛・庄屋等にも戸〆)　　下から続く　　面目を失うとクレームが付く)
1805年 12月24日 文化2年　　11月4日 曇　申の刻過ぎ雨降　即刻止　(例年の通り鴻池某に一粒金丹20粒・奇応丸?50粒下し置かれる、江戸廻米を津軽屋江3が2菊屋江3が1としたら菊屋から五分五分でなければ　　上に続く
1805年 12月25日 文化2年　　11月5日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々降　(去月13日夜内間部後潟勤番が四戸橋村前浜で米11俵等を背負い通る者を発見・追ったが逃げ去る・取り押さえた品物は勤番に下し置かれる)
1805年 12月26日 文化2年　　11月6日 晴
1805年 12月27日 文化2年　　11月7日 曇
1805年 12月28日 文化2年　　11月8日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　卯の刻頃止　辰の刻より雪時々降
1805年 12月29日 文化2年　　11月9日 曇
1805年 12月30日 文化2年　　11月10日 曇　午の刻頃より雨時々降
1805年 12月31日 文化2年　　11月11日 曇　今暁丑の刻過ぎ地震少し　卯の刻過ぎより雪時々降

1806年　1月1日 文化2年　11月12日 曇 昨夜中雪降　今朝に及ぶ　弐寸程積
1806年　1月2日 文化2年　11月13日 曇
1806年　1月3日 文化2年　11月14日 曇 昨夜中雪降　今朝に及ぶ　七寸程積　今日時々降　夜に入 （2斗入りの酒樽には1斗8升しか入らない理由が書いてある、博打の席に加わった足軽警固に慎み）
1806年　1月4日 文化2年　11月15日 曇 昨夜中より雪　今日に及ぶ　時々降　頃日の雪一尺余積　寒冷強し （尾崎組の竹守等に御賞、油川組米留役下役が夏井田村前浜で男発見・米12俵を投げ逃亡　　欄外(*)に続く
1806年　1月5日 文化2年　11月16日 曇 昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　今日時々降
1806年　1月6日 文化2年　11月17日 曇 今日雪少々降　午の五刻寒に入 （当月朔日より15日まで平均米値段：1俵21文目3分6厘、一昨15日昼駒越組大秋村で建家1軒焼失・火元村預け、追放者の立帰りほう助者共に戸〆）
1806年　1月7日 文化2年　11月18日 曇
1806年　1月8日 文化2年　11月19日 晴
1806年　1月9日 文化2年　11月20日 晴
1806年　1月10日 文化2年　11月21日 晴
1806年　1月11日 文化2年　11月22日 曇
1806年　1月12日 文化2年　11月23日 曇
1806年　1月13日 文化2年　11月24日 晴
1806年　1月14日 文化2年　11月25日 晴 （当月17日暮れ六つ時頃より翌18日朝六つ時頃まて早川口より残らず氷張る、増館組下十川村の山守が風返り木3本を盗み取る・過料銭1貫文・庄屋は戸〆10日）
1806年　1月15日 文化2年　11月26日 曇 今暁丑の刻頃より雨降　今日時々降
1806年　1月16日 文化2年　11月27日 曇 雪少し降
1806年　1月17日 文化2年　11月28日 曇 (横内組久栗坂村の山で木が大量に切られている・村中の者どもに過料銭63貫360文目・庄屋には戸〆30日）
1806年　1月18日 文化2年　11月29日 曇 昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　今日時々降
1806年　1月19日 文化2年　11月30日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　頃日寒気強し （昨29日夜尾崎組石郷村で出火・建家と外馬屋焼失・火元百姓村預け）
1806年　1月20日 文化2年　12月1日 曇 (御賞、酒屋共が新酒をこれまで通りの値段と申し出る・1升を1文目3分に申し付ける）
1806年　1月21日 文化2年　12月2日 晴
1806年　1月22日 文化2年　12月3日 曇 未の刻頃より雨降　夜に入 （去月晦日金木組小泊村の類族長助の弟の女房が病死・死骸別状なし）
1806年　1月23日 文化2年　12月4日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入 （御献上の鱈を御家老が見分）
1806年　1月24日 文化2年　12月5日 曇 辰の刻頃より雪　夜に入 （江戸で盗みをした御徒2人等の3人を錠前つきの駕籠で御国下がり、去月18日諸手足軽警固佐々木某が松前箱館で病死・子を諸手足軽に新規召抱え）
1806年　1月25日 文化2年　12月6日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜に入
1806年　1月26日 文化2年　12月7日 曇
1806年　1月27日 文化2年　12月8日 曇 辰の刻頃より雪降　夜に入 （御賞）
1806年　1月28日 文化2年　12月9日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　三寸程積　今日時々降　夜に入 （御賞、勘当・盗みの男を乞食手に引き渡す）
1806年　1月29日 文化2年　12月10日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜に入 （御賞、私曲の勤めの鳶の者御給分召上げられ永の暇・見逃した（多分）同役も役下げ）
1806年　1月30日 文化2年　12月11日 曇 雪少し降 （人事異動、御賞）
1806年　1月31日 文化2年　12月12日 曇 雪時々降　夜に入
1806年　2月1日 文化2年　12月13日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　三寸程積　今日時々降　夜に入
1806年　2月2日 文化2年　12月14日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　五寸程積　今日時々降
1806年　2月3日 文化2年　12月15日 曇 雪時々降 （御賞）
1806年　2月4日 文化2年　12月16日 曇 去るの刻頃より雪降　夜に入 （乞食を留置きその盗物を取扱った青森町の男に6鞭と大場お構いの上青森町払い家財は母と妻子に・この乞食の博打に入るなど多数に罰）
1806年　2月5日 文化2年　12月17日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　七寸程積　今日時々降　夜に入 （御賞）
1806年　2月6日 文化2年　12月18日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜に入
1806年　2月7日 文化2年　12月19日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ　時々降　夜に入
1806年　2月8日 文化2年　12月20日 晴
1806年　2月9日 文化2年　12月21日 曇 （庄屋・百姓・高無・牢奉行・町同心等々に御賞）
1806年　2月10日 文化2年　12月22日 晴　　下から続く　　・町人の博打打ちには3鞭と三里四方追放等・大家五軒組合名主等にも罰、度々上陸し船中の者共より米銭借用等の御廻船上乗りを大組足軽から御持鑓仲間に）
1806年　2月11日 文化2年　12月23日 晴 今暁丑の刻頃雨降　寅の刻過ぎ止 （柾隠下げ売り払った山小屋頭に24鞭と五里四方追放・同類にも罰、去月9日博打の大組警固と掃除小人の御給分召し上げ永の暇　　上に続く
1806年　2月12日 文化2年　12月24日 晴
1806年　2月13日 文化2年　12月25日 晴
1806年　2月14日 文化2年　12月26日 晴 頃日暖和
1806年　2月15日 文化2年　12月27日 晴
1806年　2月16日 文化2年　12月28日 曇 昨夜亥の刻頃より雨降　申の刻頃より止 （御賞）
1806年　2月17日 文化2年　12月29日 曇 昨夜酉の刻頃より雨降　今日時々雪降　夜に入
1806年　2月18日 文化3年　正月1日　曇 昨夜よりの雪今朝に及ぶ　三寸程積　時々雪降
1806年　2月19日 文化3年　正月2日　曇 今日時々雪降
1806年　2月20日 文化3年　正月3日　晴 （御吉礼金御金奉行が持参御用所に差し出す）
1806年　2月21日 文化3年　正月4日　曇 今日終日雪降 （江戸で御家中100石に付き5両の御手当を申し付ける、江戸で御賞）
1806年　2月22日 文化3年　正月5日　曇 今日時々雪降
1806年　2月23日 文化3年　正月6日　曇
1806年　2月24日 文化3年　正月7日　晴
1806年　2月25日 文化3年　正月8日　晴
1806年　2月26日 文化3年　正月9日　晴
1806年　2月27日 文化3年　正月10日　曇 今日時々雪降
1806年　2月28日 文化3年　正月11日　晴
(*) ・米は担当の米留役・下役に下し置かれる）

1806年　3月1日 文化3年 正月12日　晴
1806年　3月2日 文化3年 正月13日　曇　今日時々雪降
1806年　3月3日 文化3年 正月14日　曇　今日時々雪降　(江戸で多数に御賞)
1806年　3月4日 文化3年 正月15日　晴
1806年　3月5日 文化3年 正月16日　晴
1806年　3月6日 文化3年 正月17日　曇　今日時々雪降
1806年　3月7日 文化3年 正月18日　曇　今日申の刻頃小雨降　即刻止ム
1806年　3月8日 文化3年 正月19日　曇　(下土手町の借家の男が白銀町御堀で水死)
1806年　3月9日 文化3年 正月20日　曇　昨夜雪降　今朝に及ぶ　弐寸程積ル
1806年　3月10日 文化3年 正月21日　曇　(人相書き)
1806年　3月11日 文化3年 正月22日　晴
1806年　3月12日 文化3年 正月23日　曇　今日午の刻過ぎより時々雨降
1806年　3月13日 文化3年 正月24日　曇　(一昨22日の昼駒越組百沢村で出火・隣家も類焼・火元他村預け)
1806年　3月14日 文化3年 正月25日　曇　今日辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム
1806年　3月15日 文化3年 正月26日　晴　今日暖和
1806年　3月16日 文化3年 正月27日　快晴　(21日までに十三潟が残らず明ける、本年の御廻船は55艘位・順番ではない適切な人選を依頼している)
1806年　3月17日 文化3年 正月28日　曇　今日巳の刻頃雨降　(昨夜上木作村で出火・火元村預け)
1806年　3月18日 文化3年 正月29日　曇　今日雪降
1806年　3月19日 文化3年 正月30日　晴
1806年　3月20日 文化3年　2月1日 晴
1806年　3月21日 文化3年　2月2日 晴
1806年　3月22日 文化3年　2月3日 曇　昨夜中雪降　今朝に及ぶ　三寸程積　今日時々降
1806年　3月23日 文化3年　2月4日 晴
1806年　3月24日 文化3年　2月5日 晴
1806年　3月25日 文化3年　2月6日 曇　昨夜中雪降　三寸程積
1806年　3月26日 文化3年　2月7日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　午の刻頃地震強
1806年　3月27日 文化3年　2月8日 曇　今日卯の刻過ぎより雪降　午の刻頃雨　即刻止ム
1806年　3月28日 文化3年　2月9日 曇　昨夜中雪少し降　今日時々降　辰の刻過ぎ地震少し　(去る5日の昼広須組沖善津村で出火・火元村預け)
1806年　3月29日 文化3年　2月10日 曇
1806年　3月30日 文化3年　2月11日 曇　今日雪少し降
1806年　3月31日 文化3年　2月12日 曇
1806年　4月1日 文化3年　2月13日 曇　今日申の刻頃小雨降　即刻止ム　(無手形米を酒粕といい逃れようとした男に6鞭と居村徘徊是まで通り)
1806年　4月2日 文化3年　2月14日 曇　今日未の刻頃雪少し降
1806年　4月3日 文化3年　2月15日 曇
1806年　4月4日 文化3年　2月16日 曇
1806年　4月5日 文化3年　2月17日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　(昨夜より岩木川出水・人馬往来差留める)
1806年　4月6日 文化3年　2月18日 曇　昨夜中雪少し降　今日時々降　(石渡川が4歩半の出水・両船とも往来相なり兼ねる)
1806年　4月7日 文化3年　2月19日 晴
1806年　4月8日 文化3年　2月20日 晴
1806年　4月9日 文化3年　2月21日 曇　(中田勇蔵・伊藤宇右衛門・福眞弥兵衛(量地分間作業ならびに教授方出精)等に御賞)
1806年　4月10日 文化3年　2月22日 晴　今朝霜強し　　下から続く　　・御給分召上げ五里四方追放)
1806年　4月11日 文化3年　2月23日 晴　(去る21日の夜赤石組関村で出火・関村嶋村の50軒余焼失、一昨年4月に砂原詰めからヱトロフ嶋に同11月に砂原に帰った勘定人加勢(御目見以上)公金処理が不届き　　上に続く
1806年　4月12日 文化3年　2月24日 曇
1806年　4月13日 文化3年　2月25日 晴
1806年　4月14日 文化3年　2月26日 曇　卯の刻頃より雨降　辰の刻頃止ム
1806年　4月15日 文化3年　2月27日 晴　(21日の関村嶋村の火災の家数44軒・土蔵2ヶ所・庵寺1ヶ所・建馬1疋斃)
1806年　4月16日 文化3年　2月28日 曇　今日巳の刻頃よりの雨時々降　夜に入　(岡村嶋村の火災に関する御手当て44軒に1俵宛、昨27日金木組嘉瀬村で出火・類焼とも5軒焼失・火元他村預け)
1806年　4月17日 文化3年　2月29日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止ム
1806年　4月18日 文化3年　2月30日 曇
1806年　4月19日 文化3年　3月1日 晴　(小泊村の塩釜の薪に檜の生木あり・不案内としても過料銭8貫300文・こんなの多数)
1806年　4月20日 文化3年　3月2日 晴　(去月晦日六半時金木組喜良市村で出火・類焼とも15軒・土蔵1ヶ所外馬屋等焼失・火元他村預け)
1806年　4月21日 文化3年　3月3日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(唐牛三左衛門の松前函館表交代に付き御時服下し置かれる)
1806年　4月22日 文化3年　3月4日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　夜に入　亥の刻頃止ム　(岩木川出水・駒越渡場の往来差留める)
1806年　4月23日 文化3年　3月5日 晴　今暁寅の刻頃地震少し
1806年　4月24日 文化3年　3月6日 晴　(昨5日夜九時過ぎ藤代組菟中村で出火・類焼とも2軒・火元百姓他村預け、金を返さない男の家屋敷御取上げ銀主に配分の他弘前町払い)
1806年　4月25日 文化3年　3月7日 晴
1806年　4月26日 文化3年　3月8日 晴
1806年　4月27日 文化3年　3月9日 晴　(去る7日金木組嘉瀬村・昨8日柏木組梅田村で出火・それぞれの火元村預け、盗杣の男に20鞭居村徘徊是迄通り・関係者にも罰)
1806年　4月28日 文化3年　3月10日 曇
1806年　4月29日 文化3年　3月11日 曇　今暁丑の刻雨少し降
1806年　4月30日 文化3年　3月12日 晴　(蝦夷地への渡海30人を80人に増やせというのかな?、一昨28日(江戸で)菊屋五郎右衛門(昨年半々でなければ面目を失うと頑張った男)を御廻米取扱方不埒として御蔵元御取放ち)

1806年　5月1日 文化3年　3月13日 曇 今暁丑の刻頃より雨降　酉の刻頃止ム （岩木川6歩の出水・駒越渡場差留める）
1806年　5月2日 文化3年　3月14日 晴
1806年　5月3日 文化3年　3月15日 晴
1806年　5月4日 文化3年　3月16日 晴
1806年　5月5日 文化3年　3月17日 晴
1806年　5月6日 文化3年　3月18日 曇 今日卯の刻過ぎ雨降　即刻止ム （昨17日金木組金木村で出火・火元村預け）
1806年　5月7日 文化3年　3月19日 曇 （御印紙に血を付けてしまった野内町同心警固に過料銀1枚と5日の戸〆、当年御払い仰せ付けられた葦の〆数(800石以上5〆・150石未満の御目見以上1〆半など)がある）
1806年　5月8日 文化3年　3月20日 曇 今暁丑の刻頃より雨降　時々降 （四之北御門御修復に付き当分の間往来差留める）
1806年　5月9日 文化3年　3月21日 晴
1806年　5月10日 文化3年　3月22日 晴
1806年　5月11日 文化3年　3月23日 晴 （隠し津出の青森町の男に15鞭と青森町払い家屋敷は妻子に・関係者にも罰）
1806年　5月12日 文化3年　3月24日 晴 （一昨22日広田組喰川村で出火・火元高無村預け、去る4日昼四時過ぎ(江戸で)大火・翌5日朝五時過ぎ鎮まる）
1806年　5月13日 文化3年　3月25日 晴 （昨24日猿賀組尾上村で出火・類焼22軒・火元高無他村預け）
1806年　5月14日 文化3年　3月26日 曇
1806年　5月15日 文化3年　3月27日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降　戌の刻頃止ム （御旗組警固の妹が外瀬村の井戸に入り変死）
1806年　5月16日 文化3年　3月28日 晴
1806年　5月17日 文化3年　3月29日 曇
1806年　5月18日 文化3年　4月1日 晴 （去る24日尾上村火災の焼失21軒と潰れ家2軒に同村の和合米と称する備米(500俵余)から150俵を渡す）
1806年　5月19日 文化3年　4月2日 曇
1806年　5月20日 文化3年　4月3日 晴 （親が出奔した御中小姓に永の暇・家財を引き取れば屋敷奉行に渡す）
1806年　5月21日 文化3年　4月4日 晴
1806年　5月22日 文化3年　4月5日 晴 今朝霜強し
1806年　5月23日 文化3年　4月6日 曇 巳の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル
1806年　5月24日 文化3年　4月7日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1806年　5月25日 文化3年　4月8日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1806年　5月26日 文化3年　4月9日 曇 （去月19日偽って米を運んだ男から馬と米を取り上げ6鞭居村徘徊是まで通り）
1806年　5月27日 文化3年　4月10日 曇 今日卯の刻頃より雨時々降
1806年　5月28日 文化3年　4月11日 曇
1806年　5月29日 文化3年　4月12日 晴 （来月26日ここ元(江戸)御発駕の旨仰せ出される、江戸で勘定奉行2人が御尋の御用ありとして御家中預け）
1806年　5月30日 文化3年　4月13日 晴
1806年　5月31日 文化3年　4月14日 曇
1806年　6月1日 文化3年　4月15日 曇 今日卯の刻頃より雨時々降
1806年　6月2日 文化3年　4月16日 曇 （山で不法(多分山の権利争い)を行った高杉組泉田村・楢木村の男2人に15鞭居村徘徊是まで通り、青女子村・横沢村・小友村・楢木村の同類10人にも3鞭などの罰）
1806年　6月3日 文化3年　4月17日 曇
1806年　6月4日 文化3年　4月18日 晴
1806年　6月5日 文化3年　4月19日 晴　下から続く　衛門は去年の御廻米御払い代金の内4300両程上納なし・当年米価下値にて融通差塞がり……、これに勘定奉行2人(4月12日の記述あり)が内々用立てていた）
1806年　6月6日 文化3年　4月20日 晴 （堀越組一ノ渡村支配狼森村で火災・類焼とも3軒・火元他村預け、無宿者を留め置いた青森の男に15日の戸〆、廻米管理怠った上乗り2人に30日の戸〆、菊屋五郎右　上に続く
1806年　6月7日 文化3年　4月21日 晴 （猿賀組八幡崎村で火災・類焼とも2軒・火元他村預け）
1806年　6月8日 文化3年　4月22日 晴 （昨夜九半時駒越町で出火・1軒焼失・火元菩提寺に入寺慎み）
1806年　6月9日 文化3年　4月23日 曇
1806年　6月10日 文化3年　4月24日 曇 辰の刻頃より雨降
1806年　6月11日 文化3年　4月25日 曇 未の刻頃より雨降
1806年　6月12日 文化3年　4月26日 曇 巳の刻頃雨少し降
1806年　6月13日 文化3年　4月27日 晴
1806年　6月14日 文化3年　4月28日 晴 （御修復中の四之北御門の往来差留めを解除）
1806年　6月15日 文化3年　4月29日 曇 申の刻頃より雨降　夜に入　戌の刻頃止ム
1806年　6月16日 文化3年　4月30日 曇 辰の刻頃より雨時々降 （御家中(御徒目付)の妻縊死、町払いから戻って盗みをした男に6鞭と乞食手渡し）
1806年　6月17日 文化3年　5月1日 曇 未の刻頃より雨降　申の刻頃止ム （江戸の勘定奉行(4月12・19日に記載あり)2人の身上召上げ・錠前つきの駕籠で御国許へ・揚屋に収容予定）
1806年　6月18日 文化3年　5月2日 曇 辰の刻頃より雨時々降 （去月26日三之御丸評定所に駆け込んだ男がある……）
1806年　6月19日 文化3年　5月3日 曇 今日亥の刻頃より雨少し降
1806年　6月20日 文化3年　5月4日 曇
1806年　6月21日 文化3年　5月5日 曇
1806年　6月22日 文化3年　5月6日 曇 巳の刻頃より雨降　申の刻頃止
1806年　6月23日 文化3年　5月7日 曇
1806年　6月24日 文化3年　5月8日 曇 （去月23日江戸で渡辺将監を御家老に・御付人料:金90両40人扶持、その他江戸で人事異動・御賞）
1806年　6月25日 文化3年　5月9日 曇 辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム （石渡川四歩半の出水・両船とも往来相成り申さず、刻印のない木を持って居たり倒木を保管していた者共6人に戸〆・禁足）
1806年　6月26日 文化3年　5月10日 曇 （4月9日青森出帆の御廻船が12日に南部佐井沖で沈む、4月25日江戸で蒔苗市兵衛を御用人に、道中金600両内300両は御小納戸役預け・一昨年は人馬も多く700両）
1806年　6月27日 文化3年　5月11日 曇 今朝卯の刻過ぎより雨降　未の刻頃止ム
1806年　6月28日 文化3年　5月12日 曇
1806年　6月29日 文化3年　5月13日 曇 未の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1806年　6月30日 文化3年　5月14日 曇 昨夜より之雨今朝に及ぶ　辰の刻頃止ム （内南御注進にて御家老・御用人・大目付が御広間江罷り出でる、屋形様が八つ半時山吹の間江御着座）

1806年　7月1日 文化3年　5月15日 曇
1806年　7月2日 文化3年　5月16日 曇　(石渡川が四歩半の出水・両船往来相成らず)
1806年　7月3日 文化3年　5月17日 曇　(日和揚げのご祈祷を仰せ付けられたいと代官達から申し入れあり・了)
1806年　7月4日 文化3年　5月18日 晴
1806年　7月5日 文化3年　5月19日 晴
1806年　7月6日 文化3年　5月20日 晴
1806年　7月7日 文化3年　5月21日 晴　頃日暑気強し
1806年　7月8日 文化3年　5月22日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　辰の刻過ぎ止ム
1806年　7月9日 文化3年　5月23日 晴　今日申の刻頃雨降　即刻地震少し
1806年　7月10日 文化3年　5月24日 晴　今日巳の刻頃地震少し　(駒越組田代村の男が亀を取り差上げる・御酒代青銅1貫文を下し置かれる)
1806年　7月11日 文化3年　5月25日 晴　頃日暑気強し
1806年　7月12日 文化3年　5月26日 晴
1806年　7月13日 文化3年　5月27日 晴
1806年　7月14日 文化3年　5月28日 晴
1806年　7月15日 文化3年　5月29日 曇　今日雨時々降
1806年　7月16日 文化3年　6月1日 曇　巳の刻頃より雨時々降
1806年　7月17日 文化3年　6月2日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降　(水油1升代銭4匁に申し付ける)
1806年　7月18日 文化3年　6月3日 曇　(五半時過ぎ御能初め夕七時相済む、駒越組五代村の百姓が亀を取り差上げる・御酒代として鳥目1貫文を下し置かれる)
1806年　7月19日 文化3年　6月4日 曇　(大坂御館入津軽屋彦兵衛(藩の廻船米商人?・扶持も貰っていたはず)が年々難渋・押籠まて仰せ付けられ居り候程の……、一間所内の元の江戸勘定奉行2人の兄弟等も役下げ)
1806年　7月20日 文化3年　6月5日 曇　未の刻頃雨降　雷鳴　同刻より雨降
1806年　7月21日 文化3年　6月6日 曇　申の刻頃雷鳴　(江戸御蔵元よりこれまで御廻米差下がり出帆33580石・公儀に書き上げた去年の御廻米32800石・過石780石:当時の減反又は廻米減政策だな)
1806年　7月22日 文化3年　6月7日 曇　午の刻過ぎより雨降　雷鳴
1806年　7月23日 文化3年　6月8日 曇　巳の刻頃雷鳴　則刻より雨降
1806年　7月24日 文化3年　6月9日 晴　(昨晩高杉組大森村で出火・軒通4・5間位焼失・否や取り鎮める・慎み申し付け置く、柾隠し売りの南部出生の杣子男を野内御関所口送返)
1806年　7月25日 文化3年　6月10日 晴
1806年　7月26日 文化3年　6月11日 晴
1806年　7月27日 文化3年　6月12日 晴
1806年　7月28日 文化3年　6月13日 晴
1806年　7月29日 文化3年　6月14日 曇
1806年　7月30日 文化3年　6月15日 曇　未の刻過ぎ雨降　酉の刻止ム　(福眞弥兵衛に勤料1人扶持増・御手廻になどの人事異動・銀1枚などの御賞(江戸からの御供下がりの人数が多い))
1806年　7月31日 文化3年　6月16日 曇　昨夜戌の刻頃雨降　則刻止ム　卯の刻頃より雨時々降　午の刻頃雷鳴
1806年　8月1日 文化3年　6月17日 曇　今暁寅の刻頃地震少し　辰の刻頃より雨時々降　(下沢弁右衛門を御目見以上御留守居組に)
1806年　8月2日 文化3年　6月18日 曇　辰の刻頃小雨降　即刻止ム　(諸組村々で稲作に虫付く・出穂催方後連(催し方遅れ?)に相成り候・明19日最勝院で虫除け五穀成就の御祈祷を差上げる)
1806年　8月3日 文化3年　6月19日 曇　(去る16日朝浪岡村の土蔵の屋根に雷火・早速取り鎮める、同16日昼頃金木新田豊岡村で男が雷死・女2人怪我、当江戸登らせ米は御小納戸米を除き64193石余……)
1806年　8月4日 文化3年　6月20日 曇　去るの刻頃より雨降　夜ニ入ル　(大鰐村加賀助より初穂差上げる、昨19日(後潟組)小橋村で出火・火元高無村預け)
1806年　8月5日 文化3年　6月21日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　(御用人毛内有右衛門を御留守居組頭に・角田弥六を郡奉行に等の人事異動)
1806年　8月6日 文化3年　6月22日 晴
1806年　8月7日 文化3年　6月23日 晴　(祢ふた流は屋敷内又は町内限り・猥ニ大造ニ祢ふた取拵候儀は堅く停止等の触れ、江戸で同僚からの盗みの御徒の御給分召上げ入牢・その仲間の廻関村の男に3鞭と同村住居)
1806年　8月8日 文化3年　6月24日 晴
1806年　8月9日 文化3年　6月25日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル　(石渡川4歩半の出水・両船とも往来成兼ねる)　下から続く　その他の悪人?に3鞭・6鞭所払いなどの罰)
1806年　8月10日 文化3年　6月26日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　(一昨24日赤石組関村で出火・類焼とも5軒・火元高無他村預け、姉婿宅から刀等を盗んだ男に9鞭以来弘前御構・盗み徒の男に3鞭　上に続く
1806年　8月11日 文化3年　6月27日 晴
1806年　8月12日 文化3年　6月28日 曇　時々雨降　(岩木川4歩半の出水)
1806年　8月13日 文化3年　6月29日 曇　時々雨降　(天気不勝に付き丹後者詮議)
1806年　8月14日 文化3年　7月1日 曇　今日時々雨降　(御手廻組頭足立又右衛門を御用人に等の人事異動)
1806年　8月15日 文化3年　7月2日 曇　未の刻頃より雨降　(御堀の浪除石の入手に苦労しているらしい・大鰐組鯖石村領・折笠村より新法師・国吉・如来瀬村などを探し回っている)
1806年　8月16日 文化3年　7月3日 晴　頃日残暑強し　(元江戸の勘定奉行2人を(浪岡組)相沢村に移し同所で蟄居・刃物は渡さない・筆墨を望んでも渡さない・面会に対面させない)
1806年　8月17日 文化3年　7月4日 曇　辰の刻頃小雨降　(御城付足軽・長柄の者とも兎角御持筒足軽望みの者不足にござ候間……:人事異動の前に希望を聞いている)
1806年　8月18日 文化3年　7月5日 曇　午の刻頃より雨降　即刻雷鳴ル　(先刻松森町に雷火・否や消す)
1806年　8月19日 文化3年　7月6日 曇　(藤崎組深味村で時疫流行・施薬)
1806年　8月20日 文化3年　7月7日 曇
1806年　8月21日 文化3年　7月8日 曇
1806年　8月22日 文化3年　7月9日 曇
1806年　8月23日 文化3年　7月10日 曇
1806年　8月24日 文化3年　7月11日 曇　(大組武頭の呼称の歴史?)
1806年　8月25日 文化3年　7月12日 曇　(御徒の横岡清吾などに御賞、当月2日今別支配大泊村の漁師と子供2人の船が前沖で漁中に行方不明)
1806年　8月26日 文化3年　7月13日 曇　巳の刻頃より雨時々降
1806年　8月27日 文化3年　7月14日 曇　(岩木川出水・駒越渡往来差留める)
1806年　8月28日 文化3年　7月15日 曇　午の刻頃より雨降
1806年　8月29日 文化3年　7月16日 曇　申の刻頃より雨時々降
1806年　8月30日 文化3年　7月17日 曇　昨夜より之雨今暁丑の刻頃止ム
1806年　8月31日 文化3年　7月18日 曇　申の刻頃小雨降　即刻止ム

1806年　9月1日 文化3年　7月19日 晴
1806年　9月2日 文化3年　7月20日 曇　申の刻過ぎ雨降　即刻風強し　(御初米五俵郡奉行より差上げる)
1806年　9月3日 文化3年　7月21日 曇　午の刻過ぎ小雨降　即刻止ム
1806年　9月4日 文化3年　7月22日 晴
1806年　9月5日 文化3年　7月23日 晴
1806年　9月6日 文化3年　7月24日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止ム　　下から続く　　去月16日金木新田豊岡村の男が田んぼで雷死・女房と妹も怪我)
1806年　9月7日 文化3年　7月25日 晴　(当12月5日(津軽為信)200年の御忌に就き長勝寺(高200石)・革秀寺(50俵)に永の御献備、21日後潟組石崎村沖で漁師が男2人(20日鯵ヶ沢出帆後破船)拾上げる、　　上に続く
1806年　9月8日 文化3年　7月26日 曇
1806年　9月9日 文化3年　7月27日 曇　(26日夜猿賀組八幡崎村で出火・焼失と潰れ家各1軒・火元高無村預け、当月20日鯵ヶ沢出帆の筑前船(1180石積受け)が三馬屋沖で破船・17人中6人が橋船で南部脇野沢に上陸)
1806年　9月10日 文化3年　7月28日 晴　(人事異動)
1806年　9月11日 文化3年　7月29日 晴
1806年　9月12日 文化3年　8月1日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　午の刻頃止ム　(人事異動)
1806年　9月13日 文化3年　8月2日 晴　(百沢寺が苔の実差し出す)
1806年　9月14日 文化3年　8月3日 晴
1806年　9月15日 文化3年　8月4日 曇
1806年　9月16日 文化3年　8月5日 晴
1806年　9月17日 文化3年　8月6日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　巳の刻止
1806年　9月18日 文化3年　8月7日 曇　戌の刻頃雨降　即刻止ム　(昨5日夜大光寺組中佐渡村で出火・類焼とも2軒と馬1疋焼失・火元百姓他村預け)
1806年　9月19日 文化3年　8月8日 晴　(公儀御尋者の人相書き)
1806年　9月20日 文化3年　8月9日 曇　巳の刻頃小雨降　即刻止ム
1806年　9月21日 文化3年　8月10日 晴　(松前ヱトロフで掃除小人藤崎村久米次郎が病死・格段の御沙汰をもって8歳の子供を新規召抱え)
1806年　9月22日 文化3年　8月11日 晴　(今日四之北御門皆出来、秋田刈和野の御本陣が類焼・御合力金願いあり・断って3両だけ渡したのかな?)
1806年　9月23日 文化3年　8月12日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル
1806年　9月24日 文化3年　8月13日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　(昨昼駒越組樋口村で出火・火元百姓村預け)
1806年　9月25日 文化3年　8月14日 曇　(御本城武者屯御門内より御白砂前御門まで小石を敷くよう命ずる)
1806年　9月26日 文化3年　8月15日 曇　(三之丸御物見所で八幡祭礼(高覧)・通御相済み否御帰城)
1806年　9月27日 文化3年　8月16日 晴
1806年　9月28日 文化3年　8月17日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1806年　9月29日 文化3年　8月18日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1806年　9月30日 文化3年　8月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　今朝岩木山ニ初て雪見ゆる　(土手町の男が女房を刺し殺し自分ものどに傷つける)
1806年　10月1日 文化3年　8月20日 曇
1806年　10月2日 文化3年　8月21日 晴
1806年　10月3日 文化3年　8月22日 曇
1806年　10月4日 文化3年　8月23日 晴　(今日釈奠御祭事に付き……)
1806年　10月5日 文化3年　8月24日 曇　未の刻頃雨降　夜ニ入ル
1806年　10月6日 文化3年　8月25日 晴　(初鮭2尺を御台所より差出す)　　下から続く　　庄屋等の関係者にも罰、桶用の寸甫(すんぽ)を盗んだ4人に12鞭等の鞭刑、山科中納言様より1000両借金の申入れ・断る)
1806年　10月7日 文化3年　8月26日 晴　申の刻頃小雨　即刻止ム　(賄賂を貰って柾隠し下げを内済とした米留に21鞭と三里四方追放・家屋敷等は妻子に下し置かれる、柾隠し下げ男に21鞭と三里四方追納、　　上に続く
1806年　10月8日 文化3年　8月27日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1806年　10月9日 文化3年　8月28日 曇　午の刻頃より雨降　(一粒金丹5剤調合を仰せ付ける)
1806年 10月10日 文化3年　8月29日 曇　昨夜よりの雨今朝に及ぶ　時々降　(6月27日に博打をした男6人に(5月にも捕まっており)3鞭と三里四方追放など)
1806年 10月11日 文化3年　8月30日 晴
1806年 10月12日 文化3年　9月1日 曇
1806年 10月13日 文化3年　9月2日 曇
1806年 10月14日 文化3年　9月3日 晴
1806年 10月15日 文化3年　9月4日 曇
1806年 10月16日 文化3年　9月5日 曇　申の刻頃雨少し降
1806年 10月17日 文化3年　9月6日 晴
1806年 10月18日 文化3年　9月7日 曇　申の刻過ぎより雨降　則刻雷鳴雨　夜ニ入ル
1806年 10月19日 文化3年　9月8日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1806年 10月20日 文化3年　9月9日 曇　時々雨降
1806年 10月21日 文化3年　9月10日 曇
1806年 10月22日 文化3年　9月11日 曇
1806年 10月23日 文化3年　9月12日 曇
1806年 10月24日 文化3年　9月13日 曇
1806年 10月25日 文化3年　9月14日 曇　(日和上の御祈祷を四社に仰付ける)
1806年 10月26日 文化3年　9月15日 晴
1806年 10月27日 文化3年　9月16日 晴
1806年 10月28日 文化3年　9月17日 晴　(去る14日増館組久井名村で出火・火元百姓村預け、御国奉公望みの者12人(主として佐竹領)が碇ヶ関口に着く)
1806年 10月29日 文化3年　9月18日 晴
1806年 10月30日 文化3年　9月19日 曇　昨18日金木村で出火・火元村預け
1806年 10月31日 文化3年　9月20日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　今朝初めて雪少し降　雨　夜ニ入ル

1806年　11月1日 文化3年　　9月21日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　（金1両に付き漆目形12貫目）
1806年　11月2日 文化3年　　9月22日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　卯の刻頃止　雪時々降
1806年　11月3日 文化3年　　9月23日 曇　昨夜雪降　今日に及ぶ　一寸程積ル
1806年　11月4日 文化3年　　9月24日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降　夜ニ入　（松前ヱトロフで病死の掃除小人にその弟を新規召抱え、一戸多仲が十二矢又五郎への改名願い・蹴られている）
1806年　11月5日 文化3年　　9月25日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム
1806年　11月6日 文化3年　　9月26日 晴　（近年お蔵廻り勤め方不埒な御蔵升取りの御給分召上げ・永の暇）
1806年　11月7日 文化3年　　9月27日 曇　酉の刻頃雨少々降　（御能五時過ぎ初まる）
1806年　11月8日 文化3年　　9月28日 曇　辰の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1806年　11月9日 文化3年　　9月29日 曇　雨時々降　（3日連続の高直し御祝儀の御能・高年者に御祝いも、岩木川出水・駒越渡し場の人馬往来差留める）
1806年 11月10日 文化3年　　10月1日 晴
1806年 11月11日 文化3年　　10月2日 晴　（29日の大風で高杉・藤代組で稲草飛散・流失）
1806年 11月12日 文化3年　　10月3日 晴
1806年 11月13日 文化3年　　10月4日 曇
1806年 11月14日 文化3年　　10月5日 曇　（駒越組葛原・新岡・宮地・五代村で時疫流行、医者・施薬）
1806年 11月15日 文化3年　　10月6日 曇　午の刻過ぎ雨時々降　申の刻過ぎ雪少し降　（御堀土留石を当年より10ヵ年で400間宛行う計画・石を取る場所も記述、去月29日油川の強風で2人水死）
1806年 11月16日 文化3年　　10月7日 曇　午の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入
1806年 11月17日 文化3年　　10月8日 曇　今暁寅の刻過ぎ行き降　今日に及ぶ　（初雪に付き御機嫌伺いに罷り出でる、御家老津軽主水病死）
1806年 11月18日 文化3年　　10月9日 晴　昨夜雪降　三寸程積　今日時々雪降　夜入ル
1806年 11月19日 文化3年　10月10日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1806年 11月20日 文化3年　10月11日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　（去年松前ヱトロフ詰で当2月病死の足軽目付の若年の子を御給分30俵2人扶持に勤料10俵を加え新規召抱え、米俵を5寸ほど長く作れとのこと）
1806年 11月21日 文化3年　10月12日 曇　（寺院に下し置かれるようになった米の渡方（四ツ成とか三歩一引きとかの事）をどうするかもめている）
1806年 11月22日 文化3年　10月13日 曇　午の刻頃小雨時々降　（津軽主水の病死に関し幸之進え香典白銀30両、宮川某の味噌6貫500目の値段が10文目で御家中御目見以上の希望者に売貸）
1806年 11月23日 文化3年　10月14日 曇　雪時々降
1806年 11月24日 文化3年　10月15日 曇
1806年 11月25日 文化3年　10月16日 曇　雪時々降
1806年 11月26日 文化3年　10月17日 曇
1806年 11月27日 文化3年　10月18日 曇
1806年 11月28日 文化3年　10月19日 曇　辰の刻頃より雪降　夜ニ入ル
1806年 11月29日 文化3年　10月20日 曇　昨夜中雪降　今朝三寸程積ル　今日時々降
1806年 11月30日 文化3年　10月21日 曇　（高直関連等の御褒美（銀10両・7両・金300疋・鳥目2貫500文など）沢山、去る15日夜飯詰組金山村で稲1600束焼失・火元呵置く）
1806年　12月1日 文化3年　10月22日 曇
1806年　12月2日 文化3年　10月23日 曇　雪時々降
1806年　12月3日 文化3年　10月24日 曇　雪時々降
1806年　12月4日 文化3年　10月25日 曇　（荷打ち米引上げの十歩一は引上げの者にお手当て、当新穀初相場:御払い米1俵に付き22文目5分）
1806年　12月5日 文化3年　10月26日 曇　雨時々降
1806年　12月6日 文化3年　10月27日 曇
1806年　12月7日 文化3年　10月28日 晴　（西浜巡行関連の御褒美）
1806年　12月8日 文化3年　10月29日 曇　今日雨時々降　（御慰の御囃子）
1806年　12月9日 文化3年　10月30日 曇　雪時々降　夜ニ入ル　（石渡川が4歩半余の出水・両船とも往来相成り申さず）
1806年 12月10日 文化3年　　11月1日 曇　昨夜雪少々降　（人事異動）
1806年 12月11日 文化3年　　11月2日 曇
1806年 12月12日 文化3年　　11月3日 曇　雪時々降　（学校から盗みの御城付き足軽の給分召上げ・入牢）
1806年 12月13日 文化3年　　11月4日 晴　（剣術高覧）
1806年 12月14日 文化3年　　11月5日 曇　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル　亥の刻過ぎ雷鳴　（造酒屋共が酒1升に付き1文目5分に申し出る・1文目3分5厘に小売の儀は1合8文ツツに申し付ける）
1806年 12月15日 文化3年　　11月6日 曇
1806年 12月16日 文化3年　　11月7日 晴　（剣術・和術等高覧）
1806年 12月17日 文化3年　　11月8日 曇
1806年 12月18日 文化3年　　11月9日 晴
1806年 12月19日 文化3年　11月10日 曇　時々雪降　（鯵ヶ沢より初鱈1本）
1806年 12月20日 文化3年　11月11日 曇　時々雪降　（人事異動）
1806年 12月21日 文化3年　11月12日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1806年 12月22日 文化3年　11月13日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　時々降　　下から続く　　金1両に付き115文目5分）
1806年 12月23日 文化3年　11月14日 曇　（剣術高覧、一番相場米1俵:弘前28文目2分5厘3毛・青森31文目5分・鰺沢27文目・三ヶ所平均28文目9分1厘7毛（1文2分が御定め引）・（平米は）27文目7分1厘7毛、　　上に続く
1806年 12月24日 文化3年　11月15日 晴
1806年 12月25日 文化3年　11月16日 晴
1806年 12月26日 文化3年　11月17日 晴
1806年 12月27日 文化3年　11月18日 曇
1806年 12月28日 文化3年　11月19日 曇　雪時々降　夜ニ入ル
1806年 12月29日 文化3年　11月20日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降
1806年 12月30日 文化3年　11月21日 晴　（隠小売酒の4人に過料銭50目・五人組などにも罰、早道の倅が寺に盗み・青森町同心が召捕り入牢）
1806年 12月31日 文化3年　11月22日 曇　雪時々降　夜ニ入　（去月晦日大風で三厩村前浜に破船・海死の者共流れ寄せる）

1807年　1月1日 文化3年　11月23日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降 夜ニ入ル
1807年　1月2日 文化3年　11月24日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降 (剣術高覧)
1807年　1月3日 文化3年　11月25日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降
1807年　1月4日 文化3年　11月26日 曇 昨夜より雪五寸程積ル 今朝に及ぶ 時々降
1807年　1月5日 文化3年　11月27日 曇 昨夜より之雪五寸程積ル 今日に及ぶ 時々降 夜ニ入ル
1807年　1月6日 文化3年　11月28日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降 夜ニ入 酉の刻小寒ニ入ル
1807年　1月7日 文化3年　11月29日 曇 時々雪降 夜ニ入ル
1807年　1月8日 文化3年　11月30日 曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ 時々降
1807年　1月9日 文化3年　12月1日 曇 時々雪降 (百石に100目の御手当て)
1807年　1月10日 文化3年　12月2日 曇 時々雪降 (例年の通り鴻池又右衛門に一粒金丹20粒寄奥?丸50粒下し置かれる)
1807年　1月11日 文化3年　12月3日 曇 時々雪降
1807年　1月12日 文化3年　12月4日 曇 時々雪降
1807年　1月13日 文化3年　12月5日 晴
1807年　1月14日 文化3年　12月6日 曇
1807年　1月15日 文化3年　12月7日 曇 時々雪降
1807年　1月16日 文化3年　12月8日 曇 雪少々降 (御家老衆に炭100俵流木150文目代・3組頭に40俵50目代・御用人中に60俵70目代・その他に御払い)
1807年　1月17日 文化3年　12月9日 晴
1807年　1月18日 文化3年　12月10日 曇 (掃除小人広田村要助が松前表で病死・同人の子が幼少であるが掃除小人に新規召抱え)
1807年　1月19日 文化3年　12月11日 曇
1807年　1月20日 文化3年　12月12日 曇 雪時々降 夜ニ入ル
1807年　1月21日 文化3年　12月13日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降 壱尺程積 夜ニ入ル
1807年　1月22日 文化3年　12月14日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々降 夜ニ入ル　下から続く　5斗余(で米を多く出してもなかなか追いつかない))
1807年　1月23日 文化3年　12月15日 曇 昨夜之雪今日に及ぶ 時々降 夜ニ入 (横岡清吾?など御徒45人に御手当て銀7両、昨年まで御蔵元より9390両余御借入・元来金1両が1石2・3斗が近来は下値で1石　上に続く
1807年　1月24日 文化3年　12月16日 曇 申の刻頃雪少々降 夜ニ入ル
1807年　1月25日 文化3年　12月17日 曇 昨夜より之雪一尺程積ル 今日時々降
1807年　1月26日 文化3年　12月18日 曇 午の刻頃雨降 未の刻過ぎより雪降 夜ニ入ル
1807年　1月27日 文化3年　12月19日 曇 雪時々降
1807年　1月28日 文化3年　12月20日 曇 雪時々降 (人事異動、代官・勘定人等に御賞(金200疋・銀9両・2貫文・銀8両・金300疋)
1807年　1月29日 文化3年　12月21日 曇 雪少し降 (当9月までに津軽坂村の猟師太兵衛と申す者が熊を3疋取る・御賞鳥目3貫文)
1807年　1月30日 文化3年　12月22日 曇
1807年　1月31日 文化3年　12月23日 曇 雪時々降 (御能四時過ぎ始まり夜五時相済み、酒1升を1文目4分とする)
1807年　2月1日 文化3年　12月24日 晴
1807年　2月2日 文化3年　12月25日 曇 雪時々降 昨今寒強し
1807年　2月3日 文化3年　12月26日 曇 雪時々降
1807年　2月4日 文化3年　12月27日 曇
1807年　2月5日 文化3年　12月28日 晴
1807年　2月6日 文化3年　12月29日 晴
1807年　2月7日 文化4年 正月1日　晴
1807年　2月8日 文化4年 正月2日　曇 雪時々降 夜ニ入
1807年　2月9日 文化4年 正月3日　曇 昨夜中ノ雪今朝ニ至 時々降 (御吉例金200両御金奉行より差し出す、今晩御謡い初め)
1807年　2月10日 文化4年 正月4日　晴 (例年通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1807年　2月11日 文化4年 正月5日　晴
1807年　2月12日 文化4年 正月6日　曇 雪時々降
1807年　2月13日 文化4年 正月7日　曇
1807年　2月14日 文化4年 正月8日　曇 (長勝寺に雪下に行った鳶の者が怪我・御手当て20匁下し置かれる)
1807年　2月15日 文化4年 正月9日　曇 雪時々降 夜ニ入
1807年　2月16日 文化4年 正月10日　曇 雪時々降
1807年　2月17日 文化4年 正月11日　曇 雪時々降 (人事異動)
1807年　2月18日 文化4年 正月12日　曇 雪時々降
1807年　2月19日 文化4年 正月13日　曇 雪時々降
1807年　2月20日 文化4年 正月14日　曇 雪時々降 夜ニ入
1807年　2月21日 文化4年 正月15日　曇 雪時々降 (人事異動)
1807年　2月22日 文化4年 正月16日　曇
1807年　2月23日 文化4年 正月17日　曇 (去る13日浦町組高田村で出火・家財と馬焼失・火元村預け)
1807年　2月24日 文化4年 正月18日　曇 今暁丑の刻頃雨降 即刻止
1807年　2月25日 文化4年 正月19日　曇 時々雪降 夜ニ入 (御用多く格別骨折り等で御賞?沢山(金200疋・金300疋・銀2枚・南鐐3片・金1両・南鐐5片)、渡辺将監が御役替御礼として御太刀馬代として銀1枚差上げる)
1807年　2月26日 文化4年 正月20日　曇 昨夜より之雪今朝に及ぶ 一尺程積 時々降
1807年　2月27日 文化4年 正月21日　曇 時々雪降 (人事異動)
1807年　2月28日 文化4年 正月22日　曇 昨夜雪少々降

1807年　3月1日 文化4年 正月23日　曇 未の刻頃雪吹強し
1807年　3月2日 文化4年 正月24日　曇 時々雪降
1807年　3月3日 文化4年 正月25日　曇 (両都当御廻船積登船数おおよそ46艘・上乗り46人と控えの4人の推薦を物頭に求める)
1807年　3月4日 文化4年 正月26日　曇 時々雪降 (松前表で和徳村の掃除小人が病死)
1807年　3月5日 文化4年 正月27日　快晴
1807年　3月6日 文化4年 正月28日　晴
1807年　3月7日 文化4年 正月29日　曇 申の刻より雨降　夜ニ入　戌の刻頃止 (館山某・長崎某が御手廻に役下げ)
1807年　3月8日 文化4年 正月30日　曇 巳の刻頃雷鳴　時々雨降
1807年　3月9日 文化4年　2月1日 晴 (人事異動)
1807年 3月10日 文化4年　2月2日 曇 昨夜雨降
1807年 3月11日 文化4年　2月3日 曇 時々雪降 (昨2日夜猿賀組八幡崎村で出火・類焼4軒潰れ家1軒・火元在医戸〆)
1807年 3月12日 文化4年　2月4日 曇 時々雪降
1807年 3月13日 文化4年　2月5日 曇 時々雪降
1807年 3月14日 文化4年　2月6日 曇 時々雪降 (去る4日夜浪岡村で出火・家焼失・火元鍛冶村預け)
1807年 3月15日 文化4年　2月7日 曇 時々雪降
1807年 3月16日 文化4年　2月8日 曇 時々雪降
1807年 3月17日 文化4年　2月9日 曇 時々雪降
1807年 3月18日 文化4年　2月10日 晴 巳の刻頃少シ地震
1807年 3月19日 文化4年　2月11日 曇 未の刻頃雨降 (東長町大橋下に赤子の死骸あり、隠し商売の町飛脚に過料50目・関係者にも罰)
1807年 3月20日 文化4年　2月12日 曇
1807年 3月21日 文化4年　2月13日 晴 昨夜亥の刻少々地震
1807年 3月22日 文化4年　2月14日 曇
1807年 3月23日 文化4年　2月15日 曇 時々雪降
1807年 3月24日 文化4年　2月16日 曇
1807年 3月25日 文化4年　2月17日 晴
1807年 3月26日 文化4年　2月18日 晴
1807年 3月27日 文化4年　2月19日 晴
1807年 3月28日 文化4年　2月20日 晴
1807年 3月29日 文化4年　2月21日 曇 時々雪降 (人事異動、今暁七つ時過ぎ鍛治町で出火・早速火消す・火元戸〆)
1807年 3月30日 文化4年　2月22日 曇
1807年 3月31日 文化4年　2月23日 曇 時々雪降　申の刻頃少し地震 (御能、岩木嵩硫黄山昨日出火・御威光を以ておおよそ火鎮まる)
1807年　4月1日 文化4年　2月24日 晴
1807年　4月2日 文化4年　2月25日 曇 時々雪降
1807年　4月3日 文化4年　2月26日 曇 時々雪降
1807年　4月4日 文化4年　2月27日 曇 雪少し降
1807年　4月5日 文化4年　2月28日 晴 (人事異動)
1807年　4月6日 文化4年　2月29日 晴 (年中平均2人扶持が米3石5斗4升(1日1升の354日分・1人扶持は1日5合となる:福眞)・俵に〆ると80(俵が抜けている)3斗4升・1俵に付き20匁値段で……)
1807年　4月7日 文化4年　2月30日 晴
1807年　4月8日 文化4年　3月1日 晴 (原子藤兵衛を御膳番に等の人事異動)
1807年　4月9日 文化4年　3月2日 晴
1807年 4月10日 文化4年　3月3日 晴 (去る27日までに十三潟が残らず船通路になる)
1807年 4月11日 文化4年　3月4日 晴
1807年 4月12日 文化4年　3月5日 晴 (御国奉公望みの者10人(4家)碇ヶ関に来る・そのように仰せ付ける)
1807年 4月13日 文化4年　3月6日 晴 (昨5日暮れ六半時猿賀組新山村で出火・外馬屋とも焼失・火元百姓村預け)
1807年 4月14日 文化4年　3月7日 晴 (去る5日昼四時頃後潟組奥内村で出火・類焼2軒建馬焼失・火元他村預け、石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来なり申さず)
1807年 4月15日 文化4年　3月8日 晴 (去る6日朝5時頃後潟組瀬辺地村で出火・類焼とも15軒土蔵1ヶ所外馬屋4軒等を焼失・火元他村預け、一昨6日夜五つ時鯵ヶ沢町で欠崩れ・米町の高沢寺が残らず押しつぶされる)
1807年 4月16日 文化4年　3月9日 晴 (昨8日夜浪岡村で出火・類焼2軒・火元百姓他村預け)
1807年 4月17日 文化4年　3月10日 晴
1807年 4月18日 文化4年　3月11日 晴 (去る3日に御男子様が生まれて大騒ぎ、岩木川出水・駒越渡場長船船往来差留める)
1807年 4月19日 文化4年　3月12日 晴
1807年 4月20日 文化4年　3月13日 晴
1807年 4月21日 文化4年　3月14日 晴 昨夜雨少々降 (岩木川出水・駒越渡し場馬船長船とも往来差留める、去る10日夜広須組下冨菟村で灰捨て場より火が出る・隣小屋1軒焼失・火元戸〆)
1807年 4月22日 文化4年　3月15日 晴
1807年 4月23日 文化4年　3月16日 晴 (同役に相談せずに御本城御金箱より150両ほどを持ち出した上納方御金奉行の身上召上げ生涯入牢・これに気付かなかった同役は御留守居組に役下げ)
1807年 4月24日 文化4年　3月17日 晴
1807年 4月25日 文化4年　3月18日 晴
1807年 4月26日 文化4年　3月19日 晴
1807年 4月27日 文化4年　3月20日 晴　下から続く　では19軒・1軒は御手山役所?)焼失・火元他村預け、去る19日夜後潟組野田村で出火・家数11軒御制札1ヶ所郷蔵1ヶ所等焼失・火元と建馬焼死)
1807年 4月28日 文化4年　3月21日 晴 (東光寺村より活鶴1羽差上げる・銭50目下し置かれる、去る19日油川村の鍛冶細工場から出火・火元慎み、19日暮頃大鰐組居土村で出火・都合20軒(4月3日の記述　上に続く
1807年 4月29日 文化4年　3月22日 晴 (三十郎様より川鱒1尺ツツ下し置かれる)
1807年 4月30日 文化4年　3月23日 晴

1807年　5月1日 文化4年　3月24日 曇　昨夜雨少し降
1807年　5月2日 文化4年　3月25日 曇　時々小雨降
1807年　5月3日 文化4年　3月26日 晴　(岩木川出水・駒越渡の馬船長船とも往来差留める)
1807年　5月4日 文化4年　3月27日 晴
1807年　5月5日 文化4年　3月28日 曇　昨夜小雨降　申ノ刻過ぎ雹降　雷鳴　酉ノ刻頃止　(人事異動、19日に焼死した野田村の火元の子を他村預け・御手当て米)
1807年　5月6日 文化4年　3月29日 晴
1807年　5月7日 文化4年　3月30日 晴
1807年　5月8日 文化4年　4月1日 快晴　(人事異動)
1807年　5月9日 文化4年　4月2日 晴
1807年　5月10日 文化4年　4月3日 晴　(去月6日瀬辺地の焼失15軒に御手当て御米1俵ツツ下し置かれる)
1807年　5月11日 文化4年　4月4日 晴　(一昨2日夜油川組安田村で出火・火元村預け)
1807年　5月12日 文化4年　4月5日 曇　(津坂村(津軽坂か)の猟師太兵衛が(この冬?)熊5疋刈り取る・熊皮1枚と鳥目5貫文下し置かれる)
1807年　5月13日 文化4年　4月6日 晴　(去る3日夜油川組石神村で灰捨て場より出火・外馬屋焼失・火元戸〆)
1807年　5月14日 文化4年　4月7日 晴　(屋形様が度々唐内坂に行っている)
1807年　5月15日 文化4年　4月8日 晴　(津軽屋三右衛門の番頭が来ているが昔ほど下にも置かない扱いではない)
1807年　5月16日 文化4年　4月9日 曇　時々雨降
1807年　5月17日 文化4年　4月10日 曇　(当御発駕を来月10日と仰せ出される)
1807年　5月18日 文化4年　4月11日 晴
1807年　5月19日 文化4年　4月12日 曇　(松前若狭守様がこの度西蝦夷地一円を召上げられ候に付き……)
1807年　5月20日 文化4年　4月13日 曇　時々雨降　(去る11日広須組善積村で火災・火元百姓村預け)
1807年　5月21日 文化4年　4月14日 曇　時々雨降
1807年　5月22日 文化4年　4月15日 曇　時々雨降　(人事異動)
1807年　5月23日 文化4年　4月16日 曇　時々雨降　(猟師共(大鰐組虹貝村の勘太・尾崎組切明村の衛門作・金木組板割沢村の藤八)より奥御用の熊肉・油差上げる・1貫文ツツ下し置かれる)
1807年　5月24日 文化4年　4月17日 曇　時々雨降　(一昨15日油川組新町野村で出火・火元高無村預け)
1807年　5月25日 文化4年　4月18日 曇　時々雨降　申の刻頃雷鳴
1807年　5月26日 文化4年　4月19日 曇　時々雨降　(去る17日赤石組赤石村で出火・類焼とはいえない程度に火が伸びる・火元村預け)
1807年　5月27日 文化4年　4月20日 曇　時々雨降
1807年　5月28日 文化4年　4月21日 曇　(昨夜五半時頃亀甲町で出火・木部屋等焼失・火元戸〆、諸手足軽工藤吉蔵?・長柄の佐々木優蔵・御持ち筒足軽の水木安五郎が松前表江渡海中海死・跡目を考慮する)
1807年　5月29日 文化4年　4月22日 晴
1807年　5月30日 文化4年　4月23日 曇　時々雨降　(今日御発駕祝儀の御料理事並びにお能を仰せ付けらる)
1807年　5月31日 文化4年　4月24日 曇
1807年　6月1日 文化4年　4月25日 晴　(唐牛三左衛門を勘定奉行兼役に等の人事異動)
1807年　6月2日 文化4年　4月26日 曇　時々雨降　(3月21日夜に馬2疋に米4俵を積んで脇本村の米留め所を忍び通り馬と米を捨てて逃げた男に馬2疋御取上げ6鞭居村払い)
1807年　6月3日 文化4年　4月27日 曇　午の刻頃雨降　即刻止
1807年　6月4日 文化4年　4月28日 快晴　(多数に御賞)
1807年　6月5日 文化4年　4月29日 曇　未の刻頃雨降　雷鳴　申の刻過ぎ止
1807年　6月6日 文化4年　5月1日 曇　(笠原八郎兵衛を松前箱館御用懸に等の人事異動、江戸当御廻船が七戸領鷹架濱?で破船・詳細不明)
1807年　6月7日 文化4年　5月2日 曇
1807年　6月8日 文化4年　5月3日 晴
1807年　6月9日 文化4年　5月4日 晴
1807年　6月10日 文化4年　5月5日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(人事異動)　下から続く　唐太島の沖に見えた・去月中旬頃までに一両度沖合いを艫通候)
1807年　6月11日 文化4年　5月6日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降　下から続く　番家に鉄砲打ち放ち越年番人共を彼の船に引立てた・同所に囲置いた品や船等に火を懸け出帆・11月下旬頃まで　上に続く
1807年　6月12日 文化4年　5月7日 晴　(昨13日(江戸のことで4月?)松前若狭守家来の言では:去る寅(去年)9月上旬頃異国船1艘が唐太嶋沖に見え同所クシュンコタンと申す所に橋舟で上陸・何の訳もなく　上に続く
1807年　6月13日 文化4年　5月8日 晴
1807年　6月14日 文化4年　5月9日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入　亥の刻頃止
1807年　6月15日 文化4年　5月10日 曇　(巳の刻過ぎ御馬上にて御発駕)　下から続く　惣左衛門が同所で病死)
1807年　6月16日 文化4年　5月11日 曇　昨夜子ノ刻頃雷鳴　即刻雨降　今朝に及ぶ　時々降　辰ノ刻頃止　(去ヱトロフ詰合いの御手弓足軽榊伴蔵・御持筒足軽八木橋林蔵・諸手足軽福士長八・鳶の者　上に続く
1807年　6月17日 文化4年　5月12日 曇　辰ノ刻頃より雨降　巳ノ刻頃止
1807年　6月18日 文化4年　5月13日 曇　巳ノ刻頃より雨時々降　申ノ刻過ぎ止
1807年　6月19日 文化4年　5月14日 曇
1807年　6月20日 文化4年　5月15日 曇　辰ノ刻頃雨少し降　即刻止
1807年　6月21日 文化4年　5月16日 晴
1807年　6月22日 文化4年　5月17日 晴
1807年　6月23日 文化4年　5月18日 晴
1807年　6月24日 文化4年　5月19日 晴　(昨夜四時頃小比内村で出火・火元百姓村預け)
1807年　6月25日 文化4年　5月20日 晴　(人事異動)
1807年　6月26日 文化4年　5月21日 曇　今暁寅ノ刻頃より雨降　午ノ刻頃止　(貴田十郎右衛門を箱館表渡海等の人事異動、秋田等8人の永々御国住居願いを許す、去る17日深浦沖を帆柱3本(4本の説も)の異国船か通る)
1807年　6月27日 文化4年　5月22日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(昨夜松前エトロフ嶋異国船鉄砲など打懸け兵乱れの趣ニ付き……、江戸表江今日付け即日立道中7日振りの早之御飛脚を差し立てられる)
1807年　6月28日 文化4年　5月23日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　時々降　申ノ刻過ぎ止　(蝦夷地派遣軍団の人事異動)
1807年　6月29日 文化4年　5月24日 曇
1807年　6月30日 文化4年　5月25日 曇　午の刻頃小雨　即刻止　(箱館渡海一番手出立、松前箱館に異国船相見え候の旨申出あり)

1807年　7月1日 文化4年　5月26日 曇 巳ノ刻頃より雨時々降 夜ニ入
1807年　7月2日 文化4年　5月27日 曇 昨夜よりノ雨今日に及ぶ 時々降 辰ノ刻頃止
1807年　7月3日 文化4年　5月28日 曇 辰ノ刻頃より時々雨 申ノ刻過ぎ止
1807年　7月4日 文化4年　5月29日 曇
1807年　7月5日 文化4年　5月30日 晴 (西蝦夷地への派遣人数:134人・者頭1侍5医師1足軽100人、11日青森港を出帆した手船2艘中1艘が12日に松前地サッカリ灘で破船・61人中足軽3人溺死・鉄砲100丁など海失)
1807年　7月6日 文化4年　6月1日 曇 未ノ刻過ぎ雨降 申ノ刻過ぎ止
1807年　7月7日 文化4年　6月2日 曇
1807年　7月8日 文化4年　6月3日 晴
1807年　7月9日 文化4年　6月4日 晴
1807年　7月10日 文化4年　6月5日 曇 申ノ刻過ぎより雨降 夜ニ入
1807年　7月11日 文化4年　6月6日 曇 昨夜よりノ雨今日に及ぶ 時々降 午ノ刻頃止
1807年　7月12日 文化4年　6月7日 晴
1807年　7月13日 文化4年　6月8日 曇 未の刻頃より小雨 申ノ刻過ぎ止
1807年　7月14日 文化4年　6月9日 曇 今暁丑ノ刻頃より雨降 申ノ刻頃止 (頃日天気不正に付き風雨順時の御祈祷を四社に仰せ付ける)
1807年　7月15日 文化4年　6月10日 晴
1807年　7月16日 文化4年　6月11日 晴
1807年　7月17日 文化4年　6月12日 晴 (異国船の報告:大きさ日本の石目で4000石くらい)　下から続く　異国船が鉄砲打ち懸ける・討ち死になどもあるらしい)
1807年　7月18日 文化4年　6月13日 曇 申の刻過ぎ雨降 夜ニ入 (公儀御達書:異国船が其の方領分近くに来ている・海岸近くに着たり候はば……(こっちからは手を出すなと読めるが:福眞)、去月ヱトロフに　上に続く
1807年　7月19日 文化4年　6月14日 曇 昨夜よりノ雨今日に及ぶ 時々降 午ノ刻過ぎ止 頃日朝夕涼し ((異国船騒動で騒がしくなり)屋形様今日御国元江の御暇仰せ出される)
1807年　7月20日 文化4年　6月15日 曇 巳ノ刻頃雨少し降 今日未ノ初刻土用ニ入
1807年　7月21日 文化4年　6月16日 曇 申ノ刻過ぎより雨降 酉ノ刻頃止 (当月6日出水・赤石組の田方に石砂等、先頃天気不正・五山に重き御祈祷を仰付ける、大坂御廻米は1800石・船2艘に鉛を300箇を追加して出す)
1807年　7月22日 文化4年　6月17日 曇 申ノ刻過ぎ雨降 夜ニ入
1807年　7月23日 文化4年　6月18日 曇 申ノ刻頃雷鳴 即刻より雨降 夜ニ入時々雷鳴 (黒石表より玉薬の拝借依頼・3文目玉200・3匁5分玉200・100目玉50などを渡す)
1807年　7月24日 文化4年　6月19日 曇 今暁丑の刻頃雷鳴強シ 昨夜よりノ雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入 亥ノ刻頃止
1807年　7月25日 文化4年　6月20日 曇 今暁丑ノ刻頃雷鳴 巳刻過ぎ雨降 申ノ刻頃止
1807年　7月26日 文化4年　6月21日 曇 巳ノ刻より雷時々鳴 即刻より雨降 夜ニ入 戌ノ刻頃止
1807年　7月27日 文化4年　6月22日 曇
1807年　7月28日 文化4年　6月23日 曇 巳ノ刻頃より雨時々降 申ノ刻過ぎ止
1807年　7月29日 文化4年　6月24日 晴 未ノ刻頃より雷度々鳴
1807年　7月30日 文化4年　6月25日 曇 午ノ刻過ぎより雷鳴 申ノ刻過ぎ雨少々降 即刻止 (祢ふた流の儀御目付触れ:御家中は屋敷内・町者町内限り・大きく作るな等)
1807年　7月31日 文化4年　6月26日 曇 巳ノ刻過ぎより雨時々降 夜ニ入
1807年　8月1日 文化4年　6月27日 曇 昨夜よりノ雨今朝に及ぶ 時々降 夜ニ入 亥ノ刻過ぎ止
1807年　8月2日 文化4年　6月28日 曇 卯ノ刻過ぎより雨時々降 申ノ刻頃止
1807年　8月3日 文化4年　6月29日 晴
1807年　8月4日 文化4年　7月1日 晴 (人事異動・骨折りに銀7枚ツツなどを下し置かれる、西蝦夷地リイシリ嶋江異国船乗込むとの報)
1807年　8月5日 文化4年　7月2日 曇
1807年　8月6日 文化4年　7月3日 曇
1807年　8月7日 文化4年　7月4日 曇 申ノ刻少々雨降 即刻止
1807年　8月8日 文化4年　7月5日 曇 午ノ刻過ぎ雨少し降 即刻止 (今暁七時頃新寺町で出火・庇通りの内少々焼く)
1807年　8月9日 文化4年　7月6日 晴 頃日暑気強し ((屋形様が)九ツ時過ぎ山吹之間え御着座、大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる)
1807年　8月10日 文化4年　7月7日 曇 今暁寅ノ刻頃より雨時々降 申ノ刻過ぎ止
1807年　8月11日 文化4年　7月8日 晴 昨夜戌ノ刻頃より雷鳴 丑ノ刻頃地震余程強し 午ノ刻頃雨降 即刻止
1807年　8月12日 文化4年　7月9日 晴
1807年　8月13日 文化4年　7月10日 晴
1807年　8月14日 文化4年　7月11日 晴
1807年　8月15日 文化4年　7月12日 晴 頃日残暑強し (昨夜九時大円寺で出火・本尊以外焼失?)
1807年　8月16日 文化4年　7月13日 曇 申ノ刻頃小雨 即刻止 戌ノ刻頃雷鳴 亥ノ刻頃より雷雨強し
1807年　8月17日 文化4年　7月14日 曇 昨夜よりノ雨今日に及ぶ 時々降 未ノ刻頃止
1807年　8月18日 文化4年　7月15日 晴 (松森町の男が江戸角力を雇い14日より興行・札銭1人に7分)
1807年　8月19日 文化4年　7月16日 晴
1807年　8月20日 文化4年　7月17日 晴
1807年　8月21日 文化4年　7月18日 晴
1807年　8月22日 文化4年　7月19日 曇 巳ノ刻頃より雨降 酉ノ刻頃止 (増館組吉野田村で仮子の子が外馬屋で変死・外馬屋の持ち主が出奔・人相書き:40歳せい5尺2寸位等)
1807年　8月23日 文化4年　7月20日 曇 午ノ刻頃より時々雨降 申ノ刻頃止
1807年　8月24日 文化4年　7月21日 晴
1807年　8月25日 文化4年　7月22日 晴
1807年　8月26日 文化4年　7月23日 曇 今暁丑ノ刻過ぎより小雨時々降 夜ニ入 (碇ヶ関村中の者共が御山で盗伐・過料として明年より3年間で小杉1000本を植えるよう・庄屋にも戸〆・役下げや御給分召上げ永の暇も)
1807年　8月27日 文化4年　7月24日 曇 午ノ刻過ぎ小雨 即刻止 (境内の杉を伐り売払った桜庭村八幡宮社司とその叔父等に戸〆20日と過料3年間に小杉100本の植付けなど)
1807年　8月28日 文化4年　7月25日 曇 今暁寅ノ刻頃より小雨時々降 辰ノ刻頃止
1807年　8月29日 文化4年　7月26日 晴 (ヱトロフで長柄の者太田要次郎が病死、当月4日鯵ヶ沢から3500俵積んで江戸に向かった紀州船が15日に御米8・900俵を荷打ち)
1807年　8月30日 文化4年　7月27日 晴 (6月7日異国船がソウヤより2里ほど沖に見える・翌朝には見えない)
1807年　8月31日 文化4年　7月28日 曇 巳ノ刻より時々雨降 夜ニ入

1807年　9月1日 文化4年　7月29日 晴
1807年　9月2日 文化4年　8月1日 曇　昨夜中雨時々降　即刻止　今日巳ノ刻頃小雨時々降　夜ニ入　子ノ刻頃止　(桜庭半兵衛を手廻組頭に等の人事異動、昨夜高杉組鼻和村で出火・火元村預け)
1807年　9月3日 文化4年　8月2日 曇　(岩木山苔実百沢寺より差し出す)
1807年　9月4日 文化4年　8月3日 晴
1807年　9月5日 文化4年　8月4日 晴　(去る秋唐太嶋で捕行者並びに先頃ヱトロフで連行された番人の内8人が返されたのか返す打診があったのか)
1807年　9月6日 文化4年　8月5日 曇　午ノ刻頃より雨降　申ノ刻過ぎ止
1807年　9月7日 文化4年　8月6日 曇　今暁寅ノ刻頃雨降　即刻止　申ノ刻頃より雨降　夜ニ入
1807年　9月8日 文化4年　8月7日 曇　今日時々雨降
1807年　9月9日 文化4年　8月8日 曇
1807年　9月10日 文化4年　8月9日 曇　巳ノ刻より雨降　午ノ刻頃止　時々降　夜ニ入
1807年　9月11日 文化4年　8月10日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降
1807年　9月12日 文化4年　8月11日 晴
1807年　9月13日 文化4年　8月12日 晴
1807年　9月14日 文化4年　8月13日 晴　(同役不和合・上司の指図を用いない御持筒足軽の御給分召し上げ永の暇)
1807年　9月15日 文化4年　8月14日 晴
1807年　9月16日 文化4年　8月15日 曇　辰ノ刻より雨降　夜ニ入　戌ノ刻頃止
1807年　9月17日 文化4年　8月16日 晴
1807年　9月18日 文化4年　8月17日 晴
1807年　9月19日 文化4年　8月18日 曇　卯ノ刻過ぎより時々雨降
1807年　9月20日 文化4年　8月19日 曇　今暁寅ノ刻時々雨降
1807年　9月21日 文化4年　8月20日 曇
1807年　9月22日 文化4年　8月21日 曇　巳ノ刻頃より小雨時々　申ノ刻頃止
1807年　9月23日 文化4年　8月22日 晴
1807年　9月24日 文化4年　8月23日 晴
1807年　9月25日 文化4年　8月24日 晴
1807年　9月26日 文化4年　8月25日 曇
1807年　9月27日 文化4年　8月26日 曇
1807年　9月28日 文化4年　8月27日 曇　今暁寅ノ刻頃小雨　即刻止
1807年　9月29日 文化4年　8月28日 曇　昨夜子ノ刻頃より時々雨降　今日時々降　未ノ刻頃止　(箱館表で御城付き足軽伊藤某が病死・子供が7歳であるが新規召抱え)
1807年　9月30日 文化4年　8月29日 曇　頃日西南ノ方ニ彗星ノ如キ星見ユル
1807年　10月1日 文化4年　8月30日 晴
1807年　10月2日 文化4年　9月1日 晴　(人事異動)
1807年　10月3日 文化4年　9月2日 晴　(御上下の際の御関札(丈2尺9寸8歩・幅8寸2歩)の大きさを丈3尺2寸・幅8寸5歩とする、当8月中金1両代118匁6分)
1807年　10月4日 文化4年　9月3日 曇　未ノ刻小雨降　則刻止　下から続く　ヱトロフ嶋の内ナイホと申す所江異国船大小2艘着岸・29日着シャナ表よりの飛脚では25日ナイホ番屋並びに蔵々焼払い　欄外(*)に続く
1807年　10月5日 文化4年　9月4日 晴　(釜蒭某を郡奉行へ等の人事異動)　下から続く　差遣わす、当4月ヱトロフ嶋の内シヘトロ(島の北端で戦場にならなかった)詰合いの弘前家中の報告:4月22日　上に続く
1807年　10月6日 文化4年　9月5日 晴　(去月4日江戸御廻米3500俵を積み鯵ヶ沢を出帆・15日下蝦夷地で荷打ちの紀州船が流着いた南部佐井浦における事務処理あり、ソウヤ詰230人・シャリ場所詰100人　上に続く
1807年　10月7日 文化4年　9月6日 晴
1807年　10月8日 文化4年　9月7日 曇　昨夜子ノ刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　申ノ刻頃止　(諸手足軽の子を詮議中揚屋入りとする)
1807年　10月9日 文化4年　9月8日 曇
1807年 10月10日 文化4年　9月9日 曇　未ノ刻頃より雨降　夜ニ入
1807年 10月11日 文化4年　9月10日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　時々降　今朝岩木山嵩雪初めて見る　(初鮭御台所より差上げる)
1807年 10月12日 文化4年　9月11日 曇
1807年 10月13日 文化4年　9月12日 晴
1807年 10月14日 文化4年　9月13日 曇　今朝霜強し　巳ノ刻頃雨降　則刻止
1807年 10月15日 文化4年　9月14日 晴
1807年 10月16日 文化4年　9月15日 晴　今朝霜強し
1807年 10月17日 文化4年　9月16日 曇　午ノ刻頃より雨　夜ニ入
1807年 10月18日 文化4年　9月17日 曇　巳ノ刻頃より時々雨降　夜ニ入
1807年 10月19日 文化4年　9月18日 曇　昨夜子ノ刻頃風強し　(今日二ノ丸御宝蔵より御貯金5000両差し出す、大鰐・尾崎組の御検見人に福眞弥兵衛あり)
1807年 10月20日 文化4年　9月19日 曇　午ノ刻頃より雨　酉ノ刻まて降
1807年 10月21日 文化4年　9月20日 曇　今日雨時々降　(津軽三十郎殿に3匁5分筒鉄砲20挺等を渡す)
1807年 10月22日 文化4年　9月21日 曇　卯ノ刻過ぎより雨時々降　申ノ刻頃雷鳴
1807年 10月23日 文化4年　9月22日 曇　辰ノ刻頃より雨時々降
1807年 10月24日 文化4年　9月23日 曇　未ノ刻頃雨降　即刻止
1807年 10月25日 文化4年　9月24日 曇　午ノ刻頃雨降　即刻止
1807年 10月26日 文化4年　9月25日 曇　(去月晦日米3625俵を積んで青森出帆の江戸廻船が当月9日荷打ち・14日南部鋤ヶ崎に入る)
1807年 10月27日 文化4年　9月26日 曇　卯ノ刻過ぎ霰降　雨時々降　午ノ刻過ぎ止
1807年 10月28日 文化4年　9月27日 晴
1807年 10月29日 文化4年　9月28日 曇　今暁寅ノ刻頃雨降　即刻止
1807年 10月30日 文化4年　9月29日 曇　(町同心千葉某が松前表で病死)
1807年 10月31日 文化4年　10月1日 晴　(当御廻船が上総の国沖合い・銚子濱で荷打ち・水船に)
(*)番人5人並びに村方の者引捕らえ乗船させたとしてシャナ表に兵を求められる・5月朔日病人を残して出立したが……)

1807年　11月1日 文化4年　　10月2日 晴　今朝霜強し
1807年　11月2日 文化4年　　10月3日 曇　辰ノ刻頃より雨時々降　夜ニ入　戌の刻頃雷鳴
1807年　11月3日 文化4年　　10月4日 晴
1807年　11月4日 文化4年　　10月5日 曇　午ノ刻頃より雨降　申ノ刻過止　（昨4日昼八時高杉組中別所村で出火・火元高無村預け）
1807年　11月5日 文化4年　　10月6日 曇　巳ノ刻頃雪少々降
1807年　11月6日 文化4年　　10月7日 曇　（当7月頃より大鰐組三ツ目内村で時疫・この節格別病人多い・御施薬200帖下されたく……・下す作業をする）
1807年　11月7日 文化4年　　10月8日 晴
1807年　11月8日 文化4年　　10月9日 曇　昨夜よりノ雨時々降　今朝に及ぶ　（味噌値段昨年どおり10匁代に付き目方6貫500目、箱館詰だった弘前藩の部隊が8月23日に福山に移っている）
1807年　11月9日 文化4年　10月10日 曇　巳ノ刻頃より時々雨降　夜ニ入　　下から続く　　江戸廻船中に2度宛遭難し荷打ち・破船をしている）
1807年 11月10日 文化4年　10月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申ノ刻頃止　（人事異動、石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来相成らず、鯵ヶ沢で3500俵を積込んだ紀州船・4000俵の江戸船が　　上に続く
1807年 11月11日 文化4年　10月12日 曇　午の刻過ぎ霰降　即刻止　（三十郎様より川鮭1尺ツツ下し置かれる）
1807年 11月12日 文化4年　10月13日 晴
1807年 11月13日 文化4年　10月14日 曇　昨夜戌ノ刻頃より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1807年 11月14日 文化4年　10月15日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　時々降　戌ノ刻頃風強し　今暁より雪少し降
1807年 11月15日 文化4年　10月16日 晴
1807年 11月16日 文化4年　10月17日 晴
1807年 11月17日 文化4年　10月18日 曇　今暁寅ノ刻頃より雨時々降　午ノ刻過ぎより止
1807年 11月18日 文化4年　10月19日 曇　今暁卯ノ刻頃より風強し　巳ノ刻過ぎより止　（石渡川4歩半の出水・昨夜より往来相成り申さず、報恩寺の十一面観音が御出汗）
1807年 11月19日 文化4年　10月20日 曇　辰ノ刻頃雪少々降　即刻止　（開発方御用の平沢三右衛門に勤料10俵増・御留守居組に等の人事異動）
1807年 11月20日 文化4年　10月21日 曇　今暁寅ノ刻頃より雪時々降　（初雪に付き御家老等がご機嫌伺い）
1807年 11月21日 文化4年　10月22日 曇
1807年 11月22日 文化4年　10月23日 曇
1807年 11月23日 文化4年　10月24日 曇
1807年 11月24日 文化4年　10月25日 晴
1807年 11月25日 文化4年　10月26日 晴　　下から続く　　羽州からの米がありお買い上げを見合わせたいとの通知が幕府からあり・今年は破船も多く藩の財政上もう一度売り込む）
1807年 11月26日 文化4年　10月27日 曇　巳ノ刻頃より時々雨降　（蝦夷地御用に出精の津軽屋三右衛門に御賞（銀10枚と御料理）、例年3000石・明年ばかり10000石が蝦夷地に御用米が売れるはずだったが　　上に続く
1807年 11月27日 文化4年　10月28日 晴　（多くの御家中に御賞、当新穀相場：米1俵に付き22匁5分）
1807年 11月28日 文化4年　10月29日 曇　辰ノ刻頃より雨降　巳ノ刻過ぎ晴る　（(前後の話はわからないが)米の値段が1俵に付き27匁立両替115文目（その直後に）1俵に付き28匁立両替115匁との記述あり）
1807年 11月29日 文化4年　　11月1日 曇　昨夜少々雪降　今朝に及ぶ　時々降
1807年 11月30日 文化4年　　11月2日 曇　昨夜雪少し降　今朝に及ぶ　時々降
1807年　12月1日 文化4年　　11月3日 曇　昨夜中雪降　三寸程積る
1807年　12月2日 文化4年　　11月4日 曇　巳ノ刻頃より雪時々降　夜ニ入
1807年　12月3日 文化4年　　11月5日 曇　昨夜より之雪今朝に及ぶ　六寸程積　（水油1升を7匁3分に仰せ付ける）
1807年　12月4日 文化4年　　11月6日 曇　辰ノ刻より小雨降　巳ノ刻頃止
1807年　12月5日 文化4年　　11月7日 晴　（時疫流行の三ツ目内村より御施薬300帖の追加依頼・了）　　下から続く　　引き払いを仰せ付けられ去月15日より170人が帰帆した）
1807年　12月6日 文化4年　　11月8日 曇　巳ノ刻頃より小雨降　夜ニ入　（幕府から御買上米見合わせ13000石中3000石は例年のことだから買うとの連絡、松前表派遣の弘前藩人数は1002人・このたび399人の　　上に続く
1807年　12月7日 文化4年　　11月9日 晴　（田舎館組東光寺村の男から鶴1羽差上げる・代銭60目と御祝儀10匁を下し置かれる、米1俵一番相場3ヶ所平均：29匁7分7厘1毛（30目9分7厘1毛内1匁2分御定め役引　　欄外(*)に続く
1807年　12月8日 文化4年　11月10日 曇　午ノ刻頃より霙降　未ノ刻頃止
1807年　12月9日 文化4年　11月11日 曇　巳ノ刻より雪時々降　酉ノ刻頃止
1807年 12月10日 文化4年　11月12日 晴　（当7月朔日鯵ヶ沢表出帆の江戸御廻船の筑前船も荷打ちをしている）
1807年 12月11日 文化4年　11月13日 曇　申ノ刻過ぎより小雨降　夜ニ入　（人事異動・御賞（蝦夷地関係多い））
1807年 12月12日 文化4年　11月14日 曇　（去る9日夜金木新田深郷田村で出火・火元村預け）
1807年 12月13日 文化4年　11月15日 曇　未の刻頃雨降　酉ノ刻過ぎ止　（御着城御祝儀の御料理・御囃子）
1807年 12月14日 文化4年　11月16日 曇　巳ノ刻頃より雪少し降
1807年 12月15日 文化4年　11月17日 曇　申の刻頃雪少し降
1807年 12月16日 文化4年　11月18日 曇　（尾太銅山取り扱い出精として御賞を貰っている、当月朔日より15日までの米1俵代22匁5分7厘平均値段）
1807年 12月17日 文化4年　11月19日 曇　昨夜雪少々降
1807年 12月18日 文化4年　11月20日 晴
1807年 12月19日 文化4年　11月21日 曇　申ノ刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入　（人事異動・御賞）
1807年 12月20日 文化4年　11月22日 曇
1807年 12月21日 文化4年　11月23日 曇　巳ノ刻過ぎより雪時々降　夜に入　（盗み徒の勘当された男に30鞭・乞食手渡し）　　下から続く　　無袴大木流木5本ツツ御貸渡）、
1807年 12月22日 文化4年　11月24日 曇　酉ノ六刻より冬至　昨夜よりノ雪今朝に及ぶ　三寸程積る　今日時々降　夜ニ入　（御日記役以下御目見以上日勤役一統に大木流木10本焚き炭5俵ツツ・袴役に7本3俵ツツ・　　上に続く
1807年 12月23日 文化4年　11月25日 曇　昨夜よりノ雪五寸程積る　今日時々降　（去る19日暮六時過ぎ三厩村で出火・類焼4軒）
1807年 12月24日 文化4年　11月26日 曇　（新酒仮値段：これまでの通り1升を1匁4分に仰せ付ける）
1807年 12月25日 文化4年　11月27日 曇　未ノ刻頃より雪降　夜に入
1807年 12月26日 文化4年　11月28日 曇　昨夜より之雪時々降
1807年 12月27日 文化4年　11月29日 曇　申ノ刻頃より雪時々降　夜ニ入
1807年 12月28日 文化4年　11月30日 晴　（初鱈御台所より差し出す、去る19日出火の三厩村の火元を他村預け）
1807年 12月29日 文化4年　　12月1日 晴　（昨夜五時過ぎ隣松寺に盗賊・居合わせた御家中の子2人が怪我、松前ソウヤ詰から帰国途中の大組足軽相馬某が病死・跡目はその子に）
1807年 12月30日 文化4年　　12月2日 晴　（11月27日夕より28日朝まで二十三潟が早川口より残らず氷張る）
1807年 12月31日 文化4年　　12月3日 曇　午ノ刻頃より雨降　夜に入
(*)・金1両が114匁2分)、博打をした田町の家守の弘前町払い家屋敷家財は妻子に・青森の男に3鞭その他戸〆など）

1808年　1月1日 文化4年　12月4日 曇　辰ノ刻頃小雨降　(去月27日松前若狭守が居所(松前の居城のことか)引き渡す)
1808年　1月2日 文化4年　12月5日 曇　(秋田阿仁の2家族6人が御国住居願い・了)
1808年　1月3日 文化4年　12月6日 晴
1808年　1月4日 文化4年　12月7日 曇　午ノ刻過ぎより雨時々降　申ノ刻過ぎ止
1808年　1月5日 文化4年　12月8日 曇　昨夜雪少々降　(龍濱(たっぴ)崎(津軽半島西端)・鷹野(こうや)崎(津軽半島東端)に大筒台場を取立てろ・適切な場所を選び当年中に御伺書を出せとの大目付中川飛騨守から指示あり)
1808年　1月6日 文化4年　12月9日 晴　今夜子ノ三刻小寒
1808年　1月7日 文化4年　12月10日 晴
1808年　1月8日 文化4年　12月11日 曇　昨夜より風強し　今日時々風吹　(人事異動、松前ソウヤで病死の中崎村の掃除小人の子を新規召抱え)
1808年　1月9日 文化4年　12月12日 曇　昨日より時々風吹　雪一尺程積　(去る9日朝広須組金田村で出火・火元百姓村預け)
1808年　1月10日 文化4年　12月13日 曇　時々雪降
1808年　1月11日 文化4年　12月14日 曇　午ノ刻頃雪少し降　下から続く　宿等にも罰、11月18日付でゑとろふ嶋防ぎ方が宜しくなかった(箱館奉行?)羽太安芸守を小普請入り・逼塞)
1808年　1月12日 文化4年　12月15日 曇　(人事異動、倹約(特に衣類)の指示(47ページほど))　下から続く　出肴につき軽罪(過料1貫200文)、当6月隠し津出未遂の六枚橋村の男に15鞭と居村払い等・　上に続く
1808年　1月13日 文化4年　12月16日 曇　巳ノ刻頃小雨降　即刻止　申ノ刻過ぎより風強シ　夜ニ入　(弘前の市場に鰊を持ってきた男が途中で声をかけられ売った・魚は日市が定法で我侭として捕まる・鰊は一時の　上に続く
1808年　1月14日 文化4年　12月17日 晴
1808年　1月15日 文化4年　12月18日 曇　巳ノ刻ころより雪時々降　夜ニ入
1808年　1月16日 文化4年　12月19日 曇　昨夜より之雪時々降　夜ニ入　(袋槍150本注文・1本に付き代銭8匁)
1808年　1月17日 文化4年　12月20日 曇　昨夜よりノ雪時々降
1808年　1月18日 文化4年　12月21日 曇　昨夜よりノ雪今朝に及ぶ　四寸程積　(御収納が早かった代官に御賞:一番勘定に金100疋・二番三番勘定に銀5両ツツ)
1808年　1月19日 文化4年　12月22日 晴　(当9月15日より17日まで敦賀表で大風雨・同所御屋敷の塀等が倒れる)　下から続く　足軽等3人を役下げ)
1808年　1月20日 文化4年　12月23日 曇　今暁寅ノ刻頃より雪降　五寸程積る　今日時々降　(大鰐組吹上村で家を壊し暴れ回った男共の主犯に3鞭と家の修復料差出・居村徘徊是まで通り、松前勤番中に不届きの　上に続く
1808年　1月21日 文化4年　12月24日 晴　昨夜雨少々降
1808年　1月22日 文化4年　12月25日 晴　(寒造酒の値段1匁4分5厘とする・小売酒は1合が9文と申付ける)
1808年　1月23日 文化4年　12月26日 曇　巳ノ刻頃より時々雪降
1808年　1月24日 文化4年　12月27日 晴　(人事異動・御賞)
1808年　1月25日 文化4年　12月28日 曇　昨夜雪少し降　今日時々降　(人事異動・御賞、当月22日夜(油川組)田沢村で米3俵抑える・背負った男逃亡・取押えた米は米留役に下し置かれる、御賞)
1808年　1月26日 文化4年　12月29日 晴　(弘前の各町を〇町目に分けたのかな)
1808年　1月27日 文化4年　12月30日 曇　今暁巳ノ刻頃より雪降　夜ニ入
1808年　1月28日 文化5年　正月1日　曇　昨夜より之雪今朝に及ぶ　七寸程積　今日時々雪降
1808年　1月29日 文化5年　正月2日　晴
1808年　1月30日 文化5年　正月3日　曇　今日午の刻過ぎ雪少々降　(御不例に付き今晩の御謡初めを延引)
1808年　1月31日 文化5年　正月4日　曇　今日未の刻より雪降　(例年通り大鰐村加賀助より七種の草差上げる)
1808年　2月1日 文化5年　正月5日　曇　今日午の刻過ぎ雪降
1808年　2月2日 文化5年　正月6日　曇　昨夜より之雪今朝ニ及ぶ　時々降
1808年　2月3日 文化5年　正月7日　曇　昨夜より之雪今朝ニ及ぶ　今日時々雪降　(根岸村の漁師が前浜で鯨の子(長さ9尺位丸さ7尺位)漁仕る)
1808年　2月4日 文化5年　正月8日　晴
1808年　2月5日 文化5年　正月9日　曇　今日時々雪降
1808年　2月6日 文化5年　正月10日 晴　(去る20日江戸城御白書院で:金5000両拝借仰せ付けられる・上納は来年より10年賦で、このたび格別厳しき御省略(御小納戸金などの節約か)を仰せ出される)
1808年　2月7日 文化5年　正月11日 晴
1808年　2月8日 文化5年　正月12日 晴
1808年　2月9日 文化5年　正月13日 曇　今日時々雪降
1808年　2月10日 文化5年　正月14日 曇　今日雪降　三寸程積る
1808年　2月11日 文化5年　正月15日 晴
1808年　2月12日 文化5年　正月16日 曇　今日時々雪降
1808年　2月13日 文化5年　正月17日 曇　今日時々雪降　(今日御具足祝、大目付土岐渡人を大寄合に等の人事異動)
1808年　2月14日 文化5年　正月18日 晴
1808年　2月15日 文化5年　正月19日 曇　申の刻過ぎ度々雷　夜ニ入り雨降
1808年　2月16日 文化5年　正月20日 曇　巳の刻過ぎ少し地震
1808年　2月17日 文化5年　正月21日 曇　今日時々雪降
1808年　2月18日 文化5年　正月22日 曇　今日時々雪降
1808年　2月19日 文化5年　正月23日 曇　今日時々雪降　(今日御謡初・出席者演目とも省略)
1808年　2月20日 文化5年　正月24日 曇　今日申の刻より雨降　夜ニ入
1808年　2月21日 文化5年　正月25日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1808年　2月22日 文化5年　正月26日 曇　今日時々雪降
1808年　2月23日 文化5年　正月27日 晴　(去月晦日大間越町で潰れ家2軒)
1808年　2月24日 文化5年　正月28日 晴
1808年　2月25日 文化5年　正月29日 曇　今暁子の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1808年　2月26日 文化5年　2月1日 晴　(数学学頭中田勇蔵を寄合格に等の人事異動・御賞・兵学学頭御免などが多い、、甲冑の着け方などの長い記述あり)　下から続く　出すよう幕府からの指示)
1808年　2月27日 文化5年　2月2日 曇　(学校の儀当分御止・経学書学数学の三芸のみを三之丸御屋形を学問所に、蝦夷地に250人派遣の内50人をテシオ・100人をイシカリ・100人をクマイシタカシマに差し　上に続く
1808年　2月28日 文化5年　2月3日 曇　今日時々雪降　(人事異動、勘定奉行の申し出で:田畑仕付け高246720石1斗4升3合・内25477石5斗6升9合が当毛引き)
1808年　2月29日 文化5年　2月4日 晴

1808年　3月1日 文化5年　2月5日 曇　今日時々雪降
1808年　3月2日 文化5年　2月6日 曇　今日時々雪降り
1808年　3月3日 文化5年　2月7日 晴
1808年　3月4日 文化5年　2月8日 晴　(タカシマクマイシに派遣予定の100人をヱサシとするとの指示)
1808年　3月5日 文化5年　2月9日 晴　(人事異動)
1808年　3月6日 文化5年　2月10日 曇　今日少々雪降　(当御廻船両都で大よそ43艘・上乗りを足軽の内より仰せ付ける・町上乗りも)
1808年　3月7日 文化5年　2月11日 曇　今日少々雪降　(酒値段1升に付き1文目5分)
1808年　3月8日 文化5年　2月12日 曇　今日少々雪降
1808年　3月9日 文化5年　2月13日 晴
1808年　3月10日 文化5年　2月14日 晴　(一昨12日浪岡組中野村で出火・外馬屋と隣家類焼・火元百姓他村預け)
1808年　3月11日 文化5年　2月15日 晴
1808年　3月12日 文化5年　2月16日 晴
1808年　3月13日 文化5年　2月17日 晴　(人事異動、一昨15日夜駒越組桜庭村清水境内で出火(19日の記述で馬1疋焼失))
1808年　3月14日 文化5年　2月18日 曇　今日少々雪降
1808年　3月15日 文化5年　2月19日 曇　今日少々雪降
1808年　3月16日 文化5年　2月20日 晴
1808年　3月17日 文化5年　2月21日 曇　今日少々雪降　(人事異動・御賞、松前福山表で病死の諸手足軽野上某の子を新規召抱え)
1808年　3月18日 文化5年　2月22日 曇　今日少々雪降　(松前御用で鋳筒地金が不足し橋雲寺に痛鐘の上納を仰せ付けた・寺は勤行に差し支えると抵抗(最近の戦争にもこんなことがあったな))
1808年　3月19日 文化5年　2月23日 曇　今暁寅ノ刻過ぎ雨降　卯の刻ニ止　(同役から盗みの大組足軽の御給分召上げ永の御暇入牢)
1808年　3月20日 文化5年　2月24日 晴
1808年　3月21日 文化5年　2月25日 晴
1808年　3月22日 文化5年　2月26日 曇　今日少々雪降　(去る12月6日に御用状7通を紛失した十腰内村の男に3鞭居村徘徊是まで通り・関係者にも過料等)
1808年　3月23日 文化5年　2月27日 晴
1808年　3月24日 文化5年　2月28日 晴　(御門出入不埒な御家中に永の暇)
1808年　3月25日 文化5年　2月29日 曇　今暁少々雨降　則刻止　申の刻少々雨降
1808年　3月26日 文化5年　2月30日 曇　今暁寅之刻頃少々雨降
1808年　3月27日 文化5年　3月1日 曇　昨夜より雪降　四寸程積　(人事異動)
1808年　3月28日 文化5年　3月2日 晴　(去月26日暮六時より翌27日朝六時までに十三潟の小俣口より早川口まで残らず氷明ける)
1808年　3月29日 文化5年　3月3日 曇　申の刻小雨　則刻止　(人事異動・御賞、100石に付き100目の御手当てを下さる)
1808年　3月30日 文化5年　3月4日 晴　(松前シャリ表で大組足軽福士某・小笠原某・諸手足軽佐々木某が病死・同人達の子を新規召抱え)
1808年　3月31日 文化5年　3月5日 晴　今暁子の刻過ぎ地震　(堀越組川合村で御家中の物置出火・火元慎み、松前シャリで冨田村の掃除小人病死・同人弟を新規召抱え)
1808年　4月1日 文化5年　3月6日 晴
1808年　4月2日 文化5年　3月7日 晴
1808年　4月3日 文化5年　3月8日 晴
1808年　4月4日 文化5年　3月9日 曇　申の刻過ぎ小雨　未の刻頃止　(松前ソウヤで御城付足軽清藤某が病死・同人弟を新規召抱え)
1808年　4月5日 文化5年　3月10日 晴
1808年　4月6日 文化5年　3月11日 曇　今日未の刻過ぎより雨降　(松前シャリで大組足軽藤田某・三上某が病死、ソウヤで諸手足軽對馬某・諸手警固工藤某が病死・以下書かないが後は暖かく対処)
1808年　4月7日 文化5年　3月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　午の刻過ぎ止　(去る9日夜(木作新田)木作村で出火・隣の(広須組)蓮沼村まで類焼42軒土蔵1ヶ所庵1軒・火元高無他村預け、　欄外(*)に続く
1808年　4月8日 文化5年　3月13日 曇　辰の刻過ぎ小雨　則刻止
1808年　4月9日 文化5年　3月14日 晴　(松前シャリ表で御持鑓3人・大組警固野呂某が病死、津軽弁?:……病身相勤かだく永之御暇願之通り……)
1808年　4月10日 文化5年　3月15日 晴
1808年　4月11日 文化5年　3月16日 晴　(7月19日記述の人相書きで手配されてつかまった増館組吉野田村の男に15鞭と居村徘徊是まで通り・関係した女房は生涯親元預け)
1808年　4月12日 文化5年　3月17日 曇　今日酉の刻過ぎ雨降　夜ニ入　(松前シャリにおいて長柄足軽三浦某・中田某が病死)
1808年　4月13日 文化5年　3月18日 曇　昨夜之雨今朝辰の刻過ぎ止　申の刻頃雨　夜ニ入　(松前ソウヤで諸手足軽警固工藤某が病死、石渡川四歩半の出水・両船往来相成らず)
1808年　4月14日 文化5年　3月19日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降
1808年　4月15日 文化5年　3月20日 晴　(去る17日夜中の風雨で味噌ヶ沢村領の内作左衛門溜池の土居が破れる)
1808年　4月16日 文化5年　3月21日 晴　(人事異動)
1808年　4月17日 文化5年　3月22日 晴
1808年　4月18日 文化5年　3月23日 曇　昨夜戌の刻より雨降　今朝に及ぶ　終日雨降　(岩木川出水・駒越渡人馬往来差留める)
1808年　4月19日 文化5年　3月24日 晴
1808年　4月20日 文化5年　3月25日 晴　(去る7日夜深浦御山で野火)
1808年　4月21日 文化5年　3月26日 曇　巳の刻少々雨降　則刻止
1808年　4月22日 文化5年　3月27日 晴
1808年　4月23日 文化5年　3月28日 曇　(松前シャリで御城付足軽花田某が病死)
1808年　4月24日 文化5年　3月29日 曇　申の刻過ぎより小雨　夜ニ入
1808年　4月25日 文化5年　3月30日 曇　昨夜より小雨　今朝に及ぶ　時々降　(秋田・阿仁から御国奉公願いの者8人碇ヶ関に・願の通り)
1808年　4月26日 文化5年　4月1日 曇　昨夜時々雨降　今日辰の刻過ぎより雨終日降　夜ニ入
1808年　4月27日 文化5年　4月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々雨降　夜ニ入
1808年　4月28日 文化5年　4月3日 曇　今日時々小雨
1808年　4月29日 文化5年　4月4日 曇
1808年　4月30日 文化5年　4月5日 晴　(松前で煙が上がり次第この方様(弘前藩)にても煙を立て隣領(佐竹様)に知らせるとともに人数差し出す準備をするよう幕府から指示)
(*) 異国人対応の心得?:から婦とへはき(さ)んたん人並びにをろこ人が来る・魯西亜人と取違へ手荒くするな・ヱトロフ之蝦夷は魯西亜嶋の蝦夷と出会い候ことも……内応の　下に続く
上から続く　様子が見えれば……)

1808年　5月1日 文化5年　4月6日 晴 （松前に飛脚で出て不時金を使い込んだ男に12鞭・木柄盗み売り払いの男に6鞭町払い・10月の御家中宅に盗みに入った男に3鞭弘前奉公稼ぎ差留め居村徘徊是迄通り）
1808年　5月2日 文化5年　4月7日 晴 （蝦夷地シャリで大組与力黒石某が病死・その子を御目見以上御留守居支配に、松前ソウヤ並びにシャリで御持筒足軽秋元某と高橋某が病死、去る5日鰺ヶ沢新町で出火・火元戸〆）
1808年　5月3日 文化5年　4月8日 晴 （松前ソウヤで長柄の者鎌田某・御城付足軽神山某が病死）
1808年　5月4日 文化5年　4月9日 晴
1808年　5月5日 文化5年　4月10日 曇 巳の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1808年　5月6日 文化5年　4月11日 晴 （去る9日暮六時前鰺ヶ沢町で出火・29軒焼失1軒潰れ半潰れ3軒1艘焼失・火元町預け、亀甲町御堀添えで釣・三之丸木立ちに摘草・怒られている）
1808年　5月7日 文化5年　4月12日 晴 （松前並びにシャリで鳶の者5人・掃除小人病死・子供たちを新規召抱え、竹森某の倅が筒薬調合中に怪我・薬用仰せ付ける）
1808年　5月8日 文化5年　4月13日 晴 （居村近辺で鉄砲を打った男に3鞭居村徘徊是まで通り、幼少の商家の跡継ぎの親類の男が私曲・不埒として家屋敷御取上げの上弘前より三里四方追放家財は妻子に）
1808年　5月9日 文化5年　4月14日 晴
1808年　5月10日 文化5年　4月15日 晴 （百道院境内に赤子の捨子）
1808年　5月11日 文化5年　4月16日 晴
1808年　5月12日 文化5年　4月17日 晴 （去月26日尾華沢（山形県）で出火・御本陣など150軒余焼失）
1808年　5月13日 文化5年　4月18日 曇 酉の刻過ぎ小雨降 （漆値段目方100匁を6文目を8文目にして欲しいとの願いを却下）
1808年　5月14日 文化5年　4月19日 晴
1808年　5月15日 文化5年　4月20日 曇 巳の刻頃より時々雨降　夜ニ入 （蝦夷地シャリで作事受払い役工藤某が病死・その子をお目見以上の同役に）
1808年　5月16日 文化5年　4月21日 晴
1808年　5月17日 文化5年　4月22日 晴
1808年　5月18日 文化5年　4月23日 晴
1808年　5月19日 文化5年　4月24日 晴 （一昨22日夜増館組下十川村で出火・火元村預け、昨夜増館組女鹿沢村で失火・早速相防ぐ・火元?戸〆）
1808年　5月20日 文化5年　4月25日 晴 （松前ソウヤで諸手足軽藤田某・同警固成田某が病死）
1808年　5月21日 文化5年　4月26日 晴 （神宮寺より痛鐘上納、木挽き細工場で盗みの親子2人に30鞭乞食手渡し、方々で盗みの男に6鞭弘前徘徊御構い）
1808年　5月22日 文化5年　4月27日 晴 （松前ソウヤで大組足軽古川某が病死）
1808年　5月23日 文化5年　4月28日 晴
1808年　5月24日 文化5年　4月29日 晴
1808年　5月25日 文化5年　5月1日 晴 （近年遅刻者多いとしかられている）
1808年　5月26日 文化5年　5月2日 曇 今朝卯の刻過ぎより雨降　午の刻頃止
1808年　5月27日 文化5年　5月3日 晴 （今暁七時前桶屋町で出火・潰れ家とも4軒・火元入寺、不届きな庄屋・五人組に15鞭・戸〆）
1808年　5月28日 文化5年　5月4日 晴
1808年　5月29日 文化5年　5月5日 晴
1808年　5月30日 文化5年　5月6日 晴
1808年　5月31日 文化5年　5月7日 曇 巳の刻小雨降　則刻止
1808年　6月1日 文化5年　5月8日 晴 （松前シャリで御待鑓仲間某（苗字なし）が病死）
1808年　6月2日 文化5年　5月9日 曇 今暁寅ノ刻頃より雨時々降　夜ニ入 （松前ソウヤ表で御持筒足軽鳴海某が病死、近年松前派遣を嫌い病気を言い立てる者もあると聞こえる・心得違いだ等々の文言）
1808年　6月3日 文化5年　5月10日 晴
1808年　6月4日 文化5年　5月11日 晴 （人事異動・御賞）
1808年　6月5日 文化5年　5月12日 晴
1808年　6月6日 文化5年　5月13日 曇 今日申の刻頃より雨降　夜ニ入　戌之刻頃雷鳴強し
1808年　6月7日 文化5年　5月14日 晴
1808年　6月8日 文化5年　5月15日 晴 （今日御慰之御囃子）
1808年　6月9日 文化5年　5月16日 曇 （去る13日夜浦町組荒川村で庄屋が出火・居宅と外馬屋焼失・火元村預け）
1808年　6月10日 文化5年　5月17日 晴
1808年　6月11日 文化5年　5月18日 曇 辰の刻より小雨降　則刻止
1808年　6月12日 文化5年　5月19日 晴 （両社夜宮で小筒に小石を入れた花火を打ち放つ者あり・厳重注意）
1808年　6月13日 文化5年　5月20日 曇 申の刻より雨降　夜ニ入 （御領内出奔調べ:2人書いてある:御家中だけでも何人も見た:福眞、不埒の長柄小頭を御持鑓仲間に役下げ）
1808年　6月14日 文化5年　5月21日 曇 昨夜より之雨時々降　午の刻頃止 （松前シャリ並びにソウヤで鳶の者3人が病死）
1808年　6月15日 文化5年　5月22日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降　未の刻過ぎ止　　下から続く　　家財欠所、茂合銭・夫喰米銭等を私曲した庄屋に15鞭居村払い田畑等は妻子に、・五人組にも6鞭居村徘徊是まで通り）
1808年　6月16日 文化5年　5月23日 曇 申の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （唐内坂の御茶屋に・三十郎殿御相伴、盗み等の掃除小人を今暫く入牢とする、御払米代上納遅れの鰺ヶ沢町の商人2人を三里四方追放
1808年　6月17日 文化5年　5月24日 曇 昨夜より雨時々降　午の刻頃止 （松前ソウヤで長柄足軽長谷川某が病死）
1808年　6月18日 文化5年　5月25日 晴 （松前表で諸手足軽小田桐某が病死）
1808年　6月19日 文化5年　5月26日 晴
1808年　6月20日 文化5年　5月27日 晴 （松前で御旗足軽警固大川某が病死、江戸の御家中田上某が腰縄付き錠前駕籠で到着・入牢）
1808年　6月21日 文化5年　5月28日 晴 （松前ソウヤ詰めの大組足軽桜田某がテシオで病死）
1808年　6月22日 文化5年　5月29日 曇 （当年弘前藩より松前に差し出した人数は680人余）
1808年　6月23日 文化5年　5月30日 曇 今暁子の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1808年　6月24日 文化5年　6月1日 曇 昨夜より之雨時々降　夜ニ入 （青森博労町で失火・早速防ぎ留める・火元戸〆）
1808年　6月25日 文化5年　6月2日 曇 午の刻頃より雨時々降り　　下から続く　　隠商売の男に過料銭50目）
1808年　6月26日 文化5年　6月3日 曇 午の刻過ぎ小雨降　則刻止 （去る11月に博打で弘前町払い・弘前に忍び入った男に3鞭と町払い、親の代に貸した米を不当に取立てた男に3鞭居村徘徊是まで通り、　　上に続く
1808年　6月27日 文化5年　6月4日 曇 申の刻より雨降　則刻止 （松前ルルモッヘ（半濁点なし・多分留萌）で御持鑓仲間が病死）
1808年　6月28日 文化5年　6月5日 曇 （惣組御代官の申し出により風雨順時の御祈祷を神明宮に仰せ付ける、赤石組沢部村前浜に越後船が破船）　　下から続く　　これに加担した御家中の御給分召し上げ永の暇）
1808年　6月29日 文化5年　6月6日 曇 午の刻過ぎ小雨降　則刻止 （5日戸〆代過料銭600文・10日戸〆代900文・15日1貫200文・20日1貫500文・30日1貫800文とする、偽手形で流木を売った男に12鞭永の兄預け・　　上に続く
1808年　6月30日 文化5年　6月7日 曇

1808年　7月1日 文化5年　6月8日 晴 (昨夜高杉組細越村で出火・火元百姓村預け)
1808年　7月2日 文化5年　6月9日 晴 (松前表で御持鑓仲間が病死)
1808年　7月3日 文化5年　6月10日 晴
1808年　7月4日 文化5年　6月11日 晴 (一昨9日夜広田組喰川村で小屋1軒出火・火元戸〆、松前ソウヤで作事杖突二河原某が病死・シャリで御扶持大工吉村某が病死、青田の内笛吹くなとの触れ)
1808年　7月5日 文化5年　6月12日 晴　下から続く　作物盗みの男に3鞭、盗杣の男に9鞭・その五人組に過料銭4貫800文・その庄屋に過料銭1貫200文)
1808年　7月6日 文化5年　6月13日 晴 (家出した女房?が匿われていた庵に踏み込み庵主に乱暴・衣類を盗む等の男に30鞭大場御構い十里四方追放・女房?に9鞭兄預け・乱暴した男の仲間2人に3鞭ツツ、畑の　上に続く
1808年　7月7日 文化5年　6月14日 晴
1808年　7月8日 文化5年　6月15日 晴 (人事異動、薬師堂村の者共30人程が山論の儀に付き願いの筋ありとして東長町御制札前に集まる・派遣した御代官半田某に願書差し出し引き取る)
1808年　7月9日 文化5年　6月16日 晴 (出奔して忍び帰り盗み徒の御家中の弟に21鞭三里四方追放)
1808年　7月10日 文化5年　6月17日 晴
1808年　7月11日 文化5年　6月18日 晴
1808年　7月12日 文化5年　6月19日 晴 今暁寅の刻頃小雨降　則刻止
1808年　7月13日 文化5年　6月20日 曇 (15日に東長町に集まった者共の代表格の百姓3人を徒党の上強訴を不届きとして入牢の上揚屋に入れ詮議する)
1808年　7月14日 文化5年　6月21日 晴
1808年　7月15日 文化5年　6月22日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1808年　7月16日 文化5年　6月23日 晴
1808年　7月17日 文化5年　6月24日 晴 (人事異動)
1808年　7月18日 文化5年　6月25日 晴 昨夜亥の刻過ぎ雨降　今暁寅の刻過ぎ止ム (松前表で諸手足軽角田某が病死)
1808年　7月19日 文化5年　6月26日 晴 酉の八刻土用ニ入
1808年　7月20日 文化5年　6月27日 晴
1808年　7月21日 文化5年　6月28日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨降　夜ニ入 (岩木川出水にて渡場差留める)
1808年　7月22日 文化5年　6月29日 曇 辰の刻より雨時々降　未の刻頃止 (去る19日夜廻り中の米留め役が捨てて逃げた魚油4斗樽入りを押える)
1808年　7月23日 文化5年 閏6月1日　晴 (人事異動)
1808年　7月24日 文化5年 閏6月2日　晴 (学校の西側を取毀し三之丸御屋敷江御取建を仰せ付けられる)
1808年　7月25日 文化5年 閏6月3日　晴
1808年　7月26日 文化5年 閏6月4日　晴
1808年　7月27日 文化5年 閏6月5日　晴 (松前ソウヤ詰めの掃除小人病死)
1808年　7月28日 文化5年 閏6月6日　晴 (御国奉公望みの者2家族5人碇ヶ関に・了)
1808年　7月29日 文化5年 閏6月7日　晴 (昨夜紺屋町で明俵等が燃える・投げ火もあるらしい)
1808年　7月30日 文化5年 閏6月8日　晴
1808年　7月31日 文化5年 閏6月9日　晴
1808年　8月1日 文化5年 閏6月10日 晴
1808年　8月2日 文化5年 閏6月11日 晴
1808年　8月3日 文化5年 閏6月12日 晴 今日申の刻頃小雨
1808年　8月4日 文化5年 閏6月13日 曇 今日辰の刻頃小雨
1808年　8月5日 文化5年 閏6月14日 晴
1808年　8月6日 文化5年 閏6月15日 晴
1808年　8月7日 文化5年 閏6月16日 曇 今日辰の刻頃地震強　則刻止 (今朝五時地震に付き休日に候えども御家老御用人残らず登城)
1808年　8月8日 文化5年 閏6月17日 曇 今日申の刻頃小雨降　則刻止 (去る14日夜広須組下冨菟村で出火・建家等焼失・火元百姓)
1808年　8月9日 文化5年 閏6月18日 晴 (大鰐村加賀助より初穂差上げる)
1808年　8月10日 文化5年 閏6月19日 曇 今日申の刻過ぎ小雨降　則刻止　下から続く　加えきせる・花火など停止
1808年　8月11日 文化5年 閏6月20日 曇 今日申の刻過ぎ雷鳴小雨降　則刻止 (此頃御家中並びに在町え面体を隠し引き札に相廻る者あり・見当て次第召し捕りを仰せ付けられる、南溜池付近に涼みに出て　上に続く)
1808年　8月12日 文化5年 閏6月21日 曇 午の刻刻雨降　雷鳴 (去々寅年より当年まて松前ヱトロフ嶋シャナ江詰合仰せ付けられ去夏同嶋江ヲロシヤ人が渡来騒動の節防ぎ方行届きかね勤番所焼払い　欄外(*)に続く
1808年　8月13日 文化5年 閏6月22日 曇 今日亥の刻過ぎ雨降
1808年　8月14日 文化5年 閏6月23日 曇 (21日に申渡の件の仲間以下8人に慎みを申し渡す)
1808年　8月15日 文化5年 閏6月24日 晴
1808年　8月16日 文化5年 閏6月25日 晴 大暑
1808年　8月17日 文化5年 閏6月26日 晴 (不勤病中他出の鳶の者の御給分召上げ永の暇)
1808年　8月18日 文化5年 閏6月27日 曇
1808年　8月19日 文化5年 閏6月28日 曇 今日辰の刻頃より時々雨降　夜ニ入
1808年　8月20日 文化5年 閏6月29日 曇 今日午の刻頃より時々雨降 (去年蝦夷地ソウヤ並びにシャリ詰め合い御人数の内この節まて120人ほど病死)
1808年　8月21日 文化5年 閏6月30日 曇 今日辰の刻過ぎより雨降　夜ニ入 (例年祢ぶた流之儀町内限りの触れ:かなの「ぶ」は珍しいかな)
1808年　8月22日 文化5年　7月1日 晴
1808年　8月23日 文化5年　7月2日 晴
1808年　8月24日 文化5年　7月3日 曇 今日申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1808年　8月25日 文化5年　7月4日 曇 昨夜より之雨時々降　夜ニ入
1808年　8月26日 文化5年　7月5日 曇 巳の刻頃雨降 (今暁鶴1羽斃れる)
1808年　8月27日 文化5年　7月6日 曇 (当6月15日夜他人の娘をゆえなく打擲の男に6鞭親預け他出差留め)
1808年　8月28日 文化5年　7月7日 晴 (和嶋丈右衛門を勘定奉行に等の人事異動・御賞、100石に付き100目の御手当てを下さる)
1808年　8月29日 文化5年　7月8日 晴
1808年　8月30日 文化5年　7月9日 曇
1808年　8月31日 文化5年　7月10日 曇

(*)立ち退いた斎藤蔵太・小野甚八郎・三橋要蔵・工藤与八郎の身上召上げ永の暇親類等預け、足軽目付以下の御家中9人には役下げ慎み)

1808年　9月1日 文化5年　7月11日 晴 （人事異動・御賞）
1808年　9月2日 文化5年　7月12日 晴 （今日例年の通り初米差し出す）
1808年　9月3日 文化5年　7月13日 曇
1808年　9月4日 文化5年　7月14日 晴
1808年　9月5日 文化5年　7月15日 曇 今日未の刻頃より雨降　亥の刻過ぎ止 （一昨13日夜桜田村で出火・火元百姓村預け）
1808年　9月6日 文化5年　7月16日 曇 （岩木川出水・馬船長船とも往来差留める・川橋流失）
1808年　9月7日 文化5年　7月17日 晴
1808年　9月8日 文化5年　7月18日 曇 今日巳の刻頃より小雨時々降 （一昨16日浦町組小館村で出火・火元百姓村預け）
1808年　9月9日 文化5年　7月19日 曇 今日辰の刻頃より雨降　則刻雷発す　雨夜ニ入
1808年 9月10日 文化5年　7月20日 曇 昨夜より之雨今日に至り時々降 （安三郎様御遠行）
1808年 9月11日 文化5年　7月21日 曇 今日未の刻頃小雨降り
1808年 9月12日 文化5年　7月22日 曇 今日丑の刻頃雨降　則刻止 （松前で不調法の斎藤蔵太・三橋要蔵の親類預け先に月に御米3俵宛下される、昨晩男牢死）
1808年 9月13日 文化5年　7月23日 晴
1808年 9月14日 文化5年　7月24日 晴
1808年 9月15日 文化5年　7月25日 曇 今日未ノ刻頃より雨降　夜ニ入 （松前ヱトロフで御城付足軽金沢某が病死）
1808年 9月16日 文化5年　7月26日 曇 今日辰の刻過ぎ雨時々降
1808年 9月17日 文化5年　7月27日 晴 今日秋(か?)暑
1808年 9月18日 文化5年　7月28日 曇 今日午の刻過ぎ少し地震　酉の刻頃より雨降　夜ニ入 （人事異動、ヱトロフで掃除小人病死）
1808年 9月19日 文化5年　7月29日 晴
1808年 9月20日 文化5年　8月1日 晴 （人事異動、去月26日暮六時頃十三町で木小屋焼失・火元戸〆、高崎村で御家中の母が縊死）
1808年 9月21日 文化5年　8月2日 晴 今日午の刻小雨降 （百沢寺より苔の実差上げる）
1808年 9月22日 文化5年　8月3日 曇 辰の刻頃小雨降
1808年 9月23日 文化5年　8月4日 曇
1808年 9月24日 文化5年　8月5日 曇 午の刻過ぎより雨降り　申の刻過ぎ止 （津軽屋三右衛門の支配人が8日に帰るので先例の通り5両遣わす）
1808年 9月25日 文化5年　8月6日 曇
1808年 9月26日 文化5年　8月7日 曇 戌の刻頃雨降　則刻止
1808年 9月27日 文化5年　8月8日 曇 今暁丑の刻頃より雨終日降　夜ニ入 （去る5日昼赤石組目内崎村で出火・火元村預け）
1808年 9月28日 文化5年　8月9日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ （人事異動）
1808年 9月29日 文化5年　8月10日 曇
1808年 9月30日 文化5年　8月11日 曇 今暁丑の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止
1808年 10月1日 文化5年　8月12日 曇
1808年 10月2日 文化5年　8月13日 晴
1808年 10月3日 文化5年　8月14日 曇 今暁丑の刻頃より雨時々降　午の刻頃止
1808年 10月4日 文化5年　8月15日 曇 今暁丑の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1808年 10月5日 文化5年　8月16日 曇 今暁丑の刻過ぎより雨時々降　辰の刻止
1808年 10月6日 文化5年　8月17日 晴
1808年 10月7日 文化5年　8月18日 晴 今暁丑の刻過ぎ雨降　則刻止む
1808年 10月8日 文化5年　8月19日 晴
1808年 10月9日 文化5年　8月20日 晴 （人事異動・御賞）　下から続く　永の暇、関連する寺の役人に8鞭十里四方追放家財欠所・関係者にも3鞭など）
1808年 10月10日 文化5年　8月21日 晴 今暁寅の刻頃雨降　則刻止 （佐藤吉五郎を勘定小頭格に等の人事異動、御賞、許可以上の木を切り出した久渡寺の僧を隠居禁足・関連山役人警固2人を御給分召上げ　上に続く
1808年 10月11日 文化5年　8月22日 曇 今日申の刻過ぎより小雨降　夜ニ入
1808年 10月12日 文化5年　8月23日 曇 昨夜より之雨今日に及び時々降 （御駕籠にて九時過ぎ御発駕）
1808年 10月13日 文化5年　8月24日 曇 今朝岩木山江初て雪見ヘル （御賞）
1808年 10月14日 文化5年　8月25日 曇 頃日冷気強し （松前江差で御献上御馬口取が病死）
1808年 10月15日 文化5年　8月26日 晴 （去月16日夜住吉門前等に盗みに入った男2人に3鞭弘前お構い）
1808年 10月16日 文化5年　8月27日 曇 （去る20日夜青森大町の女を殺害した男の人相書きあり:年45歳ただし年齢相応・せい5尺4寸位等々）
1808年 10月17日 文化5年　8月28日 曇 昨夜亥の刻過ぎ小雨　則刻止　今日未の刻頃雨　則刻止
1808年 10月18日 文化5年　8月29日 曇 （去る27日金木組小栗崎村で出火・2軒焼失・火元他村預け、27日大鰐組津苅沢村で出火・火元村預け、乳井薬師堂両村の山論の裁定の口達）
1808年 10月19日 文化5年　8月30日
1808年 10月20日 文化5年　9月1日 晴 （人事異動・御賞）
1808年 10月21日 文化5年　9月2日 晴 今日巳の刻過ぎ少し地震　下から続く　逃がした男2人・逃げられた番人4人に3鞭宛居村徘徊是まで通り）
1808年 10月22日 文化5年　9月3日 晴 今朝初めて霜強く降 （盗みで追放中に立ち帰り博打の男に30鞭と乞食手渡し、隠し津出の男に15鞭と浦々住居お構い、身持ちのよくない?女に15鞭と親渡し、悪者の宿をし　上に続く
1808年 10月23日 文化5年　9月4日 曇 今暁丑の刻頃雨降　酉の刻過ぎ止 （松前にて長柄の者小田桐某病死、金1両の8月中の平均相場は111匁3分）
1808年 10月24日 文化5年　9月5日 曇
1808年 10月25日 文化5年　9月6日 曇
1808年 10月26日 文化5年　9月7日 曇 今暁丑の刻頃より雨時々降　夜に入 （荷物の貫目定め:本馬乗下とも36貫目惣荷40貫目まで・軽尻馬乗下とも20貫目まで）
1808年 10月27日 文化5年　9月8日 曇 昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　時々降　寅の刻過ぎより初めて雪降　今日時々降に及ぶ　午の刻過ぎ霰降　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1808年 10月28日 文化5年　9月9日 曇 昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　今朝少し雪降
1808年 10月29日 文化5年　9月10日 晴
1808年 10月30日 文化5年　9月11日 晴 今朝霜強し
1808年 10月31日 文化5年　9月12日 晴 今朝霜強し （ソウヤにて掃除小人病死）

1808年　11月1日 文化5年　　9月13日 曇　今朝霜強し　申の刻過ぎより小雨降　夜ニ入
1808年　11月2日 文化5年　　9月14日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　申の刻頃止
1808年　11月3日 文化5年　　9月15日 晴　酉の一刻月節　蝕皆既
1808年　11月4日 文化5年　　9月16日 曇　今日未の刻頃より小雨降　申の刻過ぎ止
1808年　11月5日 文化5年　　9月17日 曇　今朝霜強　午の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1808年　11月6日 文化5年　　9月18日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止　昨夜亥の刻過ぎ雷鳴　頃日冷気強し
1808年　11月7日 文化5年　　9月19日 曇　今暁子の刻過ぎ小雨降　則刻止
1808年　11月8日 文化5年　　9月20日 晴　今日未の刻過ぎより時々雷鳴
1808年　11月9日 文化5年　　9月21日 曇　今日巳の刻過ぎ小雨降　則刻止
1808年 11月10日 文化5年　　9月22日 曇　今暁子の刻過ぎ小雨降　丑の刻頃止　今朝霜強し
1808年 11月11日 文化5年　　9月23日 晴　今朝霜強し
1808年 11月12日 文化5年　　9月24日 晴　今朝霜強し　(シャリで御城付足軽成田某が病死)
1808年 11月13日 文化5年　　9月25日 曇　今暁子の刻過ぎより風強し　寅の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1808年 11月14日 文化5年　　9月26日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止
1808年 11月15日 文化5年　　9月27日 曇　今朝霜強し　巳の刻過ぎ小雨時々降　夜ニ入
1808年 11月16日 文化5年　　9月28日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止　今暁雪降　一寸程積　(去月15日長崎に異国船(お路しや)渡来)
1808年 11月17日 文化5年　　9月29日 曇　巳の刻頃より雨降　午の刻頃止
1808年 11月18日 文化5年　　10月1日 曇　巳の六刻日食二分半
1808年 11月19日 文化5年　　10月2日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　卯の刻ニ止　(青森町の鳥取より丹頂鶴3羽差上げる・大中小にかかわらず1羽に付き60匁ツツ下し置かれる、シャリで足軽目付け桜庭某が病死)
1808年 11月20日 文化5年　　10月3日 晴　今朝霜強し
1808年 11月21日 文化5年　　10月4日 晴　今朝霜強し
1808年 11月22日 文化5年　　10月5日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　卯之刻頃止　巳之刻頃少し地震
1808年 11月23日 文化5年　　10月6日 晴　今朝霜強し
1808年 11月24日 文化5年　　10月7日 曇　今暁寅の刻頃時々雨降　未の刻頃止　(古懸不動尊御出汗・五山で御祈祷)
1808年 11月25日 文化5年　　10月8日 曇　今暁丑の刻頃風強　今日雪　霰時々降　巳の刻過ぎより風強し　(今日三之丸学問所御取建引き移る)
1808年 11月26日 文化5年　　10月9日 曇　昨夜雪降　一寸程積　今日時々降
1808年 11月27日 文化5年　　10月10日 晴　(酒家共より酒1升を1匁7分にとの申し出で・1文目6分に仰せ付ける)
1808年 11月28日 文化5年　　10月11日 晴
1808年 11月29日 文化5年　　10月12日 曇　申の刻過ぎ風強し　酉の刻頃雨降　則刻雷鳴甚だしく強　戌の刻頃雨止
1808年 11月30日 文化5年　　10月13日 曇　今日時々雪降
1808年　12月1日 文化5年　　10月14日 曇　今暁寅の刻頃雨降　則刻止　巳の刻頃雨降　戌の刻頃止　頃日寒し
1808年　12月2日 文化5年　　10月15日 曇　今日雪少し降　(宮川某仕込みの味噌を10匁に6貫830目で御目見以上の希望者に貸す)
1808年　12月3日 文化5年　　10月16日 曇　(村方に渡す銭を私曲した庄屋に27鞭七里追放田畑等は妻子に・仲間の百姓にも18鞭所払い、去る卯年(文化4年)シャリ詰め人数100人越年・病人多し)
1808年　12月4日 文化5年　　10月17日 曇　今暁寅の刻頃より時々雨降　巳の刻頃止　(新穀初相場27文目ツツ)
1808年　12月5日 文化5年　　10月18日 曇　今日雪時々降　二寸程積
1808年　12月6日 文化5年　　10月19日 曇　今日時々雪降　二寸程積る
1808年　12月7日 文化5年　　10月20日 晴　(掻き漆の値段が目方100匁に付き6文目としていたが武具手入れに必要で9文目で買い入れるようにする)
1808年　12月8日 文化5年　　10月21日 曇　今暁丑の刻過ぎ小雨降　卯の刻頃止　(当月2日夜後潟組奥内村で米12俵を置いて逃げ去った者あり)
1808年　12月9日 文化5年　　10月22日 晴　(大光寺組大光寺村で数十人が時疫・御代官から施薬願い)
1808年 12月10日 文化5年　　10月23日 晴
1808年 12月11日 文化5年　　10月24日 晴　今朝霜強し
1808年 12月12日 文化5年　　10月25日 曇　今朝霜強　巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1808年 12月13日 文化5年　　10月26日 曇　午の刻頃雨降り　則刻止
1808年 12月14日 文化5年　　10月27日 曇　(昨日御家中の居宅焼失、今暁大組足軽の兄が縊死)
1808年 12月15日 文化5年　　10月28日 曇　今日少し雪降
1808年 12月16日 文化5年　　10月29日 曇　今暁丑の刻より雨降　則刻止　今日時々雪降　壱寸程積る
1808年 12月17日 文化5年　　11月1日 曇　今日時々雪降　二寸程積
1808年 12月18日 文化5年　　11月2日 曇　今日t歩気時雪降　一寸程積　頃日寒気強
1808年 12月19日 文化5年　　11月3日 曇　今日少々雪降　午の刻頃より雨降　夜ニ入
1808年 12月20日 文化5年　　11月4日 曇　昨夜之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　今日時々雪降　　下から続く　　金1両が100目5分)
1808年 12月21日 文化5年　　11月5日 曇　今日雪少し降　(米1俵一番相場:弘前33匁6分8厘5毛・青森37匁2分8厘5毛・鯵ヶ沢34匁1分7厘4毛・三ヶ所平均35匁4厘8毛(内1匁2分御定役引)・(平米)33匁8分4厘8毛・　　上に続く
1808年 12月22日 文化5年　　11月6日 曇　今日雪少し降
1808年 12月23日 文化5年　　11月7日 曇　今日雪少し降
1808年 12月24日 文化5年　　11月8日 曇　酉の刻頃より雪降り　壱寸程積　(前もって御停止の前句付け・段々付けをあらためて停止としている、この節御有合わせの鉛が400箇ほど・御払い相場は1箇当たり5両ほど)
1808年 12月25日 文化5年　　11月9日 曇　今日雪少し降　(盗杣の男に21鞭三里四方追放田畑等は妻子に・それを見逃した?男に18鞭など)
1808年 12月26日 文化5年　　11月10日 晴
1808年 12月27日 文化5年　　11月11日 曇　今日雪少し降　頃日寒気強し　(黒石役人より3800石津出願い・了)
1808年 12月28日 文化5年　　11月12日 曇　今日雪少し降
1808年 12月29日 文化5年　　11月13日 曇　今日雪少し降
1808年 12月30日 文化5年　　11月14日 晴　(人事異動)
1808年 12月31日 文化5年　　11月15日 晴　(人事異動、11月9日暮六時より翌10日朝まで十三潟が早川口より残らず氷張る、町飛脚も帯刀かな?)

1809年　1月1日 文化5年　11月16日 曇 今日雪少し降
1809年　1月2日 文化5年　11月17日 曇 (当月朔日より15日まで平均米1俵値段26文目5分)
1809年　1月3日 文化5年　11月18日 曇 今日雪少し降
1809年　1月4日 文化5年　11月19日 曇 今暁雪少し降
1809年　1月5日 文化5年　11月20日 曇 今日雪少し降 (黒石領の津出4500石に増やしたい・了、9月に御国奉公望みで碇ヶ関に来た男が奉公先から盗み・碇ヶ関から送り返す)
1809年　1月6日 文化5年　11月21日 曇 今日雪少し降 卯の三刻寒ニ入
1809年　1月7日 文化5年　11月22日 曇 今暁雪降 三寸程積 今日時々降
1809年　1月8日 文化5年　11月23日 曇 (和徳町の娘等3人を勾引し秋田能代に差し遣わした男に30鞭と尾太銅山江1年半の苦役・その息子の嫁に15鞭と実家渡し)
1809年　1月9日 文化5年　11月24日 晴
1809年　1月10日 文化5年　11月25日 曇 今暁寅の刻頃より時々雨降 辰の刻頃止
1809年　1月11日 文化5年　11月26日 晴 (村預け中の者に逃げられた番人の人数を間違え無罪の4人に鞭刑を与えた庄屋(村方取り扱い数年出精・老年)に3鞭居村徘徊これまで通り)
1809年　1月12日 文化5年　11月27日 曇 今日時々雪降 壱寸程積
1809年　1月13日 文化5年　11月28日 曇 今日時々雪降
1809年　1月14日 文化5年　11月29日 晴
1809年　1月15日 文化5年　11月30日 曇 昨夜戌の刻頃より風立 今暁卯の刻頃止 今日少し雪降 (尾太銅山・湯野沢鉛山関係者に御賞(渡す酒の量などから湯野沢の工夫人数は尾太の半分くらい?)、御徒に横岡清吾あり)
1809年　1月16日 文化5年　12月1日 晴 下から続く 人数が難風で230人余が青森着岸)
1809年　1月17日 文化5年　12月2日 曇 今日申の刻過ぎより雨降 夜ニ入 (昨夜駒越組真土村で出火・火元高無居村預け) 下から続く 65・6人が青森に漂着・9月16日松平金之助様の蝦夷地帰帆 上に続く
1809年　1月18日 文化5年　12月3日 曇 昨夜の雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 午の刻頃より雪少し降 (寛政11年より蝦夷地派遣人数の内死亡の者212人、去月3日松平雅千代様の蝦夷地より帰帆の 上に続く
1809年　1月19日 文化5年　12月4日 晴 今朝雪少し降
1809年　1月20日 文化5年　12月5日 曇 今日雪少し降
1809年　1月21日 文化5年　12月6日 曇 今日雪吹強し
1809年　1月22日 文化5年　12月7日 曇 今日雪少し降 申の刻過ぎより雨降 戌の刻頃より雷鳴 亥の刻頃より雪吹
1809年　1月23日 文化5年　12月8日 曇 昨夜より之雪今日に及ぶ 時々雪吹強 二寸程積
1809年　1月24日 文化5年　12月9日 曇 今日雪少し降
1809年　1月25日 文化5年　12月10日 曇 今日雪少し降 (御賞)
1809年　1月26日 文化5年　12月11日 晴
1809年　1月27日 文化5年　12月12日 晴
1809年　1月28日 文化5年　12月13日 晴
1809年　1月29日 文化5年　12月14日 晴
1809年　1月30日 文化5年　12月15日 晴 (福眞弥兵衛等に諸湊目付勤め中出精として銀2枚ツツ下し置かれる・御蔵立会い・御蔵奉行にも、水油値段1升につき5文目のところ粒油高値で6匁に申し出る・了)
1809年　1月31日 文化5年　12月16日 晴 暮に及び雪少し降
1809年　2月1日 文化5年　12月17日 晴
1809年　2月2日 文化5年　12月18日 曇 今日雪降 三寸程積
1809年　2月3日 文化5年　12月19日 曇 今日雪少し降
1809年　2月4日 文化5年　12月20日 晴 (御中小姓の御目見以上の手跡の良い者を探している・御目見以下でも格別よろしい分も、娘共宿いたし人寄売女同様のいたし方の男に弘前町払い・その娘達3人も弘前町払い)
1809年　2月5日 文化5年　12月21日 曇 今日雪少し降 (学問所教授方出精として中田勇蔵に金1両・郡所小頭の平沢三右衛門に金300疋など、人事異動(特に蝦夷地向け))
1809年　2月6日 文化5年　12月22日 曇 今日雪降 三寸程積る (去る14日夜浦町組野沢村で出火・火元村預け、新酒仮値段1升に付1匁6分1合売り10文ツツだった・米高値で1匁7分の申出・1匁6分5厘1合は是迄通りと申付ける)
1809年　2月7日 文化5年　12月23日 曇 今朝雪少し降 (隠津出の男に6鞭漁船取上げ居村徘徊是迄通り・五軒組合代庄屋にも過料
1809年　2月8日 文化5年　12月24日 曇 今日雪少し降
1809年　2月9日 文化5年　12月25日 晴
1809年　2月10日 文化5年　12月26日 曇 今日雪降 巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 (久渡寺境内から杉を盗み取った男に9鞭和特組払い田畑等は妻子に、東長町北御蔵から米を2俵を盗み出そうとした男に9鞭居村徘徊是まで通り)
1809年　2月11日 文化5年　12月27日 晴 頃日暖気
1809年　2月12日 文化5年　12月28日 晴 今暁雪少し降 (銀6両等の御賞)
1809年　2月13日 文化5年　12月29日 曇 酉の刻過ぎより雨降 夜ニ入 (昨28日夜飯詰村で出火・外馬屋並びに稲草焼失・火元戸〆)
1809年　2月14日 文化6年　正月1日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止ム 午の刻頃南風吹 同刻過ぎより小雨降 (古懸不動尊御出汗・御神楽仰せ付けられる、18日江戸発の飛脚到着: 欄外(*)に続く
1809年　2月15日 文化6年　正月2日 曇 今暁より終日吹雪 夜ニ入二寸程積
1809年　2月16日 文化6年　正月3日 曇 今朝吹雪強し 今日時々降
1809年　2月17日 文化6年　正月4日 晴
1809年　2月18日 文化6年　正月5日 曇 今日雪少し降
1809年　2月19日 文化6年　正月6日 曇 今日雪時々降 壱寸程積 (来巳の年(既に今年のことです)西蝦夷地御固め人数場所割り:松前100人・江差50人・ソウヤ100人・カラフト100人・リイシリ100人・〆450人)
1809年　2月20日 文化6年　正月7日 曇 今朝雪少し降
1809年　2月21日 文化6年　正月8日 晴
1809年　2月22日 文化6年　正月9日 晴
1809年　2月23日 文化6年　正月10日 晴
1809年　2月24日 文化6年　正月11日 曇 (人事異動)
1809年　2月25日 文化6年　正月12日 晴 (田畑仕付け高248386石6斗4升1合内17050石4斗3合当年引き)
1809年　2月26日 文化6年　正月13日 晴 頃日暖気 (蝦夷地御固め人数(6日記述)の内越年者:松前50人・江差50人・ソウヤ50人・カラフト100人との通達あり)
1809年　2月27日 文化6年　正月14日 曇 今暁雪降 一寸程積 寅の刻頃より雨終日降 夜ニ入
1809年　2月28日 文化6年　正月15日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ 卯の刻頃止 今日時々小雪降

(*) 18日に登城したところ老中列座の上次のように申渡される:東西蝦夷地一円之警固を其の方(屋形様)並びに南部大膳太夫江永々仰せ付けられ候・之に依り領分高10万石 下に続く
ニ直し下され且亦四品仰せ付けられる・弥(いよいよ)精を入れ相励み申すべき旨仰せ出される、参勤については2月御暇翌年10月参府と心得るようにとのこと)

1809年　3月1日 文化6年 正月16日　曇 今日雪少し降
1809年　3月2日 文化6年 正月17日　曇 今日時々雪降　一寸程積
1809年　3月3日 文化6年 正月18日　曇 今日雪少し降
1809年　3月4日 文化6年 正月19日　曇 今日時々雪降 (去る23日夜飯詰村で出火・火元百姓村預け)
1809年　3月5日 文化6年 正月20日　曇 今日雪少し降 (江戸で一昨朔日六時頃より日本橋あたり青物町より出火・両国先浜町まで焼失・藩の屋敷は無事)
1809年　3月6日 文化6年 正月21日　曇
1809年　3月7日 文化6年 正月22日　曇
1809年　3月8日 文化6年 正月23日　曇 今日雪少し降
1809年　3月9日 文化6年 正月24日　晴
1809年　3月10日 文化6年 正月25日　曇 今日雪時々降
1809年　3月11日 文化6年 正月26日　曇 今日雪時々降
1809年　3月12日 文化6年 正月27日　晴 昨夜雪降　三寸程積 (カラフトソウヤ越年御人数居小屋の儀上方にて切組相廻し候につき……)
1809年　3月13日 文化6年 正月28日　晴
1809年　3月14日 文化6年 正月29日　晴 頃日暖気 (去る12月7・8日の大風で小泊村で船々帆損、工事の勤定が遅くなった大間越町奉行を御留守居組みに役下げ・その他2人役下げ)
1809年　3月15日 文化6年 正月30日　曇 昨夜戌の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止
1809年　3月16日 文化6年　2月1日 晴
1809年　3月17日 文化6年　2月2日 晴
1809年　3月18日 文化6年　2月3日 晴
1809年　3月19日 文化6年　2月4日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨時々降　巳の刻ころ雷鳴　未の刻頃雨止
1809年　3月20日 文化6年　2月5日 曇 今日雪少し降 (去7月敦賀表で大風雨洪水・御門並びに堀など破損・寛政11未年3月敦賀表大地震でも同所の御屋敷所々痛損)
1809年　3月21日 文化6年　2月6日 晴
1809年　3月22日 文化6年　2月7日 晴
1809年　3月23日 文化6年　2月8日 曇 今暁風強し　寅の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入 (蝦夷地帰りに御賞・上下下される)
1809年　3月24日 文化6年　2月9日 晴 昨夜之雨戌の刻頃止 (石渡川4歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる)
1809年　3月25日 文化6年　2月10日 曇 巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止　未の刻過ぎ雷鳴 (学校で御家中の剣術を御家老中が検分)　下から続く　御留守居組からも選考)
1809年　3月26日 文化6年　2月11日 晴 今暁雪少し降 (去月27日(後潟組)野田村に鯨寄せる・周囲の者共が切取り怒られる、当御廻船は両都にて大凡38艘・この上乗りは松前堅めで払底・御目見以上以下の　上に続く
1809年　3月27日 文化6年　2月12日 曇 午の刻過ぎより雨降　去るの刻過ぎ止 (謀印手形の柏木組梅田村の代庄屋を人相書手配(せい5尺2寸位等)・手引男を入牢、当月7日暮頃より翌8日朝迄に十三潟が大濱口まで氷明ける)
1809年　3月28日 文化6年　2月13日 晴 申の刻過ぎ少し地震
1809年　3月29日 文化6年　2月14日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨降　午の刻頃止　則刻風強し
1809年　3月30日 文化6年　2月15日 曇 今暁雪少し降　巳の刻頃より雨時々降　酉の刻頃止 (去る12日朝五つ時赤石組蠶木村で出火・類焼とも20軒余)
1809年　3月31日 文化6年　2月16日 曇 今日雪少し降
1809年　4月1日 文化6年　2月17日 曇 今日時々小雪降
1809年　4月2日 文化6年　2月18日 曇 昨夜雪少し降
1809年　4月3日 文化6年　2月19日 曇 今朝雪少し降 (昨夜御家中が居宅焼失・御奉公遠慮)
1809年　4月4日 文化6年　2月20日 晴 今暁雪少し降
1809年　4月5日 文化6年　2月21日 曇 昨夜吹雪強し　八寸程積ル　今日時々降　二寸程積ル
1809年　4月6日 文化6年　2月22日 晴
1809年　4月7日 文化6年　2月23日 快晴
1809年　4月8日 文化6年　2月24日 曇 巳の刻頃より小雨時々降　申の刻頃止
1809年　4月9日 文化6年　2月25日 曇 巳の刻頃より小雨降　午の刻過ぎ止 (去る12日蠶木村で類焼とも27軒・御米1俵宛27俵下し置かれる、昨夜柏木組常海橋村で出火・居宅外馬屋焼失・火元村預け)
1809年　4月10日 文化6年　2月26日 曇 今暁風強し　卯の刻頃止　申の刻過ぎより風吹　酉の刻頃風雨強し　夜ニ入　酉の刻過ぎ雷鳴 (石渡川4歩半の出水・両船共往来差留め、酒狂等の京徳寺を脱衣大場御構3里四方追放)
1809年　4月11日 文化6年　2月27日 晴 昨夜より之雨今暁子の刻過ぎ止 (去る22日昼後潟組阿弥陀川村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆、去る23日昼浦町組大別内村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け)
1809年　4月12日 文化6年　2月28日 快晴
1809年　4月13日 文化6年　2月29日 晴
1809年　4月14日 文化6年　2月30日 快晴
1809年　4月15日 文化6年　3月1日 快晴
1809年　4月16日 文化6年　3月2日 曇 巳の刻過ぎより小雨時々降　午の刻頃雷鳴　申の刻頃雨止
1809年　4月17日 文化6年　3月3日 晴
1809年　4月18日 文化6年　3月4日 晴
1809年　4月19日 文化6年　3月5日 快晴
1809年　4月20日 文化6年　3月6日 快晴
1809年　4月21日 文化6年　3月7日 快晴
1809年　4月22日 文化6年　3月8日 快晴
1809年　4月23日 文化6年　3月9日 曇 今暁丑の刻過ぎより雨時々降　申の刻過ぎ止ム
1809年　4月24日 文化6年　3月10日 晴
1809年　4月25日 文化6年　3月11日 曇 辰の刻頃より小雨時々降　午の刻頃止
1809年　4月26日 文化6年　3月12日 快晴
1809年　4月27日 文化6年　3月13日 快晴
1809年　4月28日 文化6年　3月14日 曇 申の刻過ぎ小雨時々降　夜ニ入
1809年　4月29日 文化6年　3月15日 晴 昨夜より之雨今暁子の刻頃止
1809年　4月30日 文化6年　3月16日 晴

1809年　5月1日 文化6年　3月17日 曇 （大坂までの鉛運賃は秋田からと同じく1箇に付き7文目だった・当年は是まで通り米1俵と同じとする）
1809年　5月2日 文化6年　3月18日 晴 今暁丑の刻頃より雨降　卯の刻頃止
1809年　5月3日 文化6年　3月19日 曇 （去る16日後潟組油川村で出火・居宅外馬屋その他焼失・火元百姓村預け、石渡川4歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる）
1809年　5月4日 文化6年　3月20日 曇 辰の刻過ぎ小雨降　則刻霰降　巳の刻雨止
1809年　5月5日 文化6年　3月21日 快晴 今朝霜降
1809年　5月6日 文化6年　3月22日 晴
1809年　5月7日 文化6年　3月23日 晴
1809年　5月8日 文化6年　3月24日 曇 今朝卯の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止 （去る8月15日高杉組八幡村庄屋が亀を上げ・御酒代鳥目1貫文下し置かれる、シャリ詰で出精の小細工人を勘定人に大抜擢・加増等の人事異動）
1809年　5月9日 文化6年　3月25日 快晴
1809年　5月10日 文化6年　3月26日 快晴 （岩木山の野火・大火・鎮火・後日代官慎み）
1809年　5月11日 文化6年　3月27日 曇 未の刻過ぎ　小雨降　則刻止 （一昨夜大光寺組田中村で出火・居宅外馬屋焼失・火元村預け）
1809年　5月12日 文化6年　3月28日 曇 未の刻過ぎより風強し　酉の刻頃風止
1809年　5月13日 文化6年　3月29日 晴
1809年　5月14日 文化6年　4月1日 曇 辰の刻過ぎより雨降　巳の刻頃より霰降　則刻雨止ム　酉の刻頃より雨降　夜ニ入 （人事異動）
1809年　5月15日 文化6年　4月2日 曇 昨夜より之雨今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止 （去月29日夜浪岡村で出火・建家馬屋とも12軒焼失・火元百姓他村預け）
1809年　5月16日 文化6年　4月3日 晴
1809年　5月17日 文化6年　4月4日 晴 今朝霜強し （来月13日江戸発駕と仰せ出される）
1809年　5月18日 文化6年　4月5日 晴 今朝霜強し （一野渡村の猟師小次右衛門が(いつのことか不明だが)熊4疋取る・御賞鳥目4貫文下し置かれる、出仕刻限の5時が守られていない・挨拶などに気合を入れている）
1809年　5月19日 文化6年　4月6日 晴 今暁丑の刻頃小雨降　則刻止
1809年　5月20日 文化6年　4月7日 晴 午の刻頃より之風吹　酉の刻過ぎ止 （深浦町・艫作村・等に矢竹がある）
1809年　5月21日 文化6年　4月8日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入　頃日冷し
1809年　5月22日 文化6年　4月9日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　終日降　夜ニ入
1809年　5月23日 文化6年　4月10日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻過ぎ止 （去る4日夜浦町組濱田村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け）
1809年　5月24日 文化6年　4月11日 曇 辰の刻頃小雨降　則刻止 （御手船が隠し津出等過積の上破船・船問屋などが絞られている）
1809年　5月25日 文化6年　4月12日 曇
1809年　5月26日 文化6年　4月13日 曇 昨夜亥の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1809年　5月27日 文化6年　4月14日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止
1809年　5月28日 文化6年　4月15日 晴
1809年　5月29日 文化6年　4月16日 快晴　　下から続く　　大坂御出入町人津軽屋彦兵衛が大病・是迄下し置かれた70俵5人扶持を倅彦十郎に）
1809年　5月30日 文化6年　4月17日 快晴 （昨4日の御切紙で今日(4月5日)三十郎同道で登城した・三十郎殿江御蔵米を以て壱万石に御足高の上高並の御奉公を仰せ付けられ・席は柳の間にと仰せ付けられる、　上に続く
1809年　5月31日 文化6年　4月18日 曇 今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻頃止 （乳井薬師堂の山の件がまだ揉めている）
1809年　6月1日 文化6年　4月19日 快晴
1809年　6月2日 文化6年　4月20日 快晴
1809年　6月3日 文化6年　4月21日 快晴
1809年　6月4日 文化6年　4月22日 晴 酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （屋形様今暁より少々風気・今4・5日御発駕御日延を仰せ出される）
1809年　6月5日 文化6年　4月23日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止　申の刻過ぎより風強し　則刻雨降　戌の刻頃風雨止 （喜多村監物を津軽監物）
1809年　6月6日 文化6年　4月24日 曇 巳の刻過ぎ雨降　則刻止
1809年　6月7日 文化6年　4月25日 晴
1809年　6月8日 文化6年　4月26日 快晴 （蝦夷地で郷夫勤め中の盗人6人に18鞭と所払い田畑等は妻子に等々の罰）
1809年　6月9日 文化6年　4月27日 晴 （一昨25日夜田舎縦組八幡村で出火・居宅馬屋等焼失・火元百姓村預け、此の度南溜池に御下之鯉鮹?を放される・南溜池は殺生停止場所である）
1809年　6月10日 文化6年　4月28日 曇 卯の刻過ぎ雨降　則刻止 （南溜池で釣をしていた子供が捕まる・今回は親に返す）
1809年　6月11日 文化6年　4月29日 快晴 （屋形様23日に御発駕、人事異動、多くの御家中に御賞）
1809年　6月12日 文化6年　4月30日 快晴
1809年　6月13日 文化6年　5月1日 曇 申の刻過ぎより雨降　夜に入
1809年　6月14日 文化6年　5月2日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻頃止
1809年　6月15日 文化6年　5月3日 快晴
1809年　6月16日 文化6年　5月4日 快晴 （足軽1人掃除小人1人の飛脚を去月23日に出している・早く着き御賞）
1809年　6月17日 文化6年　5月5日 快晴
1809年　6月18日 文化6年　5月6日 快晴 （銀を借りて返さない男に30鞭大場御構い十里四方追放家屋敷等は銀主に・その仲間にも27鞭等、野内町・横内組原別村等で多数の隠し津出：郷士を取り放ちの上永牢等多数に罰）
1809年　6月19日 文化6年　5月7日 快晴
1809年　6月20日 文化6年　5月8日 曇 巳の刻過ぎより小雨時々降　申の刻頃止
1809年　6月21日 文化6年　5月9日 快晴
1809年　6月22日 文化6年　5月10日 快晴 （老母に孝心の後潟組百姓の女房に御賞鳥目1貫文）
1809年　6月23日 文化6年　5月11日 快晴 （八時前山吹の間江御着座）
1809年　6月24日 文化6年　5月12日 快晴
1809年　6月25日 文化6年　5月13日 快晴 （昨12日夜碇ヶ関町後町で出火・7軒焼失潰れ家1軒庵寺にも何か・火元親類預け）
1809年　6月26日 文化6年　5月14日 快晴
1809年　6月27日 文化6年　5月15日 曇 午の刻過ぎ小雨降　酉の刻過ぎ止 （御賞、三厩の存在しない人物の女房を名乗り娘を貰い受けたいとの勧誘あり・召捕りの手配）
1809年　6月28日 文化6年　5月16日 曇
1809年　6月29日 文化6年　5月17日 晴 午の刻頃少し地震
1809年　6月30日 文化6年　5月18日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降　則刻止　卯の刻過ぎより時々雨降　夜ニ入 （桜庭村の猟師左次右衛門が熊4疋取る・御賞鳥目4貫文と下下位の熊皮1枚下し置かれる）

1809年　7月1日 文化6年　5月19日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止　(10月2日夜奥内村の庄屋が駄付馬を見咎めたところ米12俵を捨てて逃亡・最近12俵を186文目で入札した者あり)
1809年　7月2日 文化6年　5月20日 晴　午の刻頃雨降　則刻止　同刻過ぎ雷鳴　(乳井・薬師堂両村の山論に郡奉行野呂助左衛門・角田弥六を役下げ)
1809年　7月3日 文化6年　5月21日 晴　(大鰐村より初小角豆差上げる、御手廻番頭谷口某が昔出火?の不調法・身上召上げられ倅に5人扶持御目見以下御留守居支配に)　下から続く　三里四方追放家財は妻子に)
1809年　7月4日 文化6年　5月22日 曇　去るの刻過ぎ雨降　夜に入　(2月に品質の悪い熊胆を差上げた3人に12鞭宛居村徘徊是まで通り)　下から続く　欠所・この仲間の御中小姓の身上召上大場御構い　上に続く
1809年　7月5日 文化6年　5月23日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　巳の刻止　(12日の碇ヶ関町の類焼8軒に米1俵宛下し置かれる、返すべき手形を悪用した男に30鞭と尾太銅山江1年半の苦役家財　上に続く
1809年　7月6日 文化6年　5月24日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　巳の刻頃止　(初茄子真瓜大鰐より差上げる　3月28日・4月2日青森出帆の江戸・豆州の当御廻船が鹿島沖で荷打ち(3250俵中870俵・1560俵中390俵))
1809年　7月7日 文化6年　5月25日 快晴
1809年　7月8日 文化6年　5月26日 快晴　(人事異動)
1809年　7月9日 文化6年　5月27日 快晴
1809年　7月10日 文化6年　5月28日 快晴　(去る11月に出奔し最近立ち戻った帰国人が一昨25日夜広須組永田村の家に忍び込み打殺される)
1809年　7月11日 文化6年　5月29日 快晴
1809年　7月12日 文化6年　5月30日 快晴　(親不幸などの御目見以上御留守居支配の御給分召上げ永の御暇)　下から続く　と仰せ付けられる、一昨年より松前方御入用増・当年13000両余・来年15800両余)
1809年　7月13日 文化6年　6月1日 快晴　(人事異動、口達:これまでは御馬廻り以上の倅は御留守居組御中小姓としていた・今後は知行30石俵子40俵3人扶持金6両4人扶持以下は御目見以上御留守居組支配　上に続く
1809年　7月14日 文化6年　6月2日 快晴　(一昨晦日本郷村で郷士鎌田某の物置出火・火元戸〆)
1809年　7月15日 文化6年　6月3日 快晴　(鳶の者の勘当息子で賭博男に6鞭と弘前払い)
1809年　7月16日 文化6年　6月4日 曇　申の刻より小雨降　則刻止
1809年　7月17日 文化6年　6月5日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止
1809年　7月18日 文化6年　6月6日 快晴
1809年　7月19日 文化6年　6月7日 快晴　(田方一統渇水・御代官よりの申し出で四社で御祈祷)
1809年　7月20日 文化6年　6月8日 晴　(6月1日記述の40俵3人扶持に相当する他の例を示している:20俵7人扶持・50俵無扶持・3両2歩7人扶持・8両2人扶持など)
1809年　7月21日 文化6年　6月9日 快晴
1809年　7月22日 文化6年　6月10日 曇　未の刻頃雷鳴　則刻雨降　夜ニ入
1809年　7月23日 文化6年　6月11日 曇　昨夜之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　下から続く　盗人に3鞭と三里四方追放、濱下げ米を私曲した運送者に21鞭と三里四方追放・この関係者多数にも罰)
1809年　7月24日 文化6年　6月12日 曇　今暁丑の刻過ぎ小雨降　則刻止　未の刻過ぎより雨降　則刻雷鳴　申の刻過ぎ雨止　下から続く　作成の男に30鞭と1年半の苦役、帰った所払いの男に乞食手渡し、　上に続く
1809年　7月25日 文化6年　6月13日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　巳の刻頃止　未の刻頃雷鳴　則刻より雨時々降　夜ニ入　(両親を牢に入れようとした男に30鞭と尾太銅山での苦役2年、偽印で手形22枚　上に続く
1809年　7月26日 文化6年　6月14日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　辰の刻頃地震少し　巳の刻頃雨止
1809年　7月27日 文化6年　6月15日 晴　(笠原八郎兵衛を持筒足軽頭に等の人事異動、100石に2両の割合で御手当て)
1809年　7月28日 文化6年　6月16日 曇　午の刻過ぎより雨降　則刻止
1809年　7月29日 文化6年　6月17日 曇　未の刻頃雨降　則刻止
1809年　7月30日 文化6年　6月18日 暖　(1両に付き109文目5分なので(100石に付き)2両の御手当ては219文目・100俵の御家中に対する御手当ては銭127文目7分・金10両の御手当ては銭77文目9分・10人扶持は銭64文目6分)
1809年　7月31日 文化6年　6月19日 晴　(真寿院様(先々代藩主信寧の夫人)三十五日御法事に伴う大赦:弘前並びに居村徘徊御免3人)
1809年　8月1日 文化6年　6月20日 曇　未の刻頃雨降　申の刻頃止
1809年　8月2日 文化6年　6月21日 晴　(人事異動)
1809年　8月3日 文化6年　6月22日 晴
1809年　8月4日 文化6年　6月23日 晴
1809年　8月5日 文化6年　6月24日 晴　(朝鮮人参上々を2両などを買い入れている(両が金の単位か人参の単位か不明))
1809年　8月6日 文化6年　6月25日 曇　今暁丑の刻雨降　卯の刻頃止　則刻過ぎより雨降　巳の刻頃止
1809年　8月7日 文化6年　6月26日 晴　(御賞)
1809年　8月8日 文化6年　6月27日 晴
1809年　8月9日 文化6年　6月28日 快晴　(大鰐村加賀助兵左衛門より初穂差上げる、三之丸御屋形で御囃子)
1809年　8月10日 文化6年　6月29日 快晴　(松前表江罷り越す行列を高覧、去る7日夜金木組深郷田村で出火・居宅外馬屋焼失・火元高無村預け)
1809年　8月11日 文化6年　7月1日 快晴　(松前詰め中出精として多数に御賞、本町で博打打を5人捕らえ4人逃亡・かるたと銭280目余を押さえる、祢ふたは町内限り等のお触れ)
1809年　8月12日 文化6年　7月2日 快晴　(足立又右衛門が病死、小湊より三厩までの人馬賃2割半増・途中の8宿に高札を建てる)
1809年　8月13日 文化6年　7月3日 快晴
1809年　8月14日 文化6年　7月4日 快晴　頃日残暑強し
1809年　8月15日 文化6年　7月5日 快晴
1809年　8月16日 文化6年　7月6日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1809年　8月17日 文化6年　7月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止
1809年　8月18日 文化6年　7月8日 快晴　(御白洲前御門御普請に付き往来差留める・北之丸御門より往来いたすよう触れる)
1809年　8月19日 文化6年　7月9日 快晴
1809年　8月20日 文化6年　7月10日 晴
1809年　8月21日 文化6年　7月11日 曇　午の刻頃より小雨時々降
1809年　8月22日 文化6年　7月12日 曇　(御台所方・矢竹管理者たち・その他に御賞)
1809年　8月23日 文化6年　7月13日 曇　未の刻頃雨降　則刻止　(御賞)
1809年　8月24日 文化6年　7月14日 晴
1809年　8月25日 文化6年　7月15日 晴
1809年　8月26日 文化6年　7月16日 晴
1809年　8月27日 文化6年　7月17日 曇
1809年　8月28日 文化6年　7月18日 曇　申の刻頃小雨降　則刻止
1809年　8月29日 文化6年　7月19日 快晴
1809年　8月30日 文化6年　7月20日 快晴
1809年　8月31日 文化6年　7月21日 快晴　(6月上旬より出盛りの菜種相場が30日平均で銭1文目に菜種1升3合7夕6才・水油1升に付き5文目3厘・1升に付き5文目5分に商売を仰せ付ける)

1809年　9月1日 文化6年　7月22日 快晴
1809年　9月2日 文化6年　7月23日 快晴　頃日残暑強し
1809年　9月3日 文化6年　7月24日 快晴
1809年　9月4日 文化6年　7月25日 快晴
1809年　9月5日 文化6年　7月26日 快晴
1809年　9月6日 文化6年　7月27日 快晴
1809年　9月7日 文化6年　7月28日 快晴　(去る24日青森上大町で少々焼失・火元戸〆)
1809年　9月8日 文化6年　7月29日 快晴　(御白砂前御門御修復相済む)
1809年　9月9日 文化6年　7月30日 曇　午の刻頃小雨降　則刻過ぎ止　(乳井・薬師堂両村山論で入牢中の薬師堂村の13人ほどを御免とする)
1809年　9月10日 文化6年　8月1日 快晴　(高岡・長勝寺・革秀寺に初米、人事異動)
1809年　9月11日 文化6年　8月2日 曇　巳の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ止　(百沢より苔の実差上げる、カラフト嶋を北蝦夷地と唱えるようお達し、御賞)
1809年　9月12日 文化6年　8月3日 曇　辰の刻頃より雨時々降　申の刻頃止
1809年　9月13日 文化6年　8月4日 晴　(御停止の品(半手かけ・紅ノ差入れ手拭・牡丹付き脚半甲かけ・唐風呂敷とちりめん腰巻・唐風呂敷)を用いたとして5人から取り上げの上叱り置かれる)
1809年　9月14日 文化6年　8月5日 曇　卯の刻頃より雨降　夜ニ入
1809年　9月15日 文化6年　8月6日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　今暁子の刻過ぎより時々雷鳴　卯の刻頃止　(変な所に平出:宝永8年(平出)御一周忌の砌……・丹後留守中高岡(平出)御社参並びに……)
1809年　9月16日 文化6年　8月7日 晴　(去る2日今別湊で公儀押切船天録丸が破船)
1809年　9月17日 文化6年　8月8日 曇　今暁寅の刻過ぎ大雨　辰の刻過ぎ止　時々降　(人事異動)
1809年　9月18日 文化6年　8月9日 曇　今暁丑の刻より雨　雷鳴　寅の下刻大雨　辰の下刻止　(御能、四品の下され物(時服1・銀3枚など)多数)
1809年　9月19日 文化6年　8月10日 曇　今暁寅の刻より雨降　時々降　申の刻過ぎ止　(御能)
1809年　9月20日 文化6年　8月11日 曇　昨夜意の刻頃より雨時々降　今日に及ぶ　終日降　酉の刻頃止　(御能)
1809年　9月21日 文化6年　8月12日 晴　(御能)
1809年　9月22日 文化6年　8月13日 晴　(御能、高直・四品の下され物)
1809年　9月23日 文化6年　8月14日 晴
1809年　9月24日 文化6年　8月15日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(八幡祭礼らしい動き、今日は御帰城東御門より北之丸それより西の御郭御帰に付き……)
1809年　9月25日 文化6年　8月16日 晴　昨夜より之雨午の刻頃止
1809年　9月26日 文化6年　8月17日 曇　卯の刻より小雨降　則刻止　(乳井・薬師堂両村山論で薬師堂村が納得しない)
1809年　9月27日 文化6年　8月18日 曇　辰の刻より雨時々降　夜ニ入
1809年　9月28日 文化6年　8月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止　今朝岩木山ニ初て雪見ゆる　巳の刻頃霰降
1809年　9月29日 文化6年　8月20日 曇　昨夜戌の刻より雨時々降　今暁寅の刻過ぎ止
1809年　9月30日 文化6年　8月21日 晴　(人事異動、格別骨折り等で御手当て御賞?(金2歩仁朱など)
1809年　10月1日 文化6年　8月22日 晴
1809年　10月2日 文化6年　8月23日 晴
1809年　10月3日 文化6年　8月24日 曇　巳の刻過ぎより雨降　(北蝦夷地詰めで帰帆の節諸手足軽成田某が病死)
1809年　10月4日 文化6年　8月25日 晴
1809年　10月5日 文化6年　8月26日 曇　午の刻過ぎ小雨降　則刻止　(博打打ちの男に3鞭弘前町払い家財は妻子に・博打宿の男に3鞭町内払・博打打3人に3鞭宛居町徘徊是迄通り、盗みの奉公人に3鞭弘前払い・その他にも罰)
1809年　10月6日 文化6年　8月27日 晴
1809年　10月7日 文化6年　8月28日 晴
1809年　10月8日 文化6年　8月29日 曇　未の刻頃小雨降　申の刻頃止　則刻雷鳴
1809年　10月9日 文化6年　9月1日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止
1809年 10月10日 文化6年　9月2日 晴
1809年 10月11日 文化6年　9月3日 曇　酉の刻頃雷鳴　則刻より雨降　夜ニ入
1809年 10月12日 文化6年　9月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入　(報恩寺・薬王院・本行寺・隣松寺:・清安寺を不届きとして退院の上隠居)
1809年 10月13日 文化6年　9月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1809年 10月14日 文化6年　9月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(御家中の母に他出差止めを仰せ付けている)
1809年 10月15日 文化6年　9月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(当8月中日々付け金相場:111文目7分、昨夜五時過ぎ下土手町に100日ほどの男子捨子)
1809年 10月16日 文化6年　9月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止
1809年 10月17日 文化6年　9月9日 晴
1809年 10月18日 文化6年　9月10日 晴
1809年 10月19日 文化6年　9月11日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　夜に入
1809年 10月20日 文化6年　9月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入　酉の刻過ぎ風強し　(石渡川4歩半の出水・両船往来差留める)
1809年 10月21日 文化6年　9月13日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　終日降　夜ニ入
1809年 10月22日 文化6年　9月14日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止　(鮭2尺を高岡に献)
1809年 10月23日 文化6年　9月15日 晴　酉の刻頃雷鳴　則刻より雨降　戌の刻頃止　　下から続く　　四方追放家財は妻子に・この仲間の平岡町の男と駒越町の掃除小人の姉にも罰)
1809年 10月24日 文化6年　9月16日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　巳の刻頃止　(一粒金丹有合せ不足・5剤調合仰せ付けられる、松前から来たという人買い女と共謀して新岡村から娘を勾引の男に21鞭弘前三里　　上に続く
1809年 10月25日 文化6年　9月17日 晴　酉の刻過ぎ地震少々　(松前蝦夷地リイシリ詰めの諸手足軽警固葛西某が7月10日帰国途中のレフンケで病死)
1809年 10月26日 文化6年　9月18日 晴
1809年 10月27日 文化6年　9月19日 晴　(当松前ソウヤ詰めの御手廻与力傍島某が病気で帰国途中に松前表で公儀衆御役宅に乗込む)
1809年 10月28日 文化6年　9月20日 曇　辰の刻頃雷鳴　則刻より雨時々降　夜ニ入　午の刻頃雷鳴　(寺を呼び風儀の乱れを注意している:9月6日の件もこれか?、去る11日の大風雨で浦町・横内組で洪水・橋作毛流失)
1809年 10月29日 文化6年　9月21日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻過ぎ止　(人事異動、寒沢銀山跡に銀の吹き粕あり・尾太山に取寄せ試吹きすると鉛・銀が出た・岡ゼリの者を派遣して稼ぎたいとの申し出あり)
1809年 10月30日 文化6年　9月22日 晴
1809年 10月31日 文化6年　9月23日 快晴

1809年　11月1日 文化6年　　9月24日 晴
1809年　11月2日 文化6年　　9月25日 曇　昨夜子の刻頃より雨今日に及ぶ
1809年　11月3日 文化6年　　9月26日 曇　去るの刻より雨降　夜ニ入
1809年　11月4日 文化6年　　9月27日 曇　昨夜午の刻頃雨止　今日申の刻過ぎ雨降　夜ニ入
1809年　11月5日 文化6年　　9月28日 晴　昨夜より之雨子の刻頃止　(福眞弥兵衛を寄合格郡奉行手伝いに勤料俵子10俵との人事異動)
1809年　11月6日 文化6年　　9月29日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　卯の刻過ぎ止　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(来月3日出立の津軽屋三右衛門支配人に例年通り御手当金5両、菜種油1升に付き5文目5分を高値で売る者あり)
1809年　11月7日 文化6年　　9月30日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1809年　11月8日 文化6年　　10月1日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止　(人事異動)
1809年　11月9日 文化6年　　10月2日 曇　昨夜亥の刻頃雨降　子の刻頃止　(茂森町玉田屋の酒を買って夫婦で飲んだら女房が死亡・玉田家が試飲を仰せ付けてくれと申し出る・了)
1809年 11月10日 文化6年　　10月3日 晴　今暁丑の刻頃より雪降　卯の刻頃止
1809年 11月11日 文化6年　　10月4日 晴
1809年 11月12日 文化6年　　10月5日 曇　今暁霜強し　巳の刻頃より雨時々降　申の刻過ぎ止
1809年 11月13日 文化6年　　10月6日 曇　今日時々霰降
1809年 11月14日 文化6年　　10月7日 晴
1809年 11月15日 文化6年　　10月8日 快晴
1809年 11月16日 文化6年　　10月9日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々降　酉の刻頃止
1809年 11月17日 文化6年　10月10日 曇　(御持筒警固小笠原某が松前表で病死)
1809年 11月18日 文化6年　10月11日 曇　昨夜戌簿刻頃より雨時々降　今暁寅の刻頃止　(用人竹内衛士を手廻組頭兼帯・平沢三右衛門を御馬廻格に等の人事異動、剣術高覧)
1809年 11月19日 文化6年　10月12日 快晴　今朝霜強し
1809年 11月20日 文化6年　10月13日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1809年 11月21日 文化6年　10月14日 曇　昨夜之雨丑の刻頃止　午の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(剣術高覧)
1809年 11月22日 文化6年　10月15日 曇　昨夜之雨今暁丑の刻過ぎ止　辰の刻頃より雪少し降
1809年 11月23日 文化6年　10月16日 曇　今日雪少し降
1809年 11月24日 文化6年　10月17日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降
1809年 11月25日 文化6年　10月18日 快晴
1809年 11月26日 文化6年　10月19日 曇　今日雪少し降　(新穀初相場弘前御蔵米1俵に付き25匁立)
1809年 11月27日 文化6年　10月20日 曇　(当年の宮川伊三郎仕込み味噌値段:10文目に付き目形6貫660目、去る3日夜九つ時御上屋敷東御門前通り酒井右近様火元で出火・若干の動き)
1809年 11月28日 文化6年　10月21日 曇
1809年 11月29日 文化6年　10月22日 曇　今日時々雨降　戌の刻頃止
1809年 11月30日 文化6年　10月23日 快晴
1809年　12月1日 文化6年　10月24日 快晴　今朝霜強し
1809年　12月2日 文化6年　10月25日 曇　辰の刻頃より雨時々降　(剣術高覧)
1809年　12月3日 文化6年　10月26日 曇　今日雪少し降
1809年　12月4日 文化6年　10月27日 晴
1809年　12月5日 文化6年　10月28日 晴　(御能(松前・奥蝦夷地詰めを勤めた御家中が見物)・御賞)
1809年　12月6日 文化6年　10月29日 晴　　下から続く　　連絡があり黒石にも伝える)
1809年　12月7日 文化6年　　11月1日 晴　(人事異動、北蝦夷地詰めの大組足軽松下某が松前で病死、昨夜藤代組廻関村で出火・建家穀物建馬焼失・火元村預け、幕府役人を名乗る寸借詐欺・上杉家から　　上に続く
1809年　12月8日 文化6年　　11月2日 晴　(御賞)
1809年　12月9日 文化6年　　11月3日 晴　(酒値段1升に付き1文目5分・小売は1合9文宛と申し付ける)
1809年 12月10日 文化6年　　11月4日 曇
1809年 12月11日 文化6年　　11月5日 晴　(福眞弥兵衛が此の度開発方御用懸)　　下から続く　　・青森35文目5分9厘・鰺ヶ沢33文目2分9厘5毛)の内1文目2分御定引)・金1両に付き106文目)
1809年 12月12日 文化6年　　11月6日 曇　昨夜雪少し降　今暁丑の刻頃雷鳴　則刻より雨降　辰の刻頃より雪時々降　(米1俵三ヶ所一番相場平均:32文目3分5厘1毛(33文目5分5厘1毛(弘前31文目7分6厘8毛　　上に続く
1809年 12月13日 文化6年　　11月7日 曇　卯の刻より雪時々降　(人事異動)
1809年 12月14日 文化6年　　11月8日 曇　昨夜雪少々降　今日巳の刻頃より雪時々降　(大組警護柿崎某が北蝦夷地で病死、油1升につき6文目5分と油屋共が申請・5文目7分に申し付ける)
1809年 12月15日 文化6年　　11月9日 曇　未の刻頃より雪降　(津軽頼母殿江御立寄之節御同人江銀30枚下し置かれ候間金3歩積を以て渡方伺之通り勘定奉行江申し遣わされる)
1809年 12月16日 文化6年　11月10日 曇
1809年 12月17日 文化6年　11月11日 曇
1809年 12月18日 文化6年　11月12日 晴　(御賞、黒石役人から米4300石津出の申し出・了、江戸で10月3日の近火の際の働きに御賞)
1809年 12月19日 文化6年　11月13日 晴　(洪水に伴う稲草流失に事寄せ過分の流失と言った庄屋の家屋敷田畑御取り上げ村払い家財は妻子に・賄賂を要求した掃除小人の御給分召し上げ永の暇・その他の関係者にも罰)
1809年 12月20日 文化6年　11月14日 晴
1809年 12月21日 文化6年　11月15日 晴　(来春のソウヤ・リイシリ・江差・松前・北蝦夷地固めの者頭代など決まる、御賞、酒田の米相場は10月13日に30俵1歩が当月2日下落して32俵に相成る(意味不明))
1809年 12月22日 文化6年　11月16日 曇　今日卯の五刻冬至　昨夜雪降　今日時々降
1809年 12月23日 文化6年　11月17日 晴
1809年 12月24日 文化6年　11月18日 曇　今朝雪降　一寸程積
1809年 12月25日 文化6年　11月19日 晴　　下から続く　　当年は11月節より4日目去年と引き合い15日早い)
1809年 12月26日 文化6年　11月20日 曇　巳の刻頃より小雨降　夜ニ入　(当月4日暮六時より翌5日朝まで小股口より早川口まで残らず氷張る・去年は11月27日蔵六時より翌28日朝まで早川口より残らず氷張る・　　上に続く
1809年 12月27日 文化6年　11月21日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降　(人事異動)
1809年 12月28日 文化6年　11月22日 曇　今朝雪少し降
1809年 12月29日 文化6年　11月23日 晴
1809年 12月30日 文化6年　11月24日 晴　(去月29日廻関村で出火・稲草穀物焼失・御収納御免引)
1809年 12月31日 文化6年　11月25日 晴

1810年　1月1日 文化6年　11月26日 晴 （去月23日無手形米8俵を持って捕まった2人の男に3鞭宛持馬と米御取り上げ居村徘徊是迄通り）
1810年　1月2日 文化6年　11月27日 曇 今日雪少し降 （御賞、去る25日夜飯詰組壱野坪村で出火・火元高無、薬王院が一粒金丹20粒頂戴願い・10粒を下し置かれる）
1810年　1月3日 文化6年　11月28日 曇 今日雪少し降 （猿20日夜紙漉沢で出火・木小屋と馬1疋焼失・火元村預け）
1810年　1月4日 文化6年　11月29日 曇 今日雪降　一寸程積 （不審者を泊めめた男に3鞭青森町払い家屋敷家財は妻子に下し置かれる）
1810年　1月5日 文化6年　11月30日 曇 今日雪降　二寸程積 （浪の間で御慰の御囃子、人事異動）
1810年　1月6日 文化6年　12月1日 曇 今日雪降　二寸程積　午の二刻寒ニ入 （人事異動）
1810年　1月7日 文化6年　12月2日 曇 今日雪降　弐寸程積
1810年　1月8日 文化6年　12月3日 曇 今日雪(雲に見えるが)少し降 （御家中100石に100目の予定で御手当てを下し置かれる）
1810年　1月9日 文化6年　12月4日 曇 今日雪降　三寸程積　　下から続く　　御目見以上30俵3人扶持に・その他出牢24人）
1810年　1月10日 文化6年　12月5日 曇 （妙心院(弘前藩主信政)様の100回御忌に関連し津軽多膳・永孚・享和の変の森内左兵衛の蟄居・牢居等御免・ユトロフ嶋で不調法の斎藤蔵太と三橋要蔵を再任用　　上に続く
1810年　1月11日 文化6年　12月6日 曇
1810年　1月12日 文化6年　12月7日 晴
1810年　1月13日 文化6年　12月8日 晴 （御払い値段(米)1俵30目5分両替110文目）
1810年　1月14日 文化6年　12月9日 曇 今日雪降　四寸程積
1810年　1月15日 文化6年　12月10日 曇 今日雪少々降
1810年　1月16日 文化6年　12月11日 晴 （人事異動）
1810年　1月17日 文化6年　12月12日 晴
1810年　1月18日 文化6年　12月13日 晴
1810年　1月19日 文化6年　12月14日 晴 今日寒気強し （当秋御下濱に付きご入用高金601両2歩と銭16文目1分4厘8毛）
1810年　1月20日 文化6年　12月15日 晴 （人事異動、昨14日夜堀越組松木平村で出火・建家1軒焼失・火元村預け）
1810年　1月21日 文化6年　12月16日 曇 今日申の七刻大寒ニ入　今日雪少し降 （10月28日品川町で博打の男2人に6鞭宛五里四方追放家財妻子に・4人に3鞭等、秋田出生の盗人男を乞食共に面体を見知らせ送り返す）
1810年　1月22日 文化6年　12月17日 曇 今日雪少々降
1810年　1月23日 文化6年　12月18日 晴 （油川宿等に高札：文化巳6年7月より戌6月までの駄賃等：蟹田（後潟・青森もある）江荷物1駄169文・乗掛荷人共同段・軽尻馬1疋112文・人足1人85文）
1810年　1月24日 文化6年　12月19日 晴
1810年　1月25日 文化6年　12月20日 曇 今日雪少し降 （御慰の御囃子）
1810年　1月26日 文化6年　12月21日 曇 今暁雪少々降 （人事異動、小泊村の類族長松の弟病死・見分別状なし）
1810年　1月27日 文化6年　12月22日 晴 頃日寒気強し （掃除小人某が公儀より御呼出に付き揚屋入り・とうまる駕籠を作らせている）
1810年　1月28日 文化6年　12月23日 曇 今日雪少し降 （松前表にて蔦ノ某が病死、松前詰めの杖突黒滝某が病気で帰帆三厩で病死・同人子を金1両2歩2人扶持で御持鑓仲間に新規召抱え（戦死扱いではない））
1810年　1月29日 文化6年　12月24日 曇 今日雪降　壱寸程積 （結婚を言い交わしていた娘(まめ)の嫁入先に村方同道で乗込んで連れ戻した男に18鞭高杉組払い・一緒に乗込んだ12人に12～15鞭・乗込まれた男に9鞭）
1810年　1月30日 文化6年　12月25日 曇 今日雪降　壱寸程積 （昨夜藤崎村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け）
1810年　1月31日 文化6年　12月26日 恩 今日雪少し降 （沖館村遠見番所雪潰れ・来早春早速取建てる、同居人の妻と密通し5月25日夜夫を打殺した男を町中引き回しの上刎首獄門家財欠所・それを頼んだ妻も町中引回し磔）
1810年　2月1日 文化6年　12月27日 晴
1810年　2月2日 文化6年　12月28日 晴 （人事異動、勘定人佐藤吉五郎に銀9両等の御賞、明年御櫓(明治以降の天主)御取立て……、中嶋村で出火・人馬怪我無・不届に付き他村預け、ソウヤ表で掃除小人金沢村某が病死）
1810年　2月3日 文化6年　12月29日 曇 今日雪降　一寸程積　巳の刻頃吹雪強し
1810年　2月4日 文化7年 正月1日　曇 今日雪降　一寸程積る
1810年　2月5日 文化7年 正月2日　快晴
1810年　2月6日 文化7年 正月3日　快晴
1810年　2月7日 文化7年 正月4日　曇 昨夜より之雪今日五寸程積る
1810年　2月8日 文化7年 正月5日　晴
1810年　2月9日 文化7年 正月6日　曇 今日卯の刻頃小雨　午の刻頃止
1810年　2月10日 文化7年 正月7日　晴 （七種の御祝、今晩御謡初、当新酒仮値段1升に付き1匁5分1合売9文だったものを米価高値に付き1升に付き1匁6分1合売りは10文ツツとする）
1810年　2月11日 文化7年 正月8日　曇
1810年　2月12日 文化7年 正月9日　曇 （とうまる駕籠での江戸登りは雪の深い季節でもあり23日振り）
1810年　2月13日 文化7年 正月10日　曇 時々雪降
1810年　2月14日 文化7年 正月11日　曇 今日雪降　申の刻頃より雨降　夜ニ入 （御手廻組頭大道寺宇左衛門を用人兼帯等の人事異動）
1810年　2月15日 文化7年 正月12日　曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　今日雪少し降
1810年　2月16日 文化7年 正月13日　曇 今日雪降　二寸程積る
1810年　2月17日 文化7年 正月14日　快晴
1810年　2月18日 文化7年 正月15日　晴 （来(今年文化7)午年蝦夷地勤番人数の公儀からの指示：松前100人（内50人越年）・江差50人（残らず越年）・ソウヤ50人（右（江差の意）同段）・北蝦夷100人（右同段）・〆300人）
1810年　2月19日 文化7年 正月16日　快晴 （浪之間で御慰之御囃子、錠前付きとふまるかごに乗せて公儀呼び出しの小人を江戸に送る）
1810年　2月20日 文化7年 正月17日　快晴 （昨年松前のソウヤ詰めで勤め方不行き届きの海老名某を御役知召上げ寄合格に役下げ）
1810年　2月21日 文化7年 正月18日　快晴
1810年　2月22日 文化7年 正月19日　曇 昨夜亥の刻頃小雨降　則刻止　今日雪少シ降 （足軽具足35領の代金105両）
1810年　2月23日 文化7年 正月20日　曇 今日雪少し降
1810年　2月24日 文化7年 正月21日　晴 （松前江差で諸手足軽田沢某が病死）
1810年　2月25日 文化7年 正月22日　晴
1810年　2月26日 文化7年 正月23日　曇 巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止　暮ニ及び雪少し降
1810年　2月27日 文化7年 正月24日　曇
1810年　2月28日 文化7年 正月25日　晴

1810年　3月1日 文化7年 正月26日　晴
1810年　3月2日 文化7年 正月27日　快晴　　下から続く　　北之御丸御門と同様に）
1810年　3月3日 文化7年 正月28日　曇　昨夜戌之刻頃より雨降　今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入　（人事異動、御白砂前江御櫓取建・御門付近で工事・雪隠を毀すので御台所西方の雪隠を使う・人夫等の通行は　　上に続く
1810年　3月4日 文化7年 正月29日　曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻頃止ム
1810年　3月5日 文化7年　　2月1日 快晴　（人事異動、御賞）
1810年　3月6日 文化7年　　2月2日 曇　今日雪少し降り
1810年　3月7日 文化7年　　2月3日 快晴
1810年　3月8日 文化7年　　2月4日 快晴
1810年　3月9日 文化7年　　2月5日 晴
1810年　3月10日 文化7年　　2月6日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　酉の刻過ぎ止　（去る7月9日久渡寺街道で喧嘩・鎌を振り回し傷害の男に15鞭・殴った男に3鞭、盗みの掃除小人の御給分召上げ永の暇）
1810年　3月11日 文化7年　　2月7日 晴　酉の刻過ぎより雨　夜ニ入　（人事異動、松前江差で御城付足軽若林?某が病死）
1810年　3月12日 文化7年　　2月8日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅之刻過ぎ止　今日雪少し降
1810年　3月13日 文化7年　　2月9日 晴
1810年　3月14日 文化7年　　2月10日 快晴
1810年　3月15日 文化7年　　2月11日 快晴
1810年　3月16日 文化7年　　2月12日 快晴　（リイシリ詰め時に取った鷹の尾羽2羽を掃除小人が差上げる・酒代鳥目1貫文下し置かれる）
1810年　3月17日 文化7年　　2月13日 快晴　（去る11日赤石組田野沢村で出火・類焼9軒・火元他村預け）
1810年　3月18日 文化7年　　2月14日 快晴　今朝霜強し　（福眞弥兵衛に奥通を仰せ付けられる、剣術高覧、御賞）
1810年　3月19日 文化7年　　2月15日 快晴
1810年　3月20日 文化7年　　2月16日 曇　今暁子の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止　暮に及び雪少し降
1810年　3月21日 文化7年　　2月17日 曇　今暁雪降　一寸程積る　今日雪少し降
1810年　3月22日 文化7年　　2月18日 快晴　（隠し商売の品物を押さえ郡所物書きに御賞、白銀町堀で男水死）
1810年　3月23日 文化7年　　2月19日 快晴　（牢屋番人13軒に傷寒・御手当て御銭10匁ツツ下し置かれ・施薬も）
1810年　3月24日 文化7年　　2月20日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　巳の刻頃止
1810年　3月25日 文化7年　　2月21日 快晴　（人事異動、御賞）
1810年　3月26日 文化7年　　2月22日 快晴
1810年　3月27日 文化7年　　2月23日 快晴
1810年　3月28日 文化7年　　2月24日 快晴　（去る22日中里村で出火・建家外馬屋とも焼失類焼1軒・火元他村預け）
1810年　3月29日 文化7年　　2月25日 快晴　（剣術高覧）
1810年　3月30日 文化7年　　2月26日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1810年　3月31日 文化7年　　2月27日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳之刻頃止　（来月朔日日食に付き月並出仕の面々は五時以前に登城するようとの指示）
1810年　4月1日 文化7年　　2月28日 快晴　（人事異動、昨27日暮六時頃三世寺で出火・類焼1軒）
1810年　4月2日 文化7年　　2月29日 快晴　辰の刻頃地震少し　（タツヒ先との用語・タッピ（竜飛）とする文字がなかったのだろうな、詮議中の村預け中に他出し村の男を打擲した男に3鞭藤代高杉組払い家屋敷は妻子に）
1810年　4月3日 文化7年　　2月30日 曇　昨夜亥の刻頃より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　（昨29日夜9時頃猿賀組大袋村で出火・居宅木小屋焼失・火元庄屋村預け、昨日昼四時ころ大光寺組平田森村で　　欄外(*)に続く
1810年　4月4日 文化7年　　3月1日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　同刻より雪降　三寸程積る　巳の刻日食1分半　午の二刻終る（人事異動、御賞）
1810年　4月5日 文化7年　　3月2日 快晴
1810年　4月6日 文化7年　　3月3日 曇　今朝霜強し　未の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止
1810年　4月7日 文化7年　　3月4日 曇　申の刻頃雷鳴　（三丸御殿で御慰の御囃子）
1810年　4月8日 文化7年　　3月5日 快晴
1810年　4月9日 文化7年　　3月6日 快晴
1810年　4月10日 文化7年　　3月7日 快晴　酉の刻頃地震（具足師等に御賞銀9～5両）
1810年　4月11日 文化7年　　3月8日 曇　巳の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1810年　4月12日 文化7年　　3月9日 晴　昨夜之雨今日ニ及び時々降　酉之刻頃止　（岩木川出水・駒越渡6歩・往来差留める、去る7日高瀬村で出火・火元村預け）
1810年　4月13日 文化7年　　3月10日 快晴　（去る卯の年(文化4年)11月に大坂より女連れで関所を通らず武州本庄に帰って駆け落ちの男の人相書き）
1810年　4月14日 文化7年　　3月11日 晴
1810年　4月15日 文化7年　　3月12日 晴
1810年　4月16日 文化7年　　3月13日 晴　（去る11月に盗み男の逃亡を助けた青森町・原別村の男に9鞭・12鞭居町徘徊是まで通り）
1810年　4月17日 文化7年　　3月14日 快晴
1810年　4月18日 文化7年　　3月15日 快晴
1810年　4月19日 文化7年　　3月16日 快晴　今朝霜降
1810年　4月20日 文化7年　　3月17日 快晴　（去る14日夜金木組薄市村で出火・火元村預け）
1810年　4月21日 文化7年　　3月18日 快晴
1810年　4月22日 文化7年　　3月19日 曇　巳の刻過ぎより雨降　未の刻過ぎ止
1810年　4月23日 文化7年　　3月20日 快晴　今朝霜強し　（鶴の包丁等を高覧に入れる）
1810年　4月24日 文化7年　　3月21日 快晴　今朝霜強し　（去る18日浦町組荒川村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓村預け、北蝦夷地固めの人数はソウヤまで・ソウヤ固めの人数も下がって越冬するようにとの公儀の指示）
1810年　4月25日 文化7年　　3月22日 快晴
1810年　4月26日 文化7年　　3月23日 快晴
1810年　4月27日 文化7年　　3月24日 曇　申の刻過ぎより小雨降　夜ニ入　（鉛1箇の代金4両1歩2朱）
1810年　4月28日 文化7年　　3月25日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止
1810年　4月29日 文化7年　　3月26日 快晴　（窃盗の御馬廻り与力を御給分召上げ永牢家財欠所・表坊主を御給分召上げ大場御構い十里四方追放家財欠所）
1810年　4月30日 文化7年　　3月27日 快晴　今暁霜強し　（去る秋大回り検見の際担当の小人に金子を渡して……の郷士を御取放村払い田畑等は妻子に・庄屋にも6鞭居村徘徊是まで通り）
(*) 出火・類焼とも5軒潰家1軒土蔵外馬屋等焼失・火元他村預け）

1810年　5月1日 文化7年　3月28日 快晴　今暁霜強し
1810年　5月2日 文化7年　3月29日 快晴　今暁霜強し
1810年　5月3日 文化7年　4月1日 快晴 (人事異動、松前江差詰めの御持鑓仲間某が病死)
1810年　5月4日 文化7年　4月2日 曇　申の刻頃より小雨降　戌の刻頃止 (北蝦夷地越年御人数つほミ(窄む:狭い所にまとまっているの連体形で越冬)場所を「満しけるるも川遍」(増毛留萌)の適地に引き下げる予定とのこと)
1810年　5月5日 文化7年　4月3日 快晴
1810年　5月6日 文化7年　4月4日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜に入　申の刻頃雷鳴
1810年　5月7日 文化7年　4月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム
1810年　5月8日 文化7年　4月6日 曇
1810年　5月9日 文化7年　4月7日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年　5月10日 文化7年　4月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1810年　5月11日 文化7年　4月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1810年　5月12日 文化7年　4月10日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止 ((日付不明)横内組平新田村で出火・類焼26軒・火元庄屋他村預け)
1810年　5月13日 文化7年　4月11日 快晴
1810年　5月14日 文化7年　4月12日 快晴 (とふまる駕籠で江戸に送った掃除小人が死罪(その後実施したかどうかは不明))
1810年　5月15日 文化7年　4月13日 快晴
1810年　5月16日 文化7年　4月14日 快晴 (鎗術並びに長刀高覧、去る11日夜広須組沼崎村で出火・火元百姓村預け、真寿院様一周御忌に付き大赦:居町居村徘徊御免5人)
1810年　5月17日 文化7年　4月15日 曇　今暁丑の刻過ぎより小雨時々降　巳の刻頃止 (人事異動、今日八時過ぎ百石町で御家中宅より出火)
1810年　5月18日 文化7年　4月16日 快晴 (加瀬村の猟師三九郎が当年熊3疋取る・御賞先例の通り鳥目3貫文を下し置かれる)
1810年　5月19日 文化7年　4月17日 曇　未の刻頃より小雨降　則刻止　同刻過ぎより時々雷鳴
1810年　5月20日 文化7年　4月18日 晴
1810年　5月21日 文化7年　4月19日 晴
1810年　5月22日 文化7年　4月20日 曇　卯の刻過ぎより雷鳴　則刻雨降　夜ニ入
1810年　5月23日 文化7年　4月21日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 (松前表で諸手警固小山某が病死)
1810年　5月24日 文化7年　4月22日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降
1810年　5月25日 文化7年　4月23日 晴 (何が罪になるかわからないが馬の皮をはいだ男に6鞭、密通の男に30鞭大場御構い十里四方追放・女に15鞭兄預け、この仲間にも18鞭宛田畑等は妻子に)
1810年　5月26日 文化7年　4月24日 快晴
1810年　5月27日 文化7年　4月25日 快晴 (鎗術高覧)
1810年　5月28日 文化7年　4月26日 曇　申の刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入
1810年　5月29日 文化7年　4月27日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻頃止
1810年　5月30日 文化7年　4月28日 晴 (去る26日横内組幸畑村で出火・建家等焼失・火元村預け)
1810年　5月31日 文化7年　4月29日 快晴
1810年　6月1日 文化7年　4月30日 快晴
1810年　6月2日 文化7年　5月1日 快晴 (人事異動、松前表で掃除小人病死)
1810年　6月3日 文化7年　5月2日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降
1810年　6月4日 文化7年　5月3日 快晴
1810年　6月5日 文化7年　5月4日 快晴 (今日五つ半時田代丁の御家中宅で出火)
1810年　6月6日 文化7年　5月5日 快晴
1810年　6月7日 文化7年　5月6日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降り　卯の刻頃止
1810年　6月8日 文化7年　5月7日 快晴
1810年　6月9日 文化7年　5月8日 快晴 (去る3日飯詰組高野村で出火・外馬屋1軒焼失・火元百姓慎)
1810年　6月10日 文化7年　5月9日 快晴
1810年　6月11日 文化7年　5月10日 快晴
1810年　6月12日 文化7年　5月11日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年　6月13日 文化7年　5月12日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止　申の刻頃雨降　則刻止 (御賞)
1810年　6月14日 文化7年　5月13日 曇　午の刻頃小雨　則刻止 (博打の宿をした男を弘前町払い家屋敷等は妻子に)
1810年　6月15日 文化7年　5月14日 曇　卯の刻頃雨時々降　午の刻過ぎ止　巳の刻過ぎ雷鳴
1810年　6月16日 文化7年　5月15日 快晴 (人事異動、去る13日金木組脇元村で出火・類焼17軒・火元他村預け)
1810年　6月17日 文化7年　5月16日 快晴
1810年　6月18日 文化7年　5月17日 快晴
1810年　6月19日 文化7年　5月18日 快晴 (去る16日夜横内組八重田村で出火・類焼並びに外馬屋とも3軒焼失・火元他村預け)
1810年　6月20日 文化7年　5月19日 曇　今暁丑の刻過ぎより小雨降り　卯の刻頃止　未の刻頃より雨降　戌の刻止 (夜宮等の節の花火の取り扱いを厳重に注意している)
1810年　6月21日 文化7年　5月20日 快晴
1810年　6月22日 文化7年　5月21日 曇　未の刻より小雨時々降　戌の刻頃止 (13日朝出火の脇元村の内容:家17軒外馬屋11軒土蔵1ヶ所焼失・救い米を出している)
1810年　6月23日 文化7年　5月22日 快晴
1810年　6月24日 文化7年　5月23日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　戌の刻頃止
1810年　6月25日 文化7年　5月24日 曇　酉の刻頃小雨降り　則刻止(曇　酉刻頃小雨降り　則刻止)
1810年　6月26日 文化7年　5月25日 曇　午の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止
1810年　6月27日 文化7年　5月26日 快晴
1810年　6月28日 文化7年　5月27日 快晴 (青田の内笛吹くなの触れ)
1810年　6月29日 文化7年　5月28日 快晴
1810年　6月30日 文化7年　5月29日 快晴 (去る27日夜油川組新城村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓村預け、御蔵米駄下げの際不正した男に6鞭居村徘徊是まで通り)

1810年　7月1日 文化7年　5月30日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年　7月2日 文化7年　6月1日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　午の刻頃止
1810年　7月3日 文化7年　6月2日 曇　巳の刻過ぎ小雨降　則刻止
1810年　7月4日 文化7年　6月3日 快晴　下から続く　・外東御門(御馬廻与力諸手足軽)・三之北御門(御馬廻与力諸手足軽)・四之北御門(御馬廻与力諸手足軽)・西坂御門(諸手警固諸手足軽))
1810年　7月5日 文化7年　6月4日 快晴　下から続く　・北之御丸御門(御留守居与力御城付足軽)・内南御門(御手廻り与力大組足軽)・内東御門(御手廻り与力大組足軽)・外南御門(御馬廻与力諸手足軽)　上に続く
1810年　7月6日 文化7年　6月5日 快晴　(弘前城の城門と担当の番人:御白砂前御門(上番御持筒警固下番御持筒足軽)・北坂下御門(御城代与力御持筒足軽)・武者屯御門(大組与力大組足軽)　上に続く
1810年　7月7日 文化7年　6月6日 快晴
1810年　7月8日 文化7年　6月7日 快晴　(乳井・薬師堂村の揉め事は実力行使になっている?)
1810年　7月9日 文化7年　6月8日 曇　午の刻過ぎ雨降　則刻止
1810年　7月10日 文化7年　6月9日 快晴
1810年　7月11日 文化7年　6月10日 曇　今暁子の刻頃小雨降り　則刻止
1810年　7月12日 文化7年　6月11日 晴　亥の刻頃より小雨時々降　(大坂で合船の御召船英徳丸が滞りなく昨日青森に入津)
1810年　7月13日 文化7年　6月12日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降
1810年　7月14日 文化7年　6月13日 快晴　(松前行き御家中に対する藩からの御貸し人が御家中の金を盗んで30鞭大場御構い十里四方追放)
1810年　7月15日 文化7年　6月14日 曇　(昨日貞昌寺本堂屋根より出火・残らず焼失・本行寺法立寺も類焼・本行寺に御米15俵法立寺に10俵御手当てとして下し置かれる)
1810年　7月16日 文化7年　6月15日 快晴　(人事異動、岩木川出水にて駒越渡場往来差留める、昨14日朝広田組喰川村で出火・建家1軒焼失・火元村預け)
1810年　7月17日 文化7年　6月16日 曇　戌の刻頃雨降　則刻止
1810年　7月18日 文化7年　6月17日 曇　巳の刻より雨降　戌の刻頃止ム
1810年　7月19日 文化7年　6月18日 快晴　(去る16日駒越組中畑村で出火・火元高無村預け)　下から続く　苦役2年家財欠所、博打打とその宿の10人に3鞭宛と居村徘徊是まで通り)
1810年　7月20日 文化7年　6月19日 曇　今暁丑の刻過ぎ小雨降　則刻止　今日卯の刻より土用ニ入　(去年12月27日と今年2月晦日に金子借用を申し入れいやなら村中焼き払うとの張り紙をした男に30鞭尾太銅山での　上に続く
1810年　7月21日 文化7年　6月20日 快晴　頃日暑気強し
1810年　7月22日 文化7年　6月21日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　未の刻過ぎ止
1810年　7月23日 文化7年　6月22日 晴
1810年　7月24日 文化7年　6月23日 晴　(南溜池で御徒の水練御覧、博打打で出奔し盗みの仲立ちをした男に6鞭青森町払い、不行跡の江戸詰め掃除小人が多い・罰せられている)
1810年　7月25日 文化7年　6月24日 曇　午の刻過ぎより雨降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止
1810年　7月26日 文化7年　6月25日 曇　午の刻頃雨降　則刻止
1810年　7月27日 文化7年　6月26日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止
1810年　7月28日 文化7年　6月27日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止
1810年　7月29日 文化7年　6月28日 快晴　(江戸御廻米之内4000石地払い仕り候に付き右代金2770両……)
1810年　7月30日 文化7年　6月29日 快晴
1810年　7月31日 文化7年　7月1日 快晴　頃日暑気強し　(白取弥兵衛を旗奉行に等の人事異動)
1810年　8月1日 文化7年　7月2日 快晴
1810年　8月2日 文化7年　7月3日 快晴
1810年　8月3日 文化7年　7月4日 快晴　(去月28日大川原村で出火・火元村預け)
1810年　8月4日 文化7年　7月5日 快晴
1810年　8月5日 文化7年　7月6日 快晴
1810年　8月6日 文化7年　7月7日 曇　今暁子の刻頃より雨時々降　巳の刻過ぎ止　(100石に100目の御手当て)
1810年　8月7日 文化7年　7月8日 快晴　(今日高岡随身御門皆出来)　下から続く　神宮寺にした男に3鞭門前払い家屋敷は妻子に)
1810年　8月8日 文化7年　7月9日 快晴　(大鰐村加賀助と兵左衛門が初穂差上げる、御賞(金100疋・銀2朱・鳥目1貫文・同500文など)、嫁に行き不義?の女に9鞭兄預け、神宮寺に付き添い中に自分の借用を　上に続く
1810年　8月9日 文化7年　7月10日 曇　未之刻過ぎ小雨降　則刻止　(大鰐組乳井・薬師堂村より御引上げの山を吹上・八幡館江……)
1810年　8月10日 文化7年　7月11日 快晴　(当年北蝦夷地先年もエトロフで越年の諸手足軽成田某の本高を30俵2人扶持・御目見え以上御留守居支配松前方勘定人加勢に、類似の昇格?もある)
1810年　8月11日 文化7年　7月12日 快晴　午の刻頃雷鳴
1810年　8月12日 文化7年　7月13日 晴
1810年　8月13日 文化7年　7月14日 快晴
1810年　8月14日 文化7年　7月15日 晴
1810年　8月15日 文化7年　7月16日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年　8月16日 文化7年　7月17日 晴　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　寅の刻頃止　子之刻頃地震
1810年　8月17日 文化7年　7月18日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入
1810年　8月18日 文化7年　7月19日 曇　昨夜より之雨今日に及　未の刻過ぎ止　(此の頃天気不勝に付き日和揚げ重御祈祷を両社と護穀神に仰せ付ける)
1810年　8月19日 文化7年　7月20日 快晴　(当7月御家中御手当てに御宝蔵金の内より1000両御繰出しの上渡し方仰せ付けられ……、酒田表よりの足軽具足55領と馬上具足1領の代金163両2歩・御軍用金の内より御繰出し)
1810年　8月20日 文化7年　7月21日 快晴
1810年　8月21日 文化7年　7月22日 曇　丑の刻頃雨降　則刻止
1810年　8月22日 文化7年　7月23日 曇　巳の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1810年　8月23日 文化7年　7月24日 晴　昨夜より之雨今暁丑の刻過ぎ止　未の刻頃雷鳴
1810年　8月24日 文化7年　7月25日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1810年　8月25日 文化7年　7月26日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止　(当月9日御米3500俵と材木を積み青森出帆の大坂船が16日?に南部八戸領で難船・船頭等が鮫浦に流れ寄せる)
1810年　8月26日 文化7年　7月27日 快晴　(御米3500俵と材木を積み青森出帆の筑前船が16日の難風に南部三沢沖で荷打ち・宮古浦に入津)
1810年　8月27日 文化7年　7月28日 快晴　(去る19日の雨で田舎館組諏訪堂村・馬場尻村に水湛・出穂痛む、博打の男4人に戸〆20日)
1810年　8月28日 文化7年　7月29日 曇　巳の刻頃雨降　夜ニ入　子の刻頃雷鳴　(御初米7俵を例年通り御代官が持参、田舎館組馬場尻村の者どもと黒石領飛内村の者共が喧嘩している)
1810年　8月29日 文化7年　7月30日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　終日降　夜ニ入
1810年　8月30日 文化7年　8月1日 曇　昨日より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止ム　(人事異動、御賞、唐内坂を常盤坂と以来申し唱えるよう仰せ出される、五山に御祈祷を仰せ付ける)
1810年　8月31日 文化7年　8月2日 曇　辰の刻頃より小雨時々降　午の刻頃止　(百沢寺より苔の実差上げる)

1810年　9月1日 文化7年　8月3日 快晴 （離別した女に手傷を負わせた大組足軽の御給分召上げ兄預け・この離別した女房は今の結婚相手と離婚の上従弟預け）
1810年　9月2日 文化7年　8月4日 快晴 （貞昌寺に火元であるにもかかわらず格段の御沙汰で米15俵下し置かれる）
1810年　9月3日 文化7年　8月5日 曇　午の刻頃雨降　則刻止 （明油1升につき5文目2分の申し出に4匁8分値段に申し付ける）
1810年　9月4日 文化7年　8月6日 快晴
1810年　9月5日 文化7年　8月7日 快晴
1810年　9月6日 文化7年　8月8日 快晴　今暁子の刻頃より雨時々降　寅の刻過ぎ止　則刻雷鳴
1810年　9月7日 文化7年　8月9日 快晴 （不届きな碇ヶ関村庄屋に9鞭庄屋役罷免居村徘徊是まで通り）
1810年　9月8日 文化7年　8月10日 曇　未の刻過ぎより時々雨降　則刻雷鳴　夜ニ入　亥の刻頃より時々雷鳴　寅の刻過ぎ止
1810年　9月9日 文化7年　8月11日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降
1810年　9月10日 文化7年　8月12日 晴
1810年　9月11日 文化7年　8月13日 曇　午の刻小雨　則刻止
1810年　9月12日 文化7年　8月14日 快晴
1810年　9月13日 文化7年　8月15日 晴 （野呂助左衛門(役料50俵)・福眞弥兵衛(役料20俵に3人扶持)を郡奉行に等の人事異動・御賞）
1810年　9月14日 文化7年　8月16日 曇　今暁子の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎ止　戌の刻過ぎ地震少々
1810年　9月15日 文化7年　8月17日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止ム
1810年　9月16日 文化7年　8月18日 曇　申の刻頃小雨降　則刻止 （先年堀越組小栗山に入った帰国人の庄内生まれの男(1家4人)を碇ヶ関口に送り返す、去る5日青森出帆の御米2875俵積の大阪船が江差沖で沈船）
1810年　9月17日 文化7年　8月19日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1810年　9月18日 文化7年　8月20日 曇　昨夜より雨　今朝ニ及ぶ　巳の刻頃止
1810年　9月19日 文化7年　8月21日 晴 （天気悪いとして丹後者を詮索している）
1810年　9月20日 文化7年　8月22日 晴　今日巳の刻頃地震 （北蝦夷地詰めの伊藤某が去る13日松前で病死、御領分中人別調べが7年間に9696人ほど減っている理由を公儀に問われている）
1810年　9月21日 文化7年　8月23日 快晴 （当2月に駄下米から1俵をくすねた桜井村の男に3鞭居村徘徊是まで通り）
1810年　9月22日 文化7年　8月24日 曇　申の刻過ぎより時々雷鳴　則刻より雨降　夜ニ入
1810年　9月23日 文化7年　8月25日 曇　昨夜より之雷雨今暁ニ及ぶ　寅の刻過ぎ止　午の刻頃雨降　則刻止
1810年　9月24日 文化7年　8月26日 快晴
1810年　9月25日 文化7年　8月27日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　申の刻過ぎ止　未の刻頃地震
1810年　9月26日 文化7年　8月28日 曇　今暁寅の刻過ぎ小雨時々降　夜ニ入 （去る24日金木組長富村で雷火で百姓家焼失）
1810年　9月27日 文化7年　8月29日 曇　昨夜より之小雨今日時々降　午の刻頃止
1810年　9月28日 文化7年　8月30日 快晴
1810年　9月29日 文化7年　9月1日 曇　今暁丑の刻頃より大雨降　寅の刻過ぎ止ム　巳の刻過ぎ折々地震 （人事異動、郡所備金?1000両を御宝蔵に収めている:珍しく返したのかな:福眞）
1810年　9月30日 文化7年　9月2日 曇　今暁子の刻過ぎより折々地震　未の刻頃より雨降　夜ニ入　　下から続く　　御宝蔵金より御繰出し）
1810年　10月1日 文化7年　9月3日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　戌の刻頃止 （岩木川出水・駒越渡場の馬船往来差留める、当8月中日々附相場:金1両代117文目、御発駕御入用金不足・1500両を　　上に続く
1810年　10月2日 文化7年　9月4日 晴　戌の刻頃折々地震
1810年　10月3日 文化7年　9月5日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （去る2日夜藤代組小友村で出火・木部屋焼失・火元庄屋戸〆）
1810年　10月4日 文化7年　9月6日 曇　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　時々降　亥の刻過ぎより時々雷鳴 （長勝寺に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける、去る秋あら米等を受領した御蔵枡取2人に三里四方追放家財は妻子に等）
1810年　10月5日 文化7年　9月7日 曇　巳の刻頃小雨降　則刻止 （人事異動、馬場尻村の男が飛内村の男共に叩かれた件の犯人が見えてきた、当年一統豊作・御検見願い有るまじく候えども……）
1810年　10月6日 文化7年　9月8日 晴 （此度御取立を仰せ付けられた御本城辰巳之御矢倉の地鎮・安鎮の御祈祷を最勝院に仰せ付ける・梅の間で最勝院に御料理を下し置かれる）
1810年　10月7日 文化7年　9月9日 晴　今朝霜降 （毛内有右衛門を大寄合格に等の人事異動・御賞）
1810年　10月8日 文化7年　9月10日 快晴
1810年　10月9日 文化7年　9月11日 曇　今暁丑の刻頃より時々雷鳴　卯の刻過ぎ止　丑の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入(二つ目の丑は気に入らないが」）（人事異動・御賞）
1810年 10月10日 文化7年　9月12日 曇　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　卯の刻頃止 （人事異動・御賞）
1810年 10月11日 文化7年　9月13日 快晴 （御馬上にて御発駕）
1810年 10月12日 文化7年　9月14日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　戌の刻頃止ム
1810年 10月13日 文化7年　9月15日 曇
1810年 10月14日 文化7年　9月16日 快晴
1810年 10月15日 文化7年　9月17日 快晴　今暁霜降　頃日冷気
1810年 10月16日 文化7年　9月18日 曇　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1810年 10月17日 文化7年　9月19日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃止　今日岩木山に初雪見ゆる
1810年 10月18日 文化7年　9月20日 快晴　今朝霜強し
1810年 10月19日 文化7年　9月21日 曇　辰の刻頃より雨時々降　夜ニ入　　下から続く　　7月9日に御米3500俵と材木30石?を積み青森出帆の大坂船が南部種市濱で漂流・濡れ米等1993俵）
1810年 10月20日 文化7年　9月22日 快晴　昨夜よりの雨今暁寅の刻過ぎ止 （御家中の二男が松前御用から帰り出奔、8月5日に御米2780俵を積み青森出帆の大坂船が南部尻矢沖で沈船・乗合い残らず上陸、　　上に続く
1810年 10月21日 文化7年　9月23日 曇　卯の刻頃より小雨時々降　未の刻過ぎ止
1810年 10月22日 文化7年　9月24日 快晴 （古学校取壊し4ヶ寺江御払い）
1810年 10月23日 文化7年　9月25日 快晴　今朝霜強し
1810年 10月24日 文化7年　9月26日 曇　午の刻過ぎ小雨降り　則刻止
1810年 10月25日 文化7年　9月27日 快晴　今朝霜強し
1810年 10月26日 文化7年　9月28日 曇　卯の刻頃小雨降　則刻止 （当5月5日夜黒石領石名坂村で家主の女房が盗賊に殺害される・死罪が決まったが黒石に仕置き場なし・独立した藩であるから黒石に返す）
1810年 10月27日 文化7年　9月29日 晴　今暁子の刻過ぎ地震少々 （当6月に尾太銅鉛山で苦役を仰せ付けられていた鶴田村の男出奔）
1810年 10月28日 文化7年　10月1日 晴 （屋形様が去る18日に岩崎川の出水で横手駅に2泊・御関札日付直し等のために横手から江戸まで御徒等を派遣する）
1810年 10月29日 文化7年　10月2日 快晴 （去月5日に後潟組奥内村の漁船が破船・漁師5人中1人の死骸が南部領ヲメラに流れ着く・他は行方不明、去月27日後方組清水村で出火・火元高無村預け）
1810年 10月30日 文化7年　10月3日 曇　申の刻過ぎより風吹　酉の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年 10月31日 文化7年　10月4日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　終日降　夜ニ入　申ノ刻頃風止ム

1810年　11月1日 文化7年　　10月5日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　酉の刻過ぎ止ム　（昨日岩木川出水・駒越渡場往来差留める・落水に成り長船ばかり往来相成る）
1810年　11月2日 文化7年　　10月6日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入　　下から続く　　一昨日出水より岩木川の内紺屋町枡形上の方で欠崩れ）
1810年　11月3日 文化7年　　10月7日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入　（一昨3日夜九時半頃より東風吹く・4日昼頃より洪水・（青森）町々破損・御召船等別状なし・居宅に2尺より3・4尺水押上げる、　　上に続く
1810年　11月4日 文化7年　　10月8日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入　（黒石足軽と平内足軽が黒石で詮議中の去月18日に入牢中の牢破り逃げ去る・2人の人相書（せい5尺1寸位と5尺3寸位等）手配）
1810年　11月5日 文化7年　　10月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　今暁丑の刻頃雷鳴強し
1810年　11月6日 文化7年　10月10日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入
1810年　11月7日 文化7年　10月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止ム
1810年　11月8日 文化7年　10月12日 快晴　酉の刻過ぎ地震少し　（松前表で大組足軽成田某が病死、当4月出水の節の流木隠揚げ10人に過料銭1貫200文宛）
1810年　11月9日 文化7年　10月13日 曇　午の刻過ぎ小雨降　則刻止　（文化4年に盗みで入牢し今年2月に出牢を仰せ付けられ去月12日にまたまた盗みをした男に6鞭三里四方追放）
1810年 11月10日 文化7年　10月14日 曇　午の刻過ぎ小雨降　則刻止
1810年 11月11日 文化7年　10月15日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入　（来春の松前江差固め・松前ソウヤ固め・北蝦夷地固め・松前固めを申し付ける）
1810年 11月12日 文化7年　10月16日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　終日降　夜ニ入　酉之刻過ぎより風雨強し　（玉田屋に酒を買いに行き毒を入れ・寺に盗みに入った男に30鞭大場御構い十里四方追放）
1810年 11月13日 文化7年　10月17日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　則刻止　（宮川某が仕込んだ味噌を10文目代に付き6貫610匁値段で御目見以上望みの者に売貸）
1810年 11月14日 文化7年　10月18日 曇　卯の刻過ぎより小雨時々降　酉の刻頃止ム
1810年 11月15日 文化7年　10月19日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降　申の刻頃止　（当月11日夜油川米留が284俵の米を押える・詮議中に関係者出奔）
1810年 11月16日 文化7年　10月20日 曇
1810年 11月17日 文化7年　10月21日 晴
1810年 11月18日 文化7年　10月22日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1810年 11月19日 文化7年　10月23日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1810年 11月20日 文化7年　10月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃より風雨　夜ニ入
1810年 11月21日 文化7年　10月25日 曇　昨夜より之風雨今暁寅の刻頃止　今日初雪少々降　（藤崎川洪水・渡場往来差留める、米50俵初相場（御蔵米1俵）:24匁立に）
1810年 11月22日 文化7年　10月26日 曇
1810年 11月23日 文化7年　10月27日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日ニ及　終日降　卯の刻より時々雷鳴　午の刻止　申の刻頃より風雨　夜ニ入ニ戌の刻頃雨止
1810年 11月24日 文化7年　10月28日 曇　昨夜より之風今日ニ及ぶ　巳の刻頃止　今日雪降　一寸程積る
1810年 11月25日 文化7年　10月29日 曇　今日雪少々降　（新規御取建ての御櫓を上棟）
1810年 11月26日 文化7年　10月30日 快晴
1810年 11月27日 文化7年　　11月1日 快晴
1810年 11月28日 文化7年　　11月2日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻頃止
1810年 11月29日 文化7年　　11月3日 快晴
1810年 11月30日 文化7年　　11月4日 快晴
1810年　12月1日 文化7年　　11月5日 曇　今暁寅の刻頃より小雨時々降　申の刻頃止ム
1810年　12月2日 文化7年　　11月6日 快晴　（何をしたのか判らないが男に6鞭居町徘徊是まで通り、村送り中に逃がした男に3鞭居村徘徊是まで通り）
1810年　12月3日 文化7年　　11月7日 快晴　（米値段去月中相場平均24文目・酒1升に付き1文目4分2厘2毛に相当するので1匁4分値段（1合は9文）に申し付ける）（この日から10月になっている・干支にずれなく11月の誤り）
1810年　12月4日 文化7年　　11月8日 快晴
1810年　12月5日 文化7年　　11月9日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　未の刻頃止　（今朝五半時より時鐘出汗、古懸不動尊御出汗）
1810年　12月6日 文化7年　11月10日 曇　（此の度御宝蔵の御金紛失）
1810年　12月7日 文化7年　11月11日 曇　今日雪少し降　（油川組田沢村で外厩焼失・火元戸〆）
1810年　12月8日 文化7年　11月12日 曇　今日雪少し降
1810年　12月9日 文化7年　11月13日 曇　今日雪少し降
1810年 12月10日 文化7年　11月14日 快晴
1810年 12月11日 文化7年　11月15日 曇　卯の刻頃小雨降　則刻止　（松前詰めの掃除小人某が病死）
1810年 12月12日 文化7年　11月16日 曇　辰の刻頃雨時々降　申の刻過ぎ止　（この日から11月になっている・干支にずれなし）
1810年 12月13日 文化7年　11月17日 曇　今日雪少々降　（江戸登金御小納戸金之内1500両御常用金之内より1000両・都合2500両を来る23日立ちで登らせるよう仰せ付ける）
1810年 12月14日 文化7年　11月18日 曇　今日雪時々降　一寸程積　　下から続く　　青森31文目5分6厘5毛・鰺ヶ沢31文目7厘6毛）・役引き1文目2分・残って平均29匁3分4厘、金1両に付き117文目5分）
1810年 12月15日 文化7年　11月19日 曇　今日雪時々降　三寸程積　（去月11日夜油川組の米留め役が手段米284俵取り押さえる・家の所有者出奔、御蔵米3ヶ所1俵平均30目5分4厘（青森28文目8分7厘9毛・　　上に続く
1810年 12月16日 文化7年　11月20日 曇　今日雪少々降　頃日寒気
1810年 12月17日 文化7年　11月21日 曇
1810年 12月18日 文化7年　11月22日 快晴
1810年 12月19日 文化7年　11月23日 曇　今日雪時々降　三寸程積　（当年の人別お改め（藩内人口）189721人・伊達郡秋山村の人数を加えれば189948人）
1810年 12月20日 文化7年　11月24日 快晴　（7月9日青森出帆の大坂船が南部領で破船）
1810年 12月21日 文化7年　11月25日 晴　（一粒金丹5剤の調合を仰せ付ける）
1810年 12月22日 文化7年　11月26日 快晴　今日午の四刻冬至入　（子供の盗人に15鞭と親預け）
1810年 12月23日 文化7年　11月27日 曇　今日雪少々降
1810年 12月24日 文化7年　11月28日 曇　今日雪少々降
1810年 12月25日 文化7年　11月29日 晴　昨夜雪少々降
1810年 12月26日 文化7年　　12月1日 曇　今日雪少々降
1810年 12月27日 文化7年　　12月2日 曇
1810年 12月28日 文化7年　　12月3日 曇　今日雪少々降
1810年 12月29日 文化7年　　12月4日 曇　今日雪少々降　（油1升に付き5文目4分に申し付ける・3月からは4文目8分に、去月28日赤石組正道尻村で出火・類焼とも6軒焼失・火元高無）
1810年 12月30日 文化7年　　12月5日 曇　今日雪少々降
1810年 12月31日 文化7年　　12月6日 曇　今日雪少し降

1811年　1月1日 文化7年　12月7日 曇 昨夜雪降　今朝に及ぶ　七寸程積る
1811年　1月2日 文化7年　12月8日 曇 今日雪時々降　一寸程積る（来年の蝦夷地勤番人数は当年と同様との指示）
1811年　1月3日 文化7年　12月9日 曇 今日雪少々降
1811年　1月4日 文化7年　12月10日 晴
1811年　1月5日 文化7年　12月11日 曇 今日雪少々降
1811年　1月6日 文化7年　12月12日 晴 昨夜雪少々降　今日酉の一刻小寒ニ入
1811年　1月7日 文化7年　12月13日 曇 今日雪少々降
1811年　1月8日 文化7年　12月14日 曇 今日雪少々降
1811年　1月9日 文化7年　12月15日 曇 今日雪少々降（此の度100石に100目の御手当てを下し置かれる）
1811年　1月10日 文化7年　12月16日 快晴（当8月に宿送り途中で取り逃がした三馬屋町の男2人に3鞭宛居町徘徊是まで通り）
1811年　1月11日 文化7年　12月17日 曇 午の刻頃より雨時々降　酉の刻頃止
1811年　1月12日 文化7年　12月18日 曇
1811年　1月13日 文化7年　12月19日 曇 今日雪少々降
1811年　1月14日 文化7年　12月20日 曇 昨夜雪少々降（酒1升7厘6毛増・1升1文目5分とする）
1811年　1月15日 文化7年　12月21日 曇 今日雪少々降（笹森勘解由を物頭格勤料40俵増是まで通り松前御用懸等の人事異動・御賞）
1811年　1月16日 文化7年　12月22日 曇
1811年　1月17日 文化7年　12月23日 晴
1811年　1月18日 文化7年　12月24日 晴 昨夜雪少々降
1811年　1月19日 文化7年　12月25日 曇 今日雪少々降
1811年　1月20日 文化7年　12月26日 曇（偽手形を作った男に30鞭尾太銅鉛山で1年半の苦役・その仲間に27鞭居町より七里四方追放家屋敷等は妻子に等）
1811年　1月21日 文化7年　12月27日 曇 昨夜雪少々降　今日亥の六刻大寒
1811年　1月22日 文化7年　12月28日 曇 今日雪降　一寸程積る（御賞、昨27日木作村で出火・類焼共26軒焼失・火元鍛冶他村預ケ）
1811年　1月23日 文化7年　12月29日 曇 昨夜雪降　一寸程積る　今日雪時々降（大組足軽とその親を入牢）
1811年　1月24日 文化7年　12月30日 快晴
1811年　1月25日 文化8年 正月1日　曇 今日雪降　三寸程積（去る27日昼九時油川組前田村で出火・居宅と外厩焼失・火元高無村預け）
1811年　1月26日 文化8年 正月2日　曇 今暁雪降　三寸程積
1811年　1月27日 文化8年 正月3日　曇 昨夜雪降　一寸程積ル　今日時々雪降（御吉例金御金奉行が持参……）
1811年　1月28日 文化8年 正月4日　曇 昨夜雪降　一寸程積ル　今日時々雪降
1811年　1月29日 文化8年 正月5日　曇 今暁丑の刻頃より風強し　寅の刻過ぎ止ム　今日雪少し降
1811年　1月30日 文化8年 正月6日　曇 今日時々雪降　一寸程積ル
1811年　1月31日 文化8年 正月7日　曇 今日雪降　一寸程積ル（去月29日金木新田豊岡村で出火・火元百姓居村預け）
1811年　2月1日 文化8年 正月8日　曇 昨夜雪降　一寸程程積ル　今日時々雪降(どうも程が2回書いてある)
1811年　2月2日 文化8年 正月9日　曇 今日雪降　一寸程積ル
1811年　2月3日 文化8年 正月10日　曇 今日雪時々降
1811年　2月4日 文化8年 正月11日　晴
1811年　2月5日 文化8年 正月12日　曇 今日雪少し降（北蝦夷地並びにソウヤの御人数ともマシケに徒本ミ(つぼみ)越年仰せ付けられ候に付き両所の御人数9月15日より10月3日まで同所に到着）
1811年　2月6日 文化8年 正月13日　曇 今日雪少し降
1811年　2月7日 文化8年 正月14日　曇 今日雪少し降
1811年　2月8日 文化8年 正月15日　晴
1811年　2月9日 文化8年 正月16日　曇 今日雪少し降
1811年　2月10日 文化8年 正月17日　曇 今日雪少し降　頃日余寒強し
1811年　2月11日 文化8年 正月18日　曇 今日雪降　四寸程積ル
1811年　2月12日 文化8年 正月19日　曇 昨夜より雪降　今日時々降　七寸程積ル
1811年　2月13日 文化8年 正月20日　曇 今日雪少し降（(当年の)田畑仕付け高229538石余内8168石余(平均3厘5毛5)が当毛引）
1811年　2月14日 文化8年 正月21日　曇（御賞）
1811年　2月15日 文化8年 正月22日　晴
1811年　2月16日 文化8年 正月23日　曇 今日雪時々降　三寸程積ル
1811年　2月17日 文化8年 正月24日　曇 頃日余寒強シ
1811年　2月18日 文化8年 正月25日　曇 昨夜雪降　二寸程積ル　今日時々雪降
1811年　2月19日 文化8年 正月26日　晴
1811年　2月20日 文化8年 正月27日　曇 昨夜雪少し降　今日時々雪降
1811年　2月21日 文化8年 正月28日　晴（人事異動）
1811年　2月22日 文化8年 正月29日　曇 今日雪時々降　二寸程積ル
1811年　2月23日 文化8年　2月1日 曇 昨夜よりの雪今日に及ぶ　時々降　三寸程積ル（大坂御蔵元の鴻池又右衛門と茨城屋安右衛門に奇奥?丸50粒と一粒金丹20粒を下し置かれる・茨城屋は初）
1811年　2月24日 文化8年　2月2日 曇 今日雪少し降
1811年　2月25日 文化8年　2月3日 晴
1811年　2月26日 文化8年　2月4日 快晴
1811年　2月27日 文化8年　2月5日 曇 今日雪少し降（御賞(湯之沢鉛山関連)、去年7月に黒石領飛内村の者共が田舎館組馬場尻村の男を打擲した件の判決・30鞭200日の牢居・18鞭村払いなどを飛内村の13人に）
1811年　2月28日 文化8年　2月6日 快晴

1811年　3月1日 文化8年　　2月7日 快晴 (御賞)
1811年　3月2日 文化8年　　2月8日 曇　今日雪少し降
1811年　3月3日 文化8年　　2月9日 曇　今日雪降　一寸程積ル
1811年　3月4日 文化8年　　2月10日 曇　今日時々吹雪　三寸程積ル　昨今寒気強し
1811年　3月5日 文化8年　　2月11日 曇
1811年　3月6日 文化8年　　2月12日 曇　今暁寅の刻頃地震少シ　今日雪少し降
1811年　3月7日 文化8年　　2月13日 快晴 (御家中奉公中に盗みをし出奔した御持鑓の子を9鞭弘前町払い)
1811年　3月8日 文化8年　　2月14日 快晴 (人事異動・御賞)
1811年　3月9日 文化8年　　2月15日 快晴
1811年　3月10日 文化8年　　2月16日 快晴
1811年　3月11日 文化8年　　2月17日 快晴
1811年　3月12日 文化8年　　2月18日 晴
1811年　3月13日 文化8年　　2月19日 曇　今日雪少し降
1811年　3月14日 文化8年　　2月20日 曇　昨夜雪少し降　辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム
1811年　3月15日 文化8年　　2月21日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　三寸程積ル (剣術教授方抜群として小山次郎太夫を御馬廻格金7両3人扶持に等の人事異動)
1811年　3月16日 文化8年　　2月22日 曇　今日雪時々降
1811年　3月17日 文化8年　　2月23日 快晴 (流木を2本盗み取った男に3鞭居村徘徊是まで通り・仲間にも慎み)
1811年　3月18日 文化8年　　2月24日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ　巳の刻頃止ム
1811年　3月19日 文化8年　　2月25日 晴　頃日暖気
1811年　3月20日 文化8年　　2月26日 晴　昨夜雪少し降　今暁寅の刻過ぎ小雨降　則刻止ム (去る10月に隠津出手段米・容疑者を預かったのに逃がした庄屋に6鞭居村徘徊是まで通り庄屋取放・五人組などにも罰)
1811年　3月21日 文化8年　　2月27日 快晴
1811年　3月22日 文化8年　　2月28日 晴
1811年　3月23日 文化8年　　2月29日 晴 (当年の南部御廻船はおおよそ46艘・上乗足軽の人数が払底しており……)
1811年　3月24日 文化8年 閏2月1日　曇　昨夜よりの雪今日に及ぶ　時々降
1811年　3月25日 文化8年 閏2月2日　快晴 (古堀町の堀に赤子の死骸あり)
1811年　3月26日 文化8年 閏2月3日　快晴　酉の刻過ぎ小雨降　即刻止ム (盗みに入り家人に傷をつけた男に30鞭尾太銅山で1年半の苦役、焚炭を盗んだ男に3鞭居町徘徊是まで通り・これを搦捕った町人男に鳥目700文)
1811年　3月27日 文化8年 閏2月4日　晴　酉の刻過ぎ小雨降　即刻止
1811年　3月28日 文化8年 閏2月5日　曇　辰の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル (大鰐組碇関村津刈沢新田で杉の切株35・栗の切株3本伐られており村人の勘違いとなる・過料として小杉3650本植えさせる・庄屋等にも罰)
1811年　3月29日 文化8年 閏2月6日　晴　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム　　下から続く　　四方追放田畑等は妻子に・この駄が斃馬になり偽った男に21鞭三里四方追放田畑等は妻子に・馬医等他の多数にも罰)
1811年　3月30日 文化8年 閏2月7日　快晴 (黒石領平内で南部領の者が木を伐り出しており搦捕る・不案内を認め1人より銭4貫200文宛で解決、去々6月飯詰山で桧皮をはいでいた男に24鞭駄2疋取上五里　　上に続く
1811年　3月31日 文化8年 閏2月8日　晴
1811年　4月1日 文化8年 閏2月9日　晴
1811年　4月2日 文化8年 閏2月10日　晴　今朝霜強し (去る5日の岩木川の出水で紺屋町後通りの土居が欠崩)
1811年　4月3日 文化8年 閏2月11日　快晴　今朝霜強し (座当盲女都合269人に15文宛の御配当を下し置かれる)
1811年　4月4日 文化8年 閏2月12日　快晴　今朝霜強し
1811年　4月5日 文化8年 閏2月13日　晴　昨夜亥の刻頃より小雨降　今暁寅の刻過ぎ止ム
1811年　4月6日 文化8年 閏2月14日　晴 (去月4日外ヶ浜通り出水)
1811年　4月7日 文化8年 閏2月15日　曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　未の刻頃止ム (人事異動、鉛1箇代金4両1歩仁朱余、当御発駕日限来月23日と仰出され候)
1811年　4月8日 文化8年 閏2月16日　曇　今日巳の刻頃より小雨時々降　申の刻杉止ム (当月9日暮6時頃より翌10日朝までに十三潟が大湊口より小湊川尻並びに高根沖まで残らず氷り明ける)
1811年　4月9日 文化8年 閏2月17日　晴　昨夜雪少し降 (当年の江戸御廻米の内地払いを除く37000石ほどの内三歩一にて12330石ほどを囲い米仕るべき旨……(米価の下落を防ぐためであろうが飢饉対策にもなるな))
1811年　4月10日 文化8年 閏2月18日　曇　今日雪少し降　午の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1811年　4月11日 文化8年 閏2月19日　曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　卯の刻頃止ム　今日雪少し降
1811年　4月12日 文化8年 閏2月20日　快晴
1811年　4月13日 文化8年 閏2月21日　晴
1811年　4月14日 文化8年 閏2月22日　曇　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル (岩木川出水・駒越渡場往来差留める)
1811年　4月15日 文化8年 閏2月23日　曇　昨夜之雨亥の刻頃止ム
1811年　4月16日 文化8年 閏2月24日　快晴
1811年　4月17日 文化8年 閏2月25日　晴 (学校の転用材:貞昌寺3貫990目・本行寺5貫450目・大円寺3貫915文目・法立寺3貫915文目)
1811年　4月18日 文化8年 閏2月26日　晴　昨夜亥の刻頃より雨降　今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム　　下から続く　　岩木川出水駒越渡場往来差留める)
1811年　4月19日 文化8年 閏2月27日　曇　申の刻過ぎより小雨降　酉の刻過ぎ止ム (飛内村の男が田舎館組馬場尻村の男を打擲した件で叩いた方の親の田畑家財を半分取上げ叩かれた方に渡している、　　上に続く
1811年　4月20日 文化8年 閏2月28日　快晴 (俵増村の男5人ほどに15鞭などと組払い家屋敷等は妻子に)
1811年　4月21日 文化8年 閏2月29日　快晴　今朝霜強し (去る21日後潟組左関村で出火・火元居村預け)
1811年　4月22日 文化8年 閏2月30日　曇　酉の刻過ぎ雨降　即刻止ム
1811年　4月23日 文化8年　　3月1日 曇　申の刻頃より小雨降　酉の刻過ぎ止ム (御発駕日限来る28日と仰せ出される、津軽甲斐守殿(黒石の殿様)に殿?)
1811年　4月24日 文化8年　　3月2日 晴
1811年　4月25日 文化8年　　3月3日 快晴 (横鍛冶町を覚仙町というようにする)
1811年　4月26日 文化8年　　3月4日 快晴
1811年　4月27日 文化8年　　3月5日 晴
1811年　4月28日 文化8年　　3月6日 快晴
1811年　4月29日 文化8年　　3月7日 快晴 (当2月に御家中知行米余米渡しの節謀印の手形を勘定所に差し出した御留守居組の親を入牢)
1811年　4月30日 文化8年　　3月8日 快晴 (去る7日木作新田床舞村で出火・類焼1軒・火元高無他村預け)

1811年　5月1日 文化8年　　3月9日 快晴（佐藤吉五郎等多数に300疋宛など下し置かれる）　　下から続く　　是まで通り、偽名でソフヤ詰めになり不法の男に9鞭居町徘徊是まで通り）
1811年　5月2日 文化8年　　3月10日 曇　申の刻過ぎより小雨降　夜ニ入ル（昨9日夜広田組喰川村で出火・大火に付き詳細不明、長谷川徳次郎が江戸浅草で捕まりお国へ）　　下から続く　　3鞭居村徘徊　　上に続く
1811年　5月3日 文化8年　　3月11日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降　夜ニ入る（喰川村の大火：喰川村35軒・同村流2軒・平井村31軒・潰レ家1軒・御蔵長屋1軒・同所拼小屋1軒・土蔵3ヶ所、博打の男に　　上に続く
1811年　5月4日 文化8年　　3月12日 晴　今暁寅の刻頃雨止ム
1811年　5月5日 文化8年　　3月13日 晴
1811年　5月6日 文化8年　　3月14日 曇　卯の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止ム
1811年　5月7日 文化8年　　3月15日 快晴（今日御着城）
1811年　5月8日 文化8年　　3月16日 晴
1811年　5月9日 文化8年　　3月17日 晴　昨夜亥の刻過ぎより小雨降　丑の刻止ム
1811年　5月10日 文化8年　　3月18日 晴（去る巳の年(今年は未で2年前)後潟村の常宿継を仰せ付けられ難渋と油川御代官役所に大勢が押しかける・言い分をかなえ徒党がましき事はするなと回答）
1811年　5月11日 文化8年　　3月19日 曇　昨夜子の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1811年　5月12日 文化8年　　3月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止ム
1811年　5月13日 文化8年　　3月21日 快晴
1811年　5月14日 文化8年　　3月22日 快晴
1811年　5月15日 文化8年　　3月23日 晴　昨夜丑の刻頃小雨降　則刻止ム
1811年　5月16日 文化8年　　3月24日 快晴　　下から続く　　1年半の苦役・仲間にも24鞭五里四方追放と21鞭三里四方追放）
1811年　5月17日 文化8年　　3月25日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル　　下から続く　　9鞭町払い・後家に9鞭親預け、去る11月4日に馬屋町で追剥と嘘言った男に30鞭碇ヶ関湯野沢鉛山で　　上に続く
1811年　5月18日 文化8年　　3月26日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム（蒔苗村の郷夫の名目で江差表に行き御家中から盗みの男に15鞭居町徘徊是まで通り、後家と不義盗みの男に　　上に続く
1811年　5月19日 文化8年　　3月27日 快晴
1811年　5月20日 文化8年　　3月28日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　則刻止ム
1811年　5月21日 文化8年　　3月29日 曇
1811年　5月22日 文化8年　　4月1日 晴　今朝霜降ル
1811年　5月23日 文化8年　　4月2日 快晴
1811年　5月24日 文化8年　　4月3日 快晴（人事異動）
1811年　5月25日 文化8年　　4月4日 快晴
1811年　5月26日 文化8年　　4月5日 快晴
1811年　5月27日 文化8年　　4月6日 快晴（2月に組払いの男が立帰り6鞭三里四方追放）
1811年　5月28日 文化8年　　4月7日 曇　今日辰の刻過ぎより雨時々降（去る3日広田組鶴ヶ岡村で出火・火元村預け、昨夜浪岡組高屋敷村で外馬屋が少々焼失・火元慎み）
1811年　5月29日 文化8年　　4月8日 晴
1811年　5月30日 文化8年　　4月9日 曇　辰の刻過ぎより雨降　巳の刻頃止ム
1811年　5月31日 文化8年　　4月10日 晴（御賞）
1811年　6月1日 文化8年　　4月11日 晴　今朝霜降　酉の刻小雨降　則刻止ム
1811年　6月2日 文化8年　　4月12日 快晴
1811年　6月3日 文化8年　　4月13日 快晴
1811年　6月4日 文化8年　　4月14日 快晴
1811年　6月5日 文化8年　　4月15日 快晴
1811年　6月6日 文化8年　　4月16日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止ム　辰の刻過ぎ雷鳴
1811年　6月7日 文化8年　　4月17日 曇
1811年　6月8日 文化8年　　4月18日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム（人事異動・御賞）
1811年　6月9日 文化8年　　4月19日 晴（真寿院様三回御忌に伴う大赦：17人に居町居村徘徊御免）
1811年　6月10日 文化8年　　4月20日 曇　未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ時々雷鳴
1811年　6月11日 文化8年　　4月21日 晴
1811年　6月12日 文化8年　　4月22日 曇　未の刻頃雨降　則刻止ム
1811年　6月13日 文化8年　　4月23日 曇　時々雨降　申の刻過ぎ止ム
1811年　6月14日 文化8年　　4月24日 曇　今暁申(?)の刻過ぎより雨時々降　午の刻過ぎ止ム
1811年　6月15日 文化8年　　4月25日 晴　　下から続く　　12鞭兄預け、隠し商売男に3鞭兄預け）
1811年　6月16日 文化8年　　4月26日 晴（去る3月横内組矢田前村で出火の際母を打擲怪我をさせその後死亡させた男に30鞭尾太銅鉛山で1年半の苦役田畑等は妻子に、他人名目で盗みの江指詰め郷夫に　　上に続く
1811年　6月17日 文化8年　　4月27日 曇　巳の刻頃小雨降　則刻止ム
1811年　6月18日 文化8年　　4月28日 晴　辰の刻過ぎ地震少し
1811年　6月19日 文化8年　　4月29日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止ム
1811年　6月20日 文化8年　　4月30日 晴
1811年　6月21日 文化8年　　5月1日 晴（揚り屋賄方：白米5合（1人に付き黒米5合5夕）・……）
1811年　6月22日 文化8年　　5月2日 快晴
1811年　6月23日 文化8年　　5月3日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1811年　6月24日 文化8年　　5月4日 曇　昨夜よりの雨時々降　今暁に及ぶ　申の刻過ぎ止ム　巳の刻過ぎ雷鳴（板屋野木御蔵米を積んで鰺ヶ沢に入った船が水船）
1811年　6月25日 文化8年　　5月5日 晴
1811年　6月26日 文化8年　　5月6日 晴
1811年　6月27日 文化8年　　5月7日 曇　今暁卯の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル（去る2日浦町組金濱村で出火・居宅等焼失・火元村預け）
1811年　6月28日 文化8年　　5月8日 曇　昨夜の雨今日辰の刻過ぎ止ム
1811年　6月29日 文化8年　　5月9日 晴
1811年　6月30日 文化8年　　5月10日 晴（去る8日暮六時金木組中里村で木小屋1軒焼失・火元戸〆、当3月大鰐組長嶺村で碇関で流木が行方不明・用水堰に(引き込んで)ある・過料900文）

1811年　7月1日 文化8年　5月11日 晴　頃日暖気
1811年　7月2日 文化8年　5月12日 曇　卯の刻過ぎより雨終日降
1811年　7月3日 文化8年　5月13日 晴
1811年　7月4日 文化8年　5月14日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨降　則刻止ム（和徳組悪戸湯口村の山で桧294本が伐り荒される・小杉29400本を植えるよう仰せ付ける）
1811年　7月5日 文化8年　5月15日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入ル（人事異動）
1811年　7月6日 文化8年　5月16日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止ム（駒越川出水・両船往来差留める）
1811年　7月7日 文化8年　5月17日 曇　午の刻頃雨降　則刻止ム
1811年　7月8日 文化8年　5月18日 曇　申の刻頃雨降　夜ニ入ル
1811年　7月9日 文化8年　5月19日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1811年　7月10日 文化8年　5月20日 曇　未の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止ム（一昨18日夜五つ半頃駒越町で木小屋焼失・火元戸〆）
1811年　7月11日 文化8年　5月21日 晴　頃日暑気（御賞(御櫓御普請中格別の骨折り等)）
1811年　7月12日 文化8年　5月22日 曇　申の刻頃雨降　則刻止ム
1811年　7月13日 文化8年　5月23日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル（当2月に秋田に送り返す宿送り中に逃げられた男2人に3鞭宛、割付奉公中に借逃げ男に9鞭親預け、五重塔に寝て小盗みの男に3鞭兄渡し）
1811年　7月14日 文化8年　5月24日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1811年　7月15日 文化8年　5月25日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム（昨夜東照宮の御戸張盗み取られる、座等盲女269人に鳥目15文宛67文目2分5厘下し置かれる）
1811年　7月16日 文化8年　5月26日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止
1811年　7月17日 文化8年　5月27日 晴　頃日暑気強し
1811年　7月18日 文化8年　5月28日 曇　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1811年　7月19日 文化8年　5月29日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　卯之刻過ぎ止ム（詮議の儀有りとして薬王院院代を禁足・同所下社家神田某も揚屋入り）
1811年　7月20日 文化8年　6月1日 快晴　今暁子の刻頃より雨降　寅の刻過ぎ止　午の六刻土用入（楠美荘司を用人に役知50石等の人事異動、御賞、石渡川が4歩半の出水・馬船小船とも往来相成りかねる）
1811年　7月21日 文化8年　6月2日 晴　頃日暑気強し
1811年　7月22日 文化8年　6月3日 快晴（(博打をしたのでしょうな)御家中(御手廻組)奈良岡某を半知隠居養子御目見以上御留守居支配、類似の坊主御家中など10人程度に永の暇尾太銅山で永の苦役等々の罰）
1811年　7月23日 文化8年　6月4日 快晴
1811年　7月24日 文化8年　6月5日 快晴
1811年　7月25日 文化8年　6月6日 快晴（博打の参加者を通報したが言い分に取違え等がある掃除小人の御給分召し上げ永の暇三里四方追放家財は妻子に・参加者10人余にも3鞭等）
1811年　7月26日 文化8年　6月7日 曇　辰の刻過ぎより小雨降　夜ニ入ル（毛内有右衛門が雲林と名改め摘髪）
1811年　7月27日 文化8年　6月8日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止ム
1811年　7月28日 文化8年　6月9日 曇（去月24日赤石組日照田村の田方4反余が洪水で川欠け）
1811年　7月29日 文化8年　6月10日 曇　巳の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止ム（頃日天気打ち続き不正に付き日和揚げ重祈祷を4社に仰せ付ける・丹後者詮索……）
1811年　7月30日 文化8年　6月11日 曇　午の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止ム（去月24日赤石組一ツ森村の田方1反7畝余が洪水で石砂上がる）
1811年　7月31日 文化8年　6月12日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止ム
1811年　8月1日 文化8年　6月13日 快晴
1811年　8月2日 文化8年　6月14日 曇
1811年　8月3日 文化8年　6月15日 晴
1811年　8月4日 文化8年　6月16日 晴（御賞）
1811年　8月5日 文化8年　6月17日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止ム（去る12月に五人組を打擲した男に24鞭五里四方追放）
1811年　8月6日 文化8年　6月18日 曇　午の刻過ぎより雨降　未之刻過ぎ止ム　即刻雷鳴
1811年　8月7日 文化8年　6月19日 快晴
1811年　8月8日 文化8年　6月20日 快晴（人事異動、御賞(金200疋・南鐐5片・銀2両・1貫500文・400文など)、字を上手に書く御中小姓以下の御目見以上の人材を探している）
1811年　8月9日 文化8年　6月21日 快晴　頃日残暑強し
1811年　8月10日 文化8年　6月22日 快晴　巳の刻過ぎより時々雷鳴　未の刻頃止ム　午の刻過ぎより雨降　則刻止ム
1811年　8月11日 文化8年　6月23日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル　酉の刻頃雷鳴
1811年　8月12日 文化8年　6月24日 快晴（(どこからとないが)初穂差上げる、御賞、鷹匠町細小路の高屋某の屋敷を福眞弥兵衛に）
1811年　8月13日 文化8年　6月25日 快晴
1811年　8月14日 文化8年　6月26日 快晴（水油1升に付き4文目5分値段と仰せ付ける）
1811年　8月15日 文化8年　6月27日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム（祢ふた流は大造にするな町内限り等々の注意）
1811年　8月16日 文化8年　6月28日 曇　午の刻過ぎ小雨降る　即刻止ム（重婚?の男に12鞭村徘徊是まで通り、女房のある男に娘をやった父で博打打に3鞭居村徘徊是まで通り・その他参加者にも3鞭など）
1811年　8月17日 文化8年　6月29日 曇
1811年　8月18日 文化8年　6月30日 快晴
1811年　8月19日 文化8年　7月1日 快晴（高100石に対して100目の御手当て）
1811年　8月20日 文化8年　7月2日 曇　巳の刻頃より雷鳴強し　雨降　夜ニ入ル　未の刻過ぎ雷止ム（南溜池で病気の諸手足軽が水死）
1811年　8月21日 文化8年　7月3日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1811年　8月22日 文化8年　7月4日 晴（冨突と名付博打構敷儀いたし間敷旨に付き公儀御書付の写……、御聞役河野某が病死）
1811年　8月23日 文化8年　7月5日 曇　辰の刻頃より雨降　夜ニ入ル（去る2日昼九時頃飯詰組へ雨交じりの氷(雹?)降る）
1811年　8月24日 文化8年　7月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入ル（駒越・石渡川出水・両船往来差留める、当御廻船の内江戸船が常州沖で2875俵の内808俵荷打ち・516俵丸濡れ）
1811年　8月25日 文化8年　7月7日 晴　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　今暁丑の刻過ぎ雷鳴
1811年　8月26日 文化8年　7月8日 曇　卯の刻過ぎ小雨降　則刻止ム（一粒金丹有合わせ不足に付き5剤調合を仰せ付ける）
1811年　8月27日 文化8年　7月9日 曇　今暁午の刻頃小雨降る　寅の刻頃止ム(曇今暁午刻頃小雨降寅刻頃止ム:となっている・暁と午の刻では合わないが)
1811年　8月28日 文化8年　7月10日 晴　酉の刻過ぎ雨降　夜ニ入ル（北原内匠が当年北蝦夷地詰め中病死、当御廻船で抜米の取締りが適切だった石田某を御中小姓に）
1811年　8月29日 文化8年　7月11日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　辰の刻過ぎ雷鳴（去る6日の洪水で大鰐・尾崎・大光寺組の田畑水押し、稲の花の時季に天気不勝・五山に重き御祈祷を仰せ付ける）
1811年　8月30日 文化8年　7月12日 晴（御賞、去る6日の出水で藤崎大橋流失・7日より往来差留める）
1811年　8月31日 文化8年　7月13日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入ル

1811年　9月1日 文化8年　7月14日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入ル
1811年　9月2日 文化8年　7月15日 晴　昨夜より之雨今暁寅の刻頃止ム　(大鰐組御代官より御初米差し出す)
1811年　9月3日 文化8年　7月16日 快晴
1811年　9月4日 文化8年　7月17日 曇　酉の刻頃雨降　戌の刻頃止ム
1811年　9月5日 文化8年　7月18日 曇　巳の刻頃小雨降　未の刻頃止ム　この頃亥ノ方箒星見ル
1811年　9月6日 文化8年　7月19日 曇　今日午の刻頃小雨降　則刻止ム　(石川橋より碇ヶ関まで大小橋々流失・関係役人が出向いて沙汰する)
1811年　9月7日 文化8年　7月20日 晴　(離縁した妻が元夫に襲われている)
1811年　9月8日 文化8年　7月21日 晴　(三之丸御屋形で御慰めの角力高覧)
1811年　9月9日 文化8年　7月22日 晴　(6日洪水の大鰐・蔵館両村の水難で難儀の者に1俵ツツ御手当て遣わす)
1811年　9月10日 文化8年　7月23日 曇　申の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル　(他人名義でソウヤ詰め郷夫が不法なことをしており9鞭兄(御持筒足軽)預け)
1811年　9月11日 文化8年　7月24日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1811年　9月12日 文化8年　7月25日 晴　昨夜よりの雨今日に及ぶ　卯の刻頃止ム
1811年　9月13日 文化8年　7月26日 快晴
1811年　9月14日 文化8年　7月27日 晴　(事情は判らないが金が不足と勘定奉行が報告している)
1811年　9月15日 文化8年　7月28日 曇　今暁子の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル　　下から続く　　永の暇三里四方追放・同類3人にも永の暇等)
1811年　9月16日 文化8年　7月29日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム　(去る年北蝦夷地詰めで運送船に乗りリイシリに上陸し板倉から品々盗んだ諸手足軽坂本某の御給分召し上げ　　上に続く
1811年　9月17日 文化8年　7月30日 曇　午の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1811年　9月18日 文化8年　8月1日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止ム　(人事異動)
1811年　9月19日 文化8年　8月2日 曇　昨夜戌の刻過ぎ小雨降　今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　同刻雷鳴　(百沢寺より苔の実差上げる、松前江差詰めの掃除小人が病死)
1811年　9月20日 文化8年　8月3日 晴　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル　(藤崎辺江開発場高覧、博打・その宿の下中野・上木作村の男2人に3鞭居村徘徊是まで通り、去年江差詰合で度々外出の御家中8人を隠居等に)
1811年　9月21日 文化8年　8月4日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム　戌の刻頃より雨時々降る　夜ニ入ル
1811年　9月22日 文化8年　8月5日 晴　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム
1811年　9月23日 文化8年　8月6日 曇　今日時々雨降　(去る春より当春まで松前詰め合いで外出が多かった御家中を御目見以上御留守居支配に役下げ)
1811年　9月24日 文化8年　8月7日 曇　申の刻過ぎより小雨降　戌の刻頃止ム
1811年　9月25日 文化8年　8月8日 曇
1811年　9月26日 文化8年　8月9日 晴
1811年　9月27日 文化8年　8月10日 曇　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル
1811年　9月28日 文化8年　8月11日 晴　昨夜よりの雨今暁寅の刻過ぎ止
1811年　9月29日 文化8年　8月12日 晴　(勘定奉行から金が不足との申し出であり)
1811年　9月30日 文化8年　8月13日 快晴　昨夜亥の刻頃雨降　則刻止ム
1811年　10月1日 文化8年　8月14日 晴　(当春北蝦夷地詰御人数5月10日より去月3日までソウヤ表出帆クシュンコタン江追々着岸、御賞)
1811年　10月2日 文化8年　8月15日 快晴　(八幡宮御祭礼滞りなく相済む)
1811年　10月3日 文化8年　8月16日 曇　今暁寅の刻小雨降　則刻止ム
1811年　10月4日 文化8年　8月17日 晴　(去る12日十三町で出火・類焼とも29軒・火元慎み、去る15日藤代組妙堂崎村で秣小屋1軒焼失)
1811年　10月5日 文化8年　8月18日 快晴
1811年　10月6日 文化8年　8月19日 曇　今暁寅の刻頃雨降　夜ニ入　(昨夜四半時新町で木部屋より出火・火元戸〆)　　下から続く　　4歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる)
1811年　10月7日 文化8年　8月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止ム　(去る18日大鰐・尾崎・大光寺組の19ヶ村の百姓共500人程が御代官役所に相詰め騒ぎ立てる・大人しく引き取る、石渡川　　上に続く
1811年　10月8日 文化8年　8月21日 晴　酉の刻過ぎより雨降　子の刻過ぎ止ム
1811年　10月9日 文化8年　8月22日 快晴　(当作餘今以て青稲勝……、潰れ村の復活が見える:亀ヶ岡・福菟・津苅沢は久吉など)
1811年 10月10日 文化8年　8月23日 快晴　今朝岩木山ニ雪見ル　(御賞)
1811年 10月11日 文化8年　8月24日 晴　今朝霜強し　(人事異動・御賞)
1811年 10月12日 文化8年　8月25日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル
1811年 10月13日 文化8年　8月26日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1811年 10月14日 文化8年　8月27日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1811年 10月15日 文化8年　8月28日 晴　昨夜よりの雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止ム　(津軽屋三右衛門の支配人が来月朔日弘前出発・例年の通り金5両を御手当てに)
1811年 10月16日 文化8年　8月29日 快晴　(十三町の類焼の者どもに御米2俵宛下し置かれる)
1811年 10月17日 文化8年　9月1日 快晴　(人事異動、衣類・料理数・煎茶の質?・家の造作などに関する規制)
1811年 10月18日 文化8年　9月2日 快晴
1811年 10月19日 文化8年　9月3日 快晴　酉の刻過ぎ雨降　則刻止ム
1811年 10月20日 文化8年　9月4日 快晴
1811年 10月21日 文化8年　9月5日 晴
1811年 10月22日 文化8年　9月6日 快晴　(金1両代銀118文目9分8厘)
1811年 10月23日 文化8年　9月7日 晴　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル
1811年 10月24日 文化8年　9月8日 快晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止ム
1811年 10月25日 文化8年　9月9日 晴　(福眞弥兵衛の倅才助が御目見)
1811年 10月26日 文化8年　9月10日 快晴
1811年 10月27日 文化8年　9月11日 曇　今暁子の刻頃より雨降　辰の刻頃止　則刻霰少し降
1811年 10月28日 文化8年　9月12日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　巳の刻頃雷鳴　酉の刻過ぎ雨止ム
1811年 10月29日 文化8年　9月13日 快晴　今朝霜強し　(去る10月10日?に金を盗んで出奔した長谷川徳次郎の弟の御給分召上げ三里四方追放・その親に五里四方追放大場御構い・徳次郎とともに出奔の娘に9鞭親預け)
1811年 10月30日 文化8年　9月14日 快晴　今暁霜強し
1811年 10月31日 文化8年　9月15日 快晴　今暁霜強し　(若殿様御縁組等の御祝に付き御嚊子、人事異動、御賞)

1811年　11月1日 文化8年　　9月16日 快晴 （去当年松前詰めの勘定人某が度々外出酒狂い長柄の者に役下げ・同様に御目見以下御留守居組に）
1811年　11月2日 文化8年　　9月17日 曇　今日卯の刻頃より雨時々降　申の刻過ぎ止ム
1811年　11月3日 文化8年　　9月18日 快晴　酉の刻頃より雷鳴　戌の刻頃より雨降　夜ニ入ル （去る15日夜飯詰村で出火・類焼1軒馬屋とも焼失）
1811年　11月4日 文化8年　　9月19日 曇　昨夜よりの雷雨今日に及ぶ　雨時々降　卯の刻過ぎ止　雷止ム
1811年　11月5日 文化8年　　9月20日 曇
1811年　11月6日 文化8年　　9月21日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止ム
1811年　11月7日 文化8年　　9月22日 曇　今暁子の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　酉の刻過ぎより雷鳴強し　戌の刻過ぎ雷止ム
1811年　11月8日 文化8年　　9月23日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻過ぎ止ム （獅子踊りの件で議論になった鯖石村に大勢で乗込み乱暴狼藉の八幡館村の男に30鞭尾太鉛山で1年半の苦役・同類6人に30～3鞭）
1811年　11月9日 文化8年　　9月24日 曇　今暁霜強し　未の刻過ぎより雨降　申の刻頃雷鳴強し　戌の刻頃雨止ム （去る15日暁七時頃広田組食川村で出火・類焼15軒・火元他村預け）
1811年 11月10日 文化8年　　9月25日 晴 （当6月に家屋敷拝領の福眞弥兵衛などが早速御礼を申し上げるべきところ遅くなりご奉公遠慮）
1811年 11月11日 文化8年　　9月26日 曇　今日初雪降　弐寸程積ル　未の刻過ぎ雷鳴 （大光寺村の庄屋の弟が死んだ兄の手形の取り扱いにミスがあったのか9鞭居村徘徊是まで通り）
1811年 11月12日 文化8年　　9月27日 曇　今日雪少し降
1811年 11月13日 文化8年　　9月28日 曇　未の刻頃より雨降　戌の刻過ぎ止ム （人事異動）
1811年 11月14日 文化8年　　9月29日 晴　今朝霜強し　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル （自分入用の酒代を村茂合いに入れた?代庄屋に18鞭居村払い田畑等は妻子に・五人組2人にも9鞭など）
1811年 11月15日 文化8年　　9月30日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　時々降　卯の刻過ぎ止ム　今日雪少し降 （福眞弥兵衛などの遠慮御免）
1811年 11月16日 文化8年　　10月1日 曇　今日雪少し降 （人事異動、去る28日夜広須組小曲村で出火・居宅稲草等焼失・火元百姓村預け）
1811年 11月17日 文化8年　　10月2日 快晴
1811年 11月18日 文化8年　　10月3日 曇　巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止ム
1811年 11月19日 文化8年　　10月4日 快晴
1811年 11月20日 文化8年　　10月5日 快晴
1811年 11月21日 文化8年　　10月6日 快晴　今暁霜強し
1811年 11月22日 文化8年　　10月7日 快晴　今暁霜強し （当年宮川某仕込みの味噌10文目代に付き目方7貫340目・去年どおり御目見以上望みの族に）
1811年 11月23日 文化8年　　10月8日 快晴　今暁霜強し
1811年 11月24日 文化8年　　10月9日 曇　今暁寅の刻頃より小雨降
1811年 11月25日 文化8年　　10月10日 曇　今暁より雪降壱寸程積ル
1811年 11月26日 文化8年　　10月11日 曇　昨夜雪降　弐寸程積　今日折々雪降
1811年 11月27日 文化8年　　10月12日 曇　昨夜雪降　壱寸程積ル （水油値段1升に付き1分相増し4文目6分とする、弘前御蔵米1俵に付き25匁5分立ち）
1811年 11月28日 文化8年　　10月13日 晴
1811年 11月29日 文化8年　　10月14日 曇　今日雪少し降 （5月3日クナシリ嶋に異国人8人上陸召捕り候）
1811年 11月30日 文化8年　　10月15日 晴 （成田求馬を中小姓頭に松前御用懸に勤料30俵等の人事異動、来春の蝦夷地固めの指名・御賞）
1811年　12月1日 文化8年　　10月16日 晴
1811年　12月2日 文化8年　　10月17日 晴
1811年　12月3日 文化8年　　10月18日 晴　昨夜雪少し降
1811年　12月4日 文化8年　　10月19日 曇　今日雪少し降
1811年　12月5日 文化8年　　10月20日 快晴
1811年　12月6日 文化8年　　10月21日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　巳の刻頃止ム　　下から続く　　当年が49日早く節に引き合い去年は11月の節より23日目当年は11月の節より7日早い、津軽永孚などの他出御免）
1811年　12月7日 文化8年　　10月22日 晴　昨夜雪少し降 （当月16日暮六時より翌17日朝までに十三潟が小股口より早川口まで残らず氷張る・去年は12月5日暮六時より翌6日まて氷張り申し候・日数に引き合い　　上に続く
1811年　12月8日 文化8年　　10月23日 曇　卯の刻過ぎより小雨降　巳の刻過ぎ止ム （去る17日油川組安田村で出火・火元高無居村預け）　　下から続く　　一昨年5月に碇関町に火を付けた男を火罪に代えて斬罪）
1811年　12月9日 文化8年　　10月24日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル （去る20日夜広須組石館村で出火・居宅稲草焼失・火元村預け）　　下から続く　　で磔、秋田出生と偽り数々の悪行の男を斬罪、　　上に続く
1811年 12月10日 文化8年　　10月25日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降 （11月1日より来2月中まて水油1升に付き5文目5分で商売するよう仰せ付ける）　　下から続く　　両盗み江戸で捕まった男を取上村　　上に続く
1811年 12月11日 文化8年　　10月26日 曇　今日時々雪降 （先頃三目内山に大勢集合?の廻文の作成者尾崎組石郷村庄屋と原田村の某は呼出す前に出奔、去る10月10日に弐之丸御宝蔵の錠前を破り金子1000　　上に続く
1811年 12月12日 文化8年　　10月27日 曇　今日雪少し降
1811年 12月13日 文化8年　　10月28日 晴 （当新酒値段1升に付き1文目7分の要求を1文目5分に仰せ付ける）
1811年 12月14日 文化8年　　10月29日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル （松前詰めの大組・諸手足軽3人が行状慎まず不和合として俵子10俵召上げられ御城付足軽に役下げ・もう一人も5俵召上げと役下げ）
1811年 12月15日 文化8年　　10月30日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　今日時々雪降 （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる、去る20日夜広須組石渡村で出火・稲草等焼失）
1811年 12月16日 文化8年　　11月1日 曇　今日雪少し降 （人事異動、御賞）
1811年 12月17日 文化8年　　11月2日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜に入　　下から続く　　御奉公遠慮・御代官加勢今某の勤料召上げ長柄の者に役下げ・山役人3人も掃除小人に役下げ）
1811年 12月18日 文化8年　　11月3日 曇　昨夜之雨今日に及ひ辰の刻過ぎ止ム （大鰐・尾崎・大光寺組16ヶ村の者共の狼藉に関し郡奉行野呂某を知行30石と役知減御留守居組に・関係の福眞等の郡奉行3人　　上に続く
1811年 12月19日 文化8年　　11月4日 快晴 （今日御慰の御囃子）　　下から続く　　・青森34匁2分1厘5毛・鯵ヶ沢32匁2分7厘5毛））
1811年 12月20日 文化8年　　11月5日 曇　今暁子の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止　今日雪少し降 （一番1俵米相場3ヶ所平均値段:32匁4分3厘（内1文目2分が御定め役引・平米31文目2分3厘:弘前30目8分　　上に続く
1811年 12月21日 文化8年　　11月6日 曇　今日雪少し降
1811年 12月22日 文化8年　　11月7日 晴　酉の三刻冬至 （尾太銅鉛山ならひ湯野沢鉛山における苦役を入牢を持って代える:徒刑半年を牢舎日数100日・1年を200日・1年半は300日・2年は500日とする、　　欄外(*)に続く
1811年 12月23日 文化8年　　11月8日 曇　今日雪少し降　酉の刻過ぎより雨降　夜に入 （去る4日木作新田亀ヶ岡で出火・建家建馬焼失・火元居移り人（再興した村でどこからか来た人の意味でしょう）村預け）
1811年 12月24日 文化8年　　11月9日 曇　昨夜之雨亥の刻過ぎ止　今日雪少し降
1811年 12月25日 文化8年　　11月10日 晴 （当御廻船の内青森から御米と材木を積んで出帆の駿州船が鹿島沖で荷打ち・相州三崎に入津・途中南部佐井湊で50俵陸上げしている）
1811年 12月26日 文化8年　　11月11日 曇　午の刻過ぎより雨降　亥の刻過ぎ止ム
1811年 12月27日 文化8年　　11月12日 曇　昨夜雪少し降　今日時々吹雪 （酒1升に付き1文目5分を1文目6分に・1合売りは是まで通り9文充てに仰せ付ける）
1811年 12月28日 文化8年　　11月13日 晴 （他人の船を用いて隠津出の青森安方町等の男2人に15鞭と町払い家屋敷は妻子に等・五人組等の関係者にも罰）、
1811年 12月29日 文化8年　　11月14日 曇　今日雪少し降
1811年 12月30日 文化8年　　11月15日 曇　昨夜雪降　三寸程積ル　今暁子の刻過ぎより雨時々降　巳の刻過ぎ止ム （人参製法に付いて平賀源内が出てくる）
1811年 12月31日 文化8年　　11月16日 晴 （当月朔日より15日までの米1俵相場平均:25文目2分3厘、去月26日に取上で御仕置き御用の節酒狂いで不法の牢守石塚某を掃除小人に役下げ）
(*)　田畑御収納高仮積相調べ:米138900石ほど（米148700石ほどの内田方当毛引き8680石ほど田畑仕付荒1100石ほど田畑諸品成（このように読めるが意味不明）20石ほど））

1812年　1月1日 文化8年　11月17日 快晴
1812年　1月2日 文化8年　11月18日 晴　昨夜雪少し降
1812年　1月3日 文化8年　11月19日 晴　巳の刻地震少し
1812年　1月4日 文化8年　11月20日 快晴
1812年　1月5日 文化8年　11月21日 曇　昨夜雪降　二寸程積ル
1812年　1月6日 文化8年　11月22日 曇　昨夜雪少し降　今夜子の初刻寒に入　(4日に遠慮となった郡奉行3人が遠慮御免)
1812年　1月7日 文化8年　11月23日 快晴　(一昨21日夜木作村御代官役所より出火・一寸焼ける)
1812年　1月8日 文化8年　11月24日 曇　今日雪少し降
1812年　1月9日 文化8年　11月25日 曇　今日雪少し降
1812年　1月10日 文化8年　11月26日 曇　今日雪少し降　(酒の1合売りを10文にする、去る19日増館組水木村で出火・御収納米等焼失)
1812年　1月11日 文化8年　11月27日 曇　今日雪少し降
1812年　1月12日 文化8年　11月28日 曇　今日雪少し降
1812年　1月13日 文化8年　11月29日 曇　今日雪少し降
1812年　1月14日 文化8年　12月1日 曇　今日雪少し降　(人事異動)
1812年　1月15日 文化8年　12月2日 快晴
1812年　1月16日 文化8年　12月3日 快晴　(伐荒らしがあった山の村の庄屋等に過料、去月21日失火の木作御代官役所の御代官加勢に慎み)
1812年　1月17日 文化8年　12月4日 快晴　(御家中に御手当て、御賞)
1812年　1月18日 文化8年　12月5日 曇　今暁子の刻頃より雨時々降　午の刻頃止　今日雪少し降
1812年　1月19日 文化8年　12月6日 曇　今日雪少し降　(8月17日に東根通り三ヶ組の者共が居土村詰合いの山役人を打擲に及ぶ(20日に記事)・村の庄屋3人を捕えたが暫く他村預けとする)
1812年　1月20日 文化8年　12月7日 曇　今日雪少し降　(当御廻船の大坂船が出雲湊に入津の際抜米・弁米を申しつける・上乗り2人に御賞)
1812年　1月21日 文化8年　12月8日 曇　今日雪降　1尺5寸程積ル　(学校取り壊し萱478〆・本行寺に171〆法立寺に83〆大円寺に224〆・半値段にて1〆に付き1文目6分6厘5毛を御金蔵に上納させる)
1812年　1月22日 文化8年　12月9日 曇　今日雪降　七寸程積ル
1812年　1月23日 文化8年　12月10日 曇　今日雪少し降
1812年　1月24日 文化8年　12月11日 曇　今日雪降　三寸程積ル　此の頃喚起強し　(人事異動、御賞)
1812年　1月25日 文化8年　12月12日 曇　今日雪少し降
1812年　1月26日 文化8年　12月13日 晴　昨夜雪少し降
1812年　1月27日 文化8年　12月14日 晴　昨夜雪少し降　(御賞、信州蟹和村の親を切り殺した男あり)　下から続く　10人扶持御目見以下御留守居支配に・留守をした同役は御目見以上御留守居支配に役下げ)
1812年　1月28日 文化8年　12月15日 晴　昨夜雪少し降　(湯沢鉛山御止山に仰せ付けられ候ところ……)　下から続く　抜米の御蔵奉行に永の暇大場御構い十里四方追放・立会(御手廻り)の知行召上げ　上に続く
1812年　1月29日 文化8年　12月16日 曇　今日雪少し降　(この春青森などを出た御廻船の不正をとがめた上乗りたちに御賞、盗みの子供に3鞭親渡し、盗人に3鞭乞食手渡し、同役が留守中に立会と申合せて　上に続く
1812年　1月30日 文化8年　12月17日 曇　今日雪一寸程積ル
1812年　1月31日 文化8年　12月18日 晴　(去る15日横内組筒井村で出火・建家建馬等焼失・火元居村預け)
1812年　2月1日 文化8年　12月19日 曇　今日雪少し降
1812年　2月2日 文化8年　12月20日 曇　今日雪少し降
1812年　2月3日 文化8年　12月21日 曇　(御賞)
1812年　2月4日 文化8年　12月22日 曇　今日雪少し降
1812年　2月5日 文化8年　12月23日 晴
1812年　2月6日 文化8年　12月24日 快晴　(14日記載の親殺しの人相書き、8月に大勢で居土村に行き山役人を打擲・手籠・捕置いた吹上・大坊村の代表男に21鞭三里四方追放・その他12人にも6～18鞭・代官も役下げ)
1812年　2月7日 文化8年　12月25日 快晴　(御賞)
1812年　2月8日 文化8年　12月26日 曇　巳の刻過ぎより霰降　(御賞)
1812年　2月9日 文化8年　12月27日 快晴
1812年　2月10日 文化8年　12月28日 快晴　(開発方引擔取扱い出精として郡奉行福眞弥兵衛に御召下御上下・平沢三右衛門に五葉御紋の上下一具下し置かれる、御賞、徒党させるなと郡奉行に口達、酒1升を1文目5分に)
1812年　2月11日 文化8年　12月29日 快晴
1812年　2月12日 文化8年　12月30日 晴
1812年　2月13日 文化9年　正月1日　曇　未の刻過ぎより雨降　夜に入　(古懸不動尊御出汗・正月でもあり御神楽料をどう渡すか神子者人の往来の人馬をどうするか等でもめているらしい)
1812年　2月14日 文化9年　正月2日　曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　(石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来差留める)
1812年　2月15日 文化9年　正月3日　曇　今日雪少し降　(吉例金200両を御嘉例の通り御金奉行より差し出す、今晩御謡初)
1812年　2月16日 文化9年　正月4日　快晴　(例年通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1812年　2月17日 文化9年　正月5日　曇　今日雪少し降
1812年　2月18日 文化9年　正月6日　晴
1812年　2月19日 文化9年　正月7日　曇　今日雪少し降　午の刻頃小雨降　則刻止　(七種の御祝)
1812年　2月20日 文化9年　正月8日　曇　今暁丑の刻頃雨降　則刻止ム
1812年　2月21日 文化9年　正月9日　曇　今日雪少し降
1812年　2月22日 文化9年　正月10日　曇　今日雪少し降
1812年　2月23日 文化9年　正月11日　曇　今日雪少し降　弐寸程積　(人事異動)
1812年　2月24日 文化9年　正月12日　晴
1812年　2月25日 文化9年　正月13日　曇　今日雪降　弐寸程積
1812年　2月26日 文化9年　正月14日　晴
1812年　2月27日 文化9年　正月15日　晴
1812年　2月28日 文化9年　正月16日　曇　午の刻過ぎより小雨降　申の刻過ぎ止
1812年　2月29日 文化9年　正月17日　晴

1812年　3月1日 文化9年 正月18日　曇 今日雪少し降
1812年　3月2日 文化9年 正月19日　曇
1812年　3月3日 文化9年 正月20日　快晴
1812年　3月4日 文化9年 正月21日　快晴
1812年　3月5日 文化9年 正月22日　曇 今日雪少し降
1812年　3月6日 文化9年 正月23日　曇 今日雪少し降 (御囃子九つ時相始り暮六つ時過ぎ相済む)
1812年　3月7日 文化9年 正月24日　快晴 (松前北蝦夷地詰めの諸手足軽が去る8月病死)
1812年　3月8日 文化9年 正月25日　快晴
1812年　3月9日 文化9年 正月26日　快晴
1812年　3月10日 文化9年 正月27日　曇 巳の刻過ぎより雨降 夜に入
1812年　3月11日 文化9年 正月28日　曇 昨夜より之雨今朝に及ぶ 辰の刻頃止 今日雪少し降
1812年　3月12日 文化9年 正月29日　晴
1812年　3月13日 文化9年　2月1日 曇 午の刻頃より小雨降 (人事異動)
1812年　3月14日 文化9年　2月2日 快晴
1812年　3月15日 文化9年　2月3日 快晴 (大鰐組乳井・薬師堂両村の山論は惣山御引上げ?)
1812年　3月16日 文化9年　2月4日 曇 今日雨時々降 午の刻過ぎ止 (当御廻船両都で大よそ49艘・上乗りを探している)
1812年　3月17日 文化9年　2月5日 快晴 (三ツ目内村領山論の指名手配者2人(10月26日記述)が長勝寺配下の2寺に駆け込んでいる・重罪の者で入牢させるために町同心を遣わす)
1812年　3月18日 文化9年　2月6日 曇 今日雪少し降
1812年　3月19日 文化9年　2月7日 快晴
1812年　3月20日 文化9年　2月8日 快晴
1812年　3月21日 文化9年　2月9日 快晴
1812年　3月22日 文化9年　2月10日 曇 辰の刻過ぎより霰降 申の刻過ぎ止 (度々外出の江差詰め蔦の者加勢の掃除小人の御給分召上げ永の暇)
1812年　3月23日 文化9年　2月11日 晴
1812年　3月24日 文化9年　2月12日 曇 今暁卯の刻頃より雨降 午の刻頃止
1812年　3月25日 文化9年　2月13日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 夜ニ入 (今暁瓦ヶ町の御家中家出火)
1812年　3月26日 文化9年　2月14日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止 今日雪降 二寸程積
1812年　3月27日 文化9年　2月15日 曇 昨夜より雪折々降 (今日三之丸御屋形で御慰の御囃子)
1812年　3月28日 文化9年　2月16日 曇
1812年　3月29日 文化9年　2月17日 快晴
1812年　3月30日 文化9年　2月18日 快晴
1812年　3月31日 文化9年　2月19日 快晴 (去る14日までに十三潟残らず明ける)　下から続く　で捕えたヲロシヤ人並びにら志よわ人の見守りをした侍分に銀2枚足軽3人に金3両下し置かれる)
1812年　4月1日 文化9年　2月20日 快晴 (14日家焼失の御家中に御米5俵の御手当て・先例もある、去年北蝦夷地並びにソウヤ詰め御固め人数がマシケ越年所に9月4日から28日までに到着、去年クナシリ嶋　上に続く
1812年　4月2日 文化9年　2月21日 快晴 (成田求馬を町奉行に・平沢三右衛門にこれまでの勤料を御加増御手廻格に等の人事異動)
1812年　4月3日 文化9年　2月22日 快晴
1812年　4月4日 文化9年　2月23日 快晴
1812年　4月5日 文化9年　2月24日 快晴 今朝霜強し (去る21日大光寺村で出火・類焼3軒外馬屋建馬1疋焼失・火元五人組他村預け)
1812年　4月6日 文化9年　2月25日 晴
1812年　4月7日 文化9年　2月26日 快晴
1812年　4月8日 文化9年　2月27日 快晴 (乳井・薬師堂両村の山論は惣山御引上げとして詮索を続けていた・薬師堂村の言い分を認めたらしい記録あり)
1812年　4月9日 文化9年　2月28日 晴 今朝霜強し (昨27日昼大鰐組長峯村で出火・類焼4軒・火元他村預け)
1812年　4月10日 文化9年　2月29日 晴
1812年　4月11日 文化9年　2月30日 快晴
1812年　4月12日 文化9年　3月1日 快晴 (御馬廻組頭森岡金吾に用人兼帯等の人事異動)
1812年　4月13日 文化9年　3月2日 快晴 (去月晦日夜広須組下中野村で出火・穀物建馬農具等焼失・火元百姓村預け、乳井・薬師堂両村の山論について山境仕分けを両村庄屋五人組を郡所に呼び申渡す)
1812年　4月14日 文化9年　3月3日 曇 今暁寅の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止 (人事異動)
1812年　4月15日 文化9年　3月4日 快晴 今朝霜強し
1812年　4月16日 文化9年　3月5日 快晴 (文化6年7月晦日に入牢・揚屋入村預け・宿預けとしていた乳井・薬師堂両村の山論に関する12人をそれぞれ御免)
1812年　4月17日 文化9年　3月6日 快晴 (本山の免許なく修験名目で何かをした坊主と名乗る男に弘前町払い・修験の子にも類似の罰)
1812年　4月18日 文化9年　3月7日 曇 昨夜丑の刻過ぎより小雨降 今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止ム
1812年　4月19日 文化9年　3月8日 晴 (人事異動、今日三之丸御馬場で鑓術高覧)
1812年　4月20日 文化9年　3月9日 快晴
1812年　4月21日 文化9年　3月10日 快晴
1812年　4月22日 文化9年　3月11日 晴 (御賞)
1812年　4月23日 文化9年　3月12日 快晴 昨夜中雨降 今暁に及ぶ 寅の刻過ぎ止
1812年　4月24日 文化9年　3月13日 快晴 (土蔵を切破る等の盗みを働いた男に30鞭十里四方追放)
1812年　4月25日 文化9年　3月14日 曇 午の刻過ぎより雨降 時々降 夜ニ入
1812年　4月26日 文化9年　3月15日 曇 昨夜雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止
1812年　4月27日 文化9年　3月16日 快晴 (盗杣・村方に渡した夫食米の横領・御預鉄砲の紛失の久吉村の男に27鞭七里四方追放・盗杣・密猟の同村の男共に6鞭等)
1812年　4月28日 文化9年　3月17日 快晴
1812年　4月29日 文化9年　3月18日 快晴 (横内組根井・久栗坂村の漁師が黒石領平内の田沢前浜で漁・もめている)
1812年　4月30日 文化9年　3月19日 快晴 (江戸表で常用金がなく……判らん)

1812年　5月1日 文化9年　3月20日 快晴 (人事異動)
1812年　5月2日 文化9年　3月21日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降 今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止ム (岩木川出水・駒越渡場両船とも往来差留める、甲斐守様より川鱒1尺下し置かれる)
1812年　5月3日 文化9年　3月22日 曇
1812年　5月4日 文化9年　3月23日 快晴 (城内の金を盗み出した長谷川徳次郎の母に五里四方追放大場御構い)
1812年　5月5日 文化9年　3月24日 快晴 (大組・諸手足軽から捕手10人・町同心10人・別段御用の仰せ付けられた13人を唐牛某の元に集めている)
1812年　5月6日 文化9年　3月25日 快晴
1812年　5月7日 文化9年　3月26日 快晴 (偽山役人隠し商売の飯詰組俵元村の男に21鞭三里四方追放)
1812年　5月8日 文化9年　3月27日 快晴 (昨晩唐牛某の門弟24人と別段御用等の人数が乳井村で9人を搦捕る・この9人は入牢)
1812年　5月9日 文化9年　3月28日 晴 今暁寅の刻頃小雨降 則刻止ム (去る24日油川組岩渡村で出火・類焼2軒・火元高無他村預け)
1812年　5月10日 文化9年　3月29日 晴 (正月24日浪岡村の男が留守中の家に忍び込み女房に手傷を負わせた・重婚など訳の解らない状況・双方が叱り置かれたのかな?)
1812年　5月11日 文化9年　4月1日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (人事異動)
1812年　5月12日 文化9年　4月2日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々降 酉の刻過ぎ止ム(曇昨夜より(「よ」と「り」の合字)之雨及今日時々降酉刻過止ム)
1812年　5月13日 文化9年　4月3日 晴 今暁霜強し
1812年　5月14日 文化9年　4月4日 晴
1812年　5月15日 文化9年　4月5日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降 巳の刻頃止ム
1812年　5月16日 文化9年　4月6日 快晴 (去月27日米2250俵等を積んで青森から江戸に向かった船が29日南部大間で破船・残らず海失)
1812年　5月17日 文化9年　4月7日 快晴 (竹内衛士・奈良岡数馬が御繰り合わせ御用(金策のことですな)で江戸・上方に派遣された?、昨24日夜九つ時過ぎ勘定人が住む御長屋の庇が燃える・取鎮める)
1812年　5月18日 文化9年　4月8日 快晴 (御廻米21000石増を仰せ付けられたのでその積船が大よそ16艘位として上乗り16人を集めている)
1812年　5月19日 文化9年　4月9日 曇 卯の刻過ぎより時々雨降 申の刻過ぎ止
1812年　5月20日 文化9年　4月10日 晴
1812年　5月21日 文化9年　4月11日 曇 巳の刻過ぎ折々雷鳴 則刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 (昨晩外出の御家中の家来が南溜池で水死)
1812年　5月22日 文化9年　4月12日 曇 辰の刻過ぎより小雨降 則刻止ム (江戸登りを命じられていたはずの竹内衛士が忌中で動いていなかったのだ・今日出仕)
1812年　5月23日 文化9年　4月13日 晴 今暁寅の刻過ぎ雨降 則刻止ム
1812年　5月24日 文化9年　4月14日 晴
1812年　5月25日 文化9年　4月15日 曇 巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム (去る11日和徳村に倒死の男(黒石の左官))
1812年　5月26日 文化9年　4月16日 快晴
1812年　5月27日 文化9年　4月17日 快晴
1812年　5月28日 文化9年　4月18日 快晴
1812年　5月29日 文化9年　4月19日 快晴 (竹内衛士が病気休暇?、米の隠し輸送が摘発されている)
1812年　5月30日 文化9年　4月20日 快晴
1812年　5月31日 文化9年　4月21日 曇 今暁子の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止ム (人事異動)
1812年　6月1日 文化9年　4月22日 晴
1812年　6月2日 文化9年　4月23日 晴
1812年　6月3日 文化9年　4月24日 晴 (人事異動)
1812年　6月4日 文化9年　4月25日 曇 巳の刻過ぎより小雨時々降 午の刻頃止 申の刻過ぎより時々雷鳴 則刻より雨降 亥の刻頃止ム
1812年　6月5日 文化9年　4月26日 晴
1812年　6月6日 文化9年　4月27日 快晴 (去る23日晩深浦町で小屋燃え上がる・早速鎮火・火元戸〆)
1812年　6月7日 文化9年　4月28日 曇 申の刻過ぎより雨降 夜入
1812年　6月8日 文化9年　4月29日 晴 昨夜より之雨今日に及ぶ 丑の刻過ぎ止
1812年　6月9日 文化9年　5月1日 曇 午の刻過ぎ雷鳴 則刻より雨降 夜ニ入 (人事異動)
1812年　6月10日 文化9年　5月2日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止 (去月(4月のことではない)24日夜松前表で拘束中のヲロシヤ人が逃げ出す・去る4日西地キノコ(木ノ子)村領沢口で捕らえる)
1812年　6月11日 文化9年　5月3日 曇 巳の刻より雨降 則刻雷鳴 申の刻頃止
1812年　6月12日 文化9年　5月4日 快晴
1812年　6月13日 文化9年　5月5日 快晴
1812年　6月14日 文化9年　5月6日 晴
1812年　6月15日 文化9年　5月7日 曇
1812年　6月16日 文化9年　5月8日 曇 卯の刻過ぎ小雨折々降 申の刻過ぎ止ム (打続天気不勝に付き両社並びに護穀神に重御祈祷を仰せ付ける)
1812年　6月17日 文化9年　5月9日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 夜ニ入
1812年　6月18日 文化9年　5月10日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (御賞、去月19日青森出帆の筑前船が順風で海上10日振江戸品川着・1俵4斗1升6合1夕が3斗9升7合4夕に・後で上乗り詮議)
1812年　6月19日 文化9年　5月11日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止 (山屋長太夫に江戸御繰り合わせを命じている、飯詰組川代田村に住む浪人笠井某(園右衛門の息子)が揚屋入り・注意の上放免)
1812年　6月20日 文化9年　5月12日 快晴
1812年　6月21日 文化9年　5月13日 曇 卯の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止
1812年　6月22日 文化9年　5月14日 晴 今暁子の刻頃地震 (三之丸御馬場で槍術高覧)
1812年　6月23日 文化9年　5月15日 快晴
1812年　6月24日 文化9年　5月16日 快晴 (常々不勤の竹内衛士の御役召放慎み)
1812年　6月25日 文化9年　5月17日 快晴
1812年　6月26日 文化9年　5月18日 快晴
1812年　6月27日 文化9年　5月19日 快晴
1812年　6月28日 文化9年　5月20日 曇 巳の刻過ぎより時々雨降 夜入 (御賞)
1812年　6月29日 文化9年　5月21日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 未の刻頃地震 (大鰐村より大角豆差上げる)
1812年　6月30日 文化9年　5月22日 晴 (大円寺付近での花火・小筒等の打ち放しを禁じているが……)

1812年　7月1日 文化9年　5月23日 晴　未の刻過ぎより雨降　夜に入
1812年　7月2日 文化9年　5月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1812年　7月3日 文化9年　5月25日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める)
1812年　7月4日 文化9年　5月26日 曇　昨夜より之雨今日辰の刻過ぎ止　(所々で盗みの男に3鞭弘前町払い)
1812年　7月5日 文化9年　5月27日 晴
1812年　7月6日 文化9年　5月28日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降　未の刻頃止　(人事異動)
1812年　7月7日 文化9年　5月29日 快晴　(大鰐村より真瓜並びに茄子差出す、青田の内笛吹くなとの触れ)
1812年　7月8日 文化9年　5月30日 曇　卯の刻過ぎより小雨降　則刻止
1812年　7月9日 文化9年　6月1日 曇　午の刻過ぎより小雨降　則刻止　(人事異動)
1812年　7月10日 文化9年　6月2日 快晴
1812年　7月11日 文化9年　6月3日 快晴
1812年　7月12日 文化9年　6月4日 晴
1812年　7月13日 文化9年　6月5日 快晴
1812年　7月14日 文化9年　6月6日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　未の刻頃雷鳴　則刻止
1812年　7月15日 文化9年　6月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止
1812年　7月16日 文化9年　6月8日 快晴
1812年　7月17日 文化9年　6月9日 快晴　(御米3125俵その他を積んで去月晦日に青森出帆の大坂の江戸廻船が当月3日に八戸沖で250石余荷打ち・佐井に戻る)
1812年　7月18日 文化9年　6月10日 晴
1812年　7月19日 文化9年　6月11日 晴　酉の五刻土用入　(去る8日夜久栗坂村で船小屋焼失・火元戸〆)
1812年　7月20日 文化9年　6月12日 快晴　(大坂から6000両余を運んでいた飛脚2人が信州岡田宿で盗賊にあい1500両盗み取られたらしい・後始末をしている)
1812年　7月21日 文化9年　6月13日 晴　(飯詰村出火・類焼6軒、御賞)
1812年　7月22日 文化9年　6月14日 快晴
1812年　7月23日 文化9年　6月15日 快晴　(人事異動、御手廻与力横岡兵八倅杢太夫(元喜)に2人扶持の勤料を下し置かれ御徒見習いを仰せ付ける)
1812年　7月24日 文化9年　6月16日 快晴　(竹内衛士に慎み御免隠居仰せ付けられる)
1812年　7月25日 文化9年　6月17日 快晴
1812年　7月26日 文化9年　6月18日 快晴
1812年　7月27日 文化9年　6月19日 快晴
1812年　7月28日 文化9年　6月20日 快晴　此の頃大暑
1812年　7月29日 文化9年　6月21日 快晴　(日照りで四社に御祈祷を仰付ける、土手町大橋出来・来る23日渡初め、当3月22日木作新田森田村漆守原田方に盗賊・弘前で詮索の帰途取り逃がす・深浦町出身と判明・手配)
1812年　7月30日 文化9年　6月22日 快晴　(当四月舶作村沖合いに漁に出た男の子が行方不明)
1812年　7月31日 文化9年　6月23日 快晴
1812年　8月1日 文化9年　6月24日 快晴　(人事異動)
1812年　8月2日 文化9年　6月25日 快晴
1812年　8月3日 文化9年　6月26日 快晴
1812年　8月4日 文化9年　6月27日 快晴　(御菜園で川原花火高覧)
1812年　8月5日 文化9年　6月28日 快晴
1812年　8月6日 文化9年　6月29日 曇　今暁寅の刻頃より小雨時々降　午の刻過ぎ止　　下から続く　　御構い十里四方追放・関係者にも過料銭6貫文など)
1812年　8月7日 文化9年　7月1日 快晴　午の刻頃地震少し　(人事異動、御賞、祢婦たの儀町内限り等の触れ)　　下から続く　　に大勢乗込みの廻文を書き出奔して菩提寺に駈込んだ男に30鞭大場　　上に続く
1812年　8月8日 文化9年　7月2日 曇　未の刻過ぎ雷鳴　同刻より雨降　申の刻頃止　(長勝寺で渇水にならないよう御祈祷)　　下から続く　　逃亡された五人組頭取に6鞭居村徘徊是迄通り、8月に居土村　　上に続く
1812年　8月9日 文化9年　7月3日 曇　未の刻頃雷鳴　則刻雨降　申の刻頃止　(当4月に金木組嘉瀬村領で桧の伐荒あり・犯人不明で村中に小杉15600本を過料として植えさせる、4月10日夜隠し津出の男に　　上に続く
1812年　8月10日 文化9年　7月4日 晴　未の刻頃雷鳴　(郡奉行より初穂差上げる)
1812年　8月11日 文化9年　7月5日 曇　未の刻頃雷鳴　則刻雨降　申の刻頃止
1812年　8月12日 文化9年　7月6日 曇　午の刻過ぎより雷鳴　則刻より雨降　申の刻頃止
1812年　8月13日 文化9年　7月7日 快晴
1812年　8月14日 文化9年　7月8日 快晴
1812年　8月15日 文化9年　7月9日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止
1812年　8月16日 文化9年　7月10日 快晴
1812年　8月17日 文化9年　7月11日 快晴
1812年　8月18日 文化9年　7月12日 快晴　(御賞、菜種不作に付き是までの値段に2厘5毛増の1升に付き5文目3分に申し付ける)　　下から続く　　御廻船が29日常州鹿島沖で大風雨で荷打ち)
1812年　8月19日 文化9年　7月13日 曇　未の刻過ぎ小雨降　申の刻過ぎ止　(当江戸御廻船が南部大畑で岩に乗り上げ破船・船を修理できる場所でなく米の取り扱いも……、去月10日青森出帆の大坂の江戸　　上に続く
1812年　8月20日 文化9年　7月14日 晴
1812年　8月21日 文化9年　7月15日 晴　(5月の射芸高覧に関し御賞)
1812年　8月22日 文化9年　7月16日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　亥の五刻月食　皆既　丑の三刻終　(去る14日朝後潟組蟹田村で出火・外馬屋とも焼失・火元村預け)
1812年　8月23日 文化9年　7月17日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　(岩木川出水・駒越渡場往来差留める)
1812年　8月24日 文化9年　7月18日 快晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　(昌善院様一周忌に伴う大赦:出牢1人・弘前徘徊御免4人)
1812年　8月25日 文化9年　7月19日 曇　申の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1812年　8月26日 文化9年　7月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　辰の刻過ぎ止
1812年　8月27日 文化9年　7月21日 晴
1812年　8月28日 文化9年　7月22日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止
1812年　8月29日 文化9年　7月23日 晴　(去る11月不締りの船方の勘定人を大組足軽に・不届きの船方下役加勢の青森町同心の御給分召上げ永の暇、隠し津出の後潟組内真部村の男に12鞭居村払いなど)
1812年　8月30日 文化9年　7月24日 晴　昨夜亥の刻頃雨降　則刻止ム
1812年　8月31日 文化9年　7月25日 快晴　(今日三之丸御屋形で角力(相撲)高覧・関脇小結前頭～草切行司に御酒代を下し置かれる)

1812年　9月1日 文化9年　7月26日 快晴
1812年　9月2日 文化9年　7月27日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨降　卯の刻過ぎ止
1812年　9月3日 文化9年　7月28日 晴　(大鰐村より御初米7俵差上げる、所々で盗みの鍛治町の男に3鞭親預け)
1812年　9月4日 文化9年　7月29日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1812年　9月5日 文化9年　7月30日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止
1812年　9月6日 文化9年　8月1日 快晴
1812年　9月7日 文化9年　8月2日 快晴　(百沢寺より苔ノ実差し出す)
1812年　9月8日 文化9年　8月3日 快晴
1812年　9月9日 文化9年　8月4日 快晴
1812年　9月10日 文化9年　8月5日 快晴
1812年　9月11日 文化9年　8月6日 快晴
1812年　9月12日 文化9年　8月7日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　辰の刻過ぎ止
1812年　9月13日 文化9年　8月8日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(去月17日田舎館組境松村で洪水・検地を申し出ている)
1812年　9月14日 文化9年　8月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止
1812年　9月15日 文化9年　8月10日 快晴　(当4月に野火が入り松木220本を焼失した百沢村に百姓1軒に銭3貫文宛・高無1軒に15文宛の過料、類似のことが3月の竹鼻村にも)
1812年　9月16日 文化9年　8月11日 晴　(三之丸御馬場で御家中の馬術高覧、人事異動)
1812年　9月17日 文化9年　8月12日 晴
1812年　9月18日 文化9年　8月13日 快晴
1812年　9月19日 文化9年　8月14日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1812年　9月20日 文化9年　8月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止
1812年　9月21日 文化9年　8月16日 晴
1812年　9月22日 文化9年　8月17日 曇　巳の刻過ぎ小雨　則刻止　(3月3日に親を殺した男の人相書き)
1812年　9月23日 文化9年　8月18日 晴
1812年　9月24日 文化9年　8月19日 晴
1812年　9月25日 文化9年　8月20日 曇　辰の刻頃より雨降　則刻止
1812年　9月26日 文化9年　8月21日 晴
1812年　9月27日 文化9年　8月22日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨降　寅の刻過ぎ止
1812年　9月28日 文化9年　8月23日 快晴
1812年　9月29日 文化9年　8月24日 晴　(風返り杉を届けなかった大鰐村の者共並びに庄屋に過料戸〆等)
1812年　9月30日 文化9年　8月25日 曇　昨夜丑の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止
1812年　10月1日 文化9年　8月26日 曇　酉の刻頃雷鳴　(去る22日油川組石神村で出火・木小屋焼失・火元戸〆)
1812年　10月2日 文化9年　8月27日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止　今日折々降　午の刻過ぎ止
1812年　10月3日 文化9年　8月28日 快晴　(人事異動・御賞、当7月の袮ふた流の節どこの者か判らないが大勢で酒屋菓子屋蝋燭屋等に行き無体に品々を差し出させている・町同心等が制動・埒が明かない)
1812年　10月4日 文化9年　8月29日 曇　昨夜亥の刻頃地震　卯の刻頃より雷鳴　則刻より雨降　今日時々雷鳴　申の刻過ぎ止　(去る27日昼青森上濱町で出火・火元戸〆)
1812年　10月5日 文化9年　9月1日 晴
1812年　10月6日 文化9年　9月2日 曇　今暁寅ノ刻過ぎより雷強　卯ノ刻過ぎ雷止ム　今日時々雨降　夜ニ入
1812年　10月7日 文化9年　9月3日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々雨降　午ノ刻過ぎ止ム(曇　昨夜より(よとりの合字)之雨及今日時々雨降午ノ刻ニ過止ム)
1812年　10月8日 文化9年　9月4日 曇　申の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(当8月中日々相場平均値段:金1両代121匁2歩2厘)
1812年　10月9日 文化9年　9月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　午の刻過ぎ止ム
1812年 10月10日 文化9年　9月6日 晴
1812年 10月11日 文化9年　9月7日 快晴　今暁霜強し　(今日初鮭1尺真土村より差上げる)
1812年 10月12日 文化9年　9月8日 晴
1812年 10月13日 文化9年　9月9日 曇　今暁寅之刻より雨時々降　辰之刻頃折々雷なる　巳之刻頃雷止ム　未ノ刻過ぎ雨止ム　(去る3日クナシリ嶋沖合いニ異国船)
1812年 10月14日 文化9年　9月10日 快晴　今暁寅の刻頃雷鳴　則刻止ム
1812年 10月15日 文化9年　9月11日 快晴
1812年 10月16日 文化9年　9月12日 曇　辰之刻過ぎより時々雨降り　(去月4日ケラムイ岬沖に異国船1艘澗懸・連来る日本人1人を上陸させたいとのこと)
1812年 10月17日 文化9年　9月13日 快晴　(今日八時三之丸御屋形で相撲高覧)
1812年 10月18日 文化9年　9月14日 晴
1812年 10月19日 文化9年　9月15日 曇　今朝岩木山ニ雪初而見ル　今日辰ノ刻頃より雨時々降　夜ニ入り　(大道寺宇左衛門を側用人兼役に等の人事異動・御賞)
1812年 10月20日 文化9年　9月16日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　辰ノ刻過ぎ止ム　(去る13日夜内真部村で出火・火元慎み)
1812年 10月21日 文化9年　9月17日 曇　午ノ刻頃より雨降　則刻止ム
1812年 10月22日 文化9年　9月18日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止ム
1812年 10月23日 文化9年　9月19日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　(人事異動・御賞、当年宮川某仕込味噌10文目に付き目形7貫340目値段で御目見以上の望みの族に売り渡す、松前詰めの諸手足軽石郷岡某が病死)
1812年 10月24日 文化9年　9月20日 快晴　今暁霜強し　頃日冷気　(人事異動、当3月同村(大鰐組乳井村・道薬師堂村又は両方)の者共大勢徒党致し東御門前に相詰め……)
1812年 10月25日 文化9年　9月21日 快晴　今暁霜強し　(今朝原別村の男牢死)
1812年 10月26日 文化9年　9月22日 曇　今暁寅之刻頃より雨降
1812年 10月27日 文化9年　9月23日 曇　今暁寅之刻頃雨降
1812年 10月28日 文化9年　9月24日 快晴　酉之刻過ぎ雷鳴　雨降　則刻止ム　(古懸不動尊御出汗・五山で御祈祷等)
1812年 10月29日 文化9年　9月25日 快晴　(6月7日御米材木を積んで青森湊出帆の当御雇船が12・13日に時化荷打ち・23日に浦賀に入ったが……)
1812年 10月30日 文化9年　9月26日 快晴　申の刻過ぎより雷鳴　戌の刻頃雨降
1812年 10月31日 文化9年　9月27日 快晴　酉の刻過ぎ雷鳴　雨降

1812年　11月1日 文化9年　　9月28日 快晴　今暁寅の刻過ぎ雨降
1812年　11月2日 文化9年　　9月29日 曇　今日時々雨降　(去る27日金木組中里村で灰捨て場より火出・木小屋1軒焼失・火元戸〆)
1812年　11月3日 文化9年　　9月30日 晴　今暁寅之刻頃より雨時々降　夜ニ入
1812年　11月4日 文化9年　　10月1日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(北蝦夷地詰め御留守居組笹森多久馬病死)
1812年　11月5日 文化9年　　10月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1812年　11月6日 文化9年　　10月3日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　今暁子の刻過ぎより風雨強　酉の刻頃風止ム　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める)
1812年　11月7日 文化9年　　10月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(石川村で杉14本伐荒あり・村中に過料として小杉1100本植えるよう命ずる、当春小泊村でも)
1812年　11月8日 文化9年　　10月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(頃日天気不勝・丹後者詮索)
1812年　11月9日 文化9年　　10月6日 曇　未ノ刻過ぎより雨降　夜ニ入
1812年 11月10日 文化9年　　10月7日 曇　未の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(当8月大鰐組薬師堂村領の大館山等に村中の者共が申し合わせて1904本伐取る・関係の郷士を召放ち戸〆30日・庄屋五人組等にも過料)
1812年 11月11日 文化9年　　10月8日 晴
1812年 11月12日 文化9年　　10月9日 快晴
1812年 11月13日 文化9年　　10月10日 快晴　今暁霜強し
1812年 11月14日 文化9年　　10月11日 快晴　　下から続く　　斎藤に300両・鳴海・西谷・岩崎村某・原・松木に200両・加藤・西谷に150両・飛島・井沼・井筒屋・今井に100両)
1812年 11月15日 文化9年　　10月12日 曇　寅之刻過ぎより雨時時降　(此度御繰り合わせ御用に付き出金仰せ付けられ候・尤も返金の儀は来夏中1歩のお利息:弘前町の片谷・伊香?・武田・前田に300両・在方の　　上に続く
1812年 11月16日 文化9年　　10月13日 曇　今日雪少し降　(巳の刻過ぎ御機嫌能御発駕)
1812年 11月17日 文化9年　　10月14日 曇　昨夜雪降　四寸程積　今日折々雪降　卯之刻過ぎ雷鳴　　下から続く　　永の暇、去る7月に女を勾引し松前に送った鰺ヶ沢の男2人に21鞭と12鞭等)
1812年 11月18日 文化9年　　10月15日 曇　卯之刻過ぎより雨時々降　申之刻過ぎ止ム　(明春の北蝦夷地等の派遣人員を指名)　　下から続く　　大場御構い十里四方追放・仲間の掃除小人の御給分召上げ　　上に続く
1812年 11月19日 文化9年　　10月16日 曇　今暁寅之刻頃より雨時々降　戌之刻過ぎに止ム　(屋形様御不例・大館より碇ヶ関に帰る・家老用人1人宛が碇ヶ関に御機嫌伺いに罷出る、偽手形の鍛冶町の男に30鞭　　上に続く
1812年 11月20日 文化9年　　10月17日 曇　今暁雪少降　今日折々降　一寸程積　(18日碇ヶ関より御帰城・二之御丸時太鼓釣替え)
1812年 11月21日 文化9年　　10月18日 曇　昨夜雪降　一寸余積　今日折々雪降
1812年 11月22日 文化9年　　10月19日 曇　今暁寅之刻頃より雨降　卯之刻過ぎ雷鳴　今日時々雨降
1812年 11月23日 文化9年　　10月20日 快晴　(屋形様が七半時山吹の間に御着座:出戻りですな)
1812年 11月24日 文化9年　　10月21日 曇　寅の刻過ぎより雨降　辰の刻過ぎニ止ム　(去る18日夜金木組尾利(尾別か)村で出火・類焼等なし・火元百姓村預け)
1812年 11月25日 文化9年　　10月22日 曇　寅の刻過ぎより雨降　時々降　午の刻頃雷鳴　(石渡川4歩の出水・馬船往来相成らず、当5月24日の岩木川出水の節流木の隠し上げあり・犯人14人に過料3貫文から1貫200文宛)
1812年 11月26日 文化9年　　10月23日 晴　(岩木川出水・駒越渡場馬船長船とも往来差留める)
1812年 11月27日 文化9年　　10月24日 曇　寅之刻過ぎ雷鳴　則刻より雨降
1812年 11月28日 文化9年　　10月25日 曇　昨夜雪少し降り　(去る21日夜後潟組内真部村で出火・隣家等焼失・火元他村預け)
1812年 11月29日 文化9年　　10月26日 曇　今暁寅之刻過ぎより雨降　辰之刻過ぎ止ム　　下から続く　　22日青森出帆の豆州の江戸廻船が遭難・水死1人・上陸後寒死3人)
1812年 11月30日 文化9年　　10月27日 快晴　未之刻頃地震少し　昨夜亥之刻過ぎ雨降　今暁ニ及ぶ　(御賞、去る24日夜金木新田大沢内村で出火・居宅稲草当年生まれ駒1疋焼失・火元百姓居村預け、当月　　上に続く
1812年　12月1日 文化9年　　10月28日 曇　　下から続く　　捨てた男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1812年　12月2日 文化9年　　10月29日 曇　今日雪少し降　　下から続く　　一昨29日夜柏原村で出火・外厩1軒稲草4000余焼失・火元百姓、役人と偽り手傷を負わせた男に30鞭乞食手渡し、検見中に籾を投げ　　上に続く
1812年　12月3日 文化9年　　10月30日 曇　時々雪降　(粒油不作で1文目に1升或は1升1合・11月朔日より来2月中迄は水油1升に付き6文目1分3月朔日より菜種出盛り迄は是迄の通り5文目3分値段ニ仰付ける、　　上に続く
1812年　12月4日 文化9年　　11月1日 曇　時々雪降　(御賞)　　下から続く　　大勢で居土村に押寄せた際の首謀者石郷村平助原田村の助之丞と……)
1812年　12月5日 文化9年　　11月2日 曇　卯之刻過ぎより雨降　則刻晴　(当3月油川組新城村領の山に野火・柏木雑木3000本余焼失・過料百姓1軒に50文・無高1軒に35文宛、去る8月17日平賀組の者共が　　上に続く
1812年　12月6日 文化9年　　11月3日 快晴　(去月中米相場平均1俵に付き22文目・新酒1升を1文目3分5厘・1合を8文宛とする、盗品を買い博打をした男に6鞭居村徘徊是まで通り・五人組等にも罰)
1812年　12月7日 文化9年　　11月4日 曇　昨夜雪少し降　辰之刻過ぎより雨時々降　申之刻過ぎ止
1812年　12月8日 文化9年　　11月5日 快晴　(金相場先ごろまで両替122文目・昨日は118文目に)
1812年　12月9日 文化9年　　11月6日 曇　未之刻頃より雨降　戌之刻過ぎ止ム　(乳井村山論の際の郡所物書きを御旗警固に役下げ、御賞)
1812年 12月10日 文化9年　　11月7日 曇　今日雪降　一寸程積る
1812年 12月11日 文化9年　　11月8日 曇　今日雪少し降
1812年 12月12日 文化9年　　11月9日 曇　(当夏酒田表より御買上げの足軽具足20領代金30両、隠し津出を内済にしようとした十三町奉行を隠居慎み・十三湊締役の御手廻与力を大組足軽に役下げ・その他も役下げ等)
1812年 12月13日 文化9年　　11月10日 曇　今暁雪少し降　(一昨8日夜大光寺組田中村で出火・建家外厩穀物等焼失・火元高無村預け)
1812年 12月14日 文化9年　　11月11日 晴　(人事異動)
1812年 12月15日 文化9年　　11月12日 曇　(今日浪の間で御慰の御囃子)　　下から続く　　出奔立帰り盗み徒をした・この男を取上の御仕置き場で斬罪)
1812年 12月16日 文化9年　　11月13日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(先年五所川原村で金子を無心し出さなければ火を付けると言い鞭刑尾太銅山での苦役を仰付けられた男あり・この男が苦役中に　　上に続く
1812年 12月17日 文化9年　　11月14日 曇　今日時々雪降　(去る11日夜喰川村で出火・外馬屋1軒焼失・火元村預け、三ヶ所平均米1俵値段28文目6分6厘3毛(1文目2分が御定役引:平米27文目4分6厘3毛　　欄外(*)に続く
1812年 12月18日 文化9年　　11月15日 曇　今日雪少し降る
1812年 12月19日 文化9年　　11月16日 曇　今日雪二寸程積る
1812年 12月20日 文化9年　　11月17日 曇　昨夜雪降　四寸程積る
1812年 12月21日 文化9年　　11月18日 曇　今日雪少降　今夜子三刻冬至ニ入
1812年 12月22日 文化9年　　11月19日 曇　今日雪少し降る　(久栗坂より初鱈1尾附上ヶ、郡奉行成田三太夫・福眞弥兵衛(月御用番には清右衛門)が先ごろ木作逗留中の御供周りのまかない料を下し置かれるよう申し出る)
1812年 12月23日 文化9年　　11月20日 曇　(人相書き、黒石役人より江戸廻米4800石の津出の申し出・了)
1812年 12月24日 文化9年　　11月21日 晴
1812年 12月25日 文化9年　　11月22日 曇　昨夜より今日に及ぶ吹雪強　雪四寸程積ル
1812年 12月26日 文化9年　　11月23日 晴　(当7月に預かった犯罪の馬を盗み取られた男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1812年 12月27日 文化9年　　11月24日 曇　(11月4日昼八時過ぎ江戸で地震強くところどころより天水あふれる)
1812年 12月28日 文化9年　　11月25日 晴　(今日剣術高覧)
1812年 12月29日 文化9年　　11月26日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎ止ム
1812年 12月30日 文化9年　　11月27日 晴
1812年 12月31日 文化9年　　11月28日 曇　暮に及び雪少し降
(*)・弘前御蔵26匁5分9厘9毛・青森御蔵30目4分7厘5毛・鰺ヶ沢御蔵29匁1分6厘8毛)・金1両に付き118文目5分)

1813年　1月1日 文化9年　11月29日 晴　昨夜雪少し降　三寸程積る　(剣術・和術高覧、此の度の調達金で斎藤佐左衛門より大判(25両相当)・古金(現在の6割り増)が上納される、十三潟が当月13日暮　　欄外(*)に続く
1813年　1月2日 文化9年　11月30日 晴　(高岡江献備の鱈2尾差し出す)
1813年　1月3日 文化9年　12月1日 晴　(鳴海又右衛門を勘定奉行に等の人事異動、熊を取った際の胆の取り扱いを書いているらしい)
1813年　1月4日 文化9年　12月2日 曇　(剣術・和術高覧)
1813年　1月5日 文化9年　12月3日 晴
1813年　1月6日 文化9年　12月4日 曇　今暁寅八刻寒に入　昨夜雪少し降　今日雪少し降　(両替の手数料などが書いてある)
1813年　1月7日 文化9年　12月5日 晴
1813年　1月8日 文化9年　12月6日 快晴　今日申の刻過ぎ地震少し
1813年　1月9日 文化9年　12月7日 曇　今日雪少し降　(今日剣術高覧)
1813年　1月10日 文化9年　12月8日 曇　今日雪時々降
1813年　1月11日 文化9年　12月9日 曇　今日巳の刻頃より雨降　午の刻頃雷鳴　(今日御慰の御囃子)
1813年　1月12日 文化9年　12月10日 晴　(不義の男を助けた男に6鞭居村徘徊是まで通り・不義の男と女は指名手配・関係者にも罰)
1813年　1月13日 文化9年　12月11日 晴　今日雪少し降
1813年　1月14日 文化9年　12月12日 晴　(今日剣術高覧、御賞)
1813年　1月15日 文化9年　12月13日 晴
1813年　1月16日 文化9年　12月14日 曇　今日雪少し降
1813年　1月17日 文化9年　12月15日 曇　今朝雪少し降　(御賞)　　下から続く　　乳井村の9人に18鞭居村徘徊是まで通り・乳井村の郷士に永牢郷士取放)
1813年　1月18日 文化9年　12月16日 快晴　(赤米稲を植付けないよう兼て申付けていた・当御収納米に赤米混じる、村中の者が徒党の上御門外に強訴の頭取大鰐村平助・乳井村甚九郎に21鞭三里四方追放・　　上に続く
1813年　1月19日 文化9年　12月17日 快晴　(御賞)
1813年　1月20日 文化9年　12月18日 曇　今日雪少し降　(御賞・人事異動)
1813年　1月21日 文化9年　12月19日 曇　巳の五刻大寒ニ入　(御賞)
1813年　1月22日 文化9年　12月20日 曇　今日雪三寸程積　(人事異動・御賞)
1813年　1月23日 文化9年　12月21日 曇　昨夜雪七寸程積　(人事異動・御賞)
1813年　1月24日 文化9年　12月22日 曇　今日雪少し降
1813年　1月25日 文化9年　12月23日 晴　(水油値段1升に付き7文目3分に仰せ付ける、御賞、乱暴したのか不埒のことをした男に3鞭高杉組払い田畑等は妻子に・その子に9鞭居村徘徊是まで通り、庄屋元庄屋にも9鞭等)
1813年　1月26日 文化9年　12月24日 晴　(人事異動、修羅落という道具をつくり密猟の男5人に6鞭または3鞭居村徘徊是まで通り)
1813年　1月27日 文化9年　12月25日 晴　昨夜雪少し降
1813年　1月28日 文化9年　12月26日 晴　(人事異動、当4月和徳組小沢村領に野火・百姓1軒より銭25文宛高無1軒より銭10文宛の過料とする・庄屋五人組にも罰)
1813年　1月29日 文化9年　12月27日 晴
1813年　1月30日 文化9年　12月28日 晴　昨夜雪少し降　(人事異動、御祝儀)
1813年　1月31日 文化9年　12月29日 晴
1813年　2月1日 文化10年正月1日　晴
1813年　2月2日 文化10年正月2日　快晴
1813年　2月3日 文化10年正月3日　晴　今日雪少し降る　(御不快に付き御謡初を延引)
1813年　2月4日 文化10年正月4日　晴　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1813年　2月5日 文化10年正月5日　曇　今日雪少し降　　下から続く　　2人を押込め・ヲロシヤ人面番(見張り)で不都合があった)
1813年　2月6日 文化10年正月6日　曇　(公儀よりの借金5000両の内申年(文化9年)分500両を上納する、去る15日松前御奉行の指示で松前御奉行組同心6人並びに御家中の岩川喜間太と足軽小頭1人足軽　　上に続く
1813年　2月7日 文化10年正月7日　曇　今日雪少し降
1813年　2月8日 文化10年正月8日　曇
1813年　2月9日 文化10年正月9日　曇　今日雪少し降
1813年　2月10日 文化10年正月10日　晴　昨夜雪少し降
1813年　2月11日 文化10年正月11日　晴
1813年　2月12日 文化10年正月12日　曇
1813年　2月13日 文化10年正月13日　晴　昨夜雪少し降
1813年　2月14日 文化10年正月14日　曇　今日雪降　壱寸程積る
1813年　2月15日 文化10年正月15日　晴　(用人森岡金吾に手廻一番組頭兼帯等の人事異動、今晩御謡初、御賞)
1813年　2月16日 文化10年正月16日　曇　昨夜よりの雪今朝に及ぶ　弐寸程積る
1813年　2月17日 文化10年正月17日　晴
1813年　2月18日 文化10年正月18日　快晴
1813年　2月19日 文化10年正月19日　快晴　戌の刻過ぎ地震少し
1813年　2月20日 文化10年正月20日　晴　辰の刻地震少し　(寒30日平均米1俵21匁1分に付き酒1升を是まで通り1匁4分とする)
1813年　2月21日 文化10年正月21日　曇　今日雪少し降
1813年　2月22日 文化10年正月22日　晴
1813年　2月23日 文化10年正月23日　曇　暮に及び雪少し降　(人事異動・御賞)
1813年　2月24日 文化10年正月24日　曇　今日雪少し降　弐寸程積る　(人事異動)　　下から続く　　盗みの男に3鞭居町徘徊是まで通り)
1813年　2月25日 文化10年正月25日　快晴　　下から続く　　徘徊是まで通り、追放から忍び帰って町に住居し博打の男(今と苗字がある)に6鞭大場御構い十里四方追放、盗み徒度々の男に12鞭親渡し、　　上に続く
1813年　2月26日 文化10年正月26日　快晴　(去る6月下旬、伐倒した松で道を差留めた浪岡組本郷村の男に9鞭居村徘徊是迄通り・同村の仲間6人にも6鞭・3鞭、通り手形を持ちながら示さなかった男に6鞭居村　　上に続く
1813年　2月27日 文化10年正月27日　快晴
1813年　2月28日 文化10年正月28日　曇　未の刻過ぎ雨降　暮ニ及
(*)六ツ時より翌14日朝までに氷張る・節に引き合い17日遅く氷張る)

1813年　3月1日 文化10年正月29日　曇　未ノ刻頃より小雨降　酉ノ刻過ぎ止　(一昨27日高杉組糠坪村で小屋焼失・火元呵置く)
1813年　3月2日 文化10年正月30日　曇　今日雪少し降
1813年　3月3日 文化10年　2月1日 晴
1813年　3月4日 文化10年　2月2日 晴
1813年　3月5日 文化10年　2月3日 晴
1813年　3月6日 文化10年　2月4日 快晴　下から続く　10月10日房州沖で橋舟に乗り移り八丈島に漕ぎ寄せる)
1813年　3月7日 文化10年　2月5日 晴　今暁子ノ刻過ぎより小雨降　寅ノ刻頃止　(南溜池の氷を渡る者あり停止、青森から御米3225俵豆等を積んだ御廻船の大坂船が八戸沖で御米554俵などを荷打ち・　上に続く
1813年　3月8日 文化10年　2月6日 快晴
1813年　3月9日 文化10年　2月7日 晴　今日雪少し降
1813年　3月10日 文化10年　2月8日 晴
1813年　3月11日 文化10年　2月9日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降　未ノ刻止
1813年　3月12日 文化10年　2月10日 快晴　(御国元南鐐(銀)払底、米価も下落)
1813年　3月13日 文化10年　2月11日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降　酉ノ刻過ぎ止ム　(猟師でないものが熊鹿猿などを狩るな他領の猟師は追い返せ等の指示)
1813年　3月14日 文化10年　2月12日 曇　今日雪少し降　(人事異動、石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める)
1813年　3月15日 文化10年　2月13日 曇　今日雪少し降　夜ニ入
1813年　3月16日 文化10年　2月14日 曇　昨夜より之雨今日辰の刻頃より雨降　時々降　夜ニ入
1813年　3月17日 文化10年　2月15日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　時々降　酉ノ刻頃止　(御馬廻組相馬大作などに何か褒美、御賞)
1813年　3月18日 文化10年　2月16日 快晴
1813年　3月19日 文化10年　2月17日 曇　今日雪少し降
1813年　3月20日 文化10年　2月18日 曇　今日雪少し降　(御参勤は来年御定例どおりに時節になったら伺う)
1813年　3月21日 文化10年　2月19日 晴
1813年　3月22日 文化10年　2月20日 快晴
1813年　3月23日 文化10年　2月21日 快晴
1813年　3月24日 文化10年　2月22日 快晴
1813年　3月25日 文化10年　2月23日 快晴　(人事異動)
1813年　3月26日 文化10年　2月24日 曇　辰ノ刻過ぎより雨時々降　申ノ刻過ぎ止
1813年　3月27日 文化10年　2月25日 晴
1813年　3月28日 文化10年　2月26日 曇　卯ノ刻頃より雨時々降
1813年　3月29日 文化10年　2月27日 晴
1813年　3月30日 文化10年　2月28日 快晴
1813年　3月31日 文化10年　2月29日 晴
1813年　4月1日 文化10年　3月1日 快晴
1813年　4月2日 文化10年　3月2日 快晴
1813年　4月3日 文化10年　3月3日 快晴　(この節より油値段1升に付き5匁3分に申し遣わす)
1813年　4月4日 文化10年　3月4日 曇　今暁丑の刻小雨降　即刻止　下から続く　残らず氷明ける・去年に比較して3日遅い)
1813年　4月5日 文化10年　3月5日 晴　(甲斐守様(黒石の藩主・時々殿となる)御参勤に付き道中入用金500両の内……、当月朔日暮れ六つ時ころより2日朝六つ時頃まで十三潟が高根沖より小股?川尻大湊口まで　上に続く
1813年　4月6日 文化10年　3月6日 曇　(一昨4日昼九時頃飯詰村で出火・類焼4軒潰れ家1軒雪船柾等焼失・火元百姓他村預け)　下から続く　鐘なし・叱置く、去る5日広須組川除村で出火・火元村預け)
1813年　4月7日 文化10年　3月7日 快晴　戌ノ刻過ぎより岩木山北ノ方より東北を指し白氣虹の如くみゆる(オーロラかな)　(去る5日飯詰村で出火・建家焼失・火元大工村預け、一昨夜代官町で出火・火ノ見櫓　上に続く
1813年　4月8日 文化10年　3月8日 快晴　今暁霜強し　(一昨6日昼九時半頃飯詰村で出火・類焼2軒・火元他村預け)
1813年　4月9日 文化10年　3月9日 快晴　今暁霜強し　下から続く　去る7日夕白銀丁で差料を抜き放った御家中の身上召上げ他出差止め子供に御預け)
1813年　4月10日 文化10年　3月10日 曇　巳ノ刻過ぎ雨少し降　即刻止ム　未ノ刻頃より雨時々降　夜ニ入　(御賞、御姫様御婚礼御入用金3月3000両4月3000両・高8000両の内先ごろ2000両御登……判らん、　上に続く
1813年　4月11日 文化10年　3月11日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降　(大道寺宇左衛門を家老・津軽直記を御城代に等の人事異動、石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める、嵩硫黄山出火・福眞清右衛門等が罷り越す)
1813年　4月12日 文化10年　3月12日 曇　今日雪少し降　(三ノ丸御屋形で御囃子)
1813年　4月13日 文化10年　3月13日 晴
1813年　4月14日 文化10年　3月14日 曇　巳ノ刻頃より雨降　夜に入
1813年　4月15日 文化10年　3月15日 曇　昨夜よりノ雨今朝に及ぶ　辰ノ刻過ぎ止　(人事異動、嶋田山で小熊2疋狩取り差上げたものに御酒代鳥目500文下し置かれる、石渡川4歩の出水・馬船往来相成らず)
1813年　4月16日 文化10年　3月16日 晴
1813年　4月17日 文化10年　3月17日 曇　今日時々雨降
1813年　4月18日 文化10年　3月18日 曇　昨夜戌ノ刻より雨降　未ノ刻止ム　(石渡川4歩半の出水・両船とも往来相成り兼ねる)
1813年　4月19日 文化10年　3月19日 曇　昨夜亥ノ刻頃より雨降　今暁に至る　(岩木嵩硫黄山出火の節の御賞)
1813年　4月20日 文化10年　3月20日 快晴
1813年　4月21日 文化10年　3月21日 晴　今暁寅ノ刻過ぎ雨降　卯の刻過ぎ止ム　(人事異動、御賞)
1813年　4月22日 文化10年　3月22日 晴　(十三町の儀は格別衰微・困窮に及び候に付き……)
1813年　4月23日 文化10年　3月23日 快晴　(御蔵から米を盗み出した金木村の男4人に6鞭居村徘徊是まで通り)
1813年　4月24日 文化10年　3月24日 快晴　(ソウヤ詰めの鳶の者同所で病死)　下から続く　に100文・百姓1軒に50文・高無1軒に35文、密造酒小売の木造村等の男5人の酒道具御取り上げ過料1人に銭50匁宛)
1813年　4月25日 文化10年　3月25日 曇　巳ノ刻頃雨降　夜ニ入　(岩木嵩硫黄山昨夕七時より又々出火、去る春浪岡組赤坂等5村に犯人不明の野火・油川組孫内村の場合:庄屋に過料150文戸〆10日・五人組　上に続く
1813年　4月26日 文化10年　3月26日 曇　(硫黄山鎮火)
1813年　4月27日 文化10年　3月27日 快晴
1813年　4月28日 文化10年　3月28日 快晴　(横岡平八を御留守居組に等の人事異動、木を隠れて伐り出した大鰐組石川村の者共に過料銭33貫440文小杉1500本植付を仰せ付ける)
1813年　4月29日 文化10年　3月29日 快晴
1813年　4月30日 文化10年　3月30日 快晴

1813年　5月1日 文化10年　4月1日 快晴 （人事異動、大鰐組早瀬野村領で伐荒し・小杉100本植付過料、当月4日飯詰村の出火に関し昼火事で桧2尺5寸柾152900枚6尺木舞400本焼失は管理不届き・預人を戸〆30日）
1813年　5月2日 文化10年　4月2日 曇　巳ノ刻頃より雨降　夜ニ入
1813年　5月3日 文化10年　4月3日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　今日風雨強し　酉ノ刻過ぎ止ム （無手形米の輸送者2人に6鞭居村徘徊是まで通り）
1813年　5月4日 文化10年　4月4日 晴
1813年　5月5日 文化10年　4月5日 曇　昨夜子ノ刻過ぎ小雨降　今日小雨時々降
1813年　5月6日 文化10年　4月6日 曇　申ノ刻頃より雨降　夜ニ入 （去る4日駒越組大秋村で出火・建家馬とも残らず焼失・火元村預け）
1813年　5月7日 文化10年　4月7日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　時々降 （人事異動、去月8日鍛冶町で盗みの羽州本庄出生の男を碇ヶ関送返し）
1813年　5月8日 文化10年　4月8日 曇
1813年　5月9日 文化10年　4月9日 快晴
1813年　5月10日 文化10年　4月10日 快晴
1813年　5月11日 文化10年　4月11日 晴
1813年　5月12日 文化10年　4月12日 晴 （赤石組一森村の猟師辰蔵が去年中熊3疋刈取り差上げる・御賞3貫文と無位皮1枚）
1813年　5月13日 文化10年　4月13日 晴　戌ノ中刻頃雨降　子ノ刻頃降 （盗杣の蟹田村の男に18鞭居村払い田畑等は妻子に・この無刻印材木を預かった男に3鞭居村徘徊是まで通り・その他関係者にも罰）
1813年　5月14日 文化10年　4月14日 晴 （今日三ノ丸御馬場で射芸高覧）
1813年　5月15日 文化10年　4月15日 晴
1813年　5月16日 文化10年　4月16日 快晴
1813年　5月17日 文化10年　4月17日 曇　今暁寅ノ刻雨降 （去る16日昼蔵館村で出火・類焼とも10軒焼失・火元高無他村預け）
1813年　5月18日 文化10年　4月18日 曇　今日午ノ刻過ぎより雨降　即刻雷発ス （今日三之丸御馬場で鎗術高覧）
1813年　5月19日 文化10年　4月19日 晴
1813年　5月20日 文化10年　4月20日 晴 （今日常盤山にと仰せ出されたが風烈で延引）
1813年　5月21日 文化10年　4月21日 快晴
1813年　5月22日 文化10年　4月22日 晴
1813年　5月23日 文化10年　4月23日 曇　今暁寅ノ刻頃より雨降　巳ノ刻頃止
1813年　5月24日 文化10年　4月24日 晴
1813年　5月25日 文化10年　4月25日 晴 （油川組で馬2疋に積んだ米4俵を押える、去月13日横内組久栗坂と浅虫村の境より煙立つ・両村の百姓1軒25匁・高無1軒に15匁宛過料）
1813年　5月26日 文化10年　4月26日 快晴　今日戌ノ刻頃雨降 （燭台・明油盗みの掃除小人の御給分召し上げ永の暇300日の入牢）
1813年　5月27日 文化10年　4月27日 晴　（極難の藤代組3か村和徳組4か村に・郡所御用米を無利息で夫食米として貸し出す）
1813年　5月28日 文化10年　4月28日 快晴　昨夜よりノ雨今暁に及ぶ　寅ノ刻頃止
1813年　5月29日 文化10年　4月29日 快晴
1813年　5月30日 文化10年　5月1日 快晴 （人事異動、岩木嵩硫黄山出火の節防方骨折りとして福眞清右衛門に御酒御吸い物を下し置かれる、昨29日夜五時過ぎ蝋燭蔵役所より出火・土蔵物置等焼失、御賞）
1813年　5月31日 文化10年　5月2日 晴 （昨夜小友村で出火・火元百姓村預け）
1813年　6月1日 文化10年　5月3日 晴
1813年　6月2日 文化10年　5月4日 曇　今日巳ノ刻頃より雨降　申ノ刻過ぎ止 （去る2日木造新田車力村で出火・火元庄屋村預け）
1813年　6月3日 文化10年　5月5日 曇　今日卯ノ刻過ぎより雨降　巳ノ刻過ぎ止
1813年　6月4日 文化10年　5月6日 晴
1813年　6月5日 文化10年　5月7日 快晴
1813年　6月6日 文化10年　5月8日 快晴 （去月29日蝋燭蔵出火の節火消方骨折りの大組足軽に御酒代鳥目500文・和徳町いろは組人夫の者一統に3貫文下し置かれる、津軽屋三右衛門の支配人に金5両下し置かれる）
1813年　6月7日 文化10年　5月9日 晴
1813年　6月8日 文化10年　5月10日 快晴
1813年　6月9日 文化10年　5月11日 快晴
1813年　6月10日 文化10年　5月12日 快晴
1813年　6月11日 文化10年　5月13日 快晴 （輸送を依頼された米168俵の代金を受け取り出奔の原子村の男に30鞭大場御構い十里四方追放）
1813年　6月12日 文化10年　5月14日 晴 （今暁座等町の御持鑓宅が出火・建家6坪焼失・火元呵り置く）
1813年　6月13日 文化10年　5月15日 曇　今日辰ノ刻頃より雨降　巳ノ刻頃止ム　申ノ刻頃より雨降　夜ニ入
1813年　6月14日 文化10年　5月16日 曇　昨夜よりノ雨今日に及ぶ　午ノ刻過ぎ止 （川合村で博打の男6人に3鞭居町・居村徘徊是まで通り）
1813年　6月15日 文化10年　5月17日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降　未ノ下刻夜晴る （去る13日座等町の出火に鐘を突かなかった諸手足軽2人に慎み）
1813年　6月16日 文化10年　5月18日 曇
1813年　6月17日 文化10年　5月19日 曇 （去月18日夜後潟組で12・3人が米3俵投げ捨て逃亡・家捜しで23俵取り押さえる・家主逃亡）
1813年　6月18日 文化10年　5月20日 快晴 （御賞(銀5両・金100疋ツツ・南鐐3片など)）
1813年　6月19日 文化10年　5月21日 快晴 （添田常三郎を馬廻六番組頭に・福眞清右衛門を寄合(勤料そのまま)に等の人事異動）
1813年　6月20日 文化10年　5月22日 晴
1813年　6月21日 文化10年　5月23日 快晴 （銭を借りて返済しなかった後潟組広瀬村の男に12鞭居村徘徊是まで通り・借り方の分は田方で渡す）
1813年　6月22日 文化10年　5月24日 快晴
1813年　6月23日 文化10年　5月25日 快晴　今日午ノ刻頃雷発ス
1813年　6月24日 文化10年　5月26日 快晴 （去る12月小泊湊出帆の松前船の乗員が水死）
1813年　6月25日 文化10年　5月27日 快晴
1813年　6月26日 文化10年　5月28日 晴 （青森で御米積み入れの節100俵積の橋船1艘覆す）
1813年　6月27日 文化10年　5月29日 晴 （大鰐村より角豆差上げる、今暁田茂木町出火・早鐘遅くなり呵置く）
1813年　6月28日 文化10年　6月1日 晴
1813年　6月29日 文化10年　6月2日 晴 （大鰐村より真瓜差上げる）
1813年　6月30日 文化10年　6月3日 快晴 （人事異動、照り続きで四社に重き御祈祷を仰せ付ける）

1813年　7月1日 文化10年　6月4日 快晴
1813年　7月2日 文化10年　6月5日 快晴
1813年　7月3日 文化10年　6月6日 曇　今日辰の刻頃雨少し降　則刻止ム
1813年　7月4日 文化10年　6月7日 快晴　(当年は植付けの頃より用水不足・頃日に至り植付けた田方も干損・日割等も・長勝寺報恩寺に乞雨御祈祷を仰せ付ける)
1813年　7月5日 文化10年　6月8日 快晴
1813年　7月6日 文化10年　6月9日 晴　(先頃より照り続き渇水の田方450丁歩程、五山で雨乞御祈祷を仰せ付ける)
1813年　7月7日 文化10年　6月10日 晴　(青田の内笛吹くなの触れ、弘前貯米2000俵を新穀に繰替)
1813年　7月8日 文化10年　6月11日 快晴　(夜宮の節屋敷内・神社境内で花火するなの触れ、愛宕山宝覚院?が岩木山に登山の上雨乞御祈祷を申し出る)
1813年　7月9日 文化10年　6月12日 快晴
1813年　7月10日 文化10年　6月13日 曇　今日未ノ刻過ぎより雨少しふる　下から続く　都合6人が当月3日南部領大槌に無事漂着)
1813年　7月11日 文化10年　6月14日 晴　(青森町同心が幸林才蔵から吉蔵に、去年10月2日函館出帆の江戸船が3日南部領大釜崎より申酉の大風で漂流・水主共病死・当5月27日元船乗り捨て上乗り船頭水主　上に続く
1813年　7月12日 文化10年　6月15日 曇　(人事異動、去る7月青森出帆の御廻船がどこにも着岸なし・上乗りの大組警護の子を親の給分で大組足軽に当分申し付ける)
1813年　7月13日 文化10年　6月16日 快晴　今暁寅ノ刻地震少し
1813年　7月14日 文化10年　6月17日 曇
1813年　7月15日 文化10年　6月18日 曇　今日雨少々降
1813年　7月16日 文化10年　6月19日 曇　巳の刻過ぎより雨降　冷気　(御収納米銭を重く取り立てた赤田村の庄屋に12鞭居村徘徊是までどおり)
1813年　7月17日 文化10年　6月20日 曇
1813年　7月18日 文化10年　6月21日 曇　今日午ノ刻過ぎ雷鳴　雨少し　同未ノ刻過ぎ雷雨　申ノ刻晴　(人事異動)
1813年　7月19日 文化10年　6月22日 晴　土用今日子ノ四刻　(去月23日阿弥陀川で蓬田村勤番が取り押さえた手段米33俵は勤番に下し置かれる)
1813年　7月20日 文化10年　6月23日 快晴　(人事異動)
1813年　7月21日 文化10年　6月24日 晴　(昨夜普光寺(住吉神社境内に明治初期まであったものか?)門前に出火・掃除小人の子とも1人焼死)
1813年　7月22日 文化10年　6月25日 快晴
1813年　7月23日 文化10年　6月26日 曇　申ノ刻雨降　夜ニ入る　(満佐姫様御婚礼の御祝儀の御嚊子、山本三郎左衛門を大組足軽頭に等の人事異動)
1813年　7月24日 文化10年　6月27日 曇　辰ノ刻過ぎ地震少し
1813年　7月25日 文化10年　6月28日 曇　未の刻過ぎ小雨降る　(祢婦たの儀三尺以上の祢ふた一尺以上の太鼓の停止?)
1813年　7月26日 文化10年　6月29日 晴
1813年　7月27日 文化10年　7月1日 快晴　(人事異動)
1813年　7月28日 文化10年　7月2日 快晴
1813年　7月29日 文化10年　7月3日 曇　今暁子ノ刻過ぎより雨時々降　辰ノ刻過ぎ止ム　下から続く　長町の男に諸代金支払い30日の慎・仲間は碇ヶ関口送返等、満佐姫様御婚礼の御祝儀として座頭盲女に15文宛)
1813年　7月30日 文化10年　7月4日 晴　今暁寅ノ刻頃雨降　即刻止ム　(この度東長町の宮川伊三郎・元寺町の宮川理右衛門が身上潰に及ぶ、当3月12日本町で酒を飲み蕎麦切食べ代金を払わず乱暴した元　上に続く
1813年　7月31日 文化10年　7月5日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降る
1813年　8月1日 文化10年　7月6日 曇　午ノ刻過ぎより雨降　雷強シ　未ノ刻過ぎ止
1813年　8月2日 文化10年　7月7日 曇　卯ノ刻過ぎより小雨刻々降　申ノ刻過ぎ止ム　(当年旱魃に付き稲草植付け相成り兼ね候分……、土渕川筋乞食手で掃除・1人に付き1日賃銭1匁5分ツツ下し置かれる)
1813年　8月3日 文化10年　7月8日 曇
1813年　8月4日 文化10年　7月9日 曇　申ノ刻小雨降　即刻止ム　(盗み杣の杉村の男に6鞭居村徘徊是までどおり)
1813年　8月5日 文化10年　7月10日 曇　今暁丑ノ刻頃より雨時々降　辰ノ刻過ぎ止ム　(クナシリ嶋之内ケラムイと申すところに異国船1艘相見え・同嶋の内センベヱコタンと申すところに間懸、御賞)
1813年　8月6日 文化10年　7月11日 晴
1813年　8月7日 文化10年　7月12日 快晴
1813年　8月8日 文化10年　7月13日 快晴
1813年　8月9日 文化10年　7月14日 快晴
1813年　8月10日 文化10年　7月15日 曇　昨夜亥ノ刻頃より雨降　今日に及ぶ　巳ノ刻頃止　(金木村で瀬戸物焼き方に出精として御賞、代官を9人?増員している)
1813年　8月11日 文化10年　7月16日 快晴
1813年　8月12日 文化10年　7月17日 快晴
1813年　8月13日 文化10年　7月18日 晴　(大鰐村加賀助より初穂差上げる・昨年は6月中より20日目当年は22日目で2日遅い)
1813年　8月14日 文化10年　7月19日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨降
1813年　8月15日 文化10年　7月20日 晴　(御賞)
1813年　8月16日 文化10年　7月21日 晴　(御賞)
1813年　8月17日 文化10年　7月22日 晴　(今暁七時前江戸町に松前詰め鳶の者の居宅が燃え上がり取鎮める、對馬文太が御用間違として御奉公遠慮伺い)
1813年　8月18日 文化10年　7月23日 曇　辰ノ刻過ぎより時々雨降　未ノ刻過ぎ止ム　(三之丸御屋形で御角力高覧、人事異動)
1813年　8月19日 文化10年　7月24日 曇　未ノ刻過ぎ雨降　夜ニ入　(人事異動、御賞、岩木川洪水)
1813年　8月20日 文化10年　7月25日 曇　今暁丑ノ刻過ぎ雷鳴　昨夜よりノ雨今日に及ぶ
1813年　8月21日 文化10年　7月26日 曇　刻々雨降　夜ニ入　(近年在方一体風儀よろしからず……という口達書が出ている)
1813年　8月22日 文化10年　7月27日 曇　昨夜よりノ雨今暁に及ぶ　今日時々降　巳ノ刻過ぎ止ム
1813年　8月23日 文化10年　7月28日 晴　(人事異動、御賞)
1813年　8月24日 文化10年　7月29日 快晴　西南ノ方申の刻過ぎ鳴動
1813年　8月25日 文化10年　7月30日 曇　今暁丑ノ刻過ぎより雨降　(近衛様の姫君様が御遠行:若殿様の結婚予定者かな?)
1813年　8月26日 文化10年　8月1日 曇　昨夜亥ノ刻過ぎより雨降　(人事異動、御賞)
1813年　8月27日 文化10年　8月2日 晴
1813年　8月28日 文化10年　8月3日 快晴　未ノ刻過ぎ雷鳴　下から続く　マシケ越年所鍛冶場より出火・本陣2陣とも3ヶ所米蔵1ヶ所等焼失)
1813年　8月29日 文化10年　8月4日 曇　午ノ刻頃より雨折々降　未ノ刻止　刻々雷鳴　下から続く　越したので追い払わなかったもの、御固め人数150人を去る12日より追々差し立てる、去月25日松前　上に続く
1813年　8月30日 文化10年　8月5日 快晴　(当夏東蝦夷地クナシリ嶋え渡来の魯西亜船帰帆・来月中箱館え来着の筈・魯西亜人シイモノフとラシヨハ人ヲロキセの両人を高橋三平が引き連れクナシリ表に罷り　上に続く
1813年　8月31日 文化10年　8月6日 快晴

1813年　9月1日 文化10年　8月7日 曇　昨夜亥ノ刻頃より雨降　今暁ニ及ぶ　卯ノ刻過ぎ止ム　(御代官加勢等の人事異動)
1813年　9月2日 文化10年　8月8日 晴
1813年　9月3日 文化10年　8月9日 曇　午之刻雷雨降　夜ニ入　(水油1升を6文目に申し出・4文目2分値段に申し遣わす)
1813年　9月4日 文化10年　8月10日 晴　昨夜よりノ雨今暁丑の刻過ぎに及ぶ
1813年　9月5日 文化10年　8月11日 晴　(人事異動)
1813年　9月6日 文化10年　8月12日 曇　昨夜亥之刻過ぎ小雨刻々降
1813年　9月7日 文化10年　8月13日 晴
1813年　9月8日 文化10年　8月14日 晴
1813年　9月9日 文化10年　8月15日 曇　今暁丑之刻過ぎより雨降る　(今日雨天に付き(八幡宮の)神輿通御延引)
1813年　9月10日 文化10年　8月16日 晴　(今日八幡宮祭礼)
1813年　9月11日 文化10年　8月17日 晴　(今日鯉之包丁高覧、当年4月13日夜後潟村で36俵・5月23日阿弥陀川村で30俵・7月17日蓬田村で15俵の隠津出・犯人は他領に逃げ去ったらしい)
1813年　9月12日 文化10年　8月18日 曇　酉之刻頃より雨降　夜ニ入
1813年　9月13日 文化10年　8月19日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅之刻止ム
1813年　9月14日 文化10年　8月20日 快晴　　下から続く　　死骸を積んで南部大畑近所に・当月14日橋舟で上陸)
1813年　9月15日 文化10年　8月21日 快晴　(去年江戸御廻船として青森を出帆した江戸船が仙台地より吹き流され漂流・度々荷打ち・上乗り大組警固横山某町上乗り新五郎船頭水主の都合9人が船中で病死・　　上に続く
1813年　9月16日 文化10年　8月22日 曇　今日辰之刻過ぎより雨降　午之刻頃止ム
1813年　9月17日 文化10年　8月23日 快晴
1813年　9月18日 文化10年　8月24日 晴　夜ニ入雨降る
1813年　9月19日 文化10年　8月25日 晴　今朝ニ至雨降
1813年　9月20日 文化10年　8月26日 晴
1813年　9月21日 文化10年　8月27日 晴
1813年　9月22日 文化10年　8月28日 曇　今日巳之刻過ぎより雨降　午之刻頃より止　(人事異動)
1813年　9月23日 文化10年　8月29日 快晴　(昨日牢屋の掃除中に瀬戸子村の男が柵を飛び越えて逃亡・せい5尺2寸余・今日乞食手で召し捕る)
1813年　9月24日 文化10年　9月1日 快晴
1813年　9月25日 文化10年　9月2日 曇
1813年　9月26日 文化10年　9月3日 晴　　下から続く　　北蝦夷地ソウヤ詰めの人数をル〃モツへ(ルルモッペ:留萌市)イシカリ(石狩市か)の内に相つぼみ越年を提案しているのかな?、御姫様婚礼関係御賞)
1813年　9月27日 文化10年　9月4日 曇　雨時々降る　　下から続く　　・古郡・北岡に指示、天気不正に付き丹後者詮索、松前に増員の当別詰ヤケナイ詰は去月晦日三厩出帆、マシケ越年所焼失に付き　　上に続く
1813年　9月28日 文化10年　9月5日 曇　雨刻々降る　(去月20日に笠原八郎兵衛を御用人にの人事異動、日時不明に後潟組郷沢村で船並びに船小屋焼失・火元戸〆、一粒金丹不足・5剤の調合を和田　　上に続く
1813年　9月29日 文化10年　9月6日 晴　今朝岩木山江雪初而見得る
1813年　9月30日 文化10年　9月7日 快晴
1813年　10月1日 文化10年　9月8日 曇
1813年　10月2日 文化10年　9月9日 曇　卯の刻過ぎより雨少シ降る　辰の刻過ぎ止ム　(人事異動)
1813年　10月3日 文化10年　9月10日 晴
1813年　10月4日 文化10年　9月11日 快晴
1813年　10月5日 文化10年　9月12日 快晴
1813年　10月6日 文化10年　9月13日 快晴　昨夜子之刻過ぎより雨降　丑之刻過ぎ止ム　(他領の悪者と組み悪事の男に6鞭親預け)
1813年　10月7日 文化10年　9月14日 快晴
1813年　10月8日 文化10年　9月15日 快晴
1813年　10月9日 文化10年　9月16日 快晴
1813年 10月10日 文化10年　9月17日 快晴　　下から続く　　籾囲い・2万石を所払い(意味を知らずに書いています)に・三分損耗で7万石なら4万石を大坂廻米・3万石を籾囲いに・所払いなし、御賞)
1813年 10月11日 文化10年　9月18日 曇　昨夜子の刻過ぎ地震少シ　今暁卯の刻過ぎより雨降　時々降　　下から続く　　御免等4人、9月21日に記述の籾囲いの指示:10万石なら4万石を大坂廻米・4万石を　　上に続く
1813年 10月12日 文化10年　9月19日 曇　今日巳の刻過ぎ雨少降　午の刻過ぎ止ム　(三灌漁場より初鮭弐尺差上げる)　　下から続く　　三回御忌に付き大赦:居町居村徘徊御免18人・御家中の蟄居　　上に続く
1813年 10月13日 文化10年　9月20日 曇　今日卯の刻過ぎより雨降　辰の刻頃より刻々雷鳴　申の刻過ぎ止ム　　下から続く　　代賃役銭などの記述あり労働争議か、昌善院様(当屋形の嫁入前に死んだ娘?)　　上に続く
1813年 10月14日 文化10年　9月21日 曇　(人事異動、近年米価下値・廻米高の三分(の)ニ廻し三分(の)一は在所に籾で囲い置くようにと申し付けられている?)　　下から続く　　6日に片鬢剃り山中追放・　　上に続く
1813年 10月15日 文化10年　9月22日 快晴　(10日南浮田村で出火・火元百姓村預け、去月上旬尾太銅鉛山に秋田からの金穿25人中7人が同月23日夜出奔・当月朔日残りの者男女都合30人余出奔を捕らえて　　上に続く
1813年 10月16日 文化10年　9月23日 快晴　(当作躰は一統不熟・飢饉の対策を採り始め、去々年8月平賀組村々の者共が大勢で居土村に押寄せ山役人を打擲出奔の男に30鞭大場御構い十里四方追放　　欄外(*)に続く
1813年 10月17日 文化10年　9月24日 快晴　今夜子ノ刻過ぎ雨少シ降　則刻止ム　(御取組米代上方平均値段二十石銀37匁5分6厘4毛7ニ相当……:意味不明)
1813年 10月18日 文化10年　9月25日 快晴
1813年 10月19日 文化10年　9月26日 曇　卯之刻過ぎより雨降　辰の刻過ぎ止ム
1813年 10月20日 文化10年　9月27日 快晴　(御検見等も相済まざる所猿賀組の百姓共大勢で徒党致し不法の願い筋申し出る・不届きに付き頭取の者を召し取るよう唐牛甚右衛門門弟など22人を仰せ付ける)
1813年 10月21日 文化10年　9月28日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨降　雷鳴　雨時々降　(人事異動、在方所々で徒党の動き・大組諸手足軽の内10人を支度の上各御用番に詰めさせる・町同心10人も同様・　　欄外(**)に続く
1813年 10月22日 文化10年　9月29日 曇　今日時々雨降　(日付不明浦町組小館村で出火・9軒類焼・火元高無他村預け、在方の者が乱防し取鎮める、昨晩の北御門外の張本人を探す・願は不作なので検見を早くしてくれ)
1813年 10月23日 文化10年　9月30日 晴　(昨29日門外村で出火・類焼共3軒・火元高無他村預け、油値段1升に付き4文目2分を5文目に、去る24日原町猿賀村野合に寄合の廻文をを書いた男出奔・人相書き(5尺2寸46歳等))
1813年 10月24日 文化10年　10月1日 快晴　(清野某を郡奉行に等の人事異動、山火事の件に関し多くの村の百姓から25文宛の過料を取立てている・高無庄屋にもそれなりに)
1813年 10月25日 文化10年　10月2日 曇　今暁丑の刻頃雨降　卯の刻頃止ム　(去月28日亀甲町に押し込んだ百姓共の頭取の者共8人を入牢、百姓寄合の告触の五代村の男を入牢)
1813年 10月26日 文化10年　10月3日 曇　(願の廻文を書いた猿賀組の男を入牢、小館村火災の類焼者に御手当て願い・(扶助可能者なく藩にも米がないが)特例として1俵宛下し置かれる、隠津出の男に15鞭青森町払い等)
1813年 10月27日 文化10年　10月4日 曇　今日午の刻雨雪少シ降　昨夜戌の刻頃より雨降　則刻雷鳴　今日雨時々降　(去月晦日金木組下岩崎村で外馬屋1軒焼失・火元戸〆、外北御門に罷越の張本人8人を召捕る)
1813年 10月28日 文化10年　10月5日 曇　(人事異動、御代官が検見を仰せ付けられたが……、門外村の居宅焼失の者3人に銭20目宛の補助)
1813年 10月29日 文化10年　10月6日 晴　(この節町在とも小売米不足・新石迄の内津出御差留)
1813年 10月30日 文化10年　10月7日 曇　今日巳の刻過ぎより雨少シ降
1813年 10月31日 文化10年　10月8日 曇　今日巳の刻頃より雨降　午の刻頃止ム　(毎年御家中に味噌を売っていた(10文目代に付き目形7貫500目)宮川彦六が身上潰れ・安部某に申し付ける)
(*) 田畑等は妻子に、元江戸詰めの和嶋某・成田某・勘定小頭桑田?某を不言行として役下げ) (**)在方の7・800人が四之北御門外に押集まる・山本某が防ぎ方を命じられる・四ノ北御門外に来たのは新田・赤石・藤代・高杉組で新田代官並びに工藤某に願い筋を受取らせる)

1813年　11月1日 文化10年　10月9日 晴（石渡川4歩半の出水・往来差留める）
1813年　11月2日 文化10年　10月10日 曇　今日巳ノ刻より雨降　時々降
1813年　11月3日 文化10年　10月11日 曇（堀越組門外村の居宅焼失者からの御手当て申請を断っているらしい）
1813年　11月4日 文化10年　10月12日 晴（人事異動）
1813年　11月5日 文化10年　10月13日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　時々降
1813年　11月6日 文化10年　10月14日 曇　今日辰の刻過ぎより雨降（伊勢への抜け参りに過料銭5貫400文、1貫862文目7分9厘が金15両2歩と銭2匁7分9厘?）　下から続く　7月16日まで同所に着岸）
1813年　11月7日 文化10年　10月15日 曇　戌の刻過ぎより雨降　亥の刻頃より晴（北蝦夷地詰の御固め人数がワウヤ(ソウヤ?)表に追々着岸、ヲロシヤ人共を函館表に差遣わす、当別・ヤケナイ御固め人数は　上に続く
1813年　11月8日 文化10年　10月16日 曇
1813年　11月9日 文化10年　10月17日 曇
1813年 11月10日 文化10年　10月18日 曇　今夜亥ノ刻過ぎ雨少シ降　則刻止ム（御賞）
1813年 11月11日 文化10年　10月19日 曇（人事異動・御賞、去る14日駒越組藤川村で出火・火元村預け）
1813年 11月12日 文化10年　10月20日 曇　今日午の刻過ぎ雨降　則刻止ム（新酒仮値段：1升に付き1文目6分6厘に）
1813年 11月13日 文化10年　10月21日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　寅の刻頃止ム
1813年 11月14日 文化10年　10月22日 曇　今日巳の刻過ぎ雪少シ降　則刻止ム（4日に召捕った8人中庄屋を除く6人を帰す）
1813年 11月15日 文化10年　10月23日 曇　今日初雪弐寸程積る
1813年 11月16日 文化10年　10月24日 曇　今日雪少シ降（別段締り役多数に御賞・人事異動）
1813年 11月17日 文化10年　10月25日 曇　今日巳ノ刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止ム　戌の刻過ぎより雨降　子の刻過ぎ止ム
1813年 11月18日 文化10年　10月26日 曇　今日雪少シ降
1813年 11月19日 文化10年　10月27日 晴　今日雪少シ降
1813年 11月20日 文化10年　10月28日 晴
1813年 11月21日 文化10年　10月29日 曇　今日辰の刻頃より雨降
1813年 11月22日 文化10年　10月30日 曇　今日雪少シ降（油川村より鱮(しいらと振り仮名)と申す魚差上げる）
1813年 11月23日 文化10年　11月1日 曇　今日雪五寸程積る（福眞清右衛門の倅才助を御馬廻組に等の人事異動、一昨9月16日魯西亜船が箱館入津）
1813年 11月24日 文化10年　11月2日 曇　昨夜より雪1尺程積る
1813年 11月25日 文化10年　11月3日 快晴
1813年 11月26日 文化10年　11月4日 晴
1813年 11月27日 文化10年　11月5日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　今日に及ぶ
1813年 11月28日 文化10年　11月6日 曇　今暁寅の刻頃より雪降　今朝至
1813年 11月29日 文化10年　11月7日 曇　今日雪少シ降
1813年 11月30日 文化10年　11月8日 曇　今日雪少シ降（御玄関から出入りの際夜に入って御帰城に付き御広庭口よりお帰り……）
1813年　12月1日 文化10年　11月9日 曇　今日雪少シ降
1813年　12月2日 文化10年　11月10日 晴（長3尺幅3寸柾御払い：代1000枚に付き13文目に申し付ける）
1813年　12月3日 文化10年　11月11日 曇　今日雪降（北蝦夷地詰め長柄の者二川原某が病死）
1813年　12月4日 文化10年　11月12日 曇　昨夜雪降　今日雪降（ソウヤ表で大組足軽五十嵐某が病死）
1813年　12月5日 文化10年　11月13日 曇　今日雪少シ降
1813年　12月6日 文化10年　11月14日 曇　昨夜雪少シ降
1813年　12月7日 文化10年　11月15日 晴（御馬廻与力（多分9月28日に徒党が寄せてきた際の外北御門を警備の責任者）棟方某・葛西某に御賞100疋宛・諸手足軽成田某・三浦某に鳥目1貫文宛下し置かれる）
1813年　12月8日 文化10年　11月16日 晴　下から続く　1俵に付き金1歩1文目5分立）
1813年　12月9日 文化10年　11月17日 晴（水油1升に付き7文目5分とする、検見人に南部切煙草二ツと南鐐1片宛差出す・心得違いの庄屋と五人組を取放し15日の戸〆：緩い刑だ、新穀初相場：弘前御蔵米　上に続く
1813年 12月10日 文化10年　11月18日 曇　昨夜亥の刻頃より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止ム
1813年 12月11日 文化10年　11月19日 晴（去る14日夕より翌15日朝まで十三潟が残らず氷張る）
1813年 12月12日 文化10年　11月20日 晴
1813年 12月13日 文化10年　11月21日 曇　今日雪少シ降
1813年 12月14日 文化10年　11月22日 曇　今日雪少シ降
1813年 12月15日 文化10年　11月23日 快晴（……当年は出作不熟に付き……、去年松前詰めで常々不勤の鳶の者に永の暇）
1813年 12月16日 文化10年　11月24日 曇　今日雪少シ降（弘前の商人17人に御払金（100～150両）を命ず・青森の7人にも（100～200両）命ず、松前表で御持筒足軽工藤某が病死）
1813年 12月17日 文化10年　11月25日 曇　昨夜雪降　下から続く　木作新田村々の者共が大勢徒党して弘前に御収納御免の強訴の節頭取の高杉組鬼沢村の民次郎を取上御仕置場で斬罪・同類　下の欄外(*)に続く
1813年 12月18日 文化10年　11月26日 快晴（盗み徒で鞭刑追放から立ち返り又入牢中に牢屋掃除の節柵を飛び越え逃げた男に町中引廻しの上刎首獄門、盗み徒の男に12鞭親預け、9月に高杉組藤代組　上に続く
1813年 12月19日 文化10年　11月27日 曇　今夕申の刻過ぎより雨降
1813年 12月20日 文化10年　11月28日 曇　今朝卯の刻頃より雪少シ降（当月13日より27日まで平均値段米1俵代金1歩と1文目5分、当別ヤケナイ詰め御人数を引き払う）
1813年 12月21日 文化10年　11月29日 曇　今朝より雪降（御賞、9月の強訴の8人に21鞭三里四方追放田畑等は妻子に等の罰・7人に戸〆等、身分不相応の金子借用の御家中の御給分召上げ永の暇三里四方追放）
1813年 12月22日 文化10年　11月30日 快晴　今日卯の二刻冬至入
1813年 12月23日 文化10年閏11月1日 曇　巳の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止（人事異動）
1813年 12月24日 文化10年閏11月2日 快晴
1813年 12月25日 文化10年閏11月3日 曇　下から続く　商売申し付ける、弘前・青森・鰺ヶ沢三ヶ所一番相場平米1俵39匁5分4厘9毛66）
1813年 12月26日 文化10年閏11月4日 晴（新穀相場31文目5分に付き御定法割合は(1升に付き)1文目7分6毛になる・格段の御沙汰を以って1升を1文目8分値段に申しつけ1合売り11文充て5夕売りは5文充て　上に続く
1813年 12月27日 文化10年閏11月5日 晴
1813年 12月28日 文化10年閏11月6日 曇　今日雪刻々降　弐寸程積る（人相書：年齢35・せい5尺4寸位……）
1813年 12月29日 文化10年閏11月7日 曇　今日雪少シ降
1813年 12月30日 文化10年閏11月8日 曇　今日雪刻々降
1813年 12月31日 文化10年閏11月9日 晴　今日雪少シ降

(*) 3人に30鞭永牢田畑等は妻子に、昔の契約等でもめた小沢村の男に3鞭居村徘徊是迄通り、勤務中に久栗坂村で人を打ち殺した御中小姓永井某を退役親預け永の慎み、代金を過分に引出した武具蔵役人の身上召上げ生涯入牢）

1814年　1月1日 文化10年閏11月10日曇　今日雪少シ降
1814年　1月2日 文化10年閏11月11日晴 (日付不詳後潟組蓬田村の漁師が鱈漁に出て海死、近年尾太銅鉛山から金を借りて出奔する者多い?)
1814年　1月3日 文化10年閏11月12日曇　今日雪少シ降　　下から続く　　居村徘徊是迄通り、同村の桧皮剥ぎの男に12鞭居村徘徊是迄通り・類似の罪で他に4人)
1814年　1月4日 文化10年閏11月13日晴　今暁寅の刻地震少シ　否や止ム (去る7月後潟組内間部村で居村払いを立帰り盗杣の男2人に6鞭外ヶ浜4ヶ組並びに浦々住居御構い、同村で盗杣の男共6人に15鞭　　上に続く
1814年　1月5日 文化10年閏11月14日曇　今日雪刻々降
1814年　1月6日 文化10年閏11月15日曇　今日小寒巳ノ七刻ニ入　昨夜より雪五寸程積　雪吹強し (三橋金蔵を大寄合格側用人兼役に等の人事異動)
1814年　1月7日 文化10年閏11月16日曇　昨夜より之雪三寸程積る
1814年　1月8日 文化10年閏11月17日曇　今日雪少シ降
1814年　1月9日 文化10年閏11月18日晴　今日雪少降 (平内領当作不熟に付き救い米として米700俵等を廻米・来年の種籾500俵も同様)
1814年　1月10日 文化10年閏11月19日曇　今日雪少シ降 (当6月11日夜駒越村で暴力を振るった御馬付き小人の御給分召上げ永の暇)
1814年　1月11日 文化10年閏11月20日晴　今日雪少シ降
1814年　1月12日 文化10年閏11月21日曇　今日雪少シ降 (人事異動、当7月ヲロシヤ船が渡来に付き当別ヤケナイに差出された御人数は去月8日までに追々帰着)
1814年　1月13日 文化10年閏11月22日曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止
1814年　1月14日 文化10年閏11月23日曇　今日申の刻頃雨降　酉の刻頃止
1814年　1月15日 文化10年閏11月24日曇　午の刻頃より雨時々降　酉の刻過ぎ止 (人事異動)
1814年　1月16日 文化10年閏11月25日曇　今日吹雪　弐寸程積る (当作不熟故過分の御検見引き……、米を動かして米が捕まり人間が逃げ去る例が多い)
1814年　1月17日 文化10年閏11月26日曇　今日雪少シ降
1814年　1月18日 文化10年閏11月27日曇　今日雪刻々降 (去る3日今別町の男が熊取る・不案内にて報告が遅れ……)
1814年　1月19日 文化10年閏11月28日曇　今日雪少シ降
1814年　1月20日 文化10年閏11月29日曇　今日雪少シ降 (去る14日後方組郷沢村前浜で松前船が破船・水主1人乗客3人が海死、当年不熟作で造酒は三が一封印)
1814年　1月21日 文化10年　12月1日 晴　今日申の四刻大寒入 (人事異動)
1814年　1月22日 文化10年　12月2日 曇　今日雪少シ降
1814年　1月23日 文化10年　12月3日 曇　今日雪少シ降 (所々湯屋より衣類を盗み取った掃除小人の御給分召上げ永の暇三里四方追放・同類の男に3鞭兄預け、不審な南部船に餅米をくれた男に15鞭居村徘徊是迄通り)
1814年　1月24日 文化10年　12月4日 快晴　今夜酉の刻過ぎ雨少シ降　則刻止ム (格段の御沙汰で御家中一統に御手当(100石に100目)、御賞(銀5両・鳥目500文)、倹約令(酒肴・菓子・住居・着服等)、　　欄外(*)に続く
1814年　1月25日 文化10年　12月5日 快晴 (大鰐組居土村の猟師頭孫十郎が当春より熊3疋狩取る・御定めの通り御賞3貫文並びに下々位の熊皮1枚の御賞)
1814年　1月26日 文化10年　12月6日 快晴 (去る2日高杉組鬼沢村で馬屋焼失・火元百姓戸〆)
1814年　1月27日 文化10年　12月7日 快晴　今朝雪少シ降
1814年　1月28日 文化10年　12月8日 快晴
1814年　1月29日 文化10年　12月9日 曇　巳の刻頃より雨降
1814年　1月30日 文化10年　12月10日 曇　今日雪少シ降 (村方で農事に差し障りが出るので戸〆5日を600文・10日は900文・15日は1貫200文・20日は1貫500文・30日は1貫800文とする、御賞)
1814年　1月31日 文化10年　12月11日 曇　今日雪少シ降 (一昨夜本町に盗賊・土蔵破り品々盗み取る、検見先で枠籾盗み取りの男に6鞭居村払い田畑等は妻子に、9月25日に籾願の頭取をし徒党の上　　欄外(**)に続く
1814年　2月1日 文化10年　12月12日 晴 (御賞、当9月に柏木組梅田村で隠芝居の男2人に3鞭宛・その他過料3人と梅田村庄屋に1貫800目宛、10月3日に土手町で酒の上で小児を打擲の御家中の弟を町払い)
1814年　2月2日 文化10年　12月13日 曇
1814年　2月3日 文化10年　12月14日 曇　昨夜雪五寸ほど積る　今日至 (松前ソウヤで御手筒足軽鈴木某が病死、煎餅・焼餅の売買差留める)
1814年　2月4日 文化10年　12月15日 晴
1814年　2月5日 文化10年　12月16日 晴
1814年　2月6日 文化10年　12月17日 曇　今日雪少シ降 (人事異動、御賞(金100疋・金2朱・銀3両など))
1814年　2月7日 文化10年　12月18日 曇　今日雪少シ降 ((多分豪農に)御用立て米(1000俵・800俵・800俵・300俵・300俵など)を仰せ付ける)
1814年　2月8日 文化10年　12月19日 曇
1814年　2月9日 文化10年　12月20日 快晴 (御賞)
1814年　2月10日 文化10年　12月21日 曇　今日雪少シ降 (人事異動・佐藤吉五郎などに南鐐3片などの御賞)
1814年　2月11日 文化10年　12月22日 晴　今日雪少シ降 (常盤・赤田・広田・尾崎・大鰐・金木・浦町・横内・藤崎・柏木・浪岡・赤石・駒越・金木新田・広須・木作の16組が来耕作種籾並びに夫喰の拝借願い・了と答えてない)
1814年　2月12日 文化10年　12月23日 曇　今日雪少シ降 (楠美荘司を寺社奉行に等の人事異動、当別ヤケナイ御固め引き払いの際難船あり)
1814年　2月13日 文化10年　12月24日 晴　　下から続く　・95文目の下仲間を73文目(2歩3厘落)・65文目の小者を52文目(2厘落？)に引き下げる)
1814年　2月14日 文化10年　12月25日 晴 (教授方の面々に御賞、出来嶋村前浜に鯨子寄す・たけりひれ尾の類一切なし)　　下から続く　　(2歩8厘落の)銭90目に・120目の中仲間を82匁5分(2歩5厘落)　　上に続く
1814年　2月15日 文化10年　12月26日 快晴　今日申の刻頃より雪少シ降 (人事異動・御賞、小橋・用水堰手入れに柳を過分に伐った庄屋に過料600文、御家中の御差し引きに対応して:上仲間125文目を　　上に続く
1814年　2月16日 文化10年　12月27日 晴　今日雪少シ降 (炭焼き作業に桧43本を伐った炭焼きに過料4貫300文・庄屋五人組にも過料)
1814年　2月17日 文化10年　12月28日 晴 (竹千代様御誕生御祝に多くの者が出牢の上追放などになっている・木作新田の弥三右衛門は9月末の民次郎一揆の関係者かも・出牢23人・揚屋出6人・出牢の上送帰し4人)
1814年　2月18日 文化10年　12月29日 晴　今日雪五寸程積 (当寒作り酒値段1升に付き1文目8分・1合売り11文充てに仰せ付けられる)
1814年　2月19日 文化10年　12月30日 晴　今日雪少シ降
1814年　2月20日 文化11年正月1日　晴
1814年　2月21日 文化11年正月2日　快晴
1814年　2月22日 文化11年正月3日　晴 (御吉礼金200両御金奉行より差し出す、今晩御謡初)
1814年　2月23日 文化11年正月4日　晴 (例年通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1814年　2月24日 文化11年正月5日　曇　今日雪少シ降
1814年　2月25日 文化11年正月6日　晴
1814年　2月26日 文化11年正月7日　曇　今日雪少シ降
1814年　2月27日 文化11年正月8日　晴
1814年　2月28日 文化11年正月9日　快晴

(*) 盗杣が見つかり出奔の男の五人組の残り4人に過料(4貫200文宛)・庄屋に1貫200文、浪岡・増館組・金木新田の村々の当作不熟・御収納になるべき米一切なし・籾で収め明春……)
(**) 境関河原まで詰めた猿賀組新山村の男に24鞭五里四方追放田畑等は妻子に・同村と猿賀村の男に15鞭居村徘徊是迄通り・八幡崎村の男に3鞭居村徘徊是迄通り・金屋村の男に18鞭居村払い田畑等は妻子に・同村の8人と田中村の男1人にに3鞭居村徘徊是迄通り、9月22日村々の者共寄合の頭取の駒越組五代村の男に18鞭居村払い田畑等は妻子に・同村の男に15鞭居村徘徊是迄通り・一町田村の男に6鞭居村徘徊是迄通り、このほか盗賊等5人に15鞭など)

1814年　3月1日 文化11年正月10日　曇　今日雪少シ降
1814年　3月2日 文化11年正月11日　曇　今日雪少シ降　(人事異動)
1814年　3月3日 文化11年正月12日　曇　今日雪大降
1814年　3月4日 文化11年正月13日　晴
1814年　3月5日 文化11年正月14日　曇　巳の刻頃より雪少々降　否晴(否や晴:直ちに晴くらいの意)　未の刻頃より雪降
1814年　3月6日 文化11年正月15日　曇　辰の刻頃より雨降　雪少々降　申の刻過ぎより晴　戌の刻より風強し
1814年　3月7日 文化11年正月16日　晴
1814年　3月8日 文化11年正月17日　曇　今日雪少シ降
1814年　3月9日 文化11年正月18日　曇　今日雪少シ降
1814年　3月10日 文化11年正月19日　晴
1814年　3月11日 文化11年正月20日　快晴　(五十石町下小路の御家中屋敷の裏に赤子捨て置く・乞食手で片付けさせる)
1814年　3月12日 文化11年正月21日　晴　(御家中の二男が昨夜縊死、去年北蝦夷地並びにソウヤ詰め御人数は越年所に参着とのこと)
1814年　3月13日 文化11年正月22日　曇　今日雪少シ降　(去る19日昼浦町組村不明で出火・火元高無村預け)
1814年　3月14日 文化11年正月23日　快晴　(この節歩金並びに南鐐不足・歩金1000両南鐐1000両を江戸表へ申し遣わす)
1814年　3月15日 文化11年正月24日　曇　巳の刻過ぎより雨降　未の刻過ぎ止
1814年　3月16日 文化11年正月25日　快晴
1814年　3月17日 文化11年正月26日　快晴
1814年　3月18日 文化11年正月27日　晴
1814年　3月19日 文化11年正月28日　晴
1814年　3月20日 文化11年正月29日　晴　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1814年　3月21日 文化11年正月30日　曇　昨夜より之雨今朝辰の刻頃止　午の刻頃雷鳴　雪少し降　風強し
1814年　3月22日 文化11年　2月1日 曇　今日雪少し降
1814年　3月23日 文化11年　2月2日 曇　今日雪折々降　(一昨晦日の大風で城郭等に被害)
1814年　3月24日 文化11年　2月3日 曇　今日雪少し降
1814年　3月25日 文化11年　2月4日 晴
1814年　3月26日 文化11年　2月5日 晴
1814年　3月27日 文化11年　2月6日 晴
1814年　3月28日 文化11年　2月7日 快晴
1814年　3月29日 文化11年　2月8日 快晴　(勘定人佐藤吉五郎に勤料俵子10俵を加え勘定小頭に等の人事異動・御賞、酒値段1文目8分を米値段上がり1升を1文目9分に仰せ付ける)
1814年　3月30日 文化11年　2月9日 快晴
1814年　3月31日 文化11年　2月10日 快晴　寅の下刻頃より少々雨降　明け過ぎ皆晴　(店先で酒を飲み口論がましいことをした鳶の者を掃除小人に役下げ、金木組相内村などから難渋に付き杣取願い)
1814年　4月1日 文化11年　2月11日 快晴　(百沢寺が知行所で去作不熟で種籾拝借願い・断られている)
1814年　4月2日 文化11年　2月12日 晴
1814年　4月3日 文化11年　2月13日 晴　巳の刻過ぎ雨少し降
1814年　4月4日 文化11年　2月14日 快晴　(碇ヶ関御境木伐り取に付いて何人か罰せられている、江戸で御家中の倅が西之丸奥医者に切りかかる、近衛様醍醐様御合力金も1歩通り御差引き?)
1814年　4月5日 文化11年　2月15日 快晴
1814年　4月6日 文化11年　2月16日 快晴
1814年　4月7日 文化11年　2月17日 快晴
1814年　4月8日 文化11年　2月18日 曇
1814年　4月9日 文化11年　2月19日 快晴
1814年　4月10日 文化11年　2月20日 快晴
1814年　4月11日 文化11年　2月21日 曇　辰の刻過ぎ少し雨降
1814年　4月12日 文化11年　2月22日 快晴　(昨20日(赤石組)舞戸村で出火・類焼43軒・火元他村預け)
1814年　4月13日 文化11年　2月23日 曇　寅の刻過ぎより終日少々宛雨降
1814年　4月14日 文化11年　2月24日 曇　辰の刻より少々雨降　否晴ル　(紅花の摘み様・製法等の記述)
1814年　4月15日 文化11年　2月25日 快晴
1814年　4月16日 文化11年　2月26日 快晴
1814年　4月17日 文化11年　2月27日 快晴
1814年　4月18日 文化11年　2月28日 快晴　昨夜雨少々降　((日時不明)に夕顔関村で外馬屋出火・火元戸〆)
1814年　4月19日 文化11年　2月29日 曇　今日時々少々雨降　(当月22日十三潟が氷明ける・去年より日数引き合い10日早く節に引き合い11日遅い)
1814年　4月20日 文化11年　3月1日 快晴　(去る20日夜赤石組舞戸村で出火・類焼27軒の者共難儀・1軒に付き御米1俵ツツ下し置かれる、去る24日十三潟残らず明ける)
1814年　4月21日 文化11年　3月2日 快晴
1814年　4月22日 文化11年　3月3日 曇　辰の刻頃より雨降　巳の刻過ぎ止
1814年　4月23日 文化11年　3月4日 曇　(外瀬村田んぼに捨子(死骸)あり)
1814年　4月24日 文化11年　3月5日 快晴
1814年　4月25日 文化11年　3月6日 快晴
1814年　4月26日 文化11年　3月7日 曇　明ヶ七ツ過ぎより雨時々降
1814年　4月27日 文化11年　3月8日 晴
1814年　4月28日 文化11年　3月9日 快晴
1814年　4月29日 文化11年　3月10日 快晴
1814年　4月30日 文化11年　3月11日 晴

1814年　5月1日 文化11年　3月12日 快晴 （西坂御門新規御取建て・御普請中往来差留め）
1814年　5月2日 文化11年　3月13日 晴　昨夜之雨今朝辰の刻頃止 （石渡川4歩の出水・馬船往来差留める）
1814年　5月3日 文化11年　3月14日 曇 （町の柴田屋・梅屋から補助米50俵・30俵の提供申出で、竹千代様御誕生御祝儀の赦:報恩寺先々住・薬王院先々住・本行寺先住・隣松寺先々住・清安寺先々住の退院が御免など）
1814年　5月4日 文化11年　3月15日 快晴 （先年異国に漂流の青森町之久保屋儀兵衛が当月6日病死）
1814年　5月5日 文化11年　3月16日 快晴 （旧冬御容赦の男が藤代村の外馬屋に忍び込み十里四方追放大場御構い）
1814年　5月6日 文化11年　3月17日 快晴
1814年　5月7日 文化11年　3月18日 晴　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1814年　5月8日 文化11年　3月19日 曇　卯の刻頃より御雨少々降　酉の刻頃雪少々降
1814年　5月9日 文化11年　3月20日 晴 （人事異動）
1814年　5月10日 文化11年　3月21日 曇　辰の刻過ぎより雨降 （渇命の御家中山屋某に御米3俵下し置かれる）
1814年　5月11日 文化11年　3月22日 曇　昨夜雨今朝に及ぶ （去月11日下土手町で口論・打擲の男に治療料差出戸〆10日、頃日打ち続く天気不勝に付き丹後者を詮索させる）
1814年　5月12日 文化11年　3月23日 曇　卯の刻頃より雨降　辰の刻頃止
1814年　5月13日 文化11年　3月24日 晴
1814年　5月14日 文化11年　3月25日 快晴
1814年　5月15日 文化11年　3月26日 快晴 （旧冬の赦で青森町の2人が居町徘徊御免）
1814年　5月16日 文化11年　3月27日 快晴　今朝霜降
1814年　5月17日 文化11年　3月28日 快晴 （黒石仮足軽が浅瀬石村出生の男を殺害）
1814年　5月18日 文化11年　3月29日 快晴 （上の仮足軽を入牢、浪岡組竹鼻村で出火・火元村預け、マシケ詰合い中鍛冶場より出火の責任者勘定人加勢外崎某を御旗警固に役下げ・大組足軽木村某を長柄の者に役下げ）
1814年　5月19日 文化11年　3月30日 快晴
1814年　5月20日 文化11年　4月1日 快晴 （竹内甚左衛門を者頭格に等の人事異動、去月25日一間所の掃除小人縊死）
1814年　5月21日 文化11年　4月2日 曇　辰の刻頃雨少々降 （工事中の西坂御門が明後4日より往来できる）
1814年　5月22日 文化11年　4月3日 晴
1814年　5月23日 文化11年　4月4日 快晴
1814年　5月24日 文化11年　4月5日 快晴
1814年　5月25日 文化11年　4月6日 晴　今日未の刻頃少々雨降　否止
1814年　5月26日 文化11年　4月7日 快晴
1814年　5月27日 文化11年　4月8日 曇　今日午ノ刻過ぎより雨降　酉ノ刻止
1814年　5月28日 文化11年　4月9日 晴 （御留守居組頭土岐渡人が病死、蝋燭蔵等で私曲した高屋・成田・佐々木・對馬某の御給分召上げ永の暇五里四方追放家財は妻子に、他に関係者にも罰）
1814年　5月29日 文化11年　4月10日 快晴 （赤石組一ツ森村の猟師頭辰蔵・大鰐組居土村の猟師頭孫十郎・金木組喜良市村の猟師頭山三郎が熊3疋以上狩取る・御賞鳥目3貫文宛並びに下々位の熊皮1枚下し置かれる）
1814年　5月30日 文化11年　4月11日 快晴
1814年　5月31日 文化11年　4月12日 曇　巳ノ刻過ぎより雨降　夜ニ入 （内南御門御修復・今日より往来差留める）
1814年　6月1日 文化11年　4月13日 曇　昨日の雨今日ニ及ぶ　申の刻過ぎ止（曇　昨日の雨今日ニ及申刻過止）
1814年　6月2日 文化11年　4月14日 晴 （当正月本所報恩寺付近で西の丸奥御医師古田老に疵を付けた江戸足軽山口某は遠島と申渡される）
1814年　6月3日 文化11年　4月15日 快晴
1814年　6月4日 文化11年　4月16日 快晴
1814年　6月5日 文化11年　4月17日 快晴
1814年　6月6日 文化11年　4月18日 曇　未の刻過ぎ雷鳴　則刻雨降　申の刻過ぎ雷鳴止 （御発駕日限は来月10・11日の両日の内吉日とする）
1814年　6月7日 文化11年　4月19日 快晴
1814年　6月8日 文化11年　4月20日 晴
1814年　6月9日 文化11年　4月21日 晴
1814年　6月10日 文化11年　4月22日 曇　雨少々降 （内南御門の修復御入用の儀御軍用金の内250両御繰出し……）
1814年　6月11日 文化11年　4月23日 曇　雨少々降
1814年　6月12日 文化11年　4月24日 曇　雨少々降 （一昨22日中畑村で出火・火元百姓村預け）
1814年　6月13日 文化11年　4月25日 曇　雨少々降 （金木組出火で類焼の者11軒極難・御米1俵宛下し置かれる、御用達4人より冥加金1200両差上げる）
1814年　6月14日 文化11年　4月26日 曇 ((日時不明)浦町組大別内村で出火・火元村預け)
1814年　6月15日 文化11年　4月27日 晴 （青森町貯米850俵を当新穀に繰替え、当年松前江差ソウヤ北蝦夷地に差し出された御固御人数都合352人:北蝦夷地126人(者頭1・同添え役1・検使1・平士12・医師1等)）
1814年　6月16日 文化11年　4月28日 快晴 （人事異動・御賞）
1814年　6月17日 文化11年　4月29日 快晴 （出奔して江戸に居た湯浅某がつかまり錠前付き駕籠で御国下がり）
1814年　6月18日 文化11年　5月1日 曇　今日卯の刻より雨降　夜ニ入 （昨29日八時過ぎより青森町で大火）
1814年　6月19日 文化11年　5月2日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　時々降　申の刻止 （近年他領者多い・早瀬野口より入り込みが多い）
1814年　6月20日 文化11年　5月3日 晴
1814年　6月21日 文化11年　5月4日 曇 （当年苗不足になっている）　下から続く　蜆貝町を残らず焼失・借家とも543軒・潰れ家3軒・半潰れ10軒・土蔵13ヶ所焼失・御仮屋等に別状なし）
1814年　6月22日 文化11年　5月5日 曇　今暁寅の刻より雨降　申の刻頃止　戌の六刻夏至ニ入 （中田勇蔵を御使番格に等の人事異動、御賞、去月29日夜青森大町からの火は米町濱町鍛冶町大工町　上に続く
1814年　6月23日 文化11年　5月6日 快晴
1814年　6月24日 文化11年　5月7日 晴 （浪岡組中野村で苗不足、囚人付き添い下がりの11人に御手当て）
1814年　6月25日 文化11年　5月8日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　午の刻止
1814年　6月26日 文化11年　5月9日 曇　未の刻すぎ雨降　則刻雷鳴　申の刻頃雷雨止 （津軽甲斐守(黒石1万石の殿様)が昨日在着）
1814年　6月27日 文化11年　5月10日 曇　辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止
1814年　6月28日 文化11年　5月11日 晴 （今日大鰐より大角豆初めて差上げる、河南屋?が青森類焼の者共1軒に10文目宛補助差し出す）
1814年　6月29日 文化11年　5月12日 晴
1814年　6月30日 文化11年　5月13日 快晴 （一昨10日川除村で出火・火元百姓村預け）

1814年　7月1日 文化11年　5月14日 快晴
1814年　7月2日 文化11年　5月15日 快晴
1814年　7月3日 文化11年　5月16日 快晴　頃日暑気
1814年　7月4日 文化11年　5月17日 曇　辰の刻頃より雨降　巳の刻頃止ム
1814年　7月5日 文化11年　5月18日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　未の刻雷鳴強　則刻雷止　(今日大鰐村より初茄子真瓜差上げる)
1814年　7月6日 文化11年　5月19日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ　未の刻頃止ム　(篠巻綿14,500把到着・御目見以上一統9杷宛・以下支配以下御用所坊主まで一統7把宛望みの族に御貸し渡し・代銭1把に付き3匁5分値段)
1814年　7月7日 文化11年　5月20日 晴
1814年　7月8日 文化11年　5月21日 快晴　(御発駕当分御見合せ、昨19日夜八時青森塩町で出火)
1814年　7月9日 文化11年　5月22日 曇
1814年　7月10日 文化11年　5月23日 晴
1814年　7月11日 文化11年　5月24日 快晴
1814年　7月12日 文化11年　5月25日 曇　酉の刻頃より小雨降　夜ニ入
1814年　7月13日 文化11年　5月26日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　戌の刻頃止ム　(行状宜しからず家内不和合等で6人ほどの御馬廻組などの御家中が役下げ)
1814年　7月14日 文化11年　5月27日 曇　申の刻過ぎ雷鳴　雨降　亥の刻過ぎ止ム　(当月16日御材木船が戸賀間口で橋舟に乗り移る・橋舟が転覆乗員16人中14人が海死)
1814年　7月15日 文化11年　5月28日 曇　未の刻過ぎ雨少々降　則刻止ム　(本郷村の山に伐り荒し跡あり・旧冬赦が行われる前のことなので庄屋を叱り置くのみとする)
1814年　7月16日 文化11年　5月29日 曇　午の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1814年　7月17日 文化11年　6月1日 曇　昨夜より雨　今日に及ぶ　辰の刻頃止ム　申の三刻日蝕四分　(ソウヤ詰めの佐藤忠太病死、石渡川4歩の出水・馬船往来相成らず)
1814年　7月18日 文化11年　6月2日 曇　昨夜亥の刻頃より雨時々降　今日ニ及ぶ　午の刻頃止ム　(両社並びに護穀神に日和上げの重き御祈祷を仰せ付ける)
1814年　7月19日 文化11年　6月3日 曇　(夫喰米・補助米差出の100人以上(ダブっているのも有りそうで時間をかければ判るが)の者に紋付を下さったり御目見えや郷士に取立てたり御料理を下さったりしている)
1814年　7月20日 文化11年　6月4日 晴　今日卯の三刻土用ニ入
1814年　7月21日 文化11年　6月5日 曇　辰の刻頃より雨終日降　夜ニ入
1814年　7月22日 文化11年　6月6日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止ム　今暁寅の刻頃雷鳴　則刻雷止ム　(石渡川4歩半の出水・馬船小船共往来なり兼ねる、頃日天気打ち続き不勝・丹後者詮索)
1814年　7月23日 文化11年　6月7日 曇　今日辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム　(新田山根6か村通りで水湛、岩木嵩並びに湯段への湯治は此の節御差留め、百沢寺で重き御祈祷)
1814年　7月24日 文化11年　6月8日 曇　(長勝寺で風雨順時五穀成就の大般若……)
1814年　7月25日 文化11年　6月9日 曇　(青田の内笛吹くなの触れ)
1814年　7月26日 文化11年　6月10日 快晴　(御用人三橋金蔵が左十郎と改名)　下から続く　内え入穴蔵之揚蓋取除きお金長持被覆……、去る16日夜から17日朝まで秋田領湊駅で出火・800軒ほど類焼)
1814年　7月27日 文化11年　6月11日 快晴　此の頃暑気強し　下から続く　何者かが御書院上の御廊下より御小納戸の方入口戸押放シ同所の御筆笥の内引出し明御宝蔵内外の御鍵取出し戸前錠明ケ　上に続く
1814年　7月28日 文化11年　6月12日 快晴　(青森町の類焼に付き格段のお手当:木柄柾木舞とも弘前値段より3割下げ支払いは秋迄等、奥州道(小湊より三馬屋宿まで)の人馬賃銭3割半増の口達、去る19日夜　上に続く
1814年　7月29日 文化11年　6月13日 快晴　(盗みの男に3鞭雇い主預け・3鞭兄預け)
1814年　7月30日 文化11年　6月14日 快晴
1814年　7月31日 文化11年　6月15日 快晴
1814年　8月1日 文化11年　6月16日 曇　辰の刻小雨降　即刻止ム　下から続く　の出水・馬船往来差留める)
1814年　8月2日 文化11年　6月17日 曇　辰の刻頃より小雨時々降　夜ニ入　(尾崎組小杉村より赤むろと申す早稲の出穂差上げる)　下から続く　補助する者あり・御賞金500疋下し置かれる、石渡川4歩　上に続く
1814年　8月3日 文化11年　6月18日 曇　午の刻過ぎ小雨少し降　未の刻頃止ム　昨夜よりの雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止ム　同刻頃風雨強し　(青森大火で自宅等も焼失したのに難渋の者1軒に銭10文目宛　上に続く
1814年　8月4日 文化11年　6月19日 曇　辰の刻より小雨時々降　夜ニ入　(屋形様御参府は暑気に向かい土用中で当分御見合せ)
1814年　8月5日 文化11年　6月20日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　午の刻過ぎ止ム　頃日涼し　(江差から帰帆で油川に居た人数が青森大火に対応してお酒などいただいている)
1814年　8月6日 文化11年　6月21日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(夫喰米を差し出したなどとして青森の河南屋等に御目見等)
1814年　8月7日 文化11年　6月22日 晴　今暁丑の刻頃地震少し　(青森大火の防ぎ方で多数の御家中に御賞・人夫雇い頭2人に御酒代鳥目600文宛小差5人に鳥目400文宛人夫56人に300文宛下し置かれる:火消しか)
1814年　8月8日 文化11年　6月23日 晴
1814年　8月9日 文化11年　6月24日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　昨夜戌の刻過ぎより雨降　亥の刻過ぎ止ム　(近年早瀬野口等から入り込む他領者が多い・送り帰すようにする)
1814年　8月10日 文化11年　6月25日 快晴　(祢婦たの儀他町に出すな・1尺以上の太鼓を出すな等の触れ)
1814年　8月11日 文化11年　6月26日 快晴　午の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム
1814年　8月12日 文化11年　6月27日 曇　未の刻頃小雨降　則刻止ム　(奥州筋宿々の人馬賃銭割増(此の頃東海道・中山道等にも出ている):小湊宿より三馬屋宿まで2割半増)
1814年　8月13日 文化11年　6月28日 快晴　(大鰐村より初穂差上げる)
1814年　8月14日 文化11年　6月29日 快晴
1814年　8月15日 文化11年　7月1日 曇　午の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(人事異動、御賞)
1814年　8月16日 文化11年　7月2日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　酉の刻頃より雨降　寅の刻頃止ム
1814年　8月17日 文化11年　7月3日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　巳の刻頃雷鳴　則刻止　頃日残暑強し
1814年　8月18日 文化11年　7月4日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻止ム　今暁丑の刻過ぎより雷鳴強　辰の刻頃止ム　(内南御門の修復出来・足台取払っていないが明日より往来可能)
1814年　8月19日 文化11年　7月5日 曇　申の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止ム
1814年　8月20日 文化11年　7月6日 快晴
1814年　8月21日 文化11年　7月7日 曇　午の刻頃より雨時々降　夜ニ入　午の刻過ぎ雷鳴
1814年　8月22日 文化11年　7月8日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム
1814年　8月23日 文化11年　7月9日 快晴　(二之丸御普請所より柾木舞を盗み取った御雇鳶・作事方柾小屋に忍び込み杉柾盗み出し四之北御門でつかまった御雇鳶6人等々に鳶取り放しの上6鞭居町徘徊是迄通り等)
1814年　8月24日 文化11年　7月10日 快晴
1814年　8月25日 文化11年　7月11日 曇　午の刻過ぎより小雨降　夜ニ入
1814年　8月26日 文化11年　7月12日 曇　昼頃南風強し　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　戌の刻頃止ム
1814年　8月27日 文化11年　7月13日 晴
1814年　8月28日 文化11年　7月14日 曇　卯の刻頃より小雨降　辰の刻過ぎ止ム
1814年　8月29日 文化11年　7月15日 晴　(去る12日の大風で鯵ヶ沢の小廻り船9艘破船・他に1艘水船)
1814年　8月30日 文化11年　7月16日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入　(5月24日ヱトロフ嶋の内アトヱヤ沖合いに異国船の届け)　下から続く　御雇いの大坂船が深浦湊で破船・水死者あり)
1814年　8月31日 文化11年　7月17日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止ム　(去る12日大間越前浜で越後・佐渡・能州・秋田様御雇い大坂船が破船、大間越船が須江崎で破船・5人が海死、　上に続く

1814年　9月1日 文化11年　7月18日 曇　辰の刻過ぎより雨降　午の刻頃止ム
1814年　9月2日 文化11年　7月19日 曇　(此の度江戸御府内御供立御減仰せ付けられ候)
1814年　9月3日 文化11年　7月20日 快晴　亥の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(和嶋某を勘定奉行に等の人事異動、御目見以下御留守居支配斎藤某がソウヤ詰め中に病死)
1814年　9月4日 文化11年　7月21日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　午の刻頃止ム　(御初米7俵を大鰐組御代官より差上げる、当御発駕日限来たる28・29日の内吉日とす、去月21日金井ヶ沢沖合いに破船・乗合の者見えず)
1814年　9月5日 文化11年　7月22日 曇　今日未の頃より雨時々降　酉の刻頃止ム　(昨20日藤代組村不明で出火・火元高無村預け、青森別段御用係りの面々が浪人3人を搦取る・腰縄つきで野内口に送る)、
1814年　9月6日 文化11年　7月23日 曇　未の刻頃より雨降　則刻止　同刻南風吹　(当御発駕来たる28日と仰せ出される)
1814年　9月7日 文化11年　7月24日 快晴
1814年　9月8日 文化11年　7月25日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　今日終日降
1814年　9月9日 文化11年　7月26日 晴　(人事異動、……15000両ほど御繰り合わせ仰せ付けられなければ御差支え……)
1814年　9月10日 文化11年　7月27日 快晴　(御手廻組頭津軽元太郎の親外記が気分宜しからず一間所にて保養仕るよう仰せ付けられ……)
1814年　9月11日 文化11年　7月28日 快晴　(5半時過ぎ御馬上にて御発駕)
1814年　9月12日 文化11年　7月29日 快晴　(大坂表で材木の値が安い)
1814年　9月13日 文化11年　7月30日 曇　申の刻より雨降　夜ニ入　戌の刻頃止ム　(当月12日の大風で深浦付近で越中・江戸・敦賀船が破船、舞戸浜その他で御雇い遠州・江戸・松前・加賀船が破船)
1814年　9月14日 文化11年　8月1日 快晴　(人事異動、御賞、今年も作が良いので江戸大坂廻米を減らすよう指示あり)
1814年　9月15日 文化11年　8月2日 快晴　(岩木山苔の実百沢寺より差出す、御賞)
1814年　9月16日 文化11年　8月3日 快晴
1814年　9月17日 文化11年　8月4日 快晴　(御賞)
1814年　9月18日 文化11年　8月5日 快晴
1814年　9月19日 文化11年　8月6日 快晴
1814年　9月20日 文化11年　8月7日 曇　申の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(御賞)
1814年　9月21日 文化11年　8月8日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々小雨降　戌の刻過ぎ止ム　(町中惣油屋共6文目値段を申し出る・4文目8分に申し付ける)
1814年　9月22日 文化11年　8月9日 晴　卯の刻小雨降　即刻止ム
1814年　9月23日 文化11年　8月10日 快晴
1814年　9月24日 文化11年　8月11日 快晴
1814年　9月25日 文化11年　8月12日 快晴
1814年　9月26日 文化11年　8月13日 快晴
1814年　9月27日 文化11年　8月14日 快晴
1814年　9月28日 文化11年　8月15日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々降　申の刻頃止ム
1814年　9月29日 文化11年　8月16日 快晴
1814年　9月30日 文化11年　8月17日 晴　(秋田出生の盗み徒男を碇ヶ関口に送り返す)
1814年　10月1日 文化11年　8月18日 快晴　(去月晦日に切石鼻渡し場が風激しく差留め・同日綴子駅に御逗留・16日着府が伸びて17日になるとの連絡)
1814年　10月2日 文化11年　8月19日 快晴　(御本城戌亥之御櫓下西之御郭江通之内地形持ち立てに付き……)
1814年　10月3日 文化11年　8月20日 快晴
1814年　10月4日 文化11年　8月21日 晴
1814年　10月5日 文化11年　8月22日 晴　昨夜亥の刻過ぎより雨時々降　今暁寅の刻過ぎ止ム
1814年　10月6日 文化11年　8月23日 快晴　(村方茂会銭等を過分に取立て庄屋五人組の寄り合いの酒肴にした石川村の庄屋に庄屋御取放し居村より三里四方追放・関連する五人組等にも過料等の罰)
1814年　10月7日 文化11年　8月24日 曇　今暁丑の刻頃より雨　今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止ム
1814年　10月8日 文化11年　8月25日 晴　(公儀竹千代様御誕生御祝儀の大赦:出奔している者の御国徘徊御免36人)
1814年　10月9日 文化11年　8月26日 曇　未の刻頃より雨時々降　夜ニ入　頃日冷気　(離縁した妻から諸道具を無体に引き戻した男の子に三里四方追放・関係者も弘前御払い)
1814年 10月10日 文化11年　8月27日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　戌の刻頃止ム
1814年 10月11日 文化11年　8月28日 曇　今日岩木山に雪初めて見ゆる　辰の刻頃より小雨時々降　夜ニ入
1814年 10月12日 文化11年　8月29日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　辰の刻過ぎ雷鳴　今日霰降
1814年 10月13日 文化11年　9月1日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　未の刻過ぎ止ム　(内南御門修復関係の御賞)
1814年 10月14日 文化11年　9月2日 快晴　(屋形様が17日に御着府)
1814年 10月15日 文化11年　9月3日 晴
1814年 10月16日 文化11年　9月4日 曇　辰の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎ止ム
1814年 10月17日 文化11年　9月5日 晴　　下から続く　　田畑等は妻子に・代官だろうか御馬廻組の御家中を隠居・20俵1人扶持を召上げられ倅を御目見以下に)
1814年 10月18日 文化11年　9月6日 快晴　(衣類盗の男に6鞭居村徘徊是迄通、正月3日夜青森町で木綿品盗みの男に12鞭居町徘徊是迄通、本家を欠所にするよう唆した分家を大場御構い十里四方追放　　上に続く
1814年 10月19日 文化11年　9月7日 晴　今朝霜強し
1814年 10月20日 文化11年　9月8日 曇　未の刻過ぎ雨降　酉の刻止ム　亥の刻地震少々
1814年 10月21日 文化11年　9月9日 晴
1814年 10月22日 文化11年　9月10日 快晴　今朝霜強し
1814年 10月23日 文化11年　9月11日 曇　昨夜戌の刻頃より雨降　今暁丑の刻過ぎ止ム　(一昨9日夜大光寺村庄屋家から出火・類焼とも8軒焼失・火元庄屋他村預け)
1814年 10月24日 文化11年　9月12日 晴
1814年 10月25日 文化11年　9月13日 快晴
1814年 10月26日 文化11年　9月14日 快晴　(去月26日竹千代様御逝去)
1814年 10月27日 文化11年　9月15日 曇　昨夜亥の刻頃より雨降　則刻止ム　未の刻頃雷鳴　雨夜に入
1814年 10月28日 文化11年　9月16日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム
1814年 10月29日 文化11年　9月17日 快晴
1814年 10月30日 文化11年　9月18日 曇　卯の刻過ぎ雨少し降　則刻止ム
1814年 10月31日 文化11年　9月19日 曇　申の刻過ぎより小雨降　亥の刻頃止ム

1814年　11月1日 文化11年　9月20日 快晴 （人事異動）
1814年　11月2日 文化11年　9月21日 快晴
1814年　11月3日 文化11年　9月22日 曇 今暁丑の刻過ぎ小雨降 則刻止ム （甲斐守様より川鮭1尺宛下される）
1814年　11月4日 文化11年　9月23日 曇
1814年　11月5日 文化11年　9月24日 曇 今日雪少し降 （江戸御廻米45096石（27096石（33870内2歩引き6774）外に御扶持米18000石）・大坂御廻米31400石（23400（29250内5850石引き）外に御扶持米8000石））
1814年　11月6日 文化11年　9月25日 快晴 戌の刻過ぎより雨時々降 夜ニ入 （車力館岡両村の屏風山に柏木栗等の伐荒し1305本・館岡村に過料銭48貫500文・大湯村に4貫700文・庄屋山守等にも罰）
1814年　11月7日 文化11年　9月26日 快晴 昨夜より雨 今暁に及ぶ 寅の刻頃止ム （西蝦夷地越年の北蝦夷地・ソウヤ御固御人数は今後直に御国許に引取る、当年北蝦夷地詰め御人数が7月12日ソウヤ表に着岸、御賞）
1814年　11月8日 文化11年　9月27日 晴 （鳶の者某が松前表で病死）
1814年　11月9日 文化11年　9月28日 曇 申の刻頃より雨降 則刻雷鳴 雨 夜ニ入
1814年 11月10日 文化11年　9月29日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止ム
1814年 11月11日 文化11年　9月30日 晴
1814年 11月12日 文化11年　10月1日 曇 戌の刻過ぎより雨降 寅の刻頃止ム （人事異動）
1814年 11月13日 文化11年　10月2日 晴 （去月28日夜浦町組高田村で出火・23人の稲草焼失・火元百姓他村預け）
1814年 11月14日 文化11年　10月3日 曇 昨夜戌の刻過ぎより雨降 今暁丑の刻頃止ム 午の刻より雨降 申の刻頃止ム
1814年 11月15日 文化11年　10月4日 曇 今日雪少し降 （去月晦日の夜小泊村で出火・類焼9軒潰れ家2軒・火元村預け）
1814年 11月16日 文化11年　10月5日 曇 今日雪降 三寸程積
1814年 11月17日 文化11年　10月6日 曇 下から続く （文化8年）1石1斗3升5合5夕・申年（文化9年）1石1斗3升5合5夕・酉年（文化10年）1石2斗1升1合1夕2才・当戌年1石4斗3升8夕）
1814年 11月18日 文化11年　10月7日 快晴 （マシケ越年所に相つぼんでいて病死の者多く松前に引取り越年を提案した・国許に直に返してもと9月26日の御国許引取りとなった、御廻米平均1両に付き:未年 上に続く
1814年 11月19日 文化11年　10月8日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム 夜ニ入 雪少し降 辰の刻過ぎ雷鳴少し
1814年 11月20日 文化11年　10月9日 曇 今日雪壱寸余積る
1814年 11月21日 文化11年　10月10日 曇 昨夜雪降 五寸程積る （来春のソウヤ・江差・松前・北蝦夷地固めの者頭添え役等決まる）
1814年 11月22日 文化11年　10月11日 快晴 昨夜雪少し降
1814年 11月23日 文化11年　10月12日 快晴 昨夜雪少降 （当7月18日夜油川別段締り役が白米玄米とも104俵等を取り押さえた・1人捕まり2人出奔・取り押さえた手段米は締り役に下し置かれる）
1814年 11月24日 文化11年　10月13日 快晴 昨夜雪少し降
1814年 11月25日 文化11年　10月14日 晴 （去る12日夜大光寺組館田村で出火・火元村預け）
1814年 11月26日 文化11年　10月15日 曇 昨夜戌の刻頃より雨降 今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム （新穀初相場弘前御蔵米1俵に付き32匁立にて御払い相立ち候）
1814年 11月27日 文化11年　10月16日 晴
1814年 11月28日 文化11年　10月17日 快晴
1814年 11月29日 文化11年　10月18日 曇 辰の刻頃より雨降 巳の刻頃止ム
1814年 11月30日 文化11年　10月19日 快晴
1814年　12月1日 文化11年　10月20日 快晴
1814年　12月2日 文化11年　10月21日 快晴 （浦町組で松等を申し出でなしに伐った者共に過料等）
1814年　12月3日 文化11年　10月22日 快晴
1814年　12月4日 文化11年　10月23日 曇 巳の刻頃より雨降 午の刻頃止ム 今日雪少し降
1814年　12月5日 文化11年　10月24日 曇
1814年　12月6日 文化11年　10月25日 曇 （去る23日木作新田牛潟村で出火・居宅建馬3疋焼失・火元百姓村預け）
1814年　12月7日 文化11年　10月26日 曇 卯の刻頃より小雨時々降 夜ニ入 申の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム （此の節在方売り出米なし……）
1814年　12月8日 文化11年　10月27日 曇 昨夜より雨 今暁に及ぶ 寅の刻過ぎ止ム
1814年　12月9日 文化11年　10月28日 曇 昨夜雪少し降 （松前表で御馬廻与力大森某が病死）
1814年 12月10日 文化11年　10月29日 曇 午の刻頃より雨降 夜ニ入 下から続く 日より来亥（来年亥の年:文化12年）2月中は1升に付き6文目6分に3月朔日より5月までは1升を4匁8分、古懸不動尊御出汗）
1814年 12月11日 文化11年　10月30日 曇 今暁丑の刻過ぎ雷鳴 則刻雷止ム 昨夜より雨今暁に及ぶ 寅の刻頃止ム （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める、油屋共が1升を7匁5分の申し出・11月朔
1814年 12月12日 文化11年　11月1日 晴 今日雪少し降
1814年 12月13日 文化11年　11月2日 晴 昨夜雪少し降 （弘前並びに青森鰺ヶ沢一番相場御払い米高札1俵平均:38文目5分9厘2毛66（39匁7分9厘2毛66内1文目2分御定め役引））
1814年 12月14日 文化11年　11月3日 曇 今日雪少し降 （他人の娘を箱館に売り払った男に27鞭7里四方追放田畑等は妻子に・此の仲間2人に24鞭五里四方追放家財は妻子に）
1814年 12月15日 文化11年　11月4日 曇 今暁丑の刻頃雨降 巳の刻頃止ム
1814年 12月16日 文化11年　11月5日 曇 今日雪少し降 （去月20日より当月4にまでの15日平均の米値段1俵に付き29文目6分3厘3毛）
1814年 12月17日 文化11年　11月6日 曇 今日雪少し降 （松前から女子勾引の手伝いをした男2人に15鞭居町徘徊是迄通・仲間の2人に6鞭居町徘徊是迄通）
1814年 12月18日 文化11年　11月7日 晴 （造酒屋共が当新酒仮値段1升を1文目9分にと申し出る・御定法の通り1升を1文目6分7厘1合を10文に申し付ける）
1814年 12月19日 文化11年　11月8日 晴
1814年 12月20日 文化11年　11月9日 快晴
1814年 12月21日 文化11年　11月10日 曇 昨夜雪降 三寸程積る 下から続く 7日早く節に引き合い13日遅い）
1814年 12月22日 文化11年　11月11日 快晴 午の刻冬至入ル （当4月野火入有之駒篦村の百姓1軒より25文ツツ高無1軒より10文ツツの過料銭・庄屋より600文） 下から続く 氷張る・去年より日数引合い 上に続く
1814年 12月23日 文化11年　11月12日 快晴 （去る8日暮6時より翌9日明け6時迄に十三潟の大湊川尻より小股川尻まで残らず氷張る・去年は11月14日暮6時より翌15日朝まで大湊川尻より小股川尻まで残らず 上に続く
1814年 12月24日 文化11年　11月13日 快晴 （口論の上手傷を負わせた男に18鞭弘前町払い）
1814年 12月25日 文化11年　11月14日 晴
1814年 12月26日 文化11年　11月15日 晴 （去る12日夜広田組沖館詰村で出火・居宅稲草等焼失・火元百姓村預け、去月泊番の諸手足軽の夜着並びに風呂敷が盗まれる?）
1814年 12月27日 文化11年　11月16日 快晴
1814年 12月28日 文化11年　11月17日 晴 昨夜雪少し降 （浪岡増館両組で去作不熟御収納米上納取り延べが1455俵余あり・当作躰も不熟につき日々付き相場（1俵29文目6分3厘3毛立）を持って銭納を申し出る）
1814年 12月29日 文化11年　11月18日 快晴 （田舎館村端に女子の捨子）
1814年 12月30日 文化11年　11月19日 曇 今日雪降 四寸程積る
1814年 12月31日 文化11年　11月20日 晴 昨夜亥の刻頃より雨降 丑の刻頃止ム

1815年　1月1日 文化11年　11月21日 晴　今日酉の穀過ぎ西北方鳴動
1815年　1月2日 文化11年　11月22日 曇　昨夜より雪一尺程積ル
1815年　1月3日 文化11年　11月23日 曇　今日雪少し降
1815年　1月4日 文化11年　11月24日 曇　今日巳の刻頃より雨時々降　夜ニ入　（自分持抱の畑に植付けた杉1本を菩提寺の普請のために寄進した男に申し立てなしに木を伐り出したとして過料600文）
1815年　1月5日 文化11年　11月25日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止ム　卯の刻過ぎ雪少し　（去る23日夜小友村で出火・建家焼失）
1815年　1月6日 文化11年　11月26日 快晴　申の六刻寒入　今暁丑の刻地震少し
1815年　1月7日 文化11年　11月27日 曇　卯の刻過ぎより小雨降　辰の刻頃止ム
1815年　1月8日 文化11年　11月28日 晴　（当6月御山の松を過分に伐り荒した村の者共に過料3貫400文2貫100文5貫800文3貫300文3貫300文・それらの庄屋に600文宛1人だけ1貫200文）
1815年　1月9日 文化11年　11月29日 晴
1815年　1月10日 文化11年　12月1日 曇　巳の刻頃地震少し
1815年　1月11日 文化11年　12月2日 晴
1815年　1月12日 文化11年　12月3日 曇　今日雪少し降　（窃盗の男に3鞭弘前徘徊是迄通り、7月に隠津出手段米の宿をした男に15鞭居村払いの上外浜四か組み並びに浦々とも住居御構い田畑等は妻子に・庄屋等にも罰）
1815年　1月13日 文化11年　12月4日 曇　（人事異動、御賞、賀田村の掃除小人が北蝦夷地で病死）
1815年　1月14日 文化11年　12月5日 曇　昨夜より雪七寸位積る
1815年　1月15日 文化11年　12月6日 曇　今日雪少し降
1815年　1月16日 文化11年　12月7日 曇　今日雪弐寸位積ル　（油川村筏小頭が当7月瀬辺地土場より青森土場に材木筏廻しの節……銭900文の過料）
1815年　1月17日 文化11年　12月8日 曇
1815年　1月18日 文化11年　12月9日 晴　（弘前重立に金子威取りの投げ文をした男2人に27鞭七里四方追放、盗み徒の男に3鞭居村徘徊是迄通り、当3月黒石で傷害致死の男を黒石で仕置きするよう仰せ付ける）
1815年　1月19日 文化11年　12月10日 快晴
1815年　1月20日 文化11年　12月11日 曇　雪少し降
1815年　1月21日 文化11年　12月12日 晴　（松前・蝦夷地非常の際の要員として来早春より三厩に配置するメンバーを決めている、暴れ馬が駆け込み内東御門・武者屯御門の番人が処罰されている、御賞）
1815年　1月22日 文化11年　12月13日 曇　今日雪少し降
1815年　1月23日 文化11年　12月14日 曇　今日雪降　弐寸程積ル　（御定めの値段を不相応の高値で売るなど不実の商人9軒に戸〆）
1815年　1月24日 文化11年　12月15日 晴　昨夜雪降　壱寸程積ル　（人事異動、御賞、去る12日藤代組種市村で出火・建家のみ焼失・火元高無村預け）
1815年　1月25日 文化11年　12月16日 晴　昨夜雪少し降　（博打をした道心者を脱衣の上3鞭、意趣を持ち同村の男が殺人との証言をした?元庄屋に24鞭五里四方追放田畑等は妻子に）
1815年　1月26日 文化11年　12月17日 快晴
1815年　1月27日 文化11年　12月18日 快晴
1815年　1月28日 文化11年　12月19日 晴　（去る15日夜鯵ヶ沢二丁目の裏小屋焼失・早速取鎮める・火元戸〆）
1815年　1月29日 文化11年　12月20日 晴　昨夜雪少し降　（金子100両の無心状に花火を添えて投げ込んだ男に500日牢居・この仲間に27鞭七里四方追放・この仲間の御城付足軽とその兄に24鞭五里四方追放）
1815年　1月30日 文化11年　12月21日 曇　今日雪少し降　（御賞、人事異動）
1815年　1月31日 文化11年　12月22日 晴　昨夜雪少し降
1815年　2月1日 文化11年　12月23日 晴
1815年　2月2日 文化11年　12月24日 晴　（勘定小頭佐藤吉五郎に金200疋等の御賞、去る20日昼八時頃広須組善積村で出火・居宅家財馬等焼失・火元人寄せ役に慎み、油川御代官役所まで5人が御救い米願いに・了）
1815年　2月3日 文化11年　12月25日 曇　今日雪少し降　（日和揚げ御祈祷の寺に御賞）
1815年　2月4日 文化11年　12月26日 晴　（身上潰れの宮川某とその分家の家屋敷等残らず御取上げの上三里四方追放大場御構い）
1815年　2月5日 文化11年　12月27日 曇　（御賞）
1815年　2月6日 文化11年　12月28日 曇　昨夜より雪降　八寸程積ル　（人事異動、御賞、100石に100目の御手当て、11月4日夜駒越町で酒飲みが傷害・治療費を渡し20日の戸〆）
1815年　2月7日 文化11年　12月29日 快晴　（御賞、街中惣酒屋共が寒造酒1升を1文目9分に申出・1文目8分に仰付ける、仲間等の値段:上仲間125文目を110文目・中仲間110を95・下仲間95を80・小物65を55に仰せ付ける）
1815年　2月8日 文化11年　12月30日 晴　今日雪少し降
1815年　2月9日 文化12年正月1日　快晴
1815年　2月10日 文化12年正月2日　曇　雪少々降
1815年　2月11日 文化12年正月3日　曇　雪降　三寸程積
1815年　2月12日 文化12年正月4日　曇　雪降　三寸程積
1815年　2月13日 文化12年正月5日　晴　酉の刻地震少し
1815年　2月14日 文化12年正月6日　晴　（若殿様の官名は大隅守）
1815年　2月15日 文化12年正月7日　晴
1815年　2月16日 文化12年正月8日　晴
1815年　2月17日 文化12年正月9日　晴
1815年　2月18日 文化12年正月10日　晴　昨夜雪少降
1815年　2月19日 文化12年正月11日　曇　今日雪降　三寸程積
1815年　2月20日 文化12年正月12日　曇　今日雪降　三寸程積る　昨夜より雪吹強し
1815年　2月21日 文化12年正月13日　晴
1815年　2月22日 文化12年正月14日　晴　昨夜雪少々降
1815年　2月23日 文化12年正月15日　晴
1815年　2月24日 文化12年正月16日　快晴
1815年　2月25日 文化12年正月17日　曇　今日雪降
1815年　2月26日 文化12年正月18日　晴
1815年　2月27日 文化12年正月19日　晴　昨夜雪少し降
1815年　2月28日 文化12年正月20日　晴

1815年　3月1日 文化12年正月21日　晴
1815年　3月2日 文化12年正月22日　快晴
1815年　3月3日 文化12年正月23日　快晴　(不筋の勤め方として小山内某が御役料差し引かれ御留守居組に役下げ)
1815年　3月4日 文化12年正月24日　快晴　(評定所当番の横岡平八・今金次郎に心得違いありご奉公遠慮、旧臘高伯寺(大鰐の明治以降大円寺の場所)の大日尊が御出汗)
1815年　3月5日 文化12年正月25日　晴　昨夜雪少々降　(横岡平八の子の御徒横岡木工大夫が御奉公遠慮、去年6月12日に記述の御宝蔵の品を盗まれた関係者2人(古川某・海老名某)が江戸から腰縄つきで帰される)
1815年　3月6日 文化12年正月26日　晴
1815年　3月7日 文化12年正月27日　晴　(去る18日碇ヶ関の74人が御米2000俵拝借願いで集まる・3人を入牢、後潟組の去作不熟で650俵余の米が不足・籾納を仰せ付ける)
1815年　3月8日 文化12年正月28日　快晴　(佐藤吉五郎の勤料そのまま御留守居三番組に等の人事異動)
1815年　3月9日 文化12年正月29日　快晴
1815年　3月10日 文化12年正月30日　晴
1815年　3月11日 文化12年　2月1日 晴　昨夜雪少し降　(昨夜覚仙町に捨子)
1815年　3月12日 文化12年　2月2日 曇
1815年　3月13日 文化12年　2月3日 晴　昨夜雪少し降
1815年　3月14日 文化12年　2月4日 曇　今日雪少々降　(若殿様叙爵・御官名等御祝儀として247人の(座当・盲女)に15文宛下し置かれる、金3歩は3斗入り俵子5俵3斗(6俵?)・金1両は7俵とするらしい:意味不明)
1815年　3月15日 文化12年　2月5日 曇　午の刻頃地震少し　(当分の内津出米御差留)
1815年　3月16日 文化12年　2月6日 曇　今日雪少し降　未の刻頃小雨降　則刻止ム
1815年　3月17日 文化12年　2月7日 曇　昨夜雪降　弐寸程積る　(門外村・松木平村で疫病流行・32・3人相煩う・施薬を申し付ける)
1815年　3月18日 文化12年　2月8日 晴　(去年中に駒越組枯木平村の猟師長八が熊4疋刈り取る・御酒代鳥目3貫文と下々位の熊皮1枚下し置かれる、十三町年寄りが補助米10俵を差し出す)
1815年　3月19日 文化12年　2月9日 晴
1815年　3月20日 文化12年　2月10日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(去る7月増館組郷山前村で口論怪我させた五人組の五人組取放し村払い田畑等は妻子に)
1815年　3月21日 文化12年　2月11日 曇　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　寅の刻過ぎ止　今日雪少降　(去る8日広須組語村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1815年　3月22日 文化12年　2月12日 晴　昨夜雪少々降　(浦町横内組で500俵が上納なり兼ねる・1俵を42匁立に御払い仰せ付ける)
1815年　3月23日 文化12年　2月13日 快晴
1815年　3月24日 文化12年　2月14日 快晴
1815年　3月25日 文化12年　2月15日 快晴　(先ごろより藤崎村で時疫・施薬)
1815年　3月26日 文化12年　2月16日 快晴　(届けないで大坂より荷物を運んだ御手船の船頭を船頭取放し18鞭深浦町払い家屋敷等は妻子に)
1815年　3月27日 文化12年　2月17日 快晴
1815年　3月28日 文化12年　2月18日 曇　辰の刻頃より小雨時々降　夜ニ入　(先祖が下し置かれた桔梗丸紋形をお断りなしに着用した御家中の御奉公遠慮)
1815年　3月29日 文化12年　2月19日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　辰の刻過ぎ止
1815年　3月30日 文化12年　2月20日 晴　(徒党を企てたとして入牢の碇ヶ関の2人(正月27日記述)が頭にも見えないので碇ヶ関に送り返す)
1815年　3月31日 文化12年　2月21日 曇　午の刻頃より雨降　酉の刻頃止　未の刻過ぎより東風吹　戌の刻過ぎ止ム　(昨夜四時頃堀越組新里村で出火・類焼とも4軒雑駄1疋焼失・火元百姓他村預け)
1815年　4月1日 文化12年　2月22日 曇　暮に及び雪少し降る　(牢屋番人13軒の者共米値段高値で渇命・御米6斗5升下し置かれる、今別御蔵の御米が1俵38両?)
1815年　4月2日 文化12年　2月23日 曇　今日雪少し降
1815年　4月3日 文化12年　2月24日 晴　戌の刻頃より小雨降　夜ニ入
1815年　4月4日 文化12年　2月25日 曇　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　卯の刻過ぎ止ム
1815年　4月5日 文化12年　2月26日 晴
1815年　4月6日 文化12年　2月27日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　亥の刻頃止
1815年　4月7日 文化12年　2月28日 曇　今暁雪降　弐寸程積　今日雪少々降
1815年　4月8日 文化12年　2月29日 快晴　(去る25日まで十三潟残らず明ける、松前江差詰め合いの節盗み徒の掃除小人の御給分召上げ永の暇七里四方追放家屋敷は妻子に)
1815年　4月9日 文化12年　2月30日 快晴　今暁霜降　(青森御蔵米100俵を1俵につき10目5分立で代銭上納の上(野内町に)御払い:意味不明安すぎ)
1815年　4月10日 文化12年　3月1日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入　(人事異動、酉戌両年(去年一昨年)不熟のため横内組代官から御手山杣取跡の末木枝葉を下し置き願い・ほぼ了)
1815年　4月11日 文化12年　3月2日 曇　昨夜より雨　今暁寅之刻頃止　(去月晦日赤石組田浦村で出火・類焼とも20軒建馬2疋焼失・火元百姓他村預け)
1815年　4月12日 文化12年　3月3日 曇　卯の刻頃より小雨刻々降　未の刻過ぎ止
1815年　4月13日 文化12年　3月4日 曇　今暁寅の刻頃より小雨降　申の刻頃止
1815年　4月14日 文化12年　3月5日 快晴
1815年　4月15日 文化12年　3月6日 快晴
1815年　4月16日 文化12年　3月7日 快晴　今暁霜降　(去る5日夜金木組で出火・類焼とも10軒・火元百姓他村預け、去る7月広須組穂積村御蔵切破り籾を盗み取った者あり・同村の男入牢)
1815年　4月17日 文化12年　3月8日 快晴
1815年　4月18日 文化12年　3月9日 快晴　今暁霜降
1815年　4月19日 文化12年　3月10日 快晴　今暁少々霜降
1815年　4月20日 文化12年　3月11日 快晴
1815年　4月21日 文化12年　3月12日 快晴　今暁霜降
1815年　4月22日 文化12年　3月13日 快晴　今暁霜降　(青森で米高値として町蓄え米を……と徒党の頭取2人に9鞭居町徘徊是迄通り、焼失した貞昌寺の普請でもめている)
1815年　4月23日 文化12年　3月14日 快晴　今暁丑の刻過ぎより小雨降　寅の刻過ぎ止ム　(駒越渡場が出水で差留める)
1815年　4月24日 文化12年　3月15日 快晴　昨夜戌の刻過ぎより雨時々降　今暁ニ及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1815年　4月25日 文化12年　3月16日 快晴　今暁霜降　(盗籾・柾挽出売払いの碇ヶ関町の籾子に6鞭居町徘徊是迄通り)
1815年　4月26日 文化12年　3月17日 快晴　今暁霜降　(去る14日俵元新田水野尾村で出火・類焼とも2軒馬1疋焼失・火元百姓他村預け)
1815年　4月27日 文化12年　3月18日 曇　未の刻過ぎより小雨時々降　今暁寅の刻過ぎ止
1815年　4月28日 文化12年　3月19日 晴　午の刻過ぎ地震少し　(十三町奉行から御蔵米200俵の御払い申し立て・100俵を1俵39匁立に上納で御払い)
1815年　4月29日 文化12年　3月20日 快晴　今暁霜降　(堀越組門外村の時疫を煩う者に施薬)
1815年　4月30日 文化12年　3月21日 曇　申の刻頃より小雨降　同刻過ぎ止　(大円寺下より和徳稲荷宮下川原まで松明を焼した八目取が出る・火之許御締め合の申し触れ)

1815年　5月1日 文化12年　3月22日 曇　卯の刻過ぎより小雨降　則刻過ぎ止ム
1815年　5月2日 文化12年　3月23日 快晴　亥の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1815年　5月3日 文化12年　3月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1815年　5月4日 文化12年　3月25日 晴
1815年　5月5日 文化12年　3月26日 曇　巳の刻頃より小雨時々降　夜ニ入
1815年　5月6日 文化12年　3月27日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入
1815年　5月7日 文化12年　3月28日 晴　昨夜之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止　(人事異動)
1815年　5月8日 文化12年　3月29日 曇　卯の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎ止　(松前表より送り返しの男を途中で取り逃がした十三町の男に6鞭居町徘徊是迄通り)
1815年　5月9日 文化12年　4月1日 晴
1815年　5月10日 文化12年　4月2日 曇　卯の刻過ぎ小雨降　則刻過ぎ止　(去月25日熊を狩取り帰った猟師から出火・類焼とも2軒と御鉄砲並びに猟師御印札焼失・火許他村預け)
1815年　5月11日 文化12年　4月3日 快晴
1815年　5月12日 文化12年　4月4日 快晴
1815年　5月13日 文化12年　4月5日 曇　今暁寅の刻より雨時々降　夜ニ入　今日霰少し降　頃日寒し
1815年　5月14日 文化12年　4月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止
1815年　5月15日 文化12年　4月7日 曇　(他領の猟師が隠した熊胆等を押えた御家中に御賞南鐐3片・猟師頭に鳥目500文の御酒代を下し置かれる)
1815年　5月16日 文化12年　4月8日 快晴　(甲斐守様御道中金高450両の内……)
1815年　5月17日 文化12年　4月9日 快晴　今暁霜少し降　(去月28日夜新寺町に男子の捨て子)
1815年　5月18日 文化12年　4月10日 快晴　今暁霜降　(頃日天気不勝続きのところ兼平石を隠穿する者あり・3人と石を取り押さえる)
1815年　5月19日 文化12年　4月11日 曇　今暁寅の刻過ぎ小雨降り　則刻止
1815年　5月20日 文化12年　4月12日 快晴　今暁霜降　(江戸当御廻米御見合わせの上地払い仰せ付けられ代金の内1000両は来る15日に登らす?)
1815年　5月21日 文化12年　4月13日 晴
1815年　5月22日 文化12年　4月14日 快晴　(昨夜駒越組新岡村で出火・家2軒木小屋1軒焼失・火元村預け)
1815年　5月23日 文化12年　4月15日 快晴　(蝦夷地警固以来の参勤の2月御暇翌年10月御参勤を向後3月中御暇翌年9月中御参府と心得るよう仰せをこうむる)
1815年　5月24日 文化12年　4月16日 快晴　下から続く　常海橋村で出火・建家1軒焼失・火元が松前郷夫にまかり越しており家内の者を御代官にて呵置く)
1815年　5月25日 文化12年　4月17日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　午の刻頃止　下から続く　乞食1人を切殺す・盗賊中家に入ったのは11人・御印羽織着用は9人・その他不明、16日昼八時ころ柏木組　上に続く
1815年　5月26日 文化12年　4月18日 曇　(大組足軽の乱心の妻が百年山堤で水死)　下から続く　入れる・今朝になり蔵の戸を押し破る・文庫蔵・錠前付きの箪笥・長持ちを明け残らず持参・用心に雇った　上に続く
1815年　5月27日 文化12年　4月19日 曇　午の刻頃小雨降　同刻過ぎ止　同刻頃雷鳴　則刻止　(昨夜外崎村の奈良岡丹十郎方に郡所の御用として御印羽織・御印提灯を持つ大勢の盗賊・家内の者を米土蔵に　上に続く
1815年　5月28日 文化12年　4月20日 曇　巳の刻過ぎより小雨降り　午の刻過ぎ止　(去る5日の大風で赤石組姥袋村沖に箱館船(8人中4人助かる)・田浦村沖に大阪船越後船(ともに死亡なし)が破船)
1815年　5月29日 文化12年　4月21日 快晴　(藤代組大川村の者共が先ごろより傷寒を相煩う・施薬を仰せ付ける)　23日から続く　6鞭兄預け、青森油川で小盗みの男に3鞭村送り生まれ村の庄屋預け)
1815年　5月30日 文化12年　4月22日 快晴　(深泊村の漁船を盗み逃げた南部領大間村の男を野内御関所へ送り返す、藤崎村真那板林の内に怪しい者10人ばかり・別段御用の14人と足軽5人を派遣する)
1815年　5月31日 文化12年　4月23日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　辰の刻過ぎ止　(無尽の金でもめて乱暴した男に6鞭居町徘徊是迄通り・これに雇われた男3人に3鞭宛、盗みで兄預けの男が又盗み　21日に続く
1815年　6月1日 文化12年　4月24日 快晴　(去る20日夜油川村で鰯網小屋焼く・火元戸〆)
1815年　6月2日 文化12年　4月25日 晴　戌の刻頃より雨降　今暁丑の刻過ぎ止ム
1815年　6月3日 文化12年　4月26日 曇　下から続く　救われ12日に浦賀に入津)
1815年　6月4日 文化12年　4月27日 快晴　(藤崎組林崎村で出火・建家と外馬屋焼失・火元庄屋村預け)　下から続く　当月6日に米を積み青森を出帆の江戸船が南部で遭難・伝馬船で漂流中に豆州船に　上に続く
1815年　6月5日 文化12年　4月28日 晴　戌の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(去る21日毛内喜蔵の倅出奔・和田太左衛門の次男、江戸で平岡群像を御用人(御側御用人兼役役知の内50石加増)に等の人事異動、　上に続く
1815年　6月6日 文化12年　4月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　辰の刻過ぎ止　(当正月に箱館船に白米26俵等を隠し積んだ船問屋に15鞭青森町払い等・関係湊手付けを掃除小人に役下げ、　欄外(*)に続く
1815年　6月7日 文化12年　4月30日 晴　(人事異動、町方並びに駒越・藤代・和徳・堀越・浦町組より御払い米願い・石渡板柳米を38匁・青森米を39匁立で御払い仰せ付ける、赤石組より1000俵御払い願い・断っている)
1815年　6月8日 文化12年　5月1日 曇　寅の刻過ぎより小雨降　則刻止
1815年　6月9日 文化12年　5月2日 快晴　(去る2月末前ソウヤ詰めの岩村某が松前で出奔)
1815年　6月10日 文化12年　5月3日 快晴
1815年　6月11日 文化12年　5月4日 快晴　(今津村で出火・類焼あり)
1815年　6月12日 文化12年　5月5日 快晴　頃日暑気
1815年　6月13日 文化12年　5月6日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　巳の刻過ぎ止ム　(去月18日夜外崎村奈良岡宅に強盗に入った御家中和田・和田・橋本・山屋・成田・百川を役録御取上げ御沙汰中入牢・家族は預け)
1815年　6月14日 文化12年　5月7日 曇　(昨夜四半時過ぎ銅屋町に出火)
1815年　6月15日 文化12年　5月8日 快晴　(一昨夜の火災で類焼とも4軒潰家2軒、今8日昼九時頃碇ヶ関町で出火・上町中町まで両側類焼)
1815年　6月16日 文化12年　5月9日 曇　今暁寅の刻頃雨降　則刻過ぎ止　未の刻頃小雨降　申の刻頃止
1815年　6月17日 文化12年　5月10日 曇　(一昨8日碇ヶ関町の火災:家79軒・土蔵8ヶ所・木小屋焼失、去る7日南浮田村で出火・建家土蔵木小屋等焼失・火元百姓村預け)
1815年　6月18日 文化12年　5月11日 快晴　(去る9日木作新田浅田村で出火・建家農具などのほか馬3疋焼失・火元百姓村預け)
1815年　6月19日 文化12年　5月12日 快晴
1815年　6月20日 文化12年　5月13日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入
1815年　6月21日 文化12年　5月14日 曇　昨夜中より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1815年　6月22日 文化12年　5月15日 曇　昨夜より之雨今暁ニ及ぶ　辰の刻頃止ム　(御賞、広須組3か村で時疫・施薬、当上納高52俵4升6合を金納願い・1俵39匁として2貫74匁1分8厘の上納を仰せ付ける)
1815年　6月23日 文化12年　5月16日 曇　申の刻過ぎ雨降　夜ニ入　時々降　(和徳稲荷宮並びに山之観音堂江忍び入り品々盗み取った男に3鞭)
1815年　6月24日 文化12年　5月17日 曇　昨夜中より之雨今暁に及ぶ　卯の刻過ぎ止
1815年　6月25日 文化12年　5月18日 晴　今暁丑の刻頃雨降　寅の刻過ぎ止
1815年　6月26日 文化12年　5月19日 晴
1815年　6月27日 文化12年　5月20日 晴
1815年　6月28日 文化12年　5月21日 晴　(門外村にて疫病流行・御施薬、去る9日屋形様が江戸表御発駕、御賞)
1815年　6月29日 文化12年　5月22日 晴　(青森町で越後米買入れの申し出・1俵49匁に当たる・御蔵米津出御印なし1俵41文目立にて御払いを……:判らないが米がなくなり高い米を入れたいとなったのか)
1815年　6月30日 文化12年　5月23日 晴

(*) 去る9月までに東長町北御蔵奉行和田太左衛門と申合せ過分の内借米を繰出した御蔵立合の知行50石を召上げ御目見以下御留守居支配に役下げ・関係者相当数に類似の罰)

1815年　7月1日 文化12年　5月24日 晴 （今暁八時長勝寺門前で出火、去る21日木作新田亀ヶ岡村で出火・火元村預け）
1815年　7月2日 文化12年　5月25日 曇 午の刻頃小雨降　則刻止ム （多数に御賞）
1815年　7月3日 文化12年　5月26日 曇 （金木組から御払い米願い・鯵ヶ沢御蔵米にて400俵・1俵39匁立、藤崎3か組並びに駒越猿賀5か組よりも御払い米願い・板柳御蔵に570俵しかなく1俵38文目立にて御払い）
1815年　7月4日 文化12年　5月27日 曇 午の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入 （十三町奉行から御払い米の申し出・御蔵米の有り合わせがなく鯵ヶ沢御蔵米100俵を39匁立で御払い）
1815年　7月5日 文化12年　5月28日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止 （昨26日夜赤石組田浦村で出火・建家等焼失・火元百姓村預け、安東對馬守様御奥様御安産に付き座当盲女247人に鳥目15文ツツ下される）
1815年　7月6日 文化12年　5月29日 曇 午の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1815年　7月7日 文化12年　6月1日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （八つ半時屋形様御着）
1815年　7月8日 文化12年　6月2日 曇 昨夜より之小雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1815年　7月9日 文化12年　6月3日 曇 昨夜より之小雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （駒越並びに石渡川出水・馬船小船とも往来なり兼ねる）
1815年　7月10日 文化12年　6月4日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻頃止
1815年　7月11日 文化12年　6月5日 曇　下から続く　あり浪岡・増館・常盤・金木組に200俵宛39文目立にて上納させる）
1815年　7月12日 文化12年　6月6日 晴 （十三町の貯米40俵を町の者共に申付けたがさらに200俵の拝借願い・100俵を繰出し拝借仰せ付ける、昨今年にて松本平八郎方より御借財10200両?、御払い米の申出　上に続く
1815年　7月13日 文化12年　6月7日 晴 （天気不正に付き五山に風雨順時の御祈祷を仰せ付ける）
1815年　7月14日 文化12年　6月8日 晴　下から続く　青森50俵・鯵ヶ沢40俵・十三碇ヶ関30俵・深浦野内大間越蟹田今別20俵）
1815年　7月15日 文化12年　6月9日 曇 未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　酉の刻過ぎ止む （来る11日神明宮で風雨順時の御祈祷）　下から続く　御慈悲を以って御救い米：在方1000俵・弘前100俵・　上に続く
1815年　7月16日 文化12年　6月10日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降　未の刻過ぎ止 （青森町で飯料不足・大坂並びに深浦立の船が入り1006?石と20俵積んでいる・上米1俵43・4匁下米41匁で船揚げさせる、　上に続く
1815年　7月17日 文化12年　6月11日 曇 今暁丑の刻過ぎより雨時々降　巳の刻過ぎ止 （天気不正に付き丹後者詮議）
1815年　7月18日 文化12年　6月12日 曇 巳の刻過ぎより雨降　申の刻頃止 （青田の内笛吹くなとの御目付触れ、中之口（御門）当番の勤め方不届きとして大組警固に慎み、御郡内一統米払底……）
1815年　7月19日 文化12年　6月13日 曇 申の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止 （鯵ヶ沢町に米500俵を39文目立で御払い、赤田・赤石・和徳・堀越組より御払米願・鯵ヶ沢・青森御蔵の1000俵集め御印無39文目立で御払い）
1815年　7月20日 文化12年　6月14日 晴
1815年　7月21日 文化12年　6月15日 晴 （人事異動、佐藤吉五郎の跡式御給分相違なく倅栄吉江下し置かれ御目見以上御留守居支配を仰せ付けられる・吉五郎の勤料は差し引かれる）
1815年　7月22日 文化12年　6月16日 晴 （関村の男に18鞭居村払い田畑等は妻子に、青森新町の博打打に12鞭居町徘徊御免、去12月に度々博打の男ども7人に3鞭宛居町徘徊是まで通り・御家中の親などに預け等）
1815年　7月23日 文化12年　6月17日 曇 午の刻過ぎより雨降り　申の刻過ぎ止ム（雨降には送り仮名（り）がある・カタカナかひらがなか不明） （天気不正に付百沢下居宮・長勝寺に風雨順時の重き御祈祷を仰せ付ける）
1815年　7月24日 文化12年　6月18日 曇 卯の刻過ぎより小雨降　辰の刻過ぎ止ム （昨日百沢村で出火・建家等焼失・火元高無村預け）
1815年　7月25日 文化12年　6月19日 晴 （大鰐組大沢・石川・長峰・薬師堂村で時疫・御施薬）
1815年　7月26日 文化12年　6月20日 快晴
1815年　7月27日 文化12年　6月21日 曇 今暁寅の刻頃より雨降り　同刻過ぎ雷鳴　午の刻頃雷止　雨午の刻過ぎ止
1815年　7月28日 文化12年　6月22日 曇
1815年　7月29日 文化12年　6月23日 曇
1815年　7月30日 文化12年　6月24日 晴
1815年　7月31日 文化12年　6月25日 晴 （人事異動、弘前町に御払い米1000俵・弘前御蔵より御印無に1俵38匁立で）
1815年　8月1日 文化12年　6月26日 快晴 （御囃子・御料理、人事異動、御賞、去る23日夜金木組毘沙門村で出火・居宅焼失・火元百姓村預け）
1815年　8月2日 文化12年　6月27日 快晴
1815年　8月3日 文化12年　6月28日 曇 未の刻頃小雨少し降　酉の刻頃止ム （25日夜八時頃横内村で出火・建家焼失・火元村預け、昨27日赤田組板屋野木村で火が燃え上がり取鎮める）
1815年　8月4日 文化12年　6月29日 晴 （今暁堀越組取上村で出火・居宅木小屋焼失・火元高無村預け、伯父の娘を松前に売った等の不届き男に27鞭七里四方追放家財は妻子に）
1815年　8月5日 文化12年　7月1日 曇 未の刻小雨　則刻止 （昨夜椿町で出火類焼1軒あり・火元掃除小人、御賞）
1815年　8月6日 文化12年　7月2日 快晴 （一昨夜出火の掃除小人に慎み）
1815年　8月7日 文化12年　7月3日 晴 戌ノ刻頃雨降　則刻止ム
1815年　8月8日 文化12年　7月4日 曇
1815年　8月9日 文化12年　7月5日 晴
1815年　8月10日 文化12年　7月6日 晴 （大鰐村より初穂差上げる）
1815年　8月11日 文化12年　7月7日 快晴　今日残暑強し （人事異動）
1815年　8月12日 文化12年　7月8日 晴　下から続く　大円寺夜宮の商いの手伝いをして3鞭十里四方追放大場御構い）
1815年　8月13日 文化12年　7月9日 曇 今暁寅ノ刻過ぎより雨時々降　夜ニ入 （盗みで秋田に送返したのに間道を忍び入り青森で盗徒の男に12鞭碇ヶ関口送返し、去る3月に十里四方追放大場御構の男が　上に続く
1815年　8月14日 文化12年　7月10日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　午之刻頃止 （岩木川出水・駒越渡し場の人馬往来差留める、石渡川落水・両船とも往来相成る）
1815年　8月15日 文化12年　7月11日 晴 （人事異動、御賞、去月21日の出水で赤石組風合瀬・蠶木・追良瀬・広戸村で欠崩・当秋検地を申し出る）
1815年　8月16日 文化12年　7月12日 晴
1815年　8月17日 文化12年　7月13日 晴
1815年　8月18日 文化12年　7月14日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降強　巳の刻頃より雷鳴　同刻止　戌の刻過ぎ雨止 （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める）
1815年　8月19日 文化12年　7月15日 晴 頃日涼し
1815年　8月20日 文化12年　7月16日 曇 巳の刻頃より時々大雨降　夜ニ入 （岩木川出水・駒越渡し場の馬船長船とも往来差留める、石渡川8歩・駒越川7歩の出水・防ぎ方を仰せ付ける、岩館村で若殿様足止め）
1815年　8月21日 文化12年　7月17日 曇 昨夜之雨今日夜に及ぶ （牢奉行を御目見以上に等の人事異動、水油?1升に付き5文目5分5厘・1合売り5分5厘宛と仰せ付ける）
1815年　8月22日 文化12年　7月18日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入 （ところどころで橋流失・床上浸水等、神明宮・神宮寺に風雨順時の御祈祷を仰せ付ける）
1815年　8月23日 文化12年　7月19日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止 （四社で風雨順時の御祈祷を仰せ付ける、広田組藻川村の土居が数箇所崩れ田畑一円水湛、丹後者詮索）
1815年　8月24日 文化12年　7月20日 晴　下から続く　豊前船が10日沖合いで遭難・荷打ちの上南部領釜石に入津）
1815年　8月25日 文化12年　7月21日 晴 （若殿様の洪水の川を渡した御徒どもその他に御賞、昨夜浪岡組中野村で外馬屋出火・駒2疋焼失・火元庄屋戸〆、当月朔日御米1140石その他を積んで青森を出帆の　上に続く
1815年　8月26日 文化12年　7月22日 快晴
1815年　8月27日 文化12年　7月23日 快晴 頃日暑気
1815年　8月28日 文化12年　7月24日 晴
1815年　8月29日 文化12年　7月25日 快晴
1815年　8月30日 文化12年　7月26日 快晴
1815年　8月31日 文化12年　7月27日 快晴 （御賞）

1815年　9月1日 文化12年　7月28日 快晴　　下から続く　　大鰐蔵館で5軒流失・その他潰家等11軒、他出差留めの男が他出盗み等で3鞭親預け、当正月碇関町で徒党の上御米拝借願いの男2人に12鞭:1人に6鞭等）
1815年　9月2日 文化12年　7月29日 快晴 （夫が病死後8反歩の田方を仕付け盲人の両親と子供4人を養う後潟組の女に御手当て米3俵下し置く、去る27日木小屋焼失の油川村の男を戸〆、去る16日の洪水で　　上に続く
1815年　9月3日 文化12年　8月1日 快晴 頃日暑気強シ 戌ノ刻過ぎより小雨降 夜ニ入 （人事異動、御賞、広須・木作両組の水湛になった者共え御米300俵下し置かれる）
1815年　9月4日 文化12年　8月2日 快晴 今日未ノ刻過ぎ雷鳴 則刻止ム 昨夜ノ雨今暁に及ぶ 寅ノ刻頃止ム （百沢寺より苔実差上げる、去月27日夜油川村で出火・木小屋焼失、去月16日大鰐組森山村で2軒流失）
1815年　9月5日 文化12年　8月3日 曇 巳之刻過ぎ雨時々降 夜ニ入 （江戸御台所から金を盗んだ高木某の御給分召上げ入牢・御徒横岡李太夫等が錠前付き駕籠腰縄つきで連行した）
1815年　9月6日 文化12年　8月4日 曇 昨夜より之雨今暁に及ぶ 丑之刻過ぎ止ム　　下から続く　　去々年12月に郷蔵の屋根を切破りその翌年4月までに3度にわたり27俵を盗まれた番人に30日の戸〆）
1815年　9月7日 文化12年　8月5日 曇 未の刻頃雨降 雷鳴 同刻過ぎ雷雨止 （津出御印無1俵39文目立、先頃(去月16日)の雨で常盤組葛野村の郷蔵に濡米）　　下から続く　　四方追放家財等闕所・　　上に続く
1815年　9月8日 文化12年　8月6日 曇 午之刻過ぎより雨降 申之刻頃止 （常盤坂御用地で盗みの男に3鞭出生村住居、広須組穂積村の郷蔵の屋根を切破って籾27俵を盗み取った男に30鞭大場御構い十里　　上に続く
1815年　9月9日 文化12年　8月7日 快晴 （佐竹様への御香典銀5枚（銀50両との記述もある）・御使者進藤太郎左衛門）
1815年　9月10日 文化12年　8月8日 快晴 （先月16日の件で金木組手代等に御賞、去る6日飯詰村で出火・木部屋1軒焼失・火元戸〆）
1815年　9月11日 文化12年　8月9日 晴
1815年　9月12日 文化12年　8月10日 曇 未之頃より雨時々降 夜ニ入
1815年　9月13日 文化12年　8月11日 晴 昨夜より之雨今暁に及ぶ 寅ノ刻頃止 （人事異動）
1815年　9月14日 文化12年　8月12日 曇 申の刻頃より雨降 夜ニ入 （去月16日大雨で9尺余の出水）
1815年　9月15日 文化12年　8月13日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入 （石渡川4歩半の出水・馬船小船往来ならず）
1815年　9月16日 文化12年　8月14日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳ノ刻過ぎ止 （大鰐組石川村仮橋が昨日の大雨で流失・往来差留める）
1815年　9月17日 文化12年　8月15日 快晴 （八幡宮祭礼・9時過ぎ済む）
1815年　9月18日 文化12年　8月16日 快晴 （初米頂戴を仰せ付けられ御家老等が罷り出でる）
1815年　9月19日 文化12年　8月17日 曇 未ノ刻頃より雨降 夜ニ入る
1815年　9月20日 文化12年　8月18日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 夜に入 （石渡川が4歩半の出水で馬船小船往来ならず・引き続き5歩半の出水、岩木川が6歩の出水、防ぎ方を仰せ付ける）
1815年　9月21日 文化12年　8月19日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入
1815年　9月22日 文化12年　8月20日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入
1815年　9月23日 文化12年　8月21日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 辰ノ刻頃止
1815年　9月24日 文化12年　8月22日 晴 申の刻頃より大雨降 夜ニ入
1815年　9月25日 文化12年　8月23日 快晴 昨夜より之雨今暁に及ぶ 丑ノ刻過ぎ止
1815年　9月26日 文化12年　8月24日 快晴
1815年　9月27日 文化12年　8月25日 快晴
1815年　9月28日 文化12年　8月26日 快晴
1815年　9月29日 文化12年　8月27日 快晴
1815年　9月30日 文化12年　8月28日 快晴
1815年　10月1日 文化12年　8月29日 快晴
1815年　10月2日 文化12年　8月30日 快晴 （昨夜橋雲寺門前で出火・外馬屋立馬1疋焼失・火元戸〆）
1815年　10月3日 文化12年　9月1日 曇 今暁岩木山ニ初雪見ゆル 卯ノ刻頃より雨降 夜ニ入
1815年　10月4日 文化12年　9月2日 曇 昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々降
1815年　10月5日 文化12年　9月3日 快晴
1815年　10月6日 文化12年　9月4日 快晴 （水稽古指南その他に御賞、北蝦夷地・ソウヤ・江差の居小屋と遠見番所・マシケ越年場所の江図面の写しが届く）
1815年　10月7日 文化12年　9月5日 快晴
1815年　10月8日 文化12年　9月6日 快晴
1815年　10月9日 文化12年　9月7日 快晴 （昨6日藤代組小友村で出火・木小屋焼失・火元戸〆）
1815年 10月10日 文化12年　9月8日 晴
1815年 10月11日 文化12年　9月9日 曇 今暁寅ノ刻頃小雨降 今日ニ及ぶ 小雨時々降 戌之刻小雨晴連る 亥之刻頃地震少々 亥ノ刻過ぎ雷鳴 子ノ刻過ぎ止
1815年 10月12日 文化12年　9月10日 晴
1815年 10月13日 文化12年　9月11日 曇 辰之刻雨降 則刻止 （人事異動、御賞）
1815年 10月14日 文化12年　9月12日 晴
1815年 10月15日 文化12年　9月13日 快晴 （他領者の振りをして御関所を偽った松木平村の男に9鞭居村徘徊是迄通り）
1815年 10月16日 文化12年　9月14日 曇 巳ノ刻過ぎより小雨降 午の刻頃止
1815年 10月17日 文化12年　9月15日 晴 （御賞）　下から続く　男に9鞭居町徘徊是まで通り）
1815年 10月18日 文化12年　9月16日 曇 （堀越組門外村で盗みの男に12鞭2里四方追放・仲間に9鞭1里四方追放・共に家財等は妻子に、駒越町で材木を盗んだ男に3鞭3里四方追放、5月に今別町で盗みの　　上に続く
1815年 10月19日 文化12年　9月17日 晴 今暁霜強し
1815年 10月20日 文化12年　9月18日 晴
1815年 10月21日 文化12年　9月19日 曇 今暁寅の刻過ぎより雨時々降 夜ニ入
1815年 10月22日 文化12年　9月20日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 未の刻頃止 今日あられ降 今暁寅ノ刻過ぎ雷鳴 同刻過ぎ止(曇 昨夜より雨今日及未刻頃止今日あられ降今暁寅ノ刻過雷鳴同刻過止）
1815年 10月23日 文化12年　9月21日 曇　下から続く　紛失の手形で米を受け取ろうとした?男を7里四方追放）
1815年 10月24日 文化12年　9月22日 曇 今暁霜強 申ノ刻過ぎより雨降 夜ニ入(曇 今暁霜強申ノ刻過より雨降夜ニ入）　下から続く　追って御片付を申し付ける、盗みの男秋田に送り返す・仲間に3鞭、　　上に続く
1815年 10月25日 文化12年　9月23日 晴 昨夜之雨今暁に及ぶ 寅の刻過ぎ止(晴 昨夜之雨及今暁寅刻過止）（偽銀使用の男に30鞭10里四方追放大場御構い家財欠所・それをくれた5人に300日牢居　　上に続く
1815年 10月26日 文化12年　9月24日 曇 今暁霜強 巳之刻過ぎより小雨降 則刻止
1815年 10月27日 文化12年　9月25日 快晴 今暁子之刻過ぎより雨時々降 寅の刻過ぎ止
1815年 10月28日 文化12年　9月26日 快晴 今暁霜強
1815年 10月29日 文化12年　9月27日 曇 今暁子之刻過ぎより雨降 寅の刻過ぎ止(曇今暁子之刻過より雨降 寅刻過止）（御賞、土井大炊頭から熊胆2・3具無心、去る13日松前ヱトロフ島之内シヘトロ沖に異国船との届け）
1815年 10月30日 文化12年　9月28日 曇 辰之刻頃雷鳴 同刻止 同刻頃より雨降 夜ニ入
1815年 10月31日 文化12年　9月29日 快晴 昨夜より之雨今暁に及ぶ 丑の刻止 酉の刻頃雨降 夜に入

1815年　11月1日 文化12年　10月1日 晴　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻止　今暁丑の刻過ぎ雷鳴　則刻止　(後潟・広田・金木・広須・木作の5ヶ組の村々の内皆無同様の村所あり)
1815年　11月2日 文化12年　10月2日 晴
1815年　11月3日 文化12年　10月3日 快晴　今暁霜強　酉の刻過ぎ雨降　夜ニ入　(勘定人加勢の給分召上げ永の暇)
1815年　11月4日 文化12年　10月4日 曇　昨夜よりの雨今日及　時々降　夜ニ入　今暁子之刻過ぎ雷鳴　寅の刻過ぎ止　酉の刻過ぎ雷鳴　則刻止
1815年　11月5日 文化12年　10月5日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　今日霰少々降　(三国屋傳兵衛仕込の味噌を10文目に付き目方6貫目・梅屋八右衛門は6貫500目)で売貸仰せ付けられる)
1815年　11月6日 文化12年　10月6日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　頃日冷気強し
1815年　11月7日 文化12年　10月7日 曇　申之刻過ぎより雨降　夜ニ入　酉の刻雷鳴　則刻止
1815年　11月8日 文化12年　10月8日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降　夜入　(甲斐守様より川鮭1尺宛拝受)
1815年　11月9日 文化12年　10月9日 曇　昨夜より之雨今日及　時々降　酉の刻頃止　今朝雪少々降
1815年 11月10日 文化12年　10月10日 晴　　下から続く　　永の暇・南部者の主犯は野内口送り返し、当4月深浦町の徒党がましき大勢寄合の頭取2人に6鞭宛居村徘徊是まで通り・関係者に戸〆)
1815年 11月11日 文化12年　10月11日 快晴　今暁霜強し　(人事異動)　　下から続く　　昨夜広田組喰川村で出火・建家焼失・火元高無村預け、当2月に偽役人と隠津出を見逃した青森町同心の御給分召上げ　　上に続く
1815年 11月12日 文化12年　10月12日 快晴　今暁霜強し　　下から続く　　溜池破損15ヶ所・街道堰等の破損535ヶ所(内22ヶ所は甲斐守領分)・山崩49ヶ所・溺斃馬1疋・流失材木10万本余・他に田畑損耗も、　　上に続く
1815年 11月13日 文化12年　10月13日 快晴　(当7月16日朝より同19日迄の被害:流失家17軒・潰れ家10・破損家12・流失橋393ヶ所(内8ヶ所は甲斐守領分)・破損橋209ヶ所・流失用水樋352挺・流失水門24ヶ所　　上に続く
1815年 11月14日 文化12年　10月14日 曇　辰之刻頃より小雨降　巳の刻過ぎ止
1815年 11月15日 文化12年　10月15日 曇　(中田勇蔵を十三町奉行に等の人事異動)　　下から続く　　女子の親に6鞭居村徘徊是迄通り・その他の関係者にも罰)
1815年 11月16日 文化12年　10月16日 曇　昨夜雪降　弐寸程積る　今日雪少々降　(去る秋女子勾引の金木村の男に18鞭居村払い家屋敷等は妻子に・仲間に18鞭・21鞭三里四方追放家屋敷等は妻子に・　　上に続く
1815年 11月17日 文化12年　10月17日 晴
1815年 11月18日 文化12年　10月18日 曇
1815年 11月19日 文化12年　10月19日 快晴　((木作新田)牛潟村で時疫(33軒中23軒)・御施薬)
1815年 11月20日 文化12年　10月20日 曇　今暁寅之刻頃より雨時々降　巳の刻頃止　　下から続く　　板倉江忍び入り(ニユキ?)苧2固盗み取った後潟組南沢村の男に30鞭十里四方追放大場お構い(重い罪だ!))
1815年 11月21日 文化12年　10月21日 曇　今暁子之刻頃より雨時々降　夜ニ入　(人事異動、古懸不動尊御出汗)　　下から続く　　世話したが6月にそこからも盗みの男に3鞭乞食手下に、当5月青森御手船　　上に続く
1815年 11月22日 文化12年　10月22日 曇　昨夜之雨時々降　今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止　今暁雪少し降　(米50俵新穀初相場・弘前御蔵米32匁5分立で御払い、去年秋青森で小盗・親がないとのことで仕事を　　上に続く
1815年 11月23日 文化12年　10月23日 晴
1815年 11月24日 文化12年　10月24日 快晴　今暁霜強し
1815年 11月25日 文化12年　10月25日 晴
1815年 11月26日 文化12年　10月26日 曇　今暁子之刻過ぎ小雨降　丑の刻過ぎ止
1815年 11月27日 文化12年　10月27日 曇　今日雪少し降
1815年 11月28日 文化12年　10月28日 曇　昨夜より雪少し降　(人事異動、一昨夜浪岡組同村で出火・類焼3軒土蔵1ヶ所・建馬焼失・火元他村預け)
1815年 11月29日 文化12年　10月29日 曇　今暁霜強し
1815年 11月30日 文化12年　10月30日 曇　辰之刻過ぎ小雨降　巳の刻過ぎ止
1815年　12月1日 文化12年　11月1日 曇　今暁霜少し降
1815年　12月2日 文化12年　11月2日 晴　今暁雪少し降
1815年　12月3日 文化12年　11月3日 曇　今暁霜強　申の刻過ぎより小雨降　則刻止　　下から続く　　金1歩と銭1文目9分)
1815年　12月4日 文化12年　11月4日 晴　(昨夜赤田組小幡村で出火・小屋1軒焼失・火元村預け、津出御差留め仰せ付けられ在々両濱の御蔵米が六万俵ほど残った?、当新穀相場去月22日より当月まで平均　　上に続く
1815年　12月5日 文化12年　11月5日 曇　今暁寅之刻頃より雨時々降　　下から続く　　取った下乗りに12鞭居町徘徊是迄通り)
1815年　12月6日 文化12年　11月6日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止　辰の刻頃雪降　二寸位積　(水油1升が6文目8分1厘、当7月青森港を出帆して南部領沖で荷打ち・米を陸揚げして金を受け　　上に続く
1815年　12月7日 文化12年　11月7日 曇　今日雪少し降
1815年　12月8日 文化12年　11月8日 曇　今日雪少し降　(学問所より来暦差上げる)
1815年　12月9日 文化12年　11月9日 曇　今日雪少し降
1815年 12月10日 文化12年　11月10日 晴
1815年 12月11日 文化12年　11月11日 快晴
1815年 12月12日 文化12年　11月12日 曇　今暁雪降　三寸程積　今日雪降　弐寸程積
1815年 12月13日 文化12年　11月13日 快晴
1815年 12月14日 文化12年　11月14日 曇　酉之刻小雨降　亥の刻頃止　(體孝院(津軽信明)様25回御忌に伴う大赦:場所限定の徘徊御免9人)
1815年 12月15日 文化12年　11月15日 快晴　(人事異動、御賞)
1815年 12月16日 文化12年　11月16日 快晴　　下から続く　　弘前並びに両濱御払い米一番相場平均:1俵に付き39文目2分5厘3毛3内御定め役引38文目5厘3毛3)
1815年 12月17日 文化12年　11月17日 晴　(人事異動、居宅焼失に伴い伐り取りを仰せ付けられた男が350本過伐に付き過料銭27貫800文目、この他に山の伐り荒し者多数(100人を超えるかな)に過料、　　上に続く
1815年 12月18日 文化12年　11月18日 曇　午の刻過ぎより雨降　亥の刻頃止
1815年 12月19日 文化12年　11月19日 曇　今暁雪降　弐寸程積　今日雪降　弐寸程積
1815年 12月20日 文化12年　11月20日 曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　二寸程積
1815年 12月21日 文化12年　11月21日 曇　今日雪降　二寸程積
1815年 12月22日 文化12年　11月22日 曇　今日雪少し降　酉の初刻冬至入
1815年 12月23日 文化12年　11月23日 曇　今日雪少し降
1815年 12月24日 文化12年　11月24日 曇　今日雪降　二寸程積　(新酒1升を1文目7分・1合は10文宛に申し付ける)
1815年 12月25日 文化12年　11月25日 曇　今日雪降
1815年 12月26日 文化12年　11月26日 晴
1815年 12月27日 文化12年　11月27日 曇　今日雪少し降　(東光寺村で盗みの南部毛馬内の男を碇ヶ関口送り返し、牢でもてあました乳井村の馬鹿が居る)
1815年 12月28日 文化12年　11月28日 曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　四寸程積　(人事異動、御慰の御囃子、高岡江初鱈二本)
1815年 12月29日 文化12年　11月29日 快晴　未之刻頃地震少し　(大光寺村に時疫・施薬)
1815年 12月30日 文化12年　12月1日 快晴
1815年 12月31日 文化12年　12月2日 曇　今日雪降　(去月26日偽手形で金子5両を受け取ったとして勘定所小使いと鍛冶町の男が入牢、去月26日浦町組荒川村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆)

1816年　1月1日 文化12年　12月3日 曇　今日雪少し降　(揚屋入り中の女に金子入りの書状を送ったのがばれ送り主が役下げ・それを内々に通した町同心が慎み)
1816年　1月2日 文化12年　12月4日 曇　今日雪少し降
1816年　1月3日 文化12年　12月5日 曇　今日雪少し降
1816年　1月4日 文化12年　12月6日 曇　昨夜雪降　四寸程積　今日雪少し降
1816年　1月5日 文化12年　12月7日 晴　(家老等が通る際の礼儀?が延々と……)
1816年　1月6日 文化12年　12月8日 曇　今日折々雷鳴　亥の六刻寒入
1816年　1月7日 文化12年　12月9日 快晴　今暁子之刻過ぎより雨降　丑の刻頃止
1816年　1月8日 文化12年　12月10日 快晴　(去月28日伊神崎で松前船破船・溺死1人)
1816年　1月9日 文化12年　12月11日 曇　今日雪少し降　(人事異動、御賞)
1816年　1月10日 文化12年　12月12日 曇　今日雪降　二寸位積　(人事異動、御賞、刻印のない材木を売り買いの者共に過料)
1816年　1月11日 文化12年　12月13日 快晴　今日雪少し降
1816年　1月12日 文化12年　12月14日 曇　今日雪降　二寸位積　(来年9月が璋月院浄心童子(信政の御嫡子)の150回御忌)
1816年　1月13日 文化12年　12月15日 曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪降　(当7月洪水の働きに御賞、当御検見引平均四ツ物成高100石ニ付き18俵2斗8升4合に相当候旨勘定奉行が申し出る:意味がわからず書いている)
1816年　1月14日 文化12年　12月16日 曇　今日雪吹　二寸程積　(疑わしい南部者を預かり逃げられた男に3鞭居町徘徊是まで通り)
1816年　1月15日 文化12年　12月17日 曇　今日雪少し降　(1000両を差登せず300両を送っている、去る8日木作新田大畑村で出火・居宅建馬等焼失・火元居村預け)
1816年　1月16日 文化12年　12月18日 快晴　(人事異動、御賞)　下から続く　流失家17軒・潰家10軒・破損家12軒・流失橋393ヶ所(8ヶ所は黒石領):破損橋209ヶ所・流失用水樋352挺・流失水門24ヶ所・　欄外(*)に続く
1816年　1月17日 文化12年　12月19日 曇　(去る14日夜広須組上古川村で出火・居宅稲草等焼失・火元居村預け、朔日江戸を立12日振りの飛脚が今日到着、幕府に報告した7月16日朝より19日までの大雨被害:　上に続く
1816年　1月18日 文化12年　12月20日 曇　今日雪少し降　(今日御慰の御囃子)
1816年　1月19日 文化12年　12月21日 曇　今朝雪　三寸程積　(去る13日夜木作新田上相野村で出火・居宅稲草等焼失・火元百姓村預け)
1816年　1月20日 文化12年　12月22日 曇　今暁雪降　二寸程積　今日雪少し降　(御賞、大鰐組薬師堂村よりお引上げの山を引渡しがすんだ?)
1816年　1月21日 文化12年　12月23日 晴　(御賞、所々より盗みの男に3鞭親に引渡し、10月に博打の男4人に3鞭宛居町徘徊是迄通り、当8月盗み質入の男に3鞭村役引渡し)
1816年　1月22日 文化12年　12月24日 曇　(当7月後潟組で盗賊の男を碇ヶ関口送り返し)
1816年　1月23日 文化12年　12月25日 晴
1816年　1月24日 文化12年　12月26日 快晴　(安田吉弥・對馬文太等多数に銀7両等の御賞(金100疋・南鐐三片・鳥目1貫500文もある))
1816年　1月25日 文化12年　12月27日 曇　暮に及び雪降　二寸余積　(昨夜八時頃御家中山形某居宅より出火・居宅焼失)
1816年　1月26日 文化12年　12月28日 快晴　(人事異動、御賞、去る酉戌両年(一昨年昨年)不熟作・当年も水損あり……・これからも御差し引きを続けざるを得ないとのことか?)
1816年　1月27日 文化12年　12月29日 快晴　(御賞、酒値段1升1文目7分を1文目8分に・1合売は11文に申し付ける、当夏藤代組大川村で傷寒が流行・御施薬・残らず快気、昨28日十面沢村で出火・居宅焼失・火元居村預け)
1816年　1月28日 文化12年　12月30日 快晴　昨夜亥の刻頃小雨降　今暁子の刻過ぎ止　(江戸で近年打ち続き米価下値・御家中の面々難渋)
1816年　1月29日 文化13年正月1日　曇　今暁雪降　一寸程積　今日雪降　一(虫があり二又は三かも)寸程積
1816年　1月30日 文化13年正月2日　曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　一寸程積
1816年　1月31日 文化13年正月3日　曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪降　一寸程積　(吉例金200両を御金奉行が差出す、今晩御謡初め)
1816年　2月1日 文化13年正月4日　曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪降　一寸程積　(例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1816年　2月2日 文化13年正月5日　曇　昨夜雪降　一寸余積　今日雪降　一寸程積
1816年　2月3日 文化13年正月6日　曇　今日雨雪少し降
1816年　2月4日 文化13年正月7日　晴
1816年　2月5日 文化13年正月8日　曇　今日雪降　二寸程積
1816年　2月6日 文化13年正月9日　晴
1816年　2月7日 文化13年正月10日　曇
1816年　2月8日 文化13年正月11日　曇　(西館宇膳を用人兼帯・山本三郎左衛門を大目付に等の人事異動)
1816年　2月9日 文化13年正月12日　曇　今日雪少シ降
1816年　2月10日 文化13年正月13日　曇　今日雪降　弐寸程積
1816年　2月11日 文化13年正月14日　曇　今暁雪降　弐寸程積
1816年　2月12日 文化13年正月15日　快晴
1816年　2月13日 文化13年正月16日　曇　今暁丑の刻頃より雨降　寅ノ刻過ぎ止ム
1816年　2月14日 文化13年正月17日　曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　弐寸程積
1816年　2月15日 文化13年正月18日　晴　(去る24日公儀御拝借金5000両の内当年分500両を上納、御賞)
1816年　2月16日 文化13年正月19日　快晴
1816年　2月17日 文化13年正月20日　曇　今暁丑の刻頃より雨降　卯の刻頃止ム
1816年　2月18日 文化13年正月21日　晴
1816年　2月19日 文化13年正月22日　快晴　(去月19日桑村某の倅が出奔、御賞、青森町の重立ちが難渋の者共江補助米106俵2斗差出す)
1816年　2月20日 文化13年正月23日　曇　今日雪少シ降
1816年　2月21日 文化13年正月24日　曇　昨夜雪少シ降　今日雪少シ降
1816年　2月22日 文化13年正月25日　快晴
1816年　2月23日 文化13年正月26日　晴
1816年　2月24日 文化13年正月27日　曇　今暁雪降　一寸余積　(十三町の年寄り中井某が難渋の者共江補助米等差出す、御米代銭1俵33匁5分
1816年　2月25日 文化13年正月28日　快晴　(人事異動)
1816年　2月26日 文化13年正月29日　晴　戌ノ刻より雨降　(昨夜田茂木町で御持鑓居宅が出火・火元慎み)
1816年　2月27日 文化13年正月30日　快晴　昨夜より之雨今暁ニ及　寅の刻過ぎ止ム
1816年　2月28日 文化13年　2月1日 曇　申の刻より小雨降　戌の刻過ぎ止ム　(人事異動、昨夜石川村で出火・類焼1軒郷蔵1焼失)
1816年　2月29日 文化13年　2月2日 快晴
(*) 溜池切破15ヶ所・川除堤川欠破損とも535ヶ所(22ヶ所は黒石領)・山崩れ49ヶ所・流失材木10万本余・流斃馬1疋・人怪我なし)

1816年　3月1日 文化13年　2月3日 曇　酉の刻過ぎより雨降　今暁寅の刻過ぎ止ム
1816年　3月2日 文化13年　2月4日 曇　今日雪少し降　(石渡川4歩の出水・馬船往来ならず、十三町御蔵米の内20俵を御印なし33匁5分立で御払い(何か条件もあるようだが判らん))
1816年　3月3日 文化13年　2月5日 晴
1816年　3月4日 文化13年　2月6日 曇　今日雪少し降
1816年　3月5日 文化13年　2月7日 曇　昨夜より雪壱寸程積
1816年　3月6日 文化13年　2月8日 晴　(飯詰組4軒12人・増館組1軒・金木組2軒・油河(川)村で15人出奔・両三年の不熟作による)
1816年　3月7日 文化13年　2月9日 曇　昨夜雪少し降　今暁寅の刻頃より雨降　今日雪時々降
1816年　3月8日 文化13年　2月10日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止ム　今日雪少し降
1816年　3月9日 文化13年　2月11日 曇　今日雪少し降
1816年　3月10日 文化13年　2月12日 曇　今日雪降　壱寸余積　(高杉組鬼沢村の者共傷寒相煩う・施薬願いの通り)
1816年　3月11日 文化13年　2月13日 晴　昨夜雪少し降　(御慰の御囃子)
1816年　3月12日 文化13年　2月14日 晴
1816年　3月13日 文化13年　2月15日 快晴　昨夜雪降　弐寸程積　(原子弥太右衛門を御手廻番頭に等の人事異動、博打と思い踏み込んだがかるた?、秋田出生の男を捕らえたが逃げられて……)
1816年　3月14日 文化13年　2月16日 快晴
1816年　3月15日 文化13年　2月17日 曇　卯の刻より雨時々降　午の刻過ぎ止ム
1816年　3月16日 文化13年　2月18日 曇
1816年　3月17日 文化13年　2月19日 曇　昨夜雪少し降
1816年　3月18日 文化13年　2月20日 快晴　(一昨18日の夜千年山御茶屋の内に盗賊か・御締りの錠捻じ切り……)
1816年　3月19日 文化13年　2月21日 曇　今暁雪降　弐寸程積　(今日雪吹につき三社江の御社参延引)
1816年　3月20日 文化13年　2月22日 晴　(御囲筒薬当年50貫目佐々木専右衛門江調合仰せ付けられ候)
1816年　3月21日 文化13年　2月23日 曇　今日雪少し降　(盗みいたずらをして入牢・大赦で弘前御構を申し付けて出牢後剃髪し托鉢していたが又盗みをした男に6鞭弘前に入り込まないよう申し付ける)
1816年　3月22日 文化13年　2月24日 晴　(15日に江戸に向かった飛脚三浦某が18日秋田領の大久保村と湊町の間で落馬・療養をしたが同夜9時死亡)
1816年　3月23日 文化13年　2月25日 晴
1816年　3月24日 文化13年　2月26日 曇　今日雪少し降　未の刻頃より小雨少し降　申の刻頃止
1816年　3月25日 文化13年　2月27日 晴
1816年　3月26日 文化13年　2月28日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　戌の刻頃雷鳴　則刻止　(小林某を碇ヶ関町奉行に、昨27日堀越組清水森村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け)
1816年　3月27日 文化13年　2月29日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　(剣術高覧、昨28日増館組久井名館村で出火・馬屋等焼失・火元村預け)
1816年　3月28日 文化13年　2月30日 晴
1816年　3月29日 文化13年　3月1日 快晴　(人事異動)
1816年　3月30日 文化13年　3月2日 晴　(油1升に付き6文目とする)
1816年　3月31日 文化13年　3月3日 快晴　(人事異動、一昨夜黒石大工町で出火・焼失家6軒潰れ家3軒)
1816年　4月1日 文化13年　3月4日 快晴　戌の刻より雨時々降　夜に入る
1816年　4月2日 文化13年　3月5日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(十三潟が去月晦日までに残らず船通路相成る、御印代:米1俵が6文目5分・大豆1俵が4文目5分)
1816年　4月3日 文化13年　3月6日 快晴　(去年12月18日に油川湊出帆の船が24日三厩遠沖で水主が海に落ち死亡・箱館表江漂着、去る2月桑野木田村で種籾等を盗んだ男に12鞭組払い・仲間に3鞭、　欄外(*)に続く
1816年　4月4日 文化13年　3月7日 快晴　(十三潟が2日夕六時頃より翌3日朝迄に大湊川尻より高値沖小股川口迄残らず氷明く・去年は2月27日夕より翌28日朝迄氷明く・当年は日数に引合い6日遅く　欄外(**)に続く
1816年　4月5日 文化13年　3月8日 曇　今暁寅の刻頃より時々雨降　申の刻頃止　辰の刻頃より大風吹　午の刻頃止
1816年　4月6日 文化13年　3月9日 快晴　(岩木川出水・駒越渡し場人馬往来差留める、御家中の親出奔、病気と申しながら不勤の御家中5人を役下げ)
1816年　4月7日 文化13年　3月10日 快晴
1816年　4月8日 文化13年　3月11日 快晴　(剣術高覧)
1816年　4月9日 文化13年　3月12日 快晴　(岩木川出水増・駒越渡し場長船往来差留める、御本城御金蔵御囲い金2700両御繰出を14日に)
1816年　4月10日 文化13年　3月13日 曇　卯の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(黒石町より馬盗み同様の男に30鞭十里四方追放・関係者に過料、御救いの為籾入りを許したら生木を盗み取った男3人に6鞭宛居村徘徊是迄どおり)
1816年　4月11日 文化13年　3月14日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　(去月晦日の晩鯵ヶ沢磯に鯡が多く見る・差(刺)網で朔日朝400駄余漁・5日朝既に700駄余・その後日々8・90駄宛漁・　欄外(***)に続く
1816年　4月12日 文化13年　3月15日 快晴
1816年　4月13日 文化13年　3月16日 晴　今暁丑の刻過ぎ小雨少し降　寅の刻過ぎ止　(去る9月に博打の男5人に3鞭宛居町(村)徘徊是迄通り)
1816年　4月14日 文化13年　3月17日 晴　(剣術高覧、岩木川落水　(去る5月頃刻印のない木を売ったり囲いおいたり自分印を打ったりもめている)
1816年　4月15日 文化13年　3月18日 曇　今日雪少し降　(当御参府御供減を若殿様が仰せ付けられる・此の度格段の御省略を仰せ付けられる・交代登りの面々以来1年半詰めに仰せ付けられる)
1816年　4月16日 文化13年　3月19日 晴　(去る17日夜四時頃金木組喜良市村で出火・類焼外厩3軒・火元他村預け、同日広田村で出火・居宅ばかり焼失・火元居村預け)
1816年　4月17日 文化13年　3月20日 快晴　(常々動向不埒な掃除小人5人の御給分召上げ永の暇)
1816年　4月18日 文化13年　3月21日 曇　申の刻過ぎより小雨降　夜ニ入
1816年　4月19日 文化13年　3月22日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　巳の刻過ぎ止　(一昨20日夕金木組磯松村で出火・類焼とも9軒女1人焼死・火元他村預け)
1816年　4月20日 文化13年　3月23日 快晴　(酒狂いで喧嘩した鳶の者を給分召し上げ永の暇)
1816年　4月21日 文化13年　3月24日 快晴
1816年　4月22日 文化13年　3月25日 快晴
1816年　4月23日 文化13年　3月26日 快晴
1816年　4月24日 文化13年　3月27日 快晴
1816年　4月25日 文化13年　3月28日 快晴　今朝霜強　(来月21日御発駕予定、国上寺の隠居と役人が預けと揚屋入り・知行地の小作騒動かな?)
1816年　4月26日 文化13年　3月29日 快晴　戌の刻頃より雨降　戌の刻頃止
1816年　4月27日 文化13年　4月1日 曇　巳の刻過ぎ雨降　未の刻過ぎ止　(人事異動、去月23日夜後潟組小橋村で出火・類焼とも3軒等焼失。去月19日御家中伊藤某の親出奔)
1816年　4月28日 文化13年　4月2日 曇　今日霰少し降　夜ニ入　雪少し降
1816年　4月29日 文化13年　4月3日 曇
1816年　4月30日 文化13年　4月4日 快晴　今暁霜強

(*) 去る9月所々で盗み徒の大工に大工職取放しの上3鞭弘前町払い家財は妻子に・その仲間に3鞭親預け)　(**) 節に引き合い5日早い)　(***) 古老も伝承がない大漁である)

1816年　5月1日 文化13年　4月5日 曇　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入　頃日寒し　(御停止場で殺生をした外瀬村の百姓の子2人に過料1貫800文宛)
1816年　5月2日 文化13年　4月6日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　午の刻過ぎ止　今日風強　午の刻過ぎより雨風強　(駒越川出水・渡場両船とも往来差留める)
1816年　5月3日 文化13年　4月7日 快晴　昨夜より風強　午の刻過ぎ止
1816年　5月4日 文化13年　4月8日 快晴　今暁霜強　(御家中誓詞の節是まで小指よりの血判を薬指からに等の変更あり)
1816年　5月5日 文化13年　4月9日 曇　今暁子の刻過ぎより雨時々降　申の刻頃止　(昨夜九時頃碇ヶ関町で出火・家数5軒土蔵1ヶ所焼失・家の境より出火で両人とも町預け、天気不勝に付き丹後者詮索)
1816年　5月6日 文化13年　4月10日 晴
1816年　5月7日 文化13年　4月11日 晴
1816年　5月8日 文化13年　4月12日 晴
1816年　5月9日 文化13年　4月13日 快晴　今暁霜強　　下から続く　　内北御門番人が御奉公遠慮)
1816年　5月10日 文化13年　4月14日 快晴　(平館湊目付けに福眞才助あり、平館湊支配の野田・今津両村前沖にマカセ?と申す魚多い・鰯同様〆粕に?、若殿様が御本城に御上りの節大御門を開かなかった　　上に続く
1816年　5月11日 文化13年　4月15日 曇　未の刻過ぎより雨降　申の刻頃止　(今日御慰の御囃子、人事異動、八幡館・吹上両村に帯刀御免高30石の山守を配置する(多分薬師堂村ともめたところだから))
1816年　5月12日 文化13年　4月16日 晴
1816年　5月13日 文化13年　4月17日 晴
1816年　5月14日 文化13年　4月18日 晴
1816年　5月15日 文化13年　4月19日 晴
1816年　5月16日 文化13年　4月20日 晴
1816年　5月17日 文化13年　4月21日 快晴　(若殿様九つ過ぎ御馬上で御発駕)
1816年　5月18日 文化13年　4月22日 晴　(去月29日御米3000俵その他を積んで青森出帆の豆州船が当月6日檣(帆柱)伐捨て御米1500俵ほど荷打ち13日に漸く南部領鋤ヶ崎(宮古市)に入津)
1816年　5月19日 文化13年　4月23日 快晴
1816年　5月20日 文化13年　4月24日 晴
1816年　5月21日 文化13年　4月25日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入　(今日剣術高覧、飛鳥村で手段米46俵・2人出奔・関係者に過料)　　下から続く　　手傷を追わせた召し馬関係者を役下げ)
1816年　5月22日 文化13年　4月26日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入　(早瀬野鉛山の鉛を不正に取り扱った碇ヶ関町同心の御給分召上げ永の暇三里四方追放家屋敷は妻子に、町の子と口論　　上に続く
1816年　5月23日 文化13年　4月27日 曇　昨夜より之雨今日ニ及ぶ　時々降　夜ニ入　(東長町の……昨日役人に対し不敬の儀あり)
1816年　5月24日 文化13年　4月28日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止　(御賞、申し出なしに木を伐り出した男達に過料)
1816年　5月25日 文化13年　4月29日 晴　(去る26日油川組三内村で出火・外馬屋1軒焼失・火元戸〆)
1816年　5月26日 文化13年　4月30日 晴　(当月16日赤石組小森村で洪水・御検地仰せ付けられたき旨申し出る)
1816年　5月27日 文化13年　5月1日 快晴　(人事異動)
1816年　5月28日 文化13年　5月2日 快晴　(3月20日の金木組磯松村の類焼の者共8軒に御手当て米8俵下し置かれる、一昨日夜駒越組黒土村大秋村で出火・建家と木小屋焼失・火元村預け)
1816年　5月29日 文化13年　5月3日 快晴
1816年　5月30日 文化13年　5月4日 快晴　(灯油1升に付き6文目を7文目にする、昨夜高杉組独鈷村で出火・薺(藁のつもりか)屋焼失・火元戸〆)
1816年　5月31日 文化13年　5月5日 晴　(今暁堅田村で出火・類焼とも5軒焼失・火元慎み、当正月広須組出崎・夕日岡・沖善津村で時疫・施薬)
1816年　6月1日 文化13年　5月6日 快晴
1816年　6月2日 文化13年　5月7日 快晴　(狼森後通りに火事・八時過ぎ鎮火)
1816年　6月3日 文化13年　5月8日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　申の刻頃止　(御賞、若殿様が大雨等で苦労して江戸に登っている)
1816年　6月4日 文化13年　5月9日 曇　辰の刻過ぎ雨時々降　未の刻頃雨止　巳の刻頃雷少し鳴
1816年　6月5日 文化13年　5月10日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　亥の刻頃止
1816年　6月6日 文化13年　5月11日 曇　巳の刻頃雨降　則刻止
1816年　6月7日 文化13年　5月12日 曇　今日巳の刻頃より小雨降　午の刻過ぎ止　(去る7日柏木立山に野火(東西230間南北200間木数13750本余))
1816年　6月8日 文化13年　5月13日 快晴
1816年　6月9日 文化13年　5月14日 快晴　(今日剣術・棒術高覧)
1816年　6月10日 文化13年　5月15日 曇　午の刻過ぎ雷鳴　雨降　則刻止　(人事異動)
1816年　6月11日 文化13年　5月16日 晴
1816年　6月12日 文化13年　5月17日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　卯の刻頃雷鳴　巳の刻過ぎ止
1816年　6月13日 文化13年　5月18日 快晴　(去る亥(昨年)8月薬師堂村の御山の内松木785本伐り荒らしてある・過料小杉植付け39250本・なぜかは判らないが他の村にも過料)
1816年　6月14日 文化13年　5月19日 快晴　(三ノ丸御馬場で射芸高覧、4月・5月と別段締り役が米を押えている)
1816年　6月15日 文化13年　5月20日 曇　今朝卯の刻過ぎ地震少し　午の刻頃雨降　則刻止　(茂森新町に金子無心状に火道具を添えて投げ込んだ男に30鞭大場御構い10里四方追放家財欠所)
1816年　6月16日 文化13年　5月21日 快晴　　下から続く　　博打宿の男に3鞭弘前徘徊是まで通り・関係者にも罰)
1816年　6月17日 文化13年　5月22日 快晴　(去る19日金木組高根村で出火・外馬屋と木小屋焼失・火元戸〆)　　下から続く　　博打で他出差止中に博打の男に6鞭町払い・博打男に3鞭弘前徘徊是迄通り・　　上に続く
1816年　6月18日 文化13年　5月23日 快晴　(盗み徒で刀抜いた男に30鞭大場御構い10里四方追放、密通の上間道を忍び通った女に12鞭居村徘徊是まで通り、御国許に忍び帰り博打の男に9鞭10里四方追放・　　上に続く
1816年　6月19日 文化13年　5月24日 快晴
1816年　6月20日 文化13年　5月25日 晴　　下から続く　　その庄屋を取放しの上15鞭居村徘徊是迄通り)
1816年　6月21日 文化13年　5月26日 晴　　下から続く　　300日牢居追って御片付け・その仲間に30鞭大場御構い10里四方追放・27鞭7里四方追放田畑等は妻子に・21鞭三里四方追放田畑等は妻子に・　　上に続く
1816年　6月22日 文化13年　5月27日 晴　(去る23日金木組尾別村で出火・建家並びに外馬屋焼失・火元居村預け、町方上納分が不納・上納を申し付ける、庄屋が奸曲の取扱と偽?訴状を書いた馬場尻村の男に　　上に続く
1816年　6月23日 文化13年　5月28日 曇　午の刻過ぎ雨降　則刻止　(当春高杉組鬼沢・藤井両村の者共が傷寒・施薬・一服4分積に御薬代921匁2分下される、4年前信州で盗賊にあった俵物町飛脚は石川吉蔵と竹林又助)
1816年　6月24日 文化13年　5月29日 晴
1816年　6月25日 文化13年　6月1日 快晴　(人事異動、後潟組内真部村の「おつ」(5月23日に12鞭と決まった女)が出奔・行方不明)
1816年　6月26日 文化13年　6月2日 快晴
1816年　6月27日 文化13年　6月3日 曇　申の刻過ぎより小雨降　夜に入る　(御印代並びに御払い米代不納の男に家財欠所大場御構い10里四方追放・その子5里四方追放・当時の鰺ヶ沢町奉行に慎み)
1816年　6月28日 文化13年　6月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　午の刻頃止　(去月28日夜和徳町に盗賊)
1816年　6月29日 文化13年　6月5日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　未の刻過ぎ止　(剣術・棒術高覧、去る3日金木組高根村で出火・類焼5軒外馬屋木小屋土蔵雨覆いとも焼失・火元高無他村預け)
1816年　6月30日 文化13年　6月6日 快晴　(不心得の早道の者を御目見以上御留守居支配に役下げ)

1816年　7月1日 文化13年　6月7日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々降　巳の刻過ぎより折々雷鳴強し　二の御丸下乗橋向之並木江雷落　午の刻過ぎ雷雨とも止　戌の刻より雨降　夜に入 （人事異動）
1816年　7月2日 文化13年　6月8日 曇　昨夜より今日に及び時々雨降
1816年　7月3日 文化13年　6月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入　戌の刻止ム （大鰐村より角大豆差上げる、石渡川出水・両船とも往来差留める、今日の雨で岩木川の流木100巻位御関札50挺位流失）
1816年　7月4日 文化13年　6月10日 曇　巳の刻過ぎ小雨降　同刻雷鳴　午の刻頃雷雨共止
1816年　7月5日 文化13年　6月11日 晴 （和術高覧、昨日南溜池で遊んでいた子供が死亡）　下から続く　婿が出奔した娘が寺々の洗濯をしただけ・他領者を届けなく婿にしたとして過料銭1貫200文）
1816年　7月6日 文化13年　6月12日 快晴 （下大川村川下で御持鑓が溺死、今別町の本覚寺(浄土宗)が桶屋の娘を妾にし男子2人あり・不埒につき詮議の所3月7日夜出奔と同寺弟子が申出る・親が言うには　上に続く
1816年　7月7日 文化13年　6月13日 快晴 （去る12月と当2月に白米盗みの男に30鞭大場御構い10里四方追放・その仲間に27鞭7里四方追放・偽手形売払い盗みの男に3鞭弘前町払い、詐欺?家財を渡し　欄外(*)に続く
1816年　7月8日 文化13年　6月14日 快晴 （青田の内笛吹くなとの触れ）
1816年　7月9日 文化13年　6月15日 晴 （山役人が山を回り伐り荒しがあった10以上の村の庄屋等に過料）
1816年　7月10日 文化13年　6月16日 晴 頃日暑気 （女子勾引の浪人成田某に27鞭7里四方追放・その仲間に6鞭などの罰、秋田屋某の米屋家業御取放し・御蔵米の過分の前繰り出し）
1816年　7月11日 文化13年　6月17日 曇　今暁丑の刻より小雨降　辰の刻過ぎ止　申の刻より雨降　夜ニ入 （富田御屋敷皆出来）
1816年　7月12日 文化13年　6月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入 （駒越石渡の渡し場で出水・両船とも往来差留める、青森塩町に毎夜喧嘩等あり、(3月22日記述の)磯松村出火の死者の事情がある）
1816年　7月13日 文化13年　6月19日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止 （高杉組宮館村の者18人が水論で中別所村の男を打擲、今暁和田太左衛門が牢死）
1816年　7月14日 文化13年　6月20日 快晴
1816年　7月15日 文化13年　6月21日 快晴 （頃日南溜池土居通りで猥に花火……）
1816年　7月16日 文化13年　6月22日 快晴 （此の度御手両替御止め御用達扱いに・取扱を具体的に書いてある、南溜池で雑喉釣りまだ止めていない……）
1816年　7月17日 文化13年　6月23日 快晴 （掛取り相手を打擲した催促人に9鞭居村徘徊是迄通り・雇い主等に過料、衣類盗みの男に3鞭弘前町払い）
1816年　7月18日 文化13年　6月24日 快晴 （津軽甲斐守殿が先頃道中で若殿様江御行合之節失敬之儀有之……、去る21日夜大鰐組久吉村で出火・建家外馬屋共焼失・火元村預け）
1816年　7月19日 文化13年　6月25日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨降　寅の刻過ぎ止　今日酉ノ二刻土用ニ入 （昨昼八時刻和徳組冨田村で失火・早速取鎮める・火元戸〆）
1816年　7月20日 文化13年　6月26日 晴 （去月22日30鞭を3鞭と言渡しそれを取繕った御徒代目付の御給分召上げ永の暇・同心した足軽代目付も同様）
1816年　7月21日 文化13年　6月27日 晴
1816年　7月22日 文化13年　6月28日 晴
1816年　7月23日 文化13年　6月29日 曇　巳の刻過ぎ地震少シ　申の刻過ぎ小雨降　則刻止
1816年　7月24日 文化13年　6月30日 晴
1816年　7月25日 文化13年　7月1日 快晴 （人事異動、御賞）
1816年　7月26日 文化13年　7月2日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨降　卯の刻過ぎ止 （和徳組飯詰組横内組後潟組で御山が伐り荒らされている・庄屋等多数に過料）
1816年　7月27日 文化13年　7月3日 曇 （博打の青森の男に3鞭居町徘徊是まで通り）
1816年　7月28日 文化13年　7月4日 晴
1816年　7月29日 文化13年　7月5日 晴 （若殿様御道中御人減らしで難儀の者に御賞）
1816年　7月30日 文化13年　7月6日 晴 （町同心の弟が南溜池で雑喉(ざっこで小魚?)すくい居り候・町同心慎み弟は他出差留める、当春より広須組沼館語り弐ヶ村で時疫・御施薬を仰せ付ける）
1816年　7月31日 文化13年　7月7日 晴
1816年　8月1日 文化13年　7月8日 晴　戌の刻頃より小雨降　夜に入る
1816年　8月2日 文化13年　7月9日 曇　昨夜より之小雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止
1816年　8月3日 文化13年　7月10日 曇　午の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入 （深浦御蔵に有合せ米1237俵余・諸渡し分差除き1140俵を大阪に出そうとしたら480俵に色が付いており船頭が受け取らない・取り替えて出す）
1816年　8月4日 文化13年　7月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （当月3日晩上磯辺りより浪人躰の者4人が中沢村に入る・3人は秋田出生で7日碇ヶ関口より送り返す・1人は逃げ去る）
1816年　8月5日 文化13年　7月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る （弘前払い:富田町枡形・和徳町枡形・春日町・御蔵町・茂森新町・茂森新町六軒派より内を御構い、南部領の米値段1両に付き1石1斗）
1816年　8月6日 文化13年　7月13日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　未の刻頃止 （藤崎川洪水・今九時半頃より渡し場往来差留める）
1816年　8月7日 文化13年　7月14日 快晴　今日残暑強し
1816年　8月8日 文化13年　7月15日 晴 （富田御屋敷皆出来）
1816年　8月9日 文化13年　7月16日 曇　卯の刻頃より雨降　未の刻頃雷鳴　則刻雨強シ　酉の刻頃雨止ム
1816年　8月10日 文化13年　7月17日 曇　申の刻過ぎ雨降　戌の刻過ぎ止 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初稲穂差上げる、去月4日諸手足軽が江戸で出奔）
1816年　8月11日 文化13年　7月18日 晴
1816年　8月12日 文化13年　7月19日 曇　午の刻頃小雨降　未の刻頃止ム （今暁七時過ぎ駒越組相馬村で出火・建家等焼失・火元詮議の上同村のまんを召捕る）
1816年　8月13日 文化13年　7月20日 曇　申の刻頃より小雨降　夜に入
1816年　8月14日 文化13年　7月21日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止
1816年　8月15日 文化13年　7月22日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止
1816年　8月16日 文化13年　7月23日 曇　辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム （女浴衣を盗んだ女に3鞭親渡し）
1816年　8月17日 文化13年　7月24日 曇　未の刻過ぎ雨降　申の刻過ぎ止
1816年　8月18日 文化13年　7月25日 曇　巳の刻頃より雨降　申の刻頃止 （去月18日の出水で赤石組館前村で川欠け・御検地願い）
1816年　8月19日 文化13年　7月26日 曇　未の刻頃雨降　則刻雷鳴　同刻過ぎ雷雨共止 （偽銀使用・紛失手形の不正使用の浪人成田某に30鞭10里四方追放大場御構い家財欠所・同類に30鞭大場御構い10里四方追放）
1816年　8月20日 文化13年　7月27日 晴
1816年　8月21日 文化13年　7月28日 快晴
1816年　8月22日 文化13年　7月29日 快晴 （去る6日夜祢ふたを他町に持ち出し取り合いとなった御家中八反田某(御手廻り組)を御留守居組に役下げ・鍛冶町の名主にも戸〆）
1816年　8月23日 文化13年　8月1日 快晴 （人事異動）
1816年　8月24日 文化13年　8月2日 快晴 （百沢寺より例年の通り苔の実差上げる、敦賀御屋敷から修復したいとの話が来ている）
1816年　8月25日 文化13年　8月3日 快晴 （納税をしない男に3鞭居村徘徊是まで通り早速納税）
1816年　8月26日 文化13年　8月4日 快晴
1816年　8月27日 文化13年　8月5日 曇　今暁子の刻頃より雨降　巳の刻頃止　卯の刻より南風折々吹　巳の刻過ぎ風止
1816年　8月28日 文化13年　8月6日 快晴
1816年　8月29日 文化13年　8月7日 快晴
1816年　8月30日 文化13年　8月8日 快晴 （江戸で御賞:銀1枚・金300疋・同200疋・同100疋・金3歩・同100疋・南鐐1片・銀1両・鳥目500文・同200文などが出ている）
1816年　8月31日 文化13年　8月9日 快晴

(*) 家業御取上の上5里四方追放）

1816年　9月1日 文化13年　8月10日 曇　申の刻過ぎ小雨降　酉の刻過ぎ止
1816年　9月2日 文化13年　8月11日 快晴　(南部表よりの松板を水上げ刻印なしに隠売りの水主に30日の戸〆・その仲間にもそれなりの罰)
1816年　9月3日 文化13年　8月12日 快晴　(人事異動、当月3日鯵ヶ沢出帆の御廻船が5日に松前で破船・上乗小野寺某が海死)
1816年　9月4日 文化13年　8月13日 快晴　(鉢植え等を盗み取り売り払った掃除小人の浪人に3鞭弘前町払い家財は妻子に)
1816年　9月5日 文化13年　8月14日 快晴
1816年　9月6日 文化13年　8月15日 快晴　今暁寅の刻頃小雨降　同刻過ぎ止ム　(今日御用所江初米頂戴仰せ付けられ……、人事異動)
1816年　9月7日 文化13年　8月16日 晴　辰の刻過ぎ地震少シ　則刻止
1816年　9月8日 文化13年　8月17日 曇　申の刻過ぎ小雨少々降　酉の刻頃止　((たぶん油)値段増1合に付き7分宛?)
1816年　9月9日 文化13年　8月18日 曇　辰の刻頃小雨降　同刻過ぎ止　未の刻過ぎより雷雨強　弘前廻り所々雷落　酉の刻過ぎ雷雨止
1816年　9月10日 文化13年　8月19日 曇　未の刻過ぎ雨降　申の刻過ぎ止　(金木村2軒・種市村で1軒が家内召し連れ出奔)
1816年　9月11日 文化13年　8月20日 曇　未の刻頃より小雨降　申の刻頃止
1816年　9月12日 文化13年　8月21日 曇　未の刻頃より小雨降　同刻過ぎ止　未の刻過ぎ南風強　申の刻頃止　(当御発駕御入用金3000両・内1500両しか大坂からまだ届かないので御常用金より1500両立て替える)
1816年　9月13日 文化13年　8月22日 晴
1816年　9月14日 文化13年　8月23日 晴
1816年　9月15日 文化13年　8月24日 快晴
1816年　9月16日 文化13年　8月25日 快晴
1816年　9月17日 文化13年　8月26日 快晴　(盗み杣の男に6鞭建馬1疋御取り上げ居村徘徊是まで通り・関係者にも罰)
1816年　9月18日 文化13年　8月27日 曇　今暁寅の刻頃雨降　今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止　申の刻過ぎ雨降　酉の刻頃止
1816年　9月19日 文化13年　8月28日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜に入　(人事異動、所々で木の伐荒し(隠れ炭焼きかな)あり・監視等が悪いとして庄屋・村中等に過料等)
1816年　9月20日 文化13年　8月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(人事異動)
1816年　9月21日 文化13年　8月30日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　午の刻頃止　(菜種油1升に付き6文目9分5厘を7文目5分にする)
1816年　9月22日 文化13年閏8月1日　快晴　(人事異動、御賞)
1816年　9月23日 文化13年閏8月2日　曇　酉の刻頃より雨降　夜に入
1816年　9月24日 文化13年閏8月3日　曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入
1816年　9月25日 文化13年閏8月4日　曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　夜ニ入　申の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム　(御賞)
1816年　9月26日 文化13年閏8月5日　曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃止　(御賞)
1816年　9月27日 文化13年閏8月6日　晴　(去年所々で盗み徒の男3人に3鞭宛弘前町払い)
1816年　9月28日 文化13年閏8月7日　快晴
1816年　9月29日 文化13年閏8月8日　晴　戌の刻過ぎより雨降
1816年　9月30日 文化13年閏8月9日　曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　(人事異動、御賞)
1816年　10月1日 文化13年閏8月10日 快晴　(人事異動)
1816年　10月2日 文化13年閏8月11日 快晴　(去る12日御米1450石積入れの御廻船が常州久慈浦沖合いで破船・全員が橋舟で上総の国に漂着、津軽屋取扱いの御廻船で水主共が御米14俵抜米あるが……)
1816年　10月3日 文化13年閏8月12日 快晴　(巳の刻過ぎ御馬上にて御発駕)
1816年　10月4日 文化13年閏8月13日 曇　未の刻過ぎ小雨降　酉の刻過ぎ止　未の刻雷鳴　則刻止
1816年　10月5日 文化13年閏8月14日 快晴　(御家中江篠巻綿を御貸渡し)
1816年　10月6日 文化13年閏8月15日 快晴　(山内弥五兵衛を鯵ヶ沢町奉行に等の人事異動)
1816年　10月7日 文化13年閏8月16日 晴
1816年　10月8日 文化13年閏8月17日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(7月25日に御米3500俵を積み青森を出帆の御廻船が去る4日仙台領で難船・上乗り1人水主3人が水死・御米残らず海失)
1816年　10月9日 文化13年閏8月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止　申の刻頃雷鳴　則刻止　下から続く　犯人逃げ去る・人相書き:24歳・せい高さ5尺3寸位等々、8月3日に3200俵を積み　欄外(*)に続く
1816年 10月10日 文化13年閏8月19日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入(曇今暁寅刻過より雨降今日及時々降夜ニ入)　(菖蒲川村の男が渡し場でで大性村の男を打擲川に投入れ死亡・　上に続く
1816年 10月11日 文化13年閏8月20日 曇　今日岩木山江初めて雪見ゆる　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　今暁寅の刻頃雨止　巳の刻頃雷鳴　酉の刻過ぎ雷止
1816年 10月12日 文化13年閏8月21日 曇　戌の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止　(広須組沼崎語り両村の者共疫病・この節いずれも全快)
1816年 10月13日 文化13年閏8月22日 曇　午の刻過ぎ雷鳴　同刻頃より時々雨降　夜ニ入　寅の刻過ぎ止　(深浦沖に材木積漂船・船手の者なし)
1816年 10月14日 文化13年閏8月23日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜に入る
1816年 10月15日 文化13年閏8月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1816年 10月16日 文化13年閏8月25日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム
1816年 10月17日 文化13年閏8月26日 快晴　(温湯で湯治中の広田組沖飯詰村の男が常盤組矢沢村の男に手傷を負わせ死亡・犯人入牢)
1816年 10月18日 文化13年閏8月27日 曇　昨夜子の刻より雨降　寅の刻頃止　(当8月中日々付き相場平均値段金1両代121文目5分)
1816年 10月19日 文化13年閏8月28日 晴　(7月9日に魯西亜船1艘がヱトロフ嶋沖まで漂流人5人送り来る、(江戸で)去る3日夕方より大雨のところ翌4日巽の大風雨に相成る・御庭その外御長屋周り床下に水湛)
1816年 10月20日 文化13年閏8月29日 曇　今暁丑の刻過ぎ雨降　卯の刻頃止　午の刻頃より雨時々降　夜ニ入　今日申の刻雷鳴　夜ニ入　子の刻頃止　(15日晩(記述は19日)殺人の仲間の人相書き:　欄外(**)に続く
1816年 10月21日 文化13年　9月1日 曇　昨夜より之雨時々降　今日に及ぶ　巳の刻頃止
1816年 10月22日 文化13年　9月2日 晴　(この節熊胆甚だ払底)
1816年 10月23日 文化13年　9月3日 快晴
1816年 10月24日 文化13年　9月4日 曇　酉の刻過ぎより小雨降　亥の刻過ぎ止
1816年 10月25日 文化13年　9月5日 曇　辰の刻過ぎより小雨降　酉の刻過ぎ止
1816年 10月26日 文化13年　9月6日 曇　巳の刻過ぎ雨降　夜に入　(卒塔婆等盗み徒のお寺の勘当の子に6鞭弘前町払い)
1816年 10月27日 文化13年　9月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止
1816年 10月28日 文化13年　9月8日 晴　戌の刻過ぎ小雨降　亥の刻過ぎ止　(水戸宰相様御逝去・鳴り物停止)
1816年 10月29日 文化13年　9月9日 晴
1816年 10月30日 文化13年　9月10日 快晴　今暁霜強し
1816年 10月31日 文化13年　9月11日 曇　午の刻過ぎ小雨降　同刻過ぎ止

(*) 鯵ヶ沢出帆の大坂御廻船が5日に松前で破船・上乗り船頭水主とも5人海死御米残らず海失)
(**)23歳5尺5寸位・24歳5尺位・30歳5尺3寸位)

1816年　11月1日 文化13年　9月12日 晴
1816年　11月2日 文化13年　9月13日 快晴　今暁霜強し
1816年　11月3日 文化13年　9月14日 晴
1816年　11月4日 文化13年　9月15日 晴　(去る3日屋形様着府・今朝千住の駅を発駕それより直ちに御老中様方御廻勤)
1816年　11月5日 文化13年　9月16日 曇　巳の刻頃より雨降　午の刻頃止　(広田組長橋村で出火(日時不明)・火元高無居村預け)
1816年　11月6日 文化13年　9月17日 曇　酉の刻過ぎ雨降　夜に入　(後潟組小橋六枚橋両村抱合之御山に檜盗伐跡あり・南部者を含め8人中4人を搦捕る)
1816年　11月7日 文化13年　9月18日 曇　昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止　辰の刻頃地震少し
1816年　11月8日 文化13年　9月19日 曇　今日霰少し降
1816年　11月9日 文化13年　9月20日 曇　今日雪降　(当年三国屋某梅屋某の仕込み味噌売貸値段:銭10文目に付き目方6貫600目、一昨18日昼八時頃木造新田中館村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け)
1816年 11月10日 文化13年　9月21日 快晴
1816年 11月11日 文化13年　9月22日 快晴　今暁霜強し　(甲斐守様より川鮭1尺宛下される)
1816年 11月12日 文化13年　9月23日 晴　今暁霜強し　(7月29日博打の男2人に3鞭居町徘徊是まで通り・5月に町払いにも拘らず博打に参加した諸手警固の勘当の子に6鞭弘前町払い、傘を盗み売った男に12鞭弘前町払い)
1816年 11月13日 文化13年　9月24日 曇　今暁寅の刻雨時々降　夜ニ入　(どんな罪ならどんな場所で……等の変更があったのかな?)　下から続く　徒・喧嘩となる)
1816年 11月14日 文化13年　9月25日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　(去る亥(昨年)まで打続三ヵ年の不熟につき……、当7月3日夜品川町裏畑で松森町の娘が花火見物・掃除小人共が無体に　上に続く
1816年 11月15日 文化13年　9月26日 快晴　今暁霜強し　(嵩で博打・金を借りてさらに揉めた男に30鞭大場御構い10里四方追放家屋敷等は妻子に・金を貸した男など4人に3鞭宛居村徘徊是まで通り)
1816年 11月16日 文化13年　9月27日 曇　子の刻頃より雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る　(去月4日三厩で大風・澗懸船の内難破船あり人夫を連れ活躍した男共に御賞)
1816年 11月17日 文化13年　9月28日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1816年 11月18日 文化13年　9月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1816年 11月19日 文化13年　10月1日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1816年 11月20日 文化13年　10月2日 快晴　今暁霜強し　(当年相応の作髄のところ米価格別引下り……)
1816年 11月21日 文化13年　10月3日 曇　今暁霜強し　辰野刻過ぎより雨時々降　夜ニ入る　戌の刻頃止　(盗みの男に3鞭弘前町払い)
1816年 11月22日 文化13年　10月4日 晴
1816年 11月23日 文化13年　10月5日 晴　今暁霜強し　(この度古懸不動尊御出汗、新酒値段1升売り1文目4分・1合売りは9文宛、御賞(銀1枚・金200疋・南鐐3片・銀3両・金100疋・銀1両・同3両・鳥目500文・同400文など)
1816年 11月24日 文化13年　10月6日 曇　辰の刻雷鳴　則刻止　同刻雨降　申の刻過ぎ止
1816年 11月25日 文化13年　10月7日 晴　今暁霜強し
1816年 11月26日 文化13年　10月8日 晴　今暁霜強し　(横岡兵八が病死)
1816年 11月27日 文化13年　10月9日 快晴　今暁霜強し　戌の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(当閏8月温湯で田代刀で殺人の男が斬罪と決まったが去る6日牢死)
1816年 11月28日 文化13年　10月10日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止
1816年 11月29日 文化13年　10月11日 晴　(当5月切明村で盗み徒男を搦捕ったが縄抜け丸裸で逃げられる・否や追いかけたが行方不明、盗品を質に取った者・その五軒組合の者・捕方に賄賂を贈った者等に過料)
1816年 11月30日 文化13年　10月12日 晴　今暁霜強し　(新穀初相庭(場?)弘前御蔵米1俵に付き24文目3分立にて御払い相立つ)　下から続く　鞭を受け親預の男が御茶屋に忍び盗み18鞭大場御構い10里四方追放)
1816年　12月1日 文化13年　10月13日 晴　今暁霜強し　戌の刻頃より雨降　夜ニ入　(盗み徒の男に3鞭弘前御構い鯵ヶ沢徘徊迄通り、悪者を泊め盗品の質入等の男に戸〆、衣類等盗み男に3鞭弘前町払い、　上に続く
1816年　12月2日 文化13年　10月14日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止　同刻過ぎより雪降
1816年　12月3日 文化13年　10月15日 曇　昨夜雪降　一寸程積　今日少し降　(粒油1升売りを5文目8分5厘値段に申し付ける、小泊村類族(切支丹類族)長松の従弟と免(門徒宗西願寺檀家:77歳)が病死、御賞)
1816年　12月4日 文化13年　10月16日 曇　今日雪降　(御賞)
1816年　12月5日 文化13年　10月17日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　申の刻過ぎ止　(木造新田三つ館村より〆鶴上納・60目下し置かれる)
1816年　12月6日 文化13年　10月18日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1816年　12月7日 文化13年　10月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　未の刻頃止
1816年　12月8日 文化13年　10月20日 曇　昨夜雪降　一寸程積　今日雪降　五寸程積
1816年　12月9日 文化13年　10月21日 曇　辰の刻より小雨時々降　夜ニ入　(去る19日夜大鰐組宿川原村で出火・建家2尺5寸柾2000枚等焼失・火元村預け、国上寺の隠居の隠居料の扱いが不届き・久渡寺にお預け・免許)
1816年 12月10日 文化13年　10月22日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　下から続く　9鞭居町徘徊是まで通り・乗せた船の水主に6鞭居町徘徊是まで通り・他の犯人にも3鞭居町徘徊是まで通り)
1816年 12月11日 文化13年　10月23日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(度々盗みの男に9鞭3里四方追放・その仲間に6鞭3里四方追放、女子を勾引し男装させ松前に送る際に見咎められた男に　上に続く
1816年 12月12日 文化13年　10月24日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　(そうしたのかどうか判らないが:鞭18以上の盗みは3度目に斬罪・鞭18以下の刑に相当する子盗みは5度目に斬罪とする)
1816年 12月13日 文化13年　10月25日 晴　戌の刻過ぎ雷鳴　則刻止　同刻頃より雨降
1816年 12月14日 文化13年　10月26日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　今日雪少し降　(湯ノ沢で苦役した男が又罪を犯し6鞭居村徘徊是まで通り・盗み徒再犯の男に18鞭10里四方追放)
1816年 12月15日 文化13年　10月27日 曇　今日雪少し降
1816年 12月16日 文化13年　10月28日 曇　今日雪少シ降
1816年 12月17日 文化13年　10月29日 曇　今暁子の刻より雨降今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(偽手形で金を貰おうとした男に6鞭弘前町払い・それを持ちかけた勘定所小使いの御給分召上げ家財欠所)
1816年 12月18日 文化13年　10月30日 曇　昨夜より之雨今日午の刻過ぎ止
1816年 12月19日 文化13年　11月1日 曇　今暁霜強し　(御用人三橋左十郎に御側御用人兼役等の人事異動)　下から続く　御定め役引き30目9分1厘5毛)
1816年 12月20日 文化13年　11月2日 快晴　今暁霜強し　亥の刻過ぎより雨降　(5月に木綿隠売りの男に過料・背負葛篭内の金子3両と木綿は御取上げ、両濱御払い米壱番相場平均1俵に付き32匁1分1厘5毛　上に続く
1816年 12月21日 文化13年　11月3日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　冬至亥の八刻ニ入
1816年 12月22日 文化13年　11月4日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止　(去月晦日夜金木組大沢内村で出火・建家外馬屋焼失・火元庄屋村預け)
1816年 12月23日 文化13年　11月5日 曇　昨夜雪降　壱寸程積
1816年 12月24日 文化13年　11月6日 曇　昨夜雪少し降
1816年 12月25日 文化13年　11月7日 快晴　(竹内甚左衛門を郡奉行兼役に等の人事異動)
1816年 12月26日 文化13年　11月8日 快晴　昨夜雪少し降
1816年 12月27日 文化13年　11月9日 曇
1816年 12月28日 文化13年　11月10日 曇　昨夜亥の刻頃小雨降今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　今暁子の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム
1816年 12月29日 文化13年　11月11日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止
1816年 12月30日 文化13年　11月12日 曇　今日雪少し降　(初鱈弐本高岡御献備)
1816年 12月31日 文化13年　11月13日 曇

1817年　1月1日 文化13年　11月14日 曇　戌の刻過ぎより雨降　今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止
1817年　1月2日 文化13年　11月15日 曇　(人事異動、冨田村桜林の内に御家中召使等が入り込み伐荒しあり・見当て次第屹度究明するとの触れ)
1817年　1月3日 文化13年　11月16日 曇　今日雪少し降
1817年　1月4日 文化13年　11月17日 曇　昨夜雪降　一寸程積　今日雪少し降
1817年　1月5日 文化13年　11月18日 曇　昨夜雪降　一寸程積　今日雪少し降　(去る16日夜四時頃猿賀村で出火・建家2軒外馬屋3軒焼失・火元他村預け)
1817年　1月6日 文化13年　11月19日 晴　今暁寅の五刻寒ニ入
1817年　1月7日 文化13年　11月20日 晴
1817年　1月8日 文化13年　11月21日 晴　昨夜雪少し降
1817年　1月9日 文化13年　11月22日 曇
1817年　1月10日 文化13年　11月23日 晴　(再犯の盗みの男に21鞭3里四方追放・盗み徒の男に6鞭弘前町払い、不届きな十三町同心の御給分召上げ永の暇)　下から続く　・建家1軒焼失・火元村預け)
1817年　1月11日 文化13年　11月24日 曇　今日雪少し降　(昨23日増館村で出火・類焼とも建家2軒外馬屋2ヶ所穀物等焼失・火元他村預け)　下から続く　20日遅い、去る23日夜浪岡組大釈迦村で出火　上に続く
1817年　1月12日 文化13年　11月25日 曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　弐寸程積　(去る19日暮頃より翌20日朝迄十三潟の大湊川尻より小股川尻迄残らず氷張る・日数に引合い去年より12日遅く節に引合　上に続く
1817年　1月13日 文化13年　11月26日 快晴　(盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り、101本の杉皮を剥取り売った男共4人に6鞭宛居村徘徊是まで通り、買った男2人から杉皮取上げ過料1貫800文宛・関係者にも罰)
1817年　1月14日 文化13年　11月27日 曇　今日雪少し降
1817年　1月15日 文化13年　11月28日 晴　昨夜雪少し降　(古懸(欠字)不動尊御出汗)
1817年　1月16日 文化13年　11月29日 曇　今日雪降　三寸程積　(一昨夜原子村で出火・建家稲草等焼失・火元村預け)
1817年　1月17日 文化13年　12月1日 曇　昨夜雪降　三寸程　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　未の刻過ぎ止
1817年　1月18日 文化13年　12月2日 晴　(街道雪降り敷候節はその度毎に雪平均(均すことです)手入れ致すべき筈の所近年手入れ致さずあまつさえ雪降り積もりても屋敷前早速道付け申ざる族の有り往来難渋……)
1817年　1月19日 文化13年　12月3日 晴　(盗み柮を運んでいた男に6鞭材木並びに馬2疋御取上げ居村徘徊是まで通り・関係庄屋に過料)
1817年　1月20日 文化13年　12月4日 曇　昨夜雪降　弐寸程積　今日雪少し降　(当8月より柏木組梅田村の者共時疫・御施薬申し出る)
1817年　1月21日 文化13年　12月5日 曇　今日雪少し降　(無刻印の木等を隠し輸送する際取押さえられそうになると馬と荷物を置いて人間が逃亡し犯人が分らなくなる・馬帳で持ち主を糺すため馬喰5人を目明しに選ぶ)
1817年　1月22日 文化13年　12月6日 曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪少し降
1817年　1月23日 文化13年　12月7日 快晴
1817年　1月24日 文化13年　12月8日 晴　亥の刻過ぎより雨降
1817年　1月25日 文化13年　12月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(去る8日赤田組狐森村で出火・建家稲草焼失・成小役米5石8斗2合並びに高銀6文目3分8厘等収納御免引仰せ付けられる)
1817年　1月26日 文化13年　12月10日 曇　今日雪少し降　(昨今の雪吹きで十三潟が閉切った?日のない情報は価値がないな、御賞)
1817年　1月27日 文化13年　12月11日 曇　今日雪少し降
1817年　1月28日 文化13年　12月12日 曇　今日雪少し降　(召捕って村に預けたら当6月13日夜雪隠から逃げられた5人に過料)
1817年　1月29日 文化13年　12月13日 曇　今日雪降　一寸程積
1817年　1月30日 文化13年　12月14日 快晴　昨夜雪降　一寸程積　(茂森町の小見世に捨子・養育したい者に相渡す)
1817年　1月31日 文化13年　12月15日 曇　巳の刻過ぎより雨降　申の刻頃止　(去る9日夜後潟組瀬戸子村で出火・稲草等焼失類焼あり・火元が松前に行っており家内の者に慎み申し付ける)
1817年　2月1日 文化13年　12月16日 快晴　(盗み徒乱暴の男に3鞭弘前町払い、謀印手形売払いで6月に鞭刑弘前町払い・御構い地に戻り又悪事の男に6鞭弘前町払い、粒油4俵盗み男に3鞭弘前町払い、　欄外(*)に続く
1817年　2月2日 文化13年　12月17日 晴　下から続く　戻った男を当分牢居、油川・後潟組の者共が傷寒煩う・御施薬)
1817年　2月3日 文化13年　12月18日 快晴　(奥内村清岸寺で刀を振回し5月に鞭計10里四方追放の所翌日青森町で忍入りの男・酉の年(今年子年)入牢大赦で出牢し2月にも鞭刑弘前町払いで御構地に　上に続く
1817年　2月4日 文化13年　12月19日 快晴
1817年　2月5日 文化13年　12月20日 快晴　(御賞、この度常府御家中借財笠原八郎兵衛江引受取扱仰せ付けられ候に付き御取扱相願候族は……)
1817年　2月6日 文化13年　12月21日 曇　昨夜亥の刻頃雨降　同刻地震少し　子の刻頃止　今暁雪少し降　(100石に100目の御手当て)　下から続く　知行召上げ永の暇1人・御留守居組に役下げ3人)
1817年　2月7日 文化13年　12月22日 曇　戌の刻頃地震少シ　昨夜雪降　三寸程積　下から続く　代銭上納が出来ない郷士に郷士取り放しの上家屋敷等欠所3里四方追放、不締りの青森御蔵奉行等に　上に続く
1817年　2月8日 文化13年　12月23日 曇　今日雪少し降　(盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り、盗み徒の男に3鞭弘前町払い、度々盗み徒の男に9鞭弘前町払い、盗みの男に3鞭弘前町払い、沖だし材木の　上に続く
1817年　2月9日 文化13年　12月24日 曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪少し降
1817年　2月10日 文化13年　12月25日 曇　今日雪少し降　(御賞多数)
1817年　2月11日 文化13年　12月26日 晴
1817年　2月12日 文化13年　12月27日 晴　(何かの御祝儀で座当盲女264人に鳥目15文宛下し置かれる)
1817年　2月13日 文化13年　12月28日 快晴　(對馬文太等に御賞)
1817年　2月14日 文化13年　12月29日 晴　昨夜戌の刻過ぎ小雨降　則刻止
1817年　2月15日 文化13年　12月30日 晴　(昨28日夜浪岡組で出火・菅乳100駄位の内約半分焼失・火元戸〆)
1817年　2月16日 文化14年正月1日　曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪少し降
1817年　2月17日 文化14年正月2日　快晴
1817年　2月18日 文化14年正月3日　快晴　(御吉例金御金奉行持参御用所に差出す)
1817年　2月19日 文化14年正月4日　曇　未の刻過ぎ雨降　則刻止ム
1817年　2月20日 文化14年正月5日　曇　今日雪時々降　二寸程積
1817年　2月21日 文化14年正月6日　曇　今日雪少し降
1817年　2月22日 文化14年正月7日　曇　今日雪降　一寸程積　(今日七種)
1817年　2月23日 文化14年正月8日　晴　(江戸詰めの御家中に100石に付き金3両の御手当て、去る18日公儀拝借金5000両の内500両を上納)
1817年　2月24日 文化14年正月9日　晴
1817年　2月25日 文化14年正月10日　晴
1817年　2月26日 文化14年正月11日　晴
1817年　2月27日 文化14年正月12日　晴
1817年　2月28日 文化14年正月13日　晴

(*) 兄宅に忍び入り銭300目余並びに衣類等盗んだ男に9鞭弘前町払い、秤並びに升を盗み取った男に3鞭弘前町払い)

1817年　3月1日 文化14年正月14日　快晴
1817年　3月2日 文化14年正月15日　晴
1817年　3月3日 文化14年正月16日　晴
1817年　3月4日 文化14年正月17日　晴　今暁霜強し（熊胆の御進物御用があるが有り合わせが甚だ小さい……）
1817年　3月5日 文化14年正月18日　晴　昨夜雪少し降
1817年　3月6日 文化14年正月19日　晴
1817年　3月7日 文化14年正月20日　曇
1817年　3月8日 文化14年正月21日　曇　昨夜戌の刻頃雨降　今日に及ぶ　未の刻過ぎ止む(曇　昨夜戌刻頃雨降今日及未刻過止ム）（尾太銅鉛山に関して御賞）
1817年　3月9日 文化14年正月22日　曇　（人相書きで手配：せい高サ5尺3寸位・せい高サ5尺1寸位等々）
1817年　3月10日 文化14年正月23日　快晴
1817年　3月11日 文化14年正月24日　晴　（去る20日夜飯詰組下古川村で出火・居宅建馬等焼失・火元高無村預け、下々の者共に馴合い勤め向き忘却の町目付けを御城付き足軽・御持ち鑓仲間に役下げ）
1817年　3月12日 文化14年正月25日　晴
1817年　3月13日 文化14年正月26日　曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　夜に入
1817年　3月14日 文化14年正月27日　曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　午の刻過ぎニ止ム　（岩木川出水・今朝六時より駒越渡し場往来差留める、石渡川出水・馬船往来相成りかねる）
1817年　3月15日 文化14年正月28日　曇　昨夜雪少し降　今日雪少し降　　下から続く　　半分になり亥・子両年の不納となる・許してもらっていない）
1817年　3月16日 文化14年正月29日　曇　昨夜雪少し降　今日雪少し降　（去る未の年（今年は丑年）十三町の鰯漁師が御金100両を借りて大網を用意した・年10両返していたが漁がなく申・酉・戌の年の上納が　　上に続く
1817年　3月17日 文化14年正月30日　曇　巳の刻頃雨降　夜ニ入
1817年　3月18日 文化14年　2月1日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　今暁寅の刻過ぎ雷鳴　卯の刻頃止ム
1817年　3月19日 文化14年　2月2日 曇　今日雪一寸程積
1817年　3月20日 文化14年　2月3日 曇
1817年　3月21日 文化14年　2月4日 晴　（十三潟が去月29日暮六時頃より晦日朝六時頃まで大湊川尻より高根沖小股川口まで残らず氷明ける・去年より日数引合32日早く節に引合16日早い）
1817年　3月22日 文化14年　2月5日 晴　（旧冬御払い残りの青森・鰺ヶ沢御蔵米を36文目（多分1俵の事だろう）・両替115文目立にて御払い仰せ付けられる）
1817年　3月23日 文化14年　2月6日 晴
1817年　3月24日 文化14年　2月7日 快晴
1817年　3月25日 文化14年　2月8日 快晴　今暁霜強し　（甲斐守役人より道中金不足で250両の拝借願い・150両貸す）
1817年　3月26日 文化14年　2月9日 曇　今暁寅の刻過ぎより小雨降　卯の刻過ぎ止ム
1817年　3月27日 文化14年　2月10日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　戌の刻過ぎ止ム
1817年　3月28日 文化14年　2月11日 曇　今暁雪少し降　（御徒見習い横岡杢太夫（親は平八）を御徒に等の人事異動）
1817年　3月29日 文化14年　2月12日 快晴　（去作相応の作髄・去々亥の年（今年は丑年）迄打ち続く不熟、和徳組の者共がいろは組と申す名目で組合し変の節働くはず・悪者共が不埒の致し方間々あり引取仰せ付けられる）
1817年　3月30日 文化14年　2月13日 曇　今暁霜強し　（去る8月に和徳村で鳶の者に手傷を負わせた御草履取の御給分召上げ永の暇・鳶の者は役下げ）
1817年　3月31日 文化14年　2月14日 快晴　（頬冠で帯刀し暮頃より往来の者へ不法をする者あり・召し捕らえるとの触れ）
1817年　4月1日 文化14年　2月15日 快晴　（去る9日より十三潟が残らず明け船通る、近年御国浪人の者共が他国諸浪人を手引きし在方を廻って合力を求める例あり・搦捕り送り返すこととする）
1817年　4月2日 文化14年　2月16日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎニ止ム　（岩木川出水・駒越石渡渡し場長船馬船とも往来差留める、大鰐村の不届き者（何をしたか不明）に3鞭居村徘徊是までどおり）
1817年　4月3日 文化14年　2月17日 曇　（一昨15日夜小友村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓居村預け、去る13日夕南沢村で出火・類焼とも5軒建馬2疋焼失・火元他村預け）
1817年　4月4日 文化14年　2月18日 晴　今暁霜強し　（昨夜浪岡組中野村で出火・類焼共建家6軒穀物等焼失・火元百姓他村預け）
1817年　4月5日 文化14年　2月19日 曇　今朝雪少し降　巳の刻頃より雨時々降　亥の刻過ぎ止
1817年　4月6日 文化14年　2月20日 曇　（去る16日後方組（後潟組）小橋村支配濱松村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆）
1817年　4月7日 文化14年　2月21日 晴　今朝雪少し降
1817年　4月8日 文化14年　2月22日 晴　今暁霜強し
1817年　4月9日 文化14年　2月23日 快晴
1817年　4月10日 文化14年　2月24日 曇　卯の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1817年　4月11日 文化14年　2月25日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　午の刻頃止
1817年　4月12日 文化14年　2月26日 曇　未の刻頃より小雨降　夜ニ入
1817年　4月13日 文化14年　2月27日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　今日霙少し降　（石渡川4歩の出水・馬船往来差留める）
1817年　4月14日 文化14年　2月28日 曇　昨夜より之雨今日辰の刻過ぎ止ム　（御味噌9石近くを醸造元に預けていたら去る11日に醸造元の下男が味噌蔵で変死・不浄として下払い（10文目に目方8貫目）とする）
1817年　4月15日 文化14年　2月29日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　時々降　未の刻過ぎ止ム　（庄屋を罪に落すよう嘘の申し出での男に30鞭大場御構い10里処方追放田畑等は妻子に）
1817年　4月16日 文化14年　3月1日 曇　今暁雪少し降　（松前表に渡海した馬廻組?福眞才助に金200疋下置かれる、此の節高杉組十腰内村に家毎に時疫・宿継ぎできる家なし・当分他村で代り医者と御手当てを遣わす）
1817年　4月17日 文化14年　3月2日 晴
1817年　4月18日 文化14年　3月3日 快晴　今暁霜少し降
1817年　4月19日 文化14年　3月4日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜に入　（開発方郡奉行・新田奉行からの申し出が多い）
1817年　4月20日 文化14年　3月5日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止
1817年　4月21日 文化14年　3月6日 晴
1817年　4月22日 文化14年　3月7日 曇　巳の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1817年　4月23日 文化14年　3月8日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑之刻頃止ム　（頃日天気打ち続き不正・丹後者詮議）
1817年　4月24日 文化14年　3月9日 晴　今暁霜少し降
1817年　4月25日 文化14年　3月10日 晴
1817年　4月26日 文化14年　3月11日 快晴
1817年　4月27日 文化14年　3月12日 快晴　頃日暖気
1817年　4月28日 文化14年　3月13日 快晴
1817年　4月29日 文化14年　3月14日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　（駒越組水木在家の者共が疫病相煩う・御施薬、甲斐守様申しつけで川鱒1尺町奉行に）
1817年　4月30日 文化14年　3月15日 晴　昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止　（岩木川出水・駒越渡場往来差留める）

1817年　5月1日 文化14年　3月16日 快晴 （越後船に手段米42叺隠し置きの男に12鞭青森町払い家財は妻子に・船主は取り押さえ米42叺御取り上げの上以来御当領江入津御差留める・関係者には過料戸〆）
1817年　5月2日 文化14年　3月17日 快晴
1817年　5月3日 文化14年　3月18日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　酉の刻過ぎ止 （去る15日嶋村の鰯漁師4人が風強く海死）
1817年　5月4日 文化14年　3月19日 晴　昨夜亥の刻過ぎ地震少　今暁寅の刻過ぎ地震少し
1817年　5月5日 文化14年　3月20日 快晴
1817年　5月6日 文化14年　3月21日 快晴
1817年　5月7日 文化14年　3月22日 晴 （去ル20日昼油川組細越村で出火・建家等焼失・火元高無村預け）　下から続く　徘徊是迄通り・根岸村の男に3鞭居村徘徊是までどおり・庄屋等に過料）
1817年　5月8日 文化14年　3月23日 晴 （赤田組山道村で時疫・施薬願・実行、湯屋で衣類等を盗んだ男に3鞭弘前町払い、去る6月人馬賃銭渡し方で徒党がましき行動を指導した平館村の2人に9鞭宛居村　上に続く
1817年　5月9日 文化14年　3月24日 曇　辰の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1817年　5月10日 文化14年　3月25日 快晴
1817年　5月11日 文化14年　3月26日 快晴
1817年　5月12日 文化14年　3月27日 快晴 （浦町組小館村猟師金四郎と赤石組大然村小又鬼嘉右衛門が当年熊3疋宛猟取・御賞1人に鳥目3貫文ツツ並びに下の位熊皮1枚宛下し置かれる）
1817年　5月13日 文化14年　3月28日 快晴 （御発駕来月朔日と仰せ出だされる）
1817年　5月14日 文化14年　3月29日 曇　辰の刻過ぎより雨降　巳の刻過ぎ止
1817年　5月15日 文化14年　3月30日 晴
1817年　5月16日 文化14年　4月1日 曇　卯の刻過ぎ雨降　申の刻過ぎニ止　日食二分　申の八刻下之左よりかけ初メ　酉の三刻左之下に甚〃しく　申の六刻左ノ上におハる （旧冬一間所に入れた御家中(与力)の親出奔）
1817年　5月17日 文化14年　4月2日 快晴 （去る11月手段米の秋田出生の男を碇ヶ関から返す）
1817年　5月18日 文化14年　4月3日 曇　未の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止
1817年　5月19日 文化14年　4月4日 曇　午の刻過ぎ地震少　未の刻過ぎ雨雪少し降　則刻止 （去月28日夜木造新田(村不明)で出火・屑萱焼失・村方より人夫差出し取防ぐ・お咎めなし?、油川組岡町村で時疫・施薬）
1817年　5月20日 文化14年　4月5日 曇　今暁霜強し　巳の刻過ぎ小雨降　午の刻過ぎ止
1817年　5月21日 文化14年　4月6日 快晴　今暁霜強し
1817年　5月22日 文化14年　4月7日 晴
1817年　5月23日 文化14年　4月8日 曇　申の刻頃雨降　同刻過ぎより時々雷鳴　雨　夜ニ入
1817年　5月24日 文化14年　4月9日 晴　昨夜より之雷雨今暁寅の刻頃止
1817年　5月25日 文化14年　4月10日 曇　午の刻過ぎより雨降　申の刻頃止
1817年　5月26日 文化14年　4月11日 晴
1817年　5月27日 文化14年　4月12日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1817年　5月28日 文化14年　4月13日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止
1817年　5月29日 文化14年　4月14日 晴 （新開発の田が沢山、横内組久栗坂村の3人乗りの漁船3艘が南部に捕まる・漁獲物と銭を渡して引き取る・今後南部領で漁をしないよう申し付ける）
1817年　5月30日 文化14年　4月15日 曇　午の刻より小雨降　申の刻過ぎ止 （広須組広范金田桃井広須の者共先頃より時疫・桑野木田村の在医から施薬）
1817年　5月31日 文化14年　4月16日 曇　巳の刻過ぎより小雨降　未の刻過ぎ止
1817年　6月1日 文化14年　4月17日 晴 （南部領を通るなとの御目付触れ）
1817年　6月2日 文化14年　4月18日 曇　辰の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入 （早瀬野村脇道で鰯320・塩鱒2本所持の大館の男を捕える・品物御取上げ碇ヶ関口送返し）
1817年　6月3日 文化14年　4月19日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止
1817年　6月4日 文化14年　4月20日 快晴　今暁霜強し （藤代組妙堂崎廻関・高杉組十腰内で時疫・それぞれの村の医者に施薬を仰せ付ける）
1817年　6月5日 文化14年　4月21日 快晴 （人事異動、昨20日夜九時頃板屋野木村で出火・類焼27軒物置3軒木小屋2軒焼失・火元木綿小間物屋他村預け）
1817年　6月6日 文化14年　4月22日 快晴　戌の刻過ぎより雨降 （木造新田下相野村で時疫・木造村の在医に施薬仰せ付ける）
1817年　6月7日 文化14年　4月23日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止ム
1817年　6月8日 文化14年　4月24日 快晴
1817年　6月9日 文化14年　4月25日 快晴
1817年　6月10日 文化14年　4月26日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1817年　6月11日 文化14年　4月27日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム
1817年　6月12日 文化14年　4月28日 曇　辰の刻過ぎより小雨少し降　巳の刻頃止 （3月19日に御廻米を積んで蟹田表を出帆の遠州船が上総奥津沖で大風雨・大嶋羽郡?湊に乗り入れ破船）
1817年　6月13日 文化14年　4月29日 晴
1817年　6月14日 文化14年　4月30日 快晴 （別段締り役に御賞、屋形様の御疝積に付き江戸表発駕暫く見合わせ）
1817年　6月15日 文化14年　5月1日 快晴
1817年　6月16日 文化14年　5月2日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （大行院に時疫退散の御祈祷を仰せ付けている）
1817年　6月17日 文化14年　5月3日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜に入
1817年　6月18日 文化14年　5月4日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止
1817年　6月19日 文化14年　5月5日 晴
1817年　6月20日 文化14年　5月6日 快晴
1817年　6月21日 文化14年　5月7日 晴
1817年　6月22日 文化14年　5月8日 快晴
1817年　6月23日 文化14年　5月9日 快晴 （木綿等を隠し持っていた荒物家業の男に過料1貫800文）
1817年　6月24日 文化14年　5月10日 快晴 （去月20日板屋野木村の類焼の者に同村重立ちより補助）
1817年　6月25日 文化14年　5月11日 快晴
1817年　6月26日 文化14年　5月12日 曇　申の刻過ぎより雨降　戌の刻頃止
1817年　6月27日 文化14年　5月13日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止　未の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1817年　6月28日 文化14年　5月14日 快晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止 （板屋野木村の類焼の内極窮の13軒に格段の御沙汰を以って御手当て御米1俵宛）　下から続く　弘前徘徊是まで通り）
1817年　6月29日 文化14年　5月15日 晴 （菊池玄屯?に一粒金丹5剤の調合を仰せ付ける）　下から続く　追放大場御構い家屋敷等は妻子に、4年前等に御印紙等を申し受けず湊口を忍び出た男3人に12鞭　上に続く
1817年　6月30日 文化14年　5月16日 曇　未の刻過ぎより雨降　戌の刻過ぎ止 （催促人に雇われ無体の取引の男4人に10里四方追放大場御構い家屋敷は妻子に、古手形持参し不筋の取引の男5人に7里四方　上に続く

1817年　7月1日 文化14年　5月17日 晴
1817年　7月2日 文化14年　5月18日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(去る15日夜平舘村で出火・3軒焼失・火元御代官にて他村預け、平沢三右衛門が三男を勘当)
1817年　7月3日 文化14年　5月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻頃止　(昨夜板屋野木村で屋敷内で出火・村方人夫罷り出で早速取鎮める・火元に対しては御代官にて慎み申し付ける)
1817年　7月4日 文化14年　5月20日 晴　(去月15日西坂御門泊番の3人に紛失物騒ぎ・諸手警固の勤料の内俵子5俵差引き諸手足軽に・諸手足軽1人は勤料の内10俵1人は御給分の内10俵差し引き御城付足軽に役下げ)
1817年　7月5日 文化14年　5月21日 曇　下から続く　取った男に3鞭実家返し、御賞)
1817年　7月6日 文化14年　5月22日 曇　(別段締り役に御賞、南浮田村で時疫・施薬)　下から続く　四方追放田畑等は妻子に・この仲間になった男2人に15鞭居村徘徊是まで通り、寺僧より三徳盗み　上に続く
1817年　7月7日 文化14年　5月23日 晴　(盗み杣の男5人の木と馬を取上げ6鞭居村徘徊是まで通り、去る夏平内村の者共が原別村を通った時に棒で追払い米を不法に取押さえた男2人に30鞭大場御構い10里　上に続く
1817年　7月8日 文化14年　5月24日 曇　未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止　下から続く　広須組繁田村で出火・居宅等焼失・火元代官にて村預け)
1817年　7月9日 文化14年　5月25日 曇　午の刻過ぎより雨降　申の刻止　(広須組家調・稲森村・木造新田大開・姥嶋・三館・玉川村・中之林村・油川組新城・岡町・田沢・飛鳥・奥内村にそれぞれ施薬、去る22日　上に続く
1817年　7月10日 文化14年　5月26日 曇　申の刻過ぎ雨降　酉の刻頃止
1817年　7月11日 文化14年　5月27日 曇　未の刻過ぎ雨降　夜ニ入　酉の刻雷鳴　則刻止
1817年　7月12日 文化14年　5月28日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(人事異動、御賞)
1817年　7月13日 文化14年　5月29日 曇
1817年　7月14日 文化14年　6月1日 曇　巳の刻頃雨降　夜ニ入
1817年　7月15日 文化14年　6月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(大暑に付き今日より羽織御容赦、赤田組狐森・境・前菟・五丁目村・金木組中柏木・喜良市・川倉・川倉新田・冨野・大沢内村　に施薬)
1817年　7月16日 文化14年　6月3日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　申の刻頃より雨降　夜ニ入　(盗みの男に3鞭弘前町払い)
1817年　7月17日 文化14年　6月4日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止　未の刻頃より雨降　夜ニ入　下から続く　12鞭青森町払い等家屋敷は妻子に・その仲間に9鞭居町徘徊是まで通り)
1817年　7月18日 文化14年　6月5日 曇　昨夜より之今日に及ぶ　時々降　夜に入る(曇　昨夜より之及今日時々降夜に入る)　(頃日天気打続不正・丹後者を詮議、多くの組の手代に御賞、隠津出手段の男に　上に続く
1817年　7月19日 文化14年　6月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(岩木川7歩5厘・石渡川7歩の出水・大組者頭と諸手者頭が出動)
1817年　7月20日 文化14年　6月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(頃日打続天気不正に付き四社で重き御祈祷、惣組御代官の申出で明8日神明宮で日和上の御神楽差上げる、青田の内笛吹くなの触れ)
1817年　7月21日 文化14年　6月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る　(一昨6日の洪水で新田大川筋で堤破損・水湛の村所数多い)
1817年　7月22日 文化14年　6月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(五山に日和揚げの重き御祈祷を仰せ付ける、高杉・金木組村々で時疫・施薬、尾崎・大光寺組にも此の節時疫)
1817年　7月23日 文化14年　6月10日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(増館組杉村?にも時疫、去る6日の洪水で石川村で居宅1軒等流失)　下から続く　・広須組兼館村より下は残らず水湛、十三の水戸口変わる)
1817年　7月24日 文化14年　6月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜に入　今暁寅の刻頃止　(駒越・石渡川5歩の出水・馬船往来留め、6日の洪水で広須組豊川村等で土居2ヶ所・木造新田林・土滝村　上に続く
1817年　7月25日 文化14年　6月12日 晴
1817年　7月26日 文化14年　6月13日 快晴　(秋田の盗賊の宿をした小栗山の男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1817年　7月27日 文化14年　6月14日 快晴
1817年　7月28日 文化14年　6月15日 快晴　(2月21日青森湊出帆の公儀御買上米積入の箱館船が29日に御用米荷打ち南部佐井浦に漂着、屋形様御不快に付き甲斐守殿をを御名代として差下す?)
1817年　7月29日 文化14年　6月16日 快晴　(酒を盗んだ男に3鞭居村徘徊是まで通り、不法の取立てをした男に3里四方追放大場御構い家屋敷は妻子に・この関係者に戸〆)
1817年　7月30日 文化14年　6月17日 快晴　辰の刻過ぎ地震少し
1817年　7月31日 文化14年　6月18日 快晴
1817年　8月1日 文化14年　6月19日 快晴
1817年　8月2日 文化14年　6月20日 快晴　(人事異動、去る15日夜後潟村で出火・外馬屋1軒建馬2疋焼失・火元戸〆、大坂よりの深浦の船頭が金を持ち出奔)
1817年　8月3日 文化14年　6月21日 快晴　辰の刻過ぎ地震少し　(後潟組瀬辺地・広瀬・小国・沢目村で時疫・施薬)
1817年　8月4日 文化14年　6月22日 曇　巳の刻頃より雨降　夜に入　(広須・木造両組村々に御手当て200俵下置く・広須組茂川・鶴ヶ岡・川山・福井村には御手当て30俵、金木組に御手当てなし、水油1升5文目2分と仰付)
1817年　8月5日 文化14年　6月23日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　亥の刻頃止　(桧等を伐り荒らした村人(何百人だな)に過料・戸〆)
1817年　8月6日 文化14年　6月24日 快晴　(甲斐守様(多分黒石に)在着)
1817年　8月7日 文化14年　6月25日 快晴
1817年　8月8日 文化14年　6月26日 快晴　(寺で銭箱盗みの男に3鞭弘前町払い)
1817年　8月9日 文化14年　6月27日 快晴
1817年　8月10日 文化14年　6月28日 曇　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる)
1817年　8月11日 文化14年　6月29日 快晴　(木造村郷士松木某が水難の村々江の補助米60俵を差出す、木造新田薦槌・入江・西広森村で時疫・施薬)
1817年　8月12日 文化14年　6月30日 快晴
1817年　8月13日 文化14年　7月1日 快晴　(人事異動)
1817年　8月14日 文化14年　7月2日 快晴　(夕涼みと称して花火小筒など打ち放しの停止の触れ)
1817年　8月15日 文化14年　7月3日 快晴
1817年　8月16日 文化14年　7月4日 快晴
1817年　8月17日 文化14年　7月5日 晴　(木造新田冨菟村に時疫・施薬)
1817年　8月18日 文化14年　7月6日 曇　申の刻頃雨降　夜ニ入　亥の刻頃止
1817年　8月19日 文化14年　7月7日 曇　未の刻過ぎ雷強　則刻止　同刻より雨降　酉の刻頃止
1817年　8月20日 文化14年　7月8日 曇　巳の刻頃雨降　未の刻頃止　午の刻頃雷鳴　則刻止　下から続く　役下げ・掃除小人の御給分召上げ永の暇)
1817年　8月21日 文化14年　7月9日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　時々降　未の刻過ぎ止　(博打をした御目見以下御留守居支配の給分10俵召上げ長柄の者に・郡所物書の勤料の内10俵召上げ御城付足軽に　上に続く
1817年　8月22日 文化14年　7月10日 曇　(去月6日の洪水関連などで御賞・酒代などを渡している)
1817年　8月23日 文化14年　7月11日 曇　午の刻より小雨降　夜ニ入
1817年　8月24日 文化14年　7月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止ム　(御賞(金200疋・銀9両・鳥目700文など))
1817年　8月25日 文化14年　7月13日 晴
1817年　8月26日 文化14年　7月14日 快晴
1817年　8月27日 文化14年　7月15日 晴
1817年　8月28日 文化14年　7月16日 曇　申の刻過ぎ雷鳴　則刻止　同刻雨少し降　則刻止
1817年　8月29日 文化14年　7月17日 曇　辰の刻過ぎより雷鳴　辰の刻より雨降　申の刻頃雷雨止　(木造新田車力村に時疫・施薬)
1817年　8月30日 文化14年　7月18日 晴　午の刻過ぎ雷鳴　則刻止
1817年　8月31日 文化14年　7月19日 快晴

1817年　9月1日 文化14年　7月20日 快晴 （今朝賀田村の男の子が1丁田村端で切殺される）　下から続く　節に引合い去年同様、一昨19日夜熊島村の男の子が手傷を負う、人事異動）
1817年　9月2日 文化14年　7月21日 晴　此の頃残暑強 （大鰐村加賀助兵左衛門より初米7俵差上げる・去年は5月12日植付より鎌入りまで85日目に当年は4月17日植付け91日目で差上げる・当年は6日遅く　上に続く
1817年　9月3日 文化14年　7月22日 曇　辰の刻頃より雨降　午の刻過ぎ止　戌の刻頃雷鳴　則刻止　下から続く　にせず当分牢居・たちの悪い犯罪者を刑期終了後も牢に入れる、盗み徒の男に3鞭弘前町払い）
1817年　9月4日 文化14年　7月23日 曇　辰の刻頃雷鳴　則刻雨降　其の後巳の刻過ぎ雷雨止　酉の刻頃より雨降　戌の刻過ぎ止 （悪者を泊めた男の妻に3鞭居村徘徊是迄通り、盗賊3度以上の男3人を即斬罪　上に続く
1817年　9月5日 文化14年　7月24日 曇　今暁子の刻過ぎ地震少し　卯の刻過ぎより雨降　午の刻頃止　下から続く　急に風雨・品川町辺で暴風・潰家1軒破損40軒余・品川町の日雇の女房が屋根より石が落ち死亡）
1817年　9月6日 文化14年　7月25日 曇　午の刻過ぎより雷雨強　未の刻頃品川町辺より土手町之内〇(風編に火が三つ森のように重なった作り:たつ巻か)強　則刻止　同刻より雨降　夜に入る （今八時過ぎ　上に続く
1817年　9月7日 文化14年　7月26日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1817年　9月8日 文化14年　7月27日 晴 （昨26日夜元大工町に捨子・百日ばかりの男子・近所の乳持ちの者に預ける）
1817年　9月9日 文化14年　7月28日 晴
1817年　9月10日 文化14年　7月29日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止 （当5月に衣類盗みの男に3鞭弘前町払い、江戸からの御発駕御日限来月16日と仰せ出される）
1817年　9月11日 文化14年　8月1日 曇　巳の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ止
1817年　9月12日 文化14年　8月2日 曇　寅の刻過ぎより小雨時々降　午の刻頃止 （百沢寺より苔の実差上げる）
1817年　9月13日 文化14年　8月3日 快晴
1817年　9月14日 文化14年　8月4日 晴
1817年　9月15日 文化14年　8月5日 晴 （所々で盗みの男に3鞭居村徘徊是までどおり）
1817年　9月16日 文化14年　8月6日 晴 （所々で盗みの男に3鞭弘前町払い）
1817年　9月17日 文化14年　8月7日 快晴
1817年　9月18日 文化14年　8月8日 晴
1817年　9月19日 文化14年　8月9日 快晴 （木造新田館岡村に時疫・施薬）
1817年　9月20日 文化14年　8月10日 快晴 （去る7日金木組相内村で出火・居宅焼失・火元村預け）
1817年　9月21日 文化14年　8月11日 快晴 （一昨9日昼猿賀組追子野木村で出火・類焼4軒外馬屋焼失・火元高無他村預け）
1817年　9月22日 文化14年　8月12日 晴 （当作躰の儀格別出来作の旨……）
1817年　9月23日 文化14年　8月13日 曇　今暁丑の刻頃雨降　寅の刻頃止 （所々で盗み徒の男に3鞭弘前町払い）
1817年　9月24日 文化14年　8月14日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻過ぎ止　未の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止 （国上寺不動尊が昨夜亥の上刻御出汗）
1817年　9月25日 文化14年　8月15日 晴
1817年　9月26日 文化14年　8月16日 晴
1817年　9月27日 文化14年　8月17日 曇　未の刻過ぎより雨降　時々降　亥の刻頃止
1817年　9月28日 文化14年　8月18日 曇　辰の刻より雨時々降　夜ニ入　戌の刻過ぎ止
1817年　9月29日 文化14年　8月19日 曇　此の頃冷気　下から続く　坂船の船頭が澗懸中に盗米・出奔）
1817年　9月30日 文化14年　8月20日 晴　下から続く　120ケ所・流失用水樋94挺・流失水門3ヶ所・溜池切破5ヶ所・川除堤破損7ヶ所・川欠け所々・人馬怪我なし、当御廻船として青森で御米を積んだ大　上に続く
1817年　10月1日 文化14年　8月21日 晴 （木造新田牛潟村に時疫・施薬、公儀に報告の6月6日より11日までの洪水被害:田畑水湛高3916町余(田方3184町余・畑方732町余)・流失家2軒・潰家2軒・流失橋　上に続く
1817年　10月2日 文化14年　8月22日 快晴
1817年　10月3日 文化14年　8月23日 曇　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1817年　10月4日 文化14年　8月24日 曇　昨夜より雨　今日に及ぶ(今日及と記述)　時々降　申の刻頃止　卯の刻頃雷鳴　即刻止 （当年三国屋等の仕込み味噌売貸値段:銭10文目に付き目形7貫目、屋形様16日江戸発駕）
1817年　10月5日 文化14年　8月25日 晴 （昌善院様?7回御忌に伴う大赦:弘前徘徊御免など数人）
1817年　10月6日 文化14年　8月26日 快晴
1817年　10月7日 文化14年　8月27日 快晴
1817年　10月8日 文化14年　8月28日 快晴 （人事異動、当4月に西坂御番所で盗み取られた関某の大小を山田左九郎が探り出す・犯人は4月に出奔した諸手足軽一戸某・人相書きで手配:せい5尺5寸位等）
1817年　10月9日 文化14年　8月29日 快晴 （去る26日夜金木組尾別村で出火・建家木部屋土蔵2ヶ所米穀等焼失・火元造酒屋村預け、御構地に返り又盗み徒の男に6鞭弘前町払い）
1817年 10月10日 文化14年　8月30日 晴
1817年 10月11日 文化14年　9月1日 晴 （人事異動）
1817年 10月12日 文化14年　9月2日 曇　巳の刻頃より雨降　夜ニ入 （別段締り役等に御賞、金1両代115文目6分が当8月中日々付相場平均値段）
1817年 10月13日 文化14年　9月3日 曇　昨夜之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1817年 10月14日 文化14年　9月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （今日初鮭2尾御台所頭より差上げる、外南御注進にて御家老御用人大目付が御広間江罷り出でる・七時前山吹の間江御着座）
1817年 10月15日 文化14年　9月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1817年 10月16日 文化14年　9月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　戌の刻過ぎ止
1817年 10月17日 文化14年　9月7日 晴
1817年 10月18日 文化14年　9月8日 快晴
1817年 10月19日 文化14年　9月9日 晴
1817年 10月20日 文化14年　9月10日 曇　未の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入
1817年 10月21日 文化14年　9月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1817年 10月22日 文化14年　9月12日 曇　昨夜より雨今朝に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止
1817年 10月23日 文化14年　9月13日 曇　巳の刻過ぎ雷鳴少　申の刻頃より雨降　夜に入　同刻過ぎ止
1817年 10月24日 文化14年　9月14日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止 （小泊村で御献上串鮑が揃いかねる・献上1200杯の内200しか）
1817年 10月25日 文化14年　9月15日 曇　辰の刻過ぎ小雨降　則刻止 （八幡宮の祭礼か?九時過ぎ相済む）
1817年 10月26日 文化14年　9月16日 晴　下から続く　台頭なし、公儀お届けの被害は100軒以上だとのこと・7月25日のたつ巻は報告対象でない、御老中松平伊豆守様御卒去）
1817年 10月27日 文化14年　9月17日 晴　今朝岩木山江初て雪見ゆる （去る10日の夜鯵ヶ沢で大風・御蔵所々吹き剥げる、御即位の用語の前に欠字(なぜか2文字くらい分)で尊敬を表している・平出はあるが　上に続く
1817年 10月28日 文化14年　9月18日 晴
1817年 10月29日 文化14年　9月19日 晴
1817年 10月30日 文化14年　9月20日 晴　今暁丑の刻過ぎ雨少降　即刻過ぎ止 （油川組新城・岡町・田沢・古川村の者共時疫・施薬）
1817年 10月31日 文化14年　9月21日 晴

1817年　11月1日 文化14年　9月22日 晴
1817年　11月2日 文化14年　9月23日 曇　辰の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(当7月飯詰村のお寺に供養・参詣の道中で不法に及んだ男共5人に30鞭宛大場御構い10里四方追放)
1817年　11月3日 文化14年　9月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止
1817年　11月4日 文化14年　9月25日 曇　酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1817年　11月5日 文化14年　9月26日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(佐々木専右衛門を者頭格・平沢三右衛門を御馬廻り番頭格御加増5俵等の人事異動、御賞)
1817年　11月6日 文化14年　9月27日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃止　同刻より雪少降
1817年　11月7日 文化14年　9月28日 曇　今日雪降　一寸程積　(今日初雪に付き御家老御用人が御機嫌伺い、浪岡組本郷・中野・杉沢・浪岡・竹鼻・五本松村で時疫・施薬)
1817年　11月8日 文化14年　9月29日 曇　戌の刻過ぎ雨降　夜ニ入
1817年　11月9日 文化14年　10月1日 晴　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　(人事異動)
1817年 11月10日 文化14年　10月2日 快晴
1817年 11月11日 文化14年　10月3日 快晴　今暁霜強し
1817年 11月12日 文化14年　10月4日 快晴　(松前表で掃除小人が病死・格段の御沙汰を持って若年の子に2人扶持)
1817年 11月13日 文化14年　10月5日 快晴
1817年 11月14日 文化14年　10月6日 快晴　(当御廻船大坂船の下乗が船中の者共の不正を通報・御賞鳥目23貫文・上乗は役下げ、御用先で役筋不似合いがあり足軽目付から御持筒足軽に役下げ)
1817年 11月15日 文化14年　10月7日 快晴　(青森(米)値段1俵36文目立)
1817年 11月16日 文化14年　10月8日 曇　未の刻頃より小雨降　夜ニ入　(広須・桃井・広苞・金田の4ヶ村で時疫・御施薬)
1817年 11月17日 文化14年　10月9日 曇　昨夜より之雨子の刻頃止　今暁霰少し降　(一昨夜赤田組中野村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆)　下から続く　乞食手に渡す(ただし大鰐村大工は今日牢死))
1817年 11月18日 文化14年　10月10日 曇　(去る7日乳井村で出火・居宅稲草焼失・火元百姓村預け、米新穀相場1俵に付24文目2分)　下から続く　その甥御奉公遠慮、仲間の町民4人(内1人は浪人か)を　上に続く
1817年 11月19日 文化14年　10月11日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入　(勤務不届きとして4人が役下げ等になっている)　下から続く　和田某の子を永牢、和田某の仲間の山屋某を永牢(去年7月牢死)・　上に続く
1817年 11月20日 文化14年　10月12日 曇　昨夜よりの雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　下から続く　本某を永牢・その叔父古郡某を表医者帰番、同じく百川某を永牢・叔父戸沢某に慎、和田某の甥毛内某に慎、　上に続く
1817年 11月21日 文化14年　10月13日 晴　(去る亥(昨年)4月18日夜和田某と組み役人と偽り強盗の成田某を和田某牢死に付き永牢・その親を御馬廻帰番、和田某の弟石山某を御手廻帰番、和田某の仲間の橋　上に続く
1817年 11月22日 文化14年　10月14日 曇　今暁霜強し
1817年 11月23日 文化14年　10月15日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入　(人事異動、御賞)
1817年 11月24日 文化14年　10月16日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　今日雪少し降
1817年 11月25日 文化14年　10月17日 曇
1817年 11月26日 文化14年　10月18日 曇　午の刻頃より雨時々降　夜ニ入
1817年 11月27日 文化14年　10月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降
1817年 11月28日 文化14年　10月20日 曇　今日雪降　夜ニ入
1817年 11月29日 文化14年　10月21日 曇　昨夜雪降　壱尺程積　今日雪少し降　(増館組杉・銀村で時疫・施薬、御馬廻与力の親が一間所を押破る・手堅い一間所に入れるようにする)
1817年 11月30日 文化14年　10月22日 晴　(木造新田冨菟村で時疫・施薬、新酒仮値段1升に付き1文目4分5厘)
1817年　12月1日 文化14年　10月23日 曇　今暁子の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降
1817年　12月2日 文化14年　10月24日 曇　今日雪少し降　(人事異動)
1817年　12月3日 文化14年　10月25日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入
1817年　12月4日 文化14年　10月26日 曇　今日雪少し降
1817年　12月5日 文化14年　10月27日 曇　午の刻頃より雨降　夜ニ入
1817年　12月6日 文化14年　10月28日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止
1817年　12月7日 文化14年　10月29日 快晴
1817年　12月8日 文化14年　11月1日 曇　今暁寅の刻頃より小雨降　則刻止　午の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(人事異動、油値段1升に付き5文目3分7厘を申し出る・5文目1分値段に申し付ける)
1817年　12月9日 文化14年　11月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1817年 12月10日 文化14年　11月3日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　(御即位・禁裏等の用語にも台頭なし)
1817年 12月11日 文化14年　11月4日 晴　今朝霜強し
1817年 12月12日 文化14年　11月5日 晴　今朝霜強し　(この節米1俵代24文目4分、弘前御蔵米1俵に付き30目7分8厘8毛・青森御蔵米1俵につき33文目6分8厘7毛・鰺ヶ沢は入札の申し出なし)
1817年 12月13日 文化14年　11月6日 曇　寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(岩木川出水・今朝四半時より馬船往来差留める)
1817年 12月14日 文化14年　11月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止
1817年 12月15日 文化14年　11月8日 曇　今朝雪降　午の刻過ぎより小雨降　酉の刻過ぎ止　(木を伐り荒し不埒の者(100人位?)に過料)
1817年 12月16日 文化14年　11月9日 曇　辰の刻頃より小雨降　未の刻頃止
1817年 12月17日 文化14年　11月10日 晴　今朝霜強し
1817年 12月18日 文化14年　11月11日 曇　今暁霜強し　下から続く　・関係庄屋五人組に過料、江戸の料理方が稽古先で衣類焼失の偽りと御用金盗み取りで永牢)
1817年 12月19日 文化14年　11月12日 曇　(今日御慰の御囃子)　下から続く　等を盗んだ男に3鞭居村徘徊是まで通り、生木5000本余を盗伐の頭取男に500日牢居と30鞭10里四方追放家屋敷御取上　上に続く
1817年 12月20日 文化14年　11月13日 曇　今日雪時々降　弐寸程積る　(革秀寺に忍び込み盗み質入の男2人に3鞭宛弘前町払い、8月に村送り途中で脇差を抜き逃げ去った男に3鞭居町徘徊是まで通り、浴衣　上に続く
1817年 12月21日 文化14年　11月14日 曇　昨夜雪降　八寸程積　下から続く　火元高無村預け)
1817年 12月22日 文化14年　11月15日 曇　巳の刻頃より雨時々降　夜ニ入　今暁寅七刻冬至ニ入　(去る12日昼尾崎組石郷村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け、昨夜冨田村で出火・建家木小屋焼失・　上に続く
1817年 12月23日 文化14年　11月16日 快晴　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　(去る12日浦町組高田村で出火・外馬屋馬1疋焼失・火元戸〆)
1817年 12月24日 文化14年　11月17日 曇　辰の刻頃雨時々降　夜ニ入　戌の刻頃雷鳴　亥の刻頃雷止
1817年 12月25日 文化14年　11月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　卯の刻頃止　今日雪少し降
1817年 12月26日 文化14年　11月19日 曇
1817年 12月27日 文化14年　11月20日 曇　昨夜雪降　二寸程積　今日雪少し降
1817年 12月28日 文化14年　11月21日 曇
1817年 12月29日 文化14年　11月22日 晴　午の刻過ぎ地震少し
1817年 12月30日 文化14年　11月23日 曇　申の刻頃雨降　酉の刻過ぎ止　(時疫が今も流行、一間所の親に又逃げられた御家中(御馬廻与力)の御給分の内5俵召上げ・不届きな牢奉行も御目見以下御留守居支配に役下げ)
1817年 12月31日 文化14年　11月24日 曇　巳の刻過ぎ地震少し

1818年　1月1日 文化14年　11月25日 曇　今日雪少し降　（昨23日夜堀越組福村で出火・木小屋焼失・火元百姓戸〆）
1818年　1月2日 文化14年　11月26日 曇　昨夜雪降　二寸程積
1818年　1月3日 文化14年　11月27日 曇　今日雪少し降
1818年　1月4日 文化14年　11月28日 曇　昨夜雪降　三寸程積　（今日梅の間で御慰御囃子）
1818年　1月5日 文化14年　11月29日 曇　昨夜雪降　二寸程積　（去る3日夜蟹田町で出火・類焼13軒潰家3軒半潰1軒馬3疋焼失・火元入寺）
1818年　1月6日 文化14年　11月30日 曇　今日雪少し降　巳の刻寒ニ入
1818年　1月7日 文化14年　12月1日 曇　今日雪少し降　（小笠原良八を御手廻組に等の人事異動、この夏に追放されたのに立ち返り盗賊の宿などの男の庄屋と五人組に戸〆、木造新田下相野村で時疫・施薬）
1818年　1月8日 文化14年　12月2日 快晴
1818年　1月9日 文化14年　12月3日 快晴
1818年　1月10日 文化14年　12月4日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　（この夏御祈祷の節その人形を青森で修法の上遠沖に送ったら帰岸?）
1818年　1月11日 文化14年　12月5日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻頃止　同刻過ぎより雪降　二寸程積
1818年　1月12日 文化14年　12月6日 晴　（当4月23日夜石川村の廃寺に忍び込み庵主を打ち殺した石川村の修験男を街中引回しの上磔、当7月19日賀田村の踊り見物で腰のものを抜き払い狼藉の御家中3人を隠居）
1818年　1月13日 文化14年　12月7日 快晴　（浪岡組杉沢・大釈迦・高屋敷・上十川・浪岡・吉内・本郷・中野村で時疫・施薬）
1818年　1月14日 文化14年　12月8日 快晴
1818年　1月15日 文化14年　12月9日 晴
1818年　1月16日 文化14年　12月10日 晴　（7月19日夜不埒の2人に3鞭宛居村徘徊是まで通り、盗み重犯の男に6鞭居村徘徊是まで通り、盗み徒の男3人に6鞭弘前御構・弘前町払い）
1818年　1月17日 文化14年　12月11日 快晴　（斉藤少弐(どこぞの神主)が正六位上長門守?、御即位・禁裏御所等も平出のみ、御料理人高木某が泊まり番の節御用金盗み取られる）
1818年　1月18日 文化14年　12月12日 曇　（当4月に久渡寺境内の杉を盗み取った男2人に6鞭門前徘徊是まで通り・過料）
1818年　1月19日 文化14年　12月13日 快晴
1818年　1月20日 文化14年　12月14日 晴　（南浮田村に時疫・施薬・残らず快気、稲盛・木造村でも同様、梅屋某の居宅前に捨子・誰かに養育させている、去る10日夜浪岡組中野村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆）
1818年　1月21日 文化14年　12月15日 曇　今日雪少し降　夜ニ入　（人事異動、御賞）
1818年　1月22日 文化14年　12月16日 曇　昨夜より之雪今日に及ぶ　四寸程積　時々降
1818年　1月23日 文化14年　12月17日 曇　昨夜雪少し降　（御賞）
1818年　1月24日 文化14年　12月18日 曇　今日雪少し降　　下から続く　　久保田より秋田様飛脚と一緒になり秋田飛脚の金子盗難・飛脚2人の内1人を留め置き他の1人が飛脚の仕事を続けている）
1818年　1月25日 文化14年　12月19日 晴　（今日梅の間で御慰の御囃子、昨17日夜常盤組十川村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け、増館・下十川・樽沢村で時疫・施薬・残らず全快、去月21日出立の町飛脚が　　上に続く
1818年　1月26日 文化14年　12月20日 曇　昨夜雪少し降　（人事異動、御賞、召捕った者を預けたのに逃げられた8人の番人に過料銭600文宛、無手形米で取押えた男を預り逃げられた庄屋等にも過料）
1818年　1月27日 文化14年　12月21日 曇　（御賞、幼年で許され又盗み徒の男に6鞭弘前町払い、大鰐村庄屋の私欲を訴え寄合等をした五人組に21鞭3里四方追放田畑等は妻子に・その仲間2人に15鞭宛　　欄外(*)に続く
1818年　1月28日 文化14年　12月22日 快晴　（外ヶ浜通り船数745艘・内205艘漁船240艘丸木船）
1818年　1月29日 文化14年　12月23日 曇　午の刻過ぎより小雨少し降　則刻止　（人事異動、御賞、去る21日広田組五所川原村で出火・外馬屋焼失・火元戸〆）
1818年　1月30日 文化14年　12月24日 快晴　（津軽野村を津賀野・津軽坂を鶴賀坂に改めるよう仰せ付ける、御賞）
1818年　1月31日 文化14年　12月25日 曇　今日雪少し降　（当月17日油川湊出帆の南部船に白米1斗7升入り3叺を過積・取り押さえ・詮議中の水主出奔）
1818年　2月1日 文化14年　12月26日 曇　今日雪少し降
1818年　2月2日 文化14年　12月27日 曇　今日雪降　六寸程積る
1818年　2月3日 文化14年　12月28日 晴　（今日寒気強・一統の御礼廻り御容赦、酒1升値段を1文目5分に）
1818年　2月4日 文化14年　12月29日 曇　今日雪少し降
1818年　2月5日 文化15年正月1日　曇　雪少シ降
1818年　2月6日 文化15年正月2日　曇　雪少シ降
1818年　2月7日 文化15年正月3日　曇　雪少シ降　（御吉例金200両を御金奉行より差出す）
1818年　2月8日 文化15年正月4日　晴　（例年の通り七種を大鰐村加賀助より差上げる）
1818年　2月9日 文化15年正月5日　晴
1818年　2月10日 文化15年正月6日　晴
1818年　2月11日 文化15年正月7日　曇　昨夜雪降　三寸程積る　（今日七種の御祝儀）
1818年　2月12日 文化15年正月8日　曇　雪少シ降
1818年　2月13日 文化15年正月9日　曇　雪少シ降
1818年　2月14日 文化15年正月10日　曇　雪一寸程積る　頃日余寒強し
1818年　2月15日 文化15年正月11日　晴
1818年　2月16日 文化15年正月12日　曇　雪少シ降
1818年　2月17日 文化15年正月13日　曇　雪一寸余積る
1818年　2月18日 文化15年正月14日　曇　雪二寸程積る
1818年　2月19日 文化15年正月15日　曇　雪少シ降
1818年　2月20日 文化15年正月16日　曇　雪七寸程積る
1818年　2月21日 文化15年正月17日　曇　雪六寸程積る　（去る14日夜飯詰組太刀打村で出火・居宅焼失・火元村預け、去る卯年(今年は寅年)公儀よりの拝借金5000両は当年で御皆納、御賞）
1818年　2月22日 文化15年正月18日　快晴　昨夜雪二寸程積る　（藤代組五ヶ村で時疫・施薬・此の節快気）
1818年　2月23日 文化15年正月19日　快晴
1818年　2月24日 文化15年正月20日　快晴　（今晩御謡初・番頭格以上登城）
1818年　2月25日 文化15年正月21日　快晴
1818年　2月26日 文化15年正月22日　曇　酉の刻頃より小雨降　夜ニ入
1818年　2月27日 文化15年正月23日　曇　昨夜より之小雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　今日辰の刻過ぎより小雨時々降る　夜ニ入　亥の刻頃止　（人事異動）
1818年　2月28日 文化15年正月24日　曇　辰の刻頃より小雨降　未の刻過ぎ止　（茨城屋安右衛門が引退・高350石は養子安五郎に）

(*) 居村徘徊是迄通り、5月23日夜髪結い某と同類で下土手町土蔵より衣類等を盗み取った男に27鞭7里四方追放、大間越口の間道を抜けて他領に出入りした男に12鞭弘前町払い、10月15日に赤田組板屋野木村で手傷を負った御関所口間道忍通りの浪人無宿笠井兼蔵を帯刀御取り上げの上12鞭弘前徘徊御構い・手傷を負わせた秋田浪人渡辺某を碇ヶ関送り返し、7月に鞭刑で又盗み徒の男に6鞭居村徘徊是迄通り、去年盗み徒で村預けを逃げ2月に川龍院から屏風を盗んだ男に9鞭居村徘徊是まで通り）

1818年　3月1日 文化15年正月25日　晴
1818年　3月2日 文化15年正月26日　曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1818年　3月3日 文化15年正月27日　曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　子の刻過ぎ止　今日雪少シ降る
1818年　3月4日 文化15年正月28日　晴　昨夜雪少シ降
1818年　3月5日 文化15年正月29日　快晴　(昨夜四時頃どこかで出火・火元村預け)
1818年　3月6日 文化15年正月30日　快晴
1818年　3月7日 文化15年　2月1日 曇　昨夜亥の刻頃雨降　今暁寅の刻過ぎ止ム　(人事異動)
1818年　3月8日 文化15年　2月2日 快晴　頃日暖和
1818年　3月9日 文化15年　2月3日 快晴　今暁霜強し　(赤田組山道・境村・五条ノ目・前菟・狐森村で時疫・施薬・此の節快気、青森町で時疫・施薬・快気)
1818年　3月10日 文化15年　2月4日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1818年　3月11日 文化15年　2月5日 快晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑の刻過ぎ止ム
1818年　3月12日 文化15年　2月6日 晴　(昨5日暮六時過ぎ御家中宅が出火、家老大道寺宇左衛門の御役職召し放たれ慎み・添田儀左衛門・竹内甚左衛門・工藤仁右衛門の御役召し放ち慎み役下げ等)
1818年　3月13日 文化15年　2月7日 曇　未の刻頃小雨少シ降　申の刻頃止ム　(一昨5日の御家中の出火に類焼あり)　下から続く　倅を御目見以下御留守居支配に)
1818年　3月14日 文化15年　2月8日 晴　今暁霜強し　下から続く　召上げ隠居倅に50石御目見以上御留守居支配に・早道小頭大高某の勤料召上げ御目見以下御留守居支配に・御目見以上山田某を隠居　上に続く
1818年　3月15日 文化15年　2月9日 曇　今暁霜強し　下から続く　御留守居支配に・今井某の知行の内20石召上げ倅に80石御留守居組に・小山内某の半知召上げ隠居・野呂某を隠居・清野某の半知　上に続く
1818年　3月16日 文化15年　2月10日 曇　昨夜雪三寸程積る　今日寒し　(牧野寛太夫の半知召上げ蟄居・森岡金吾の知行の内100石召上げ御留守居組に・黒滝某の御給分の内4両2人扶持召上げ御目見以上　上に続く
1818年　3月17日 文化15年　2月11日 曇　雪少シ降
1818年　3月18日 文化15年　2月12日 曇　今暁雪少し降　巳の刻地震少シ
1818年　3月19日 文化15年　2月13日 曇　雪三寸程積　寒シ
1818年　3月20日 文化15年　2月14日 曇　雪少シ降　(人事異動)
1818年　3月21日 文化15年　2月15日 曇　昨夜雪二寸程積　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1818年　3月22日 文化15年　2月16日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　今日雪少シ降
1818年　3月23日 文化15年　2月17日 曇　雪少シ降る　此頃春寒し　(漆盗み掻きの男を碇ヶ関口から秋田に送り返す)
1818年　3月24日 文化15年　2月18日 曇　雪少シ降
1818年　3月25日 文化15年　2月19日 曇　昨夜雪弐寸程積　今日雪少シ降
1818年　3月26日 文化15年　2月20日 快晴
1818年　3月27日 文化15年　2月21日 快晴　(人事異動)
1818年　3月28日 文化15年　2月22日 曇　辰の刻頃雨時々降　夜ニ入
1818年　3月29日 文化15年　2月23日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々降　戌の刻過ぎ止　(藤代組妙堂崎村で出火・秣小屋1軒焼失・火元百姓戸〆)
1818年　3月30日 文化15年　2月24日 晴　此頃暖気
1818年　3月31日 文化15年　2月25日 晴　今暁霜強し
1818年　4月1日 文化15年　2月26日 快晴　今暁霜少し降る
1818年　4月2日 文化15年　2月27日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止　(今日御慰の御囃子・四時過ぎ初七時半に相済む)
1818年　4月3日 文化15年　2月28日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(去る25日夕より翌26日朝までに大湊川尻より高根沖小股川口までの十三潟が残らず氷開ける)
1818年　4月4日 文化15年　2月29日 晴
1818年　4月5日 文化15年　2月30日 曇
1818年　4月6日 文化15年　3月1日 曇　昨夜雪少シ降
1818年　4月7日 文化15年　3月2日 晴
1818年　4月8日 文化15年　3月3日 快晴　(人事異動)
1818年　4月9日 文化15年　3月4日 快晴　今暁霜強し　(去月晦日より十三潟の船の通路が明く)
1818年　4月10日 文化15年　3月5日 晴　(去月晦日夜後潟組郷沢村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、去る朔日金木組川倉村で出火・小屋1軒焼失・火元戸〆)
1818年　4月11日 文化15年　3月6日 曇　今暁丑の刻頃雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(当年御廻米運賃(100石に付き):青森積で金17両1歩・鰺ヶ沢積で金18両に申し付ける)
1818年　4月12日 文化15年　3月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(尾崎組町井村で出火・居宅と隣家の外馬屋焼失・火元他村預け)
1818年　4月13日 文化15年　3月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる)
1818年　4月14日 文化15年　3月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る　(頃日天気打ち続き不勝に付き丹後者詮議)
1818年　4月15日 文化15年　3月10日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る　(昨夜高杉組熊島村で味噌煮釜より出火・建家馬屋穀物等焼失馬2疋焼斃・火元百姓村預け)
1818年　4月16日 文化15年　3月11日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　丑ノ刻頃止
1818年　4月17日 文化15年　3月12日 快晴
1818年　4月18日 文化15年　3月13日 快晴　戌の刻過ぎより雨降　子の刻過ぎ止
1818年　4月19日 文化15年　3月14日 快晴　亥の三刻土用入
1818年　4月20日 文化15年　3月15日 快晴
1818年　4月21日 文化15年　3月16日 快晴
1818年　4月22日 文化15年　3月17日 快晴　(甲斐守様より川鱒1尺下し置かれる)
1818年　4月23日 文化15年　3月18日 快晴　(金木組薄市村の百姓2人が小熊2疋狩取り差上げる・600文宛御酒代を下し置かれる、青森町の時疫が施薬の結果快気)
1818年　4月24日 文化15年　3月19日 快晴　今暁霜強
1818年　4月25日 文化15年　3月20日 快晴
1818年　4月26日 文化15年　3月21日 快晴　(人事異動)
1818年　4月27日 文化15年　3月22日 快晴
1818年　4月28日 文化15年　3月23日 晴　(今日御慰の御囃子)
1818年　4月29日 文化15年　3月24日 快晴
1818年　4月30日 文化15年　3月25日 曇　辰の刻頃小雨時々降　夜ニ入　(廻山中の佐藤某が深砂宮で盗まれた太刀と脇差6腰を見当て犯人?を捕らえる)

1818年　5月1日 文化15年　3月26日 曇　昨夜より今日に及ぶ(何があったのかの記述なし)　時々降　戌の刻頃止ム
1818年　5月2日 文化15年　3月27日 曇　申の刻過ぎ小雨降　夜ニ入る　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成らず、鳶の者が変死・御給分召上げられる)
1818年　5月3日 文化15年　3月28日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム(原文に出来るだけ忠実に:曇昨夜より之及雨今日辰の刻過止ム)　(人事異動)
1818年　5月4日 文化15年　3月29日 曇　巳の刻過ぎ雷鳴　則刻止　則刻小雨降　同刻過ぎ止ム
1818年　5月5日 文化15年　4月1日 晴　(人事異動、大組与力が見舞いに行った甥宅で切り殺される)
1818年　5月6日 文化15年　4月2日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入る
1818年　5月7日 文化15年　4月3日 曇　昨夜より今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1818年　5月8日 文化15年　4月4日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入る
1818年　5月9日 文化15年　4月5日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る
1818年　5月10日 文化15年　4月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　(また丹後者詮議、小泊村の隠津出米の男に15鞭居村払い金木組十三町住居御構い家屋敷等は妻子に・関係者に過料)
1818年　5月11日 文化15年　4月7日 晴
1818年　5月12日 文化15年　4月8日 晴
1818年　5月13日 文化15年　4月9日 晴
1818年　5月14日 文化15年　4月10日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降　巳の刻頃止ム
1818年　5月15日 文化15年　4月11日 快晴
1818年　5月16日 文化15年　4月12日 晴
1818年　5月17日 文化15年　4月13日 快晴　(漆の盗掻きあり浪岡組本郷村等の漆守など約30人に過料等、無刻印の木柄を売買した男40人程に過料、咎人を親類でもないのに逃がした在医阿曽某に6鞭居村徘徊是迄通り)
1818年　5月18日 文化15年　4月14日 快晴　今暁霜強シ　(浪岡組6ヶ村の者共の時疫は施薬の上全快・施薬を実施した在医が昨日6鞭の阿曽玄安)
1818年　5月19日 文化15年　4月15日 晴　(人事異動)
1818年　5月20日 文化15年　4月16日 晴　(御賞:金500疋・金1両・南鐐3片)
1818年　5月21日 文化15年　4月17日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る
1818年　5月22日 文化15年　4月18日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1818年　5月23日 文化15年　4月19日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　申の刻過ぎ止
1818年　5月24日 文化15年　4月20日 晴　(天気不正に付き百沢下居宮で風雨順時の重キ御祈祷を仰せ付ける)
1818年　5月25日 文化15年　4月21日 快晴　今暁霜強シ
1818年　5月26日 文化15年　4月22日 快晴
1818年　5月27日 文化15年　4月23日 晴　今暁霜強し　　下から続く　　・関係者にも過料等、無尽の名目で弘札?類似のことをして永牢の男・3鞭青森町払い家屋敷等は妻子にとの男あり)
1818年　5月28日 文化15年　4月24日 曇　今暁寅の刻過ぎより小雨降　辰の刻頃止　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入る　　下から続く　　水主2人に25鞭宛十三町払い赤石組金木組住居御構い家屋敷等は妻子に　　上に続く
1818年　5月29日 文化15年　4月25日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止ム　　下から続く　　紛失した南浮田村の担当者に3鞭居村徘徊是まで通り・浪岡組でも紛失があり過料、去月18日8俵過積の　　上に続く
1818年　5月30日 文化15年　4月26日 晴　(去る夏亀甲町御蔵米を鯵ヶ沢御蔵元に送る駄下げの際御米6俵充喰潰した?高杉組十面沢村の男2人に15鞭宛居村徘徊是まで通り・4俵は12鞭・2俵は9鞭、御用状を　　上に続く
1818年　5月31日 文化15年　4月27日 曇　辰の刻過ぎより小雨降　午の刻頃止ム
1818年　6月1日 文化15年　4月28日 晴　(木造新田の手代田村某が出奔)　　下から続く　　まで通り、去る11月3日に米等を運んで見つかり嘘を言った男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1818年　6月2日 文化15年　4月29日 曇　未の刻頃雨降　雷鳴　即刻雨降　同刻頃止　(去月22日横手町御本陣並びに横手町が残らず焼失、流木の刻印を申し受けなかった庄屋の御取り放しと3鞭居村徘徊是　　上に続く
1818年　6月3日 文化15年　4月30日 曇　午の刻頃小雨降　則刻止　(時疫に施薬の柏木組夕顔関村・飯詰組野里村・尾崎組・大光寺組の在医に御賞)
1818年　6月4日 文化15年　5月1日 晴　(人事異動、留書加勢の對馬文太等に御賞、三之丸馬場で大的高覧)
1818年　6月5日 文化15年　5月2日 快晴　(今昼八半時頃元長町の雪隠より出火・早速取鎮める、去月16日江戸に向けて米2700俵等を積み青森出帆の遠州船が23日よりの大風で荷打ちの上八戸に入津・勘定小頭を派遣)
1818年　6月6日 文化15年　5月3日 快晴
1818年　6月7日 文化15年　5月4日 快晴
1818年　6月8日 文化15年　5月5日 曇　午の刻過ぎより雨降　夜ニ入　則刻雷鳴　申の刻過ぎ雷止ム　　下から続く　　居宅穀物等焼失・火元百姓居村預け)
1818年　6月9日 文化15年　5月6日 曇　昨夜より今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　(一昨3日夜岩木山の親しらす(親知らず)と申す萱野に野火・百沢村より人夫押立否や取鎮める、一昨4日赤石組出来嶋村で出火・　　上に続く
1818年　6月10日 文化15年　5月7日 晴
1818年　6月11日 文化15年　5月8日 晴
1818年　6月12日 文化15年　5月9日 晴
1818年　6月13日 文化15年　5月10日 快晴
1818年　6月14日 文化15年　5月11日 快晴　(外馬場で馬術高覧)
1818年　6月15日 文化15年　5月12日 曇　今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入　(小盗みの子供に温情判決?)　　下から続く　　庄屋に6鞭居村徘徊是まで通り・関係者にも3鞭・過代人夫等の罰)
1818年　6月16日 文化15年　5月13日 曇　昨夜之雨今日に及ぶ　時々　夜ニ入(曇昨夜之雨及今日時々夜ニ入)　(盗賊と知らずに留め置いた男に過料銭1貫800文・その庄屋に過料600文、手段(密輸?)を助けた　　上に続く
1818年　6月17日 文化15年　5月14日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止　未の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止
1818年　6月18日 文化15年　5月15日 曇　(三之丸御屋形で御囃子)
1818年　6月19日 文化15年　5月16日 曇　今暁寅の刻過ぎ雷鳴　雨時々降　雷則刻止　午の刻頃止(曇今暁寅刻過雷鳴雨時々降雷則刻止午刻頃止)
1818年　6月20日 文化15年　5月17日 晴
1818年　6月21日 文化15年　5月18日 晴　(一昨4日江戸で年号御改めの儀仰せ出される・年号は文政となる)
1818年　6月22日 文化15年　5月19日 快晴
1818年　6月23日 文化15年　5月20日 曇　(去々月29日に御持鑓中間の隠居宅で切り殺された大組与力の子を俵子20俵2人扶持の御城付足軽として新規召抱え)
1818年　6月24日 文化15年　5月21日 晴　(去る19日浪岡組吉内村で出火・類焼あり・火元百姓他村預け、弐歩判が通用し始めた)
1818年　6月25日 文化15年　5月22日 晴
1818年　6月26日 文化15年　5月23日 快晴
1818年　6月27日 文化15年　5月24日 曇　辰の刻頃より小雨降　同刻過ぎ止　(今日御献上の蕨を御台所頭より差出す)
1818年　6月28日 文化15年　5月25日 晴
1818年　6月29日 文化15年　5月26日 快晴
1818年　6月30日 文化15年　5月27日 快晴

1818年　7月1日 文化15年　5月28日 曇　巳の刻頃より時々雨降　夜ニ入る
1818年　7月2日 文化15年　5月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止ム　(小泊村の秋田出生の仮子が酒樽に米を入れて別段所前を通る・秋田に送還・仮子の雇い主に過料1貫800文)
1818年　7月3日 文政元年　6月1日 曇　巳の刻過ぎより雨降　同刻過ぎ止　(大鰐村より初茄子角豆差上げる、人事異動)
1818年　7月4日 文政元年　6月2日 曇　寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入る
1818年　7月5日 文政元年　6月3日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入　(去月29日夜後潟組平館村で出火・居宅外馬屋焼失・火元百姓村預け、今朝よりの出水で矢来押し破り流木30巻位流散)
1818年　7月6日 文政元年　6月4日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止む
1818年　7月7日 文政元年　6月5日 晴
1818年　7月8日 文政元年　6月6日 曇　未の刻頃より雨降　夜ニ入
1818年　7月9日 文政元年　6月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻頃止ム　(岩木石渡両川4歩半の出水・往来相成り申さず、打ち続く時疫流行に付き薬王院で時疫退散の重き御祈祷)
1818年　7月10日 文政元年　6月8日 曇　未の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止　(大鰐村より初茄子差上げる、不埒の御城付足軽を御持鑓仲間に役下げ、青田の内笛吹くなとの御目付触れ)
1818年　7月11日 文政元年　6月9日 晴　(屋敷内で花火をするな・面体を隠す頬冠等をするなとの御目付触れ)
1818年　7月12日 文政元年　6月10日 快晴
1818年　7月13日 文政元年　6月11日 曇　申の刻頃雷鳴　同刻過ぎ止　同刻頃より雨降　夜ニ入る
1818年　7月14日 文政元年　6月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止　午の刻過ぎ雨降　夜ニ入　丑の刻頃雷鳴　寅の刻過ぎ雷雨止ム　(盗み・質入事件があるが判らない)
1818年　7月15日 文政元年　6月13日 晴
1818年　7月16日 文政元年　6月14日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入る　(去月26日和徳組湯口村で衣類等盗み取られる・一部が黒石に質入)
1818年　7月17日 文政元年　6月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る　(人事異動)
1818年　7月18日 文政元年　6月16日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止ム
1818年　7月19日 文政元年　6月17日 快晴　(駒越組吉川村の無宿が松前地で盗賊・御刑法相済み候上送り返し・村着き次第入牢)
1818年　7月20日 文政元年　6月18日 快晴　卯の初刻土用入る
1818年　7月21日 文政元年　6月19日 快晴　(去る2日広須・木造両組村々で水湛・田方500町歩余)
1818年　7月22日 文政元年　6月20日 快晴　頃日暑気強
1818年　7月23日 文政元年　6月21日 快晴　(人事異動)
1818年　7月24日 文政元年　6月22日 快晴
1818年　7月25日 文政元年　6月23日 晴　(広須組出崎・沖善津両村で時疫・在医をもって御施薬)
1818年　7月26日 文政元年　6月24日 晴
1818年　7月27日 文政元年　6月25日 快晴　(木造新田栄田村で5月4日に植付けた稲が残らず筒揃え?になる・1株差上げる)
1818年　7月28日 文政元年　6月26日 快晴　(御賞、松前表より送り返しの大鰐組石川村の男を縄下にして取り逃がす、所々で小盗みの男に3鞭弘前町払い)
1818年　7月29日 文政元年　6月27日 快晴
1818年　7月30日 文政元年　6月28日 快晴
1818年　7月31日 文政元年　6月29日 快晴　(祢ふたは町内限りの触れ)
1818年　8月1日 文政元年　6月30日 快晴　(石川村の男(6月26日記述)の人相書き:年44歳・せい5尺2寸位・面体丸キ方但色白キ方……)
1818年　8月2日 文政元年　7月1日 快晴　(人事異動、尾崎組広船村・大光寺組新屋町村で時疫・施薬)
1818年　8月3日 文政元年　7月2日 快晴
1818年　8月4日 文政元年　7月3日 快晴　(一昨朔日増館組水木村で出火・建家残らず焼失・火元村預け)
1818年　8月5日 文政元年　7月4日 快晴　(鯵ヶ沢町の桶屋の伯父が乱心・女房に深手(後死亡)など4人死傷・搦捕る)
1818年　8月6日 文政元年　7月5日 快晴
1818年　8月7日 文政元年　7月6日 快晴　(町払いを密かに立ち帰り盗賊の宿をし土蔵を伐り破り盗み取った男に30鞭10里四方追放大場御構い)
1818年　8月8日 文政元年　7月7日 快晴
1818年　8月9日 文政元年　7月8日 曇　酉の刻頃雷鳴　雨降　即刻止
1818年　8月10日 文政元年　7月9日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　午の刻頃止ム　　下から続く　　水油1升に付き3匁9分値段とする)
1818年　8月11日 文政元年　7月10日 晴　(来月13日江戸表江御発駕と仰せ出だされる、去る5日晩北横町の2人が大振りの祢婦たを取拵え役筋に見咎められる・不法ではないが御触出シに相反し15日の慎み、　　上に続く
1818年　8月12日 文政元年　7月11日 快晴
1818年　8月13日 文政元年　7月12日 快晴　(昨夜八時頃大久保村で出火・建家等焼失・火元高無し村預け)
1818年　8月14日 文政元年　7月13日 快晴
1818年　8月15日 文政元年　7月14日 快晴
1818年　8月16日 文政元年　7月15日 快晴
1818年　8月17日 文政元年　7月16日 快晴
1818年　8月18日 文政元年　7月17日 快晴　(去る14日夜五半時頃野内町で出火早速鎮火・馬屋ばかり焼失)
1818年　8月19日 文政元年　7月18日 快晴
1818年　8月20日 文政元年　7月19日 快晴
1818年　8月21日 文政元年　7月20日 晴　(事情は判らないが金繰りの話が出ている・江戸当5月より来4月まで御常用御不足分8700両等々・御発駕金にも困っているのかな?)
1818年　8月22日 文政元年　7月21日 晴　(三之丸御屋形で角力高覧)
1818年　8月23日 文政元年　7月22日 晴
1818年　8月24日 文政元年　7月23日 曇　巳の刻過ぎより小雨折々降　夜ニ入る　(6月20日に酒に酔い町娘に徒の男2人に3鞭宛居村徘徊是まで通り)
1818年　8月25日 文政元年　7月24日 曇　昨夜よりの雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止ム　(一昨22日夕駒越組居森平村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け)
1818年　8月26日 文政元年　7月25日 晴
1818年　8月27日 文政元年　7月26日 晴　(今日外馬場で駒寄高覧)
1818年　8月28日 文政元年　7月27日 曇　申の刻頃より雨降　戌の刻過ぎ止ム　(今日五時の御供揃えで冨田御屋敷で火術上覧)
1818年　8月29日 文政元年　7月28日 晴　(御初米7俵を大鰐組御代官が持参)
1818年　8月30日 文政元年　7月29日 晴
1818年　8月31日 文政元年　7月30日 晴　(昨夜御家中の祖父が病屋で縊死)

1818年　9月1日 文政元年　8月1日 曇　辰の刻過ぎより雨降　午の刻頃止ム　(人事異動、御賞(金200疋・銀9両・鳥目2貫文等:銀9両というのは度々あるが7両8両を見たことがないな))
1818年　9月2日 文政元年　8月2日 快晴　(百沢寺より苔の実差上げる、去月晦日金木組毘沙門村で出火・建家焼失・火元高無村預け)
1818年　9月3日 文政元年　8月3日 快晴　丑の刻過ぎ地震少シ　則刻止ム　(三之丸御屋形で御慰の御囃子)
1818年　9月4日 文政元年　8月4日 曇　午の刻頃小雨時々降　未の刻過ぎ止ム
1818年　9月5日 文政元年　8月5日 曇　酉の刻頃より雨降　同刻雷鳴　即刻止ム
1818年　9月6日 文政元年　8月6日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　辰の刻頃雷鳴　巳の刻頃雷雨止ム　午の刻頃より雨降る
1818年　9月7日 文政元年　8月7日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止る(曇昨夜より之雨及今日時々降巳刻過止る)
1818年　9月8日 文政元年　8月8日 晴　(人事異動、赤田組狐森村の高無一家4人出奔)
1818年　9月9日 文政元年　8月9日 快晴　(御賞)
1818年　9月10日 文政元年　8月10日 曇　酉の刻より雨　夜ニ入　(来る13日御発駕を秋暑強く御日延べ)
1818年　9月11日 文政元年　8月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　(仙台領下戸沢御本陣が家作で御拝借願い・御手当金1両2歩下し置かれる)
1818年　9月12日 文政元年　8月12日 晴
1818年　9月13日 文政元年　8月13日 曇　未の刻頃より雨時々降　夜ニ入る　(去る5月野内町に時疫・青森町に御施薬を申し付ける・残らず快気)
1818年　9月14日 文政元年　8月14日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る
1818年　9月15日 文政元年　8月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　申の刻過ぎ止ム
1818年　9月16日 文政元年　8月16日 曇
1818年　9月17日 文政元年　8月17日 曇　(御賞、当年の三国屋等の仕込み味噌値段銭10文目に付き目方8貫目)
1818年　9月18日 文政元年　8月18日 晴　(当御廻船の下乗り長柄の者が海上で溺死・その子を新規召抱え)
1818年　9月19日 文政元年　8月19日 快晴　(御賞)
1818年　9月20日 文政元年　8月20日 曇　辰の刻頃より雨時々降　酉の刻過ぎ止ム　(御馬上にて四時過ぎ御発駕、古懸不動尊御出汗)
1818年　9月21日 文政元年　8月21日 曇
1818年　9月22日 文政元年　8月22日 晴　此の頃冷気　(先年唐国に漂流して他領出差留めの飯詰組川代田村の園次郎?が去る15日病死)
1818年　9月23日 文政元年　8月23日 曇　今暁寅の刻過ぎ地震　巳の刻頃より小雨降　未の刻過ぎ止ム
1818年　9月24日 文政元年　8月24日 曇
1818年　9月25日 文政元年　8月25日 曇
1818年　9月26日 文政元年　8月26日 快晴
1818年　9月27日 文政元年　8月27日 曇　未の刻頃より雨降　子の刻過ぎ止る　(例年の通り鴻池又右衛門に一粒金丹20粒下される)
1818年　9月28日 文政元年　8月28日 曇　未の刻頃雷鳴　則刻雨降　夜ニ入る　(此の度大川端御屋敷内に学問所取り建てる)
1818年　9月29日 文政元年　8月29日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入る　亥の刻頃止る　(増館組郷山前村で時疫・施薬願い・阿曽某に申し付ける)
1818年　9月30日 文政元年　9月1日 晴　(去る26日喜良市村で出火・建家並びに外馬屋類焼建馬2疋焼死・火元百姓他村預け、当年出来作)
1818年　10月1日 文政元年　9月2日 快晴　(当8月中日々付相場平均値段:金1両代121文目2分5厘)
1818年　10月2日 文政元年　9月3日 曇　午の刻頃より雨降る　申の刻頃止ム　(当2月に博打の男3人に3鞭宛居村徘徊是まで通り、小間物盗みの男に3鞭弘前町払い)
1818年　10月3日 文政元年　9月4日 曇　辰の刻過ぎ地震少シ　(松前で盗み徒をし入墨の上百敲きを受けて帰された者あり・御刑法を受けているので弘前並びに大場御構いの上他領出差留める)
1818年　10月4日 文政元年　9月5日 晴　(松前で御刑法が相済んだ不埒の男を預けられ縄抜けされた大鰐組石川村の庄屋等に過料)
1818年　10月5日 文政元年　9月6日 晴　今暁丑の刻過ぎより雷鳴　則刻より風雨強　寅の刻過ぎより雷雨共止ム　(御給分譲渡で御給分召上げ永の暇が2人)
1818年　10月6日 文政元年　9月7日 晴　(去る5日朝俵元村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け、銭3貫目で身上を譲り受けた男に3鞭弘前徘徊是まで通り)
1818年　10月7日 文政元年　9月8日 晴　(御賞)
1818年　10月8日 文政元年　9月9日 曇　卯の刻より雨時々降　夜ニ入る　(出精の福眞才助などに金200疋など下される)
1818年　10月9日 文政元年　9月10日 曇　昨夜より之雨今朝に及ぶ　時々降　夜ニ入　亥の刻頃止ム　(去る8日夜青森安方町で出火・都合19軒焼失・火元寺落、御道中福嶋駅辺りまで戻っているな)
1818年 10月10日 文政元年　9月11日 曇　巳の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入る　(大鰐組乳井村並びに薬師堂村より引き上げ山之内大館内七久保の両沢で木品伐荒しあり・両村の者共に過料銭19貫文宛・庄屋五人組にも過料)
1818年 10月11日 文政元年　9月12日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る　子の刻過ぎ止
1818年 10月12日 文政元年　9月13日 曇　酉の刻頃雨降
1818年 10月13日 文政元年　9月14日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　酉の刻頃より雨降　(去る9日夜広須組家調村で出火・建家1軒等焼失・火元百姓居村預け)
1818年 10月14日 文政元年　9月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　卯の刻過ぎ止ム
1818年 10月15日 文政元年　9月16日 晴　今暁霜強し
1818年 10月16日 文政元年　9月17日 晴
1818年 10月17日 文政元年　9月18日 晴　辰の刻地震少シ
1818年 10月18日 文政元年　9月19日 晴　今暁寅の刻過ぎより雨降　卯の刻止　申の刻過ぎ地震少シ
1818年 10月19日 文政元年　9月20日 快晴　(浦町組手代が正月23日夜浦町組郷蔵の庇に夫食米を置いて盗まれる・手代3人に弁償を仰せ付ける、昨19日夜高野村で男が切り殺され犯人も切腹自害)
1818年 10月20日 文政元年　9月21日 快晴　酉の刻過ぎ地震少シ　(山を伐り荒した11村の者共に過料1村より4貫200文宛)
1818年 10月21日 文政元年　9月22日 晴　(去る10日屋形様千住発駕・御老中様方御廻勤の上御着府)
1818年 10月22日 文政元年　9月23日 晴　今暁霜強し　戌の刻より雨降
1818年 10月23日 文政元年　9月24日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム
1818年 10月24日 文政元年　9月25日 晴　子の刻頃より雨降
1818年 10月25日 文政元年　9月26日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　巳の刻頃止ム
1818年 10月26日 文政元年　9月27日 曇　今暁岩木山江初雪見る　戌の刻過ぎより雨時々降る　夜ニ入る　子の刻頃止
1818年 10月27日 文政元年　9月28日 晴
1818年 10月28日 文政元年　9月29日 晴　今暁霜強し　(初鮭1尺来月朔日に上げる:縁起か何かを気にしたのだろうな)
1818年 10月29日 文政元年　9月30日 晴　(江戸で御賞が出ている)
1818年 10月30日 文政元年　10月1日 晴　卯の刻雨降る　則刻止
1818年 10月31日 文政元年　10月2日 晴

1818年　11月1日 文政元年　10月3日 快晴　今暁霜強シ
1818年　11月2日 文政元年　10月4日 曇　今暁卯の刻頃より雨時々降る　夜ニ入る　申の刻過ぎ雷雨強シ　子の刻頃雷止ム
1818年　11月3日 文政元年　10月5日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム　(一昨年の廻船の上乗り下乗りに8両宛差し送り手段米の見逃しを依頼した?)
1818年　11月4日 文政元年　10月6日 晴
1818年　11月5日 文政元年　10月7日 曇　今暁寅の刻より小雨降る　卯の刻過ぎ止ム
1818年　11月6日 文政元年　10月8日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降る　夜に入る
1818年　11月7日 文政元年　10月9日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る　(刻印なしの材木で家作した男に3鞭居村徘徊是まで通り、それを見逃した百沢寺役人に戸〆)
1818年　11月8日 文政元年　10月10日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　夜ニ入る
1818年　11月9日 文政元年　10月11日 曇　昨夜より之雨今暁に及ぶ　卯の刻過ぎ止ム
1818年 11月10日 文政元年　10月12日 晴　酉の刻頃より雨降　夜ニ入る　亥の刻過ぎ雷鳴　即刻雷止ム
1818年 11月11日 文政元年　10月13日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム(晴昨夜より之雨及今暁寅刻頃止ム)
1818年 11月12日 文政元年　10月14日 曇　今暁霜強シ　巳の刻過ぎより小雨時々降る　夜ニ入る　(揚屋入りの者に急病あり・療治方に取り紛れて出奔者出す・揚屋番の町同心の勤料5俵差し引き御城付足軽に役下げ)
1818年 11月13日 文政元年　10月15日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　午の刻過ぎ止ム　(広須組出崎・沖善津両村で時疫・施薬、新穀相場弘前御蔵米1俵に付き23文目5分)
1818年 11月14日 文政元年　10月16日 曇　午の刻頃より雨降　未の刻頃より雪降　戌の刻頃止ム
1818年 11月15日 文政元年　10月17日 曇　今日雪少シ降る　(昨年二月に松34・栗5本を切り取られた村人に過料(小杉2500本を来年までに植付ける)庄屋にも罰、同様の例が10村以上ある)
1818年 11月16日 文政元年　10月18日 曇
1818年 11月17日 文政元年　10月19日 晴
1818年 11月18日 文政元年　10月20日 快晴　今暁子の刻過ぎ雨降　丑の刻頃止ム
1818年 11月19日 文政元年　10月21日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　夜ニ入る　(過分に伐り荒しの村の者共に過料小杉2万8300本の植え付け・庄屋にも罰、同様に4村?)
1818年 11月20日 文政元年　10月22日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　巳の刻頃止ム
1818年 11月21日 文政元年　10月23日 曇
1818年 11月22日 文政元年　10月24日 晴　(過分の伐り荒しの塩釜師に過料銭3貫文・その庄屋に過料銭1貫500文、類似の過料多数)
1818年 11月23日 文政元年　10月25日 快晴　今暁霜強シ　(弘前御蔵米1俵27文目8分7厘・青森御蔵米1俵30目5分9厘・鰺ヶ沢は入札なし、2ヶ所平均29文目3厘4毛(内1文目2分が御定め役引き))
1818年 11月24日 文政元年　10月26日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　巳の刻頃止ム
1818年 11月25日 文政元年　10月27日 晴　今暁霜強シ
1818年 11月26日 文政元年　10月28日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　午の刻頃止ム　(酒1升に付き1文目4分に商売するよう仰せ付ける)
1818年 11月27日 文政元年　10月29日 曇　(去る13日より27日までの新穀相場:米1俵代22文目5分)
1818年 11月28日 文政元年　11月1日 曇　(人事異動)
1818年 11月29日 文政元年　11月2日 曇　今日雪少シ降
1818年 11月30日 文政元年　11月3日 晴　(金を借りて返さない?男2人に3鞭宛弘前徘徊是まで通り・判らないが3鞭兄預け)
1818年　12月1日 文政元年　11月4日 晴　今暁霜強シ
1818年　12月2日 文政元年　11月5日 快晴
1818年　12月3日 文政元年　11月6日 晴
1818年　12月4日 文政元年　11月7日 曇　今日雪降る　二寸程積る
1818年　12月5日 文政元年　11月8日 曇
1818年　12月6日 文政元年　11月9日 曇　(隠し商売の百姓に過料銭50目、類似の者10人余に過料)
1818年　12月7日 文政元年　11月10日 晴
1818年　12月8日 文政元年　11月11日 快晴　(油値段4文目6分に申し付ける)
1818年　12月9日 文政元年　11月12日 曇　(松前に売る米1俵に付き28文目・両替119文目立)
1818年 12月10日 文政元年　11月13日 曇　今日雪少シ降る
1818年 12月11日 文政元年　11月14日 曇　(一昨12日赤田組板屋野木村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け、去る11日の晩浪岡村で灰捨て所より出火・建家1軒焼失・火元百姓村預け)
1818年 12月12日 文政元年　11月15日 曇　今日雪少シ降
1818年 12月13日 文政元年　11月16日 曇　今日雪少シ降る　(去る17日夕八時過ぎ(江戸)浅草寺道あたりより出火・西北の風烈しく大火本所にも飛び火・御屋敷別状なし・翌朝六時過ぎ鎮火・御賞)
1818年 12月14日 文政元年　11月17日 曇　(人事異動、大光寺組金屋村で時疫・御施薬、昨16日夜藤崎村で出火・建家1軒焼失・火元村預け)
1818年 12月15日 文政元年　11月18日 曇
1818年 12月16日 文政元年　11月19日 曇
1818年 12月17日 文政元年　11月20日 曇
1818年 12月18日 文政元年　11月21日 快晴　(人事異動)
1818年 12月19日 文政元年　11月22日 曇　今暁寅の刻頃より小雨降　申の刻過ぎ止ム
1818年 12月20日 文政元年　11月23日 曇　雪少シ降
1818年 12月21日 文政元年　11月24日 曇　巳の六刻冬至入る
1818年 12月22日 文政元年　11月25日 快晴
1818年 12月23日 文政元年　11月26日 晴
1818年 12月24日 文政元年　11月27日 曇　雪少シ降る
1818年 12月25日 文政元年　11月28日 曇　雪少シ降
1818年 12月26日 文政元年　11月29日 曇
1818年 12月27日 文政元年　12月1日 曇　午の刻過ぎより雨降る　夜に入る
1818年 12月28日 文政元年　12月2日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1818年 12月29日 文政元年　12月3日 曇　辰の刻過ぎより雨降　巳の刻過ぎ止ム
1818年 12月30日 文政元年　12月4日 晴
1818年 12月31日 文政元年　12月5日 曇　戌の刻頃より雨降

1819年　1月1日 文政元年　12月6日 晴　昨夜より之雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1819年　1月2日 文政元年　12月7日 晴　今暁霜強シ　戌の刻頃より雨降　夜ニ入る
1819年　1月3日 文政元年　12月8日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　時々降る　申の刻過ぎ止ム　（居土村の茅仕立て場に大勢入り込み茅を刈り取った石川村の者共に過料銭2貫文、隠し小売酒の男3人に過料50目宛）
1819年　1月4日 文政元年　12月9日 曇
1819年　1月5日 文政元年　12月10日 曇　（今夜五半時耕春院出火、昨夜猿賀組蒲田村で灰捨て所より出火・建家並びに外馬屋焼失・火元高無村預け）
1819年　1月6日 文政元年　12月11日 曇　雪少シ降る　申の三刻寒入る　（佐藤運右衛門を勘定奉行に等の人事異動、昨夜耕春院の寺廻り残らず焼失・禁足）
1819年　1月7日 文政元年　12月12日 快晴　（大光寺組金屋・中里村で時疫・尾上村の在医に施薬仰付ける、去々11月27日夜蔵館村土蔵より米盗んだ男に30鞭10里四方追放大場御構い・その仲間に3鞭　欄外(*)に続く
1819年　1月8日 文政元年　12月13日 晴
1819年　1月9日 文政元年　12月14日 晴　（去る8日夜後潟組大川平村で出火・不分明に付き再調査を命ずる）
1819年　1月10日 文政元年　12月15日 晴　昨夜雪二寸程積る　（堀端を通る際に石を投げ込むなとの御目付触れ）
1819年　1月11日 文政元年　12月16日 曇　（当6月無刻印の木舞をつけて通り腰縄を解いて逃げ去った男に15鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料、盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り、所々で盗みの男に　欄外(**)に続く
1819年　1月12日 文政元年　12月17日 晴　（去る12日昼十三前潟で子供達が氷踏み抜く・女子4人(3歳・4歳・6才・9歳)死亡、一昨日常盤村で出火・居宅焼失・火元村預け）　下から続く　鯵ヶ沢白八幡宮司が切殺される）
1819年　1月13日 文政元年　12月18日 晴　（去る14日夕より翌15日朝までに十三潟が大湊口より小股川尻まで残らず氷張る・去年は11月25日夕より翌26日朝まで氷張る・日数に引合19日遅く節に引合7日遅い、　上に続く
1819年　1月14日 文政元年　12月19日 晴　（去る8日後潟組大川平村で出火・家財穀物等焼失・火元高無村預け）　下から続く　弘前町払い、米銭過分引負の庄屋2人に500日の牢居追って御片付・過料も）
1819年　1月15日 文政元年　12月20日 晴　（当10月手段米の男2人に15鞭宛所払い外ヶ浜4ヶ組並びに浦々御構い、町払いを戻ってまた盗みの男に6鞭弘前御構い、盗み男に3鞭親預け、盗品配分の男に3鞭　上に続く
1819年　1月16日 文政元年　12月21日 快晴
1819年　1月17日 文政元年　12月22日 曇　雪少シ降　（一昨日広須組夕日岡村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け）
1819年　1月18日 文政元年　12月23日 曇
1819年　1月19日 文政元年　12月24日 曇　雪少シ降　（御賞、去る20日夜木造新田弓袋村で出火・建家等焼失・火元百姓村預け）
1819年　1月20日 文政元年　12月25日 曇　雪少シ降
1819年　1月21日 文政元年　12月26日 曇　雪少シ降る　（過取立ての庄屋に庄屋取放しの上27鞭7里四方追放家屋敷等は妻子に・もう1人の庄屋に18鞭所払い家屋敷等は妻子に・関係手代に慎み30日）
1819年　1月22日 文政元年　12月27日 曇　昨夜より雪降　七寸程積る
1819年　1月23日 文政元年　12月28日 曇　昨夜より雪降る　五寸程積る　今日雪少シ降る　（人事異動、御賞、当作骭熟作・米価下値にて……）
1819年　1月24日 文政元年　12月29日 曇　昨夜雪降　二寸程積る　（昨28日大鰐組久吉村で出火・居宅焼失・火元村預け）
1819年　1月25日 文政元年　12月30日 曇　昨夜雪降る　四寸程積る
1819年　1月26日 文政2年　正月1日　曇　昨夜雪降　二寸程積
1819年　1月27日 文政2年　正月2日　曇　昨夜雪降　五寸程積　今朝雪吹強し
1819年　1月28日 文政2年　正月3日　曇　昨夜雪降　一寸程積
1819年　1月29日 文政2年　正月4日　曇　昨夜雪降　六寸程積　今日雪降　四寸程積
1819年　1月30日 文政2年　正月5日　曇　今日雪少し降　（今暁四時過ぎ御家中宅から出火・否や鎮火、金5両2人扶持（他に賄い料10両2人扶持）で相撲を新規召抱え）
1819年　1月31日 文政2年　正月6日　晴
1819年　2月1日 文政2年　正月7日　曇　午の刻頃より雨降　夜ニ入　亥の刻頃止　則刻より雪吹強し　（この節厚雪に付き長柄の者などで非番の者より雪下げ御手伝い）
1819年　2月2日 文政2年　正月8日　曇　今日雪吹強し　二寸程積
1819年　2月3日 文政2年　正月9日　曇　今日雪降　弐寸程積
1819年　2月4日 文政2年　正月10日　曇　今日雪吹　壱寸余積
1819年　2月5日 文政2年　正月11日　晴
1819年　2月6日 文政2年　正月12日　曇　今日雪少し降
1819年　2月7日 文政2年　正月13日　曇　昨夜より雪降　弐寸程積　今日雪少し降
1819年　2月8日 文政2年　正月14日　曇　今日雪少し降
1819年　2月9日 文政2年　正月15日　曇　今日雪少し降　（去る11日夜金木組嘉瀬村で出火・外馬屋焼失・火元百姓戸〆、去る9日暮和徳組津賀野村で出火・建家馬屋焼失・火元百姓居村預け）
1819年　2月10日 文政2年　正月16日　曇　今日雪弐寸余積
1819年　2月11日 文政2年　正月17日　曇　昨夜雪降　三寸程積　今日雪降　弐寸程積
1819年　2月12日 文政2年　正月18日　快晴
1819年　2月13日 文政2年　正月19日　曇　今日雪吹強し　下から続く　新地町で女の舌に喰付く事件あり）
1819年　2月14日 文政2年　正月20日　曇　昨夜雪降　壱寸程積　今日雪少し降　（一昨日駒越組中野村で出火・居宅焼失・火元百姓村預け、造酒米1俵21文目・酒1升に付き1文目4分に申し付ける、鯵ヶ沢の　上に続く
1819年　2月15日 文政2年　正月21日　快晴
1819年　2月16日 文政2年　正月22日　曇　昨夜雪降　弐寸程積
1819年　2月17日 文政2年　正月23日　曇　今日雪少し降　（江戸で多数に御賞）
1819年　2月18日 文政2年　正月24日　曇　今日雪少し降
1819年　2月19日 文政2年　正月25日　曇　昨夜雪降　弐寸程積　今日雪少し降
1819年　2月20日 文政2年　正月26日　曇　今日雪降　壱寸程積
1819年　2月21日 文政2年　正月27日　曇　昨夜雪降　壱寸程積　今日雪少し降　（昨日赤田組大性村で出火・居宅焼失・火元高無村預け）
1819年　2月22日 文政2年　正月28日　曇　今日雪降　壱寸余積　（棟方十左衛門を御留守居組頭に等の人事異動）
1819年　2月23日 文政2年　正月29日　快晴　（昨日平岡町で出火・早速取鎮める）
1819年　2月24日 文政2年　2月1日　曇　今日雪少し降　（御賞）
1819年　2月25日 文政2年　2月2日　曇　今日雪吹　頃日春寒
1819年　2月26日 文政2年　2月3日 快晴　下から続く　犯人逃亡、国上寺門前で昨夜出火・建家等焼失馬1疋焼死・火元慎み）
1819年　2月27日 文政2年　2月4日 快晴　昨夜雪少し降　（去る10月?別段締り役が取押さえた米等：米8俵馬6疋・米4俵馬2疋・米2俵牛1疋・米1俵・桧2尺柾1900枚2尺5寸柾500枚・名前が判る者も含めて　上に続く
1819年　2月28日 文政2年　2月5日 快晴　（種里御旧跡に柵立出来）

(*) 居村徘徊是まで通り・2人に27鞭7里(1人については厘に見える)四方追放家屋敷等は妻子に・3人に24鞭5里四方追放家屋敷等は妻子に・27鞭の妻に15鞭居村徘徊是まで通り、青森乞食小屋から盗みの男を乞食手に相下げる、宿から盗みの男に3鞭弘前町払い)

(**)3鞭居村徘徊これまで通り、西坂御番所より大小を盗み取り質入れの以前諸手足軽に300日入牢の上取上御仕置場で鞭計30鞭10里四方追放大場御構、当9月無尽の後に博奕の3人に3鞭宛居町徘徊これまで通り・関係の五軒組合にも過料900文宛）

1819年　3月1日 文政2年　2月6日 快晴　頃日暖気　(去る3月18日夜猿賀深砂宮から太刀脇差を盗み取った男に300日の牢居・その父に慎み)
1819年　3月2日 文政2年　2月7日 曇　未の刻頃より小雨降　夜入
1819年　3月3日 文政2年　2月8日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(……都合28720両余の御借財の所江……)
1819年　3月4日 文政2年　2月9日 曇　昨夜雪降　三寸程積　(無刻印の木品所持し名前を偽った男に6鞭居村徘徊是まで通り・この庄屋に過料銭500文)
1819年　3月5日 文政2年　2月10日 快晴　(人事異動)
1819年　3月6日 文政2年　2月11日 快晴
1819年　3月7日 文政2年　2月12日 曇　今暁丑の刻過ぎ雨時々降　未の刻頃止　即刻頃霰降
1819年　3月8日 文政2年　2月13日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　寅の刻過ぎ止　今日雪降　弐寸程積
1819年　3月9日 文政2年　2月14日 曇　今日雪少し降
1819年　3月10日 文政2年　2月15日 晴　昨夜雪降　壱寸余積　(御賞)
1819年　3月11日 文政2年　2月16日 快晴
1819年　3月12日 文政2年　2月17日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入
1819年　3月13日 文政2年　2月18日 曇　昨夜より之雨今暁丑の刻頃止　(正月26日学問所開業)
1819年　3月14日 文政2年　2月19日 晴
1819年　3月15日 文政2年　2月20日 曇　昨夜雪降　壱寸余積
1819年　3月16日 文政2年　2月21日 快晴
1819年　3月17日 文政2年　2月22日 快晴
1819年　3月18日 文政2年　2月23日 快晴
1819年　3月19日 文政2年　2月24日 曇　昨夜子の刻頃雨降　卯の刻頃止　今日水雪降
1819年　3月20日 文政2年　2月25日 晴
1819年　3月21日 文政2年　2月26日 晴　(去る11月御家中宅に忍び入り盗みの男に6鞭居村徘徊是まで通り)
1819年　3月22日 文政2年　2月27日 曇　今日雪降　弐寸程積　(一粒金丹の有り合せ不足・石黒某・伊崎某に調合させる)
1819年　3月23日 文政2年　2月28日 曇　昨夜雪降　弐寸程積　今日雪少し降
1819年　3月24日 文政2年　2月29日 快晴　(御賞)
1819年　3月25日 文政2年　2月30日 快晴
1819年　3月26日 文政2年　3月1日 快晴　戌の刻より小雨降　夜ニ入
1819年　3月27日 文政2年　3月2日 晴　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止
1819年　3月28日 文政2年　3月3日 曇　今日霰少し降
1819年　3月29日 文政2年　3月4日 快晴
1819年　3月30日 文政2年　3月5日 晴　昨夜雪降　壱寸程積
1819年　3月31日 文政2年　3月6日 快晴　昨夜戌の刻頃より雨降　夜ニ入
1819年　4月1日 文政2年　3月7日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻頃止
1819年　4月2日 文政2年　3月8日 曇　今暁寅の刻頃地震　(赤石組中村深山宮で出火・社司の居宅焼失・火元慎み)
1819年　4月3日 文政2年　3月9日 快晴　(去月13日舞戸村で能登船が破船・救助者に御賞)
1819年　4月4日 文政2年　3月10日 曇　未の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(去る4日夕より翌5日朝までに十三潟大湊川尻より高根沖小股川尻まで残らず氷明ける・去年と日数で引合い10日遅く節に引合い2日早い)
1819年　4月5日 文政2年　3月11日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃止
1819年　4月6日 文政2年　3月12日 晴
1819年　4月7日 文政2年　3月13日 快晴　(去る10月に御山で所々伐り荒した男に6鞭居村徘徊是まで通り)
1819年　4月8日 文政2年　3月14日 曇　昨夜子の刻頃より雨時々降　午の刻過ぎ止　(岩木川出水・駒越渡場馬船並びに長船往来差留める)
1819年　4月9日 文政2年　3月15日 快晴
1819年　4月10日 文政2年　3月16日 快晴　今暁霜強　戌の五刻月蝕皆既
1819年　4月11日 文政2年　3月17日 快晴　今暁霜強し
1819年　4月12日 文政2年　3月18日 快晴　(御賞、去る春より増館組郷山前村で時疫・樽沢村奥村某が施薬・病気快気)
1819年　4月13日 文政2年　3月19日 快晴　(当2月に金木村で越中の男病死)
1819年　4月14日 文政2年　3月20日 曇　卯の刻過ぎより小雨時々降　申の刻過ぎ止
1819年　4月15日 文政2年　3月21日 晴　(御家御秘法一粒金丹の儀は元来池田丹波守様御秘伝の所妙心院(津軽信政)様御代……この次は石黒・伊崎ばかりでなく私も入れるよう和田友輔が申し出る)
1819年　4月16日 文政2年　3月22日 快晴　(昨夜堀越組門外村で出火・建家木小屋等焼失・火元高無村預け、去る19日木造新田大館村で出火・建家等焼失・火元村預け)
1819年　4月17日 文政2年　3月23日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1819年　4月18日 文政2年　3月24日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(昨夜駒越組中畑村で出火・秣所焼失・火元百姓戸〆)
1819年　4月19日 文政2年　3月25日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止　(石渡川4歩半の出水・馬船小船往来相成り兼ねる)
1819年　4月20日 文政2年　3月26日 快晴　(町払いから立ち帰りまた盗み等の男に6鞭弘前町払い)
1819年　4月21日 文政2年　3月27日 快晴　(石渡川が4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める)
1819年　4月22日 文政2年　3月28日 快晴
1819年　4月23日 文政2年　3月29日 快晴　(去る12月浦町組高田村で盗みの男に30鞭親預け、過分の米(160俵余)銭(3貫620目余)引負の庄屋に500日の牢居)
1819年　4月24日 文政2年　4月1日 快晴
1819年　4月25日 文政2年　4月2日 快晴　今暁霜強
1819年　4月26日 文政2年　4月3日 曇　巳の刻頃より雨時々降　夜入　　下から続く　　家屋敷等闕所)
1819年　4月27日 文政2年　4月4日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止　(去月29日飯詰組で出火取鎮・火元百姓慎、金木組で桧5000本を盗伐の頭取に500日牢居30鞭10里四方追放大場御構　　上に続く
1819年　4月28日 文政2年　4月5日 快晴
1819年　4月29日 文政2年　4月6日 快晴
1819年　4月30日 文政2年　4月7日 曇　未の刻過ぎより小雨時々降　夜ニ入

1819年　5月1日 文政2年　　4月8日 晴　昨夜よりの雨今暁寅の刻過ぎ止
1819年　5月2日 文政2年　　4月9日 曇　今暁霜強し　申の刻過ぎより雨降　亥の刻過ぎ止
1819年　5月3日 文政2年　　4月10日 晴　(叔父三上某を殺害入牢中の男牢死)
1819年　5月4日 文政2年　　4月11日 晴　今暁霜強し
1819年　5月5日 文政2年　　4月12日 晴　(御家老等が西之郭より北の丸御菜園地それより御鷹部屋まで見分、去月5日大光寺組中佐渡村の高無1家4人出奔)
1819年　5月6日 文政2年　　4月13日 快晴　　下から続く　　下々の熊皮1枚下される、大釈迦村猟師金右衛門と油川組猟師頭太兵衛の組も熊3疋刈り取る)
1819年　5月7日 文政2年　　4月14日 曇　午の刻過ぎ小雨降　則刻止　申の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(当年は赤石組壱ッ森村の猟師頭辰蔵と大鰐組居土村の猟師頭孫十郎が熊3疋取る・御賞並びに　　上に続く
1819年　5月8日 文政2年　　4月15日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(松前表で博打米1俵盗み御刑法(当2月出牢片鬢剃落し入墨)が済んだ男が送り返される・以来松前行き差留め青森徘徊是まで通り)
1819年　5月9日 文政2年　　4月16日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　戌の刻頃止
1819年　5月10日 文政2年　　4月17日 曇　(去る12日夜浦町組荒川村で出火・木小屋焼失・火元百姓戸〆)
1819年　5月11日 文政2年　　4月18日 曇
1819年　5月12日 文政2年　　4月19日 快晴
1819年　5月13日 文政2年　　4月20日 曇　辰の刻過ぎより小雨降　則刻止　(切支丹類族小泊村長松従弟かな病死・死骸別状なし、当正月18日鯵ヶ沢で遊女?の舌を噛み男が自害した事件が書いてある)
1819年　5月14日 文政2年　　4月21日 晴　(横内組宮崎村の猟師頭門兵衛が熊胆干し目方47文目上納)
1819年　5月15日 文政2年　　4月22日 快晴
1819年　5月16日 文政2年　　4月23日 快晴
1819年　5月17日 文政2年　　4月24日 快晴
1819年　5月18日 文政2年　　4月25日 快晴
1819年　5月19日 文政2年　　4月26日 快晴　(今日御道中山形兼江戸表江御飛脚差し立てる)
1819年　5月20日 文政2年　　4月27日 曇　未の刻雨降　夜ニ入　戌の刻頃止　申の刻頃雷鳴　則刻止
1819年　5月21日 文政2年　　4月28日 曇
1819年　5月22日 文政2年　　4月29日 晴　今暁丑の刻頃雨降　卯の刻頃止　寅の刻頃雷鳴　則刻止　(差し渡し3尺の栗を隠伐の男に過料銭1貫800文・庄屋に過料銭600文、来る24日若殿様が屋形様の名代で江戸を発駕)
1819年　5月23日 文政2年　　4月30日 快晴　(昨29日嘉瀬村浄土庵が出火)
1819年　5月24日 文政2年 閏4月1日　快晴　(人事異動)
1819年　5月25日 文政2年 閏4月2日　快晴　(去月29日焼失の庵は無住)
1819年　5月26日 文政2年 閏4月3日　晴
1819年　5月27日 文政2年 閏4月4日　曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止
1819年　5月28日 文政2年 閏4月5日　曇　(御名代若殿様御下向に付き二の丸時太鼓の釣替えを伺っている)
1819年　5月29日 文政2年 閏4月6日　晴
1819年　5月30日 文政2年 閏4月7日　曇　辰の刻頃より雨時々降　未の刻過ぎ止
1819年　5月31日 文政2年 閏4月8日　曇　今暁丑の刻雷鳴　即刻止　同刻より雨降　午の刻過ぎ止　(御賞)
1819年　6月1日 文政2年 閏4月9日　曇　今暁寅の刻頃小雨降　卯の刻過ぎ止
1819年　6月2日 文政2年 閏4月10日 晴
1819年　6月3日 文政2年 閏4月11日 晴　(人事異動)
1819年　6月4日 文政2年 閏4月12日 晴
1819年　6月5日 文政2年 閏4月13日 快晴　(八つ時過ぎ若殿様が山吹の間江御着座)
1819年　6月6日 文政2年 閏4月14日 曇　卯の刻頃より小雨降　未の刻頃止
1819年　6月7日 文政2年 閏4月15日 晴　戌の刻過ぎより雨降　亥の刻過ぎ止
1819年　6月8日 文政2年 閏4月16日 曇　未の刻頃より小雨時々降　酉の刻頃止
1819年　6月9日 文政2年 閏4月17日 晴
1819年　6月10日 文政2年 閏4月18日 曇　辰の刻頃雨降　則刻止
1819年　6月11日 文政2年 閏4月19日 晴　亥の刻過ぎ地震少し　(去月17日油川組寺内村の1家8人出奔)
1819年　6月12日 文政2年 閏4月20日 曇　亥の刻過ぎより雨降
1819年　6月13日 文政2年 閏4月21日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　未の刻過ぎ止　(九時過ぎ松森町出火・物置1ヶ所焼失東隣の小屋取り潰し・火元締め油家業戸〆)
1819年　6月14日 文政2年 閏4月22日 快晴
1819年　6月15日 文政2年 閏4月23日 晴
1819年　6月16日 文政2年 閏4月24日 晴　((日付不明)浪岡組吉内村で出火・類焼とも2軒焼失・火元百姓他村預け)
1819年　6月17日 文政2年 閏4月25日 晴
1819年　6月18日 文政2年 閏4月26日 快晴
1819年　6月19日 文政2年 閏4月27日 曇　申の刻頃雨降　即刻止
1819年　6月20日 文政2年 閏4月28日 晴
1819年　6月21日 文政2年 閏4月29日 曇　申の刻頃雨降　則刻止
1819年　6月22日 文政2年　　5月1日 晴　(人事異動、公儀御尋者の人相書きあり)
1819年　6月23日 文政2年　　5月2日 晴　今暁丑の二刻夏至入
1819年　6月24日 文政2年　　5月3日 曇　申の刻過ぎ小雨降　即刻止
1819年　6月25日 文政2年　　5月4日 晴　(三之丸馬場で御家中の射芸高覧)
1819年　6月26日 文政2年　　5月5日 快晴
1819年　6月27日 文政2年　　5月6日 曇　午の刻頃より雨降　則刻止
1819年　6月28日 文政2年　　5月7日 晴　(御賞)
1819年　6月29日 文政2年　　5月8日 曇　辰の刻より小雨時々降　未の刻過ぎ止　(今日射芸高覧、広須・木造両組の高地の田方が渇水で此の節まで植付け相成りかねる)
1819年　6月30日 文政2年　　5月9日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(大鰐より例年の初茄子真瓜差上げる)

1819年　7月1日 文政2年　5月10日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻頃止　（去る夏尾崎組広船村・大光寺組新屋村で時疫・尾上村尾崎村在医に施薬を仰せ付け快気・御賞）
1819年　7月2日 文政2年　5月11日 晴
1819年　7月3日 文政2年　5月12日 曇　午の刻過ぎ雷鳴　即刻止　（三之丸馬場で御家中の射芸高覧）
1819年　7月4日 文政2年　5月13日 曇　未の刻過ぎ雨降　申の刻頃止
1819年　7月5日 文政2年　5月14日 曇　午の刻過ぎ小雨降　申の刻頃止
1819年　7月6日 文政2年　5月15日 曇　（今日三之丸御屋形で御囃子）
1819年　7月7日 文政2年　5月16日 曇　未の刻頃小雨降　即刻止
1819年　7月8日 文政2年　5月17日 曇　巳の刻頃小雨降　則刻止　（主に下向に関する御賞）
1819年　7月9日 文政2年　5月18日 曇　今暁丑の刻過ぎ雨降　寅の刻過ぎ止　（外馬場で馬術高覧）
1819年　7月10日 文政2年　5月19日 快晴　（御賞）
1819年　7月11日 文政2年　5月20日 快晴　（広須・木作両組で植付できない田方が350町歩余あったが去る10日の雨で121町歩余植付け）
1819年　7月12日 文政2年　5月21日 晴　（松木伐取り3000本に加えて220本隠伐りの70歳の庄屋に9鞭の贖い銭4貫800文庄屋取放し・五人組にも）
1819年　7月13日 文政2年　5月22日 快晴
1819年　7月14日 文政2年　5月23日 快晴
1819年　7月15日 文政2年　5月24日 快晴　（人事異動、御賞）
1819年　7月16日 文政2年　5月25日 快晴
1819年　7月17日 文政2年　5月26日 快晴　（昨年無手形米の男6人に6鞭宛居村徘徊是まで通り・これを助けた馬喰の馬喰取放し過料銭1貫800文）
1819年　7月18日 文政2年　5月27日 曇　未の刻過ぎ雷鳴　即刻止　同刻より雨降　申の刻過ぎ止　（今日舞台で御囃子）
1819年　7月19日 文政2年　5月28日 曇　午の刻過ぎ雷鳴　則刻小雨降　未の刻頃雷雨止　（八時の御供揃えで外馬場で馬術高覧）
1819年　7月20日 文政2年　5月29日 晴　巳の八刻土用入る
1819年　7月21日 文政2年　5月30日 晴
1819年　7月22日 文政2年　6月1日 晴　（御賞）
1819年　7月23日 文政2年　6月2日 曇　昨夜亥の刻過ぎより雨降　今暁寅の刻過ぎ止ム　未の刻頃より雨降　夜ニ入
1819年　7月24日 文政2年　6月3日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　申の刻頃雷鳴　則刻止
1819年　7月25日 文政2年　6月4日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　午の刻過ぎ止
1819年　7月26日 文政2年　6月5日 曇　申の刻過ぎ雨降　酉の刻頃止　（一昨3日昼9時頃蔵館大日尊が御出汗）
1819年　7月27日 文政2年　6月6日 曇　申の刻過ぎ雨降　夜入
1819年　7月28日 文政2年　6月7日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止　（青田の内笛吹くなとの触れ）
1819年　7月29日 文政2年　6月8日 曇　巳の刻過ぎ小雨降　午の刻頃止　（御賞）
1819年　7月30日 文政2年　6月9日 曇　申の刻過ぎ雨降　戌の刻頃止
1819年　7月31日 文政2年　6月10日 曇　巳の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止ム
1819年　8月1日 文政2年　6月11日 快晴
1819年　8月2日 文政2年　6月12日 快晴　（今日舞台で御囃子）
1819年　8月3日 文政2年　6月13日 快晴
1819年　8月4日 文政2年　6月14日 晴
1819年　8月5日 文政2年　6月15日 快晴　（大鰐村より初穂差出す、小湊宿より三厩宿までなどの人馬賃銭を去る戌年7月より当卯年6月まで5カ年間2割り増しを申渡したが今後5ヵ年も同様との申渡し）
1819年　8月6日 文政2年　6月16日 快晴　（女衒でもしたのかな御構いの地に入り込み不届きの男に9鞭10里四方追放大場御構い・その仲間に6鞭弘前町払い家財は妻子に）
1819年　8月7日 文政2年　6月17日 快晴
1819年　8月8日 文政2年　6月18日 快晴
1819年　8月9日 文政2年　6月19日 快晴　（金繰りが難しい話があるが良く判らない）
1819年　8月10日 文政2年　6月20日 快晴
1819年　8月11日 文政2年　6月21日 快晴
1819年　8月12日 文政2年　6月22日 快晴
1819年　8月13日 文政2年　6月23日 快晴
1819年　8月14日 文政2年　6月24日 快晴　（昨夜和徳組冨田村で出火・建家外馬屋焼失類焼あり・外馬屋の内で諸手足軽白取某の弟焼死・火元他村預け）
1819年　8月15日 文政2年　6月25日 快晴　（冨田村出火の際の御賞）
1819年　8月16日 文政2年　6月26日 快晴
1819年　8月17日 文政2年　6月27日 快晴
1819年　8月18日 文政2年　6月28日 晴
1819年　8月19日 文政2年　6月29日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止　（盗み質入の男に3鞭居村徘徊是まで通り）
1819年　8月20日 文政2年　6月30日 晴
1819年　8月21日 文政2年　7月1日 晴　（人事異動）
1819年　8月22日 文政2年　7月2日 晴
1819年　8月23日 文政2年　7月3日 晴　（今日浪之間で御囃子）
1819年　8月24日 文政2年　7月4日 曇　辰の刻過ぎより雨時々降　巳の刻頃雷鳴　午の刻頃雷止　申の刻過ぎ雨止　（御引き上げ山え入り込み枯れ木を伐った男に過料銭1貫文・庄屋等村中の者共にも）
1819年　8月25日 文政2年　7月5日 曇　（尾太銀山より山吹銀目形905匁6分差出す）
1819年　8月26日 文政2年　7月6日 晴　酉の刻過ぎ雨降　則刻止
1819年　8月27日 文政2年　7月7日 晴　（明8日御初米差上げる・閏4月11日植付当月5日まで日数84日で鎌入れ）
1819年　8月28日 文政2年　7月8日 晴　（今日大鰐村より御初米差上げる・去年5月7日に植付け7月25日鎌入れまで78日・当年は6日遅い・節に引き合い1日早い）
1819年　8月29日 文政2年　7月9日 晴
1819年　8月30日 文政2年　7月10日 曇　亥の刻過ぎ小雨降　則刻止
1819年　8月31日 文政2年　7月11日 曇　辰の刻頃小雨降　則刻止　酉の刻過ぎ雨降　戌の刻頃止　（御賞）

1819年　9月1日 文政2年　7月12日 曇 （油1升に付き3匁6分に仰せ付ける、去る10日夜青森安方町で失火・早速取鎮める・火元戸〆）
1819年　9月2日 文政2年　7月13日 曇 申の刻頃より小雨降　則刻過ぎ止
1819年　9月3日 文政2年　7月14日 曇 申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　今暁丑ノ刻過ぎ止
1819年　9月4日 文政2年　7月15日 晴
1819年　9月5日 文政2年　7月16日 晴
1819年　9月6日 文政2年　7月17日 快晴
1819年　9月7日 文政2年　7月18日 曇 辰の刻頃雨降　申の刻過ぎ止
1819年　9月8日 文政2年　7月19日 晴
1819年　9月9日 文政2年　7月20日 曇 午の刻より雨時々降　夜入
1819年 9月10日 文政2年　7月21日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　酉の刻過ぎ止 （人事異動、御賞、今日三之丸御屋形で角力高覧）
1819年 9月11日 文政2年　7月22日 晴
1819年 9月12日 文政2年　7月23日 晴
1819年 9月13日 文政2年　7月24日 曇 辰の刻頃より雨時々降　夜ニ入る （去る9日御用人楠美荘司病死、御賞）
1819年 9月14日 文政2年　7月25日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止 （一昨夜高杉組小嶋村で出火・建家等焼失・火元高無）
1819年 9月15日 文政2年　7月26日 晴 酉の刻頃より雨降　則刻止
1819年 9月16日 文政2年　7月27日 晴
1819年 9月17日 文政2年　7月28日 晴 （御賞）
1819年 9月18日 文政2年　7月29日 曇 申の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1819年 9月19日 文政2年　8月1日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （人事異動、近来米値段下値・諸式の値段は高値に付き……、これまでの小判金はうすくて折れやすい?目方を買えず厚めに吹きなおした?）
1819年 9月20日 文政2年　8月2日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻頃止 （岩木山苔実百沢寺より差上げる）
1819年 9月21日 文政2年　8月3日 晴 （夕方御舞台で御囃子御稽古）
1819年 9月22日 文政2年　8月4日 曇 今暁寅の刻頃雷雨　辰の刻過ぎ止 （今日御舞台で御囃子、福眞才吉を板屋野木御蔵奉行?に）
1819年 9月23日 文政2年　8月5日 曇 午の刻頃より小雨降　即刻止
1819年 9月24日 文政2年　8月6日 曇 辰の刻頃より小雨降　同刻過ぎ止　亥の刻頃より雨降　夜ニ入
1819年 9月25日 文政2年　8月7日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1819年 9月26日 文政2年　8月8日 晴 昨夜より雨　今暁丑の刻頃止
1819年 9月27日 文政2年　8月9日 晴 （今日五半時御供揃えで外馬場で馬術高覧）
1819年 9月28日 文政2年　8月10日 快晴
1819年 9月29日 文政2年　8月11日 晴
1819年 9月30日 文政2年　8月12日 曇 未の刻頃より雨降　夜ニ入 （赤石組黒崎村領の山中に小屋がけで隠し猟する者あり・誤解だったみたい）
1819年 10月1日 文政2年　8月13日 晴 昨夜より雨　今暁丑の刻頃止
1819年 10月2日 文政2年　8月14日 晴
1819年 10月3日 文政2年　8月15日 晴 亥の七刻月蝕皆既 （八幡宮祭礼・御物見所に入る）
1819年 10月4日 文政2年　8月16日 快晴
1819年 10月5日 文政2年　8月17日 晴 （人事異動、去る14日夜浦町組高田村で出火・類焼とも17軒その他焼失・火元高無他村預け）
1819年 10月6日 文政2年　8月18日 快晴
1819年 10月7日 文政2年　8月19日 快晴
1819年 10月8日 文政2年　8月20日 曇 巳の刻過ぎより雨降　夜ニ入　子の刻頃止 （人事異動）
1819年 10月9日 文政2年　8月21日 快晴
1819年 10月10日 文政2年　8月22日 晴
1819年 10月11日 文政2年　8月23日 曇 今暁寅の刻より小雨降　辰の刻過ぎ止 （昨21日八時過ぎ鰺ヶ沢濱町で下女が殺害される・殺した男も手負いの上縊死）
1819年 10月12日 文政2年　8月24日 曇 今暁丑の刻頃雷鳴　則刻止　同刻過ぎより雨時々降　夜ニ入る　今朝岩木山江初て雪見る （昨23日高杉組鬼沢村で出火・建家等焼失・火元高無村預け）
1819年 10月13日 文政2年　8月25日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻頃止
1819年 10月14日 文政2年　8月26日 晴
1819年 10月15日 文政2年　8月27日 快晴
1819年 10月16日 文政2年　8月28日 快晴 午の刻過ぎ地震少し　戌の刻頃より雨降 （石郷岡某を御使番に等の人事異動）
1819年 10月17日 文政2年　8月29日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止
1819年 10月18日 文政2年　8月30日 曇 酉の刻過ぎより雨降
1819年 10月19日 文政2年　9月1日 晴 昨夜より雨　今暁丑の刻過ぎ止　酉の六刻土用入 （黒滝某を御使番に等の人事異動）
1819年 10月20日 文政2年　9月2日 曇 今暁霜強　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （三国屋等の仕込み味噌を銭10文目に付き目形7貫目で望みの者に売貸）
1819年 10月21日 文政2年　9月3日 曇 昨夜より雨　今日午の刻頃に及び止む(曇　昨夜より雨今日及午刻頃止） （所々で盗み徒の男に6鞭親預け、銭催促に行き受取った銭を渡さなかった男に6鞭弘前町払い）
1819年 10月22日 文政2年　9月4日 晴
1819年 10月23日 文政2年　9月5日 晴
1819年 10月24日 文政2年　9月6日 曇 酉の刻過ぎより雨降　夜ニ入 （外馬場で乗馬高覧）
1819年 10月25日 文政2年　9月7日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入 （当8月中日々付け相場平均値段:金1両に付き118文目9分8厘）
1819年 10月26日 文政2年　9月8日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜入る(曇　昨夜より雨今日及時々降夜入る） （去る5日青森安方で漁師出火・早速取鎮める）
1819年 10月27日 文政2年　9月9日 曇 昨夜より雨今日ニ及ぶ　時々降　申の刻頃止(曇　昨夜より雨今日ニ及時々降申刻頃止）
1819年 10月28日 文政2年　9月10日 晴
1819年 10月29日 文政2年　9月11日 晴 （甲斐守様より川鮭1尺下し置かれる）
1819年 10月30日 文政2年　9月12日 晴
1819年 10月31日 文政2年　9月13日 快晴　今暁霜強し （所々で盗み徒の男に3鞭弘前町払い）

1819年　11月1日 文政2年　　9月14日 晴　(当3月に自宅で博打の男2人に過料銭1貫800文)　　下から続く　　当御廻船の大坂船常州中野沖で荷打ち銚子湊に入津・見分に勘定小頭御徒目付津軽屋三右衛門手代を派遣)
1819年　11月2日 文政2年　　9月15日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　夜ニ入る　(惣与力・御徒目付以下の小役の者は御用人以上に対し下座(座より下りて平伏・地面であれば土下座)するよう触れ、御賞、　　上に続く
1819年　11月3日 文政2年　　9月16日 曇　昨夜より雨　今暁寅の刻頃止
1819年　11月4日 文政2年　　9月17日 曇　辰の刻頃より小雨降　巳の刻頃止　(薬王院境内笹森町裏通りの加羅堀(空堀)江近辺より塵芥……)
1819年　11月5日 文政2年　　9月18日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(別段御用に御賞)
1819年　11月6日 文政2年　　9月19日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入
1819年　11月7日 文政2年　　9月20日 曇　昨夜より雨今日ニ及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止
1819年　11月8日 文政2年　　9月21日 晴　(去る17日夜四つ時頃青森松森町で出火・九時頃鎮める・類焼とも5軒焼失潰家4軒・火元寺落)
1819年　11月9日 文政2年　　9月22日 晴
1819年 11月10日 文政2年　　9月23日 晴　(御献上の蝋燭の燃え方の吟味が不届きとして役下げや御給分召上げ永の暇あり)
1819年 11月11日 文政2年　　9月24日 晴　今暁霜強し
1819年 11月12日 文政2年　　9月25日 晴　(別段御用等に御賞)
1819年 11月13日 文政2年　　9月26日 晴　(柏戸などの力士名あり、葛西某(御目見以下御留守居支配)の妻が表坊主と出奔・葛西某がこれを追いかけて出奔・御給分召上げ家屋敷御取り上げ)
1819年 11月14日 文政2年　　9月27日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　時々降　申の刻頃より雷鳴　戌の刻過ぎ止　雨夜ニ入　(石渡川4歩の出水・馬船往来相成らず)　　下から続く　　・火元他村預け、葛西某の人相書き)
1819年 11月15日 文政2年　　9月28日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止　(高倉某(御手廻り組頭)を用人兼役に等の人事異動、一昨25日浪岡組細野村で出火・類焼あり馬屋馬2疋焼失　　上に続く
1819年 11月16日 文政2年　　9月29日 晴
1819年 11月17日 文政2年　　9月30日 晴　(鷲之尾羽上15文目・中12文目・下9文目、熊鷹尾羽10文目、雌尾羽一羽分2文目5分の通り代銭下し置かれる)
1819年 11月18日 文政2年　　10月1日 曇　卯の刻過ぎ雨時々降　未の刻頃雷鳴　戌の刻頃止　雨夜ニ入　(人事異動)
1819年 11月19日 文政2年　　10月2日 曇　昨夜より雨　今暁巳の刻過ぎ止　今日雪少し降　(今日詰座敷で鎗術高覧)
1819年 11月20日 文政2年　　10月3日 曇
1819年 11月21日 文政2年　　10月4日 晴
1819年 11月22日 文政2年　　10月5日 曇　今暁霜強し　午の刻過ぎより小雨降　申の刻過ぎ止
1819年 11月23日 文政2年　　10月6日 晴　今暁霜強し
1819年 11月24日 文政2年　　10月7日 晴　今暁霜強し　亥の刻過ぎ雨降　即刻止
1819年 11月25日 文政2年　　10月8日 快晴　(岩木山の裾野に野火入る・400間四方・鎮める)
1819年 11月26日 文政2年　　10月9日 晴　(去る4日当松前詰めの工藤杢左衛門が病死、当田畑御収納高?が14万5976石ほど)
1819年 11月27日 文政2年　　10月10日 曇　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入
1819年 11月28日 文政2年　　10月11日 曇　昨夜より之雨今日に及ぶ　巳の刻頃止　今日雪少し降
1819年 11月29日 文政2年　　10月12日 曇　今日雪少し降
1819年 11月30日 文政2年　　10月13日 曇　昨夜雪少し降　辰の刻過ぎより雨時々降　夜に入　亥の刻過ぎ止
1819年　12月1日 文政2年　　10月14日 曇　今日雪少し降
1819年　12月2日 文政2年　　10月15日 快晴　今日霜強し　(人事異動、御賞)
1819年　12月3日 文政2年　　10月16日 曇　巳の刻過ぎより雨降　未の刻過ぎ止
1819年　12月4日 文政2年　　10月17日 晴　今暁霜強し
1819年　12月5日 文政2年　　10月18日 曇　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　　下から続く　　・作事奉行等が配置に付くが落水・引き取る)
1819年　12月6日 文政2年　　10月19日 曇　今暁丑の刻過ぎ雷鳴　寅の刻過ぎ止　昨夜より雨今日ニ及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止　(石渡川4歩半の出水・馬船小船往来差留める、その後石渡川駒越川6歩の出水　　上に続く
1819年　12月7日 文政2年　　10月20日 曇
1819年　12月8日 文政2年　　10月21日 曇　昨夜雪降　弐寸程積
1819年　12月9日 文政2年　　10月22日 曇　昨夜雪少し降
1819年 12月10日 文政2年　　10月23日 晴　(不届きな債務取立て男を10里四方追放大場御構い家財は妻子に・この仲間5人に7里四方追放家財は妻子に等の罰)
1819年 12月11日 文政2年　　10月24日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　(新酒値段1升に付き1文目3分(申請が1文目4分・米値段1俵に付き20目1分3厘)に仰せ付ける)
1819年 12月12日 文政2年　　10月25日 晴　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止
1819年 12月13日 文政2年　　10月26日 曇　巳の刻より雨時々降　夜ニ入　亥の刻頃止　(今日御舞台で御囃子(九時に始まり四時に済む))
1819年 12月14日 文政2年　　10月27日 曇　(今日鎗術高覧)
1819年 12月15日 文政2年　　10月28日 曇　今日雪降　弐寸程積
1819年 12月16日 文政2年　　10月29日 晴
1819年 12月17日 文政2年　　11月1日 曇
1819年 12月18日 文政2年　　11月2日 曇　昨夜雪少し降　(今日鎗術高覧)
1819年 12月19日 文政2年　　11月3日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(今日三之丸御屋形で御囃子あり)
1819年 12月20日 文政2年　　11月4日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止
1819年 12月21日 文政2年　　11月5日 曇　今日雪降　弐寸程積　(柏木館山に薪取りはもちろん青物取りにも入るなとの触れ)
1819年 12月22日 文政2年　　11月6日 曇　申の六刻冬至入　今日雪降　弐寸程積
1819年 12月23日 文政2年　　11月7日 曇　今日雪少し降
1819年 12月24日 文政2年　　11月8日 晴　(去月18日より当月3日まで新穀日々附相場米1俵に付き代21文目平均値段御座候間……)
1819年 12月25日 文政2年　　11月9日 晴　昨夜少し雪降
1819年 12月26日 文政2年　　11月10日 曇　午の刻頃より雨降　夜ニ入　戌の刻過ぎ止　(牢居300日の男が300日を過ぎて昨夜病死)
1819年 12月27日 文政2年　　11月11日 曇　今日雪少し降　(水油1升を4文目1分5厘に仰せ付ける、山を伐り荒した村の庄屋等13人に過料)
1819年 12月28日 文政2年　　11月12日 晴　亥の刻過ぎ地震少し
1819年 12月29日 文政2年　　11月13日 曇　辰の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止
1819年 12月30日 文政2年　　11月14日 曇　昨夜雪少し降　(明日高岡江初鱈2本上げる)
1819年 12月31日 文政2年　　11月15日 晴　(人事異動、御賞)

1820年　1月1日 文政2年　11月16日 曇　戌の刻頃より雷鳴　子の刻過ぎ止
1820年　1月2日 文政2年　11月17日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　辰の刻頃止
1820年　1月3日 文政2年　11月18日 曇　今日雪少し降
1820年　1月4日 文政2年　11月19日 曇　午の刻過ぎより雨降　夜ニ入　戌の刻過ぎ止
1820年　1月5日 文政2年　11月20日 曇　今日雪少し降
1820年　1月6日 文政2年　11月21日 曇　昨夜雪降　三寸程積　小寒亥之弐刻入
1820年　1月7日 文政2年　11月22日 曇　昨夜雪降　弐寸程積
1820年　1月8日 文政2年　11月23日 曇　今日雪少し降　(今日梅之間で御囃子(四つ時前初め夜五時過ぎ済む))
1820年　1月9日 文政2年　11月24日 曇　今日雪三寸程積　(去る13日夕より14日朝まで十三潟が残らず氷張る・日数に引き合い去年より30日早く節に引合当11月節より24日目去年は35日目で11日早い)
1820年　1月10日 文政2年　11月25日 曇
1820年　1月11日 文政2年　11月26日 曇　今暁寅の刻過ぎ雨降　未の刻頃止　卯の刻過ぎ雷鳴　即刻止
1820年　1月12日 文政2年　11月27日 曇　今日雪降　壱寸余積
1820年　1月13日 文政2年　11月28日 曇　今日雪少し降　(人事異動)
1820年　1月14日 文政2年　11月29日 曇　昨夜雪降　弐寸余積
1820年　1月15日 文政2年　11月30日 曇　今日雪少し降　(去る16日和徳町の米穀仲買藤屋に偽金・歩金で2両2歩)
1820年　1月16日 文政2年　12月1日 晴
1820年　1月17日 文政2年　12月2日 曇　昨夜雪降　弐寸余積　今日雪吹強し　(今日長刀高覧)　下から続く　何か不届きの秋田出生の男に3鞭居村徘徊是まで通り、御入輿一式御入用共2万両程?)
1820年　1月18日 文政2年　12月3日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止　(所々で盗み徒の男に3鞭居村徘徊是まで通り、飼猿が放れて家内の2歳の男子に怪我させた男に3鞭生まれ村送り返し、　上に続く
1820年　1月19日 文政2年　12月4日 晴　今暁丑三刻土用入
1820年　1月20日 文政2年　12月5日 曇　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入　下から続く　その仲間2人に6鞭・3鞭居町・門前徘徊是まで通り)
1820年　1月21日 文政2年　12月6日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止　(今日御舞台で御囃子、盗み徒度々の男に6鞭弘前町払い・同類に3鞭弘前町払い、女子勾引の男に12鞭居町徘徊是まで通り・　上に続く
1820年　1月22日 文政2年　12月7日 今日雪少し降　頃日寒気強し(日照関係情報がない珍しい例)　(御囃子がらみの御賞)
1820年　1月23日 文政2年　12月8日 曇　今暁丑八刻大寒入　昨夜雪降　壱寸程積
1820年　1月24日 文政2年　12月9日 曇
1820年　1月25日 文政2年　12月10日 曇　昨夜雪降　壱尺余積　(此の節厚雪・諸組足軽の非番の者より雪下げ御手伝い申し付ける)
1820年　1月26日 文政2年　12月11日 曇　今日雪降　二寸程積　(山を伐り荒らされた10数人の庄屋等に過料)
1820年　1月27日 文政2年　12月12日 晴
1820年　1月28日 文政2年　12月13日 晴　下から続く　重々不届きな男に6鞭村払い・その子に3鞭弘前徘徊是まで通り)
1820年　1月29日 文政2年　12月14日 曇　今日雪少し降　下から続く　大場御構い・その仲間3人に27鞭7里四方追放家屋敷は妻子に・熊胆隠し売りの男共に過料、盗み杣関係者に過料等、何か判らないが　上に続く
1820年　1月30日 文政2年　12月15日 曇　今日雪少し降　(此の度100石100目の積りを以って御手当)　下から続く　追放大場御構い、熊を狩取り皮胆とも売払い分配した猟師の子に30鞭10里四方追放　上に続く
1820年　1月31日 文政2年　12月16日 晴　(御山で盗み杣し屋敷内に積置いた男に6鞭居村徘徊是まで通り・その五人組・庄屋に過料、当6月に上十川村で土蔵を切破り衣類等を盗み取った男に30鞭10里四方　上に続く
1820年　2月1日 文政2年　12月17日 曇
1820年　2月2日 文政2年　12月18日 曇　今日雪降　二寸程積
1820年　2月3日 文政2年　12月19日 曇　今日雪少し降
1820年　2月4日 文政2年　12月20日 曇　今日雪少し降
1820年　2月5日 文政2年　12月21日 晴　(人事異動、御代官間山鉄五郎等に御賞(尾太銅鉛山はあるが湯ノ沢の鉛山が見えない))
1820年　2月6日 文政2年　12月22日 晴　(今日大長刀高覧、御賞)
1820年　2月7日 文政2年　12月23日 曇　昨夜雪降　壱寸程積　今日雪少し降
1820年　2月8日 文政2年　12月24日 曇　今日雪少し降　(人事異動、御賞)
1820年　2月9日 文政2年　12月25日 曇　今日雪少し降　(去る18日御持ち鑓中間が縊死・御定法の通り御給分召上げられる、去る14日常盤組柳村で出火・建家穀物建馬焼失・火元村預け)
1820年　2月10日 文政2年　12月26日 晴　(当6月28日油川組岡町村で男が鑿で倅を傷つけ死亡させる・気分が直るまで一間所に入れ置く、去る19日浪岡組吉内村で出火・建家等焼失・火元高無村預け)
1820年　2月11日 文政2年　12月27日 快晴　昨夜雪少し降　(長濱に寄せ木拾いに行った出来島村の男4人が山築崩に会い行方不明)
1820年　2月12日 文政2年　12月28日 曇　(山田文作を御留守居組頭に等の人事異動、酒1升に付き1文目2分5厘・1合7文宛に商売を仰せ付ける)
1820年　2月13日 文政2年　12月29日 曇　辰の刻過ぎより雨降　夜ニ入
1820年　2月14日 文政3年　正月1日　曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム　今日雪少し降
1820年　2月15日 文政3年　正月2日　晴
1820年　2月16日 文政3年　正月3日　晴　(御吉例金200両を御金奉行より差出す、今晩御謡初め、昨朝岩木川出水・駒越渡し場仮橋引き払い長船往来)
1820年　2月17日 文政3年　正月4日　晴　(例年の通り大鰐村加賀輔より七種差上げる)
1820年　2月18日 文政3年　正月5日　曇　今日雪少し降
1820年　2月19日 文政3年　正月6日　曇　今日雪降　壱寸程積ル
1820年　2月20日 文政3年　正月7日　晴　昨夜雪降　二寸程積ル　(今日七種の御祝儀)
1820年　2月21日 文政3年　正月8日　晴
1820年　2月22日 文政3年　正月9日　快晴
1820年　2月23日 文政3年　正月10日　晴
1820年　2月24日 文政3年　正月11日　曇　卯の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　(御具足餅頂戴)
1820年　2月25日 文政3年　正月12日　曇　昨夜より雨今日に及ぶ　申の刻頃止ム　(岩木川出水・駒越渡し場往来差留める)
1820年　2月26日 文政3年　正月13日　曇　(今日三之丸御屋形で御囃子、今朝八幡宮で御鉄砲打初)
1820年　2月27日 文政3年　正月14日　曇
1820年　2月28日 文政3年　正月15日　曇　昨夜雪降　弐寸余積ル
1820年　2月29日 文政3年　正月16日　曇　昨夜雪降　壱寸余積ル

1820年　3月1日 文政3年 正月17日　晴　昨夜雪少し降 （去る15日金木組加瀬(嘉瀬)村で出火・建家焼失・火元村預け）
1820年　3月2日 文政3年 正月18日　曇　午の刻過ぎ雨降　則刻止ム
1820年　3月3日 文政3年 正月19日　曇　亥の刻頃小雨降　即刻止ム （江戸で御賞多数(金200疋・南鐐3片・銀1両・銀3枚など)、人事異動、御手当て、去る14日夜(多分江戸の)御屋敷御門前に青森正覚寺弟子が参る）
1820年　3月4日 文政3年 正月20日　曇 （御賞）
1820年　3月5日 文政3年 正月21日　曇 （去る12月22日油川湊を出帆の船が奥内村沖合いで澗懸りしたが翌23日破船・船頭と水主水死水主1人ばかり助命）
1820年　3月6日 文政3年 正月22日　曇　昨夜雪降　五寸余積ル　巳の刻頃より雨降　未の刻頃止ム （人事異動、江戸屋敷に参った正覚寺弟子の迎えを出す）
1820年　3月7日 文政3年 正月23日　曇 （今日御舞台で御囃子）
1820年　3月8日 文政3年 正月24日　曇　昨夜雪降　弐寸余積ル
1820年　3月9日 文政3年 正月25日　曇　今日雪少し降(曇今日雪少し降)
1820年　3月10日 文政3年 正月26日　曇　今雪少し降(曇今雪少し降) （去る12月に漁に出た金木組下前村の漁師4人の死骸が当月7日に流寄せる）
1820年　3月11日 文政3年 正月27日　晴
1820年　3月12日 文政3年 正月28日　晴
1820年　3月13日 文政3年 正月29日　曇　今暁丑の刻頃より雨降　辰の刻頃止ム　卯の刻頃雷鳴　則刻止ム
1820年　3月14日 文政3年　2月1日 曇　申の刻頃より雨降　酉の刻頃止ム （人事異動、御賞）
1820年　3月15日 文政3年　2月2日 曇 （鷺之間で剣術高覧、去月26日夕方より翌27日朝まで十三潟大湊川尻より小股川尻まで残らず氷明ける・去当年日数に引合38日早く節に引合18日早い）
1820年　3月16日 文政3年　2月3日 晴　戌の刻頃より雨降　則刻より雷鳴 （不届きの御馬廻り与力を御目見以下御留守居支配に役下げ）　下から続く　小手を用いている）
1820年　3月17日 文政3年　2月4日 曇　昨夜より雷鳴　今暁寅の刻頃止ム （当月朔日の大風で板屋野木御蔵の屋根廻り破損・御賞、先年より剣術志なひ(竹刀か)・木刀江多んほ(たんぽか)附け頬面並びに　上に続く
1820年　3月18日 文政3年　2月5日 快晴
1820年　3月19日 文政3年　2月6日 快晴
1820年　3月20日 文政3年　2月7日 快晴
1820年　3月21日 文政3年　2月8日 晴　酉の刻頃より雨時々降　夜ニ入 （人事異動）
1820年　3月22日 文政3年　2月9日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　巳の刻過ぎ止ム （岩木川4歩半の出水・駒越石渡共馬船小船往来差留める）
1820年　3月23日 文政3年　2月10日 曇　今日雪少し降 （一昨8日金木組冨野村で出火・類焼建家7軒外馬屋4軒土蔵雨覆い2軒焼失・火元他村預け）
1820年　3月24日 文政3年　2月11日 曇　下から続く　男に6鞭居町徘徊是まで通り）
1820年　3月25日 文政3年　2月12日 曇　下から続く　3鞭弘前町払い、去々年11月に盗み徒で罰を受け去る8月また盗み質入の男に6鞭居村徘徊是まで通り、去る酉年(今年は辰年)徒をし又盗み徒の　上に続く
1820年　3月26日 文政3年　2月13日 晴 （去る11日昼金木組金木村で出火・建家並びに木小屋焼失・火元高無村預け、去る7月土手町に忍入り等盗みの男2人に3鞭弘前町払い、川普請の人夫が衣類盗取り　上に続く
1820年　3月27日 文政3年　2月14日 晴 （去る8日御家中須藤某の倅が出奔、掃除小人が勘定小頭の衣服並びに金子盗み取り出奔）
1820年　3月28日 文政3年　2月15日 晴　酉の刻過ぎより雨時々降 （当両都御廻船上乗り86人・下乗り79人）
1820年　3月29日 文政3年　2月16日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　酉の刻過ぎ止ム　月蝕5歩半　丑の5刻かけ初め卯の初刻終ル
1820年　3月30日 文政3年　2月17日 曇　昨夜雪降　壱寸程積ル （去る14日横内組造道村で出火・類焼共家数34軒土蔵3ヶ所外馬屋16軒焼失・火元高無村預け(?)、黒石役人から4500石の津出願い・毎年もめる、御賞）
1820年　3月31日 文政3年　2月18日 曇 （去々丑の年(今年は辰年)4月の野火に適切に対処しなかった?者共・庄屋・五人組に過料、正月・3月(多数)・2月の野火についても同様）
1820年　4月1日 文政3年　2月19日 曇　今日午の刻雨降
1820年　4月2日 文政3年　2月20日 曇 （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来差留める）
1820年　4月3日 文政3年　2月21日 曇　申の刻頃より雨時々降　夜ニ入 （人事異動、去る14日造道村の類焼の者34人潰家の者2人に御手当て1人に御米1俵ツツ下し置かれる）
1820年　4月4日 文政3年　2月22日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　申の刻頃止ム （剣術高覧、御家老屋敷で使用人が縊死）
1820年　4月5日 文政3年　2月23日 晴　戌の刻過ぎより雨時々降 （去る21日飯詰村で外馬屋焼失馬1疋焼死・火元戸〆）
1820年　4月6日 文政3年　2月24日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム
1820年　4月7日 文政3年　2月25日 曇　午の刻過ぎより雨時々降　夜に入ル
1820年　4月8日 文政3年　2月26日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻頃止ム
1820年　4月9日 文政3年　2月27日 晴 （去る22日夜中沢村で出火・家財焼失・火元高無）
1820年　4月10日 文政3年　2月28日 晴
1820年　4月11日 文政3年　2月29日 晴　今暁霜強し （去る11月馬に米を附けて通り詮議に逃げ去った男2人に3鞭居村徘徊是まで通り、村預けの男に逃げられた男2人に6鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料）
1820年　4月12日 文政3年　2月30日 快晴　今暁霜強し （22日中沢村の火元は村預け）　下から続く　に付き1ツ?売りを2ツ売りに・刻煙草3文売りを2文売りに・草履1分売りを5文に……詳しくは原文を見よ）
1820年　4月13日 文政3年　3月1日 快晴　今暁霜強し （是まで在方に住む御給人は五人組に入っていないが町方同様に入るようにする）　下から続く　・蕎麦切の小売は2分を1分に・せんべいは銭1文　上に続く
1820年　4月14日 文政3年　3月2日 快晴　今暁霜強し　下から続く　銭1文目に目方100目を100目に付き銭8分値段に・生饂飩は10枚に付き6文目を5文目値段に・蕎麦切10枚に付き4文目値段を3文目に　上に続く
1820年　4月15日 文政3年　3月3日 晴　今暁霜強し （甲斐守様より川鱒1尺宛下し置かれる、小栗山で山火事）　下から続く　3分に・味噌値段銭1文目に付き小売値段目方500目を550目に・干し饂飩は　上に続く
1820年　4月16日 文政3年　3月4日 曇　今暁寅の刻より雨時々降　申の刻頃止ム （一昨2日夜赤田組亀田村で出火・類焼とも3軒焼失馬3疋焼死・火元百姓他村預け）　下から続く　1升1文目4分を1文目　上に続く
1820年　4月17日 文政3年　3月5日 曇　昨夜雪少し降　午の刻より雨時々降　夜ニ入ル （米価下値諸式高値・他領より買越しの品は1割その他は2割値段引き下げろとの御目付け触れ、酢1升1文目を8分・醤油　上に続く
1820年　4月18日 文政3年　3月6日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止ム
1820年　4月19日 文政3年　3月7日 晴　巳の一刻土用入ル （今日御舞台で御慰の御囃子・四半時始まり暮六時相済む）
1820年　4月20日 文政3年　3月8日 晴
1820年　4月21日 文政3年　3月9日 晴
1820年　4月22日 文政3年　3月10日 晴 （石渡川出水・馬船往来相成り申さず）
1820年　4月23日 文政3年　3月11日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　辰の刻頃止ム
1820年　4月24日 文政3年　3月12日 晴
1820年　4月25日 文政3年　3月13日 快晴　亥の刻頃地震少し
1820年　4月26日 文政3年　3月14日 快晴
1820年　4月27日 文政3年　3月15日 曇　申の刻より雨降　夜ニ入ル （御家中田母神某に腰縄付き錠前駕籠で御国下がりを申しつける、(正月19日記述の)坊主は所々で盗みなどあり手錠の上蜀鶏?駕籠で御国下がり）
1820年　4月28日 文政3年　3月16日 曇　昨夜より雨　今暁寅の刻過ぎ止ム （岩木川出水・駒越渡場の人馬往来差留める、14日昼碇ヶ関御関所外に山火事、去る6月人集めの頭取?4人に9鞭三里四方追放家財は妻子に）
1820年　4月29日 文政3年　3月17日 曇　今暁寅の刻より雨時々降　夜ニ入ル
1820年　4月30日 文政3年　3月18日 曇　昨夜より雨　今暁丑に刻過ぎ止ム （一昨夜浪岡組高屋敷村で出火・居宅外馬屋焼失・火元村預け）

1820年　5月1日 文政3年　3月19日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入　亥の刻過ぎ止ム　(石渡川岩木川出水・人馬往来差留める)
1820年　5月2日 文政3年　3月20日 晴　頃日暖気
1820年　5月3日 文政3年　3月21日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル
1820年　5月4日 文政3年　3月22日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　(去る14日の碇ヶ関の山火事で杉大小1050本焼く、去る7月浦町組入内村土蔵を切り破った盗賊の仲間に30鞭10里四方追放大場御構い)
1820年　5月5日 文政3年　3月23日 晴　昨夜より雨　今暁丑の刻頃止ム
1820年　5月6日 文政3年　3月24日 晴　(去月22日和徳町の店先で喧嘩・双方に手傷・過料と戸〆、子持ちの塩鯡から子を1本ツツ抜き取り運んだ男に過料銭1貫800文)
1820年　5月7日 文政3年　3月25日 快晴　今暁霜強し
1820年　5月8日 文政3年　3月26日 快晴　(去る15日風合瀬村の男が海草刈に出て沖合いに吹出され行方不明)
1820年　5月9日 文政3年　3月27日 快晴　(此の頃天気不勝に付き丹後者詮索・送り返しを申し付ける)
1820年　5月10日 文政3年　3月28日 快晴
1820年　5月11日 文政3年　3月29日 快晴
1820年　5月12日 文政3年　4月1日 曇
1820年　5月13日 文政3年　4月2日 晴　(今日剣術高覧)
1820年　5月14日 文政3年　4月3日 曇　巳の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル　(乳井・薬師堂村より引き上げた山から枯れ木を切り出した男に過料、出奔して石切をしていた男に石切御札取上げ3鞭弘前徘徊御構い)
1820年　5月15日 文政3年　4月4日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　(石渡川4歩半の出水・馬船小船往来相成りかねる)
1820年　5月16日 文政3年　4月5日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　巳の刻頃止ム
1820年　5月17日 文政3年　4月6日 快晴　(去々寅年(今年は辰年)松前表で脇差を盗んだ郷夫に18鞭3里四方追放)
1820年　5月18日 文政3年　4月7日 快晴　(町同心警固から牢奉行に等の人事異動)
1820年　5月19日 文政3年　4月8日 快晴
1820年　5月20日 文政3年　4月9日 曇　辰の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入ル　(人事異動)
1820年　5月21日 文政3年　4月10日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム
1820年　5月22日 文政3年　4月11日 曇　辰の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル
1820年　5月23日 文政3年　4月12日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止ム
1820年　5月24日 文政3年　4月13日 快晴
1820年　5月25日 文政3年　4月14日 快晴　(村方不筋の取扱で米銭過分の引負の庄屋2人に30鞭10里四方追放大場御構い)
1820年　5月26日 文政3年　4月15日 晴　(進藤某を旗奉行に等の人事異動)
1820年　5月27日 文政3年　4月16日 晴　申の刻杉雷鳴　則刻止ム
1820年　5月28日 文政3年　4月17日 晴　未の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム　(今夕外馬場で御馬乗り方高覧)
1820年　5月29日 文政3年　4月18日 曇　未の刻過ぎより雷雨　申の刻過ぎ止ム　(人事異動)
1820年　5月30日 文政3年　4月19日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　未の刻頃止ム
1820年　5月31日 文政3年　4月20日 晴
1820年　6月1日 文政3年　4月21日 晴　(青森町の火消し:4町に211人＋小頭17人)
1820年　6月2日 文政3年　4月22日 快晴
1820年　6月3日 文政3年　4月23日 曇　辰の刻過ぎ雨時々降　夜ニ入ル
1820年　6月4日 文政3年　4月24日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　未の刻過ぎ止ム
1820年　6月5日 文政3年　4月25日 曇　午の刻頃小雨降　則刻止ム　(笠井兼蔵(園右衛門の倅)が和徳町枡形に倒れている、盗伐りの村の者共に過料)
1820年　6月6日 文政3年　4月26日 曇　巳の刻過ぎより雨降　申の刻過ぎ止ム
1820年　6月7日 文政3年　4月27日 曇　辰の刻過ぎより雨降　未の刻頃止ム　(頃日天気不正に付き丹後者詮索・送り返すよう御目付触)
1820年　6月8日 文政3年　4月28日 曇
1820年　6月9日 文政3年　4月29日 曇
1820年　6月10日 文政3年　4月30日 曇　(今夕唐牛甚右衛門門弟の剣術並びに和術高覧、境内の杉伐り取りを願った寺3か寺が過伐・木品取上げ禁足)
1820年　6月11日 文政3年　5月1日 快晴　(三之丸馬場工事の者に御賞)
1820年　6月12日 文政3年　5月2日 晴
1820年　6月13日 文政3年　5月3日 晴
1820年　6月14日 文政3年　5月4日 曇　申の刻頃より雨降　則刻より雷鳴　酉の刻頃雷止ム　雨夜ニ入ル　(申し立てなしに盗伐の村に過料)
1820年　6月15日 文政3年　5月5日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム(曇　昨夜より雨今日及辰刻過止ム)
1820年　6月16日 文政3年　5月6日 晴
1820年　6月17日 文政3年　5月7日 快晴
1820年　6月18日 文政3年　5月8日 晴　(秋田綴子より来た37・8の女が芦沼村で病気・村送り中野木村で病死)
1820年　6月19日 文政3年　5月9日 晴
1820年　6月20日 文政3年　5月10日 晴　(甲斐守様今日在着)
1820年　6月21日 文政3年　5月11日 晴　(去月19日近衛前左府様薨去)
1820年　6月22日 文政3年　5月12日 晴　辰の一刻夏至入
1820年　6月23日 文政3年　5月13日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(昨夜九時頃冨田町で出火・居宅等焼失・火元鳶の者慎み、去る6月秋田出生の男を村送り中に取り逃がした男に過料)
1820年　6月24日 文政3年　5月14日 晴　(一昨晩和徳町に投げ火、去月14日菰槌村より浪人3人を村継送り中に取り逃がした五人組に過料、木作新田冨范地で出火・建家木小屋等焼失・火元芦取扱に慎み)
1820年　6月25日 文政3年　5月15日 晴　今暁寅の刻頃雨降　則刻止ム
1820年　6月26日 文政3年　5月16日 曇
1820年　6月27日 文政3年　5月17日 曇　午の刻頃小雨降　則刻止ム
1820年　6月28日 文政3年　5月18日 曇　戌の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル　(人事異動、大鰐村より初茄子瓜差出す)
1820年　6月29日 文政3年　5月19日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム
1820年　6月30日 文政3年　5月20日 晴

1820年　7月1日 文政3年　5月21日 晴 （人事異動）
1820年　7月2日 文政3年　5月22日 晴
1820年　7月3日 文政3年　5月23日 晴 （当3月盗み杣の男に6鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料、上納なく家内召し連れ出奔の男に3鞭）
1820年　7月4日 文政3年　5月24日 晴
1820年　7月5日 文政3年　5月25日 晴 亥の刻過ぎ雨降　則刻止ム
1820年　7月6日 文政3年　5月26日 曇 巳の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム　雨夜ニ入ル
1820年　7月7日 文政3年　5月27日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成り申さず）
1820年　7月8日 文政3年　5月28日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム
1820年　7月9日 文政3年　5月29日 曇
1820年　7月10日 文政3年　6月1日 晴
1820年　7月11日 文政3年　6月2日 曇 未の刻小雨降　則刻止ム （今日鷺の間で高松善吉山崎半蔵門弟の剣術高覧）　下から続く　居村徘徊是まで通り・村の庄屋に過料）
1820年　7月12日 文政3年　6月3日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル （今日御舞台で御囃子・九時始まり七時頃済む、去る7月に博打の男に15鞭親預け、御山から無刻印の木を盗出した男に6鞭　上に続く
1820年　7月13日 文政3年　6月4日 曇 昨夜より雨今暁に及ぶ　寅の刻過ぎ止ム
1820年　7月14日 文政3年　6月5日 晴 （石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成り兼ねる）
1820年　7月15日 文政3年　6月6日 曇 午の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　申の刻過ぎより雨降　酉の刻頃止ム
1820年　7月16日 文政3年　6月7日 曇 午の刻頃雨降　則刻止ム　申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル （青田の内笛を吹くなとの触れ、石渡川4歩半の出水・両船とも往来相成り兼ねる）
1820年　7月17日 文政3年　6月8日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々　午の刻過ぎ止ム（曇　昨夜より雨及今日時々午の刻過止ム）
1820年　7月18日 文政3年　6月9日 曇 未の刻頃小雨降　則刻止ム （近年熊狩不猟に付き足軽どもを派遣・相応に狩取り御賞と熊皮を下し置かれる、去る5月無刻印の木品で稲荷堂拝殿を造り村中に過料、6月にも類似）
1820年　7月19日 文政3年　6月10日 曇 辰の刻頃雨時々降　夜ニ入ル　申の七刻土用入ル （御家中に預けた勘当の子が一間所から逃亡、当3月元寺町で紺屋灰売る者あり）
1820年　7月20日 文政3年　6月11日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　巳の刻過ぎ止ム （御堀添で釣・小土居を往来するなとの触れ）
1820年　7月21日 文政3年　6月12日 曇 辰の刻頃より雨降　午の刻頃止ム （明日神明宮で日和上げの御神楽）
1820年　7月22日 文政3年　6月13日 晴 （良姫様の婚礼の話が延々と……）
1820年　7月23日 文政3年　6月14日 晴
1820年　7月24日 文政3年　6月15日 快晴 （練屋藤兵衛・紙屋伝八に2人扶持下し置かれ御用蝋燭屋を申し付ける）
1820年　7月25日 文政3年　6月16日 快晴 （今日御徒水稽古高覧）
1820年　7月26日 文政3年　6月17日 晴
1820年　7月27日 文政3年　6月18日 曇 巳の刻頃より小雨時々降　申の刻頃止ム
1820年　7月28日 文政3年　6月19日 曇 午の刻頃より雨降　申の刻過ぎ止ム
1820年　7月29日 文政3年　6月20日 曇 卯の刻頃より雨降　辰の刻過ぎ止ム （御聞役を御留守居に等の役職名変更）
1820年　7月30日 文政3年　6月21日 晴
1820年　7月31日 文政3年　6月22日 曇 巳の刻頃雨降　則刻止ム　申の刻頃雷鳴　則刻止ム
1820年　8月1日 文政3年　6月23日 曇 巳の刻より雷雨強し　則刻雷止ム　雨時々降　夜ニ入　酉の刻過ぎ止ム （和田某・手塚某に一粒金丹5剤の調合を申し付ける）
1820年　8月2日 文政3年　6月24日 曇 （御姫様ご縁組に伴う御祝儀：先例の通り297人に15文宛下し置かれる）
1820年　8月3日 文政3年　6月25日 曇 午の刻過ぎより雨降　未の刻頃止ム
1820年　8月4日 文政3年　6月26日 曇 卯の刻頃より小雨降　辰の刻過ぎ止ム （花火調合中の槌から出火・小屋花火等焼失）
1820年　8月5日 文政3年　6月27日 晴 （大鰐村より初穂差出す、祢婦たの儀町内限り・大太鼓用いるなとの触れ）
1820年　8月6日 文政3年　6月28日 快晴
1820年　8月7日 文政3年　6月29日 晴 （去る26日四時頃青森松森町で出火・居宅焼失隣家2軒潰家・火元寺落慎み）
1820年　8月8日 文政3年　6月30日 晴 頃日残暑強し
1820年　8月9日 文政3年　7月1日 晴 （加藤某を御使番格郡奉行に等の人事異動、高年の者3人に鳥目2貫文宛下し置かれる）
1820年　8月10日 文政3年　7月2日 晴
1820年　8月11日 文政3年　7月3日 曇 申の刻過ぎより雨降　夜ニ入ル　亥の刻過ぎ止ム
1820年　8月12日 文政3年　7月4日 曇 今暁寅の刻過ぎ雨降　則刻雷鳴　卯の刻頃雷雨止ム　酉の刻頃より雨時々降
1820年　8月13日 文政3年　7月5日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　未の刻頃止ム
1820年　8月14日 文政3年　7月6日 曇
1820年　8月15日 文政3年　7月7日 晴
1820年　8月16日 文政3年　7月8日 晴
1820年　8月17日 文政3年　7月9日 曇 午の刻頃雷雨　未の刻過ぎ雷雨止ム
1820年　8月18日 文政3年　7月10日 晴 申の刻杉雷鳴　則刻止ム
1820年　8月19日 文政3年　7月11日 曇 未の刻頃より雨降　夜ニ入ル （御賞（300疋・南鐐3片・銀9両・金100疋・銀7両・鳥目1貫500文・同1貫文・300文など）、江戸で大組足軽等3人が相次ぎ出奔）
1820年　8月20日 文政3年　7月12日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　亥の刻頃止ム （水油1升を4文目に仰せ付ける）
1820年　8月21日 文政3年　7月13日 曇 未の刻頃雷鳴　戌の刻過ぎより雨時々降
1820年　8月22日 文政3年　7月14日 曇 昨夜より雷雨　今暁寅の刻頃止ム
1820年　8月23日 文政3年　7月15日 曇 （来る17日御初米差上げる・去年と引合9日早い）
1820年　8月24日 文政3年　7月16日 曇
1820年　8月25日 文政3年　7月17日 晴 （御初米大鰐村より差出す）
1820年　8月26日 文政3年　7月18日 晴
1820年　8月27日 文政3年　7月19日 晴
1820年　8月28日 文政3年　7月20日 晴
1820年　8月29日 文政3年　7月21日 快晴 （一昨19日浪岡組本郷村で出火・建家焼失・火元高無居村預け、米銭過分の引負の庄屋に30鞭10里四方追放大場御構い）
1820年　8月30日 文政3年　7月22日 快晴 （御国産方焚炭代銭持参の上御持鑓仲間が出奔（人相書き：せい5尺2寸等））
1820年　8月31日 文政3年　7月23日 快晴

1820年　9月1日 文政3年　7月24日 曇　午の刻頃小雨降　則刻止ム　(御手廻り組頭溝江伝左衛門が病死)
1820年　9月2日 文政3年　7月25日 曇　巳の刻より小雨時々降　申の刻過ぎ止ム
1820年　9月3日 文政3年　7月26日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々降　申の刻止ム　(御蔵廻の人事に口を出したのかな?不届きとして3鞭3里四方追放・その仲間2人にも3鞭宛居村徘徊是まで通り)
1820年　9月4日 文政3年　7月27日 曇　午の刻より小雨時々降　夜ニ入　酉の刻過ぎ止ム
1820年　9月5日 文政3年　7月28日 曇　午の刻過ぎ時々小雨降　申の刻頃止ム　(對馬某を碇ヶ関町奉行にの人事異動)
1820年　9月6日 文政3年　7月29日 曇　(去月8日岩崎村で御廻船が破船、去る12月に?何か不届き(無札の馬の見逃し?)者に9鞭弘前徘徊是まで通り・仲間に過料)
1820年　9月7日 文政3年　8月1日 曇
1820年　9月8日 文政3年　8月2日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　巳の刻頃止ム
1820年　9月9日 文政3年　8月3日 快晴
1820年　9月10日 文政3年　8月4日 曇　未の刻頃より雨降　申の刻頃止ム　(御本城で剣術高覧)
1820年　9月11日 文政3年　8月5日 晴　(昨日の残り剣術高覧、御賞)
1820年　9月12日 文政3年　8月6日 晴　(去月28日大工道具入れ置く作事方の物置の錠が壊れ箱二つ紛失)
1820年　9月13日 文政3年　8月7日 快晴　(来る16日御発駕)
1820年　9月14日 文政3年　8月8日 快晴
1820年　9月15日 文政3年　8月9日 快晴　下から続く　御発駕籠前の多忙に付き去月28日夜に不始末慎み中の作事方の慎み免許、去月14日三厩出帆の船が29日南部八戸沖で破船・木柄300石目位荷打ち)
1820年　9月16日 文政3年　8月10日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　夜ニ入ル　戌の刻頃止ム　(偽金銀取扱の黒石横町の古物家業茂左衛門を黒石で仕置きするよう引渡す、手段米の犯人が出奔の庄屋に過料、　上に続く
1820年　9月17日 文政3年　8月11日 曇　(去る寅年(今年は辰年)12月に鯵ヶ沢八幡宮社司工藤加賀を殺害白状したので去る九月に斬罪の儀沙汰申し上げ候処犯人が当月6日牢死・田畑等は妻子に)
1820年　9月18日 文政3年　8月12日 晴　(今暁御家中?が出火・居宅焼失・火元御奉公遠慮)
1820年　9月19日 文政3年　8月13日 晴
1820年　9月20日 文政3年　8月14日 快晴
1820年　9月21日 文政3年　8月15日 曇　(人事異動)
1820年　9月22日 文政3年　8月16日 曇
1820年　9月23日 文政3年　8月17日 曇　午の刻頃より時々雨降　夜ニ入ル　戌の刻頃雷鳴　即刻止ム　(御発駕日限を24日と仰出される、御家中の掃除小人が木部屋で縊死、石渡川4歩半の出水・馬船小船往来相成らず)
1820年　9月24日 文政3年　8月18日 曇　昨夜より雨　今日午の刻頃止ム　(当春町方所々で女共え狼藉等の掃除小人・馬屋付き小人・足軽倅などに慎み)
1820年　9月25日 文政3年　8月19日 晴
1820年　9月26日 文政3年　8月20日 曇　酉の刻頃より雨降　夜ニ入ル　(三之丸御屋形で御囃子)
1820年　9月27日 文政3年　8月21日 晴　昨夜より雨　今暁寅の刻頃止ム　(今日御舞台で御囃子)
1820年　9月28日 文政3年　8月22日 晴
1820年　9月29日 文政3年　8月23日 晴
1820年　9月30日 文政3年　8月24日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム　(9時過ぎ御馬上で若殿様御発駕)
1820年　10月1日 文政3年　8月25日 晴　今暁丑の刻頃より雨降　寅の刻過ぎ止ム
1820年　10月2日 文政3年　8月26日 曇　巳の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル　(若殿様少々御不例に付き御発駕御見合わせ明日発駕の旨仰せ出される(次々の宿手配をしなおし:この若殿は屋形様となってもこの状態))
1820年　10月3日 文政3年　8月27日 曇　昨夜より雨　今暁丑の刻頃止ム　(若殿様は今日も昨日の通り・両三日御逗留予定)
1820年　10月4日 文政3年　8月28日 晴　(若殿様が今日八つ時過ぎ碇ヶ関御発駕・夜五つ時過ぎ千歳山着・五半時過ぎ御機嫌良く御着城、去ル26日赤田組胡桃館村で出火・火元高無居村預け・関係者にも過料)
1820年　10月5日 文政3年　8月29日 晴　(三国屋・梅屋の去秋仕込味噌値段:銭10文目に付き目形7貫目、手段米の男2人に12鞭宛居村徘徊是まで通り、関係者に過料、木を盗み出した男に過料?)
1820年　10月6日 文政3年　8月30日 晴　(二の丸御太鼓矢倉の御太鼓を御在太鼓に釣り替える)
1820年　10月7日 文政3年　9月1日 晴
1820年　10月8日 文政3年　9月2日 晴
1820年　10月9日 文政3年　9月3日 晴　(昨2日昼金木組喜良市村で出火・類焼27軒外馬屋等焼失・火元百姓他村預け、当8月中日々付相場平均値段:金1両代117文目5分)
1820年 10月10日 文政3年　9月4日 快晴　今暁霜降　(若殿様御全快・御発駕日限来る7日と仰せ出される)
1820年 10月11日 文政3年　9月5日 快晴　(初鮭1尾御台所頭より差出す)
1820年 10月12日 文政3年　9月6日 快晴　今暁霜降
1820年 10月13日 文政3年　9月7日 晴　今暁寅の刻頃より雨降　卯の刻頃止ム　(若殿様が九つ時過ぎ御馬上で御発駕)
1820年 10月14日 文政3年　9月8日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル
1820年 10月15日 文政3年　9月9日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止ム　卯の刻過ぎ地震　(人事異動)
1820年 10月16日 文政3年　9月10日 曇　今朝岩木山ニ初雪見得ル　未の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル
1820年 10月17日 文政3年　9月11日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　午の刻頃止ム　(堀三十郎様の御奥様去月晦日御逝去)
1820年 10月18日 文政3年　9月12日 晴　今暁霜強し
1820年 10月19日 文政3年　9月13日 曇　今暁子の五刻土用入　(良姫様御婚礼の御賞多数)
1820年 10月20日 文政3年　9月14日 晴
1820年 10月21日 文政3年　9月15日 晴　(人事異動、御賞)
1820年 10月22日 文政3年　9月16日 晴　今暁霜強し　下から続く　2挺は早速引上げ残り1挺は行方不明・弘前藩の鉄砲なら返すとのこと)
1820年 10月23日 文政3年　9月17日 晴　酉の刻頃小雨降　則刻止ム　(初鮭2本を明18日高岡江、其御領折橋中之御番所と申唱え候処え夜中忍入り鉄砲3挺盗み取り候断白状の男の情報が秋田から来る・　上に続く
1820年 10月24日 文政3年　9月18日 快晴　(去る11日夜金木新田豊島村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、一昨15日朝油川村で出火・居宅等焼失・火元村預け、去月14日江戸御普請所向けの　欄外(*)に続く
1820年 10月25日 文政3年　9月19日 曇　酉の刻過ぎより雨時々降　戌の刻頃雷鳴　則刻止ム　(石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成りがたし)
1820年 10月26日 文政3年　9月20日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1820年 10月27日 文政3年　9月21日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル
1820年 10月28日 文政3年　9月22日 曇　昨夜より雨　今暁寅の刻頃止ム　(岩木川の蛇籠柴杭を抜き取る者あり止めろとの触れ)
1820年 10月29日 文政3年　9月23日 曇　申の刻頃より小雨降　則刻止ム
1820年 10月30日 文政3年　9月24日 曇　申の刻過ぎ小雨降　則刻止ム
1820年 10月31日 文政3年　9月25日 曇　申の刻過ぎより雨時々降　夜ニ入ル

(*) 木柄を積んだ江戸船が29日南部八戸量沖で荷打ち)

1820年　11月1日 文政3年　　9月26日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　申の刻過ぎ止ム
1820年　11月2日 文政3年　　9月27日 晴
1820年　11月3日 文政3年　　9月28日 快晴
1820年　11月4日 文政3年　　9月29日 晴
1820年　11月5日 文政3年　　9月30日 曇
1820年　11月6日 文政3年　　10月1日 曇　昨夜雪少し降　今暁寅の刻過ぎより小雨時々降　酉の刻過ぎ止ム
1820年　11月7日 文政3年　　10月2日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨降　卯の刻頃止ム　(人事異動)
1820年　11月8日 文政3年　　10月3日 晴
1820年　11月9日 文政3年　　10月4日 快晴
1820年 11月10日 文政3年　　10月5日 晴　(岩木川出水・駒越渡し場・石渡川も馬船小船とも往来相成りかねる)
1820年 11月11日 文政3年　　10月6日 曇　今暁丑の刻頃より雨時々降　夜ニ入ル
1820年 11月12日 文政3年　　10月7日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　戌の刻頃止　卯の刻過ぎ雷鳴　則刻止ム
1820年 11月13日 文政3年　　10月8日 曇　昨夜雪少し降　(甲斐守様より川鮭1尺宛拝受)
1820年 11月14日 文政3年　　10月9日 快晴　今暁霜強し
1820年 11月15日 文政3年　　10月10日 快晴　今暁霜強し　(桧の切株が見つかった赤石組大間越・久田・岩崎・深浦・轟木・広戸村並びに深浦町の住民・庄屋並びに名主に管理不適切として過料)
1820年 11月16日 文政3年　　10月11日 曇　卯の刻頃より小雨降　辰の刻過ぎ止ム　未の刻頃より雨降　酉の刻頃止ム
1820年 11月17日 文政3年　　10月12日 曇　今日雪少し降　(去月27日若殿様御着府)
1820年 11月18日 文政3年　　10月13日 曇　昨夜雪降　壱寸程積
1820年 11月19日 文政3年　　10月14日 曇　酉の刻頃より小雨降　亥の刻頃止ム
1820年 11月20日 文政3年　　10月15日 晴
1820年 11月21日 文政3年　　10月16日 曇　戌の刻頃より雨時々降　　下から続く　　・山崎・野田・今津三厩領藤嶋村・大鰐組大沢村でも同様の事件あり)
1820年 11月22日 文政3年　　10月17日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　(和徳組湯口・黒滝・悪戸・下湯口村の山に伐り荒し・隠し炭釜あり・住民・庄屋に過料、木造新田広岡村・後潟組石崎・大川平　　上に続く
1820年 11月23日 文政3年　　10月18日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　時々降　亥の刻過ぎ止ム　(野火が入った横内組大矢沢・幸畑村・飯詰組戸沢・金山・下岩崎村・金木組小泊・川倉・小田川・喜良市・野崎村　　欄外(*)に続く
1820年 11月24日 文政3年　　10月19日 曇　今日雪少し降
1820年 11月25日 文政3年　　10月20日 曇
1820年 11月26日 文政3年　　10月21日 曇　昨夜雪少し降　(御賞)
1820年 11月27日 文政3年　　10月22日 快晴　今暁霜強し
1820年 11月28日 文政3年　　10月23日 快晴
1820年 11月29日 文政3年　　10月24日 曇　今暁寅の刻頃より雨降　夜ニ入
1820年 11月30日 文政3年　　10月25日 曇　昨夜より雨今暁に及ぶ　卯の刻頃止ム　今日雪少し降　(当月10日より24日まで新穀日々相場:米1俵に付き代19匁7分平均値段)
1820年　12月1日 文政3年　　10月26日 晴　今暁雪強し(明らかに雪としている)
1820年　12月2日 文政3年　　10月27日 曇
1820年　12月3日 文政3年　　10月28日 快晴　今暁霜強し
1820年　12月4日 文政3年　　10月29日 曇　申の刻頃より雨降　夜ニ入ル　(赤石組大然村(おおしかりむら:昭和20年3月22日の雪解け水で全滅?)の者共時疫・鯵ヶ沢町医に御施薬を仰せ付ける)
1820年　12月5日 文政3年　　10月30日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入　戌の刻頃止ム　(新酒1升を1文目3分5厘の申し出でに対し1文目2分で商売するよう申し付ける)
1820年　12月6日 文政3年　　11月1日 曇　今日雪少し降　(当大坂御廻船で運賃米を陸上・船中の抜米を上乗りが申し出る・船中の者共に弁償させ上乗りに御賞)
1820年　12月7日 文政3年　　11月2日 曇　昨夜雪降　壱寸程積　(去月12日出奔の男の人相書き:年齢35歳……せい5尺4・5寸……)
1820年　12月8日 文政3年　　11月3日 曇　巳の刻頃より雨降　未の刻過ぎ止ム
1820年　12月9日 文政3年　　11月4日 曇　(去る朔日夜新町に生まれたばかりの男子捨子・町内で養育、去月28日木作新三ッ館村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け、盗人を知らずに止宿させて過料)
1820年 12月10日 文政3年　　11月5日 晴　(粒油高値に付き1升を5文目1分に商売するよう申し付ける)
1820年 12月11日 文政3年　　11月6日 曇　卯の刻頃雨降　則刻止ム
1820年 12月12日 文政3年　　11月7日 晴
1820年 12月13日 文政3年　　11月8日 曇　午の刻頃より雨降　夜ニ入ル
1820年 12月14日 文政3年　　11月9日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　時々降　夜ニ入ル　(無宿4人に懲らしめの為当分入牢(そんな決まりはないと思うが禁錮刑だね)、菜種叺隠下の男共に過料等)
1820年 12月15日 文政3年　　11月10日 曇　昨夜より雨今日に及ぶ　辰の刻過ぎ止ム
1820年 12月16日 文政3年　　11月11日 晴
1820年 12月17日 文政3年　　11月12日 晴
1820年 12月18日 文政3年　　11月13日 曇　今暁丑の刻過ぎより雨降　酉の刻過ぎ止ム
1820年 12月19日 文政3年　　11月14日 曇　今日霰少々降
1820年 12月20日 文政3年　　11月15日 曇　昨夜雪少し降　(大鰐組居土村・高杉組楢木村の者共先頃より時疫・近くの村の在医から御施薬)
1820年 12月21日 文政3年　　11月16日 晴　亥の五刻冬至入
1820年 12月22日 文政3年　　11月17日 曇　昨夜雪少し降　(去る15日高杉組三ッ森村で出火・建家稲草等焼失・火元村預け)
1820年 12月23日 文政3年　　11月18日 曇　昨夜雪降　壱寸程積　(御献上の鰤御台所頭より差し上げる)
1820年 12月24日 文政3年　　11月19日 曇　今日雪少し降　(人事異動、此の度巽御櫓より坤の御櫓迄の間並びに御門枡形塀共南一方残らず白壁矢挟間付き塀に御取立て……)
1820年 12月25日 文政3年　　11月20日 晴
1820年 12月26日 文政3年　　11月21日 晴　(貴田十郎右衛門を御用人に等の人事異動)
1820年 12月27日 文政3年　　11月22日 晴
1820年 12月28日 文政3年　　11月23日 快晴
1820年 12月29日 文政3年　　11月24日 曇　今日雪ス　二寸程積　頃日寒気強し　(廃墟に寺社再建が不届きとして戸〆を申渡された者がある)
1820年 12月30日 文政3年　　11月25日 曇　今日雪少し降
1820年 12月31日 文政3年　　11月26日 晴　昨夜雪降　三寸程積
(*)・大鰐組三ッ目内・森山村・赤石組北浮田村・高杉組大森村・堀越組一ノ渡・原ヶ平村・浪岡組五本松・中野・王余魚沢村・和徳組湯口・悪戸村・増館組吉野田村・猿賀組深川・浅瀬石・黒石領中野村の住民庄屋五人組等に過料)